

シヨロマ1遺跡(1)

-厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 12-

2015.3

厚真町教育委員会



1. 厚幌ダム湛水区域内全遠景 SW→



2. ショロマ沢及びショロマ1遺跡遠景 S→

カラー図版2



1. シヨロマ1遺跡及び周辺遺跡全景 SE→



2. IIIH-01完掘 SE→



1. ⅢAS-01検出 SE→



2. ⅢF-11・14~17検出 N→

カラー図版4



1. 縄文時代住居跡群(調査終了面) NE→



2. 大型住居群 NE→



1. VH-01完掘 S→



2. VH-03完掘 SW→

カラー図版6



1. VH-12完掘 N→



2. VH-13完掘 S→



1. VSB-04遺物出土状態 SW→



2. 南側斜面(BF-31区)断面 W→

カラー図版8



1. 棍棒形石器



2. 石製品

序 文

厚真町は、胆振・日高地区屈指の豊かな水田地帯を有する大いなる田園都市であります。この穀倉地帯を潤す厚真川は夕張山地の南端を源として流れ、農作物への恩恵を授ける大切な河川でもあります。この豊かな厚真川と豊かな“ふるさと厚真”を更なる発展へと進めるために、農業用水確保と治水対策を主な柱とした多目的ダム「厚幌ダム」が、平成7年度に本格着工されました。

さて、本書はこの厚幌ダム建設に先駆けて沈み行く地域に残された埋蔵文化財の記録保存を目的として発掘調査されたシヨロマ1遺跡の調査報告書であります。本書は平成25年度の発掘成果を記載するもので、約5,100年前と約4,000年前の縄文時代前期後半、後期初頭の竪穴式住居跡16軒やシカの落とし穴など多数見つっています。

また、約700年前の平地式住居跡も見つっており、先住民族であるアイヌ民族の歴史を探るうえでも大変に貴重な資料とも思われます。

今後は、これらの貴重な埋蔵文化財を地域の教育的資源、文化的財産として広く普及、活用を推し進めてまいりたいと思う所存でございます。また本書が広く埋蔵文化財の保護並びに調査・研究の一助となれば幸いに存じます。

最後となりましたが、調査・整理・報告にあたり御指導、御支援を賜りました関係諸氏ならびに関係機関に、真に厚く、感謝申し上げます次第であります。

平成27年3月

厚真町教育委員会
教育長 兵頭 利彦

例言

1. 本書は、平成 25 年度に行った厚幌ダム建設事業に伴い発掘調査されたショロマ 1 遺跡（掲載番号：J-13-81）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部の委託を厚真町教育委員会が受託した。
3. 調査・整理（分担）は以下の体制で行った。

調査担当者：乾 哲也・奈良智法・宮塚義人（委託担当者） 調査員：岩橋由久・荻野幸男（整理業務）

調査補助員：宮崎美奈子・松井 昭・服部一雄 事務員：浅野愛子・脇田幹王・宮崎和幸

測量技能作業員：畑嶋朝江・干場崇弘・松井佳祐・渡辺博道

整備技能作業員：松本 稔・佐伯憲吾・畑島雄樹 写図工：畑嶋 朝江

発掘作業員 76 名 整理作業員 53 名

宮塚：V 層図面作成・礫石器実測指導

乾・岩橋：縄文土器復元・実測・拓影図作成

宮崎：V 層礫石器実測（石斧以外）

松井：Ⅲ層・V 層石斧実測・遺物写真図版作成

服部：V 層剥片石器実測校正・遺構写真図版作成

荻野：Ⅲ層土器復元・実測・拓影図作成

奈良：Ⅲ層遺構図・金属製品実測

乾：各遺構調査・図面等作成指導・渉外

4. 本書の編集は乾、宮塚の協力を得て奈良が行い、各節の執筆は文末に記す。
5. 関連諸科学の同定分析については、以下の機関および個人に依頼した。
 - ・AMS 法 ^{14}C 年代測定：株式会社 加速器分析研究所
 - ・動物遺存体同定：千歳市埋蔵文化財センター 高橋 理
 - ・炭化種子同定：Project Seeds 考古植物研究会 椿坂恭代
 - ・胎土分析：株式会社 第四紀研究所 井上 巖
 - ・黒曜石原産地分析：株式会社 第四紀研究所 井上 巖
 - ・滑石原産地分析：株式会社 第四紀研究所 井上 巖
 - ・石器石材同定：アースサイエンス株式会社 加藤孝幸・米島真由子
6. 本書のカラー写真の一部・出土遺物の写真撮影：有限会社 写真事務所クリーク 佐藤雅彦
7. 剥片石器実測・写真・復元土器実測の一部を株式会社 トラスト技研に委託した。
8. 地形測量委託・礫石器実測用写真撮影を株式会社 シン技術コンサルに委託した。
9. 本調査によって得られた資料等は、厚真町教育委員会が保管している。
10. 調査・報告にあたって下記の機関および個人より御指導御協力を頂き、記して感謝申し上げます。

北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課、北海道胆振総合振興局、胆振総合振興局室蘭建設管理部厚幌ダム建設事務所、公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター、公益財団法人北海道アイヌ協会、厚真アイヌ協会、苫小牧アイヌ協会、芦別市星の降る里百年記念館、帯広市百年記念館、札幌学院大学人文学部、伊達市噴火湾文化研究所、千歳市埋蔵文化財センター、苫小牧市美術博物館、苫小牧駒澤大学、日高山脈博物館、日高町立門別図書館郷土資料館、平取町沙流川歴史館、平取町立二風谷アイヌ文化博物館、富良野市博物館、

赤平市教育委員会、恵庭市教育委員会、新ひだか町教育委員会、寿都町教育委員会、砂川市教育委員会、豊浦町教育委員会、深川市教育委員会、厚真町幌内自治会、(有)講神組

愛場和人、赤石慎三、東 豊土、阿部明義、天方博章、新家水奈、飯村 均、出穂雅実、石橋孝夫、伊藤昭和、白杵 勲、右代啓視、上屋真一、大島直行、岡 孝雄、岡田路明、長田佳宏、小野寺聡、小野哲也、織田 登、葛西智義、笠原 興、加藤 忠、川内谷 修、菊池俊彦、北沢 実、工藤研治、越田賢一郎、越田雅司、近藤 務、斉藤大朋、斉藤 傑、佐川俊一、佐藤一夫、澤田一憲、澤田 健、末光正卓、杉浦重信、鈴木将太、鈴木琢也、瀬川拓郎、高瀬克範、田口 尚、竹田 涉、田才雅彦、鶴丸俊明、富永勝也、友田哲弘、豊田宏良、中田裕香、長沼 孝、長町章弘、二階堂啓也、西脇対名夫、野村 崇、長谷山隆博、畑 宏明、広田良成、福井淳一、福田 茂、藤原秀樹、三浦正人、蓑島栄紀、宗像公司、村田 大、村本周三、森岡健治、八重樫忠朗、藪中剛司、山原敏朗、吉田裕吏洋、米道 博、渡井 瞳

凡 例

1. 本書の遺構・遺物等について下記の略号を用いた。なお、層位がこれらの略号に付加している。

〔遺構〕 住居：H 住居跡に付属する柱穴：HP 住居跡に付属する土坑：PT 土坑墓：GP

土坑：P Tピット：TP 杭跡：KP 焼土：F 石組炉：SF 灰集中：AS 盛土様遺構：MO

〔遺物〕 土器：P 擦文土器：SP 続縄文土器：ZP 縄文土器：JP 剥片石器：FT 礫石器：ST 礫：S

フレイク・チップ[°]（黒曜石・頁岩）：FC フレイク・チップ[°]（緑色泥岩・片岩）：SFC 石製品：SP

炭化種子：SD 鉄器：IP

〔遺物等集中〕 土器片集中：PB 礫集中：SB 炭化物集中：CB 獣骨集中：BB フレイク・チップ[°]集中：FCB

土製品集中：PPB 鉄器集中：IPB

2. 地層等について下記の略号を用いた。

〔堆積土〕 樽前 a 砂質降下火山灰：Ta-a 駒ヶ岳 c2 砂質降下火山灰：Ko-c2 樽前 b 降下軽石：Ta-b

有珠 b 降下火山灰：Us-b 白頭山-苫小牧火山灰：B-Tm 樽前 c 砂質降下軽石：Ta-c

樽前 d1 細礫質降下スコリア：Ta-d1 樽前 d2 中礫質降下軽石：Ta-d2 恵庭岳 a 降下軽石：En-a

黄褐色粘土質シルト（いわゆるローム）：L 攪乱：KR

〔色調〕 小山・竹原編著（2005）『新版 標準土色帳』に従った。

〔注記〕 土層注記は下記の略号を用いて、左側より混合比率の順列をつけている。また、混入土については（ ）内に粒径（単位：mm）、状態を記載した。

混入土の比率

A + B：AとBが同量比混じる A-B：Aを主体にBが多量に混じる

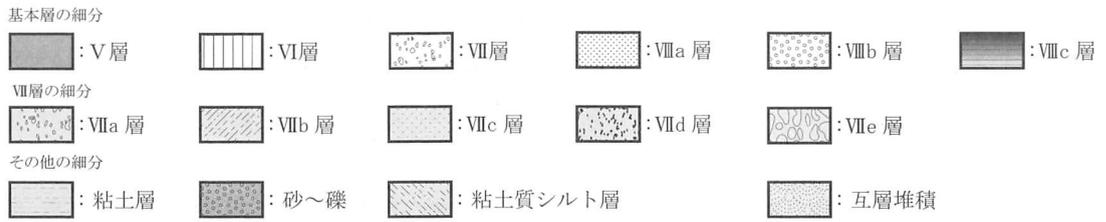
A = B：Aを主体にBが少量 A≡B：Aを主体にBが微量

φ：粒径（単位・mm） ↓：以下 （状態）：斑状に混じる・均一に混じる

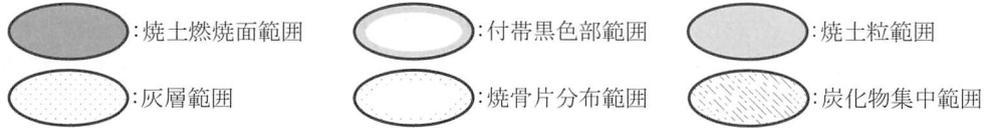
〔層位〕 標準堆積層はローマ数字を用い、遺構覆土や倒木攪乱などの二次的に堆積したものにはアラビア数字を用いた。また、挿図及び一覧表中には下記の略号を用いている。

U：上位 M：中位 L：下位

〔Tピット〕 第IV章第6節のTピット堆積図には以下のトーンを用いた。



〔焼土・獣骨集中〕 被熱による土壤赤色化の度合い等の表現に以下のトーンを用いた。



3. 挿図は基本的に次のように縮尺を統一したが、異なるものについては図中スケールに縮尺を明記している。

基本土層：1/40・1/20 遺構周辺図：1/400・1/200・1/100・1/80・1/40 住居跡：1/80・1/50
 住居跡に付属する柱穴その他の付属遺構：1/40・1/20 Tピット：1/40 焼土・灰集中：1/20
 獣骨物集中：1/40・1/20 集中遺物出土状態：1/200・1/120・1/80・1/40・1/20・1/10 土器・土製品
 実測図：1/3 土器拓影図：1/3 剥片石器：1/2 石製品実測図：1/2・1/3 礫石器実測図：1/3・1/4・1/5
 金属製遺品：1/1・1/2・1/3 礫集中構成礫：1/4

4. 遺構実測図中に以下の線種・トーンを用いている。

〔線種〕 -----：オーバーハング等 ■■■■■：トレンチ - - - - -：攪乱・トレンチによる遺構推定
 〔柱穴〕 住居跡柱穴の断面図において、しまりの強い壁面に斜線を用いている。
 〔断面〕 ：柱穴の壁面周辺が強くしまる部分

5. 土器・石器の挿図および写真図版の番号に後続する枝番号・枝記は同一個体表記である。

6. 遺物実測図中に以下の略号を用いている。

〔断面〕 V———V：たたき痕 |———|：石器類 微細剥離・磨滅・擦り痕・滑沢面
 〔平面〕 ：滑沢面範囲 ：被熱による赤色化/付着物範囲

7. 一覧表中の石材については、宮崎、松井が肉眼観察で分類した。下記の凡例は第V章第7節で報告された石材同定結果の凡例と過年度の報告石材を合わせたものである。

また、頁岩・泥岩の分類については、粒度による基準ではなく、破断面等の肉眼観察によるものである。

Aga.：メノウ Aga-Sh.：メノウ質頁岩 Amp.：角閃岩 And.：安山岩 Bl-Sch.：青色片岩 Bs.：玄武岩
 Cha.：チャート Con.：礫岩 Dio.：閃緑岩 Gab.：斑れい岩 Gdo.：緑色岩 Gni.：片麻岩
 Gr-Sch.：緑色片岩 Gra.：花崗岩 Gr-Mud.：緑色泥岩 Mud.：泥岩 Obs.：黒曜石 Qu.：石英
 Qua.：珪岩 Qu-sch.：石英片岩 Sa.：砂岩 Sach.：塩基性凝灰岩 Sch.：片岩 Ser.：蛇紋岩
 Sh.：頁岩 Ssh.：珪質頁岩 Sa-Sch.：砂岩質片岩 Si.：珪化岩 Tal.：滑石 Tu.：凝灰岩
 Cray.：粘土 Irn.：鉄 Cu.：銅 B.：骨

本文目次

カラー図版

1-1	厚幌ダム湛水区域内全遠景
1-2	シヨロマ沢及びシヨロマ1遺跡遠景
2-1	シヨロマ1遺跡及び周辺遺跡全景
2-2	ⅢH-01 完掘
3-1	ⅢAS-01 検出
3-2	ⅢF-11・14～17 検出
4-1	縄文時代住居跡群(調査終了面)
4-2	大型住居群
5-1	VH-01 完掘
5-2	VH-03 完掘
6-1	VH-12 完掘
6-2	VH-13 完掘
7-1	VSB-04 遺物出土状態
7-2	南側斜面(BF-31区)断面
8-1	棍棒形石器
8-2	石製品

序文

例言

凡例

第I章 調査の概要

第1節	調査要項と体制	1
1.	調査要項	1
2.	調査体制	1
第2節	調査に至る経緯	1
1.	厚幌ダム建設事業	1
2.	発掘調査までの経緯	2
第3節	調査の方法	4
1.	発掘区の設定	4
2.	グリッド設定	4
3.	包含層及び遺構調査の方法	6
4.	整理作業	7

第4節	遺物の分類	8
1.	土器	8
2.	剥片石器	10
3.	礫石器	11
第5節	調査結果の概要	12
1.	アイヌ文化期	12
2.	擦文文化期	12
3.	縄文時代	12
第6節	遺跡の位置	17
1.	厚真町の概要	17
2.	遺跡の位置と周辺の環境	21
3.	調査区内の地形と地質	23

第II章 アイヌ文化期の調査

第1節	住居跡	35
第2節	集中区	45
第3節	灰集中・焼土	54
1.	灰集中	54
2.	焼土	55
第4節	杭列跡	55
第5節	道跡	57
第6節	集中出土遺物	57
第7節	包含層出土遺物	61

第III章 擦文・続縄文文化期・

縄文時代晩期の調査

第1節	集中区	77
第2節	土坑・焼土	81
1.	土坑	81
2.	焼土	81
第3節	集中出土遺物	85
1.	土器集中	85
2.	礫集中	88

第4節 III層包含層出土遺物	89	3. 礫石器	288
1. 土器	89	4. 石製品・垂飾品	292
2. 剥片石器	90		
3. 礫石器	94		
第IV章 縄文時代の調査			
第1節 竪穴住居跡	96	第V章 自然科学的分析	
第2節 土坑墓	150	第1節 ショロマ1遺跡における 放射性炭素年代(AMS測定)	360
第3節 土坑	168	第2節 平成25年度北海道勇払郡厚真町 ショロマ1遺跡の動物	366
第4節 焼土	174	第3節 厚真町ショロマ1遺跡から 検出された植物種子	372
第5節 獣骨集中	181	第4節 ショロマ1遺跡土器胎土分析	379
第6節 Tピット	181	第5節 ショロマ1遺跡出土の黒曜石 原産地分析	395
第7節 集中出土遺物	201	第6節 ショロマ1遺跡出土玉類と 滑石等の同定	403
1. 土器集中	201	第7節 ショロマ1遺跡石材同定	410
2. 礫集中	215		
3. 土製品集中	256	引用・参考文献	417
4. フレイク・チップ集中	258	報告書抄録	555
5. その他の遺構	259	奥付	
第8節 包含層出土遺物	261	写真図版	
1. 土器・土製品	261	図版	421～554
2. 剥片石器	280		

挿 図 目 次

I 章					
図 I-1	厚幌ダム建設事業関連 埋蔵文化財包蔵地位置図	3	図 I-8	31 ライン南北断面図(1)	28
図 I-2	グリッド設定網及び試掘坑 ・メインセクション位置図	5	図 I-9	31 ライン南北断面図(2)	29
図 I-3	グリッド区分図	6	図 I-10	31 ライン南北断面図(3)	30
図 I-4	厚真町内遺跡分布図	14	図 I-11	AT ライン東西断面図	31
図 I-5	周辺の遺跡と地形面区分	20	図 I-12	A0 ライン東西断面図(1)	32
図 I-6	調査区内の地形区分図	26	図 I-13	A0 ライン東西断面図(2)	33
図 I-7	基本土層柱状図	27	図 I-14	AI-19 区 Ta-d 降下軽石(VIII)・再堆積 (VII)層堆積断面・トレンチ位置図	34
II 章					
図 II-1	III層遺構配置図	37	図 II-3	IIIH-01 付属 HF・HP・III SB 平面及び断面図	40
図 II-2	IIIH-01 平面図	39			

図Ⅱ-4	ⅢH-01 付属ⅢSB・ⅢBB 平面図	41	図Ⅱ-15	ⅢSB-06 出土礫	54
図Ⅱ-5	ⅢH-01 出土遺物	42	図Ⅱ-16	ⅢAS-01・02・ⅢF-03・05・06 平面 及び断面図・出土遺物	56
図Ⅱ-6	ⅢH-01・ⅢSB-01 出土礫	43	図Ⅱ-17	杭列跡平面図	58
図Ⅱ-7	ⅢH-01・ⅢSB-02 出土礫	44	図Ⅱ-18	杭列跡平面及び断面図(1)	59
図Ⅱ-8	集中区1 平面図	47	図Ⅱ-19	杭列跡平面及び断面図(2)	60
図Ⅱ-9	集中区1 関連遺構平面及び断面図	48	図Ⅱ-20	道跡平面及び断面図	60
図Ⅱ-10	集中区1 出土遺物(1)	49	図Ⅱ-21	ⅢSB-03~05 平面及び垂直分布図	62
図Ⅱ-11	集中区1 出土遺物(2)	50	図Ⅱ-22	ⅢSB 出土遺物	63
図Ⅱ-12	集中区1 出土礫	51	図Ⅱ-23	ⅢSB 出土礫	63
図Ⅱ-13	集中区1・ⅢSB-07 出土礫	52	図Ⅱ-24	アイヌ文化期包含層出土金属製品	64
図Ⅱ-14	集中区2 平面及び断面図	53			
Ⅲ章					
図Ⅲ-1	集中区3 平面図	78	図Ⅲ-6	ⅢPB-01・02 平面及び断面図・ 出土土器	86
図Ⅲ-2	集中区3 ⅢP・ⅢF 平面及び断面図	79	図Ⅲ-7	ⅢSB-08 平面及び断面図・出土遺物	87
図Ⅲ-3	集中区3 出土遺物	80	図Ⅲ-8	ⅢSB-08 出土礫	88
図Ⅲ-4	ⅢP-02・ⅢF-04・07・08・10 平面及び断面図	83	図Ⅲ-9	Ⅲ層包含層出土土器	90
図Ⅲ-5	ⅢF-12・13・21・24 平面及び断面図・ 出土遺物	84	図Ⅲ-10	Ⅲ層包含層出土石器	91
Ⅳ章					
図Ⅳ-1	V層遺構配置図	97	図Ⅳ-19	VH-06 平面及び断面図・付属遺構	122
図Ⅳ-2	VH-01 平面及び遺物分布図	100	図Ⅳ-20	VH-04~06 出土遺物	123
図Ⅳ-3	VH-01 断面図及び付属遺構	101	図Ⅳ-21	VH-07 平面及び断面図	127
図Ⅳ-4	VH-01 出土遺物(1)	103	図Ⅳ-22	VH-07 掘り上げ土及び付属遺構	128
図Ⅳ-5	VH-01 出土遺物(2)	104	図Ⅳ-23	VH-07 出土遺物	129
図Ⅳ-6	VH-01 出土遺物(3)	105	図Ⅳ-24	VH-08 平面及び断面図	130
図Ⅳ-7	VH-01 出土遺物(4)	106	図Ⅳ-25	VH-09 平面及び断面図	132
図Ⅳ-8	VH-02 平面及び遺物分布図	109	図Ⅳ-26	VH-10 平面図	134
図Ⅳ-9	VH-02 断面図及び床面出土土器	110	図Ⅳ-27	VH-10 断面図及び付属遺構	135
図Ⅳ-10	VH-02 付属遺構平面及び断面図	111	図Ⅳ-28	VH-11 平面及び断面図・付属遺構 ・床面出土土器	136
図Ⅳ-11	VH-02 出土遺物(1)	112	図Ⅳ-29	VH-08・10・11 出土遺物	137
図Ⅳ-12	VH-02 出土遺物(2)	113	図Ⅳ-30	VH-12 平面及び断面図・付属遺構 ・床面出土土器	139
図Ⅳ-13	VH-03 平面及び断面図	115	図Ⅳ-31	VH-13 平面及び断面図・付属遺構	141
図Ⅳ-14	VH-03 掘り上げ土範囲及び断面図	116	図Ⅳ-32	VH-12・13 出土遺物(1)	142
図Ⅳ-15	VH-03 出土遺物(1)	117	図Ⅳ-33	VH-13 出土遺物(2)	143
図Ⅳ-16	VH-03 出土遺物(2)	118	図Ⅳ-34	VH-14 平面及び断面図・付属遺構	145
図Ⅳ-17	VH-04 平面及び断面図	119			
図Ⅳ-18	VH-05 平面及び断面図	121			

図IV-35	VH-15 平面及び断面図・付属遺構	146	図IV-70	TP-44～46 平面及び断面図	198
図IV-36	VH-16 平面及び断面図・遺物分布図	148	図IV-71	TP-47～50 平面及び断面図	199
図IV-37	VH-14～16 出土遺物	149	図IV-72	VP・VF・TP 出土遺物	200
図IV-38	VGP-01～04 平面及び断面図	155	図IV-73	VPB-01・04～07	
図IV-39	VGP-05～08 平面及び断面図	156		平面及び垂直分布図	206
図IV-40	VGP-09～12 平面及び断面図	157	図IV-74	VPB-08～11 平面及び垂直分布図	207
図IV-41	VGP-13～16 平面及び断面図	158	図IV-75	VPB-12～14 平面及び垂直分布図	208
図IV-42	VGP-17・19～21 平面及び断面図	159	図IV-76	VPB-15・16 平面及び垂直分布図	209
図IV-43	VGP-22～25 平面及び断面図	160	図IV-77	VPB 出土遺物(1)	210
図IV-44	VGP-27～29 平面及び断面図	161	図IV-78	VPB 出土遺物(2)	211
図IV-45	VGP 出土遺物(1)	162	図IV-79	VPB 出土遺物(3)	212
図IV-46	VGP 出土遺物(2)	163	図IV-80	VPB 出土遺物(4)	213
図IV-47	VGP 出土遺物(3)	164	図IV-81	VPB 出土遺物(5)	214
図IV-48	VGP 出土遺物(4)	165	図IV-82	VSB-01 遺物拡大分布及び	
図IV-49	VGP 出土遺物(5)	166		垂直分布図	217
図IV-50	VGP 出土遺物(6)	167	図IV-83	VSB-01 出土遺物(1)	218
図IV-51	VP-01～03・07・08・12・13・		図IV-84	VSB-01 出土遺物(2)	219
	VPB-02 平面及び断面図	171	図IV-85	VSB-01 出土遺物(3)	220
図IV-52	VP-14・15・17～21 平面及び断面図	172	図IV-86	VSB-01 出土遺物(4)	221
図IV-53	VP-23～27・29・30 平面及び断面図	173	図IV-87	VSB-02 平面及び遺物分布図	223
図IV-54	VSF-01～03・VF-02・04・06・07・09		図IV-88	VSB-02 遺物拡大分布図①	224
	平面及び断面・垂直分布図	178	図IV-89	VSB-02 遺物拡大分布図②	225
図IV-55	VF-11～18 平面及び断面図	179	図IV-90	VSB-02 遺物拡大分布図③	226
図IV-56	VF-19～22・24～30 平面及び断面図・		図IV-91	VSB-02 出土遺物(1)	227
	VBB-01 平面図	180	図IV-92	VSB-02 出土遺物(2)	228
図IV-57	TP-01～03 平面及び断面図	185	図IV-93	VSB-04 平面及び遺物分布・	
図IV-58	TP-04～06 平面及び断面図	186		垂直分布図	230
図IV-59	TP-07～09 平面及び断面図	187	図IV-94	VSB-04 遺物拡大分布図①	231
図IV-60	TP-10～13 平面及び断面図	188	図IV-95	VSB-04 遺物拡大分布図②	232
図IV-61	TP-14～17 平面及び断面図	189	図IV-96	VSB-04 遺物拡大分布図③	233
図IV-62	TP-18～20 平面及び断面図	190	図IV-97	VSB-04 出土遺物(1)	237
図IV-63	TP-21～23 平面及び断面図	191	図IV-98	VSB-04 出土遺物(2)	238
図IV-64	TP-24～27 平面及び断面図	192	図IV-99	VSB-04 出土遺物(3)	239
図IV-65	TP-28～30 平面及び断面図	193	図IV-100	VSB-04 出土遺物(4)	240
図IV-66	TP-31～33 平面及び断面図	194	図IV-101	VSB-04 出土遺物(5)	241
図IV-67	TP-34～36 平面及び断面図	195	図IV-102	VSB-04 出土遺物(6)	242
図IV-68	TP-37～39 平面及び断面図	196	図IV-103	VSB-05 平面及び遺物分布・	
図IV-69	TP-40～43 平面及び断面図	197		垂直分布・拡大分布図①	245

図IV-104 VSB-05 遺物拡大分布図②	246	図IV-124 縄文時代包含層出土土器(10)	278
図IV-105 VSB-05 出土遺物(1)	247	図IV-125 縄文時代包含層出土土器(11)	
図IV-106 VSB-05 出土遺物(2)	248	及び土製品	279
図IV-107 VSB-06~08 平面及び		図IV-126 縄文時代包含層出土剥片石器(1)	283
遺物分布・断面・垂直分布図	250	図IV-127 縄文時代包含層出土剥片石器(2)	284
図IV-108 VSB-09 平面及び遺物分布・		図IV-128 縄文時代包含層出土剥片石器(3)	285
断面・垂直分布図	251	図IV-129 縄文時代包含層出土剥片石器(4)	286
図IV-109 VSB-06 出土遺物(1)	252	図IV-130 縄文時代包含層出土剥片石器(5)	287
図IV-110 VSB-06 出土遺物(2)	253	図IV-131 縄文時代包含層出土礫石器(1)	294
図IV-111 VSB-07 出土遺物	254	図IV-132 縄文時代包含層出土礫石器(2)	295
図IV-112 VSB-08・09 出土遺物	255	図IV-133 縄文時代包含層出土礫石器(3)	296
図IV-113 VPPB・VFCB 平面及び垂直分布図	257	図IV-134 縄文時代包含層出土礫石器(4)	297
図IV-114 VPPB-01・02・VFCB-02・		図IV-135 縄文時代包含層出土礫石器(5)	298
VM0-01 出土遺物	260	図IV-136 縄文時代包含層出土礫石器(6)	299
図IV-115 縄文時代包含層出土土器(1)	269	図IV-137 縄文時代包含層出土礫石器(7)	300
図IV-116 縄文時代包含層出土土器(2)	270	図IV-138 縄文時代包含層出土礫石器(8)	301
図IV-117 縄文時代包含層出土土器(3)	271	図IV-139 縄文時代包含層出土礫石器(9)	302
図IV-118 縄文時代包含層出土土器(4)	272	図IV-140 縄文時代包含層出土礫石器(10)	303
図IV-119 縄文時代包含層出土土器(5)	273	図IV-141 縄文時代包含層出土礫石器(11)	304
図IV-120 縄文時代包含層出土土器(6)	274	図IV-142 縄文時代包含層出土礫石器(12)	305
図IV-121 縄文時代包含層出土土器(7)	275	図IV-143 縄文時代包含層出土礫石器(13)	306
図IV-122 縄文時代包含層出土土器(8)	276	図IV-144 縄文時代包含層出土礫石器(14)	307
図IV-123 縄文時代包含層出土土器(9)	277	図IV-145 縄文時代包含層出土礫石器(15)	308

挿表目次

I 章

表 I-1 グリッド設定関係杭数値一覧表	6
表 I-2 ショロマ1 遺跡検出遺構等一覧表	13
表 I-3 ショロマ1 遺跡出土遺物一覧表	13
表 I-4 ショロマ1 遺跡試掘杭 出土遺物一覧表	13
表 I-5 厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(1)	15
表 I-6 厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(2)	16

II 章

表 II-1 アイヌ文化期遺構群一覧表	65
表 II-2 IIIH 属性表	65
表 II-3 IIIH 付属炉属性表	65

表 II-4 IIIH-01 柱穴属性表	65
表 II-5 IIIAS・III F・III SB・III BB・III IPB 属性表	66
表 II-6 杭列跡・道跡属性表	66
表 II-7 杭列跡柱穴属性表	67
表 II-8 アイヌ文化期遺構出土遺物属性表	68
表 II-9 アイヌ文化期包含層出土遺物属性表	68
表 II-10 アイヌ文化期出土礫属性表	68

III 章

表 III-1 擦文文化期遺構群一覧表	92
表 III-2 III P 属性表	92
表 III-3 III F・III CB 属性表	92

表Ⅲ-4	ⅢPB-01・02・ⅢSB-08 属性表……………	93	表Ⅳ-8-2	VGP・VP 出土石器属性表……………	323
表Ⅲ-5	擦文文化期遺構出土石器属性表……………	93	表Ⅳ-9	VSF・VF 属性表……………	323
表Ⅲ-6	擦文文化期包含層出土石器属性表……………	93	表Ⅳ-10	Tピット属性表(1)・(2)……………	324
表Ⅲ-7	続縄文・縄文時代晩期 包含層出土石器属性表……………	94	表Ⅳ-11	VPB・VSB・VFCB・ VPPB・VBB・VMO 属性表……………	326
表Ⅲ-8	Ⅲ層遺構・包含層出土石器属性表……………	94	表Ⅳ-12-1	VPB・VSB 出土 石器属性表(1)～(9)……………	327
表Ⅲ-9	擦文文化期出土礫属性表……………	95	表Ⅳ-12-2	VPB・VSB・VFCB・ VMO 出土石器属性表(1)～(3)……………	336
IV章					
表Ⅳ-1	縄文時代遺構群一覧表(1)～(3)……………	309	表Ⅳ-13-1	縄文時代包含層出土石器 属性表(1)～(15)……………	339
表Ⅳ-2	VH 属性表……………	312	表Ⅳ-13-2	縄文時代遺構・包含層出土土製品 属性表……………	353
表Ⅳ-3	VH 付属炉属性表……………	312	表Ⅳ-13-3	縄文時代包含層出土剥片石器 属性表(1)～(3)……………	354
表Ⅳ-4	VH 付属土坑属性表……………	313	表Ⅳ-13-4	縄文時代包含層出土礫石器 属性表(1)～(3)……………	357
表Ⅳ-5	VH 柱穴属性表……………	313			
表Ⅳ-6-1	VH 出土石器属性表(1)～(5)……………	314			
表Ⅳ-6-2	VH 出土石器属性表(1)・(2)……………	319			
表Ⅳ-7	VGP・VP 属性表……………	321			
表Ⅳ-8-1	VGP・VP・VF・TP 出土石器属性表……………	322			

写真図版目次

図版 1-1	平成 25 年度調査終了状態(1)……………	421	図版 4-3	ⅢH-01. HF01 断面……………	424
図版 1-2	平成 25 年度調査終了状態(2)……………	421	図版 4-4	ⅢH-01. HF02 断面……………	424
図版 2-1	南側低位面完掘……………	422	図版 4-5	ⅢBB-01 検出……………	424
図版 2-2	調査区北西部V層上面検出……………	422	図版 4-6	ⅢH-01 床面刀子出土状態……………	424
図版 2-3	調査区南西部V層上面検出……………	422	図版 5-1	ⅢH-01. HP01 断面……………	425
図版 2-4	調査区北東部Ⅲ層調査完了……………	422	図版 5-2	ⅢH-01. HP01 完掘……………	425
図版 2-5	調査区南東部Ⅲ層調査完了……………	422	図版 5-3	ⅢH-01. HP03 断面……………	425
図版 3-1	南側斜面上部調査状況……………	423	図版 5-4	ⅢH-01. HP03 完掘……………	425
図版 3-2	調査区北東部Ⅲ層上面検出……………	423	図版 5-5	ⅢH-01. HP04 断面……………	425
図版 3-3	基本土層(1)(AT-24 区)……………	423	図版 5-6	ⅢH-01. HP04 完掘……………	425
図版 3-4	基本土層(2)(AR-31 区)……………	423	図版 5-7	ⅢH-01. HP05 断面……………	425
図版 3-5	南側斜面断面……………	423	図版 5-8	ⅢH-01. HP05 完掘……………	425
図版 3-6	住居跡調査状況……………	423	図版 5-9	ⅢH-01. HP17 断面……………	425
図版 3-7	V層調査状況(1)……………	423	図版 5-10	ⅢH-01. HP17 完掘……………	425
図版 3-8	V層調査状況(2)……………	423	図版 5-11	ⅢH-01. HP20 断面……………	425
図版 4-1	ⅢH-01 完掘……………	424	図版 5-12	ⅢH-01. HP20 完掘……………	425
図版 4-2	ⅢH-01. HF01 及び ⅢSB-01・02 検出……………	424	図版 5-13	ⅢH-01. HP23 断面……………	425
			図版 5-14	ⅢH-01. HP23 完掘……………	425

図版 5-15	ⅢH-01. HP26 断面	425	図版 10-8	ⅢKP-82 完掘	430
図版 5-16	ⅢH-01. HP26 完掘	425	図版 10-9	拡張区Ⅲ層道跡	430
図版 6-1	集中区 1 ⅢF-18 及びⅢSB-07 検出	426	図版 10-10	道跡断面(1)	430
図版 6-2	ⅢSB-07 検出	426	図版 10-11	道跡断面(2)	430
図版 6-3	ⅢF-18 検出	426	図版 10-12	道跡断面(3)	430
図版 6-4	ⅢIPB-01 鉄鍋出土状態	426	図版 11-1	ⅢSB-03 検出	431
図版 6-5	ⅢIPB-01 鉄鍋出土状態断面	426	図版 11-2	ⅢSB-03 断面	431
図版 7-1	ⅢF-19 検出	427	図版 11-3	ⅢSB-04 検出	431
図版 7-2	ⅢF-19 断面	427	図版 11-4	ⅢSB-04 鉄製品出土状態	431
図版 7-3	ⅢF-23 検出	427	図版 11-5	ⅢSB-04 断面	431
図版 7-4	ⅢF-23 断面	427	図版 11-6	ⅢSB-05 検出	431
図版 7-5	ⅢF-19・23 検出	427	図版 11-7	ⅢSB-05 鉄製品出土状態	431
図版 7-6	ⅢF-25 検出	427	図版 11-8	ⅢSB-05 鉄製品出土状態断面	431
図版 7-7	ⅢF-25 断面	427	図版 12-1	集中区 3 ⅢF-11・14~17 検出	432
図版 7-8	ⅢSB-06 検出	427	図版 12-2	ⅢF-11 検出	432
図版 8-1	ⅢAS-01 検出	428	図版 12-3	ⅢF-11 断面	432
図版 8-2	ⅢAS-01 南-北断面	428	図版 12-4	ⅢF-14 検出	432
図版 8-3	ⅢAS-01 東-西断面	428	図版 12-5	ⅢF-14 断面	432
図版 8-4	ⅢAS-01 コイ科(ウグイ) 咽頭骨出土状態	428	図版 13-1	ⅢF-15 検出	433
図版 8-5	ⅢAS-02 検出	428	図版 13-2	ⅢF-15 断面	433
図版 8-6	ⅢAS-02 断面	428	図版 13-3	ⅢF-16 検出	433
図版 8-7	ⅢF-03 検出	428	図版 13-4	ⅢF-16 断面	433
図版 8-8	ⅢF-03 断面	428	図版 13-5	ⅢF-17 検出	433
図版 8-9	ⅢF-05(左)・06(右) 検出	428	図版 13-6	ⅢF-17 断面	433
図版 9-1	杭列跡(手前:西, 奥:東)完掘	429	図版 13-7	ⅢP-04 完掘	433
図版 9-2	杭列跡(西:西側部分)完掘	429	図版 13-8	ⅢP-04 断面	433
図版 9-3	ⅢKP-03 断面	429	図版 14-1	ⅢP-02 完掘	434
図版 9-4	ⅢKP-05 断面	429	図版 14-2	ⅢP-02 断面	434
図版 9-5	ⅢKP-90 完掘	429	図版 14-3	ⅢF-04・08 検出	434
図版 9-6	ⅢKP-103 完掘	429	図版 14-4	ⅢF-04 断面	434
図版 10-1	ⅢKP-50 断面	430	図版 14-5	ⅢF-08 検出	434
図版 10-2	ⅢKP-50 完掘	430	図版 14-6	ⅢF-08 断面	434
図版 10-3	ⅢKP-55 断面	430	図版 14-7	ⅢF-07 検出	434
図版 10-4	ⅢKP-55 完掘	430	図版 14-8	ⅢF-07 断面	434
図版 10-5	ⅢKP-73 完掘	430	図版 15-1	ⅢF-10 検出	435
図版 10-6	ⅢKP-79 断面	430	図版 15-2	ⅢF-10 断面	435
図版 10-7	ⅢKP-82 断面	430	図版 15-3	ⅢF-02・ⅢF-10 切り合い	435
			図版 15-4	ⅢF-12・13 検出	435

図版 15-5	ⅢF-12 検出	435	図版 19-13	VH-01 北海道式石冠出土状態	439
図版 15-6	ⅢF-12 断面	435	図版 20-1	VH-02 完掘	440
図版 15-7	ⅢF-13 検出	435	図版 20-2	VH-02 東-西断面	440
図版 15-8	ⅢF-13 断面	435	図版 20-3	VH-02 南-北断面	440
図版 16-1	ⅢF-21 検出	436	図版 21-1	VH-02. HF01 検出	441
図版 16-2	ⅢF-21 断面	436	図版 21-2	VH-02. HF01 断面	441
図版 16-3	ⅢF-24 検出	436	図版 21-3	VH-02. HF02 検出	441
図版 16-4	ⅢF-24 断面	436	図版 21-4	VH-02. HF02 断面	441
図版 16-5	ⅢPB-01 検出(1)	436	図版 21-5	VH-02. PT01 完掘	441
図版 16-6	ⅢPB-01 検出(2)	436	図版 21-6	VH-02. PT01 断面	441
図版 16-7	ⅢPB-01 断面	436	図版 21-7	VH-02. PB01 出土状態(1)	441
図版 16-8	ⅢPB-02 検出(1)	436	図版 21-8	VH-02. PB01 出土状態(2)	441
図版 17-1	ⅢPB-02 検出(2)	437	図版 22-1	VH-03 完掘	442
図版 17-2	ⅢPB-02 断面	437	図版 22-2	VH-03 北西-南東断面	442
図版 17-3	ⅢAS-02 検出	437	図版 22-3	VH-03 北東-南西断面	442
図版 17-4	ⅢAS-02 断面	437	図版 22-4	VH-03. HF01 検出	442
図版 17-5	ⅢSB-08 検出	437	図版 22-5	VH-03. HF01 断面	442
図版 17-6	ⅢSB-08 断面(1)	437	図版 23-1	VH-03. PT01 完掘	443
図版 17-7	ⅢSB-08 断面(2)	437	図版 23-2	VH-03. PT01 断面	443
図版 17-8	刀子(A0-22区)出土状態	437	図版 23-3	VH-03. PT02 完掘	443
図版 17-9	Ⅲ層調査状況	437	図版 23-4	VH-03. PT02 断面	443
図版 18-1	VH-01 完掘	438	図版 23-5	VH-03. HP01 完掘	443
図版 18-2	VH-01 東-西断面	438	図版 23-6	VH-03. HP01 断面	443
図版 18-3	VH-01 南-北断面	438	図版 23-7	VH-03. HP03 完掘	443
図版 18-4	VH-01. HF01 検出	438	図版 23-8	VH-03. HP03 断面	443
図版 18-5	VH-01. HF01 断面	438	図版 23-9	VH-03. HP04 完掘	443
図版 19-1	VH-01. HP02 完掘	439	図版 23-10	VH-03. HP04 断面	443
図版 19-2	VH-01. HP02 断面	439	図版 23-11	VH-03 床面土器出土状態	443
図版 19-3	VH-01. HP03 完掘	439	図版 24-1	VH-04 完掘	444
図版 19-4	VH-01. HP03 断面	439	図版 24-2	VH-04 南-北断面	444
図版 19-5	VH-01. HP04 完掘	439	図版 24-3	VH-04 東-西断面	444
図版 19-6	VH-01. HP04 断面	439	図版 24-4	VH-04. HP01 断面	444
図版 19-7	VH-01. HP06 完掘	439	図版 24-5	VH-04. HP02 断面	444
図版 19-8	VH-01. HP06 断面	439	図版 25-1	VH-05 完掘	445
図版 19-9	VH-01. HP07 完掘	439	図版 25-2	VH-05 南西-北東断面	445
図版 19-10	VH-01. HP07 断面	439	図版 25-3	VH-05 南東-北西断面	445
図版 19-11	VH-01 床面硬化範囲断面	439	図版 25-4	VH-05 検出	445
図版 19-12	VH-01 床面焼成粘土塊出土状態	439	図版 25-5	VH-05 床面石斧出土状態	445

図版 26-1	VH-06 完掘	446	図版 32-2	VH-11. HF01 完掘	452
図版 26-2	VH-06 東-西断面	446	図版 32-3	VH-11. HF01 断面(1)	452
図版 26-3	VH-06 南-北断面(1)	446	図版 32-4	VH-11. HF01 断面(2)	452
図版 26-4	VH-06 南-北断面(2)	446	図版 32-5	VH-11 床面土器出土状態	452
図版 26-5	VH-06. PT01 断面	446	図版 33-1	VH-12 完掘	453
図版 27-1	VH-07 完掘	447	図版 33-2	VH-12. HF01 完掘	453
図版 27-2	VH-07 南西-北東断面	447	図版 33-3	VH-12. HF01 断面	453
図版 27-3	VH-07 北西-南東断面	447	図版 33-4	VH-12. HF01 下部断面	453
図版 27-4	VH-07. HF01 断面	447	図版 33-5	VH-12. PB01 出土状態	453
図版 27-5	VH-07. HF02 断面	447	図版 34-1	VH-13 完掘	454
図版 28-1	VH-08 完掘	448	図版 34-2	VH-13 南西-北東断面	454
図版 28-2	VH-08 南-北断面	448	図版 34-3	VH-13 北西-南東断面	454
図版 28-3	VH-08. PT01 完掘	448	図版 34-4	VH-13 床面 Ta-d 降下層 及び再堆積層	454
図版 28-4	VH-08. PT01 断面	448	図版 34-5	VH-13 2層上面遺物出土状態	454
図版 29-1	VH-09 完掘	449	図版 35-1	VH-13. HF01 検出及び 炭化材出土状態	455
図版 29-2	VH-09 南東-北西断面	449	図版 35-2	VH-13. HF01・PT01 完掘	455
図版 29-3	VH-09 南西-北東断面	449	図版 35-3	VH-13. HF01 断面(1)	455
図版 29-4	VH-09 壁際流れ込み 遺物出土状態	449	図版 35-4	VH-13. HF01 断面(2)	455
図版 30-1	VH-10 完掘	450	図版 35-5	VH-13. PT02 完掘	455
図版 30-2	VH-10 西-東断面	450	図版 35-6	VH-13. PT01 断面	455
図版 30-3	VH-10 南-北断面	450	図版 35-7	VH-13. PT02 断面	455
図版 30-4	VH-10. HF01 完掘	450	図版 35-8	VH-13 床面炭化材及び 遺物出土状態	455
図版 30-5	VH-10. HF01 坑底埋土 (シルト層)検出	450	図版 35-9	VH-13 遺物出土状態	455
図版 31-1	VH-10. HF01 断面	451	図版 36-1	VH-14 完掘	456
図版 31-2	VH-10. HF01 坑底埋土断面	451	図版 36-2	VH-14 北西-南東断面	456
図版 31-3	VH-10. HP01 完掘	451	図版 36-3	VH-14 南西-北東断面	456
図版 31-4	VH-10. HP02 完掘	451	図版 36-4	VH-14. HF01 断面	456
図版 31-5	VH-10. HP02 断面	451	図版 36-5	VH-14. PT01 断面	456
図版 31-6	VH-10. HP01 断面	451	図版 37-1	VH-15 完掘	457
図版 31-7	VH-10. HP03 完掘	451	図版 37-2	VH-15 西-東断面	457
図版 31-8	VH-10. HP04 完掘	451	図版 37-3	VH-15 北-南断面	457
図版 31-9	VH-10. HP04 断面	451	図版 37-4	VH-15. HF01 検出	457
図版 31-10	VH-10. HP03 断面	451	図版 37-5	VH-15. HF01 断面	457
図版 31-11	VH-10. HP05 完掘	451	図版 38-1	VH-15. PT01 完掘	458
図版 31-12	VH-10. HP05 断面	451	図版 38-2	VH-15. PT01 断面	458
図版 32-1	VH-11 完掘	452			

図版 38-3	VH-15. PT02 断面	458	図版 42-3	VGP-14 完掘	462
図版 38-4	VH-15. PT03 断面	458	図版 42-4	VGP-14 断面	462
図版 38-5	VH-15 床面炭化材検出	458	図版 42-5	VGP-15 完掘	462
図版 38-6	VH-16 南側完掘	458	図版 42-6	VGP-15 断面(1)	462
図版 38-7	VH-16. HF01 検出	458	図版 42-7	VGP-15 断面(2)	462
図版 38-8	VH-16 床面土器出土状態	458	図版 42-8	VGP-16 完掘	462
図版 39-1	VGP-01 完掘	459	図版 42-9	VGP-16 断面	462
図版 39-2	VGP-01 断面	459	図版 43-1	VGP-17 完掘	463
図版 39-3	VGP-02 完掘	459	図版 43-2	VGP-17 断面	463
図版 39-4	VGP-02 断面	459	図版 43-3	VGP-19 完掘	463
図版 39-5	VGP-03 完掘	459	図版 43-4	VGP-19 断面	463
図版 39-6	VGP-03 断面	459	図版 43-5	VGP-20 完掘	463
図版 39-7	VGP-04 完掘	459	図版 43-6	VGP-20 断面(1)	463
図版 39-8	VGP-04 断面	459	図版 43-7	VGP-20 断面(2)	463
図版 40-1	VGP-05 完掘	460	図版 43-8	VGP-21 完掘	463
図版 40-2	VGP-05 断面(1)	460	図版 43-9	VGP-21 断面(1)	463
図版 40-3	VGP-05 断面(2)	460	図版 43-10	VGP-21 断面(2)	463
図版 40-4	VGP-06 完掘	460	図版 44-1	VGP-22 完掘	464
図版 40-5	VGP-06 断面(1)	460	図版 44-2	VGP-22 断面(1)	464
図版 40-6	VGP-06 断面(2)	460	図版 44-3	VGP-22 断面(2)	464
図版 40-7	VGP-07 完掘	460	図版 44-4	VGP-23 完掘	464
図版 40-8	VGP-07 断面(1)	460	図版 44-5	VGP-23 断面	464
図版 40-9	VGP-07 断面(2)	460	図版 44-6	VGP-24 完掘	464
図版 40-10	VGP-08 完掘	460	図版 44-7	VGP-24 断面	464
図版 40-11	VGP-08 断面	460	図版 44-8	VGP-25 完掘	464
図版 41-1	VGP-09 完掘	461	図版 44-9	VGP-25 断面	464
図版 41-2	VGP-09 断面(1)	461	図版 45-1	VGP-27 完掘	465
図版 41-3	VGP-09 断面(2)	461	図版 45-2	VGP-27 断面(1)	465
図版 41-4	VGP-10 完掘	461	図版 45-3	VGP-27 断面(2)	465
図版 41-5	VGP-10 断面(1)	461	図版 45-4	VGP-28 完掘	465
図版 41-6	VGP-10 断面(2)	461	図版 45-5	VGP-29 完掘	465
図版 41-7	VGP-11 完掘	461	図版 45-6	VGP-29 断面	465
図版 41-8	VGP-11 断面(1)	461	図版 45-7	VP-01 完掘	465
図版 41-9	VGP-11 断面(2)	461	図版 45-8	VP-01 断面	465
図版 41-10	VGP-12 完掘	461	図版 46-1	VP-02 完掘	466
図版 41-11	VGP-12 断面	461	図版 46-2	VP-02 断面	466
図版 42-1	VGP-13 完掘	462	図版 46-3	VP-03 完掘	466
図版 42-2	VGP-13 断面	462	図版 46-4	VP-03 断面	466

図版 45-5	VP-07 完掘	466	図版 51-4	VSF-02 断面	471
図版 45-6	VP-07 断面	466	図版 51-5	VSF-03 検出	471
図版 46-7	VP-08 完掘	466	図版 51-6	VSF-03 断面	471
図版 46-8	VP-08 断面	466	図版 51-7	VF-02 検出	471
図版 47-1	VP-12 完掘	467	図版 51-8	VF-02 断面	471
図版 47-2	VP-12 断面	467	図版 52-1	VF-04 検出	472
図版 47-3	VP-13 完掘	467	図版 53-2	VF-04 断面	472
図版 47-4	VP-13 石製品出土状態	467	図版 52-3	VF-06 検出	472
図版 47-5	VP-14 完掘	467	図版 52-4	VF-06 断面	472
図版 47-6	VP-14 断面(1)	467	図版 52-5	VF-07 検出	472
図版 47-7	VP-14 断面(2)	467	図版 52-6	VF-07 断面	472
図版 47-8	VP-17 完掘	467	図版 52-7	VF-09 検出	472
図版 48-1	VP-17 断面	468	図版 52-8	VF-09 断面	472
図版 48-2	VP-18 完掘	468	図版 53-1	VF-11 検出	473
図版 48-3	VP-18 断面	468	図版 53-2	VF-11 断面	473
図版 48-4	VP-19 完掘	468	図版 53-3	VF-12 検出	473
図版 48-5	VP-19 礫出土状態	468	図版 53-4	VF-12 断面	473
図版 48-6	VP-19 坑底面断面	468	図版 53-5	VF-13 検出	473
図版 48-7	VP-20 完掘	468	図版 53-6	VF-13 断面	473
図版 48-8	VP-20 断面	468	図版 53-7	VF-14 検出	473
図版 49-1	VP-21 完掘	469	図版 53-8	VF-14 断面	473
図版 49-2	VP-23 完掘	469	図版 54-1	VF-15 検出	474
図版 49-3	VP-23 断面	469	図版 54-2	VF-15 断面	474
図版 49-4	VP-24 完掘	469	図版 54-3	VF-16 検出	474
図版 49-5	VP-24 断面	469	図版 54-4	VF-16 断面	474
図版 49-6	VP-25 完掘	469	図版 54-5	VF-17 検出	474
図版 49-7	VP-25 断面	469	図版 54-6	VF-17 断面	474
図版 50-1	VP-26 完掘	470	図版 54-7	VF-19 検出	474
図版 50-2	VP-26 断面	470	図版 54-8	VF-19 断面	474
図版 50-3	VP-27 完掘	470	図版 55-1	VF-20 検出	475
図版 50-4	VP-27 断面	470	図版 55-2	VF-20 断面	475
図版 50-5	VP-29 完掘	470	図版 55-3	VF-21 検出	475
図版 50-6	VP-29 断面	470	図版 55-4	VF-21 断面	475
図版 50-7	VP-30 完掘	470	図版 55-5	VF-22 検出	475
図版 50-8	VP-30 断面	470	図版 55-6	VF-22 断面	475
図版 51-1	VSF-01 検出	471	図版 55-7	VF-24 断面	475
図版 51-2	VSF-01 断面	471	図版 55-8	VF-25 断面	475
図版 51-3	VSF-02 検出	471	図版 56-1	VF-26 検出	476

図版 56-2	VF-26 断面	476	図版 60-7	TP-18 完掘	480
図版 56-3	VF-27 検出	476	図版 60-8	TP-18 断面	480
図版 56-4	VF-27 断面	476	図版 61-1	TP-19 完掘	481
図版 56-5	VF-28 検出	476	図版 61-2	TP-19 断面	481
図版 56-6	VF-29 断面	476	図版 61-3	TP-20 完掘	481
図版 56-7	VF-30 検出	476	図版 61-4	TP-20 断面	481
図版 56-8	VF-30 断面	476	図版 61-5	TP-15 完掘	481
図版 57-1	TP-01 完掘	477	図版 61-6	TP-15 断面	481
図版 57-2	TP-01 断面	477	図版 61-7	TP-21 完掘	481
図版 57-3	TP-02 完掘	477	図版 61-8	TP-21 断面	481
図版 57-4	TP-02 断面	477	図版 62-1	TP-22 完掘	482
図版 57-5	TP-03 完掘	477	図版 62-2	TP-22・VF-18 断面	482
図版 57-6	TP-03 断面	477	図版 62-3	TP-23 完掘	482
図版 57-7	TP-04 完掘	477	図版 62-4	TP-23 断面	482
図版 57-8	TP-04 断面	477	図版 62-5	TP-24 完掘	482
図版 58-1	TP-05 完掘	478	図版 62-6	TP-24 断面	482
図版 58-2	TP-05 断面	478	図版 62-7	TP-25 完掘	482
図版 58-3	TP-06 完掘	478	図版 62-8	TP-25 断面	482
図版 58-4	TP-07 完掘	478	図版 63-1	TP-26 完掘	483
図版 58-5	TP-07 北側断面	478	図版 63-2	TP-26 断面	483
図版 58-6	TP-07 南側断面	478	図版 63-3	TP-27 完掘	483
図版 58-7	TP-08 完掘	478	図版 63-4	TP-27 断面	483
図版 58-8	TP-08 断面	478	図版 63-5	TP-28 完掘	483
図版 58-9	TP-10 完掘	478	図版 63-6	TP-28 断面	483
図版 59-1	TP-09 完掘	479	図版 63-7	TP-30 完掘	483
図版 59-2	TP-09 断面	479	図版 63-8	TP-30 断面	483
図版 59-3	TP-11 完掘	479	図版 64-1	TP-29 完掘	484
図版 59-4	TP-11 断面	479	図版 64-2	TP-29 断面	484
図版 59-5	TP-14 断面	479	図版 64-3	TP-31 完掘	484
図版 59-6	TP-14 完掘	479	図版 64-4	TP-31 断面	484
図版 59-7	TP-12 完掘	479	図版 64-5	TP-33 完掘	484
図版 59-8	TP-12 断面	479	図版 64-6	TP-33 断面	484
図版 60-1	TP-13 完掘	480	図版 64-7	TP-32 完掘	484
図版 60-2	TP-13 断面	480	図版 64-8	TP-32 断面	484
図版 60-3	TP-16 完掘	480	図版 65-1	TP-34 完掘	485
図版 60-4	TP-16 断面	480	図版 65-2	TP-34 断面	485
図版 60-5	TP-17 完掘	480	図版 65-3	TP-35 完掘	485
図版 60-6	TP-17 断面	480	図版 65-4	TP-35 断面	485

図版 65-5	TP-36 完掘	485	図版 70-1	VPB-11 検出	490
図版 65-6	TP-36 断面	485	図版 70-2	VPB-12 検出	490
図版 65-7	TP-37 完掘	485	図版 70-3	VPB-13 検出	490
図版 65-8	TP-37 断面	485	図版 70-4	VPB-14 検出	490
図版 65-9	TP-38 完掘	485	図版 70-5	VPB-15 検出(1)	490
図版 65-10	TP-38 断面	485	図版 70-6	VPB-15 検出(2)	490
図版 66-1	TP-40 完掘	486	図版 70-7	VPB-15 断面	490
図版 66-2	TP-40 断面	486	図版 70-8	VPB-16 検出	490
図版 66-3	TP-39 完掘	486	図版 71-1	VSB-01 検出	491
図版 66-4	TP-39 断面	486	図版 71-2	VSB-01 2層目検出	491
図版 66-5	TP-41 完掘	486	図版 71-3	VSB-01 棍棒形石器出土状態	491
図版 66-6	TP-41 断面	486	図版 71-4	VSB-02 検出(1)	491
図版 66-7	TP-42 完掘	486	図版 71-5	VSB-02 検出(2)	491
図版 66-8	TP-42 断面	486	図版 71-6	VSB-02 東側続き	491
図版 67-1	TP-43 完掘	487	図版 71-7	VSB-04 検出(VbL2層)	491
図版 67-2	TP-43 断面	487	図版 71-8	VSB-04 検出(VbL3層)	491
図版 67-3	TP-44 完掘	487	図版 72-1	VSB-04 検出(VbL4層)	492
図版 67-4	TP-44 断面	487	図版 72-2	VSB-04 遺物出土状態 (VbM層)	492
図版 67-5	TP-45 完掘	487	図版 72-3	VSB-04 土器出土状態 (VbL層)	492
図版 67-6	TP-45 断面	487	図版 72-4	VSB-04 土器出土状態 (VbL3層)	492
図版 67-7	TP-46 完掘	487	図版 72-5	VSB-05 検出	492
図版 67-8	TP-46 断面	487	図版 72-6	VSB-05 大型礫出土状態	492
図版 68-1	TP-47 完掘	488	図版 72-7	VSB-06 検出	492
図版 68-2	TP-47 断面	488	図版 72-8	VSB-07 検出	492
図版 68-3	TP-48 完掘	488	図版 73-1	VSB-08 検出	493
図版 68-4	TP-48 断面	488	図版 73-2	VSB-09 検出	493
図版 68-5	TP-49 完掘	488	図版 73-3	VFCB-01 検出	493
図版 68-6	TP-49 断面	488	図版 73-4	VFCB-03 検出	493
図版 68-7	TP-50 完掘	488	図版 73-5	VPPB-01 検出	493
図版 68-8	TP-50 断面	488	図版 73-6	VPPB-02 検出	493
図版 69-1	VPB-01 検出	489	図版 73-7	VBB-01 検出	493
図版 69-2	VPB-01 遺物出土状態	489	図版 73-8	VM0-01 断面	493
図版 69-3	VPB-04(右)・05(左)検出	489	図版 74-1	IIIH-01 出土遺物	494
図版 69-4	VPB-06 検出	489	図版 74-2	IIIH-01・IIISB-01・02 出土礫	494
図版 69-5	VPB-07 検出	489			
図版 69-6	VPB-08 検出	489			
図版 69-7	VPB-09 検出	489			
図版 69-8	VPB-10 検出	489			

図版 75	集中区 1 出土遺物	495	図版 104	VSB-04 出土遺物(1)	524
図版 76	集中区 1・2 出土礫	496	図版 105	VSB-04 出土遺物(2)	525
図版 77-1	ⅢAS・ⅢSB 出土遺物	497	図版 106	VSB-04 出土遺物(3)	526
図版 77-2	ⅢSB 出土礫	497	図版 107	VSB-04 出土遺物(4)	527
図版 78	アイヌ文化期包含層 出土金属製品	498	図版 108	VSB-04 出土遺物(5)	528
図版 79	集中区 3・ⅢPB 出土遺物	499	図版 109	VSB-05 出土遺物	529
図版 80-1	ⅢF-12・ⅢSB-08 出土遺物	500	図版 110	VSB-06 出土遺物(1)	530
図版 80-2	Ⅲ層包含層出土土器	500	図版 111-1	VSB-06 出土遺物(2)	531
図版 81	Ⅲ層包含層出土石器	501	図版 111-2	VSB-07~09 出土遺物	531
図版 82	VH-01 出土遺物(1)	502	図版 112-1	VPPB-01・02・VFCB-02 出土遺物	532
図版 83	VH-01 出土遺物(2)	503	図版 112-2	VMO-01 出土遺物	532
図版 84	VH-01 出土遺物(3)	504	図版 113	縄文時代包含層出土土器(1)	533
図版 85	VH-02 出土遺物(1)	505	図版 114	縄文時代包含層出土土器(2)	534
図版 86	VH-02 出土遺物(2)	506	図版 115	縄文時代包含層出土土器(3)	535
図版 87	VH-03 出土遺物	507	図版 116	縄文時代包含層出土土器(4)	536
図版 88	VH-04~06 出土遺物	508	図版 117	縄文時代包含層出土土器(5)	537
図版 89	VH-07・08・10 出土遺物	509	図版 118	縄文時代包含層出土土器(6)	538
図版 90	VH-11・12 出土遺物	510	図版 119	縄文時代包含層出土土器(7)	539
図版 91	VH-13 出土遺物	511	図版 120	縄文時代包含層出土土器(8)	540
図版 92	VH-14~16 出土遺物	512	図版 121	縄文時代包含層出土土器(9)	541
図版 93	VGP 出土遺物(1)	513	図版 122	縄文時代包含層出土土器(10)	542
図版 94	VGP 出土遺物(2)	514	図版 123	縄文時代包含層出土土器(11) 及び土製品	543
図版 95	VGP 出土遺物(3)	515	図版 124	縄文時代包含層出土剥片石器(1)	544
図版 96-1	VP 出土遺物	516	図版 125	縄文時代包含層出土剥片石器(2)	545
図版 96-2	VSF・VF 出土遺物	516	図版 126	縄文時代包含層出土剥片石器(3)	546
図版 96-3	TP 出土遺物	516	図版 127	縄文時代包含層出土剥片石器(4)	547
図版 97	VPB 出土遺物(1)	517	図版 128	縄文時代包含層出土剥片石器(5)	548
図版 98	VPB 出土遺物(2)	518	図版 129	縄文時代包含層出土礫石器(1)	549
図版 99	VPB 出土遺物(3)	519	図版 130	縄文時代包含層出土礫石器(2)	550
図版 100	VPB 出土遺物(4)	520	図版 131	縄文時代包含層出土礫石器(3)	551
図版 101	VSB-01 出土遺物(1)	521	図版 132	縄文時代包含層出土礫石器(4)	552
図版 102	VSB-01 出土遺物(2)	522	図版 133	縄文時代包含層出土礫石器(5)	553
図版 103	VSB-02 出土遺物	523	図版 134	縄文時代包含層出土礫石器(6)	554

第 I 章 調査の概要

第 1 節 調査要項と体制

1. 調査要項

事業名：厚幌ダム建設事業 埋蔵文化財発掘調査 その 2

委託者：北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部

受託者：厚真町教育委員会

遺跡名：シヨロマ 1 遺跡（J-13-81）

調査面積：8,933 m²

所在地：北海道勇払郡厚真町字幌内 93-1・2・3 ほか

受託期間：平成 25 年 4 月 10 日～平成 26 年 3 月 25 日

発掘期間：平成 25 年 5 月 14 日～平成 25 年 10 月 31 日

整理期間：平成 25 年 11 月 1 日～平成 26 年 3 月 20 日

2. 調査体制

厚真町教育委員会 教育長 兵頭利彦

生涯学習課社会教育グループ

参事 長谷川栄治 主幹 上田敦子 主査 乾 哲也（学芸員） 主任 奈良智法（学芸員）

委託担当者 宮塚義人（宮塚文化財研究所）

嘱託職員

調査員 岩橋由久 荻野幸男（整理業務）

調査補助員 宮崎美奈子 松井 昭 服部一雄

事務員 浅野愛子 脇田幹王 宮崎和幸

臨時職員 測量技能作業員 畑嶋朝江（整理業務：写図工）干場崇弘 松井佳祐 渡辺博道

整備技能作業員 松本 稔 佐伯憲吾 畑島雄樹

発掘作業員 76 名 整理作業員 53 名 （奈良）

第 2 節 調査に至る経緯

1. 厚幌ダム建設事業

町内を縦貫する厚真川中・下流域には約 3,000ha もの水田地帯が広がっている。このため、春の灌漑用水の確保は勿論のこと、融雪や豪雨による洪水への治水対策が開拓期以来の課題とされていた。

昭和 46（1971）年には、現河口より上流 38km 地点に農業用ダムである「厚真ダム」が完成した。しかし、このダムは洪水調整機能が不十分で、昭和 48・50・56 年にも洪水が発生した。近年においては平成 12 年春の融雪期と平成 13 年秋に、家屋や農地に被害を及ぼす洪水、平成 18・21・23 年にも一部が冠水する事態が発生している。また昭和 59・60・63 年には深刻な水不足にも見舞われており、平成 19 年は幼穂形成期の水不足により深水灌漑が行えなかったため低温障害を受け、作況指数が極端に低い年となった。平成 26 年春にも渇水となり、水田への引水ができず作付を断念する農家もあり、厚真町の基幹産業である農業、豊かな穀倉地帯を築く

うえで、治水や農業灌漑などを目的とする新たなダム建設は町民の悲願として陳情されてきた。さらには市街地への人口集中の進行による住宅街や苫小牧東港入港船舶への水道水の需要が急増し、小規模河川からの取水可能量は限界に達していることから、新たな上水道水源確保が急務となっている。

これらの状況を踏まえた治水等の抜本的な改善策として、昭和52年に北海道室蘭土木現業所（現北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部、以下、室建管）により厚幌ダム建設事業の予備調査が着手され、昭和61年に実施設計である「厚真川総合開発事業計画調査」の着手が決まった。平成7（1995）年に北海道と厚真町との間で「厚真川総合開発事業厚幌ダム建設工事に関する基本協定」が結ばれ、洪水調整、灌漑用水、水道水の確保、流水の正常な機能維持の多目的ダムとして「厚幌ダム」の建設着工が決定された。また同年には地元厚真町内に厚幌ダム建設事務所（以下、ダム事務所）が開設され、その後、環境アセスメント等も実施されている。近年ではダム事業に関連して、道道切替工事や町内各地区の農業経営体育成基盤整備事業、農業水路再編対策事業（厚幌導水路建設）が展開され、営農の効率化が促進されている。厚幌ダムの本格着工として、平成14年度からの湛水区域内用地買収とともに、一般道道上幌内早来停車場線の切替工事に着手し、北進平取線としてむかわ町穂別まで開通の計画で、平成24年度からは付随する町道や林道の切替工事も着手されている。

厚幌ダム本体は31.4kmの地点に堤体を建設する計画で、規模は堤体長516m、高さ47.2mのダムである。貯水は常時湛水面標高85.4m、最深湛水面標高88.1mであり、総貯水量は47,400千 m^3 、現在の厚真ダムのおおよそ4.7倍の貯水量となり、多方面にわたって絶大な効果波及がある。平成26年10月にダム堤体敷きの掘削が始まり本体着工に至っている。

2. 発掘調査までの経緯

厚幌ダム建設事業の本格化を踏まえて平成12年7月6日にダム事務所より、ダム事業全体に係わる埋蔵文化財事前協議書（室土厚幌第158号）が厚真町教育委員会（以下、町教委）を経て北海道教育委員会（以下、道教委）へ提出された。事前協議区域は常時湛水面標高88.1m以下の区域と道道切替路線や湛水区域外の残土置き場など合計約315,700 m^2 に及ぶ。厚幌ダム関連の埋蔵文化財発掘調査について道教委と町教委で協議した結果、試掘調査までは道教委が行い、発掘調査は町教委と北海道室蘭土木現業所（現室蘭建設管理部）で委託契約を締結し、町教委が実施することとなった。発掘調査は平成14年度の厚幌1遺跡から始まり、平成28年秋までの継続予定で、整理業務も含めた事業完了は平成29年度の予定である。

湛水地域内については、平成13年10月に所在確認調査が行われ、周知の遺跡（オニキシベ1遺跡、上幌内1遺跡）を含め16カ所、面積235,500 m^2 の要試掘調査の回答がされた（平成13年11月16日付け教文第4532号）。以後、追加箇所や範囲拡張もあるが平成19年度までに8回、18地点の試掘調査が実施され、14遺跡、約143,000 m^2 の要発掘・要遺構確認調査地点が確認された。しかし、これまでの発掘調査成果から河岸段丘の低位面にも埋蔵文化財包蔵地が広がること等、この地区における遺跡の立地パターンが判明してきており、建設工事中の不時発見を避けるため、新たな視点での再試掘調査の必要性が町教委やダム事務所等から望まれていた。これを受け道教委は平成21年5月に湛水地域内の所在確認踏査を行い、要試掘調査地点10カ所を回答した（平成21年6月11日付け教文第928号）。このうち8地点については

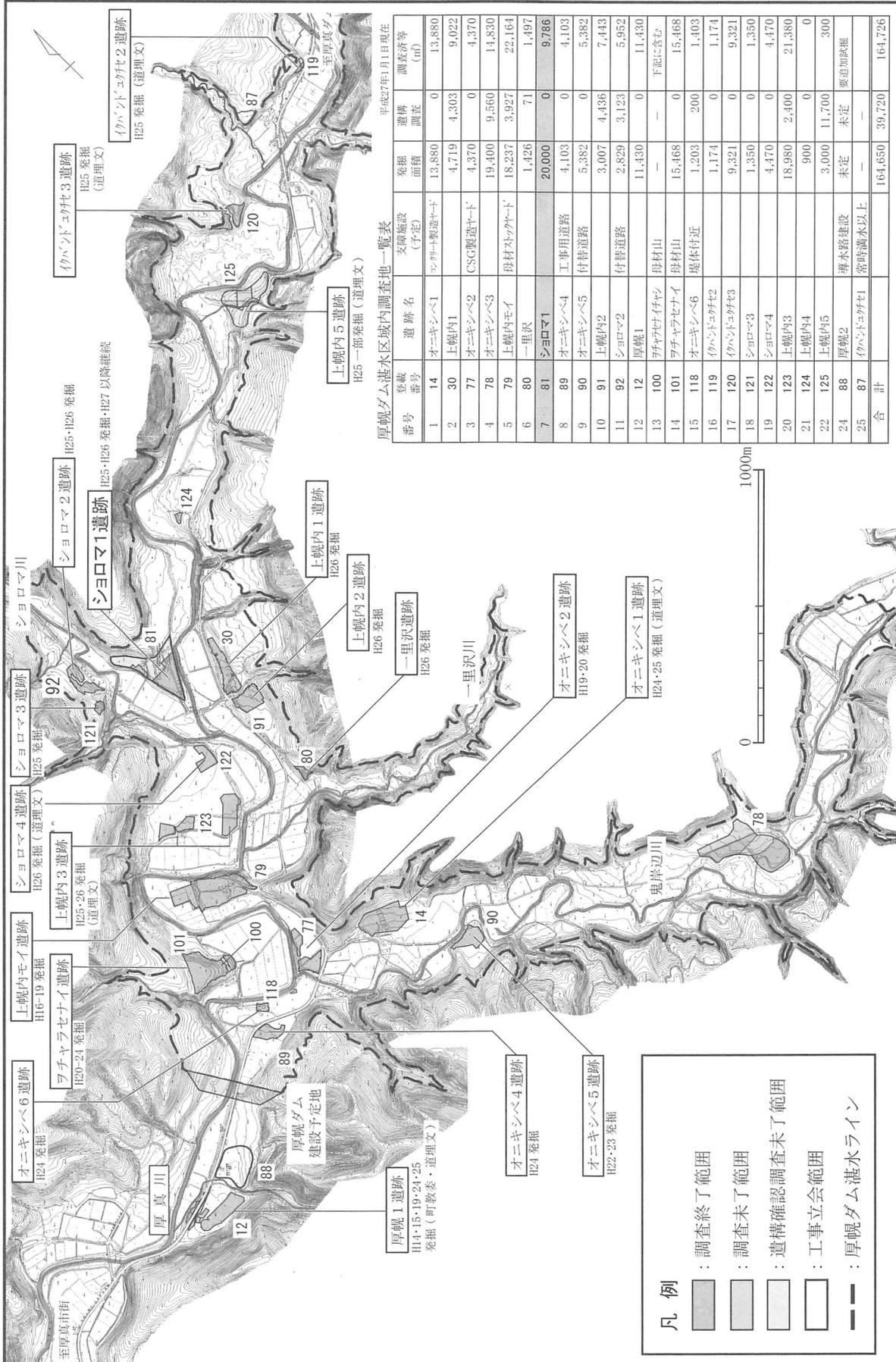


図 I-1 厚幌ダム建設事業関連埋蔵文化財包蔵地位置図

7・8月に試掘踏査を実施し6ヵ所の包蔵地が発見された(平成21年9月10日付け教文ス第1940号)。更に平成21年12月にも試掘調査が実施され新たに1ヵ所が追加された(平成22年1月5日付け教文ス第3145号)。平成27年1月現在の要発掘調査地点は21ヵ所に及び要発掘面積164,650㎡、要遺構確認調査39,720㎡で合計204,370㎡となった。平成27年1月現在で発掘調査終了面積が164,726㎡で約80%の進捗率となっている(図I-1)。

ショロマ1遺跡は、平成13年10月に道教委によるA調査で協議地No.7として48,810㎡の「要試掘調査」と回答された(平成13年11月16日付教文第4532号)。試掘調査は平成14年6月と平成15年10月の2回にわたって実施され、1回目の試掘調査で縄文時代前期や後期の遺物の他、竪穴式住居跡が確認され「ショロマ1遺跡」として平成15年1月に掲載された。2回にわたる試掘調査で67地点のトレンチを掘開した結果、遺物が出土したショロマ川との合流点に突出した先端部とショロマ川に面する西側、厚真川本流沿い東側の20,000㎡が埋蔵文化財包蔵地として要発掘調査回答がされた(平成15年11月14日付教文第4692号)(図I-2)。
(乾)

第3節 調査の方法

1. 発掘区の設定

ショロマ1遺跡の発掘調査範囲は、ダム水没地域内であることから遺跡の全面が調査対象となっており、微地形等で若干の変更が生じるものの、道教委の試掘調査回答の「要発掘調査範囲」の20,000㎡に基づいている。平成25年度の発掘区は、厚真川とショロマ川の合流点に面する遺跡の南端部から北部への河岸段丘面の9,000㎡で、残る11,000㎡を2ヵ年で調査する全体計画を立案した。5月～10月までの6ヵ月間発掘調査終了面積は8,933㎡である。南側の段丘先端部付近は低位段丘面のT₁面を含み、東側は厚真川本流の浸食崖までとし、河川浸食攻撃面付近の危険箇所は1～2mのクリアランスを設けた。北側は段丘面及び要発掘調査範囲が続くもののADラインとAHラインまでとし、西側は道教委の回答に従い段丘崖斜面中位までを調査区とした。平成25年度の調査区全体形には南を頂点とする二等辺三角形を呈する。調査対象となる遺物包含層は、試掘調査時に上層黒色土Ⅲ層の杭跡が確認されていたことから樽前cテフラより上層のⅢ層黒色土層と下層黒色土のV層である。

2. グリッド設定

平成25年度の発掘調査計画は、本遺跡のほかショロマ2・3遺跡の3ヵ所の予定があったため、当初のグリッド設定はこれら3遺跡全てを網羅する予定であった。しかし、本遺跡との距離が遺跡の中心点間で約280m離れていることから、本遺跡のみでのグリッド網を設定した。但し、いずれのグリッド網も公共座標に準ずる設定であるため、グリッド方眼は一致している。

グリッド網は道教委回答の発掘調査区全域を網羅できる北東側に図上のA-0杭(日本平面直角座標系第XⅡ系 X=-135,655.0 Y=-20,005.0)に設定し、南北300m×東西270mの範囲を5m四方の方眼で区分した。各グリッドの起点も北東角を原点とした。

グリッド名称は、南北のX軸をA・B…Y・Z・AA・AB…のアルファベット列で、東西のY軸ラインを1・2・3…のアラビア数字列とした。なお、V層調査における剥片類と礫の出土位置記録の際に、5m四方のグリッドを2.5m四方に4分割した中グリッドを設定し、報告書の遺構図中に位置関係を示すため5mグリッドを1m四方に25分割した小グリッドを定義した(図I-2・3)。

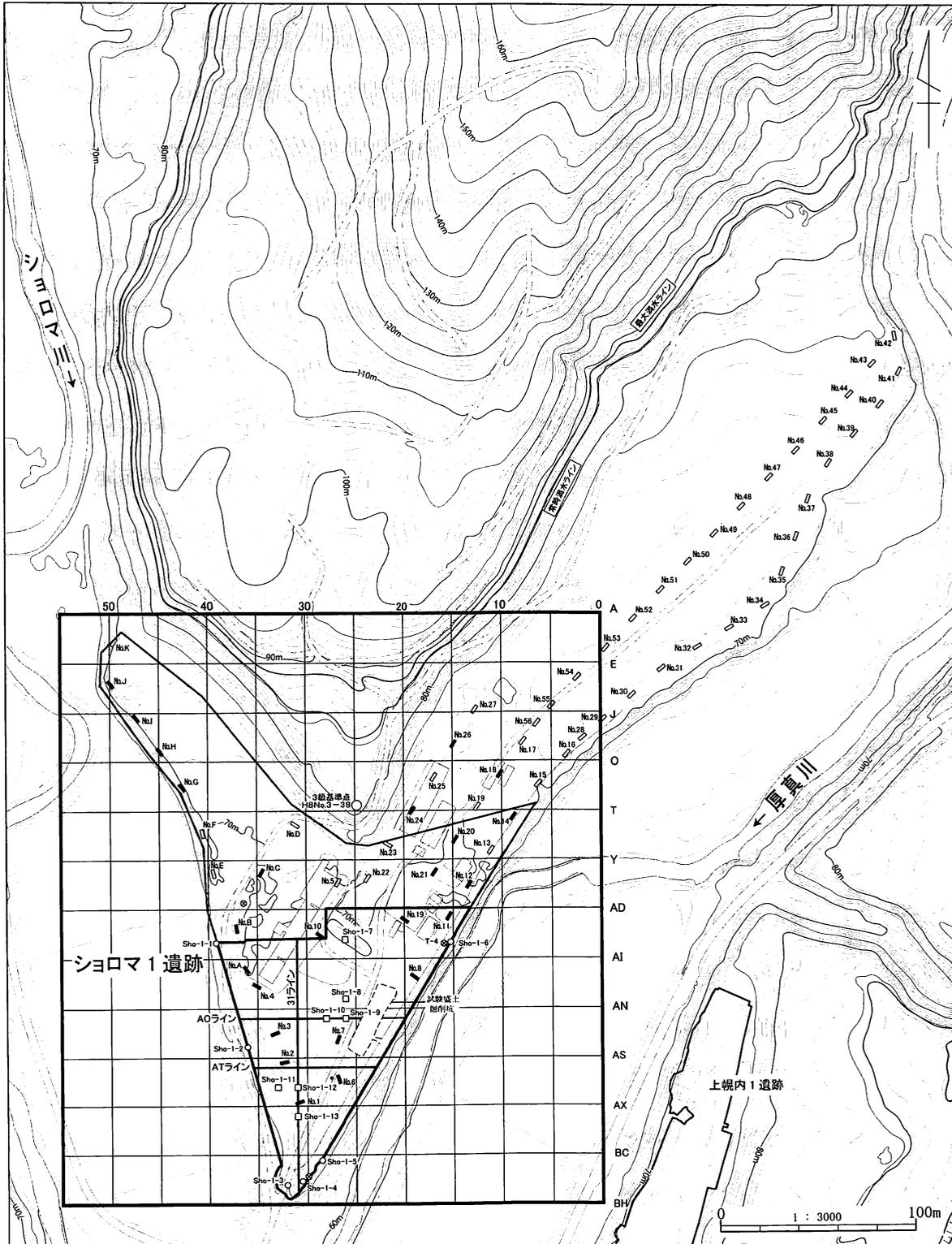
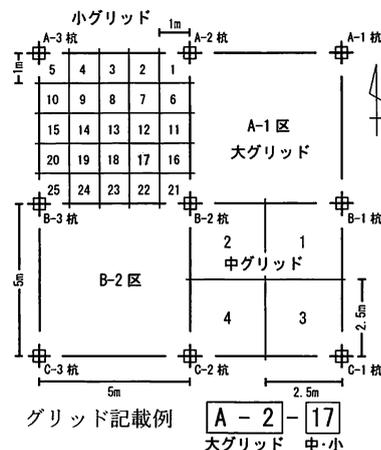


図 I-2 グリッド設定網及び試掘坑・メインセクション位置図

現地での測量は、厚幌ダム建設事業の3級基準点を与点とするトータルステーション4級基準点測量とし、発掘調査区境界杭及びグリッド杭設置を(有)幅田測量設計が行った。現地におけるZ座標もグリッド杭設定の際の基準杭や遺物取り上げ時の機械点杭に移設している。

表 I-1 グリッド設定関係杭数値一覧表

杭名	X座標	Y座標	Z座標
三級基準点 H8No.3-38	-135747.043	-20123.588	-
三級基準点 H8No.3-39	-135963.618	-20253.909	-
三級基準点 H8No.3-40	-136044.378	-20055.726	-
T-3	-135935.524	-20149.678	68.209m
T-4	-135817.050	-20080.156	69.362m
T-5	-135796.408	-20181.191	69.954m
Sho1-7(AG-26)	-135815.000	-20130.000	-
Sho1-8(AM-26)	-135845.000	-20130.000	-
Sho1-9(AO-26)	-135855.000	-20130.000	-
Sho1-10(AO-28)	-135855.000	-20140.000	-
Sho1-11(AV-33)	-135890.000	-20165.000	-
Sho1-12(AV-31)	-135890.000	-20155.000	-
Sho1-13(AV-31)	-135905.000	-20155.000	-
A-0(グリッド網基点)	-135655.000	-20005.000	-



※1 本書の遺構・遺物一覧表は原則、大グリッドを表記している。
 ※2 中グリッドはV層出土のフレイク・チップと礫の取り上げの際に用いた。
 ※3 小グリッドは報告書作成にあたり、遺構位置を示すために図中のみに用いた。

図 I-3 グリッド区分図

3. 包含層及び遺構調査の方法

調査の準備段階として、発掘調査前年度末に調査区内及び周辺の伐採作業を実施している。調査区内の南西から北東への進入路を境界として東西に区分し、4月下旬から調査員立会のもと調査区の約8割の範囲を占める西側をバックホーにより樹根を残しながら表土層、攪乱層、樽前bテフラの除去を行った。この作業中に調査区西側の斜面が既に段丘礫層まで削平されていることが判明した。発掘調査開始日の5月14日より作業員を投入し、残存した樹根の枝根の処理と攪乱層や火山灰の人力除去作業を行い、上層黒色土のⅢ層上面などの調査着手面を検出し、同時にグリッド杭打設を測量技能作業員が中心となって行った。この時点で、現地表面では確認できなかった縄文時代の大型の住居跡（VH-01・02・07）などの窪みを検出している。また、この面において削平範囲の平面記録を行い、調査区内の地形図作成のため1mピッチでZ座標単点を記録し、等高線図作成ソフトで処理した地形図を作成した。

包含層調査は調査区を南北に縦断する31ライン、東西に横断するA0・ATラインに調査終了面のⅦ層まで達するトレンチを掘開し、遺跡内の堆積状態の確認・実測を行っている。上層黒色土Ⅲa層及びⅢb層の残存範囲を移植ゴテで厚さ1~2cmでの掘削調査を行った。Ⅲc層は縄文時代晩期や続縄文文化期の遺物が確認できなかったことからジョレンで掘削し、樽前cテフラⅣ層上面を検出し、調査を完了した。樽前cテフラの除去は、削平範囲で検出しているV層黒色土と隣接する部分を人力で除去し、プライマリーな状態で残存している範囲はバックホーと人力併用で除去作業を行った。調査区西側のV層調査は、東側調査区にかかる住居跡周辺以外を着手し、主に南側先端部のTピット群と西側のショロマ川に面する部分の調査を優先した。包含層の掘削調査は、概ね5cmを目安に1回の掘削深度とし、可能な限り分層した層位面を揃えて調査している。調査区西側の包含層調査を終える直前に東側の表土や火山灰、進入路の除去・切替作業を行った。厚真川本流に面する東側調査区も西側調査区を同じ調査工程を経て、V層上面に至ってから大型住居跡などの調査を着手した。なお、東側調査区では段丘先端部の低位面の調査も行っている。

遺構調査は、Ⅲ層については包含層掘削中に焼骨片や灰層、土器片や礫などを一定の範囲で

集中的に検出確認した際に、堆積状態観察のためのベルトを設定してから、範囲確定の精査を行った。これにより遺構等の被覆土の層厚の記録も可能であり、層位からの帰属時期の推定条件となった。土坑や杭穴などの掘り込み等を伴う遺構については、Ⅲc層～Ⅳ層（樽前cテフラ）上面を平面形の確認面とし、遺物包含層の主体であるⅢb層調査終了後にこれらの遺構検出作業を行った。

下層黒色土Ⅴ層の遺構調査では住居跡は包含層上面にて窪地として確認でき、土層観察のための十字トレンチを掘開し、床面及び壁面の立ち上がりや掘り上げ土の範囲及び堆積状態の確認作業を行った。また土坑やTピットなどはⅥ層上面を確認面とし、ジョレンで遺構平面形の検出確認作業を行った。記録図化は、完掘後に光波式トータルステーションを用いて平面形及びエレベーションを記録し、堆積状態については半截状態で調査員が分層と土層注記を行い、測量技能作業員が堆積状態の実測を行った。遺物出土状態等の微細図については、土器片や礫などの輪郭をトータルステーションで記録し、縮尺1/5や1/10でプリントした輪郭図を下地に測量技能作業員が作成した。これらの図化は(株)シン技術コンサルの「遺跡管理システム」を用いている。各調査経過の写真記録は調査員が35mm一眼レフデジタルカメラで撮影した。

出土遺物は、Ⅲ層については全点、Ⅴ層は土器と石器に遺物番号を付与した。取り上げについては調査員による層位確認のうえ、トータルステーションによる3次元座標のデータ取得を行うと同時に、手簿（日付・グリッド・層位・遺物名等）の記載も行い、データ入力ミスの補完を行った。Ⅴ層の礫及びフレイク・チップに関してはトータルステーションによる位置記録を行わず、層位を記録しながら2.5m四方の中グリッドもしくは遺構単位で取り上げている。

Ⅲ層及びⅤ層の礫集中や焼土については、調査時に各担当者が土壌サンプルを回収し、発掘現場隣接地に設置したビニールハウス内で乾燥した後にはフローテーション作業をで行っている。なお、フローテーションや遺物水洗、調査区内の散水等で用いる作業用水は、井戸を掘削し独自に確保している。

4. 整理作業

出土遺物の一次整理は、発掘調査段階から遺物水洗、調査区遺構名や層位、種別等の台帳確認作業、注記作業を行った。11月からの整理業務は本郷地区と軽舞地区の整理事務所に分かれて行い、本郷事務所では、遺構図作成とⅢ層出土遺物、Ⅴ層の礫石器・礫の整理、軽舞事務所では写真図版作成とⅤ層出土土器、剥片石器、フローテーション試料の選別を主に行った。

遺構図等の実測図編集やトレース図作成については、パソコンでのデジタル編集(0s Windows Adobe IllustratorCS6)で行った。出土遺物の写真撮影は写真事務所クリークに委託し、パソコン(0s Windows Adobe PhotoshopCS6)での背景の切抜き作業等を行っている。報告書掲載図や写真図版、一覧表の編集・版組みも上記のソフトウェアで行い、本文のWord文書と合わせて印刷所へデジタル入稿した。

遺物の収納保管は、報告書掲載のものは図版毎に行い、それ以外のは分類および調査区遺構毎にコンテナに収納し、軽舞遺跡調査整理事務所(旧軽舞小学校)に収蔵している。(乾)

第4節 遺物の分類

1. 土器

縄文時代早期から擦文文化期までの土器をローマ数字で群別し、アルファベットとアラビア数字で類別した。

第I群土器 縄文時代早期に属する土器。

- A類 貝殻文・条痕文土器。
- B類 早期後半の東釧路式土器群。
 - B1類 東釧路Ⅱ式に相当するもの。
 - B2類 東釧路Ⅲ式、コッタロ式に相当するもの。
 - B3類 中茶路式に相当するもの。
 - B4類 東釧路Ⅳ式に相当するもの。

第II群土器 縄文時代前期に属する土器。

- A類 縄文尖底・丸底土器群。
 - A1類 美沢3式、網文式土器に相当するもの。
 - A2類 トビノ式、静内中野式に相当するもの。
- B類 円筒下層式系土器群。
 - B1類 円筒下層a式ないしはb式に相当するもの。
 - B2類 円筒下層c式ないしはd式に相当するもの。
所謂フゴツペ貝塚式土器も含める。
 - B3類 植苗式ないしは大麻Ⅴ式に相当するもの。
便宜的に宮本式の一群である横走沈線文上に刺突文を施す土器も含める。
 - B4類 シュブノツナイ式に相当するもの。
 - B5類 胎土に蛇紋岩を含む土器。

第III群土器 縄文時代中期に属する土器。

- A類 中期前半の円筒上層式系土器群。
 - A1類 円筒上層a式またはb式に相当するもの。
 - A2類 サイベ沢Ⅵ・Ⅶa・b式、厚真1式に相当するもの。
- B類 中期後半から末葉の土器群。
 - B1類 萩ヶ岡1・2式、天神山式に相当するもの。
 - B2類 柏木川式に相当するもの。
 - B3類 北筒式に相当するもの。

第IV群土器 縄文時代後期に属する土器。

- A類 後期初頭の土器群。
 - A1類 a種 余市式古段階。円形刺突文の有無に関わらず、貼付帯や地文縄文が多段の羽状構成の土器。
 - A1類 b種 IV群A1類a土器に併存する沈線文系の土器。非在地系。
 - A1類 c種 天祐寺式に相当するもの。IV群A1類a種土器に併存する。非在地系。
 - A2類 余市式新段階。タブコブ式古段階。階段状の器表面や斜め下方からの刺突文や縄端圧痕文が施される土器。
- B類 後期前葉の土器群。
 - B1類 タブコブ式新段階。縦位の棒状貼付帯縄線文または地文縄文のみが施されているもの。
 - B2類 手稲砂山式に相当するもの。
 - B3類 入江式、大津7群、白坂3式土器に相当するもの。
- C類 後期中葉の土器群。
 - C1類 ウサクマイC式に相当するもの。
 - C2類 手稲式に相当するもの。
 - C3類 ホッケマ式に相当するもの。
- D類 後期後葉の土器群。
 - D1類 堂林式、御殿山式に相当するもの。

第V群 縄文時代晩期に属する土器群。

- A類 晩期前葉の土器群。
 - A1類 爪形文や刺突文を施すもの。
 - A2類 大洞B・BC式土器に相当するもの。
- B類 晩期中葉の土器群。
 - B1類 縄線文や円弧文を施すもの。美々3式、

ママチ I・II 群に相当するもの。

B2 類 大洞 C1・C2 式土器に相当するもの。

C 類 晩期後葉の土器群。

C1 類 ママチ III・IV・V 群に相当するもの。

C2 類 大洞 A・A' 式土器に相当するもの。

第 VI 群土器 続縄文文化期に属する土器群。

A1 類 砂沢式・二枚橋式に並存する在地の土器。

a: 札幌市 H37 遺跡 丘珠空港地点相当のもの。

b: いわゆる汐見式相当。縄線文が施され、地文に帯縄文発達以前の土器。

A2 類 砂沢式・二枚橋式に並存する搬入系土器。

a: 砂沢式土器。 b: 二枚橋式土器。

第 VII 群土器 擦文文化期に属する土器群。

A 北大 III 式相当

B 擦文土器（甕形）

B1: 擦文「前期」に相当するもの。

主として胴部上半に横走沈線のみを施す一群。

B1a: 軽い段により頸部を形成した無文もしくは数条の横走沈線を廻らすもの。

B1b: 多条の横走沈線を施すものもの。

B2: 擦文「中期」に相当するもの。

主として口縁部文様帯が未形成もしくは単調な刻みのみの一群。

B2a: 横走沈線を地文とし、刻文を重ねるもの。

B2b: 刻文のみのもの。

B2c: 無文のもの。

B3: 擦文「後期」に相当するもの。

主として口縁部文様帯を形成した一群。

B3a: 横走沈線を地文とするもの。

B3b: 綾杉文主体のもの。

B3c: 斜位、あるいは縦位の沈線で鋸歯状文、「X」字状文等を施すもの。

B3d: 胴部文様帯を 3 段以上に区画した上で VII B3a~c の文様要素を施したもの。

B1 類 アヨロ 2 類土器並行の土器。

a: アヨロ 2 類 a 相当の土器。

b: アヨロ 2 類 b 相当の土器。

B2 類 アヨロ 3 類相当の土器。

C1 類 江別太 1~3 式土器。

C2 類 後北 B 式土器。

C3 類 後北 C₁ 式土器。

C4 類 後北 C₂-D 式土器。

D1 類 宇津内 II a 式土器。

D2 類 宇津内 II b 式土器。

E1 類 北大 I 式土器。

E2 類 北大 II 式土器。

B3e: 無文のもの。

B3f: 口縁部文様帯に数条の沈線を廻らせたもの。

C 擦文土器（坏形）

C1: 台部を有さないもの。

C2: 平底の低い台部を有するもの。

C3: 平底の高台部を有するもの。

C4: 上げ底の高台部を有するもの。

C4a: 口縁部に沈線を有するもの。

C4b: 体部に刻文を施すもの。

D 擦文土器（鉢形・壺形）

E ロクロ成形土器

E1: 甕形

E2: 壺形

E3: 鉢形

E4: 坏形

E4a: 軟質で内面黒色処理を施さないもの。

E4b: 軟質で内面黒色処理を施すもの。

E4c: 硬質で酸化炎焼成のもの。

E4d: 硬質で還元炎焼成のもの。

2. 剥片石器

ポイント類

長軸4cmを境に石鏃と石槍・石銛とを区分した。

A「石鏃」

- 1 細身で薄手のもの。
- 2 無茎のもの。
 - a 基部が平ら、もしくは凹型のもの。
 - b 基部が円形もしくは三角形のもの。
- 3 明瞭な茎部をもつもの。
 - ① A3のうち特に小型で基部が尖るもの。
- 4 不明瞭な茎部を持つもの。

B「石槍」・「石銛」

- 1 明瞭な茎部をもつもの。
 - a 茎部端が平ら。
 - ① 茎端部に突起がない。
 - ② 茎端部に突起がある。
 - b 茎部端が平らでない。
- 2 不明瞭な茎部をもつもの。

C 欠損品・未製品

石 錐

- A 剥片の一部に機能部を作出したもの。
- B 柄と機能部の区別が明瞭なもの。
- C 柄と機能部の区別が不明瞭で幅広なもの。
- D 柄と機能部の区別が不明瞭で幅広でないもの。
 - 1 平面形が棒状のもの。
 - 2 平面形が紡錘形のもの。
- E 他石器からの転用品と思われるもの。

ナイフ・スクレイパー類

縁辺に刃部が作出されたもののうち、素材の1辺に対し半分以上の範囲で刃部が形成されているもの。

A「つまみ付きナイフ」

- 1 つまみ部軸線と体部軸線の角度が30°未満のもの「縦型」。
- 2 つまみ部軸線と体部軸線の角度が30°～60°未満「中間型」。
- 3 つまみ部軸線と体部軸線の角度が60°以上「横型」

「縦型」「中間型」「横型」はそれぞれ以下の分類に分けられる。

a 2つの縁辺で構成

- ① 左右の縁辺がほぼ均等。
- ② 右側縁が長い。
- ③ 左側縁が長い

b 3つの縁辺で構成。

- ① 左右の縁辺がほぼ均等。
- ② 右側縁が長い。
- ③ 左側縁が長い。

4 素材剥片につまみを形成するもの。

5 つまみ付きナイフに分類されるが欠損のあるもの。

B 素材端部に刃部が形成されているもの。

1 円形を呈し、周縁に刃部が形成されるもの。「ラウンド・スクレイパー」

2 主に縦長で下端部に刃部が形成されるもの。「エンド・スクレイパー」

C 素材端部に刃部が形成されていないもの。

1 素材の長軸の側縁に刃部を形成する「サイド・スクレイパー」。

2 湾入する刃部を持つもの「コンケイブ・スクレイパー」。

3「挟入石器」

D 欠損品

両面調整石器

大型、木葉形で刃部調整が見られないもの。

RF・UF

一側縁の長さの半分以下の調整痕をもつものをRF、使用による細かな剥離が見られるものをUFとした。

ピエス・エスキーユ

黒曜石製で両極に剪断面をもつもの。

石核

剥片を剥離した母核。

火打石

メノウ、チャート、石英(水晶)を石材とし縁辺部等に微細剥離が観察できるもの。

3. 礫石器

石 斧

A 磨製石斧

B 未製品 1：剥離・敲打により完成品近くまで整形されているもの。

C 未製品 2：礫皮を残し、擦り切り・剥離・敲打により素材礫形状が不明瞭なもの。

D 未製品 3：剥離・敲打が部分的に施され、素材礫の形状を大きく残すもの。

たたき石

敲打痕が面状に形成されるもので、素材礫の形状で細分類を行った。

I 平面形が縦長のもの。

A 扁平のもの。

- 1 素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。
- 2 素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。
- 3 1・2 が並存するもの。

B 棒状または角柱状のもの。

- 1 素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの
- 2 素材礫の側縁の稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。
- 3 1・2 が並存するもの。

II 平面形が方形～不整形で幅広のもの。

A 扁平のもの。

- 1 素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。
- 2 素材礫の側縁の稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。
- 3 1・2 が並存するもの。

B 棒状または角柱状のもの。

- 1 素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。
- 2 素材礫の側縁の稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。
- 3 1・2 が並存するもの。

III 平面形が円～楕円形のもの。

A 扁平のもの。

B 球形または棒状のもの。

IV 破片で上記に分類不可のもの。

V すり石と複合するもの。

すり石

A 断面三角形の礫の稜に擦り面のあるもの。

B 断面楕円形の礫の側縁に擦り面のあるもの。

C 扁平な礫の側縁に擦り面があるもの。

D 北海道式石冠。

E その他。

F たたき石と併用するもの。

砥 石

使用面に一定方向の擦痕等を有するもの。

滑沢面のある礫

素材礫の形状を変えず、平滑な面を有するもの。

線條痕はほとんど観察できない。

線條痕のある礫

肉眼観察において、明瞭な線條痕があるもの。

石皿・台石

(便宜的に) 素材礫の重量が 900 g 以上で、礫の平坦面に方向が不揃いな擦痕や敲打痕があるもの。

加工痕のある礫

何らかの目的で、素材礫の一部に剥離が施されるもので、剥離加圧(打点)部分に潰打面が形成されず、側面観が稜線状となるもの。

第5節 調査結果の概要

1. アイヌ文化期

今回調査したアイヌ文化期では黒色土を2~3cm被覆している遺構及び遺物を検出した。検出層位は概ねⅢb層中位となり、中世アイヌ文化期に帰属すると考えられる。調査区は樽前bテフラが全体に被覆しておらず、部分的に削平を受けている。特に28ラインから西側とAZラインから南側はⅢ層自体の残りが悪く、遺構、遺物においても大部分が遺失していると思われる。これら削平された範囲を踏まえても、南、西側には殆ど遺構、遺物は検出されず、厚真川寄りの台地中央部分に主な分布を示していると言える。

遺構は少ないが、平地式住居跡1軒、集中区2ヵ所の他、灰集中、焼土、杭列跡、道跡、礫集中を検出している。特に住居跡については、台地のほぼ中央より検出していることから、神窓の重要性を考慮すると、同地域の上幌内モイ遺跡(厚真町 2007a・2009a)とやや異なる空間利用といえる。遺物については集中区1から内耳鉄鍋(一文字湯口)がほぼ1個体出土し、形態から中世段階の資料であると思われる。

2. 擦文文化期

主にⅢb層下位から検出する遺構、遺物で全体的な出土量は少ない。主体的な分布は南側斜面に見られ、集中区3や焼土、獣骨集中、土器集中、礫集中が密な検出状態を示している。その他、調査区北側のアイヌ文化期住居跡周辺で、擦文文化期と思われる土器集中、焼土2ヵ所を検出している。擦文文化期の住居跡に関しては、これまでの厚真川上流域における発掘調査では、同時期の資料が多く出土しているが、明確な住居跡は検出されておらず、集落構造は依然不明瞭な点が多い。

擦文土器については、口縁部が直線状に外傾して立ち上がり、刻み、鋸歯状文で複段のモチーフが多く、後期後半に属すると思われる。

3. 縄文時代

縄文時代は主に樽前cテフラの下層から遺構、遺物を検出しており、一部、樽前cテフラの上層から縄文時代晩期の土器が少量出土している。

表土、火山灰除去の段階で堅穴状の窪み及び、試験土壌掘削の試掘坑断面から堅穴住居跡断面が認められており、当初から内容の濃い遺跡であることが予想されていた。

樽前cテフラを除去した段階では、南側道路部分に使用されていた地点以外削平の影響は受けていない。遺構は堅穴式住居跡16軒、うち12軒が縄文時代前期後半、4軒が縄文時代後期初頭である。前期住居跡としたうち2軒(VH-01・02)は、長軸が10mを越す大型住居跡である。後期初頭の住居跡については、石組炉を伴う、浅い堅穴で壁面は不明瞭な立ち上がりが多い。うち1軒は縄文時代前期住居跡の窪みを利用して石組炉を形成しているものであった(VH-16)。その他の遺構は土坑墓、土坑、焼土、Tピット、土器集中、礫集中、獣骨集中を検出している。遺物は樽前cテフラ上層から縄文晩期の土器が少量、下層から縄文時代早期後葉~後期前葉までの土器が出土している。

特筆すべき点は、大型住居跡(VH-02)の床面から円筒下層土器d式が1個体出土し、明確な構築時期を確認できた。また、VH-02の窪みには中期末から後期初頭に帰属すると考えられる礫集中を検出している(VSB-01)。この集中は板状礫を主体にしているが、中から棍棒形

石器が2点出土している。また整理作業の結果、包含層からも未成品を含め2点の合計4点出土している。町内では初例となり、胆振管内で9点、道内で26点となる希少な石器である。その他、空知管内で出土例が多い丸のみ形石斧も出土し、富良野盆地系土器と合わせて同地域との交流を示唆する遺物が認められる。

遺構、遺物はT₂面に主な分布をしているが、南側段丘崖斜面に廃棄場と考えられる礫集中4が見つかり、Va層からVI層にかけて8,668点の遺物が出土し、出土遺物全体の15%にあたる。こうした遺物出土状態から、北側は比較的希薄になる様相を呈している。今後、残存区域発掘調査を実施することにより、集落全体の構造が明らかとなってくると思われる。(奈良)

表I-2 ショロマ1遺跡検出遺構等一覧表

項目	III層		V層	項目	III層		V層
	続縄・擦文・アイヌ文化期		縄文時代		続縄・擦文・アイヌ文化期		縄文時代
発掘調査面積(m ²)	8,933m ²			発掘調査面積(m ²)	8,933m ²		
住居跡	1		16	土器集中	2		15
集中区	3		-	礫集中	8(4)		8
土坑墓	-		27	土製品集中	-		2
土坑	3		21	鉄器集中	1		-
灰集中	3(1)		-	フレイク・チップ集中	-		4
焼土	20(9)		24	炭化物集中	2		-
Tピット	-		50	獣骨集中	3(2)		1
杭列跡	1		-	遺物集中	1		-
道跡	1		-	盛土範囲	-		1

※ ()の数字は住居跡または集中区に含まれる遺構(内数)

表I-3 ショロマ1遺跡出土遺物一覧表

層位	細分類									合計
	土器	礫石器	剥片石器	土製品	石製品	鉄製品	礫剥片類	剥片類	礫	
	P	ST	FT	PP	SP	IP	SFC	FC	S	
III層	434	50	11	-	-	25	5	27	1,690	2,242
V層	10,158	1,648	2,992	602	24	-	721	124	12,176	28,445
V層(四分割)	-	721	541	-	-	-	289	12,295	11,778	25,624
表採	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
合計										56,312

表I-4 ショロマ1遺跡試掘坑出土遺物一覧表

試掘坑No.	細分類							計
	土器	礫石器	剥片石器	石製品	礫	剥片類	その他	
1	-	-	-	-	-	-	-	-
2	13	-	-	-	2	-	-	15
3	-	-	-	-	2	-	-	2
4	-	-	-	-	1	-	-	1
5	-	-	-	-	-	-	-	-
6	5	2	1	-	10	1	-	19
7	-	3	-	-	1	7	-	11
8	-	-	-	-	1	-	-	1
9	2	-	1	-	-	1	-	4
10	-	-	-	-	-	-	-	-
11	-	-	-	-	-	-	-	-
12	-	-	-	-	-	-	-	-
13	-	-	-	-	-	-	-	-
14	-	-	-	-	-	-	-	-
表採・地点不明	10	3	-	-	13	3	-	29
合計	30	8	2	0	30	12	-	82

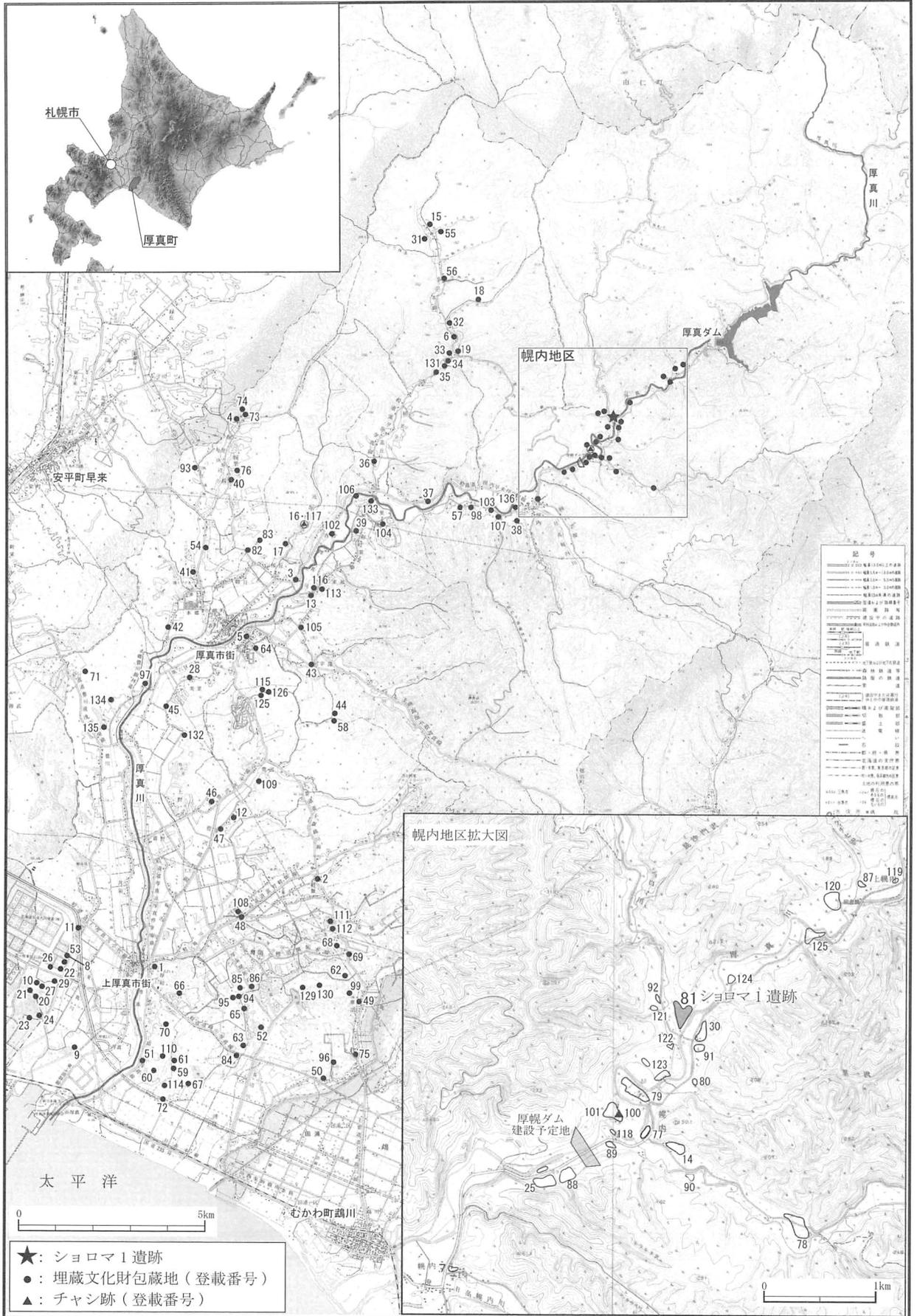


図 I-4 厚真町内遺跡分布図 (平成 27 年 1 月 1 日現在)

表 I -5 厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(1)

登録番号	種別	名称	時期	文献等
1	遺物包含地	上厚真遺跡	縄文中期、統縄文期、 擦文期	1
2	遺物包含地	軽舞遺跡	縄文中期、統縄文期	1
3	遺物包含地	朝日遺跡	縄文中～晩期、 統縄文～近代	1,2,31, 43
4	遺物包含地	幌里1遺跡	縄文早・中期、統縄文期	1
5	遺物包含地	新町遺跡	縄文早・中期、統縄文期 アイヌ期	1,4,6
6	遺物包含地	高丘1遺跡	縄文中期、統縄文期	1
7	遺物包含地	幌内1遺跡	縄文中・後期	1
8	集落跡	共和遺跡	縄文晩期、統縄文期、 擦文期	1,8
9	遺物包含地	浜厚真遺跡	詳細不明	
10	溝穴遺構	厚真10遺跡	縄文中・晩期	3,8
11	遺物包含地	厚真11遺跡	縄文時代	
12	遺物包含地	豊沢1遺跡	統縄文期	1
13	遺物包含地	東和遺跡	縄文後期	1
14	集落跡	オニキシベ1遺跡	縄文中・後期	1
15	遺物包含地	高丘3遺跡	縄文中期	
16	チャン跡	桜丘チャン跡	中世アイヌ期	4,6
17	遺物包含地	桜丘1遺跡	縄文晩期	
18	遺物包含地	高丘2遺跡	詳細不明	
19	遺物包含地	高丘10遺跡	詳細不明	
20	集落跡	厚真1遺跡	縄文中期	8,13
21	溝穴遺構	厚真2遺跡	縄文時代	8
22	溝穴遺構	厚真3遺跡	縄文早～晩期、 統縄文・擦文期	10
23	集落跡	厚真4遺跡	縄文中・後期、 統縄文期、近代	44
24	溝穴遺構	厚真5遺跡	縄文期、統縄文	
25	集落跡	厚幌1遺跡	縄文早～晩期、統縄文期 中世アイヌ期	18,30, 38
26	集落跡	厚真7遺跡	縄文早・中～晩期、 統縄文・擦文期	9
27	集落跡	厚真8遺跡	縄文早・中～晩期、 統縄文期	8
28	溝穴遺構	美里2遺跡	縄文早・中期	
29	墳墓	厚真12遺跡	縄文早・後・晩期、 擦文期	10
30	遺物包含地	上幌内1遺跡	縄文早・中～晩期、 統縄文～中世アイヌ期	1
31	遺物包含地	高丘4遺跡	縄文時代	
32	遺物包含地	高丘5遺跡	縄文時代	
33	遺物包含地	高丘6遺跡	縄文時代	
34	遺物包含地	高丘7遺跡	縄文中期	
35	遺物包含地	高丘8遺跡	縄文時代	
36	遺物包含地	高丘9遺跡	統縄文期	
37	遺物包含地	富里1遺跡	縄文中・後期、アイヌ期	1
38	遺物包含地	幌内4遺跡	縄文中期?	
39	遺物包含地	チコマナイ遺跡	縄文時代	
40	遺物包含地	幌里2遺跡	縄文中期	
41	遺物包含地	本郷1遺跡	縄文中・晩期	
42	遺物包含地	本郷2遺跡	縄文後期	
43	遺物包含地	宇隆1遺跡	擦文期	16
44	遺物包含地	宇隆2遺跡	縄文後期	
45	遺物包含地	美里1遺跡	縄文中期	1
46	遺物包含地	豊沢2遺跡	擦文期	
47	遺物包含地	豊沢3遺跡	統縄文期	
48	遺物包含地	鯉沼1遺跡	詳細不明	1
49	遺物包含地	鹿沼2遺跡	縄文中期	5
50	遺物包含地	鹿沼1遺跡	縄文早期	5
51	遺物包含地	厚和1遺跡	縄文中期、アイヌ期	1,4,6
52	遺物包含地	鹿沼3遺跡	縄文中・晩期	
53	溝穴遺構	厚真13遺跡	縄文早期	10
54	遺物包含地	本郷3遺跡	縄文時代	
55	遺物包含地	高丘11遺跡	縄文晩期	
56	遺物包含地	高丘12遺跡	縄文時代	
57	墳墓	幌内5遺跡	縄文前期、近世アイヌ期	32
58	溝穴遺構	豊沢4遺跡	縄文早・後期	
59	遺物包含地	厚和2遺跡	縄文中期	
60	遺物包含地	厚和3遺跡	縄文後期	
61	遺物包含地	厚和4遺跡	縄文中期	
62	遺物包含地	鹿沼4遺跡	縄文時代	
63	遺物包含地	厚和5遺跡	縄文時代	
64	遺物包含地	新町2遺跡	縄文後期	
65	遺物包含地	鹿沼5遺跡	縄文後期	
66	遺物包含地	厚和6遺跡	縄文前期	
67	遺物包含地	浜厚真2遺跡	縄文早期	
68	溝穴遺構	鯉沼2遺跡	縄文時代	14
69	遺物包含地	豊丘遺跡	縄文前期	
70	集落跡	厚和7遺跡	縄文後期	
71	集落跡	豊川1遺跡	縄文前～後期	15
72	溝穴遺構	浜厚真3遺跡	縄文早期	17
73	遺物包含地	ニタツポロ沢遺跡	縄文後・晩期	
74	遺物包含地	幌里神社遺跡	縄文時代	
75	溝穴遺構	入鹿別沼遺跡	縄文中期	
76	溝穴遺構	幌里3遺跡	縄文時代	
77	遺物包含地	オニキシベ2遺跡	縄文中・後期、 統縄文～中世アイヌ期	33
78	遺物包含地	オニキシベ3遺跡	縄文後期	
79	集落跡 ・墳墓	上幌内モイ遺跡	旧石器 縄文早・中～晩期 統縄文～中世アイヌ期	19,21 22,24,26 27,28
80	遺物包含地	一里沢遺跡	縄文早・中・後期 擦文・アイヌ期	4,5,21
81	集落跡	シヨロマ1遺跡	縄文早期～中世アイヌ期	
82	遺物包含地	東ニタツポロ1遺跡	縄文中・晩期	
83	遺物包含地	東ニタツポロ2遺跡	縄文中・晩期	
84	遺物包含地	浜厚真4遺跡	縄文中期	
85	集落跡	鯉沼3遺跡	縄文前～後期	20,23,25
86	遺物包含地	鯉沼4遺跡	縄文後期	

表 I-6 厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(2)

登録番号	種別	名称	時期	文献等	登録番号	種別	名称	時期	文献等
87	遺物包含地	イクバンド ユクチセ遺跡	縄文後期		111	遺物包含地	豊丘2遺跡	縄文早期	
88	遺物包含地	厚幌2遺跡	縄文前期		112	遺物包含地	豊丘3遺跡	縄文中期	
89	遺物包含地	オニキシベ4遺跡	縄文早・中～晩期、 続縄文・擦文期	39	113	遺物包含地	東和2遺跡	縄文晩期	
90	遺物包含地	オニキシベ5遺跡	縄文中・後期	36	114	遺物包含地	浜厚真5遺跡	縄文後期	
91	溝穴遺構	上幌内2遺跡	縄文早・中・後期、 続縄文～中世アイヌ期		115	遺物包含地	豊沢6遺跡	縄文早・中・後期	
92	遺物包含地	シヨロマ2遺跡	縄文早～後期		116	遺物包含地	東和3遺跡	縄文早期	
93	溝穴遺構	幌里4遺跡	縄文時代		117	遺物包含地	桜丘2遺跡	縄文中期	
94	集落跡	厚和8遺跡	縄文中・後期		118	遺物包含地	オニキシベ6遺跡	縄文後・晩期、 続縄文・擦文期	41
95	遺物包含地	厚和9遺跡	縄文中期		119	溝穴遺構	イクバンド ユクチセ2遺跡	縄文後期	
96	遺物包含地	鹿沼6遺跡	縄文時代		120	遺物包含地	イクバンド ユクチセ3遺跡	縄文中・後期、続縄文期	
97	遺物包含地	豊川2遺跡	続縄文期、擦文期		121	遺物包含地	シヨロマ3遺跡	縄文早・中・後期、 続縄文・擦文期	42
98	遺物包含地	幌内6遺跡	縄文後期		122	遺物包含地	シヨロマ4遺跡	縄文時代～アイヌ期	
99	集落跡	鹿沼7遺跡	縄文早～晩期		123	遺物包含地	上幌内3遺跡	縄文中・後期、続縄文期	
100	チャシ跡	ヲチャラセナイ チャシ跡	中世アイヌ期	35	124	遺物包含地	上幌内4遺跡	縄文中・後期～アイヌ期	
101	溝穴遺構	ヲチャラセナイ 遺跡	縄文早～晩期、 続縄文～中世アイヌ期	35, 40	125	溝穴遺構	上幌内5遺跡	縄文時代	
102	遺物包含地	吉野1遺跡	縄文中・晩期		126	遺物包含地	豊沢7遺跡	縄文中・後期	
103	遺物包含地	幌内7遺跡	縄文晩期、 擦文・中世アイヌ期		127	遺物包含地	豊沢8遺跡	縄文後期	
104	集落跡	ニタツプナイ遺跡	縄文前～晩期、続縄文・ 擦文・近世アイヌ期	29, 32	128	遺物包含地	ライカルマイ遺跡	続縄文期～ 近世アイヌ期、近代	
105	遺物包含地	宇隆3遺跡	縄文中期		129	遺物包含地	長沼1遺跡	縄文早期	
106	遺物包含地	富里2遺跡	縄文後・晩期、 擦文・近世アイヌ期	32	130	遺物包含地	長沼2遺跡	縄文中期	
107	遺物包含地	オコッコ1遺跡	縄文前～後期、擦文期		131	遺物包含地	高丘13遺跡	縄文前期、擦文期	
108	遺物包含地	軽舞2遺跡	縄文前期、続縄文期		132	遺物包含地	上野1遺跡	縄文中期	
109	遺物包含地	豊沢5遺跡	縄文後期		133	遺物包含地	富里3遺跡	縄文中・晩期	
110	遺物包含地	厚和10遺跡	縄文早・中・後期		134	遺物包含地	豊川3遺跡	縄文晩期	
					135	遺物包含地	三ヶ月沼遺跡	縄文晩期	
					136	遺物包含地	幌内8遺跡	縄文前・中期	

1: 厚真村郷土研究会 1956『厚真村古代史』 2: 亀井喜久太郎 1957「厚真出土の土偶」『先史時代3』 3: 苫小牧市教育委員会 1974『苫小牧東部工業地帯内埋蔵文化財分布調査報告書』 4: 亀井喜久太郎・池田実 1976『厚真の旧地名を尋ねて』 5: 鶴川町教育委員会 1977『鶴川町遺跡分布報告』 6: 亀井喜久太郎・池田実 1978『続厚真の旧地名を尋ねて』 7: 松浦武四郎(高倉新一郎校訂) 1985『戊午東西蝦夷山川地理取調日誌』 8: 苫小牧市教育委員会 1986『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅰ』 9: 苫小牧市教育委員会 1987『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅱ』 10: 苫小牧市教育委員会 1990『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅲ』 11: 苫小牧市教育委員会 1992『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅳ』 12: 苫小牧市教育委員会 1995『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅴ』 13: 赤石慎三 1999「苫小牧地方の円筒上層式について」『苫小牧市埋蔵文化財調査センター所報1』 14: 厚真町教育委員会 2001『鯉沼2遺跡』 15: 厚真町教育委員会 2001『豊川1遺跡』 16: 鈴木信 2001「IV-4 北海道の中世陶磁器」『千歳市ユカボンシC15遺跡(4)』(財)北海道埋蔵文化財センター159 17: (財)北海道埋蔵文化財センター 2003『厚真町浜厚真3遺跡』 18: 厚真町教育委員会 2004『厚幌1遺跡』 19: 厚真町教育委員会 2005『上幌内モイ遺跡発掘調査概要報告書』 20: 厚真町教育委員会 2005『鯉沼3遺跡』 21: 蕨島栄紀 2005「松浦武四郎の旅程からみた胆振東部・日高西部の古交通路」『前近代アイヌ民族における交通路の研究(胆振・日高I)』 22: 厚真町教育委員会 2006『上幌内モイ遺跡(1)』 23: 厚真町教育委員会 2006『鯉沼3遺跡(2)』 24: 厚真町教育委員会 2007『上幌内モイ遺跡(2)』 25: 厚真町教育委員会 2008『鯉沼3遺跡(3)』 26: 出穂雅実他 2008『論集忍路子Ⅱ』 27: 関根達人 2008「平泉文化と北方交易2-擦文期の銅鏡をめぐって-」『平泉文化研究年報8』 28: 厚真町教育委員会 2009『上幌内モイ遺跡』発掘調査報告書(3) 29: 厚真町教育委員会 2009『ニタツプナイ遺跡(1)』 30: 厚真町教育委員会 2010a『厚幌1遺跡(2)・幌内7遺跡(1)』 31: 北海道大学附属図書館HP北方資料データベース 32: 厚真町教育委員会 2010b『幌内5遺跡(1)・富里2遺跡・ニタツプナイ遺跡(2)』 33: 厚真町教育委員会 2011『オニキシベ2遺跡』 34: 苫小牧民報社 2011.3.3 新聞記事 35: 厚真町教育委員会 2013a『ヲチャラセナイチャシ跡・ヲチャラセナイ遺跡』 36: 厚真町教育委員会 2013b『オニキシベ5遺跡』 37: 厚真町教育委員会 2013c『ライカルマイ遺跡』 38: 厚真町教育委員会 2014a『厚幌1遺跡(3)』 39: 厚真町教育委員会 2014b『オニキシベ4遺跡』 40: 厚真町教育委員会 2014c『ヲチャラセナイ遺跡』 41: 厚真町教育委員会 2014d『オニキシベ6遺跡』 42: 厚真町教育委員会 2014e『シヨロマ3遺跡』 43: (財)北海道埋蔵文化財センター 2013『厚真町朝日遺跡』『調査年報』25 44: 佐藤一夫 1996「苫小牧の太平洋戦争遺跡」～ベトン製トーチカを中心として『研究報告』6

第 6 節 遺跡の位置

1. 厚真町の概要

A 地理的環境

厚真町は、石狩低地帯南部の東縁、北海道胆振総合振興局管内の東部に位置し、夕張山地南部から太平洋に注ぐ二級河川厚真川流域に広がる、人口 4,709 人（平成 27 年 1 月末日現在）の農業の町である。町域の総面積は 404.61 千㎡で、流路 52.3km の二級河川厚真川水系と同一入鹿別川右岸に広がり南北 32.5km、東西 17.3km と南北に長く、南部は約 6.5km にわたって太平洋に面し、勇払平野の東端に位置している。

北部は夕張市や由仁町と接し、夕張山地南端域の標高 200～600m の山地が続き、町域総面積の約 70% を山林が占めている。東は夕張山地から続く低い山地を挟んでむかわ町と接し、北西は標高 100m 前後の山地性丘陵を挟んで安平町、西は厚真町域を含む苫小牧東部工業地帯（以下、苫東）内で苫小牧市と接する。厚真の語源は 3 説ほどあるが、有力な説としてアイヌ語の「アットマム」（at-to-mam・向こうの湿地帯）で、南部に広がる湿地帯に付けられたものが転訛したという（厚真村 1956）。

町内は大きく 5 つの地区に分かれ、沿岸部の浜厚真地区、厚真川下流域の上厚真地区、中流域の厚真市街地周辺、中流から上流域の富里・幌内地区、むかわ町と接し、入鹿別川流域の鹿沼地区がある。

以下に厚真川中流域から本遺跡が所在する厚真川上流域にかけての概略を述べる。

厚真町の中心市街地は厚真川中流域にあり、鶴川、平取・穂別、早来、浜厚真方面への道道交差部に官公署や住宅地が形成されている。かつては町内の石油資源や林産資源、農産物の集散地として発展してきた。また、平成 3 年に日勝峠を含む「石勝樹海ロード」が全面開通する以前は札幌方面から厚真町市街地を通過し、日高・十勝へ抜けるルートともなっていた。地形的には厚真川本流と比較的大きな支流である知決辺川、ウクル川などの合流点に形成された平野部に位置し、夕張山地系と馬追丘陵南端部の山地性丘陵に挟まれた地域となる。中流域から上流域にかけては、厚真川は頗美宇川との合流点付近において流路方向を変え、左岸には河岸段丘が発達する。中流域最奥部の幌内地区は、厚真川流域沿いの沖積地の最奥部でもあり、本流とシュルク川、幌内川の 3 河川の合流点である。この地区は上流域の山間部より産出される豊富な林産資源の集積地として発展し、明治 44 年から昭和 24 年まで早来駅とを結ぶ軌道が敷設されていた。これより上流域は、新第三紀の堆積岩を基盤とする山地が続く。山地は標高 400 m 以上の頂部は少ないが、小河川の浸食により比較的急峻な山稜で壮年期地形の様相を呈している。厚真川は夕張市、由仁町との 1 市 2 町の境界線付近、標高 500m 付近の夕張山地南域に源流部がある。

B 歴史的環境

(1) 先史時代

厚真町内には現在 136 ヶ所の埋蔵文化財包蔵地が確認されており、後期旧石器時代から近現代の軌道跡やトーチカなどの第二次世界大戦時の戦争遺跡までの時期幅がある（図 I-4、表 I-5・6）。遺跡の分布傾向は開発行為の多寡に左右されるが、南部の苫東地区と北部の高丘・幌内地区にやや密集する傾向がある。他の市町村と異なる特徴として、これらの北部地区の遺跡は

安平町安平地区や夕張市紅葉山地区、むかわ町豊田・穂別・稲里地区に抜ける山越えのルート上の遺跡と思われる。

時期的には上幌内モイ遺跡で後期旧石器(札滑型細石刃核等)のブロックが調査されている。縄文時代では浜厚真3遺跡で東釧路Ⅱ式土器がややまとまって出土している(道埋文2003)。後続する東釧路Ⅲ式やコッタロ式土器が多量に出土する早期後葉の遺跡は、厚真川中流域以南に分布しており、上流域の幌内地区では、散発的な極少量の遺物が出土しているに過ぎない。上流域では、中茶路式期以降が遺跡の増加傾向にあり、厚真川流域において縄文時代の人の拡散を考えると、海岸部から内陸部への進出が想定できる。遺跡数の増加や規模の拡大は縄文時代前期前半の静内中野式期で、厚幌2遺跡(88)、オコッコ1遺跡(107)、幌内5遺跡(57)ニタツプナイ遺跡(104)、豊丘1遺跡(69)鹿沼7遺跡(99)などでは多量の被熱礫や哺乳網の焼骨片が出土しており、厚真町南部から北部に至るまで確認されている。この時期の遺跡は湧水地点に隣接する特徴的な立地で、鹿沼7遺跡や幌内5遺跡、ニタツプナイ遺跡、オコッコ1遺跡では露頭や試掘調査で「盛土遺構」を伴うことが判明している。これ以降、漸移的に遺跡数が増加し、中期末葉から後期初頭の北筒・余市式期で遺跡数がピークをとる。縄文時代後期中葉から後葉にかけての遺跡数が激減し、晩期前葉に再び増加する傾向にある。続縄文文化期から擦文文化期前期にかけての遺跡数も少ない。この様な各時期における遺跡数の偏りは隣接する苫小牧市の傾向と一致している。しかし、厚真町内では白頭山苫小牧火山灰B-Tm降下(10世紀前葉)以降の擦文中期以降に再び遺跡数が増加する点において、隣接する苫小牧市とは異なる様相を示している。アイヌ文化期についても、厚幌ダムや厚幌導水路建設事業に伴う発掘調査で13世紀以降17世紀中葉に至るまでの数多くの遺構・遺物が検出されており、中世アイヌ文化期の一様相の解明に期待が高まっている。

(2) 町内における埋蔵文化財調査の概要

町内における埋蔵文化財の調査・研究・活用は、大正5年、現在の朝日遺跡から出土した縄文土器を、教材として学校に保管する許可書が発行されたが最初である(厚真村郷土研究会1956)。これ以降、現在に至るまでを大きく3期に別けることが可能である。

a. 厚真村郷土研究会・埋蔵文化財の地域自主的研究(昭和20年代後半から40年代中頃)

元厚真村長 亀井喜久太郎氏が昭和28年に厚真村郷土研究会を発足させ、遺物の収集や会報での遺物紹介を行い、昭和31年には『厚真村古代史』を発刊した(厚真村郷土研究会1956)。また分布調査なども積極的に行い、埋蔵文化財包蔵地カードの「調査・文献」には「厚真村郷土研究会」の記載で始まるものが32遺跡もあり、厚真町の文化財保護・研究に大きな功績を残している。

b. 苫小牧市埋蔵文化財調査センター・大規模発掘「苫東調査」(昭和48年から昭和59年)

昭和48年から苫小牧市埋蔵文化財調査センターによる苫東地区の試掘・発掘調査が開始され、59年までの12年間で厚真町域では新規登録14遺跡、調査着手11遺跡があり、縄文時代早期～擦文文化期までの資料が得られている。昭和51年調査の厚真1遺跡(苫小牧市教育委員会1986)では、この地域で初めてのTピットが確認され、縄文時代中期中葉の「厚真1式土器」(赤石1999)の標識遺跡でもある。厚真7遺跡では縄文時代中期末葉と後期前葉の住居跡8軒、石狩川中流域を中心に分布する「丸のみ形石斧」も出土した(苫小牧市教育委員会1987)。共和遺

跡では苫東地区内で唯一の擦文文化期前期の竪穴式住居跡 2 軒を調査している(苫小牧市教育委員会 1987)。

c. 開発に伴う調査の増加と厚幌ダム・厚幌導水路事業の開始(平成10年以降)

道教委による豊川1遺跡、鯉沼2遺跡などの調査が行われたほか、高規格道路日高自動車道の建設に伴う浜厚真3遺跡の調査では、187基のTピットが検出されている(道埋文2003)。

平成12年にはダム事務所より厚幌ダム建設事業に係る事前協議書が提出されA・B調が開始された。発掘調査は平成14年から町教委により継続的に行われ、上幌内モイ遺跡、オニキシベ2・4・5・6遺跡、ヲチャラセナイチャシ跡など7遺跡の発掘調査を終えている。また平成24年度からは道埋文も本事業の調査に入り、平成24年度までの11年間の調査面積は約164,700㎡で全体面積の約80%の進捗率となっている。

平成15年には総延長24.5kmに及ぶ厚幌導水路建設事業の事前協議書が提出され、B調等は未了箇所があるものの、現在11遺跡での要発掘・工事立会調査地点が確認されている。平成19年度から発掘調査が開始され、厚真川中流域富里地区のニタツナイ遺跡、富里2遺跡、幌内地区の幌内5・7遺跡や厚幌1遺跡で発掘調査を行った。これらの大規模開発に伴う発掘調査は、平成28年秋まで継続し、29年度に整理業務を終え、ダム事業に係る一連の埋蔵文化財発掘調査業務を完了する予定となっている。

(3) 歴史時代

厚真町に係わる最初の記述は、1692(元禄5)年に書かれた『続々類従本蝦夷記』でシャクシャインの戦いにおいて「於多久見具印住處阿津摩ニテ討取ル」というものである(野澤1692)。その後、寛政年間(18世紀末)に八王子千人同心等数名の和人が浜厚真に移り住むが定住することはない。近世アツマ場所の産物としては、干鮭や椎茸、シナ縄が記されているが、詳細な記述はなく、紀行文や測量日誌に交通路であった勇払と鶴川間の厚真川河口周辺や千歳と日高間の富里地区の簡単な記述に留まっている。

内陸部まで詳述したものは、松浦武四郎による『戊午安都麻日誌』(松浦・吉田1962、松浦・高倉1985)で、1857(安政5)年6月に勇払から厚真川河口を経てトンニカ(現富里)にて3泊している。この時、町内にはアツマ(厚真河口)、キムンコタン(現厚和・厚和1遺跡)、シナイ(現新町・新町遺跡)、チケツへ(現本郷)、トンニカ(現富里)、ニタツナイ(現富里・ニタツナイ遺跡周辺)の5カ所のコタンが記録されている。この中で比較的規模の大きいキムンコタンやトンニカコタンでは、粟、稗、隠元、蕪などの畑作が盛んで、漆器や刀剣類の宝物が多く、これまでの地域とは別格として記している。しかし直前に襲った厚真川の氾濫によって、畑地のほとんどが流されていることも記されており、かつてより洪水の多い河川であったことが伺える。上流部に関しては聞き取りによるもので、夕張方面への交通路やシカやワシ・タカ類の狩猟に関する記述がある。武四郎の日誌からは、上流域におけるこの時期の集落跡は存在せず、無人地帯となっていたことがわかり、中世アイヌ文化期から近世アイヌ文化期にかけて厚真川流域における社会・集落構造の変容が分かりつつある。これらの記録以前のアイヌ文化期については、厚幌ダム水没地域内の試掘・発掘調査で確認された上幌内モイ遺跡、オニキシベ2遺跡、ヲチャラセナイチャシ跡、富里2遺跡、ニタツナイ遺跡ほか、厚和1遺跡、幌内5遺跡では耕作により近世アイヌ土坑墓が単独で発見されている。

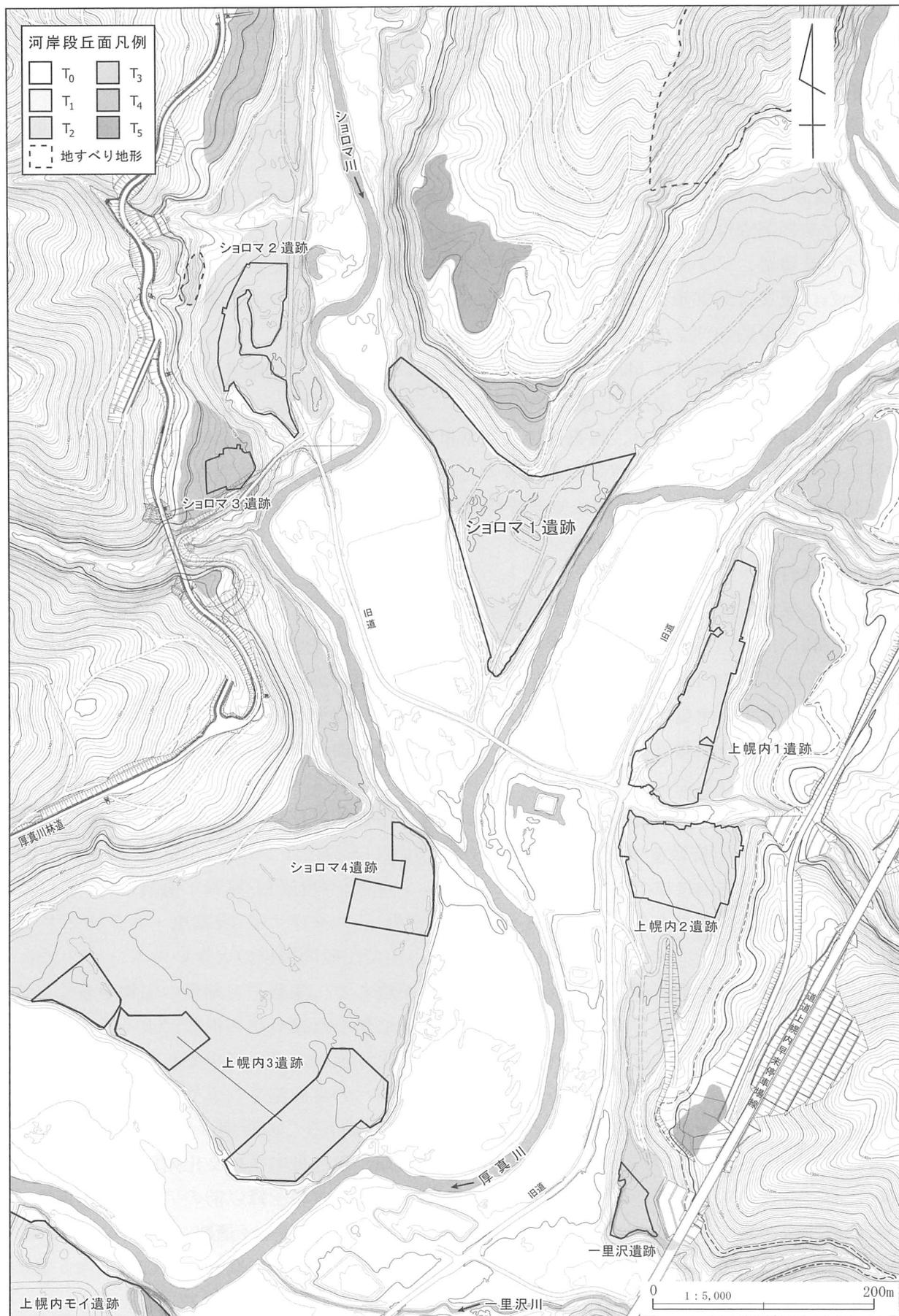


図 I-5 周辺の遺跡と地形面区分

2. 遺跡の位置と周辺環境

A 地理的環境

遺跡の周辺地域を幌内市街地より厚真川上流域で現存する厚真ダムまでの範囲としたい。この範囲は行政区画上、厚真町字幌内地番であるが、以後、便宜的に「厚幌地区」と称する。厚幌地区の中で比較的大きな支流である鬼岸边川、ショロマ川がある。分水嶺を介して鬼岸边川は東方の鶴川水系むかわ町豊田地区へ、本遺跡が所在するショロマ川は分水嶺を越えて石狩川水系夕張市滝之上地区へのルートが想定される。この他、ショロマ川との合流点より約 4.8km 上流、厚真ダム左岸の支流メルクンナイ川も鶴川水系むかわ町穂別地区へのルートとして考えられる。厚幌地区は標高約 150~250m の山頂に囲まれ、厚真川が浸食開折した谷状の地形で緩やかに傾斜する“線状”の地域となっており、遺跡群は流域に形成された河岸段丘上に立地している。厚真川流域の段丘面は上流~中流域まで発達し、厚真川上流域の上幌内モイ遺跡周辺の段丘面を標識として T_0 ~ T_5 面に細分されている(出穂 2006)。本流河川面との比高差や支笏、恵庭、樽前の各火山灰の堆積状態から離水時期がわかり、他地域よりも詳細に把握することができる。支流域まで含めた詳細な検討はされていないものの、概ね連動していると思われる。

本遺跡は夕張山地南端部、厚真川河口から約 35.6km に位置し、厚真川とショロマ川の合流点より上流 180m の右岸に所在している。ショロマ川の水源は直線距離で北北東側約 9.3km、由仁町との境界にある標高約 494m 峰を水源とする。本遺跡の北東約 4.5km に位置する 436m 峰から半島状に突出した山塊先端部の段丘面 T_2 (現地表面標高約 68~71m) と T_1 (現地表面標高約 65m) に形成されている。段丘面は先端部から厚真川本流沿いの北東方向に約 530m、幅約 90m とショロマ川沿いの北北西方向に約 280m、幅約 50m の範囲の北へ開く鉤状に段丘面 T_2 が形成されている。上流部側には標高 217m 峰を頂点とする崖面からの崩落再堆積物が段丘面を覆っており、沖積錐地形が発達している。この T_2 面南端部に北西-南東軸を長軸とする 12m × 7m の狭小な低位段丘面 T_1 が形成されている。なお、南東に隣接する厚真川との比高差は T_1 面で 5m、 T_2 面で 10m 前後となっている。

周辺環境として厚真川とショロマ川との合流点に面する本遺跡の北側には標高 85m 前後の段丘面 T_4 、標高 95m 前後の段丘面 T_5 が続き、標高 290m の山頂へと続く山体がある。ショロマ川を挟んだ北西には標高 300m 前後の南北に連なる山稜があり、東側には標高 200~260m の山体によって三方向を囲まれている。本遺跡の南から南西方向にかけては広い段丘面が形成され、日照条件は好条件となっている。

B 歴史的環境

厚幌地区には、後期旧石器時代から中近世アイヌ文化期までの時期にわたる 24 遺跡が所在する(図 I-1)。最上流のイクバンドユクチセ 2 遺跡(J-13-119)は厚真川の河口より約 37km の地点にあるが、さらに約 1.5 km 上流に位置する厚真ダム堤体付近にも遺跡が所在していたという。調査対象の約 80% を終え本地区の特徴が見え始めており、時期的な特徴として縄文時代の遺跡は中茶路式以降が主体であり、これ以前の東釧路系土器群や貝殻文系土器群はほぼ皆無に近い。また、中茶路式と東釧路 IV 土器がセットとなって出土し、これらに石英結晶粒を多量に含む富良野盆地系土器が伴う。これに対し、厚真川中下流域や苫小牧市苫東地区での試掘・発掘調査ではコッタロ式や東釧路 III 式の集落跡が確認されており、厚真川流域においては海岸

部から上流域への縄文文化の進入拡散が想定される。後続する縄文前期前半期も遺跡や出土遺物が少ない傾向にあり、本地域での遺跡数や遺構数増加は縄文時代前期後葉の植苗式から円筒土器上層 a 式期にみられ、平成 20～24 年度にかけて発掘調査したヲチャラセナイ遺跡も当該期の集落跡である(町教委 2013・2014)。また縄文時代後期初頭から前葉にかけての余市式土器群も各遺跡から出土しており、この時期の富良野盆地系土器も多く出土している。時期の偏りが見受けられると同時に富良野盆地系土器が伴う特徴も見逃せない。また擦文文化期中期後半以降、中世アイヌ文化期に至るまでの遺跡数も多い。この時期の遺跡は本遺跡のほか、厚幌 1 遺跡、上幌内モイ遺跡、オニキシベ 2 遺跡などがあり、平成 20・22 年度にはヲチャラセナイチャシ跡も全面調査されている。しかし、17 世紀前葉以降のアイヌ文化期の遺跡数は極端に減少し、本地区での寛永通寶や煙管の出土例は今のところ確認されていない。1667 年降下の樽前 b テフラを直接被覆する大木に伴うシカ送り場跡が確認されていることから、本地区は集落居住域から後述する狩猟区域として位置づけを変えていった可能性が見えてきている。

C 松浦武四郎の記録とアイヌ語地名

この地区でのアイヌ文化に係る記録としては、先述の松浦武四郎の記録が最も古い。本地区にはヲチャラセナイやカニシユウ(現一里沢遺跡)、ヲニケレベ(現鬼岸边)、シヨウロマ(現シヨロマ)、メルクンナイなどの多数の地名が記載されている。特徴としては、「ル」(路)の付く地名が多く、複数の山越えルートが想定される地域でもある。厚真川から鶴川水系へは厚真ダム左岸のメルクンナイ～鶴川水系穂別川支流のパンケオビラルカ川へ、鬼岸边川～良樹ノ沢(ルーマキウシ)～鶴川～パンケルベシベ川～沙流川水系オサチナイ沢川へのルートが想定される。

シヨロマ(現シヨロマ川)も厚真村史では「草ソテツの群生するところ」とあるが、ソ(滝)・ル(路)・マ(泳ぎ渡る)とも読み取れる。明治 29 年発行の地形図には「シヨルマ」と記載されており、かつては滝瀬の中を馬車道として木材や木炭を運び出したこと、明治・大正期の夕張山地への熊狩の記録(厚真村史 1956)から、夕張川水系滝ノ上地区於兎牛(おそうし)へのルートが想定される。現在は「厚真川林道」で通り抜けることが可能である。

これらのルートは厚真川本流とオニキシベ川との合流点付近で 1 本となり、ヲチャラセナイチャシ跡は早来方面と鶴川流域、沙流川流域の日高方面、夕張方面への全てのルートが把握できる地点に立地している。人やモノの流れにおいて厚幌地区が重要な位置にあったことも容易に想定でき、考古学的にも縄文時代早期からの富良野盆地系土器や道東北地域の縄文土器、黒曜石原石、豊富な金属製品の出土などがその証拠ともなろう。

シヨロマ川流域に関する武四郎の記述は「西岸川巾五六間、急流峨々たる山の間より落来るとかや。是滝川に成るより号るとかや。」と記され、この流域について「マタヤツチセ 是冬分鷲、熊等を取に來りし時の小屋」、「ソウ 滝に成て此処に落る。少し此辺より上一面の榎木立に成り」、「ベンケヤツチセ 是も獵師の立置処～中略～うしろはユウハリのソウホコマナイのうしろに当るとかや」と 3 つの地名等を書き記している。この記述からも夕張へのルートの他、鷲鷹、熊猟の地域でもあることが記されている。なお、ソウホコマナイは夕張市の草木舞沢川にあたり、夕張川との合流点には滝ノ上チャシ跡が所在している。

3. 調査区内の地形と地質

A 地形

発掘調査区の標高は 64.9～69.2m で、大きく段丘面 T_1 (標高 65m) と段丘面 T_2 に (標高 67.9～69.2m) 大別できる。 T_2 面は樽前 d テフラ降下以降に離水した段丘面であるが、イベント堆積物の洪水堆積層 VII 層がほぼ全面を覆っていた。また低位段丘面 T_1 は VIII 層の堆積がないことから、樽前 d 降下以降も河川の浸食を受けていたことがわかる。なお調査区東側の北部は厚真川と接しており、現在も浸食攻撃が進んでいる。調査区西側の段丘崖は大きく切土掘削され、段丘礫層が露出している。中央部東側や南端部付近でも大きく掘削削平を受けており、本来の段丘面形状を残してない。さらに本遺跡が立地する段丘面には昭和 35 年から 47 (1972) 年まで旧上幌内小学校があり、校舎建設やグラウンドや進入路造成によって、III 層の広い範囲が削平を受けていた。削平範囲が少ない樽前 c テフラ直下の V 層上面で計測作成した等高線図 (図 I-6) を用いて、調査区内の微地形について以下の区分ごとに堆積状態も加えて記述する。

地形面①：調査区北部の標高 68.6～69.1m のほぼフラットな地形面で、樽前 d2 テフラに起因する再堆積の明黄褐色粘性シルト層がやや薄く被覆しており、樽前 d1・d2 テフラのフォーミュニットがパックされた状態となっている。VH-13 の床面において、後述する地形面③との堆積層境界を検出確認している (カラー図版 6-1・図 I-14)。今回の調査区内では最も安定した面と思われ、北部の調査区外へさらに広がると思われる。

地形面②：地形面①の南西部に隣接する標高 68.3～69.3m。調査区中央部を南東-北西軸から南北軸方向に少しずつ軸方向を漸移的に変える 3 列の帯状の微高地である。便宜的に北東側から a・b・c と細分した。3 列のうち西側の②a が最も高い標高値を示し、東側の厚真川上流側ほど低平になる。また、本地形面の V 層には小礫をやや多く含み、VII 層は樽前 d2 テフラと d1 スコリアの互層堆積、ラミナが発達する洪水堆積物が 2m 以上堆積している。

地形面③：地形面②とセット関係にあり 3 条を区分し、a・b・c と細分した。標高は 68.3～68.6m の極めて浅い沢状地形で開口部はいずれも厚真川本流方向へ開く。攪乱を受けているものの中央部の②b の規模が大きい。東側の③c は②c に開析長軸が並行するものの小規模である。

地形面④：段丘面 T_2 の南端部に位置し、標高は 67.7～68.4m 等高線の長軸方向は地形面②a に直交する北西-南東方向で、僅かに先端部側へ傾斜している。地形面②b の堤列を切る状態にみられるが、新旧関係は確認できていない。

地形面⑤：調査区北東部に一部が差し掛かる標高 69.1～68.3m のやや深い沢状地形で、地形面②・③と同一軸方向を示す。しかし安定した地形面①を挟むことから、別の要因で形成された沢状地形と思われる。隣接する地形面①の TP-45～47・49 の坑底面で IX 層河岸段丘堆積の粘性の強い灰褐色シルト層を確認できたが、より低い沢状地形内の TP-44 では確認できなかったことから樽前 d テフラ降下以前からの IX 層面での沢状地形が存在していたものと思われる。なお、この沢状地形内で検出した TP-44 の調査では湧水が生じたことから、IX 層を不透水層として沢状地形に沿った地下水脈が存在しているものと思われる。

地形面⑥：調査区南端部の段丘面 T_2 から T_1 面への段丘崖で、標高 67.9～65.4m の T_1 面と T_2 面高差は 2.5m である。傾斜角度は V 層上面で約 15° (斜度 26%)、斜面堆積の V 層完掘後の VI 層上面で約 38° (斜度 38%) であった。

地形面⑦:標高 65mの河岸段丘面 T_2 で、斜面堆積の黒色土 V 層は最も厚い段丘崖裾で約 100cm を測る。調査終了後の T_2 面では IX 層の灰褐色シルト層で、ほぼ水平な段丘面であった。段丘崖の等高線は厚真川本流に直交し、ショロマ川と並行することから、本段丘面はショロマ川の浸食、離水によって形成された河岸段丘面と思われる。

上記の地形区分観察から、本遺跡の微地形は樽前 d テフラを主体とする洪水堆積物によって形成されていたことがわかる。また特徴として堤列状の微高地と沢状地形がショロマ川と並行する配置であり、調査区外北西の段丘崖面方向と概ね一致している。さらにショロマ川より距離をおくほど地形面②の微高地も低平になり、その背後の地形面①では安定的な地形面となっている。これに反比例して、VII層とした洪水堆積層は調査区南西側ほど厚く堆積し、小礫も混入していることが T ピットの壁面から観察できた。

これらから平成 25 年度の発掘調査区内の地形はショロマ川の洪水堆積層に起因するものであり、本来 1m ほどの厚さで降下堆積していた樽前 d テフラを浸食し、さらに小礫を運び互層堆積を残すほどの強い水流を伴う洪水が発生していたことが読み取れる。発生時期については、混入する再堆積土壌が樽前 d テフラを圧倒的主体とすることから、テフラ降下後であり河岸段丘面 T_2 では縄文時代早期後葉の中茶路式土器がややまとまって出土していることから、この間に発生したものである。おそらくは、ショロマ川流域の急峻な斜面に降下堆積した樽前 d テフラが降雨、融雪等によって流出し、流路を堰き止める土砂ダムなどが発生し、これが決壊するなどによって大規模な土石流が発生していた可能性を想定したい。この様な事例は現在のところ厚真川上流域に限定される。

微地形と遺構分布との関連については、アイヌ文化期の平地式住居はこれまでの調査成果でも、フラットな地形面に形成されることが多く、今回の調査でも IIIH-01 は平坦で安定した地形面①に構築されていた。アイヌ文化期はこれまでの擦文文化期の住居構築と異なり、地面を掘る、床面を造成するという基本概念が無いこによるものと思われる。また住居の構築位置選択においても、北側の調査区外へ広がる地形面⑤の沢状地形が神窓方向への結界を意図するものと想定できる。V 層縄文時代の遺構配置については、縄文時代前期後葉の遺構群が主体を占めるなかで、比較的大型な竪穴式住居跡である VH-01・02・07 の 3 軒は地形面②の微高地に立地しているが、他の住居跡については微地形との関係を読み取ることはできなかった。微地形よりも住居跡群と土坑墓群などの段丘面全体における配置を優先されていた可能性もある。後期初頭から前葉にかけての VSB-02 は地形面②a・③a に重なる。河岸段丘面 T_2 から T_1 面への段丘崖斜面については、縄文時代前期後葉から後期前葉に至るまでの各時期の遺物が出土している。斜面には黒色土を挟んで数枚の樽前 d2 パミス・風化ロームの混入土も確認されており、土壌も含んだ廃棄場であった可能性がある。なおこの廃棄場は段丘面 T_2 で出土した縄文土器の同一個体片が複数個体分出土しており、関連性が伺える。これを盛土遺構と呼称するかの判断には至らない程の小規模なものであった。

B 地質

前述では、遺跡形成以前の河岸段丘面の微地形について堆積状態も含め記述したことから、ここでは表土層から縄文時代早期後葉の遺物が出土する VI 層漸移層までの堆積状態について記載する。

本遺跡は旧上幌内小学校があったため現代の攪乱を受けており、遺物包含層の残存状態は良好とは言えない。このため、近世アイヌ文化期に降下堆積した樽前山、駒ヶ岳のテフラや上層黒色土Ⅲ層は削平等によって遺失している範囲が広がった。通常は表土層直下にⅡa層の樽前aテフラ (Ta-a・1739年降下) やⅡd層の樽前bテフラ (Ta-b・1667年降下) が面的に堆積し、2層の間にⅡc層の駒ヶ岳c2テフラ (Ko-c2・1694年降下) が不連続に挟在している。また、樽前bテフラの直下には有珠bテフラが数ミリ程度の層厚で確認できる地点もある。これらの近世アイヌ文化期の火山灰層は通常 30cm 前後の層厚で堆積している。近世火山噴出物の堆積層以下に遺物包含層となる黒色腐植土Ⅲ層が堆積し、Ⅴ層との間にⅣ層の樽前cテフラ (Ta-c・B.P. 2500年前後に降下) が堆積し、縄文時代晩期の鍵層となっている。さらにⅤ層・Ⅵ層の下、もしくは再堆積層Ⅶ層の下に樽前dテフラⅧ層が堆積している。Ⅷ層はd1とd2の2層のユニットで堆積しており、樽前山起源の噴出物が計4層堆積している。このほかⅢ層中に白頭山苦小牧火山灰 (B-Tm・10世紀前半降下) が倒木痕の窪みなどに堆積している。

遺物包含層の調査は、南北31ラインと東西A0ライン・ATラインに幅50cmのトレンチを掘開し、堆積状態の情報を参考として出土遺物の取り上げ時の層位決定に留意した (図I-2・8~14)。

縄文晩期後半以降の遺物包含層であるⅢ層黒色腐植土層は堆積が安定し色調や火山灰の混入比率によりa~cまでの3層に分層している。Ⅲb・Ⅲc層はさらに上位・中位・下位を考慮した発掘調査に留意している。本層出土の遺物はⅡ層のテフラに保護されていたことから、ほぼ原位置を保って出土することが多く、今回の調査でもⅢH-01において中世アイヌ文化期の礫集中と擦文文化期前半の土器がⅢb層下位の間層を挟んで出土している (写真図版16-7)。このような層位認識は厚真町における発掘調査で、平成14・15年度に調査した厚幌1遺跡と16年度から調査を開始した上幌内モイ遺跡での調査成果によって確立した層位認識、調査方法である。なお本遺跡では調査区の大部分が削平を受けていたため、Ⅲ層は窪地などに残存していたに過ぎず、本来のⅢ層の成果とは言い難い状況であった。

黒色腐植土Ⅴ層は、調査区内で面的に残っており、削平されていた範囲は南端部の一部であった。他の遺跡と比べて全体的に発達度合いが良く、20~40cmと厚く堆積していた。本層も上層の樽前cテフラの混入層で黒褐色を呈するⅤa層、中位の黒色土をⅤb層、下層のローム質土が漸移的に含み黒褐色を呈する下位層をⅤc層として分層した。本遺跡においてⅤc層中にはⅦ層起源の角礫シルト岩や砂岩の亜角礫を含む特徴があった。

さらにⅤb層は調査掘削回数を目安に上~下位に細分して遺物を取り上げており、概ね縄文後期の遺物はⅤb層上位より出土している。

Ⅵ層は上層のⅤ層と下層の樽前dテフラ再堆積Ⅶ層との漸移層で、地形面③の沢状地形内では層厚がやや薄い傾向にある。段丘面T₂では下層の河岸段丘シルト層との漸移層となり、薄層である。調査区の南端部周辺において本層より縄文時代早期後葉の中茶路式土器や末葉の東釧路Ⅳ式が出土している。他の遺跡においても同様の出土例が多数あり、本地区における黒色腐植土層の発達開始時期が概ね縄文時代早期中葉から後葉にかけての可能性がある。 (乾)



図 I-6 調査区内の地形区分図

〔シヨロマ 1 遺跡基本土層〕

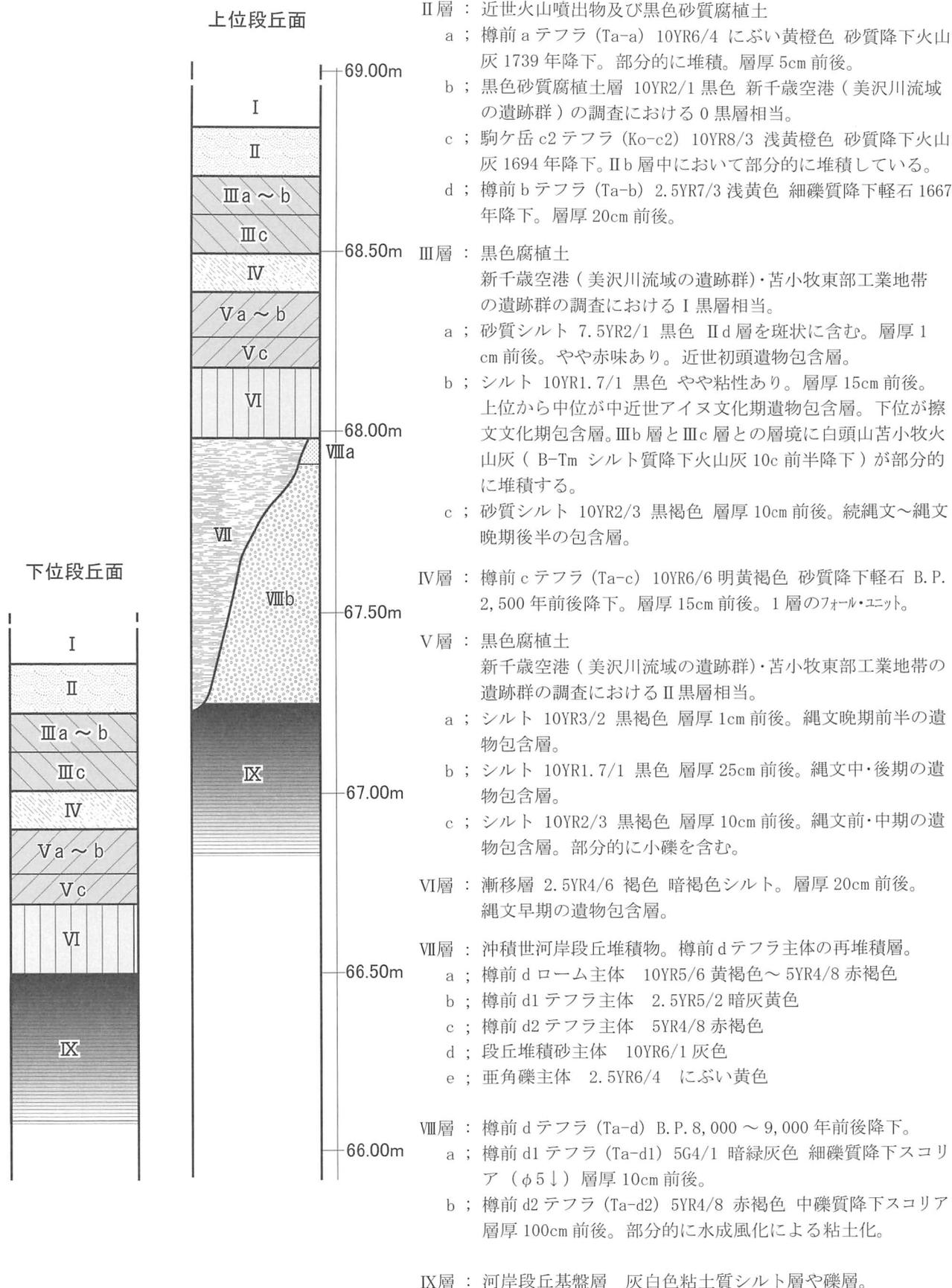


図 I-7 基本土層柱状図

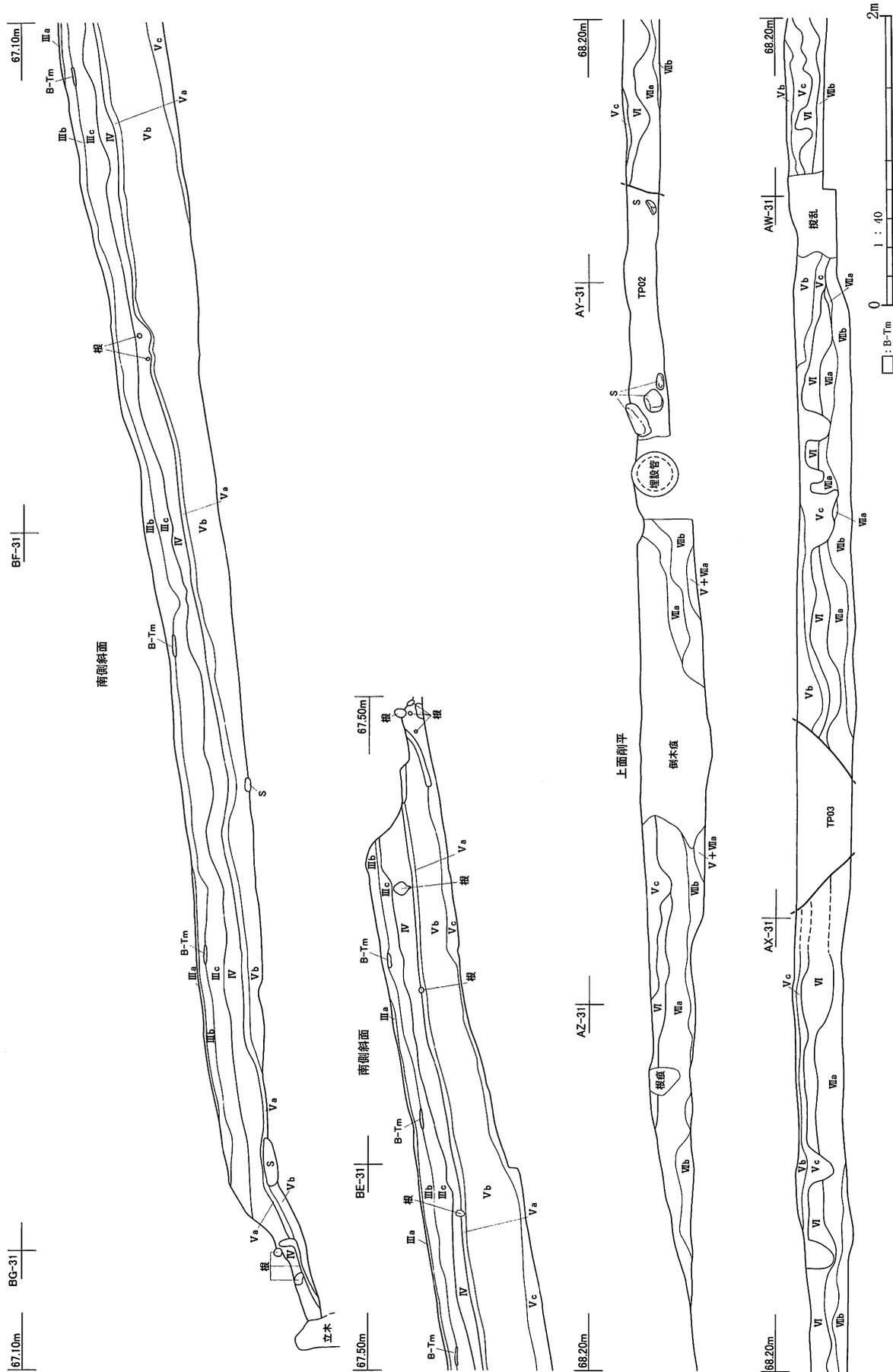


図 I -8 31 ライン南北断面図 (1)

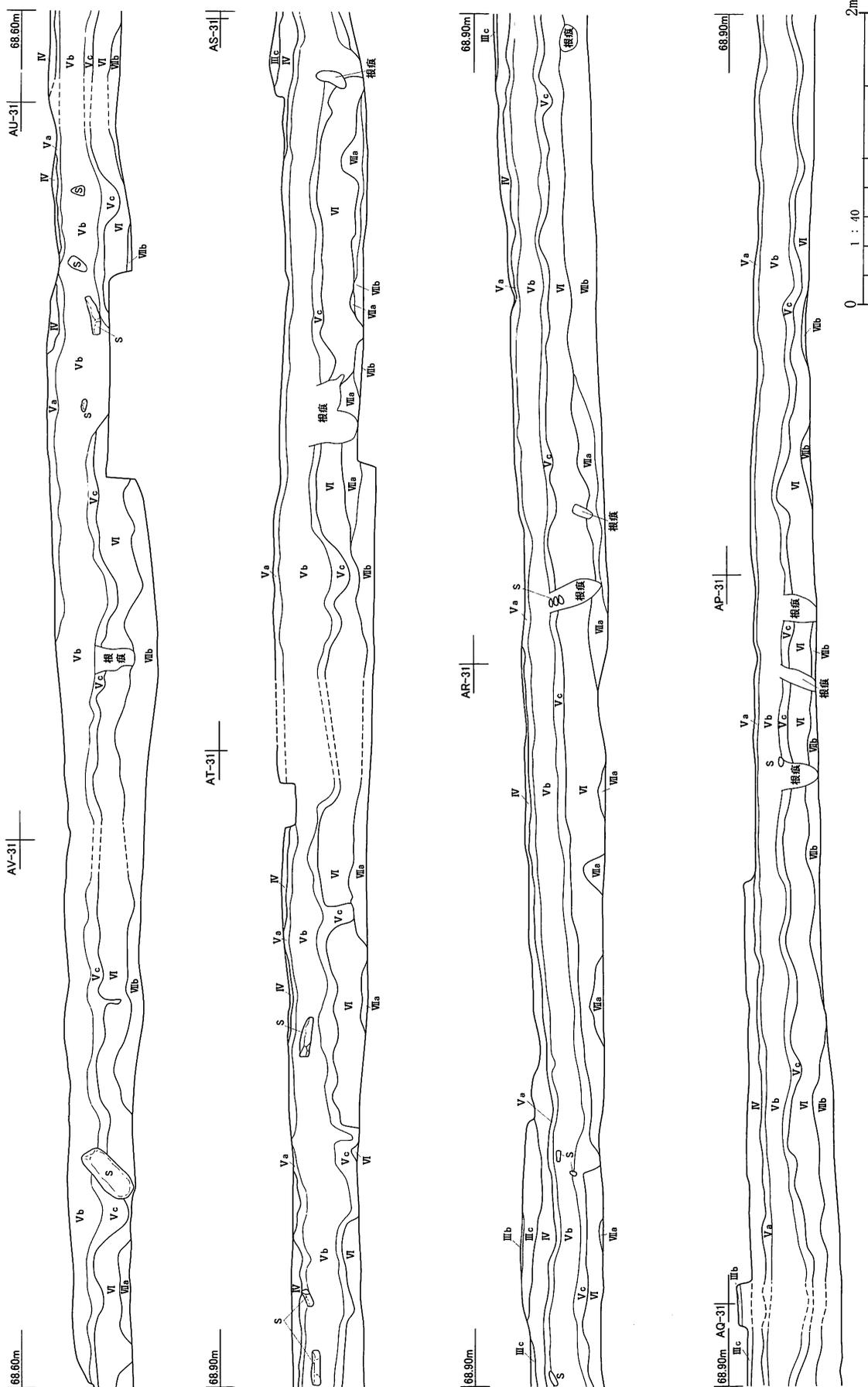


図 I-9 31 ライン南北断面図 (2)

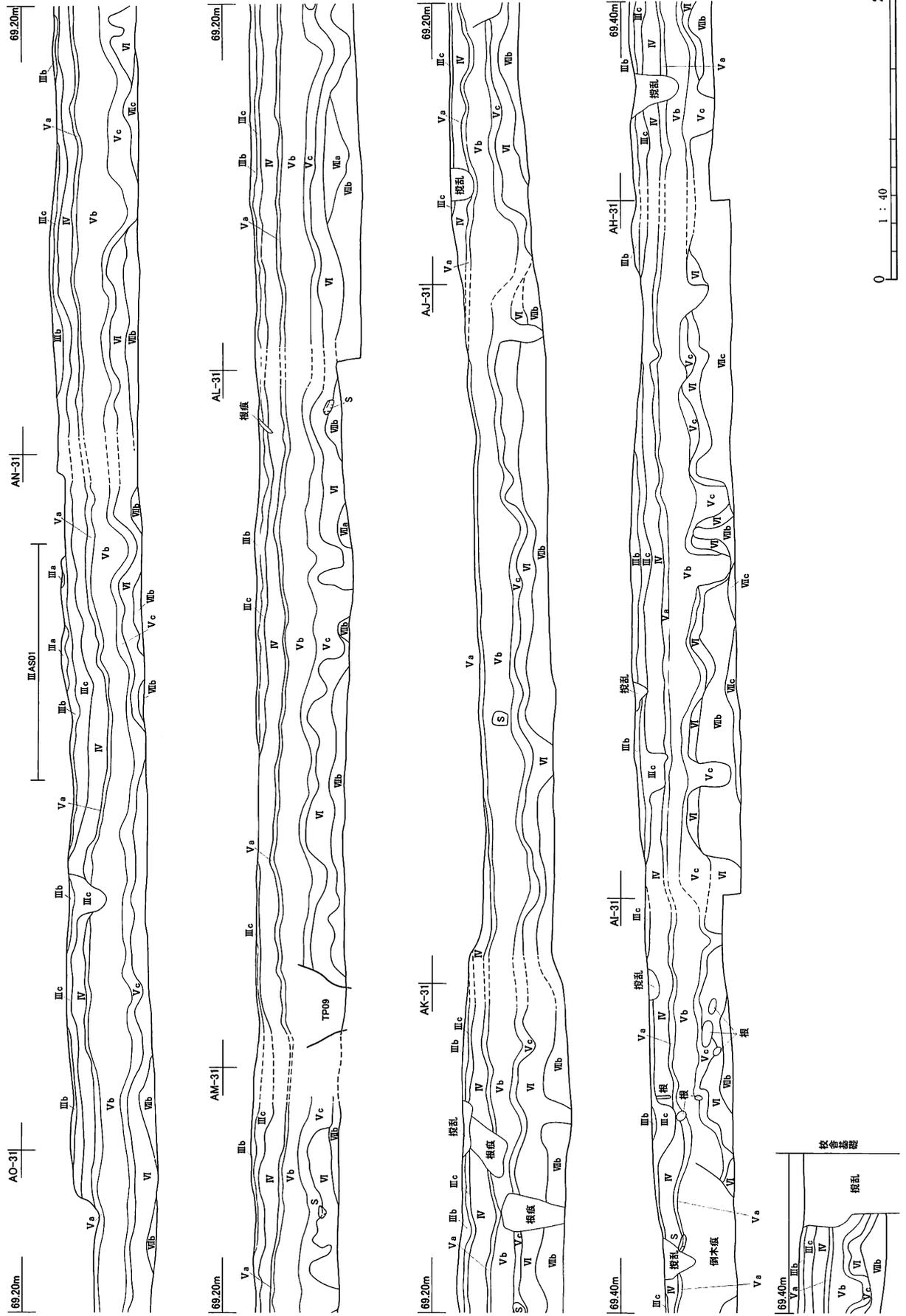


図 I-10 31ライン南北断面図(3)

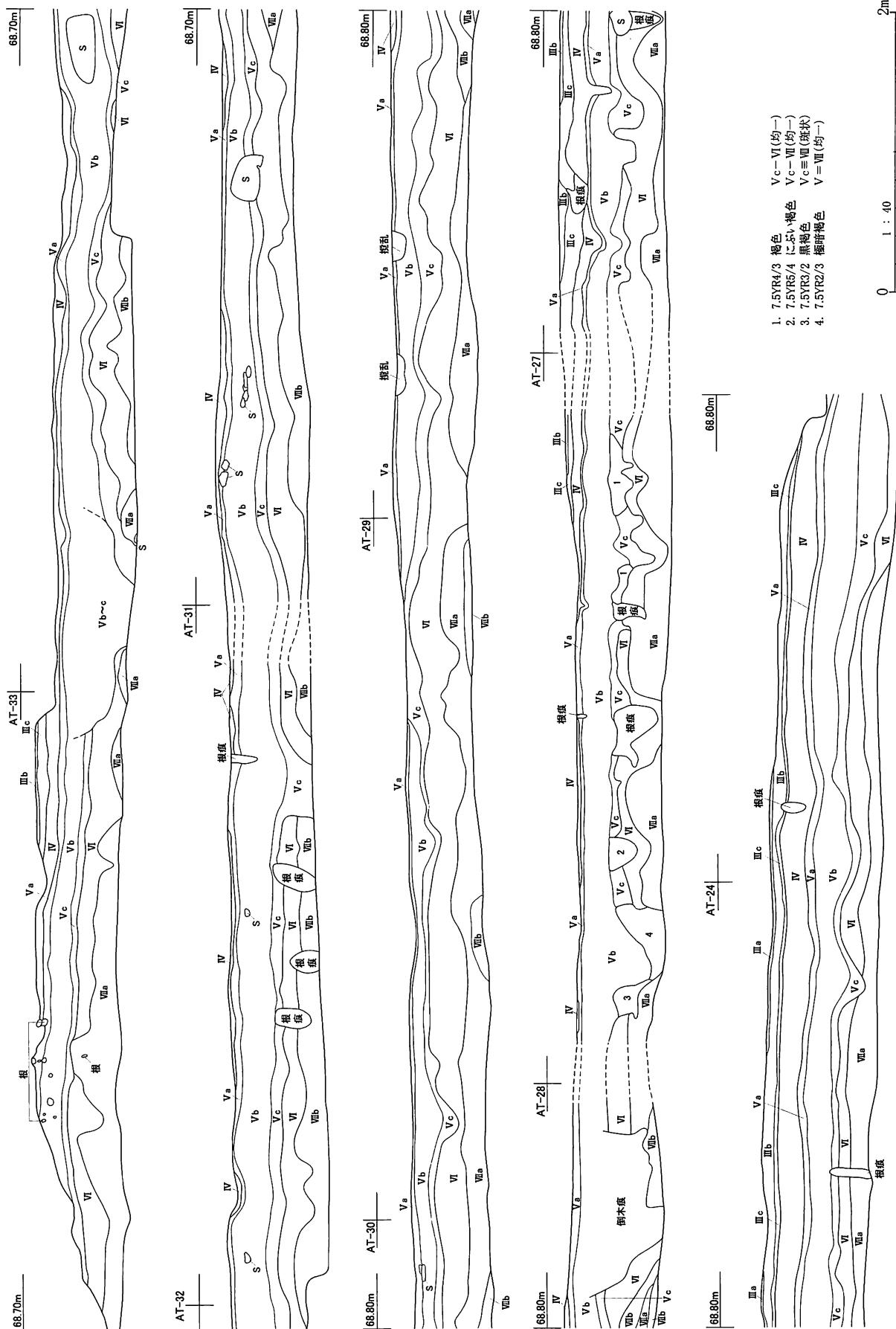


図 I-11 ATライン東西断面図

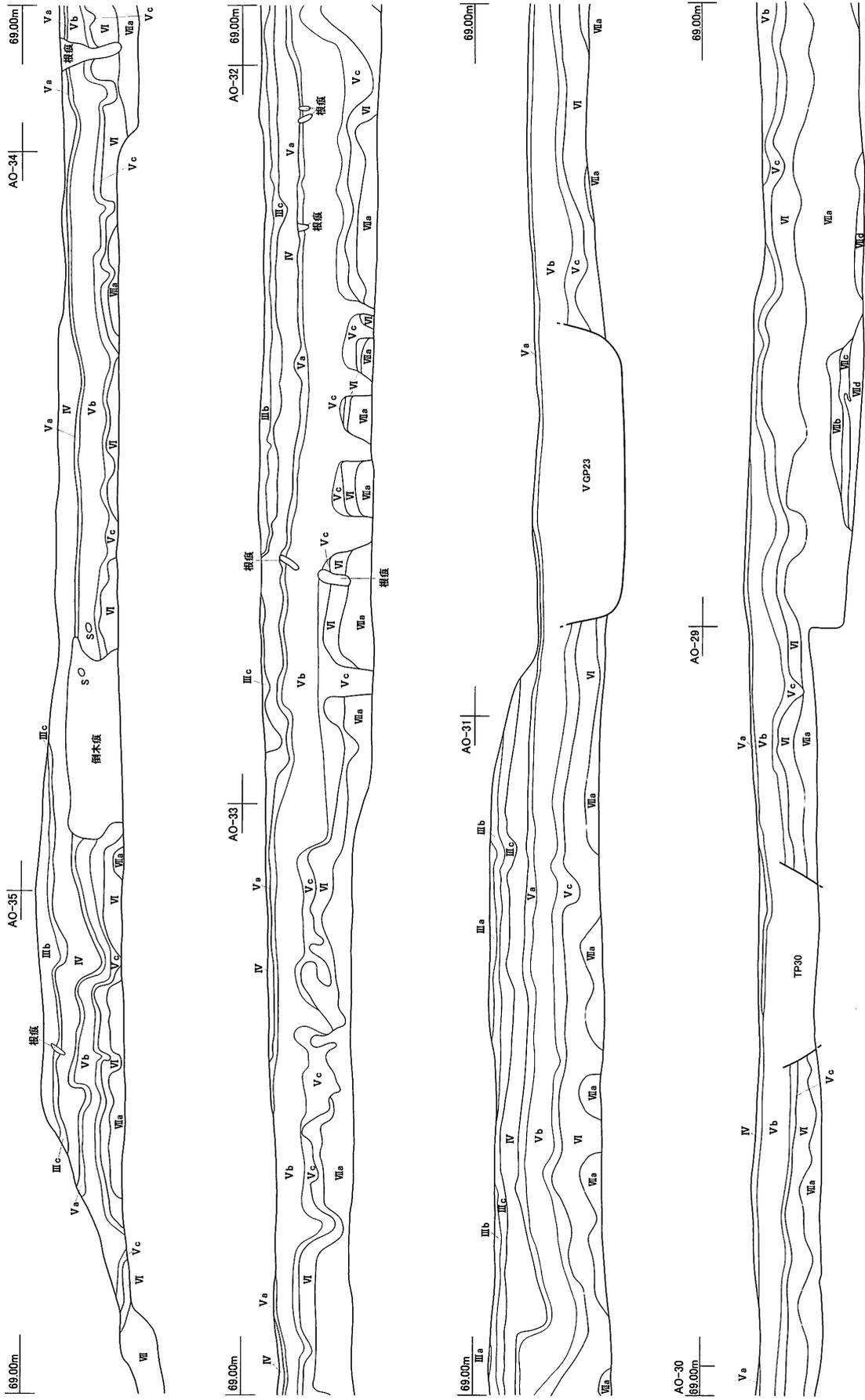


図 I-12 AO ライン東西断面図(1)

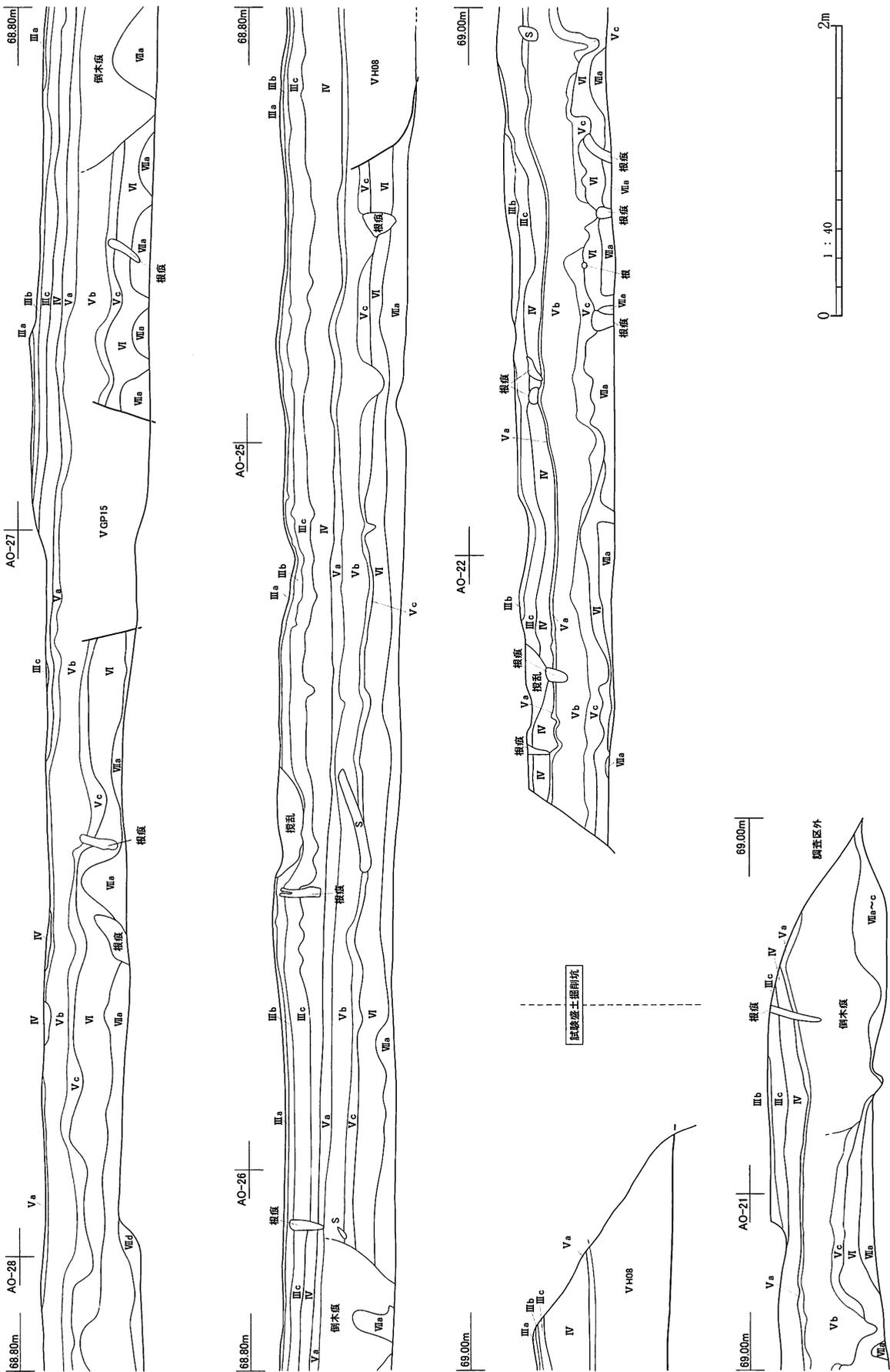


図 I-13 AOライン東西断面図(2)

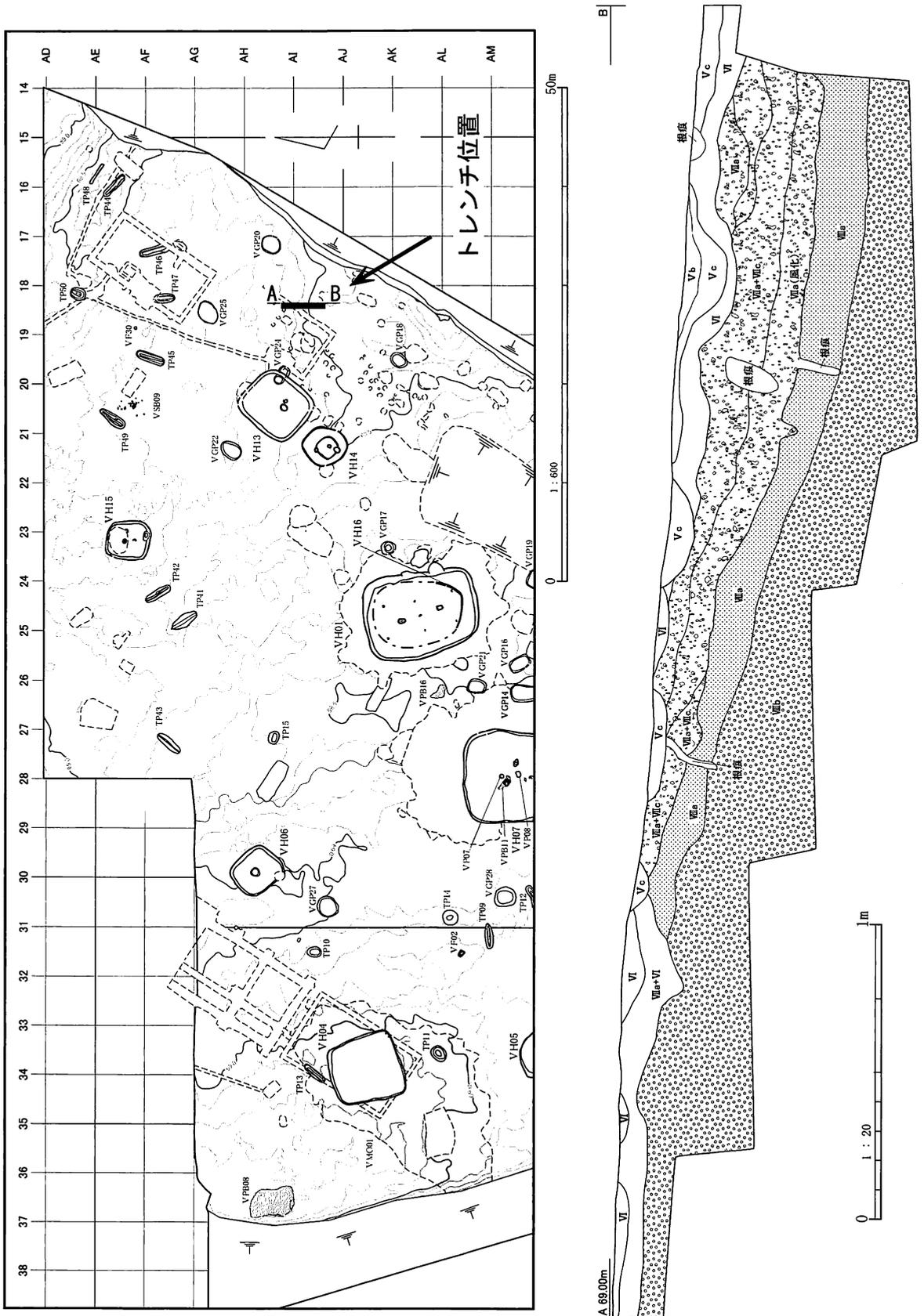


図 I-14 AI-19区Ta-d降下軽石(VII)・再堆積(VIII)層堆積断面・トレンチ位置図

第Ⅱ章 アイヌ文化期の調査

本章で取り扱う遺構及び遺物は、基本的にⅢaからⅢb層中位より出土したものである。Ⅲ層については27ラインから西側とAYラインから南側はかなりの範囲で削平を受け、遺構及び遺物が希薄である。遺構は平地式住居跡1軒（焼土、礫集中、獣骨集中含む）、集中区2カ所（焼土、灰集中、礫集中、獣骨集中含む）、灰集中2カ所、焼土3カ所、杭列跡1条、道跡1条、礫集中3カ所である。

本章で掲載した遺構については、Ⅲ層黒色土が被覆する厚さから中世アイヌ文化期に帰属すると考えられるが、杭列跡と道跡については明確な帰属時期は不明である。しかし、周辺の遺構・遺物の検出状態から当該期に帰属すると考えられ、本章に掲載している。

遺構については平地式住居跡1軒を調査区中央付近で検出しているが、周辺に灰集中や遺物が密になるなど特徴的な分布は認められない。

遺物については、下層に擦文文化期の包含層があり、帰属時期の分別が困難で、遺構に伴うものや棒状礫、金属製品など明らかに中世アイヌ文化期と判断できるものは本章で、包含層の礫石器に関しては次章のⅢ層包含層出土遺物に掲載している。（奈良）

第1節 住居跡

今回検出した平地式住居跡は1軒である。主体部の北東側、前小屋（セム）の南西側に柱穴列を検出していないが、柱穴列の配置、柱穴内側に出土する棒状礫の分布状態、炉跡との位置関係などから住居跡であると判断した。

ⅢH-01（図Ⅱ-2～7 図版4・5）

位置：AG・AH-25・26区 規模：主体部 580×420cm 付属部 270×400cm

長軸方向：N-54° E 付属遺構：HF01・02 ⅢSB-01・02 ⅢBB-01 検出層位：ⅢbM

確認・調査 調査区北側、AG-25・26区のⅢa層掘削後、Ⅲb層上位で焼骨片と棒状礫が疎らに検出された。このような遺物出土状態から住居跡であることが想定できたため、焼骨片検出プランの長軸状にベルトを設定し、燃焼面の確認をしたところ北東側でもう1カ所の焼土を確認した。調査は礫集中と焼土に被覆土層厚確認用のベルトを残し面的に掘り下げ、礫集中の範囲、焼土燃焼面の検出に努めた。

焼土は住居炉跡と判断したため、調査後にHF01・02としている。炉跡はベルトを残した状態で断面の記録後、ベルトを外して平面の記録を行い、燃焼面のフローテーションサンプル採取を行った。

礫集中は焼土周辺を同一面まで掘り下げると2カ所に主な分布を示していたため、ⅢSB-01・02と付番し図化及び構成礫を取上げた。また、ⅢSB-02の南側に獣骨集中を検出し、同一層であることから住居跡に関連する遺構としてⅢBB-01と付番し同様に記録を行っている。

柱穴調査については、礫集中の分布状態からある程度の壁面柱穴列の配列が想定できたため、礫集中と炉跡を台状に残し住居跡のプランを確認しながら掘り下げた。柱穴はⅢcからV層上面にかけて検出され、全ての記録を行った後、住居跡全体の完掘写真撮影し、調査終了とした。住居跡北側については、この時点で調査区を拡張していなかったため、HP25・27は図上で追加

位置を記録している。また、住居跡東側で擦文土器集中ⅢPB-01が認められたが、住居跡に伴う集石ⅢSB-02と黒色土を挟んで下位に出土したことから、時期が異なりⅢ章で掲載している。

付属炉〔HF01・02〕 先述したように住居跡確認調査で、Ⅲb層上位から少量の焼骨片を確認したため、長軸上にベルトを設定し掘り下げて燃焼面の確認を行った。焼骨片を含む燃焼面はⅢb層中位で、北東-南西軸に2ヵ所の焼土を検出している。周辺の棒状礫出土状態から南西側が入口になると想定されたため、北東側をHF01、南西側をHF02と付番した。

調査はベルトを残した状態で礫集中と合わせて検出写真を撮影し、ベルトに沿ったトレンチを掘削して断面図等の記録を行っている。HF01は上部を攪乱で削平されており、2層は被熱層のみで焼骨片等は含まれていない。一部西側に3層とした焼骨片を含む焼土粒ブロックが認められることから、灰層等の掻き出し残渣の可能性が考えられる。HF02は燃焼面及び上位黒色土に焼骨片を含む(1・2層)。焼土断面はレンズ状で周囲に付帯黒色土も発達している。

本遺構については断面観察で焼土である2層下位に段丘堆積起源と考えられる小礫及び砂層が認められた(4層)。基本土層にはない堆積層であるため、更に掘り下げたところ1cm以下の炭化物を含む弱い焼土(6層)と付帯黒色土を確認した。断面観察から浅い皿状の土坑坑底面に一度焼土を形成し、その後砂礫を敷きつめ、さらに焼土を形成したものと考えられる。

HF02下位の遺構については緩やかな立ち上がりが認められたことから、掘り込みのある炉跡と考えられ、4層の砂分布範囲、6層の炭化物を含む焼土範囲を記録し、掘り込みの完掘を行って調査終了とした。

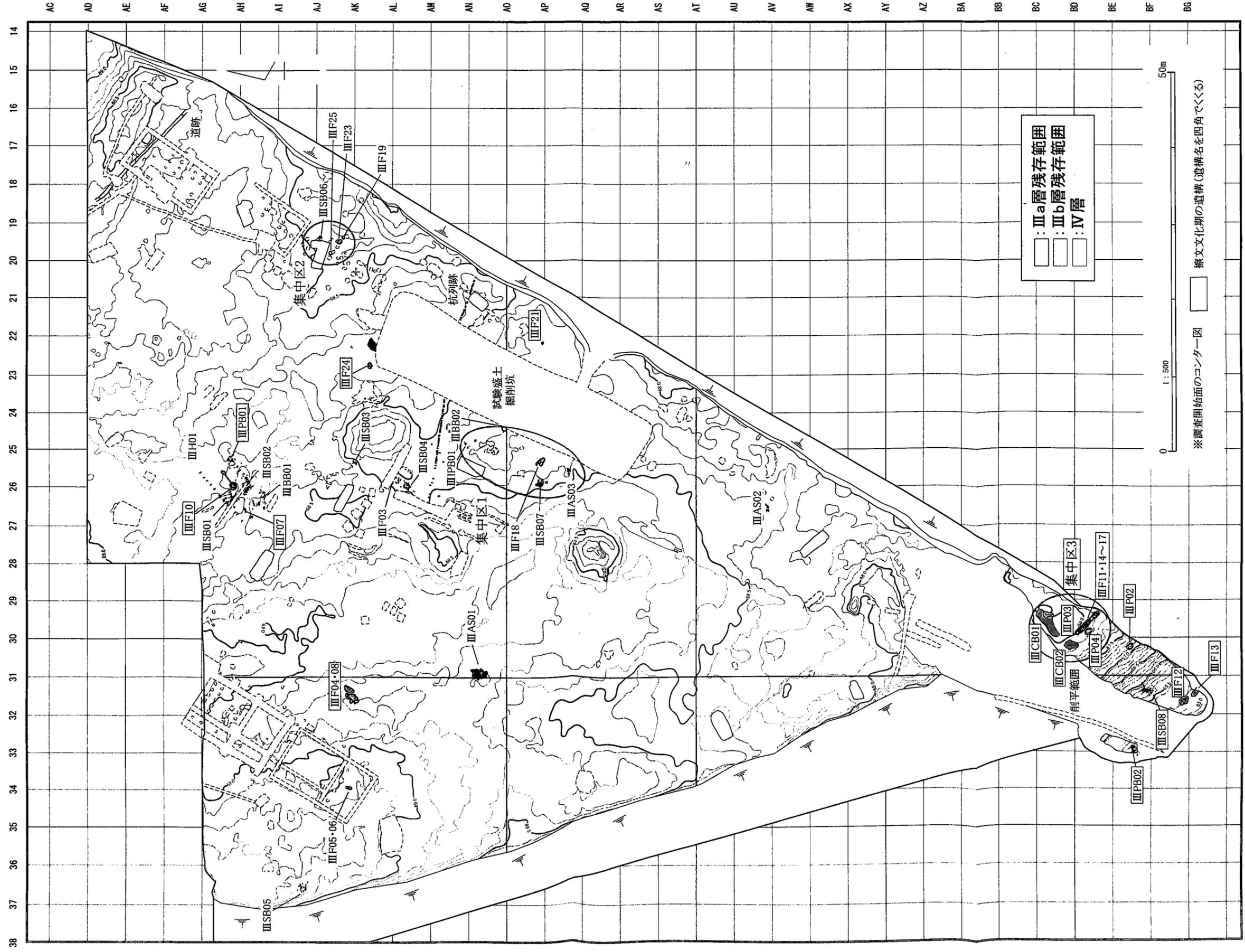
礫集中〔ⅢSB-01・02〕 Ⅲb層上位から中位にかけて棒状礫が比較的まとまった状態で検出した。ベルトを残して被覆する黒色土の厚さ及び分布範囲の確認を行い、炉跡と合わせて検出写真を撮影した。礫の分布は南西側に集中し、炉跡の直線上で途切れるため、西側をⅢSB-01、南東側をⅢSB-02として記録を行っている。礫の分布は直線又は「L」字状になるため住居跡の壁面コーナーに沿った状態で残された可能性が考えられる。

本集中の礫基底面は炉跡(HF02)と同一層位であるため、平地式住居跡に関連する遺構であると判断している。

獣骨集中〔ⅢBB-01〕 ⅢSB-02の南側約1.3m地点でシカの遊離歯冠部を主体とした集中を検出したためⅢBB-01とした。被覆する黒色土の層厚確認のためベルトを設定し、分布範囲の確認を行った。周囲は現代の填圧により硬くしまっており、南西側は削平のため正確な広がり把握できない。調査は遊離歯を台状に残し、酢酸ビニル系樹脂(木工用ボンド)を塗布し強化した。その後、平面位置の記録と個々の出土状態の写真を撮影し、ハンドピック台帳を用いて取り上げを行っている。

本集中は上層を掘り下げてから検出したため、炉跡及び礫集中と被覆する厚さは一概に比較出来ないが、検出層位が同一であること、柱穴の内側に一部広がることから関連遺構とした。本遺構の出土獣骨は動物種別、部位等の同定を委託しており、シカの上顎歯が主体を占めることが明らかとなっている(第Ⅴ章第2節参照)。

柱穴〔HP〕 炉跡、礫集中を台状に残し、周囲をⅢc~Ⅳ層上面まで掘り下げ検出確認を行っている。柱穴列は2ヵ所の炉跡が長軸に並行すること、礫集中に沿うことが予想されたためスタッフを用いて距離を想定し検出に努めた。柱穴は径10cm前後を主体とし、60~70cm間隔



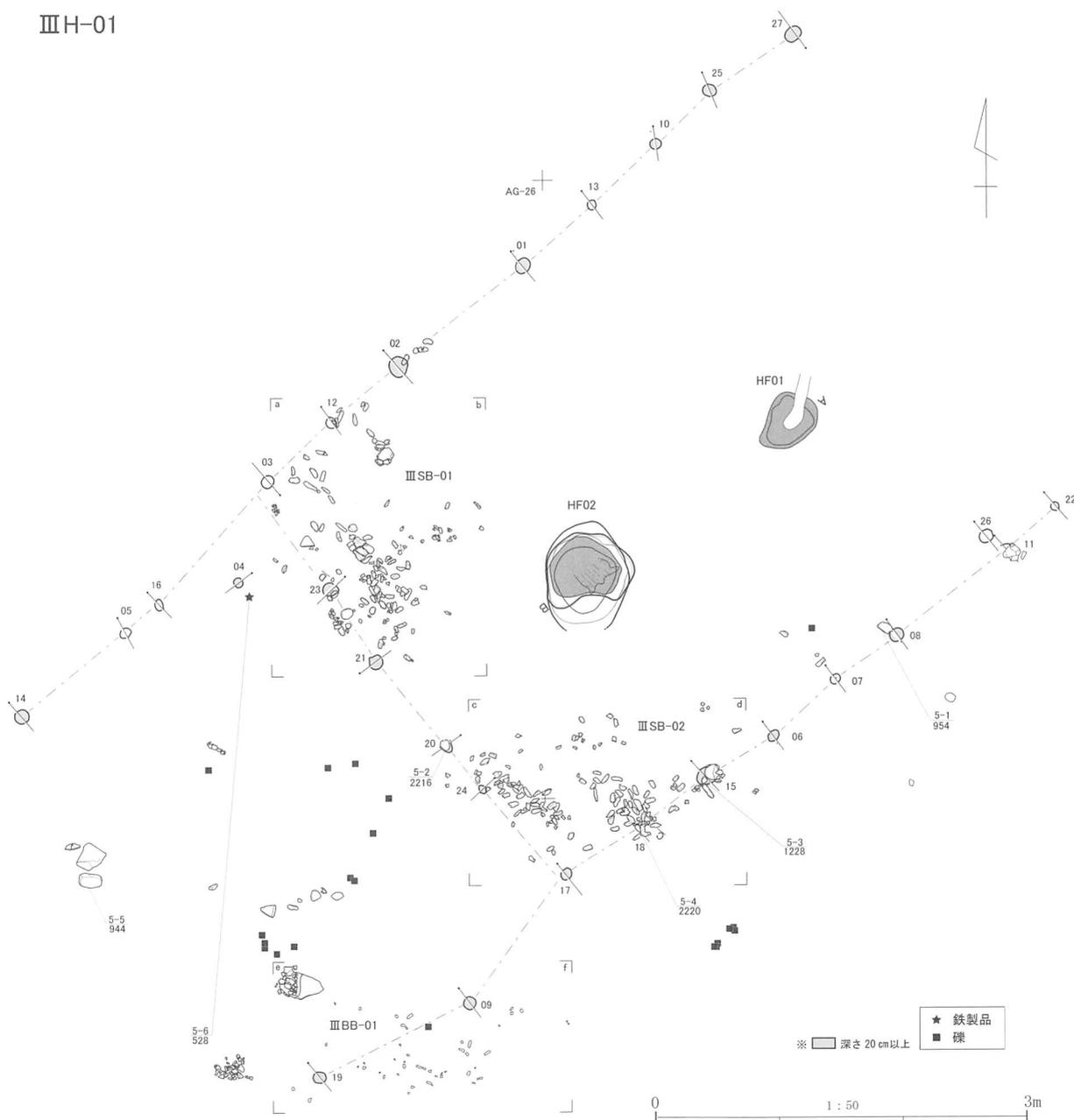
図II-1 III層遺構配置図

で配されている。部分的に棒状礫下位から検出されるもの（図II-3・12・15・18・20・23）があり柱の腐食後、礫が移動した結果と考えられる。北側の柱穴は拡張時にIV層で1ヵ所検出している。柱穴は27本検出し、全て打ち込みで、殆どが住居跡内側に傾く「外踏ん張り」構造である。確認面からの深さは最大のもので56cmあるが、全体としては10~20cmが主体である。堆積はIIIb層が主体でIIIc~IV層が少量から微量に混入している。

住居跡主体部の北東側、南西側の前小屋（セム）側短軸には検出することが出来なかった。

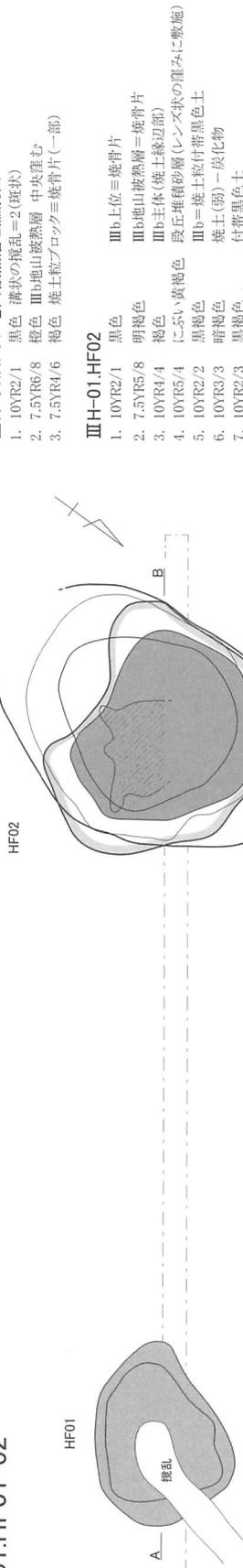
出土遺物（図II-5~7 図版74） 図II-5・1~3はたたき石に分類したもので、1は扁平の礫を素材とし、縁辺に敲打痕が認められる。石材は火打石として用いられる石英片岩であるが、打ち欠きによる剥離が認められない。2は扁平亜角礫を素材として、周縁に敲打痕が連続して

IIIH-01



図II-2 IIIH-01 平面図

ⅢH-01.HF01・02



ⅢH-01.HF01 地山被熱層と燃焼面

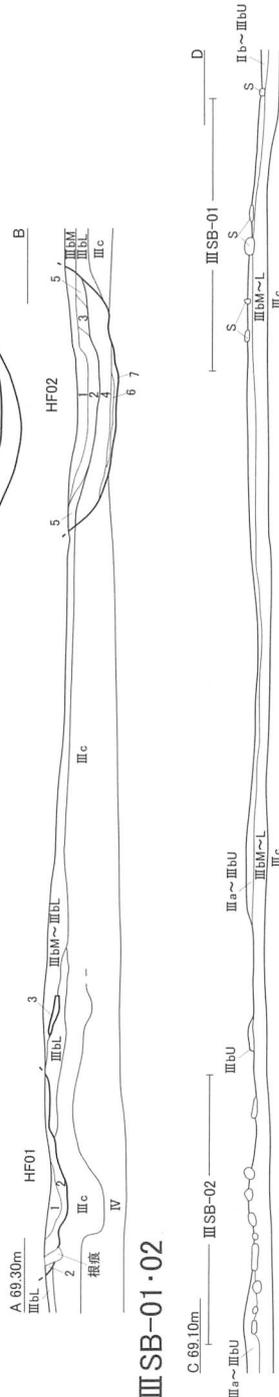
1. 10YR2/1 黒色 薄井の擾乱=2(班状)
2. 7.5YR6/8 橙色 Ⅲb地山被熱層 中央窪む
3. 7.5YR4/6 褐色 焼土粒アロック≒焼骨片(一部)

ⅢH-01.HF02

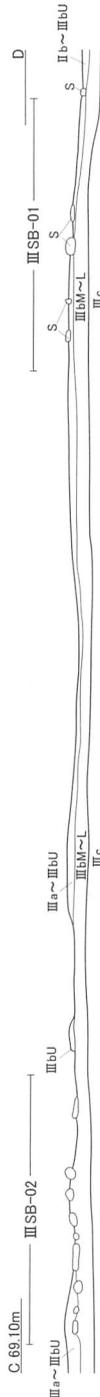
1. 10YR2/1 黒色 Ⅲb上位≒焼骨片
2. 7.5YR5/8 明褐色 Ⅲb地山被熱層=焼骨片
3. 10YR4/4 褐色 Ⅲb主体(焼土縁辺部)
4. 10YR5/4 におい黄褐色 段丘堆積砂層(レンズ状の窪みに散施)
5. 10YR2/2 黒褐色 Ⅲb=焼土粒付帯黒色土
6. 10YR3/3 暗褐色 焼土(弱)一炭化物
7. 10YR2/3 黒褐色 付帯黒色土

ⅢH-01.HP

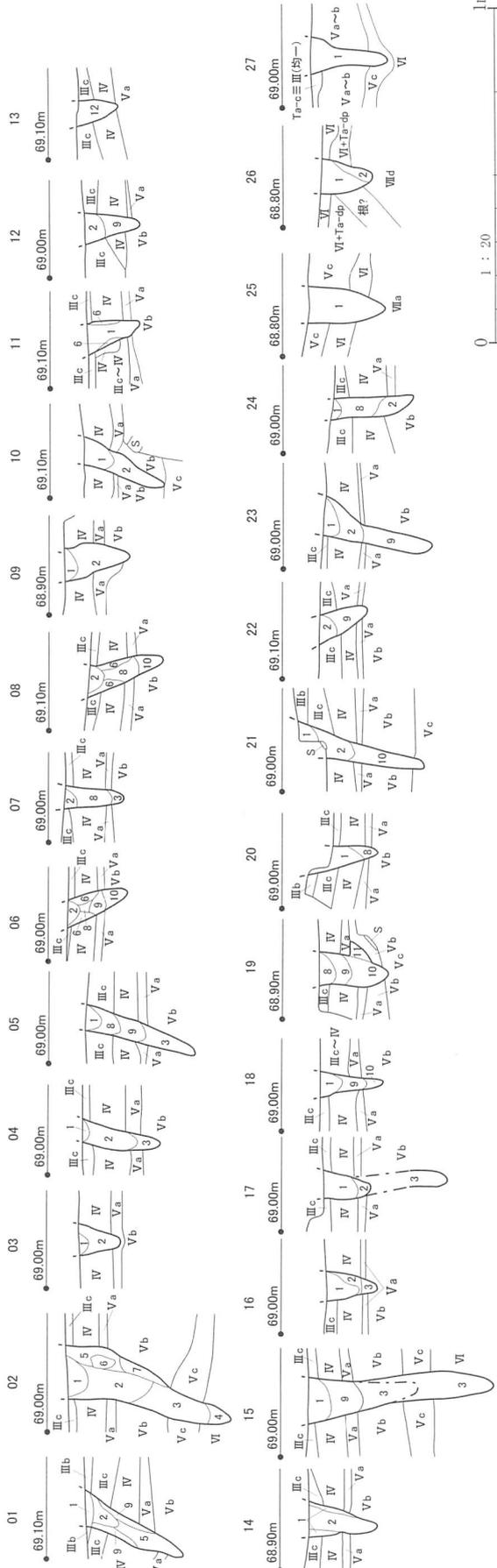
1. 10YR2/1 黒色 Ⅲb≒Ⅳ(均一)
2. 10YR2/2 黒褐色 Ⅲb≒Ⅲc≒Ⅳ(均一)
3. 10YR2/1 黒色 Ⅲb≒Ⅴ(均一)
4. 10YR3/4 暗褐色 V=Ⅴ≒Ⅳ(均一)
5. 10YR2/2 黒褐色 Ⅲb≒Ⅲc≒Ⅳ(均一)
6. 10YR5/6 黄褐色 Ⅳ
7. 10YR2/1 黒色 Vb≒Ⅲb(均一)
8. 10YR3/3 暗褐色 Ⅲc≒Ⅲb(均一)
9. 10YR3/2 黒褐色 Ⅲc≒Ⅳ(均一)
10. 10YR2/2 黒褐色 Ⅲb≒Ⅲc(均一)
11. 10YR3/3 暗褐色 Ⅲb≒Ⅲc(均一)
12. 10YR5/4 におい黄褐色 Ⅲc≒Ⅳ(均一)



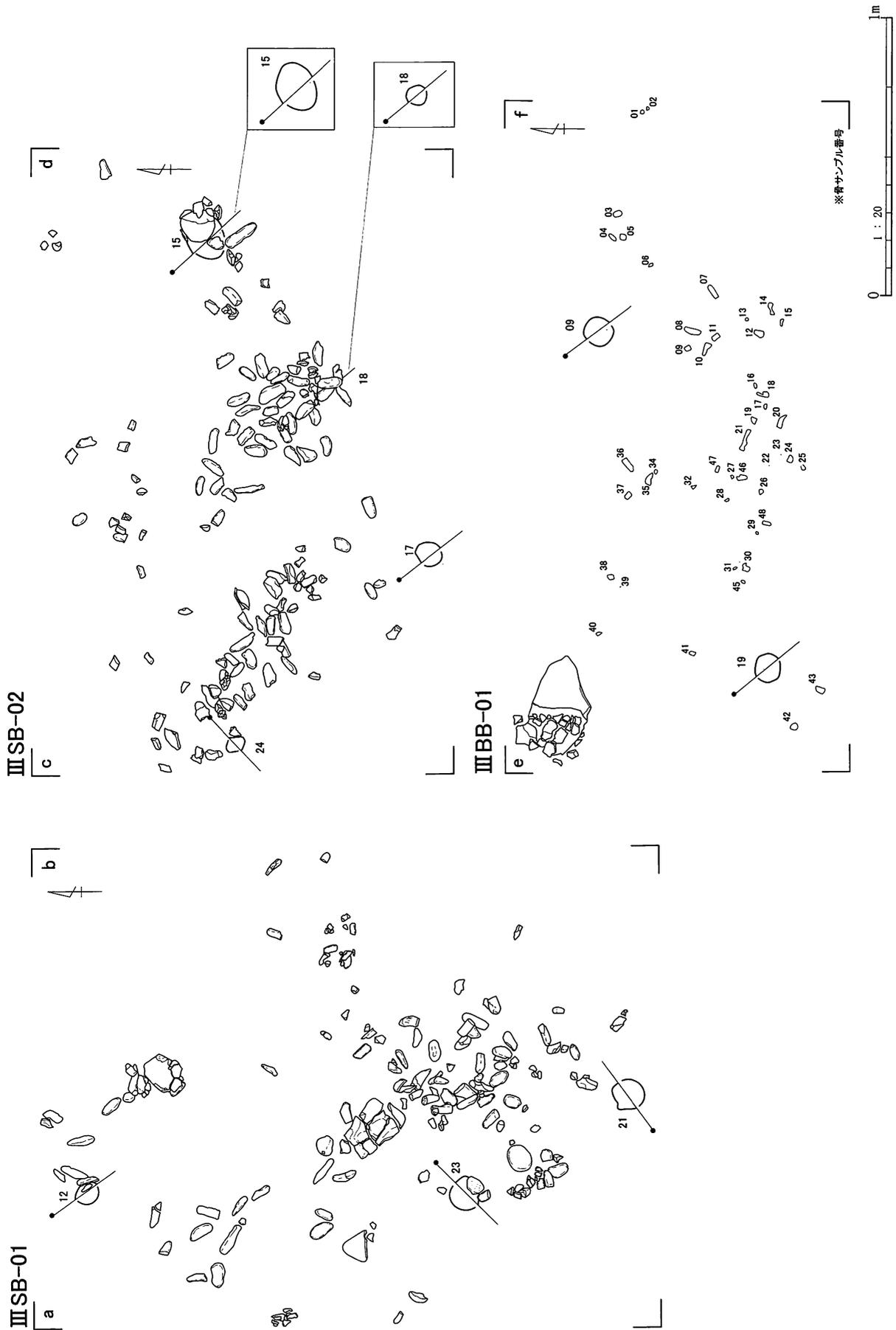
ⅢSB-01・02



ⅢH-01.HP



図Ⅱ-3 ⅢH-01 付属 HF・HP・ⅢSB 平面及び断面図



図II-4 IIIH-01付属III SB・III BB平面図

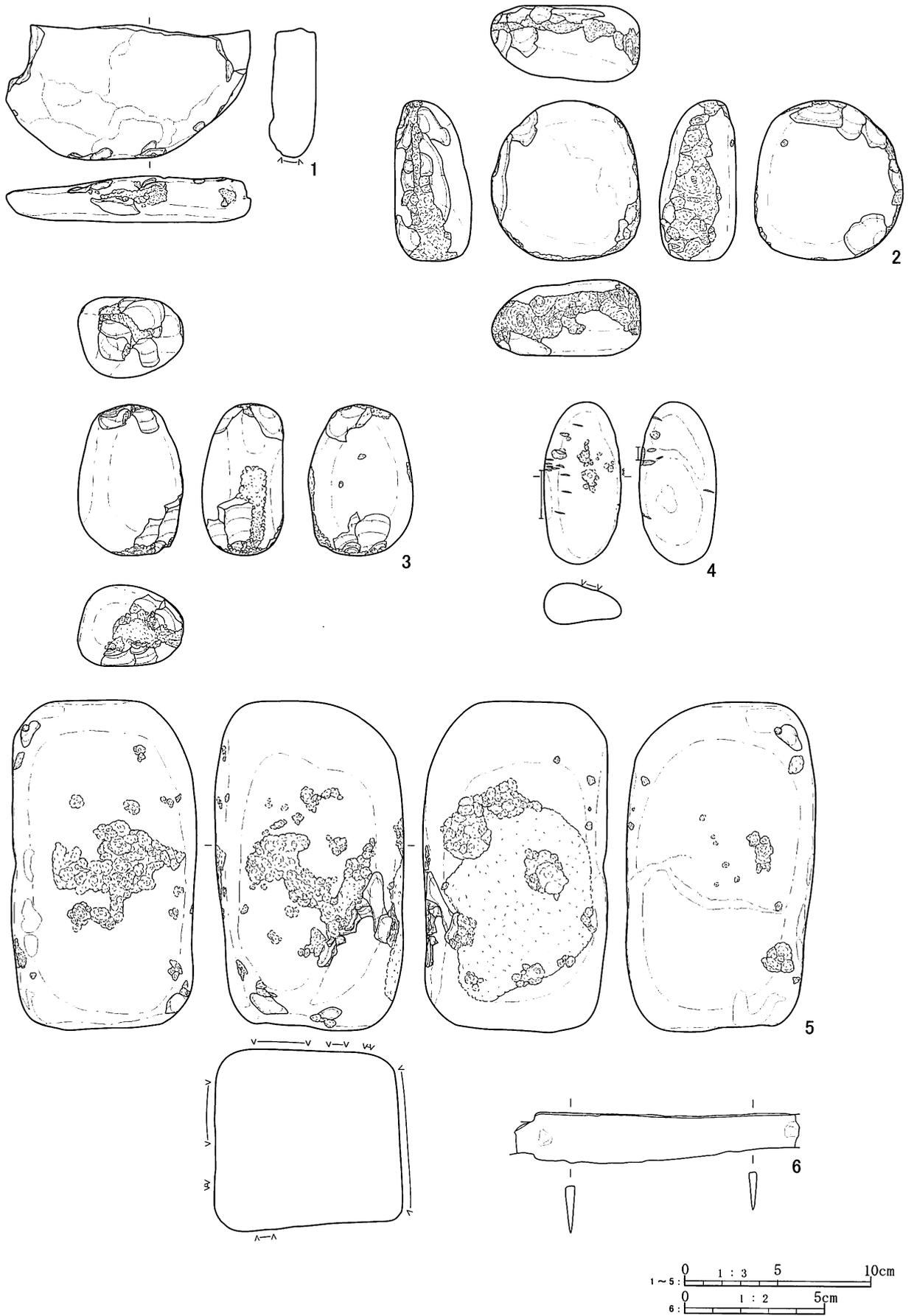
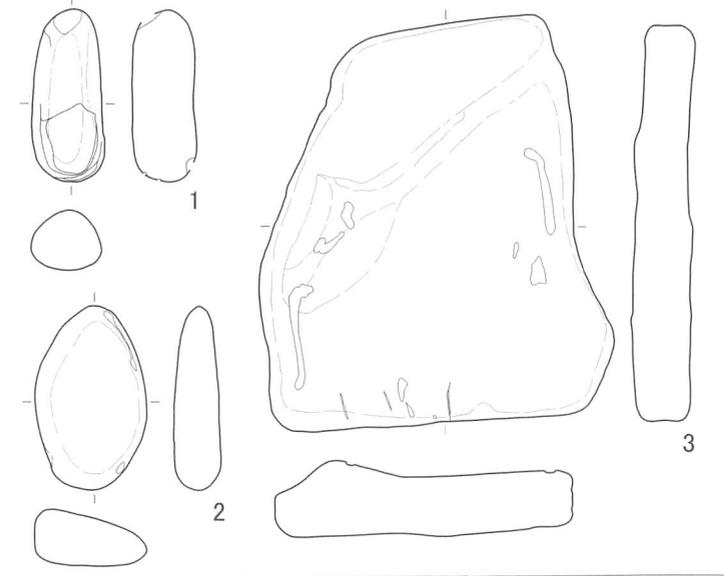
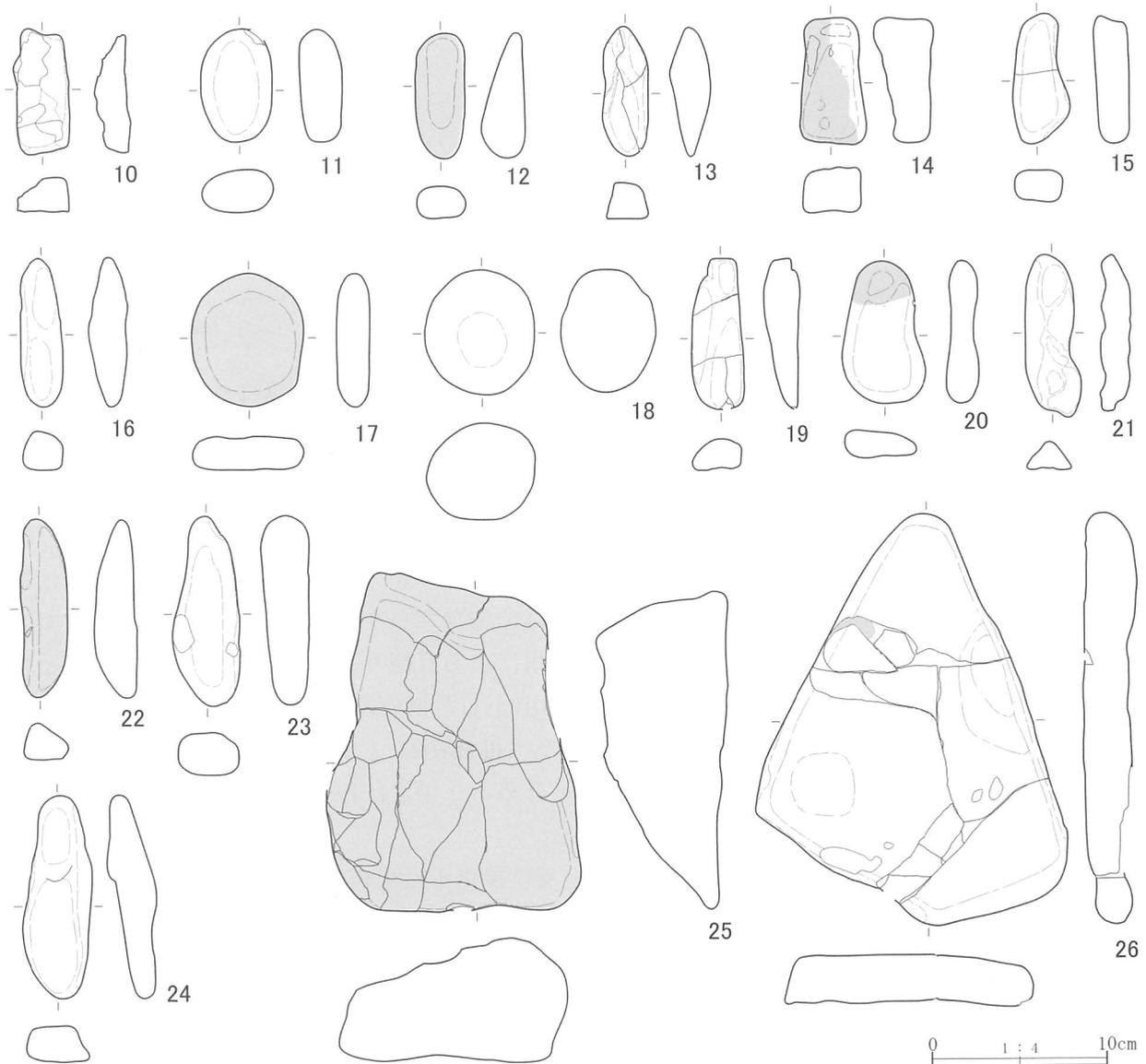
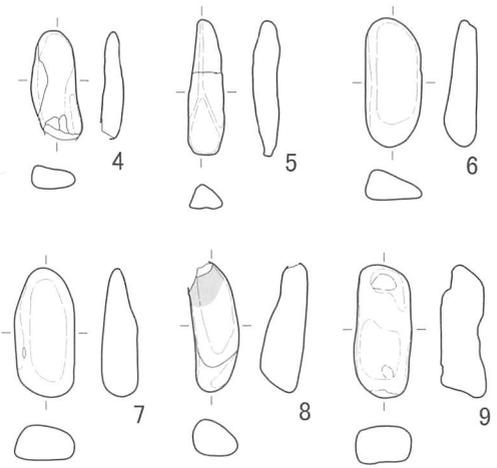


図 II-5 IIIH-01 出土遺物

ⅢH-01

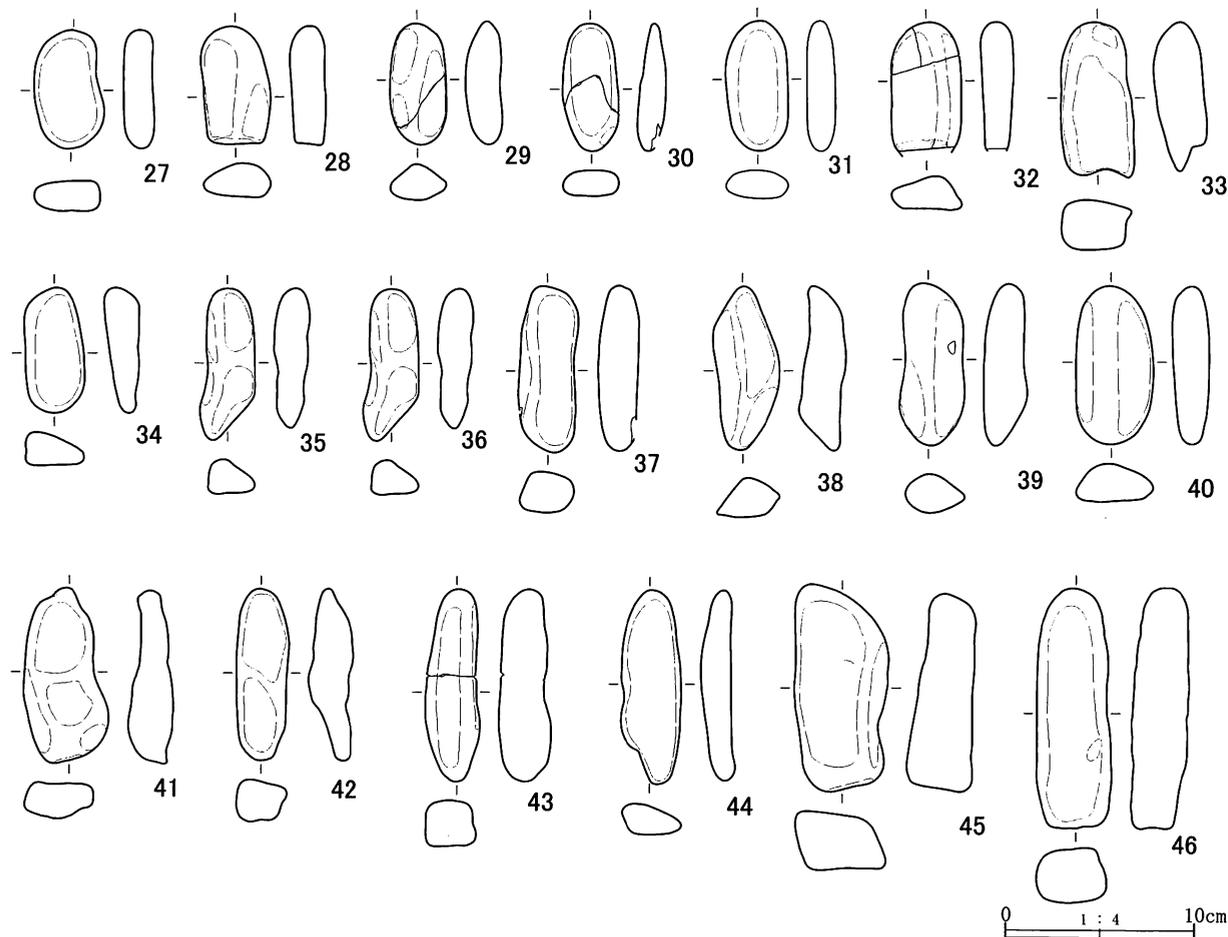


ⅢSB-01



図Ⅱ-6 ⅢH-01・ⅢSB-01 出土礫

ⅢSB-02



図Ⅱ-7 ⅢH-01・ⅢSB-02 出土礫

確認される。3は棒状礫を素材としたたたき石で、端部、縁辺部に顕著な敲打痕が認められる。

住居跡より出土したたたき石はいずれも素材の縁辺部を利用する共通点がある。4は両面及び側縁に浅い敲打と線条痕、弱い擦痕が認められる。線条痕断面は「V」字状になり、先端が鋭利な対象物であったと想定できる。石材は凝灰岩である。5は全面使用されている台石である。厚みのある方形礫を素材とし、浅い敲打痕が中央付近に認められる。6は刀子で切先、茎部分を欠損している。両区で、刃区部分の変換点はややなだらかとなる。刀身部は直線的ではなく、切先方向が緩やかに湾曲することから、使用による目減りもしくは研ぎ直しの結果と思われる。図Ⅱ-6・7 (1~46)は住居及び礫集中から出土した構成礫で、両集中共に長短比が2.3で棒状を呈する。被熱礫は57% (ⅢSB-01)、29% (ⅢSB-02)と割合が高いが、出土地点周囲には焼土がないため、別地点で被熱した事実にとどめる。中には板状礫が認められるため、台石や砥石のために持ち込んだ可能性が考えられる。

時期 時期については、付属炉跡の燃焼面上及び礫集中に黒色土が2~3cm被覆しており、これまで町内で調査を行った中世アイヌ文化期に相当すると思われる。また、HF01よりAMS法C14年代測定を委託し15世紀中葉という年代結果を得ており (第V章第1節)、科学分析からも矛盾しない。
(奈良)

第2節 集中区

本節で集中区として掲載したものは、炉跡及び礫集中が同一層位で検出するが柱穴が伴わず、周辺に比べ遺物分布密度が濃い地点で、一つの活動範囲と捉えたものである。集中区は2ヵ所確認している。現場段階ではそれぞれの遺構としていたが、整理段階で平面の遺物分布状態を改めて精査した結果、集中区1は焼土、礫集中、灰集中、獣骨集中、鉄器集中を含めた約16×7.3mの広範囲を、集中区2は3ヵ所の焼土と礫集中を含めた約3×2.5mの範囲を集中区として報告する。以下に詳細について個別に掲載する。(奈良)

集中区1 (図Ⅱ-8~13 図版6・75・76)

位置：AM・AN-24・25・A0~AP-24~26・AQ-25 区 規模：1,656×(728) cm

立地：調査区中央より北東部 東側は試験盛土掘削孔によって壊されている。

関連遺構：鉄器集中 III IPB-01 獣骨集中 III BB-02 焼土 III F-18

礫集中 III SB-07 灰集中 III AS-03

確認・調査 調査区東側の現道下より検出した。道路の盛土と攪乱層を除去し、Ta-b層の除去中に礫集中と内耳鉄鍋片が出土した。重機による掘削はこの段階で中止し、人力によってTa-b層を除去した。鉄鍋出土位置(III IPB-01)を北限とし、南側に獣骨集中(III BB-02)、礫集中(III SB-07)、焼土(III F-18)、灰集中(III AS-03)を検出した。平面図を作成した後、半截し、写真撮影・堆積状態を実測して遺物を取上げた。これらの遺構の周囲からも多くの礫が出土しているが、まとめて出土したものはIII SB-07だけであった。焼土・獣骨集中・灰集中からはフローテーション用のサンプルを採取して、調査を終了した。

全体の平面形は、東側が攪乱によって壊されているが楕円形を呈するものと思われる。鉄鍋出土位置から南端の灰集中III AS-03までは14.4mを測る。鉄鍋出土位置から北側の杭列跡までの距離は約4.0mである。

集中区の南側からたたき石、集中区全体から棒状礫・大型礫が出土した。たたき石は北側からも1点出土している。棒状礫は、III SB-07から出土した棒状礫と類似した形状である。大型礫は最大で20cmを超えるものがあるが、敲き痕・擦り痕等、加工した痕跡は見られなかった。

このうち被熱している礫はわずか5点である。144点出土し、計測値の平均は、長軸71.3mm、短軸35.5mm、厚さ19.5mm、重量は71.8gである(表Ⅱ-10参照)。

焼土〔III F-18〕 (図Ⅱ-9 図版6-3)

位置：A0-25 区 規模：A:53×(36) cm/B:101×58 cm/C:(38)×(30) cm

3ヵ所の焼土が重複している。断面からA→B→Cの順に形成されたことが判った。当初、この焼土の周囲に建物跡の柱穴状の落ち込みを検出したが、トレンチを入れて、断面を確認した結果、明瞭な掘り込み、打ち込みの痕跡は見られなかった。巻末の写真図版(図版5)に調査したトレンチが見られる。

礫集中〔III SB-07〕 (図Ⅱ-9 図版76-2)

位置：A0-25 区 規模：146×96 cm

III F-18の西側約3mの位置から65点の礫がまとめて出土した。加工された痕跡は見られなかった。被熱している礫はわずか3点で、計測値の平均は長軸78.5mm、短軸36.6mm、厚さ

23.8mm、重量は93.0gである(表Ⅱ-10参照)。

獣骨集中〔ⅢBB-02〕(図Ⅱ-9)

位置：AN-24区 規模：75×52cm

東西トレンチ(土層観察用)にかかって検出した。AN-24区に位置する。浅い落ち込みを持ち、炭化材片と共に焼骨片が発見されたが、焼土は検出できなかった。

灰集中〔ⅢAS-03〕(図Ⅱ-9)

位置：AP-25区 規模：45×35cm

集中区1の南端から検出した。上面は道路によって攪乱されており、わずかに焼土・焼骨片・炭化物が見られた。

鉄器集中〔ⅢIPB-01〕(図Ⅱ-9 図版6-4・5)

位置：AM・AN-24区 規模 156×86cm

3ヵ所に散乱した状態で鉄鍋片が出土した。断面図に示したように、鉄鍋の上をⅢa層が被っており、Ⅲb層上位から出土している。底部約半分が欠けており、他から破片は発見されなかったため、故意に打ち欠き、遺棄されたものと思われる。

出土遺物(図Ⅱ-10~13 図版75・76-1・2)

図Ⅱ-10に集中区1から出土した礫石器と鉄器、図Ⅱ-12・13に礫を図示した。図Ⅱ-10-1~4はたたき石で、周辺部に敲打痕を持つ(1~4)。5は板状礫を素材として、片面に滑沢面と線条痕を残す。6は敲打痕が直線状に認められる台石である。7は刀子片で、明瞭な棟を持ち、先端部と基部を欠く。

図Ⅱ-11-8はⅢb層中位から出土した内耳鉄鍋で、断面が丸い内耳をもち、一文字湯口が残されている。丸底から緩やかに胴部に続き、底部と胴部の間には明瞭な稜線は見られない。口縁部は屈曲して内湾気味に外傾し、強く外に張り出す口唇を持つ。厚さは2~3mmと薄く、丁寧な作りである。

図Ⅱ-12・13は集中区1範囲内とⅢSB-07から出土した主に砂岩・泥岩製の礫で、形状はほとんどが棒状をなす。1点(42)のみ扁平な板状である。

性格 ⅢH-01及び関連遺構からは、杭列跡によって分断されている。

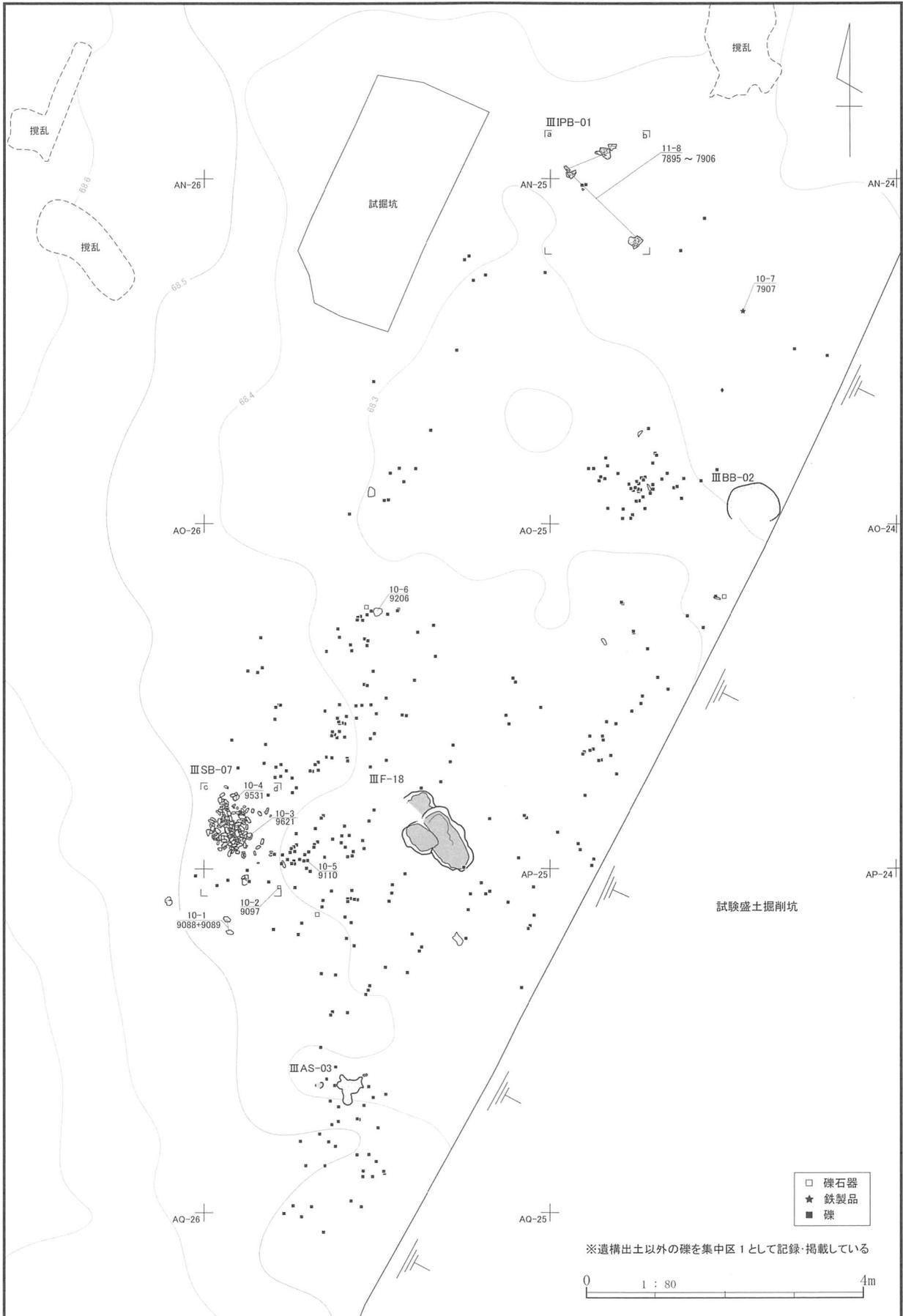
鉄鍋が出土しており、形態より14・15世紀の所産と考えられるが(越田2004)、明確な決め手に欠く。灰集中・焼土・鉄鍋の出土状況から、物送り場の可能性が考えられる。(宮塚)

集中区2(図Ⅱ-14・15 図版7・74-3)

位置：AJ-19区 規模：300×250cm

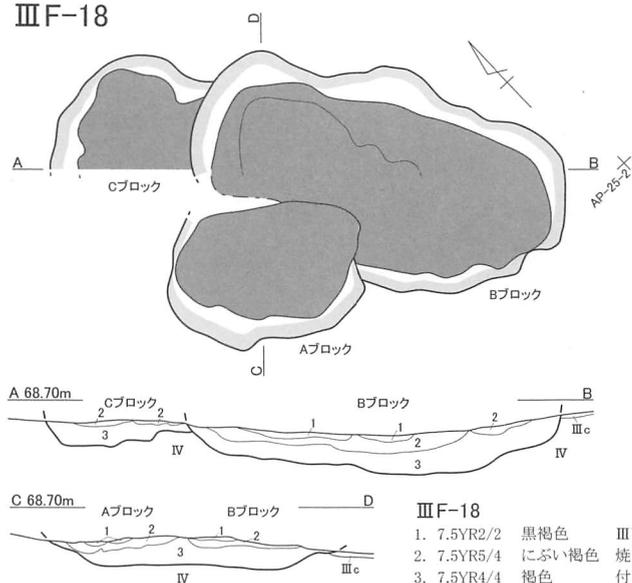
関連遺構：焼土 ⅢF-19・23・25 礫集中 ⅢSB-06

確認・調査 AJ-19区のⅢ層上面をジョレン精査中に棒状礫のまとまりを確認した。ⅢSB-06を付番しⅢb層下位まで掘り下げ全体を検出した。出土状態写真を撮影し微細図を作成した後、取り上げを行った。それと同時に周辺のⅢb層を調査したところ、礫集中から約260cm南に被熱範囲を確認したため、ベルトを設定し周囲の黒色土を掘り下げた。ⅢF-19として検出写真を撮影後、被熱層を半截し断面の記録を行った。さらに周辺をⅢc層まで掘り下げた結果、ⅢF-19の北西方向20cmと192cmの2ヵ所に被熱範囲を確認した。それぞれⅢF-23・25を付番し、ⅢF-19を含めた検出写真を撮影後、半截して断面を記録し調査を終了した。

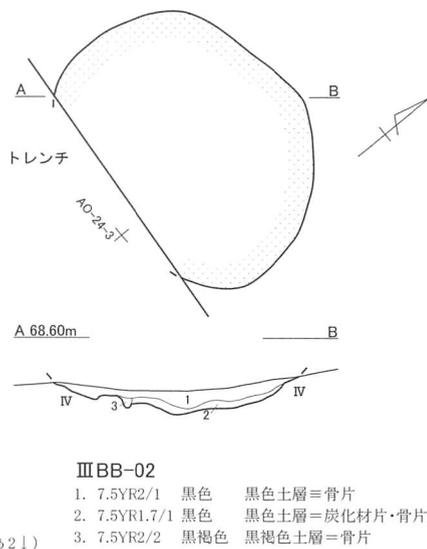


図II-8 集中区1平面図

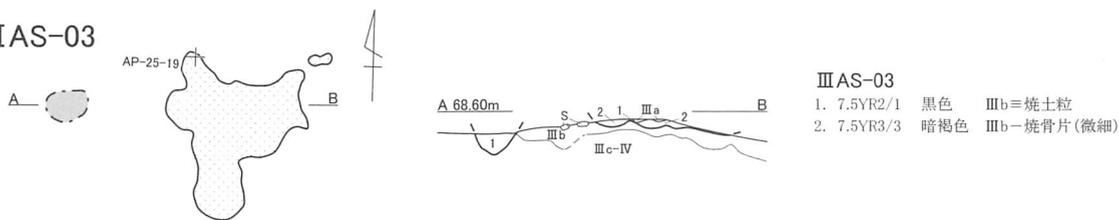
ⅢF-18



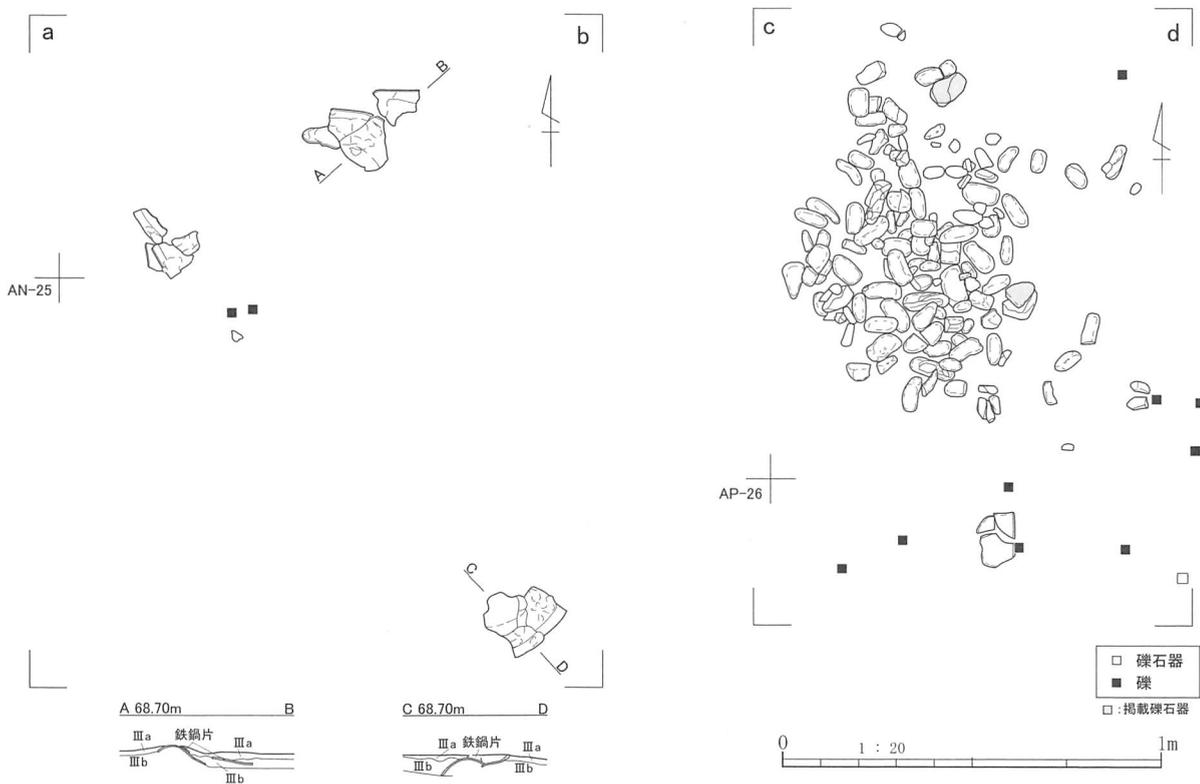
ⅢBB-02



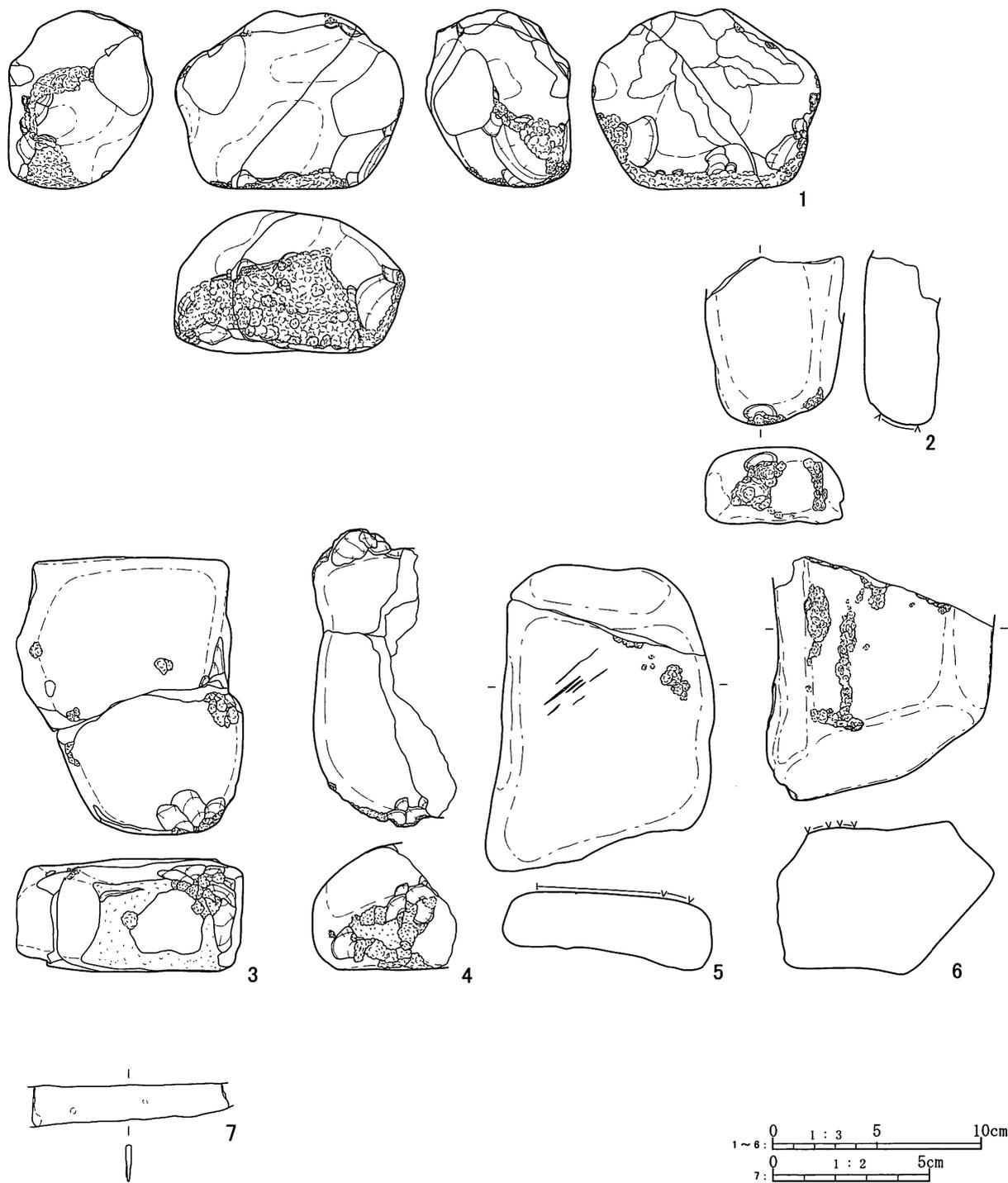
ⅢAS-03



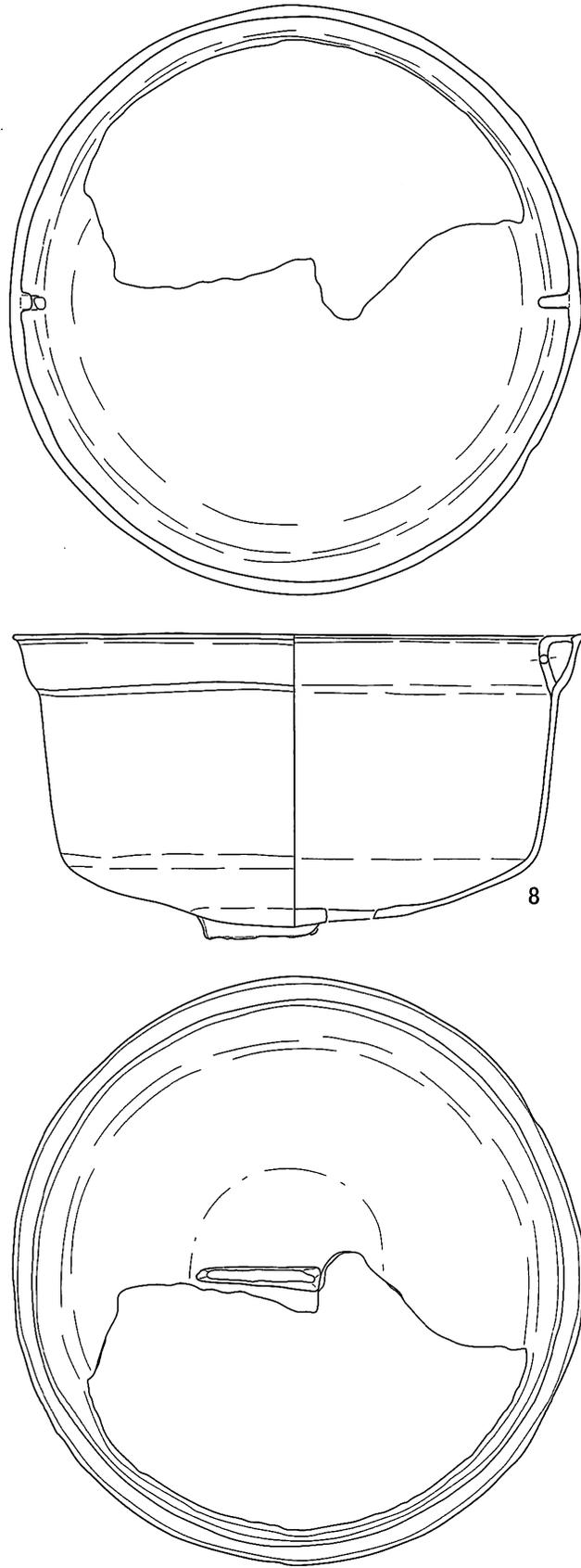
ⅢIPB-01



図Ⅱ-9 集中区1関連遺構平面及び断面図



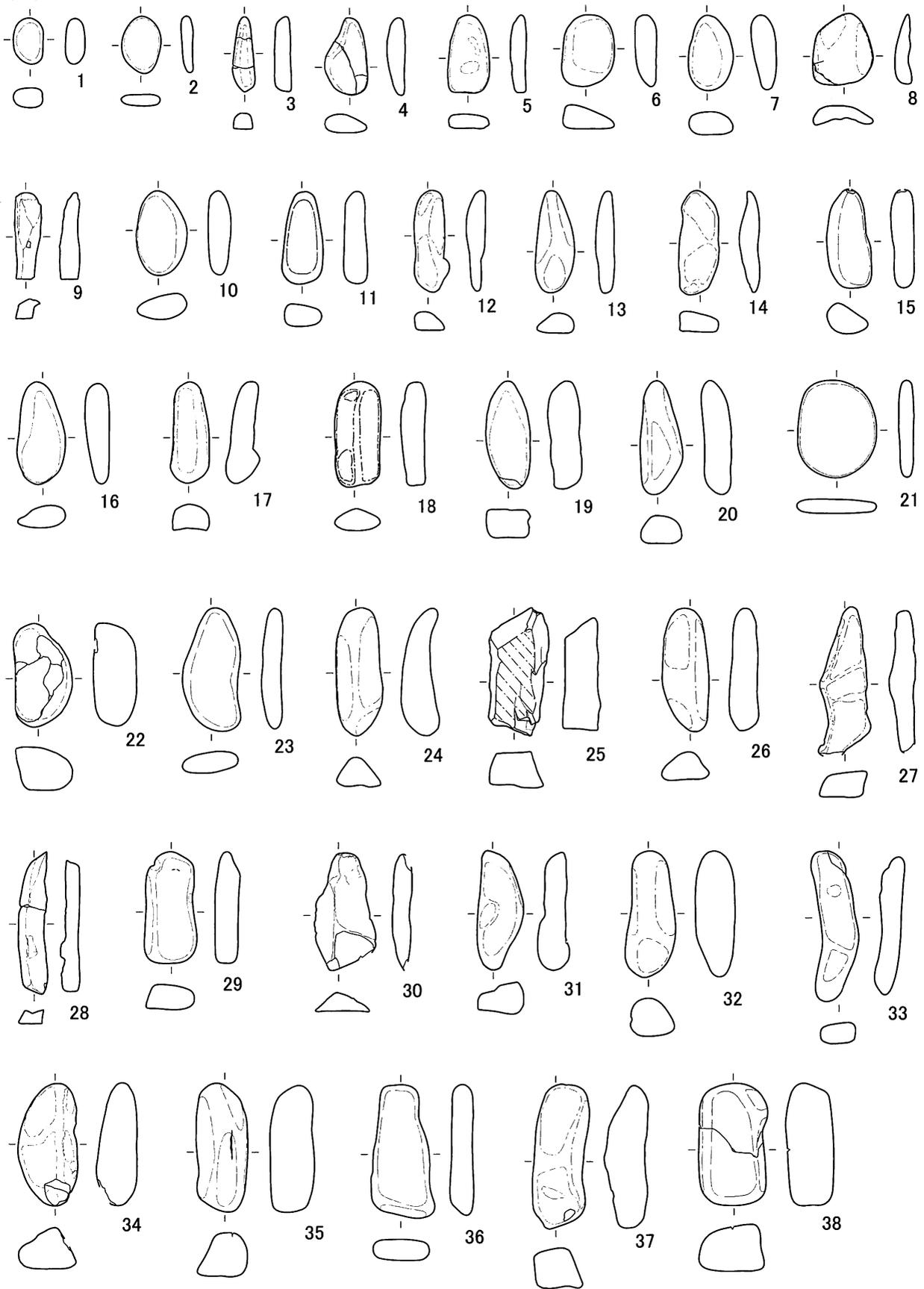
図II-10 集中区1出土遺物(1)



0 1 3 5 10cm

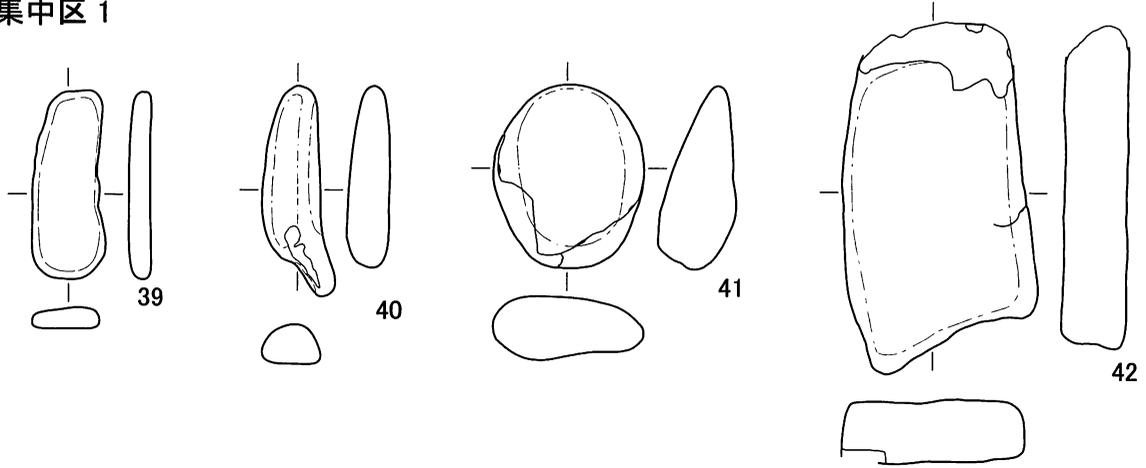
图II-11 集中区1出土遺物(2)

集中区1

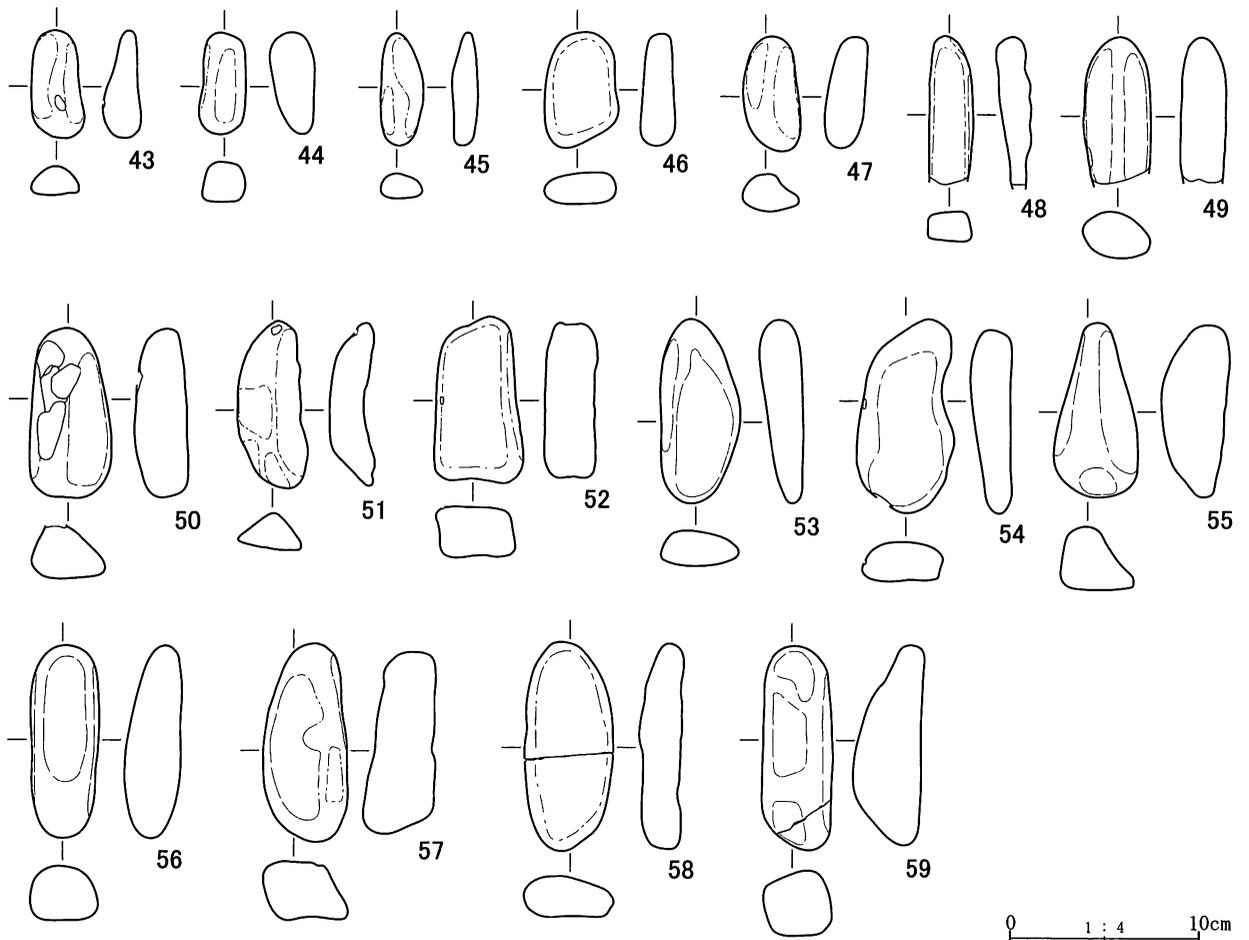


図II-12 集中区1出土礫

集中区1



ⅢSB-07

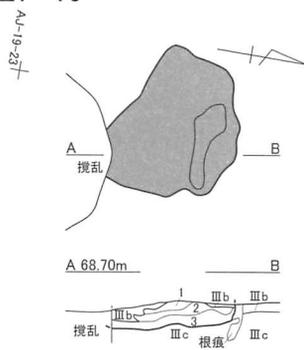


0 1 : 4 10cm

图 II-13 集中区1·ⅢSB-07 出土礫



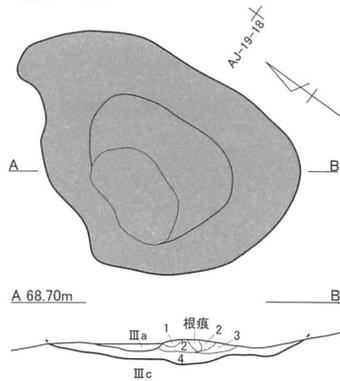
III F-19



III F-19

1. 10YR3/4 暗褐色 IIIb被熱層(弱) - 焼土粒(強)
2. 10YR4/6 褐色 IIIb被熱層(強) = 焼土粒(弱)
3. 10YR2/3 黒褐色 焼土(弱)

III F-23



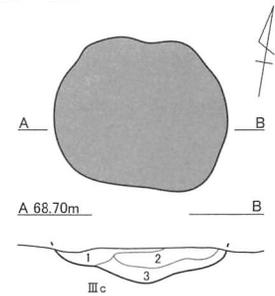
III F-23

1. 10YR4/4 褐色 III層被熱層(強) - IIIb(斑状)
2. 10YR5/8 黄褐色 IIIc被熱層(強)
3. 10YR4/4 褐色 IIIc被熱層(強)
4. 10YR3/2 黒褐色 III層被熱層(弱)

III F-25

1. 10YR5/6 褐色 IIIc被熱層(弱)
2. 10YR4/4 黄褐色 IIIc被熱層(強)
3. 10YR3/4 暗褐色 III層被熱層(弱)

III F-25

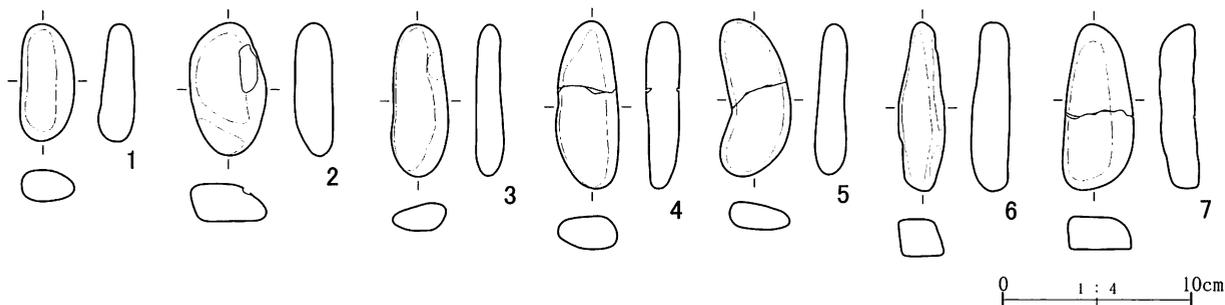


III SB-06



図II-14 集中区2平面及び断面図

ⅢSB-06



図Ⅱ-15 ⅢSB-06 出土燧石

焼土〔ⅢF-19・23・25〕(図Ⅱ-14 図版7-1~7) ⅢF-19・23は平面形が不整形で長軸が40cmと81cm、ⅢF-25は長軸が46cmで楕円形を呈する、いずれも焼骨片等が含まれない焼土である。ⅢF-19については中心の被熱層に焼土粒を含み、周囲に付帯黒色土が見られないこと、被熱層下位が比較的平坦なことからⅢc層まで掘り込んだ状態で形成、掻き出したと思われる。ⅢF-23・25は断面がレンズ状を呈し良好な被熱層が認められる。

燧石集中〔ⅢSB-06〕(図Ⅱ-14 図版7-8・76-3) ⅢSB-06は3カ所の焼土に隣接しているが、出土燧石はいずれも被熱していない。長軸が約6~9cm、長短比率が平均2.4の棒状燧石で構成されている。石材は砂岩が主体である。(宮崎)

第3節 灰集中・焼土

本節で掲載する遺構については、現場段階でベルトを設定し、被覆する黒色土の厚さや検出層位、燃焼面掻き出しの有無等からアイヌ文化期に帰属するものとした。住居跡や集中区に関連する遺構を除くと、包含層で検出した遺構は灰集中2カ所、焼土3カ所である。特徴的な分布は認められないが、集中区を含めるとやや厚真川側にまとまりが認められる。(奈良)

1. 灰集中

ⅢIAS-01 (図Ⅱ-16 図版8-1~4・77-1-1)

位置：AN-30・31区 規模：220×138cm

確認・調査 表土除去中に灰層を確認した。当該地域は攪乱が深くまで及んでおり、Ⅲ層上面は削平され攪乱層を直接被覆していた。攪乱層のみを重機・人力で除去し、堆積状況を確認するための十文字ベルトを残し、灰層上面を精査した。灰層上面には焼骨片が薄く広がり、コイ科の咽頭骨等が発見され、位置と形状を記録した。灰層は2層に分かれ下層は焼土粒を含む。

図Ⅱ-16-1は完形の縫い針で、フローテーション用に採取した土壌の中から発見した。頭部は薄く敲き潰されており、直径0.3mmの針孔がある。青銅製で、被熱している。

灰層から、キビ3粒、タデ科1粒他が回収された(第V章第3節参照)。

性格 灰層下位に焼土粒を含む層は認められたが、焼土の被熱赤色化層・燃焼面は検出できなかった。この地点で生成されたものではなく、他の地点から灰を遺棄した「Ash Dump(灰捨て場)」(Watanabe1972)である可能性が高い。(宮塚)

ⅢAS-02 (図Ⅱ-16 図版 8-5・6)

位置：AU-26区 規模：100×21cm

確認・調査 道路部分の盛土層を除去中に検出した。上半は削平されており、5カ所の灰層を検出した。Ⅲb層に灰が混在している。

性格 ⅢAS-01同様、焼土層・燃焼面が確認できないので、「灰捨て場」と思われる。

(宮塚)

2. 焼土

ⅢF-03 (図Ⅱ-16 図版 8-7・8)

AK-25区の攪乱穴の壁面で弱い被熱層を確認し、焼土と判断した。面的に掘り下げて燃焼面を検出したが、焼骨片等は無くⅢb層中位で被熱層を確認した。南側の同一層でⅢSB-04を検出しているが、他に集中を示す構成が認められないため、単独で掲載した。

ⅢF-05・06 (図Ⅱ-16 図版 8-9)

AJ-33区で包含層Ⅲ層を調査中に、Ⅲc層で焼土燃焼面を検出した。プランから2カ所直線状に配列していることが分かり、平面等の記録後トレンチを設定し断面の確認を行った。被熱層はⅢc層下位まで達し、周囲には付帯黒色土が認められた。焼土が長軸状に並列することから、平地式住居跡の可能性もあるが、柱穴を伴わないため単独の屋外炉として報告する。本遺構については、Ⅲb層中位で微量の焼骨片を確認していたが、調査の不手際により燃焼面を掘り下げてしまい、焼土上層の記録が無い状態であるが、アイヌ文化期に帰属するものと考え本章に掲載する。

(奈良)

第4節 杭列跡

杭列跡1 (図Ⅱ-17~19 図版 9・10-1~8)

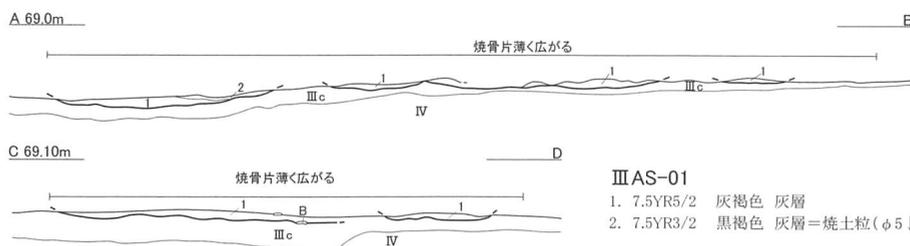
位置：AL-25・26・AN-20・AM-21・23~26区

規模：3,240cm 本数：91本 長軸方向：N-80° W

確認・調査 Ⅲ層調査終了後、遺構確認のためⅣ層上面を精査中、数カ所の円形プランを確認した。半截して断面を観察したところ4本が柱穴であると判断しⅢKP-01~04を付番した。

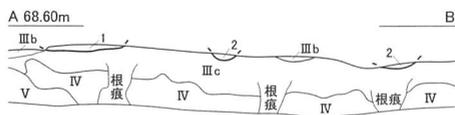
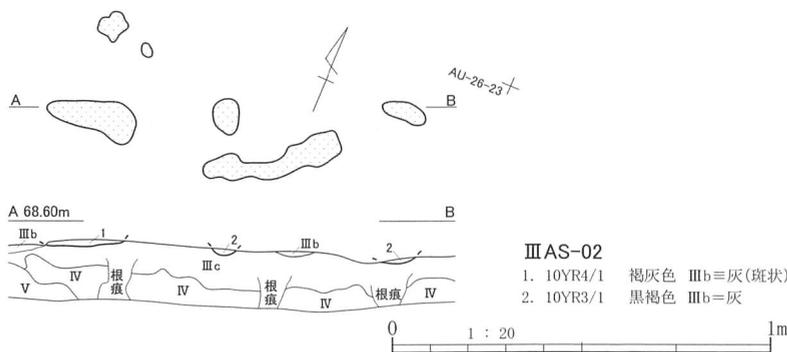
当初、発掘区を東西に分断するように南西-北東軸に進入路があり西側から調査を行っていたため、建物跡を想定してAM-25区周辺を更に精査したところ、延長約10mにわたってⅢKP-02・03を含む直径8cm前後の円形プランを直線状に検出した。全体の検出写真を撮影し、半截した結果、29カ所が直径5~10cm、深さが6~40cmの打ち込み杭と判断出来たためⅢKP-05~33を付番し、土層断面の記録と断面写真撮影を行った後、残る半分を調査して完掘とした。その後、試験盛土掘削坑の対岸、東側の調査を進め、杭列跡が東側に延びることを想定してⅢc層を調査したところ、約10mの試験盛土掘削坑部分は確認不可能であったが、西側柱穴列の直線上に並列した円形プランを確認した。この時点でⅢKP-44~114までを付番し検出面での輪郭を記録した後、半截した。断面観察の結果9カ所については根穴と判明したため欠番とし、柱穴と判断した67カ所の断面の記録を取った後、完掘した。最後に杭列跡の全景を写真撮影して調査を終了した。なお、ⅢKP-01・04・05・33については杭列跡から外れているが、周辺で他の柱穴が検出されていないことから本杭列に関連したものと捉えてここで報告する。

ⅢAS-01



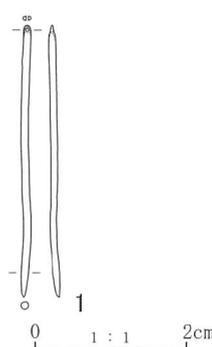
- ⅢAS-01
 1. 7.5YR5/2 灰褐色 灰層
 2. 7.5YR3/2 黒褐色 灰層=焼土粒(φ5↓)

ⅢAS-02

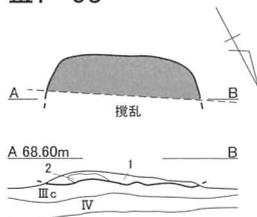


- ⅢAS-02
 1. 10YR4/1 褐灰色 IIIb=灰(斑状)
 2. 10YR3/1 黒褐色 IIIb=灰

ⅢAS-01

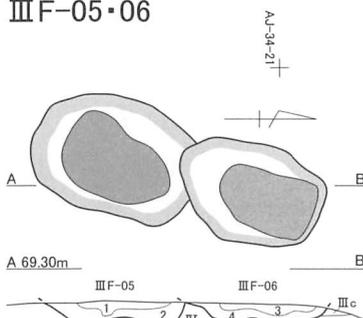


ⅢF-03



- ⅢF-03
 1. 7.5YR3/1 黒褐色 IIIb=焼土
 2. 7.5YR4/4 褐色 IIIb被熱層

ⅢF-05・06



- ⅢF-05・06
 1. 7.5YR6/8 橙色 IIIb被熱層
 2. 10YR3/1 黒褐色 IIIc付帯黒色土
 3. 7.5YR5/6 明褐色 IIIb被熱層
 4. 10YR3/2 黒褐色 IIIc付帯黒色土

図Ⅱ-16 ⅢAS-01・02・ⅢF-03・05・06 平面及び断面図・出土遺物

性格 各杭の確認面での直径は 6cm 前後のものが大半を占め、太いものでも直径 10cm と細く、深さはⅣ層までが 45 本、Ⅳ層とⅤ層の境界付近まで打ち込まれているものが 20 本、Ⅴ層まで達しているものが 26 本である。特にⅢKP-01・03・04 はⅤ層を 20cm 前後の深さまで打ち込まれていた。杭列の形態については、東側は段丘縁辺の手前で途切れており、西側も広範囲に削平され、全体の配置や性格を判断することは困難である。杭列を挟んでそれぞれ約 4m 離れた南北に集中区 1 とⅢSB-04 があり、本杭列跡も中世アイヌ文化期に属する可能性が高いと思われる。

厚真町では平成 24 年に発掘調査を行ったオニキシベ 4 遺跡でも杭列跡を検出している。杭跡の直径の規模と杭同士の間隔はショロマ 1 遺跡の杭列とほぼ同規模であるが、遺物等の出土状況などから擦文後期以降の時期のものと捉えている。また形態については列の長短はあるものの北西から始まる 3 条の列が南東方向で 1 条にまとまる形態で検出されており、オニキシベ 4 遺跡ではシカなどの大型の動物の追い込み猟に使われていたとも想定されている。(宮崎)

第 5 節 道跡 (図Ⅱ-20 図版 10-9~12)

位置：AD-17・18・AE-16・17・AF-16 区

規模：1,544cm (残存部分) × 48cm 長軸方向：N-46° W

道跡は調査区の北東側でⅢc 層調査中、北西-南東軸に帯状の黒色プランを幾つか確認した。当初、建物基礎や攪乱により連続性が不明であったが、精査をしたところ約 15m の直線状に連なったため道跡として平面等の記録を行った。トレンチを 3 ヶ所掘開し、断面観察を行ったところ、いずれもⅣ層にⅢc 層を主体とする黒褐色土が約 8cm 落ち込んで認められた。黒褐色土と底面のⅣ層に締りはないが、プランと断面形態から道跡として報告する。

道跡は 1 条で、段丘縁辺部付近に道跡が形成された可能性があるが、今回の調査ではこれ以外検出していない。時期についてはⅢc 層で確認したため、明確な帰属時期については不明であるが、同町内の厚幌 1 遺跡 (厚真町教育委員会 2013d 以下、厚真町) でアイヌ文化期に帰属する道跡の締りが、Ⅲc~Ⅳ層まで達している事例や、同一段丘面に中世アイヌ文化期の住居跡を検出していることから、同時期に帰属すると考えられる。(奈良)

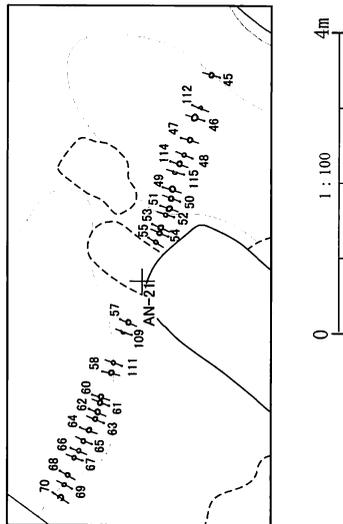
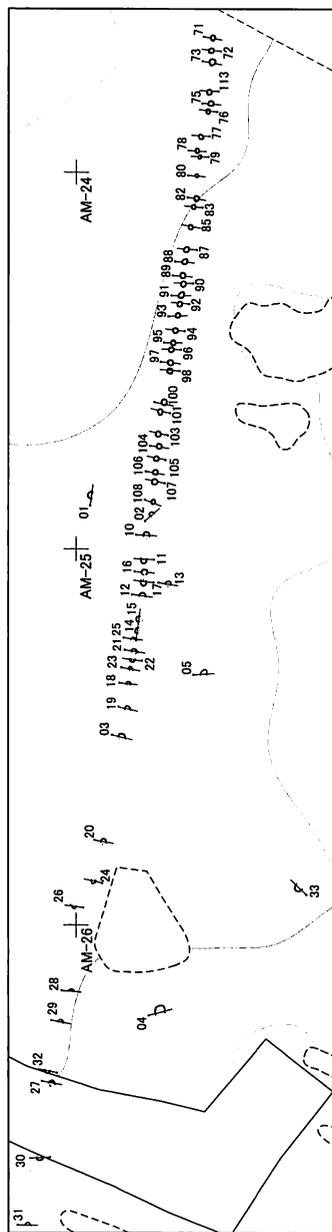
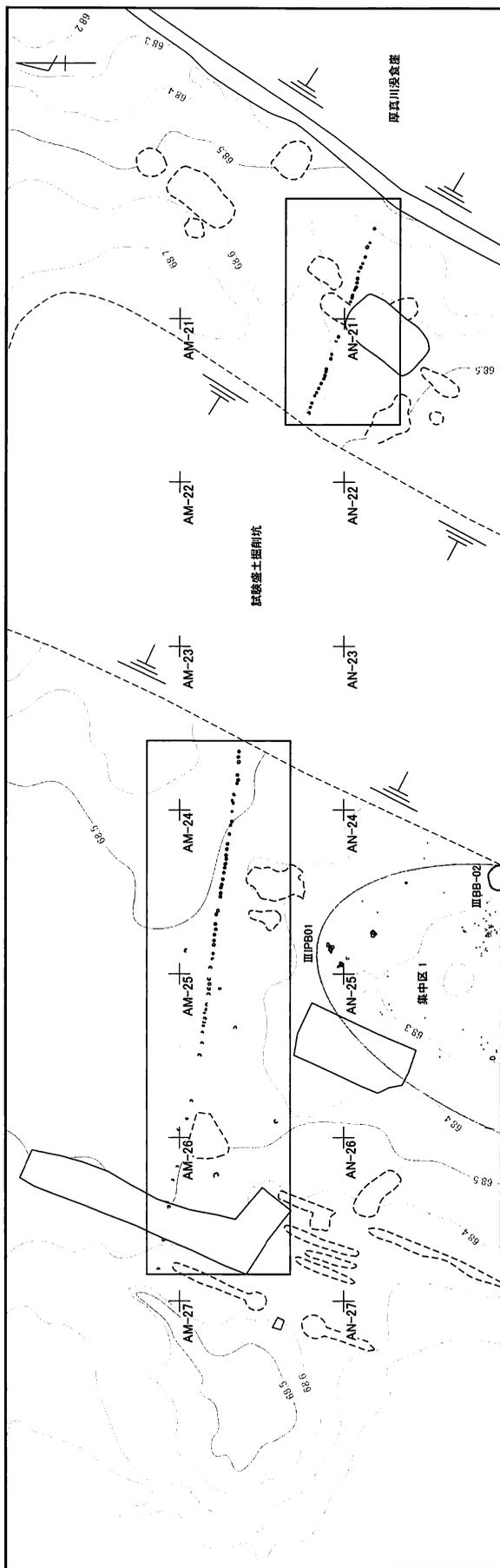
第 6 節 集中出土遺物

本節で掲載する遺構は単独で検出した礫集中 3 ヶ所である。検出層位はいずれもⅢb 層中位であり、棒状礫を主体としている。同一層位からは礫を主体として遺物が疎らに出土しているが、これらの分布とは明らかに異なる密な分布が認められたため礫集中として付番し個別に微細図等の記録を行っている。検出地点はⅢSB-03・04 が調査区中央部のやや北側、ⅢSB-05 は調査区西側で、周囲からは殆ど遺物が出土していない。

ⅢSB-03 (図Ⅱ-21 図版 11-1・2・77-2-1)

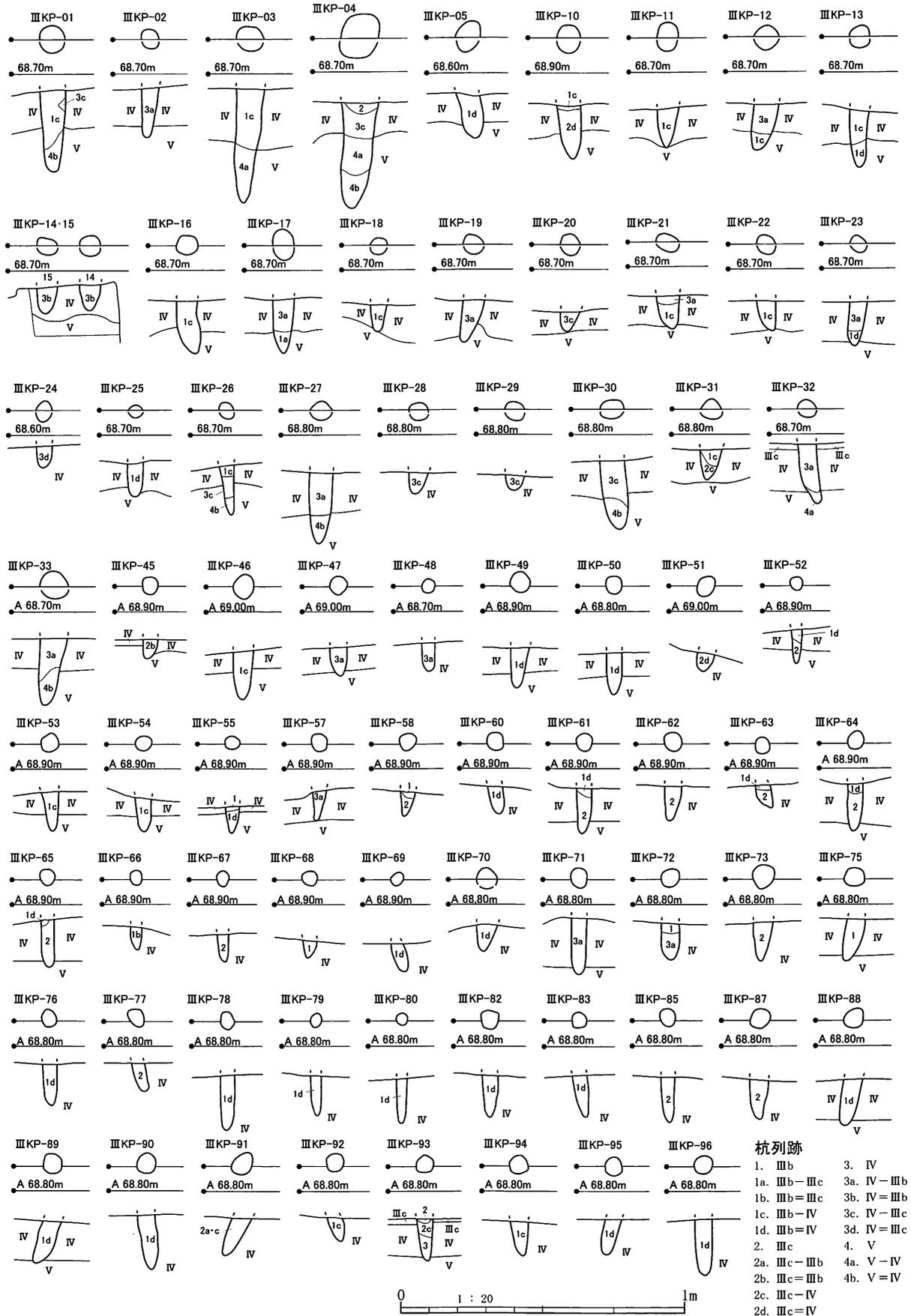
Ⅲb 層調査中、Ⅲb 層中位で棒状礫を検出した。ベルトを残して、周囲を掘り下げると 300×130cm の範囲から棒状礫を主体とする礫集中を確認した。周囲に関連遺構が認められないため、ベルトを外して平面の記録を行った。完形は 13 点で長軸は約 6~9cm、短軸は 2.5~4.5cm の長短比が 2.3 で棒状を呈している。石材は殆どが砂岩で、いずれも被熱していない。(奈良)

杭列跡

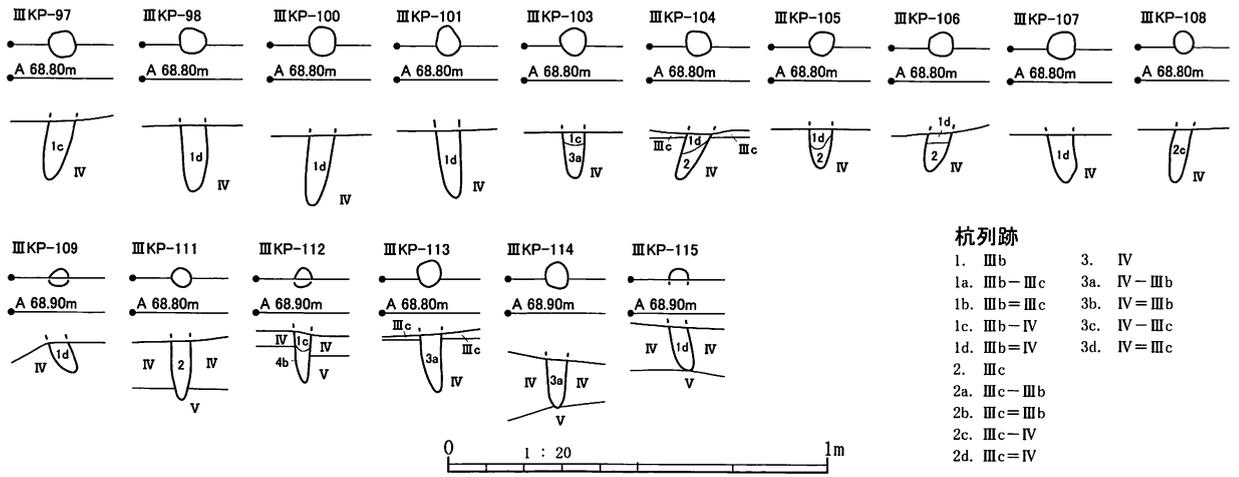


図II-17 杭列跡平面図

杭列跡



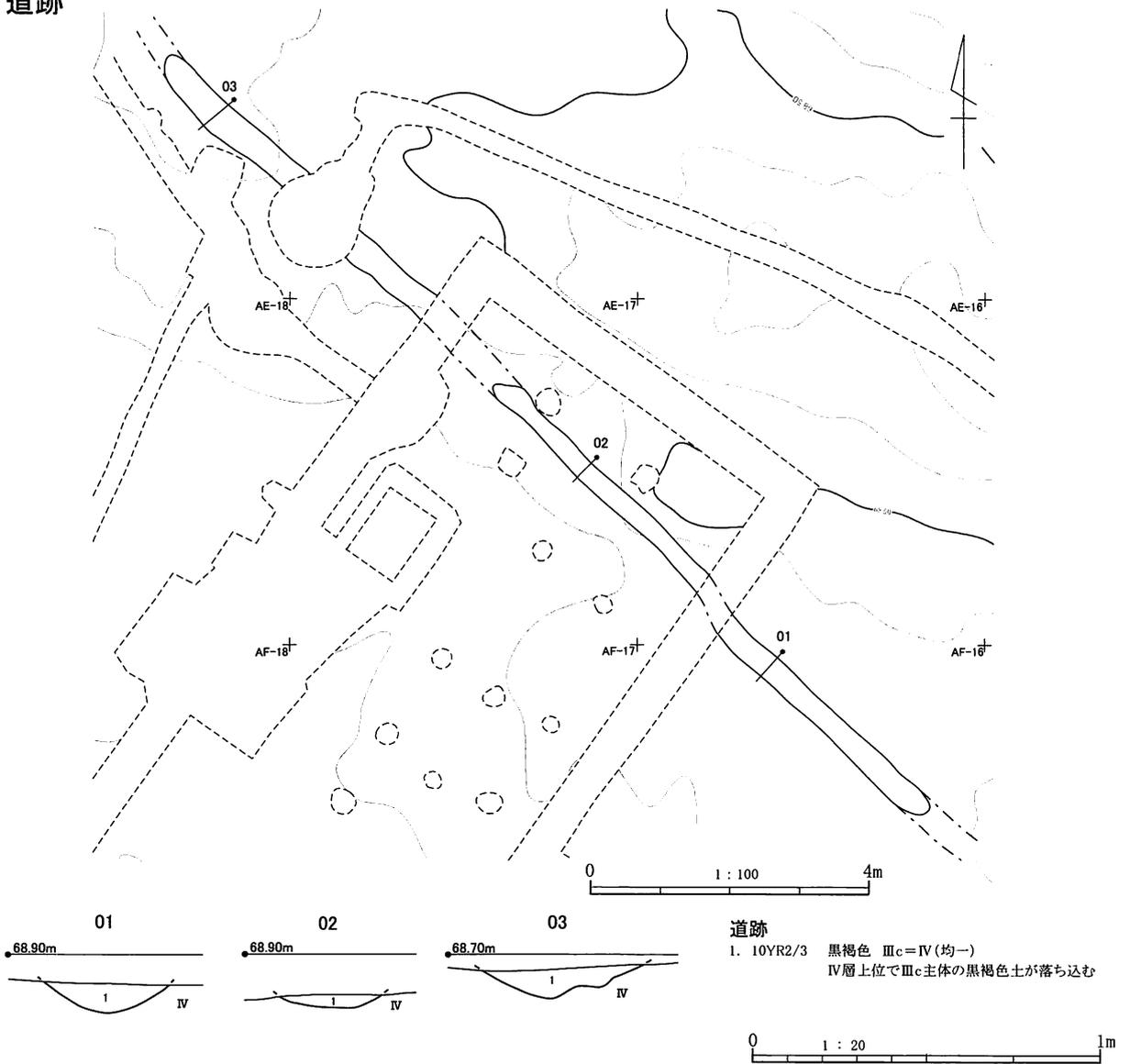
図II-18 杭列跡平面及び断面図(1)



- 杭列跡**
- 1. IIIb
 - 1a. IIIb-IIIc
 - 1b. IIIb=IIIc
 - 1c. IIIb-IV
 - 1d. IIIb=IV
 - 2. IIIc
 - 2a. IIIc-IIIb
 - 2b. IIIc=IIIb
 - 2c. IIIc-IV
 - 2d. IIIc=IV
 - 3. IV
 - 3a. IV-IIIb
 - 3b. IV=IIIb
 - 3c. IV-IIIc
 - 3d. IV=IIIc

図II-19 杭列跡平面及び断面図(2)

道跡



図II-20 道跡平面及び断面図

ⅢSB-04 (図Ⅱ-21・22-1 図版 11-3~5・77-1-2・2-2)

Ⅲb層調査中、ⅢF-03の南側でⅢb層中位に数点の棒状礫が出土した。周囲の精査を行うと440×200cmの範囲に棒状礫を主体とする礫集中を確認した。礫は完形で33点出土し、長軸平均は約6cm、短軸は2.9cmと長短比が2.2で棒状を呈する。しかし、長軸は2.5~9.3cmと規格性に欠ける。石材構成は殆どが砂岩で泥岩が少量含まれる。(奈良)

ⅢSB-05 (図Ⅲ-21・22-2 図版 11-6~8・77-1-3・2-3)

調査区西側縁辺部のⅢb層を掘り下げると、棒状礫と同一層位から金属製品を検出した。金属製品及び礫にベルトを設定し、周囲を掘り下げたところ、352×214cmの範囲から棒状礫と刀剣類(基部欠損)を出土した。ベルトの観察からⅢb層を約1.5cm被覆しており、写真撮影した後に除去して、全体の検出写真、平面の記録を行った。棒状礫は完形で17点、長軸は5.1~8.3cmと規格性が認められる。石材は他の集中と同じく砂岩が主体である。

出土遺物 1は鉤状鉄製品とした資料で、両端を欠損しているため、先端部形状は不明である。本資料は釣針にしては大きく、これまで厚真町で鉤状鉄製品と分類してきたものよりは小さい、いわば中間的なサイズである。断面は丸状で整形したような折り返しなどは認められない。2はⅢSB-05で出土した刀で、基部が折損している。平棟平造りで、樋が認められる。基部側の折損したところは、一方に振れることから、小鍛冶等で捻じ切った痕跡と考えられる。(奈良)

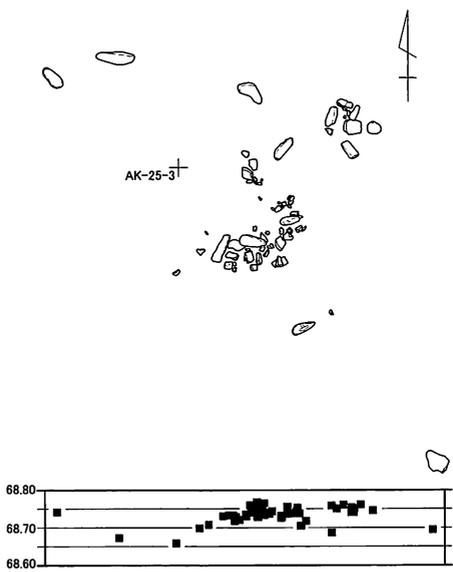
第7節 包含層出土遺物

1. 金属製品 (図Ⅱ-24 図版 78)

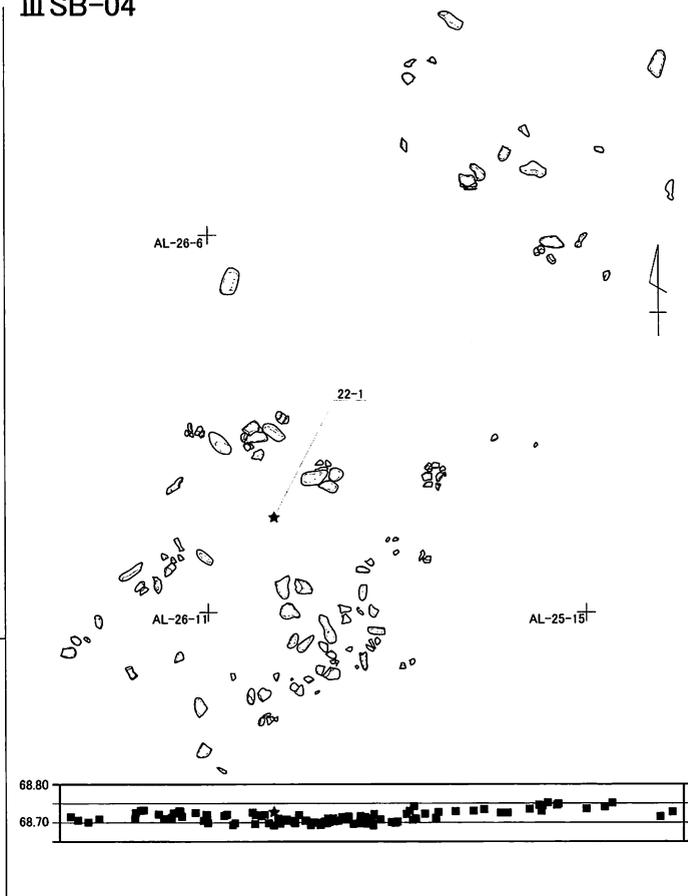
今回出土した金属製品は、遺構も含めて12点である。出土した遺物については全て掲載をした。包含層で掲載するのは7点で、6の鉤状鉄製品以外はⅢb層中位から出土している。また、出土分布域も北側に偏っており、擦文文化期の遺物とオーバーラップしないことから本章で掲載している。

1は目釘穴が1ヵ所認められる刀子で、切先を欠損している。平棟で茎部分の棟はやや丸味を帯び、区は刃区が刀身まで漸位的で不明瞭である。形態は区を中心として基部、切先に向かってやや反る。2は両端を欠損し湾曲した形状の刀子である。平棟であるが、区については欠損のため不明である。3は茎を欠損している刀子である。区は棟側が明瞭で、断面形は棟から刃部にかけて直線的な平造りである。刃縁は中央付近で湾曲しているため、使用による目減り、もしくは研ぎ直しの結果と考えられる。4は完形で出土した鉞である。刃部には表面に3条、裏面に4条の樋が認められる。刃先はたたき潰しによって捲れが認められ、中央付近は顕著である。また、両側縁の稜に1ヵ所ずつ、たたきによる潰れが認められる。側縁稜は皿状に潰れているが、表面の段差で敲打単位を明確にすることは出来なかった。頭部については、刃部の状態から敲打痕を観察したが、変形したような痕跡は認められなかった。このような部分的なたたきによる潰れは、鉞をハンマーとして転用した結果と思われる。5は棒状鉄製品で溝が認められる。両端に湾曲する傾向は認められなく、断面観察から板状素材を折り返したものと考えられる。6は鉤状鉄製品で軸の断面は丸い。一端が細くなる形状であることから、釣針の可能性も考えられる。7は器種及び用途不明の板状鉄製品で厚さが2.4mmと薄い。(奈良)

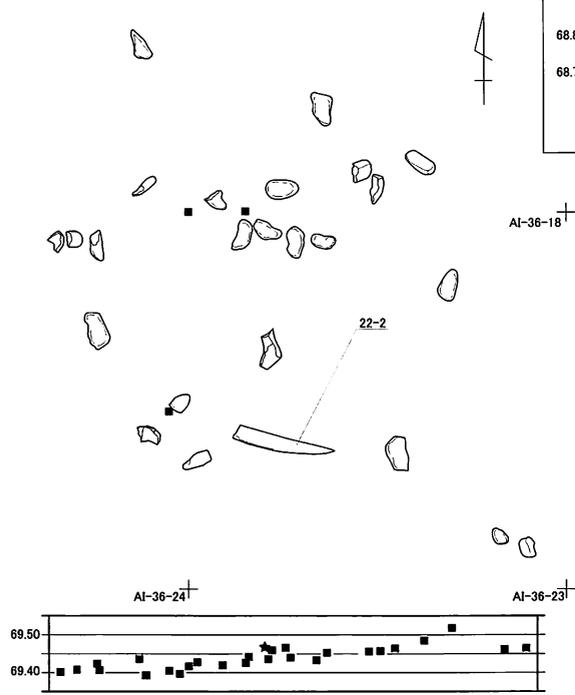
ⅢSB-03



ⅢSB-04



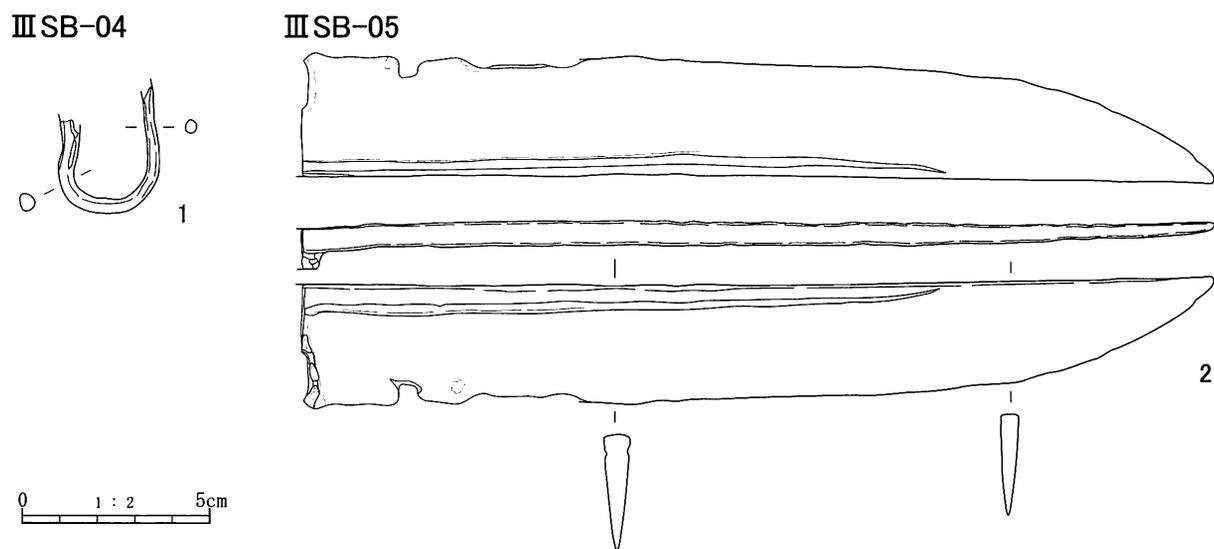
ⅢSB-05



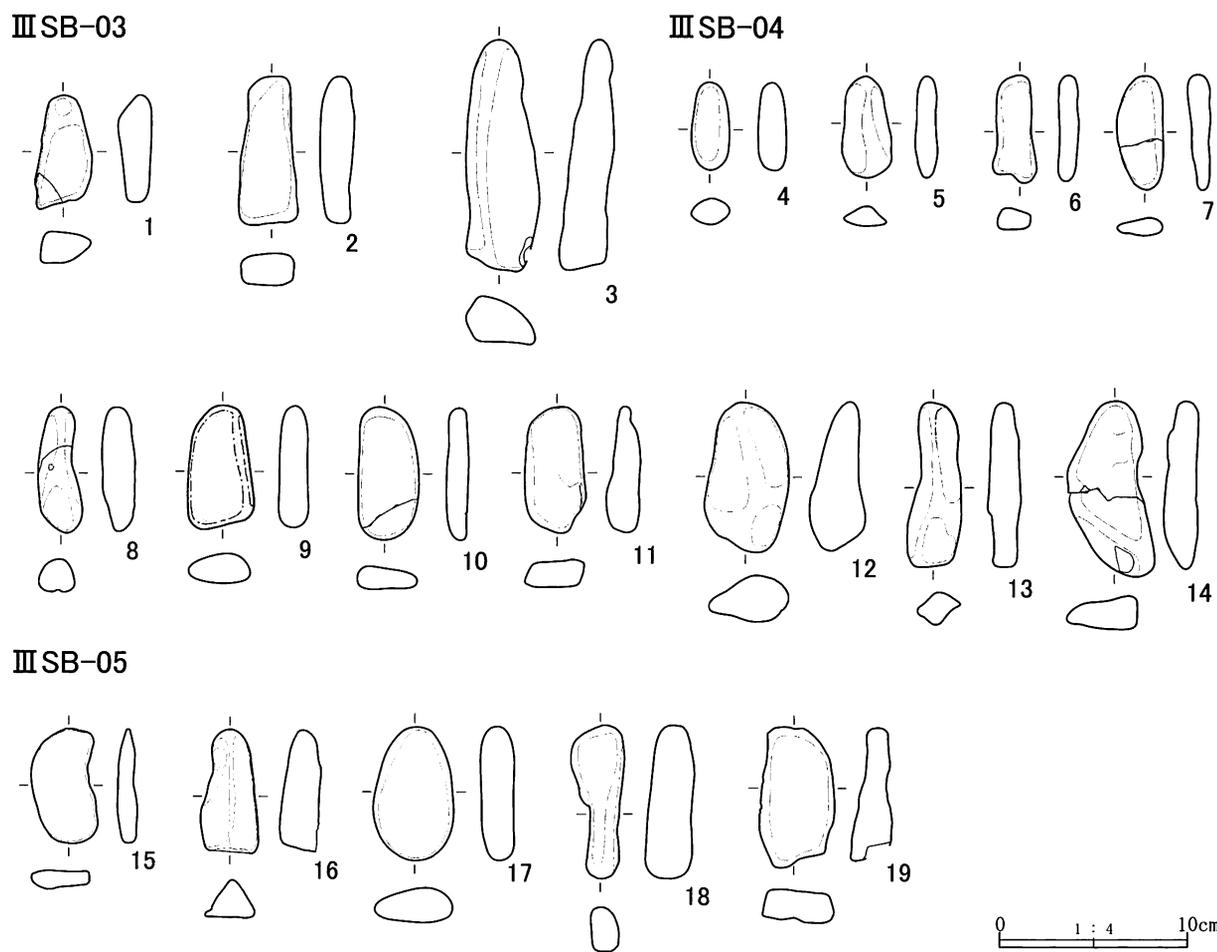
★ 鉄製品
■ 礫

0 1 : 20 1m

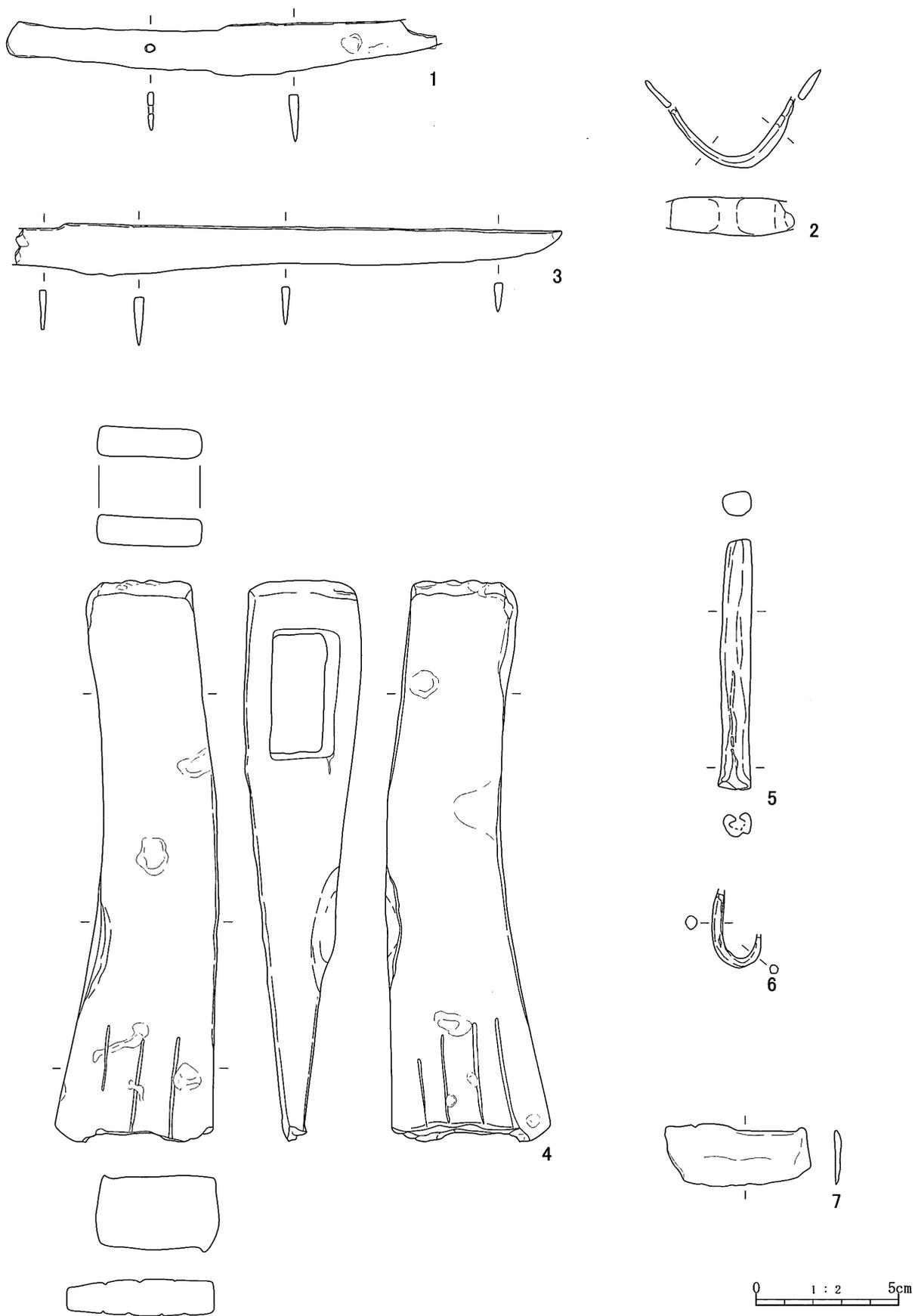
図Ⅱ-21 ⅢSB-03～05平面及び垂直分布図



図II-22 III SB 出土遺物



図II-23 III SB 出土礫



図Ⅱ-24 アイヌ文化期包含層出土金属製品

表II-1 アイヌ文化期遺構群一覧表

遺構名	帰属時期	規模(cm)		グリッド	層位	付属・関連遺構	備考
		長軸	短軸				
ⅢH-01	中世アイヌ文化期	53/73	37/70	AG-25・26	ⅢbM	HF01・02	
		-	67	AG-25・26	ⅢbM	-	
		220/222	196/110	AG・AH-25・26	ⅢbM	ⅢSB-01・02	
		238	74	AH-26	ⅢbM	ⅢBB-01	
集中区1	中世アイヌ文化期	53/101/(38)	(36)/58/(30)	AO-25	ⅢbM	ⅢF-18A・B・C	
		146	96	AO-25	ⅢbM	ⅢSB-07	
		75	52	AN-24	ⅢbM	ⅢBB-02	
		45	35	AP-25	ⅢbU	ⅢAS-03	
		156	86	AM・AN-24	ⅢbM	ⅢIPB-01	
集中区2	中世アイヌ文化期	40	35	AJ-19	ⅢbU	ⅢF-19	
		81	57	AJ-19	Ⅲc	ⅢF-23	
		46	39	AJ-19	Ⅲc	ⅢF-25	
		180	100	AJ-19	ⅢbM	ⅢSB-06	
ⅢAS-01	中世アイヌ文化期	220	138	AN-30・31	ⅢbM	-	
ⅢAS-02	中世アイヌ文化期	100	21	AU-26	ⅢbL	-	
ⅢF-03	中世アイヌ文化期	41	11	AK・AL-25	ⅢbM	-	
ⅢF-05	中世アイヌ文化期?	44	34	AJ-33	Ⅲc	-	燃焼面削平
ⅢF-06	中世アイヌ文化期?	39	30	AJ-33	Ⅲc	-	燃焼面削平
杭列跡	中世アイヌ文化期	3240	8	AL-25・26・AN-20・AM-21・23~26	Ⅲc	-	
道跡	中世アイヌ文化期	1544	48	AD-17・18・AE-16・17・AF-16	Ⅲc	-	
ⅢSB-03	中世アイヌ文化期	300	130	AJ・AK-25	ⅢbM	-	
ⅢSB-04	中世アイヌ文化期	440	200	AL-25・26	ⅢbM	-	
ⅢSB-05	中世アイヌ文化期	352	214	AI-36	ⅢbM	-	

表II-2 ⅢH属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	規模(cm)				柱穴			付属関連遺構
						主体部		付属部		本数			
						長軸	短軸	長軸	短軸	主柱	付属	他	
Ⅱ-2	4・5	ⅢH-01	AG・AH-25・26	ⅢbM	N-54° E	580	420	270	400	14	5	1	HF01・02・ⅢSB-01・02 ⅢBB-01

表II-3 ⅢH付属炉属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片	備考	
						長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-3	4-2・3	ⅢH-01	HF01	AG-25	ⅢbM	楕円形	53	37	6	焼骨片	
Ⅱ-3	4-4	ⅢH-01	HF02	AG-25・26	ⅢbM	不整形	73	70	11	焼骨片	掘り込みを伴う焼土

表II-4 ⅢH-01柱穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	挿図番号	図版番号	遺構名	規模(cm)			傾き(度)	タイプ
			上端	下端	深さ						上端	下端	深さ		
Ⅱ-3	5-1・2	HP01	11	0	34	28	打込み	Ⅱ-3	-	HP15	14	2	56	7	打込み
Ⅱ-3	-	HP02	16	0	51	19	打込み	Ⅱ-3	-	HP16	9	2	15	0	打込み
Ⅱ-3	5-3・4	HP03	10	2	13	0	打込み	Ⅱ-3	5-9・10	HP17	9	2	37	5	打込み
Ⅱ-3	5-5・6	HP04	7	0	24	11	打込み	Ⅱ-3	-	HP18	8	0	19	3	打込み
Ⅱ-3	5-7・8	HP05	8	0	19	21	打込み	Ⅱ-3	-	HP19	10	0	21	7	打込み
Ⅱ-3	-	HP06	8	0	20	25	打込み	Ⅱ-3	5-11・12	HP20	8	0	22	10	打込み
Ⅱ-3	-	HP07	7	2	18	5	打込み	Ⅱ-3	-	HP21	10	0	40	11	打込み
Ⅱ-3	-	HP08	9	2	23	16	打込み	Ⅱ-3	-	HP22	9	2	16	26	打込み
Ⅱ-3	-	HP09	10	2	20	8	打込み	Ⅱ-3	5-13・14	HP23	12	2	33	13	打込み
Ⅱ-3	-	HP10	8	0	26	23	打込み	Ⅱ-3	-	HP24	7	0	25	8	打込み
Ⅱ-3	-	HP11	9	2	16	18	打込み	Ⅱ-3	-	HP25	11	0	23	3	打込み
Ⅱ-3	-	HP12	10	0	17	5	打込み	Ⅱ-3	5-15・16	HP26	11	2	15	0	打込み
Ⅱ-3	-	HP13	8	0	13	11	打込み	Ⅱ-3	-	HP27	12	0	23	7	打込み
Ⅱ-3	-	HP14	11	2	21	7	打込み								

表Ⅱ-5 ⅢAS・ⅢF・ⅢSB・ⅢBB・ⅢIPB属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			被熱の 有無	灰・骨片 の有無	備 考	
						長軸	短軸	厚さ				
Ⅱ-4	4-2	ⅢH-01	ⅢSB-01	AG-26	ⅢbM	不整形	220	196	-	有	-	
Ⅱ-4	4-2		ⅢSB-02	AG・AH -25・26	ⅢbM	不整形	222	110	-	有	-	
Ⅱ-4	4-5		ⅢBB-01	AH-26	ⅢbM	不整形	238	74	-	有	-	
Ⅱ-9	-	集中区1	ⅢAS-03	AP-25	ⅢbU	不整形	45	35	3	-	骨片	上部攪乱
Ⅱ-9	6-1・3		ⅢF-18A	AO-25	ⅢbM	長楕円形	53	(36)	11	-	骨片	新A→B →C旧
Ⅱ-9	6-1・3		ⅢF-18B	AO-25	ⅢbM	楕円	101	58	8	-	骨片	
Ⅱ-9	6-1・3		ⅢF-18C	AO-25	ⅢbM	-	(38)	(30)	6	-	骨片	
Ⅱ-9	6-1・2		ⅢSB-07	AO-25	ⅢbM	楕円形	146	96	-	有	-	
Ⅱ-9	-		ⅢBB-02	AN-24	ⅢbM	楕円	75	52	6	-	骨片	
Ⅱ-9	6-4・5		ⅢIPB-01	AM・AN-24	ⅢbM	不整形	156	86	-	-	-	
Ⅱ-14	7-1・2・5	集中区2	ⅢF-19	AJ-19	ⅢbU	不整形	40	35	6	-	-	
Ⅱ-14	7-3~5		ⅢF-23	AJ-19	Ⅲc	不整形	81	57	6	-	-	
Ⅱ-14	7-6・7		ⅢF-25	AJ-19	Ⅲc	楕円形	46	39	9	-	-	
Ⅱ-14	7-8		ⅢSB-06	AJ-19	ⅢbM	不整形	180	100	-	-	-	
Ⅱ-16	8-1~4	-	ⅢAS-01	AN-30・31	ⅢbM	不整形	220	138	3	-	灰・骨片	
Ⅱ-16	8-5・6	-	ⅢAS-02	AU-26	ⅢbU	不整形	100	21	2	-	灰	
Ⅱ-16	8-7・8	-	ⅢF-03	AL・AK-25	ⅢbM	-	41	11	2	-	-	
Ⅱ-16	8-9	-	ⅢF-05	AJ-33	Ⅲc	楕円形	44	34	9	-	-	燃焼面削平
Ⅱ-16	8-9	-	ⅢF-06	AJ-33	Ⅲc	楕円形	39	30	8	-	-	燃焼面削平
Ⅱ-21	11-1・2	-	ⅢSB-03	AJ・AK-25	ⅢbM	不整形	300	130	-	-	-	
Ⅱ-21	11-3~5	-	ⅢSB-04	AL-25・26	ⅢbM	不整形	440	200	-	-	-	
Ⅱ-21	11-6~8	-	ⅢSB-05	AI-36	ⅢbM	楕円形	352	214	-	-	-	

表Ⅱ-6 杭列跡・道跡属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	平面形	条数	柱穴数	規模(cm)		
									長軸	短軸	深さ
Ⅱ-17~19	9・10- 1~8	杭列跡	AL-25・26 ・AM-21・23~26 ・AN-20	Ⅲc	N-80° W	-	1	91	3240	-	※表Ⅱ-7 参照
Ⅱ-20	10- 9~12	道跡	AD-17・18・AE- 16・17・AF-16	Ⅲc~Ⅳ	N-46° W	-	1	-	(1544)	48	8

表Ⅱ-7 杭列跡柱穴属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	規模 (cm)			傾き (度)	タイプ	備考	挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	規模 (cm)			傾き (度)	タイプ	備考
				上端	下端	深さ								上端	下端	深さ			
Ⅱ-18	-	ⅢKP-01	AM-24	9	2	29	3	打込み	Ⅱ-18	-	ⅢKP-64	AM-21	6	2	17	4	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-02	AM-24	6	2	18	5	打込み	Ⅱ-18	-	ⅢKP-65	AM-21	4	2	17	2	打込み		
Ⅱ-18	9-3	ⅢKP-03	AM-25	10	2	40	5	打込み	Ⅱ-18	-	ⅢKP-66	AM-21	4	0	8	2	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-04	AM-26	13	2	38	5	打込み	Ⅱ-18	-	ⅢKP-67	AM-21	4	0	10	3	打込み		
Ⅱ-18	9-4	ⅢKP-05	AM-25	8	3	15	6	打込み	Ⅱ-18	-	ⅢKP-68	AM-21	5	0	6	9	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-10	AM-24	8	0	19	2	打込み	Ⅱ-18	-	ⅢKP-69	AM-21	4	2	11	20	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-11	AM-25	8	0	14	2	打込み	Ⅱ-18	-	ⅢKP-70	AM-21	7	0	10	10	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-12	AM-25	9	2	16	15	打込み	Ⅱ-18	-	ⅢKP-71	AM-23	6	2	20	0	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-13	AM-25	7	2	20	0	打込み	Ⅱ-18	-	ⅢKP-72	AM-23	6	2	13	0	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-14	AM-25	7	2	10	4	打込み	Ⅱ-18	10-5	ⅢKP-73	AM-23	7	0	14	2	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-15	AM-25	7	2	9	4	打込み	Ⅱ-18	-	ⅢKP-75	AM-23	6	2	15	13	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-16	AM-25	7	0	19	12	打込み	Ⅱ-18	-	ⅢKP-76	AM-23	5	0	15	3	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-17	AM-25	8	0	18	0	打込み	Ⅱ-18	-	ⅢKP-77	AM-23	4	2	10	15	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-18	AM-25	6	2	10	4	打込み	Ⅱ-18	-	ⅢKP-78	AM-23	5	2	20	2	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-19	AM-25	7	2	15	15	打込み	Ⅱ-18	10-6	ⅢKP-79	AM-23	4	0	14	2	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-20	AM-25	7	2	7	13	打込み	Ⅱ-18	-	ⅢKP-80	AM-24	4	0	16	0	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-21	AM-25	8	2	12	5	打込み	Ⅱ-18	10-7・8	ⅢKP-82	AM-24	6	0	15	3	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-22	AM-25	6	0	11	15	打込み	Ⅱ-18	-	ⅢKP-83	AM-24	5	2	15	8	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-23	AM-25	6	0	15	5	打込み	Ⅱ-18	-	ⅢKP-85	AM-24	4	0	16	3	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-24	AM-25	6	2	8	0	打込み	Ⅱ-18	-	ⅢKP-87	AM-24	7	2	14	0	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-25	AM-25	6	2	12	0	打込み	Ⅱ-18	-	ⅢKP-88	AM-24	6	2	17	12	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-26	AL-25	5	0	18	6	打込み	Ⅱ-18	-	ⅢKP-89	AM-24	6	2	16	20	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-27	AL-26	8	0	25	2	打込み	Ⅱ-18	9-5	ⅢKP-90	AM-24	6	0	20	7	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-28	AL-26	7	2	8	12	打込み	Ⅱ-18	-	ⅢKP-91	AM-24	6	2	15	25	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-29	AL-26	7	2	6	5	打込み	Ⅱ-18	-	ⅢKP-92	AM-24	5	0	9	21	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-30	AL-26	9	2	24	5	打込み	Ⅱ-18	-	ⅢKP-93	AM-24	6	0	15	3	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-31	AL-26	8	0	11	10	打込み	Ⅱ-18	-	ⅢKP-94	AM-24	6	0	15	3	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-32	AL-26	7	0	21	10	打込み	Ⅱ-18	-	ⅢKP-95	AM-24	5	2	13	14	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-33	AM-25	10	0	24	8	打込み	Ⅱ-18	-	ⅢKP-96	AM-24	6	2	20	0	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-45	AN-20	5	2	7	13	打込み	Ⅱ-19	-	ⅢKP-97	AM-24	7	2	16	13	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-46	AN-20	7	2	17	0	打込み	Ⅱ-19	-	ⅢKP-98	AM-24	7	2	18	0	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-47	AN-20	6	2	10	5	打込み	Ⅱ-19	-	ⅢKP-100	AM-24	6	2	19	8	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-48	AN-20	4	2	10	3	打込み	Ⅱ-19	-	ⅢKP-101	AM-24	6	2	18	7	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-49	AN-20	6	0	14	7	打込み	Ⅱ-19	9-6	ⅢKP-103	AM-24	6	2	12	2	打込み		
Ⅱ-18	10-1・2	ⅢKP-50	AN-20	6	0	15	0	打込み	Ⅱ-19	-	ⅢKP-104	AM-24	6	2	13	22	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-51	AN-20	6	2	7	8	打込み	Ⅱ-19	-	ⅢKP-105	AM-24	6	2	10	0	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-52	AN-20	4	0	12	0	打込み	Ⅱ-19	-	ⅢKP-106	AM-24	6	2	11	15	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-53	AN-20	6	0	14	3	打込み	Ⅱ-19	-	ⅢKP-107	AM-24	7	0	13	5	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-54	AN-20	6	2	12	2	打込み	Ⅱ-19	-	ⅢKP-108	AM-24	5	2	14	9	打込み		
Ⅱ-18	10-3・4	ⅢKP-55	AN-20	5	0	9	2	打込み	Ⅱ-19	-	ⅢKP-109	AM-21	5	2	10	35	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-57	AM-21	5	2	11	5	打込み	Ⅱ-19	-	ⅢKP-111	AM-21	5	2	16	0	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-58	AM-21	5	0	9	10	打込み	Ⅱ-19	-	ⅢKP-112	AN-20	4	0	14	0	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-60	AM-21	5	2	10	20	打込み	Ⅱ-19	-	ⅢKP-113	AM-23	6	2	16	8	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-61	AM-21	5	2	16	4	打込み	Ⅱ-19	-	ⅢKP-114	AN-20	6	0	13	2	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-62	AM-21	6	2	12	8	打込み	Ⅱ-19	-	ⅢKP-115	AN-20	5	2	12	12	打込み		
Ⅱ-18	-	ⅢKP-63	AM-21	5	0	9	20	打込み											

表Ⅱ-8 アイヌ文化期遺構出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考	
								長軸	短軸	厚さ				
Ⅱ-5-1	74-1-1	-	954	たたき石	ⅡA2	ⅢbM	ⅢH-01	ⅢH-01	128.0	(72.6)	25.0	(300.0)	Qu-Sch.	欠・板
Ⅱ-5-2	74-1-2	-	2216	たたき石	ⅡB2	ⅢbM		ⅢSB-02	86.6	80.9	40.9	395.0	Sa.	
Ⅱ-5-3	74-1-3	-	1228	たたき石	ⅢB2	ⅢbM		ⅢSB-02	81.9	56.7	43.8	250.0	Sa.	
Ⅱ-5-4	74-1-4	-	2220	線条痕のある礫	-	ⅢbM		ⅢSB-02	87.1	40.8	20.6	48.0	Tu.	
Ⅱ-5-5	74-1-5	-	944	台石	-	ⅢbM		ⅢH-01	175.0	98.0	98.4	3200.0	Sa.	
Ⅱ-5-6	74-1-6	-	528	刀子	-	ⅢbM		ⅢH-01	(100.5)	18.5	5.2	(25.0)	Irn.	
Ⅱ-10-1	75-1	13Ⅲ ST005	9088 9089	たたき石	ⅡB2	ⅢbM	集中区 1	AP-25	111.0	87.9	69.0	765.0	Sa.	被熱
Ⅱ-10-2	75-2	-	9097	たたき石	ⅡB2	ⅢbM		AP-25	(85.4)	65.4	36.3	(271.0)	Sa.	
Ⅱ-10-3	75-3	13Ⅲ ST010	9621	たたき石	ⅡB2	ⅢbM ⅢbU		ⅢSB-07	136.9	103.6	54.0	(1230.0)	Sa.	
			AO-26											
Ⅱ-10-4	75-4	13Ⅲ ST001	9531 459	たたき石	Ⅳ	ⅢbM		ⅢSB-07	145.6	(57.1)	45.3	(500.0)	Gra.	
			AO-25											
Ⅱ-10-5	75-5	13Ⅲ ST002	9110 462	滑沢面のある礫	-	ⅢbL		AO-25	149.4	102.5	39.0	750.0	Sa.	
			AO-26											
Ⅱ-10-6	75-6	-	9206	台石	-	ⅢbM	AO-25	(67.3)	71.2	40.9	(1100.0)	Sa.		
Ⅱ-10-7	75-7	-	7907	刀子	-	ⅢbM	AN-24	(65.9)	14.1	2.4	(6.4)	Irn.		
Ⅱ-11-8	75-8	-	7895~ 7906	内耳鉄鍋	-	ⅢbM	ⅢIPB-01	252.0	248.0	126.0 (器高)	(1380.0)	Irn.	12点接合	
Ⅱ-16-1	77-1-1	-	-	縫針	-	ⅢbM	-	ⅢAS-01	36.1	1.0	1.0	0.18	Cu.	FLT.No.49
Ⅱ-22-1	77-1-2	-	314	鉤状鉄製品	-	ⅢbM	-	ⅢSB-04	(34.4)	27.9	6.2	(5.6)	Irn.	
Ⅱ-22-2	77-1-3	-	1088	刀	-	ⅢbM	-	ⅢSB-05	(240.5)	30.1	5.5	(168.5)	Irn.	基部折損

表Ⅱ-9 アイヌ文化期包含層出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	グリッド/遺構名	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考	
								長軸	短軸	厚さ				
Ⅱ-24-1	78-1	-	498	刀子	-	ⅢbM	-	AL-36	(152.1)	18.2	4.1	(23.9)	Irn.	
Ⅱ-24-2	78-2	-	8359-1	刀子	-	ⅢbM	-	AJ-19	(44.0)	14.0	3.0	(5.7)	Irn.	
			8359-2					AJ-20						
Ⅱ-24-3	78-3	-	8758	刀子	-	ⅢbM	-	AO-22	(192.0)	19.0	3.5	(27.9)	Irn.	
			8759-1											
			8759-2											
Ⅱ-24-4	78-4	-	527	鉞	-	ⅢbM	-	AJ-34	190.6	57.0	41.8	1320.0	Irn.	
Ⅱ-24-5	78-5	-	496	棒状鉄製品	-	ⅢbM	-	AL-31	83.3	10.5	3.8	36.9	Irn.	
Ⅱ-24-6	78-6	-	1033	鉤状鉄製品	-	Ⅲc	-	AJ-23	(28.8)	6.8	4.5	(4.1)	Irn.	根による押し込み
Ⅱ-24-7	78-7	-	313	板状鉄製品	-	ⅢbM	-	AH-25	50.7	22.9	2.4	11.6	Irn.	

表Ⅱ-10 アイヌ文化期出土礫属性表

ⅢH-01

挿図番号	図版番号	個体名称	付属関連遺構	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質
							長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差					
							は()表記と同じ										
-	-	-	-	2044	ⅢbM	完形	37.6	-63.7	19.9	-43.2	9.5	-21.9	1.9	0.0	7.0	-	Mud.
-	-	-	-	943	ⅢbM	完形	81.2	-20.1	36.7	-26.4	29.1	-2.3	2.2	0.3	96.1	-	Sa.
-	-	-	-	952	ⅢbM	完形	88.9	-12.4	33.1	-30.0	29.2	-2.2	2.7	0.8	100.4	○	Mud.
Ⅱ-6-1	-	-	-	940	ⅢbM	略完形	89.1	-12.2	38.0	-25.1	31.9	0.5	2.3	0.4	142.1	-	Sa.
-	74-2-1	-	-	939	ⅢbM	完形	90.8	-10.5	72.2	9.1	29.6	-1.8	1.3	-0.6	200.0	-	Sa.
Ⅱ-6-2		-	-	938	ⅢbM	完形	95.2	-6.1	59.4	-3.7	28.0	-3.4	1.6	-0.3	192.8	-	Sa.
-		-	-	1209	ⅢbM	完形	98.5	-2.8	36.7	-26.4	30.2	-1.2	2.7	0.8	138.3	-	Sa.
Ⅱ-6-3		-	-	945	ⅢbM	完形	220.0	118.7	185.0	121.9	38.4	7.0	1.2	-0.7	2100.0	-	Sa.
-	-	13ⅢS130	-	1138	ⅢbM	完形	130.2	28.9	128.0	64.9	26.5	-4.9	1.0	-0.9	500.0	-	Sa.
-	-	1139															
完形平均値							100.2		60.1		28.2		2.0		372.1		
遺物総重量															2976.7		

※9点

III SB-01(1)

は()表記と同じ

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	付属 関連 遺構	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短 比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質
							長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差					
-	-	-	-	1099	IIIbM	完形	33.4	-47.1	16.6	-21.8	25.6	3.2	2.0	-0.3	85.0	○	Mud.
-	-	13III S092	-	1391	IIIbM	完形	48.5	-32.0	30.4	-8.0	26.0	3.6	1.6	-0.7	51.9	○	Sa.
-	-	-	1392														
-	-	-	-	1387	IIIbM	完形	53.5	-27.0	31.1	-7.3	20.1	-2.3	1.7	-0.6	39.2	○	Sa.
II-6-4	-	13III S047	-	1322	IIIbM	略完形	55.2	-25.3	24.0	-14.4	11.5	-10.9	2.3	0.0	18.6	-	Mud.
-	-	-	1323														
-	-	-	-	1344	IIIbM	完形	60.6	-19.9	19.8	-18.6	19.6	-2.8	3.1	0.8	38.5	○	Sa.
-	-	13III S090	-	1424	IIIbM	完形	61.2	-19.3	26.3	-12.1	20.9	-1.5	2.3	0.0	41.7	○	Sa.
-	-	-	2044														
-	-	-	-	1324	IIIbM	完形	61.9	-18.6	24.9	-13.5	10.6	-11.8	2.5	0.2	21.8	-	Sa.
II-6-11	-	-	-	1378	IIIbM	略完形	63.3	-17.2	40.8	2.4	23.1	0.7	1.6	-0.7	85.0	○	Sa.
-	-	-	-	1403	IIIbM	完形	63.5	-17.0	30.7	-7.7	21.6	-0.8	2.1	-0.2	43.3	-	Sa.
-	-	-	-	1365	IIIbM	完形	65.1	-15.4	37.7	-0.7	12.1	-10.3	1.7	-0.6	47.3	-	Sa.
-	-	-	-	1344	IIIbM	略完形	66.1	-14.4	39.0	0.6	20.0	-2.4	1.7	-0.6	65.0	-	Ssh.
II-6-8	-	-	-	1315	IIIbM	略完形	66.4	-14.1	25.0	-13.4	22.9	0.5	2.7	0.4	39.1	○	Sa.
-	-	13III S010	-	1390	IIIbM	完形	66.5	-14.0	37.5	-0.9	20.2	-2.2	1.8	-0.5	80.0	○	Sa.
-	-	-	2562														
-	-	13III S032	-	1320	IIIbM	完形	66.8	-13.7	25.5	-12.9	19.8	-2.6	2.6	0.3	50.0	○	Sa.
-	-	-	1321他1点														
-	-	-	-	1373	IIIbM	完形	66.9	-13.6	31.3	-7.1	15.4	-7.0	2.1	-0.2	50.3	○	Sa.
II-6-6	-	-	-	1106	IIIbM	完形	67.1	-13.4	29.4	-9.0	16.5	-5.9	2.3	0.0	42.7	-	Sa.
-	-	-	-	1118	IIIbM	完形	67.2	-13.3	29.3	-9.1	18.2	-4.2	2.3	0.0	45.0	-	Sa.
II-6-7	-	-	-	1314	IIIbM	完形	67.7	-12.8	30.7	-7.7	18.5	-3.9	2.2	-0.1	60.0	○	Sa.
-	-	13III S019	-	1363-1	IIIbM	完形	68.8	-11.7	26.1	-12.3	18.0	-4.4	2.6	0.3	36.9	○	Sa.
-	-	-	1431														
-	-	-	-	1097	IIIbM	完形	69.2	-11.3	34.6	-3.8	17.3	-5.1	2.0	-0.3	50.0	○	Mud.
-	-	-	-	1349	IIIbM	完形	69.5	-11.0	34.8	-3.6	25.1	2.7	2.0	-0.3	95.0	○	Sa.
-	-	-	-	1364	IIIbM	完形	69.6	-10.9	33.9	-4.5	19.9	-2.5	2.1	-0.2	65.0	○	Sa.
-	-	-	-	1310	IIIbM	完形	69.7	-10.8	30.8	-7.6	19.8	-2.6	2.3	0.0	60.0	○	Sa.
-	-	-	-	1116	IIIbM	完形	69.8	-10.7	28.5	-9.9	15.4	-7.0	2.4	0.1	50.0	-	Sa.
II-6-9	-	-	-	1109	IIIbM	完形	70.2	-10.3	30.6	-7.8	22.3	-0.1	2.3	0.0	75.0	-	Sa.
-	-	-	-	1357	IIIbM	完形	70.2	-10.3	38.7	0.3	20.0	-2.4	1.8	-0.5	80.0	○	Sa.
II-6-18	-	-	-	1396	IIIbM	完形	70.6	-9.9	65.0	26.6	52.1	29.7	1.1	-1.2	290.0	-	Con.
-	-	13III S100	-	1122	IIIbM	完形	70.7	-9.8	28.5	-9.9	20.9	-1.5	2.5	0.2	39.6	○	Mud.
-	-	-	1123														
II-6-10	74-2-3	-	-	1408	IIIbM	完形	70.8	-9.7	30.8	-7.6	21.7	-0.7	2.3	0.0	50.0	-	Mud.
II-6-5	-	-	-	1317	IIIbM	完形	71.0	-9.5	18.6	-19.8	17.4	-5.0	3.8	1.5	21.2	-	Sa.
II-6-12	-	-	-	1338	IIIbM	完形	71.2	-9.3	27.8	-10.6	23.8	1.4	2.6	0.3	60.0	○	Sa.
-	-	13III S031	-	353	IIIbM	略完形	71.3	-9.2	28.9	-9.5	21.1	-1.3	2.5	0.2	70.0	○	Sa.
-	-	-	2004他1点														
-	-	13III S099	-	1402	IIIbM	完形	71.5	-9.0	27.8	-10.6	19.2	-3.2	2.6	0.3	35.3	○	Sa.
-	-	-	1433他1点														
-	-	-	-	1366	IIIbM	略完形	71.9	-8.6	33.5	-4.9	14.6	-7.8	2.1	-0.2	55.0	○	Sa.
II-6-14	-	-	-	1356	IIIbM	完形	71.9	-8.6	36.7	-1.7	32.8	10.4	2.0	-0.3	130.0	○	Sa.
-	-	-	-	1094	IIIbM	完形	72.4	-8.1	24.8	-13.6	15.7	-6.7	2.9	0.6	39.6	-	Sa.
-	-	-	-	1339	IIIbM	完形	73.0	-7.5	35.4	-3.0	15.6	-6.8	2.1	-0.2	50.0	○	Sa.
II-6-13	-	-	-	1098	IIIbM	完形	73.2	-7.3	25.2	-13.2	21.5	-0.9	2.9	0.6	45.7	-	Mud.
-	-	13III S082	-	1342	IIIbM	完形	73.5	-7.0	33.4	-5.0	21.3	-1.1	2.2	-0.1	55.0	-	Sa.
-	-	-	1343														
-	-	13III S008	-	1395	IIIbM	完形	73.7	-6.8	32.9	-5.5	17.6	-4.8	2.2	-0.1	50.0	○	Sa.
-	-	-	2554														
-	-	-	-	1376	IIIbM	完形	73.9	-6.6	40.9	2.5	23.1	0.7	1.8	-0.5	85.0	○	Sa.
II-6-15	-	-	-	1430	IIIbM	完形	74.6	-5.9	31.8	-6.6	18.1	-4.3	2.3	0.0	66.3	-	Sa.
-	-	-	-	1340	IIIbM	完形	74.6	-5.9	32.5	-5.9	15.5	-6.9	2.3	0.0	50.0	-	Sa.
II-6-17	-	-	-	1384	IIIbM	完形	75.1	-5.4	63.4	25.0	18.2	-4.2	1.2	-1.1	130.0	○	Sa.
-	-	13III S101	-	1348	IIIbM	完形	75.3	-5.2	38.3	-0.1	21.3	-1.1	2.0	-0.3	87.1	○	Sa.
-	-	-	1416他7点														
-	-	-	-	1332	IIIbM	完形	75.4	-5.1	34.8	-3.6	15.0	-7.4	2.2	-0.1	55.0	○	Sa.
-	-	-	-	1346	IIIbM	完形	76.6	-3.9	28.2	-10.2	15.1	-7.3	2.7	0.4	45.0	-	Sa.
-	-	-	-	1399	IIIbM	略完形	76.6	-3.9	35.8	-2.6	24.6	2.2	2.1	-0.2	65.0	○	Sa.
-	-	-	-	1372	IIIbM	完形	77.1	-3.4	37.8	-0.6	16.7	-5.7	2.0	-0.3	60.0	○	Sa.
-	-	13III S098	-	1404	IIIbM	完形	78.1	-2.4	31.7	-6.7	24.9	2.5	2.5	0.2	65.5	○	Sa.
-	-	-	1405他1点														
-	-	-	-	1388	IIIbM	完形	79.2	-1.3	42.2	3.8	12.0	-10.4	1.9	-0.4	65.0	○	Sa.
-	-	-	-	1090	IIIbM	完形	79.3	-1.2	33.8	-4.6	26.1	3.7	2.3	0.0	95.0	-	Sa.
II-6-20	-	-	-	1110	IIIbM	完形	80.8	0.3	47.7	9.3	17.1	-5.3	1.7	-0.6	80.0	○	Mud.
-	-	-	-	1100	IIIbM	完形	81.5	1.0	33.4	-5.0	24.4	2.0	2.4	0.1	75.0	-	Ser.
-	-	-	-	1424	IIIbM	略完形	81.8	1.3	32.5	-5.9	24.1	1.7	2.5	0.2	70.0	○	Sa.
-	-	-	-	1111	IIIbM	完形	82.4	1.9	37.5	-0.9	16.5	-5.9	2.2	-0.1	65.0	-	Sa.
II-6-16	-	-	-	1115	IIIbM	完形	82.7	2.2	21.9	-16.5	23.5	1.1	3.8	1.5	50.0	-	Mud.
-	-	-	-	1311	IIIbM	完形	84.4	3.9	31.2	-7.2	22.7	0.3	2.7	0.4	55.0	○	Sa.
-	-	-	-	1358	IIIbM	完形	85.2	4.7	38.6	0.2	25.8	3.4	2.2	-0.1	130.0	○	Sa.

III SB-01(2)

は()表記と同じ

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	付属 関連 遺構	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短 比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	
							長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ						標準 偏差
-	-	-	-	1114	IIIbM	完形	85.3	4.8	27.4	-11.0	24.9	2.5	3.1	0.8	95.0	○	Sa.
II-6-19	-	13III S011	-	1379	IIIbM	略完形	85.3	4.8	29.3	-9.1	20.0	-2.4	2.9	0.6	60.0	○	Mud.
-	-	13III S089	-	1427他2点	IIIbM	略完形	85.3	4.8	29.3	-9.1	20.0	-2.4	2.9	0.6	60.0	○	Mud.
-	-	-	-	1381	IIIbM	完形	87.0	6.5	30.0	-8.4	15.0	-7.4	2.9	0.6	42.7	○	Mud.
-	-	-	-	1382他3点	IIIbM	完形	87.0	6.5	30.0	-8.4	15.0	-7.4	2.9	0.6	42.7	○	Mud.
-	-	-	-	1313	IIIbM	完形	87.1	6.6	58.7	20.3	53.1	30.7	1.5	-0.8	375.0	-	Ssh.
-	-	-	-	1117	IIIbM	完形	88.7	8.2	45.2	6.8	25.2	2.8	2.0	-0.3	125.0	-	Sa.
-	-	-	-	1380	IIIbM	完形	89.2	8.7	33.9	-4.5	29.9	7.5	2.6	0.3	110.0	○	Sa.
II-6-21	-	-	-	1103	IIIbM	完形	93.7	13.2	32.4	-6.0	19.0	-3.4	2.9	0.6	55.0	-	Sa.
-	-	-	-	1092	IIIbM	完形	98.4	17.9	41.1	2.7	27.7	5.3	2.4	0.1	155.0	○	Sa.
-	-	-	-	1091	IIIbM	略完形	99.9	19.4	39.0	0.6	21.9	-0.5	2.6	0.3	135.0	○	Sa.
II-6-22	-	-	-	1312	IIIbM	完形	101.9	21.4	25.2	-13.2	22.8	0.4	4.0	1.7	75.0	○	Sa.
II-6-23	-	-	-	1096	IIIbM	完形	108.7	28.2	37.0	-1.4	25.7	3.3	2.9	0.6	140.0	-	Sa.
-	-	-	-	1112	IIIbM	完形	109.6	29.1	24.4	-14.0	33.6	11.2	4.5	2.2	125.0	-	Sa.
-	-	13III S009	-	1359	IIIbM	完形	111.0	30.5	38.7	0.3	21.7	-0.7	2.9	0.6	165.0	○	Sa.
-	-	-	-	1385	IIIbM	完形	111.0	30.5	38.7	0.3	21.7	-0.7	2.9	0.6	165.0	○	Sa.
-	-	-	-	-	IIIbM	完形	114.9	34.4	34.0	-4.4	20.9	-1.5	3.4	1.1	87.9	-	Sa.
II-6-24	-	-	-	1367	IIIbM	完形	118.1	37.6	37.2	-1.2	24.1	1.7	3.2	0.9	125.0	○	Sa.
-	-	-	-	1105-1	IIIbM	完形	151.7	71.2	116.6	78.2	23.8	1.4	1.3	-1.0	415.0	-	Sa.
II-6-25	-	-	-	1335	IIIbM	略完形	190.0	109.5	180.0	141.6	80.3	57.9	1.1	-1.2	2300.0	○	Sa.
II-6-26	-	13III S058	-	370	IIIbM	略完形	235.0	154.5	178.0	139.6	31.8	9.4	1.3	-1.0	1300.0	○	Sa.
-	-	-	-	1119他5点	IIIbM	略完形	235.0	154.5	178.0	139.6	31.8	9.4	1.3	-1.0	1300.0	○	Sa.
完形平均値							114.2		56.0		29.0		2.6		327.0		
遺物総重量															5885.6		

※77点

III SB-02(1)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	付属 関連 遺構	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短 比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	
							長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ						標準 偏差
-	-	-	-	2517	IIIbM	完形	48.2	-29.7	27.3	-6.6	24.8	3.0	1.8	-0.5	47.6	-	Gra.
-	-	-	-	2520	IIIbM	完形	50.9	-27.0	38.6	4.7	31.5	9.7	1.3	-1.0	93.7	-	Gra.
-	-	-	-	1500	IIIbM	完形	57.2	-20.7	23.2	-10.7	12.9	-8.9	2.5	0.2	18.6	-	Mud.
II-7-27	-	-	-	1460	IIIbM	完形	58.4	-19.5	33.7	-0.2	15.3	-6.5	1.7	-0.6	42.5	-	Sa.
-	-	-	-	1472	IIIbM	完形	58.6	-19.3	31.5	-2.4	15.3	-6.5	1.9	-0.4	44.1	○	Sa.
-	-	-	-	1468	IIIbM	完形	59.7	-18.2	32.8	-1.1	17.4	-4.4	1.8	-0.5	44.7	-	Sa.
II-7-28	-	-	-	2514	IIIbM	完形	60.8	-17.1	35.0	1.1	17.3	-4.5	1.7	-0.6	55.1	-	Sa.
-	-	-	-	2513	IIIbM	完形	61.0	-16.9	38.4	4.5	16.1	-5.7	1.6	-0.7	60.6	-	Sa.
-	-	-	-	1475	IIIbM	完形	61.8	-16.1	34.4	0.5	24.3	2.5	1.8	-0.5	66.7	-	Mud.
II-7-29	-	13III S096	-	1497	IIIbM	完形	63.6	-14.3	29.7	-4.2	18.6	-3.2	2.1	-0.2	39.8	-	Mud.
-	-	-	-	1499	IIIbM	完形	63.6	-14.3	29.7	-4.2	18.6	-3.2	2.1	-0.2	39.8	-	Mud.
-	-	-	-	1484	IIIbM	完形	63.8	-14.1	34.3	0.4	12.7	-9.1	1.9	-0.4	43.3	○	Sa.
-	-	-	-	1470	IIIbM	完形	63.9	-14.0	33.5	-0.4	21.5	-0.3	1.9	-0.4	59.6	-	Sa.
II-7-32	-	13III S020	-	1454	IIIbM	略完形	65.1	-12.8	36.2	2.3	16.1	-5.7	1.8	-0.5	55.5	○	Mud.
-	-	-	-	2545	IIIbM	略完形	65.1	-12.8	36.2	2.3	16.1	-5.7	1.8	-0.5	55.5	○	Mud.
-	-	-	-	2515	IIIbM	完形	65.4	-12.5	25.2	-8.7	20.6	-1.2	2.6	0.3	44.1	-	Sa.
-	-	-	-	1466	IIIbM	完形	66.6	-11.3	24.1	-9.8	18.8	-3.0	2.8	0.5	30.0	○	Sa.
II-7-30	-	-	-	2516	IIIbM	略完形	66.6	-11.3	29.8	-4.1	13.7	-8.1	2.2	-0.1	29.9	-	Mud.
II-7-34	-	-	-	1276	IIIbM	完形	66.7	-11.2	31.9	-2.0	20.3	-1.5	2.1	-0.2	48.6	-	Sa.
-	-	-	-	1277	IIIbM	完形	66.7	-11.2	38.7	4.8	17.2	-4.6	1.7	-0.6	62.4	-	Sa.
II-7-31	-	74-2-2	-	1261	IIIbM	完形	67.8	-10.1	31.7	-2.2	13.9	-7.9	2.1	-0.2	45.9	-	Sa.
-	-	-	-	1260	IIIbM	完形	69.4	-8.5	31.9	-2.0	22.7	0.9	2.2	-0.1	60.8	-	Sa.
-	-	13III S095	-	1170	IIIbM	完形	71.2	-6.7	30.5	-3.4	27.9	6.1	2.3	0.0	66.0	○	Sa.
-	-	-	-	1229他1点	IIIbM	完形	71.2	-6.7	30.5	-3.4	27.9	6.1	2.3	0.0	66.0	○	Sa.
-	-	13III S014	-	1237	IIIbM	完形	71.8	-6.1	34.8	0.9	20.4	-1.4	2.1	-0.2	64.5	-	Sa.
-	-	-	-	1238他1点	IIIbM	完形	71.8	-6.1	34.8	0.9	20.4	-1.4	2.1	-0.2	64.5	-	Sa.
-	-	13III S030	-	1458	IIIbM	完形	72.2	-5.7	32.4	-1.5	25.6	3.8	2.2	-0.1	77.6	○	Sa.
-	-	-	-	381-2	IIIbM	完形	72.2	-5.7	32.4	-1.5	25.6	3.8	2.2	-0.1	77.6	○	Sa.
-	-	-	-	2508	IIIbM	完形	72.4	-5.5	39.0	5.1	19.6	-2.2	1.9	-0.4	66.2	-	Sa.
-	-	-	-	2533	IIIbM	完形	72.5	-5.4	30.5	-3.4	26.4	4.6	2.4	0.1	66.7	-	Mud.
-	-	-	-	1469	IIIbM	完形	72.8	-5.1	28.7	-5.2	14.9	-6.9	2.5	0.2	45.1	-	Sa.
-	-	-	-	1270	IIIbM	完形	73.2	-4.7	36.7	2.8	19.4	-2.4	2.0	-0.3	77.2	-	Sa.
-	-	-	-	2512	IIIbM	完形	74.4	-3.5	35.1	1.2	25.9	4.1	2.1	-0.2	76.7	-	Sa.
-	-	-	-	1137	IIIbM	完形	74.6	-3.3	34.2	0.3	14.9	-6.9	2.2	-0.1	48.1	○	Sa.
-	-	-	-	1264	IIIbM	完形	74.8	-3.1	27.1	-6.8	18.1	-3.7	2.8	0.5	53.4	-	Sa.
-	-	-	-	1476	IIIbM	完形	75.1	-2.8	33.0	-0.9	26.2	4.4	2.3	0.0	87.1	-	Sa.
-	-	-	-	1494	IIIbM	完形	75.1	-2.8	35.0	1.1	19.4	-2.4	2.1	-0.2	61.9	○	Sa.
-	-	-	-	1267	IIIbM	完形	75.3	-2.6	29.8	-4.1	24.1	2.3	2.5	0.2	70.5	-	Sa.
-	-	-	-	1271	IIIbM	完形	75.5	-2.4	34.5	0.6	26.2	4.4	2.2	-0.1	88.4	-	Mud.
-	-	-	-	1269	IIIbM	完形	75.7	-2.2	33.1	-0.8	22.6	0.8	2.3	0.0	47.4	-	Sa.
-	-	-	-	1257	IIIbM	完形	76.6	-1.3	36.9	3.0	25.4	3.6	2.1	-0.2	85.2	-	Sa.

ⅢSB-02(2)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	付属 関連 遺構	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短 比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質		
							長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ						標準 偏差	
-		13ⅢS104		1251	ⅢbM	完形	78.4	0.5	40.5	6.6	22.3	0.5	1.9	-0.4	77.4	-	Sa.	
-		-		1259他1点														
-		-		2504	ⅢbM	完形	78.6	0.7	32.5	-1.4	22.0	0.2	2.4	0.1	80.8	-	Sa.	
-		-		2501	ⅢbM	完形	78.8	0.9	38.4	4.5	25.2	3.4	2.1	-0.2	60.5	-	Mud.	
-		-		1455	ⅢbM	完形	78.9	1.0	38.8	4.9	15.9	-5.9	2.0	-0.3	50.4	-	Sa.	
-		-		1498	ⅢbM	完形	79.4	1.5	37.9	4.0	22.2	0.4	2.1	-0.2	91.9	-	Sa.	
-		-		2507	ⅢbM	完形	80.3	2.4	25.7	-8.2	27.8	6.0	3.1	0.8	51.3	-	Mud.	
-		13ⅢS163		1490	ⅢbM	完形	80.4	2.5	38.1	4.2	20.3	-1.5	2.1	-0.2	61.1	-	Sa.	
-		-		1491他1点														
-		-		1232	ⅢbM	完形	80.5	2.6	35.3	1.4	29.1	7.3	2.3	0.0	123.0	○	Sa.	
Ⅱ-7-35		-		2219	ⅢbM	完形	80.6	2.7	25.8	-8.1	18.2	-3.6	3.1	0.8	41.0	-	Tu.	
-		-		1496	ⅢbM	完形	80.7	2.8	39.6	5.7	21.9	0.1	2.0	-0.3	77.6	-	Mud.	
-		13ⅢS027		1451	ⅢbM	完形	81.3	3.4	39.7	5.8	24.1	2.3	2.0	-0.3	75.6	○	Sa.	
-		-		1452他1点														
-		-		1233	ⅢbM	完形	81.3	3.4	41.0	7.1	22.7	0.9	2.0	-0.3	86.7	○	Mud.	
Ⅱ-7-33		-		1768	ⅢbM	完形	81.6	3.7	34.2	0.3	25.2	3.4	2.4	0.1	86.8	-	Ser.	
-		13ⅢS015		1456	ⅢbM	完形	82.0	4.1	22.6	-11.3	23.0	1.2	3.6	1.3	53.0	-	Sa.	
-		-		1465他1点														
Ⅱ-7-40		-		1275	ⅢbM	完形	82.8	4.9	40.0	6.1	19.2	-2.6	2.1	-0.2	92.2	-	Sa.	
-		-		1480	ⅢbM	完形	83.1	5.2	39.5	5.6	32.8	11.0	2.1	-0.2	102.7	-	Sa.	
-		-		1242	ⅢbM	完形	83.2	5.3	31.5	-2.4	21.1	-0.7	2.6	0.3	71.1	-	Sa.	
-		-		2510	ⅢbM	完形	83.6	5.7	37.0	3.1	24.3	2.5	2.3	0.0	92.2	○	Sa.	
Ⅱ-7-36		-		2503	ⅢbM	完形	84.2	6.3	26.1	-7.8	13.7	-8.1	3.2	0.9	38.9	-	Sa.	
Ⅱ-7-39		-		1477	ⅢbM	完形	85.1	7.2	34.8	0.9	22.3	0.5	2.4	0.1	72.1	-	Mud.	
-		13ⅢS094		2505	ⅢbM	完形	85.5	7.6	34.6	0.7	21.2	-0.6	2.5	0.2	73.0	-	Mud.	
-		-		2506														
Ⅱ-7-38		-		2222	ⅢbM	完形	86.3	8.4	32.1	-1.8	21.5	-0.3	2.7	0.4	67.9	-	Sa.	
-		-		1495	ⅢbM	完形	86.7	8.8	43.7	9.8	20.6	-1.2	2.0	-0.3	93.1	-	Mud.	
Ⅱ-7-37		-		1481-1	ⅢbM	完形	88.0	10.1	29.2	-4.7	22.1	0.3	3.0	0.7	80.2	-	Sa.	
-		-		1474	ⅢbM	完形	89.1	11.2	39.1	5.2	19.2	-2.6	2.3	0.0	91.4	-	Sa.	
Ⅱ-7-42		-		1478	ⅢbM	完形	90.7	12.8	24.7	-9.2	22.6	0.8	3.7	1.4	69.0	-	Sa.	
Ⅱ-7-41		-		1262	ⅢbM	完形	92.9	15.0	39.4	5.5	22.9	1.1	2.4	0.1	103.4	-	Sa.	
-		-		1471	ⅢbM	完形	93.3	15.4	35.7	1.8	28.4	6.6	2.6	0.3	93.5	-	Sa.	
-		13ⅢS013		1250	ⅢbM	完形	100.0	22.1	34.0	0.1	21.9	0.1	2.9	0.6	80.9	-	Sa.	
-		-		1253他1点														
Ⅱ-7-43		13ⅢS012		1464	ⅢbM	完形	101.0	23.1	26.7	-7.2	26.0	4.2	3.8	1.5	102.8	-	Sa.	
-		-		2531														
Ⅱ-7-44		-		2511	ⅢbM	完形	101.9	24.0	31.0	-2.9	17.0	-4.8	3.3	1.0	60.9	-	Mud.	
Ⅱ-7-45		-		1266	ⅢbM	完形	108.3	30.4	49.4	15.5	34.2	12.4	2.2	-0.1	200.0	-	Sa.	
-		-		1473	ⅢbM	完形	112.4	34.5	29.0	-4.9	25.0	3.2	3.9	1.6	85.1	-	Mud.	
-		13ⅢS093		1272	ⅢbM	完形	116.5	38.6	49.3	15.4	33.5	11.7	2.4	0.1	200.0	-	Sa.	
-		-		1273														
Ⅱ-7-46		-		2226	ⅢbM	完形	126.2	48.3	38.7	4.8	30.2	8.4	3.3	1.0	200.0	-	Sa.	
完形平均値							88.7		35.3		23.4		2.6		88.2			
遺物総重量														3087.5				

※71点

ⅢSB-07(1)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	付属 関連 遺構	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短 比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	
							長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ						標準 偏差
-		-		9650	ⅢbM	完形	39.2	-40.1	22.4	-15.2	14.8	-9.5	1.8	-0.5	17.8	-	Sa.
-		-		9610	ⅢbM	完形	51.4	-27.9	25.8	-11.8	18.9	-5.4	2.0	-0.2	40.5	-	Sa.
-		-		9626	ⅢbM	完形	53.6	-25.7	30.9	-6.7	22.7	-1.6	1.7	-0.5	37.1	-	Sa.
-		-		9615	ⅢbM	完形	53.6	-25.7	32.3	-5.3	11.5	-12.8	1.7	-0.5	30.4	-	Sa.
-		-		9654	ⅢbM	完形	53.8	-25.5	21.9	-15.7	21.1	-3.2	2.5	0.3	30.4	-	Sa.
Ⅱ-13-44		-		9657	ⅢbM	完形	53.8	-25.5	24.5	-13.1	22.6	-1.7	2.2	0.0	39.3	-	Sa.
-		-		9644	ⅢbM	完形	54.2	-25.1	24.8	-12.8	16.5	-7.8	2.2	0.0	24.8	-	Sa.
-		-		8402	ⅢbM	完形	55.3	-24.0	25.8	-11.8	24.9	0.6	2.1	-0.1	30.1	-	Mud.
-		-		9639	ⅢbM	完形	56.5	-22.8	39.9	2.3	23.1	-1.2	1.4	-0.8	54.6	-	Sa.
-		-		9631	ⅢbM	完形	56.8	-22.5	30.8	-6.8	17.2	-7.1	1.8	-0.4	27.7	-	Mud.
Ⅱ-13-43	76-2	-	集中区 1	8401	ⅢbM	完形	57.5	-21.8	26.5	-11.1	18.5	-5.8	2.2	0.0	32.5	-	Sa.
-		-		9546	ⅢbM	完形	58.4	-20.9	31.9	-5.7	19.2	-5.1	1.8	-0.4	44.1	-	Sa.
-		-		9715	ⅢbM	完形	58.9	-20.4	22.9	-14.7	18.8	-5.5	2.6	0.4	32.6	-	Sa.
Ⅱ-13-45		-		9717	ⅢbM	完形	59.4	-19.9	22.5	-15.1	12.2	-12.1	2.6	0.4	21.3	-	Sa.
-		-		9634	ⅢbM	完形	59.5	-19.8	25.8	-11.8	18.6	-5.7	2.3	0.1	34.7	-	Sa.
-		-		9660	ⅢbM	完形	59.5	-19.8	26.6	-11.0	21.7	-2.6	2.2	0.0	37.7	-	Sa.
-		-		9722	ⅢbM	完形	59.8	-19.5	29.8	-7.8	16.9	-7.4	2.0	-0.2	36.3	-	Sa.
-		-		9656	ⅢbM	完形	60.4	-18.9	28.0	-9.6	20.0	-4.3	2.2	0.0	40.4	-	Sa.
Ⅱ-13-47		-		9664	ⅢbM	完形	61.1	-18.2	29.0	-8.6	17.0	-7.3	2.1	-0.1	44.6	-	Sa.
Ⅱ-13-46		-		9604	ⅢbM	完形	61.5	-17.8	38.9	1.3	17.3	-7.0	1.6	-0.6	54.8	-	Sa.
-		-		8399	ⅢbM	完形	63.2	-16.1	34.5	-3.1	15.0	-9.3	1.8	-0.4	39.6	-	Sa.

III SB-07(2)

は()表記と同じ

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	付属 関連 遺構	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短 比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質			
							長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ						標準 偏差		
-	-	-	-	9540	IIIbM	完形	65.9	-13.4	40.1	2.5	24.4	0.1	1.6	-0.6	87.9	-	Sa.		
-	-	-	-	9649	IIIbM	完形	66.9	-12.4	46.4	8.8	22.2	-2.1	1.4	-0.8	77.2	-	Sa.		
-	-	-	-	9635	IIIbM	完形	67.0	-12.3	23.9	-13.7	14.2	-10.1	2.8	0.6	35.0	-	Sa.		
-	-	13 III S002	-	9662他1点	IIIbM	完形	67.9	-11.4	28.8	-8.8	19.5	-4.8	2.4	0.2	50.8	-	Sa.		
-	-	-	-	9625	IIIbM	完形	69.0	-10.3	22.8	-14.8	22.9	-1.4	3.0	0.8	35.4	-	Sa.		
-	-	-	-	9642	IIIbM	完形	72.6	-6.7	21.4	-16.2	19.4	-4.9	3.4	1.2	34.3	-	Sa.		
-	-	13 III S006	-	9251他1点	IIIbM	完形	74.2	-5.1	33.6	-4.0	25.6	1.3	2.2	0.0	88.6	-	Sa.		
-	-	-	-	9665	IIIbM	完形	75.1	-4.2	43.7	6.1	22.8	-1.5	1.7	-0.5	87.5	-	Sa.		
II-13-49	-	-	-	9628	IIIbM	略完形	77.3	-2.0	35.9	-1.7	22.6	-1.7	2.2	0.0	90.2	-	Sa.		
-	-	-	-	9711	IIIbM	完形	77.8	-1.5	35.2	-2.4	34.4	10.1	2.2	0.0	115.3	-	Sa.		
II-13-48	-	-	-	9730	IIIbM	略完形	78.1	-1.2	21.8	-15.8	17.5	-6.8	3.6	1.4	35.7	-	Mud.		
-	-	-	-	9533	IIIbM	完形	80.3	1.0	47.8	10.2	18.7	-5.6	1.7	-0.5	90.4	-	Sa.		
-	-	-	-	9666	IIIbM	完形	80.6	1.3	38.6	1.0	20.7	-3.6	2.1	-0.1	84.9	-	Sa.		
-	-	-	-	9645	IIIbM	完形	82.1	2.8	53.0	15.4	16.1	-8.2	1.5	-0.7	88.3	-	Mud.		
-	-	-	-	9603	IIIbM	完形	83.7	4.4	47.8	10.2	32.1	7.8	1.8	-0.4	200.0	-	Sa.		
-	-	13 III S085	-	9624	IIIbM	完形	85.2	5.9	46.7	9.1	21.6	-2.7	1.8	-0.4	80.5	○	Sa.		
-	-	-	-	9632															
-	-	-	-	9605	IIIbM	完形	85.4	6.1	46.1	8.5	27.0	2.7	1.9	-0.3	131.9	-	Sa.		
-	-	-	-	8396	IIIbM	完形	87.1	7.8	34.6	-3.0	20.9	-3.4	2.5	0.3	97.0	-	Sa.		
II-13-51	-	-	-	9541	IIIbM	完形	87.7	8.4	33.2	-4.4	20.5	-3.8	2.6	0.4	63.4	-	Mud.		
II-13-52	-	-	-	9640	IIIbM	完形	88.2	8.9	45.0	7.4	28.4	4.1	2.0	-0.2	178.1	-	Sa.		
II-13-50	-	-	-	9539	IIIbM	略完形	89.4	10.1	42.8	5.2	27.2	2.9	2.1	-0.1	134.6	-	Mud.		
-	-	-	-	9548	IIIbM	完形	90.1	10.8	46.0	8.4	19.8	-4.5	2.0	-0.2	127.6	-	Sa.		
-	-	-	-	9583	IIIbM	完形	90.2	10.9	46.0	8.4	28.8	4.5	2.0	-0.2	115.7	-	Sa.		
-	-	-	-	9652	IIIbM	完形	90.2	10.9	57.5	19.9	30.4	6.1	1.6	-0.6	200.0	-	Sa.		
-	-	-	-	9623	IIIbM	完形	91.5	12.2	40.7	3.1	22.2	-2.1	2.2	0.0	87.1	-	Sa.		
II-13-55	-	-	-	8400	IIIbM	完形	91.6	12.3	44.7	7.1	33.8	9.5	2.0	-0.2	139.3	-	Sa.		
-	-	-	-	9630	IIIbM	完形	91.7	12.4	34.1	-3.5	33.0	8.7	2.7	0.5	157.7	○	Sa.		
-	-	-	-	8407	IIIbM	完形	91.8	12.5	46.2	8.6	31.1	6.8	2.0	-0.2	172.2	-	Sa.		
-	-	-	-	9641	IIIbM	完形	92.0	12.7	48.3	10.7	19.1	-5.2	1.9	-0.3	135.4	-	Mud.		
-	-	13 III S135	-	9542他5点	IIIbM	完形	92.9	13.6	40.1	2.5	34.5	10.2	2.3	0.1	111.1	-	Mud.		
-	-	-	-	8395	IIIbM	完形	93.9	14.6	31.4	-6.2	35.1	10.8	3.0	0.8	110.6	○	Sa.		
-	-	13 III S003	-	9524	IIIbM	完形	95.3	16.0	34.6	-3.0	25.0	0.7	2.8	0.6	145.2	-	Mud.		
-	-	-	-	9530															
II-13-53	-	-	-	9629	IIIbM	完形	96.8	17.5	40.7	3.1	21.4	-2.9	2.4	0.2	94.3	-	Sa.		
-	-	-	-	9627	IIIbM	完形	97.7	18.4	50.0	12.4	31.6	7.3	2.0	-0.2	169.2	-	Sa.		
-	-	-	-	9716	IIIbM	完形	98.7	19.4	49.8	12.2	35.8	11.5	2.0	-0.2	164.6	-	Sa.		
II-13-56	-	-	-	9620	IIIbM	完形	101.6	22.3	36.2	-1.4	30.0	5.7	2.8	0.6	144.8	-	Sa.		
-	-	-	-	9594	IIIbM	完形	102.2	22.9	48.4	10.8	27.9	3.6	2.1	-0.1	128.5	-	Sa.		
II-13-54	-	-	-	9593	IIIbM	完形	102.4	23.1	51.1	13.5	21.0	-3.3	2.0	-0.2	134.9	-	Mud.		
-	-	-	-	9712	IIIbM	完形	104.0	24.7	44.4	6.8	46.9	22.6	2.3	0.1	200.0	-	Sa.		
II-13-57	-	-	-	9577	IIIbM	完形	106.7	27.4	43.3	5.7	32.5	8.2	2.5	0.3	200.0	-	Sa.		
-	-	-	-	8398	IIIbM	完形	106.9	27.6	42.0	4.4	25.1	0.8	2.5	0.3	144.5	-	Sa.		
II-13-59	-	-	-	9646	IIIbM	完形	108.3	29.0	36.9	-0.7	38.4	14.1	2.9	0.7	200.0	-	Sa.		
-	-	13 III S004	-	9651															
II-13-58	-	-	-	9601	IIIbM	完形	110.4	31.1	46.7	9.1	22.6	-1.7	2.4	0.2	146.6	-	Sa.		
-	-	13 III S005	-	9602															
-	-	-	-	9622	IIIbM	完形	127.2	47.9	35.9	-1.7	36.4	12.1	3.5	1.3	175.1	-	Sa.		
完形平均値							89.0		40.6		26.4		2.3		120.3				
遺物総重量																	5291.4		

※65点

集中区1(1)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	付属 関連 遺構	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短 比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	
							長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ						標準 偏差
-	-	-	-	9072	IIIbM	完形	20.4	-50.9	15.5	-20.0	9.0	-10.5	1.3	-0.8	2.5	-	Mud.
-	-	-	-	9256	IIIbM	完形	26.0	-45.3	22.6	-12.9	12.4	-7.1	1.2	-0.9	6.8	-	Mud.
-	-	-	-	9075	IIIbM	完形	27.5	-43.8	22.5	-13.0	7.1	-12.4	1.2	-0.9	5.8	-	Sa.
II-12-1	-	-	-	9127	IIIbM	完形	27.7	-43.6	24.3	-11.2	6.4	-13.1	1.1	-1.0	5.5	-	Sa.
-	-	-	-	9179	IIIbM	完形	32.5	-38.8	21.8	-13.7	13.5	-6.0	1.5	-0.6	13.7	-	Sa.
-	-	-	-	9228	IIIbM	完形	33.6	-37.7	31.7	-3.8	10.7	-8.8	1.1	-1.0	17.4	-	Sa.
II-12-31	-	-	-	7981	IIIbM	完形	84.5	13.2	29.7	-5.8	21.1	1.6	2.8	0.7	70.1	○	Mud.
-	-	-	-	9215	IIIbM	完形	36.2	-35.1	34.5	-1.0	28.6	9.1	1.0	-1.1	37.9	-	Mud.
-	-	-	-	7946	IIIbM	完形	34.8	-36.5	25.8	-9.7	16.1	-3.4	1.3	-0.8	15.9	-	Sa.
-	-	-	-	7942	IIIbM	完形	36.6	-34.7	32.9	-2.6	10.2	-9.3	1.1	-1.0	16.6	-	Sa.
-	-	-	-	9295	IIIbM	完形	38.7	-32.6	34.5	-1.0	13.7	-5.8	1.1	-1.0	22.5	-	Sa.
-	-	-	-	9182	IIIbM	完形	40.0	-31.3	39.8	4.3	14.6	-4.9	1.0	-1.1	22.4	-	Mud.
II-12-2	-	-	-	7910	IIIbM	完形	40.1	-31.2	26.9	-8.6	9.8	-9.7	1.5	-0.6	13.1	-	Sa.
-	-	-	-	9139	IIIbM	完形	41.3	-30.0	36.1	0.6	9.0	-10.5	1.1	-1.0	12.6	-	Mud.
-	-	-	-	9227	IIIbM	完形	41.7	-29.6	37.8	2.3	9.4	-10.1	1.1	-1.0	17.7	-	Sa.
-	-	-	-	9284	IIIbM	完形	42.3	-29.0	35.2	-0.3	13.7	-5.8	1.2	-0.9	24.2	-	Sa.

集中区1(2)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	付属 関連 遺構	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短 比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質
							長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差					
-	-	-	-	9226	ⅢbM	完形	43.1	-28.2	31.3	-4.2	9.0	-10.5	1.4	-0.7	18.1	-	Sa.
-	-	-	-	9225	ⅢbM	完形	43.1	-28.2	34.3	-1.2	9.3	-10.2	1.3	-0.8	17.8	-	Sa.
-	-	-	-	9083	ⅢbM	完形	46.1	-25.2	34.6	-0.9	11.4	-8.1	1.3	-0.8	17.1	-	Mud.
-	-	-	-	9079	ⅢbM	完形	46.5	-24.8	32.2	-3.3	10.5	-9.0	1.4	-0.7	15.3	-	Sa.
-	-	-	-	9064	ⅢbM	完形	47.3	-24.0	28.8	-6.7	18.7	-0.8	1.6	-0.5	33.7	-	Sa.
-	-	-	-	9168	ⅢbM	完形	47.6	-23.7	46.6	11.1	14.5	-5.0	1.0	-1.1	34.8	-	Sa.
-	-	-	-	7985	ⅢbM	完形	49.2	-22.1	14.6	-20.9	8.6	-10.9	3.4	1.3	7.8	-	Mud.
-	-	-	-	9160	ⅢbM	完形	49.5	-21.8	22.9	-12.6	8.5	-11.0	2.2	0.1	16.9	-	Qu.
II-12-6	-	-	-	9277	ⅢbM	完形	51.4	-19.9	36.0	0.5	16.8	-2.7	1.4	-0.7	38.1	-	Sa.
-	-	-	-	9222	ⅢbM	完形	51.6	-19.7	35.7	0.2	12.0	-7.5	1.4	-0.7	33.4	-	Sa.
-	-	-	-	9077	ⅢbM	完形	51.8	-19.5	38.4	2.9	19.1	-0.4	1.3	-0.8	40.3	-	Sa.
II-12-3	-	-	-	9237	ⅢbM	完形	52.2	-19.1	15.5	-20.0	11.1	-8.4	3.4	1.3	9.8	-	Sa.
-	-	-	-	9102	ⅢbM	完形	52.2	-19.1	22.8	-12.7	15.9	-3.6	2.3	0.2	18.7	-	Mud.
II-12-7	-	-	-	9073	ⅢbM	完形	52.5	-18.8	30.8	-4.7	18.1	-1.4	1.7	-0.4	34.8	-	Sa.
-	-	-	-	9229	ⅢbM	完形	52.6	-18.7	32.6	-2.9	17.3	-2.2	1.6	-0.5	37.4	-	Sa.
II-12-8	-	13ⅢS107	-	9223	ⅢbM	完形	53.3	-18.0	41.9	6.4	12.6	-6.9	1.3	-0.8	31.1	-	Sa.
-	-	-	-	9224	ⅢbM	完形	53.3	-18.0	41.9	6.4	12.6	-6.9	1.3	-0.8	31.1	-	Sa.
-	-	-	-	9299	ⅢbM	完形	53.4	-17.9	33.7	-1.8	14.4	-5.1	1.6	-0.5	32.7	-	Sa.
-	-	-	-	7945	ⅢbM	完形	54.3	-17.0	36.5	1.0	25.5	6.0	1.5	-0.6	73.0	-	Sa.
-	-	-	-	9076	ⅢbM	完形	54.4	-16.9	34.5	-1.0	16.7	-2.8	1.6	-0.5	27.5	-	Sa.
II-12-4	-	-	-	9264	ⅢbM	完形	54.8	-16.5	29.3	-6.2	13.5	-6.0	1.9	-0.2	22.9	-	Mud.
II-12-5	-	-	-	7969	ⅢbM	完形	54.9	-16.4	29.0	-6.5	10.8	-8.7	1.9	-0.2	27.7	-	Sa.
-	-	-	-	9200	ⅢbM	完形	56.4	-14.9	29.5	-6.0	23.4	3.9	1.9	-0.2	48.3	-	Mud.
-	-	-	-	9128	ⅢbM	完形	57.2	-14.1	36.2	0.7	34.5	15.0	1.6	-0.5	77.0	-	Mud.
-	-	-	-	9289	ⅢbM	完形	57.4	-13.9	34.0	-1.5	15.0	-4.5	1.7	-0.4	34.4	-	Sa.
II-12-10	-	-	-	9192	ⅢbM	完形	60.6	-10.7	35.5	0.0	17.7	-1.8	1.7	-0.4	44.8	-	Sa.
II-12-9	-	-	-	7983	ⅢbM	完形	61.2	-10.1	14.1	-21.4	14.6	-4.9	4.3	2.2	14.4	-	Mud.
-	-	-	-	9156	ⅢbM	完形	61.7	-9.6	38.0	2.5	19.1	-0.4	1.6	-0.5	62.0	-	Sa.
-	-	-	-	9231	ⅢbM	完形	62.5	-8.8	27.0	-8.5	14.2	-5.3	2.3	0.2	24.2	-	Mud.
-	-	-	-	9217	ⅢbM	完形	62.5	-8.8	37.5	2.0	16.0	-3.5	1.7	-0.4	36.6	-	Sa.
-	-	-	-	9166	ⅢbM	完形	63.0	-8.3	34.1	-1.4	17.2	-2.3	1.8	-0.3	42.9	-	Sa.
-	-	13ⅢS076	-	7949	ⅢbM	完形	64.9	-6.4	34.4	-1.1	23.9	4.4	1.9	-0.2	75.1	-	Sa.
-	-	-	-	7951	ⅢbM	完形	64.9	-6.4	34.4	-1.1	23.9	4.4	1.9	-0.2	75.1	-	Sa.
-	-	-	-	9093	ⅢbM	完形	65.4	-5.9	22.1	-13.4	20.8	1.3	3.0	0.9	38.9	-	Sa.
-	-	-	-	7953	ⅢbM	完形	65.4	-5.9	32.8	-2.7	16.6	-2.9	2.0	-0.1	45.1	-	Sa.
II-12-11	-	-	-	9063	ⅢbM	完形	65.7	-5.6	28.5	-7.0	16.6	-2.9	2.3	0.2	41.0	○	Sa.
-	-	-	-	9175	ⅢbM	完形	66.0	-5.3	31.3	-4.2	29.8	10.3	2.1	0.0	62.6	-	Sa.
-	-	-	-	9087	ⅢbM	完形	67.1	-4.2	46.0	10.5	18.0	-1.5	1.5	-0.6	58.5	-	Mud.
-	-	-	-	7961	ⅢbM	完形	67.2	-4.1	39.4	3.9	18.8	-0.7	1.7	-0.4	65.5	-	Sa.
-	-	-	-	9096	ⅢbM	完形	68.1	-3.2	36.9	1.4	17.7	-1.8	1.8	-0.3	53.7	-	Sa.
-	-	13ⅢS029	-	321	ⅢbM	完形	68.3	-3.0	25.7	-9.8	20.0	0.5	2.7	0.6	44.8	-	Mud.
-	-	-	-	9178	ⅢbM	完形	68.3	-3.0	25.7	-9.8	20.0	0.5	2.7	0.6	44.8	-	Mud.
-	-	-	-	9196	ⅢbM	完形	68.5	-2.8	25.9	-9.6	23.9	4.4	2.6	0.5	57.9	-	Sa.
II-12-21	-	-	-	9092	ⅢbM	完形	68.7	-2.6	55.5	20.0	10.4	-9.1	1.2	-0.9	56.8	-	Sa.
-	-	-	-	9280	ⅢbM	完形	68.8	-2.5	36.7	1.2	21.0	1.5	1.9	-0.2	72.4	-	Sa.
-	-	-	-	7979	ⅢbM	完形	68.9	-2.4	28.2	-7.3	26.6	7.1	2.4	0.3	79.2	-	Sa.
-	-	-	-	9249	ⅢbM	完形	69.1	-2.2	35.8	0.3	28.1	8.6	1.9	-0.2	64.9	-	Mud.
II-12-15	-	-	-	9232	ⅢbM	完形	69.3	-2.0	31.8	-3.7	19.2	-0.3	2.2	0.1	41.6	-	Ser.
-	-	-	-	7968	ⅢbM	完形	69.5	-1.8	23.5	-12.0	17.3	-2.2	3.0	0.9	36.0	-	Mud.
-	-	-	-	9240	ⅢbM	完形	69.7	-1.6	65.8	30.3	15.0	-4.5	1.1	-1.0	116.3	-	Sa.
-	-	-	-	7937	ⅢbM	完形	70.0	-1.3	34.0	-1.5	18.0	-1.5	2.1	0.0	42.7	-	Mud.
-	-	-	-	7922	ⅢbM	完形	70.1	-1.2	42.9	7.4	27.6	8.1	1.6	-0.5	68.0	-	Sa.
-	-	-	-	7915	ⅢbM	完形	70.5	-0.8	35.6	0.1	18.7	-0.8	2.0	-0.1	55.2	-	Mud.
-	-	13ⅢS007	-	9210	ⅢbM	完形	70.9	-0.4	37.0	1.5	27.0	7.5	1.9	-0.2	58.9	-	Mud.
-	-	-	-	9212-1	ⅢbM	完形	70.9	-0.4	37.0	1.5	27.0	7.5	1.9	-0.2	58.9	-	Mud.
-	-	-	-	9114	ⅢbM	完形	70.9	-0.4	37.7	2.2	25.6	6.1	1.9	-0.2	99.9	-	Sa.
II-12-13	-	-	-	9242	ⅢbM	完形	71.6	0.3	26.5	-9.0	13.1	-6.4	2.7	0.6	31.0	-	Sa.
-	-	-	-	7913	ⅢbM	完形	71.8	0.5	33.3	-2.2	26.7	7.2	2.2	0.1	76.4	-	Con.
II-12-12	-	-	-	9151	ⅢbM	完形	71.9	0.6	24.5	-11.0	13.8	-5.7	2.9	0.8	23.7	-	Mud.
-	-	-	-	7918	ⅢbM	完形	72.0	0.7	29.7	-5.8	17.4	-2.1	2.4	0.3	40.9	-	Sa.
-	-	13ⅢS018	-	9145	ⅢbM	完形	72.0	0.7	30.7	-4.8	12.3	-7.2	2.3	0.2	48.2	-	Sa.
-	-	-	-	9146	ⅢbM	完形	72.0	0.7	30.7	-4.8	12.3	-7.2	2.3	0.2	48.2	-	Sa.
II-12-22	-	-	-	9152	ⅢbM	完形	72.0	0.7	43.2	7.7	32.8	13.3	1.7	-0.4	108.8	-	Mud.
II-12-16	-	-	-	9112	ⅢbM	完形	72.6	1.3	34.5	-1.0	15.4	-4.1	2.1	0.0	43.1	-	Sa.
II-12-17	-	-	-	7911	ⅢbM	完形	72.8	1.5	27.7	-7.8	20.4	0.9	2.6	0.5	51.2	-	Sa.
-	-	-	-	7919	ⅢbM	完形	72.8	1.5	36.3	0.8	21.5	2.0	2.0	-0.1	66.8	-	Sa.
II-12-14	-	-	-	9285	ⅢbM	完形	73.3	2.0	27.7	-7.8	15.4	-4.1	2.6	0.5	32.1	-	Sa.
II-12-18	-	-	-	9298	ⅢbM	完形	73.3	2.0	32.4	-3.1	18.6	-0.9	2.3	0.2	54.1	○	Sa.
-	-	-	-	7923	ⅢbM	完形	74.8	3.5	48.0	12.5	12.0	-7.5	1.6	-0.5	57.0	-	Sa.
-	-	-	-	7917	ⅢbM	完形	75.0	3.7	40.5	5.0	19.0	-0.5	1.9	-0.2	65.5	-	Sa.
-	-	-	-	9172	ⅢbM	完形	75.1	3.8	39.2	3.7	14.8	-4.7	1.9	-0.2	64.9	-	Sa.
-	-	-	-	9204	ⅢbM	完形	75.3	4.0	43.7	8.2	30.5	11.0	1.7	-0.4	113.4	-	Sa.
-	-	-	-	9174	ⅢbM	完形	75.5	4.2	28.4	-7.1	9.6	-9.9	2.7	0.6	24.6	-	Sa.

集中区1(3)

は()表記と同じ

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	付属 関連 遺構	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短 比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質		
							長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ						標準 偏差	
-	-	13ⅢS077	集中区1	9129	ⅢbM	完形	76.0	4.7	32.3	-3.2	12.2	-7.3	2.4	0.3	35.2	-	Mud.	
-	-	9218																
-	-	9059		ⅢbM	完形	76.3	5.0	32.2	-3.3	19.8	0.3	2.4	0.3	60.9	-	Mud.		
Ⅱ-12-19	-	9283		ⅢbM	完形	76.6	5.3	29.6	-5.9	22.8	3.3	2.6	0.5	75.6	-	Sa.		
-	-	9142		ⅢbM	完形	77.2	5.9	29.6	-5.9	20.8	1.3	2.6	0.5	52.5	-	Sa.		
-	-	9201		ⅢbM	完形	77.4	6.1	32.6	-2.9	37.7	18.2	2.4	0.3	113.5	-	Mud.		
-	-	9260		ⅢbM	完形	77.6	6.3	34.5	-1.0	21.9	2.4	2.2	0.1	72.0	-	Sa.		
-	-	9252		ⅢbM	完形	78.2	6.9	39.8	4.3	28.8	9.3	2.0	-0.1	142.4	-	Sa.		
-	-	9221		ⅢbM	完形	78.3	7.0	29.9	-5.6	15.2	-4.3	2.6	0.5	36.8	-	Mud.		
-	-	9171		ⅢbM	完形	78.5	7.2	39.6	4.1	15.8	-3.7	2.0	-0.1	67.2	-	Sa.		
-	-	9203		ⅢbM	完形	78.7	7.4	28.4	-7.1	39.0	19.5	2.8	0.7	83.3	-	Mud.		
-	-	13ⅢS017		9101	ⅢbM	完形	79.4	8.1	32.7	-2.8	23.4	3.9	2.4	0.3	58.6	-	Sa.	
-	-	9253																
-	-	9188		ⅢbM	完形	79.5	8.2	38.5	3.0	19.7	0.2	2.1	0.0	73.6	-	Sa.		
Ⅱ-12-29	-	9176		ⅢbM	完形	79.6	8.3	36.7	1.2	18.9	-0.6	2.2	0.1	79.5	-	Sa.		
Ⅱ-12-20	-	9158		ⅢbM	完形	80.2	8.9	29.6	-5.9	17.9	-1.6	2.7	0.6	51.1	-	Tu.		
-	-	9066		ⅢbM	完形	80.2	8.9	34.6	-0.9	15.7	-3.8	2.3	0.2	59.9	○	Sa.		
-	-	9105		ⅢbM	完形	81.8	10.5	51.7	16.2	32.5	13.0	1.6	-0.5	150.9	-	Mud.		
-	-	13ⅢS075		7931	ⅢbM	完形	82.3	11.0	33.7	-1.8	35.6	16.1	2.4	0.3	110.7	-	Sa.	
-	-	7932他1点																
-	-	7912		ⅢbM	完形	82.6	11.3	41.1	5.6	20.4	0.9	2.0	-0.1	107.9	-	Sa.		
-	-	7958		ⅢbM	完形	82.7	11.4	32.6	-2.9	22.8	3.3	2.5	0.4	75.9	-	Mud.		
Ⅱ-12-30	-	9125		ⅢbM	完形	82.8	11.5	41.6	6.1	14.1	-5.4	2.0	-0.1	33.4	-	Mud.		
-	-	7959		ⅢbM	完形	83.5	12.2	31.6	-3.9	20.0	0.5	2.6	0.5	57.8	-	Sa.		
-	-	7942		ⅢbM	完形	83.6	12.3	36.3	0.8	27.1	7.6	2.3	0.2	90.9	-	Sa.		
-	-	13ⅢS078		7975	ⅢbM	完形	84.1	12.8	19.9	-15.6	26.7	7.2	4.2	2.1	38.8	-	Mud.	
-	-	7976																
-	-	7952		ⅢbM	完形	84.1	12.8	34.2	-1.3	18.3	-1.2	2.5	0.4	61.1	-	Sa.		
-	-	9296		ⅢbM	完形	84.1	12.8	35.2	-0.3	24.8	5.3	2.4	0.3	69.3	-	Mud.		
-	-	7930		ⅢbM	完形	84.5	13.2	38.0	2.5	16.9	-2.6	2.2	0.1	39.3	-	Mud.		
Ⅱ-12-34	-	9108		ⅢbM	完形	87.1	15.8	40.9	5.4	29.1	9.6	2.1	0.0	116.0	-	Sa.		
Ⅱ-12-38	-	9198		ⅢbM	完形	87.2	15.9	47.1	11.6	33.6	14.1	1.9	-0.2	200.0	-	Mud.		
-	-	9167		ⅢbM	完形	87.3	16.0	59.4	23.9	11.2	-8.3	1.5	-0.6	61.2	○	Mud.		
Ⅱ-12-26	-	7960		ⅢbM	完形	87.6	16.3	32.4	-3.1	20.0	0.5	2.7	0.6	68.8	-	Sa.		
Ⅱ-12-23	-	9292		ⅢbM	完形	87.6	16.3	38.9	3.4	14.7	-4.8	2.3	0.2	65.1	-	Mud.		
-	-	13ⅢS025		9138	ⅢbM	完形	88.3	17.0	46.1	10.6	32.8	13.3	1.9	-0.2	153.1	○	Sa.	
-	-	9147他1点																
-	-	7967		ⅢbM	完形	88.7	17.4	32.7	-2.8	17.7	-1.8	2.7	0.6	48.6	-	Sa.		
Ⅱ-12-32	-	7925		ⅢbM	完形	88.8	17.5	35.4	-0.1	27.5	8.0	2.5	0.4	108.0	-	Sa.		
-	-	13ⅢS023		9099	ⅢbM	完形	89.5	18.2	37.3	1.8	15.8	-3.7	2.4	0.3	82.1	-	Sa.	
-	-	9211																
Ⅱ-12-25	-	7962		ⅢbM	完形	89.7	18.4	41.6	6.1	23.3	3.8	2.2	0.1	143.3	-	Qu.		
-	-	9169		ⅢbM	完形	89.8	18.5	26.0	-9.5	21.3	1.8	3.5	1.4	59.6	-	Sa.		
-	-	13ⅢS022		9273	ⅢbM	完形	89.9	18.6	47.0	11.5	40.3	20.8	1.9	-0.2	200.0	-	Sa.	
-	-	9291																
-	-	9082		ⅢbM	完形	90.1	18.8	37.3	1.8	38.2	18.7	2.4	0.3	166.5	-	Sa.		
-	-	9122		ⅢbM	完形	90.3	19.0	43.7	8.2	23.8	4.3	2.1	0.0	100.0	-	Sa.		
-	-	9065		ⅢbM	完形	90.5	19.2	25.5	-10.0	24.3	4.8	3.5	1.4	72.4	○	Sa.		
Ⅱ-12-24	-	9187		ⅢbM	完形	90.8	19.5	32.3	-3.2	24.6	5.1	2.8	0.7	78.3	-	Mud.		
Ⅱ-12-35	-	9085		ⅢbM	完形	93.1	21.8	38.9	3.4	31.0	11.5	2.4	0.3	142.7	-	Sa.		
-	-	9170		ⅢbM	完形	95.9	24.6	26.2	-9.3	18.4	-1.1	3.7	1.6	58.3	-	Mud.		
Ⅱ-12-36	-	9098		ⅢbM	完形	97.2	25.9	44.2	8.7	15.8	-3.7	2.2	0.1	103.7	-	Sa.		
Ⅱ-13-41	-	9062		ⅢbM	完形	97.9	26.6	79.4	43.9	37.9	18.4	1.2	-0.9	300.0	-	Sa.		
Ⅱ-13-39	-	9194		ⅢbM	完形	99.3	28.0	38.5	3.0	11.7	-7.8	2.6	0.5	71.7	-	Sa.		
Ⅱ-12-28	-	13ⅢS024		7982	ⅢbM	完形	100.0	28.7	18.0	-17.5	11.9	-7.6	5.6	3.5	23.5	-	Mud.	
-	-	9336																
Ⅱ-12-37	-	9068		ⅢbM	完形	103.5	32.2	35.4	-0.1	28.9	9.4	2.9	0.8	150.0	-	Mud.		
-	-	9183		ⅢbM	完形	103.5	32.2	98.5	63.0	25.7	6.2	1.1	-1.0	400.0	-	Sa.		
-	-	9129		ⅢbM	完形	103.7	32.4	43.6	8.1	19.6	0.1	2.4	0.3	77.1	-	Tu.		
Ⅱ-12-27	-	9070		ⅢbM	略完形	105.7	34.4	35.8	0.3	18.0	-1.5	3.0	0.9	61.9	-	Mud.		
-	-	9208		ⅢbM	完形	106.2	34.9	44.6	9.1	32.2	12.7	2.4	0.3	200.0	-	Sa.		
-	-	9186		ⅢbM	完形	106.6	35.3	38.4	2.9	20.4	0.9	2.8	0.7	96.3	-	Sa.		
Ⅱ-12-33	-	9202		ⅢbM	完形	107.3	36.0	25.1	-10.4	17.0	-2.5	4.3	2.2	56.8	○	Sa.		
Ⅱ-13-40	-	9304		ⅢbM	完形	111.1	39.8	28.6	-6.9	21.7	2.2	3.9	1.8	86.7	-	Mud.		
-	-	9306		ⅢbM	完形	111.4	40.1	39.9	4.4	18.8	-0.7	2.8	0.7	100.0	-	Mud.		
-	-	9303		ⅢbM	完形	139.7	68.4	56.6	21.1	17.5	-2.0	2.5	0.4	200.0	-	Sa.		
Ⅱ-13-42	-	9053		ⅢbM	完形	170.3	99.0	100.6	65.1	33.1	13.6	1.7	-0.4	1000.0	-	Sa.		
-	-	13ⅢS066		9090	ⅢbM	完形	131.4	60.1	82.7	47.2	39.2	19.7	1.6	-0.5	400.0	-	Sa.	
-	-	9091																
完形平均値							71.3		35.5		19.5		2.1		71.8			
遺物総重量														10264.7				

※144点

ⅢSB-06

挿図番号	図版番号	個体名称	付属関連遺構	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	
							長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差						
-	-	-	-	9524	ⅢbM	完形	60.3	-17.3	25.3	-7.3	17.8	-3.3	2.4	0.0	26.5	-	Mud.	
Ⅱ-15-1	-	-	-	9523	ⅢbM	完形	61.1	-16.5	28.5	-4.1	17.9	-3.2	2.1	-0.3	38.2	-	Sa.	
-	-	-	-	9509	ⅢbM	完形	61.3	-16.3	27.5	-5.1	26.2	5.1	2.2	-0.2	54.1	-	Sa.	
-	-	-	-	9502	ⅢbM	完形	63.8	-13.8	25.8	-6.8	20.3	-0.8	2.5	0.1	37.3	-	Sa.	
-	-	-	-	8492	ⅢbM	完形	68.6	-9.0	27.6	-5.0	25.5	4.4	2.5	0.1	64.0	-	Sa.	
Ⅱ-15-2	-	-	-	8489	ⅢbM	完形	69.4	-8.2	39.9	7.3	19.0	-2.1	1.7	-0.7	69.4	-	Sa.	
-	-	-	-	9508	ⅢbM	完形	71.4	-6.2	37.2	4.6	20.5	-0.6	1.9	-0.5	69.4	-	Sa.	
-	-	-	-	8497	ⅢbM	完形	71.9	-5.7	29.8	-2.8	25.0	3.9	2.4	0.0	71.3	-	Sa.	
-	-	-	-	9520	ⅢbM	完形	72.7	-4.9	34.5	1.9	26.5	5.4	2.1	-0.3	80.0	-	Sa.	
-	-	-	-	9525	ⅢbM	完形	73.0	-4.6	29.9	-2.7	19.9	-1.2	2.4	0.0	47.4	-	Mud.	
-	-	-	-	8487	ⅢbM	完形	73.1	-4.5	38.9	6.3	23.9	2.8	1.9	-0.5	71.5	-	Sa.	
-	-	-	-	9521	ⅢbM	完形	73.6	-4.0	35.0	2.4	19.4	-1.7	2.1	-0.3	56.5	-	Sa.	
-	-	-	-	9505	ⅢbM	完形	74.2	-3.4	24.7	-7.9	24.8	3.7	3.0	0.6	55.6	-	Sa.	
-	-	-	-	8500	ⅢbM	完形	74.2	-3.4	33.1	0.5	20.8	-0.3	2.2	-0.2	66.8	-	Sa.	
-	-	-	-	8499	ⅢbM	完形	76.4	-1.2	30.3	-2.3	17.3	-3.8	2.5	0.1	57.4	-	Sa.	
-	-	-	-	9504	ⅢbM	完形	76.5	-1.1	35.9	3.3	28.0	6.9	2.1	-0.3	81.1	-	Sa.	
-	-	-	-	8498	ⅢbM	完形	77.0	-0.6	29.9	-2.7	24.4	3.3	2.6	0.2	86.5	-	Sa.	
-	-	-	-	8496	ⅢbM	完形	79.6	2.0	35.0	2.4	19.9	-1.2	2.3	-0.1	74.9	-	Sa.	
Ⅱ-15-3	-	-	-	9516	ⅢbM	完形	79.8	2.2	30.9	-1.7	16.0	-5.1	2.6	0.2	46.1	-	Mud.	
-	-	-	-	9501	ⅢbM	完形	81.0	3.4	33.6	1.0	21.0	-0.1	2.4	0.0	58.7	-	Sa.	
-	-	-	-	9503	ⅢbM	完形	81.0	3.4	33.6	1.0	21.0	-0.1	2.4	0.0	58.7	-	Sa.	
-	-	-	-	8488	ⅢbM	完形	83.0	5.4	29.8	-2.8	15.1	-6.0	2.8	0.4	51.2	-	Sa.	
Ⅱ-15-5	-	-	-	9510	ⅢbM	完形	83.0	5.4	33.2	0.6	16.4	-4.7	2.5	0.1	60.1	-	Sa.	
-	-	-	-	9511	ⅢbM	完形	83.0	5.4	33.2	0.6	16.4	-4.7	2.5	0.1	60.1	-	Sa.	
-	-	-	-	9517	ⅢbM	完形	83.6	6.0	34.3	1.7	29.2	8.1	2.4	0.0	103.8	-	Sa.	
-	-	-	-	9506	ⅢbM	完形	85.9	8.3	31.7	-0.9	22.2	1.1	2.7	0.3	76.9	-	Sa.	
Ⅱ-15-4	-	-	-	9512	ⅢbM	完形	87.0	9.4	32.5	-0.1	17.4	-3.7	2.7	0.3	65.2	-	Sa.	
Ⅱ-15-6	-	-	-	9513	ⅢbM	完形	87.8	10.2	23.7	-8.9	23.5	2.4	3.7	1.3	59.6	-	Sa.	
Ⅱ-15-7	-	-	-	9518	ⅢbM	完形	87.8	10.2	37.6	5.0	18.1	-3.0	2.3	-0.1	82.5	-	Sa.	
-	-	-	-	9519	ⅢbM	完形	87.8	10.2	37.6	5.0	18.1	-3.0	2.3	-0.1	82.5	-	Sa.	
-	-	-	-	8493	ⅢbM	完形	88.1	10.5	40.0	7.4	20.0	-1.1	2.2	-0.2	108.2	-	Sa.	
-	-	-	-	8494	ⅢbM	完形	93.2	15.6	36.3	3.7	16.7	-4.4	2.6	0.2	78.9	-	Sa.	
-	-	-	-	8495	ⅢbM	完形	110.3	32.7	44.2	11.6	21.6	0.5	2.5	0.1	143.5	-	Sa.	
-	-	-	-	9567	ⅢbM	完形	110.3	32.7	44.2	11.6	21.6	0.5	2.5	0.1	143.5	-	Sa.	
完形平均値							77.6		32.6		21.1		2.4		68.1			
遺物総重量													2042.6					

※30点

ⅢSB-03

挿図番号	図版番号	個体名称	付属関連遺構	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	
							長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差						
Ⅱ-23-1	-	13ⅢS110	-	2202	ⅢbM	完形	60.7	-16.6	29.1	-5.0	17.6	-2.6	2.1	-0.2	39.5	-	Sa.	
-	-	-	-	2203	ⅢbM	完形	60.7	-16.6	29.1	-5.0	17.6	-2.6	2.1	-0.2	39.5	-	Sa.	
-	-	-	-	2195	ⅢbM	完形	61.0	-16.3	31.0	-3.1	14.4	-5.8	2.0	-0.3	43.0	-	Sa.	
-	-	13ⅢS111	-	2196	ⅢbM	完形	67.4	-9.9	40.3	6.2	21.5	1.3	1.7	-0.6	71.4	-	Sa.	
-	-	-	-	2197	ⅢbM	完形	67.4	-9.9	40.3	6.2	21.5	1.3	1.7	-0.6	71.4	-	Sa.	
-	-	-	-	2155	ⅢbM	完形	69.7	-7.6	27.4	-6.7	18.1	-2.1	2.5	0.2	42.0	-	Sa.	
-	-	13ⅢS044	-	2190	ⅢbM	完形	69.8	-7.5	35.9	1.8	17.7	-2.5	1.9	-0.4	46.7	-	Sa.	
-	-	-	-	2191他2点	ⅢbM	完形	69.8	-7.5	35.9	1.8	17.7	-2.5	1.9	-0.4	46.7	-	Sa.	
-	-	-	-	2161	ⅢbM	完形	72.4	-4.9	25.6	-8.5	23.8	3.6	2.8	0.5	50.7	-	Sa.	
-	-	-	-	2194	ⅢbM	完形	73.0	-4.3	34.9	0.8	17.1	-3.1	2.1	-0.2	51.5	-	Sa.	
-	-	13ⅢS041	-	2184	ⅢbM	完形	76.9	-0.4	24.3	-9.8	13.9	-6.3	3.2	0.9	19.7	-	Mud.	
-	-	-	-	2185	ⅢbM	完形	76.9	-0.4	24.3	-9.8	13.9	-6.3	3.2	0.9	19.7	-	Mud.	
Ⅱ-23-2	-	-	-	2160	ⅢbM	完形	77.2	-0.1	31.1	-3.0	18.0	-2.2	2.5	0.2	62.5	-	Sa.	
-	-	-	-	2206	ⅢbM	完形	79.8	2.5	38.6	4.5	22.4	2.2	2.1	-0.2	77.2	-	Sa.	
-	-	13ⅢS072	-	2167	ⅢbM	完形	85.8	8.5	42.0	7.9	27.8	7.6	2.0	-0.3	120.9	-	Sa.	
-	-	-	-	2171他10点	ⅢbM	完形	85.8	8.5	42.0	7.9	27.8	7.6	2.0	-0.3	120.9	-	Sa.	
-	-	-	-	2204	ⅢbM	完形	88.2	10.9	45.6	11.5	18.9	-1.3	1.9	-0.4	56.9	-	Sa.	
Ⅱ-23-3	-	-	-	2205	ⅢbM	完形	123.5	46.2	37.4	3.3	31.4	11.2	3.3	1.0	142.4	-	Sa.	
完形平均値							77.3		34.1		20.2		2.3		63.4			
遺物総重量													824.4					

※13点

III SB-04

は()表記と同じ

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	付属 関連 遺構	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短 比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質		
							長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ						標準 偏差	
II-23-6	-	-	-	2122	IIIbM	完形	56.2	-4.7	17.8	-11.6	10.9	-5.4	3.2	1.0	17.2	-	Mud.	
-	-	-	-	2078	IIIbM	完形	38.1	-22.8	19.6	-9.8	14.9	-1.4	1.9	-0.3	12.6	-	Sa.	
-	-	-	-	2079	IIIbM	完形	41.9	-19.0	25.4	-4.0	22.4	6.1	1.6	-0.6	27.4	-	Sa.	
-	-	-	-	2130	IIIbM	完形	44.4	-16.5	24.4	-5.0	12.1	-4.2	1.8	-0.4	16.0	-	Sa.	
-	-	-	-	2129	IIIbM	完形	48.4	-12.5	44.4	15.0	15.3	-1.0	1.1	-1.1	41.3	-	Sa.	
-	-	-	-	2145	IIIbM	完形	45.9	-15.0	18.6	-10.8	11.4	-4.9	2.5	0.3	13.4	-	Sa.	
II-23-4	-	-	-	2066	IIIbM	完形	46.2	-14.7	19.6	-9.8	14.3	-2.0	2.4	0.2	17.7	-	Sa.	
-	-	-	-	2095	IIIbM	完形	48.0	-12.9	18.1	-11.3	13.2	-3.1	2.7	0.5	13.0	-	Sa.	
-	-	13III S033	-	2101	IIIbM	完形	49.0	-11.9	21.9	-7.5	10.1	-6.2	2.2	0.0	13.6	-	Mud.	
-	-	-	-	2116														
-	-	-	-	2065	IIIbM	完形	52.6	-8.3	17.6	-11.8	16.3	0.0	3.0	0.8	16.0	-	Mud.	
II-23-5	-	-	-	2087	IIIbM	完形	53.5	-7.4	26.3	-3.1	11.8	-4.5	2.0	-0.2	15.3	-	Mud.	
-	-	-	-	2108	IIIbM	完形	56.0	-4.9	30.6	1.2	12.6	-3.7	1.8	-0.4	31.0	-	Sa.	
-	-	-	-	2098	IIIbM	完形	56.3	-4.6	20.5	-8.9	8.5	-7.8	2.7	0.5	12.7	-	Mud.	
-	-	-	-	2086	IIIbM	完形	58.7	-2.2	41.4	12.0	13.5	-2.8	1.4	-0.8	21.4	-	Mud.	
II-23-7	-	-	-	2133	IIIbM	完形	59.4	-1.5	24.7	-4.7	10.9	-5.4	2.4	0.2	15.8	-	Sa.	
-	-	-	-	2134														
-	-	-	-	2137	IIIbM	完形	61.5	0.6	32.5	3.1	18.1	1.8	1.9	-0.3	42.2	-	Sa.	
-	-	-	-	2067	IIIbM	完形	62.1	1.2	22.3	-7.1	14.5	-1.8	2.8	0.6	16.6	-	Mud.	
-	-	-	-	2091	IIIbM	完形	63.2	2.3	32.3	2.9	23.3	7.0	2.0	-0.2	49.6	-	Sa.	
-	-	-	-	2090	IIIbM	完形	65.4	4.5	31.8	2.4	18.1	1.8	2.1	-0.1	38.4	-	Sa.	
-	-	-	-	2131	IIIbM	完形	65.9	5.0	29.6	0.2	24.3	8.0	2.2	0.0	46.7	-	Sa.	
II-23-8	-	-	-	2060	IIIbM	完形	66.2	5.3	22.4	-7.0	18.1	1.8	3.0	0.8	28.4	-	Sa.	
-	-	-	-	2061														
II-23-11	-	-	-	2077	IIIbM	完形	66.3	5.4	32.8	3.4	17.6	1.3	2.0	-0.2	48.1	-	Sa.	
II-23-9	-	-	-	2099	IIIbM	完形	66.5	5.6	35.4	6.0	16.5	0.2	1.9	-0.3	47.5	○	Sa.	
-	-	-	-	2109	IIIbM	完形	67.1	6.2	32.0	2.6	16.6	0.3	2.1	-0.1	37.9	-	Mud.	
-	-	-	-	2110他1点														
II-23-10	-	-	-	2075	IIIbM	完形	69.5	8.6	32.2	2.8	11.7	-4.6	2.2	0.0	37.4	-	Sa.	
-	-	-	-	2070	IIIbM	完形	69.7	8.8	37.5	8.1	24.9	8.6	1.9	-0.3	66.5	-	Sa.	
-	-	-	-	2057	IIIbM	完形	72.4	11.5	29.4	0.0	17.1	0.8	2.5	0.3	29.5	-	Mud.	
-	-	-	-	2058														
-	-	-	-	2085	IIIbM	完形	73.6	12.7	33.9	4.5	14.0	-2.3	2.2	0.0	44.2	-	Sa.	
-	-	-	-	2080	IIIbM	完形	75.9	15.0	46.7	17.3	18.7	2.4	1.6	-0.6	82.2	-	Sa.	
II-23-12	-	-	-	2107	IIIbM	完形	80.5	19.6	41.7	12.3	32.2	15.9	1.9	-0.3	105.8	-	Sa.	
-	-	-	-	2120	IIIbM	完形	83.8	22.9	29.8	0.4	21.0	4.7	2.8	0.6	76.9	-	Mud.	
II-23-13	-	-	-	2132	IIIbM	完形	86.7	25.8	26.8	-2.6	12.5	-3.8	3.2	1.0	43.1	○	Sa.	
II-23-14	-	-	-	2127	IIIbM	完形	93.9	33.0	40.2	10.8	20.2	3.9	2.3	0.1	84.3	-	Mud.	
-	-	-	-	2128														
完形平均値							62.0		29.1		16.3		2.2		36.7			
遺物総重量																1209.7		

※33点

III SB-05

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	付属 関連 遺構	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短 比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質		
							長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ						標準 偏差	
-	-	-	-	1075	IIIbM	完形	51.7	-16.9	28.7	-5.7	19.7	2.8	1.8	-0.2	34.0	-	Sa.	
-	-	-	-	1060	IIIbM	完形	57.6	-11.0	34.4	0.0	13.6	-3.3	1.7	-0.3	37.8	-	Sa.	
-	-	-	-	1087	IIIbM	完形	59.2	-9.4	28.8	-5.6	20.9	4.0	2.1	0.1	41.4	-	Sa.	
-	-	-	-	1063	IIIbM	完形	59.7	-8.9	27.7	-6.7	20.3	3.4	2.2	0.2	29.2	-	Sa.	
II-23-15	-	-	-	1072	IIIbM	完形	60.6	-8.0	31.3	-3.1	9.6	-7.3	1.9	-0.1	29.1	-	Sa.	
-	-	-	-	1073	IIIbM	完形	63.4	-5.2	34.9	0.5	14.1	-2.8	1.8	-0.2	34.7	-	Sa.	
II-23-16	-	-	-	1068	IIIbM	略完形	64.8	-3.8	29.7	-4.7	22.0	5.1	2.2	0.2	38.9	-	Mud.	
-	-	-	-	1079	IIIbM	完形	64.8	-3.8	35.4	1.0	14.7	-2.2	1.8	-0.2	41.7	-	Sa.	
-	-	13III S118	-	1061	IIIbM	完形	64.8	-3.8	36.1	1.7	9.6	-7.3	1.8	-0.2	32.1	-	Mud.	
-	-	-	-	1062														
II-23-17	-	-	-	1070	IIIbM	完形	71.5	2.9	43.4	9.0	17.3	0.4	1.6	-0.4	70.0	-	Sa.	
-	-	-	-	1074	IIIbM	完形	74.2	5.6	37.8	3.4	14.4	-2.5	2.0	0.0	56.8	-	Sa.	
II-23-19	-	-	-	1078	IIIbM	完形	75.0	6.4	40.0	5.6	18.8	1.9	1.9	-0.1	68.8	-	Sa.	
-	-	-	-	1064	IIIbM	略完形	76.2	7.6	41.3	6.9	18.9	2.0	1.8	-0.2	76.8	-	Sa.	
-	-	-	-	1059	IIIbM	完形	76.6	8.0	33.8	-0.6	17.2	0.3	2.3	0.3	50.2	-	Sa.	
-	-	-	-	1069	IIIbM	完形	81.0	12.4	43.6	9.2	11.1	-5.8	1.9	-0.1	58.3	-	Sa.	
II-23-18	-	-	-	1086	IIIbM	完形	82.1	13.5	22.0	-12.4	28.4	11.5	3.7	1.7	65.7	-	Sa.	
-	-	-	-	1081	IIIbM	完形	83.6	15.0	36.7	2.3	16.6	-0.3	2.3	0.3	65.2	-	Mud.	
完形平均値							68.6		34.4		16.9		2.0		48.9			
遺物総重量																830.7		

※17点

第Ⅲ章 擦文・続縄文文化期・縄文時代晩期の調査

第1節 集中区

集中区3 (図Ⅲ-1 図版12・13 79-1～7)

位置：BC・BD-29・30区 規模：720×690cm

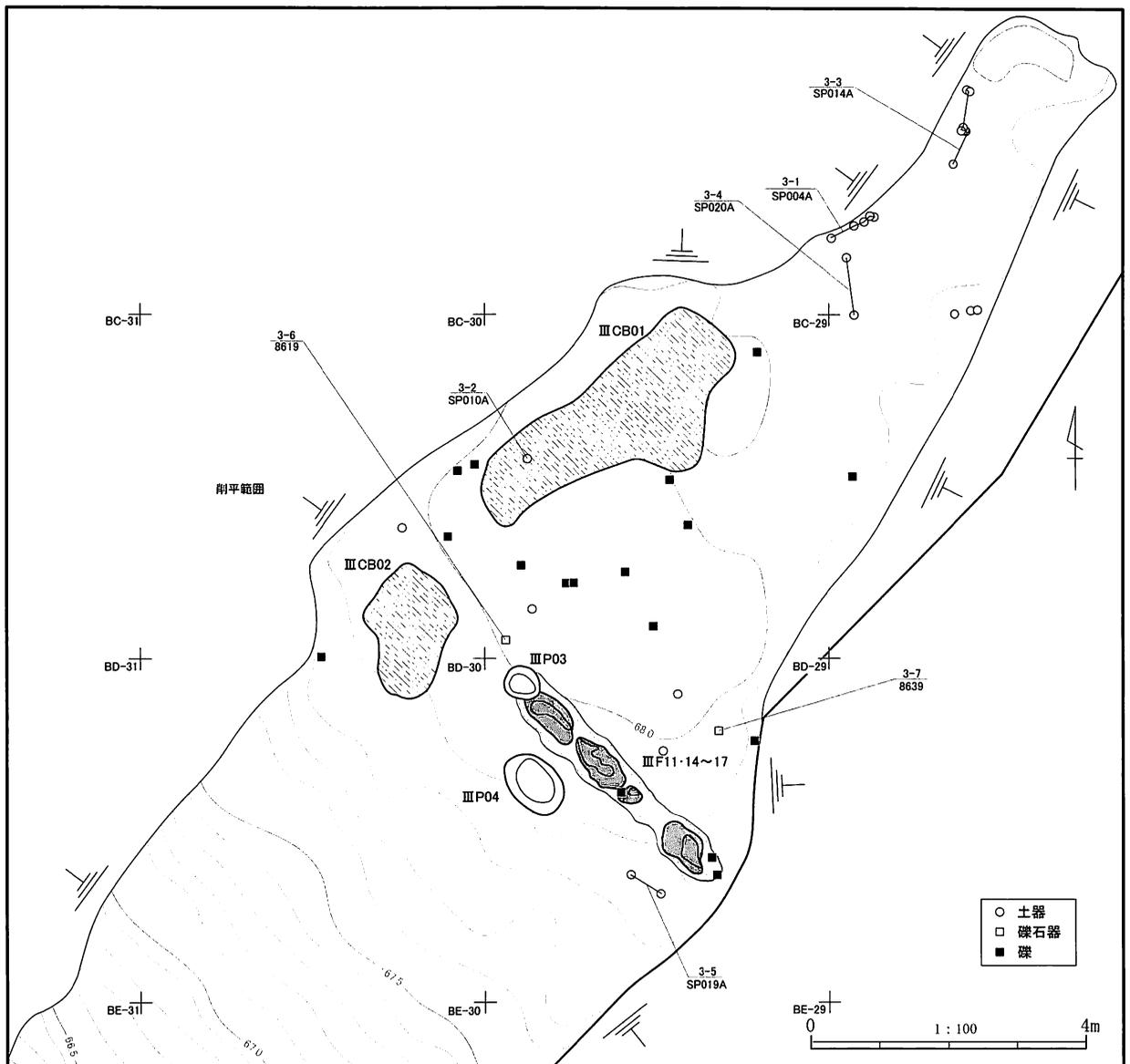
関連遺構：土坑 ⅢP-03・04 焼土 ⅢF-11・14～17 炭化物集中 ⅢCB-01・02

確認・調査 BD-29区のⅢb層を調査した際、焼土(ⅢF-11・14～17)がⅢb層下位からⅢc層上面において北西-南西軸に連なって検出された。焼土の精査中、Ⅲb層の落ち込みを2ヵ所検出し(ⅢP-03・04)、焼土の平面、断面図の作成と並行し、土坑の調査を進めた。BC-29区とBC・BD-30区から炭化物集中(ⅢCB-01・02)を検出したため、平面図作成と土壌サンプリングを行った。これらを報告書作成段階でⅢF-11・14～17と土坑(ⅢP-03・04)及び炭化物集中(ⅢCB-01・02)を合わせて集中区3として設定した。放射性炭素年代、動物、植物種子の分析については第Ⅴ章で記載しているので、別途参照されたい。

土坑〔ⅢP-03・04〕(図Ⅲ-2)ⅢP-03は北西のⅢF-11を切って構築されている。堆積土は土坑掘削時のⅢc・Ⅳ層を主体とする土で埋め戻されており、埋土1層中にB-Tmをブロック状に含むことから構築時期はB-Tm降下より新しいと考えられる。ⅢP-04は焼土群の南西側で検出された。4層は土坑掘削時のⅤ層主体の土で埋め戻し、2・3層はB-Tmが縦位方向にブロック状の混入を示していることから、土坑開口部の崩落土と考えられる。このことから、4層は土坑内に充填されて埋め戻されたのではなく、オーバーハングしていた部分は空隙であったことが推察できる。そのため本土坑は開口部がやや狭い袋状を呈していた可能性がある。こうした擦文文化期の土坑は、同町内の上幌内モイ遺跡(厚真町2007)のⅢP-03で同様の形態を示しており、焼土に隣接して構築されているため、焼土に関連した遺構であると考えられる。構築時期はⅢP-03同様B-Tm降下より新しいと考えられる。

焼土〔ⅢF-11・14～17〕(図Ⅲ-2)北西-南東軸に列をなしている。地山被熱層(焼土)はⅢF-14を11と15が切っている以外、重複関係は認められない。焼土中には焼骨片が多量に含まれ、焼土の周囲からも検出されたため、フローテーションサンプルを採取した。南東側のⅢF-16・17は北西側の3ヵ所と重複関係にないが、被覆する黒色土と軸線上に並ぶ配列から同時期の遺構と判断した。ⅢF-11より回収した炭化種子で年代測定を行ったところ15世紀中葉～末葉という結果を得ており、擦文文化期に位置づけた調査と矛盾した結果となった。

炭化物集中〔ⅢCB-01・02〕(図Ⅲ-1)段丘西側縁辺部に位置する。集中度の高い範囲を炭化物集中としたため二つに分かれたが、周りにも散在的に炭化物は出土しており、ⅢCB-01・02は一連のものと考えられる。フローテーションの結果、ⅢCB-01からは炭化材が40.1g、ⅢCB-02からは126.5g、その他両遺構から被熱した獣骨・クルミ・ブドウ等の炭化種子が検出された。ⅢCB-02より回収した炭化材で年代測定を行ったところ11世紀前葉～12世紀前葉という結果(第Ⅴ章第1節参照)を得ており、時期的な矛盾はないが、前述したⅢF-11との結果を踏まえると時期的矛盾が生じる。このような結果は、サンプリングエラーやコンタミも考えられるが、中世アイヌから擦文文化期へ連続的に検出される遺構調査の今後の課題としたい。(岩橋)



図Ⅲ-1 集中区3平面図

出土遺物 (図Ⅲ-3) 1は口縁部で屈曲して垂直に立ち上がる甕である。口唇部は丸状で内外面ともに丁寧にミガキ調整が施される。口縁部には3段の刻み列、胴部文様帯は比較的細い棒状工具で施文され、順序は上から鋸歯状文、矢羽根状文、鋸歯状文で最後に2条1対の横走沈線文で2段に区画している。2は坏の口縁部片と思われる資料で、1条の横走沈線文が施文される。3は胴部片で、ハケメ調整後の胴部文様帯下縁に斜行沈線文を廻らせ、間を充填するように横、縦方向の順に沈線文が施されている。4・5は底部片で、4はハケメ調整後に底面から変換点に向かってナデ調整をしているため、変換点が丸味を帯び断面がやや張り出す形状となる。5は角状で外傾して立ち上がる。内面は4が横方向、5が不規則にミガキ調整される。土器の内面は1・3が黒色処理されており、2は風化のため判然としないが一部黒色処理が認められる。6は板状礫が素材となるたたき石で、上部を欠損している。正面中央と右側面下部に浅い敲打痕が残る。被熱により全体が黒く変色している。7は滑沢面のある礫で、平坦面を有するやや大型の棒状礫を素材とする。長軸方向に滑沢面があり、3面に分かれる。左側面には砥

ⅢF-11・14 ~ 17・ⅢP-03・04

ⅢF-11・14~17

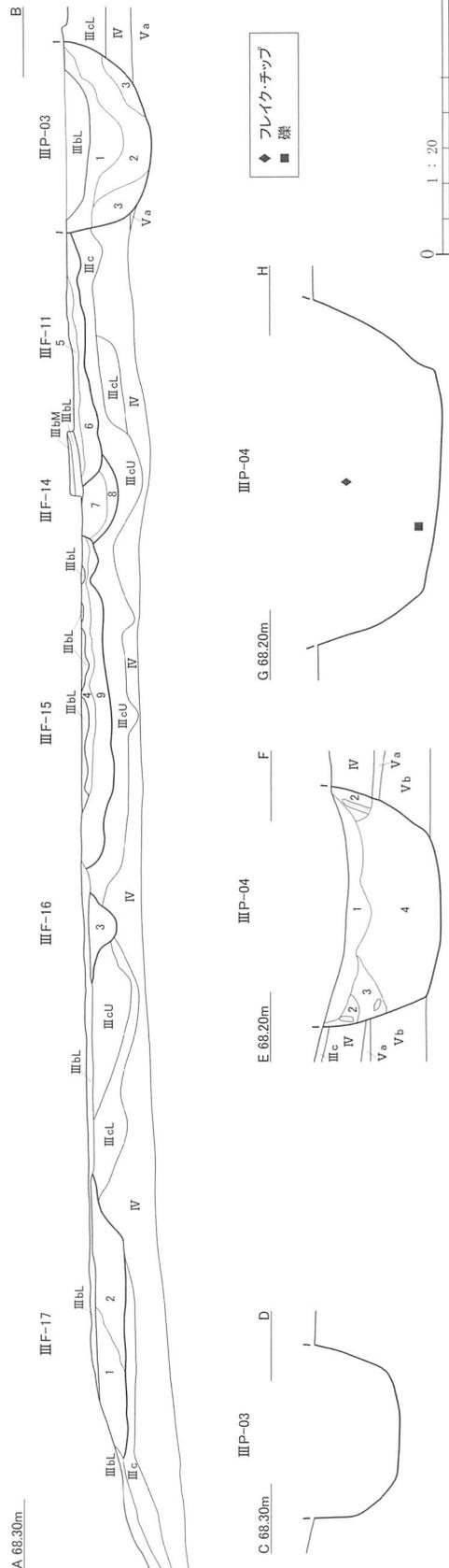
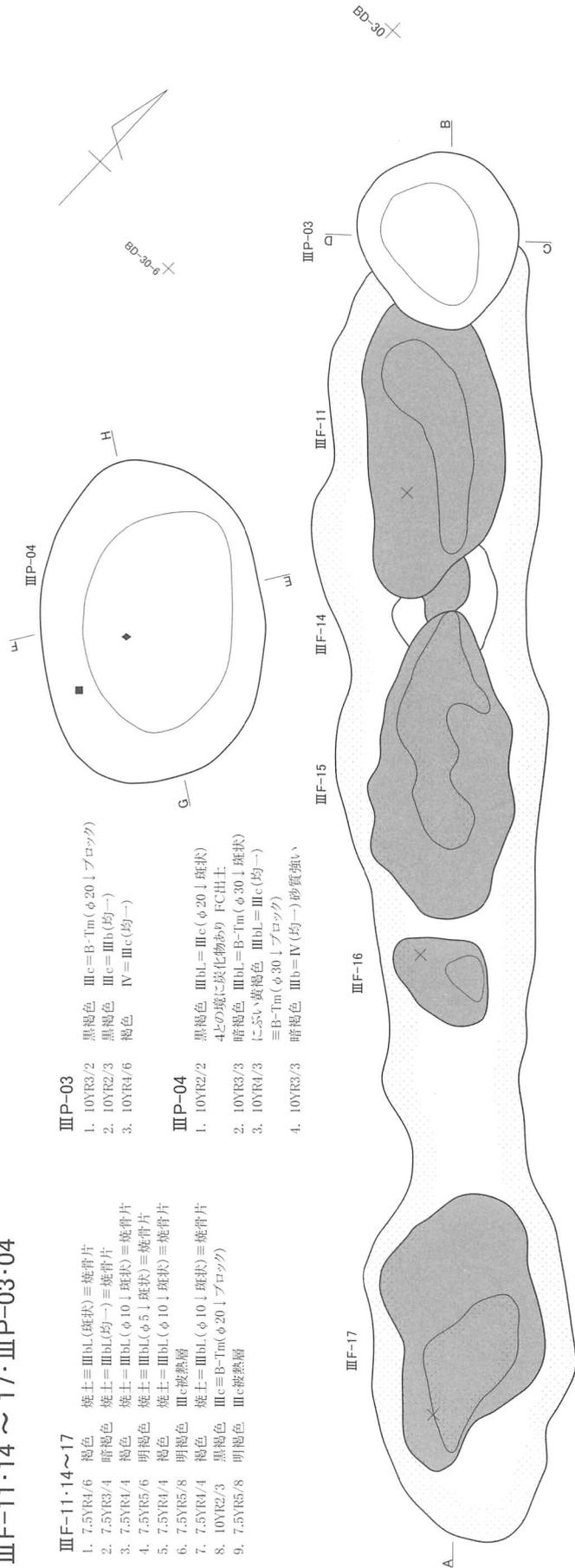
- 1. 7.5YR4/6 褐色 焼土≡Ⅲbl(斑状)≡焼骨片
- 2. 7.5YR3/4 暗褐色 焼土=Ⅲbl(均一)≡焼骨片
- 3. 7.5YR4/4 褐色 焼土=Ⅲbl(φ10↓斑状)≡焼骨片
- 4. 7.5YR5/6 明褐色 焼土≡Ⅲbl(φ5↓斑状)≡焼骨片
- 5. 7.5YR4/4 褐色 焼土=Ⅲbl(φ10↓斑状)≡焼骨片
- 6. 7.5YR5/8 明褐色 Ⅲc-被熱層
- 7. 7.5YR4/4 褐色 焼土=Ⅲbl(φ10↓斑状)≡焼骨片
- 8. 10YR2/3 黒褐色 Ⅲc≡B-Tm(φ20↓ブロック)
- 9. 7.5YR5/8 明褐色 Ⅲc-被熱層

ⅢP-03

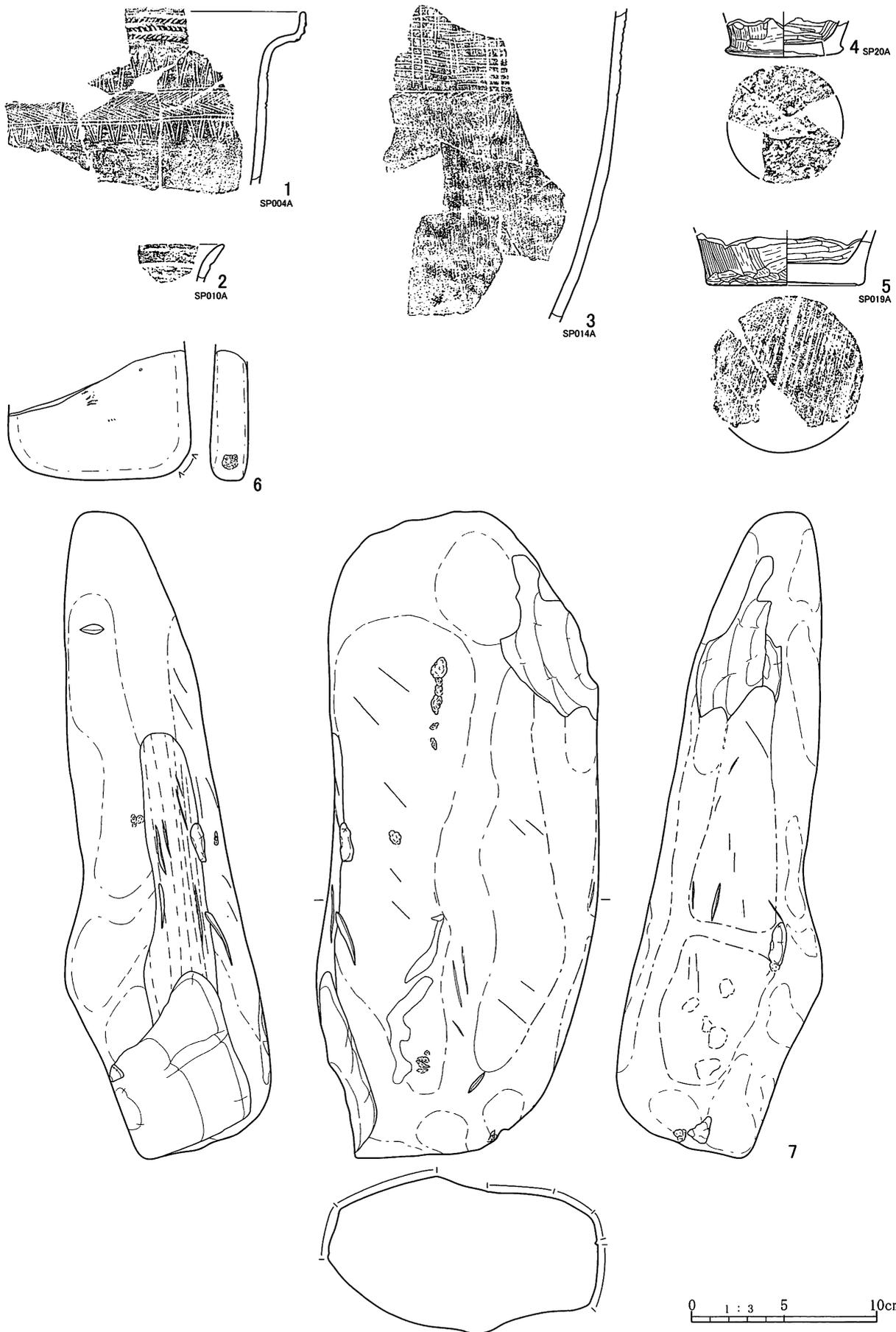
- 1. 10YR3/2 黒褐色 Ⅲc=B-Tm(φ20↓ブロック)
- 2. 10YR2/3 黒褐色 Ⅲc=Ⅲb(均一)
- 3. 10YR4/6 褐色 Ⅳ=Ⅲc(均一)

ⅢP-04

- 1. 10YR2/2 黒褐色 Ⅲbl=Ⅲc(φ20↓斑状)
- 2. 10YR3/3 暗褐色 4以上の境に炭化物及びFC出土
- 3. 10YR4/3 に5い、黄褐色 Ⅲbl=Ⅲc(均一)
- 4. 10YR3/3 暗褐色 Ⅲb=Ⅳ(均一)砂質強い



図Ⅲ-2 集中区3ⅢP・ⅢF平面及び断面図



図Ⅲ-3 集中区3出土遺物

面が確認され滑沢面より新しい。また、敲打痕や線条痕も認められた。条痕の幅は1mm未満のものから約3mmの溝状になるものもある。特に、砥面上に残る線条痕は幅が広い。6は緑色泥岩製、7は砂岩製である。
(土器：奈良・石器：松井)

第2節 土坑・焼土

集中区に属さない単独の土坑は1基、焼土は8ヵ所検出している。いずれも段丘南端部の T_2 - T_1 段丘崖から T_1 面にかけて検出した。

1. 土坑

ⅢP-02 (図Ⅲ-4 図版 14-1・2)

位置：BE-30区 規模：86×64×26cm 平面形：楕円形

確認・調査 BE-30区斜面のⅢc層精査中にB-Tmが混入した黒色土の落ち込みを検出し短軸で半截したところ、平坦な底面と明瞭な壁面の立ち上がりを確認したため土坑と判断し調査した。

形態 平面形は不整な楕円形である。坑底面は平坦だがわずかに凹面を呈し、壁は坑口部に向かいやや広がっている。

堆積状態 2～4層は土坑掘削時のⅢb層中位・Ⅲc層を主体とし、斑状に混じる堆積も認められることから人為的な埋め戻し土と考えられる。1層中にB-Tmがブロック状に混入しているが、これらは土坑壁面近くのみ認められることから、埋め戻し後の土坑開口部の崩落と考えられ、集中区3のⅢP-03・04同様、開口部が狭い袋状の可能性が考えられる。このことから、本遺構の構築時期はB-Tm降下より新しく、また周辺から出土している土器からも擦文文化期後半の所産と考えられる。

出土遺物 遺物は出土していない。(岩橋)

2. 焼土

住居跡、集中区に属さないもので、Ⅲb層下位～Ⅲc層にかけて燃焼面を検出したもの。主な分布域は平坦面中央から北側で、2ヵ所のみ南側斜面に検出している。フローテーションによって回収された動物骨、炭化種子の同定については第Ⅴ章に掲載している。

ⅢF-04・08 (図Ⅲ-4 図版 14-3～6)

AJ-31区のⅢb層下位で不整形の焼土を検出しⅢF-04と付番した。確認面で焼骨片等は認められなかったが、土壌のサンプリングを行いながら周囲を掘り広げたところ、西側のAJ・AK-31区Ⅲc層上面で焼土を検出しⅢF-08を付番した。両焼土ともに不整形を呈し、比較的近接している。平面の記録後に重複関係を確認するためのトレンチを設定し調査を行ったが、重複関係は認められなかった。断面観察からⅢF-04は被熱層が6cm程で被熱赤色化は弱い。フローテーションの結果、微量の魚骨が得られた。ⅢF-08は北側と南側の2ヵ所に被熱層が認められ、南側が長大に形成されている。被熱層は北側が4cm程、南側は1cm程である。被熱赤色化はともに弱い、北西側の方がやや進んでいる。フローテーションの結果、炭化材と微量の被熱した獣骨・炭化したクルミ殻が得られた。(岩橋)

ⅢF-07 (図Ⅲ-4 図版 14-7・8)

AG-25 区のⅢb 層下位でⅢH-01 の柱穴確認を行うため、遺物を台状に残した状態で周辺を面的に掘り下げたところ、僅かに炭化物が含まれる地点を検出した。長軸方向にトレンチを設定し、掘り下げたところ被熱層を確認したためⅢF-07 と付番した。平面記録後に土壌のサンプリングを行い、土層断面を記録して調査終了とした。

ⅢF-07 はⅢH-01 の前小屋内に位置するが、ⅢH-01 の床面遺物と約 3 cm 黒色土を挟んで検出しているため擦文文化期と判断した。平面形は北側が欠失し不明である。被熱層は 2cm 程しかないが、被熱赤色化は著しい。フローテーションの結果微量の炭化材と被熱した魚骨が検出された。(奈良)

ⅢF-10 (図Ⅲ-4 図版 15-1~3)

ⅢH-01. HF02 調査中東側に焼土を検出した。当初ⅢH-01 関連遺構と考え、重複関係を確認するためトレンチを設定した結果、HF02 がⅢF-10 を切って形成されていることが判明し、また黒色土が 3cm 程度被覆していることから、より古い擦文文化期の遺構であると判断した。平面形記録後、確認面に焼骨片が確認できたので土壌をサンプル回収した後に、土層断面を記録し調査を終了した。平面形は長楕円形で、被熱層は 2cm 程である。被熱の赤色化は著しい。フローテーションの結果、被熱した獣骨 7.27g と少量の魚骨・炭化材を得た。(奈良)

ⅢF-12・13 (図Ⅲ-5 図版 15-4~8)

調査区南端部の T₁ 面、BF~BG-31 区のⅢb 層下位にて焼骨片を検出したため、ベルトを設定し土壌サンプリングを行いながら周囲を掘り下げたところ、北西側と南東側に焼土を検出した。焼骨片を含む土壌の断面記録後、ベルトを一度除去し平面形を記録した。再び同ラインで焼土の断面確認トレンチを設定し、断面の記録を行って調査終了した。断面観察から両焼土はⅢb 層を 2cm 程度被覆しており、Ⅲc 層から被熱層が形成されているため同時期の所産と考えられる。平面形はともに不整形である。被熱層の厚さはⅢF-12 が 14cm 程、13 が 4cm 程で、赤色化は 12 の方が 13 より進んでいる。フローテーションの結果、12 からは獣骨 185.8g と微量の炭化材、13 からは獣骨 185.3g と微量の魚骨、炭化材 8.81g を得た。周辺からは、擦文文化期後期の土器片や板状礫が出土している。(岩橋)

ⅢF-21 (図Ⅲ-5 図版 16-1・2)

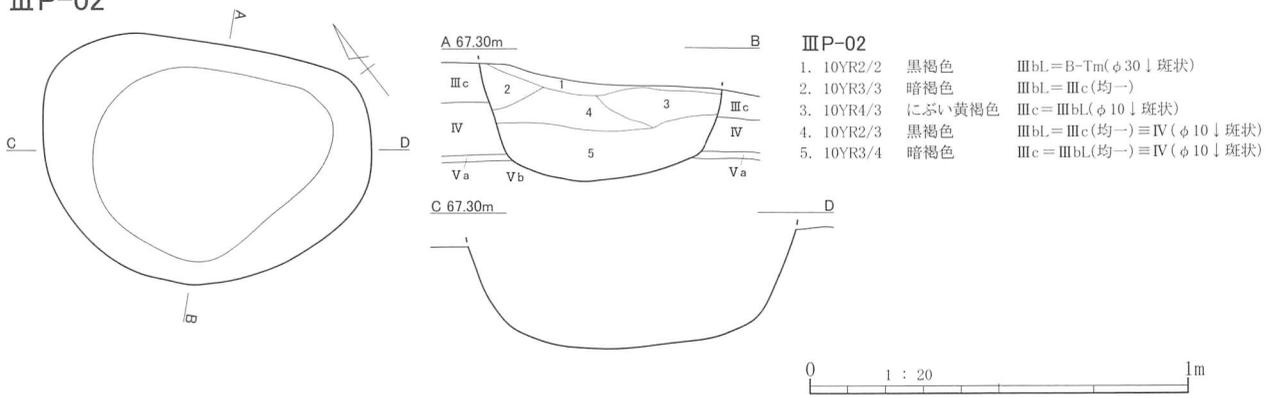
A0-22 区のⅢc 層にて検出した。平面記録後、半截し断面の記録を取って調査終了とした。

確認面で焼骨片等は認められなかったが、土壌サンプリングを行った。平面形は不整形で、被熱層の厚さは 10cm 程である。赤色化は著しい。フローテーションの結果、少量の被熱した獣骨が得られた。(奈良)

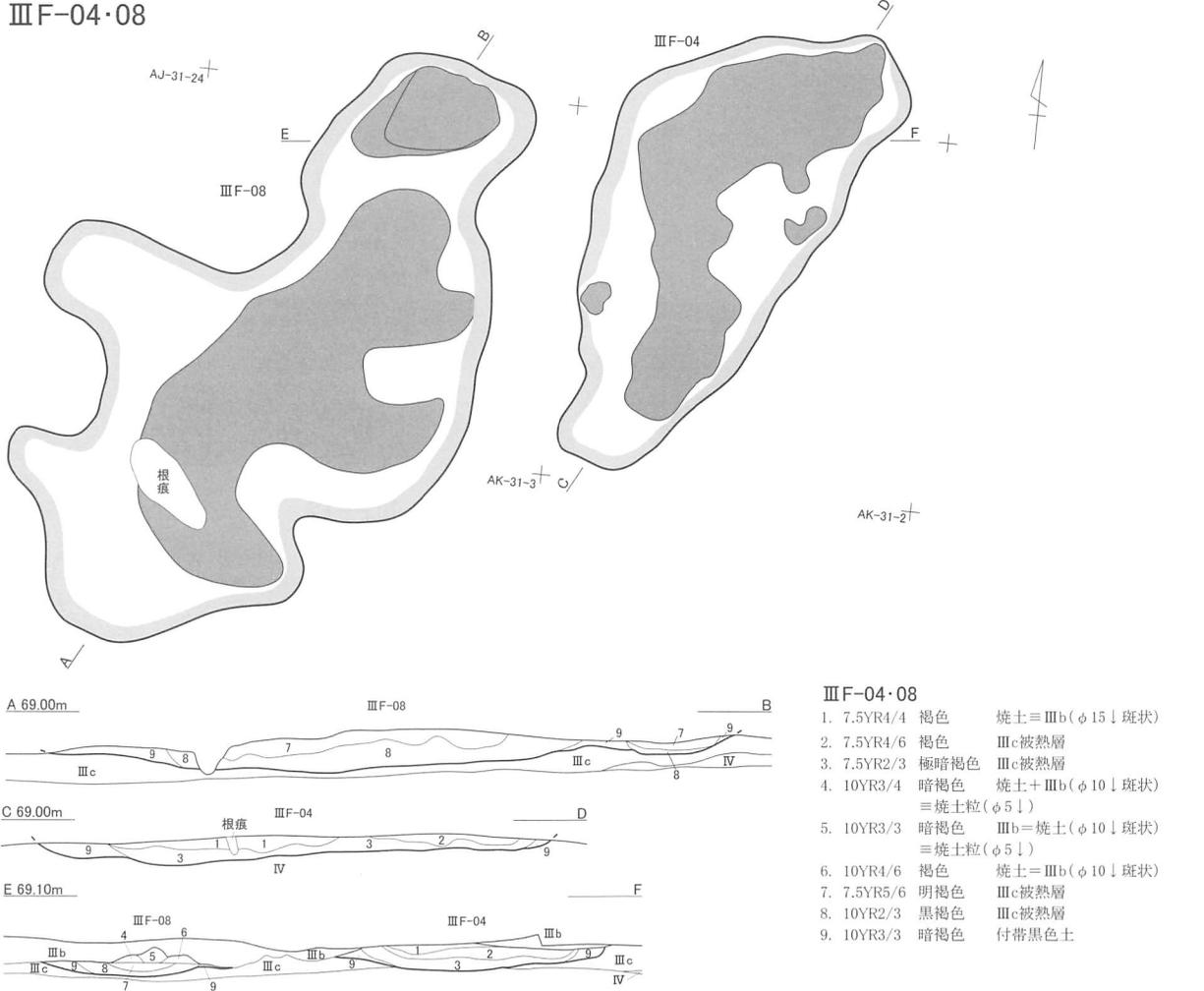
ⅢF-24 (図Ⅲ-5 図版 16-3・4)

AK-22 区のⅢc 層調査中、黒色土の落ち込みの縁辺に焼土を確認した。長軸に沿ってベルトを設定し焼土面の検出に努めた。焼土面検出時点で平面形及びベルト断面の記録を取った。焼骨片が認められたため半截と合わせて土壌サンプルの採取をした。断面の記録を取り調査を終了した。平面形は不整形で、被熱層は 8cm 程で、赤色化は著しい。フローテーションの結果、2.82g の被熱した獣骨と微量の魚骨・炭化材を得た。(岩橋)

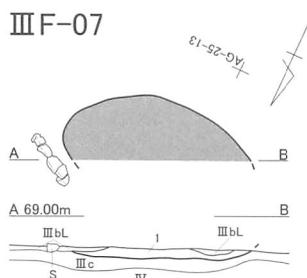
ⅢP-02



ⅢF-04・08



ⅢF-07



ⅢF-10



図Ⅲ-4 ⅢP-02・ⅢF-04・07・08・10平面及び断面図

第3節 集中出土遺物

1. 土器集中

今回の調査では擦文文化期の土器集中を2ヵ所検出し、ⅢPB-01・02と付番して調査、掲載している。Ⅲ層から出土した土器が包含層も含め434点と少なく、分布状態は発掘区北側に疎ら、南側斜面にややまとまって出土している傾向にある。以下、各遺構の詳細について述べる。

ⅢPB-01 (図Ⅲ-6 図版 16-5~7・79-8)

ⅢPB-01はⅢH-01(中世アイヌ文化期)の床面遺物を精査中、礫とほぼ同一面から出土した。本地点は上位が耕作機械等の影響により、Ⅲb層上位が削平と填圧によって薄く硬く締まる。そのため、当初は住居跡出土の礫と土器を同一層位の遺物と考えたが、床面出土礫と土器が重なる地点が見つかり、間に黒色土が2cm程度堆積していたため(図版 16-7)、住居跡より古い単体の集中遺物として、住居跡調査終了後に微細図など平面の記録を行っている。

集中域は1m程度の範囲に比較的大きな口縁から胴部片がまとまり、西側のAG-26区約7.1m地点に底部が出土している。接合によって口縁部から底部までほぼ完形に復元されている。

周辺にはⅢF-07・10を検出しており、ⅢF-10が位置的に近接していることや、Ⅲb層下位で検出したことから同時期の可能性が考えられる。

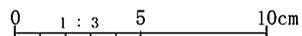
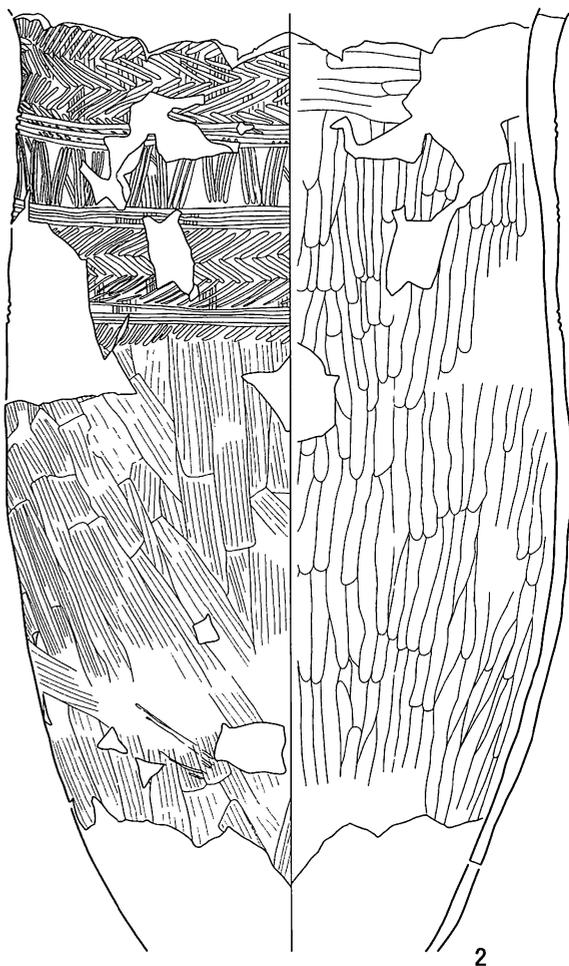
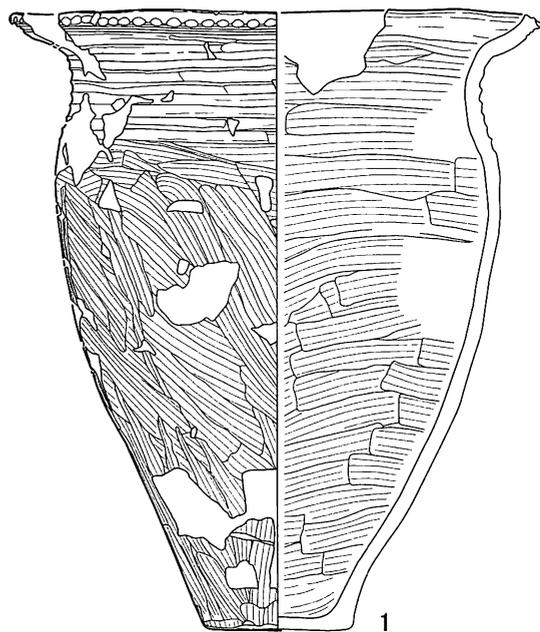
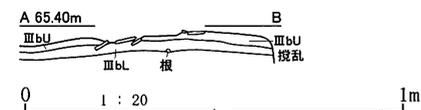
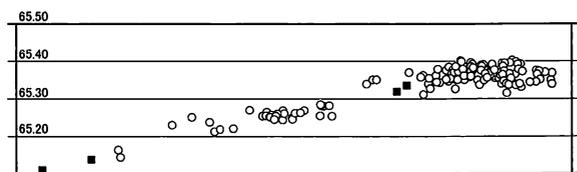
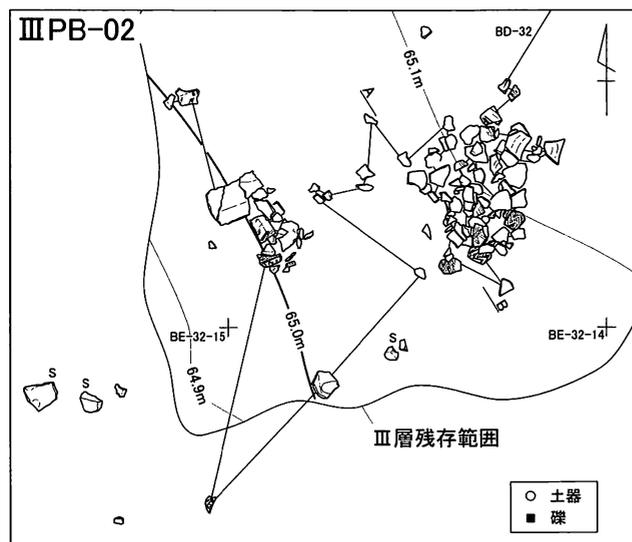
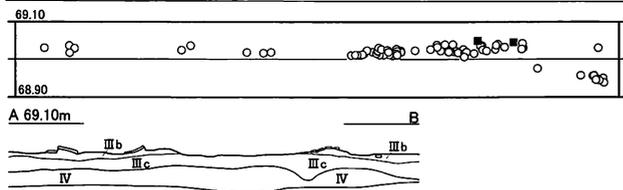
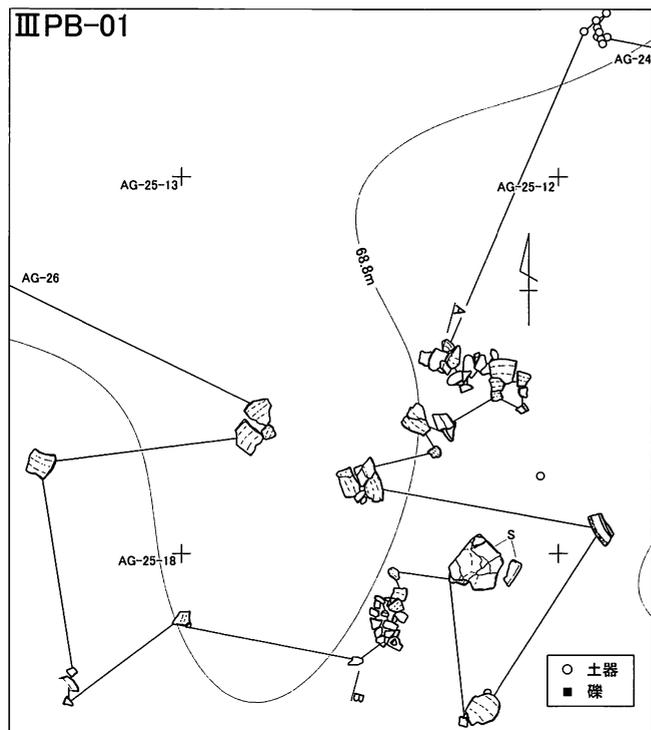
出土遺物(図Ⅲ-6-1) 1は擦文前期後半に分類した甕である。口唇部は角状で、口縁部は「く」字状に開き、胴部は外傾から内湾して立ち上がる。底部変換点はハケメ調整により角状を呈する。口唇部外縁には刻みが連続して施され、口縁部文様帯は平行沈線が廻る。胴部はやや統一性を欠くが、おおよそ下方から上方(斜位)へのハケメ調整が施されている。内面は同一の工具で横方向のハケメ調整が施されている。

ⅢPB-02 (図Ⅲ-6 図版 16-8・17-1・2・79-9・10)

本集中は調査区南側の低位面を調査中、Ⅲb層中位から下位にかけて土器がまとまって出土したため、ⅢPB-02と付番し周辺の精査を行った。出土状態から東側に続いていたと思われるが、出土地点は周囲を攪乱により大部分を失っている。

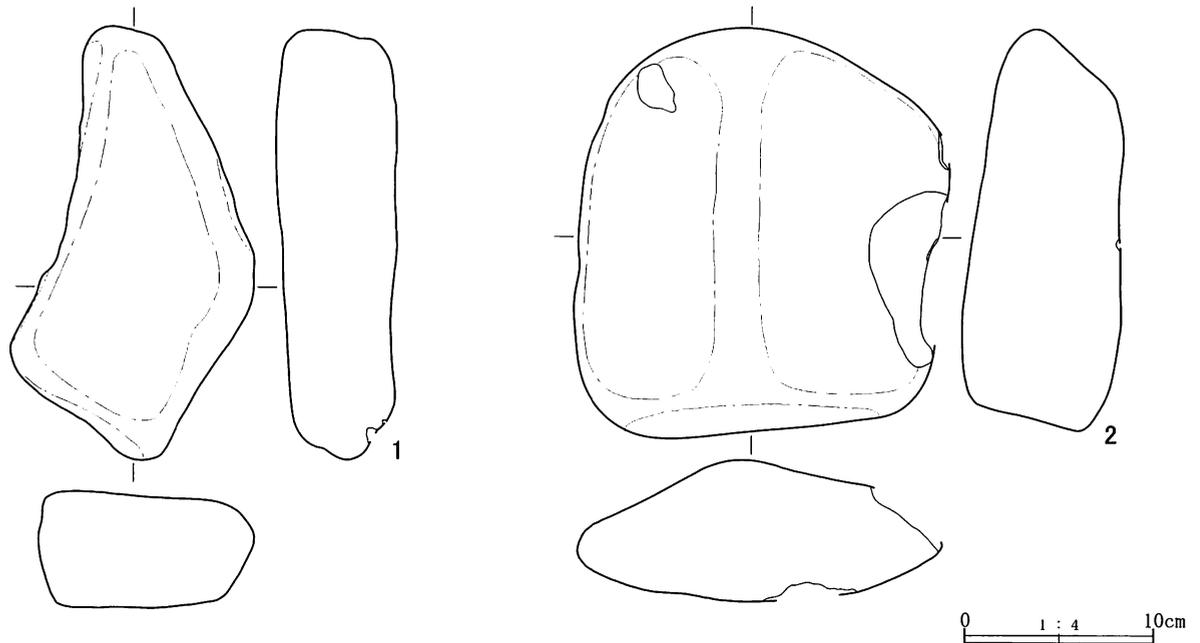
検出層位はⅢb層中位であるが、低位面は比較的黒色土の堆積が厚いため、Ⅲb層下位から出土したものと考えられる。ⅢPB-02の東側には擦文文化期の集中区3や焼土群を検出しており、同一個体片は認められないが低位面に擦文文化期の遺構、遺物が密集し、文様構成が複段の同一時期の甕も出土していることから、関連性がある遺物と考えられる。

出土遺物(図Ⅲ-6-2・3) 2は胴部上半から下半にかけての長胴甕の復元個体である。胴部下半からは外傾して立ち上がり、中央付近で僅かに張り出す器形をしている。器厚は胴部文様帯から口縁部方向にかけて1.2cmと厚くなり、下半に向かって薄くなる。胴部文様帯は上から綾杉文、鋸歯状文、綾杉文、斜行沈線文が施文され、最後に3条1対の横走沈線文で3段に区画している。胴部器表面はハケメ、内面はミガキ調整で黒色処理が施される。3は坏の口縁部片で、口唇部は尖状、口縁部直下に横走する浅い段差が認められる。器表面は内外共に横方向のミガキ調整で内面は黒色処理が施されている。(奈良)



図Ⅲ-6 III PB-01・02 平面及び断面図・出土土器

ⅢSB-08



図Ⅲ-8 ⅢSB-08 出土礫

2. 礫集中

本節で扱う礫集中は調査区南側斜面に検出し、同一レベルに擦文土器が出土している。黒色土はⅢb層中位を被覆しているが、礫の基底面がⅢb層下位からⅢc層であるため本節で掲載した。また、アイヌ文化期の構成礫に比べ大型のものが多く、規模において統一性がないため、層位的見解と合わせて矛盾しないと思われる。

ⅢSB-08 (図Ⅲ-7 図版 17-5~7・80-2~5)

南側低位面を調査中、Ⅲb層中位で長軸2cm前後の板状の亜角礫と周囲から擦文土器がややまとまって出土した。本地点は標高約66.0~65.5mの緩斜面であるため、傾斜に沿ってトレンチを設定し、分布及び遺物の基底面層位の確認を行った。礫は厚みのある大型礫を除いてⅢb層中位から下位にかけて主体的に出土しており、ほぼ同一レベルであるため土器を含む138×94cmの範囲をⅢSB-08として調査を行った。(奈良)

出土遺物 (図Ⅲ-7-1~3・8-1・2) 1は口唇部が丸状で、内面から口唇部にかけて横方向に光沢が認められるほど丁寧にミガキ調整が成されている。口縁部直下から浅い幅広の横走沈線文上に矢羽根状文が連続して4段施され、下位には斜位の沈線文が認められる。この刻みや沈線文は途中で方向を変えながら施文している。2の底部変換点は角状で、器面は基本的に下から上方向にミガキ調整が成されるが、一部砂粒の移動が認められることから、ミガキ前にケズリ成形を部分的に行われていたものと思われる。1・2ともに内面は黒色処理が施されている。3は滑沢面のある礫で、棒状の大型礫を素材とし、下端部が欠損している。正面には滑沢面が3カ所に確認される。また、滑沢面を切る幅2~3mmの線条痕が短軸方向に近い角度で認められ

る。断面図上で窪む面には、滑沢面・線条痕のどちらも見られない。中央の稜線部分に僅かであるが敲打痕が残る。図Ⅲ-8-1・2 は構成礫で、1 は棒状と分類したもの。稜線は角を残す。2 は長短比がほぼ等しく、方形に近い板状礫で、正面中央部が頂部となり、断面は扁平な三角形状となる。ⅢSB-08 は同様の規模の礫 8 点で構成される。 (土器：奈良・石器：松井)

第 4 節 Ⅲ層包含層出土遺物

1. 土器 (図Ⅲ-9 図版 80-2-1~12)

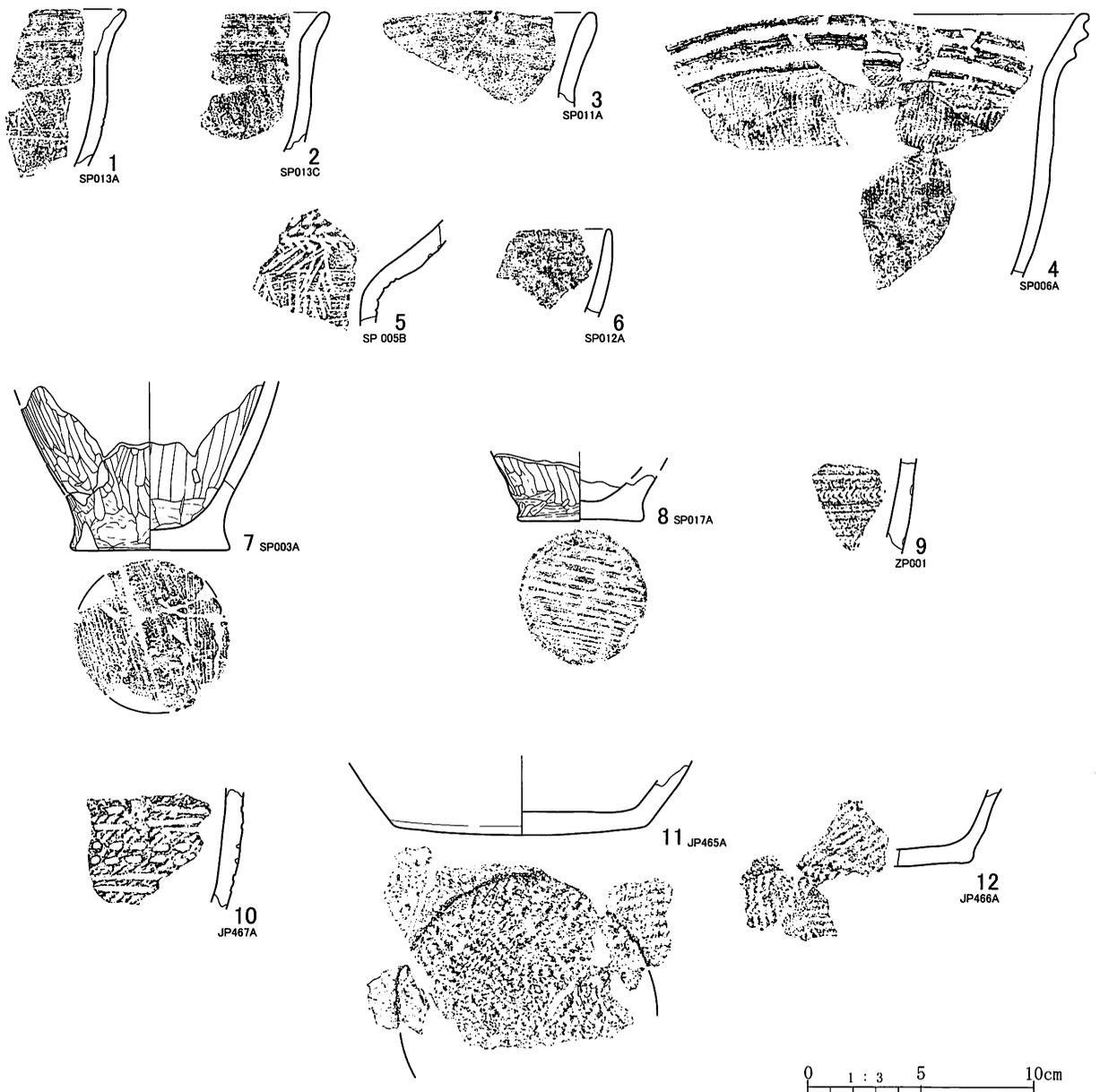
Ⅲ層から出土した土器は 434 点で擦文土器が殆どである。分布域については、南側の高位面から低位面にかけて密集して出土する傾向にあり、その他、高位面においては北側にⅢPB-01を検出しているほか、北東側に少量出土するのみである。

擦文土器の出土層位については、高位面でⅢb 層下位から出土するが、低位面ではⅢb 層中位もしくはⅢc 層からも出土し、やや出土層位にばらつきが見られる。また、B-Tm については土器に近接して認められなかった。以下に擦文土器から順に述べる。

擦文土器 (1~8) 1・2 は同一個体と考えられる口縁部片で、口唇部は丸状、内面は横方向のミガキが顕著である。口縁部直下は無文帯で横方向にナデ調整が認められ、1 に浅く細い横走沈線と鋸歯状文が認められる。2 には同位置での文様は認められないが、口唇部形態、口縁部調整などから同一個体としている。3 は無文の口縁部片で、口唇部は丸状で内面は横方向にミガキ調整される。器表面は僅かに縦方向のハケメが残り、その後横方向に弱いナデ調整が成される。4 は口縁部直下に幅広の深い横走沈線文が 2 条認められ、凸部分は横方向のミガキによって再度調整されている。内面も同様に光沢が残るほど横方向にミガキが顕著である。5 はⅢSB-08 より出土した口縁部片 (図Ⅲ-7-1) の同一個体と思われるが、接合していないため包含層で掲載している。胴部文様帯は横走沈線地に鋸歯状文が一部認められる。6 は表採資料であるが、坏の出土点数が少ないため掲載した。口唇部に向かって薄くなり尖状を呈する。内外面ともに横方向にミガキが認められる。7 は胴部下半から底部にかけての資料で、底部変換点は角状となりややくびれ、胴部にかけてやや膨らみをもって立ち上がる。内外面ともにミガキが顕著で、底面には笹葉痕が認められる。8 は底部で、底部変換点は風化による摩滅をしているが角状となりややくびれ、外傾して立ち上がる。器表面はミガキが認められるが、内面は風化のため判別できない。底面は笹葉痕と思われるが、7 に比べ深く太いため、沈線文の可能性も考えられる。1~7 は内面黒色処理が施される。

続縄文土器 (9) 9 は後北 B 式に相当する胴部片で、横走する爪形状の刺突列の間に帯縄文が認められる。

縄文晩期土器 (10~12) 10 は LR 斜行縄文地文に 2 条 1 対の浅い横走沈線と 2 条 1 対の刺突列が施文される。11・12 は底部片で、11・12 は底部中央部が凸底となる。いずれも底面にも地文縄文が施文されている。11・12 は Ta-c 上位より出土しており、タンネトウ L 式相当と考えられる。10 は V 層より出土したが Ta-c より上層で縄文晩期の土器が出土していること、出土地点が近接していることから同時期に含まれるものと判断し、ここに掲載した。 (奈良)



図Ⅲ-9 Ⅲ層包含層出土土器

2. 剥片石器 (図Ⅲ-10 図版 79)

石鏃 (1)

1 は赤色主体の黒曜石製の無茎石鏃である。左右対称の二等辺三角形を呈し、側縁は直線状で、基部は僅かに湾入している。側縁稜は直線状、横断面形は凸レンズ状である。Ⅲc 層包含層出土の土器と石器の形態から時期を検討すると、縄文時代晩期～続縄文文化期に属すると考えられる。



図III-10 III層包含層出土石器

表Ⅲ-1 擦文文化期遺構群一覧表

遺構名	帰属時期	規模(cm)		グリッド	層位	付属・関連遺構	備考
		長軸	短軸				
集中区3	擦文文化期	53	48	BD-29	ⅢbM	ⅢP-03	
		98	70	BD-29	ⅢbL	ⅢP-04	
		83/14/94/35/86	52/13/44/25/46	BD-29	ⅢbL	ⅢF-11・14~17	
		430	190	BC-29	ⅢbL	ⅢCB-01	
		190	140	BC・BD-30	ⅢbL	ⅢCB-02	
ⅢP-02	擦文文化期	86	64	BE-30	Ⅲc	-	覆土中にB-Tm堆積
ⅢF-04	擦文文化期	139	66	AJ-31	ⅢbL	-	
ⅢF-07	擦文文化期	48	(18)	AG-26	ⅢbL	-	
ⅢF-08	擦文文化期	186	120	AJ・AK-31	Ⅲc	-	
ⅢF-10	擦文文化期	57	(23)	AG-25・26	Ⅲc	-	ⅢH-01.HF02下位より検出
ⅢF-12	擦文文化期	141	91	BF-31	ⅢbL	-	
ⅢF-13	擦文文化期	40	29	BG-31	ⅢbL	-	
ⅢF-21	擦文文化期	30	22	AO-22	Ⅲc	-	
ⅢF-24	擦文文化期	72	55	AK-22	Ⅲc	-	
ⅢPB-01	擦文文化期	160	90	AG-25	ⅢbL	-	ⅢH-01跡の下から出土
ⅢPB-02	擦文文化期	100	74	BE-32	ⅢbM	-	
ⅢSB-08	擦文文化期	138	94	BE・BF-31	ⅢbL	-	

表Ⅲ-2 ⅢP属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形 調査面 /坑底面	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸 方向	調査 面長 短比	坑底 面長 短比	備考	
						長軸	短軸	長軸	短軸						
Ⅲ-2	-	集中区3	ⅢP-03	BD-29	ⅢbM	楕円形/楕円形	53	48	38	28	18	N-74° W	1.1	1.4	
Ⅲ-2	13-7・8		ⅢP-04	BD-29	ⅢbL	楕円形/楕円形	98	70	64	46	27	N-32° W	1.4	1.4	
Ⅲ-4	14-1・2	-	ⅢP-02	BE-30	Ⅲc	楕円形/楕円形	86	64	64	49	26	N-70° W	1.3	1.3	

表Ⅲ-3 ⅢF・ⅢCB属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片 の有無	備考	
						長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-2	12-1~3	集中区3	ⅢF-11	BD-29	ⅢbL	長楕円形	83	52	7	焼骨片	
Ⅲ-2	12-4・5		ⅢF-14	BD-29	ⅢbL	不整形	14	13	10	焼骨片	
Ⅲ-2	13-1・2		ⅢF-15	BD-29	ⅢbL	長楕円形	94	44	8	焼骨片	
Ⅲ-2	13-3・4		ⅢF-16	BD-29	ⅢbL	不整形	35	25	8	焼骨片	
Ⅲ-2	13-5・6		ⅢF-17	BD-29	ⅢbL	不整形	86	46	8	焼骨片	
Ⅲ-4	14-3・4	-	ⅢF-04	AJ-31	ⅢbL	不整形	139	66	6	-	
Ⅲ-4	14-7・8	-	ⅢF-07	AG-25	ⅢbL	-	48	(18)	2	炭化物	
Ⅲ-4	14-3・5・6	-	ⅢF-08	AJ・AK-31	Ⅲc	不整形	186	120	10	-	
Ⅲ-4	15-1~3	-	ⅢF-10	AG-25・26	Ⅲc	長楕円形	57	(23)	6	焼骨片	
Ⅲ-5	15-4~6	-	ⅢF-12	BF-31	ⅢbL	不整形	141	91	14	焼骨片	
Ⅲ-5	15-4・7・8	-	ⅢF-13	BG-31	ⅢbL	不整形	40	29	4	焼骨片	
Ⅲ-5	16-1・2	-	ⅢF-21	AO-22	Ⅲc	不整形	30	22	10	-	土器片出土
Ⅲ-5	16-3・4	-	ⅢF-24	AK-22	Ⅲc	不整形	72	55	8	焼骨片	
Ⅲ-1	-	集中区3	ⅢCB-01	BC-29	ⅢbL	不整形	430	190	-	炭化物	
Ⅲ-1	-		ⅢCB-02	BC・BD-30	ⅢbL	不整形	190	140	-	炭化物	

表Ⅲ-4 ⅢPB-01・02・ⅢSB-08属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)		被熱の有無	備考	
						長軸	短軸			
Ⅲ-6	16-5~7	-	ⅢPB-01	AG-25	ⅢbL	不整形	160	90	-	
Ⅲ-6	16-8 17-1・2	-	ⅢPB-02	BE-32	ⅢbM	不整形	100	74	-	
Ⅲ-7	17-5~7	-	ⅢSB-08	BE-31	ⅢbL	不整形	138	94	-	

表Ⅲ-5 擦文文化期遺構出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号	遺構名/グリッド	層位	器種	部位	器面調整		文様 口縁部/文様帯	点数	備考
									内側	外側			
Ⅲ-3-1	79-1	SP004A	VII B3c	8273・8274 他3点	集中区3/ BB-28	KR ⅢbM	甕	口縁部~ 胴部	ミガキ	ハケメ	矢羽根状文/ 鋸歯状文・綾杉 文・横走沈線文	5	内面黒色 処理
Ⅲ-3-2	79-2	SP010A	VIIc	8468	集中区3/ BC-29	ⅢbM	坏	口縁部	ミガキ	ナデ	横走沈線文	1	二次焼成
Ⅲ-3-3	79-3	SP014A	VII B3a	8262・8263 他6点	集中区3/ BB-28	ⅢbL	甕	胴部上半 ~ 下半	ミガキ	ハケメ	沈線文・刻み	8	内面黒色 処理
Ⅲ-3-4	79-4	SP020A	VII B	8270・8260	集中区3/ BB-28	ⅢbU KR	甕	底部	ミガキ	ハケメ・ ナデ	-	2	
Ⅲ-3-5	79-5	SP019A	VII B	8632・8470	集中区3/ BD-29	ⅢbL	甕	底部	ミガキ	ハケメ	-	2	内面黒色 処理。底面 笹葉圧痕
Ⅲ-5-1	80-1-1	SP007A	VII B3a	8420	ⅢF-12 /BF-31	ⅢbM	甕	口縁部	ミガキ	ナデ ハケメ	横走沈線/刻み	1	赤褐色 搬入品か
Ⅲ-6-1	79-8	SP001A	VII B1	955・992 他73点	ⅢPB-01/ AG-24・25・ 26	ⅢbL	甕	口縁部 ~ 底部	ハケメ	ハケメ	刻み(口唇部) /横走沈線	75	
Ⅲ-6-2	79-9	SP002A	VII B3c	8799・8800 他119点	ⅢPB-02/ BE-32	ⅢbM	甕	胴部上半 ~ 下半	ミガキ 黒色処理	ハケメ	綾杉文・横走沈 線文・鋸歯状沈 線文	121	
Ⅲ-6-3	79-10	SP009A	VII C	8835	ⅢPB-02/ BE-32	ⅢbM	坏	口縁部	ミガキ 黒色処理	ミガキ	-	1	
Ⅲ-7-1	80-1-2	SP005A	VII B3c	8647他4点	ⅢSB-08/ BE-31	ⅢbM	甕	口縁部	ミガキ 黒色処理	ナデ	刻み/綾杉文	5	
Ⅲ-7-2	80-1-3	SP018A	VII B3	8439 他12点	ⅢSB-08/ BE・BF-31	ⅢbL	甕	底部	ミガキ 黒色処理	ミガキ ケズリ	-	13	

表Ⅲ-6 擦文文化期包含層出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号	グリッド	層位	器種	部位	器面調整		文様 口縁部/文様帯	点数	備考
									内側	外側			
Ⅲ-9-1	80-2-1	SP013A	VII B3c	27871・ 27877	AD-15	ⅢbL	甕	口縁部~ 胴部	ミガキ	ナデ・ ケズリ	鋸歯状文- 横走沈線	2	内面黒色 処理
Ⅲ-9-2	80-2-2	SP013C	VII B3c	27862・ 27861	AE-16	ⅢbL	甕	口縁部	ミガキ	ナデ・ ハケメ	ミガキ	2	内面黒色 処理
Ⅲ-9-3	80-2-3	SP011A	VII B3	8421・8782	BF-31	ⅢbL	甕	口縁部	ミガキ	ナデ	-	2	
Ⅲ-9-4	80-2-4	SP006A	VII B3	8422・8424 他4点	BF-31	ⅢbL Ⅲc	甕	口縁部~ 胴部	ミガキ	ハケメ	横走沈線	6	内面黒色 処理
Ⅲ-9-5	80-2-5	SP005B	VII B2a	8732	BE-31	ⅢbL	甕	口頸部	ミガキ	ナデ	矢羽根状文/ 沈線文	1	内面黒色 処理
Ⅲ-9-6	80-2-6	SP012A	VIIc	30312	BF-31	表採	坏	口縁部	ミガキ	ミガキ	-	1	内面黒色 処理
Ⅲ-9-7	80-2-7	SP003A	VII B3	8423・8778 他7点	BF-31	ⅢbL Ⅲc	甕	胴部下半 ~ 底部	ミガキ	ミガキ	-	9	内面黒色 処理。底面 笹葉圧痕
Ⅲ-9-8	80-2-8	SP017A	VII B3	8790	BA-27	Ⅲc	甕	底部	ナデ	ミガキ	-	1	底面笹葉 圧痕

ナイフ・スクレイパー (2・3)

2は岩屑面を残す黒曜石製のサイド・スクレイパーで、縦長の剥片を素材としている。長軸の中央やや下部に最大幅をもち上下端は尖る。側縁は弧状をなし、横断面形は三角形である。正面左側縁と主剥離面には、使用痕と思われる微細剥離が確認できる。3は抉入石器として分類したものである。石材は頁岩で、厚真川やショロマ川で採取された可能性がある。厚さ9mmの板状礫を素材とし、表面から両側縁の長軸中央を5~6mm抉る剥離調整がなされている。

(服部)

表Ⅲ-7 続縄文・縄文時代晩期包含層出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	グリッド	層位	部位	器形等	文様	胎土	点数	備考
							口縁-口唇/胴部 /底側面-変換点 -底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面			
Ⅲ-9-9	80-2-9	ZP001 A	VIC2	AV-25	Ⅲc	胴部	外傾	RL横走帯縄文・刺突文	砂粒少量混入	1	
Ⅲ-9-10	80-2-10	JP467A	VC	VSB-04	VbM	胴部	外傾	LR斜行縄文+横走沈線 文・刺突列	砂粒中量混入	1	根穴落ち込み
Ⅲ-9-11	80-2-11	JP465A	VC	BE-30	ⅢbL Ⅲc	底部	外傾-丸状-凸底	LR斜行縄文-LR縄文	砂粒少量混入	5	
Ⅲ-9-12	80-2-12	JP466A	VC	BE-30	ⅢcL	底部	外傾-角状-凸底	LR斜行縄文-LR縄文	砂粒少量混入	3	

表Ⅲ-8 Ⅲ層遺構・包含層出土石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名/ グリッド	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-3-6	79-6	-	8619	たたき石	ⅡA3	ⅢbM	集中区3 /BC-29	98.5	(64.7)	19.5	(120.0)	Gr-Mud.	
Ⅲ-3-7	79-7	-	8639	滑沢面のある礫	-	ⅢbL	集中区3 /BD-29	350.0	146.0	95.5	6150.0	Sa.	砥面併用
Ⅲ-7-3	80-1-4	-	8707	滑沢面のある礫	-	ⅢbL	ⅢSB-08	(212.0)	125.0	94.1	(2350.0)	Sa.	線状痕有
Ⅲ-10-1	81-1	-	497	ポイント類	A2	Ⅲc	AL-31	38.3	12.0	3.3	2.0	Obs.	
Ⅲ-10-2	81-2	-	1293	ナイフ・スクレイパー	C1b	Ⅲc	AN-31	60.1	18.7	10.8	12.0	Obs.	岩屑面有
Ⅲ-10-3	81-3	-	389	抉入石器	C3	ⅢbM	AK-27	65.8	31.5	9.2	33.0	Sh.	厚真産真岩
Ⅲ-10-4	81-4	-	9008	たたき石	I B1	Ⅲc	AM-20	146.6	61.8	33.7	(500.0)	Sa.	滑沢面併用
Ⅲ-10-5	81-5	-	456	たたき石	ⅡB3	ⅢbL	AO-26	79.4	(50.3)	46.2	(200.0)	Sa.	
Ⅲ-10-6	81-6	-	435	たたき石	V	ⅢbM	AP-33	133.4	79.2	46.1	600.0	Sa.	
Ⅲ-10-7	81-7	-	1284	滑沢面のある礫	-	ⅢbM	AJ-34	172.0	72.6	52.1	600.0	Sa.	
Ⅲ-10-8	81-8	-	9574	滑沢面のある礫	-	ⅢbL	AJ-18	210.0	76.1	73.4	1600.0	Sa.	被熱
Ⅲ-10-9	81-9	-	9573	滑沢面のある礫	-	Ⅲc	AK-19	351.5	203.0	81.5	6200.0	Sa.	

3. 礫石器 (図Ⅲ-10 図版 81)

たたき石 (4~6)

4 は砂岩製のたたき石である。素材は扁平縦長の板状礫で、横断面形は方形を呈する。敲打痕は表裏面ともに中心軸の上下に残り、浅い。表面の上部、下部の敲打痕間にある緩やかな凸面を中心に、滑沢面が残されており、敲打痕に被っている。5 は砂岩製のたたき石で、左側が欠損している。下面から右側面中央部まで浅い敲打痕が広がる。図示していないが、礫の形状が同様で、ほぼ同一の箇所に敲打痕が残るたたき石は 19 点出土しており、遺構含めたⅢ層包含層出土のたたき石の中では最も多い。6 は砂岩製のたたき石である。石器中央部に敲打痕が残されているため、礫片を素材としてもものと思われる。

滑沢面のある礫 (7~9)

7~9 は砂岩製である。7 は断面形が三角形状の棒状礫を素材としている。やや膨らみのある面に滑沢面が残されている。8 は棒状礫を素材とし、方形を呈する断面形の平坦面に滑沢面が残されている。両側縁には極僅かではあるが、敲打痕が残る。9 は 6,200 g を計る不定形の大型礫が素材となる。礫正面の平坦面から左側面稜にかけて、三角形状となる滑沢面が残されている。断面形は、滑沢面の形成により形態は若干変形し、未使用部よりも平滑な表面となっている。右側縁には 3 枚の剥離痕が認められる。 (松井)

表Ⅲ-9 擦文文化期出土礫属性表

は()表記のこと

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	遺構名	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質
							長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差					
-	-	-	8460	5	III P-02	完形	29.0	-22.3	27.2	-10.1	9.5	-5.2	1.1	-0.2	9.9	-	Sa.
-	-	-	8459	5		完形	35.8	-15.5	32.0	-5.3	17.0	2.3	1.1	-0.2	22.5	-	Sa.
-	-	-	8455	5		完形	55.3	4.0	36.7	-0.6	19.9	5.2	1.5	0.2	42.3	-	Sa.
-	-	-	8457	5		完形	84.9	33.6	53.2	15.9	12.5	-2.2	1.6	0.3	56.9	-	Mud.
完形平均値							51.3		37.3		14.7		1.3		32.9		
遺物総重量													131.6				

※4点

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	遺構名	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質
							長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差					
-	-	13 III S028	8415-1	III bL	III F-12	完形	195.0	-37.5	156.0	-317.0	64.4	13.4	1.3	0.5	2750.0	○	Sa.
			8416														
			8418														
			8419														
			8432														
-	-	13 III S073	8414	III bL		完形	790.0	557.5	270.0	-203.0	37.6	-13.4	2.9	2.1	3150.0	-	Sa.
			8413														
			8417														
完形平均値							492.5		213.0		51.0		2.1		2950.0		
遺物総重量													5900.0				

※2点

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	遺構名	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	
							長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	80-1-5	-	8676	III bL	III SB-08	完形	200.0	-28.5	180.1	32.2	69.3	-16.9	1.1	-0.6	2300.0	-	Sa.	
-		-	8706	III bL		完形	200.6	-27.9	174.0	26.1	78.2	-8.0	1.2	-0.5	2750.0	-	Sa.	
III-8-2		-	8708	III bL		略完形	214.0	-14.5	190.0	42.1	82.2	-4.0	1.1	-0.6	4250.0	-	Sa.	
III-8-1		-	8675	III bL		完形	220.3	-8.2	122.0	-25.9	60.5	-25.7	1.8	0.1	2100.0	-	Sa.	
-			13 III S042	8630		III bL	完形	227.0	-1.5	135.7	-12.2	53.3	-32.9	1.7	0.0	2000.0	○	Sa.
				8679														
				8681														
				8682														
				8684														
				8685														
8686																		
8687																		
8688																		
-			13 III S067	8671		III bL	完形	246.0	17.5	83.0	-64.9	123.1	36.9	3.0	1.3	2300.0	○	Sa.
	8672																	
	8673																	
	8674																	
	8693																	
8694																		
8733																		
-		13 III S139	8677	III bL	完形	260.0	31.5	98.0	-49.9	69.4	-16.8	2.7	1.0	2100.0	-	Sa.		
			8678															
8683																		
-	-	-	8709	III bL	完形	260.0	31.5	200.0	52.1	153.4	67.2	1.3	-0.4	9000.0	-	Ser.		
完形平均値							228.5		147.9		86.2		1.7		3350.0			
遺物総重量													26800.0					

※8点

第IV章 縄文時代の調査

ショロマ1遺跡における平成25年度の調査では、縄文時代の竪穴住居跡(VH)16軒、土坑墓(VGP)28基、土坑(VP)20基、Tピット(TP)50基、石組炉(VSF)3カ所、焼土(VF)23カ所、土器集中(VPB)15カ所、礫集中(VSB)9カ所、フレイク・チップ集中(VFCB)4ヶ所、焼骨片集中(VBB)1カ所、土製品集中(VPPB)2カ所を検出した。

ショロマ1遺跡は、 T_1 ・ T_2 面上にあり、遺構の多くは上位の T_2 面に築かれている。 T_2 面はAIグリッドラインより北側では、 $Ta-d$ 降下層(VIII層)が残っており、AIグリッドラインより南では、 $Ta-d$ 降下層がなく、同じ高さに再堆積層(VII層)が見られる。V・VI層はこれらの $Ta-d$ 降下層・再堆積層を覆っており、 T_1 面と考えられる調査区南側の低位段丘面では、VII・VIII層が存在せず、V・VI層が直接、段丘堆積物の粘土質シルト層を覆っていた。

このことから、 $Ta-d$ 降下に伴う土石流が降下層(VIII層)を削り、スコリア・軽石が互層をなして堆積し(VII層)、更に時期が下って(中茶路式期以前)、再度洪水が T_2 面を削り、 T_1 面を残したと考えられる。深いTピットの壁面から、こうした再堆積層の層理が明瞭に見てとれる。

V層上面のコンターを見ると、上位の T_2 面はほぼ南北に脊梁状に高くなっており、東側に傾斜している。また、ショロマ川に沿った縁辺部も若干高くなり、脊梁状の尾根との間に浅い谷が入るように見える。いくつかの住居跡の床面が東に低く傾斜しているのは、当初、活断層等の影響かと考えたが、上述した堆積層の違いから再堆積層(VII層)が圧縮し、傾斜したものと思われる。

遺物は縄文時代早期から晩期のものが出土しているが、土器は後期のものが最も多く、次いで、前期のものが多い。これに次いで中期が多く、調査区北側から多く見つかっている。早期のものは後半期のものに限られ、しかも低位の T_1 面から多く出土している。石器の中で、縄文時代前期竪穴住居跡の窪みの上層黒色土層から棍棒形石器2点が余市式土器に伴って出土した。包含層からも2点出土しており、やはり余市式土器が周辺から出土している。

縄文時代の遺物は、ほとんどがV・VI層から出土しており、III層からの出土は極僅かである。

遺物は土器10,158点、礫石器2,369点、剥片石器3,533点、土製品602点、石製品24点、フレイク・チップ類12,419点、礫剥片1,010点、礫23,954点、総計54,069点である。

(宮塚)

第1節 竪穴住居跡

住居跡は16軒調査した(VH-01~16)。時期は縄文時代前期後半(10軒)と後期初頭(6軒)に限られる。

前期の中でも大型のものは調査区中央部に、西側に小型の住居跡が並んで発見されている。前期の住居跡は深く、壁も明瞭に立ち上がる。VH-01と南側の2軒(VH-03・10)を除いて、柱穴は確認できなかった。前期の住居跡の覆土には、中期末葉~後期初頭の遺構や遺物が多く残されていた。VH-01の覆土から、大型の石組炉が発見され、VH-16とした。

後期初頭の住居跡は、石組炉を伴い、調査区中央から北側に分布している。住居中央部が一段深くなるものもあるが、掘り込みは浅く、壁の立ち上がりは明瞭ではない。柱穴もはっきりとしたものは検出できなかった。

(宮塚)

VH-01 (図IV-2~7 図版 18・19・82~84)

位置：AJ~AL-23~25区 規模：1,165×875cm 検出層位：VbL

長軸方向：N-13° W 平面形：隅丸長方形 付属遺構：HF01

確認・調査 重機による樽前b火山灰除去中に、調査区北東側の調査開始面のⅢ層上面において楕円形のやや深い窪みを確認した。形状・規模から縄文時代の住居跡と想定したが、南東部分が後期調査区域にかかっていたためこの時点では付番のみ行った。後期調査区域のⅣ層を重機で除去し、V層上面精査時点で窪みの地形測量を行った。調査は、地形測量で得られた等高線から想定される楕円形のプランを基に十字ベルトを設定し、トレンチで床面及び壁面の立ち上がり、掘り上げ土を確認した。床面からは長軸上北側に焼土が検出された。覆土調査中、長軸上やや南側の1層中から石組炉が検出された。当初は本遺構付属のものと思われたが、精査の結果VH-01廃棄後に構築された後期の住居跡に付属するものと判明した。詳細についてはVH-16を参照されたい。十字ベルトセクション記録後、付属遺構及び柱穴の確認調査を行った。床面精査時、暗褐色のやや硬化した土層を確認したためセクションと範囲を記録し、完掘写真を撮影し調査を終了した。

形態 長軸1,165cmを測る大型住居跡で、今年度調査した中で最大のものである。平面形は隅丸長方形で、床面は中央部がわずかに下がった凹面形を呈する。壁の立ち上がりは北東側で緩やかであるが、他は急角度で立ち上がる。

掘り上げ土 住居掘削時のV・VI層を主体にⅦ層とシルト岩が混入した褐色の層で、住居跡の周囲1.6~3.5mの範囲に広がっていた。堆積は厚い所では15cmほどで縁辺に向かって薄くなる。

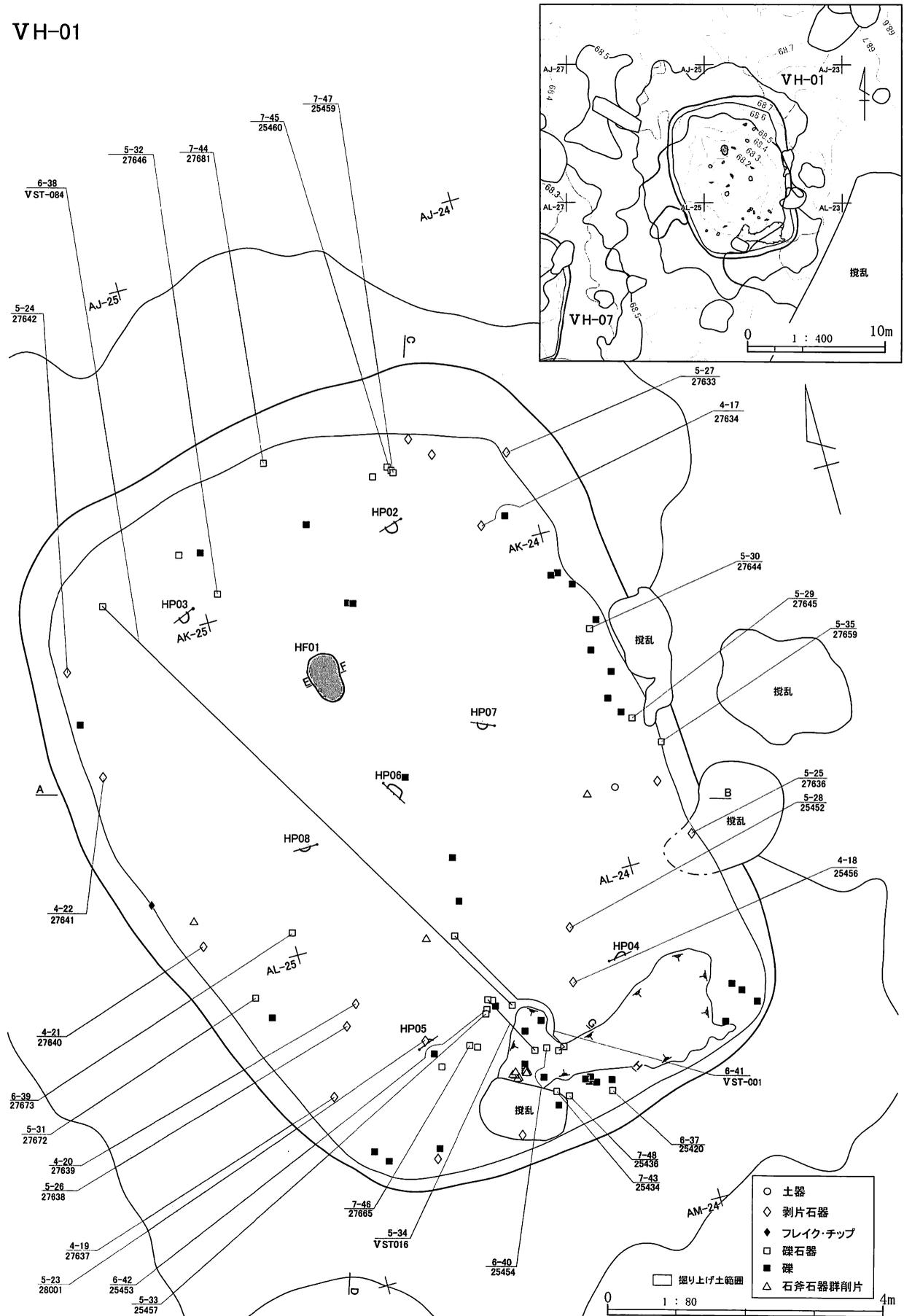
堆積状態 9・15層はVb層にVI層が多量に混じった層である。同様の層は住居跡南側でも確認され、浅い掘り込みに堅く締まった褐色土が認められた。また、壁際からは握りこぶし大の白色粘土塊が検出されたことから、これらの層は白色粘土を混入した貼り床であると考えられる。2・3・4・6・8・12・14層は掘り上げ土が流れ込んだ再堆積層である。5層は住居掘削時のVI・Ⅶ層を主体としていることから屋根土と考えられるが、層厚が10cm前後と薄い。これはVH-16構築時に上部が削平されたためと考えられる。1層は覆土上位の堆積層で縄文時代中期~後期の土器が混在して出土している。また、この層はVH-16の覆土でもある。

焼土 床面精査中、住居中央より2.5mほど北側長軸上に楕円形の焼土を検出した。平面形記録後、短軸方向にトレンチを設定し断面の記録を行った。被熱層の厚さは3cm程で赤色化は弱い。炭化物11.66gと少量のクルミ片及び、縄文時代前期の土器片3点が得られた。

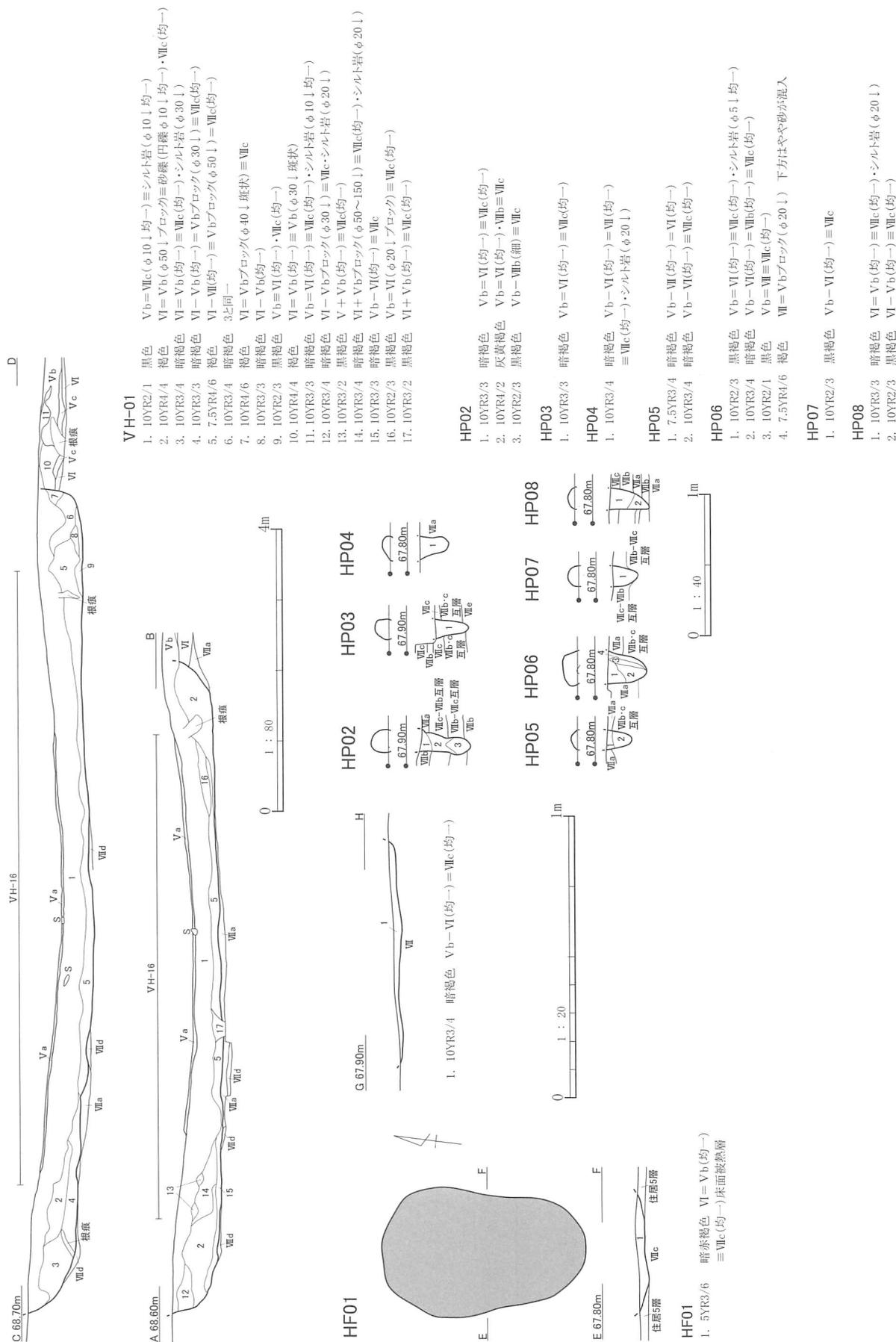
柱穴 主柱穴は7本確認され、H状の配列をなす。各柱穴間は3.0~3.8m、平均3.5mと規格性が認められ、長辺東側は7m、西側は6.8m、短辺は北から3.4m、4.0m、3.0mを測る。HP06はHP07・08から2.0mの位置にあり、打ち込みである他の6本とは異なり、掘立柱で土層1・2が柱痕、3・4は掘方埋土である。また平面形も他の6本は円形であるが、HP06は隅丸方形である。壁面に壁柱穴らしき黒色土の落ち込みを確認したため、半截し確認したが全てシミであり、壁柱穴は確認できなかった。

遺物出土状態 床面からは97点の遺物が出土している。内訳は土器1点、剥片石器17点、礫石器27点、フレイク12点、礫40点である。全体の分布としては、壁面近くからの出土が

VH-01



図IV-2 VH-01 平面及び遺物分布図



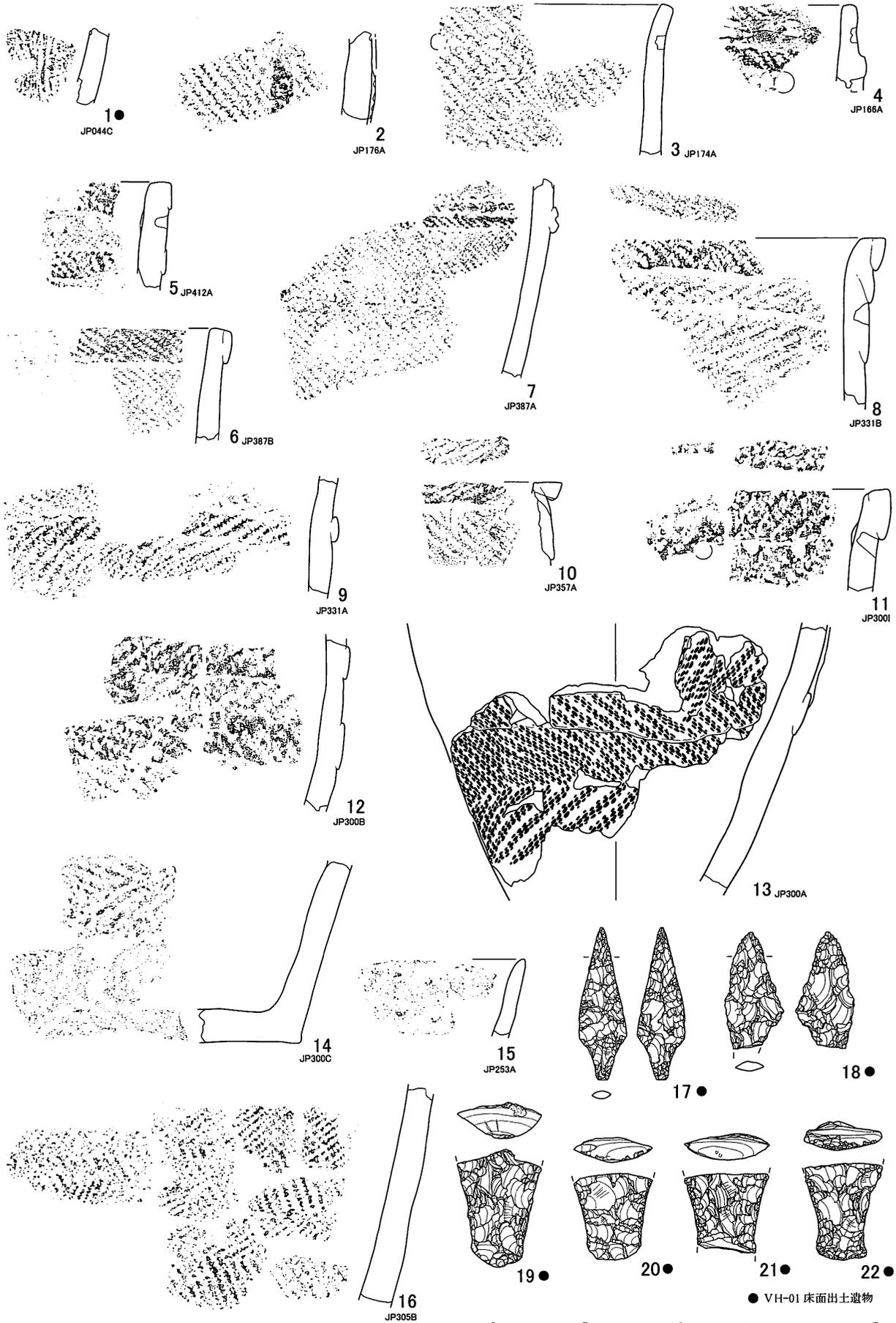
図IV-3 VH-01 断面図及び付属遺構

多く、長辺側よりも短辺側、特に南側からの出土が多い傾向がうかがえる。覆土全体からは777点の遺物が出土したが、1層出土遺物の多くはVH-16に係わる遺物である可能性が高いが、明確に区分することが出なかったためこの項に掲載した。

出土遺物 (図IV-4~7 図版82~84) 1は床面出土のⅡ群B2類土器胴部片である。外面に下地に貝殻条痕文が内面は縦のミガキ調整が施される。器表面は風化が進んでいる。同一個体片がAS-27区V層上位より出土している。2・3は富良野盆地系のⅢ群B3類土器。2は縦位の貼付文の上にZ状の刺突文、3は口縁部に円形刺突文が施文される。地文はRL斜行縄文である。4~7はⅣ群A1類a種に分類される土器。4・5は口縁部の無文帯に刺突文が施文される。6・7は同一個体、口縁部と胴部に貼付帯をもち、胴部の貼付帯には縄文と縄線文が施文される。口縁部にはLR斜行縄文、胴部には結縛痕を残すRL斜行縄文が施される。8~15はⅣ群A2類土器、8・9、11~14が同一個体。8は口縁部に階段状の積み上げ痕を残し、刺突文が施文される。9は胴部破片で貼付帯の上にも、下方の縄文が施文されている箇所も見られる。10は角状の口縁部で下方からの刺突文が施される。8~14は口縁部から胴部まで貼付帯が施され口縁部下には刺突文が施文される。15は内削ぎの口縁部をもつ、小型の鉢型土器。

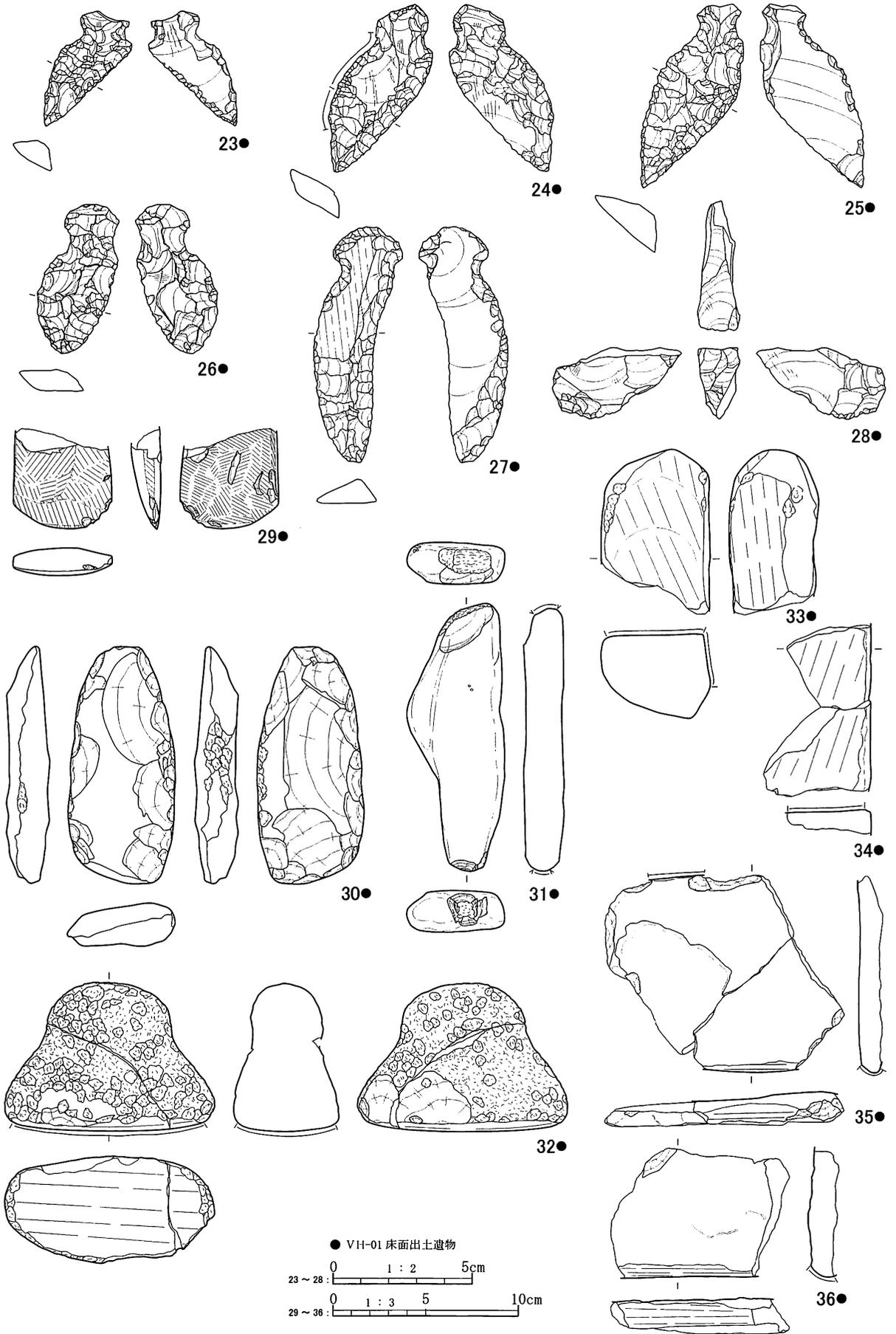
17・18は明瞭な茎部をもつポイントB類。18は茎部先端を欠く。19~22はポイントB類の茎部。錯交剥離によって成形されている。23~27はつまみ付ナイフ、26は横長の剥片を、それ以外は縦長の剥片を素材としている。いずれも正面観が左に寄った形態で、刃部を再生していると思われる。28は両面調整石器を素材とした石核。打面調整は長軸方向から行われている。29は磨製石斧刃部破片。30は石斧未成品。側縁からの剥離と図右側縁に敲打痕が見られ、刃部となる先端部には礫面を残す。31はたたき石、両先端に敲打痕が残る。32は北海道式石冠、礫面は図正面下端に僅かに残され全面に敲打痕を残す。33は2面に砥面が見られる砥石。34は節理で割れた礫を素材とする砥石。35・36は石鋸、いずれも層理のある砂岩を素材とし、35は上下側縁に擦り面をもつ。上方の擦り面は幅が極端に狭い。また、下方の擦り面には稜が残り、石鋸として使用した後、平らな面を擦ったと思われる。上方の擦り面と最終的には同様に使用されたものであろう。37~39は砥石、37は裏面にも砥面が存在する。40~42は滑沢面のある礫。41には2面の滑沢面が残されている。43は線条痕のある礫、表裏に2~3条の線条痕が残されている。44~47は石皿いずれも1面のみに作業面を残す。48は台石、図上方に敲打面を残す。上半は欠損している。

時期 床面から出土した土器は円筒下層系の土器1点である。また、HF01からはフローテーションの結果、大麻V式と思われる小片が得られた。以上のことから、縄文時代前期後半に構築されたと考えられる。VH-02と平面形・規模が類似しているが、本住居跡は縄文時代前期後半でもVH-02よりやや古い時期のものと考えられる。 (岩橋・遺物：宮塚)

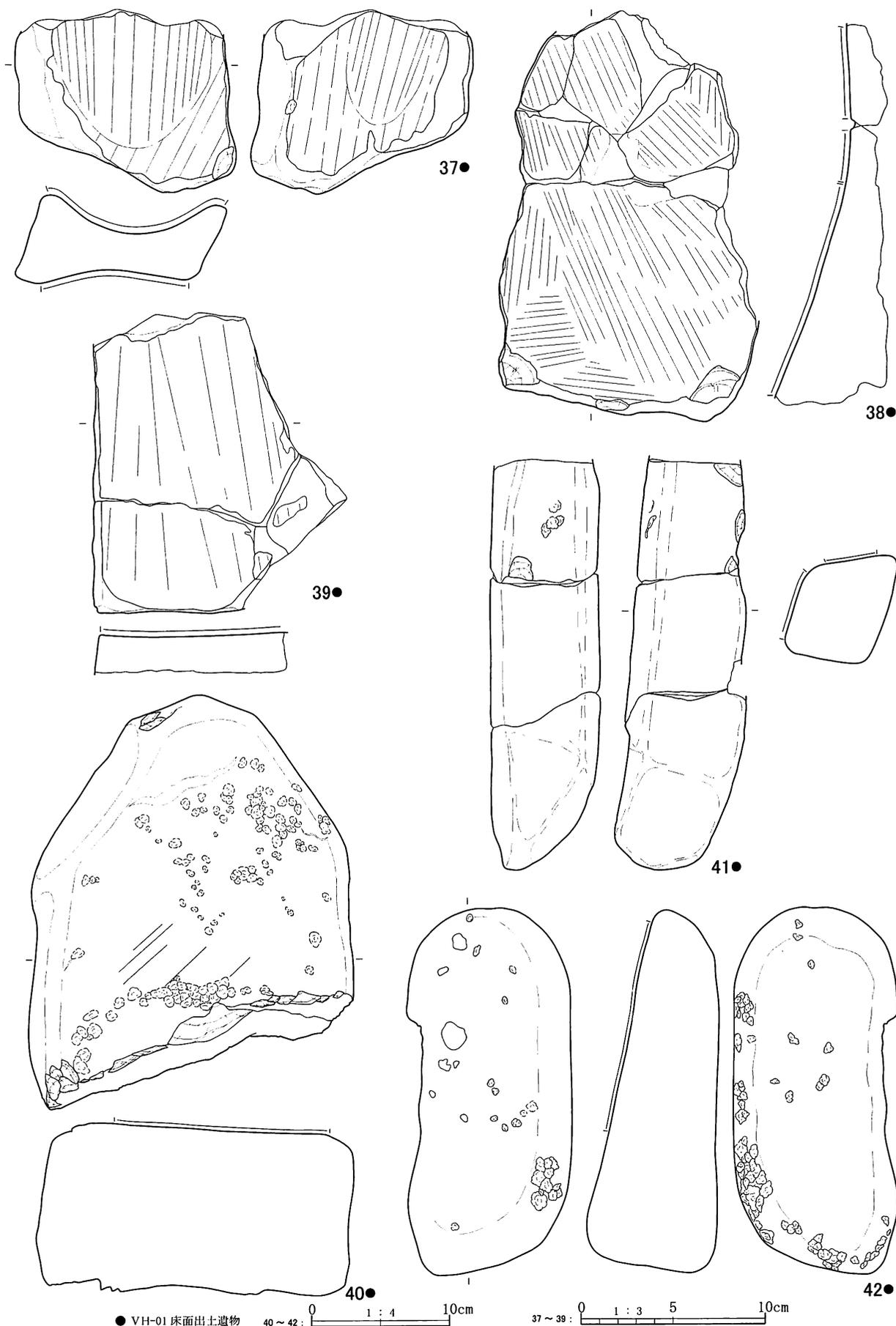


図IV-4 VH-01 出土遺物(1)

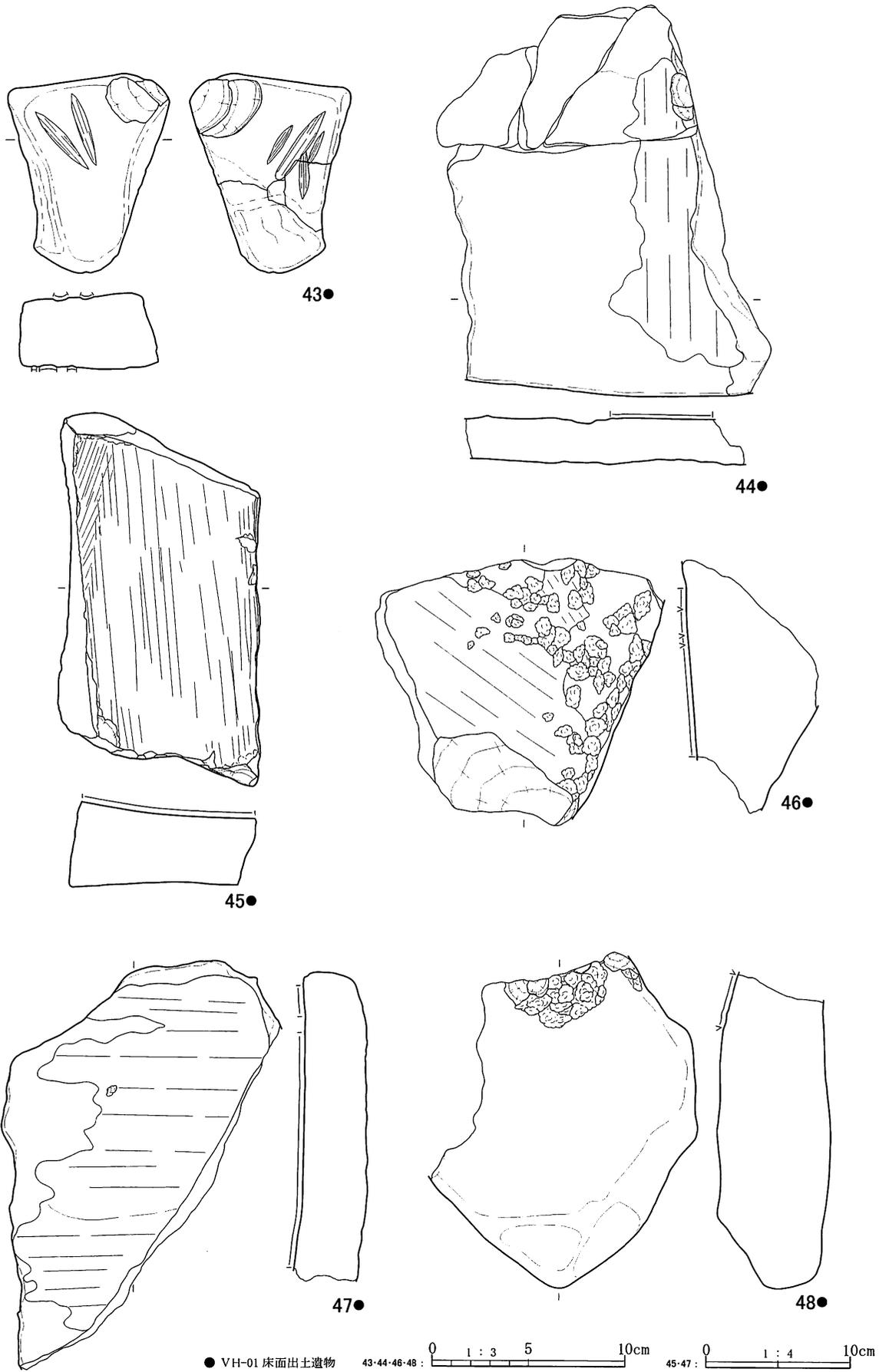
1~16: 0 1 3 5 10cm 17~22: 0 1 2 5cm



図IV-5 VH-01 出土遺物 (2)



図IV-6 VH-01 出土遺物(3)



図IV-7 VH-01 出土遺物 (4)

VH-02 (図IV-8~12 図版 20・21・85・86)

位置：A0~AR-27・28・AP・AQ-26~28 区 規模：1,103×910cm 検出層位：VbL

長軸方向：N-32° W 平面形：隅丸方形 付属遺構：HF01・02・PT01

確認・調査 Ta-b 火山灰除去後のⅢ層上面で楕円形の大きく窪む範囲を検出した。Ta-c 層の除去も窪みの部分を残して重機で排除し、窪みの部分はベルトを残して人力で除去した。Va 層から扁平な礫が出土しており、何らかの遺構の存在を想定して、土層観察用のベルトを残して掘削した。住居跡覆土の中央部から、扁平な礫が集中して発見された。礫は土層観察用のトレンチから見ると、住居床面から 10cm 以上浮いて、さらに 2-3 層に分かれ、上下に重なって出土している。こうした状況を加味して、竪穴廃絶後の窪み内に残された礫集中遺構として、VSB-01 と付番した。南西部倒木痕から 1 点、北西部の住居覆土上層から 1 点、計 2 点の棍棒形石器が出土している。VSB-01 の調査後、土層観察用ベルトにそってトレンチを入れ、床面を確認した。床面はⅦ層に構築されているが、一様ではなく、Ⅶa 層、Ⅶb 層に築かれていた。住居跡中央から、外に向かって掘削を進め、壁の検出にあたった。壁は、Ⅶb 層・Ⅶa 層・Ⅵ層に掘り込まれており、傾斜は緩やかである。南東隅部に幅 15cm 前後の段差が見られる。硬化面は認められず、壁が一部崩落した跡と考えられる。床面は全体に南西方向に傾斜しており最も高い北東部と最も低い南西部では約 20cm の比高差が見られる。床面をさらに下げて精査したが柱穴と思われる落ち込みは確認できなかった。1 ヶ所から「化石痕」と思われる、直径 1m 前後、深さ 2m のⅥ層が充填した柱穴状の大型の落ち込みを確認した。この落ち込みは床面を下げ、柱穴調査の時点で確認できたもので、住居構築以前に存在していたものと思われる。Ta-d 層降下に伴う土石流に立木がそのまま埋められ、有機質部分が腐食した後、Ⅵ層が堆積したと考えられる。覆土のⅥ層は分層不可能で、一気に埋まったと推察される。同様の「化石痕」は VH-07 からも検出されている。「化石痕」の断面写真撮影・実測をして調査を終了した。

形態 平面形は胴の膨らむ隅丸方形をなす。東・西の長辺が大きく膨らみ、北・南壁は直線的である。主軸方向は N-32° W で、VH-01・10 同様、北西～南東方向に主軸を持つ。

堆積状況 覆土は Vb 層を起因とする流れこみ土が住居跡全面を覆う。Ⅵ・Ⅶ層を起因とする屋根土と考えられる 2~4 層が壁際に厚く、中央部に薄く堆積している。5 層は褐色で Vb 層のブロックを含み住居跡中央部に堆積しており、周辺から流入したものと考えられ、この層が堆積した後。先に述べた、VSB-01 が形成されたと思われる。

付属遺構 住居跡中央部から南側の床面が若干低くなっており、南北約 5.0m、東西約 3.8m 浅い皿状の窪みが見られた。テラス状の段差の存在を想定し、立ち上がり部を精査したが、明瞭な立ち上がりは確認できなかった。この窪みの中央から炉跡 (HF01) を発見した。

焼土の HF01 は 100×65cm の浅い掘り込みの底面にシルトを敷き詰めた特異な形状である。VH-10 からも同様な炉跡が検出されており、当該地域における特異な形態である。シルト層の上に住居跡覆土 9 層がブロック状に混在した、燃焼面を形成すると思われる層が堆積している(規模：61×47×12cm)。HF01 の他に、住居跡の北側から炉跡 (HF02) を検出した。HF02 は床面 (Ⅶb 層) が直接被熱しており、掘り込みは確認できなかった。南側は根によって攪乱され、現存部の規模は 14×10cm、厚さ 7cm を測る。前述した浅い窪みの南側、南壁に沿うように大型の土坑 (PT01) を確認した。覆土上層に炭化物片を多く含む層が堆積している。壁が崩落しており、

往時は口の狭いものであったことが伺える。床面・壁・付属遺構の精査を完了後、柱穴の確認にあたった。床面からは柱穴と思われる明瞭な落ち込みは発見されなかった。床面をさらにVIIb層まで掘り下げ柱穴の確認したが、柱穴と思われる落ち込みは確認できなかった。

住居跡南東部の床面がわずかに浅く掘り込まれ、覆土の上面が硬化していたが、床面を再構築したものと考え、土坑とはしなかった。

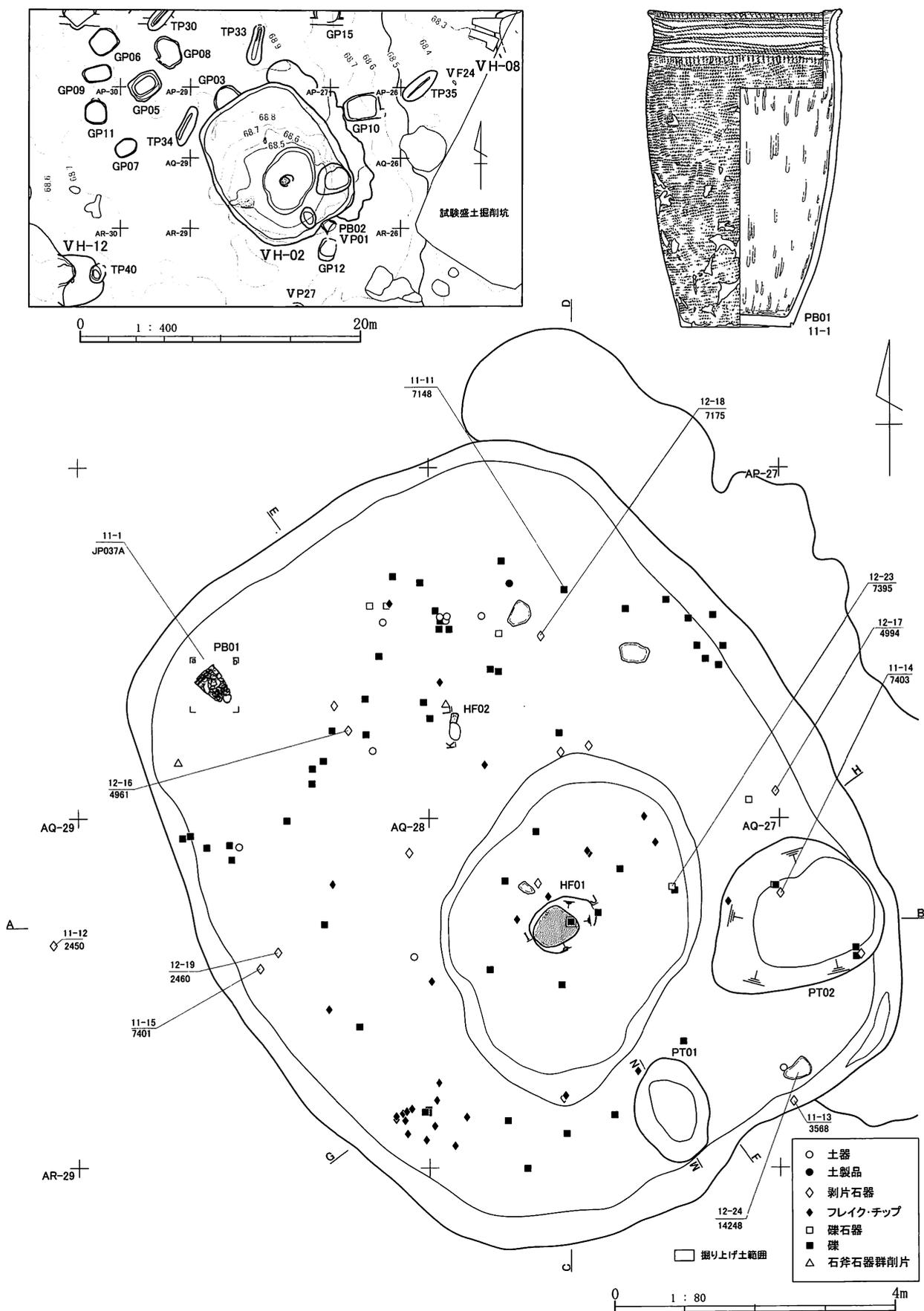
掘り上げ土は住居跡北東部にのみ確認できた。厚さは5~7cmで、Vb層にシルト岩や、VII層を含む。

出土遺物 (図IV-11・12 図版85・86) 床面北西隅部から大型のII群B2類(円筒土器下層d2式)土器が北西に口を向け、潰れた状態で出土した。口唇部と、口縁部と胴部の間に貼付帯の上に縄による刻み、口縁部に縄線文を施文、縄線文は4ヵ所で菱形を構成する。胴部は絡糸体回転文によって埋められている。このほかに床面から出土した遺物は、11:土製品、14・19:ポイントA類、15~17・20・21:ポイントB類、18:つまみ付ナイフ、23:敲石、24:石皿である。11は珪質土から作られた土製品で、裏面には太い棒状工具の並行する圧痕がつけられているが、表面の剥落が著しく、工具は特定できない。14・19はいずれも柄部が身部より長い石鏃。14は図示した裏面に素材の主剥離面を大きく残し、身部は裏面から、柄部の左側縁は裏面から、右側縁は折り取られた切断面をそのまま残している。19は身部が柄部より短い石鏃、身部の調整は両側縁とも裏側から、柄部は錯交剥離によって作出されている。ポイントB類は、いずれも「つまみ」状に基部端が張り出す平面形をもち、刃部の調整は細かい。16は図示した正面右側縁が欠損しているため刃部の調整は細かく見て取れないが、区に近い部分から観察すると、身部は正面からの剥離、柄部は錯交剥離によって調整されている。18はつまみ付ナイフ、刃部は両側縁とも裏面からの剥離によって仕上げられている。20は石鏃14同様、柄部が身部より長く、柄部は身部より極端に太い。身部・柄部共に裏面からの剥離で調整されている。21の身部は裏面から、柄部は錯交剥離によって調整されている。23はたたき石。側縁に剥離痕、中央に敲き痕を残す。24は大型の石皿、窪みの中央部に線條痕を残す。

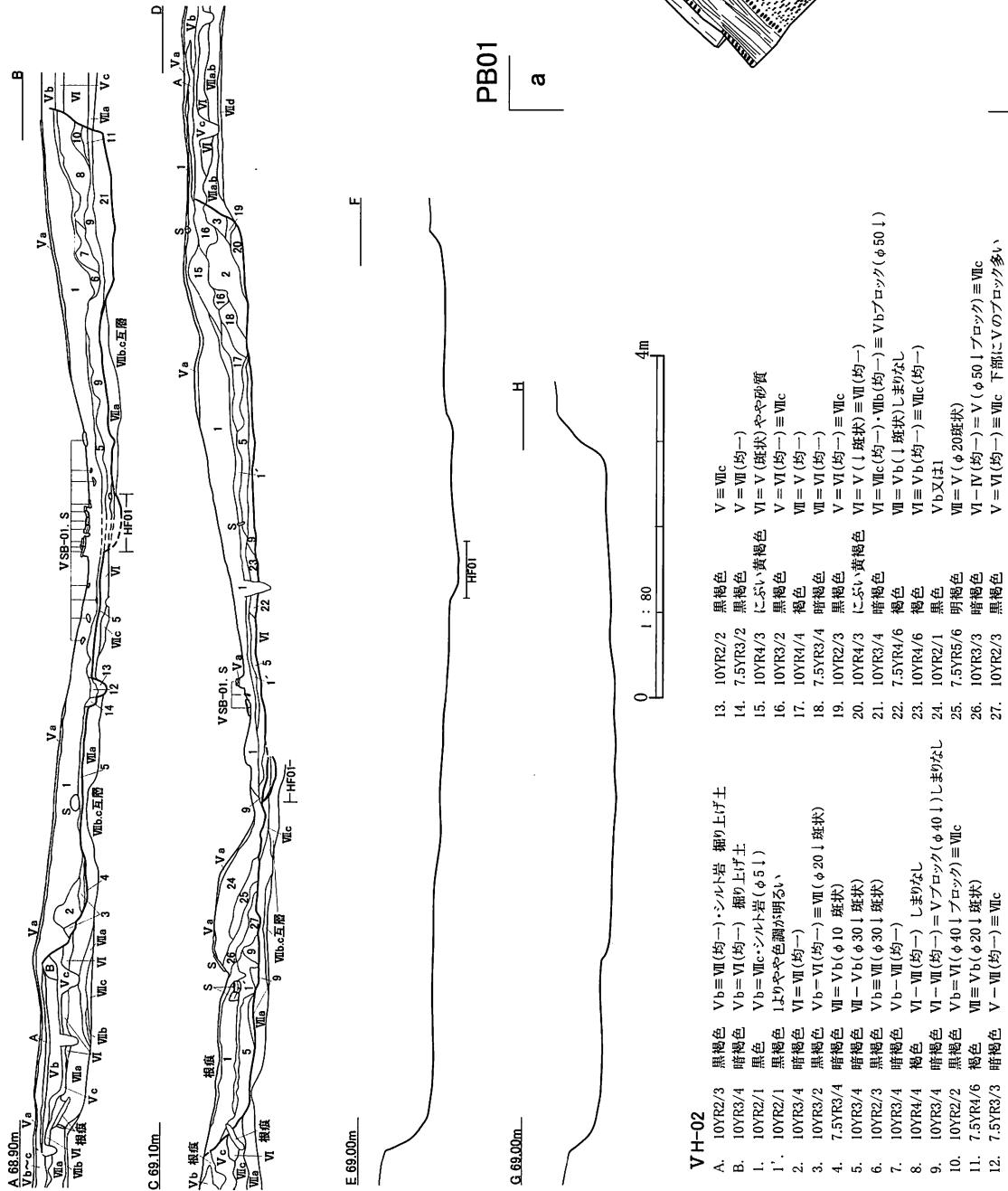
住居跡覆土からは、II群B2類(2~5)、II群B3類(6~8)、IV群A1類a種(9・10)の土器が出土している。9・10はVSB-01に伴う可能性がある。6~8は同一個体で口縁部下に沈線と0I刺突文をもつ、大麻V式土器の古い段階のものと思われる。石鏃(12・13)、石錐(22)が覆土から出土した石器である。12は身部が図示した裏面からの剥離、柄部が左側面は裏面から、右側縁は正面からの錯交剥離によって作出されている。13の剥離方法も同様である。22は頁岩製の石錐、刃部の調整はすべて裏面から施されている。

時期 床面から出土した土器から、住居跡の時期は前期後葉、円筒土器下層d2式期である。柄部が身部より長い石鏃や「つまみ」状の張り出しを付けた柄部をもつ石槍・石銛など当該期の特徴を表す遺物群である。(宮塚)

VH-02

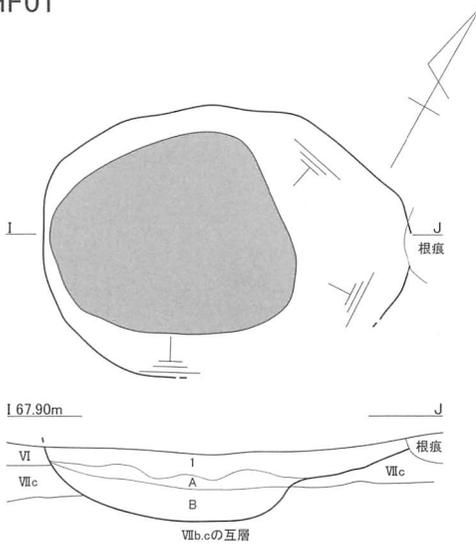


図IV-8 VH-02 平面及び遺物分布図



図IV-9 VH-02断面図及び床面出土土器

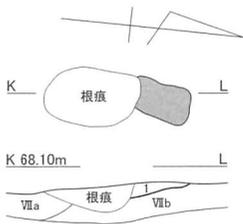
HF01



HF01

- 1. 10YR3/2 黒褐色 Vb+VI(均一)≒VIIc
- A. 10YR4/4 褐色 燃焼面 シルト=9ブロック(φ15↓斑状)
- B. 7.5YR5/6 明褐色被熱層 シルト均一

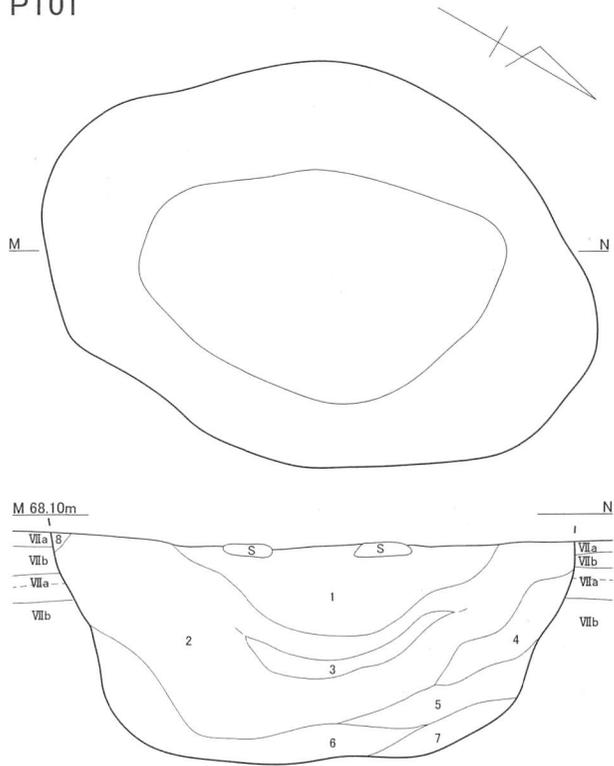
HF02



HF02

- 1. 7.5YR4/6 褐色 VIIb被熱 硬くしまる

PT01

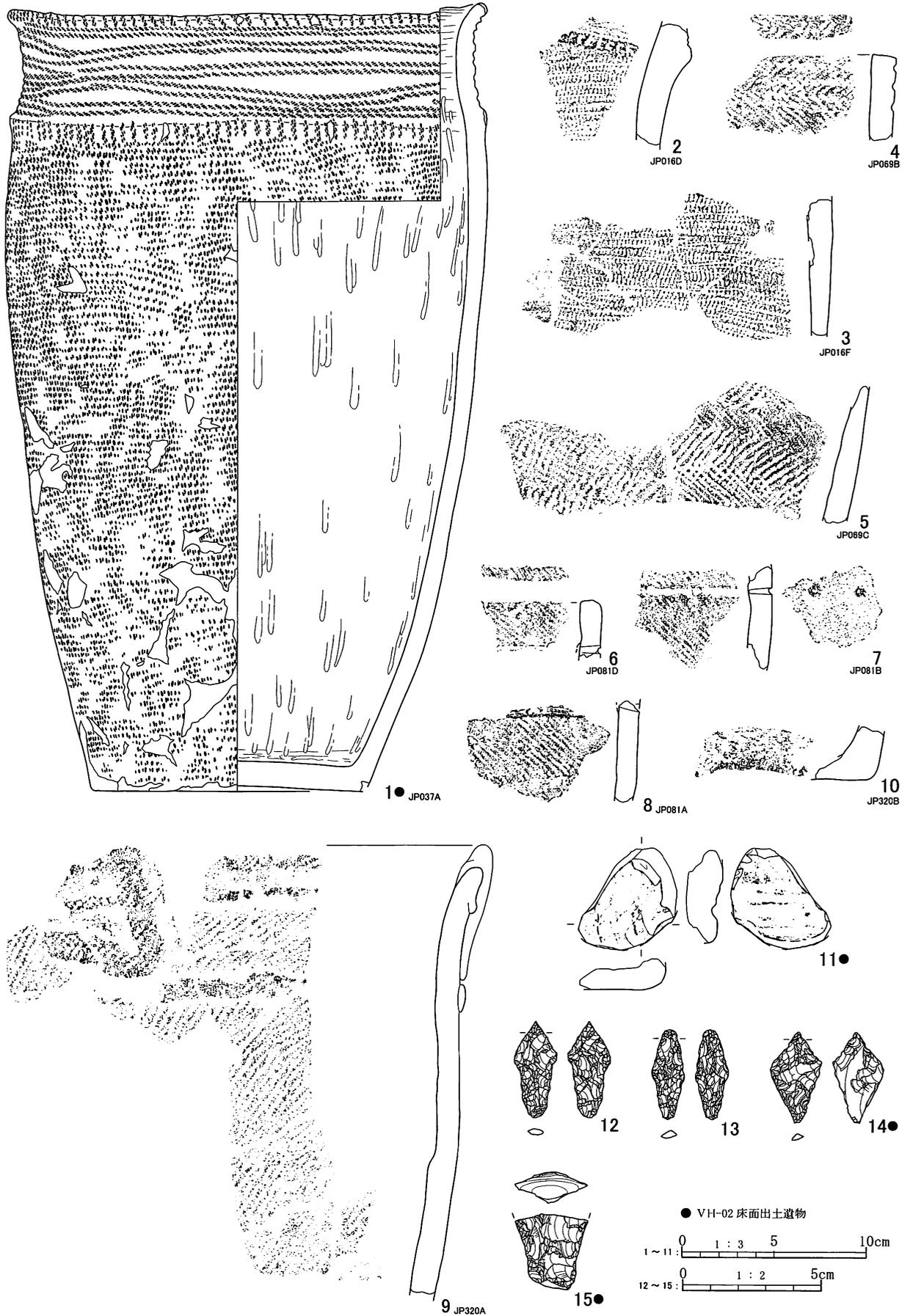


PT01

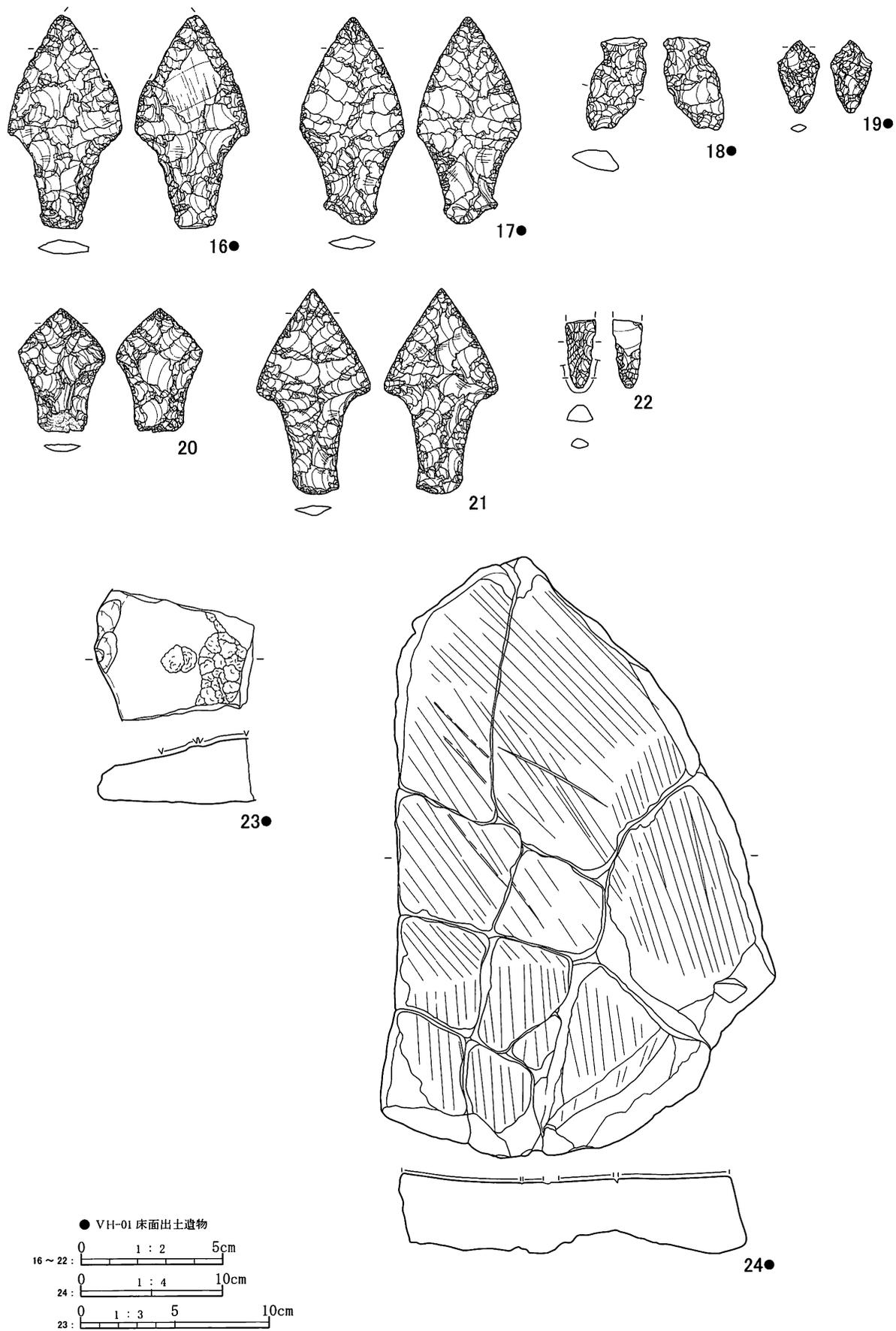
- 1. 10YR2/2 黒褐色 Vb≒シルト岩(φ5↓)=VIIc・円・亜角礫・炭化物
- 2. 10YR3/4 暗褐色 VI=VII(均一)・VIIc≒シルト岩 やや砂質 粘性なし
- 3. 10YR2/3 黒褐色 Vb-VI(均一)≒VIIc
- 4. 2.5Y4/4 オリーブ褐色 粘質シルト=VIIb≒VIIc 壁面崩落土
- 5. 7.5YR4/1 褐灰色 VIIb=VIIa・c 互層堆積 壁面崩落土
- 6. 10YR2/3 黒褐色 VI=VIIb(均一)≒VIIc
- 7. 7.5YR5/8 明褐色 VI-VIIc



図IV-10 VH-02付属遺構平面及び断面図



図IV-11 VH-02 出土遺物(1)



図IV-12 VH-02 出土遺物(2)

VH-03 (図IV-13~16 図版 22・23・87)

位置：AU・AV-29・30区 規模：613×528cm 検出層位：Vbu 掘り上げ土：約840×1,040cm
 長軸方向：N-63°W 平面形：隅丸長方形 付属遺構：HF01・PT01・02

確認・調査 調査開始面では周囲のⅢ層が削平されていたが、本遺構範囲はⅢb層が円形に残存しており、Ⅳ層除去後Ⅴ層上面で直径約2mの極めて浅い窪みを検出した。VSB-02範囲内で、Ⅴ層上位から出土した礫についてはVSB-02として扱い、大型礫の取り上げ後に窪みの形状から予測した長軸及び短軸方向に土層堆積観察用のベルトを十字に設定した。これに沿うトレンチ調査を先行し床面と壁面の把握に努めた結果、おおよその竪穴規模を把握できた。並行して竪穴周囲の掘り上げ土の範囲も精査した。その後、床面と壁面全体の検出作業、土層断面の記録を行った。トレンチ中心部には炭化物を多く含む黒色土を検出し、ベルト部分の除去後に平面形等から炉跡と判断しHF01とした。範囲と土層を記録し、サンプルの採取を行った。また、同時に床面の精査も行い、4ヵ所の柱穴と楕円形と隅丸長方形プランの土坑を検出し、それぞれHP01~04、PT01・02とした。これらを半截後、土層を記録しPT01・02を完掘した。柱穴は半截状態で見学者への公開のため、発掘区全体の調査終了にあわせて完掘した。

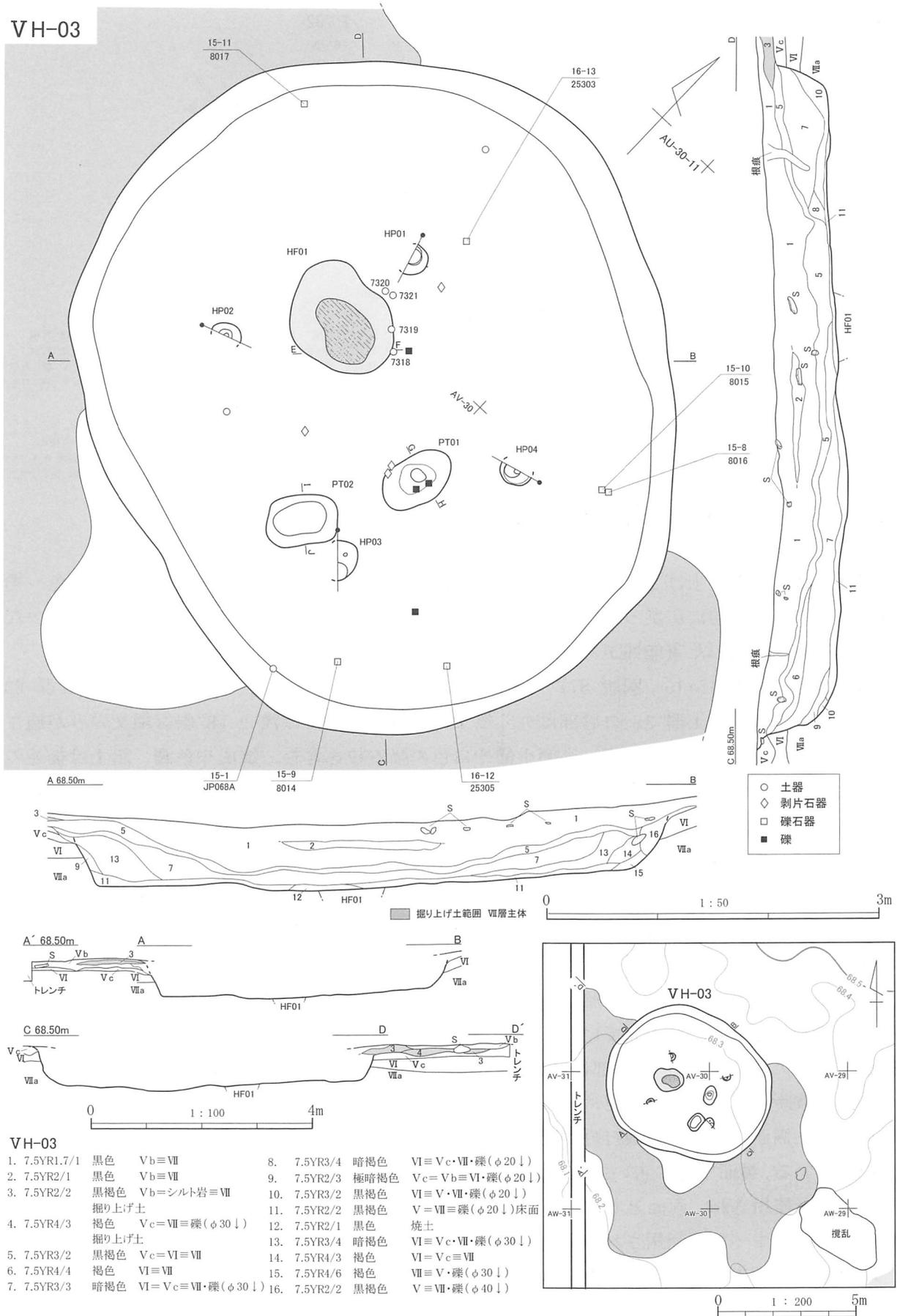
形態・配置 平面形は長軸両側縁が直線状となる楕円形である。竪穴はⅦ層まで掘削され、深さは約60cmを測る。長軸方向は南東-北西軸で、南東へ約7.5mの距離にあるVH-10とほぼ同一方向である。

堆積状態 Ⅴ層主体の覆土1層の中位には中央部に粘性の強いシルトの2層があり、竪穴廃絶後の窪地の水溜りに沈殿したシルトの層と考えられる。住居跡の窪みがⅤ層の堆積により、ある一定期間、水の溜りやすい環境にあったことを示している。なお覆土2層と同じ標高レベルにVSB-02に属すると思われる大型礫の板状とⅣ群A1a類を主体とする土器が出土(セクションC-Dライン)しており、2層は後期初頭から前葉にかけて堆積したと思われる。また当遺構はVSB-02よりも相当古いといえる。3・4層はⅦ層中の小礫を多量含む掘り上げ土である。6~9層はⅦ層中の30mm以下の小礫を含み、土量も多いことから屋根土と推定され、壁側が厚く中央部は薄く堆積している。10層は壁の崩落土、11~14層はⅥ層を含む流れ込みみ土である。15層は炭化物を含む黒色土である。11層はローム質土の貼り床と考えられ、南側ほど厚く堆積している。竪穴掘り方は小礫を多量に含むⅦ層であることから貼り床を施したものと思われる。

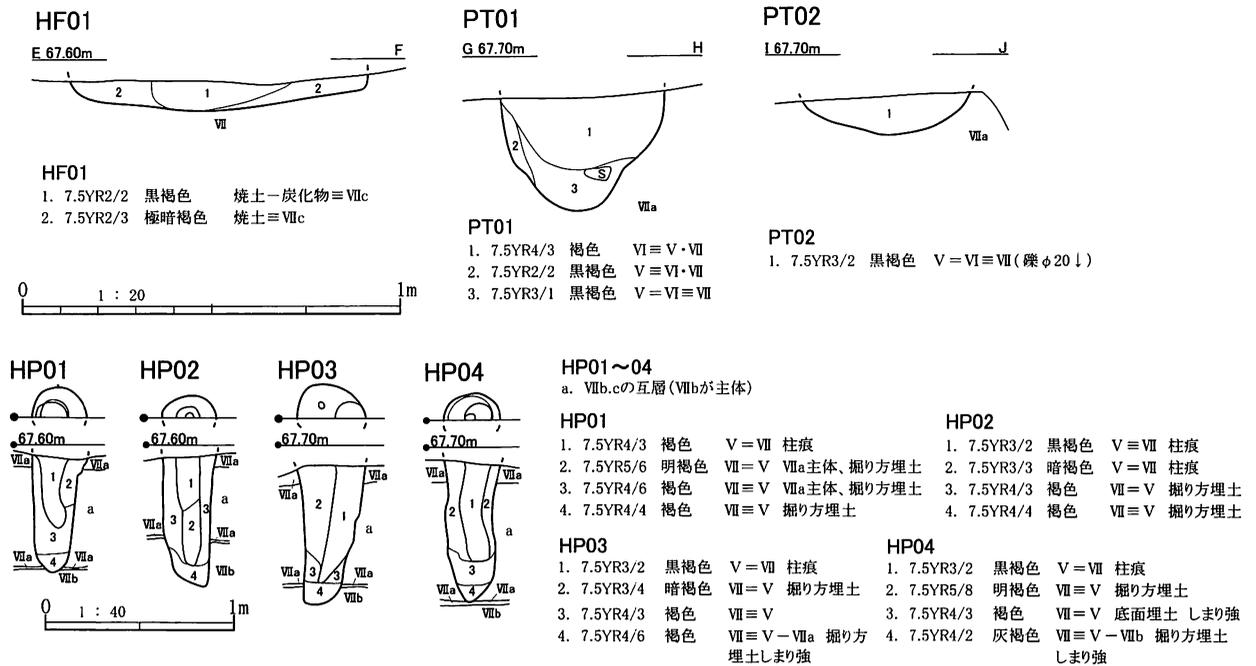
柱穴及び土坑 柱穴は4ヵ所とも掘方埋土と柱痕が確認できる掘立柱である。柱穴の配置は長辺約220cm、短辺約180cmの長方形で、長辺は住居壁面の長辺と並行する。柱穴の平面形は円形である。掘方は浅いもので約60cm、深いもので約72cm、直径は30cm前後で、柱痕は深さが約36~64cm、直径は15cm前後である。掘方埋土が明瞭にでき、底面には3・4層とした硬化層が堆積しており、上屋構造物の水平化に調整した可能性がある。柱穴4本は支柱穴であると考え、周囲や壁面も精査したが、支柱穴や壁柱穴は検出されなかった。PT01は、住居跡の長軸上にあり、HF01と対峙する位置にある。PT02は皿状の窪みであるが両土坑とも用途は不明。

炉跡 検出された炉はHF01のみである。ほぼ中心軸上で中央よりやや西側に位置している。上位には炭化物が多く含まれており、黒褐色を呈する。被熱層もこの炭化物層で黒色化されていた。サンプル採取の時点でも確認できたが、フローテーションの結果、炭化したクルミ殻が多量に回収された。

VH-03



図IV-13 VH-03平面及び断面図

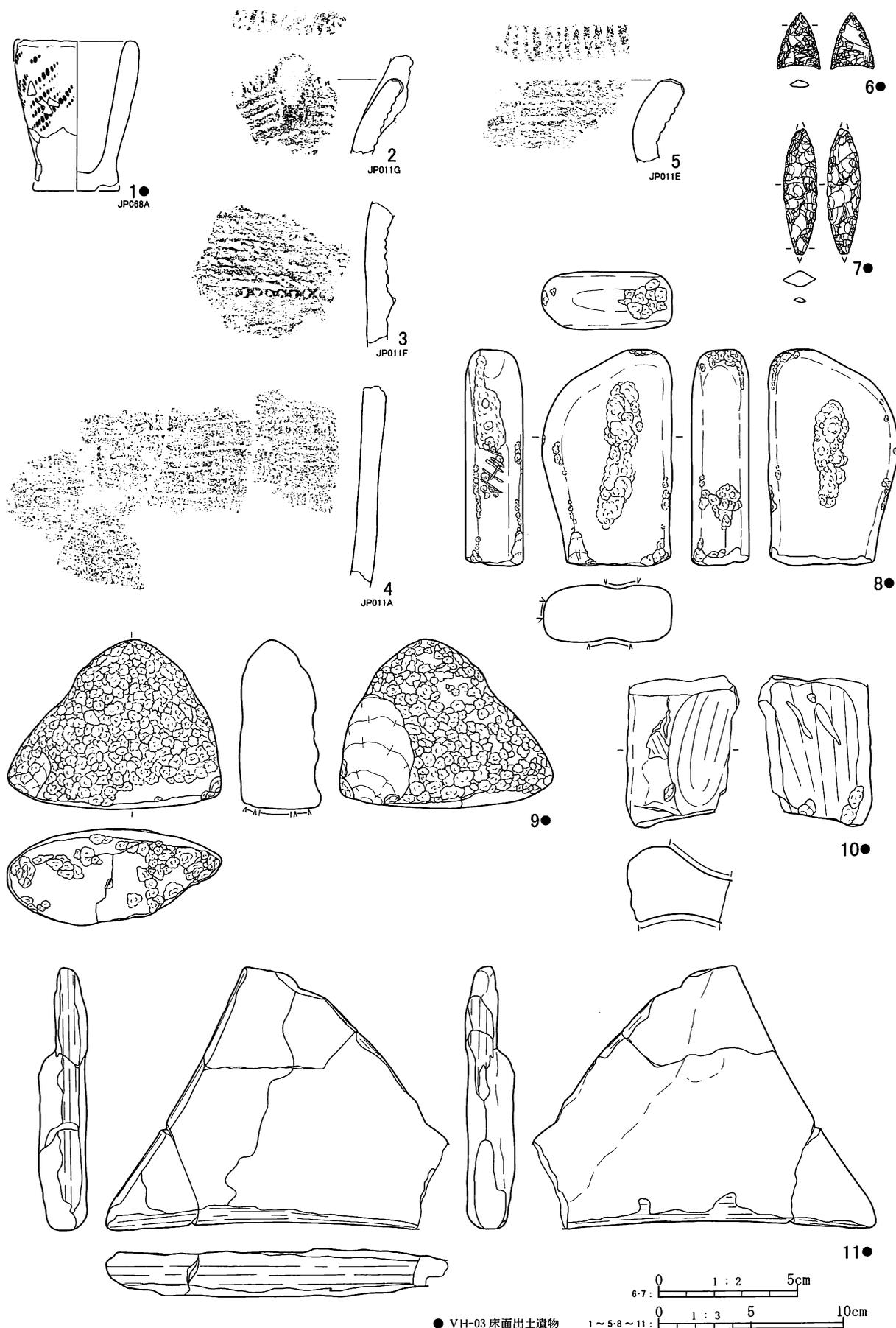


図IV-14 V H-03掘り上げ土範囲及び断面図

掘り上げ土 掘り上げ土は一部上面が削平されていたが、シルト岩を多量に含む黒褐色～褐色土で主に南西方向に広がっている。当遺構が南西方向へ緩く傾斜しているため、労力の少ない斜面下方へ排出した可能性がある。

出土遺物 (図IV-15・16 図版 87) 遺物は多くが壁面近くから出土している。1 はII群 B3類の平縁平底の小型土器で、口唇部は丸く無文である。胴部には浅い LR 斜行縄文のみが施されている。胎土に繊維を含まず、高師小僧や白色の軽石粒を含む。焼成や色調、胎土は後述の焼成粘土塊に類似している。同一個体 2~5 はII群 B2類の土器で円筒土器下層 d2 式の最新段階のものと思われる。本遺構から出土したのは4の胴部片のうち1点で、同一個体の破片は他にVH-01 (2層)、VSB-04及びその周辺から出土している。本竪穴出土の破片は風化痕跡が無い。器形は口縁部が大きく外反する深鉢形土器で、山形突起を有し頂部から棒状貼付文が垂下している。口唇断面形は丸く縄による刻みが施されている。口縁部文様帯には無文地に並行する縄線文を施している。文様帯下縁の隆起帯上にも縄による刻みが施されている。胴部は縦位横位の撚糸文が施されている。胎土には石英結晶含む砂粒をやや多く含んでいる。6 は完形の無茎石鏃で基部が若干湾入している。7 は石錐 D2 に分類され、紡錘形をしており両端とも先端はわずかに欠損している。機能部にはプロペラ状の剥離が見られる。8 はII A3類のたたき石で、下端部の破断面の稜は磨滅が認められ、完形と考えられる。表裏面、左右両側面及び上端部に敲打痕、左側面に刻線状の敲打痕が認められる。9 は被熱した北海道式石冠である。右側縁が欠損している。裏面中央に古い剥離面があり、敲打成形により再加工されている。10 は砥石で、裏表両面が使用され、両面ともに相当磨滅している。11 は石鋸で床面から出土している。三角状の縁辺部のすべてが利用されており、すり石Cに分類される。

時期 床面出土の土器が大麻V式であることや、構築面層位がVc層であることから前期後葉と考えられる。
(服部・土器：乾)



● VH-03 床面出土遺物

1~5・8~11:

図IV-15 VH-03出土遺物(1)



図IV-16 VH-03出土遺物(2)

VH-04 (図IV-17 20-1・2 図版 24・88-1・2)

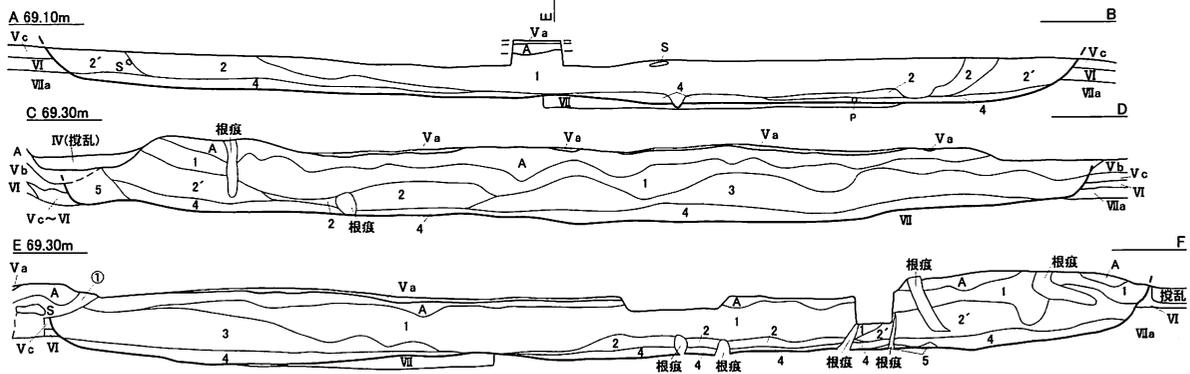
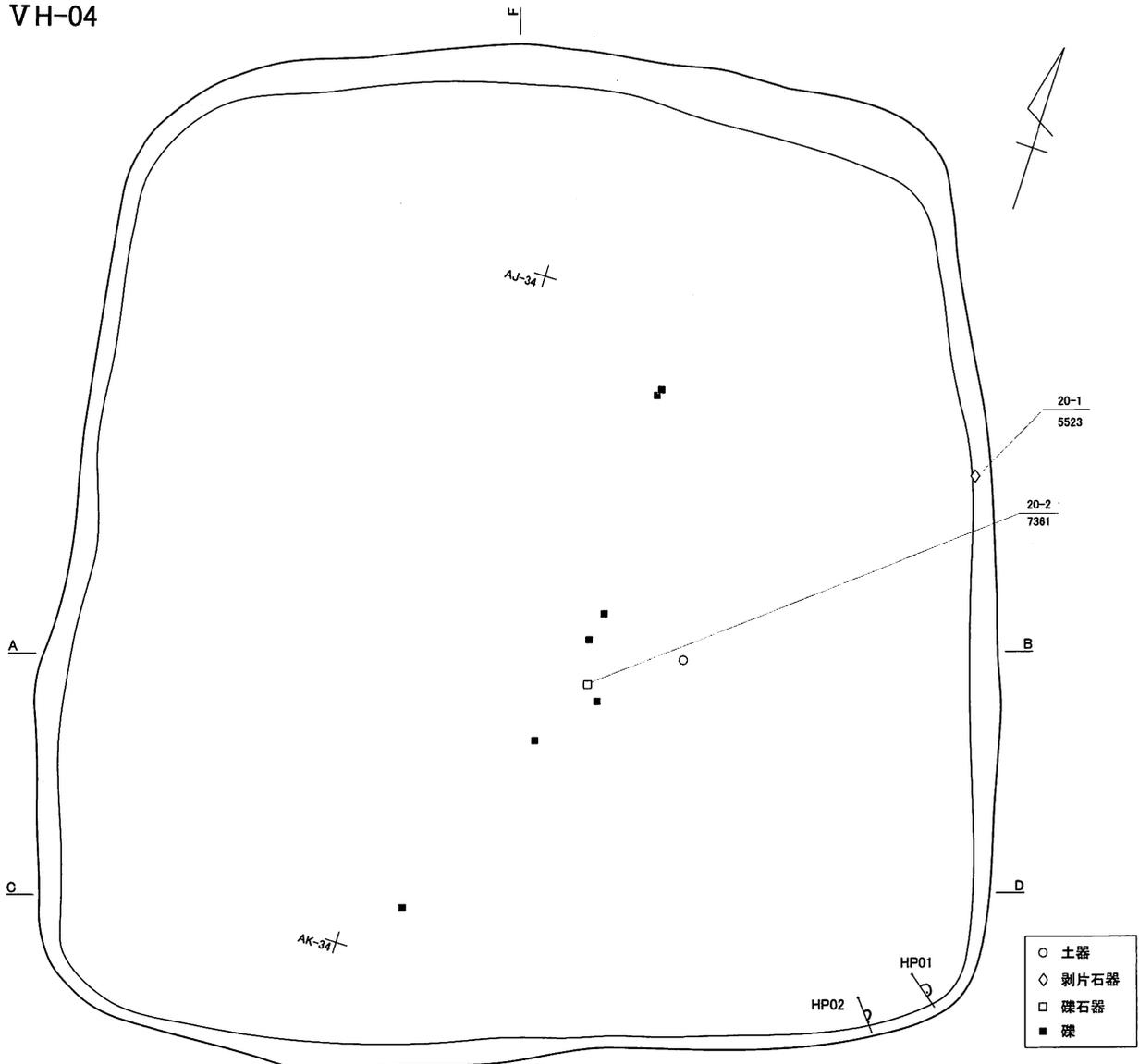
位置：AI・AJ・AK-33・34区 規模：723×668cm 検出層位：Vc

長軸方向：N-18° W 平面形：隅丸方形

確認・調査 発掘区北西側急斜面に面したAI～AK-32～34、AL-33・34、AJ～AL-35、AK・AL-36区の広い範囲でVa層を調査中、VII層のシルト岩混じりの掘り上げ土と類似した堆積層を確認した。VM0-01として東西軸で2本のベルトを設定し、VM0-01の範囲を記録した後、南北軸にもベルトを設定して周囲を掘り下げた。その結果、VM0-01の北側で本遺構のプランの一部を確認したため更に慎重にVc層まで掘り進めたところ、隅丸方形のプランを検出した。この時点でVH-04を付番して南北ベルトを設定し直し、トレンチ調査を先行して壁面と床面の検出に努めた。結果、おおよその規模が把握できたため東西ベルトの写真撮影を行った後、ベルトを残して住居内の黒色土を掘り下げ床面を検出した。東西、南北のベルトの断面を記録し写真撮影後、ベルト部の調査を行い完掘した。さらに、柱穴確認のため数回にわたって床面を掘り下げたが、南東側の壁面に2本の柱穴を確認したのみで、支柱穴等の痕跡は見られなかったため、完掘写真を撮影後、調査を終了した。

形態 竪穴の規模は723×668cmで、平面形は南側がわずかに広い隅丸方形を呈した住居跡である。床面の掘り込みはVII層上面付近までで、壁面は緩やかに立ち上がる。

VH-04



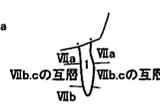
VH-04

- | | |
|----------------|---|
| A. 10YR2/1 黒色 | Vb-10YR2/3褐色ブロック(斑状)≒シルト岩(φ5↓斑状) |
| 1. 10YR2/1 黒色 | Vb主体≒10YR2/3褐色ブロック(斑状)≒シルト岩(φ5↓斑状) |
| 2. 10YR2/1 黒色 | Vb主体≒1(均一) しまり強 |
| 2' 10YR2/2 黒褐色 | Vc=Vb≒A褐色ブロック(斑状) |
| 3. 10YR2/3 黒褐色 | V~VI≒VII シルト岩(φ5~10斑状)=A褐色ブロック(斑状)・シルト岩 |
| 4. 10YR2/3 黒褐色 | V~VI≒VII(均一) 3より硬くしまる |
| 5. 10YR2/2 黒褐色 | V-A(斑状) |
| ①. 10YR2/1 黒色 | Vb=褐色ブロック(斑状)≒シルト岩(φ5↓均一) |

HP01
68.90m



HP02
68.90m

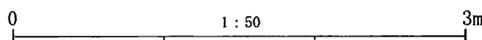
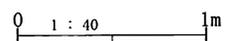


HP01

1. 7.5YR3/2 黒褐色 Vb=VI(均一)

HP02

1. 7.5YR2/2 黒褐色 Vb=VI(均一)



図IV-17 VH-04平面及び断面図

堆積状態 土層Aは堅穴上面を広く覆っていたシルト岩混じりのVM0-01で、ほぼ水平に堆積している。1・2層は堅穴廃絶後のV層を主体とする堆積層。2・3層はVI・VII層を含み壁際堆積することから上屋の裾に葺かれた土の可能性はある。4層は硬くしまっていることから床面生活面と考えられる。

柱穴 柱穴跡として確認できたのは南東側角の壁面の2本のみである。どちらも打ち込みタイプで細く、先端は尖っている。覆土はVb層主体である。

遺物出土状態 床面出土の遺物は土器・石槍・石皿が各1点と礫が7点である。土器については表面が剥落しており、図示していない。

出土遺物 (図IV-20-1・2 図版 88-1・2) 土器については図示していないが、本遺構からはII群B3類土器の羽状縄文の胴部片1点が床面層位より出土している。VH-10覆土1層出土のII群B3類土器(図IV-29-3)と同一個体片である。1は2層から出土したB1a類の石槍で尖頭部が欠損している。2は石皿の欠損品である。礫の中央付近に擦痕と浅い敲打痕が見られる。

時期 床面から出土した土器はわずか1点であるため、それだけで時期を特定することは難しいが、周辺の住居跡の形態から縄文時代前期後半のものと考えられる。(宮崎)

VH-05 (図IV-18・20-3 図版 25・88-3)

位置：AM・AN-33・34区 規模：485×477cm 検出層位：VI

長軸方向：N-6° E 平面形：隅丸方形

確認・調査 Vb層調査中に黒色土の落ち込みを検出した。西側に大きな倒木痕があり、全体のプランは確認できなかった。十字にベルトを残し床面まで掘り下げた。床面と思われる硬化面はなく、VIIa層を掘り込んで床面としている。床面中央から外周に向かって覆土を除去し、壁の検出に努めた。西側の壁の一部は倒木痕の攪乱が床面まで到達しており確認できなかった。

形態 平面形は北側が張り出す隅丸方形で、ほぼ南北に長軸を持つ。

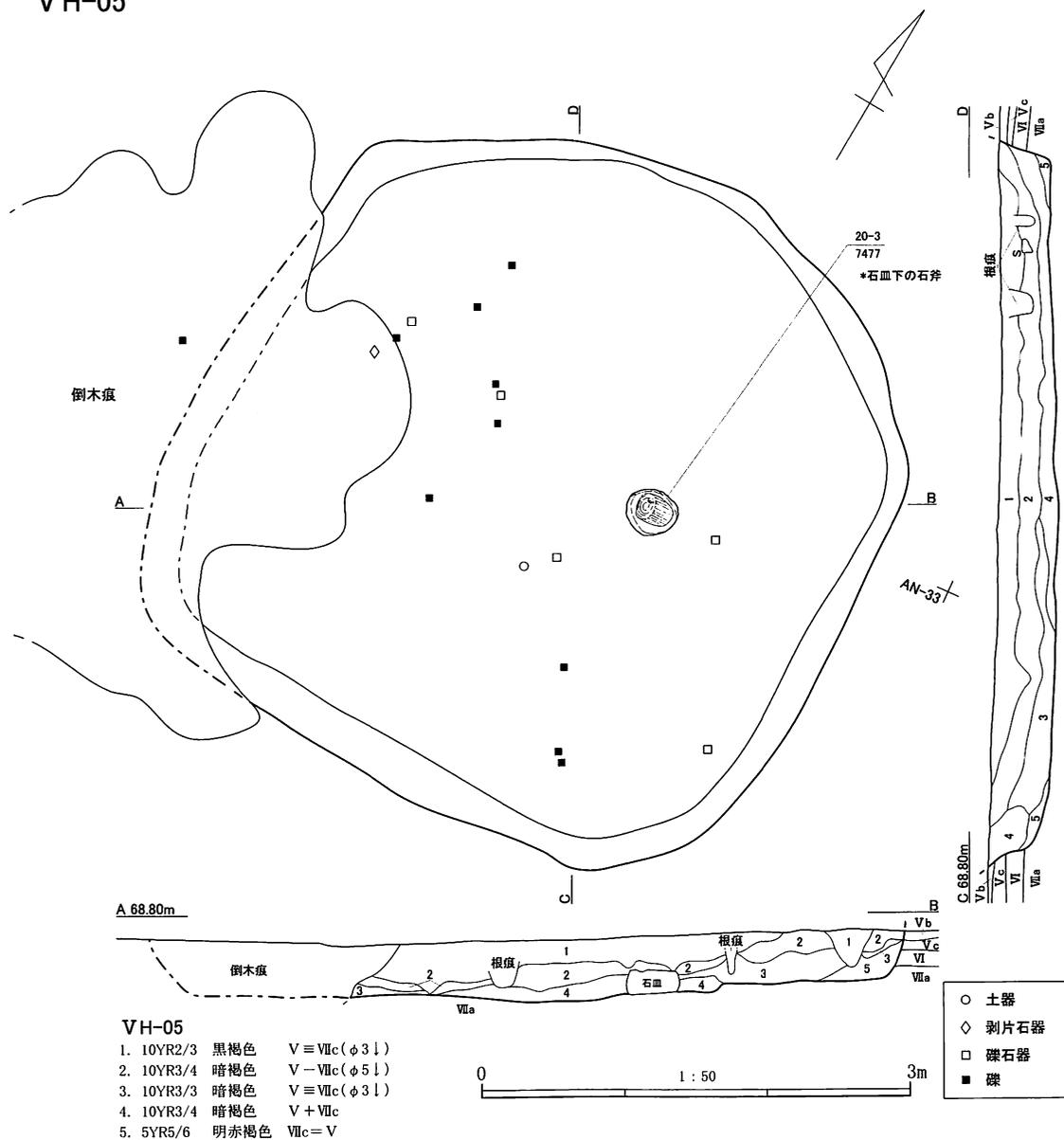
堆積状態 壁はVb層中位からVII層まで約40～45cm掘り込まれている。覆土はVb層が厚く堆積し、壁際にはVc・VI・VII層に起因する再堆積土が流入している。覆土中位にVIIc層を多く含む再堆積土が壁際では厚く、中央部では薄く堆積しており、屋根土と思われる。住居跡中央部にはV層とVII層が混じる黒色味の強い土砂が堆積している。壁沿いにVII層を主体とした明るい赤褐色の土砂が堆積しており、掘り上げ土または屋根裾の葺き土が崩落したものと思われる。なお、「三角堆積土」の黒色土は見られなかった。掘り上げ土も平面的には捉えられなかった。

付属遺構 炉跡・柱穴等付随する遺構は、床面を一段下げて精査したが、確認できなかった。

出土遺物 (図IV-20-3 図版 88-3) 床面中央部やや東側から大型の礫を半割し、擦り面が窪む石皿が出土している。石皿の下から磨製石斧を1点発見した。石皿は風化が著しく、復元できないため、遺物実測図・写真は掲載できなかった。3は青色片岩製の磨製石斧で側面観は若干反る。扁平な礫を打ち欠き左右両側縁は入念な研磨を加え、角状を呈している。刃部には斜め方向の「研ぎ出し」状の研磨痕が一部に残るが、裏面には認められない。全周しておらず、刃縁は潰れにより平坦面が形成され、前面・後面へ微細剥離が及んでいる。

時期 床面からの出土遺物が少なく、時期を決定する資料は磨製石斧と石皿のみであるが、住居跡の掘り込みの深さと石皿の形態等から、縄文時代前期後葉と思われる。(宮塚)

VH-05



図IV-18 VH-05平面及び断面図

VH-06 (図IV-19・20-4~8 図版 26・88-4~9)

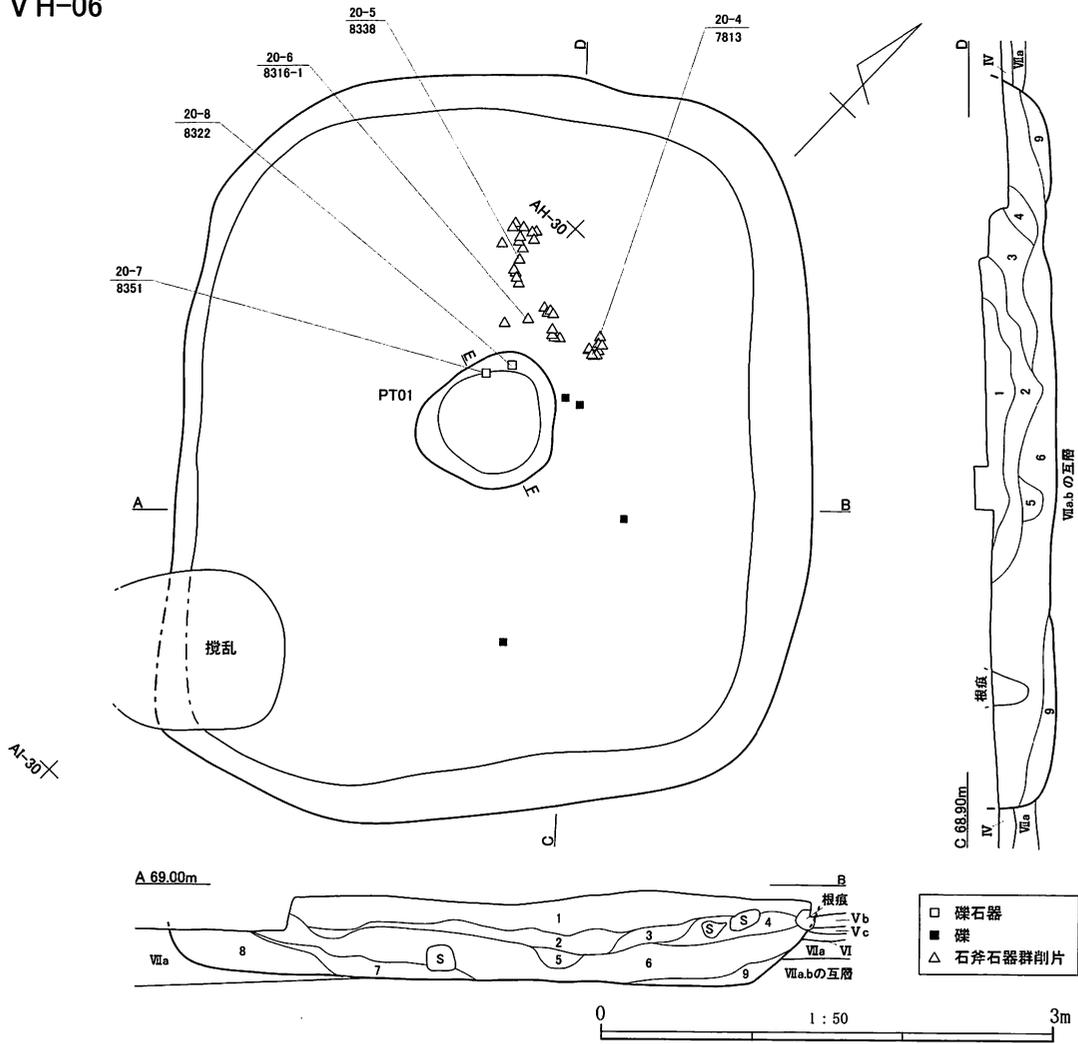
位置：AG・AH-29・30区 規模：490×420cm 検出層位：VI

長軸方向：N-43° W 平面形：隅丸方形 付属遺構：PT01

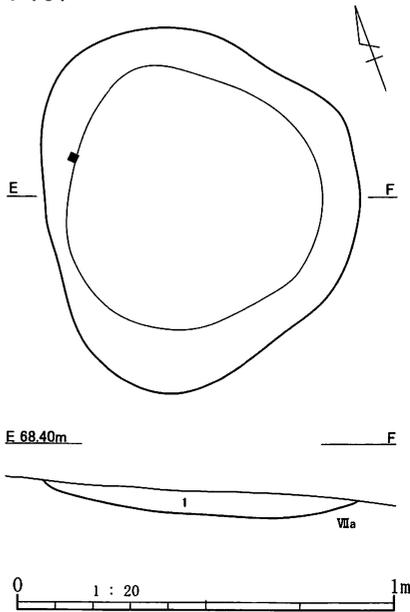
確認・調査 AG-29・30・AH-30区のV層掘り下げ後、VI層上面で黒色のプランを検出した。IV層を除去したV層上面では、住居跡と思われる窪地は確認されなかった。西側は倒木痕による攪乱を受けていたが、十字のベルトを設定しトレンチ調査を行った。トレンチ断面にて壁の立ち上がりの確認に努めたが、南西部の壁は攪乱を受けており、立ち上がりは不明瞭であった。

ベルトを残して全体を掘り進めたところ、若干汚れた締まりのあるVIIa・b層がほぼ水平に検出したので、これを床面として外周に向かって壁面を検出した。その後ベルト断面を図化、撮

VH-06



PT01



VH-06

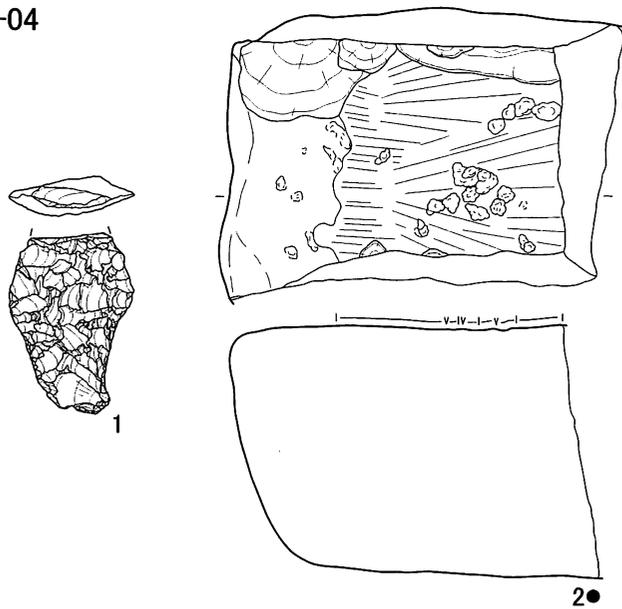
- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. 7.5YR3/3 暗褐色 | Vb=VIIb(均一)≡礫(φ10) |
| 2. 10YR3/1 黒褐色 | Vb=VIIb(均一) |
| 3. 7.5YR4/3 褐色 | Vb=VIIb(均一) |
| 4. 7.5YR5/4 にぶい褐色 | VIIa=Vb(均一) |
| 5. 10YR3/1 黒褐色 | Vb=VIIa(斑状) 屋根土の崩落 |
| 6. 7.5YR4/4 褐色 | VIIa=VIIb(均一) 屋根土の崩落 |
| 7. 7.5YR3/3 暗褐色 | Vb=VIIb(均一) 屋根土の崩落 |
| 8. 10YR4/6 褐色 | VIIa=VIIa(均一)≡Vb(斑状) |
| 9. 10YR4/3 にぶい黄褐色 | Vb=VIIa(均一)三角堆積 |

PT01

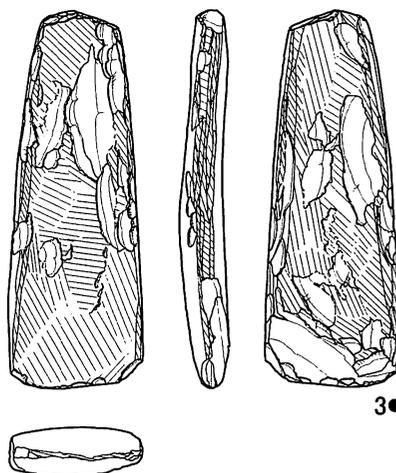
- | | |
|-------------------|--------------------------|
| 1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 | VIIa=Vb(均一)≡炭化物(斑状) 粘性なし |
|-------------------|--------------------------|

図IV-19 VH-06平面及び断面図・付属遺構

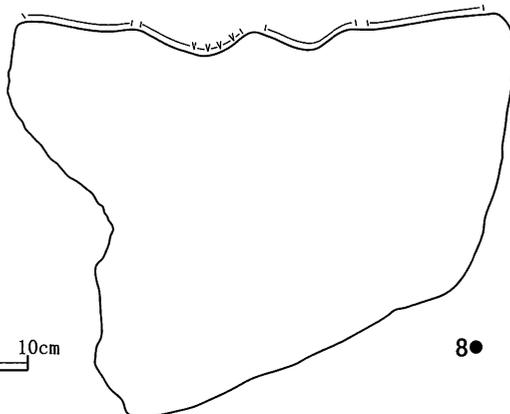
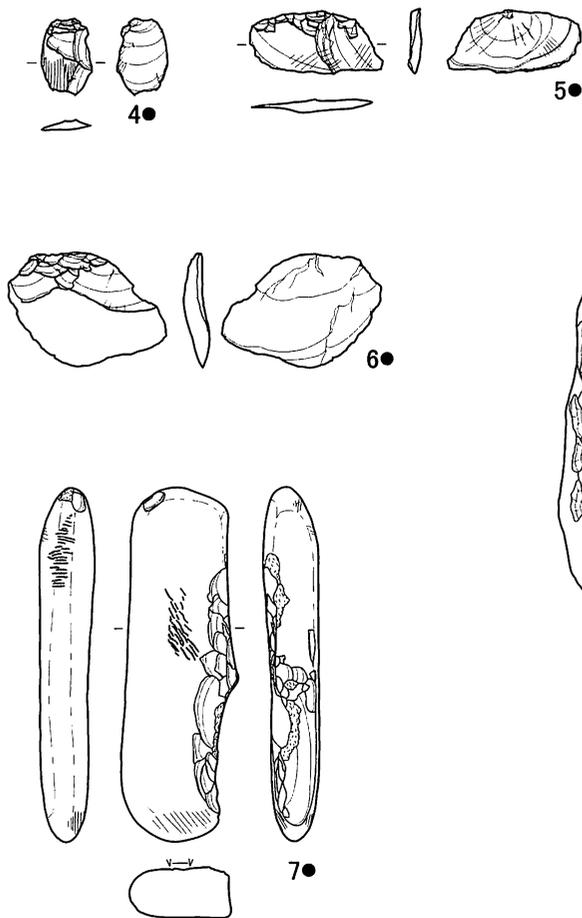
VH-04



VH-05



VH-06



● VH-04 ~ 06 床面出土遺物 2~7: 0 1:3 5 10cm
 1: 0 1:2 5cm 8: 0 1:4 10cm

図IV-20 VH-04 ~ 06 出土遺物

影し、ベルトの取り外しを行った。床面精査時に焼土は検出されなかったが、緑色泥岩製のたたき石及び剥片が出土した。細片であったので、出土状態の微細図は作成していない。次に床面を精査し、付属遺構の検出を行った。夏場の乾燥が著しかったのでホースによる散水を頻繁に行い、精査したが柱穴は検出できなかったが、床面中央から土坑が検出された。土坑覆土には炭化物が含まれており、フローテーションサンプルを採取し、完掘した。住居跡全体の完掘写真を撮影し、平面図を作成し、本遺構の調査を終了した。

形態 平面形は隅丸方形を呈し、南コーナー付近は攪乱の影響を受けている。南西側の壁面はほぼ垂直に近く立ち上がるが、ほか3面の壁面はやや開くように立ち上がり、確認面から床面までの深さは約60cmである。

堆積状態 1・2層はVb層主体にVIIb層が少量混じる暗～黒褐色土で、約10～40cmの厚さで堆積していた。径約10mmのシルト岩をわずかに含み、掘り上げ土の流れ込みと考えられる。3～5層は流れ込みによる堆積。6～8層はVIIa・b層を主体とする屋根土と思われ、竪穴中央部付近まで厚く堆積している。なお6層からはFCが多く出土した。9層はVb層とVIIa・b層からなる壁面崩落層と思われる。

付属遺構 PT01は住居跡中央部に検出し、床面からの深さ7cmほど掘り込まれている皿状の土坑である。1層は炭化物を含む。坑底面に被熱層は認められなかった。

出土遺物 (図IV-20-4～8 図版88-4～9) 4～6は緑色泥岩の剥片である。床面からは同様の石材の剥片が35点出土している。背面に見られる調整の種類と切り合いによって剥片を分類した。剥片同士の接合を試みたが、接合する資料はなかった。4は研磨が剥離面を切るもの。5・6は研磨面が認められない。最も出土点数の多いタイプである。7は緑色泥岩の扁平な棒状礫を素材とするたたき石である。正面中央及び側面上部には短い線状の敲打痕が長軸方向に残されている。この敲打痕はいわゆるストーンリタッチャーと呼ばれる石器がもつ敲打痕に類似する。下端部には擦痕や剥離調整が残されている。8は砂岩製の石皿で、厚みのある大型礫を素材とし、縁辺には剥離調整が施されている。幅が広い溝状の擦り面が3面あり、左端の擦り面は若干浅い。右側2つは縦長で、明瞭な稜を残し、深さ約15～20mmを測る。左端、右端、中央の順で擦り面が新しくなる。周囲には敲打痕が散在する。

時期 床面から出土した土器はなかったが、隅丸方形で明瞭な掘り方をもつ住居形態と床面出土の大型礫を素材とする石皿から縄文時代前期後葉の住居跡と推測される。(松井)

VH-07 (図IV-21～23 図版27 89-1～13)

位置：AL・AM-26～28・AN-27・28区 規模：989×936cm 検出層位：VbL

長軸方向：N-2°E 平面形：隅丸方形 掘り上げ土：1,850×1,530cm

付属遺構：HF0・102・PT01

確認・調査 III層調査中にTa-c層の落ち込みを確認した。Ta-c層除去後、十字のベルトを残し、住居跡中央部から掘削した。当初、VH-02同様、長軸方向が北西～南東にあると考え堆積土壌観察用のベルトをこの方向に設置したが、住居跡の主軸はほぼ南北方向であった。覆土上層から2基の土坑と、余市式土器の破片が散乱して出土した。土器は土坑に付随するものではなく、出土位置を計測し、写真撮影の後に取り上げた。覆土を掘り進め、床面中央部から2

カ所の炉跡を検出した。炉跡の周辺部には硬化面が認められた。硬化面は1層ではなく2～3層確認できたが、炉跡周辺のみで周囲には広がらなかった。東側に攪乱が多く、壁の上部は攪乱され、明瞭には捉えられなかった。北・西・南側は比較的明瞭に壁が捉えられた。

床面は、炉跡周辺は硬化面が見られるが、他は明瞭に床としてとらえる硬化面はなく、VIIa層を掘り込んでいるだけの素掘りの床である。出土した遺物を記録して、写真撮影・実測を行い、柱穴確認のために床面を精査した。柱穴と思われる落ち込みは確認できなかったため、床面をさらに1層掘り下げた。落ち込みは確認できなかったが、2カ所から、「化石痕」と思われる、直径1m前後、深さ2m（1本は底まで達していない）のVI層が充填した柱穴状の落ち込みを確認した。この落ち込みは床面を下げ、柱穴調査の時点で確認できたもので、住居構築以前に存在していたものと思われる。Ta-d層降下に伴う土石流に立木がそのまま埋められ、有機質部分が腐食した後、VI層が堆積したと考えられるが、覆土のVI層は分層不可能で、一気に埋まると推察される。「化石痕」の断面写真撮影・実測をして調査を終了した。

形態 平面形は南北の壁が張り出し、東西の壁はほぼ直線になる隅丸方形で、ほぼ南北に長軸を持つ。南東コーナーから南壁中央にかけてと、南西コーナーから北に向かって1.5mの範囲に幅の狭いテラス状の段差が確認できた。段差が確認できたのはこの2カ所のみである。

堆積状態 壁はVb層上面からVII層まで約40～45cm掘り込まれている。覆土はVb層が厚く堆積し、壁際にはVc・VI・VII層に起因する再堆積土が流入している。覆土中位にVI層を多く含む再堆積土（図IV-21 6層）が壁際では厚く、中央部では薄く堆積していた。住居跡中央部にはV層とVII層の混じったやや黒色味の強い土砂が堆積している。壁沿いにVII層を主体とした明るい赤褐色の土砂が堆積しており掘り上げ土が崩落したものと思われる。

付属遺構 炉跡は2カ所。北西-南東方向に並んでおり、2カ所を結んだ軸はN-65°Wで、住居跡の長軸方向とは大きく異なる。HF01は北西部が開く「コ」の字形で、7個の扁平礫が使われている。炉の内側に向く面は被熱している。炉の内部には炭化材片は出土したが、焼土は検出できなかった。HF02は浅い窪みの炭化材片を含む層の上に、焼骨片を含む層を確認した。礫が置かれていたような痕跡も見え、本来は石組炉であったものと思われる。HF01の方が標高的に10cmほど高く、HF02に使用していた礫をHF01に使用した可能性も考えられるが、住居跡の床面自体が東に向かって傾斜しているため、HF01とHF02の前後関係については確認できなかった。

床面南東部に落ち込みを確認した。黒色土は見られないが明瞭な壁面と底面を確認した。柱穴以外の用途のものであろう。

掘り上げ土 南西部外側を除いて、掘り上げ土が確認された。傾斜の低い東側に多く分布している。VI層を主体とするもの（1層）とV層を主体とするもの（2層）2枚が認められた。厚さは厚い部分で約20cmを測る。

出土遺物（図IV-23 図版 88-1～13） 土器は出土しておらず、床面から出土した遺物はすべて石器である。6・12・13を除いて、全て床面から出土している。1～4はポイント類B。1の尖頭部は図示した裏面からの剥離調整が施されている。茎部は細かな調整が表面・裏面から施されている。2は裏面に素材の大きな剥離面を残し尖頭部・茎部共に裏面から剥離されている。3は茎部のみを残し、右側縁は裏面から、左側面は正面からの錯交剥離痕が残る。4は幅広の

ポイント類B。先端部が欠損した後に再調整が施され丸味を帯びている。5は石斧未成品。側縁に僅かに剥離痕がある。6は緑色泥岩の剥片の右側縁と表裏面の一部に研磨痕が残る。7・8はたたき石で、平坦面と端部に敲打痕が見られる。9・10は石鋸。9は刃部を剥離した後に研磨されている。11は砥石破片。大きく欠損しており全体の形状は不明である。12・13は埋没途中の覆土上面(6層上面)から発見された垂飾で、全体によく磨かれている。中央部に両側から穿孔された孔が見られる。化学分析の結果いずれも松前産の滑石に近い組成を持つことがわかった(第V章 第6節参照)。

時期 床面から出土した土器が皆無で、確実な時期設定は出来ないが、柱穴を持たないことと、床面から出土したポイント類の形態・製作技法等は、縄文時代前期後葉のものと共通点を持つが、石組炉の存在がこれらの時期より遅れることも想起される。(宮塚)

VH-08 (図IV-24・29-1 図版 28 89-14)

位置：AN・A0-24区 規模：(308)×(245)cm 検出層位：VbL

長軸方向：N-14° W 平面形：不明 付属遺構：PT01・02

確認・調査 調査区東側に掘削された試験盛土掘削坑の西側壁面に黒色土の落ち込みとして、調査初期段階より確認されていた。調査はV層精査段階で掘削坑西壁に平行するセクション面と、直交しかつ壁面に現れている落ち込みの中央を通るセクション面を設定した。セクション面記録後、付属遺構及び柱穴の確認調査を行い、完掘写真を撮影し調査を終了した。

形状・規模 北西側の一隅しか残存していないため平面形・規模ともに不明である。

掘り上げ土 住居掘削時のVI層を主体にVII層が混入した暗褐色の層で、層厚は5cm以下と薄い。東側は攪乱により消失しているため不明だが、北西側に大きく広がった平面形をしている。

堆積状態 11～15層は屋根土崩落前に堆積した壁面崩落土と考えられる。5・7～10層はVI層を主体とした、17・18層も主体層は異なるが上面の起伏などから屋根土と考えられる。A層はVb層下位を基底面とする掘り上げ土である。

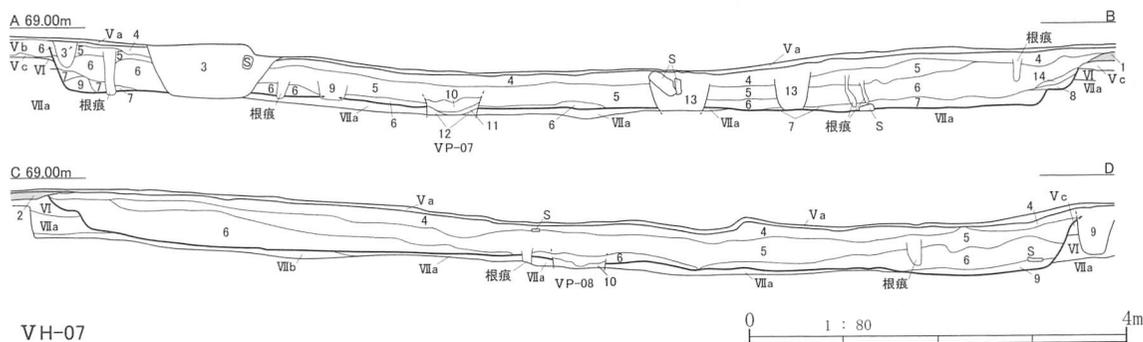
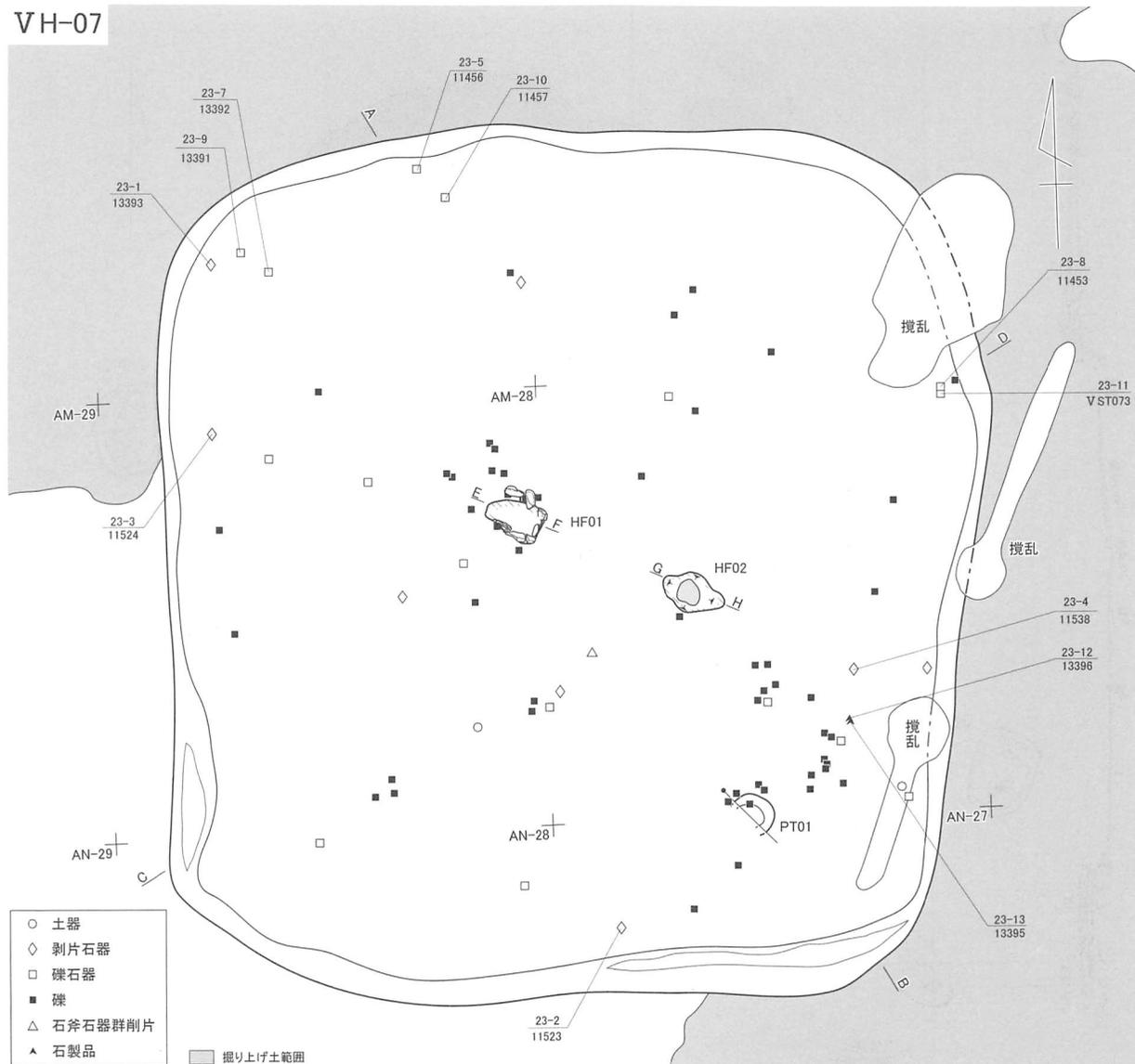
土坑及び柱穴 土坑2基が検出された。PT01は深さ14cmとやや浅い。PT02は東側1/4近くが攪乱のため欠損している。4層中から炭化物及びフレイク・チップが多く出土し、特に底面付近にフレイク・チップ集中が認められた。フローテーションの結果、炭化材8.25g、フレイク・チップ244点を得た。

出土遺物 (図IV-29-1 図版 89-14) 床面出土遺物は5点で、内訳は土器1点、剥片1点、礫3点である。土器はII群B5類の胴部片である。小片のため図示していない。

1は覆土出土のII群B2類土器口縁部片である。AP-21・AS-24区Vb層上位出土土器と接合した。口唇には縄による刻みが施され、外面は口唇直下に縄線文、隆帯上に突引文その下位に多軸絡条体回転文が施文される。内面はミガキ調整が施される。

時期 床面から出土した土器は縄文時代前期後葉の1点である。また、住居跡の形態及び深さから考慮し、周囲の住居跡と同様、縄文時代前期後葉のものと考えられる。(岩橋)

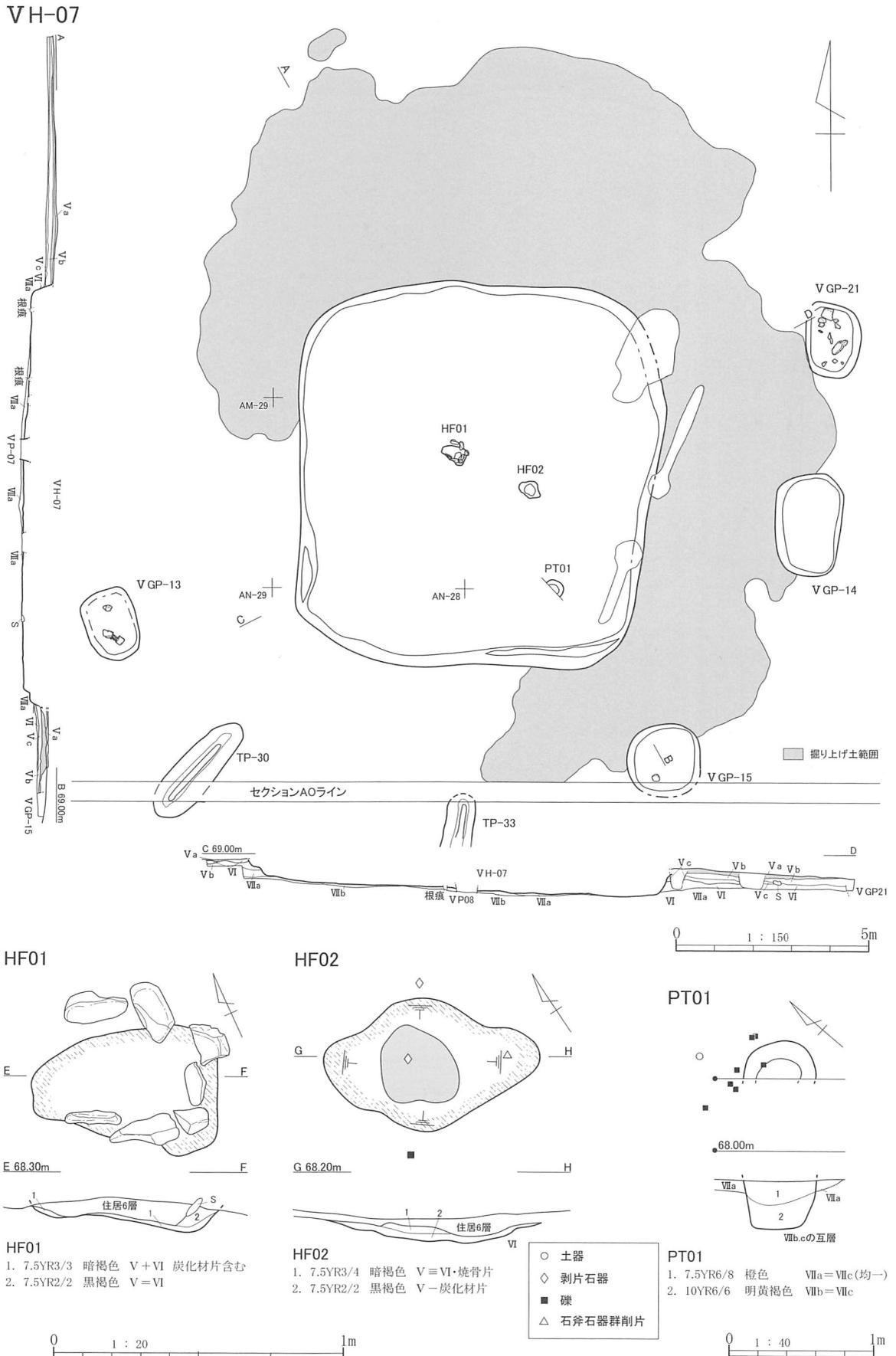
VH-07



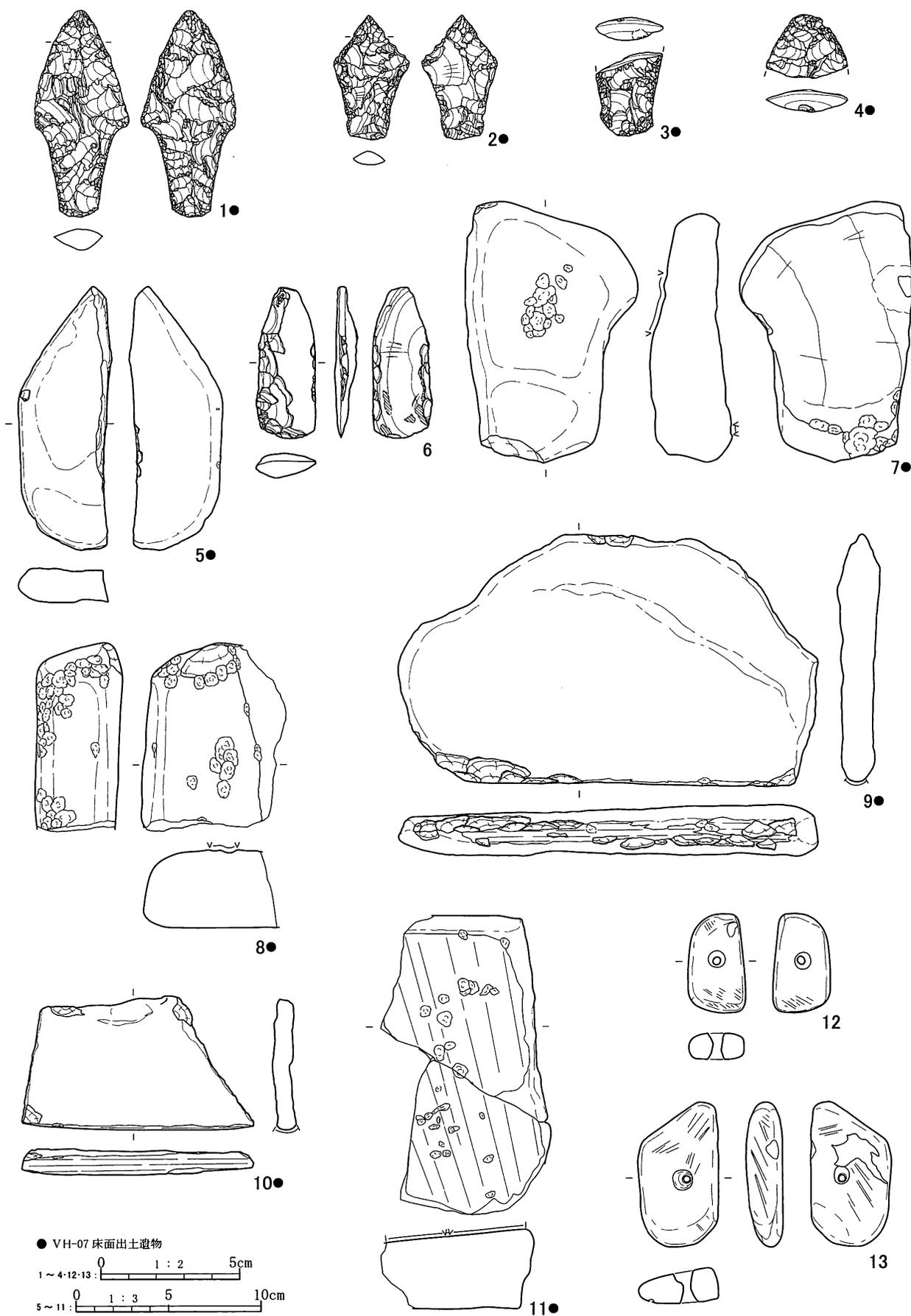
VH-07

- | | | | |
|------------------|---------------|-------------------|------------------|
| 1. 7.5YR4/3 褐色 | VI≡V 掘り上げ土 | 8. 7.5YR3/4 暗褐色 | VI≡V |
| 2. 7.5YR3/2 黒褐色 | V≡VI 掘り上げ土 | 9. 7.5YR2/2 黒褐色 | V≡VI |
| 3. 7.5YR3/3 暗褐色 | V≡VI | 10. 7.5YR2/3 極暗褐色 | V=VI(VP-07・08覆土) |
| 3. 7.5YR3/4 暗褐色 | V=VI | 11. 7.5YR4/3 褐色 | VI=V(VP-07覆土) |
| 4. 7.5YR2/2 黒褐色 | V=VI | 12. 7.5YR2/2 黒褐色 | V≡VI(VP-07覆土) |
| 5. 7.5YR2/2 黒褐色 | V-VI | 13. 7.5YR2/2 黒褐色 | V≡VI |
| 6. 7.5YR4/4 褐色 | VI=V 屋根土の可能性有 | 14. 7.5YR2/3 極暗褐色 | V≡VI |
| 7. 7.5YR2/3 極暗褐色 | V≡VI | | |

図IV-21 VH-07平面及び断面図

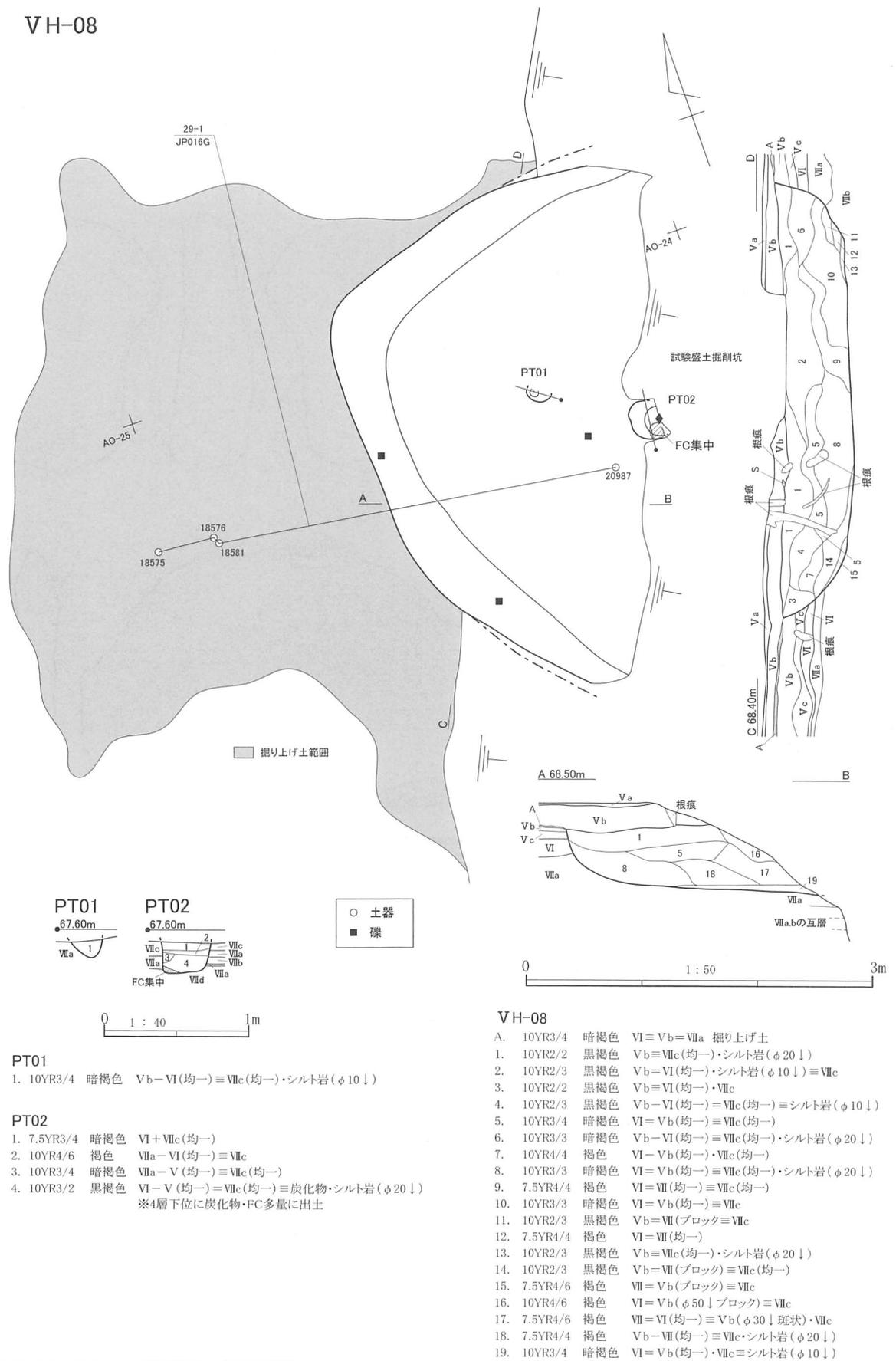


図IV-22 VH-07掘り上げ土及び付属遺構



図IV-23 VH-07出土遺物

VH-08



図IV-24 VH-08平面及び断面図

VH-09 (図IV-25 図版 29)

位置：AQ-23・AR-23・24 区 規模：(412) × (190) cm 検出層位：VbL

長軸方向：N-60° W 平面形：隅丸方形

確認・調査 試験盛土掘削坑壁面に長さ約 450 cm で深さ約 70cm の掘り込みが確認された。

Va 層上面の窪みは確認できなかったが、規模や水平な底面から住居跡と想定した。掘削坑縁辺に平行するものとしてこれに直交するベルトを残し、覆土を掘り下げた。確認面から約 70cm 掘り下げた時点で、中央部に若干汚れた締まりのあるVIIa・b 層を検出した。これを床面とし、外周に向かって壁面の検出を行った後に床面全体の検出作業を行った。床面上からは礫片が数点出土した。遺物取り上げ後、床面を精査し、付属遺構の確認を行ったが、土坑や柱穴は確認されなかった。完掘写真を撮影し、平面図等の作成後、調査を終了した。

形態 西側半分が掘削されているため、平面形は不明であるが、隅丸方形であったと思われる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

堆積状態 1層はVb層が主体となる覆土。2・4層はVb層を主体としVII層を微量に含む。3・5～7層はVII層が主体となりV層を微量に含む。屋根土が崩落したものと思われる。8層は床面とした貼り床層で、住居跡中央部に水平に広がる。この層より下層の地山VIIa・b層は締まりがない。A層は竪穴外のVb層中に検出した覆土3層に類似する掘り上げ土で、VIIa層主体にVb層を微量含む。最大で5cmの厚さがあり、住居跡南東側に広がっているのが確認された。

時期 時期を判断できる遺物は床面から出土していないが、明瞭な掘り方をもつ住居形態から縄文時代前期後葉の住居跡と思われる。(松井)

VH-10 (図IV-26・27・29-2～7 図版 30・31 89-15～20)

位置：AW-28・29・AX・AY-27～29 区 規模：815×725 cm 検出層位：VbL

長軸方向：N-43° W 平面形：楕円形に近い隅丸方形 掘り上げ土：1,350×1,210cm

付属遺構：HF01

確認・調査 III層調査中にTa-c層の落ち込みを確認した。西側一部が進入口にかかり、進入路盛土層とTa-c層を除去した。Ta-c層除去後のコンター図をみて、長軸方向が南北方向にあると考え、堆積土壌観察用のセクションベルトをこの方向に設置したが、住居跡の西側に大きな倒木痕があり、攪乱されていたため、住居跡の主軸とは異なった方向にベルトを設置した。住居跡の主軸は北西-南東を向く。この倒木痕の中から、余市式土器と石器がまとまって出土している。余市式土器は倒木痕の黒色土層中に立った状態で出土しており、倒木が土器片等を抱え込んで転倒したものと思われる。セクションベルトの位置では攪乱は床面に到達していないが、西側部分では大きく壁・床面を壊している。床面から出土した遺物を残して、写真撮影・実測を行った。遺物を取り上げ、調査を終了した。

形態 北西部分を倒木痕によって大きく攪乱されているため全容を捉えることができなかったが、平面形は西側が張り出し、北と南壁がやや膨らむ隅丸方形をなす。中央部に住居跡の長軸方向と軸を同じくする長方形の低い床面があり、この外側は壁際までテラス状に高くなっている。壁は倒木痕部分を除いて明瞭に検出できた。壁の高さは42～47cmを測る。

堆積状態 北西部に倒木痕と住居跡南側に覆土中から掘られた土坑があるために、堆積状況

VH-09



図IV-25 VH-09平面及び断面図

は乱れている。縄文時代前期の住居跡のような屋根土が崩落したと思われる、VII層を多く含んだ堆積層は見られない。

付属遺構 床面はVIIa・b層を掘り込んで作られており、中央部が1段低くなっていた。この低くなった部分は、450×270cmの規模で、深さは10cm弱、長方形をなし、住居跡の長軸方向と一致する。低い部分の四隅(一隅は倒木痕によって攪乱され確認できなかった)と長辺の中央部に柱穴を5本確認した。一段低くなった長方形の床面の三隅と長辺の中央部にある。HP02を除いて、掘り方上端の径は25~45cm、柱痕径は10cm前後で、柱痕の深さは28~68cmとまちまちである。HP02は掘り方が異常に大きく、掘り方上端の径は62cmである。低くなった部分も壁沿いの床面も、貼り床等の痕跡や硬化面は見られなかった。北側に浅い掘り込みが見られ、炉跡と想定して慎重に調査したが、炉跡と考えられるような痕跡は見られなかった。炉跡は住居跡中央部より南に1基確認できた。58×53cmの円形に近い坑底にシルトを敷き詰め、その上を燃焼面として使っていたようである。

掘り上げ土 北西部を除いて検出されたが、層厚は薄く、わずかにVb層にシルト岩やVI・VII層が混じるものであった。

出土遺物 (図IV-29-2~7 図版 89-15~20) 床面から出土した遺物のうち、図示できるものは2の土器片1点のみである。5はポイント類A、尖頭部・茎部共に図示した裏面からの剥離で作出されている。6は同じくポイント類Aであるが、細身である。尖頭部・柄部とも錯交剥離によって作出されている。7は緑色泥岩製の石製品、素材は横長剥片で、石斧を製作途上に得られる横長剥片に似ている。頭部と基部側縁に剥離痕が見られる。(宮塚)

VH-11 (図IV-28・29-8~11 図版 32 90-1~4)

位置：AR-22・23・AS-22~24区 規模：562×(533)cm 検出層位：Vc

長軸方向：N-74°E 平面形：楕円形(推定) 付属遺構：HF01

確認・調査 中央部東側の段丘縁辺部でVb層上位の窪みにVSB-06を検出した。礫取り上げ後、下層のVb層を掘り下げたところ、数点の被熱した大型板状礫の一部を確認したため石組炉を想定し、被熱板状礫を中心に十字のベルトを設定した。トレンチの掘開により被熱礫は長方形に配置する石組炉と判明し、HF01と付番し窪みの範囲を竪穴住居跡に起因するものと考えた。堆積状態からVI層上面を床面として壁面の立ち上がりの検出に努めたが、周囲をVI層上面まで掘り下げてしまい、地山VI層が高くなる西側においてのみ壁面を確認できた。西側の壁際床面で土器の大型破片が出土し、PB01とした。柱穴や土坑などの検出に努めたが、検出には至らず、住居跡の平面形や石組炉の諸記録をとり、遺物を取り上げ完掘とした。

形態・配置 平面形は壁面立ち上がりを確認できた西側の形状や石組炉の長軸から、南西-北東方向を中心軸とする楕円形と推定される。床面は石組炉の周囲は長軸約280cm、深さ約10cmの不整形を呈する掘り込みが構築されていた。

堆積状態 覆土上位はVSB-06調査時に掘り下げているが、掘り込みが浅いため覆土の堆積も薄く、V層を主体とした黒褐色土が5~10cm堆積していた。

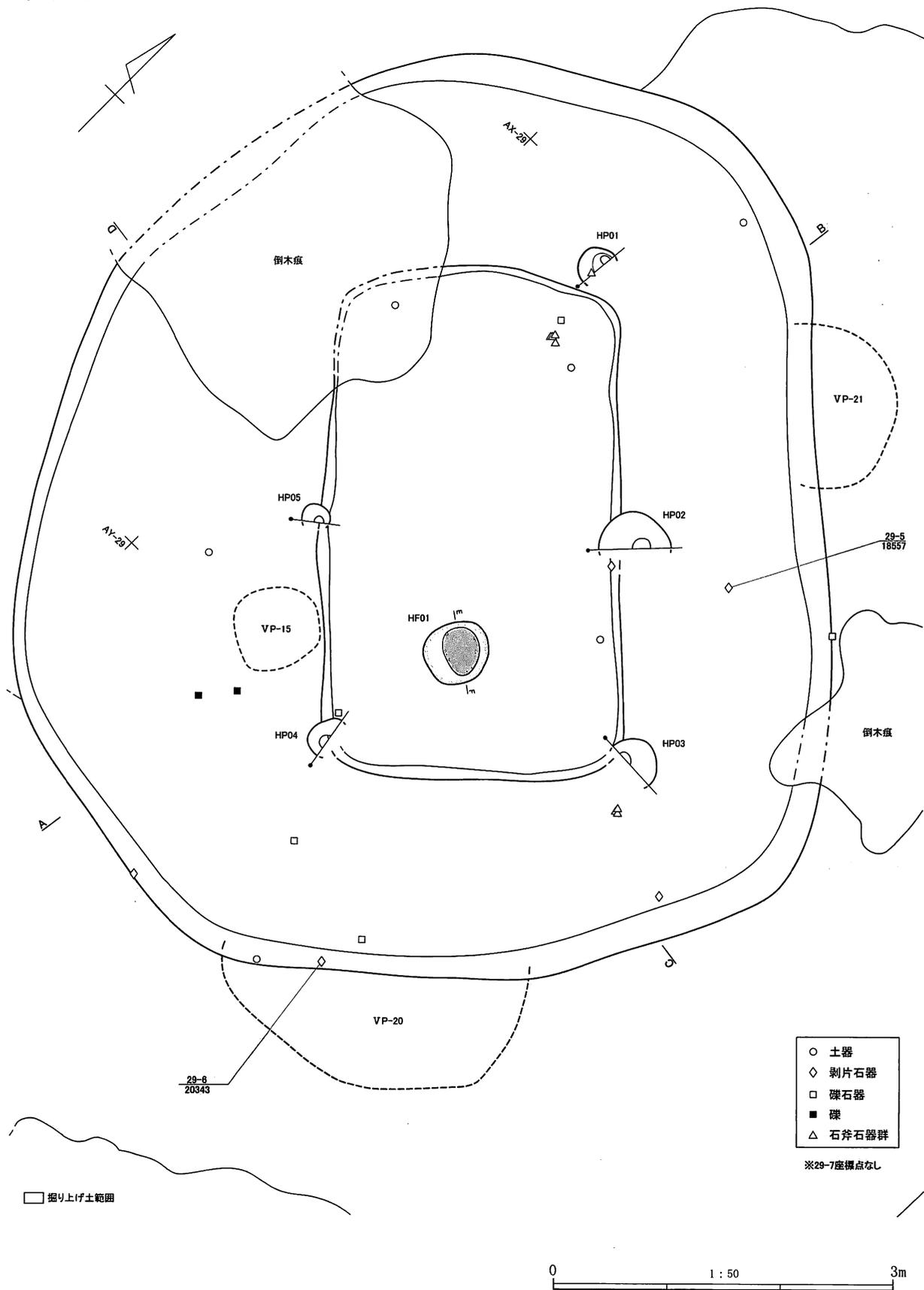
炉跡 HF01とした石組炉1カ所のみである。完形の板状礫7点で構成され、住居跡中央やや南西よりに検出した。炉石は被熱によって赤黒く変色しているが、炉跡内に焼土、炭化物は検出されず、廃絶時には除去されていたものと思われる。

遺物出土状態 (図IV-8-29 図版 90-1~9) 主な遺物は土器3点、石器2点である。PB01とした範囲からは大型の棒状礫と石核が出土している。土器1点は50m離れた地点の遺物と接合している。

出土遺物 (図IV-29-8~11 図版 90-1~4) 8・9はIV群A1類a種の土器で、8は富良野盆地系土器の口縁部から胴部下半にかけての大型破片である。胴部上半よりほぼ直立する深鉢形土器で、口唇部断面形はナデ調整により平滑に仕上げられた隅丸角状を呈する。口唇下約25mmに隆帯が施され、口唇部との間が無文帯となっており、隆帯は部分的に肥厚帯状を呈している。隆帯直下には深い円形刺突文が施され、内面には連続的な瘤が生じている。地文縄文はRL斜行縄文が全面に施されている。9は余市式土器古段階の胴部片で、0段多条LR斜行縄文が施され、内面側は剥落している。10は転礫面の残る石核である。11は石皿である。1面に擦り面と敲打痕が見られる。

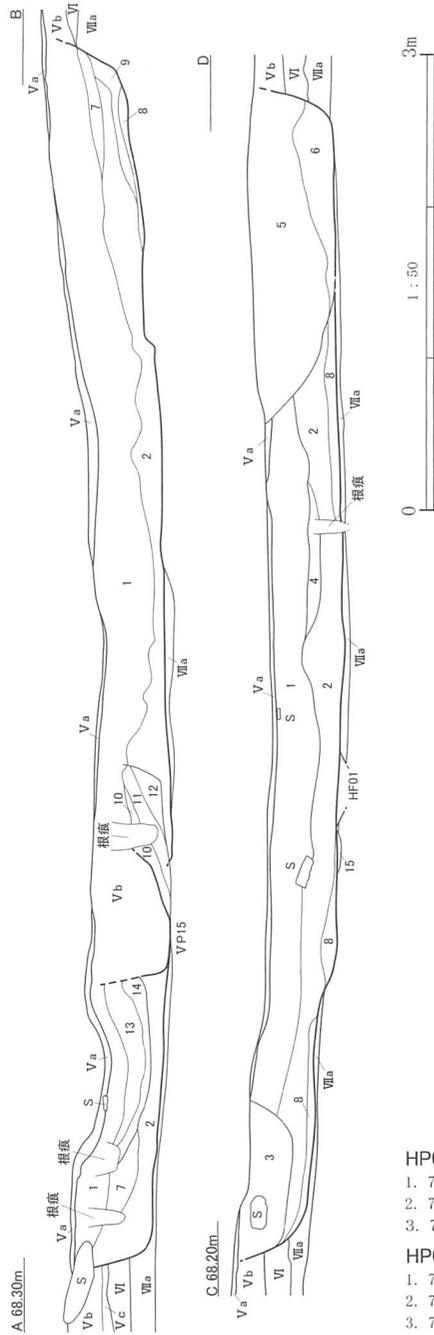
時期 床面よりIV群A1類a種が出土していること、掘り込みが浅く石組炉を伴うことから縄文時代後期初頭と考えられる。(服部・乾)

VH-10



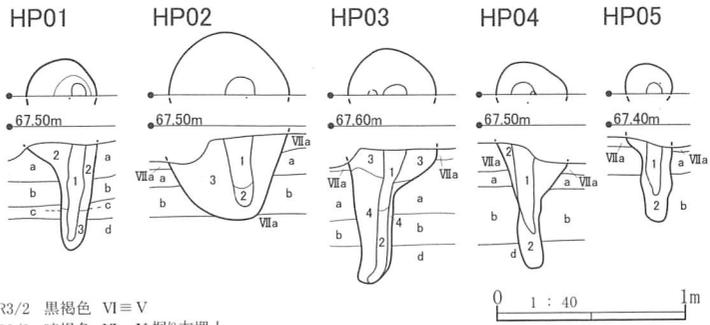
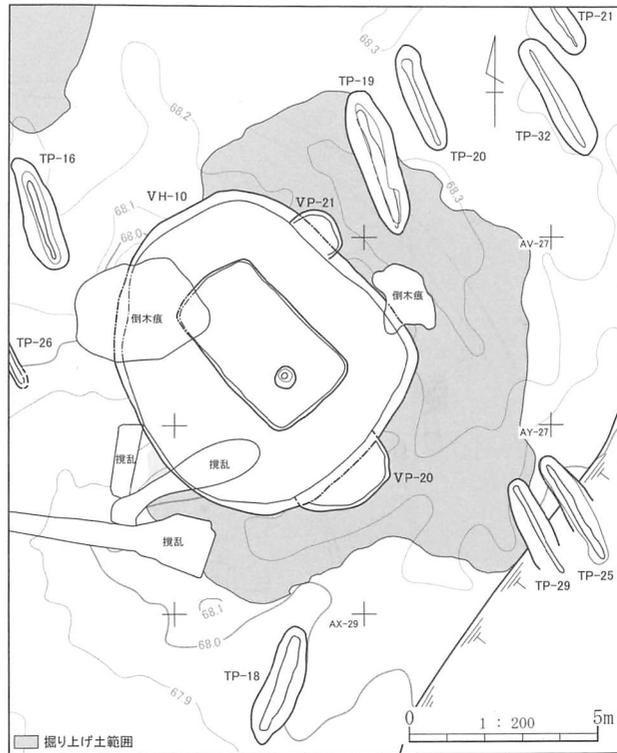
図IV-26 VH-10平面図

VH-10



VH-10

- | | | | |
|-----|------------|------|--------------|
| 1. | 7.5YR2/1 | 黒色 | V ≡ VI |
| 2. | 7.5YR2/3 | 極暗褐色 | V - VI |
| 3. | 7.5YR1.7/1 | 黒色 | V ≡ VI やや粘性強 |
| 4. | 7.5YR2/1 | 黒色 | V ≡ VI |
| 5. | 7.5YR2/1 | 黒色 | V ≡ VI 倒木痕 |
| 6. | 7.5YR2/1 | 黒色 | V - VI 倒木痕 |
| 7. | 7.5YR2/1 | 黒色 | V ≡ VI |
| 8. | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | V - VI |
| 9. | 7.5YR2/1 | 黒色 | V ≡ VI |
| 10. | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | V = VI |
| 11. | 7.5YR4/4 | 褐色 | V - VI |
| 12. | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | V = VI |
| 13. | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | V = VI |
| 14. | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | V = VI |
| 15. | 10YR4/4 | 褐色 | 被熱を受けたシルト層 |



HP01

- 7.5YR3/2 黒褐色 VI ≡ V
- 7.5YR3/3 暗褐色 VI ≡ V 掘り方埋土
- 7.5YR3/4 暗褐色 VI ≡ V 掘り方埋土

HP02

- 7.5YR3/3 暗褐色 V ≡ VI
- 7.5YR4/4 褐色 V - VI
- 7.5YR4/4 褐色 VI ≡ V 掘り方埋土

HP03

- 7.5YR2/1 黒色 V ≡ VI
- 7.5YR2/3 極暗褐色 V = VI
- 7.5YR3/4 暗褐色 VI ≡ V 掘り方埋土
- 7.5YR4/6 褐色 VI ≡ V 掘り方埋土

HP04

- 7.5YR3/2 黒褐色 V ≡ VI
- 7.5YR3/3 暗褐色 VI ≡ V 掘り方埋土

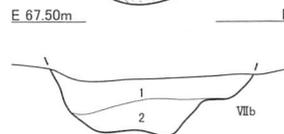
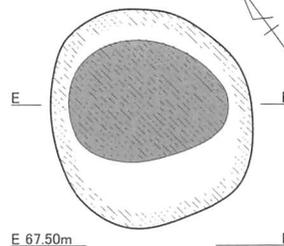
HP05

- 7.5YR2/2 黒褐色 V ≡ VI
- 7.5YR3/4 暗褐色 VI ≡ V 掘り方埋土

HP01~05

- VIIb.cの互層(VIIbが主体)
- VIIb.cの互層(VIIcが主体)
- VIIa(上:赤褐色、下:黄褐色)
- VIIa.bの互層

HF01

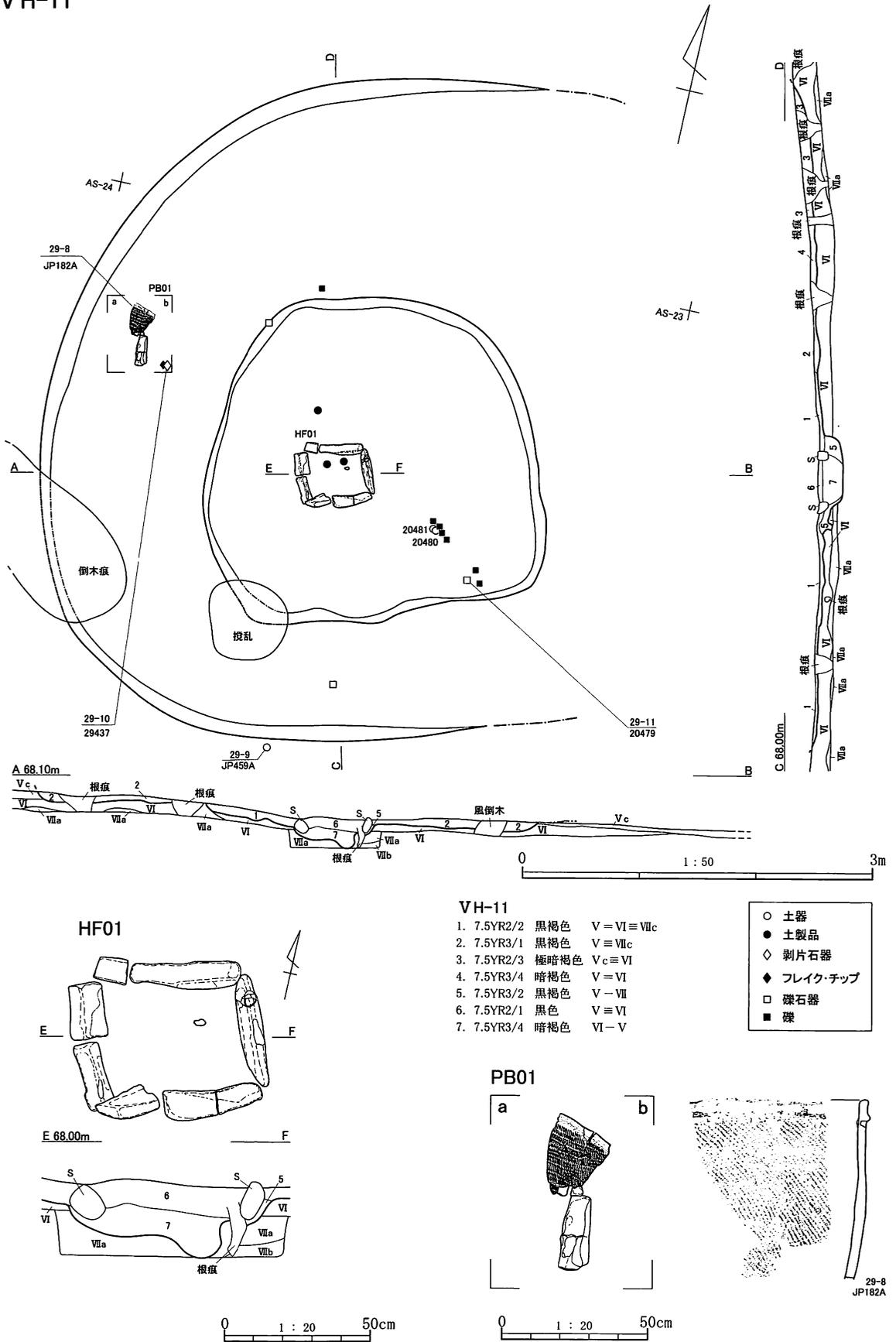


HF01

- 7.5YR2/2 黒褐色 V ≡ 炭化材片・VI
- 7.5YR6/3 にぶい褐色 シルト≡炭化材

図IV-27 VH-10断面図及び付属遺構

VH-11

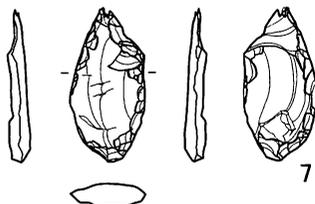
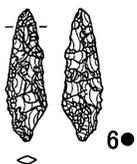
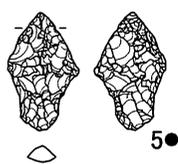
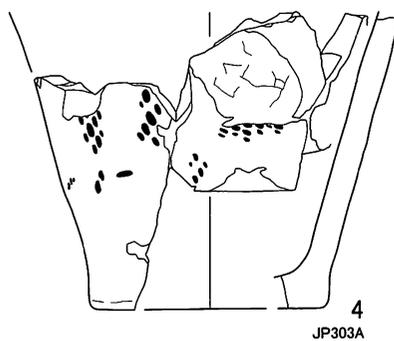


図IV-28 VH-11平面及び断面図・付属遺構・床面出土土器

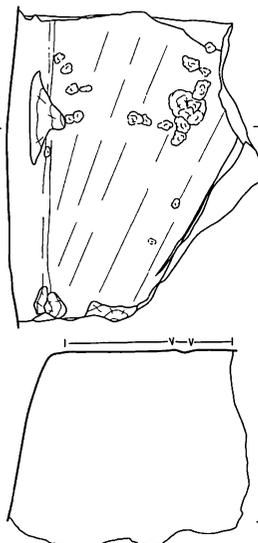
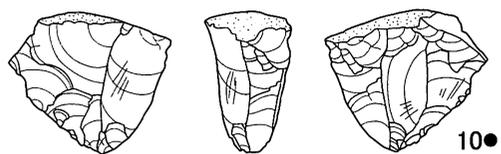
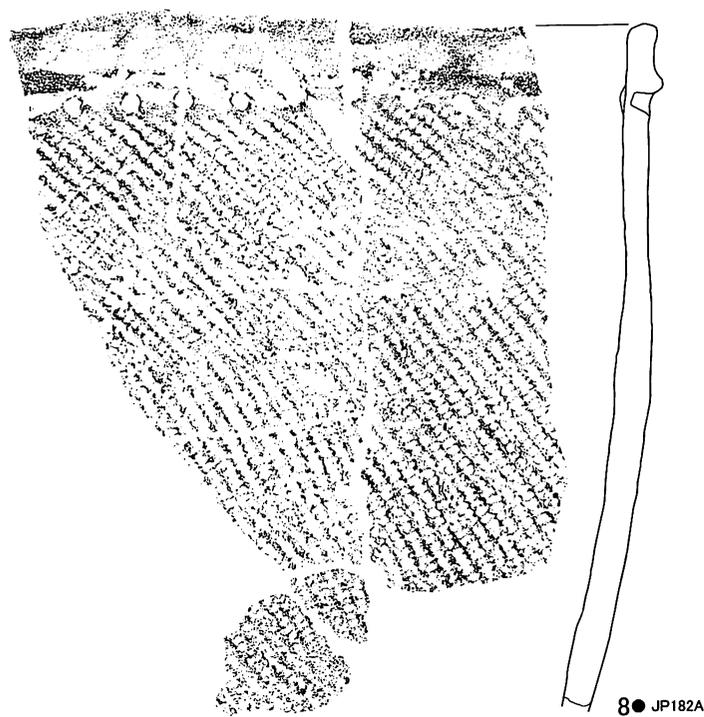
VH-08



VH-10



VH-11



● VH-08・10～11 床面出土遺物

1～4・8・9・11: 0 1: 3 5 10cm

5～7・10: 0 1: 2 5cm

図IV-29 VH-08・10・11 出土遺物

VH-12 (図IV-30・32-1・2 図版 33・90-5・6)

位置：AR・AS-30区 規模：373×(330)cm 検出層位：VI

長軸方向：N-9°W 平面形：隅丸方形 付属遺構：HF01

確認・調査 31ラインメインセクション(AR-31区)に倒木痕と隣接するVb層の落ち込みを確認していたが、V層上面において竪穴住居跡に起因する窪みを伴っていなかったことから判断保留としていた。周囲の包含層調査でVI層上面の検出作業を行ったところ、約350×320cmの黒色土の落ち込みを検出した。この中央付近に被熱した板状礫3点を確認した。落ち込みの平面規模から住居跡の可能性を考え、堆積状態観察のための十字のベルトを設定した。Vb層を掘り下げたところ、東側が開くコの字状の石組炉であることが判明し、Vb層の落ち込み範囲を住居跡と判断し、VH-12とこれに伴うHF01を付番した。ベルトに沿ってトレンチを掘開し、壁面の立ち上がりを精査したところ、南北軸のC-Dラインで立ち上がりと床面を確認した。床面は倒木痕とその影響とみられる落ち込みにより石組炉が傾き、やや深くなっている部分も含め調査した。また、石組炉から北東へ約150cmの位置にVI層上面にて大型の板状礫と共にIV群A1類a種の土器集中を検出しPB01とした。床面に柱穴確認の精査を行ったが、検出には至らなかった。これらの平面形や堆積状態の諸記録をとり、本遺構の完掘とした。なお東側に楕円形の黒色土の落ち込みを検出し、トレンチを掘開した。平面プラン及び黒色土落ち込みの深さよりTピットと判明したため、住居跡調査終了後にTP-40として調査した。なお本住居跡とTP-40との新旧関係は、TP-40の覆土の堆積状態などから本遺構が古いものと思われる。

形態・配置 調査区の中央部付近の微高地に構築されており、同時期と考えられるVH-11より35m西側に位置する。西側部分のプランは不明であるが、トレンチ西側にプランが検出しないことから、立ち上がりはトレンチ内に存在したと考えられ、東側部分と合わせて考慮すると隅丸方形と推定される。長軸方向は石組炉のコの字状に開く形態や長軸方向から東北東-西南西と考えられる。

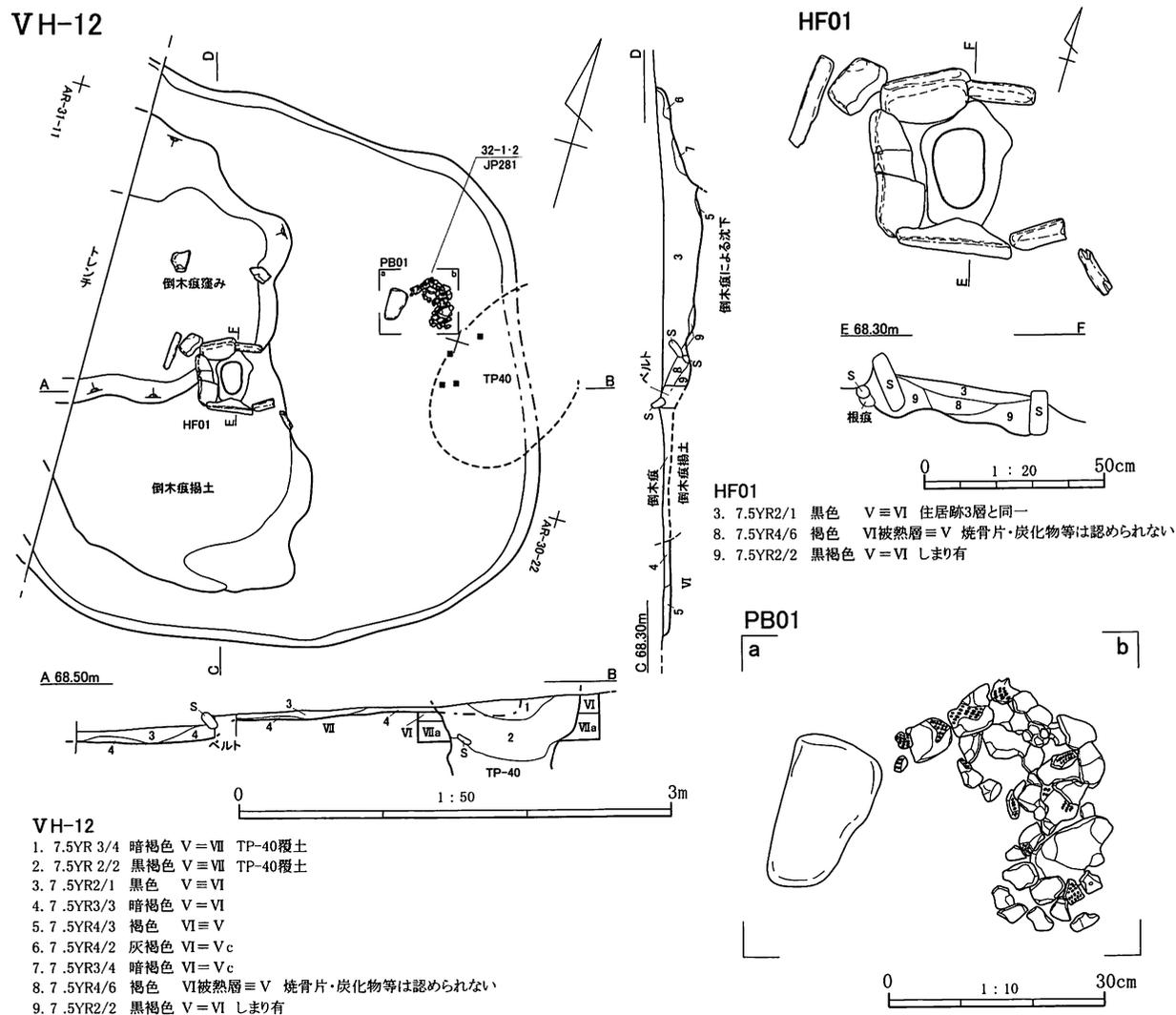
堆積状態 古い倒木痕の上に構築されており、北側の落ち込み部分で1層の黒色土が50cm程度堆積している。また西側には本住居跡より新しいTピット(TP-40:C1型)があり、これら以外、VI層検出面から床面までの深さは約7cmと浅く、V層を主体とする黒色～暗褐色土が堆積している。

炉跡 石組炉HF01は古い倒木痕の上に位置し、北側にはV層黒色土の落ち込みがあり、南側にTa-dパミスの揚土が長楕円形状に検出し、ちょうど落ち込みと揚土の間に位置していた。石組炉の断面では、これらの倒木痕覆土の圧縮作用により変形していた可能性がある。構成礫5点全点が被熱した板状礫で、個々の構成礫の長軸が水平となる位置で据え置かれている。東北東-西南西方向を長軸として東側が開くコの字状に配されていた。炉跡内は地山被熱層のみが検出され、炭化物、焼骨片等は検出されず、廃絶時には除去されていたと思われる。

遺物出土状態 床面に検出したPB01と土器1点、数点の礫である。北西側の壁際で検出したPB01はIV群A1類a種の後期初頭の土器であることからVb層上位が通常出土層位であるが、VI層上位に暗褐色の汚れた土壌を1cm程度挟んで水平に出土していることから、本遺構床面出土と判断した。楕円形C1型のTP-40に隣接しているが、接合状況等から切られている可能性は低い。また、PB01の南西に隣接して18×10cmの板状礫同一層位でも水平に出土している。

出土遺物 (図IV-32-1・2) 同一個体片 1・2 は住居跡床面の PB01 より出土したIV群 A1 類 a 種に分類した口縁部片と胴部上半の破片資料である。口縁部は内傾する隅丸角状の口唇部で縄文が施文されている。口縁部には半截竹管内面を押し当てた沈線文の内部に円形刺突文が伴う幅 27mm の貼付帯が施されている。胴部は撚りの異なる原体を用いた羽状構成の縄文が胴部下半まで多段に施されている。胎土には長軸 5mm 程度の小礫が混じる砂粒を含む。典型的な余市式土器 (IV群 A1 類 a 種やIV群 A2 類) とは異なり、余市式土器の初期段階の資料と思われる。類似資料としては、VPB-13 (図IV-81-21) があり、貼付文や円形刺突文などが施されていないがVPB-10 (図IV-79-13) やVSB-04 (図IV-100-53)、また、富良野盆地系土器の隆起帯や押し引文を施すもの (図IV-4-4・29・8・118-103) もこの時期のものと思われる。

時期 床面出土の土器がIV群 A1 類 a 種であること、方形の石組炉を伴う掘り込みの浅い住居形態であることから縄文時代後期初頭と考えられる。 (服部・乾)



図IV-30 VH-12平面及び断面図・付属遺構・床面出土土器

VH-13 (図IV-31・32-3~15・33 図版 34・35・91)

位置：AG-20・AH・AI-19~21 区 規模：662×595 cm 検出層位：VI

長軸方向：N-41° E 平面形：隅丸方形 掘り上げ土：1,000×920cm

付属遺構：HF01・PT01・02

確認・調査 V層精査中に、掘り上げ土を確認した。掘り上げ土の範囲を実測し、十文字のベルトを設定して掘削を開始した。覆土上面から余市式土器がまとまって出土した。トレンチを掘削し、見分けられる限り土層の色調の相違や遺物の出土状況を検討し、上面から3層に分けて平面的に掘り下げた。遺構の存在は確認できなかったが、2層に分かれて土器が平坦に出土し、何らかの人為的な土地利用が伺えた。炉跡の北東側床面上から、まとまった炭化材片が確認された。炭化材片が出土したため、床面直上で掘削を止め、壁面の検出にかかった。北東部が一部倒木痕で破壊されているが、ほぼ全周明瞭な立ち上がりを確認できた。南西壁から北西壁にかけて、モルタル状の粘土を貼り付けた硬い壁面を検出した。モルタル状の粘土を剥がすと樽前 d1・d2 降下火山灰層が現れ、ボロボロと崩れる状況であった。崩れを防ぐために粘土を貼り付けたものと思われる。

壁は南西壁・南東壁の半ばまではVII層に構築されているが、それ以外の個所は、降下火山灰層(VIII層)を掘り込んで構築されていた。壁の傾斜はなだらかであるが、明瞭に検出できた。

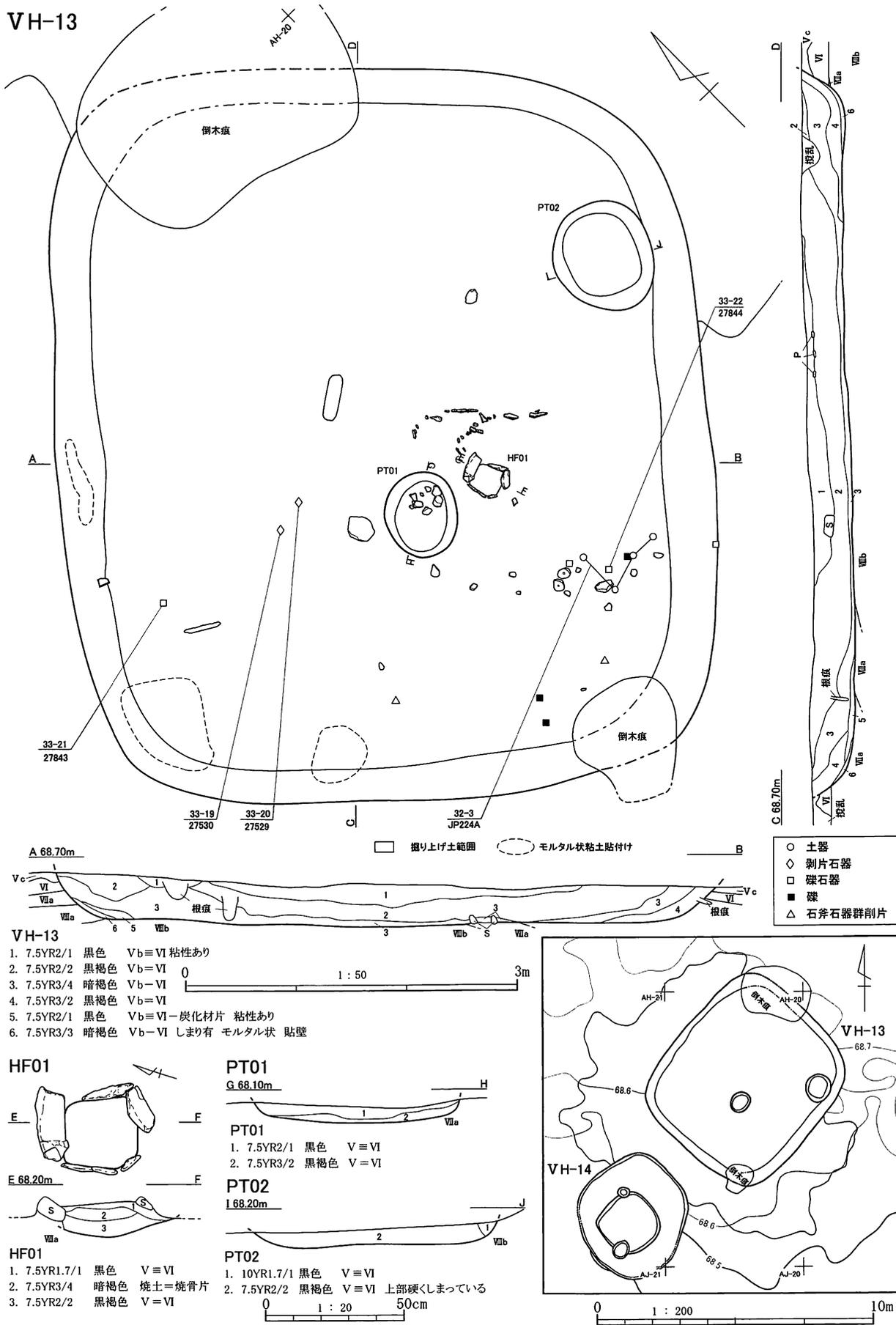
床面を精査し、炉跡と2基の土坑を確認した。炉跡より南側は、VII層を床面としており、北側は、樽前 d1 (VIIIa)・d2 (VIIIb) 層を床面としており、上から見ると、北から赤色、灰色、黄色の縞状となっている。樽前 d 火山灰降下層のVIII層と、再堆積層VII層の境に構築された住居跡であるため、床面はこのような縞模様ができたものと思われる。床面を精査し柱穴を検出しようと試みたが、壁柱穴も含めて確認できず、床面をさらに掘り下げて確認したが、柱穴と思われる落ち込みは検出できなかった。写真撮影・実測して調査を終了した。

形態 北側と南側の一部は倒木痕によって破壊されているが、平面形は各辺が直線的な隅丸方形をなす。

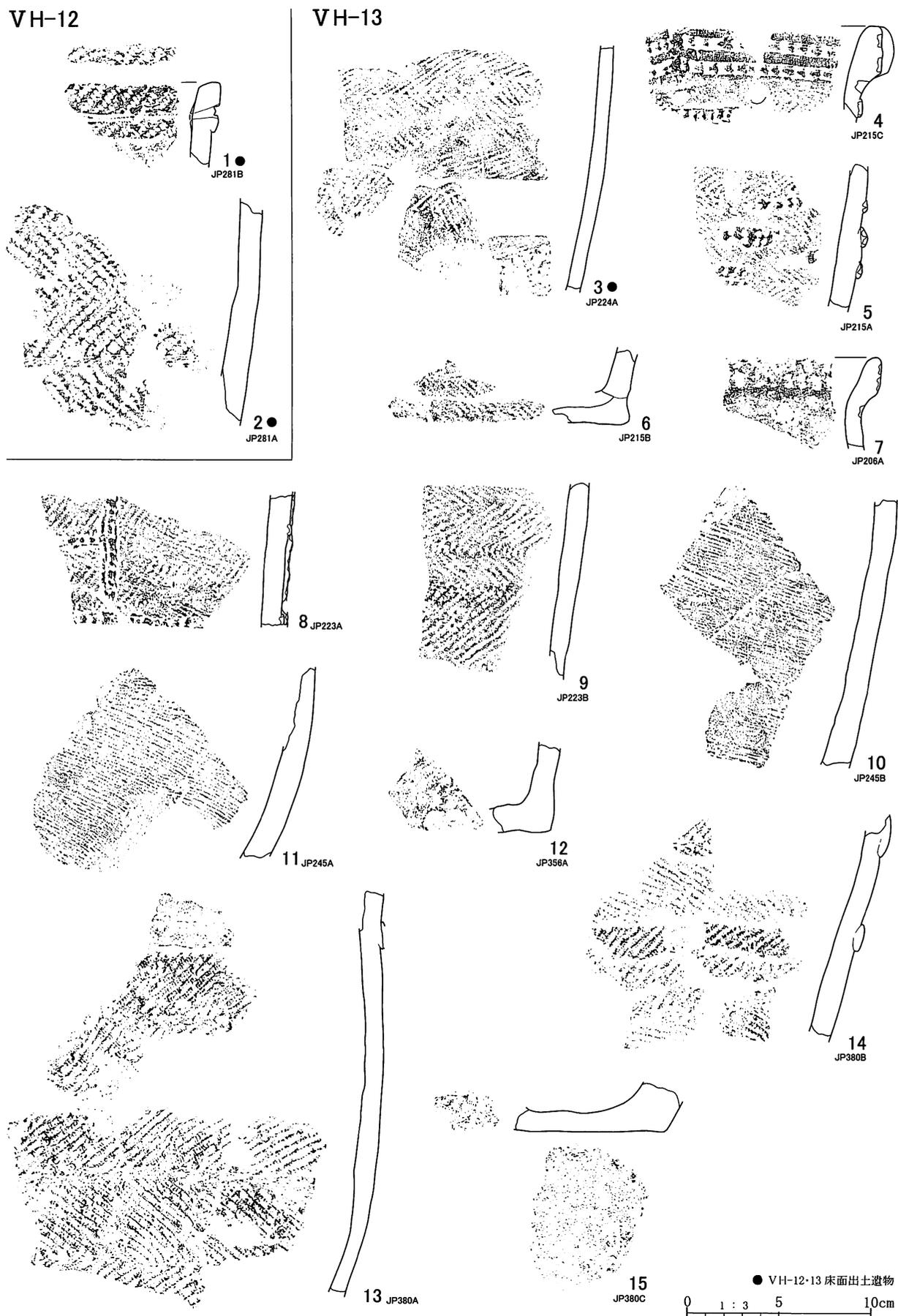
堆積状態 前述したように、南側1/3は再堆積層(VII層)、北側は降下火山灰層(VIII層)を掘り込んで住居跡は構築されているが、堆積状況はほぼ均一で、壁際に黒褐色土が堆積し、その下と床面との間に炭化材片を多く含む黒色土が堆積している。

付属遺構 床面中央からやや南東よりに石組炉を検出した。規模は43×31cm。6枚の扁平礫を用いている。南東部と北西部は大型の礫を用いている。礫の内側は被熱を受けている。平面形はやや丸みを帯びた方形をなす。浅い掘り込みの上に黒褐色土を敷き、燃焼面を構築している。燃焼面を構成する層から焼骨片が発見された。炉跡の長軸方向は住居跡の長軸方向とは一致しない。VH-07と同様な傾向を示す。

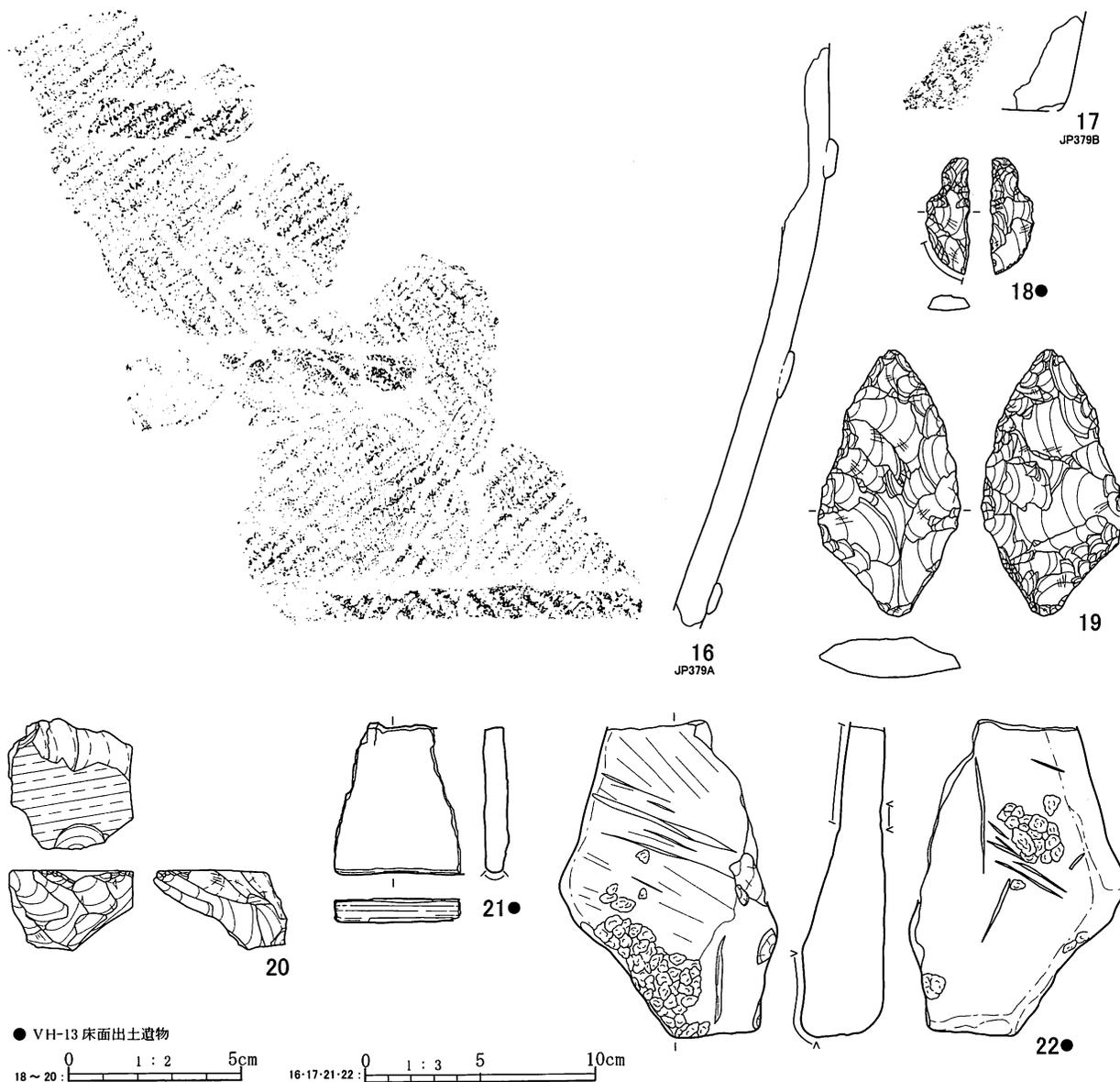
石組炉の北東側から炭化材片が発見された。長いもので30cm、太さ3~4cmを測る。加工痕は認められない。炉跡の西側と、住居跡の北東隅から浅い皿状の土坑(PT01・02)を検出した。いずれも住居跡覆土と同様の黒色土・黒褐色土が充填していた。PT02の覆土は固くしまっており、部分的な貼り床とも考えられる。



図IV-31 VH-13平面及び断面図・付属遺構



図IV-32 VH-12・13出土遺物(1)



図IV-33 VH-13出土遺物(2)

出土遺物 (図IV-32-3~15・33 図版 91) 床面から出土した遺物は、3・18・21・22 である。3 は胴部に結束第 1 種羽状縄文を配し、部分的に羽状縄文によって菱形模様が施される。4 は口縁部に縦長の突起をもち、突引文が 2 段みられる。口縁下に 0I 刺突文が付けられる。5 は結束第 1 種羽状縄文の上に突引文のつけられた短い貼付文を多段に施している。6 は若干張出す屈曲部を持つ底部片、底部端まで斜行縄文が見られる。7 は口縁部が屈曲し、突引文が口縁部に 2 段みられる。8 はいわゆる「梯子」状の貼付文の上に突引文が施されるもので、9 と同一個体。地文は異原体羽状縄文である。10・11 は横走気味の条の細かい撚糸文が施されている胴部片。石器は 18・21・22 のみ床面から出土した。18 はつまみ付ナイフ、刃部は図示した裏面からの剥離によって作出されている。19 は両面調整石器、錯交剥離によって整形されている。21 は石鋸、22 は砥石、線條痕が表裏に見られる。(宮塚)

VH-14 (図IV-34・37-1~3 図版 36・92-1~3)

位置：AI-20・21・AJ-21 区 規模：412×407cm 検出層位：VI

長軸方向：N-47° E 平面形：不整五角形 付属遺構：HF01・PT01・02

確認・調査 VI層精査中に石組炉を検出した。石組炉周辺に黒色土が落ち込んでおりVI層上面を精査して住居跡の平面形を確認した。土層観察用のベルトを設定し、床面と思われる炉石の下端部のレベルまで掘り下げた。炉石の周辺に僅かな硬化面を確認したので、床面として外周に向かって壁の検出に務めた。炉跡を中心に直径約2mの範囲が一段低くなっており、外側の床面と段差がつくことがわかった。さらに外周に向かって床面を精査し、壁の検出に務めた。外側の床面は軟弱で、壁の立ち上がりも明瞭ではない。炉跡・床面の精査をし、写真撮影・実測の後、遺物を取り上げ調査完了とした。

形態 南北に長軸を持つ楕円形に近い不正五角形をなす。炉跡の周辺は一段低くなっており、210×210cm、深さ5cmの規模である。住居跡の壁は不明瞭であるが、この部分の立ち上がりは低い明瞭である。

堆積状態 覆土は薄く、VI層を含むV層主体の覆土が基本であり、北西側からV・VI層主体の流れ込み土が見られるが、一部木の根によって攪乱を受けており判然としない。

付属遺構 中央部やや南寄りに石組炉を検出した。南側は2枚、その他は1枚の扁平な礫を立てて炉石としており、礫の内側は被熱している。炉の内部からは被熱層・焼土・炭化物片は検出されなかった。炉の南と北西から浅い皿状の落ち込み(PT01・02)を検出した。覆土は黒褐色土と褐色土で埋まっている。

出土遺物(図IV-37-1~3 図版 92-1~3) 1~3共に床面から出土した。1は胴部に貼付帯を持つ大型の土器。貼付帯の間は、2段の縄文で埋められ、羽状構成をなす。下段は縄文が重複し格子目状をなす。2は石斧未成品。図示した左側の面は下方からの大きな剥離によって礫表皮を剥離した後、側縁から細かな剥離によって整形されている。下端部には一部敲打痕が見られる。3はたたき石。上方先端部に敲打痕が残されている。

時期 石組炉を伴い、床面から出土した土器から、縄文時代後期初頭の時期に属し、後述するVH-16よりは古く位置づけられると思われる。(宮塚)

VH-15 (図IV-35・37-4・5 図版 37・38-1~5 92-4・5)

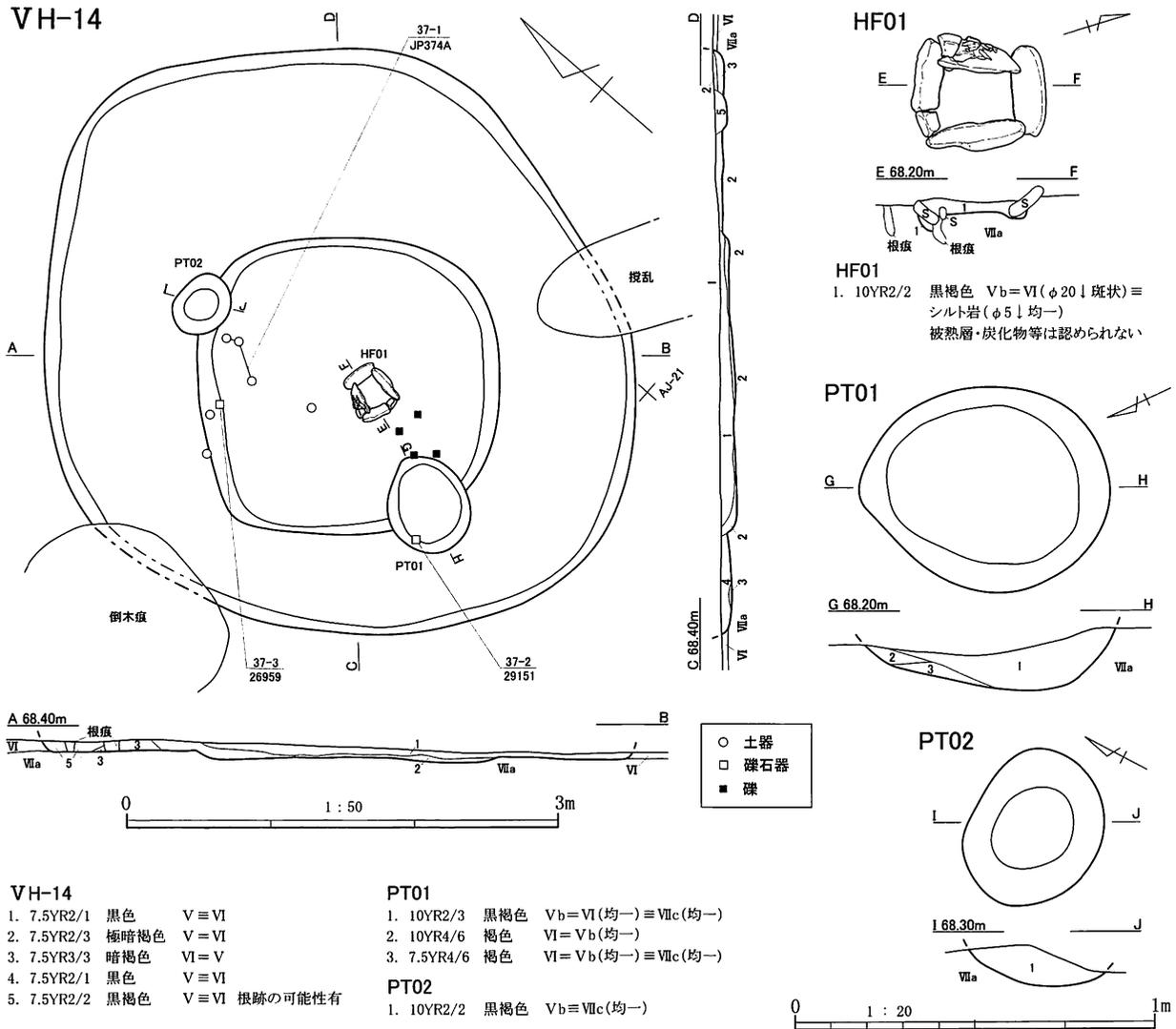
位置：AE・AF-22・23 区 規模：442×399cm 検出層位：VI

長軸方向：N-3° E 平面形：隅丸方形 付属遺構：HF01・PT01・02・03

確認・調査 VI層調査中に倒木痕と思われる落ち込みを検出した。周辺を精査したところ、倒木痕の外側に異なる黒色土の落ち込みを検出した。住居跡と倒木痕との重複を想定し、両方の遺構の前後関係が把握できるように土層観察用のベルトを設定して調査を進めた。

倒木痕が新しく、掘り込みは住居跡の床面まで到達していたが、倒木痕の範囲は住居跡の北半分にあつまっており、下位にある炉跡などの遺構は損壊を免れている。倒木痕を完掘し、写真撮影・実測を行なった後、住居跡の調査にかかった。

住居跡はVH-13同様、樽前d降下火山灰層(VII層)に掘り込まれている。床面は樽前d2層(VIIIb層)中に構築され、壁面は上位の樽前d1(VIIIa層)・VI層を掘り込んでいる。



図IV-34 VH-14平面及び断面図・付属遺構

床面精査中に井桁状に組まれた炭化材を検出した。南北方向に並ぶ炭化材が東西方向に並ぶ炭化材の下にあり、住居の垂木・梁構造を考えると逆の出土状態であるので、炉の上にかけてられた棚状の木組みが燃え落ちたものと考えた。炉跡・他の付属遺構の調査を行い、炭化材の微細図を作成した。写真撮影・実測を行って、遺物を取り上げ調査終了した。

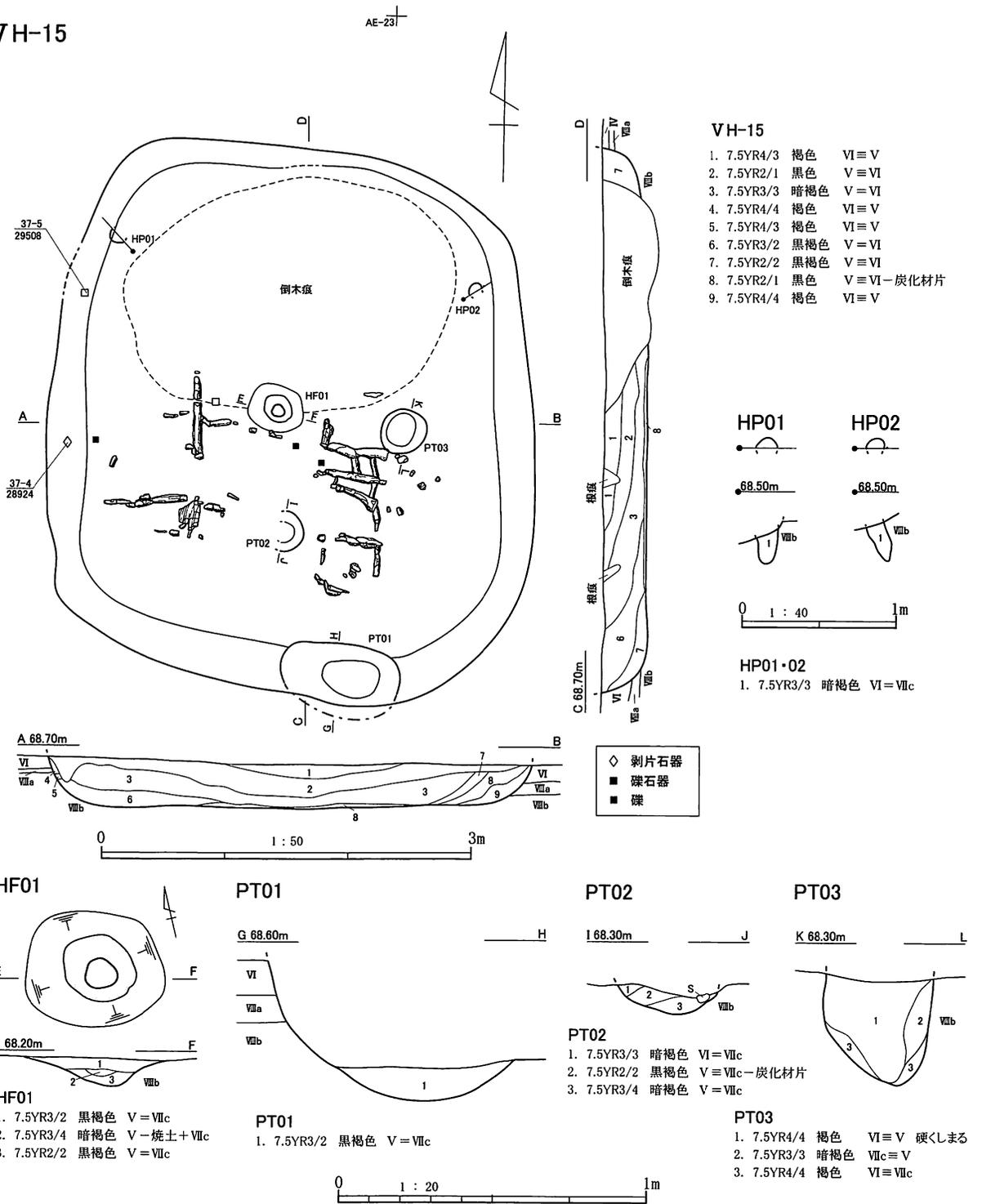
形態 ほぼ南北に主軸方向を持つ隅丸方形をなす。南北辺が東西辺よりやや短い、長方形をなす。壁は明瞭に立ち上がる。

堆積状態 VP-18には、樽前d降下火山灰の再堆積層が確認できたが、住居跡の覆土からは樽前降下火山灰の再堆積層は検出できなかった。住居跡覆土は全てV層・VI層が起因する土砂で埋められている。樽前降下火山灰層を屋根土には載せていなかったと想定される。

付属遺構 住居跡中央部やや北側に炉跡(HF01)北東隅と北西隅に壁注穴状の柱穴(HP01・02)、炉跡の南と東、南壁の東側に土坑(PT01~03)を検出した。

HF01は45×37cm、深さ9cmの掘り込みを持ち、底面にV層とVII層の混在土を敷きその上をシルト質粘土で覆っていた。

VH-15



図IV-35 VH-15平面及び断面図・付属遺構

出土遺物 (図IV-37-4・5 図版 92-4・5) 西側の壁沿いから、つまみ付ナイフ (4) と石鋸 (5) が出土している。5 は床面から出土した。つまみ付ナイフは大型で、表裏面からの細かな剥離で調整されている。頭部の一部を欠くが、頭部は尖っており特異な形態である。

時期 つまみ付ナイフの形態から、後期初頭の時期と考えられるが、VH-13 同様、VH-14・16よりは古い時期に属すると思われる。(宮塚)

VH-16 (図IV-36・37-6~8 図版 38-6~8 92-6~8)

位置：AJ~AL-23~25区 規模：(1,165) × (875) × 43cm 検出層位：VbU

長軸方向：N-5° W 平面形：楕円形(推定) 付属遺構：HF01

確認・調査 セクションベルトにより四分割されたVH-01の南東部1層調査中、礫・礫片が多く出土したので精査を行ったところ、石組炉を検出した。当初はVH-01に係わる遺構と考えたが、トレンチ調査で確認した床面より10cm以上も上位にあることから、別の遺構に係わるものである可能性を考えた。セクション面を精査したところ、屋根土である5層と自然堆積土である1層との層境が不自然に水平であること、壁の立ち上がりと思われるラインが確認されたことなどから、VH-01廃棄後に構築された住居跡であると判断した。この時点で写真撮影を行い、石組炉、他の付属遺構及び柱穴の確認調査を行い調査終了とした。

形態 住居跡であるとの確認時点で、VH-01の他の部分の調査は床面近くまで進んでいたため、規模・形状はセクションベルトの土層堆積状況とV層上面の等高線から推定線で表した。平面形は南南東がやや尖る卵形に近い楕円形と推測される。当該期に渡島半島域から石狩低地帯南部にかけて特徴的な住居形態に近いと思われる。

堆積状態 覆土はVH-01の1層と重なっており、その境は不明瞭で5層に掘り込まれた壁面立ち上がりから推定した。覆土中にフレイク・チップを多く含むが、すでに調査が進んでいた他の部分では認められなかった。この特徴はVH-16でも南東部分のみの特徴と思われる。

炉跡 板状礫で構成された石組炉を1ヵ所検出した。形状は「口」の字状で、板状礫は最大長が水平に配置され、床面を7cm程掘り込んで設置されている。長軸は北西-南東方向であるが、これは住居跡の長軸とは一致せず45°ほど傾いていると思われる。炉内から焼土は検出されなかったが1層下部で炭化物を検出したため、フローテーションサンプルを採取した結果、炭化物3.14gと微量の焼骨片を確認した。炉の下位層に被熱は認められなかった。

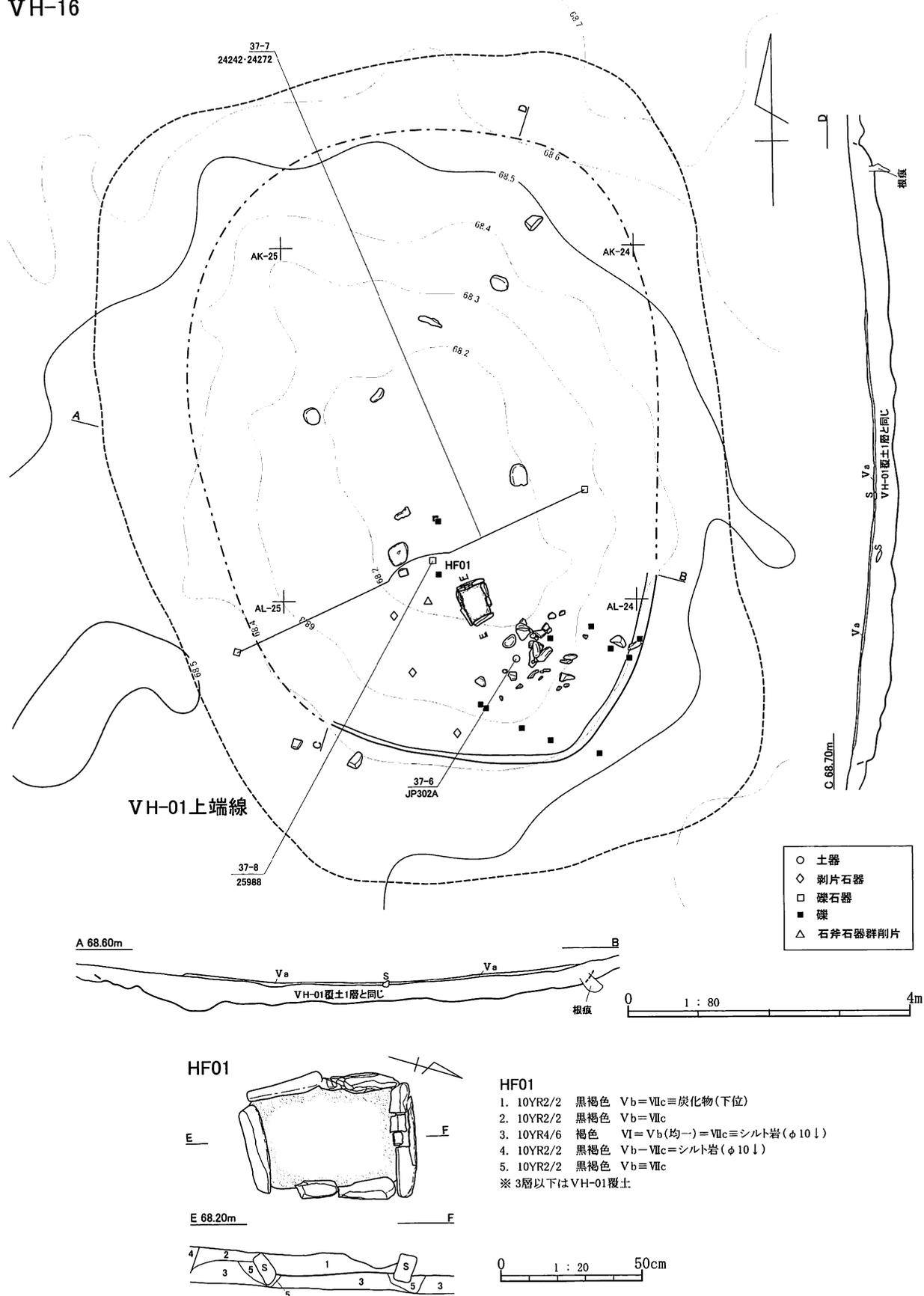
土坑及び柱穴 土坑及び柱穴は確認できなかった。

遺物出土状態 床面出土遺物は礫が多く、他に礫石器や土器も数点出土している。分布傾向は石組炉より南東側に多く分布し、他は散在的である。

出土遺物(図IV-37-6~8 図版 92-6~8) 6は床面出土のIV群B1類土器の口縁部片である。AH-20区VbL層出土土器と接合した。口唇と内面にはRL斜行縄文が、外面には羽状縄文が施され、ともに施文後にナデ調整が行われている。7は石斧未成品、被熱している。側縁からの剥離の後、敲打を加え、一部研磨によって成形されているが、刃部のみ大きく剥離されている。8は石皿、擦り面中央に敲打痕を残している。

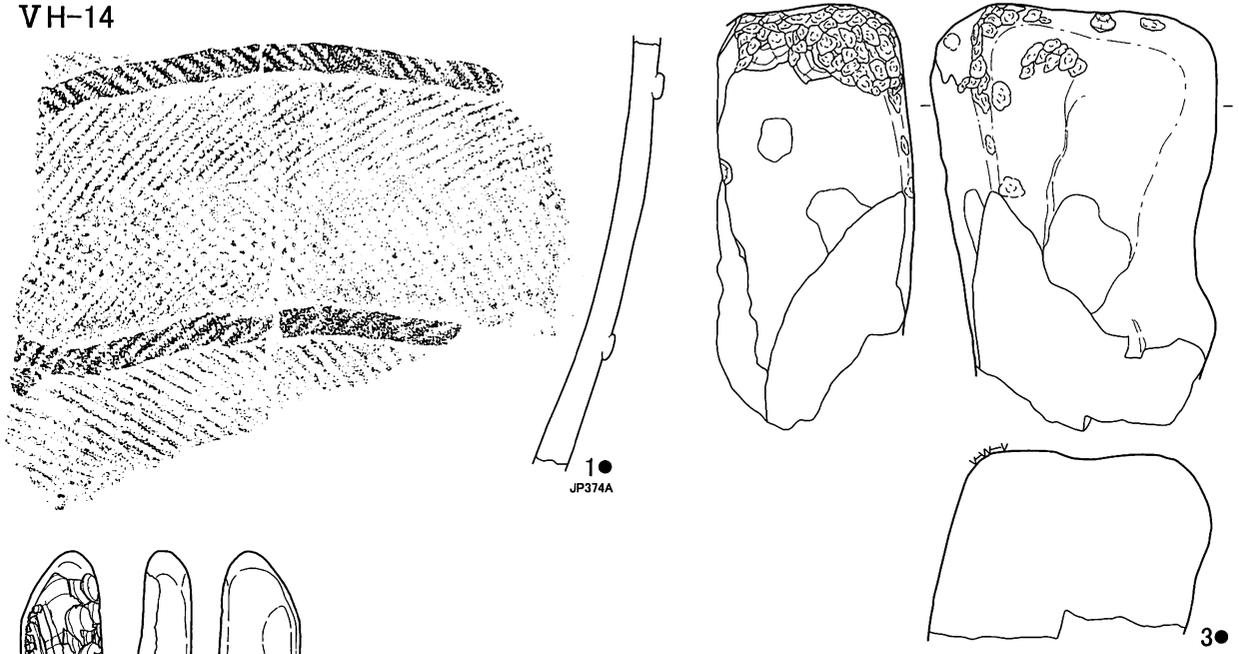
時期 VH-01廃棄後に掘り込まれて構築されていることから縄文時代前期後半より新しい。また、今回調査した中で縄文時代後期の住居跡と考えられるものに共通した要素である、方形の石組炉が存在すること、床面からIV群B2類の土器が1点出土している事などから、縄文時代後期前葉の所産と考えられる。(岩橋)

VH-16

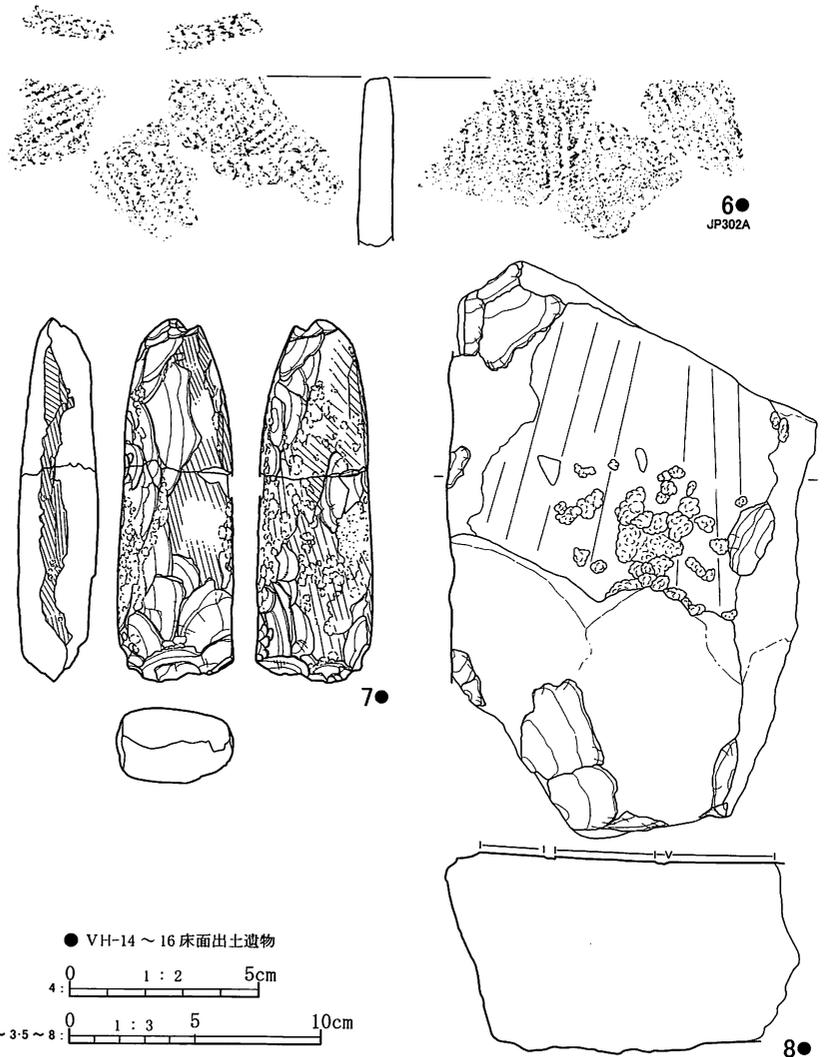


図IV-36 VH-16 平面及び断面図・遺物分布図

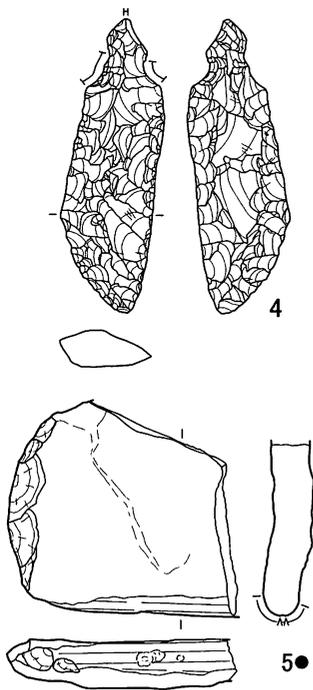
VH-14



VH-16



VH-15



● VH-14 ~ 16 床面出土遺物

0 1 : 2 5cm

4 : 0 1 : 3 5 10cm

図IV-37 VH-14 ~ 16 出土遺物

第2節 土坑墓

本遺跡における土坑墓としたものはいずれも人骨を伴っていないが、坑底面がほぼ水平で、人為的な堆積(埋土)を確認できたものである。調査方法はVc層からVI層で方形から楕円形のプランを確認した後、十字または短軸でベルトを設定し断面で堆積状態の確認を行った。断面の記録後完掘し、平面形とエレベーションを記録した。各遺構については手順の記載を省略し、堆積、遺物出土状態等の所見について記述する。また、今回調査した土坑墓については規模が底面で2.0~2.5m×1.2~1.7mの隅丸、隅丸長方形を呈しているものが主体である。帰属時期は、ほとんどが縄文時代前期後葉と推定される。同様の遺構は、ほぼ同時期のヲチャラセナイ遺跡でも多数調査されている(厚真町2013a・2014b)。

VGP-01(図IV-38 図版39-1・2)

位置:AS-25・26区 検出層位:VI上面 規模:223×135×28cm 平面形:隅丸長方形

VI層上面でV層にTa-dが混入する堆積土のプランを検出した。短軸で半截し、断面観察したところ、V層主体にTa-dが斑状に混入する人為堆積であり、坑底面が平坦で壁面の立ち上がりも比較的直立することから土坑墓とした。遺物は出土していない。

VGP-02(図IV-38 図版39-3・4)

位置:AS-25区 検出層位:VI 規模:182×138×22cm 平面形:隅丸長方形

VGP-01の東側約1m、AS-25区に隅丸長方形の黒色プランを検出した。短軸方向で半截した結果、深さや埋土の状態がほぼVGP-01と同様である。遺物は出土していない。

VGP-03(図IV-38・45-1~3 図版39-5~6・93-1~3)

位置:A0・AP-28区 検出層位:VI 規模:205×(132)×24cm 平面形:隅丸方形

VH-01調査中に北西壁面に検出した黒色土の落ち込みをVGP-03とした。この土坑墓の東側は住居跡と重複しており、検出状態から住居跡より古いと考えられる。調査はVH-01調査完了後、埋土上位に検出していた礫を横断するラインで半截した。断面を観察した結果、壁は比較的垂直に立ち上がる。1層はV層主体の黒褐色土、2層はVc層主体の暗褐色土で、いずれもTa-dを斑状に含み、壁面の崩落が見られないことから埋土であると考えられる。出土遺物については礫石器が3点出土している。1は石斧片再調整品。上下端に敲打痕が見られる。2はII群A2類に分類されるたたき石で、側縁部および端部を使用したものである。3は石皿で、使用面とその周囲に敲打痕がみられ、使用面の敲打痕はやや左下方に位置し刻線状でやや深い。

VGP-04(図IV-38 図版39-7・8)

位置:AT-25・26、AU-25区 検出層位:VI 規模:(252)×112×18cm 平面形:隅丸長方形

VI層でVc層主体のプランを検出した。短軸で半截し、断面観察を行ったところ、壁は比較的垂直に立ち上がる。1層はVc層を主体とする暗褐色土で、坑底面南西側の2層はTa-dを多く含む褐色土である。いずれも壁面の崩落がなく、Ta-dを斑状に含み、埋土と考えられる。立ち上がりは比較的明瞭で、深さは検出面から約18cmである。遺物は出土していない。

VGP-05(図IV-39 図版40-1~3)

位置:A0・AP-29区 検出層位:VI 規模:227×177×47cm 平面形:隅丸長方形

VI層で隅丸方形の黒色プランを検出し、短軸で半截した。壁は南側にテラス状の段を検出した。1・2・4層はVc層を主体とする黒褐色~褐色の土層で、Ta-dを斑状に含むことから埋土と

考えられる。3層は Ta-d のブロックである。5層は北西側の坑底面から壁面にかけての Ta-d1 を主体とするしまりの弱い層である。一方のみ堆積している。遺物は出土していない。

VGP-06 (図IV-39 図版 40-4~6)

位置：A0-30区 検出層位：VI 規模：195×174×21cm 平面形：隅丸方形

黒色プランから土坑墓であると予想されたため、十字のベルトを設定し長軸、短軸の断面図を記録した。深さは21cmで、壁は比較的垂直に立ち上がる。堆積はVc層主体のTa-dを斑状に含む黒褐色土で壁面の崩落も見られないことから埋土であると考えられる。遺物は出土していない。

VGP-07 (図IV-39 図版 40-7~9)

位置：AP-29・30区 検出層位：VI 規模：164×120×15cm 平面形：楕円形

VGP-06と同様、VI層で黒色プランを検出し、十字のベルトを設定した。深さは15cmと浅い。壁は坑底面から緩やかに立ち上がる。1層はVc層主体の極暗褐色土が認められ、Ta-dを斑状に含むことから埋土であると考えられる。2層はやや褐色の強い層が見られる。遺物は小型の礫が2点出土している。

VGP-08 (図IV-39・45-4 図版 40-10・11 93-4)

位置：A0-29区 検出層位：VI 規模：239×169×15cm 平面形：楕円形

VI層で検出した黒色プランは不整形な楕円を呈しており、短軸と推定できる位置で半截した。1層はV層主体の黒色土で、2層にはV層主体の極暗褐色土である。深さは約15cmと浅く、立ち上がりは不明瞭である。遺物はIV群A2類土器の小片が1点、剥片石器が1点出土しており、剥片石器のみ図示した。4はつまみ付ナイフで左にやや傾く中間型である。構築時期は出土したつまみ付ナイフより縄文時代前期後葉の可能性がある。

VGP-09 (図IV-40・46-5・6 図版 41-1~3 93-5・6)

位置：A0-30区 検出層位：VI 規模：206×112×16cm 平面形：隅丸長方形

大型の礫石器とその周囲に黒色土の落ち込みを確認し、十字のベルトを設定し堆積状態を確認した。壁は比較的垂直に立ち上がる。堆積はほぼ均一で1層はVc層主体の極暗褐色土である。Ta-dを斑状に含むため埋土である。出土した礫石器は2点で、埋土上位から北側の壁際に接して出土した。5・6は完形の石皿である。5は板状礫を素材とし、両面に擦り面、擦痕と線状痕が見られる。右側縁に連続する剥離が施されている。6は角柱状の素材礫の一面を使用面とし、周囲には疎らに敲打痕が見られる。

VGP-10 (図IV-40・46-7~9 図版 41-4~6 93-7~9)

位置：AP-26区 検出層位：VI 規模：261×152×41cm 平面形：隅丸長方形

VI層で黒色プランを検出した段階で規模と検出面の土層より土坑墓と判断し、十字のベルトを設定して調査した。立ち上がり部分に褐色土の堆積があり、壁面との判別が難しい為掘りすぎた部分がある。1層はVc層主体の黒褐色土で、Ta-dを斑状に含むことから埋土であると考えられる。遺物は土器5点、礫石器4点が出土した。7は蛇紋岩・滑石を多量に含むII群B5類の土器片で、器表面の極一部を残し、内外面共に剥落している。残存部分は、肥厚帯状の下縁部を読み取ることができる。8・9は完形の小型の砥石で、8は両面、9は両面および右側面の3面が使用され、一部敲打痕がある。時期は出土土器により縄文時代前期と考えられる。

VGP-11 (図IV-40・47-10~12 図版 41-7~9 94-10~12)

位置：AP-30区 検出層位：VI 規模：169×149×44cm 平面形：隅丸方形

VI層で黒色プランを確認したため短軸でベルトを設定し、半截した。壁は比較的垂直に立ち上がる。下位に堆積する6~8層はTa-dを主体とする暗褐色~褐色土で、Ta-d1をブロック状に含む。上位には壁付近に褐色土の4層がブロック状に認められ、1~3層がTa-dを斑状に含む黒褐色~暗褐色土である。遺物は剥片石器1点、礫石器3点、礫が7点出土している。10はB1a②に分類される石槍で茎部は明瞭で基端部が平坦である。11はたたき石の破片資料で、端部に敲打痕が認められる。12は大型で厚味のある板状礫を素材とした石皿。使用面は一面のみで疎らに敲打痕が認められる。

VGP-12 (図IV-40・47-13 図版 42-10・11 94-13)

位置：AR-26・27区 検出層位：VI 規模：(140)×(127)×31cm 平面形：隅丸方形

VI層で黒色プランとその北側に倒木痕を確認した。倒木痕の影響が及ばない地点で短軸の半截を行い、堆積状態の観察を行った。1~4層がVc層主体の黒色~褐色土で、Ta-dを斑状に含む。5層はTa-d主体でVc層をわずかに含む。遺物は礫石器1点、礫1点である。13は折損した石斧未成品で剥離調整のみ施されている。

VGP-13 (図IV-41・47-14 図版 42-1・2 94-14)

位置：AM・AN-29区 検出層位：VI 規模：(187)×(135)×41cm 平面形：隅丸方形

VI層で黒色プランを確認し短軸方向で半截し、断面北側は掘りすぎのため坑底面は推定となる。壁は比較的垂直に立ち上がる。3・4層はTa-dが主体の褐色土で、1・2層がVc層主体の黒褐色~暗褐色土である。各層Ta-dパミスを均一に含む。遺物は礫石器が1点、礫が4点出土している。14は折損した台石で両面に敲打痕が認められる。

VGP-14 (図IV-41 図版 42-3・4)

位置：AM-26区 検出層位：VIIa 規模：267×172×41cm 平面形：隅丸長方形

VI層で黒色プランを確認し、短軸方向で半截した。根跡により坑底面の部分は不明であるが壁は比較的垂直に立ち上がる。2・3層はVc層を主体とする暗褐色土~褐色土で、Ta-dを均一に含む。上層の1層はVb層主体の黒褐色土で、Ta-dをほとんど含まないことから自然堆積であると考えられる。遺物は出土していない。

VGP-15 (図IV-41・48-15~19 図版 42-5~7 94-15~19)

位置：AN・A0-26・27区 検出層位：Vc 規模：185×(182)×41cm 平面形：隅丸方形

東西A0ラインのメインセクションにかかる形で断面を確認しており、トレンチによって構築面がVb層下位であることがわかる。プランを確認したところ、メインセクションラインは中心からずれていたため、北側に再設定し半截した。壁は坑底面から比較的垂直に立ち上がる。1・2層ともにVc層を主体とし、Ta-dを多量に含む。遺物は礫石器が5点、礫が2点出土している。15は折損したたたき石で両面に浅い敲打痕がある。16は砥石で両面に砥面があり、片面には深い線状痕と浅い線状痕が交差している。17は線状痕のある礫である。線状痕とともに浅い擦り面が認められる。18は完形の石皿で、表面のほぼ全面と左側面にも小範囲の擦り面がある。19は石皿で、敲打痕が両面に認められ、裏面には線状痕を伴う擦り面がある。

時期は構築面がVb層下位~Vc層であることから縄文時代前期と考えられる。

VGP-16 (図IV-41 図版 42-8・9)

位置：AM-25区 検出層位：Vc 規模：208×136×31cm 平面形：隅丸長方形

VI層で黒色プランを確認し短軸で半截した。壁は坑底面から比較的垂直に立ち上がる。1・2層はVc層を主体とする黒褐色土～暗褐色土で、Ta-dパミスを均一に含む。3層はTa-dを主体とする褐色土である。遺物は出土していない。

VGP-17 (図IV-42 図版 43-1・2)

位置：AJ・AK-23区 検出層位：VI 規模：147×(123)×50cm 平面形：円形

AJ・AK-23区のVI層で円形に近いプランを検出し、短軸で半截した。壁は底面から緩やかに立ち上がる。1～3層はVc層を主体とする黒褐色から暗褐色土で、Ta-d、シルト岩を含む。4層はTa-dとV層がほぼ同量で均一に混じる褐色土で、硬くしまる。遺物はII群B5類土器が1点、土製品が1点、礫が2点出土しているが、土器は細片のため図示していない。

時期は出土土器により縄文時代前期後葉と思われる。

VGP-19 (図IV-42 図版 43-3・4)

位置：AM・AN-23・24区 検出層位：VI 規模：204×187×31cm 平面形：隅丸方形

AM・AN-23・24区のVI層で隅丸方形の黒色プランを検出した。中央部に堆積観察用のベルトを設定し半截した。壁は坑底面から比較的垂直に立ち上がる。1・3層はVb層が主体のシルト岩を均一に含む黒褐色土で、2層はVb層主体のVIIa層を均一に含む暗褐色土である。4層はVb層主体のVI層をブロック状に含む黒褐色土で、5・6層はVb層を均一に含み、VI層が主体の黄褐色～暗褐色土である。いずれの層も埋土であると考えられる。遺物は出土していない。

VGP-20 (図IV-42 49-20 図版 43-5～7 95-20)

位置：AH-16・17区 検出層位：VIIa 規模：209×(179)×7cm 平面形：円形

AH-16・17区のVI層で円形の黒色プランを検出した。上位掘削のため確認面からの深さは7cmと浅く、南側の立ち上がりは不明瞭である。1層はVc層主体のTa-dを斑状に含む褐色土である。遺物は礫石器が1点で、20は北海道式石冠である。右端部が欠損した後に敲打調整によって再加工の後に使用されている。

時期は北海道式石冠が出土していることから縄文時代前期後葉と思われる。

VGP-21 (図IV-42 49-21～24 50-25 図版 43-8～10 95-21～25)

位置：AL-25・26区 検出層位：VI 規模：190×143×28cm 平面形：楕円形

AL-25・26区のVI層で不整形の黒色プランを検出し短軸で半截した。壁は坑底面から緩やかに立ち上がる。1層はV層主体のTa-dを含む黒色土で、2層はVII層主体の暗褐色土である。遺物は土器が2点、剥片石器2点、礫石器4点、礫24点の計32点が出土している。21は黒曜石製のつまみ付きナイフで左に傾く中間型、調整は片面のみである。22はたたき石で3面にまばらな敲打痕と頂端部に剥離を伴う敲打痕がある。23は頂部が丸いタイプの北海道式石冠で、全面を敲打整形している。擦り面が大きく欠損している。24は角柱状の大型礫を用いた台石で、重量は18,200gを測る。25も台石で、端部と表面に敲打痕が認められる。

時期は北海道式石冠が出土していることから縄文時代前期後葉と思われる。

VGP-22 (図IV-43 図版 44-1～3)

位置：AG-21区 検出層位：VI 規模：227×163×31cm 平面形：長楕円形

AG-21 区のVI層で不整形の黒色プランを検出し、短軸で半截した。壁は南東側が緩やかに立ち上がる。中央に堆積する1層はTa-dを均一に含むV層主体の黒褐色土。2層はVI層を主体とし、Ta-dをブロック状に含むにぶい黄褐色土で、3層はV層主体の暗褐色土、4層はVII層主体のにぶい褐色土である。遺物はII群B3類土器が1点出土しているが、小片のため図示していない。

時期は出土土器により縄文時代前期後葉と思われる。

VGP-23 (図IV-43・50-26 図版 44-4・5 95-26)

位置：AN・A0-30 区 検出層位：VI 規模：228×198×43cm 平面形：隅丸方形

AN・A0-30 区で東西A0ラインのメインセクションにかかる位置に検出した。断面で確認できず、周囲をVI層まで掘り下げた時点で隅丸方形のプランを検出し、遺構番号を付した。半截は短軸を想定し設定したが、結果として方形プランのコーナー部分での記録となった。壁は坑底面から比較的垂直に立ち上がる。4～9層はVc層を主体とする暗褐色土～褐色土で、Ta-dを斑状に含む。1～3層は黒色～暗褐色土でTa-dをほとんど含まないことから自然堆積と考えられる。遺物は礫石器が1点出土しており、26は砥石で、擦り面の縁辺には敲打痕がある。

VGP-24 (図IV-43 図版 44-6・7)

位置：AH-19 区 検出層位：Vc 規模：113×(103)×27cm 平面形：隅丸方形

AH-19 区でVH-13と重複した土坑墓である。住居跡調査段階にはプランを検出できなかった。住居跡との新旧関係は不明である。壁面は緩やかに立ち上がる。1・2層はVc層主体の黒褐色～暗褐色土である。遺物は出土していない。

VGP-25 (図IV-43・50-27 図版 44-8・9 95-27)

位置：AG-18 区 検出層位：VbL 規模：250×183×23cm 平面形：楕円形

AG-18 区のVb層下位で不整形のプランを検出し、短軸で半截した。壁面は傾きが約60度に直線的に開く、坑底面からの壁面立ち上がりは明瞭である。1層はV層主体のTa-dを斑状に含む黒褐色土で、2層がTa-dを均一に含む褐色土である。遺物は礫石器1点、礫1点が出土している。27は小型で不正形な砂岩製の砥石で、3面に擦り面がある。すり石の可能性もある。

VGP-27 (図IV-44 図版 45-1～3)

位置：AI-30 区 検出層位：Vb 規模：222×222×44cm 形状：円形

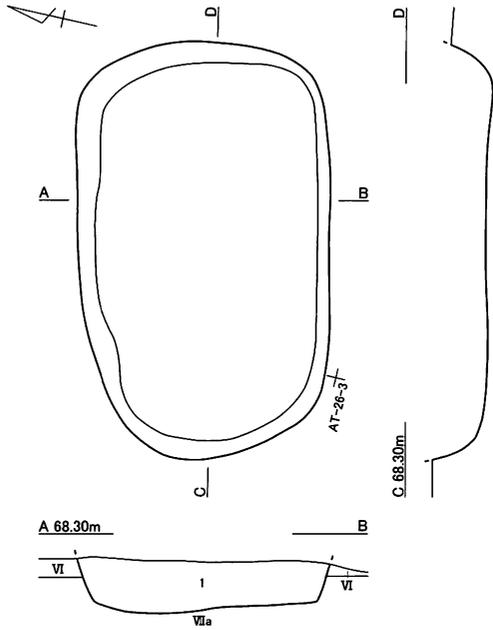
AI-30 区で当初から浅い窪みが認められたため、Va層でベルトを残し周辺を掘り下げた。Vc層で平面形が判明したので半截をした。壁は坑底面から緩やかに立ち上がる。1・2・4層はVc層主体のTa-dを均一に含む暗褐色～褐色土で、3層はTa-dが主体の明褐色土である。構築面はVb層上位と思われる。遺物は礫石器1点、礫3点であるが、図示していない。

VGP-28 (図IV-44 図版 45-4)

位置：AM-30 区 検出層位：VI 規模：209×191×60cm 平面形：楕円形

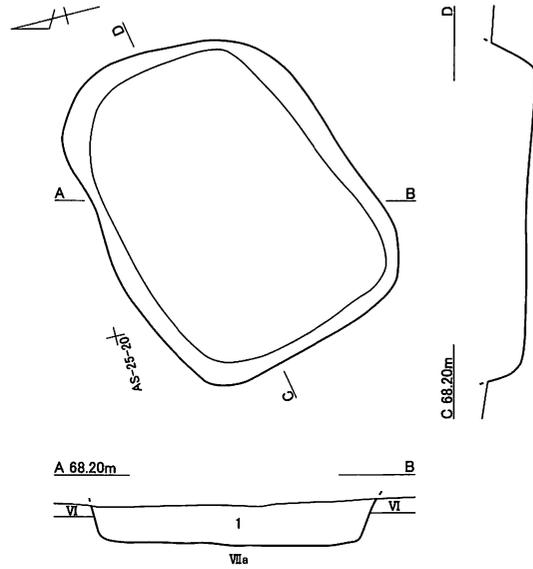
AM-30 区のVI層で楕円形の黒色プランを検出し、短軸で半截した。壁は坑底面から緩やかに立ち上がる。1・2層はV層主体のTa-dを斑状に含む黒褐色土で、7層はV層、Ta-dを均一に含む褐色土で坑底面直上に堆積している。4～6層は壁面からの崩落と思われることから、土坑の可能性もある。その上層に1・2層が堆積している。遺物は出土していない。

V GP-01



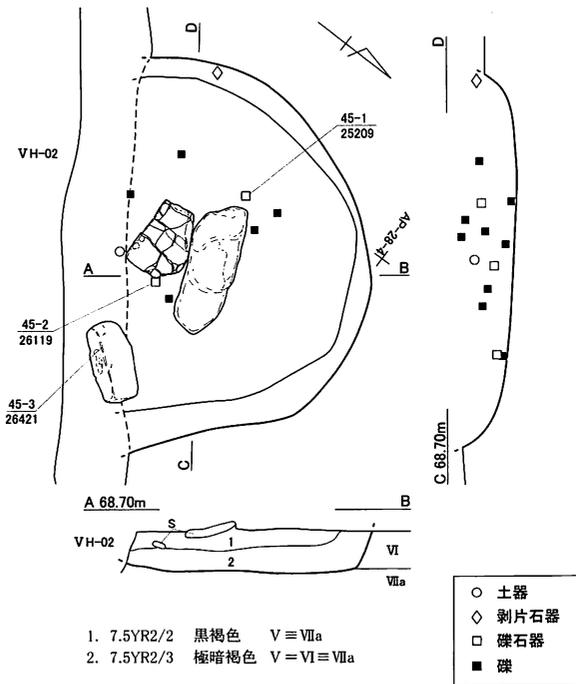
1. 7.5YR2/3 極暗褐色 V-VI=VIIa

V GP-02



1. 7.5YR2/3 極暗褐色 V-VI=VIIa

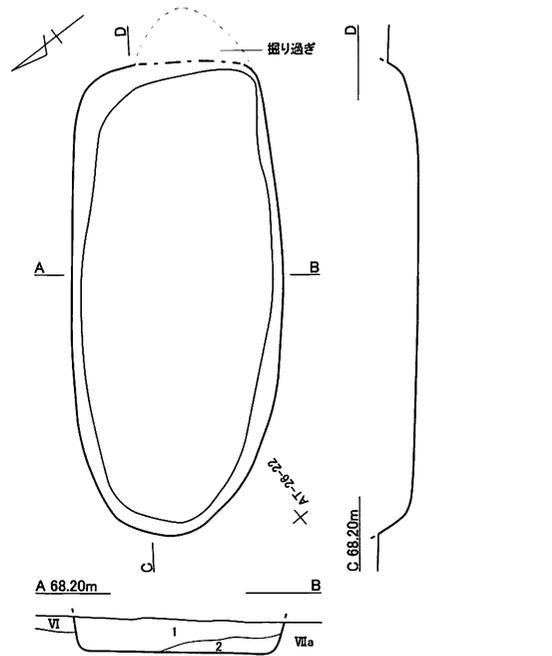
V GP-03



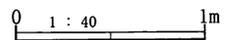
1. 7.5YR2/2 黒褐色 V=VIIa
2. 7.5YR2/3 極暗褐色 V=VI=VIIa

- 土器
- ◇ 剥片石器
- 礫石器
- 礫

V GP-04

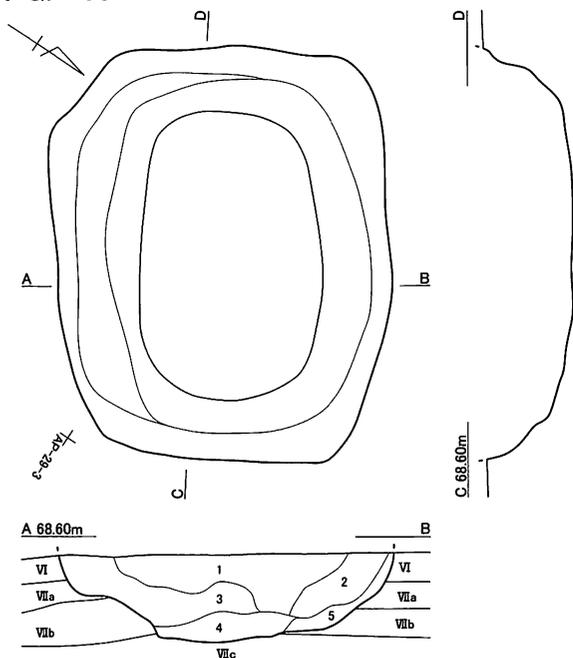


1. 7.5YR2/3 極暗褐色 V=VIIa(均一)
2. 7.5YR5/4 にぶい褐色 V-VIIa(均一)



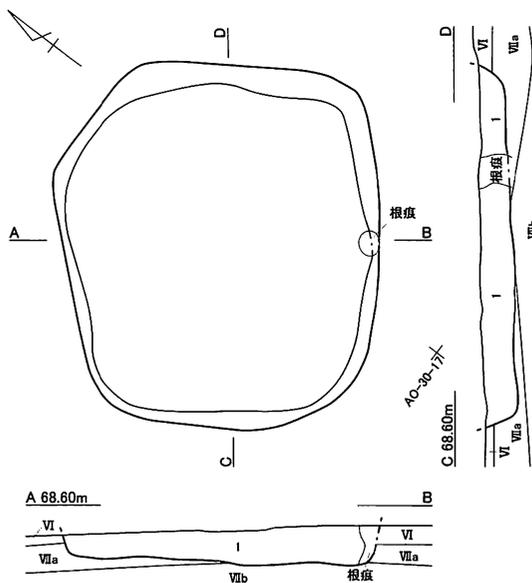
図IV-38 V GP-01 ~ 04 平面及び断面図

V GP-05



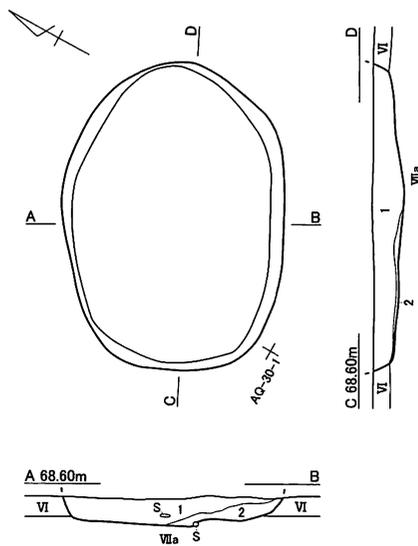
- 1. 7.5YR3/2 黒褐色 V = VI ≡ VIIa
- 2. 7.5YR2/3 極暗褐色 V ≡ VI ≡ VIIa
- 3. 7.5YR4/4 褐色 VIIa ブロック
- 4. 7.5YR2/2 黒褐色 V ≡ VI ≡ VIIc
- 5. 7.5YR4/2 灰褐色 VIIb = VI ≡ V しまり弱

V GP-06



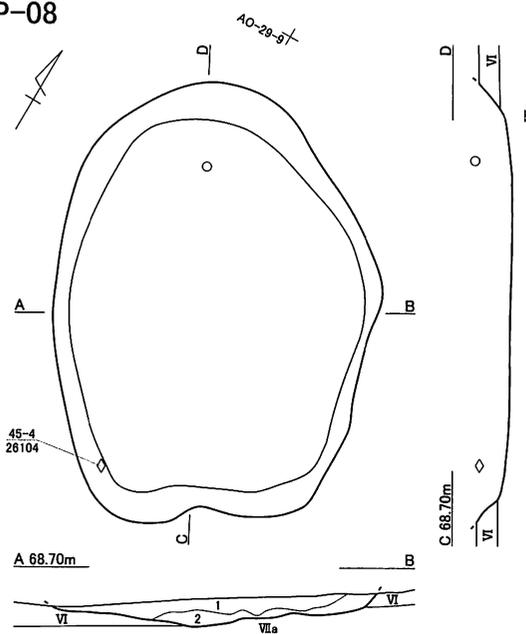
- 1. 7.5YR2/2 黒褐色 V ≡ VI ≡ VIIa

V GP-07



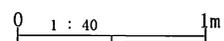
- 1. 7.5YR2/3 極暗褐色 V ≡ VI ≡ VIIa
- 2. 7.5YR3/2 黒褐色 V = VI ≡ VIIa

V GP-08



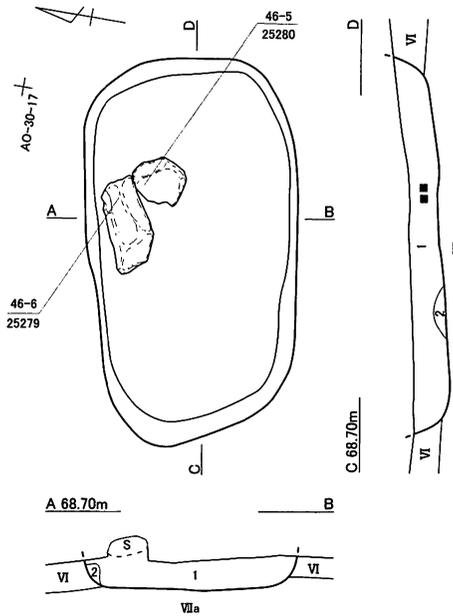
- 1. 7.5YR2/1 黒色 V ≡ VI
- 2. 7.5YR2/3 極暗褐色 V = VI

○ 土器
◇ 剥片石器



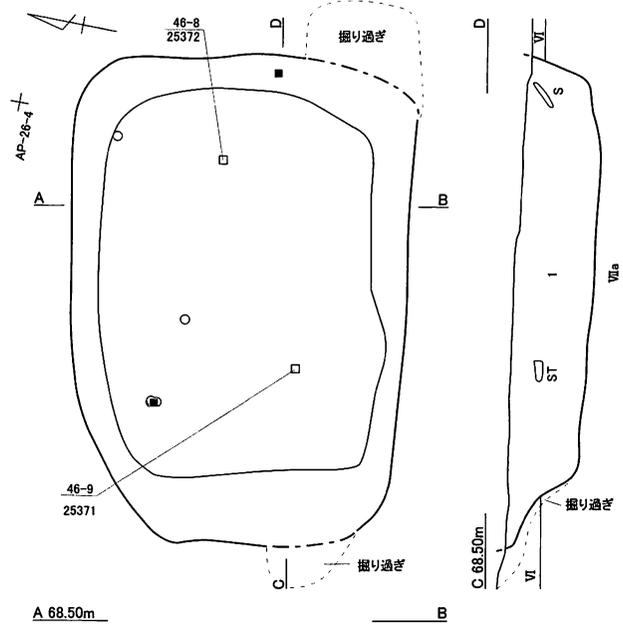
図IV-39 V GP-05 ~ 08 平面及び断面図

VGP-09



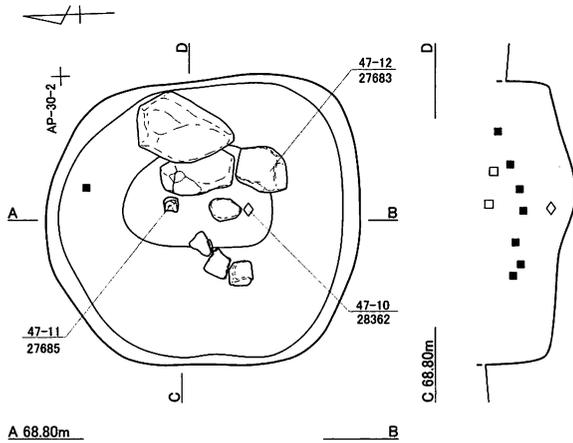
1. 7.5YR2/3 極暗褐色 V≡VI≡VIIa
2. 7.5YR5/4 にぶい褐色 VIIa=VI

VGP-10



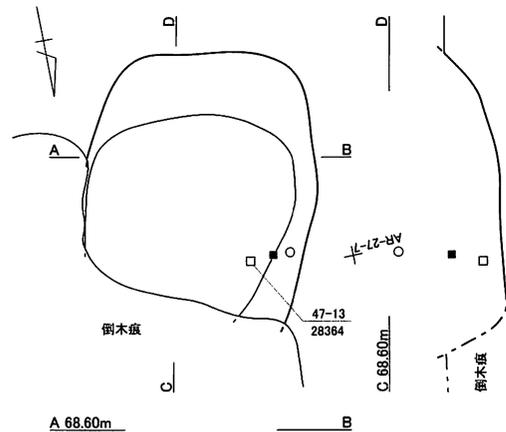
1. 7.5YR3/2 黒褐色 V-VI≡VIIa
2. 7.5YR4/4 褐色 VI=V(ブロック状)≡VIIa

VGP-11

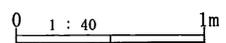
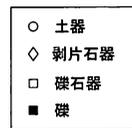


1. 7.5YR4/3 褐色 V-VI≡VIIa しまり強
2. 7.5YR3/2 黒褐色 V≡VI≡VIIa しまり強
3. 7.5YR3/4 暗褐色 VI≡V≡VIIa
4. 7.5YR4/4 褐色 VI≡V≡VIIa
5. 7.5YR2/2 黒褐色 V≡VIIa
6. 7.5YR4/6 褐色 VIIa(ブロック)
7. 7.5YR2/3 極暗褐色 VIIb=V≡VIIa しまりやや強
8. 7.5YR4/2 灰褐色 VIIb≡VIIa

VGP-12

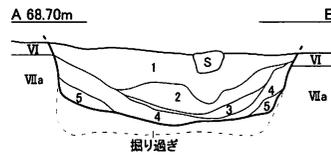
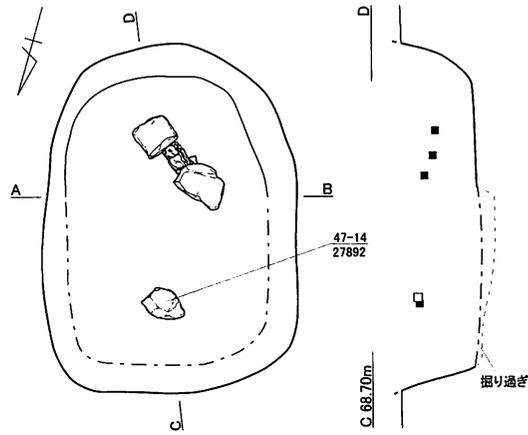


1. 7.5YR2/1 黒色 V≡VIIa
2. 7.5YR3/2 黒褐色 V=VI≡VIIa (φ30↓)
3. 7.5YR4/3 褐色 V=VIIa
4. 7.5YR2/2 黒褐色 V≡VI
5. 5YR4/4 にぶい赤褐色 VIIa≡V



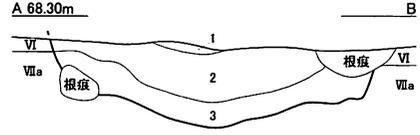
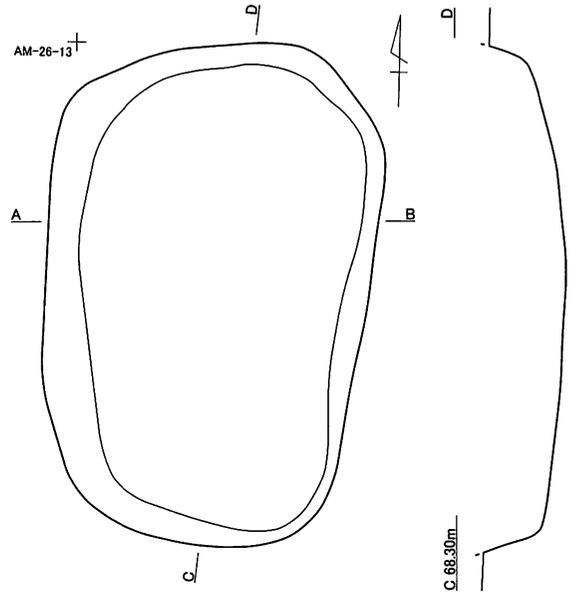
図IV-40 VGP-09 ~ 12 平面及び断面図

VGP-13



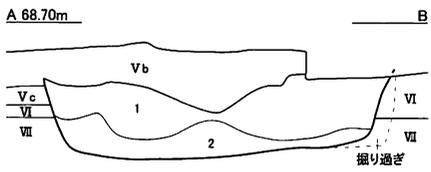
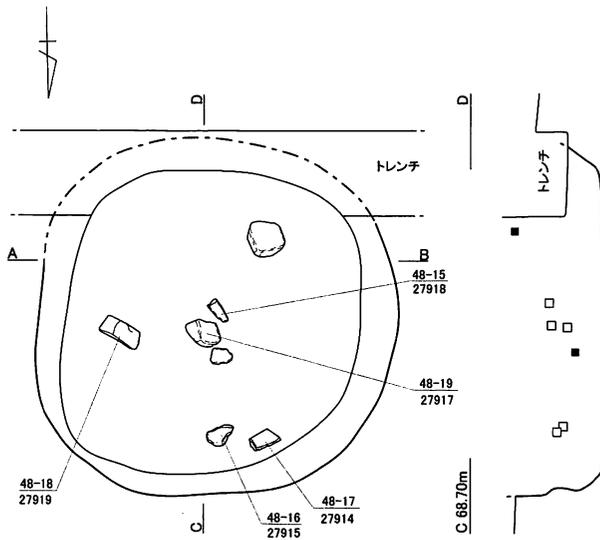
1. 7.5YR3/2 黒褐色 V ≡ VI ≡ VIIa 炭化物を少量含む
2. 7.5YR3/4 暗褐色 VI = V ≡ VIIa
3. 7.5YR4/6 褐色 V - VI ≡ VIIa ≡ VIIb
4. 7.5YR4/4 褐色 V = VI ≡ VIIa ≡ VIIb
5. 7.5YR2/2 黒褐色 V ≡ VIIa

VGP-14



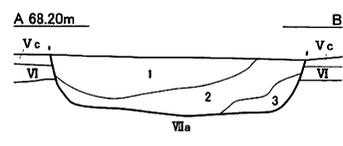
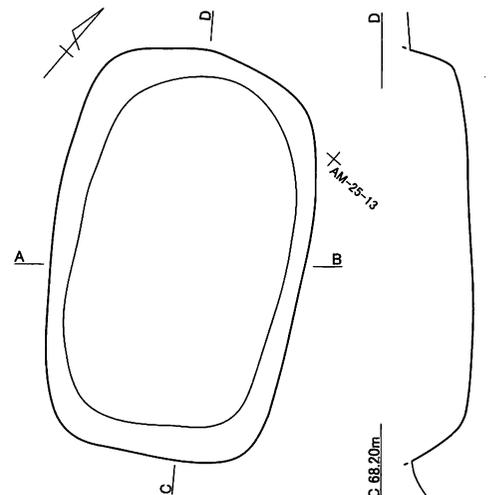
1. 7.5YR3/2 黒褐色 V ≡ VIIa(均一)
2. 7.5YR4/4 褐色 V - VIIa(均一)
3. 7.5YR3/3 暗褐色 V = VIIa(均一)

VGP-15



1. 7.5YR4/4 褐色 V - VIIa(均一)
2. 10YR3/3 暗褐色 V - VIIb(均一)

VGP-16

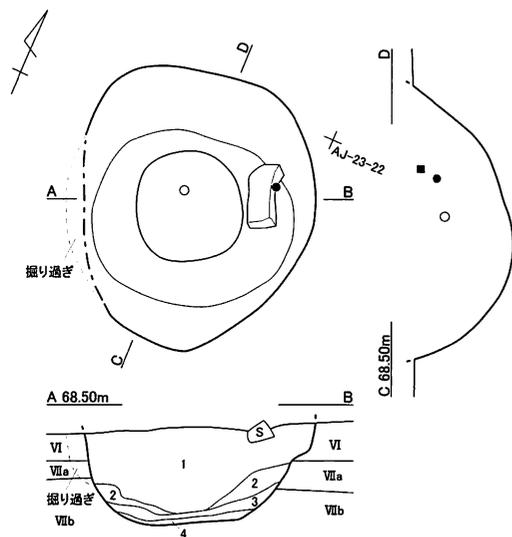


1. 10YR2/2 黒褐色 V = VI(均一) ≡ VIIa(均一)
2. 10YR3/4 暗褐色 V - VI(均一) ≡ VIIa(均一)
3. 10YR4/6 褐色 VIIa - VI(均一)



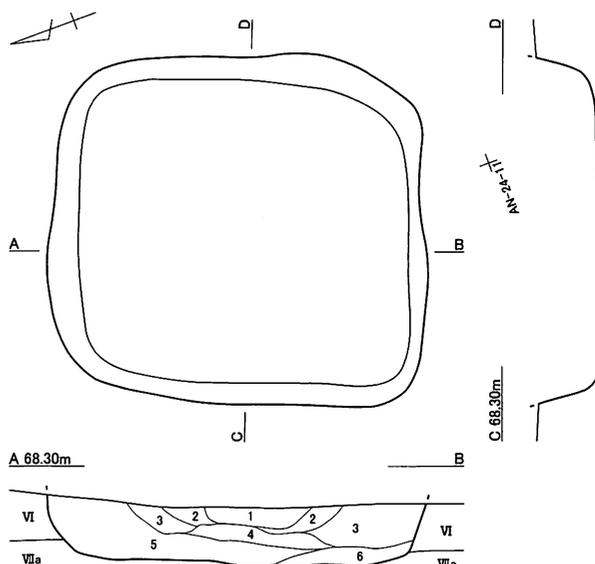
図IV-41 VGP-13 ~ 16 平面及び断面図

VGP-17



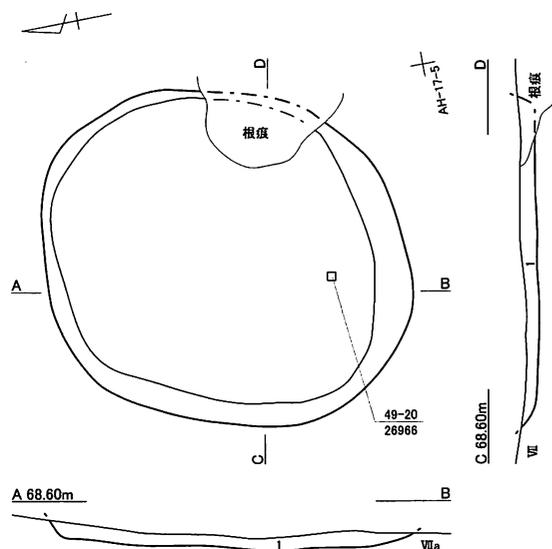
1. 10YR3/3 暗褐色 V=VI・シルト岩(φ10↓)
2. 7.5YR3/4 暗褐色 V=VIIb(均一)
3. 7.5YR2/2 黒褐色 V=VIIa
4. 7.5YR4/4 褐色 VIIa+V(均一) 硬くしまる

VGP-19



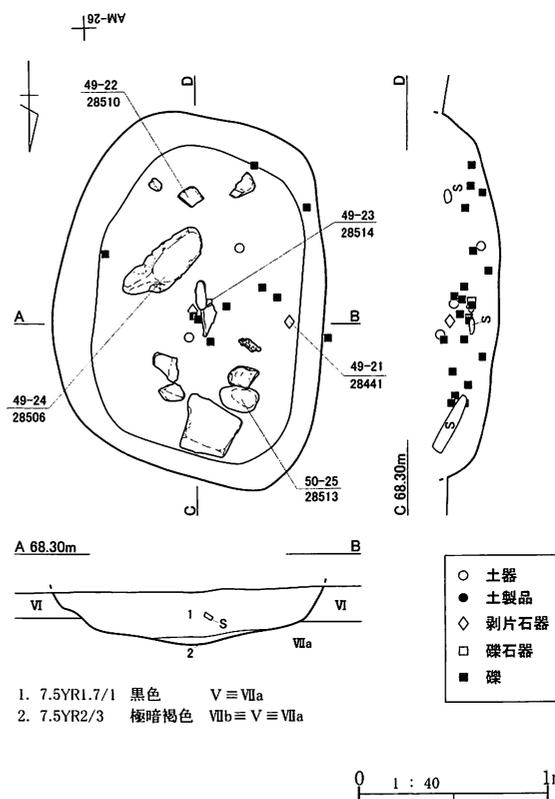
1. 10YR2/2 黒褐色 Vb=VIブロック(φ30↓)≒シルト岩(φ5↓ 均一)
2. 10YR3/4 暗褐色 Vb=VI(均一)≒VIIa(均一)
3. 10YR3/2 黒褐色 Vb=VI(均一)≒シルト岩
4. 10YR2/2 黒褐色 Vb=VIブロック(φ30↓)≒VIIa
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色 VI=Vb(均一)≒VIIa
6. 10YR3/3 暗褐色 VI=Vb(均一)≒VIIa

VGP-20



1. 7.5YR4/3 褐色 V=VIIa(均一)

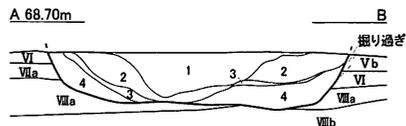
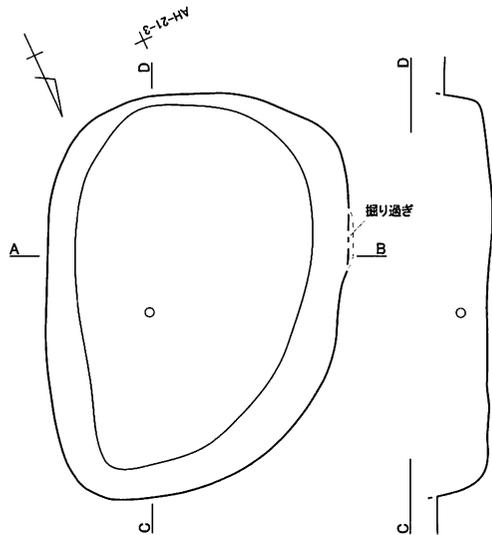
VGP-21



1. 7.5YR1.7/1 黒色 V=VIIa
2. 7.5YR2/3 極暗褐色 VIIb=V=VIIa

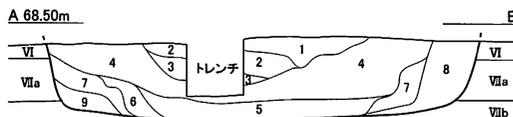
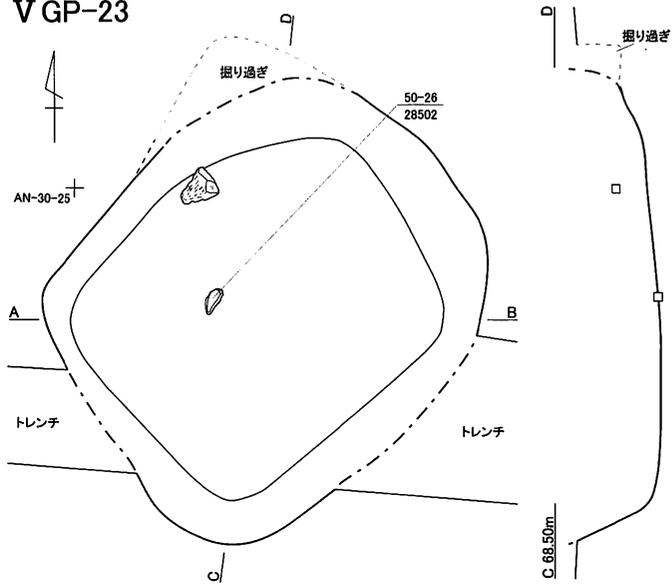
図IV-42 VGP-17・19～21 平面及び断面図

V GP-22



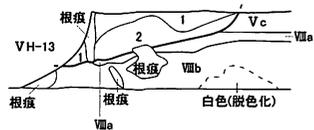
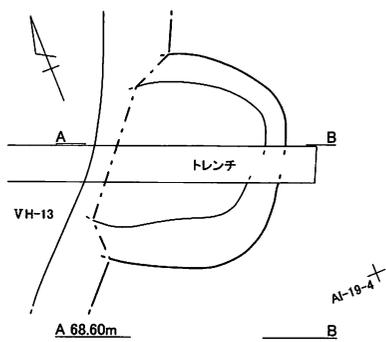
- 1. 10YR2/3 黒褐色 V=VI(均一)≡VIIa(均一)
- 2. 10YR5/4 にぶい黄褐色 VI≡V(均一)・VIIa ブロック(均一)
- 3. 10YR3/4 暗褐色 V≡VIIa
- 4. 7.5YR5/3 にぶい褐色 VIIa≡V

V GP-23



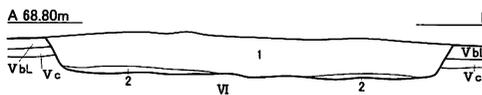
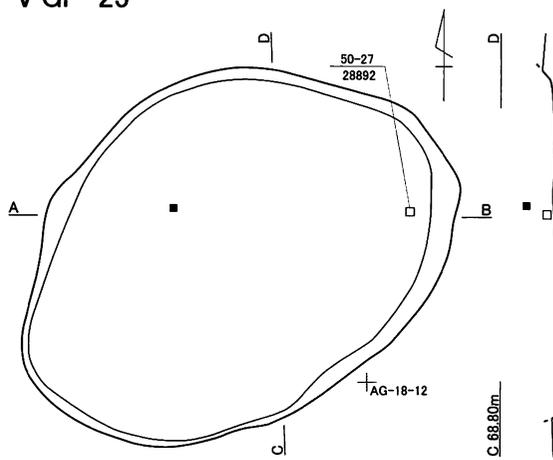
- 1. 7.5YR1.7/1 黒色 Vb≡Vc・VIIa
- 2. 7.5YR2/3 極暗褐色 Vc≡Vb・VI・VIIa
- 3. 7.5YR3/2 黒褐色 Vc=VI≡VIIa
- 4. 7.5YR4/3 褐色 Vc-VI≡VIIa・VIIb
- 5. 7.5YR3/3 暗褐色 V-VI=VIIa・VIIb
- 6. 7.5YR3/4 暗褐色 VI=VIIb・VIIa
- 7. 7.5YR2/2 黒褐色 V=VI≡VIIb・VIIa
- 8. 7.5YR4/6 褐色 VI≡VIIb・V
- 9. 7.5YR4/4 褐色 VI=VIIb・VIIc

V GP-24

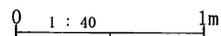
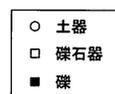


- 1. 7.5YR2/2 黒褐色 V≡VI しまり有
- 2. 7.5YR3/3 暗褐色 V=VI

V GP-25

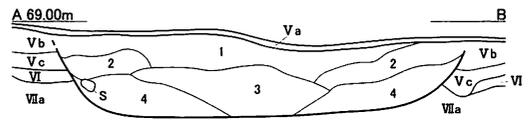
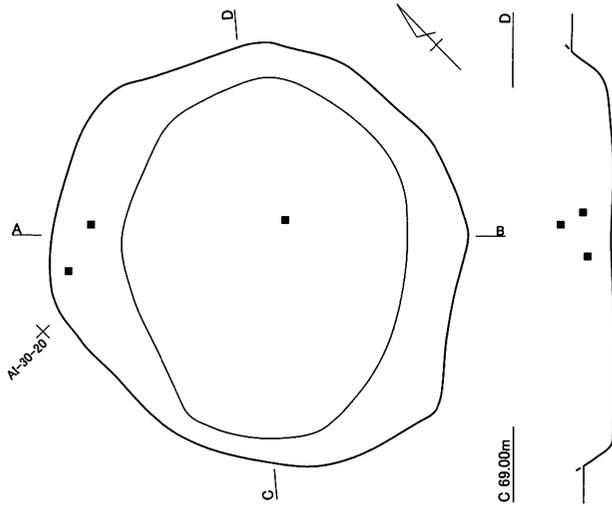


- 1. 10YR2/2 黒褐色 V≡VIIa
- 2. 10YR4/6 褐色 VI≡V(均一)



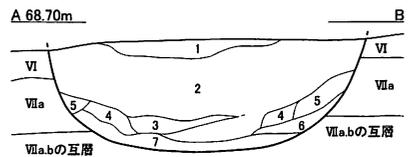
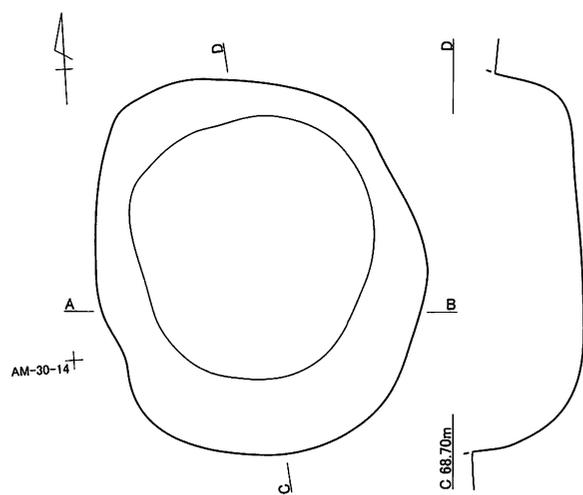
図IV-43 V GP-22 ~ 25 平面及び断面図

V GP-27



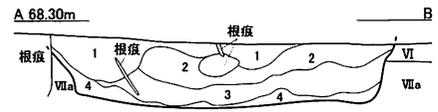
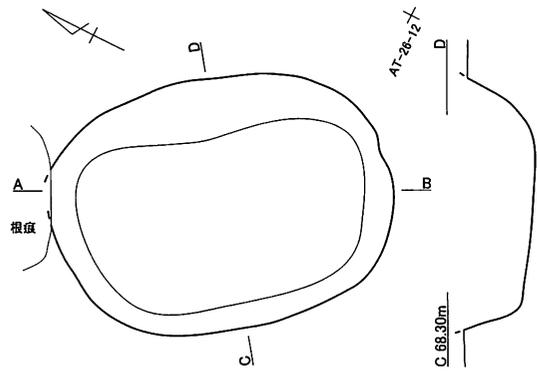
- 1. 7.5YR3/3 暗褐色 V-VIIb(均一)
- 2. 7.5YR4/4 褐色 V=VIIb(均一)≡VIIa(均一)
- 3. 7.5YR5/6 明褐色 VIIa≡V(斑状)
- 4. 7.5YR2/3 極暗褐色 V≡VIIb(均一)

V GP-28

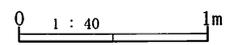


- 1. 10YR3/2 黒褐色 V=VIIa
- 2. 7.5YR3/2 黒褐色 V=VIIa(斑状)
- 3. 7.5YR4/4 褐色 VIIa=VIIb(均一)≡V(均一)
- 4. 7.5YR3/4 暗褐色 V=VIIa(均一)
- 5. 10YR3/3 暗褐色 V≡VIIb(均一)
- 6. 7.5YR4/6 褐色 VIIb=VIIa(均一)
- 7. 7.5YR4/4 褐色 V=VIIa(均一)

V GP-29

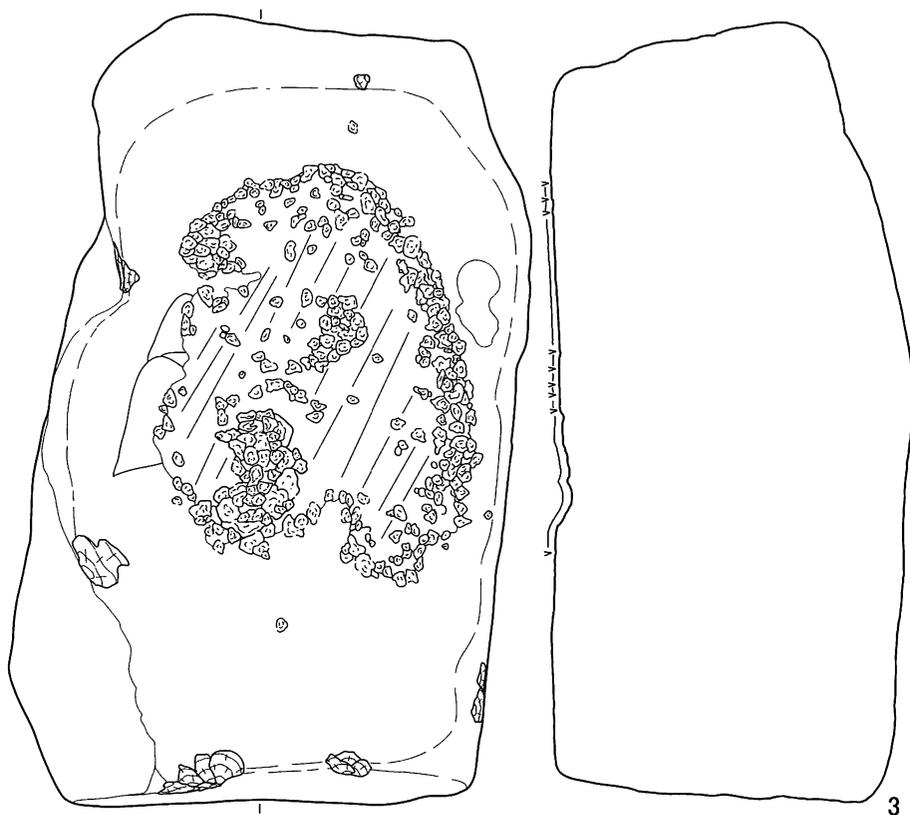
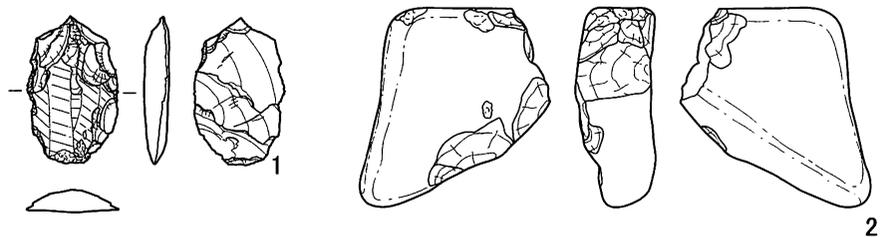


- 1. 7.5YR3/1 黒褐色 V≡VIIa
- 2. 7.5YR4/4 褐色 V=VIIa(ブロック)
- 3. 7.5YR4/6 褐色 VIIa≡V(斑状)
- 4. 7.5YR3/4 暗褐色 V=VIIa≡VIIb(斑状)

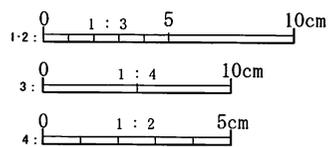
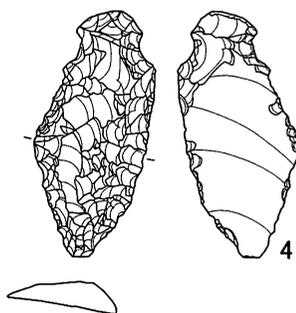


図IV-44 V GP-27 ~ 29 平面及び断面図

V GP-03

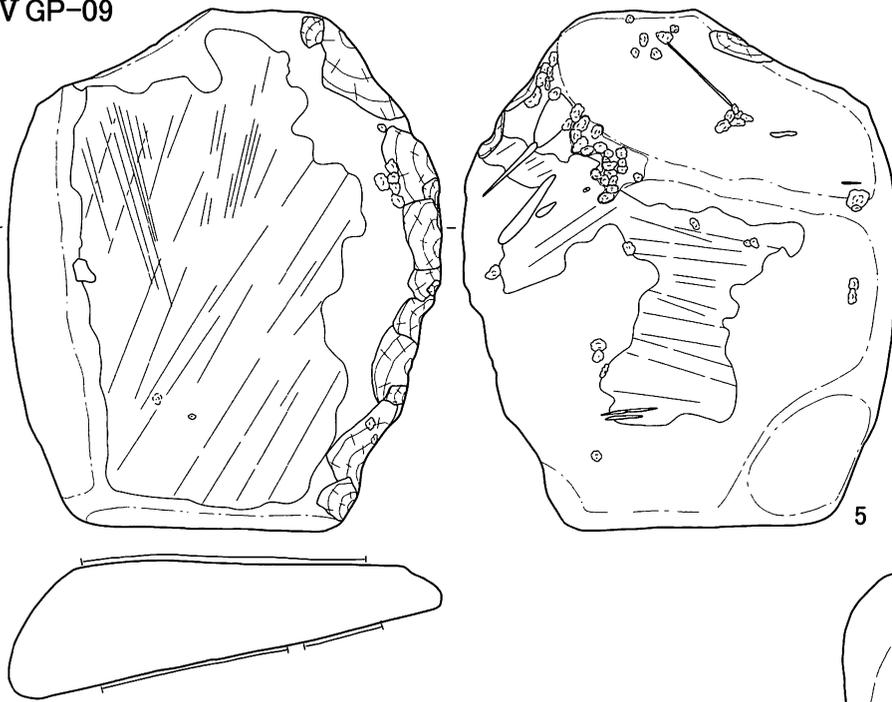


V GP-08

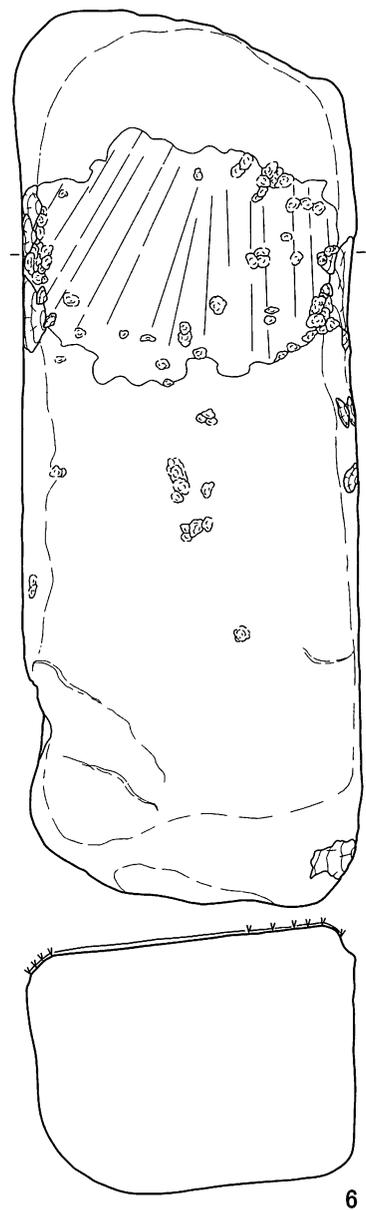
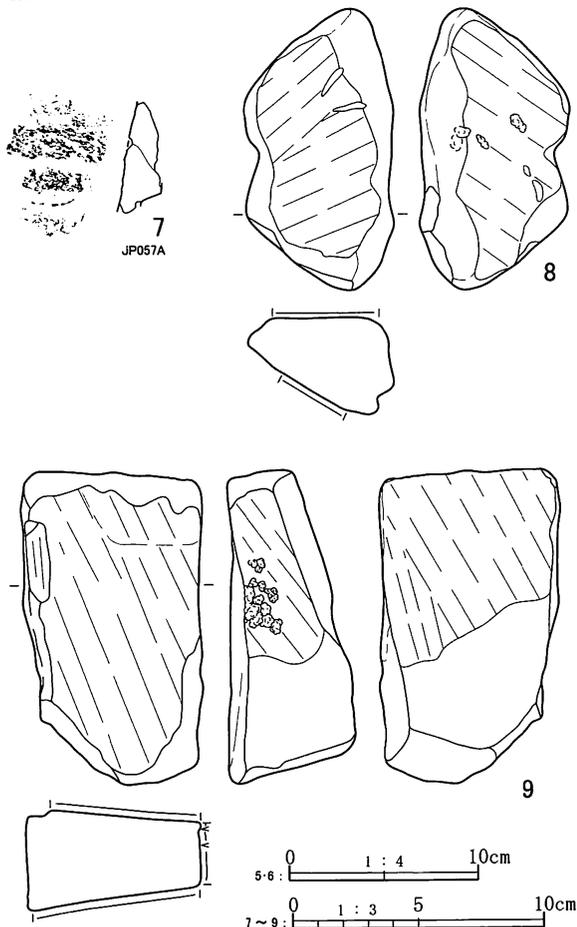


図IV-45 V GP 出土遺物(1)

V GP-09

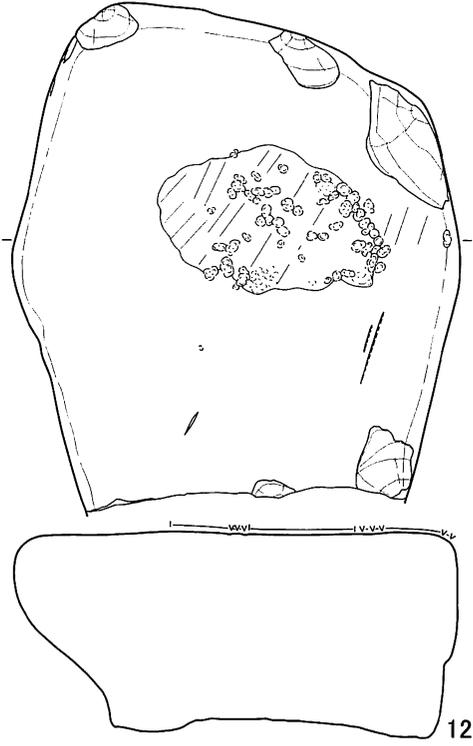
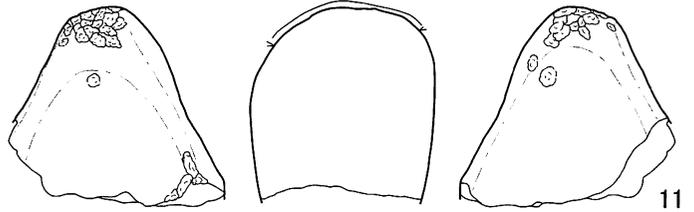
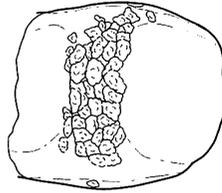
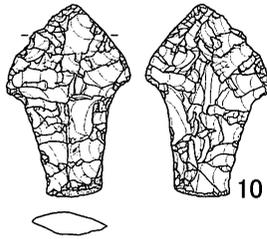


V GP-10

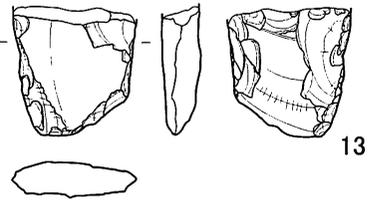


図IV-46 VGP 出土遺物(2)

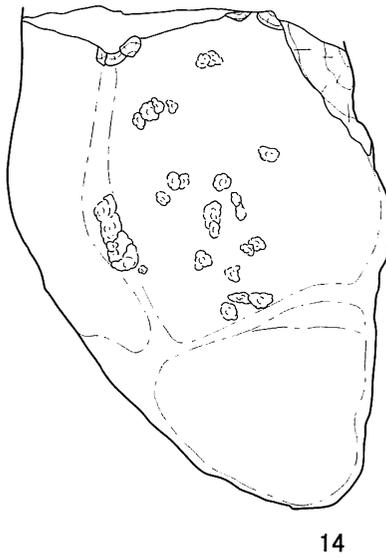
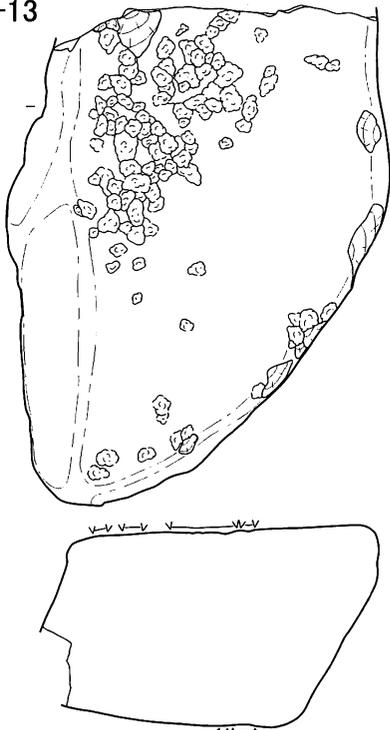
VGP-11



VGP-12



VGP-13



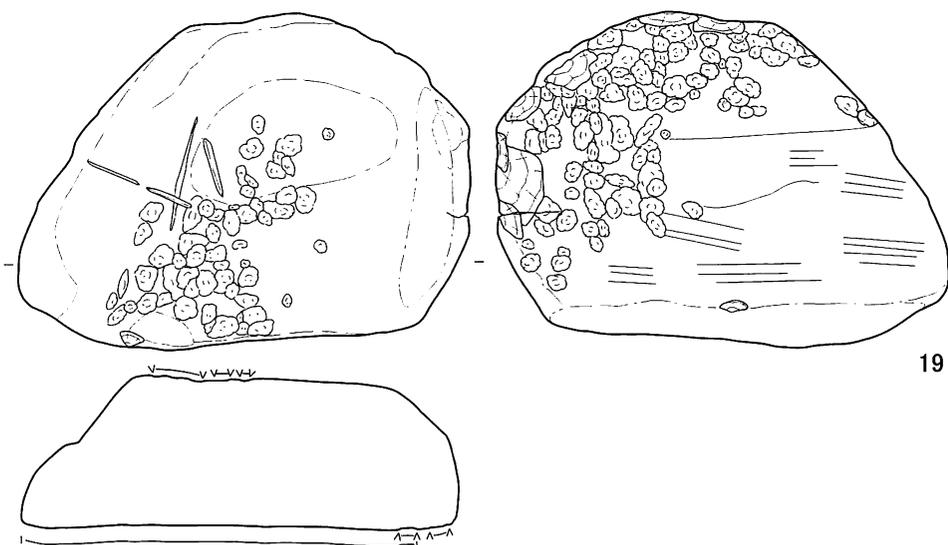
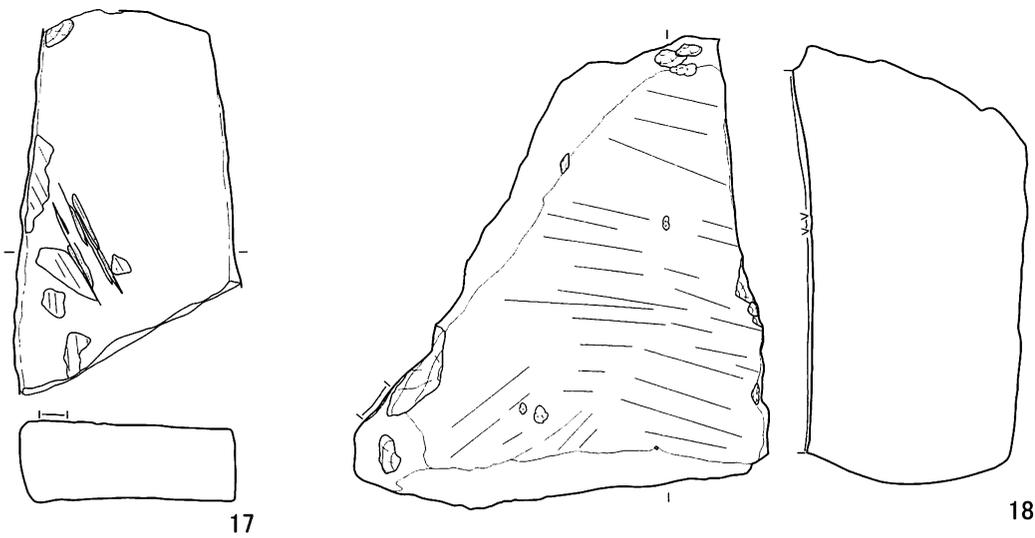
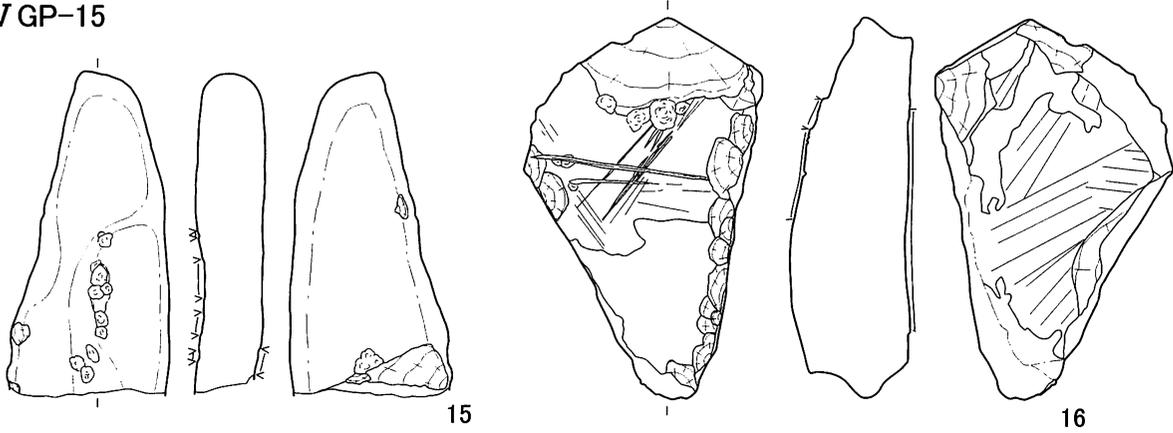
0 1 : 2 5cm

0 1 : 3 5 10cm

0 1 : 4 10cm

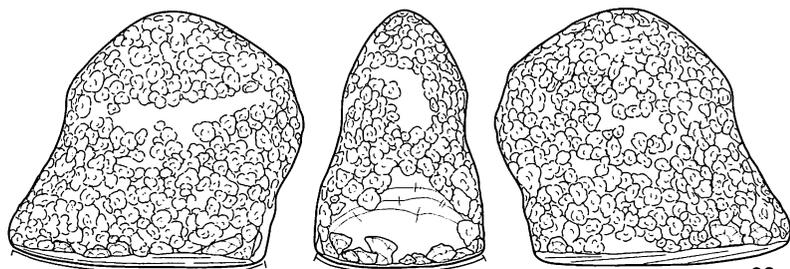
図IV-47 VGP 出土遺物 (3)

VGP-15

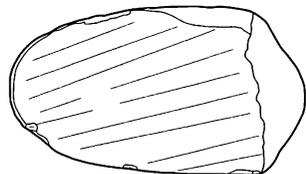


図IV-48 VGP 出土遺物(4)

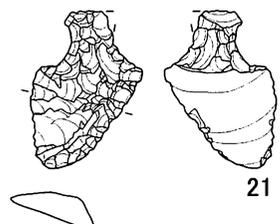
VGP-20



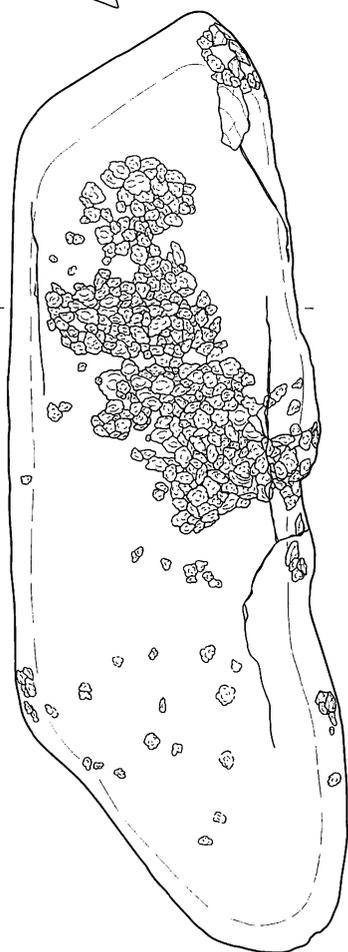
20●



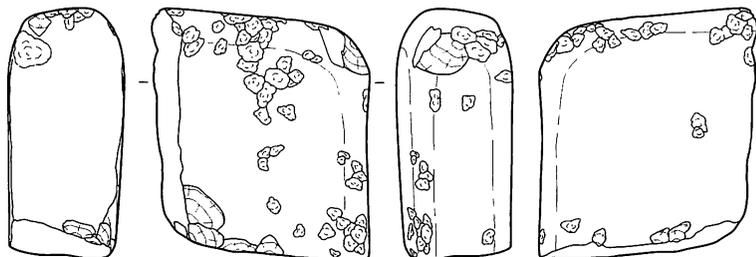
VGP-21



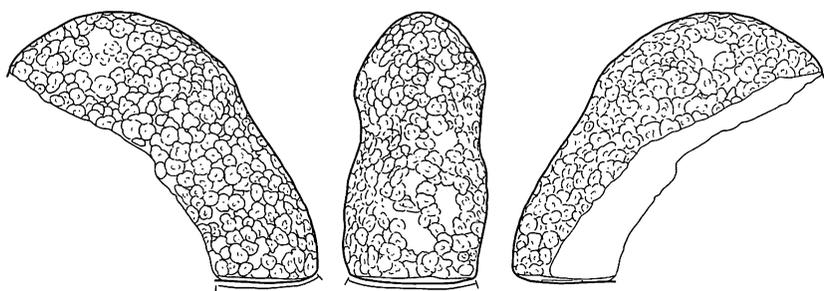
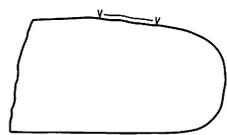
21●



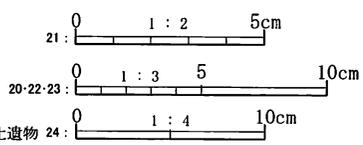
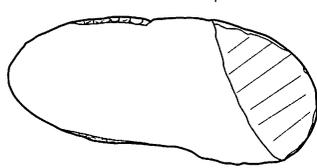
24●



22●



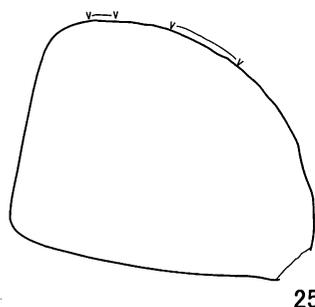
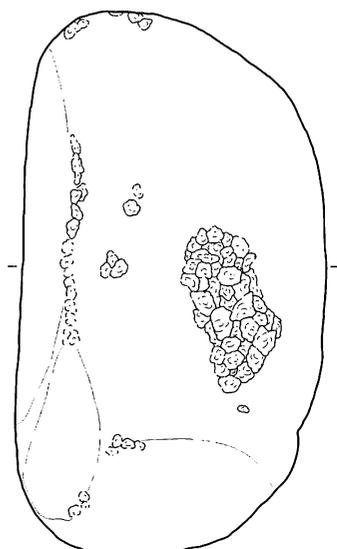
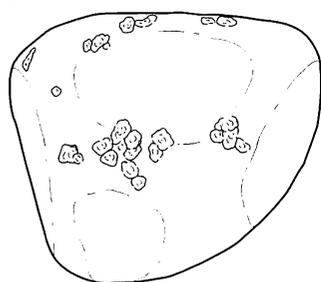
23●



● VGP 抗底面出土遺物 24:

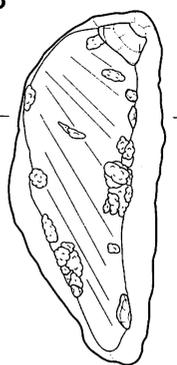
図IV-49 VGP 出土遺物 (5)

VGP-21



25

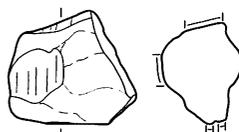
VGP-23



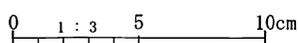
26●

● VGP-23 坑底面出土遺物

VGP-25



27



図IV-50 VGP 出土遺物(6)

VGP-29 (図IV-44 図版 45-5・6)

位置：AT-26区 検出層位：VI 規模：182×133×35cm 平面形：楕円形

AT-26 区のVI層で楕円形の黒色プランを検出し長軸で半截した。壁は南東側が垂直に立ち上がるが、北西側は傾きが45度である。どちらも坑底面からの立ち上がりは明瞭である。1・2層はVc層主体のTa-dを斑状に含む黒褐色～褐色土で、3層はVII層主体でV層を斑状に含む褐色土である。坑底面にV層を主体としたTa-dを斑状に含む暗褐色土の4層が堆積する。遺物は出土していない。
(服部・奈良・乾)

第3節 土坑

20基検出した。調査区中央部から、南側に多く分布している。T₂面から16基、T₁面に4基、検出している。T₂面では長軸100cm以上の大型のものと長軸100cm以下の小型のものが混在し、大型のものが、墓坑(VGP)の周辺、VH-02・03・10・11に囲まれた範囲に集中する。小型のものは上述した住居跡に囲まれた範囲の外側に多く分布するようである。T₁面では小型のもののみが発見された。確実に遺物を伴うものはVP-01・20のみで、IV群A1類a種の土器(VPB-02)が伴う。VP-20はIV群A1類c種を坑底面に伴う。この他、VP-30覆土からIII群B3類土器が、VP-14の覆土から口縁と胴部に横走る貼付帯をもつIV群A1類a種・c種の土器片が出土している。坑底面に伴う出土状態は認められなかった。

VP-01・VPB-02 (図IV-51 77-3・4 図版45-7・8 97-3・4)

位置：AQ-26・27、AR-27区 検出層位：VI (VH-02壁面)

規模：(190)×(180)×(62)cm 平面形：楕円形(推定)

VH-02の壁面を調査中に確認した。北側は住居跡にかかっているが、明瞭には検出できなかった。南側は小学校への進入路と倒木痕によって攪乱され、全体の形状は不明である。南側が開く楕円形の平面形と思われる。覆土中位から大型の扁平礫と1個体分の土器が出土した(VPB-02)。大型礫はVH-02内にあるVSB-01に隣接しており、VSB-01の一部と考えられる。

出土遺物 出土土器については土器集中で掲載している(図IV-77)。3・4は同一個体で、底部から口縁部に至るIV群A1類a種の復元土器である。平底の底部から胴部上半まで膨らみをもって立ち上がり上半はほぼ直立し、口縁部には2段構成の折り返し状の貼付帯が施されている。口唇部は角状で縄文が施されている。口縁部貼付帯には1段目の下位と2段目の境界に深い円形刺突文が施されており、内面に瘤が生じている。胴部貼付帯は断面形がカマボコ状で5条確認でき、口縁部貼付帯と胴部貼付帯との間には無文帯を設けている。地文縄文も羽状構成で、土器全体が貼付帯、地文の羽状縄文で多段に構成されている。底面はやや凸底でミガキ調整が施され、灰褐色を呈している。胎土は小礫も混入する砂粒を多く含む。(岩橋・土器：乾)

VP-02 (図IV-51 図版46-1・2)

位置：AT-31・32区 検出層位：VI 規模：(52)×46×23cm 平面形：円形(推定)

小型の土坑である。

VP-03 (図IV-51 図版46-3・4)

位置：AN-31区 検出層位：VI 規模：164×115×18cm 平面形：楕円形

隅丸楕円形の土坑。覆土中位にVIIa層がブロック状に堆積しているが、層状をなしているので、土坑墓(VGP)可能性も残すが本項に入れた。

VP-07 (図IV-51・72-1 図版46-5・6 96-1-1)

位置：AM-27区 検出層位：VH-07覆土 規模：42×41×15cm 平面形：円形

VH-07の覆土中に検出した。周辺にVP-08・VPB-09・11があり、VH-07の埋没過程で構築されたことが伺える。

出土遺物 図IV-72-1は黒曜石製のポイント類B1a①で、尖頭部は再調整により茎部より短い。再加工したものと思われる。

VP-08 (図IV-51 図版 46-7・8)

位置：AM-27区 検出層位：VH-07 覆土 規模：61×42×6cm 平面形：隅丸方形

VP-07 同様、VH-07 覆土中に検出した。

VP-12 (図IV-51 図版 47-1・2)

位置：AT-27区 検出層位：VI 規模：234×(151)×15cm 平面形：長楕円形

上位にVSB-08が南側にずれて被り、当初、VSB-08の下部遺構かと考えたが、VSB-08の礫が、土坑外にも分布しており、別遺構として取り上げた。

東西方向を長軸とする長楕円形の平面形で、坑底面直上層はVIIa層とVI層が混じる覆土が堆積しており、判然としない。

VP-13 (図IV-51・72-2 図版 47-3・4 96-1-2)

位置：AT-27区 検出層位：VI 規模：(118)×(93)×6cm 平面形：楕円形(推定)

覆土中に多くの礫を含む。覆土中から礫群と共に滑石製の垂飾が1点出土した。

VP-14 (図IV-52・72-3～5 図版 47-5～7 96-1-3～5)

位置：AT-30区 検出層位：Vc 規模：220×199×29cm 平面形：不整形円形

当初、規模等から土坑墓の可能性を考えたが、埋土が人為的に埋められたものではなく、自然堆積によるものであることから、本項に含めた。

出土遺物(図IV-72-3～5 図版 96-3～5) 覆土内から土器片・礫他が出土した。3はIII群B2類の柏木川式土器の大きく外反する口縁部片で、同一個体片が約11.5m北西に位置するVF-04より出土している。口縁部に棒状工具による斜位の刻みを有する貼付帯が施されている。口唇部は丸く、貼付帯上の斜位刻みを施文後にミガキ調整が施されている。結節回転文を伴うLR斜行縄文が施されている。内面調整は弱いヘラケズリ及びヘラナデの調整が明瞭に観察できる。胎土には繊維をやや多く含み、器表面に痕跡がみられる。同一個体4・5はIV群A1類a種の土器で、本土坑からは4の胴部上半の比較的大型の破片2点が出土した。胴部下半から膨らみをもって立ち上がり、口縁部がやや外反する大型の深鉢形土器で、口唇部は角状を呈する。口縁部に幅広の貼付帯と胴部下半にも貼付帯が施されている。地文は細い原体と太い原体の2本のLR原体によって多段構成の斜行縄文が施されている。

VP-15 (図IV-52)

位置：AX・AY-28区 検出層位：VI 規模：75×71×19cm 平面形：円形

AX-28区、VH-10覆土内から検出された。南側の壁面がほぼ直角に立ち上がる円形のやや深い土坑。VH-10北西隅付近に余市式土器を巻き込んだ倒木痕があり、また近隣のVP-20坑底から、同様に天祐寺式土器(図IV-72-6)が出土していることから、VH-10埋没後の窪みに構築されたものと思われる。

VP-17 (図IV-52 図版 47-8 48-1)

位置：BF-31区 検出層位：VI 規模：61×36×26cm 平面形：長楕円形

調査区南側斜面裾で検出した。覆土内に土器片・礫を伴う。土器は細片で、時期を特定することはできなかった。

VP-18 (図IV-52 図版 48-2・3)

位置：BF-31区 検出層位：VI 規模：69×53×11cm 平面形：楕円形

VP-17 と並んで南側斜面裾に検出した。覆土内に土器片・礫を伴うが、VP-17 同様、土器の時期を特定することはできなかった。

VP-19 (図IV-52 図版 48-4~6)

位置：AS・AT-24 区 検出層位：VI 規模：(103)×(29)×(33)cm 平面形：円形(推定)

AT ライン土層断面観察用のトレンチ掘削中に大型の扁平角礫がVI層レベルにV層主体層を伴って出土し、土坑の存在を確認した。断面観察から礫は覆土の中位に位置する。

VP-20 (図IV-52 72-6・7 図版 48-7・8 96-1-6・7)

位置：AY-27・28 区 検出層位：Vc 規模：(263)×(103)×11cm 形状：楕円形(推定)

坑底面から天祐寺式土器がまとまって出土したが、本土坑以外からも同一個体片が出土している。坑底面より口縁部片等が14点集中して出土しており、縄文時代後期初頭の帰属時期と考えられる。VH-10の掘り上げ土を切って構築された土坑で、住居跡完掘時点で壁面にて検出したため、北西側の住居内部側は未記録である。

出土遺物 (図IV-72-6・7 図版 96-6・7) 6はIV群A1類c種の余市式土器群の中でも道南系の天祐寺式土器の口縁部片である。推定口径が約32cmと思われる大型の深鉢土器。口唇部は隅丸の角状で、口縁部に無文帯を挟んで2条の貼付文が施されている。貼付帯は基本、地文縄文施文後に施されているが一部、地文縄文の施文よりも新しい切り合いとなる部分も見受けられる。地文縄文はRL原体の縦回転施文の斜行縄文が施されている。胎土は砂粒を多く含み、内面及び口唇部はへら状工具により平滑に仕上げられている。なお、本資料の同一個体片は本土坑以外にも隣接するVH-10覆土上層や周辺グリッドから広範囲にわたって散在している。7はポイント類B1a②で、茎部に突起をもつが、端部が欠けている。

VP-21 (図IV-52 図版 49-1)

位置：AW・AX-28 区 検出層位：VI 規模：(134)×(82)×17cm 平面形：楕円形(推定)

VP-15・20同様、VH-10の覆土の窪みから発見された。遺物は出土していないが検出位置や形態より前述した2基の土坑と同時期と思われる。北西側の住居内部側は未記録である。

VP-23 (図IV-53 図 49-2・3)

位置：AS・AT-25 区 検出層位：VI 規模：201×(151)×(29)cm 平面形：楕円形

大型の土坑で、調査初期には土坑墓であると想定して調査したが、堆積状態から本項に含めた。北側覆土上位から大型の礫が出土している。

VP-24 (図IV-53 図版 49-4・5)

位置：BD-31 区 検出層位：VI 規模：119×52×8cm 平面形：長楕円形

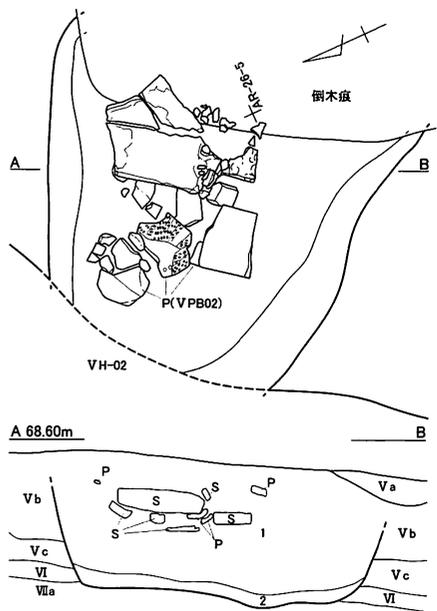
調査区南側斜面にVI層上面にV層の落ち込みを検出した。斜面の傾斜に直交する長軸方向を持ち、斜面下方側は明瞭な立ち上がりを確認できなかった。坑底面は水平である。

VP-25 (図IV-53 図版 49-6・7)

位置：AY-29 区 検出層位：VI 規模：73×51×33cm 平面形：楕円形

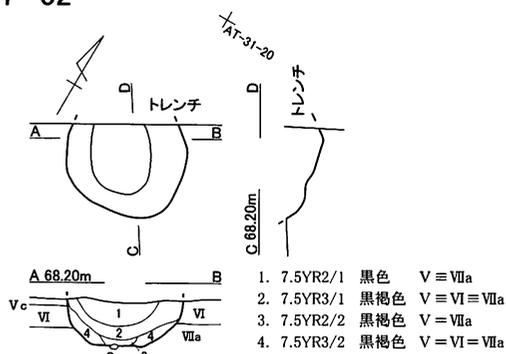
VH-10南西側5mの距離に小学校への進入路下から発見された。南側覆土上に大型の礫が1点出土している。

VP-01・VPB-02



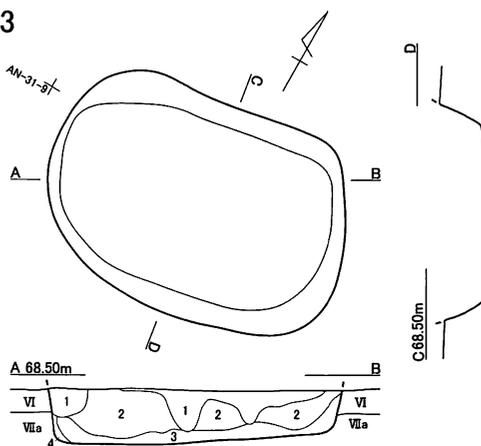
1. 10YR2/2 黒褐色 V≡VIIa(均一)≡炭化物(φ30↓)
2. 7.5YR3/4 暗褐色 VI+V(φ30↓斑状)

VP-02



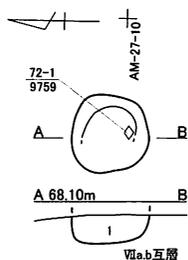
1. 7.5YR2/1 黒色 V≡VIIa
2. 7.5YR3/1 黒褐色 V≡VI≡VIIa
3. 7.5YR2/2 黒褐色 V=VIIa
4. 7.5YR3/2 黒褐色 V=VI=VIIa

VP-03



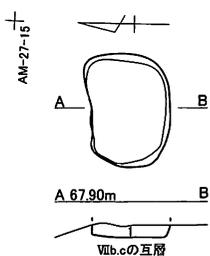
1. 10YR2/3 黒褐色 V≡VIIa
2. 7.5YR2/3 極暗褐色 VIIa・ブロック-V
3. 7.5YR2/2 黒褐色 VIIa-V
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 VIIa崩落層

VP-07



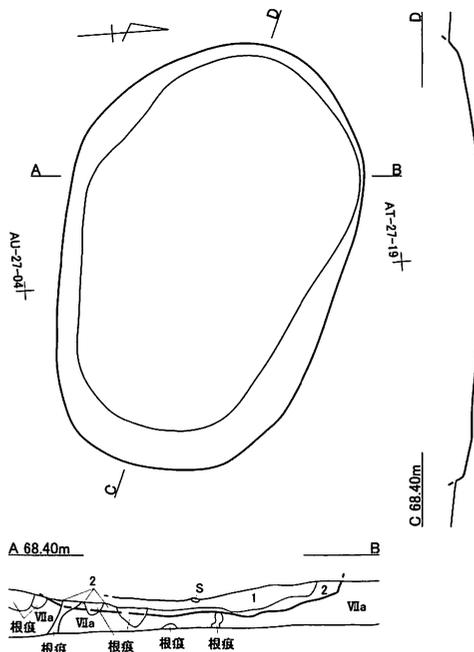
1. 7.5YR3/3 暗褐色 V=VIIa(均一) しまり弱 粘性あり

VP-08

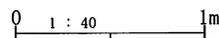


1. 7.5YR3/2 黒褐色 V=VIIa

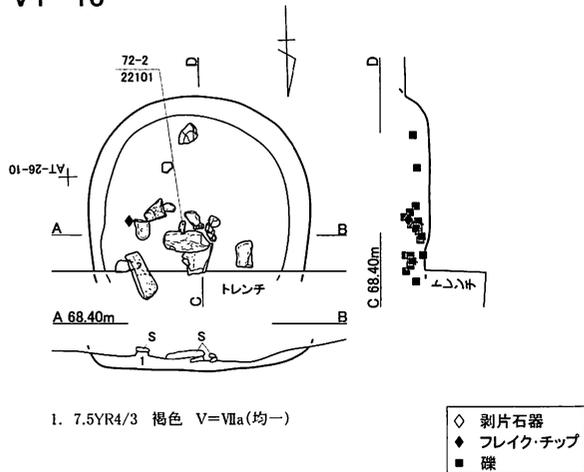
VP-12



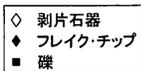
1. 7.5YR3/4 暗褐色 V≡VIIa(均一)
2. 7.5YR5/4 にぶい褐色 VI=VIIa(均一)



VP-13

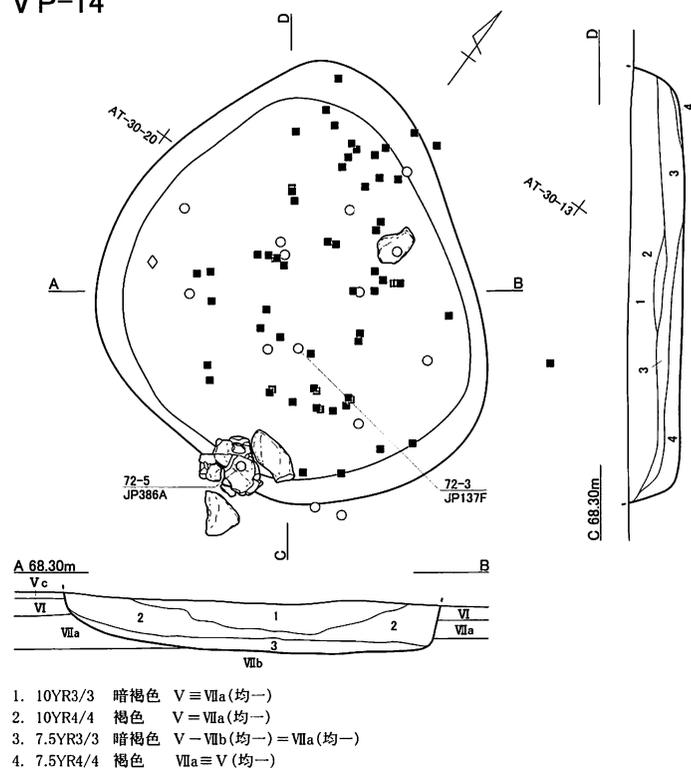


1. 7.5YR4/3 褐色 V=VIIa(均一)

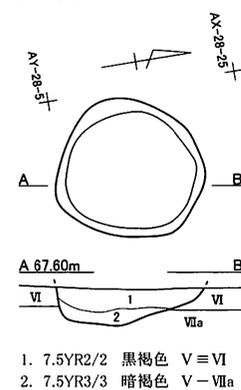


図IV-51 VP-01 ~ 03・07・08・12・13・VPB-02 平面及び断面図

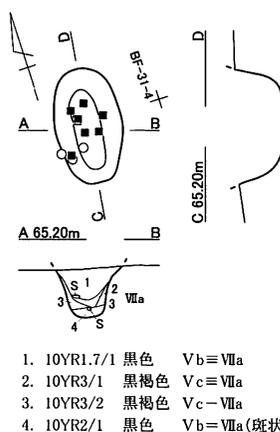
VP-14



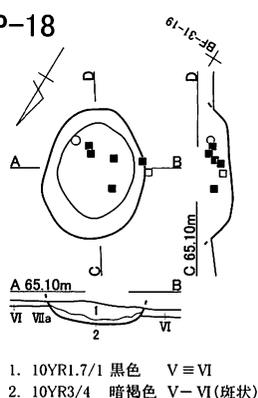
VP-15



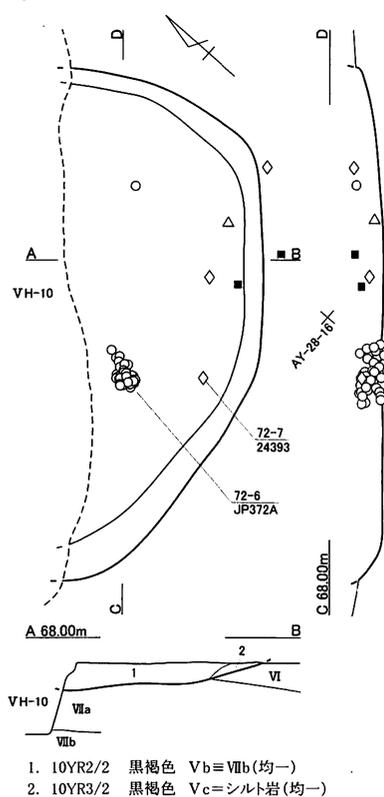
VP-17



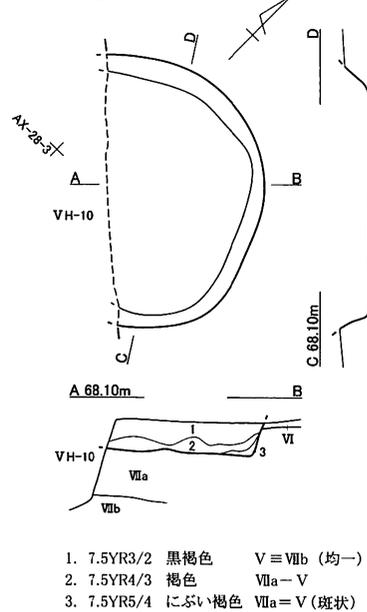
VP-18



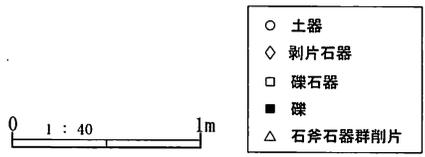
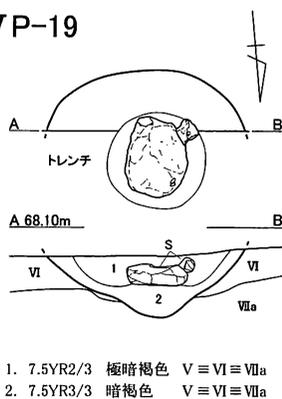
VP-20



VP-21

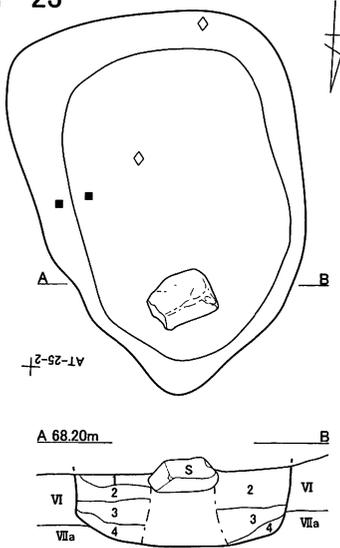


VP-19

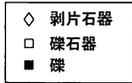


図IV-52 VP-14・15・17 ~ 21 平面及び断面図

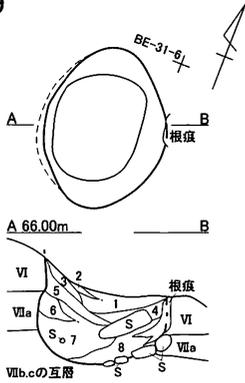
VP-23



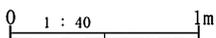
1. 7.5YR2/2 黒褐色 V = VI ≡ VIIa
2. 7.5YR4/6 褐色 VI ≡ VIIa ≡ V しまり弱い
3. 7.5YR4/4 褐色 VI = VIIa しまりやや強い
4. 7.5YR4/3 褐色 VI ≡ VIIa しまりやや強い



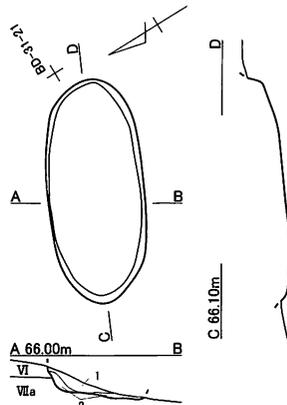
VP-29



1. 10YR2/1 黒色 Vb = VIIa (φ3 ↓ 均一)
2. 10YR4/6 褐色 Vc = VIIa (斑状)
3. 10YR2/3 黒褐色 Vc
4. 10YR3/1 黒褐色 Vb - VIIb (斑状)
5. 10YR3/3 暗褐色 Vc - VIIb (斑状)
6. 10YR4/4 褐色 VI - Va (斑状)
7. 10YR3/3 暗褐色 Vc = Vb (斑状) = VIIcブロック(φ10 ↓)
8. 10YR3/2 黒褐色 Vc = VIIc (斑状)

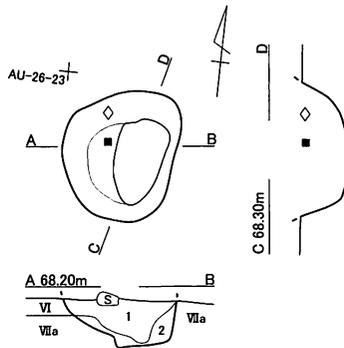


VP-24



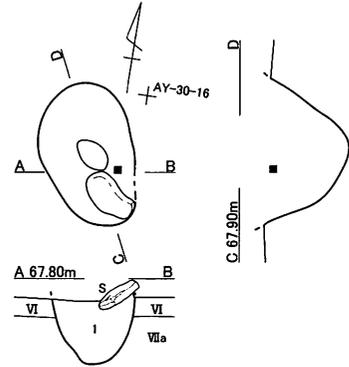
1. 10YR2/1 黒色 V = VIIa (φ7 ↓ 均一)
2. 10YR2/2 黒褐色 V - VIIa (φ10 ↓ 均一)

VP-26



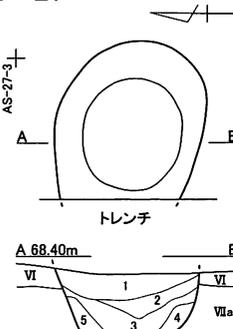
1. 7.5YR3/2 黒褐色 V ≡ VIIa (均一)
2. 7.5YR4/4 褐色 V = VIIa (斑状)

VP-25



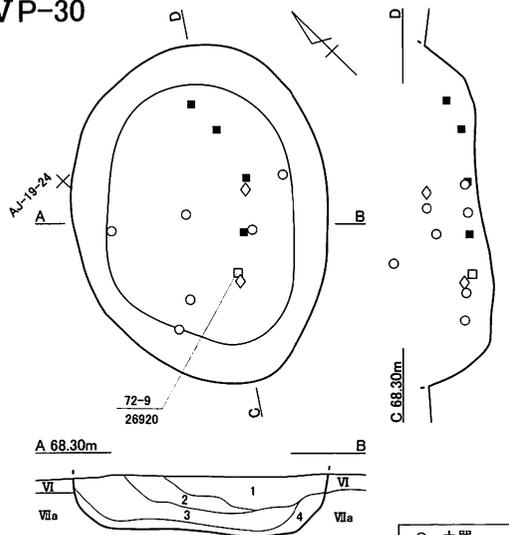
1. 10YR3/3 暗褐色 V = VIIa (斑状)

VP-27

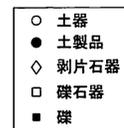


1. 7.5YR2/3 極暗褐色 V ≡ VI ≡ VIIb
2. 7.5YR3/1 黒褐色 VI ≡ V ≡ VIIa
3. 7.5YR3/2 黒褐色 VI = V ≡ VIIb しまり強
4. 7.5YR3/3 暗褐色 VI = V ≡ VIIa
5. 7.5YR4/3 褐色 VI ≡ V ≡ VIIa

VP-30



1. 10YR3/3 暗褐色 V ≡ VIIa (均一)
2. 7.5YR4/4 褐色 V + VIIa (均一)
3. 7.5YR3/2 黒褐色 V ≡ VIIa (均一)
4. 7.5YR5/4 にぶい褐色 VIIa = V



図IV-53 VP-23 ~ 27・29・30 平面及び断面図

VP-26 (図IV-53 図版 50-1・2)

位置：AU-26区 検出層位：VI層 規模：71×60×23cm 平面形：楕円形

調査区中央よりやや南のAU-26区に位置する。西側の底面は一段高くなっている。確認面の覆土上面から礫が1点出土している。

VP-27 (図IV-53 図版 50-3・4)

位置：AS-27区 検出層位：VI層 規模：(85)×78×37cm 平面形：円形

調査区中央部、VH-02より4.8m南に位置する。皿状の坑底面から緩やかに立ち上がる壁面をもつ。覆土は自然堆積である。

VP-29 (図IV-53 図版 50-5・6)

位置：BE-30・31区 検出層位：VI層 規模：85×65×39cm 平面形：楕円形

調査区南端部斜面、BE-29区に位置する。近接するVP-24同様斜面、等高線に沿った長軸をもち、西側の壁面はオーバーハングし、袋状を呈していた可能性がある。覆土は斑状・ブロック状に堆積しているものが多く、短期間に埋没したと思われる。

VP-30 (図IV-53 72-8・9 図版 50-7・8 96-1-8・9)

位置：AJ・AK-19区 検出層位：VI層 規模：177×137×32cm 平面形：楕円形

楕円形の黒色プランを検出し、短軸で半截した。1・3層はVc層が主体の黒褐色～暗褐色土で、4層はTa-dを主体とする褐色土で、坑底面に堆積する。

出土遺物 (図IV-72-8・9 図版 96-1-8・9) 遺物は、土器7点、剥片石器2点、礫4点が出土している。8は胎土、焼成などからⅢ群B3類の北筒式土器の胴部片で、無節Rの原体による斜行縄文が施されている。剥片石器はポイント類A4とナイフ類B2が出土しているが、図示していない。9はたたき石で棒状礫を素材としている。両面に敲打痕があり、端部に剥離痕が認められ、折損している。
(宮塚・VP-30：服部・土器：乾)

第4節 焼土

石組炉3基、焼土24ヵ所を検出した。

石組炉は調査区中央部(VSF-03)、西側縁辺部(VSF-01)、南側高位段丘縁辺部(VSF-02)に位置する。焼土はこれらの石組炉に囲まれた範囲に21ヵ所、その外側、調査区北端(VF-30)、西側縁辺部から20m入った箇所(VF-02)、南端下位段丘にかけての斜面上に1ヵ所(VF-09)にそれぞれ1ヵ所検出されている。石組炉に囲まれた範囲に圧倒的に多い。(宮塚)

VSF-01 (図IV-54 図版 51-1・2)

位置：AS-32・33区 検出層位：Vc 規模：(79)×(55)×3cm 平面形：不整形

調査区西側、ショロマ川に面した高位段丘上、VH-12より西へ約10mに位置する。焼土の周辺に南北を軸として礫が配されているように見える。礫は確認した焼土面より10～15cm浮いた状態で出土しており、焼土層が掘り込まれて作られていた可能性がある。ほとんどの礫が被熱している。

VSF-02 (図IV-54 図版 51-3・4)

位置：BC-29区 検出層位：Vb 規模：55×24×7cm 平面形：長楕円形

調査区南端斜面にかかる高位段丘縁辺部のBC-29区に位置する。東西に長い楕円形をなし、

等高線に沿っている。大型の棒状礫が「L」字状に残され、石組炉の半分が欠失したように見えるが、礫は焼土の縁辺部ではなく、焼土に食い込むように残されている。また、東西方向に長軸をもつ礫の北側と南北方向に長軸をもつ礫の東側が被熱している。

V SF-03 (図IV-54 72-10・11 図版 51-5・6 96-2-10・11)

位置：AN-25区 検出層位：Vc 規模：(24)×(19)×4cm (掘り込み面規模：90×83×14cm)
平面形：円形 (掘り込み面平面形：円形)

調査区の中央部よりやや北側、VH-01とVH-02のほぼ中間、AN-25区に位置する。南半は大型礫が「コ」の字状に組み込まれているように見えるが、北半は小型の礫が散在している。ピット状の掘り込みを持ち、Vb層を含む再堆積Ⅷa層の上に礫が配置されている。礫は北側が開く「コ」の字状に囲われ、礫の内側は被熱している。

出土遺物 (図IV-72-10・11 図版 96-2-10・11) 10はIV群A1類a種の土器で、折り返し状の貼付文直下に0I円形刺突文が施される。11はRL斜行縄文が多段に施文され、器表面は縄文施文後のナデ調整が顕著である。明瞭な二次被熱の痕跡は認められない。

VF-02 (図IV-54 図版 51-7・8)

位置：AL-31区 検出層位：VI 規模：70×47×11cm 平面形：不整形

調査区の西側、台地縁辺部から20m前後内側に入った位置にあり、周囲には遺構は見られない。大型の地床炉で焼土の厚さは11cmを測る。

VF-04 (図IV-54 72-12 図版 52-1・2 96-12)

位置：AS-32区 検出層位：Vc 規模：90×89×9cm 平面形：不整形

前述したV SF-01の東側、約3m離れた位置に占地する。直近に土器集中が3ヵ所(VPB-04・05・06・07：Ⅲ群B2類)あり、何らかの作業区域の存在が想定される。焼土の中央部は木の根で攪乱されており、現存する部分の焼土は馬蹄形をなす。

出土遺物 (図IV-72-12 図版 96-2-12) 12はⅢ群B2類、柏木川式土器の胴部上半の破片資料で、比較的大型の破片が本焼土より出土している。器表面全体が灰褐色を呈し還元状態の被熱痕跡と思われる。貼付文上に棒状工具による斜位の刻みが施されている。地文は綾線文を伴うLR斜行縄文が施されている。内面はへら状工具の調整が明瞭である。同一個体片がVP-14より出土している。

VF-06 (図IV-54 図版 52-3・4)

位置：AS-29区 検出層位：Vc 規模：41×39×7cm 平面形：不整形

Vb層精査中に焼土を検出し、Vc層上面まで掘り下げ、範囲を確認した。一部不明瞭な部分があったので、焼土範囲を確認するためにトレンチを入れて断面で焼土と確定した。焼土被熱層は4cm。付帯黒色土層を含め7cmの厚さを測る。

VF-07 (図IV-54 図版 52-5・6)

位置：AT-25区 検出層位：Ⅶa 規模：(42)×(33)×5cm 平面形：不明

Ⅶa層上面で確認したため燃焼面層位は不明である。南西部は根跡、南東部は既に掘開されたトレンチによって被熱層範囲を確認できないため、平面形も不明である。

VF-09 (図IV-54 図版 52-7・8)

位置：BF-30区 検出層位：VbL 規模：57×13×3cm 平面形：不整形

V層調査中に確認した。3ヵ所の焼土が連続しており、長軸長が57cmである。いずれもVb層下位が被熱しており、VI層までは届いていない。

VF-11 (図IV-55 72-13~16 図版 53-1・2 96-2-13~16)

位置：AW-26区 検出層位：Vc 規模：75×59×10cm 平面形：不整形

TP-32の埋土上に形成されている。焼土上に土製品が見られ、一部は、TP-32の埋土中にもみられる。TP-32の埋土には、土製品を含む層の上にも他のTピットの掘り上げ土があり、本焼土は、Tピット群が作られる間に構築されたものと思われる。

出土遺物(図IV-72-13~16 図版 96-2-13~16) 13~16は土製品。焼土上面と一部はTピットの覆土上面からも出土した。

VF-12 (図IV-55 図版 53-3・4)

位置：AV-27区 検出層位：VI 規模：40×13×5cm 平面形：不整形

後述するVF-13と隣接して位置する。中央部が根痕で攪乱されているため、本来一つの焼土であったと思われる。VI層上面まで被熱しており、付帯黒色土は伴わない。

VF-13 (図IV-55 図版 53-5・6)

位置：AU-27区 検出層位：VIIa 規模：72×44×4cm 平面形：不整形

VIIa層上面まで被熱している。付帯黒色土は伴わない。

VF-14 (図IV-55 図版 53-7・8)

位置：AV-29区 検出層位：VIIb 規模：(48)×31×7cm 平面形：長楕円形

VH-03の南側、掘り上げ土上に位置する。根痕が焼土を分断している。付帯黒色土は伴わず、VIIb層上面まで被熱している。

VF-15 (図IV-55 図版 54-1・2)

位置：AT-24区 検出層位：VI 規模：(30)×21×11cm 平面形：長楕円形

VH-11より南西に約5mに位置する。北側は根痕によって僅かに攪乱を受けているが、焼土の厚さは11cmと厚い。

VF-16 (図IV-55 図版 54-3・4)

位置：AU-24区 検出層位：VI 規模：59×(27)×10cm 平面形：不整形

TP-24によって、南西側の一部が切られている。色調によって異なるが、焼土層はいずれもVI層の被熱層である。

VF-17 (図IV-55 図版 54-5・6)

位置：AY-28区 検出層位：VI 規模：63×(37)×11cm 平面形：長楕円形

VH-10の南、掘り上げ土の外側に位置する。VIIa層が被熱しており、付帯黒色土は伴わない。

VF-18 (図IV-55)

位置：AV-26区 検出層位：— 規模：32×22×3cm 平面形：不整形

TP-22の覆土上面に形成されている。付帯黒色土は伴わず、覆土上面が被熱している。

VF-19 (図IV-56 図版 54-7・8)

位置：AS-25区 検出層位：VI 規模：50×(22)×12cm 平面形：不整形

VH-11とVSB-06の中間に位置する。焼土範囲を確定するため、トレンチを入れて範囲を確定した。VI層が被熱しており、中央部ほど被熱度が強い。

VF-20 (図IV-56 図版 55-1・2)

位置：AV-25区 検出層位：VI 規模：62×38×5cm 平面形：不整形

後述するVF-21と隣接しており、厚真川の段丘縁に位置する。被熱層が2枚に分かれ、重複している。北側のものが古い。

VF-21 (図IV-56 図版 55-3・4)

位置：AV-25区 検出層位：VI 規模：60×55×4cm 平面形：円形

VF-20の南側に位置し、VI層が被熱している。外側の焼土層(2層)はV層を多く含む。

VF-22 (図IV-56 図 55-5・6)

位置：AT-26区 検出層位：VIIa 規模：49×41×9cm 平面形：円形

VGP-29の南側に位置し、ピット状の掘り込みを伴い、付帯黒色土も確認された。南西側ピットの縁に2点の礫を伴うが、被熱していない。

VF-24 (図IV-56 図版 55-7)

位置：A0-25区 検出層位：VI 規模：37×16×11cm 平面形：長楕円形

VH-08の南西側、VSF-03の南に位置する。掘り込みを伴うが、付帯黒色土は確認できなかった。

VF-25 (図IV-56 図版 55-8)

位置：AU-26区 検出層位：VI 規模：16×6×8cm 平面形：長楕円形

調査区中央部、焼土群の西側に位置する。掘り込みをもつが付帯黒色土は確認できなかった。

VF-26 (図IV-56 図版 56-1・2)

位置：AT-24区 検出層位：VI 規模：21×17×5cm 平面形：円形

VH-11の南西側、VPB-12に隣接する。付帯黒色土は伴わずVI層が被熱している。

VF-27 (図IV-56 図版 56-3・4)

位置：AW-29区 検出層位：VI 規模：25×23×8cm 平面形：円形

VH-10の北東側、掘り上げ土の範囲の外側に位置する。VIIa層まで被熱している。

VF-28 (図IV-56 図版 56-5)

位置：AT-27区 検出層位：VI 規模：29×12×2cm 平面形：長楕円形

調査区中央部、焼土群の西側に位置する。根痕によって攪乱されている。付帯黒色土は伴わず、VI・VIIa層上面が被熱している。

VF-29 (図IV-56 図版 56-6)

位置：BA-28区 検出層位：VI 規模：31×21×6cm 平面形：不整形

調査区南側斜面の上方に位置し、VIIa層が被熱している。周辺に遺構は見られないが、焼土より南は小学校への進入路で削平されており、不明である。

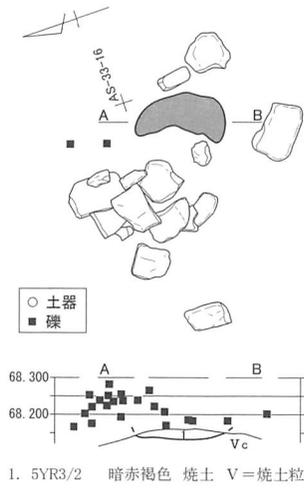
VF-30 (図IV-56 図版 56-7・8)

位置：AE-18区 検出層位：VI 規模：30×26×6cm 平面形：円形

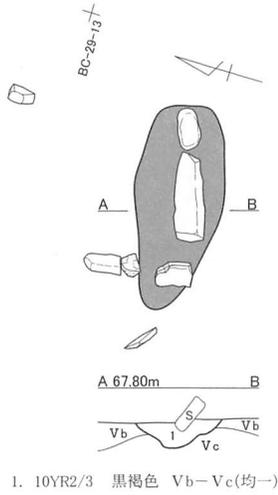
調査区北に位置し、VIIa層上面まで被熱している。

(宮塚・土器：乾)

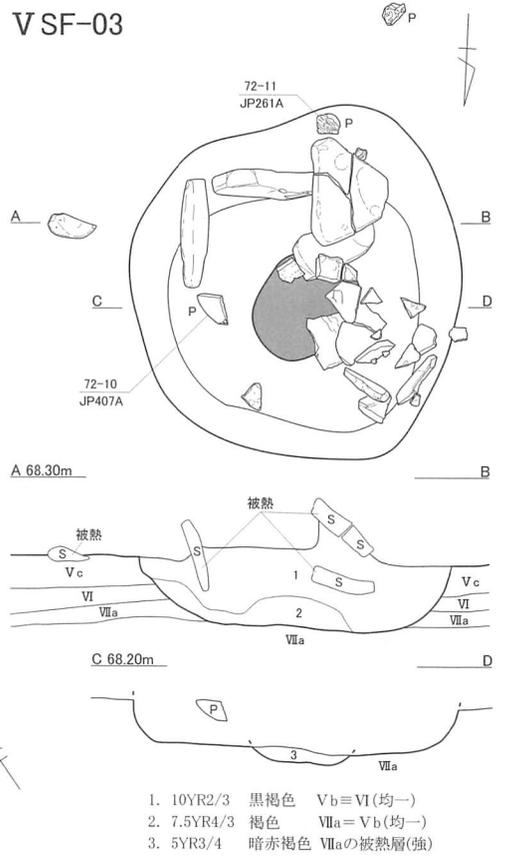
V SF-01



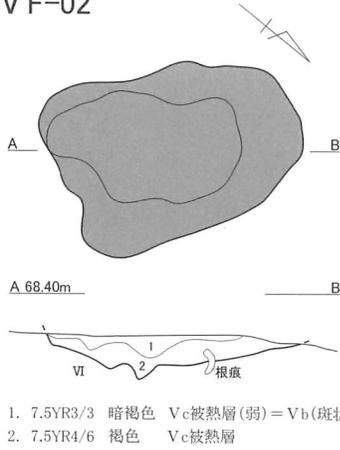
V SF-02



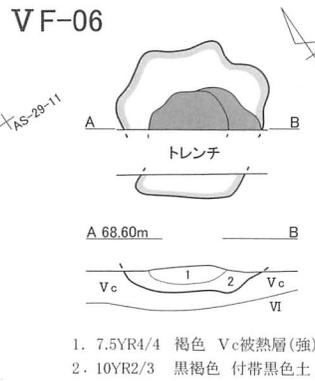
V SF-03



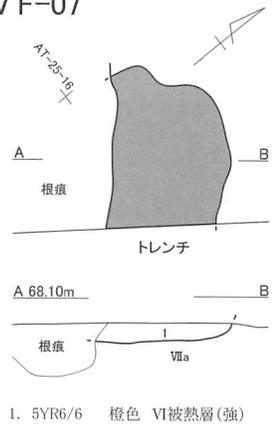
VF-02



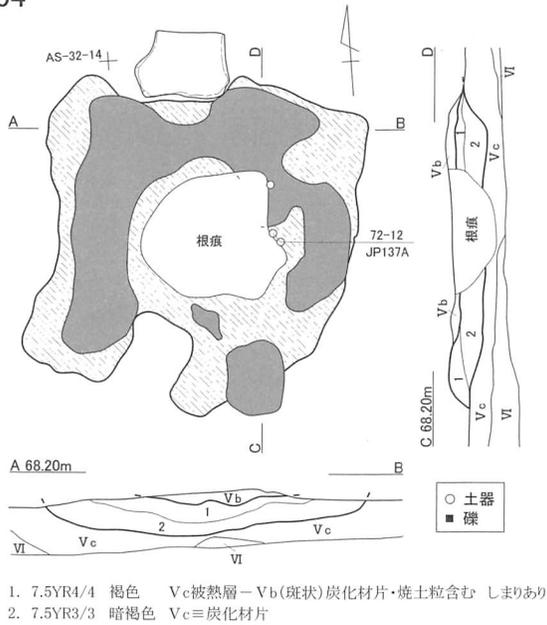
VF-06



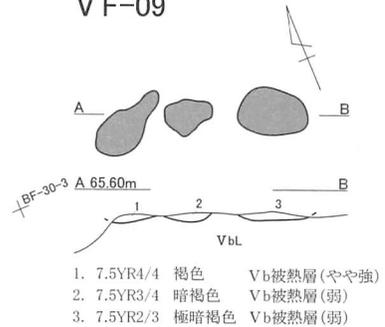
VF-07



VF-04



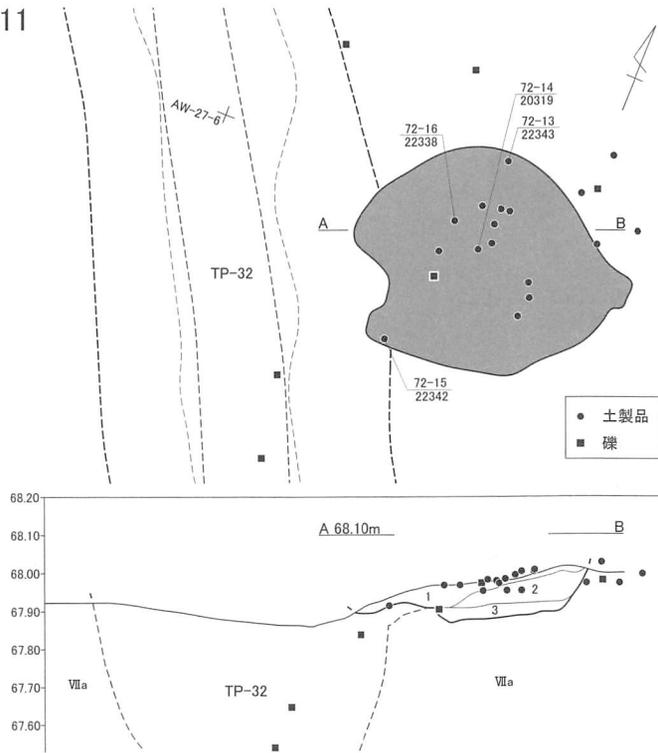
VF-09



0 1 : 20 50cm

図IV-54 V SF-01 ~ 03・VF-02・04・06・07・09 平面及び断面・垂直分布図

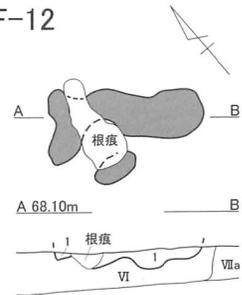
VF-11



VF-11

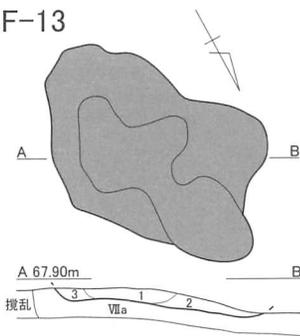
1. 5YR2/3 極暗赤褐色 Vc-焼土層(均一)
2. 5YR4/4 にぶい赤褐色 VI被熱層(強)
3. 5YR6/4 にぶい橙色 VIIa被熱層(弱)

VF-12



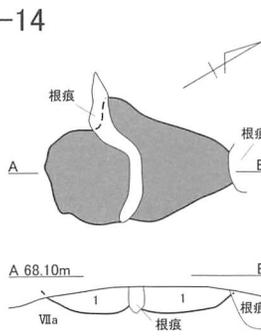
1. 5YR4/4 にぶい赤褐色 VI被熱層(強)

VF-13



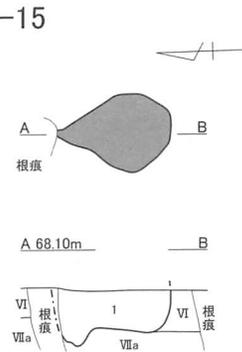
1. 5YR3/4 暗赤褐色 VI被熱層(強) = Vc(均一)
2. 5YR5/6 明赤褐色 VIIa被熱層(強)
3. 5YR4/6 赤褐色 VIIa被熱層(弱)

VF-14



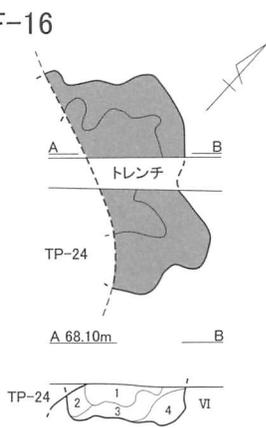
1. 5YR6/6 橙色 VIIa被熱層(強)

VF-15



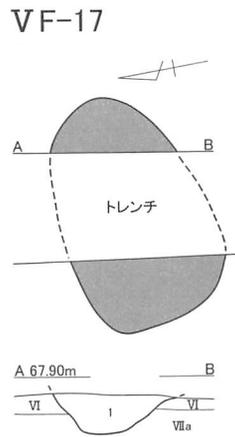
1. 5YR4/8 赤褐色 焼土

VF-16



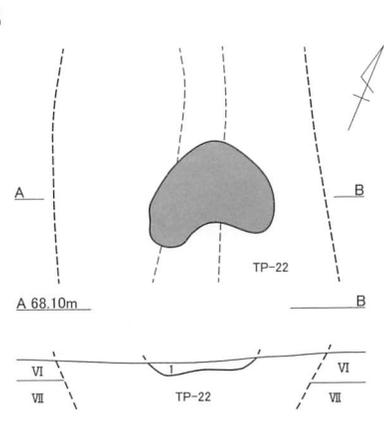
1. 5YR4/4 にぶい赤褐色 VI被熱層(強) = Vc
2. 5YR4/8 赤褐色 VI被熱層(強) = Vc
3. 5YR4/4 にぶい赤褐色 VI被熱層(弱)
4. 5YR3/2 暗赤褐色 VI被熱層(弱) - Vc

VF-17

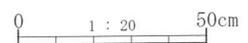


1. 5YR4/6 赤褐色 VIIa被熱層(弱)

VF-18

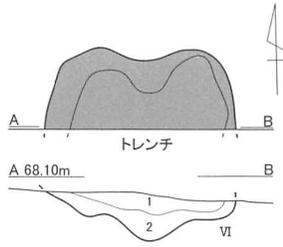


1. 5YR4/4 にぶい赤褐色 TP-22覆土上位被熱層



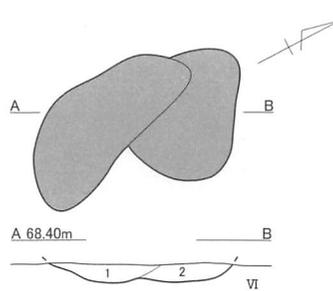
図IV-55 VF-11 ~ 20 平面及び断面図

VF-19



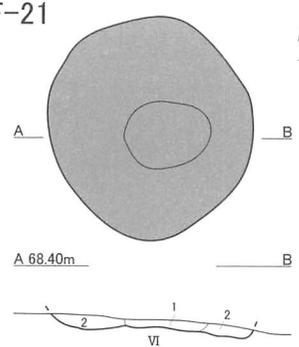
1. 7.5YR4/6 褐色 VI被熟層(強)
2. 7.5YR2/3 極暗褐色 VI被熟層(弱)

VF-20



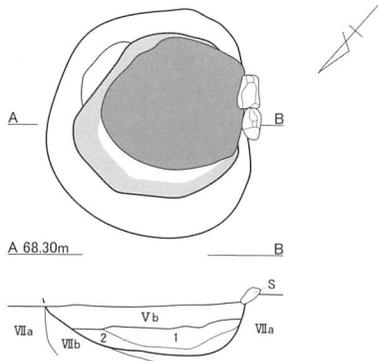
1. 5YR4/4 にぶい赤褐色 VI被熟層(強)
2. 5YR3/2 暗赤褐色 VI被熟層(弱)

VF-21



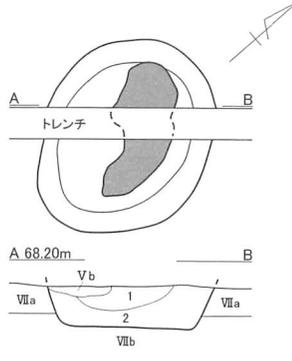
1. 5YR2/3 極暗赤褐色 VI-V被熟層(強)
2. 5YR3/2 暗赤褐色 VI=V被熟層(強)

VF-22



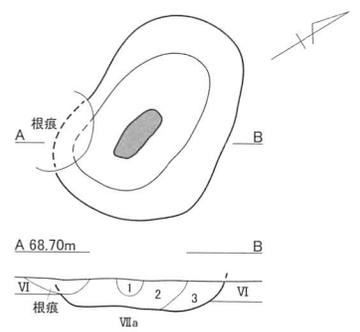
1. 7.5YR4/4 褐色 焼土
2. 7.5YR3/3 暗褐色 V≡VII 付帯黑色土

VF-24



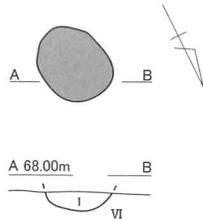
1. 7.5YR5/6 明褐色 Vb被熟層
2. 7.5YR2/1 黒色 V≡VIIa(掘り込み)

VF-25



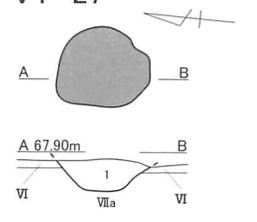
1. 5YR6/6 橙色 VIIa被熟層(強)
2. 7.5YR3/2 黒褐色 Vb=VIIa
3. 7.5YR4/3 褐色 Vb-VIIa

VF-26



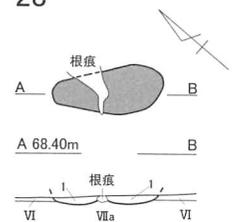
1. 5YR4/6 赤褐色 VI被熟層(強)

VF-27



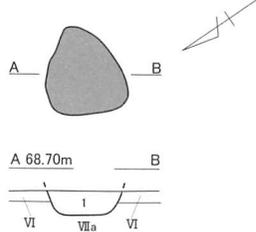
1. 5YR5/8 明赤褐色 VI~VIIa被熟層(強)

VF-28



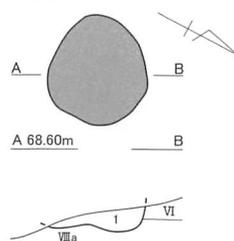
1. 5YR5/6 明赤褐色 VI~VIIa被熟層(強)

VF-29



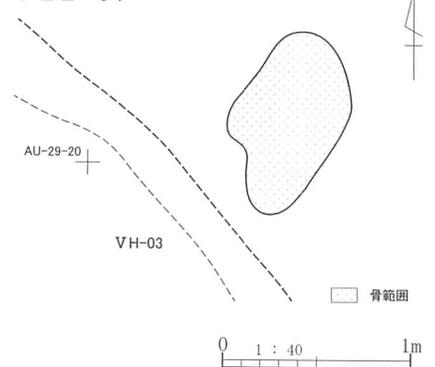
1. 5YR5/4 にぶい赤褐色 VI~VIIa被熟層(強)

VF-30



1. 5YR3/4 暗赤褐色 VI~VIIa被熟層

VBB-01



図IV-56 VF-19 ~ 22・24 ~ 30 平面及び断面図・VBB-01 平面図

第5節 獣骨集中

VBB-01 (図IV-56 図版 73-7)

位置：AU-29区 形状：不整楕円形 規模：99×55cm 検出層位：VbU

Vb層上位調査中に焼骨片の集中を確認した。検出範囲の長軸にトレンチを設けて掘削したが、焼土や灰層は確認できなかった。範囲の記録と土壌サンプルを回収して調査を終了した。

出土遺物 フローテーションの結果、焼骨片 5.36g が採取された。ほかにクルミ 0.08g、炭化物 0.25g、未被熱のフレイク・チップ 4点が出土している。焼骨片はすべてシカである。土器や石器は出土していない。(服部)

第6節 Tピット

平成25年度に調査したTピットは50基で、全て高位段丘上の平坦面で検出された。特筆すべき事項については個別に記載する。

確認・調査 調査に当たってはVI層上面もしくはVIIa層上面まで掘り下げた後、黒色土の落ち込みを確認した。当時の構築面や掘り上げ土を検出・記録できたTピットはない。落ち込みを確認した後、短軸方向に覆土の堆積状態を見るために半截し、堆積状態の撮影・実測を行った。実測終了後、残り半分を調査し、完掘平面形の撮影・実測およびエレベーション測量を行い調査終了とした。坑底面調査時に杭穴を検出した場合、同様の手順によって調査を行った。Tピットの確認面において、黒色土ではなく褐色土～にぶい褐色土の落ち込みを検出したところもあり、これについては堆積状態の項で述べるが、より新しいTピットの掘り上げ土が流入していると思われる。

遺構の調査にあたっては慎重を期したが、掘り過ぎたケースが多数あったことを記しておく。特に半截時の短軸方向の壁面においては掘り過ぎがあった。そのため、平面・断面図においては、掘り過ぎたラインを破線で図示した。掘り過ぎの場合、表IV-10、Tピット属性表の計測値に()を付し、ピット底面の計測が行えなかったものは形態分類を不明とした。

形態分類 Tピットの形態分類は坑底面平面形の長短比及び杭穴の有無を基準とする。厚幌1遺跡(厚真町2004)での分類に従い、8タイプに分けた。

A型：長短比が8以上で、長さに比して幅が狭い溝状のタイプ

A1a型 長軸が2m以上のもの(杭穴なし) A1b型 長軸が2m以上のもの(杭穴あり)

A2a型 長軸が2m未満のもの(杭穴なし) A2b型 長軸が2m未満のもの(杭穴あり)

B型：長短比が4以上、8未満のもので、長楕円形のタイプ

B1型 杭穴がないもの B2型 杭穴があるもの

C型：長短比が4未満のもので、楕円形から円形に近いタイプ

C1型 杭穴がないもの C2型 杭穴があるもの

分類毎検出数は、A1a型が33基、A2a型が6基、B1型が2基、C1型が6基、C2型が1基、坑底面の平面形不明が2基である。

形態 Tピットの上部壁面が崩落によって大きく開くものが多い。これはVII・VIII層ともに軟弱な地盤であることに起因すると考えられる。坑底面は一部のごく浅いもの(TP-08・26・48)を除き、多くの場合、VIIb層やIX層で確認された。

溝状を呈する最も幅が狭い A1a 型は坑底面短軸が 11~31cm であり、幅広な楕円形を呈する C 型は坑底面短軸が 35~61 cm である。A 型と C 型の間にあたる B 型に分類した TP-05・47 は平面形が溝状を呈し、坑底面短軸が 33cm、37cm であった。

T ピットの深さの平均値は、A1a 型で 122cm、A2a 型で 114cm、B1 型で 120cm、C1 型で 97cm である。壁の立ち上がりは、長軸の一方が垂直で他方が開き気味に立ち上がるものが 18 基 (01・04・05・09・10・12・13・16・19・21・22・28・30・31・35・36・40・50)、長軸の一方が垂直ないしは開き、他方が坑底面付近でオーバーハングしているものが 7 基 (02・06・18・20・32・41・43) であった。両方が開き気味に立ち上がるものが 8 基 (08・11・14・26・34・37・45・48)、両方が垂直に立ち上がるものが 13 基 (03・07・15・17・23・24・25・27・29・38・39・42・49) 認められる。不明が 4 基 (33・44・46・47) 平面形態分類と比較すると、A 型の立ち上がり方は、様々であった。絶対数が少ないものの C 型は、オーバーハングするものはなく、立ち上がり方が非対称になることは少ない。

杭穴をもつ T ピットは、TP-50 (C1 型) のみである。杭穴は 4 本確認されており、深さは 12~24cm で、平均値は 19cm である。

堆積状態 T ピットの堆積は、覆土上位に Vb 層が堆積し、覆土中位~下位に壁面の VII 層あるいは VIII 層が互層に堆積していた。また、坑底面直上に 2~4cm の黒色土が堆積している T ピットが多かった。TP-04・19・28・29・32 の上位の覆土は VII 層が主体で、近接する T ピットの掘り上げ土と思われる。なお、TP-19・32 は堆積土層断面の薄層標本を作成した。

出土遺物 (図 IV-72-17~20 図版 96-17~20)

出土状態は覆土上位で出土するものが主体で、稀に覆土中位から下位にかけて出土するものもあり (TP-10・15)、埋没過程に起因する可能性がある。

TP-04 出土の同一個体片 17・18 は II 群 B2 類に分類されるもので、胴部上半に最大径を有し、口唇部が強く外反する。口唇部や口縁部文様帯に絡条体圧痕文が施されている。胴部は多軸絡条体回転文が施文されている。胎土は砂粒を主体に少量の繊維、角礫状の凝灰岩粗粒砂を混じる。TP-07 出土の 19 は II 群 B3 類の無文土器の底部付近の破片資料。包含層からも本群の無文土器が出土している。TP-18 出土の 20 は IV 群 A1 類 a 種の胴部下半の破片資料。縄線文を伴うやや幅広な貼付帯が施されている。地文縄文は撚りの異なる原体で羽状構成をなしている。

分布・配列 T ピットは全て、高位段丘上の平坦面に位置する (標高 67.7~68.5m)。T ピットの配列は以下のとおりである (図 IV-1 参照)。

- ① TP-49 を西端として TP-45・47・46・44・48 が調査区北側に弧状に並ぶ。
- ② TP-09 を西端として TP-12・30・33 が調査区中央部西側に緩い弧状に並ぶ。
- ③ TP-37 を西端として、TP-36・38・39 が調査区中央部東側、厚真川沿いに並ぶ。
- ④ TP-05 を西端として TP-08・16・20・21・22・23・24・27 が 2 列に緩い弧状に並ぶ。
- ⑤ ④の南側に TP-04・26・19・32・28 が弧状に並ぶ。

①は A1a 型と B1 型の T ピットで構成される。東側の TP-48 のみ浅い掘り込みの T ピットである。配列の西側はやや標高が高い地点で、そこから TP-44・48 が位置する沢状地形につながっている。②は A1a 型と A2a 型で構成される。配列は VH-02・07 を避けているように見える。③・④は前述した掘り上げ土の堆積から、時期差をもつ 2 列に分かれる。③・④は VH-10 の地点で列が切れている。A・B 型が等高線に並行する弧状の配列をなすのに対して、C 型には配列

を読み取れず、単独で存在しているものと思われる。

現在までの限られた調査範囲ではあるものの、Tピットの立地は段丘縁辺と段丘内部とに大きく分けられる。Tピットは厚真川側の段丘縁辺において選択的に構築されており、ショロマ川側では、数が少なくなる。また、A型とB型は同一の配列上に位置している。

新旧関係 Tピットが重複している例は確認されなかったが、堆積状態とTピットの位置関係から新旧関係を判断できるものがあった。TP-04・19・28・29・32 の断面で確認された覆土上層のⅦ層主体土から以下の新旧関係が想定される。これらを下記に整理すると、

- ・TP-04 (A1a 型) 古 - 新 TP-05 (B1 型)
- ・TP-19 (A1a 型) 古 - 新 TP-20 (A1a 型)
- ・TP-28 (A1a 型) 古 - 新 TP-23 (A1a 型)
- ・TP-29 (A1a 型) 古 - 新 TP-25 (A1a 型)
- ・TP-32 (A1a 型) 古 - 新 TP-21 (A1a 型) となる。

また、住居跡とTピットの関係から、TP-11 はVH-04 の掘り上げ土範囲内に検出されたが、TP-11 の覆土にVH-04 の掘り上げ土が認められない。VH-04 は縄文前期後葉の住居跡に位置付けられており、楕円形のTピットはより新しい時期のものと思われる。次に、TP-40 はVH-12 の壁面を切っている。また、VH-12 の黒色土落ち込みの検出面において、既にTP-40 のプランを確認しておりVH-12 よりTP-40 は新しいと判断した。TP-05 を西端とする配列④とTP-05 を西端とする配列⑤の2列は縄文時代前期後葉のVH-10 との切り合い関係がなく、途切れており、既に地形的にVH-10 が視認できる廃絶後の凹地等であった可能性がある。TP-09 を西端とする配列②とVH-02 の関係も同様である。これらを下記に整理すると、

- ・VH-04 (前期後半) 古 - 新 TP-11 (C1 型)
- ・VH-10 (前期後葉) 古 - 新 TP-05 他 (配列④)・TP-04 他 (配列⑤)
- ・VH-02 (前期後葉) 古 - 新 TP-09 他 (配列②)
- ・VH-12 (後期初頭) 古 - 新 TP-40 (C1 型) となる。

TP-22 の覆土上部からVF-18 が検出された。また、土製品を伴うVF-11 の縁辺部がTP-32 上端に一部さしかかる重複関係がある。土製品は縄文時代前期に帰属するとされる(工藤 2006)。加えてショロマ 1 遺跡では、大麻V式や円筒下層 d2 式が多く出土していることから、VF-11 は前期後葉に属するものと考えられる。重複部分がそれぞれの遺構の縁辺部なので断言できないが、TP-32 は前期後葉よりも古く位置づけられる可能性もある。TP-24 はVF-16 の西側半分を切っており、TP-24 はVF-16 よりも新しいと思われる。(図IV-54・55 参照)。VF-18・16 の帰属時期は不明である。これらを下記に整理すると、

- ・TP-22 (A1a 型) 古 - 新 VF-18
- ・TP-32 (A1a 型) 古 - 新 VF-11 (前期後葉)
- ・VF-16 古 - 新 TP-24 (A1a 型) となる。

個別記載

TP-07 (A1a 型 図IV-59 図版 58-4・5) 試掘坑底面にて溝状となる平面形を検出したため調査を開始した。試掘坑の南側壁面の土層を確認したところ、Tピットと思われる断面形が確認され、中位～坑底面にはⅦ層が堆積していた。互層堆積が乱れることなく堆積していたため、

当初この土層をプライマリーな堆積と捉え、地割れなどの自然現象が埋没したものと考えていたが(図版 58-8 参照)、V層が微量に混じることや長軸方向の坑底面が水平で、長軸両端の立ち上がりは左右対称形であることからTピットとした。坑底面直上には黒色土の堆積が確認できなかったため、構築後短期間で埋没したものと思われる。堆積状態が特殊であったため、本項で記載した。

TP-11 (C1 型 図IV-60 図版 59-3・4) VI層調査中に黒色土が環状に落ち込む範囲を検出した。半截し断面を確認すると、上位にはV層主体土が堆積していた。平面形は楕円形タイプである。坑底面に杭穴は検出されなかった。VH-04の掘り上げ土分布範囲内に位置するが、掘り上げ土の堆積がTピット内部に見られないことから、VH-04より新しいと考えられる。

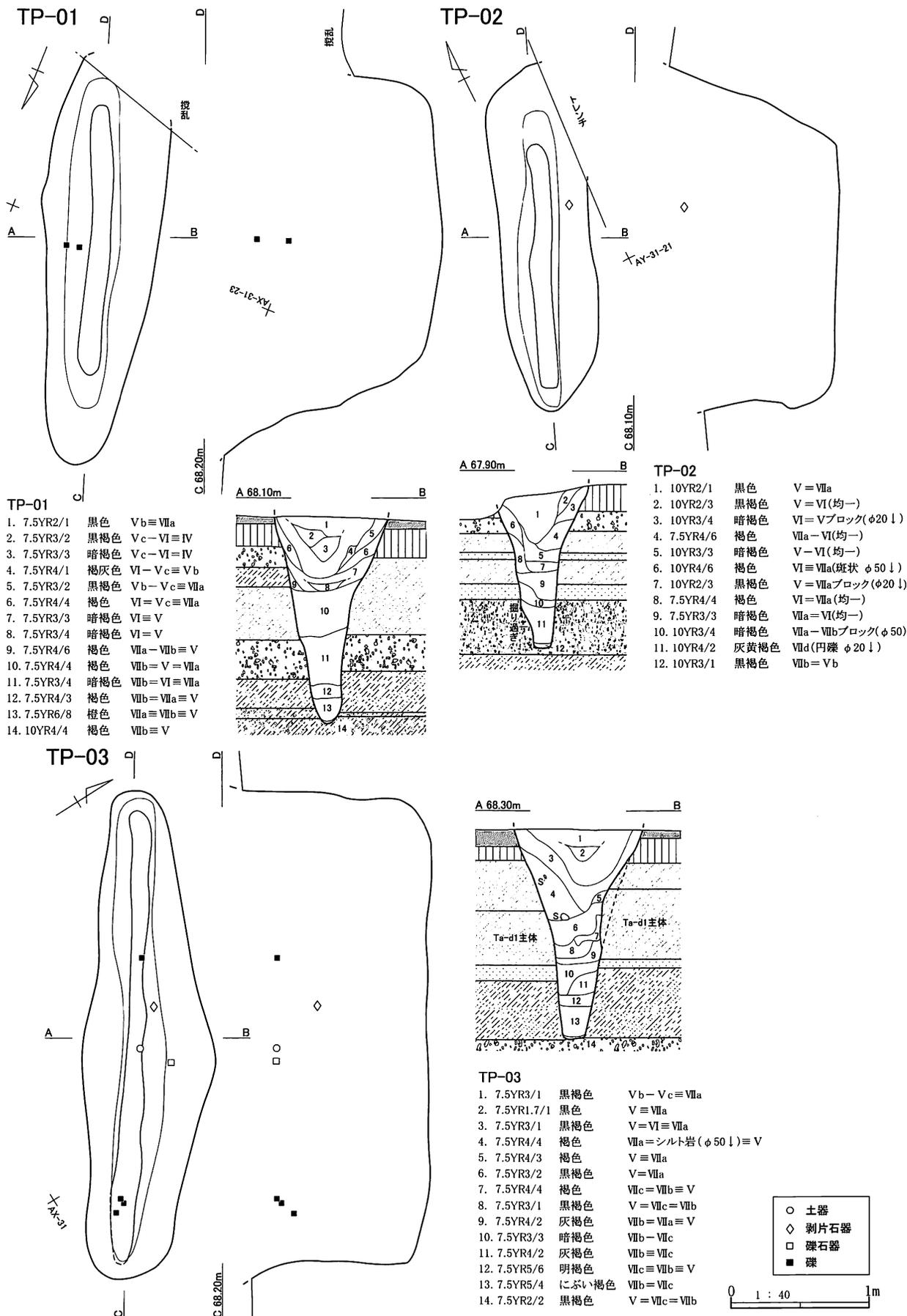
TP-26 (A1a 型 図IV-64 図版 63-1・2) VI層調査中に溝状となる黒色土の落ち込みを検出した。半截すると深さ 27cm の断面が確認された。覆土にはV層主体土が堆積していた。主体的に検出した溝状のTピットの規模と比較すると極めて浅い。地盤は特に堅固であるわけではなく、意図的に浅く掘り込んだものと思われる。本Tピットの北側 1mに位置している深さ 44cm のTP-08と類似する。

TP-29 (A1a 型 図IV-65 図版 64-1・2) VI層調査中に、楕円形となるVII層主体土の落ち込みを検出した。その時点ではすでに近接するTP-25の調査を完了していたため、その掘り上げ土であることを想定し、VII層主体土の輪郭を実測したうえで半截した。中位にはV層主体土、下位にはVIIb層主体土が堆積する。

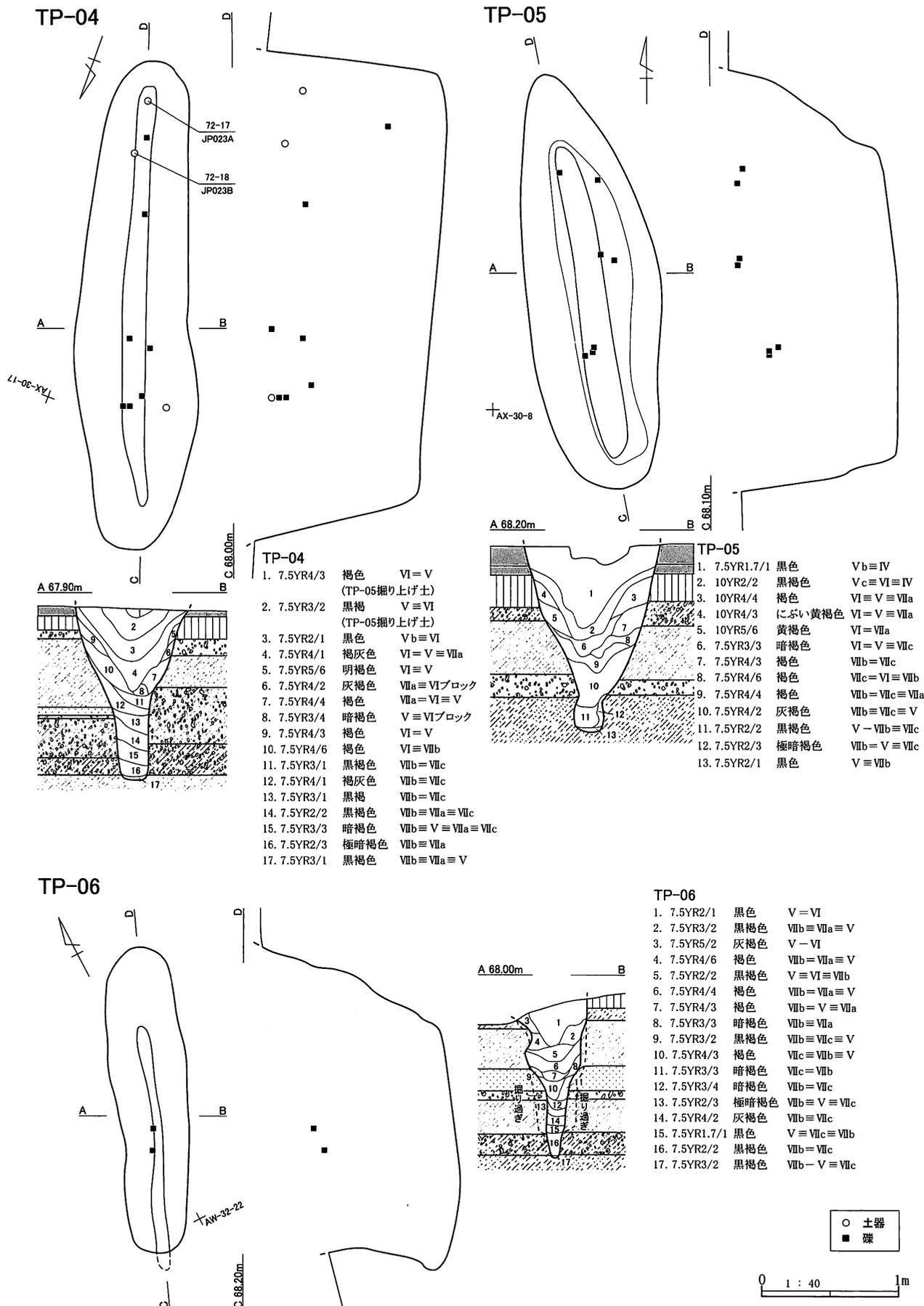
TP-40 (C1 型 図IV-30・69 図版 66-1・2) VH-12の調査において東西方向ベルトトレンチ掘削中、住居跡床面より低い黒色土の落ち込みを確認した(図IV-30)。VH-12と黒色土落ち込みとの関係を堆積状態から検討すると、TP-40掘り上げ土の再流入堆積層と思われる覆土1層はVH-12に切られておらず、TP-40が新しいと判断した。また、VH-12の黒色土落ち込みプラン上にTP-40とほぼ同一プランの暗褐色土(TP-40覆土1層)が明瞭に検出されていたこととも矛盾しない。VH-12を切る新しい遺構と判断したが、既に調査に着手していたため住居跡の調査を優先した。その後、TP-40の調査を行った。半截すると上位にはV層主体土が、中位にはVII層とV層が互層に堆積し、下位にはVII層主体土が堆積していた。平面形は楕円形タイプである。楕円形タイプは新しいタイプとされているが、今回の調査では中期末葉～後期初頭にかけての住居跡を切っていた。

TP-44 (A1a 型 図IV-70 図版 67-3・4) AD・AE-15・16区周辺では、おおよそ北西-南東軸に沢状地形が認められる。沢状地形のもっとも深い地点のVI層調査中に溝状の黒色土の落ち込みを検出した。VIII層まで掘り込まれ、半截すると坑底面からは湧水が確認され、水量が非常に多く坑底面付近の土層を正確に確認することができなかった。覆土は上位から下位にかけてV層主体の黒色から黒褐色土が堆積していた。中位～下位にVII層が互層堆積する他の多くのTピットとは異なり、V層主体土が多く堆積しているのが特徴的であった。立地地点は沢状地形のためV層黒色土の層厚が極めて厚く、開口部の崩落層がV層であったため、このような特異な覆土となったと思われる。また、VIIIb層の壁面は通常赤色～赤褐色であるが、湧水による影響のためか黒色に近く、大きく掘り過ぎたため坑底面による形態分類を行うことができなかったことを付記しておく。

(松井・土器：乾)

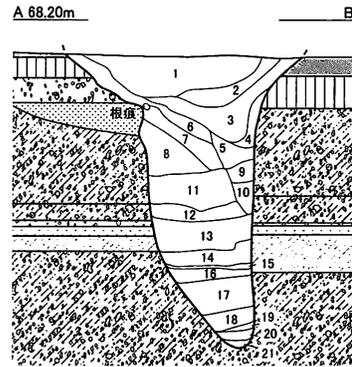
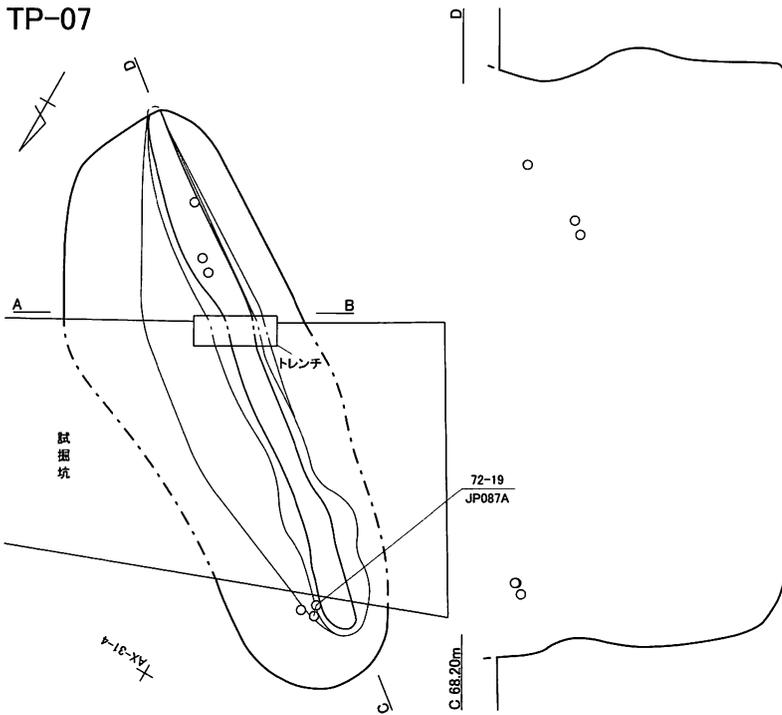


図IV-57 TP-01 ~ 03 平面及び断面図



図IV-58 TP-04 ~ 06 平面及び断面図

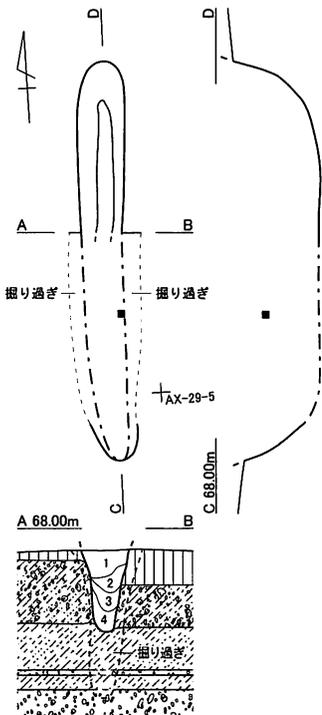
TP-07



TP-07

- | | | |
|--------------|--------|----------------------------|
| 1. 10YR2/1 | 黒色 | V ≡ VIIa |
| 2. 10YR3/4 | 暗褐色 | V = VI ≡ VIIa |
| 3. 10YR2/2 | 黒褐色 | Vc = Vb = VI ≡ VIIa |
| 4. 7.5YR3/4 | 暗褐色 | VIIb = V ≡ VIIa |
| 5. 7.5YR2/2 | 黒褐色 | V = VIIb ≡ VIIa |
| 6. 10YR3/2 | 黒褐色 | V = VI ≡ VIIa |
| 7. 7.5YR4/2 | 灰褐色 | VI ≡ VIIb ≡ VIIa |
| 8. 7.5YR4/3 | 褐色 | VIIa = VIIb ≡ V |
| 9. 7.5YR3/2 | 黒褐色 | VI = VIIc ≡ V |
| 10. 7.5YR4/3 | 褐色 | VIIb ≡ VIIc ≡ V |
| 11. 7.5YR4/4 | 褐色 | VIIa = VIIb |
| 12. 7.5YR4/1 | 褐灰色 | VIIb = VIIc |
| 13. 7.5YR3/1 | 黒褐色 | VIIb ≡ VIIc (壁の崩落土) |
| 14. 7.5YR5/8 | 明褐色 | VIIc (壁の崩落土) |
| 15. 7.5YR4/2 | 灰褐色 | VIIb (壁の崩落土) |
| 16. 7.5YR6/8 | 橙色 | VIIc (壁の崩落土) |
| 17. 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | VIIb = VIIc (壁の崩落土) |
| 18. 10YR5/6 | 黄褐色 | VIIa = VIIb ≡ VIIc (壁の崩落土) |
| 19. 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | VIIa ≡ VIIb ≡ VIIc ≡ V |
| 20. 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | VIIa = VIIb ≡ VIIc |
| 21. 10YR4/1 | 褐灰色 | VIIb = V ≡ VIIa |

TP-08



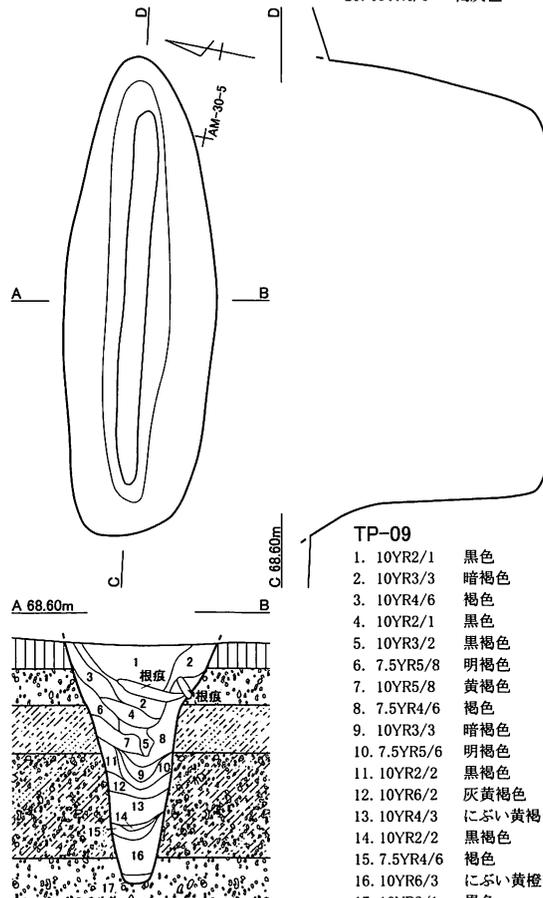
TP-08

- | | | |
|-------------|-----|---------------|
| 1. 7.5YR2/2 | 黒褐色 | V ≡ VI ≡ VIIa |
| 2. 7.5YR3/2 | 黒褐色 | V = VI ≡ VIIa |
| 3. 7.5YR4/6 | 褐色 | VIIa = VI |
| 4. 7.5YR4/4 | 褐色 | VIIa ≡ VI |



0 1 : 40 1m

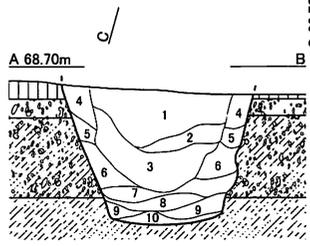
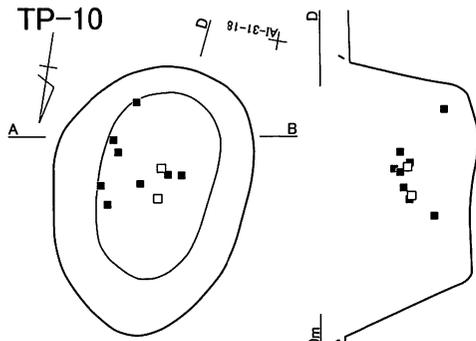
TP-09



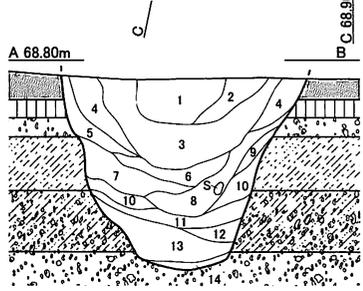
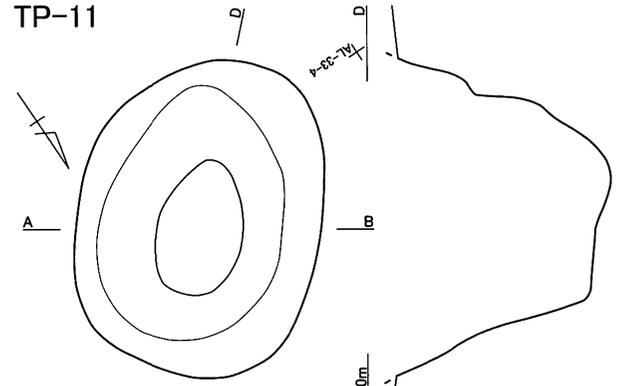
TP-09

- | | | |
|--------------|--------|----------------------|
| 1. 10YR2/1 | 黒色 | V = VIIa (均一 φ 5 ↓) |
| 2. 10YR3/3 | 暗褐色 | V = VIIa (均一 φ 10 ↓) |
| 3. 10YR4/6 | 褐色 | V + VI ≡ VIIa (斑状) |
| 4. 10YR2/1 | 黒色 | V = VIIa (均一 φ 5) |
| 5. 10YR3/2 | 黒褐色 | V = VI (均一) |
| 6. 7.5YR5/8 | 明褐色 | VIIa = V (均一) |
| 7. 10YR5/8 | 黄褐色 | VIIa = VII (均一 φ 5) |
| 8. 7.5YR4/6 | 褐色 | VIIa ≡ VIIb (均一) |
| 9. 10YR3/3 | 暗褐色 | VIIb = V (均一) |
| 10. 7.5YR5/6 | 明褐色 | VIIa ≡ VI (均一) |
| 11. 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb ≡ VIIa (均一) |
| 12. 10YR6/2 | 灰黄褐色 | VIIb |
| 13. 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | VIIb ≡ V (均一) |
| 14. 10YR2/2 | 黒褐色 | V = VIIb (均一) |
| 15. 7.5YR4/6 | 褐色 | VIIb ≡ V (均一) |
| 16. 10YR6/3 | にぶい黄褐色 | VIIb ≡ VIIc (均一) |
| 17. 10YR2/1 | 黒色 | V 層 ≡ VIIb |

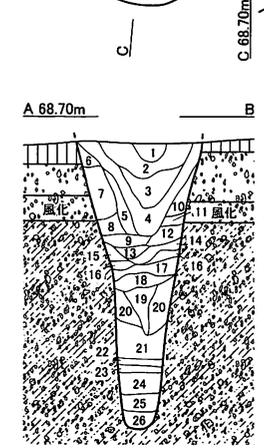
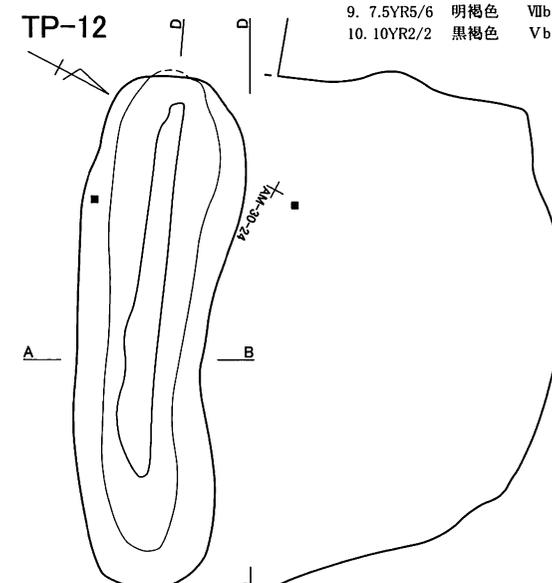
図IV-59 TP-07 ~ 09 平面及び断面図



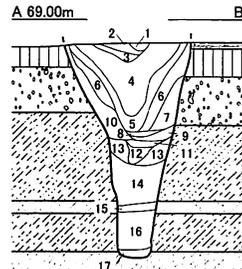
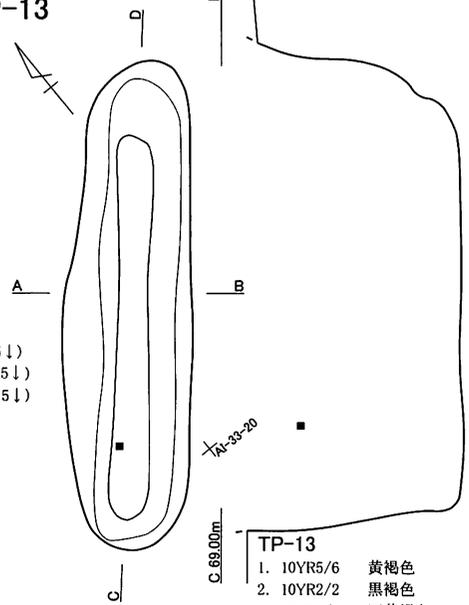
- TP-10**
- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1. 10YR1.7/1 黒色 | V ≡ VIIa(均一) |
| 2. 10YR3/4 暗褐色 | Vb ≡ VIIb(斑状) |
| 3. 10YR2/1 黒色 | Vb ≡ VIIa(均一) |
| 4. 10YR4/4 褐色 | Vc ≡ VIIa(均一) |
| 5. 7.5YR5/8 明褐色 | VIIa ≡ VIIb(均一) |
| 6. 10YR4/3 にぶい黄褐色 | Vc ≡ VIIa(均一 φ 10 ↓) |
| 7. 7.5YR4/6 褐色 | VIIb ≡ VIIa(均一 φ 10 ↓) |
| 8. 10YR2/1 黒色 | Vb ≡ VIIc |
| 9. 7.5YR5/6 明褐色 | VIIb ≡ V(均一) |
| 10. 10YR2/2 黒褐色 | Vb ≡ VIIb(均一) |



- TP-11**
- | | | | |
|----------------|----------------------|--------------------|---------------------|
| 1. 10YR2/2 黒褐色 | V = VIIa(均一) | 8. 10YR2/1 黒色 | V ≡ VIIc(均一) |
| 2. 10YR2/3 黒褐色 | VIIa = V(均一) | 9. 10YR4/6 褐色 | VIIb + VIIa = V(均一) |
| 3. 10YR2/1 黒色 | Vb ≡ VIIa(均一) | 10. 10YR5/4 にぶい黄褐色 | VIIb - VIIc(均一) |
| 4. 10YR3/4 暗褐色 | Vc = VIIa(均一 φ 10 ↓) | 11. 10YR2/1 黒色 | V = VIIc(均一) |
| 5. 7.5YR4/6 褐色 | VI = VIIa(均一 φ 10 ↓) | 12. 10YR3/4 暗褐色 | VIIb = VIIa(均一) |
| 6. 10YR4/4 褐色 | VIIb = VIIc(均一) | 13. 10YR5/6 黄褐色 | VIIb - VIIc(均一) |
| 7. 10YR4/4 褐色 | VIIb = VIIc(均一) | 14. 10YR2/2 黒褐色 | V ≡ VIIb(均一) |



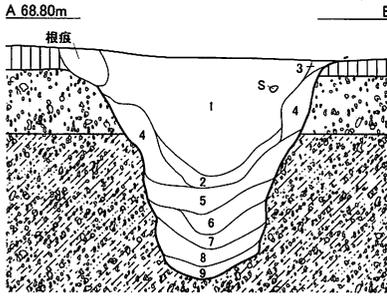
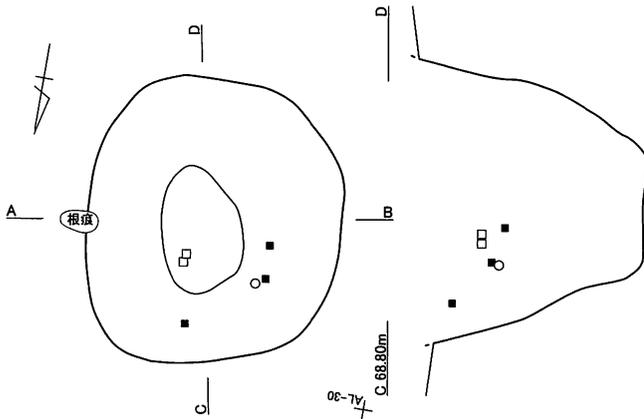
- TP-12**
- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 10YR2/3 黒褐色 | V = VIIa(均一 φ 5 ↓) |
| 2. 10YR2/1 黒色 | Vb ≡ VIIa(均一 φ 5 ↓) |
| 3. 10YR2/2 黒褐色 | Vc ≡ VIIa(均一 φ 5 ↓) |
| 4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 | V = VIIa(均一) |
| 5. 10YR4/6 褐色 | V ≡ VIIc(均一) |
| 6. 10YR3/1 黒褐色 | V ≡ VIIa(均一) |
| 7. 10YR7/6 明黄褐色 | VIIa 崩落層 |
| 8. 10YR4/3 にぶい黄褐色 | VIIa + VIIb |
| 9. 10YR4/2 灰黄褐色 | V ≡ VIIa(均一) |
| 10. 10YR5/6 黄褐色 | VIIa ≡ VIIc(均一) |
| 11. 10YR4/3 にぶい黄褐色 | V = VIIc(均一) |
| 12. 10YR3/2 黒褐色 | V ≡ VIIa(均一) |
| 13. 10YR4/4 褐色 | V = VIIa(均一) |
| 14. 7.5YR5/8 明褐色 | VIIa 崩落層 |
| 15. 10YR3/1 黒褐色 | VIIb 崩落層 |
| 16. 10YR5/3 にぶい黄褐色 | VIIc 崩落層 |
| 17. 10YR4/2 灰黄褐色 | V = VIIb(均一) |
| 18. 10YR3/1 黒褐色 | V = VIIb(均一) |
| 19. 10YR5/8 黄褐色 | VIIc = V(均一) |
| 20. 10YR5/2 灰黄褐色 | VIIb ≡ VIIc(均一) |
| 21. 10YR7/6 明黄褐色 | VIIb 崩落層 |
| 22. 10YR3/2 黒褐色 | V = VIIb(均一) |
| 23. 10YR7/6 明黄褐色 | V = VIIb(均一) |
| 24. 10YR4/2 灰黄褐色 | V - VIIb(均一) |
| 25. 10YR4/3 にぶい黄褐色 | VIIb = V(均一) |
| 26. 10YR3/2 黒褐色 | V = VIIb |



- TP-13**
- | | |
|--------------------|----------------------------------|
| 1. 10YR5/6 黄褐色 | VI = V(斑状) |
| 2. 10YR2/2 黒褐色 | V = VI(均一) |
| 3. 10YR4/2 灰黄褐色 | V - VI(均一) |
| 4. 10YR2/1 黒色 | V = VI(斑状) |
| 5. 10YR2/2 黒褐色 | V - VI(均一) |
| 6. 10YR2/2 黒褐色 | VIIb = V(斑状) |
| 7. 10YR5/6 黄褐色 | VIIb = V(斑状) |
| 8. 10YR2/2 黒褐色 | V - VI(斑状) |
| 9. 10YR3/3 暗褐色 | VIIb 崩落層 |
| 10. 10YR3/4 暗褐色 | VI = V(斑状) |
| 11. 10YR2/1 黒色 | VIIb - (V斑状) |
| 12. 10YR5/6 黄褐色 | VI 崩落層 |
| 13. 10YR3/4 暗褐色 | VIIb ≡ V |
| 14. 10YR4/3 にぶい黄褐色 | VIIb(φ 10 ~ 20) = VIIc(均一 φ 5 ↓) |
| 15. 10YR3/2 黒褐色 | VIIb = V(均一) |
| 16. 10YR3/4 暗褐色 | VIIb 崩落層 |
| 17. 10YR2/1 黒色 | V = VIIb(均一) |

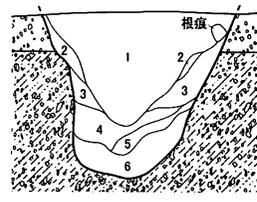
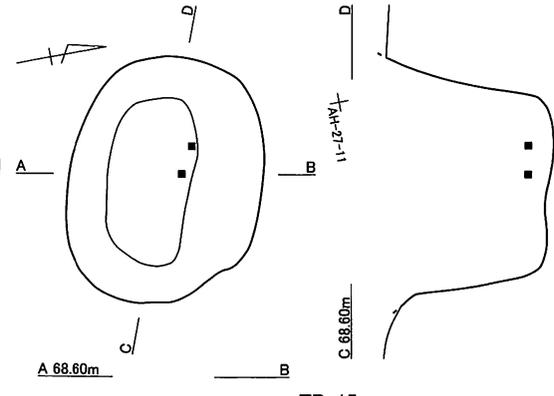
図IV-60 TP-10 ~ 13 平面及び断面図

TP-14



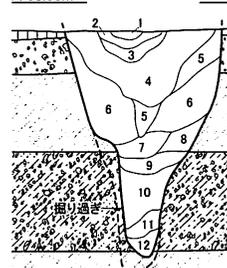
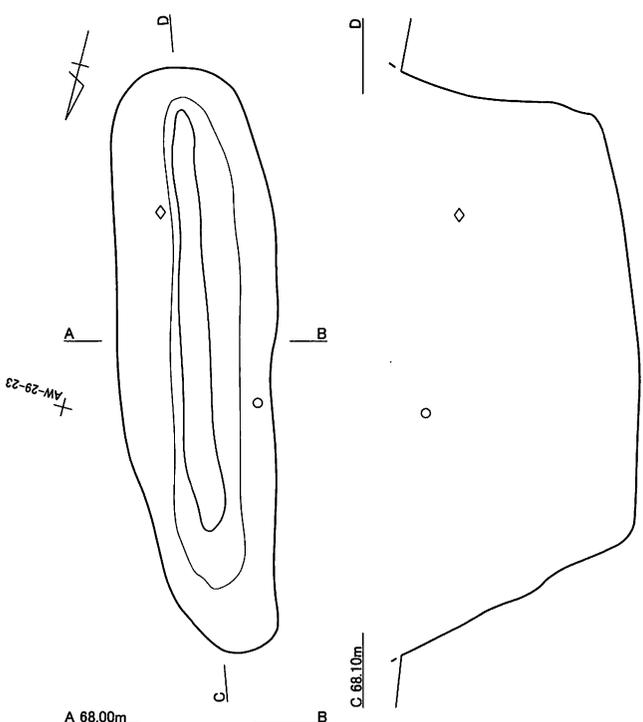
- TP-14**
- | | | |
|-------------|-----|---------------------------|
| 1. 10YR2/2 | 黒褐色 | V ≡ VIIb (均一) |
| 2. 7.5YR3/4 | 暗褐色 | V ≡ VIIa (均一) |
| 3. 10YR4/1 | 褐灰色 | V = VI (均一) |
| 4. 7.5YR6/6 | 橙色 | VIIa 崩落層 |
| 5. 7.5YR5/6 | 明褐色 | VIIa ≡ V (斑状) |
| 6. 10YR4/6 | 褐色 | VIIb = V (均一) |
| 7. 10YR2/1 | 黒色 | V ≡ VIIa (斑状) |
| 8. 7.5YR4/3 | 褐色 | VIIb ≡ VIIa (均一) = V (均一) |
| 9. 7.5YR3/3 | 暗褐色 | VIIb = V (均一) |

TP-15



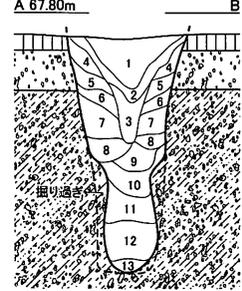
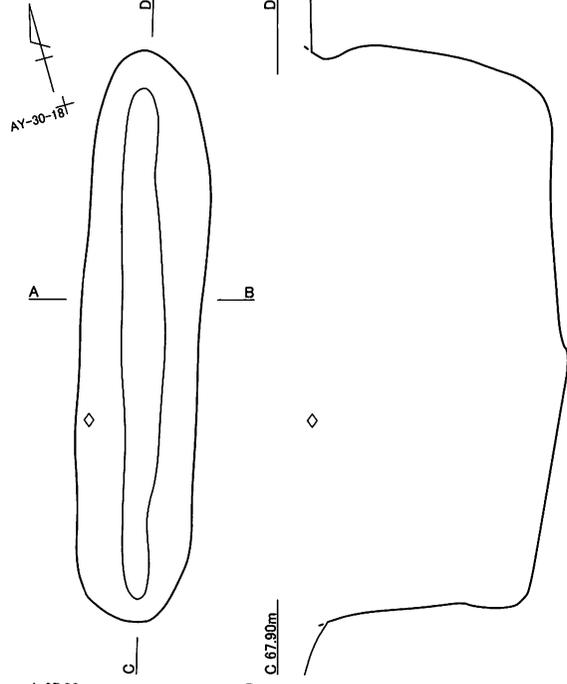
- TP-15**
- | | | |
|-------------|-------|---------------------------|
| 1. 10YR3/2 | 黒褐色 | V - VIIb (均一) |
| 2. 7.5YR4/6 | 褐色 | VIIa ≡ V (均一) |
| 3. 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | VIIb ≡ V (斑状) |
| 4. 7.5YR3/4 | 暗褐色 | VIIb = V (均一) |
| 5. 7.5YR4/4 | 褐色 | VIIb = V (均一) ≡ VIIa (斑状) |
| 6. 7.5YR3/3 | 暗褐色 | V = VIIb (均一) |

TP-16

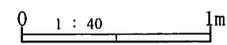
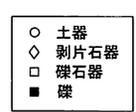


- TP-16**
- | | | |
|--------------|--------|------------------|
| 1. 7.5YR6/4 | にぶい橙色 | V = VIIb・VI (均一) |
| 2. 7.5YR2/2 | 黒褐色 | V ≡ VIIb (均一) |
| 3. 7.5YR4/4 | 褐色 | V - VIIb (均一) |
| 4. 7.5YR2/2 | 黒褐色 | V = VIIb (均一) |
| 5. 7.5YR3/4 | 暗褐色 | V = VI (均一) |
| 6. 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | VIIa ≡ V (斑状) |
| 7. 7.5YR2/2 | 黒褐色 | V ≡ VIIb (均一) |
| 8. 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | VIIb = V (均一) |
| 9. 7.5YR4/6 | 褐色 | VIIc = V (均一) |
| 10. 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | VIIb = V (斑状) |
| 11. 10YR4/2 | 灰黄褐色 | VIIb ≡ VIIc (斑状) |
| 12. 7.5YR3/2 | 黒褐色 | V ≡ VIIa (均一) |

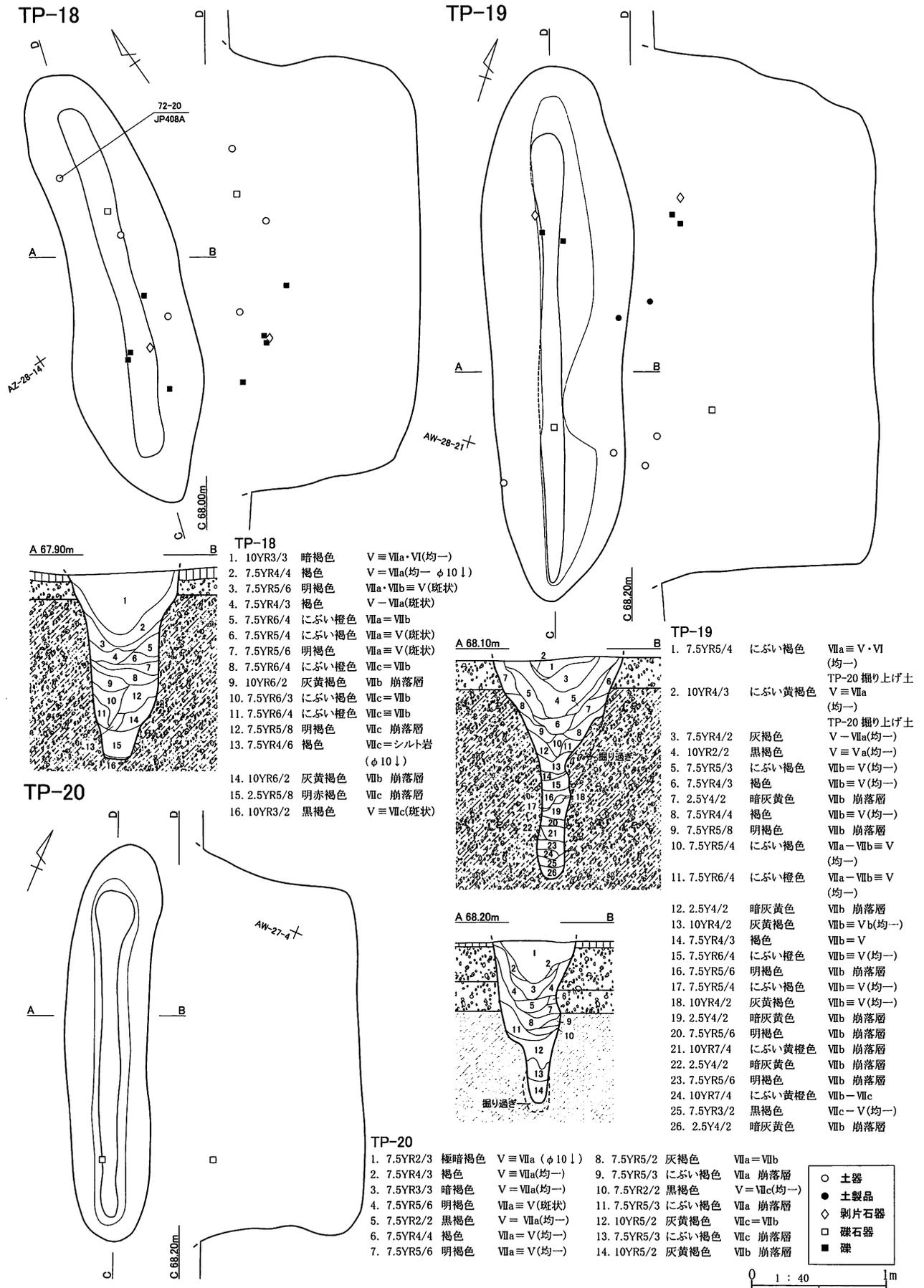
TP-17



- TP-17**
- | | | |
|--------------|--------|--------------------|
| 1. 10YR2/3 | 黒褐色 | V ≡ VI (均一) |
| 2. 10YR5/6 | 黄褐色 | V = VIIa・VI (均一) |
| 3. 7.5YR4/3 | 褐色 | V = VIIa (均一) |
| 4. 10YR4/4 | 褐色 | V ≡ VIIa・VI (均一) |
| 5. 7.5YR4/4 | 褐色 | VIIa = V (斑状) |
| 6. 7.5YR3/4 | 暗褐色 | VIIa = V (均一) |
| 7. 7.5YR6/6 | 橙色 | VIIc 崩落層 |
| 8. 7.5YR5/3 | にぶい褐色 | VIIc・VIIb = V (均一) |
| 9. 7.5YR4/2 | 灰褐色 | V ≡ VIIc・VIIb (均一) |
| 10. 7.5YR5/3 | にぶい褐色 | VIIc = VIIb (均一) |
| 11. 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | VIIb = VIIc (均一) |
| 12. 10YR5/2 | 灰黄褐色 | VIIb 崩落層 |
| 13. 10YR3/2 | 黒褐色 | V - VIIb (均一) |

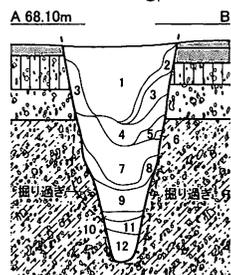
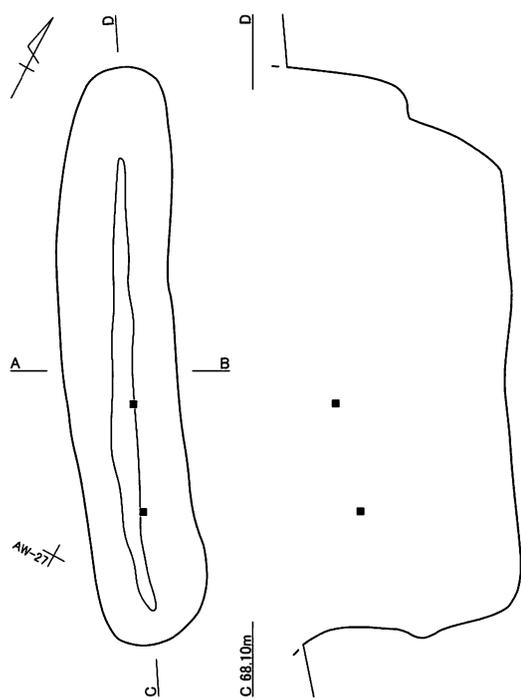


図IV-61 TP-14 ~ 17 平面及び断面図



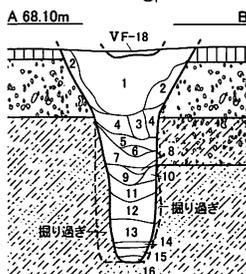
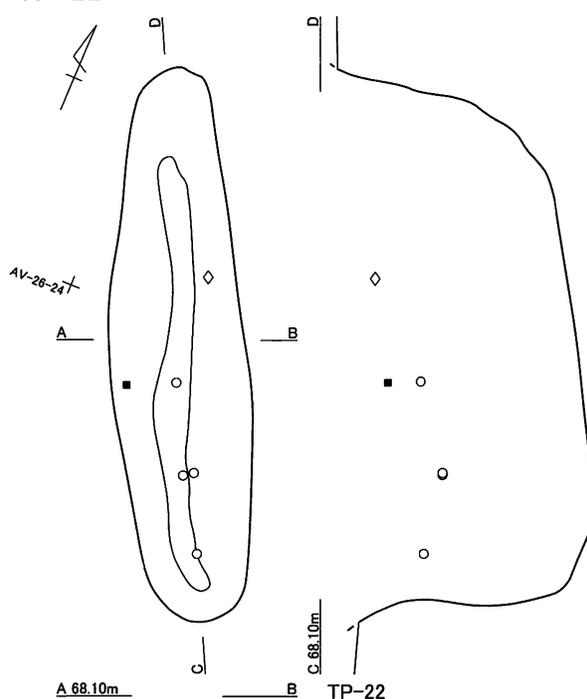
図IV-62 TP-18 ~ 20 平面及び断面図

TP-21



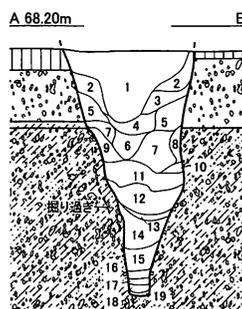
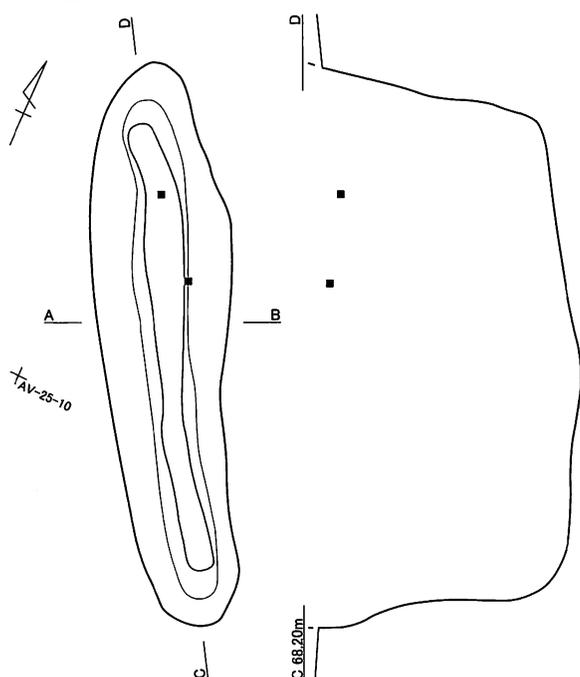
- TP-21**
- | | | |
|--------------|--------|-------------------------|
| 1. 10YR3/2 | 黒褐色 | V ≡ VIIa(斑状) |
| 2. 7.5YR4/6 | 褐色 | VIIb = V(均一) |
| 3. 7.5YR5/6 | 明褐色 | VIIa 崩落層 |
| 4. 7.5YR6/4 | にぶい橙色 | VIIa 崩落層 |
| 5. 10YR6/6 | 明黄褐色 | VIIb ≡ VIIa(均一) |
| 6. 7.5YR5/3 | にぶい褐色 | VIIa 崩落層 |
| 7. 7.5YR4/3 | 褐色 | V - VIIa(均一) = VIIa(均一) |
| 8. 7.5YR6/4 | にぶい橙色 | VIIa = V(均一) |
| 9. 7.5YR4/6 | 褐色 | VIIb = V(均一) |
| 10. 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | VIIb 崩落層 |
| 11. 7.5YR4/6 | 褐色 | VIIb = V(均一) |
| 12. 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | VIIb 崩落層 |

TP-22

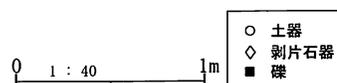


- TP-22**
- | | | |
|-------------|--------|-----------------|
| 1. 7.5YR3/2 | 黒褐色 | V ≡ VIIa(均一) |
| 2. 7.5YR4/6 | 褐色 | VIIa = V(斑状) |
| 3. 7.5YR3/3 | 暗褐色 | V ≡ VIIa |
| 4. 7.5YR5/8 | 明褐色 | VIIa 崩落層 |
| 5. 7.5YR4/4 | 褐色 | V + VIIa(均一) |
| 6. 7.5YR5/6 | 明褐色 | VIIa = V |
| 7. 7.5YR3/4 | 暗褐色 | V = VIIc(均一) |
| 8. 7.5YR5/6 | 明褐色 | VIIc 崩落層 |
| 9. 7.5YR3/4 | 暗褐色 | V = VIIc(均一) |
| 10. 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | VIIc + VIIb(均一) |
| 11. 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | VIIc = VIIb(均一) |
| 12. 10YR3/4 | 暗褐色 | V = VIIb(均一) |
| 13. 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | VIIc + VIIb(均一) |
| 14. 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | VIIc = VIIb(均一) |
| 15. 10YR3/4 | 暗褐色 | V = VIIb(均一) |
| 16. 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | VIIc = VIIb(均一) |

TP-23

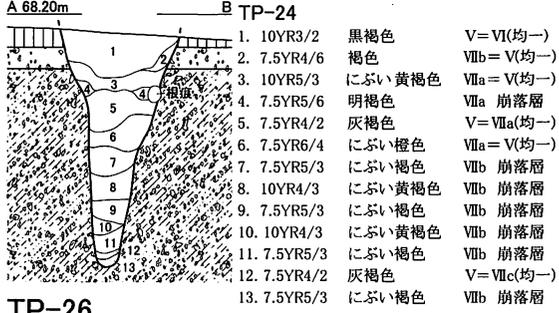
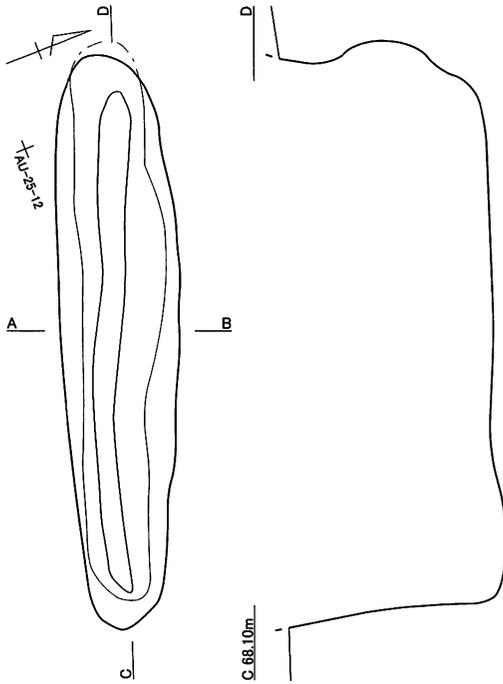


- TP-23**
- | | | |
|--------------|-------|--------------|
| 1. 10YR3/3 | 暗褐色 | V ≡ VIIa(均一) |
| 2. 7.5YR4/3 | 褐色 | VIIa = V(均一) |
| 3. 7.5YR5/6 | 明褐色 | VIIa ≡ V(均一) |
| 4. 7.5YR6/6 | 橙色 | VIIa 崩落層 |
| 5. 7.5YR3/2 | 黒褐色 | V = VIIa(均一) |
| 6. 7.5YR6/2 | 灰褐色 | VIIb = V |
| 7. 7.5YR5/3 | にぶい褐色 | VIIa - VIIb |
| 8. 10YR5/2 | 灰黄褐色 | VIIb 崩落層 |
| 9. 7.5YR4/4 | 褐色 | VIIb = V |
| 10. 10YR5/2 | 灰黄褐色 | VIIb 崩落層 |
| 11. 7.5YR3/1 | 黒褐色 | V ≡ VIIb(均一) |
| 12. 7.5YR5/3 | にぶい褐色 | VIIc - VIIb |
| 13. 7.5YR3/3 | 暗褐色 | V ≡ VIIb(均一) |
| 14. 7.5YR5/3 | にぶい褐色 | VIIc - VIIb |
| 15. 7.5YR4/2 | 灰褐色 | VIIb 崩落層 |
| 16. 10YR3/3 | 暗褐色 | V = VIIb(均一) |
| 17. 7.5YR4/2 | 灰褐色 | VIIb 崩落層 |
| 18. 10YR3/3 | 暗褐色 | V ≡ VIIb(均一) |
| 19. 7.5YR4/2 | 灰褐色 | VIIb 崩落層 |

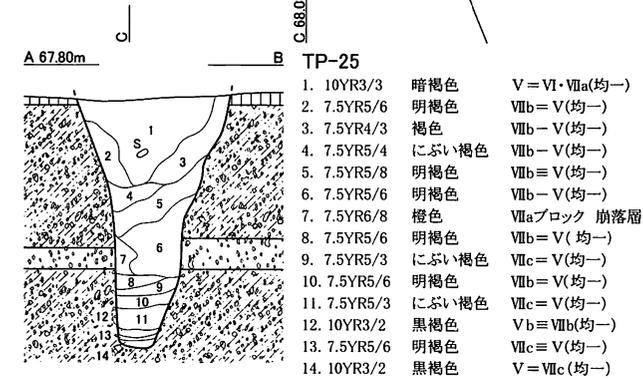
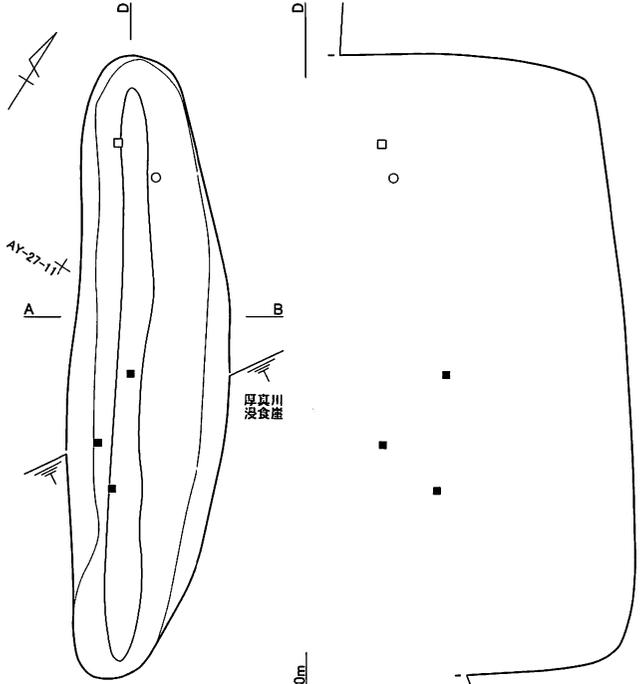


図IV-63 TP-21 ~ 23 平面及び断面図

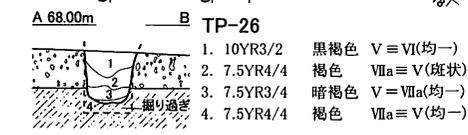
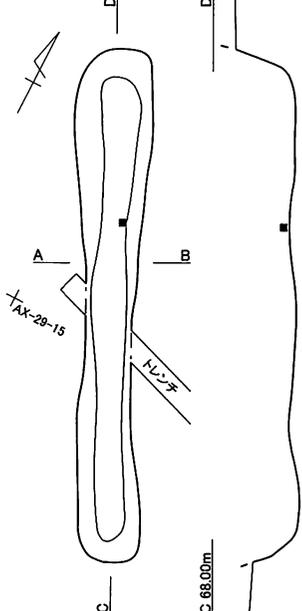
TP-24



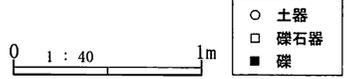
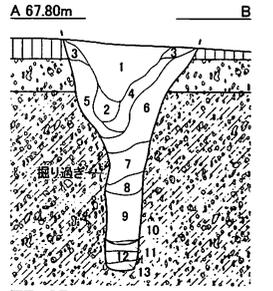
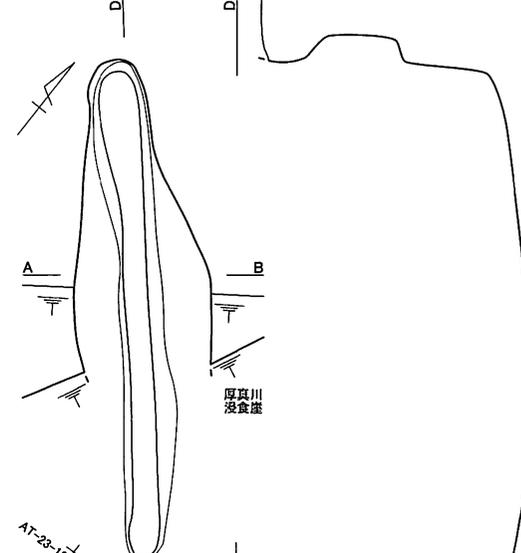
TP-25



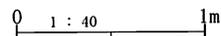
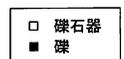
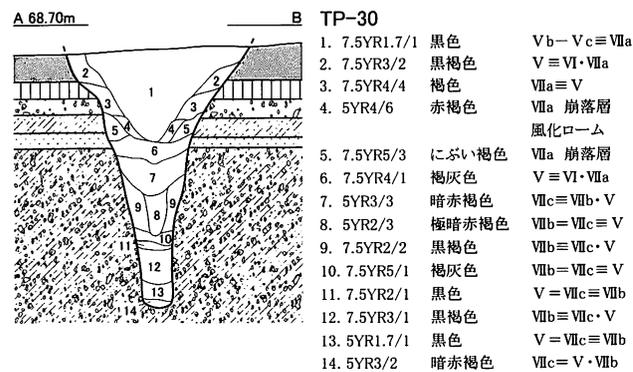
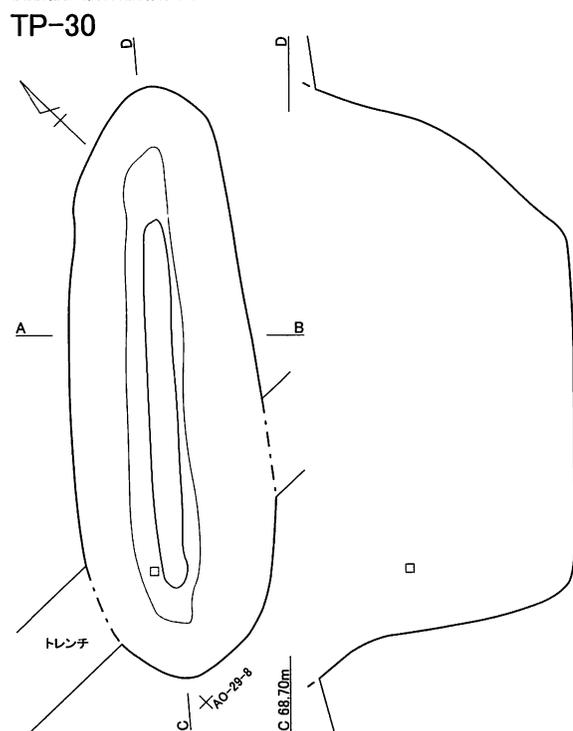
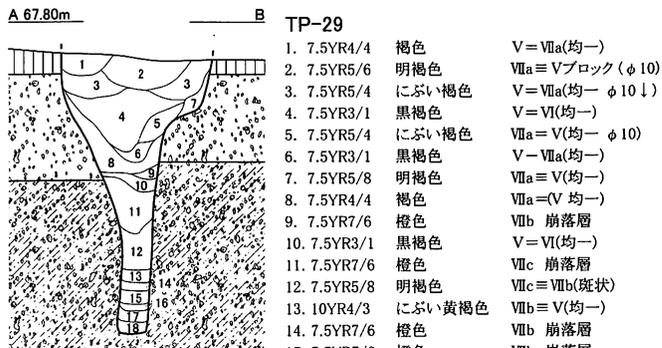
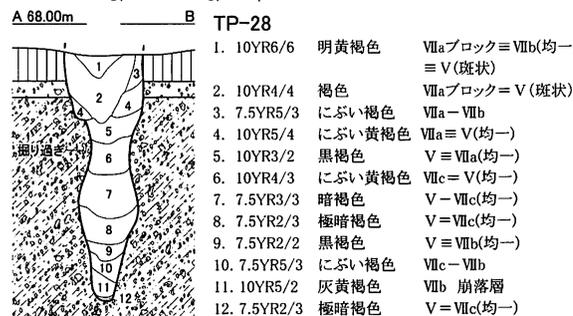
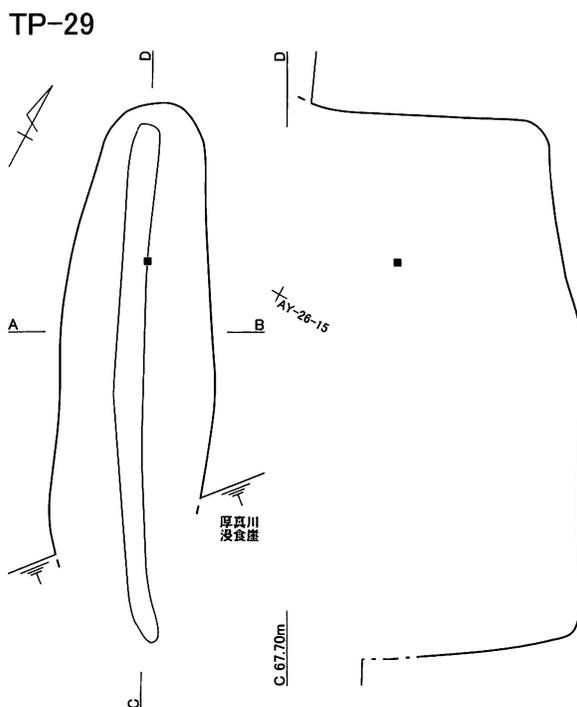
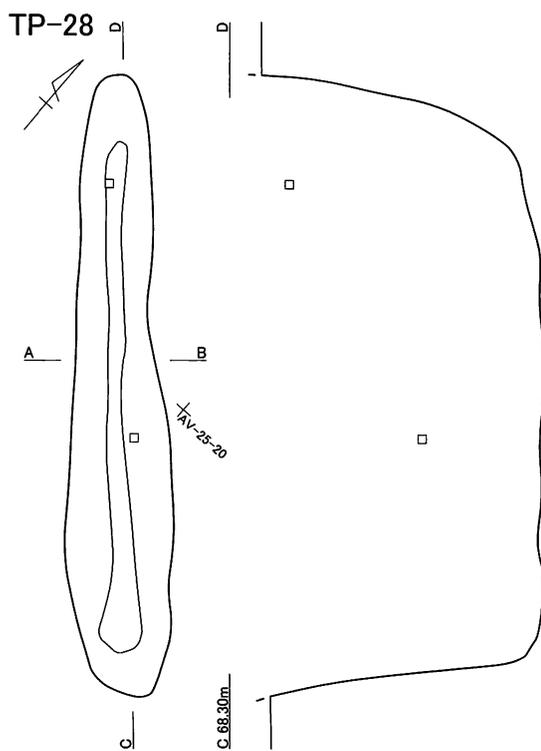
TP-26



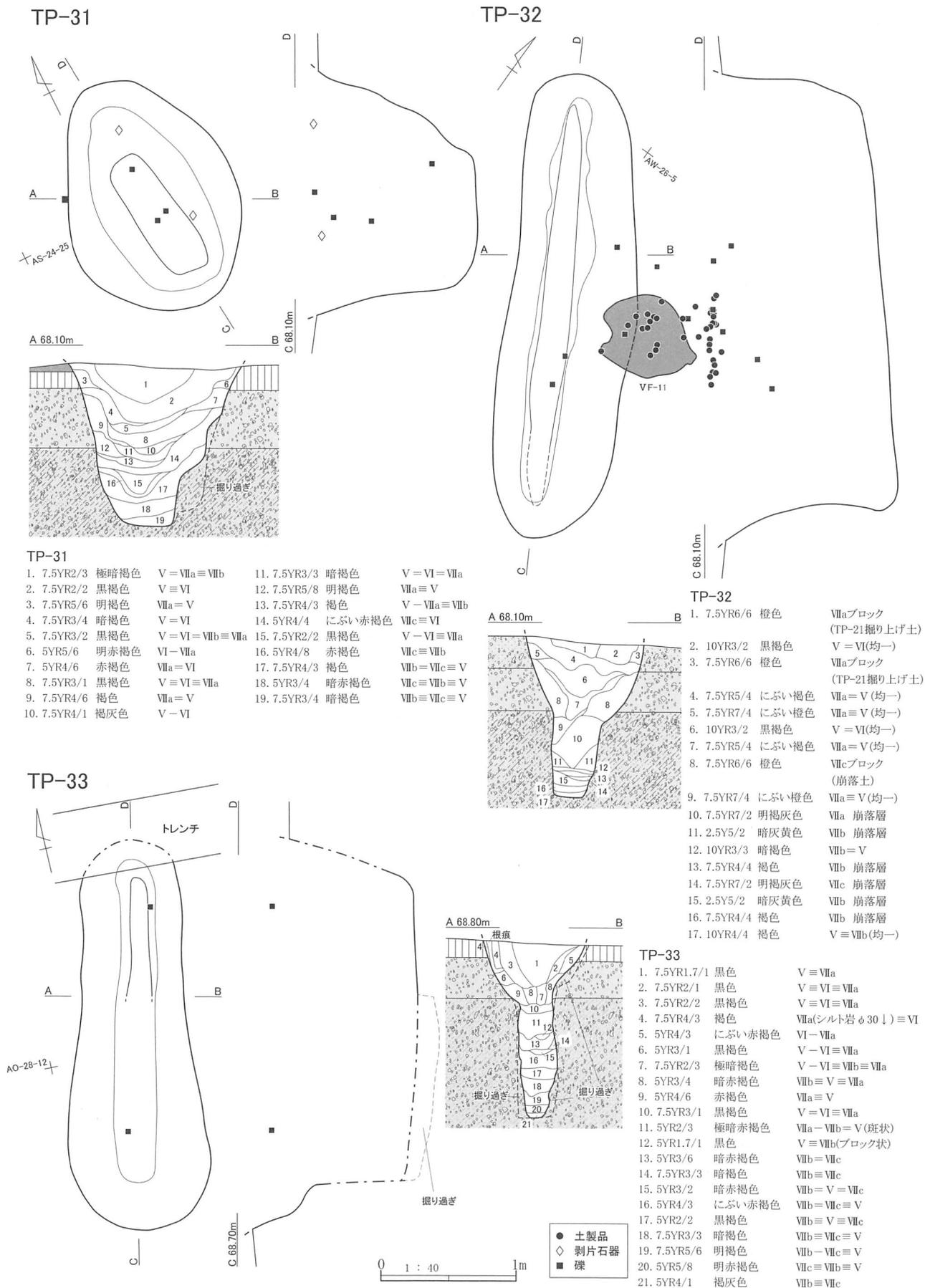
TP-27



図IV-64 TP-24～27 平面及び断面図

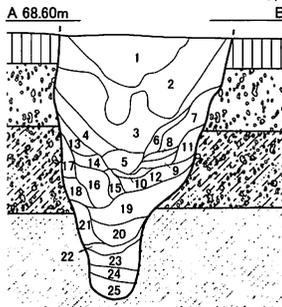
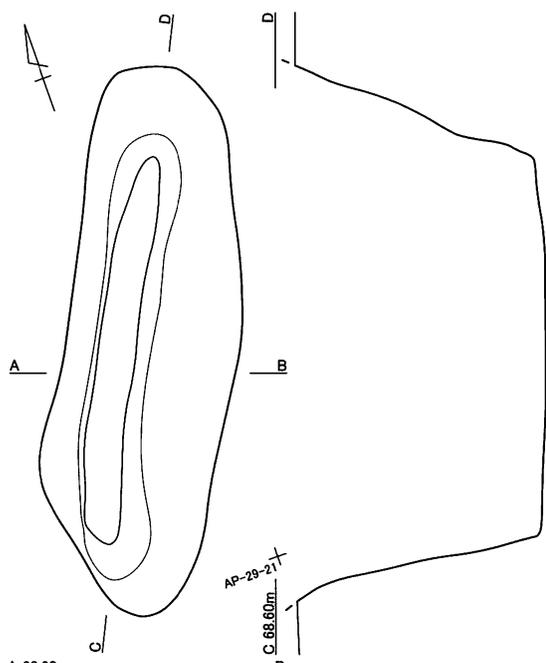


図IV-65 TP-28 ~ 30 平面及び断面図



図IV-66 TP-31 ~ 33 平面及び断面図

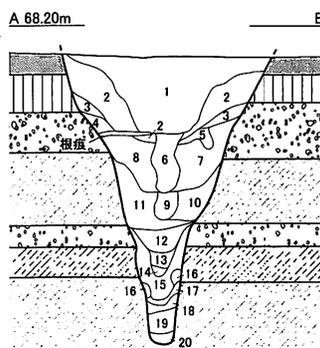
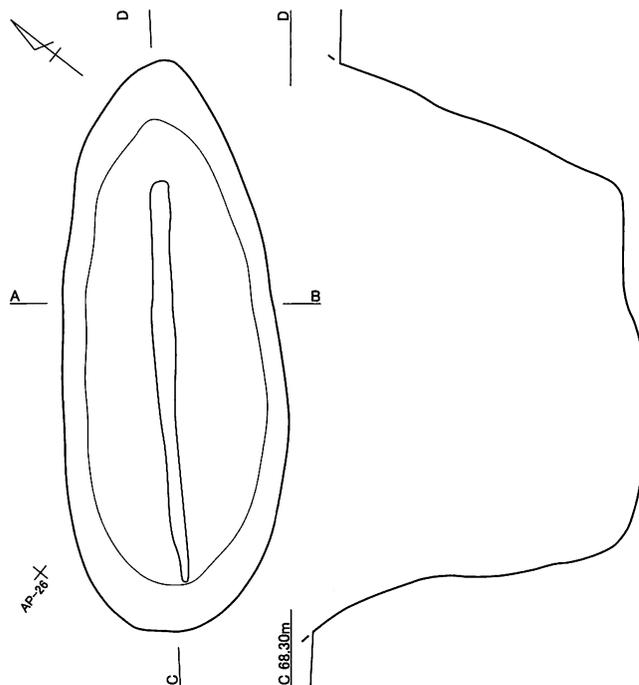
TP-34



- TP-34
- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. 7.5YR2/1 黒色 | Vb≡VI・VIIa |
| 2. 7.5YR2/2 黒褐色 | Vb=VI≡VIIa |
| 3. 7.5YR3/2 黒褐色 | Vc=VI≡VIIa |
| 4. 7.5YR4/3 褐色 | VIIa=VI≡V |
| 5. 7.5YR5/4 にぶい褐色 | VIIa(ブロック) 崩落層 |

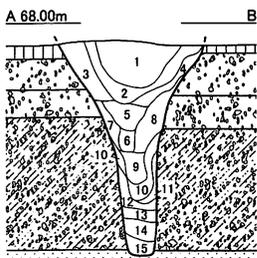
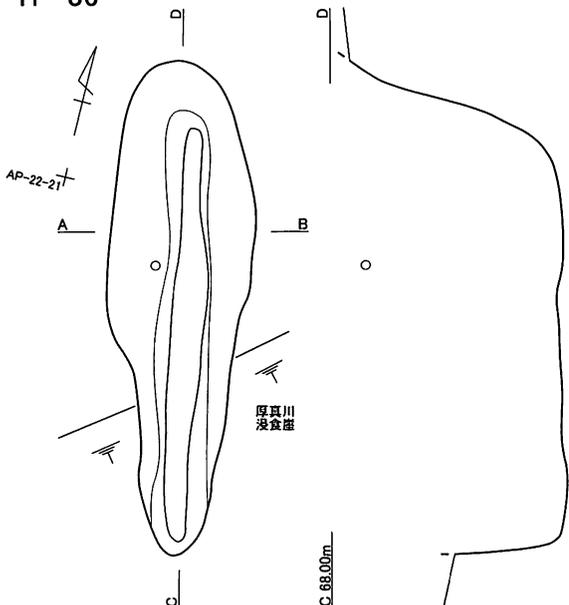
- | | |
|--------------------|----------------|
| 6. 7.5YR3/4 暗褐色 | VIIa≡VIIb・VI |
| 7. 7.5YR4/4 褐色 | VIIc=VIIb≡VIIa |
| 8. 7.5YR4/2 灰褐色 | VIIb≡V |
| 9. 7.5YR4/4 褐色 | VIIa-VIIb |
| 10. 7.5YR3/3 暗褐色 | VIIb≡V |
| 11. 5YR4/8 赤褐色 | VIIc-VIIb |
| 12. 7.5YR5/3 にぶい褐色 | VIIb 崩落層 |
| 13. 5YR3/6 暗赤褐色 | VIIb=VIIc |
| 14. 7.5YR5/2 灰褐色 | VIIb≡VIIc・V |
| 15. 5YR3/4 暗赤褐色 | VIIc=VI≡V |
| 16. 7.5YR5/6 明褐色 | VIIb-VIIc |
| 17. 7.5YR4/1 褐灰色 | VIIb≡VIIc |
| 18. 5YR4/3 にぶい赤褐色 | VIIb-VIIc |
| 19. 5YR4/1 褐灰色 | VIIb≡VIIc |
| 20. 5YR3/2 暗赤褐色 | VIIc=VIIb≡V |
| 21. 5YR2/3 極暗赤褐色 | VIIb-VIIc≡V |
| 22. 5YR2/2 黒褐色 | VIIb=VIIc≡V |
| 23. 5YR4/2 灰褐色 | VIIb≡VIIc・V |
| 24. 5YR2/4 極暗赤褐色 | VIIb≡VIIc |
| 25. 5YR3/1 黒褐色 | VIIb=V≡VIIc |

TP-35

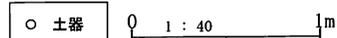


- TP-35
- | | |
|--------------------|----------------|
| 1. 7.5YR1.7/1 黒色 | V≡VI |
| 2. 7.5YR4/3 褐色 | VI≡V・VIIa |
| 3. 7.5YR4/6 褐色 | VIIa≡VI |
| | しまり弱 |
| 4. 7.5YR5/4 にぶい褐色 | VIIa=VIIb≡V |
| | しまりやや弱 |
| 5. 7.5YR3/3 暗褐色 | VIIb=VI=V |
| 6. 7.5YR3/1 黒褐色 | V-VI≡VIIb・VIIa |
| 7. 7.5YR4/4 褐色 | VIIa≡V |
| 8. 5YR4/4 にぶい赤褐色 | VIIa 崩落層 |
| 9. 7.5YR2/1 黒色 | V≡VI |
| 10. 5YR4/1 褐灰色 | VIIb=VIIc |
| 11. 5YR3/1 灰褐色 | VIIb=VIIc |
| 12. 5YR2/2 黒褐色 | V=VIIb≡VIIc |
| 13. 5YR2/1 黒褐色 | VIIb=V≡VIIc |
| 14. 7.5YR4/1 褐灰色 | VIIb=V・VIIc |
| 15. 7.5YR4/2 灰褐色 | VIIb-VIIc |
| 16. 7.5YR5/2 灰褐色 | VIIb 崩落層 |
| 17. 7.5YR2/3 極暗褐色 | V-VIIb≡VIIc |
| 18. 7.5YR5/3 にぶい褐色 | VIIb=VIIc≡V |
| 19. 7.5YR2/2 黒褐色 | V≡VIIb・VIIc |
| 20. 7.5YR6/2 灰褐色 | VIIb-VIIc≡V |

TP-36

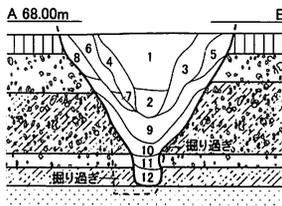
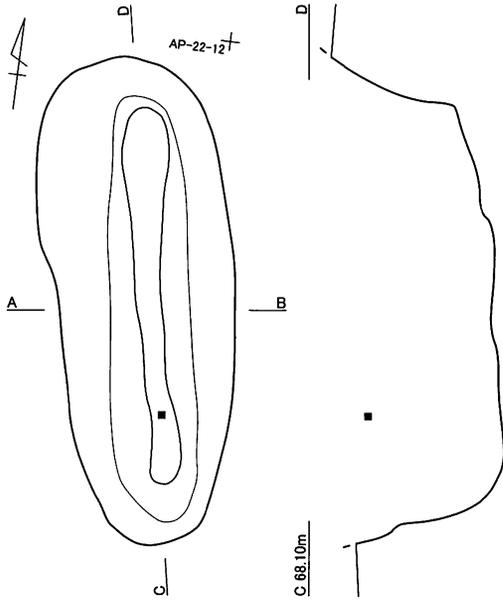


- TP-36
- | | |
|--------------------|-----------------------------|
| 1. 10YR2/2 黒褐色 | V≡VIIa(均一) |
| 2. 10YR3/3 暗褐色 | V=VI(均一)≡VIIa(均一) |
| 3. 7.5YR4/4 褐色 | VI-VIIa(均一) |
| 4. 7.5YR3/4 暗褐色 | VI-VIIa(均一)≡V(均一) |
| 5. 10YR2/3 黒褐色 | V=VI・VIIa(均一) |
| 6. 7.5YR3/3 暗褐色 | VIIa-Vb(均一) |
| 7. 7.5YR5/8 明褐色 | VIIa=VI(均一) |
| 8. 7.5YR5/4 にぶい褐色 | VIIa-VI(均一) |
| 9. 10YR3/4 暗褐色 | V=VIIa・VIIb(均一) |
| 10. 2.5Y3/3 暗オリーブ色 | VIIb-VIIc(均一) |
| 11. 7.5YR4/4 褐色 | VIIc=VIIb(均一) |
| 12. 10YR4/4 褐色 | VIIb-VIIc(均一)≡Vbブロック (φ10↓) |
| | V=VIIb(均一)≡VIIc(均一) |
| 13. 10YR2/3 黒褐色 | VIIb=VIIc(互層) |
| 14. 10YR3/4 暗褐色 | V=VIIb(均一) |
| 15. 10YR2/2 黒褐色 | |



図IV-67 TP-34 ~ 36 平面及び断面図

TP-37

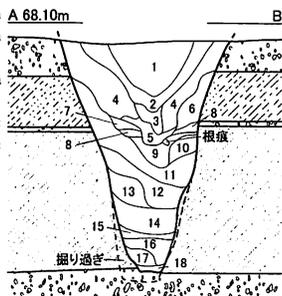
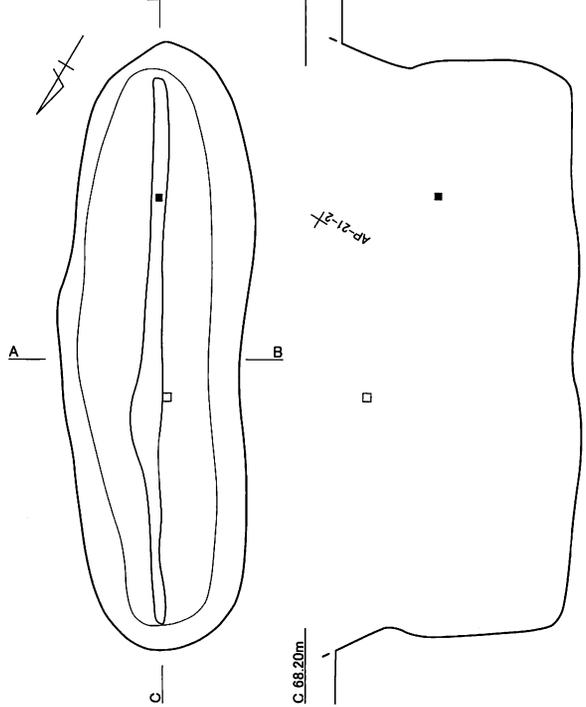


TP-37

- 1. 7.5YR1.7/1 黒色
- 2. 7.5YR3/1 黒褐色
- 3. 7.5YR2/2 黒褐色
- 4. 7.5YR2/1 黒色
- 5. 7.5YR4/4 褐色
- 6. 7.5YR3/2 黒褐色
- 7. 7.5YR3/4 暗褐色
- 8. 7.5YR4/3 褐色
- 9. 7.5YR5/4 にぶい褐色
- 10. 5YR4/3 にぶい赤褐色
- 11. 5YR3/2 暗赤褐色
- 12. 7.5YR2/3 極暗褐色

- V ≡ VIIa
- V ≡ VI・VIIa
- V - VI ≡ VIIa
- V = VI ≡ VIIa
- VI ≡ V・VIIa
- VI - V ≡ VIIa
- VI ≡ V・VIIa
- VIIa ≡ VI・VIIc
- VIIa ≡ VI・VIIc
- VIIb = VIIc
- VIIc = V
- V = VIIc

TP-38

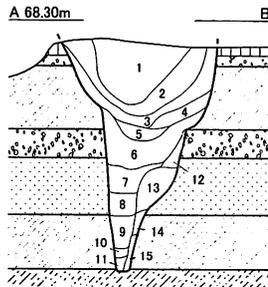
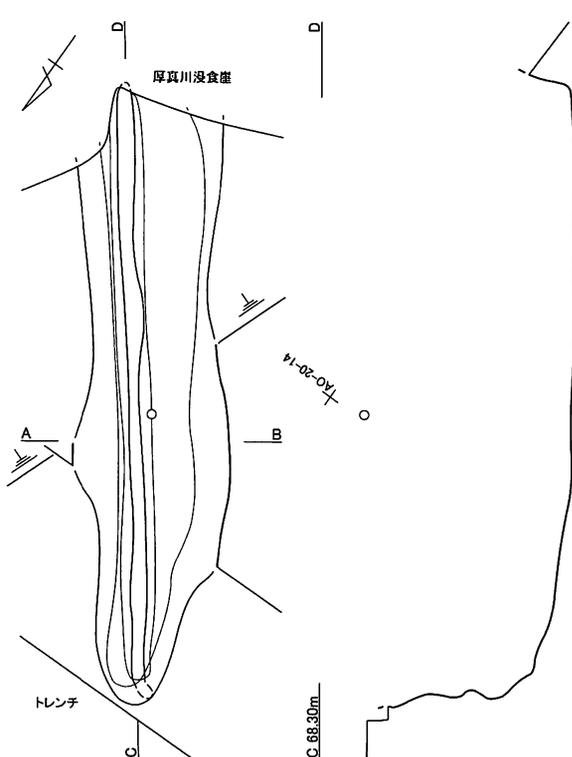


TP-38

- 1. 7.5YR1.7/1 黒色
- 2. 7.5YR2/2 黒褐色
- 3. 7.5YR3/2 黒褐色
- 4. 5YR3/4 暗赤褐色
- 5. 5YR4/2 灰褐色
- 6. 5YR4/3 にぶい赤褐色
- 7. 5YR3/1 黒褐色
- 8. 5YR4/4 にぶい赤褐色
- 9. 7.5YR2/3 極暗褐色
- 10. 5YR3/6 暗赤褐色
- 11. 5YR3/3 暗赤褐色
- 12. 5YR5/2 灰褐色
- 13. 5YR4/1 褐色
- 14. 7.5YR4/2 灰褐色
- 15. 7.5YR3/1 黒褐色
- 16. 5YR2/4 極暗赤褐色
- 17. 7.5YR4/1 褐色
- 18. 5YR2/1 黒褐色

- Vb ≡ VIIa
- Vc ≡ VIIa
- V - VI ≡ VIIa
- VI = VIIa ≡ V
- VIIa ≡ VIIa
- VIIb - VIIa(ブロック) ≡ V
- V = VI ≡ VIIc
- VIIc - VIIb ≡ V
- VIIc ≡ VIIb・VI
- VIIa ≡ V・VIIb
- VIIc ≡ VIIb ≡ V
- VIIb = VIIc(互層)
- VIIb = VIIc ≡ V
- VIIc ≡ V
- V - VIIb ≡ VIIc
- VIIb = VIIc ≡ V
- VIIc ≡ VIIc 崩落層
- V = VIIb ≡ VIIc

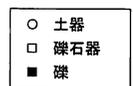
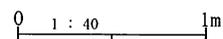
TP-39



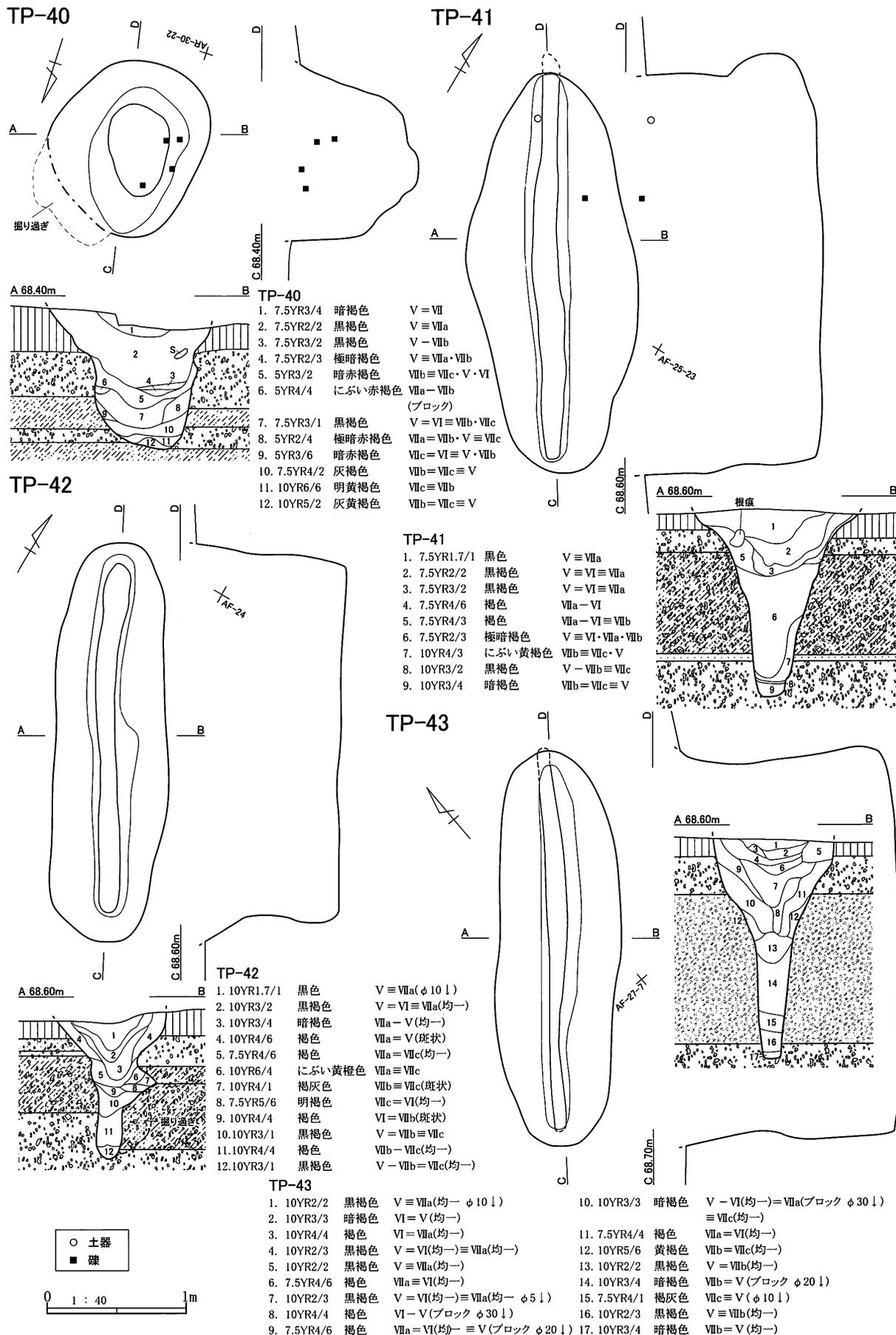
TP-39

- 1. 10YR2/2 黒褐色
- 2. 10YR3/3 暗褐色
- 3. 7.5YR3/4 暗褐色
- 4. 10YR3/4 暗褐色
- 5. 7.5YR3/4 暗褐色
- 6. 7.5YR3/2 黒褐色
- 7. 10YR2/3 黒褐色
- 8. 7.5YR4/6 褐色
- 9. 7.5YR3/4 暗褐色
- 10. 7.5YR4/6 褐色
- 11. 10YR2/2 黒褐色
- 12. 10YR4/6 褐色
- 13. 7.5YR3/4 暗褐色
- 14. 7.5YR4/6 褐色
- 15. 10YR5/8 黄褐色

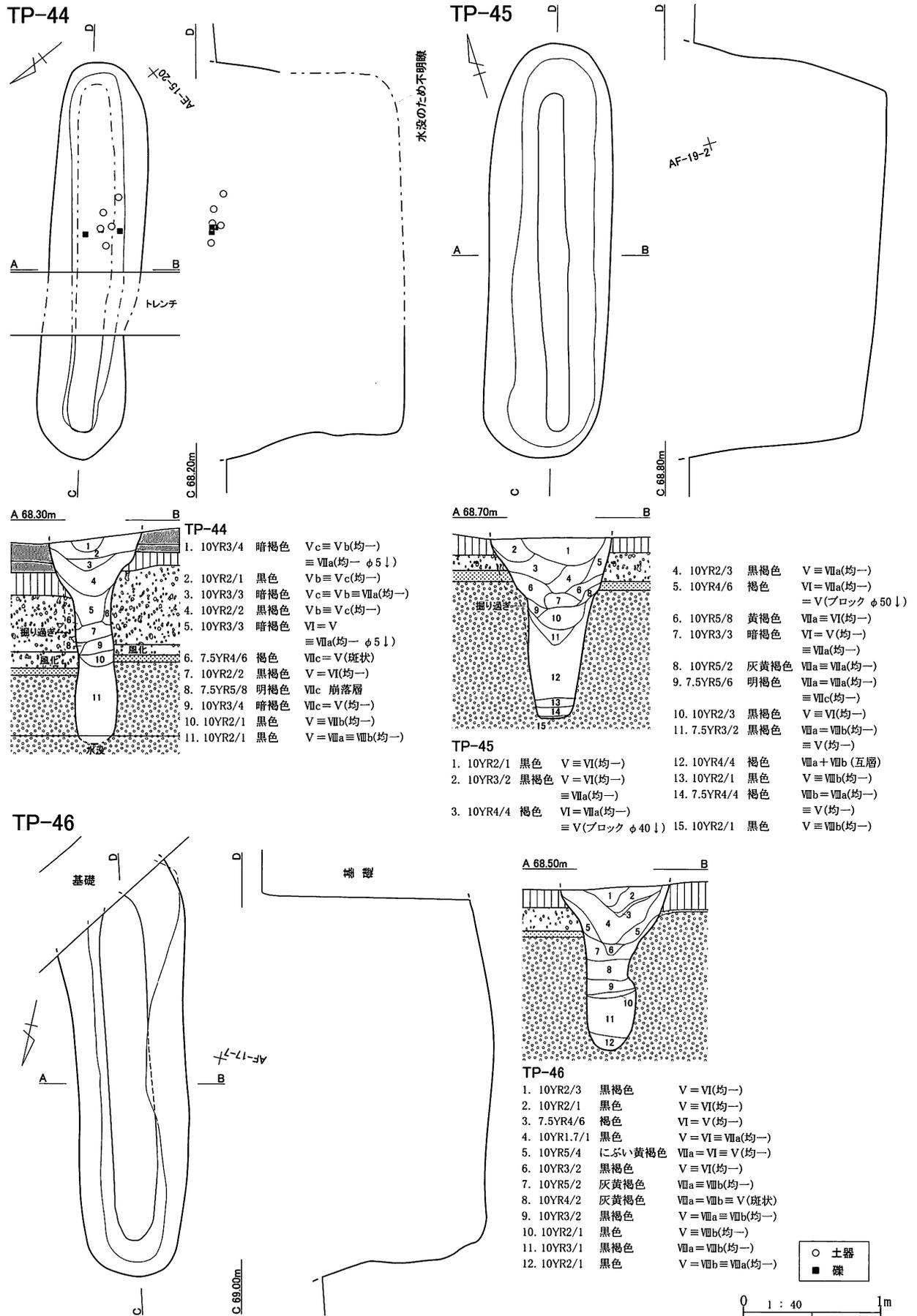
- V ≡ VIIa(均一 φ5↓)
- V = VI(均一)
- ≡ VIIa(均一 φ5↓)
- VI = VIIa(均一) ≡ V(均一)
- V = VI(均一) ≡ VIIa(均一)
- VI = VIIa(均一)
- ≡ V(ブロック φ30↓)
- VIIb = VIIa(均一)
- VIIb = V(均一)
- VIIa - VIIc(均一) = VIIb(均一)
- VIIc = VIIc(均一)
- V = VIIb(均一)
- VIIb - VIIc(互層)
- VIIb = VIIc(均一)
- VIIc(ブロック) 崩落層
- VIIc = VIIb(均一)



図IV-68 TP-37 ~ 39 平面及び断面図

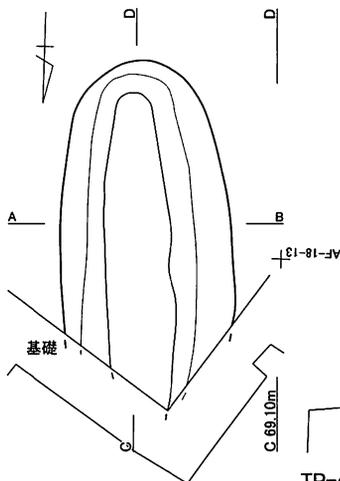


図IV-69 TP-40 ~ 43 平面及び断面図

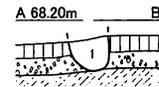
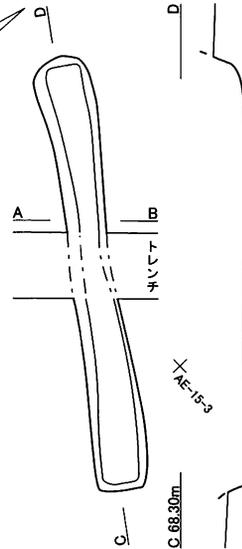


図IV-70 TP-44 ~ 46 平面及び断面図

TP-47

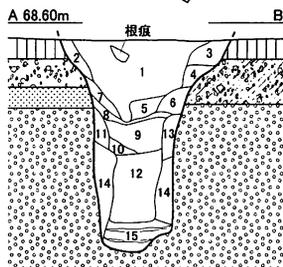


TP-48



TP-48

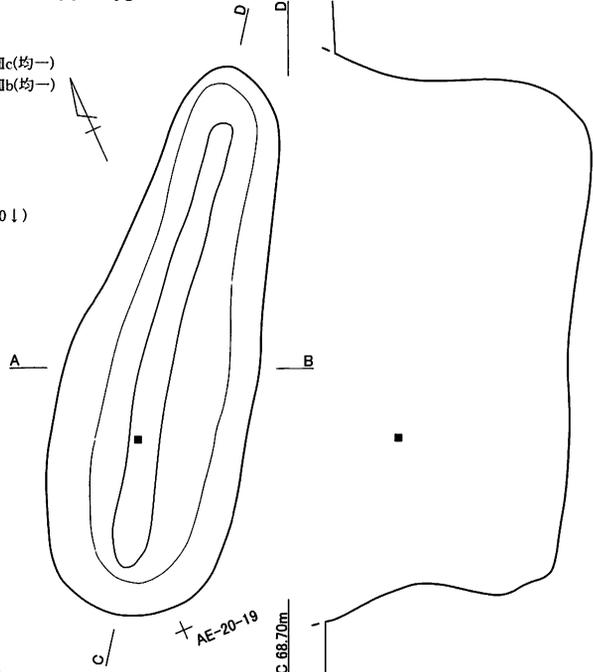
1. 10YR2/2 黒褐色 V=VI(均一)≡VIIa(均一)



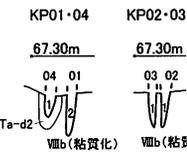
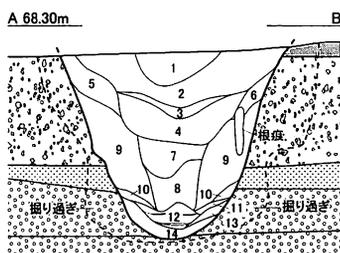
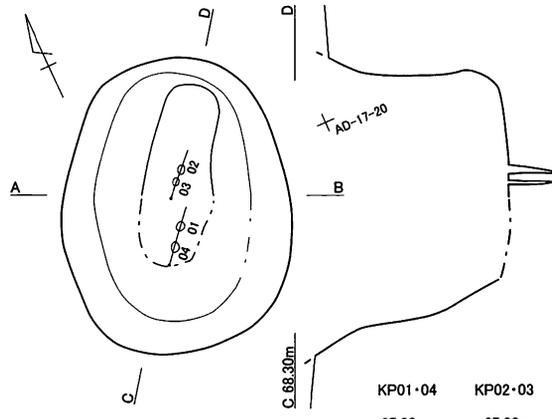
TP-47

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 10YR2/1 黒色 | V≡VIIa(均一) |
| 2. 10YR3/2 黒褐色 | V=VI(均一) |
| 3. 10YR4/4 褐色 | VI=V(均一) |
| 4. 10YR2/3 黒褐色 | V≡VIIb(均一) |
| 5. 10YR3/3 暗褐色 | VIIa≡V(均一) |
| 6. 10YR4/4 褐色 | VIIa≡VIIb(均一) |
| 7. 10YR4/3 にぶい黄褐色 | VIIa≡VIIb(均一) |
| 8. 10YR2/3 黒褐色 | V=VIIa(均一)≡VIIc(均一) |
| 9. 10YR3/4 暗褐色 | VIIc=V(均一)≡VIIb(均一) |
| 10. 10YR4/4 褐色 | VIIa-VIIb(均一) |
| 11. 7.5YR4/4 褐色 | VIIb-VIIa(均一) |
| 12. 7.5YR3/4 暗褐色 | VIIb-VIIa(互層) |
| 13. 7.5YR4/3 褐色 | VIIa-VIIb(均一) |
| 14. 7.5YR4/4 褐色 | VIIb=VIIa(均一) |
| 15. 10YR2/2 黒褐色 | V=VIIb(互層 φ20↓) |

TP-49



TP-50

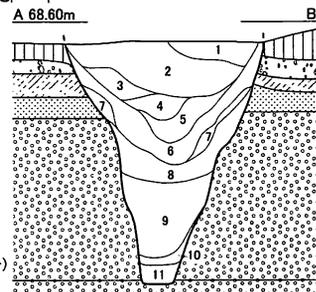


TP-50 KP

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 Vb≡VIIa
2. 7.5YR4/4 褐色 Vb≡VIIa

TP-49

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 7.5YR3/4 暗褐色 | VIIa-V(均一) |
| 2. 10YR2/2 黒褐色 | V=VI(均一)≡VIIa |
| 3. 10YR3/3 暗褐色 | V-VI(均一)≡VIIa(均一) |
| 4. 10YR2/2 黒褐色 | V=VI(均一)≡VIIc |
| 5. 10YR3/2 黒褐色 | V=VI(均一)≡VIIa(均一) |
| 6. 7.5YR5/8 明褐色 | VIIc-V(ブロック φ30)≡VIIa |
| 7. 10YR5/6 黄褐色 | VIIa(均一)≡VIIb(均一) |
| 8. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 | VIIa=VIIb(互層) |
| 9. 7.5YR4/6 褐色 | VIIb=VIIa(均一) |
| 10. 10YR2/3 黒褐色 | VIIa=V(均一)≡VIIb(均一) |
| 11. 7.5YR3/4 暗褐色 | VIIb=V(均一) |
| | VIIa=VIIc(均一)≡V |
| | V≡VIIc(均一) |
| | VIIc 崩落層 |
| | VIIc 崩落層 |
| | VIIa 崩落層 |
| | V=VIIb(互層) |
| | V=VIIa(均一) |
| | V=VIIa(均一) |

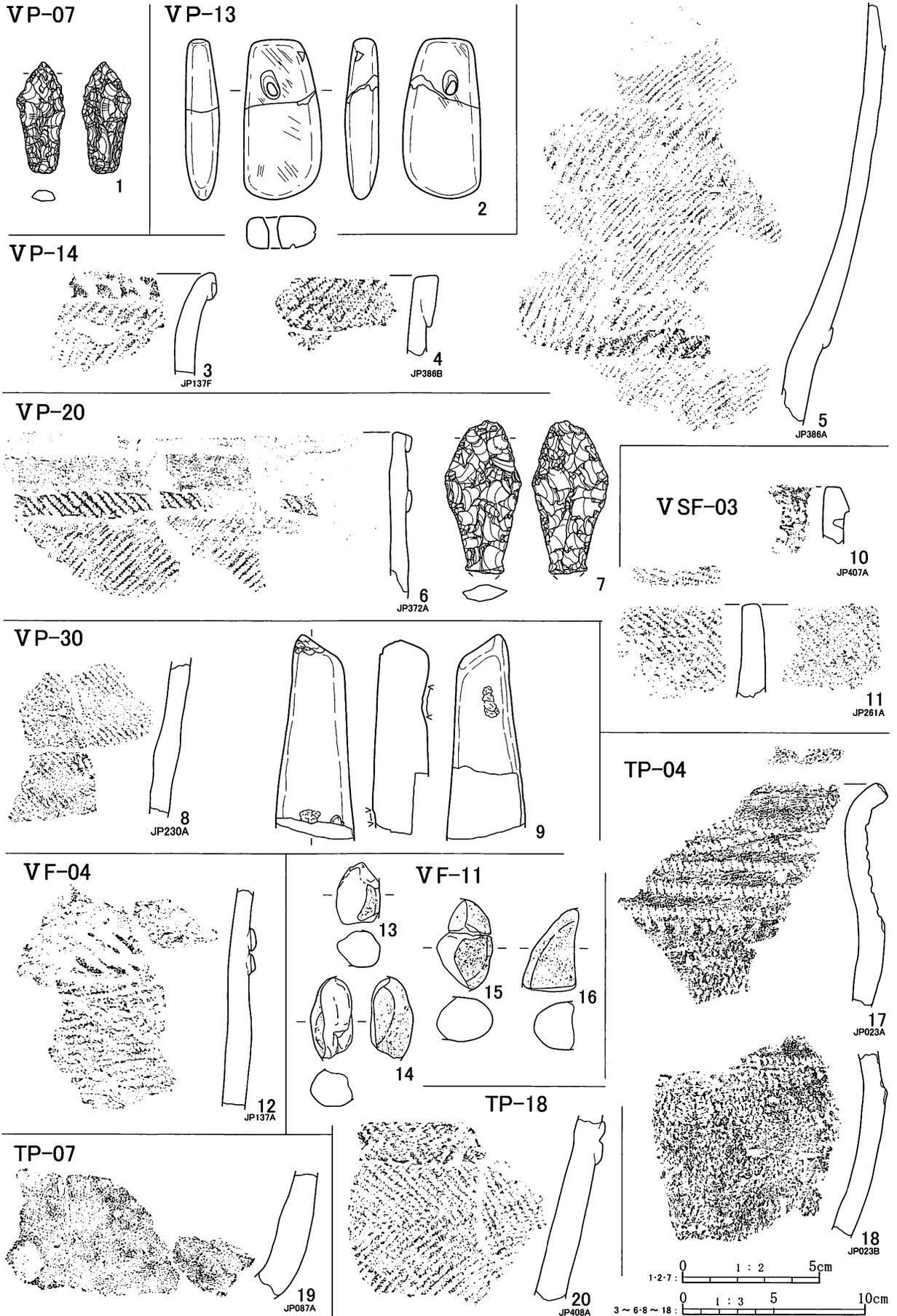


TP-50

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 10YR3/3 暗褐色 | V=VIIa(均一)≡VIIc(均一) |
| 2. 10YR2/2 黒褐色 | V=VIIa(均一) |
| 3. 10YR3/3 暗褐色 | V=VIIa(均一) |
| 4. 10YR2/2 黒褐色 | V=VIIc(均一) |
| 5. 7.5YR3/4 暗褐色 | VI=V(均一)≡VIIc(均一) |
| 6. 10YR4/4 褐色 | V-VIIc(均一) |
| 7. 7.5YR4/6 褐色 | V=VIIc(均一) |
| 8. 10YR2/3 黒褐色 | VIIc 崩落層 |
| 9. 10YR4/6 褐色 | VIIc 崩落層 |
| 10. 10YR5/4 にぶい黄褐色 | VIIa 崩落層 |
| 11. 10YR4/1 褐灰色 | V=VIIb(互層) |
| 12. 10YR2/1 黒色 | V=VIIa(均一) |
| 13. 10YR2/2 黒褐色 | V=VIIa(均一) |
| 14. 10YR2/2 黒褐色 | V=VIIa(均一) |



図IV-71 TP-47～50 平面及び断面図



図IV-72 VP・VF・TP 出土遺物

第7節 集中出土遺物

1. 土器集中(図IV-73~81 図版 69・70)

平成25年度の本遺跡におけるV層の発掘調査では15ヵ所の地点において、土器片がまとまって出土する「土器集中」を検出した。そのうちVPB-02はVP-01に伴うため第3節にて遺物の出土状態と合わせて掲載している。

VPB-01 (図IV-73・77-1~2 図版 69-1・2・97-1・2)

位置：AS-28区 層位：VbU 規模：122×66cm 出土点数：71点

確認・調査 中央部のVb層上位を調査中、土器片と長軸20cmほどの礫が密集する範囲が検出されたため、土器集中として調査を行った。土器片は10cmほどの破片で比較的状态がよく、破断面にも角が残っていた。微細図を作成した後、遺物の出土地点を記録し、取りあげたところ、礫の下からも土器片が出土したため、同じ土器集中の下層として取り上げた。

出土遺物 (図IV-77-1・2 図版 97-1・2) 1は縄文時代後期前葉のIV群A2類で余市式土器群のうち、タプコプ式土器古段階に相当する。平縁で胴部下半から直線的に開き、口縁部は直立する。口唇部は角状を呈し、縄文が施されている。口縁部には幅広の貼付帯が施され、直下に縄端による側面圧痕文が刺突文風に施されている。胴部には1条の低平で幅広な貼付文が施されており、これを境界として地文縄文が羽状構成となっている。2は同一個体の底部片で、側面は直線的に開いて立ち上がる。底部側面は無文である。胎土は砂粒を極めて含多くむ。

VPB-02 (図IV-51 77-3・4 図版 45-7・8 97-3・4)

第3節VP-01参照。

VPB-04・05 (図IV-73 77-5・6 図版 69-3 97-5・6)

[VPB-04]位置：AS-32区 層位：VbL 規模：102×58cm 出土点数：78点

[VPB-05]位置：AS-32区 層位：VbL 規模：56×48cm 出土点数：52点

確認・調査 Vb層下位を調査中、土器が密集する範囲を2ヵ所検出したため、土器集中として調査を行った。調査段階においても、土器集中を構成する土器が同一個体であると認識していたが、両者の分布が約50cm離れていたことからそれぞれに遺構番号をつけた。VPB-04は土器外面を上向きに、VPB-05は土器内面を上向きにして検出され、どちらの土器集中も3~5cmの土器片と10~15cmの礫片で構成されていた。両者の基底面が同一であることを確認する目的で、トレンチを設定し、VI層まで掘り下げた。基底面はVb層下位であった。図示していないが、トレンチ断面図を作成し、遺物を取り上げ調査終了とした。

出土遺物 (図IV-77-5・6 図版 97-5・6) 同一個体5・6はIII群B2類、柏木川式土器に分類した富良野盆地系土器である。個体の4分の1程度が接合した。平縁で胴部下半が僅かに膨らみをもって立ち上がる深鉢形土器。口縁部には肥厚帯を有し、やや下がった位置において部分的に隆帯状となっている。口唇部は隅丸角状で大振りの指頭圧痕文が施されている。地文縄文はLR斜行縄文で無文帯を意図した多段構成で施文されている。胎土は繊維を含まず、細粒砂を多量に含む。砂粒は長石や石英が主体で、雲母もやや多く含み、器表面全体に鉱物の反射光沢が見られる。
(松井・土器：乾)

VPB-06 (図IV-73 78-7 図版 69-4 98-7)

位置：AS-31区 層位：Vc 規模：60×36cm 出土点数：321点

確認・調査 西側段丘縁辺部のVc層を調査中、2~3cmの非常に細片化した土器片が密集する範囲と20cmの大型礫石器片を検出したため、これを土器集中として調査を行った。土器片は小破片が多く表面や破断面が風化し、剥落していたため、精査・検出には慎重な作業を要した。基底面確認のトレンチを設定し断面図作成後、遺物を取り上げ、調査を終了した。

出土遺物(図IV-78-7 図版98-7) 土器片は上記の理由から図示できなかったが、Ⅲ群B2類土器である。7は大型の石皿片である。素材礫の平坦面を使用面とし、敲打痕と使用面の擦り面の観察から、一度敲打調整で整形し、浅く窪ませた後、中央部付近を使用している。敲打痕はやや浅いものが主体となる。破損後、破断面を数回剥離している。同様の大型の石皿は、今回の調査では多く出土している。(松井)

VPB-07(図IV-73 78-8 図版69-5 98-8)

位置: AS-31・32 AT-31区 層位: VbL~Vc 規模: 103×53cm 出土点数: 38点

確認・調査 西側段丘縁辺部のVb層下位~Vc層を調査中、同一個体の土器片がやや集中して出土する範囲を検出したため、点数は少ないものの土器集中として調査を行った。土器片は7~8cmで比較的大形のものが主体であった。本土器集中より西側20cmの地点に大型の円礫2点が出土している。礫の表面は風化により全体的に亀裂が生じ剥落していたため、取り上げ後、崩壊したことから形状の観察は出来ない。

出土遺物(図78-8 図版98-8) 8はⅢ群B2類に分類した柏木川式土器である。胴部下半から口縁部にかけて復元できた。器形は胴部下半が膨らみをもって立ち上がり、口縁部が緩やかに外反する平縁で、山形の小突起が施されている。口唇部は外削ぎの切出し状で、2条の縄線文と縦位の縄の刻みを伴う貼付帯が施されている。胴部にも縄線文と縦位の刻みを有する貼付帯が施されている。胴部上半は破線状の縄線文が乱雑に施されている。地文はRL第1種結束斜行縄文で胴部下半は施文時の原体の目詰まりによって、無節様に見える。胎土は極細砂粒をやや多く含み、白色の軽石粒、繊維も少量含まれている。(松井・土器:乾)

VPB-08(図IV-74 78-9~11 図版69-6 98-9~11)

位置: AH-36区 層位: VbL 規模: 308×222cm 出土点数: 234点

確認・調査 AH-36区のVb層上位を調査中、比較的大型の礫が数点出土したため、その周辺を掘り広げたところ308×222cmの範囲で土器片と礫石器等が出土した。周囲に連続した遺物分布は認められず、これらを一つの集中として捉えVPB-08を付番した。出土状態の写真撮影を行い、微細図を作成した後、取り上げを行った。出土遺物の点数は土器が222点、剥片石器が2点、礫石器4点、礫6点である。

出土遺物(図IV-78-9~11 図版98-9~11) 同一個体9・10はⅣ群A2類の口縁部から胴部の復元資料である。胴部はやや膨らみをもち、口縁部がやや内湾する。口唇部は角状で縄文が施されている。口縁部には2条の貼付帯が施されており、貼付帯間は無文帯である。胴部下半にも低平な貼付帯が2条施されている。地文縄文はLRL複節の斜行縄文が横走気味に施されている。縄文施文後の器表面のナデ調整は一部に限られ、顕著ではない。器表面には成形時の粘土帯(幅40mm前後)継ぎ目を部分的に残している。胎土には繊維を極微量に含み、白色の軽石粒の混入が確認できる。全体的に砂粒の混入は少なく器表面は滑らかである。11はたたき石で、端部に密集した敲打痕がある。(宮崎・土器:乾)

VPB-09 (図IV-74 78-12 図版 69-7 98-12)

位置：AM-28区 層位：VbU 規模：49×26cm 出土点数：43点

確認・調査 VH-07に設定したベルトセクショントレンチ精査中に、土器片が集中する範囲を検出した。土器片は住居跡覆土中にほぼ全てが内面を上に向けた状態で堆積した。基底面が水平であることから、住居跡の埋没がある程度進んだ段階で土器が遺棄されたものと思われる。細図作成後、遺物出土地点を記録し、取り上げた。

出土遺物(図IV-78-12 図版 98-12) 12はIV群A2類、全体の3分の2程度の復元資料で、底径は60mm前後で30mmと極めて厚い底部資料である。底面からの立ち上がりはやや丸味を帯びている。RL斜行縄文が器表面及び底面に施され、施文後のナデ調整も顕著に認められる。

(松井・土器：乾)

VPB-10 (図IV-74・79-13 図版 69-8・98-13)

位置：BE・BF-31区 層位：VbM 規模：684×432cm 出土点数：277点

確認・調査 調査区南側斜面のBE・BF-31区でVSB-04とした遺物集中を調査中、Vb層中位で土器片がまとまって出土した。後述するVSB-04は斜面を利用した捨て場と考えられ、黒色土も厚く堆積しており数回に分けて掘り下げを行っている。本集中はVSB-04のVb層上位～中位相当で検出したものである。IV群土器が多数を占めるが、斜面を捨て場として利用していたとみられることからⅡ・Ⅲ群の土器片も出土している。

出土遺物(図IV-79-13 図版 98-13) 13の胴部下半はVSB-04出土の破片。本資料は貼付帯を伴わないが、口唇部形態や胎土よりIV群A1類a種に分類した個体で、胴部下半から口縁部にかけて全体の5分の1程度が接合した。胴部下半より直線的に口縁部へ立ち上がる深鉢形土器で、口唇部は内削ぎの切出し状でヘラ状工具により平坦に調整され、僅かに肥厚している。文様はRL斜行縄文のみで、重複範囲があるものの幅50mm前後の横位多段の帯状に施文されている。特に胴部下半では明瞭に縄文帯の施文単位を観察できる。胎土は繊維を極少量含むが、長軸4mm前後の小礫を散逸的に混入する砂粒をやや多く含む。繊維を僅かに含むことから北筒式にも類するが、円形刺突文が施されていないこと、口唇部形態と地文縄文の多段施文から本群に分類した。おそらくは、VPB-13出土のIV群A1類a種(図IV-81-21)と並行関係にあるものと想定している。

(宮崎・土器：乾)

VPB-11 (図IV-74・79-14・15 図版 70-1・99-14・15)

位置：AU-27・28区 層位：VbU 規模：622×130cm 出土点数：24点

確認・調査 VH-07の覆土を調査中、土器がややまとまって出土する範囲を検出した。遺物集中としてはやや密度が低い、同一個体片と思われたため、土器集中として調査を開始した。遺物出土の垂直分布図を見ると、基底面は緩やかに下っているため、住居の埋没がさほど進んでいない段階で土器が遺棄されたものと思われる。微細図を作成した後、遺物の出土地点を記録し、調査終了とした。

出土遺物(図IV-79-14・15 図版 99-14・15) 本集中は1個体分でVH-07、VP-07、VPB-09・11出土の土器片が接合した復元個体である。接合していないが、底部から口縁部までの破片が出土している。

同一個体 14・15はIV群B1類のタブコブ式土器新段階の深鉢形土器である。底部は小さく胴

部上半まで直線的に立ち上がり、胴部上半からやや内湾気味に立ち上がり口縁部に至る。器厚は口唇部に向かい薄くなる。口縁部は平縁で4ヵ所に山形の小突起が配され、対向する突起間の間隔により上面観は隅丸方形を呈している。口唇部は角状で縄文が施されている。文様は山形突起頂部より垂下する圧痕の浅い縄線文が施されている以外は、多段羽状構成の地文縄文のみである。口縁部内面には条が縦走するRL縄文、底面にも縄文が施されている。内外面共に縄文施文後にナデ調整が施されている。胎土は最大長軸14mmの小礫を少量混入する砂粒や白色の軽石粒を極めて多く含み、割れ口は剥片状に剥離する平行組織が発達している。

(松井・土器：乾)

VPB-12 (図IV-75 80-16~19 図版70-2 99-16~19)

位置：AT-24・25・AU-24区 層位：VbU 規模：648×282cm 出土点数：136点

確認・調査 東側縁辺のVb層上位を調査中、土器片がやや集中して出土する範囲を検出したため、土器集中として調査を行った。土器片は5~10cmの大きさで長軸150~200cmほどの範囲に出土した。土器片出土地点の周囲からは、ほぼ同一の標高、層位面で10cm前後の礫片や30cm四方の大型板状礫が出土し、これらを含めてVPB-12としている。たたき石等の礫石器の出土も確認されており、段丘縁辺部の作業場としての性格が考えられる。

出土遺物 (図IV-80 図版99-16~19) 16はIV群B1類のタブコブ式土器新段階の深鉢形土器である。口縁部から胴部上半にかけて接合できた。口縁部は直立する平縁で、口唇部は隅丸角状で縄文が施文されている。口縁部には地文のLR斜行縄文を施文後に2条1対の破線状の縄線文が施されている。口縁部内面には横走気味のRL斜行縄文が施されている。内外面共にこれらの施文後にナデ調整が施され、器表面が平滑に仕上げられている。胎土には灰白色の砂粒を多量に含み、器表面が剥片状に剥離する平行組織が発達している。

17は棒状礫を素材とするたたき石である。礫下部の平坦面と側面部を使用しており、浅い敲打痕が残されている。下端部には使用による欠損が見られる。18は方形の板状礫を素材としている滑沢面のある礫である。表面は平坦面のほぼ全体を使用し、裏面は一部分を使用している。裏面に比べると表面はより滑らかさがある。表裏面ともに礫の稜は使用されていない。大きさから地面に置いて使用されたものと思われる。19は大型の台石である。凸状の曲面から、稜、下面にまで敲打痕が残されており、礫中央部の使用がやや顕著である。敲打痕は浅く、単位ははっきりとしたものが主である。17~19は全て砂岩製である。

(松井・土器：乾)

VPB-13 (図IV-75 81-20・21 図版70-3 100-20・21)

位置：BC-29区 層位：VbL 規模：26×22cm 出土点数：49点

確認・調査 VSB-05の調査終了後のBC-29区でVb層下位を調査中、内面が上を向いた状態で土器片がまとまって出土した。遺構の有無を確認するため周囲をVc層まで掘り下げたところ、南西側約16cmの所に土器片が更に出土したことから、この範囲までを土器集中とした。

出土遺物 (図IV-81-20・21 図版100-20・21) 2個体を含む集中で、出土状態において平面的な位置は隣接するが、レベル的には高低差があり、III群B2類はやや低いレベルより出土している。このため、本集中は時期が異なる2個体を一括して取り上げてしまっている。

20は柏木川式土器に相当する底部を欠く復元土器で、胴部下半から口縁部にかけてほぼ直線的に開く深鉢形土器である。図示していないが上面観は楕円形を呈している。口縁部付近は僅

かに肥厚し口唇部は丸い。口縁部には半截竹管状工具の押引文が施され、部分的に2条となっている。地文は無節R斜行縄文で、胎土には僅かに繊維を含む。円形刺突文を伴わないことから本群に含めた。21はIV群A1類a種に分類した大型の破片資料で胴部下半からやや膨らみをもって立ち上がり、上半が直立し、口縁部が僅かに外反する器形である。この様な器形は編年的に並行関係にある渡島半島を中心分布する煉瓦台式土器の器形にも類似している。平縁で口唇部は角状を呈し縄文が施されている。口縁部には半截竹管状工具を用いた押引文を伴う貼付文が施されている。貼付文直下は無文帯で、0I円形刺突文が施されている。地文縄文は羽状構成で、胴部下半に貼付帯1条が施されている。胎土は砂粒のみの混入で、最大長軸8mmの小礫を含み粗い。本資料は北筒式土器の特徴である口縁部の押引文が施されており、余市式土器群の初期段階のものと思われる。類似資料として砂川市西豊沼A遺跡出土のものがある(北海道埋蔵文化財センター1982)。(宮崎・土器：乾)

VPB-14 (図IV-75 81-22・23 図版70-4 100-22・23)

位置：BE-31区 層位：VI 規模：156×74cm 出土点数：298点

確認・調査 BE-31区の調査区南側斜面下の平坦面で出土した。VSB-04の調査終了後、VI層を遺構確認のためジョレンで精査を行っていたところ、縄文時代早期の土器片が出土し、移植ごてによる調査に切り替えた。VI層下位はTa-dの堆積がなく、基盤のシルト岩まで掘り下げて遺物の分布を確認したが、VI層内で収まっている。全体の写真撮影後、取り上げを行った。

出土遺物 (図IV81-22・23 図版100-22・23) 同一個体22・23はI群B4類土器で口唇部断面形が角状を呈し、羽状の撚糸文のみで文様が施されている。胎土には細かい繊維痕がやや多く確認できる。口唇部形態や胎土より東釧路IV式土器の中でも新しい段階の資料と思われる。

(宮崎・土器：乾)

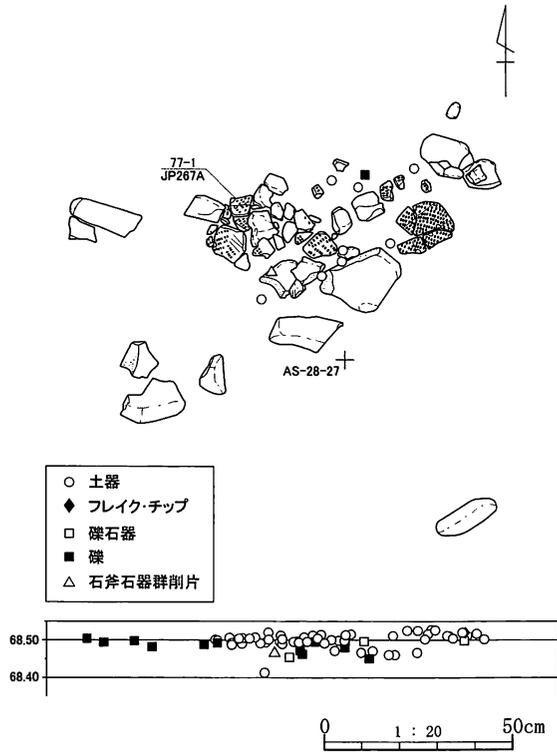
VPB-15 (図IV-76 81-24～28 図版70-5～7 100-24～28)

位置：BE-31区 層位：VI 規模：221×183cm 出土点数：164点

確認・調査 VPB-14の調査終了後、約250cm北側の同じBE-31区で、斜面から平坦面にかけて、流れ込んだと見られる状態で縄文時代早期の土器がまとまって出土した。出土状態を把握するため斜面に対して直行するベルトを設定し、周辺を掘り下げた。ベルトの断面を記録後、慎重に調査を行った結果、221×183cmの範囲に土器片162点、礫石器と礫が各1点、出土した。全体の写真撮影を行った後、微細図を作成して取り上げを行った。垂直分布図では土器出土レベルが2枚に分かれているように見えるが、西側のまともは急斜面であるため斜面中腹に土器が残らなかったためと思われる。

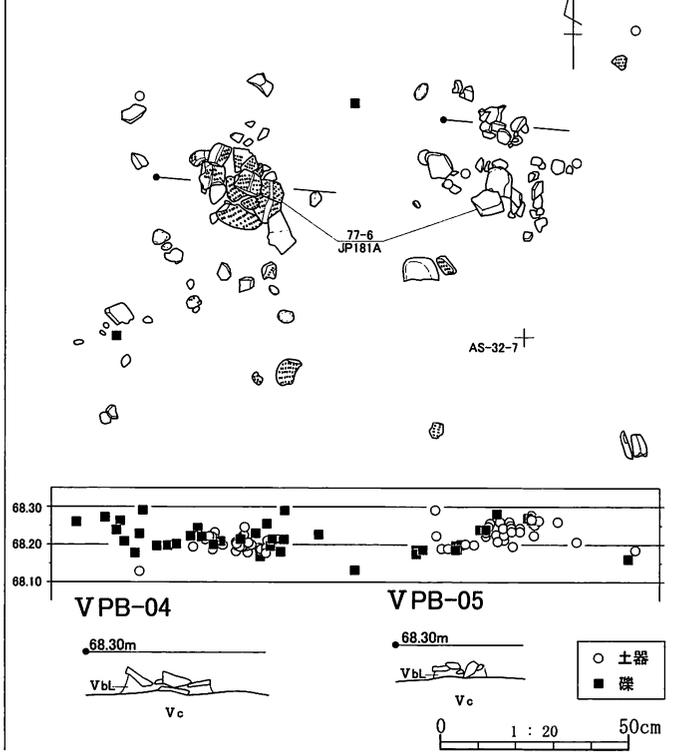
出土遺物 (図IV-81-24～28 図100-24～28) いずれもI群B3類の中茶路式土器で、隆起線文が施されている。24・25は胴部上半が隆起線文間に短縄文、底部付近は同一原体によるRL斜行縄文が施されている。底面はやや凸底で不安定であるが、平滑である。底面からの立ち上がりは明瞭な屈曲をもって胴部へは直線的に開く。26・27は胴部下半から上半にかけて直線的に開き、口縁部付近で内湾する平縁で口唇部は丸い。並行する隆起線文が施され、撚りの異なる原体で斜行縄文が充填されている。破損状態から幅約20～30mmの輪積み成形が観察でき、接合面は内面側がせり上がる外傾接合である。28はたたき石。破片のため礫の形態は不明。端部は尖状となり、その周辺に密集した敲打痕と剥離がある。(宮崎・土器：乾)

VPB-01

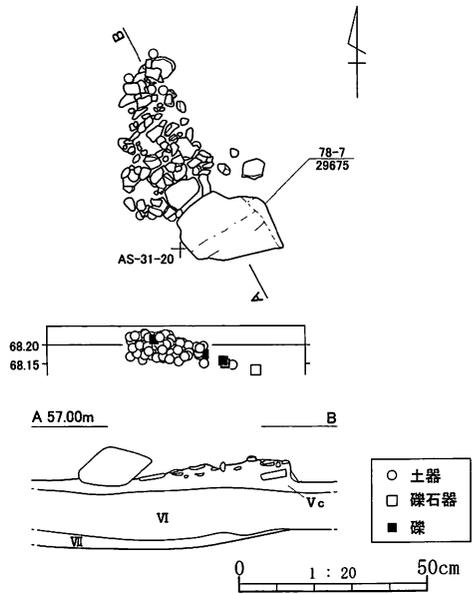


VPB-04

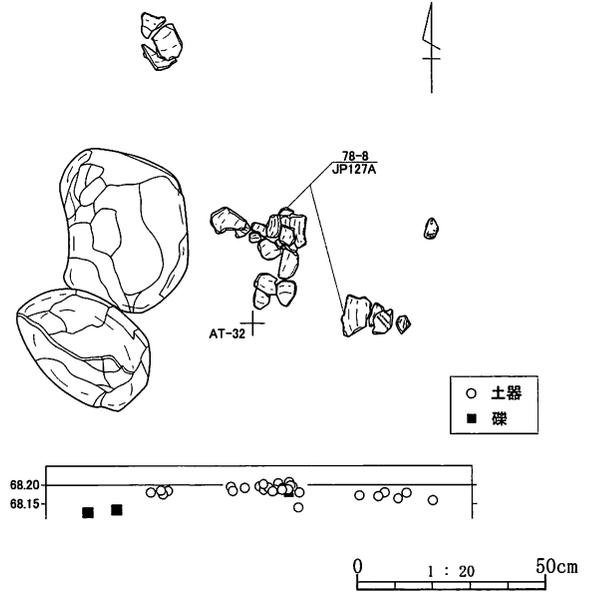
VPB-05



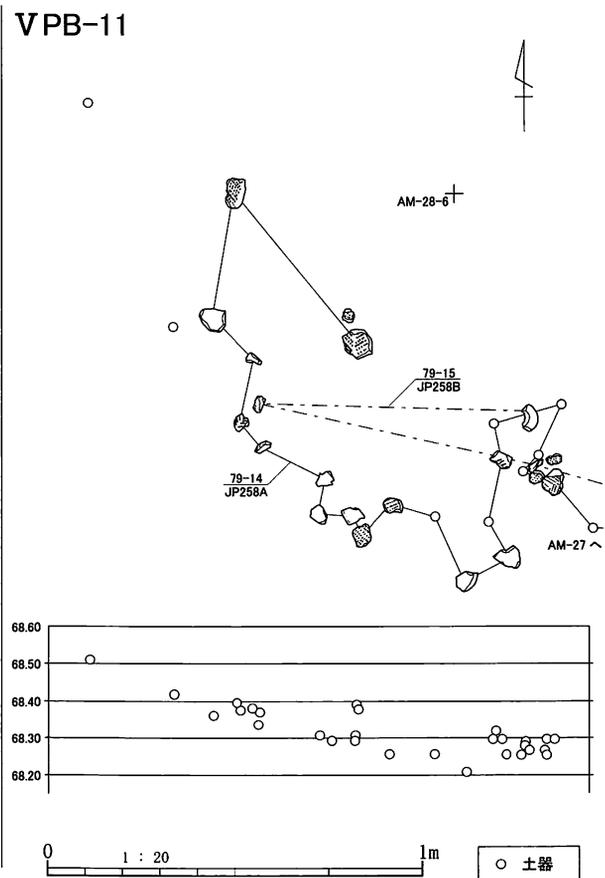
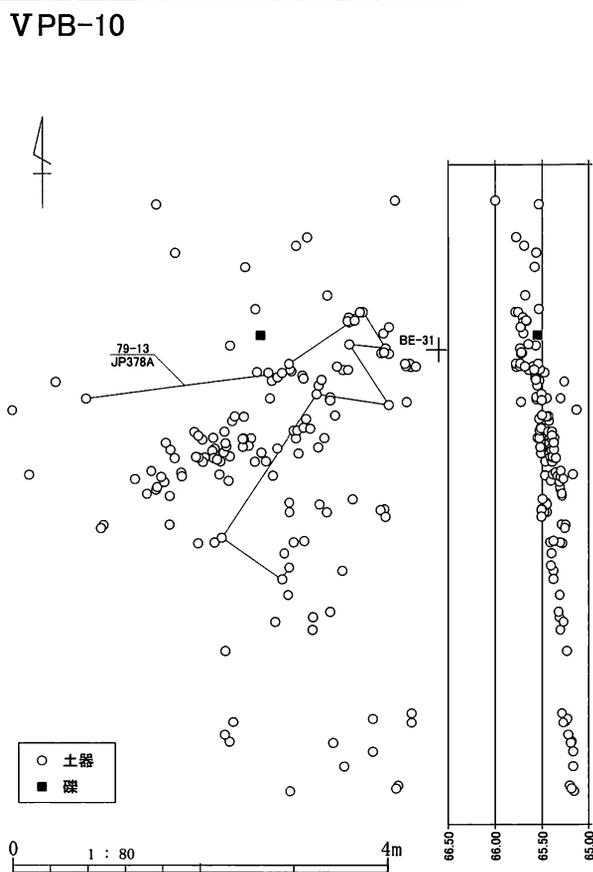
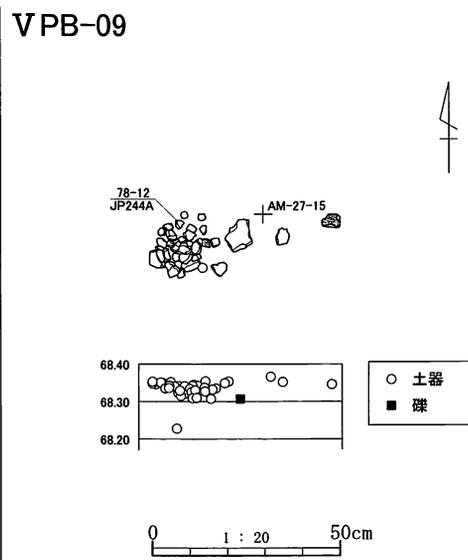
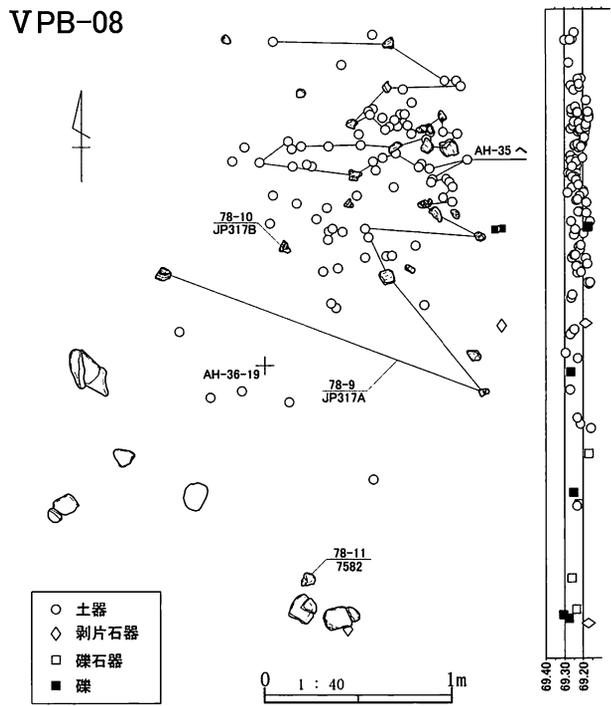
VPB-06



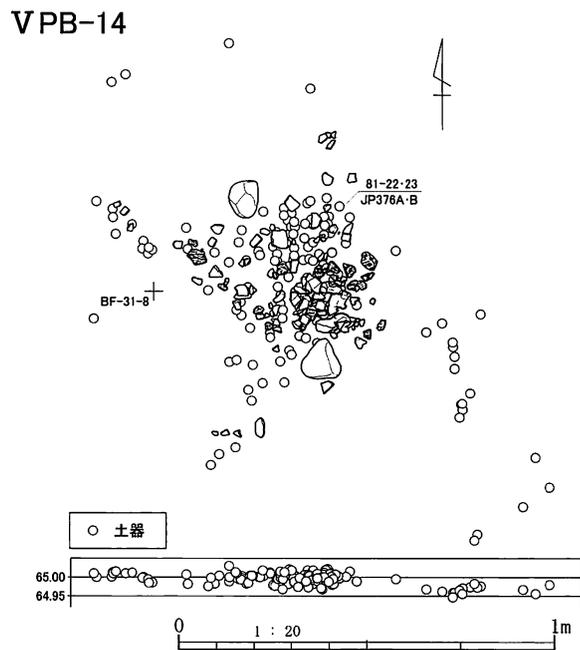
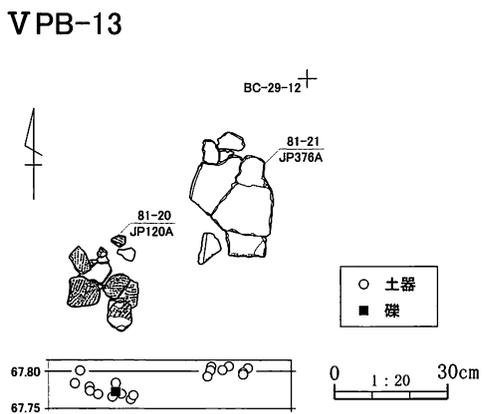
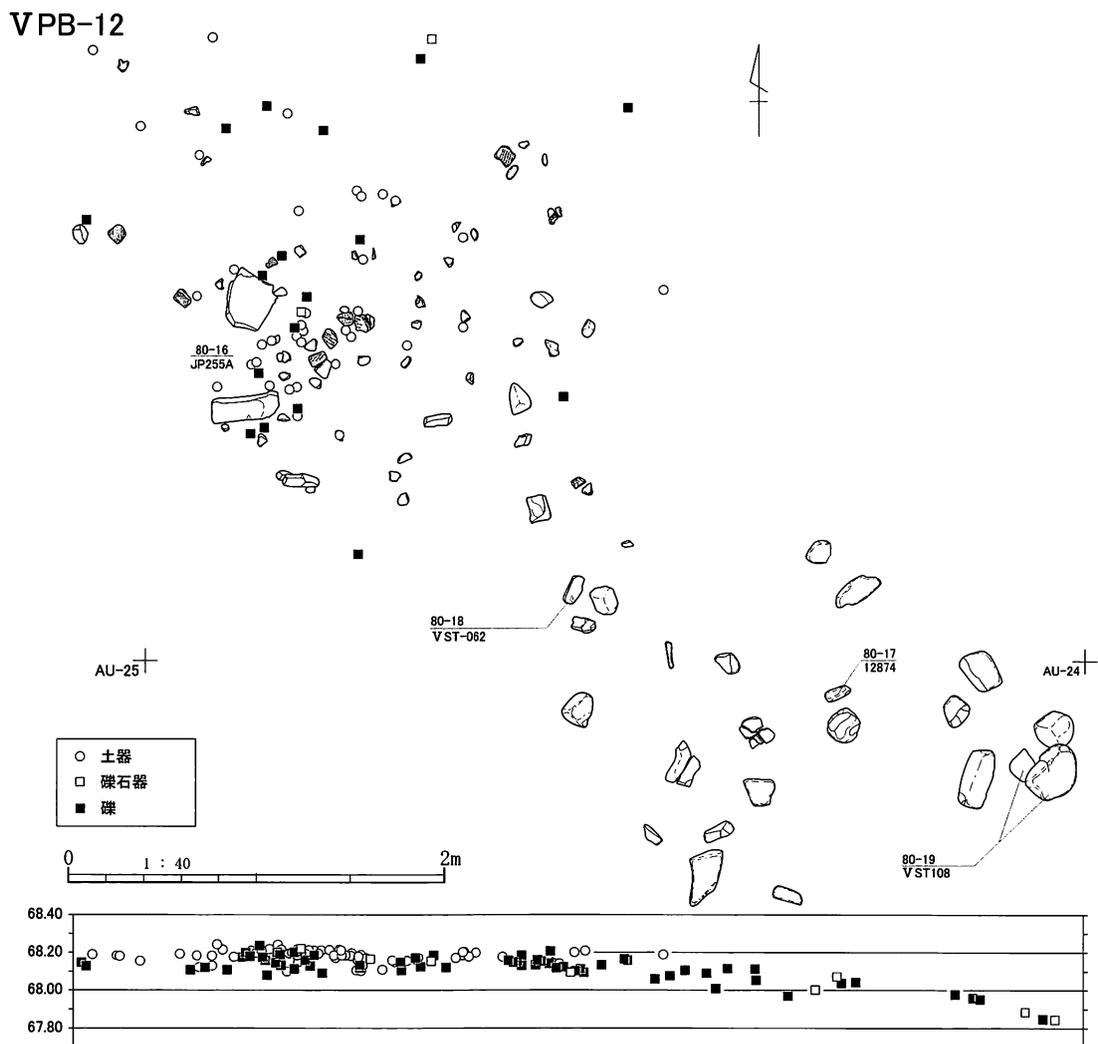
VPB-07



図IV-73 VPB-01・04～07 平面及び垂直分布図

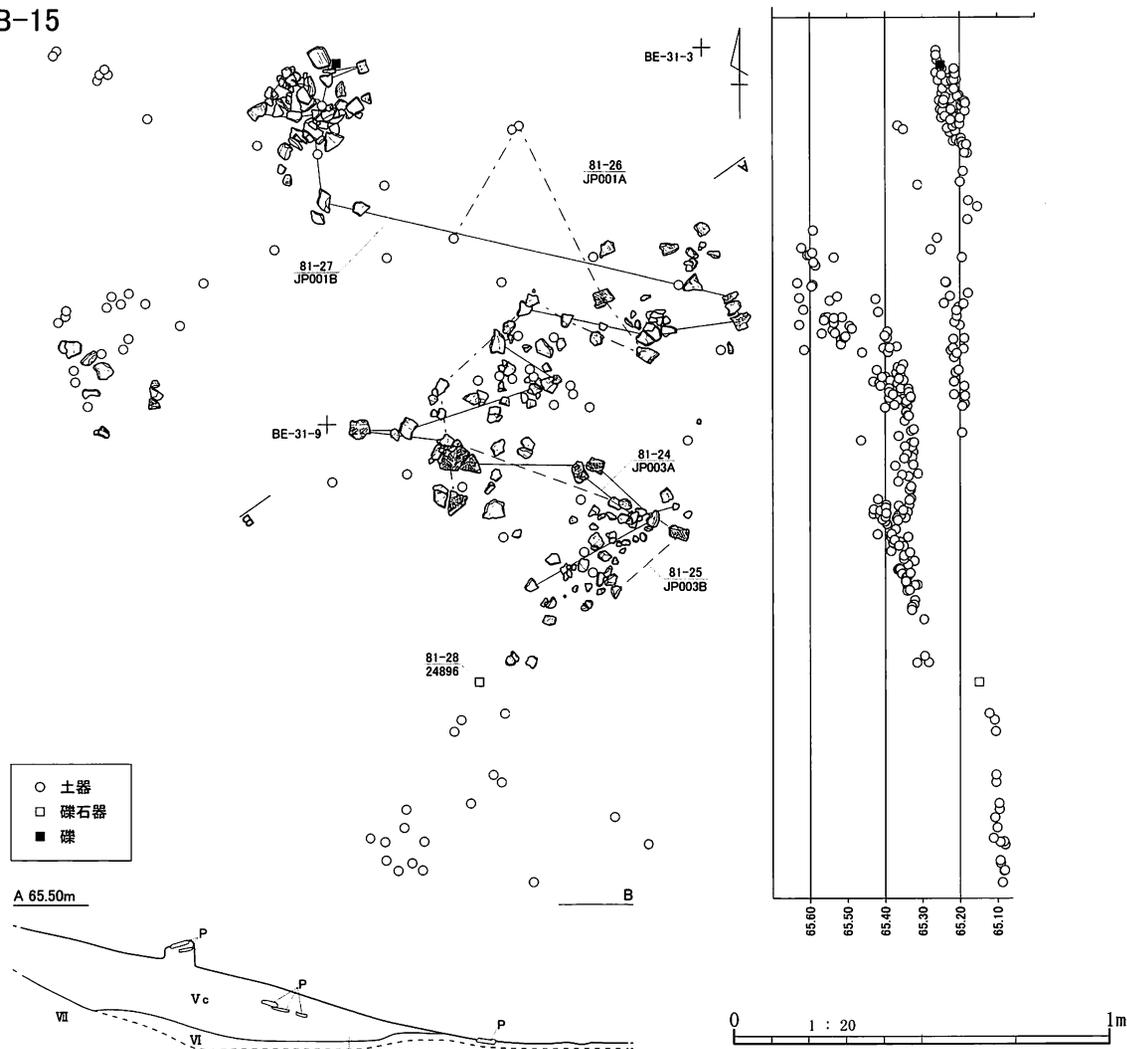


図IV-74 VPB-08 ~ 11 平面及び垂直分布図

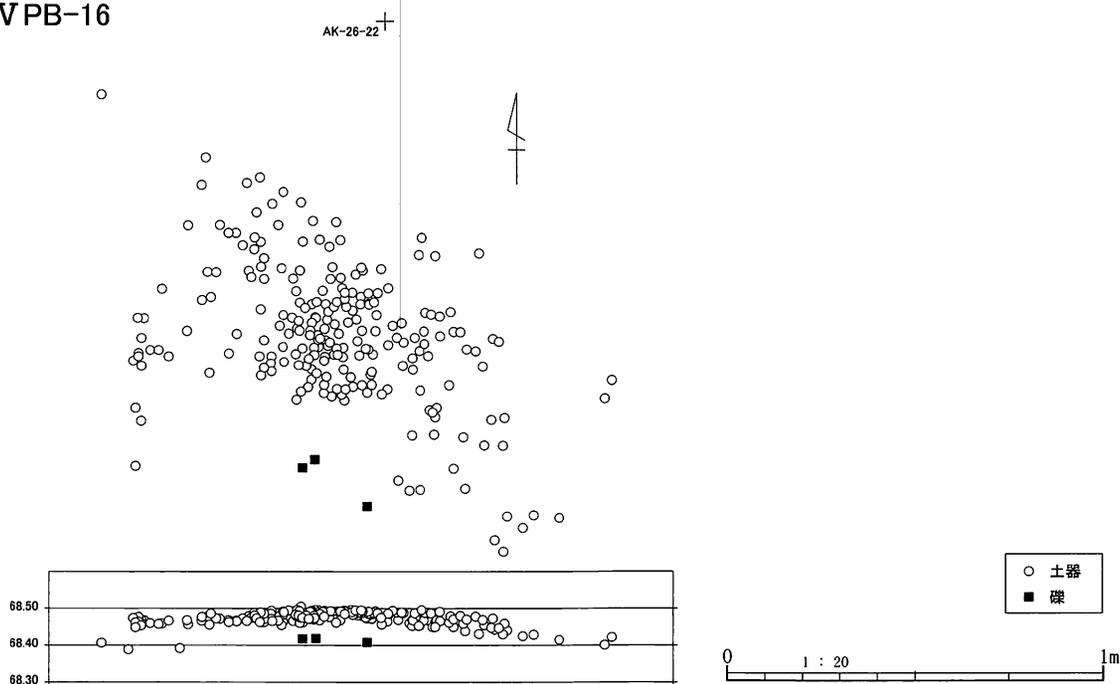


図IV-75 VPB-12 ~ 14 平面及び垂直分布図

VPB-15



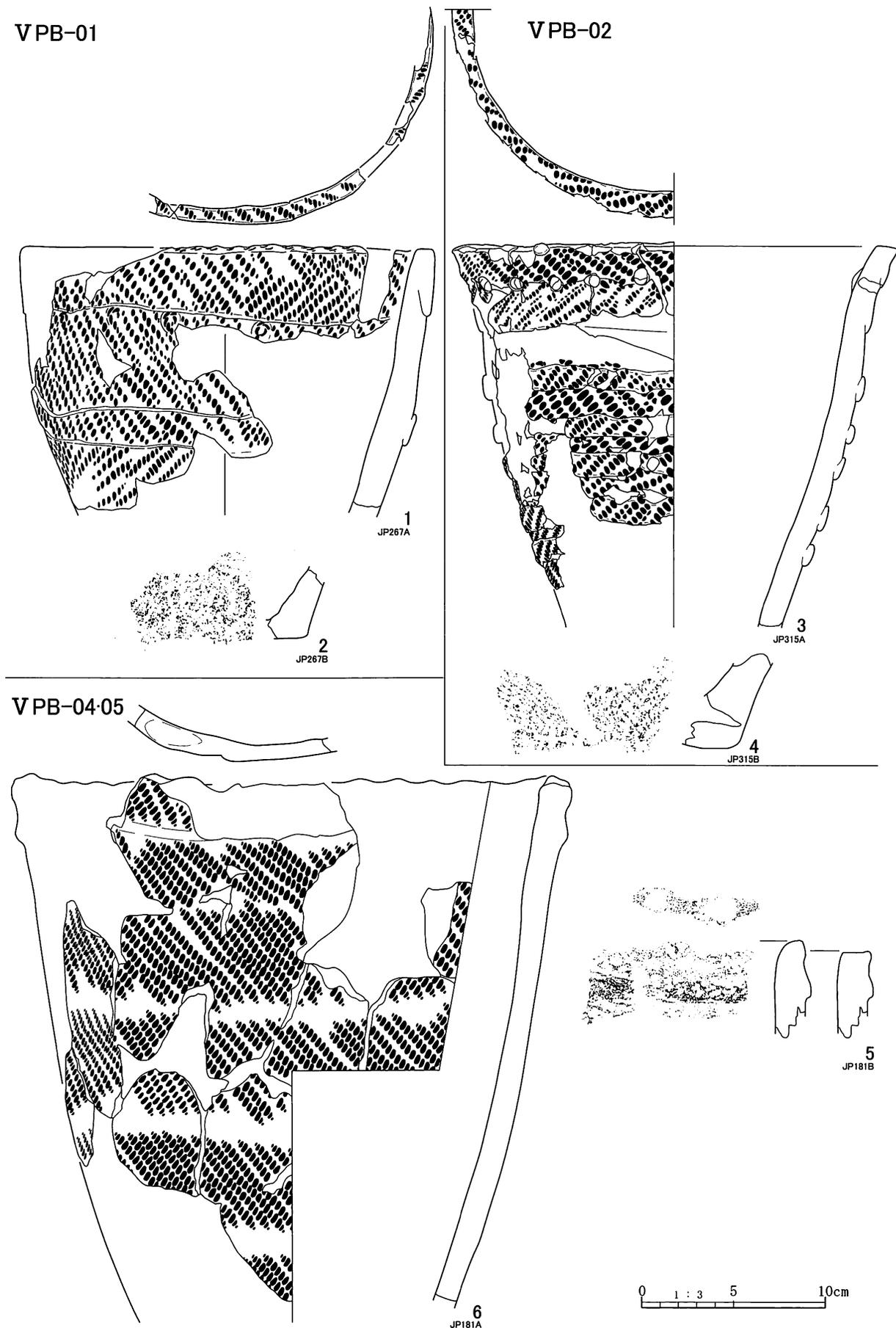
VPB-16



図IV-76 VPB-15・16 平面及び垂直分布図

VPB-01

VPB-02



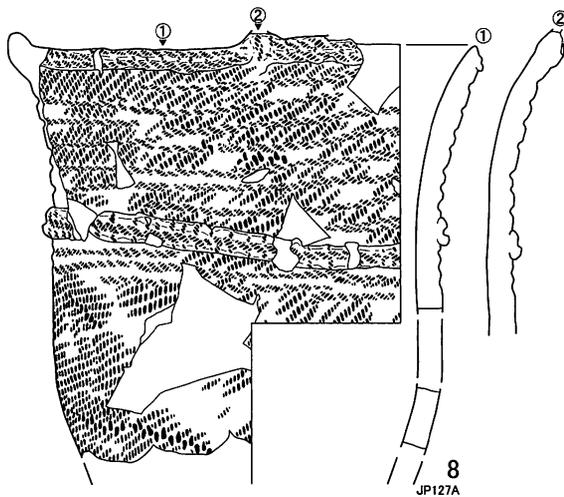
VPB-04-05

図IV-77 VPB 出土遺物(1)

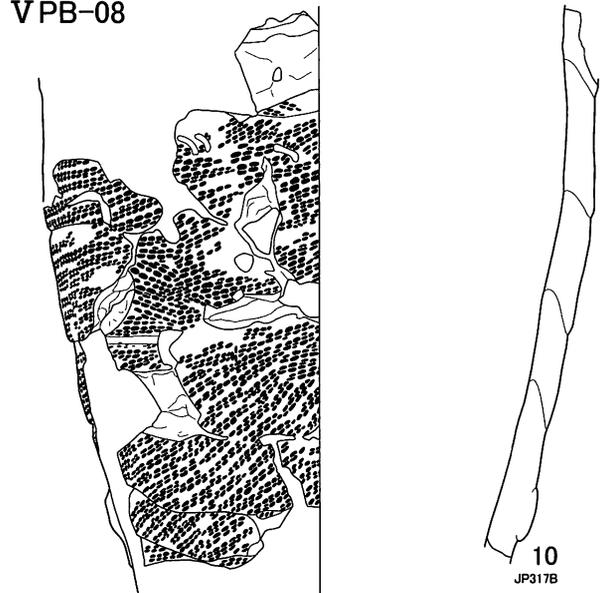
VPB-06



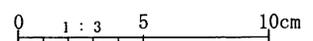
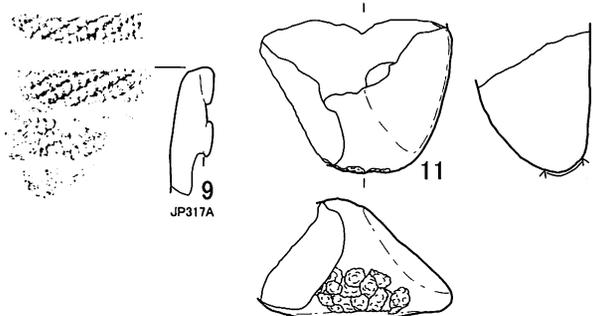
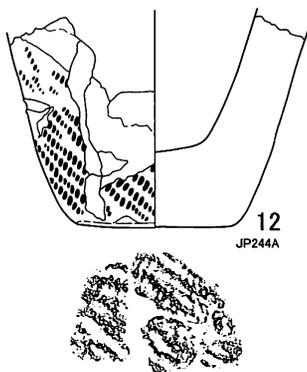
VPB-07



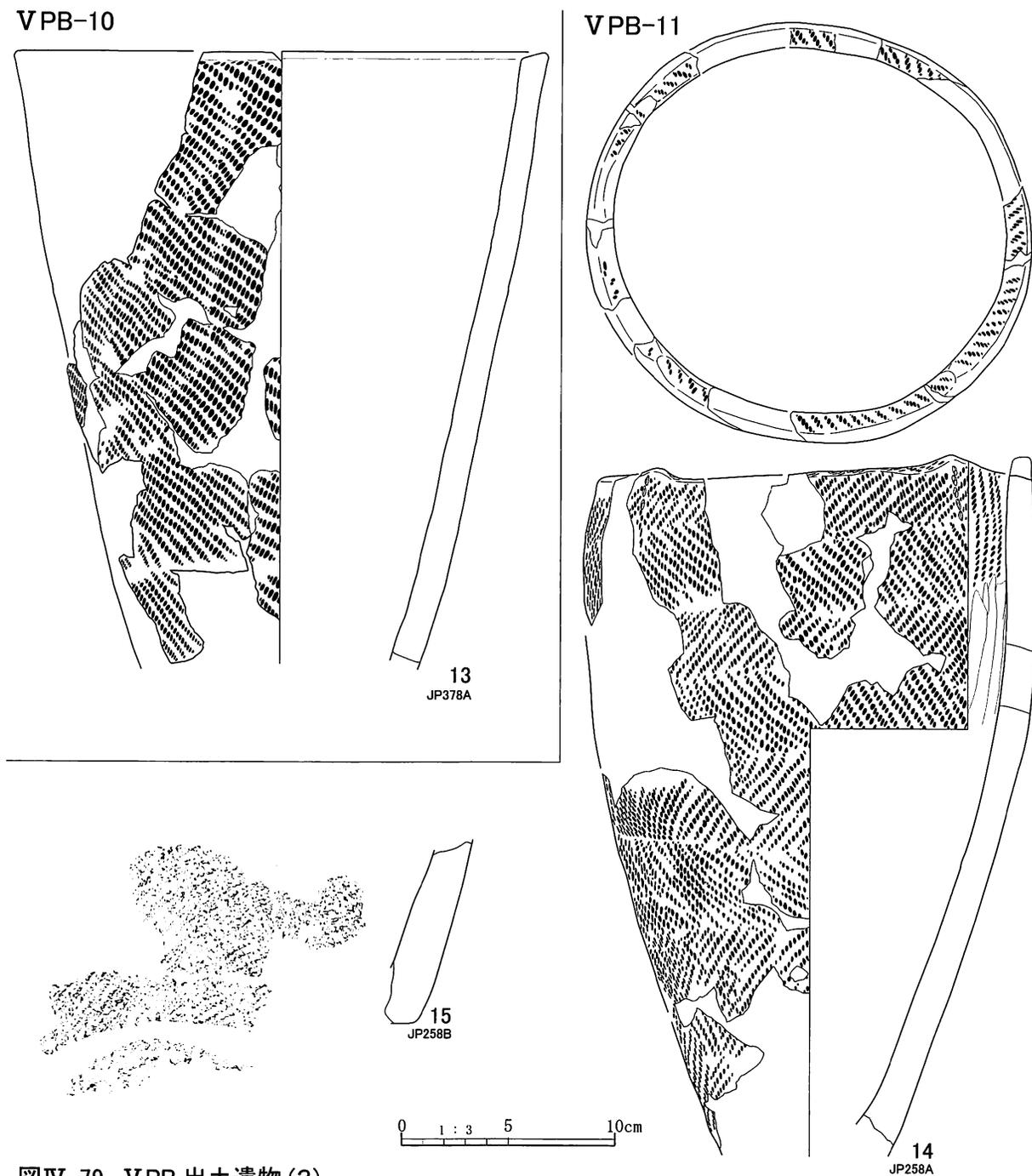
VPB-08



VPB-09



図IV-78 VPB 出土遺物(2)



図IV-79 VPB 出土遺物 (3)

VPB-16 (図IV-76 図版 70-8)

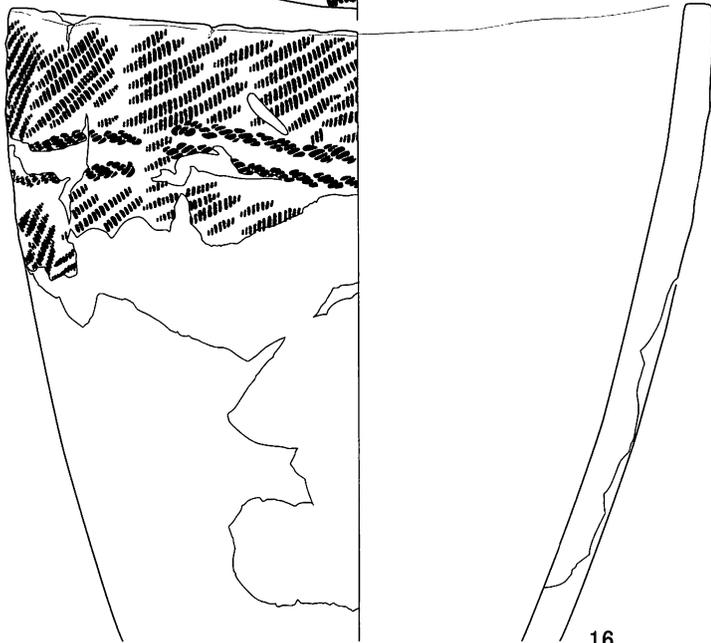
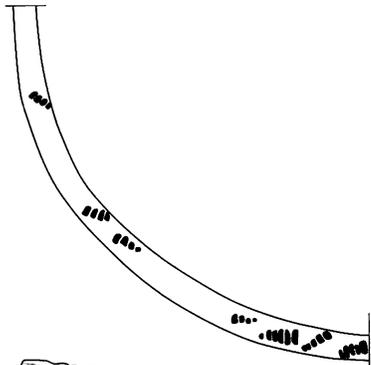
位置：AK・AL-26区 層位：VbL 規模：163×101cm 出土点数：762点

確認・調査 確認・調査：中央部平坦面のVb層下位を調査中、非常に細かい土器片が集中する範囲を検出した。土器片の点数が多く、全点の出土位置を記録して取り上げることは時間の制約から難しかったため、親指より小さな土器片は一括して取り上げた。

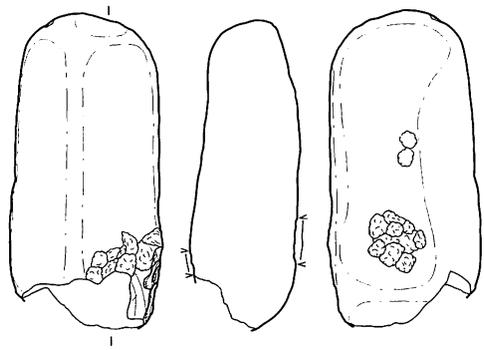
出土遺物 細片のため図示していないが、IV群A1類a種・IV群B1類土器が出土している。

(松井)

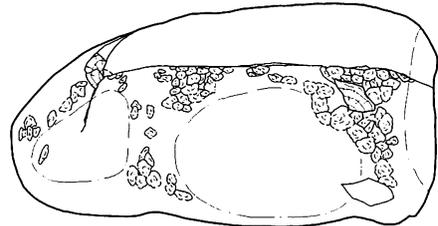
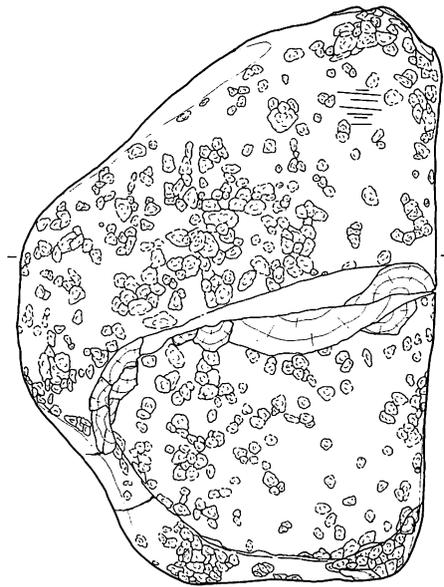
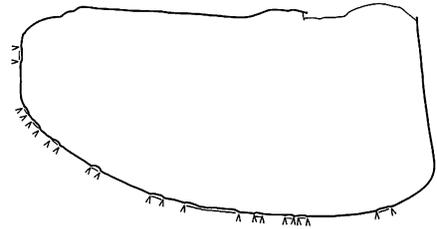
VPB-12



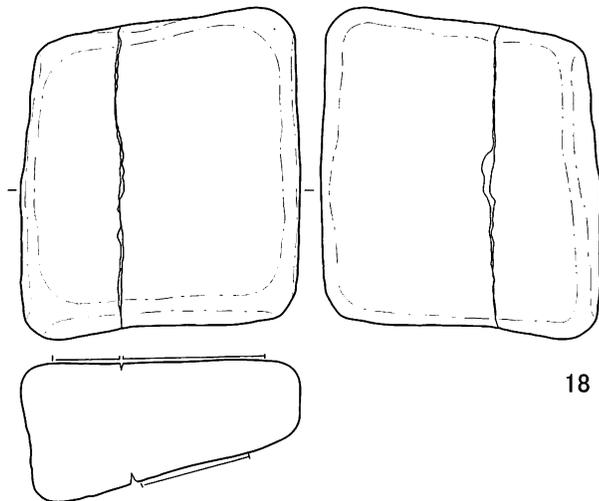
16
JP255A



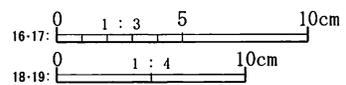
17



19

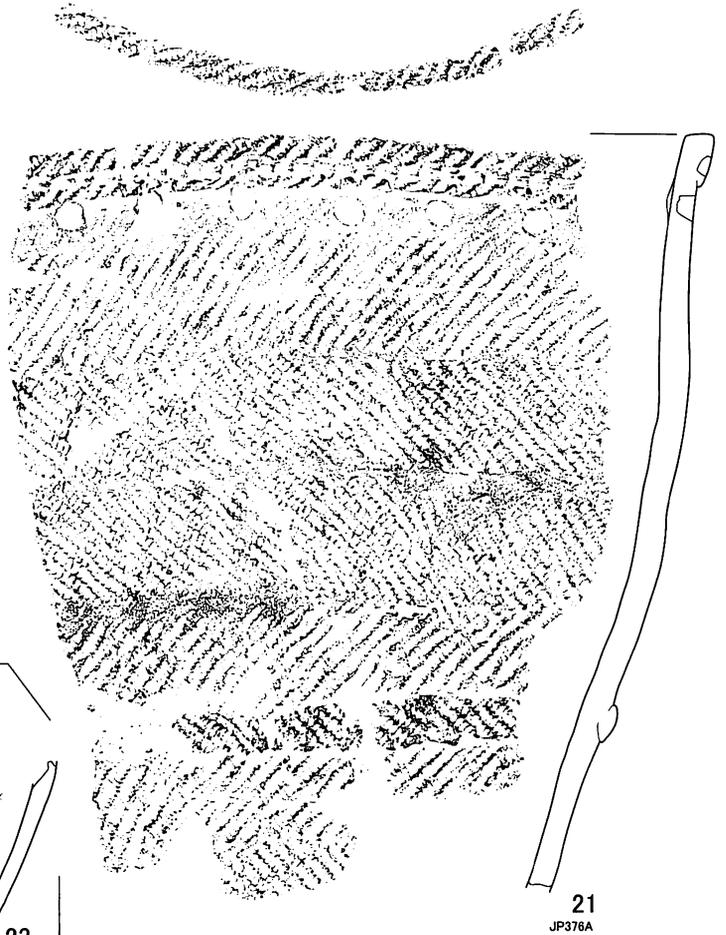
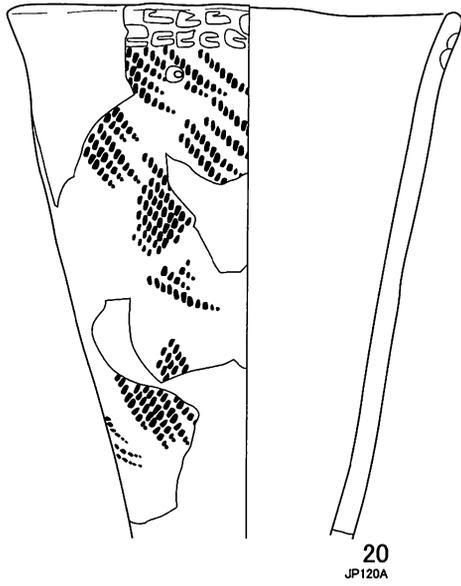


18

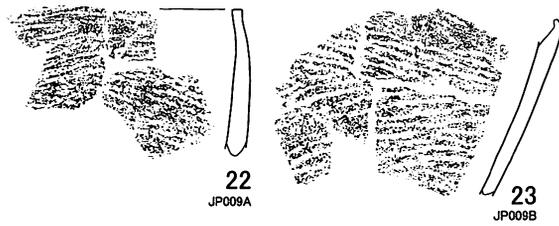


図IV-80 VPB 出土遺物(4)

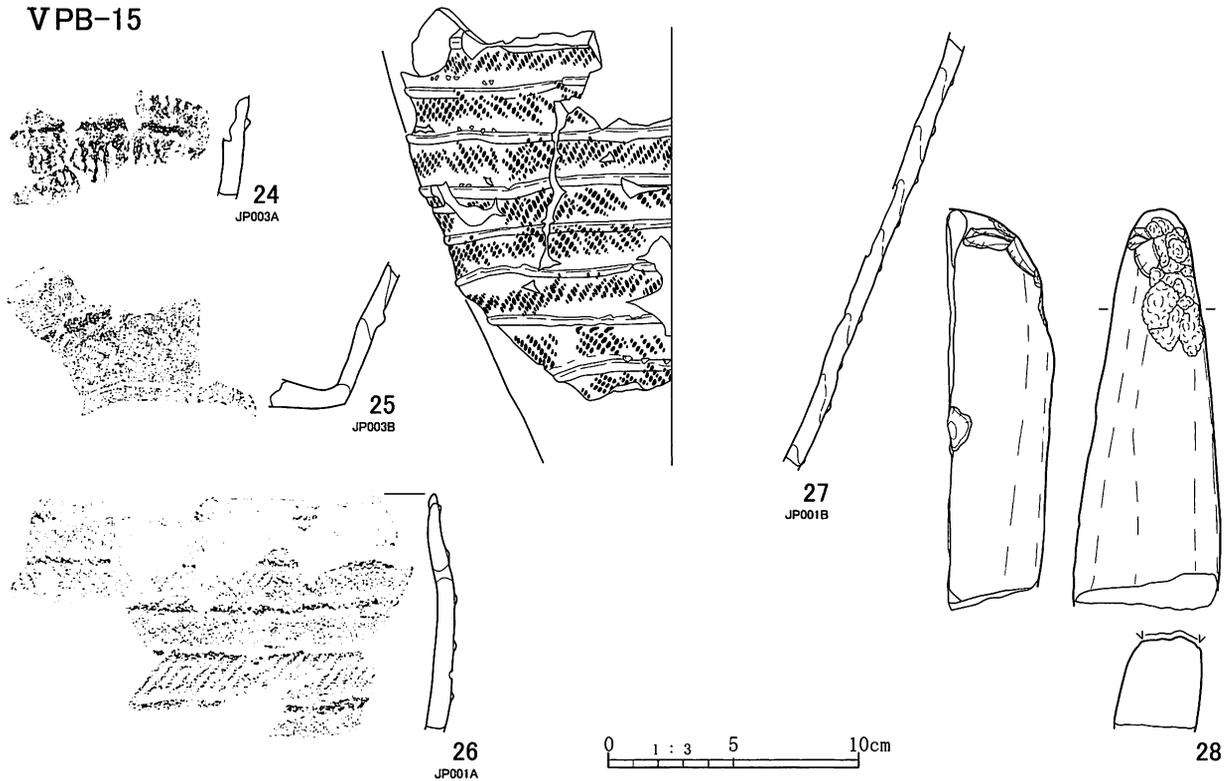
VPB-13



VPB-14



VPB-15



図IV-81 VPB 出土遺物 (5)

2. 礫集中

VS B-01 (図IV-82~86 図版 71-1~3 101・102)

位置：AP~AR・26~28区 層位：V bU 規模：768×643cm

確認・調査 VH-02はⅢ層から窪んでおり、Ⅲ層調査中からV層の住居跡の存在が予想されていた。Ta-c層除去後、住居跡との関連を見るため、十文字のベルトを残し、住居跡覆土を精査した。Va層を除去した段階で、住居跡の窪みの中央付近から扁平な礫が水平に出土し、周辺を精査した。南西部に大型の倒木痕が存在し、倒木痕の覆土から棍棒形石器(図IV-86-29)を出土した。扁平な礫は住居跡覆土の中央部に集中し、覆土の傾斜に沿って北東から南西方向に平らに検出された。この面では掘り込みや壁・床と思われる硬化面は確認できなかった。写真撮影・実測を行い、遺物を取り上げて、さらに下位に礫が出土していたので、住居跡覆土の傾斜に沿ってさらに1層掘り下げた。礫は上位の層同様に中央部に多く検出された。礫の分布範囲はおおむね上層と変わりはないが、北西部から大型の礫が検出され、その南側に棍棒形石器(図IV-86-28)が出土した。周辺を精査したが、床と思われる硬化面や壁は検出できなかった。写真撮影・実測を行い、遺物を取り上げて、引き続き、VH-02の調査に入った。

形態 VH-02の窪みの平面形と同様に不正楕円形をなす。VH-02の中央部、炉跡の周辺が一段低くなる床面の形に沿って扁平な礫は出土している。北西部に3mほど離れた位置から扁平な礫と同様な長軸をもって、大型の礫が出土している。VH-02の覆土1層・1'層が遺構を覆っており、これらの層を除去しても床面や壁は確認できなかった。

堆積状態 礫は2~3層に分かれて遺棄されたようで、重なり合っているものが多い。覆土は分層不可能で、VI・VII層を成因とする土砂は見られず、自然堆積と思われる。

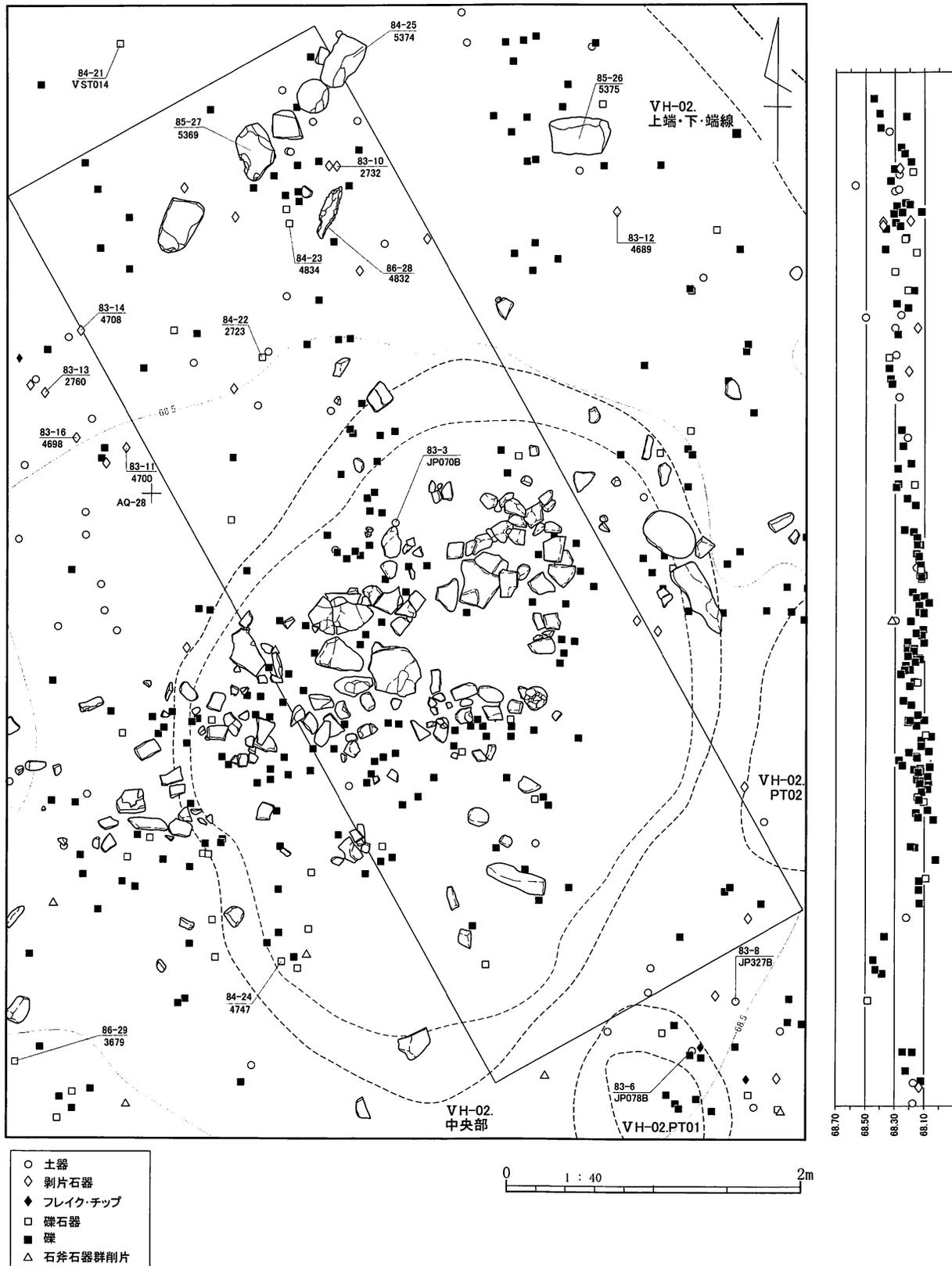
出土遺物(図IV-83~86 図版 101~102) 同一個体1・2はⅡ群B2類土器で、本遺構出土の破片と周囲のグリッドから出土した破片が接合している。1は波頂部を伴い外反する口縁部片で、口唇部は隅丸角状である。波頂部には棒状工具により深い刻み、口唇部には縄の刻みが施されている。口縁部文様帯は縄線文で構成され、波頂部から垂下する区画と原体折り返しの2条1対の縄線文が横位に施されている。2の胴部には結束第1種斜行縄文が施されている。同一個体3・4はⅡ群B3類土器で、口縁部は弱く外反する平縁で口唇部が隅丸角状を呈し、縄文が施文されている。口縁部には2条以上の縄線文、胴部の地文縄文は羽状縄文が施されている。胎土にはやや多くの繊維を含む。同一個体5・6はⅡ群B4類の口縁部が外反する深鉢形土器である。口唇部は断面形が三角形に肥厚し、棒状工具によって矢羽状の刺突文が施されている。口縁部にも同様な文様が2組施文されている。6の胴部下半で刺突文が施されており、矢羽状の刺突列が区画帯となっている。胎土は繊維のみ混入している。器厚は薄く、やや小型ないしは中型の土器と思われる。同一個体7~9は、Ⅳ群A1類a種の深鉢形土器の口縁部から胴部上半にかけての破片資料である。口縁部は直線状に外反し、口唇部は角状を呈する。口縁部には重複する複節の斜行縄文を伴う幅広の貼付帯が施され、直下には無文帯を形成し深い円形刺突文が廻る。胴部上半には少なくとも4条の貼付帯が施されている。貼付帯及び器表面には撚り方向の異なる複節の斜行縄文が施されている。なお、本遺構から出土した縄文時代前期後葉の土器は風化、磨滅しており、周辺グリッド出土の破片と接合している。このことからVS B-01を形成した際に周囲より持ち込まれたものと思われ、本来的に伴うものではない。

10は基部が明瞭な石鏃とした。表面の鏃身部右側縁は細かな剥離によって調整される。形態は左右非対称で、基部に比べ鏃身部が短い。11は基部が不明瞭な石鏃で、裏面に素材剥離面を残している。表裏面ともに左側縁が主体的に調整されており、断面形はプロペラ状となっている。また表面右側縁に逆刺があり左右非対称な形態である。12は明瞭な茎部が作出され、茎部端が平らな石槍(ポイント類B1a)と分類した。比較的均一な剥離による調整がなされている。裏面の基部側に素材剥片の主剥離面が残る。形態については、基部側縁が滑らかな弧状で、ヲチャラセナイ遺跡で多く出土した石槍と平面形が類似する。13は茎部が不明瞭な石槍。側縁稜はジグザグ状となる。基部端に転礫面が残り、稜に磨滅が見られる。先端が作出されておらず、未成品の可能性もある。14・15はつまみ付きナイフである。14は2辺で構成される縦型で、表面左側縁が長いものである。表面のみに調整がある。断面形は左側縁が鋭角、右側縁は比較的鈍角で、表面左側縁とつまみ側の一部に稜の磨滅が見られる。15は縦長剥片を素材につまみ部分のみが調整されている。下端の欠損部分にも微細剥離があり、完形品とした。長軸両側縁に使用の結果、生じた連続的な微細剥離がある。16はサイド・スクレイパーとしたもので、より大きな剥片から剥離した剥片が素材となる。表面右側に、図正面左側に凸バルブを残す。表面の上下には微細な剥離があり、右側縁には鈍角となる剥離がある。17・18はコンケイブ・スクレイパーとした。17の表面両側縁はやや弓状に張り出す刃部が形成されている。表面上端に磨滅が見られる。18は左右側縁に湾入した刃部が形成されている。19はサイド・スクレイパーの欠損品と思われる。上端には微細な剥離と磨滅がある。20は厚手の剥片を用いた小形の石核である。主剥離面を打面とし、剥片剥離を行っている。剥離に先立つ打面調整がなされている。作業面から2cmほどの小形の縦長剥片が剥離されている。10~13・15~20が黒曜石製で、14が頁岩製である。

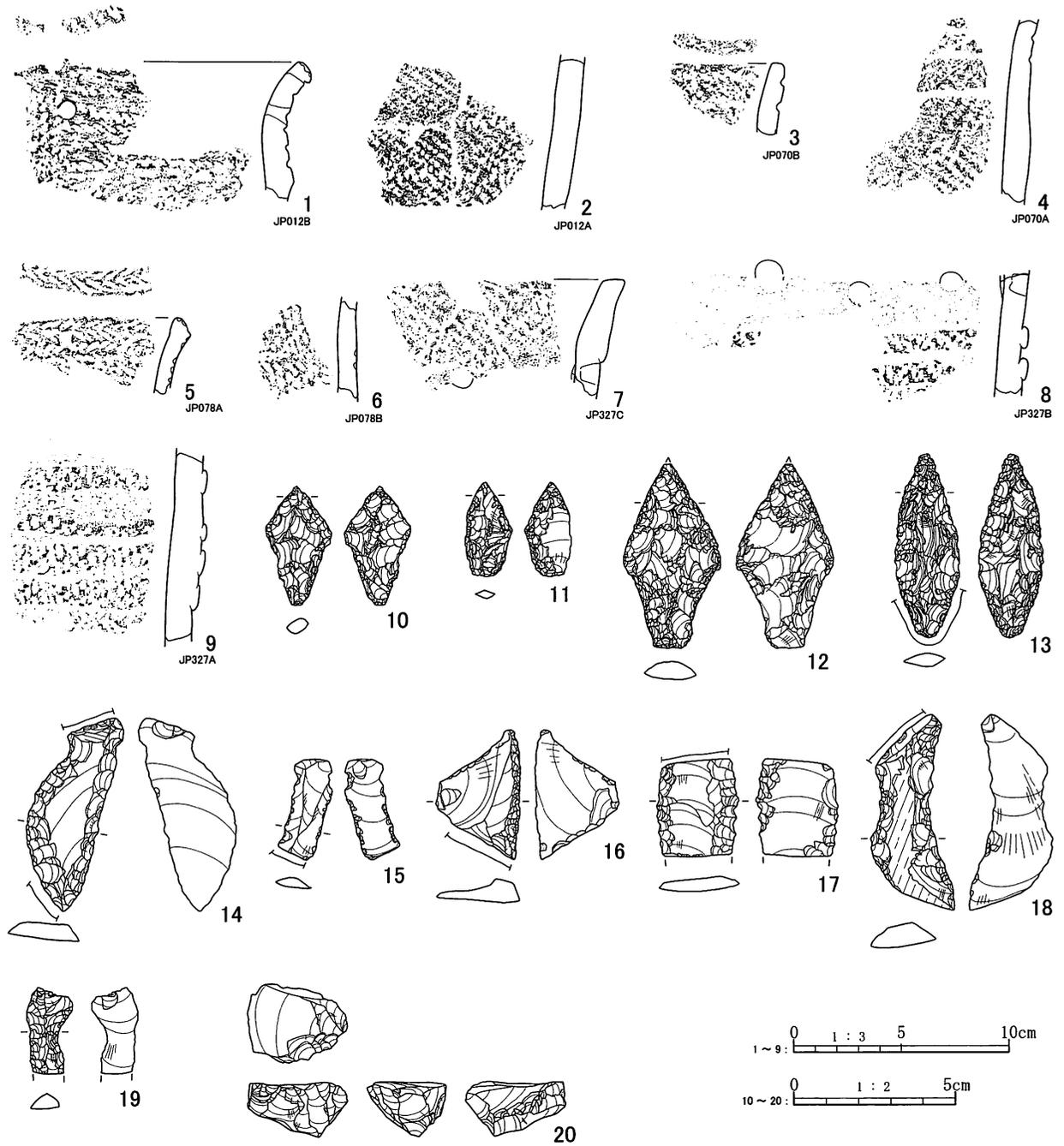
21は石斧未成品である。表面には転礫面が、側面には節理面がある。裏面側縁はほぼ全て剥離され、敲打によって側縁稜が落とされている。研磨調整は刃部周辺に部分的に行われる。22・23はたたき石である。22は上端に古い折損面のある礫を素材に用い、表裏面・左側面・下端の4面が使用されている。23はやや厚手の素材を使用し、敲打痕の部分で欠損している。24はいわゆる半円状扁平打製石器に類するものである。扁平礫を素材に用い、ほぼ全周を両面から剥離し、断面の尖る側縁稜が作出されている。擦り面はない。同様のものがヲチャラセナイ遺跡で1点の出土が確認されている。25~27は長軸30cm以上の大型の石皿である。25は平坦面に敲打で窪みを作成した後、使用面を形成している。26は石器上半部の中央から右側縁にかけて敲打がなされ、側縁稜が落とされている。その後、使用面が形成される。使用による窪みは極僅かである。27は表面左側縁に剥離が連続している。使用面は僅かに窪む。

棍棒形石器(28・29)はいずれも青色片岩で、包含層より出土した棍棒形石器とは石質が異なる。2点とも明瞭な区をもち、鋸歯状の刃部をもつ。平面形を見ると、側縁は非対称で、正面から見ると左側に反っている。28は反っている側の区は大きく明瞭である。28は図示した正面と基部に礫面、裏面は古い岩砕面を大きく残す。29は図示した正面は大きく礫面を残し、基部も礫面のままである。中央部に転礫の稜を残し、正面の剥離は稜線にまで及んでいない。裏面にもわずかな礫面が確認でき、転礫を利用したことがわかる。28・29とも刃部に比べ、柄部の側縁は摩耗している。

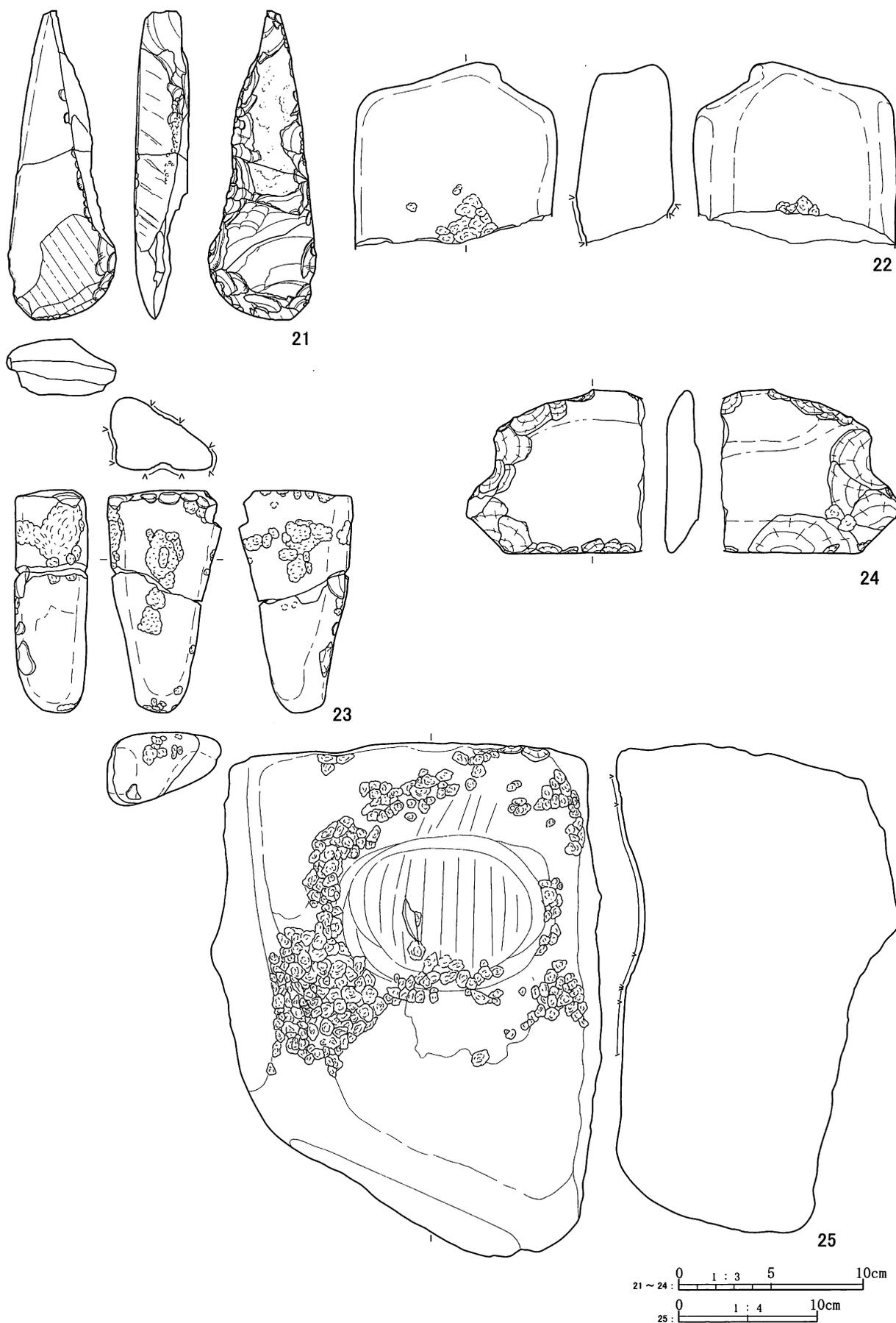
(遺構関係・28・29:宮塚 土器:乾 石器:松井)



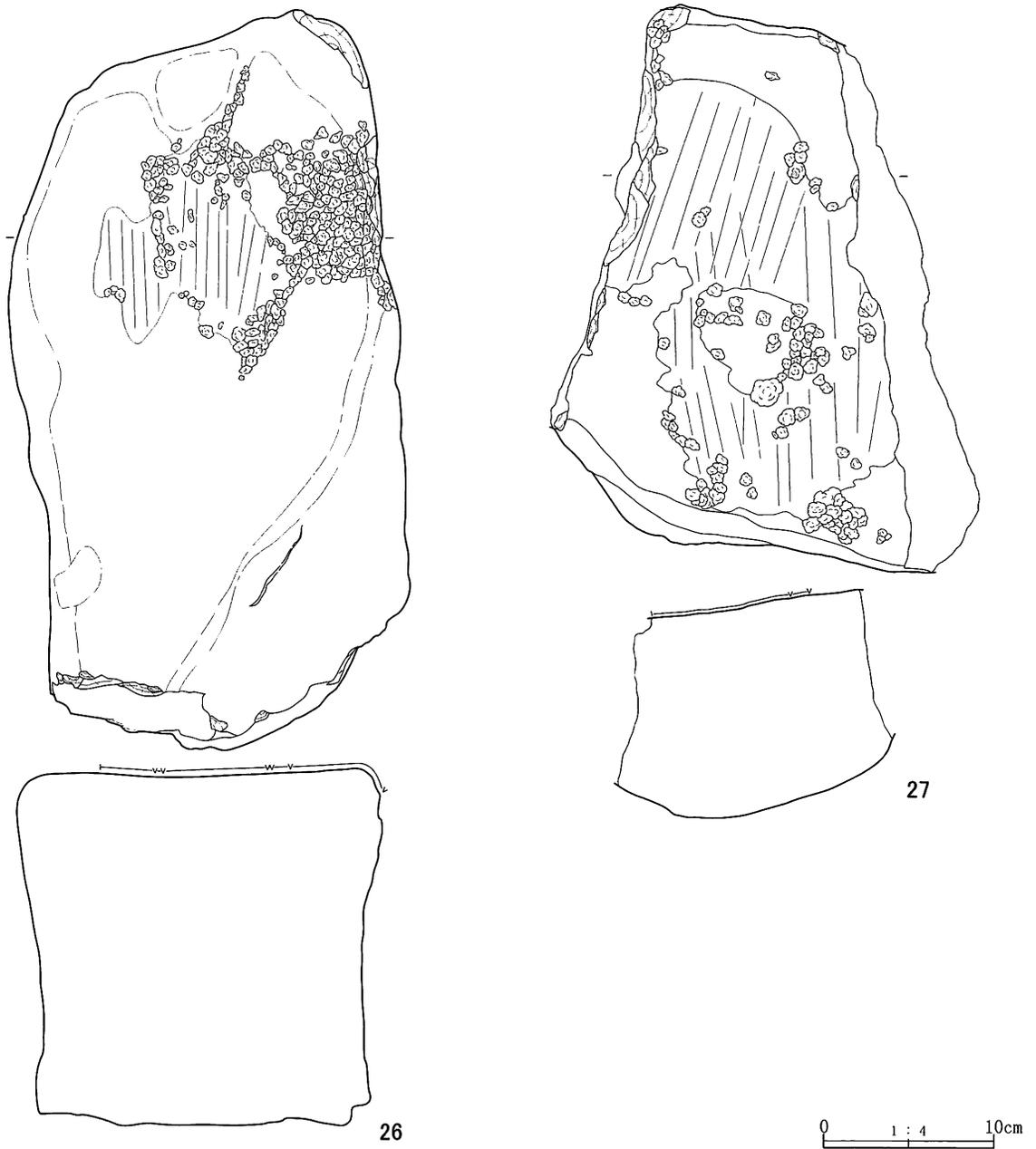
図IV-82 VSB-01 遺物拡大分布及び垂直分布図



図IV-83 VSB-01 出土遺物(1)



図IV-84 VSB-01 出土遺物(2)



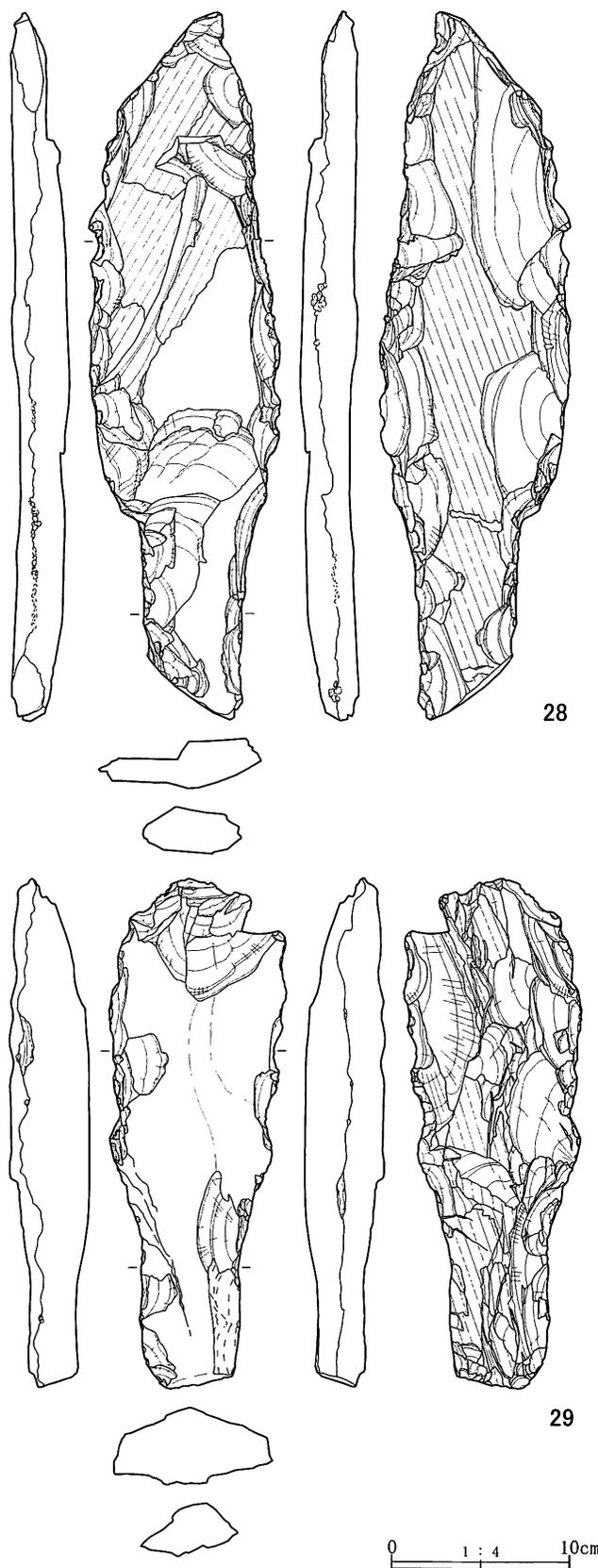
図IV-85 VSB-01 出土遺物(3)

VSB-02 (図IV-87~92 図版 71-4~6・103)

位置 : AP-31~34・AQ~AS-30~34・AT-29~34・AU-29~33・AV-28~30・32・AW-29・30

層位 : VbU~Vc 規模 : 4,016×1,894cm

確認・調査 AP から AV ラインにかけて Va 層を掘り下げると、大型板状礫を含む遺物を多数検出した。遺物分布範囲を確認するため、Va~Vb 層上位の包含層を掘り下げたところ北西-南東軸の帯状の範囲内からは焼土や土器集中を検出した。これら大型板状礫は出土層位や同一層位面の出土土器から縄文時代後期初頭の所産と考えられ、VSB-02 と付番して調査を行った。調査は全体の出土状態記録の為、大型板状礫が途切れる範囲まで広げ、写真撮影後、おお



図IV-86 VSB-01 出土遺物(4)

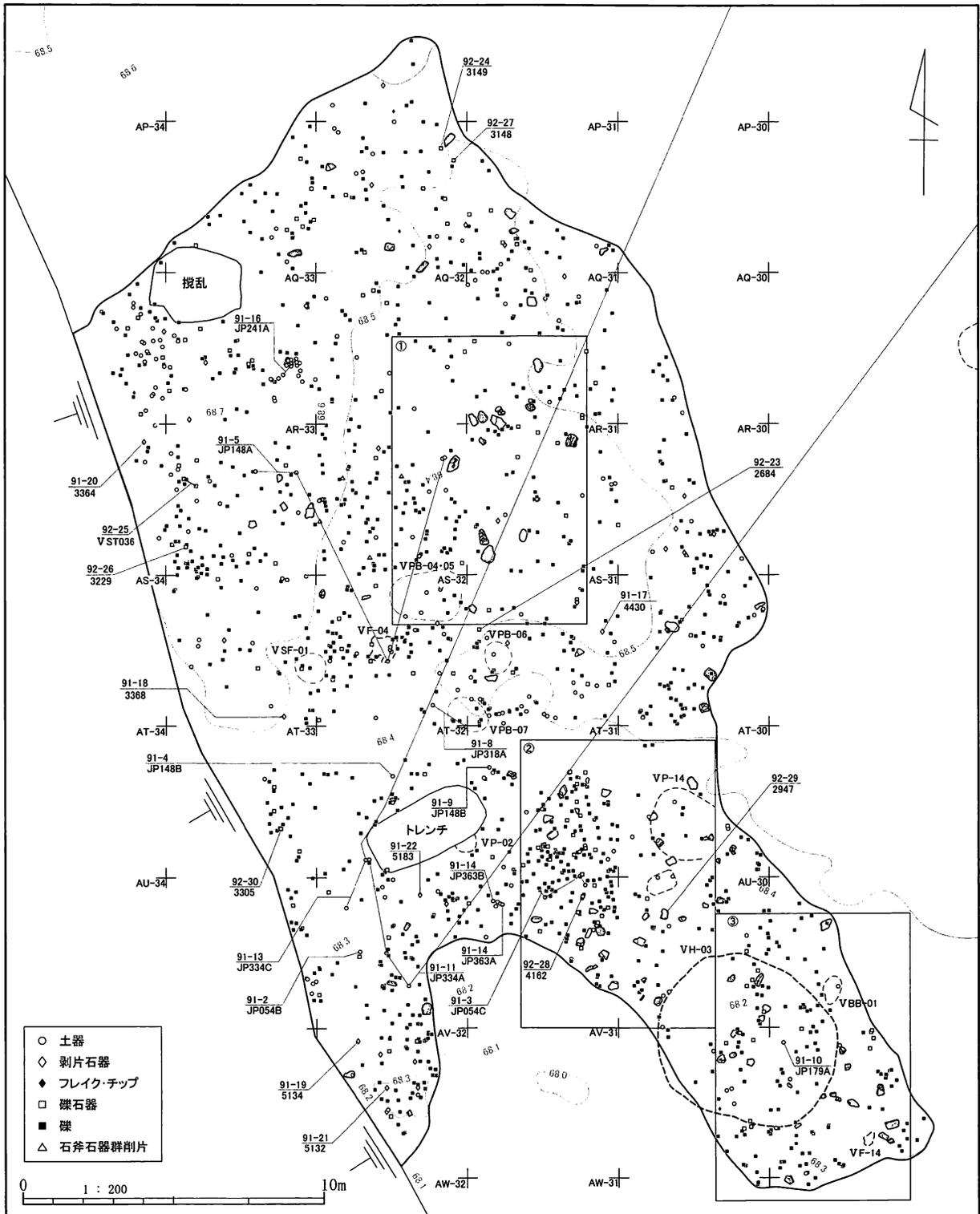
よそ 30 cm以上の礫や礫石器に関しては、輪郭をとり必要に応じて図化している。その後、遺物を取り上げ、礫集中以外の遺構や土器集中の調査を行っている。また、範囲内の南東側に浅い円形の窪みがあり、調査の結果、縄文前期後葉の住居跡(VH-10)であったことから本集中が住居跡上位に検出したことについて時期的な矛盾はない。集中に含めた遺物に関しては現場段階で出土層位を確認し、Va~Vb層下位までとして集計、掲載している。

出土遺物(図IV-91・92 図版103) 遺物については範囲内に出土した土器(集中以外)、剥片石器、礫石器を掲載する。礫については計測表など掲載していないが、砂岩が主体で板状礫が多数出土するのが特徴で被熱礫は少ない。

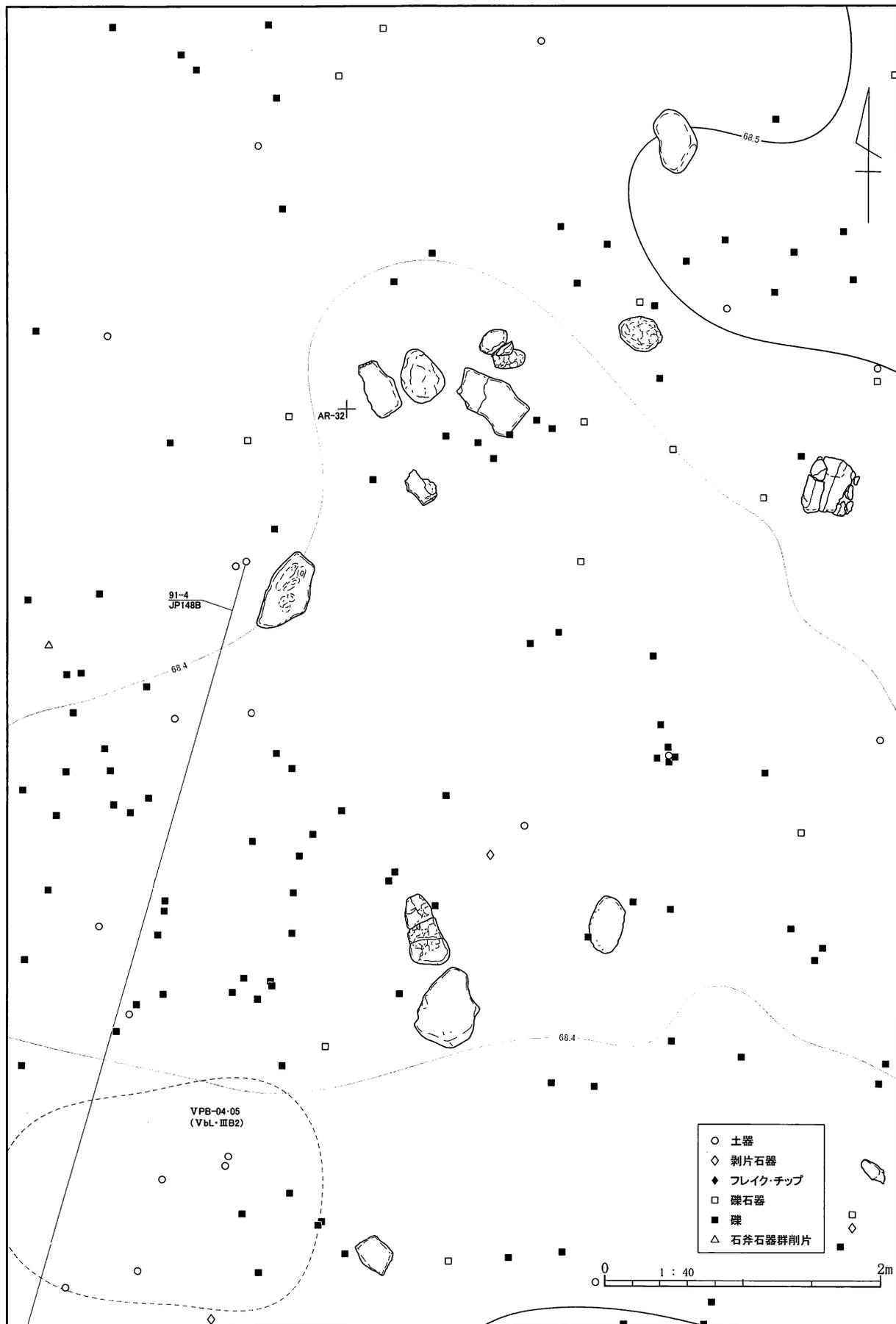
土器 1~3はII群B3類に分類した同一個体片である。平縁で胴部はやや外傾して立ち上がり、縄線文を境にして直線状に立ち上がり口縁部で外反して開く。口唇部は隅丸角状を呈し、口縁部下縁の屈曲に縄線文が3条施されている。胎土は砂粒を微量、繊維を多量に含む。器形や文様構成は円筒土器下層d2式の要素だが、胴部の羽状縄文は大麻V式の要素であり、両者を兼ね備えて個体と言える。4・5はIII群B2類の胴部から底部片で斜行縄文と結縛痕が認められる。同一個体片6・7はIII群B3類で6は円形刺突文が施され、やや外反気味に開く口縁部下縁の破片である。胎土に石英を多く含む富良野盆地系土器である。8~10はIV群A1類a種で8は平縁で直立に立ち上がる。口唇部はナデ調整で口縁部貼付帯は幅が狭く低平で直下に無文帯を形成している。輪積痕から貼付帯は後付けであることが分かる。10は縄の撚り締めにより節が深く施されている。破片下部の無文帯を挟んで羽状構成となっている。8・9は胎土に砂粒を中量、10は石英を多く含む富良野盆地系土器である。同一個体片11~13はIV群A1類c種で、11は縦回転の地文施文前の貼付帯に斜行縄文と縄線文を施されている。貼付帯を境に羽状構成を成す。12はやや上げ底となる底部で、底部変換点はやや張り出し外傾して立ち上がる。13は直立気味の胴部片である。11・13は縦回転の斜行縄文が施文されており、道南系の土器と考えられる。14~16はIV群A2類で、同一個体片14・15は平縁で、口唇部は内削ぎの切り出し状となり縄文が施されている。口縁部貼付帯と直下の地文は異原体羽状縄文で構成され、竹管状工具で斜め下から刺突文が施されている。16は14・15と同様の形状、構成であるが、貼付帯直下の刺突は縄端によるものである。

石器 17・18は石鏃で17は両面に古い剥離面が残置している。19は石槍に分類したもので茎部に対して尖頭部が短い、新しい剥離調整が施されていることから再加工品と考えられる。20は背面に主な加工が施されるつまみ付きナイフで、左側縁に連続した刃部調整が認められる。21・22は1側縁に刃部を作出したスクレイパーで、21は転礫面を残す。23・24は石斧で、23は全面研磨され刃部は円刃となる。24は両面に素材面が残るが、全体を剥離調整によって形状を作出している。刃部等に研磨痕は認められない。25・26はたたき石である。25は両面、26は側縁と端部に敲打痕が認められる。27は四面砥石で全面使用による凹面が顕著である。28は石鋸としたもので、使用面の断面は丸く長軸方向の擦痕が認められる。29は板状で不整形の礫中央に擦痕が認められる石皿である。30は石製品としたもので、握り拳大で多面体の擦痕と一部敲打痕が認められる。用途としては手持ち砥石も考えられるが、同様の形態を示す資料で両端が尖るものがあるなど用途不明な点があることから石製品として掲載している。

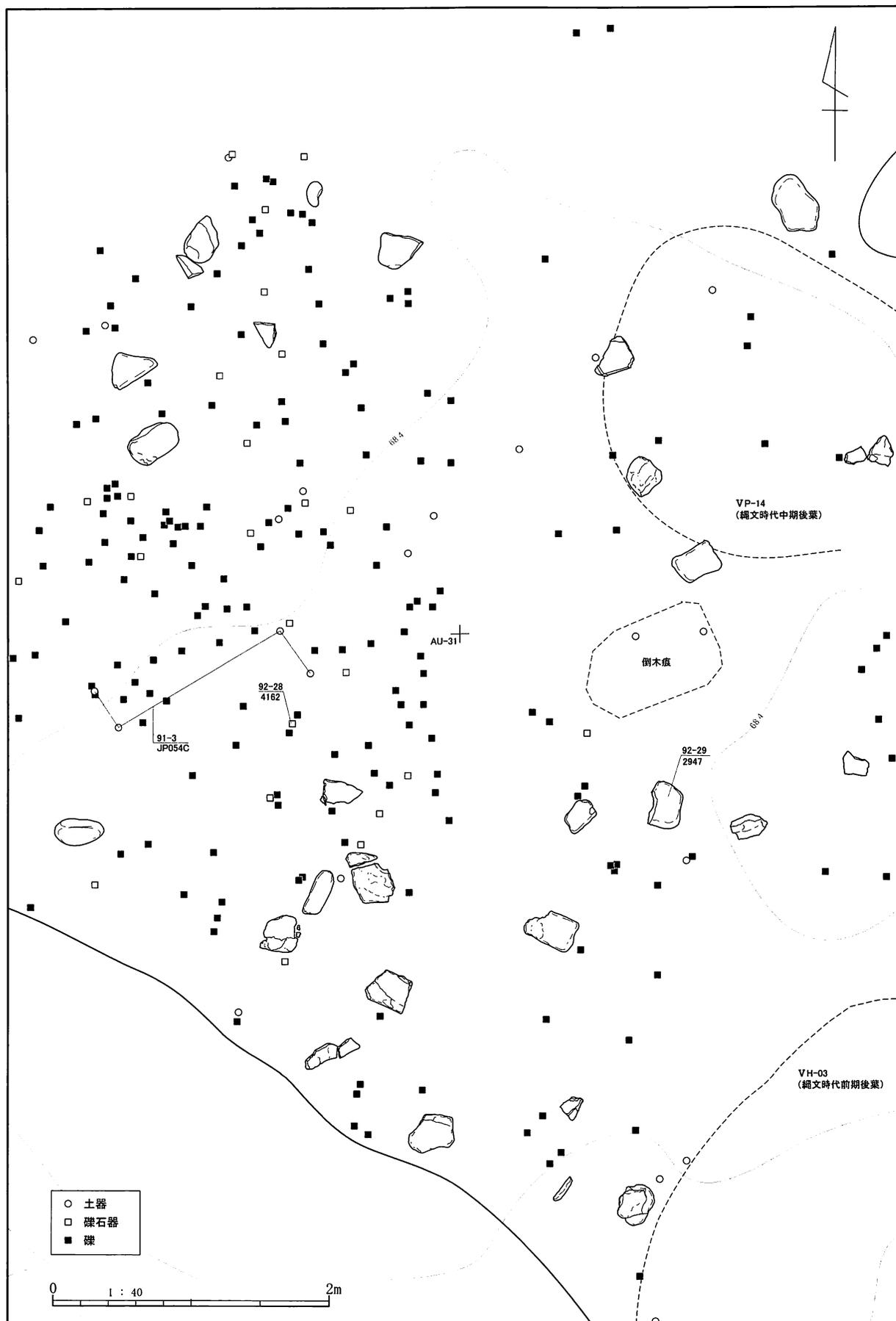
(奈良)



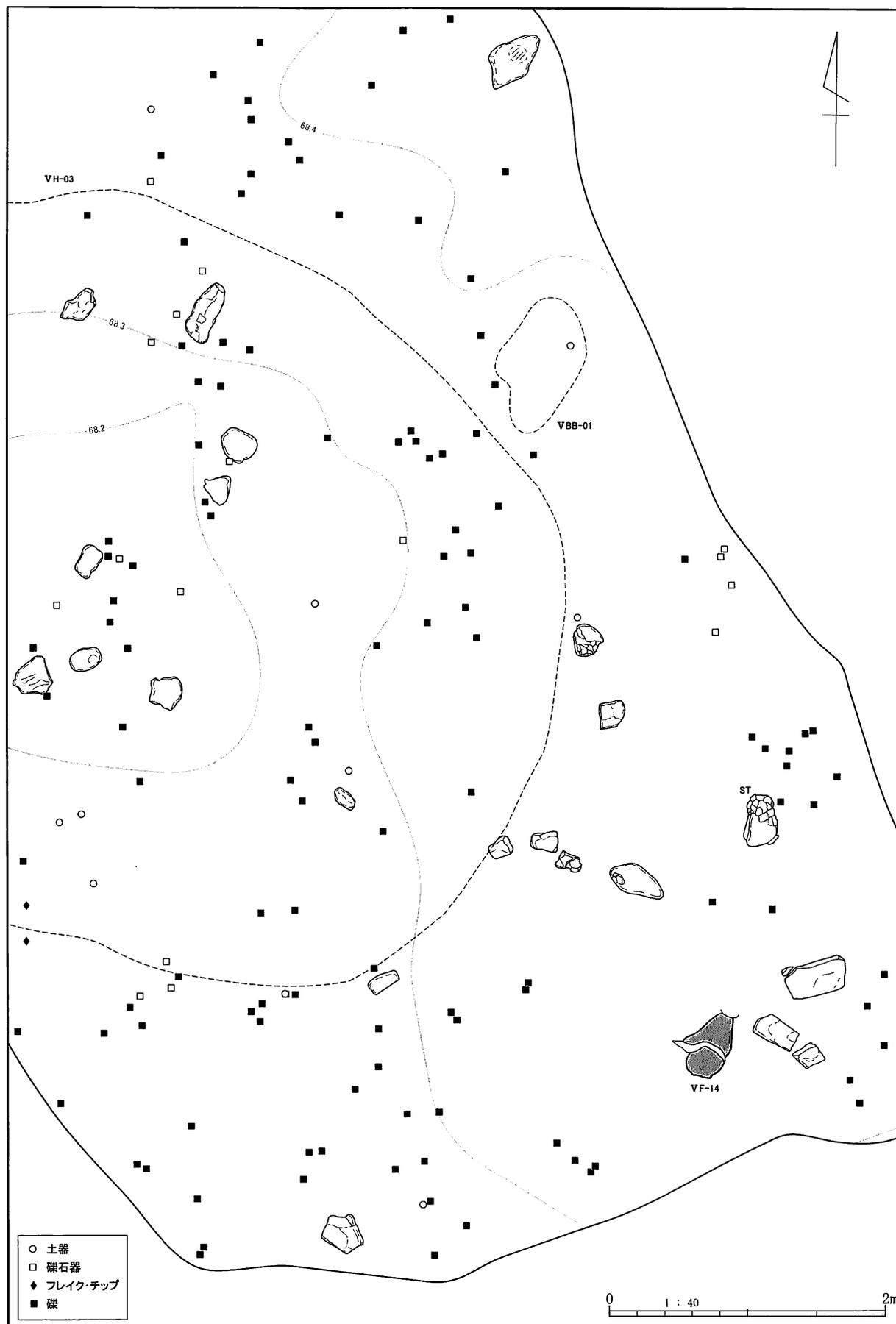
図IV-87 VSB-02 平面及び遺物分布図



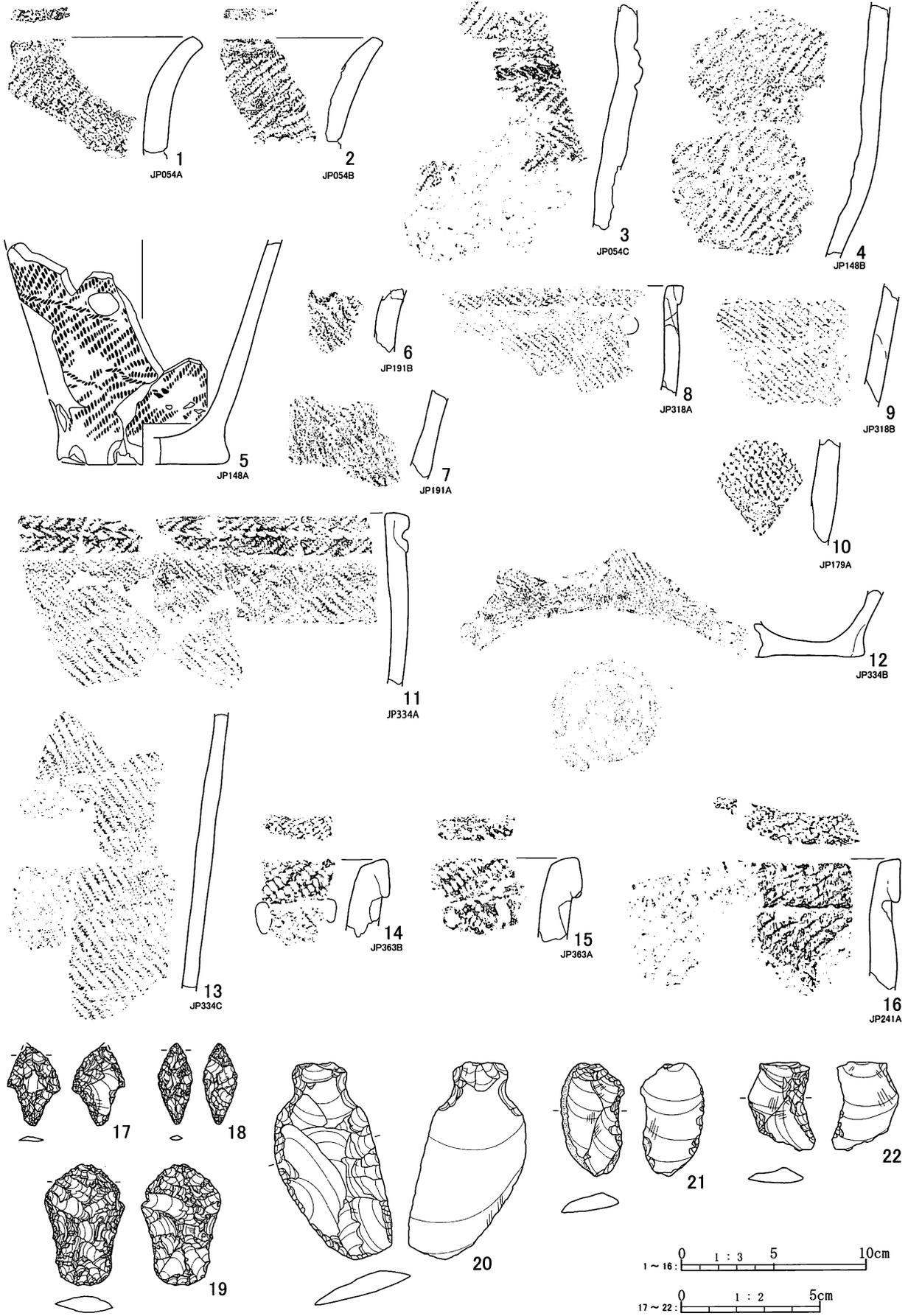
図IV-88 VSB-02 遺物拡大分布図①



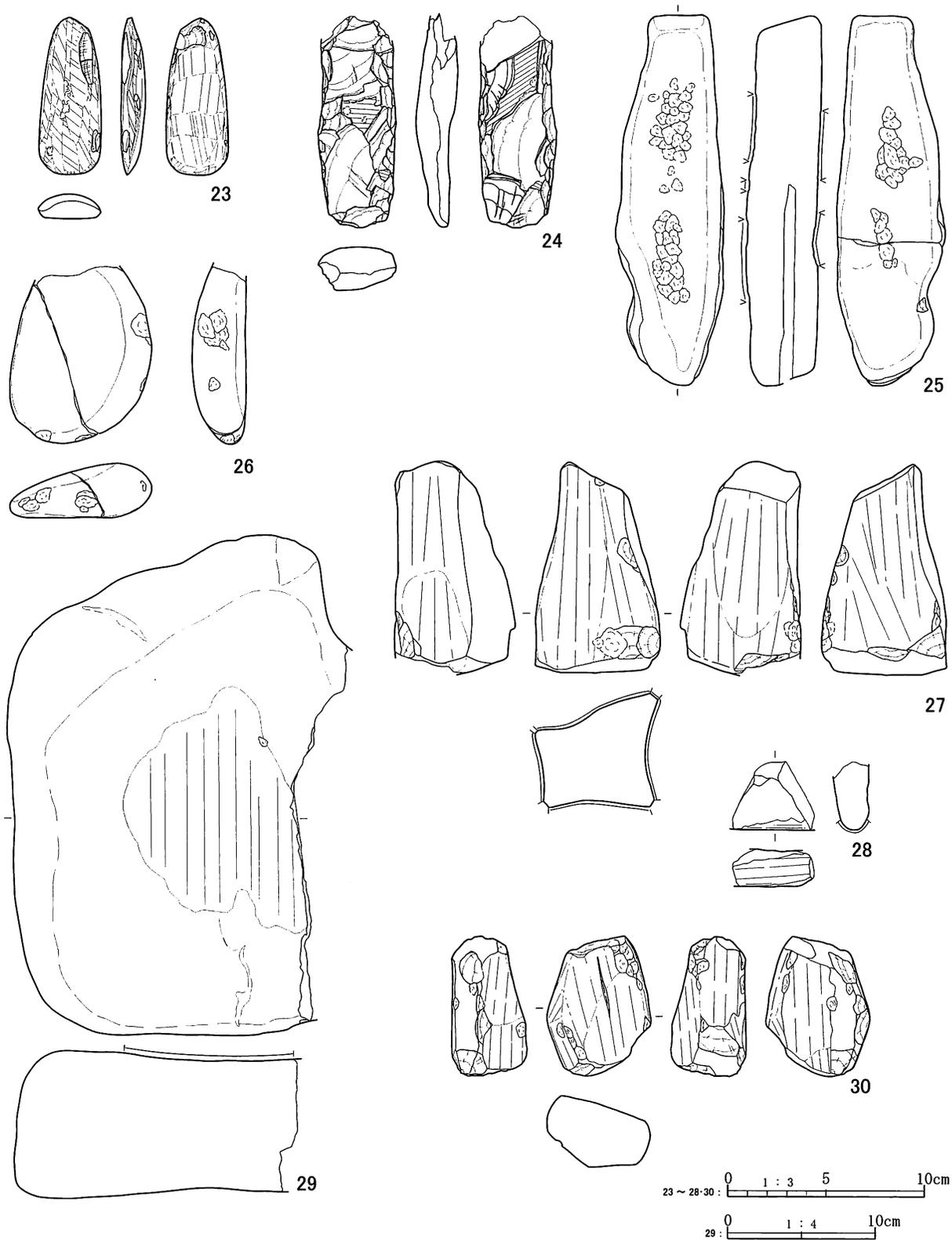
図IV-89 VSB-02 遺物拡大分布図②



図IV-90 VSB-02 遺物拡大分布図③



図IV-91 VSB-02 出土遺物(1)



図IV-92 VSB-02 出土遺物(2)

VSB-04 (図IV-93~102 図版 71-7・8 72-1~4 104~108)

位置：BD・BE-29~33・BF-30~32・BG-31・32 区

層位：VbU~VbL 規模：2,003×1,578cm

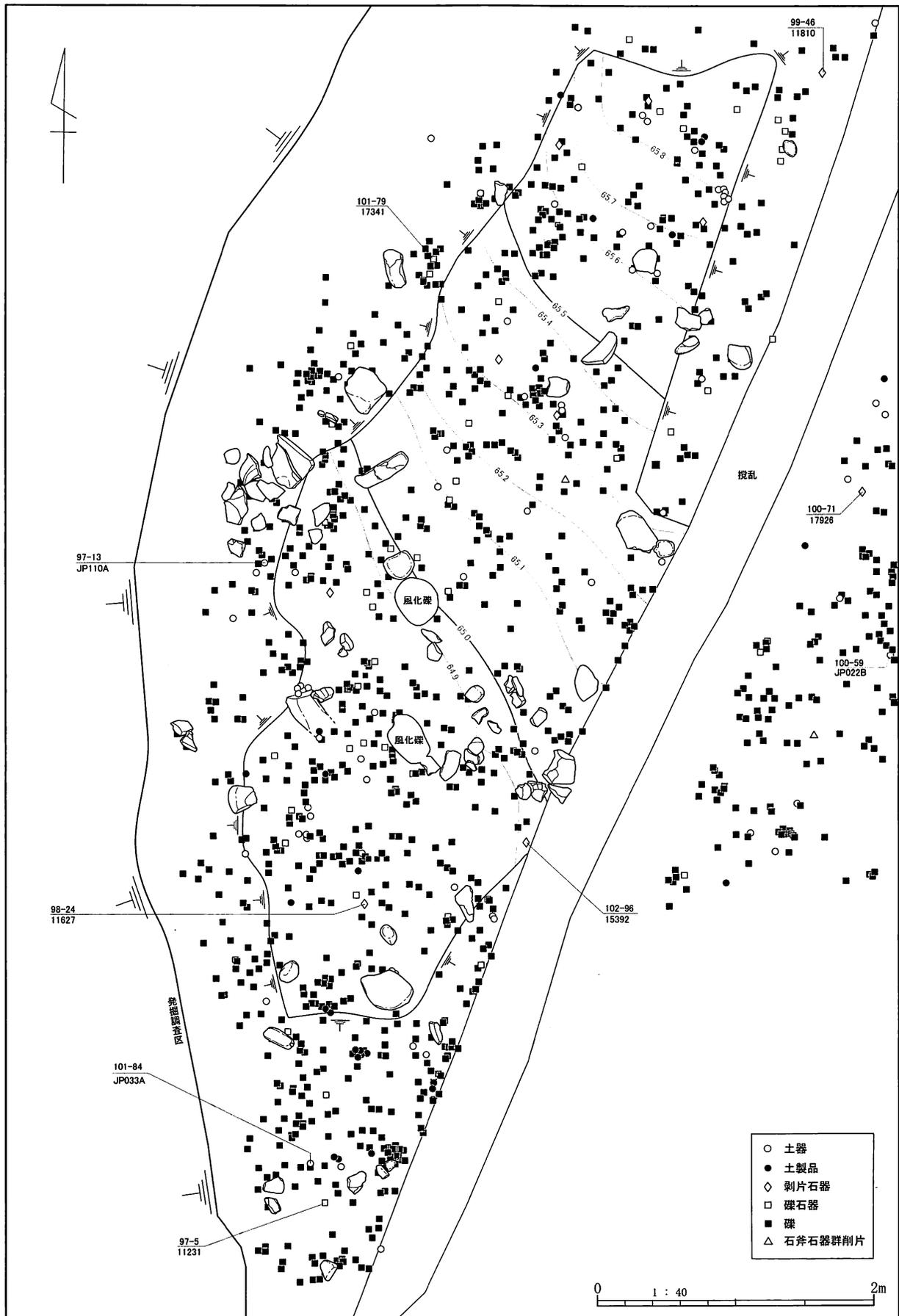
確認・調査 発掘区南側丘陵先端部で検出した。出土遺物は土器 1,480 点、土製品 299 点、剥片石器 211 点、礫石器 310 点、礫 6,368 点で、合計 8,668 点である。Va 層調査中、河岸段丘面 T₂ から T₁ 面への斜面の Vb 層上面において土器、礫石器、礫等が多数出土したため Vb 層上位を慎重に掘り下げた。結果、さらに遺物出土範囲が広がったことから Vb 層中位まで掘り下げ、全体の遺物検出写真と同一面で出土した VPB-10 の写真撮影の後、大型礫等の微細図を作成して一回目の遺物を取り上げた。並行して旧小学校への進入路を挟んで西側にも遺物出土範囲が広がっていることが判明したため同様の手順で記録した後、遺物を取り上げた。また、この区域はⅢ層調査時からメインセクションを記録するため南北方向の 31 ラインにベルトを設定している。ベルト東側のトレンチ調査も同時に行い南端部の段丘面 T₁ の堆積状態を確認したところ、BE-31 区で Vb 層が約 40cm の厚さで堆積しており、T₁ 面先端部(南側)に移行するにつれて徐々に薄くなっていくことが判明した。さらに Vb 層下位を 5 cm 掘り下げたところで再び多量の遺物が出たため、同一面での斜面全体の遺物の検出に努め、検出写真撮影後、取り上げを行った。その後も遺物の出土が続き、ベルトより西側に黒色土がより厚く堆積していたため最終的に Vb 層下位を 4 回に分けて掘り下げることとなった。その間、遺物検出写真撮影と土器のまとめりと大型礫の微細図作成、取り上げを繰り返し、Vc 層まで掘り下げたところ、遺物の出土量がほぼなくなったことから調査を終了した。

本遺構の性格として、多種多様の遺物、出土量に加え、縄文時代前期後葉から後期初頭の土器が出土していること、破損している礫石器等がほとんどで、接合されず完形品が少ないことから、長期間、南側斜面の区域を捨て場として利用していたものと考えられる。なお、遺物が最も多く出土した Vb 層上位と下位には、樽前 d テフラのパミスなどを少量含む黒褐色土で、間層の V 層中位、本集中より下層の Vb 層下位や Vc 層にはこれらの混入土砂もなかった。

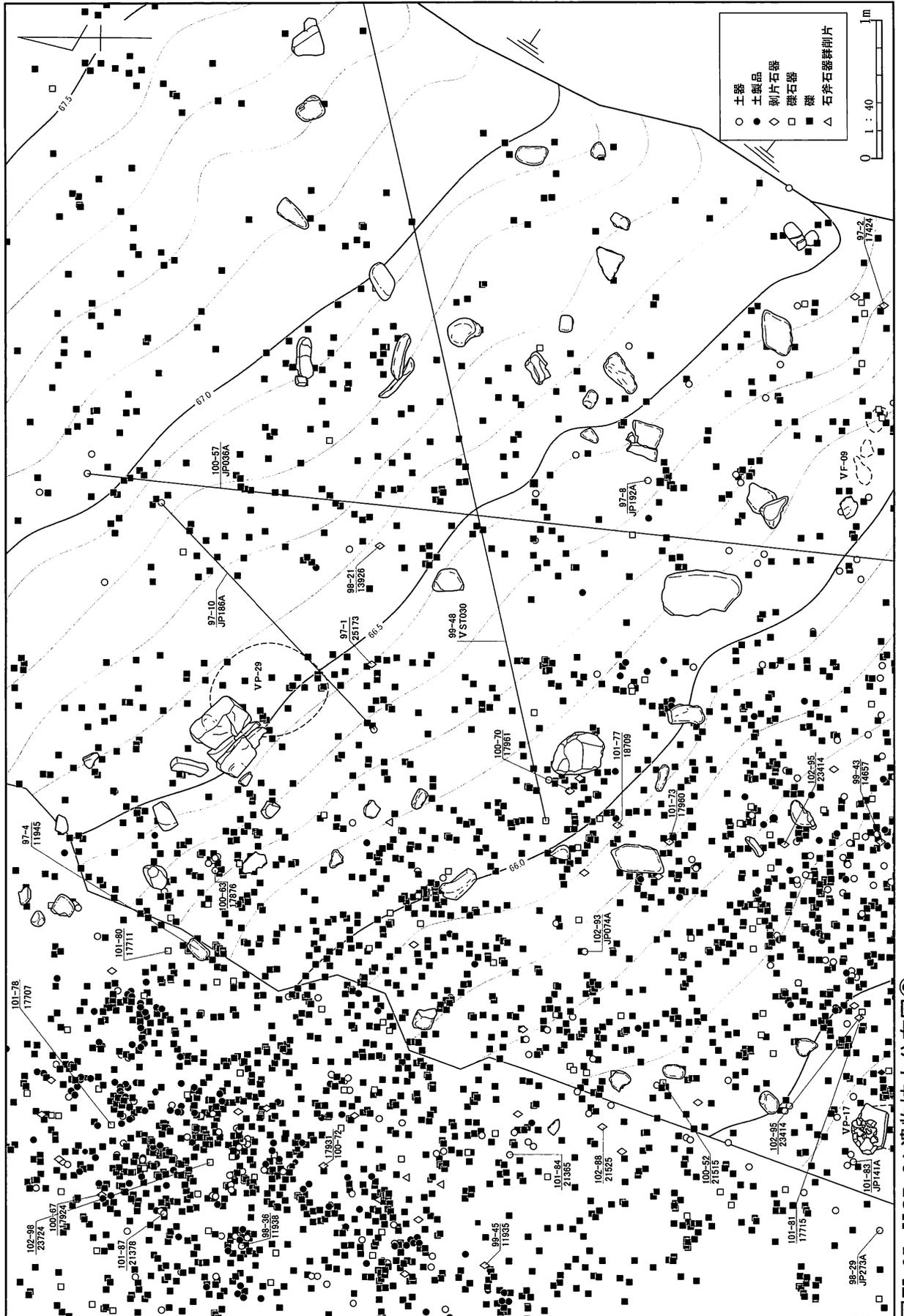
出土遺物 (図IV-97~102 図版 104~108) ここでは土器等の出土層位から時期特定の検証を考え、層位ごとに遺物の掲載を行った。なお、土器については新しい資料から古い時期のものへと記述している。

VbU: 図IV-97-1 はポイント類 A4 に分類したもので茎部が欠損している。2 はつまみ付きナイフで、素材の周囲に細かい調整を施している。3 は蛇紋岩製の基部を欠く石斧である。表裏面の両側縁に剥離と敲打調整を施し、刃部付近を研磨している。4 はすり石 D 類の北海道式石冠である。比較的扁平な礫を利用し、把握部はベルト状に敲打調整を施している。擦り面と頂部の厚さがほぼ同じであることから、縄文時代中期前半のものと思われる。5 は扁平礫の両面を使用した砥石である。長軸方向で欠損している。4 は斑れい岩、5 は砂岩製である。

VbM: 6 はIV群 A1 類 b 種、広口壺形土器の口縁部無文帯の破片と思われるもので、胎土に含まれる岩片が酸化し器表面の一部に赤色化がみられる。本種はこの 1 個体のみ出土である。7~9 はIV群 A1 類 a 種土器で、7 は口唇部がヘラケズリ調整され、断面形が角状の口縁部片。8・9 は胎土に石英結晶粒を多量に含む富良野盆地系土器の胴部片である。8 は繊維が粗い無節 L 斜行縄文が施されている。9 は直前段合撚の斜行縄文と RL 斜行縄文との羽状縄文の構成である。



図IV-94 VSB-04 遺物拡大分布図①



图IV-95 VSB-04 遺物拡大分布图②

いずれも胎土に繊維を含まないことから本群に分類した。10～12はⅢ群B2類土器である。10は富良野盆地系土器の底部片資料で、底部側面が僅かに張り出し、立ち上がり部分は無文帯となっている。胎土に繊維を少量含む。同一個体片11・12はやや肥厚する口唇部にヘラ状工具による刻みが施されている。胴部には結束第1種羽状縄文が施されている。13はⅢ群B1類の萩ヶ岡1式土器と思われる口縁部片で、貼付帯上に爪形文が施されている。同一個体片14・15はⅢ群A1類の円筒土器上層a式土器で、口縁部には波状口縁頂部の鱗状の突起が施されている。胴部には結束第1種羽状縄文が施されている。胎土は砂粒を多量に含む。同一個体16・17はⅡ群B2類の円筒土器下層d2式古手と思われるもの。16は口縁部から胴部上半にかけての破片で、口唇部に丸みを帯びた尖状で縄による刻みが施されている。文様帯には2条1対の縄線文が施され、施文後にミガキ調整がされている。口縁部文様帯の下縁は、結束第2種回転文を伴う隆起帯で区画されている。胴部は多軸絡条体回転文と結束第2種による回転文が施されている。17の底部片の底面にもミガキ調整が施されている。いずれの資料も内面は入念なミガキ調整が施されており、胎土にはやや多くの繊維を含んでいる。文様や調整から搬入品と思われる。同一個体18・19は縄線文が施されていないものの、口唇部形態や胎土からⅡ群B3類土器に分類した。口唇部がやや外傾する隅丸角状で縄文が施文されている。地文は18が直前段合撚りLR斜行縄文、19の胴部下半では、0段多条LR斜行縄文と直前段合撚りLR斜行縄文とで多段構成をなしている。胎土には繊維を多量に含み器表面に抜け跡が現れている。20は土製品の破片資料である。他の出土のものと同質で灰白色を呈し、軽石粒等の抜け跡があるものの器表面及び縁辺部は平滑に仕上げられている。

21～23はポイント類Aに分類したもので、明瞭な茎部を作出したもの。23は茎部が短いことから石槍(ポイント類B)を再調整したものと思われる。24・25はポイント類Bで、24は基部が平坦で入念な剥離調整が施されている。25は左右側縁部が非対称で茎部が不明瞭なもの。21～25は黒曜石製である。26はA1a類のつまみ付きナイフで、全体に急角度の刃部調整がなされている。頁岩製である。27はI A3類のたたき石である。縦長の扁平礫の両面に連続した浅い敲打痕があり、端部付近には敲打痕と剥離が、側縁に剥離が見られる。28は石皿片を利用したと思われる北海道式石冠の未成品である。表面の中央は石皿の使用面とみられ、その周囲から裏面にかけて剥離と敲打調整を施している。

VbL1 : 29はⅣ群A2類に分類される小型土器の胴部片で、複節RLR原体にLR原体を右巻きに付加した原体で斜行縄文が施されている。器厚は薄く、内面も平滑に仕上げられている。胎土には砂粒を多く含む。焼成は良好で比較的硬質である。同一個体30・31はⅢ群B3類土器で、口縁部肥厚帯に2段の突引文、肥厚帯直下に円形刺突文、胴部地文はLR斜行縄文が施されている。胎土には繊維を多量に含んでいる。32はⅡ群B2類土器のやや外反する口縁部片で、口唇部は丸く縄による刻みが施されている。肥厚帯上には2条1対の縄線文が施され、肥厚帯直下には結束第2種の綾絡文が施文されている。33～35は胎土に滑石・蛇紋岩を含むⅡ群B5類土器で、同一個体片34・35は平縁で器厚が薄い口縁部片で口唇部及び口縁部にはLR斜行縄文が施されている。34には口唇部直下に縦位の貼瘤文が施されている。35は平底の内面側が残る破片資料。いずれも手触りが滑らかで鈍い光沢を有する。同一個体片36～38はⅡ群B3類土器の宮本式土器と思われるもの。36は口唇部が角状の口縁部片で、口唇部には縄文が施されて

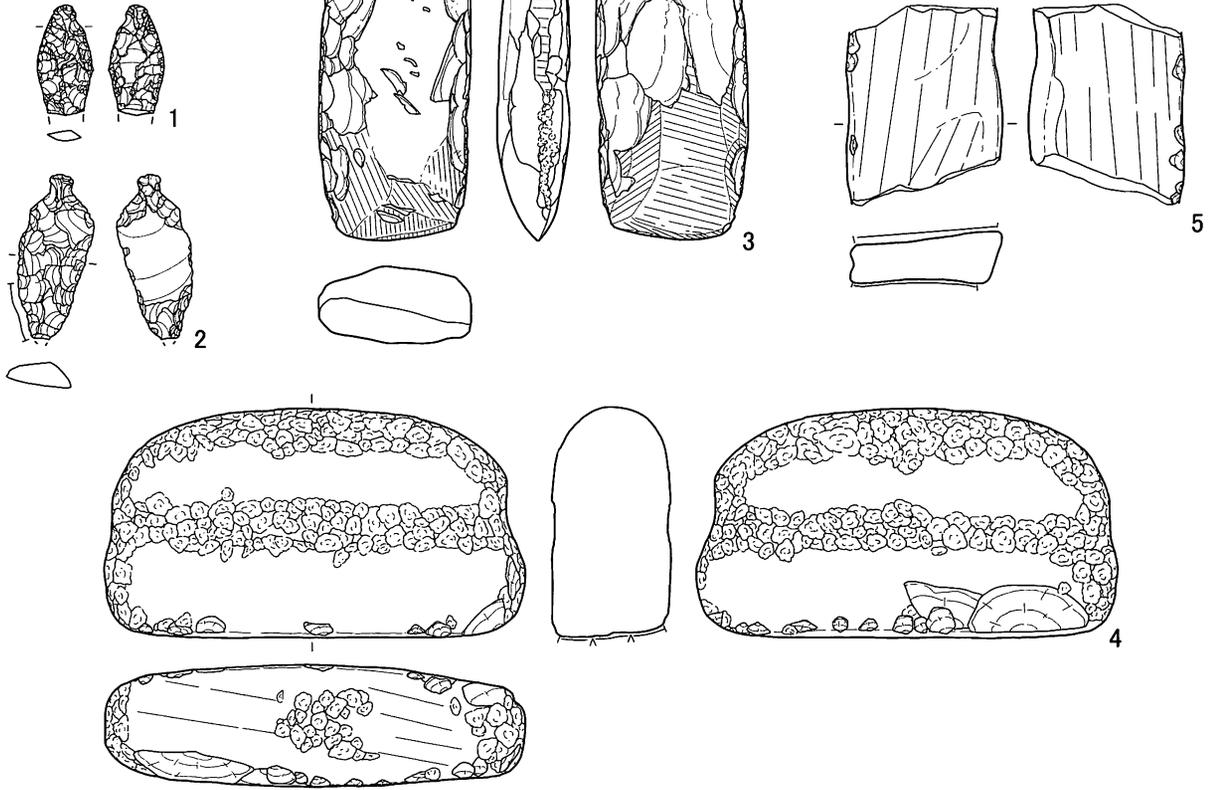
いる。口唇より2cm下がった位置に沈線文を施した後に、沈線内部に円形刺突文が施されている。地文縄文は細い原体によるRL斜行縄文が施されている。内面はいずれもナデ調整により平滑に仕上げられている。38は底部片で底面及び側面立ち上がり部分が剥落しているが、内面の残存状態から平底土器と判る。胎土は繊維を一切含んでおらず、極多量の砂粒を基質とし、長軸7mmほどの小礫や長軸3mm程度の石英結晶粒や雲母、白色の軽石粒も含まれており、特徴的な胎土である。砂粒、小礫を混入するため、破片の比重が重く重量感がある。口唇部形態や口唇部の施文、沈線内に円形刺突文を施す文様要素や胎土に砂粒・小礫を多く含む特徴は十勝圏の宮本式土器と共通する属性である。同一個体39・40はⅢ群A2類のサイベ沢Ⅶ_b式土器の口縁部資料で、器形は口縁部がやや外反する。山形突起があり、頂部より棒状の隆起帯が垂下している。隆起帯の上部左側に縄線文、左側下部には指頭圧痕文2カ所が施され、右側面には折り返した縄による刺突文が2カ所施されている。口唇部は丸状で器表面側半分に縄文が施されている。地文縄文は0段多条の原体による結束第1種羽状縄文が施されている。内面はミガキ調整が施されており、円筒土器上層式の後半期または地方色化したものとも思われ、本群に分類した。縄による刻みや指頭圧痕を文様要素とする特徴は萩ヶ岡1式とも共通するが、貼付文が突起下に限られることから、サイベ沢Ⅶ_b式とした。41・42は「サツマアゲ状土製品」で、41は厚さがあり塊状の破片である。胎土ににぶい橙色の軽石粒と思われるものが多量に含まれている。42は板状で半円状の縁辺部が残る。軽石粒等の混入物は少なく灰白色を呈している。43はポイントA4類、44はポイントB2類。どちらも茎部が不明瞭なものである。45はつまみ付きナイフ。幅広のつまみに対して斜位から横位の刃部をもつ。46はエンド・スクレイパーである。背面に古い剥離面を残し、周縁に規則的な剥離で刃部調整がなされる。すべて黒曜石製である。47は小型の石斧で基部が欠損している。両面と右側縁に研磨調整を施している。48は石斧未成品である。全体を剥離調整で形成した後、側縁と刃部付近に敲打調整を行っており、刃部の片面にわずかな研磨調整が認められる。どちらも緑色泥岩製である。49はF類のすり石である。礫の表裏面中心位置に敲打痕があり、それを囲むように側縁全面に擦り面がある。片麻岩製である。50は砥石で、両先端を除いた面を複数の単位で使用されている。51は長軸が459mmを測る大型の石皿である。礫の中央に2段階で緩やかに窪む使用面がある。50・51は砂岩製である。52は角閃岩製の石錘である。長軸対向するに挟りを有するもので中心付近から一方を欠損している。

VbL2：図IV-100-53は胴部下半から口縁部にかけて約3分の1周が接合したⅣ群A1類a種土器。横環する貼付文は施されていないが、口唇部形態や地文縄文の羽状多段構成、胎土の特徴より本群に含めた。口縁部胴部上半までやや膨らみをもって立ち上がり口縁部で内湾気味に直立する平縁で、口唇部断面形は丸状から隅丸角状を呈し、僅かに肥厚し入念なナデ調整が施されている。地文縄文は撚りの異なる原体によって4段の羽状構成で、施文原体の縄端の結縛痕も見られる。胎土には長軸10mm程度の小円礫が混じる砂粒を含む。本資料のうち、BE・BF-39区のVb層中位で検出したVPB-10出土の破片(50×50mm)が接合している。また、器形や胎土はVPB-13(図IV-81-21)に類似している。54は富良野盆地系のⅣ群A1類a種の口縁部片。胎土には極多量の粗砂、石英結晶粒、小円礫を含んでいる。55・56はⅢ群A2類の土器で、いずれも突起を有する口縁部片である。55は突起下に棒状の隆起帯が施されヘラ状工具による刺突文が施

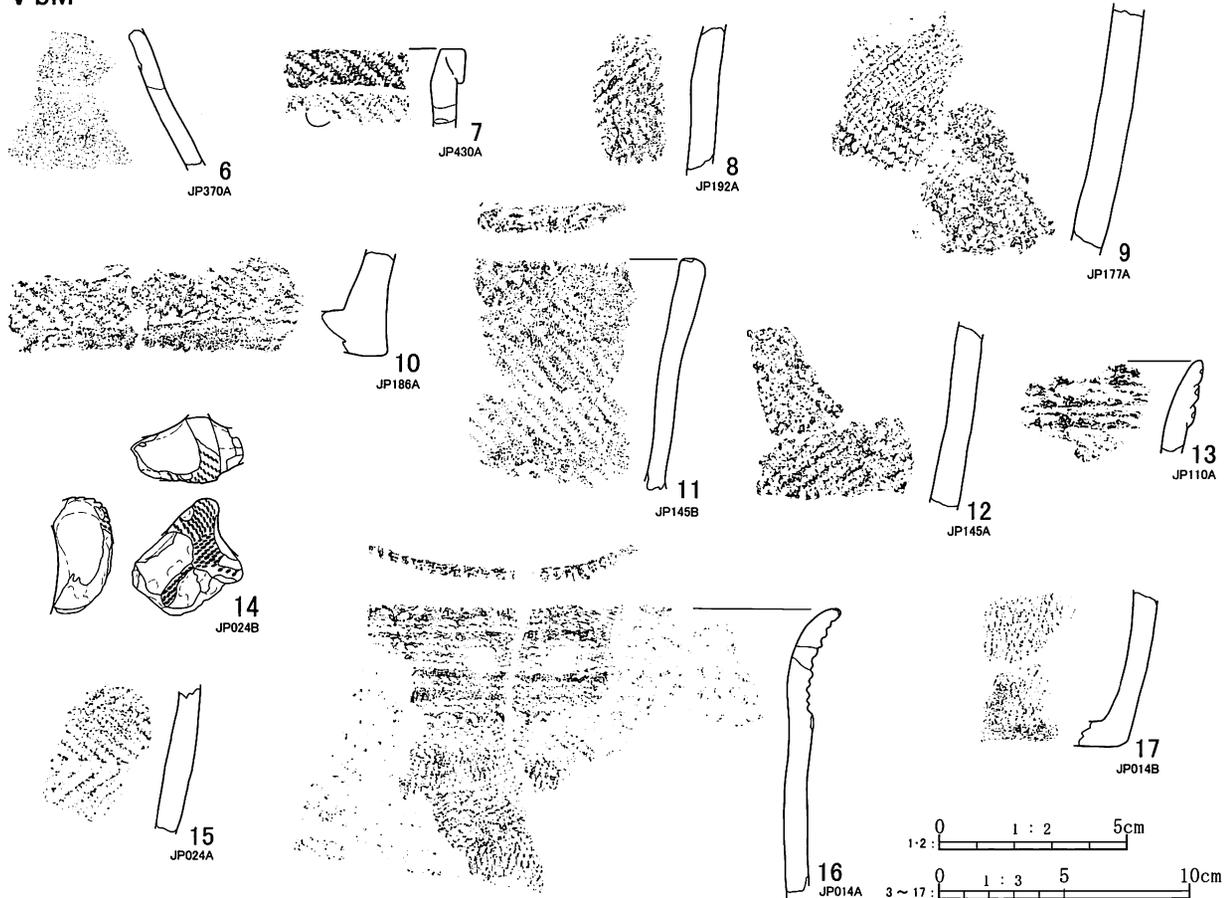
されている。内面は入念なミガキ調整が施されている。56は突起下にボタン状の貼瘤文が施され、1ヵ所は剥落している。口縁部には馬蹄形状の撚糸圧痕文が2条施されている。器内外面共に風化が著しい。57～59はⅡ群B2類土器で、57は多軸絡条体回転文が施文されている胴部片、器厚も薄く硬質な土器である。同一個体片58・59はのフゴッペ貝塚1式土器と思われるもので、広い口縁部文様帯には縄線文により菱目状の文様が施されている。内面調整は極めて入念で、胎土には灰白色の角礫状の凝灰岩を含んでいる。60はⅡ群B5類の胴部上半の破片資料で、RL斜行縄文と沈線文が施されている。胎土には蛇紋岩・滑石を多量、雲母も少量に含んでいる。61・62は同一個体片でⅡ群B3類土器。胎土に極めて多量の粗粒砂を含み、比重が高く重量感がある。61は口唇部が隅丸角状で口縁部には凹帯状の沈線文と円形刺突文が施されている。63は内面条痕よりⅡ群B1類に分類した。全体的に風化、磨滅が激しく、破片状態で遺跡外から持ち込まれた可能性もある。64～66はポイント類Aで、64は鏃身部の縁辺部が直線状、65はやや弧状の尖頭部を呈する。66はA4類で菱形状を呈する。粗雑な作りである。67～70はB類に分類したポイント類。67は茎部に比して尖頭部が短い。68はやや短く直線的な尖頭部と丸～尖状の基部を呈するもの。69は左右非対称なもの。尖頭部左側縁に微細剥離がある。70は茎部片で、折損面に加工は認められない。64～70はすべて黒曜石製である。71は頁岩製の石錐。棒状で柄と機能部の区別が不明瞭なもの。72～74は縦長のつまみ付きナイフである。72は背面右側縁に連続した剥離と腹面右側に粗雑な剥離が認められる。頁岩製である。73は厚手の剥片素材で右側に急角度の刃部を作出している。珪化岩製である。74は先端部とつまみ部分の抉入部に微細剥離が認められる。石材は黒曜石製。75・76はエンド・スクレイパーで長軸下端部に急角度の刃部を形成している。77はサイド・スクレイパー。左右両側縁に直線状とやや湾入する刃部が作出されている。75～77は頁岩製。78は扁平な円礫を利用したたたき石で、表裏平坦面の中心に深い敲打痕があり上部側縁にはまばらに、下面には密集した敲打痕がある。79はすり石D類の北海道式石冠である。頂部は丸く、全面を敲打調整している。体部側面には使用面からの剥離が認められ、使用面の一部には集中した敲打痕が残る。80は小型の石斧を転用したすり石である。刃部を使用しており、稜は丸く磨滅している。81はF類のすり石である。円礫の側縁を中心に明瞭な稜をもつ擦り面があり多面体を形成する。表裏面の中心に浅い敲打痕がある。78・79は砂岩製、80は緑色泥岩製、81は斑れい岩製である。

VbL3 : 図IV-101-82は北筒式土器の大型の破片資料。口縁部肥厚帯には突引文が2段施文されている。83は小型の土器で一部が斜格子文様となる撚糸文が施されている。器表面の凹凸が激しく、手づくねで成形されたものと思われる。胎土は細粒砂をやや多く含む。縄文時代後期前葉のⅣ群A2類に分類したが、道南系の湧元I式土器の範疇と思われる。底面には簾状の圧痕が残っている。同一個体片84・85はいずれもⅡ群B2類の外反する口縁部片で、口唇部断面形が尖状となっている。縄線文による文様が施されているが、風化剥落が激しく、不明瞭である。胎土は繊維を多量に含む。86・87は胎土に蛇紋岩・滑石を含むⅡ群B5類の口縁部破片資料。いずれも口唇部断面形は隅丸角状で、86は無節L、87は条が密接する撚糸文が施されている。88はポイント類B。基端部が平らでやや短い尖頭部には微細剥離が認められる。89はサイド・スクレイパーで片面全面に不規則な剥離調整が施される。共に黒曜石製である。90は緑色泥岩製の石斧未成品である。主に大きな剥離調整と左側縁に敲打痕が連続している。91はI A3類

VbU

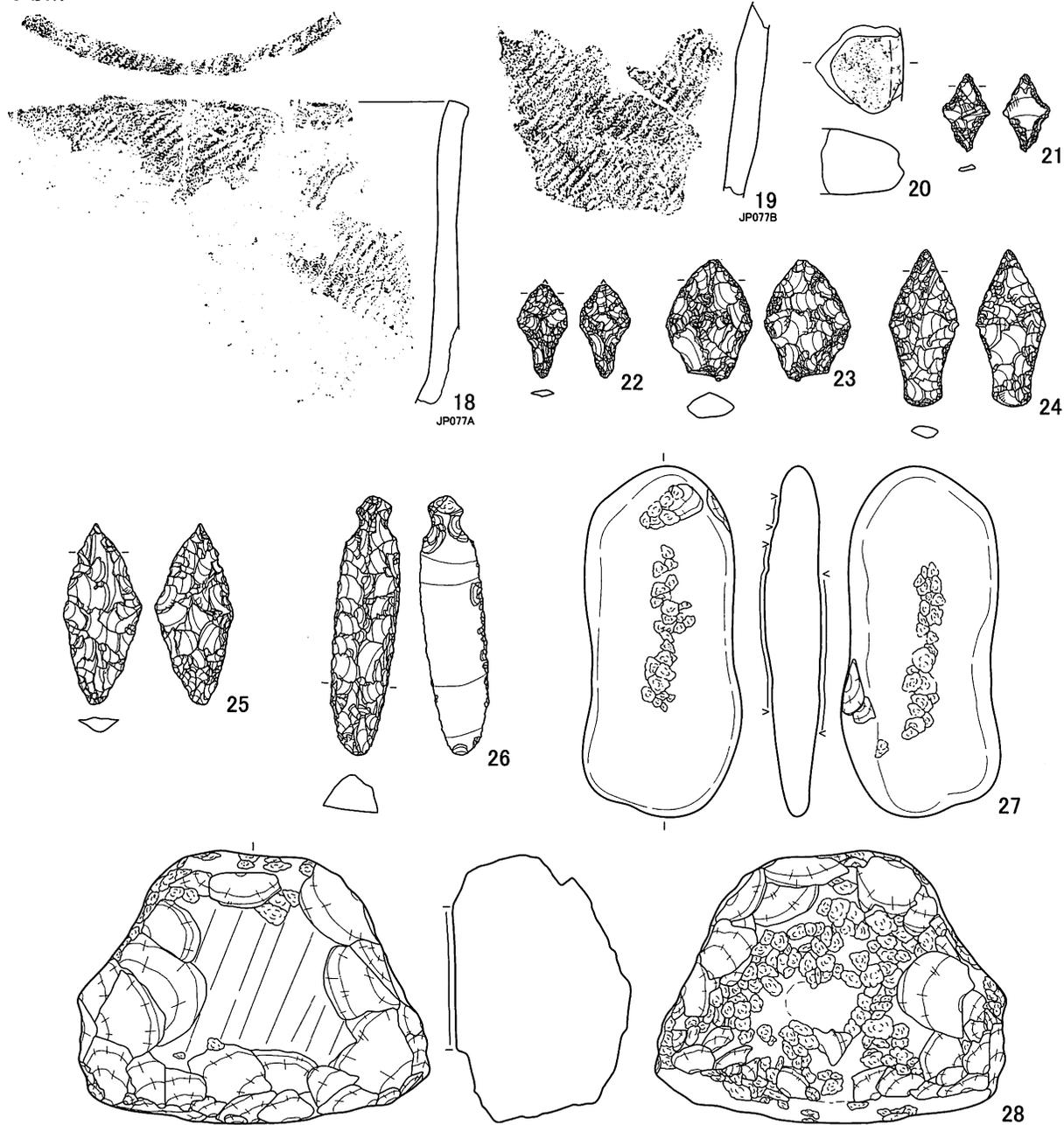


VbM

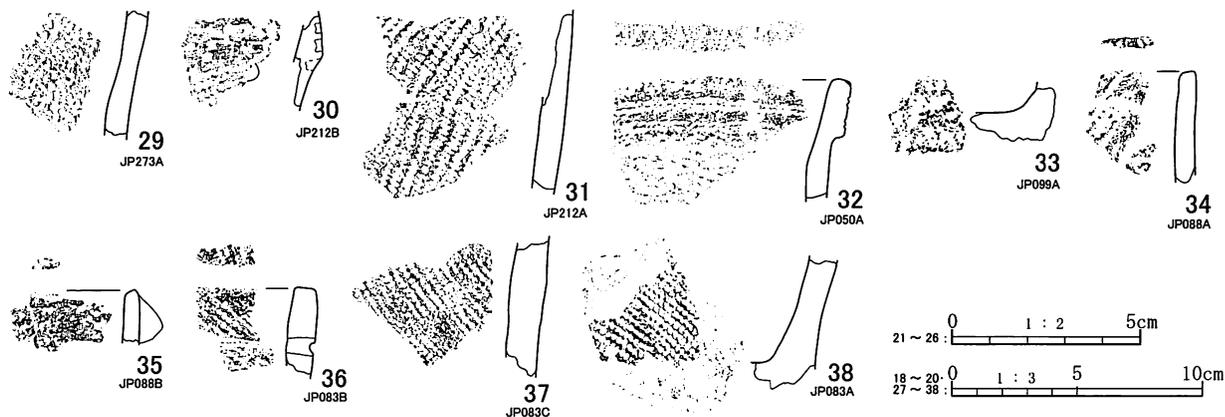


図IV-97 VSB-04 出土遺物(1)

VbM



VbL1



図IV-98 VSB-04 出土遺物(2)

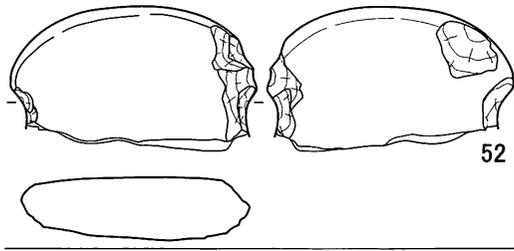
VbL1



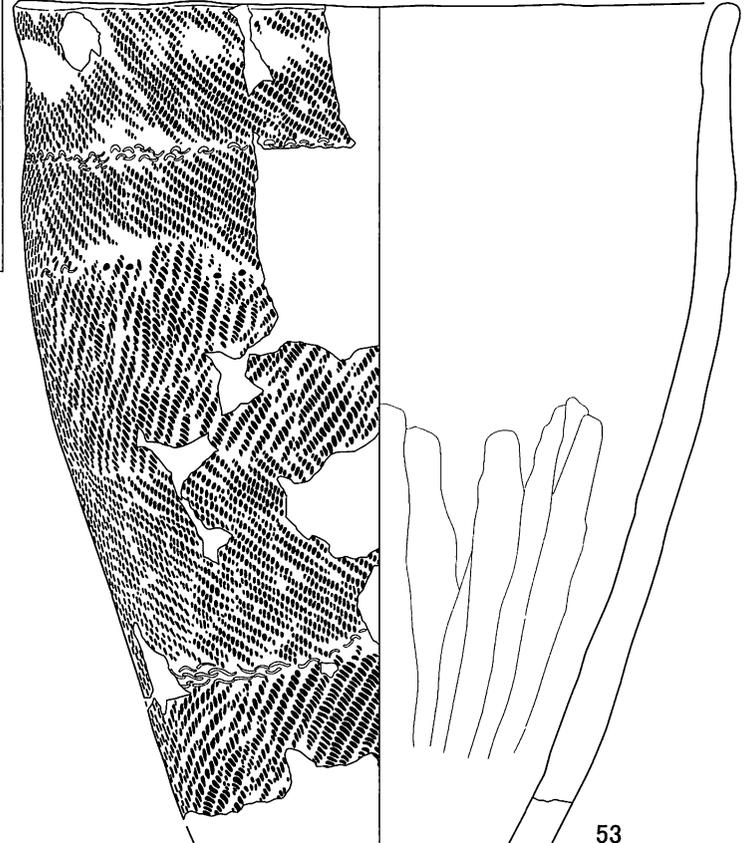
図IV-99 VSB-04 出土遺物(3)

VbL1

VbL2

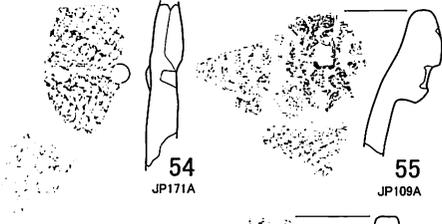


52



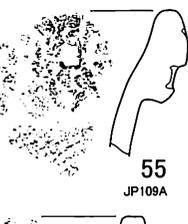
53

JP316A



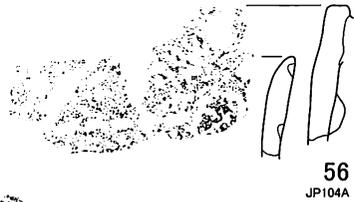
54

JP171A



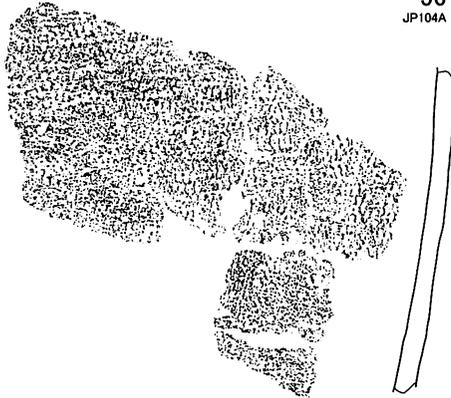
55

JP109A



56

JP104A



57

JP036A



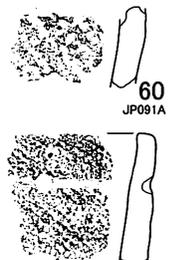
58

JP022A



59

JP022B



60

JP091A



61

JP084B



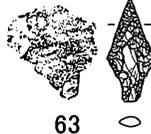
62

JP084A

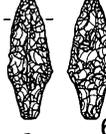


63

JP059A



64



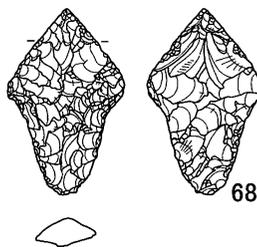
65



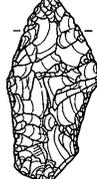
66



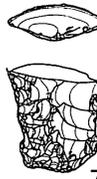
67



68



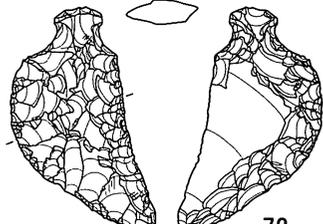
69



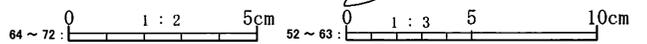
70



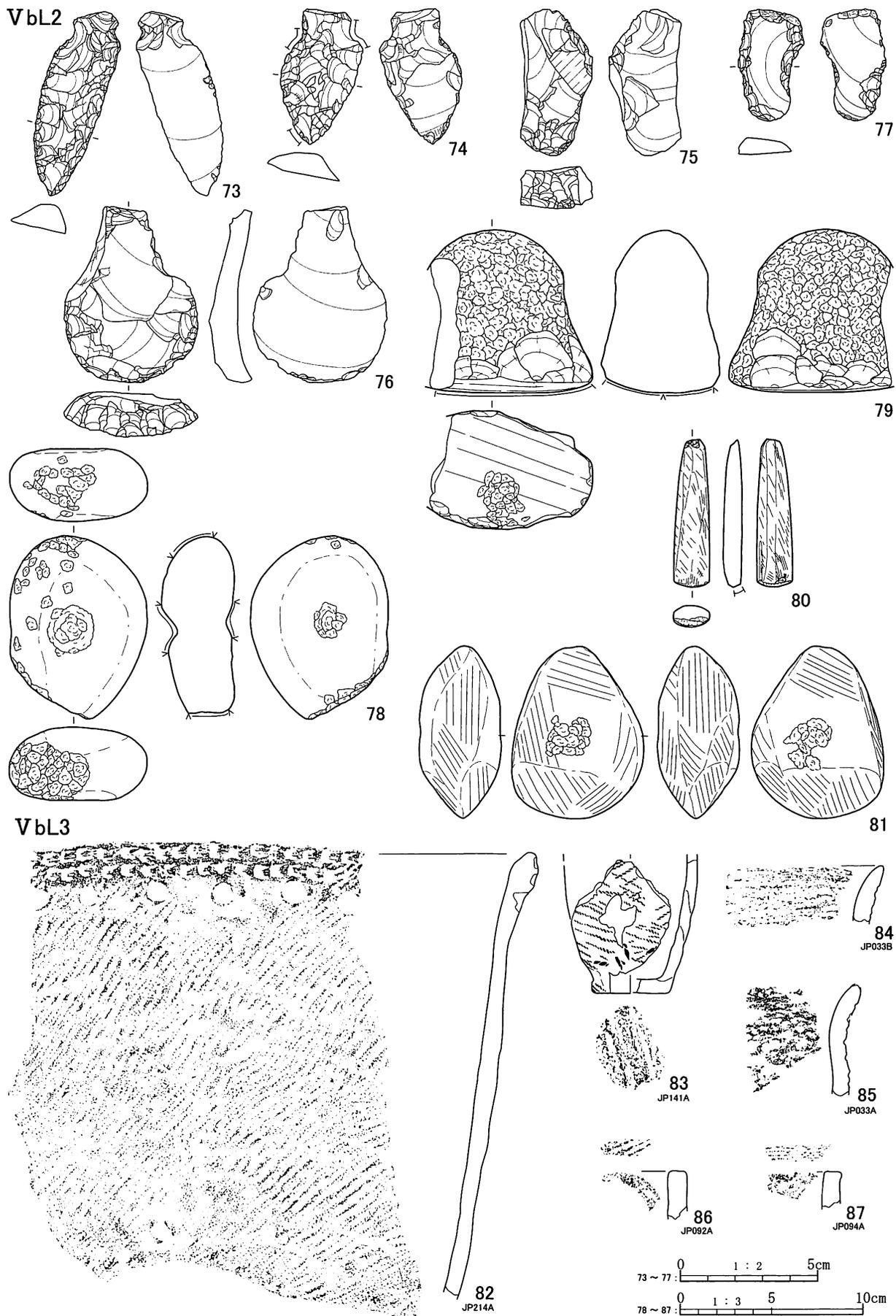
71



72

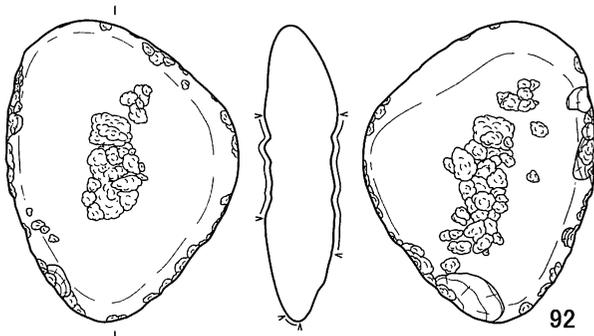
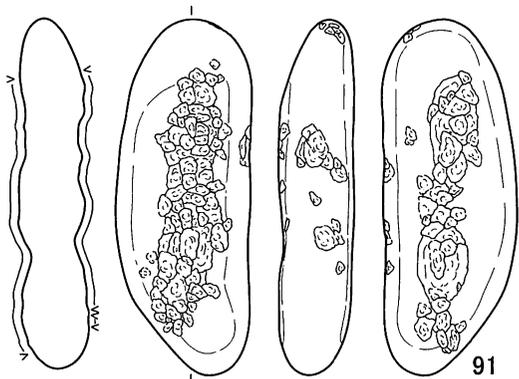
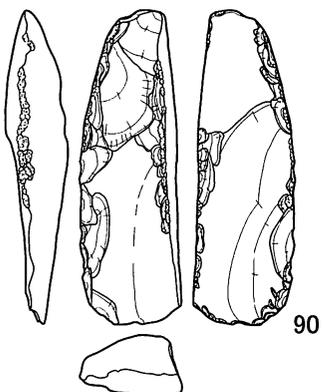
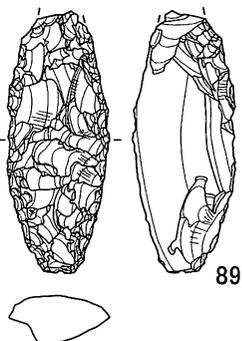
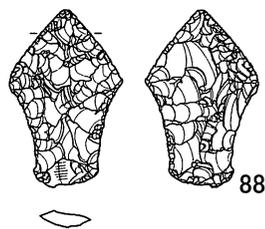


図IV-100 VSB-04 出土遺物(4)

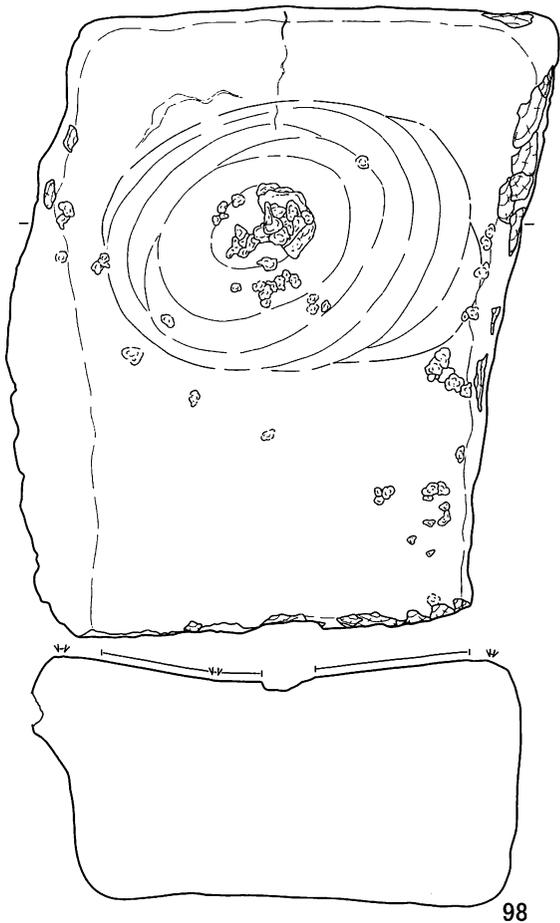
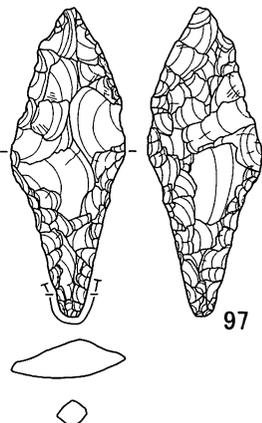
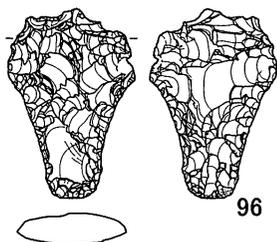
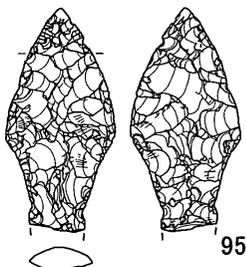
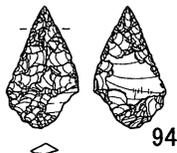
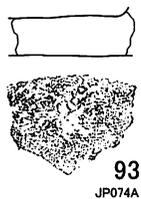


図IV-101 VSB-04 出土遺物 (5)

VbL3



VbL4



88-89-94 ~ 97 : 0 1 : 2 5cm

90 ~ 93 : 0 1 : 3 5 10cm

98 : 0 1 : 4 10cm

図IV-102 VSB-04 出土遺物(6)

のたたき石で、表裏面に密集した敲打痕が長軸上にあり右側縁と先端部にも敲打痕がある。92はⅡA3類のたたき石で、扁平礫の両面の中心付近に明瞭な敲打痕があり、側縁のほぼ全周に敲打痕と剥離痕がある。91・92は砂岩製である。

VbL4：93はⅡ群B3類の底部片で、底面にLR縄文が部分的に施されている。施文後のミガキ調整により文様は潰れている。94は無茎のポイント類。形状が非対称である。95・96はポイント類Bで、95は左右の基部に僅かな抉りを施し、基端部が折損している。96は茎部及び基端部が細かい剥離によって調整され、尖頭部には粗い階段状剥離が認められる。尖頭部欠損後の再加工品と思われる。すべて黒曜石製である。97は頁岩製の石錐で、柄と機能部の区別が不明瞭で幅広のもの。機能部の磨滅が著しい。98は砂岩製の大型の石皿である。使用面は礫の中心ではなく一方に偏り、楕円形で緩やかに窪む。その中央部に用途が不明の深い穿孔がある。

(宮崎・土器：乾)

VSB-05(図IV-103～106 図版72-5・6 109)

位置：BB-28・29・BC-28～30区 層位：VbL 規模：1,399×441cm

確認・調査 発掘区南側、河岸段丘T₂面の南端部でVa層調査中から多数の礫、礫石器、土器等が出土したため、遺物出土状態の写真を撮影し取り上げを行った。更にVb層の調査を進めたところ、隣接するVSB-04の範囲から5mほど間隔をおいて礫等がまとまって出土したため、この時点でVSB-05を付番して調査を進めることとした。規模は1,399×441cmで、出土遺物点数は土器が165点、土製品が5点、剥片石器24点、礫石器35点、礫368点である。調査はVb層下位まで掘り下げ、集中範囲を把握した後、全体の検出写真を撮影した。更に大型礫の出土状態の微細図を作成して取り上げ、調査を終了した。

出土遺物 (図IV-105～106 図版109) 1はⅡ群B2類の円筒土器下層d2式で、口縁部の頂部に刻みを伴う山形突起がある。口縁部文様帯の下縁は断面形が三角形状となる隆起帯で区画され、文様帯内には2条1対の絡条体側面圧痕文が5段施されている。胴部上半にはLR斜行縄文が施されている。内面調整は入念なミガキ調整が施され、胎土には繊維を少量と砂粒、石英結晶粒をやや多く含んでいる。なお、本資料には補修孔が3穴穿孔されている。同一個体片2～4と5・6はⅢ群A2類のサイベ沢VI式ないしはⅦa式土器の影響を受けていると思われるもの。2～4は、口縁部には2条1対の貼付帯が横環している。また口縁部には欠損しているが台形状ないしは山形の突起を有し、突起下には2条1対の貼付帯が胴部上半の文様帯区画帯まで垂下し、方形状の構成となっている。文様帯内は結束第1種羽状縄文が施されている。内面は入念なミガキ調整が施され、平滑に仕上げられている。胎土は均質な極細粒砂をやや多く含み、全体的に良好なつくりである。同一個体片5・6は、頂部に刺突文を伴う2個1対の突起を有し、口唇部は角状である。口縁部には突起頂部より垂下する2条と突起間を繋ぐ細い貼付帯が3条1対で施され、後者は縄線文を伴っている。胴部には結束第1種羽状縄文が施されている。いずれも内面調整は入念に施されている。7はⅣ群A1類a種の口縁部から胴部下半にかけての資料で、周辺グリッド出土の破片と接合している。胴部上半で直立し口縁部はやや外反する。口唇部断面形は角状で口縁部の幅広の貼付帯上には交叉状の重複縄文が施され、貼付帯直下は無文帯となっている。胴部には貼付文が5条施されている。器表面の縄文は羽状構成で、この結節ラインに貼付文が横環するものが多い。

8はポイントB2類。両面とも大きく粗雑な剥離調整で逆刺も左右非対称である。9・11はナイフ・スクレーパー類に分類したもの。9は黒曜石製のC1類サイド・スクレイパーで端部はやや尖り両面調整がなされる。先端の磨滅が認められないため本類に分類した。11は珪質頁岩製のつまみ付きナイフでA2a類に分類したもの。横長の刃部で周縁に連続した剥離調整がなされている。深く抉れたつまみ部を持ち転礫面が残る。先端は欠損している。10は頁岩製の石錐で、つまみ付きナイフからの転用品である。つまみ部が折損しており機能部は磨滅している。12はI A3類のたたき石で表面の上部右側縁寄りに密な深い敲打痕があり、右側縁にも疎らな敲打痕がある。13は断面三角形の側縁稜と両端に敲打痕と剥離痕がある。14は多面体と思われる砥石の破片である。正面には複数の単位で擦痕があり、側縁は破断面付近が窪んでいる。15は小型の石鋸で、両面に擦痕があり砥石を転用したものと思われる。刃部は緩やかに湾入し、断面形はU字形である。16は台石で、断面三角形の礫の一面を使用しており中央部付近から損壊している。破断面側に密集した敲打痕がある。12～16はすべて砂岩製である。(宮崎・土器：乾) VSB-06 (図IV-107・109・110 図版72-7 110 111-1-18・19)

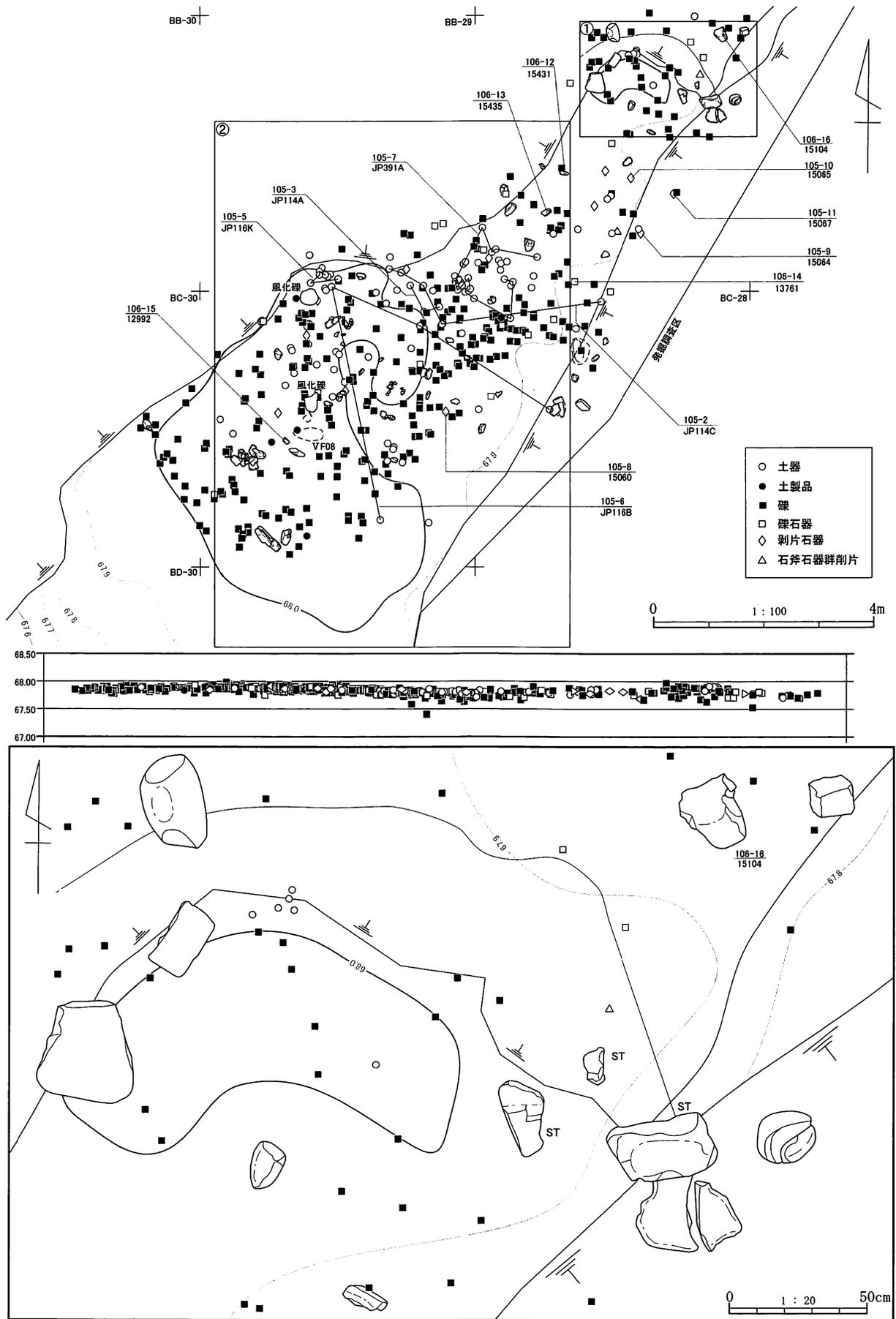
位置：AR-23・AS-23・24区 層位：VbU 規模：1,060×673cm

確認・調査 Vb層上位を調査中、1,060×673cmの範囲で遺物がまとまって出土した。

遺物の点数は土器154点、土製品1点、剥片石器25点、礫石器47点、礫214点、石製品1点である。VSB-06の下位でVH-11を検出しており、住居跡上位に出土範囲が広がっていることから、小さな遺物については窪みに流れ込んだ可能性も考えられる。

出土遺物 (図IV-109・110 図版110・111-1-18・19) 同一個体1・2はⅡ群B2類土器で、外反する波状口縁と思われる。口唇部断面形は丸く、縄による斜位の刻みが施されている。口縁部文様帯は菱状構成の縄線文が施され、一部に斜位の圧痕が充填され中心部には渦巻状または同心円状の縄線文が配されている。施文後に強いミガキ調整が施され、光沢を有している。内面も強いミガキ調整が施されている。胎土は砂粒よりも繊維混入を基質としているがその全体量は少なく、つくりが極めて良質な土器であることから胆振西部以南からの搬入品の可能性がある。同一個体3～5はⅡ群B3類のうち、宮本式土器と思われる。口縁部から胴部上半にかけての資料で、礫集中からは4が出土した。口唇部断面形は隅丸角状と思われ、縄文が施文されている。口縁部には深い円形刺突文が施され、内面側に突瘤が発達し、RL原体の縦位回転施文の斜行縄文が施されている。器表面地文には横位回転施文のRL斜行縄文が施されている。胎土には亜角状の粗粒砂を多く含み、極少量の石英結晶粒を含んでいる。6・7はⅣ群A1類a種の余市式土器古段階のもの。6は口縁部資料で口唇部断面形が角状で縄文が施文されている。貼付文と円形刺突文が施され、縄文は羽状構成を成している。7は本礫集中出土の小片1点が接合した口縁部から胴部下半までの資料で、口唇部は角状に整形されている。口縁部は幅広の貼付帯が施され、縄文の重複施文がされている。胴部下半まで横環する貼付帯が多段に施され、地文縄文も撚りの異なる2本の原体を用いて複段の羽状構成である。内面はヘラ状工具によって平滑に仕上げられている。

8～10はポイント類。8は両面に素材剥離面が残る周囲を細かく調整したA3類のもの。9はB1b類の茎部が尖ったもの。10はB2類で素材剥片の上部に連続した剥離調整によって尖頭部を作出しており、基部調整がなされていないため未成品と考えられる。11はつまみ付きナイフ



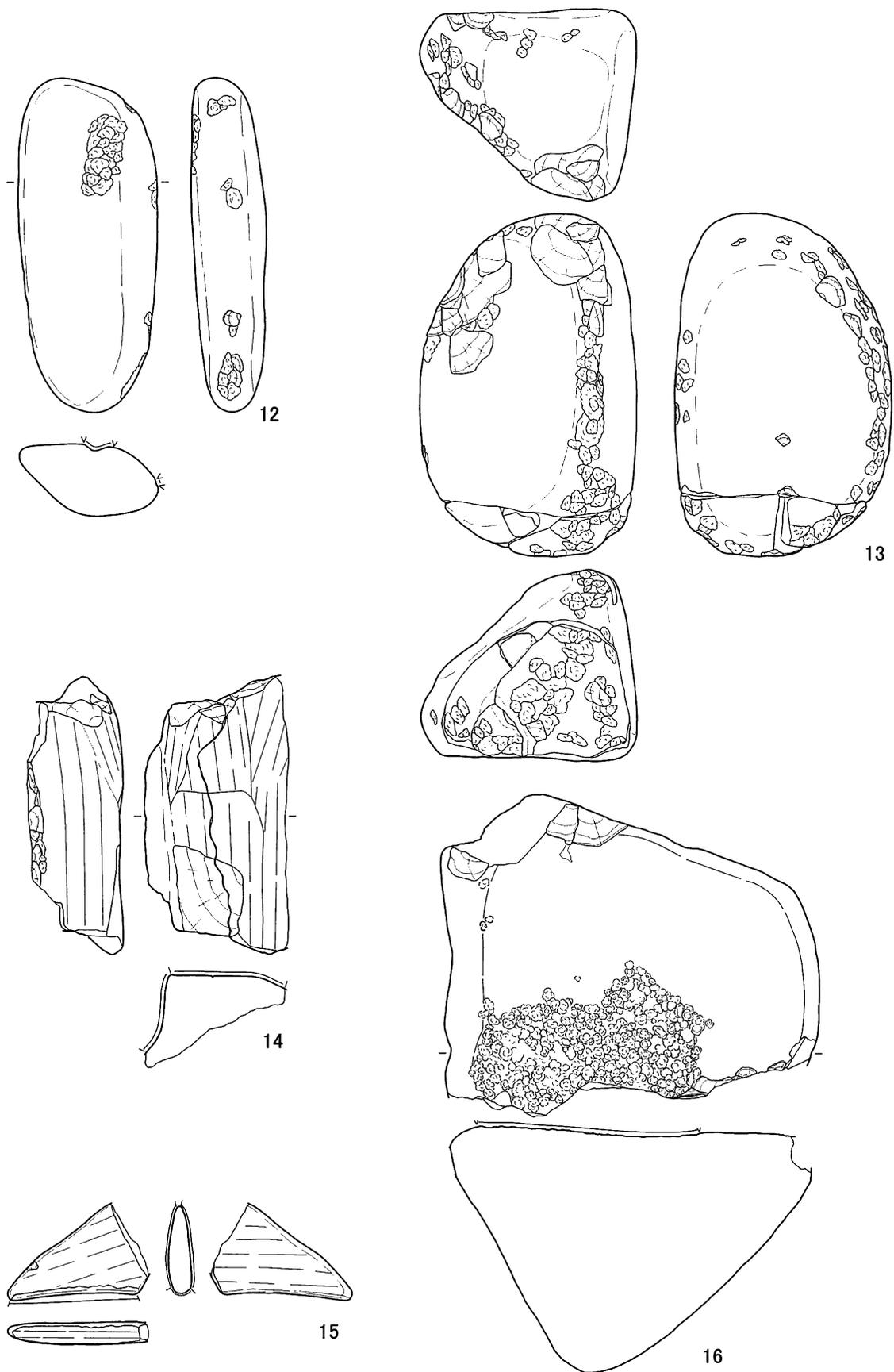
図IV-103 VSB-05 平面及び遺物分布・垂直分布・拡大分布図①



図IV-104 VSB-05 遺物拡大分布図②



図IV-105 VSB-05 出土遺物(1)



12 ~ 15 : 0 1 : 3 5 10cm

16 : 0 1 : 4 10cm

図IV-106 VSB-05 出土遺物(2)

で素材剥片の周囲にのみ調整を施し、刃部が縦長となるもの。背面右側縁に急角度の刃部が作出される。12 はピエス・エスキーユで、裏面に長軸両端からの剥離が認められ、正面右側縁に剪断面がある。13 は基部が欠損した石斧で、全体に研磨調整を施しているが、両面に剥離調整痕が残る。14 は棒状礫の両端が欠損したたたき石である。表裏面の長軸方向に深い敲打痕、側縁には浅い敲打痕がある。15 はすり石D類の北海道式石冠である。全面を剥離と敲打で調整しており、使用面が縁辺まで及ぶことから断面形状が弧状をなす。16 は石皿の破片である。板状礫と思われる礫の一面に2つの単位で緩やかに窪む使用面がある。17・18 は長軸が30cmを超える大型の石皿である。どちらも素材礫の中央付近に使用面と用途不明の深い窪みがあり、その周囲を廻るように敲打痕がある。本遺跡から出土した大型の石皿は使用面が一方に偏る傾向にあり、素材礫側縁稜にかかり一方が開く使用面となるものが多い。これは石皿で生成した粉末状のものを取り上げる際を考慮した可能性がある。19 は破損した台石である。平坦面の全面に明瞭な敲打痕がある。13 は青色片岩製、15 は安山岩製、14・16～19 は砂岩製である。

(宮崎・土器：乾)

VSB-07 (図IV-107・111 図版 72-8 111-2-20～22)

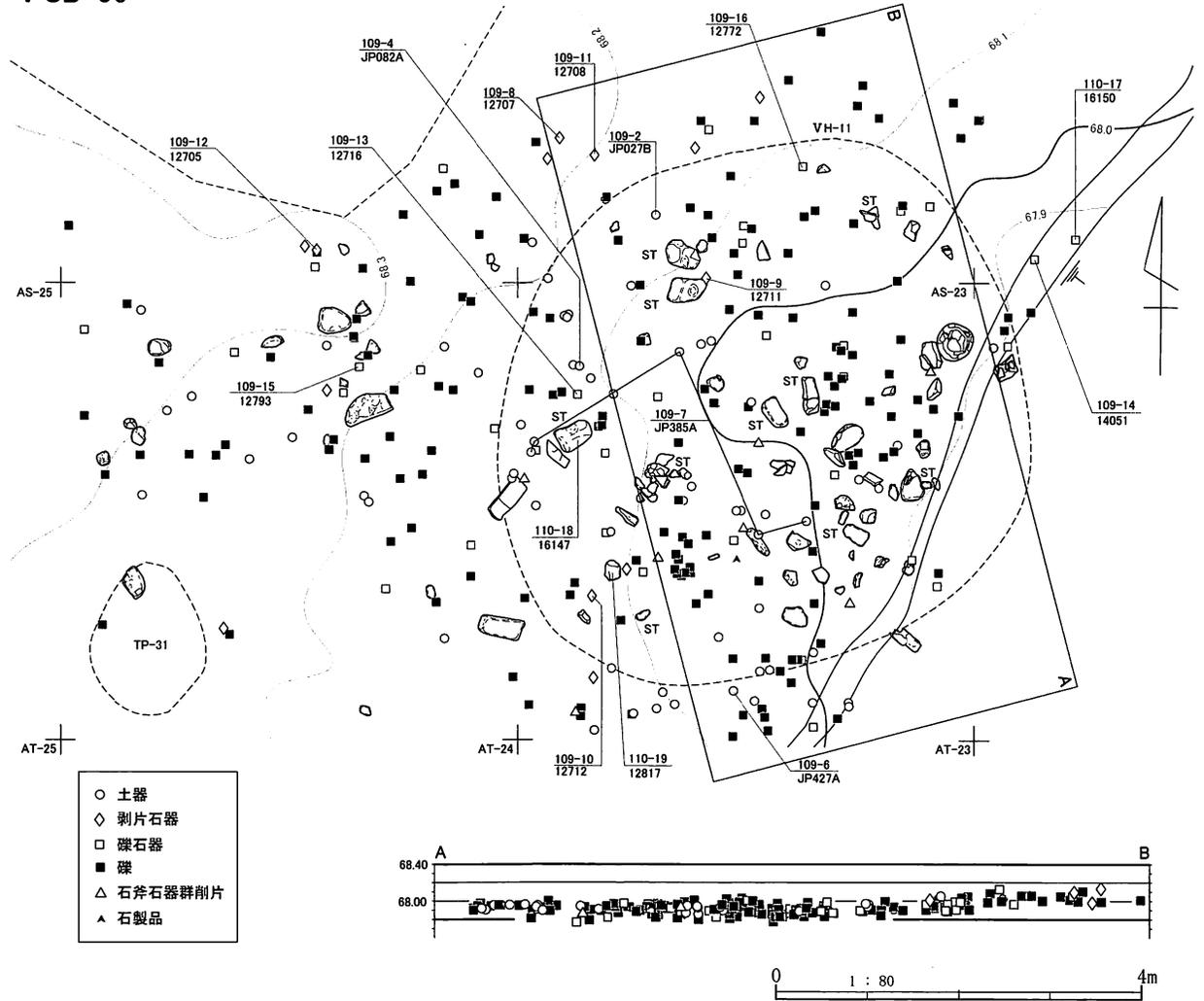
位置：AT-25 区 層位：Vc 規模：22×15 cm

確認・調査 東側縁辺のVb層下位～Vc層を調査中、VII層主体土の広がり80×80cmの範囲で検出された。同時に黒曜石2点の上面が確認された。この段階では、VII層主体土が遺構掘り上げ土であることを想定し、黒曜石との関係確認を目的にトレンチを設定し、VII層まで掘り下げた。断面を確認すると、Vc層～VI層は乱れており、V層が混じるVII層主体土が堆積していた。この段階で、黒曜石は原石に近い形態のものであること、3点まとまって出土していることと、黒曜石原石は黒褐色土中から出土していることが判明した。Vc～VI層上面での確認であり、周囲には黒褐色土がVII層に落ち込む根穴も多数あり、原石を埋納する土坑覆土との判別は困難であったが、原石3点のうち2点が直立し、集積された状態を保って出土していることから小土坑中に埋納されたものと判断した。トレンチ断面を写真撮影し、作図後、礫集中として黒曜石を取り上げた。当初確認していた周囲のVII層主体土は他の遺構等によるもので、本遺構との直接的な関連性は確認できなかった。なお、本遺構より40cm南西のVc層において縄文時代前期後葉の石槍(ポイント類B3)が出土している。

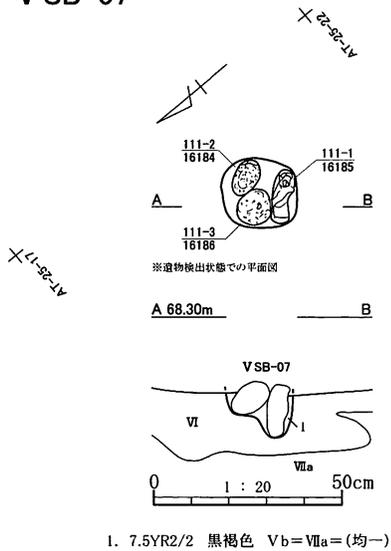
本遺構の周辺には縄文時代前期後葉の土坑墓4基(VGP-01・02・04・29)とVP-23が環状に配列されており、この配列上に合致していることから関連性も想定できる。(松井・乾)

出土遺物(図IV-111 図版 112-2-20～22) 1は長軸164mm、短軸132mm、厚さ65mmを測る板状を呈する亜角礫の原石で、裏面には平行する細かい溝が集合する岩屑面が残っている。一面に大きな剥離が認められる。大部分は転礫面が残っており、剥離素材は剥片器素材として利用できなかったと考えられる。2・3は球形の転礫面をもつ原石で、2は礫皮面にわずかな赤斑が認められる。3は一部欠損しており、球果部分で割れがひろがっている。原産地分析では上土幌系との結果が得られている(第V章第5節参照)。なお、1はサイズから原産地分析ができなかったものの、石質や岩屑面の特徴などから赤井川産と思われる。(服部・乾)

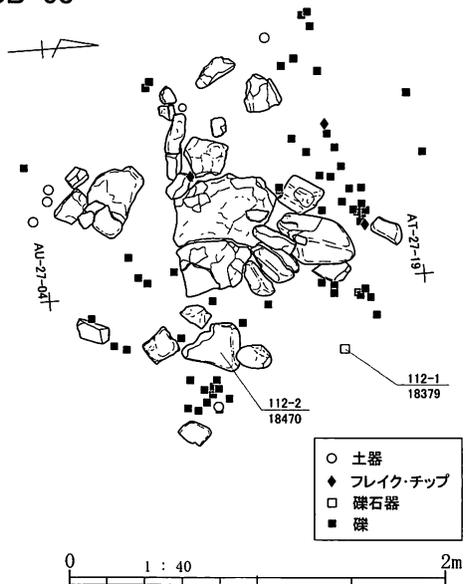
V SB-06



V SB-07

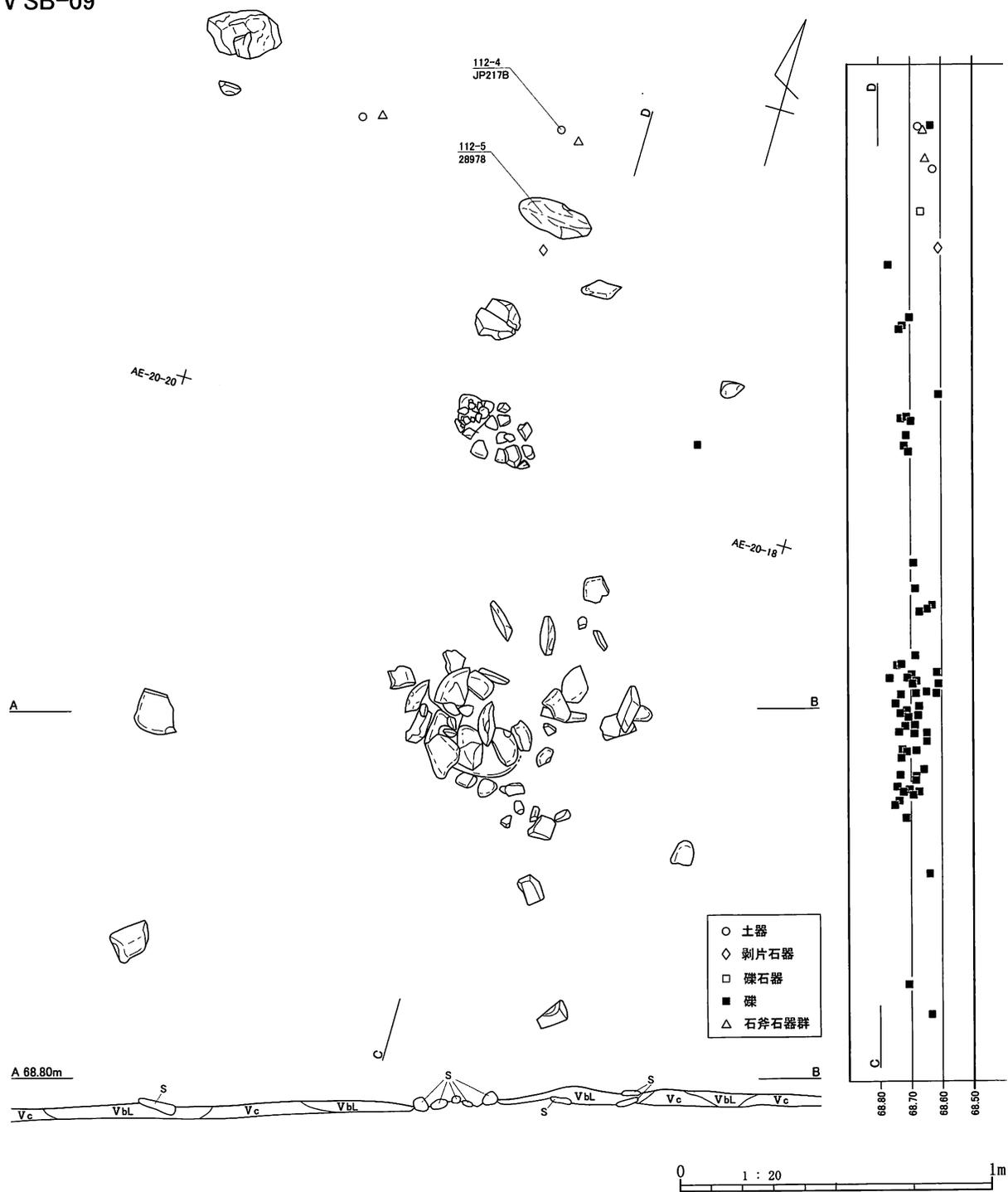


V SB-08



図IV-107 V SB-06 ~ 08 平面及び遺物分布・断面・垂直分布図

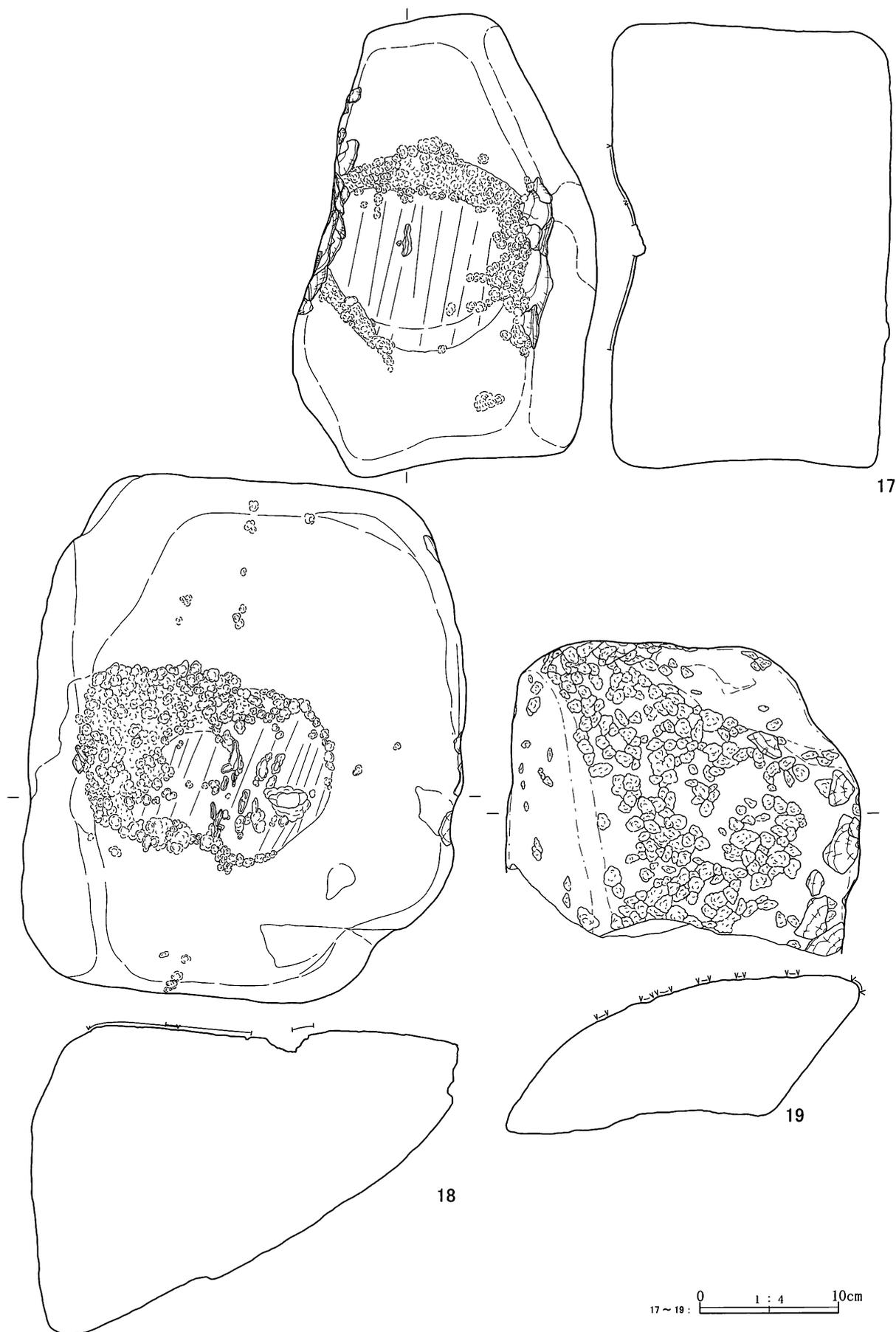
VSB-09



図IV-108 VSB-09 平面及び遺物分布・断面・垂直分布図

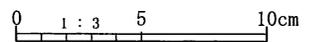
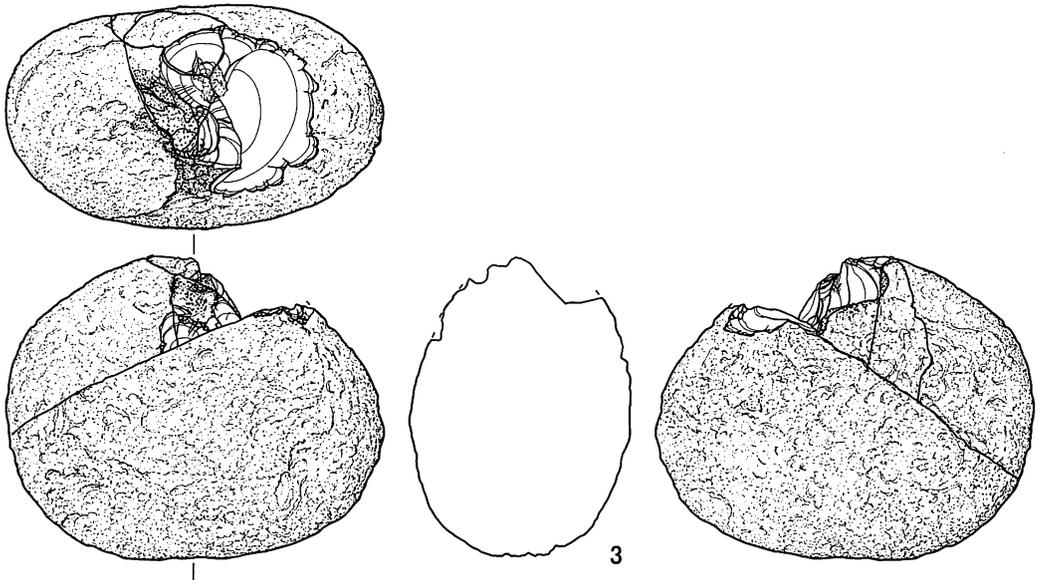
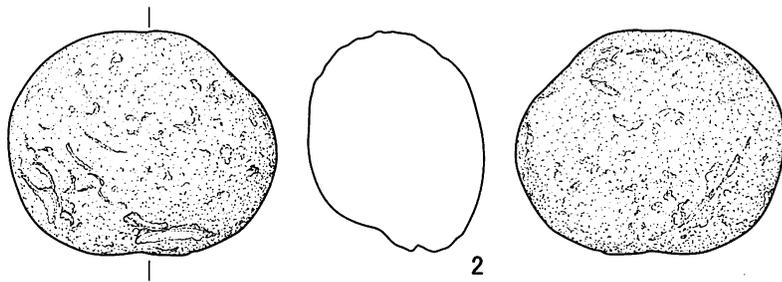
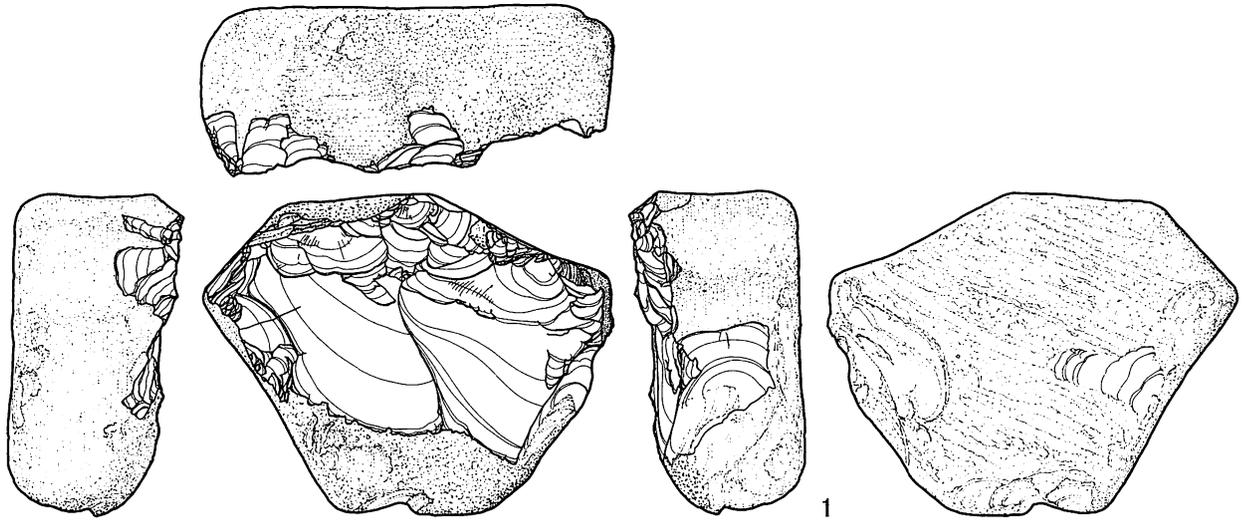


図IV-109 VSB-06 出土遺物(1)



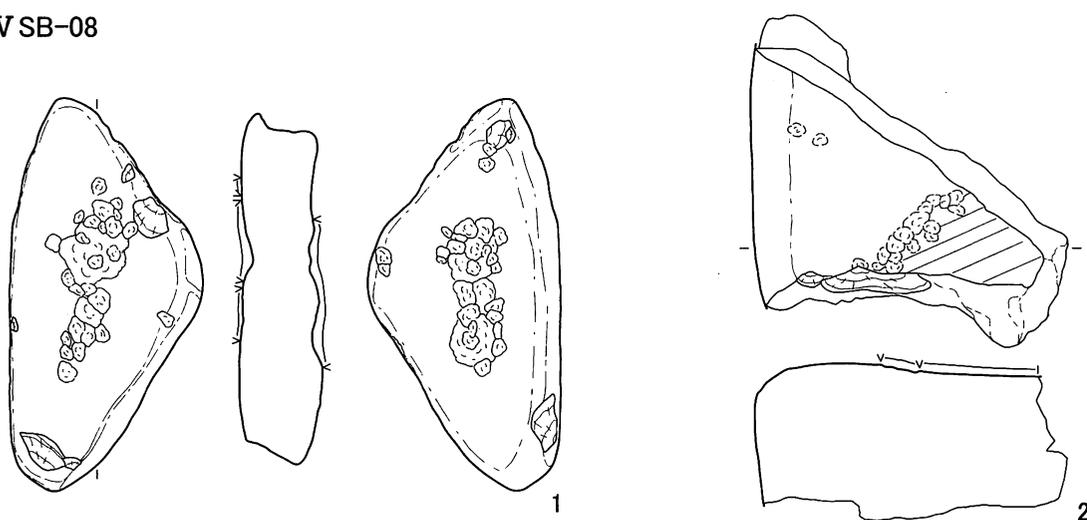
図IV-110 VSB-06 出土遺物(2)

VSB-07

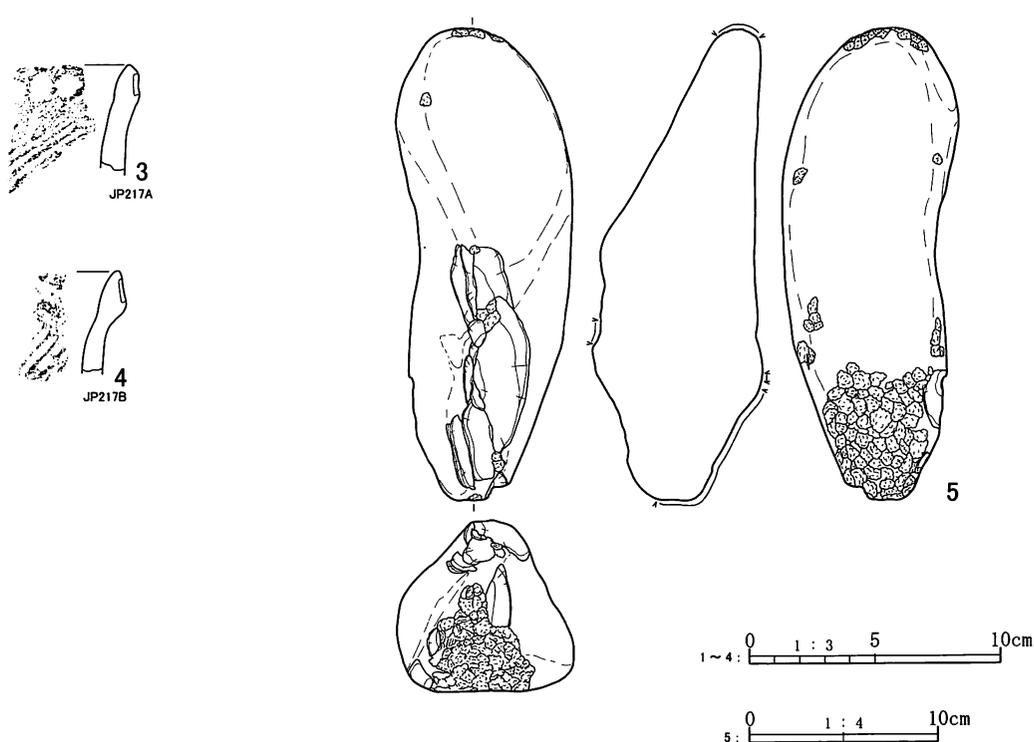


図IV-111 VSB-07 出土遺物

V SB-08



V SB-09



図IV-112 V SB-08・09 出土遺物

V SB-08 (図IV-107・112-1・2 図版 73-1 111-2-23・24)

位置 : AT・AU-27・28 区 層位 : V bU 規模 : 213×178cm

確認・調査 V b 層上位を調査中、破損した大型の板状礫と礫片礫、土器等がまとまって出土したためV SB-08 と付番し、微細図の作成と写真撮影を行った後、取り上げた。検出層位や

構成礫の特徴、出土土器の接合情報より縄文時代後期初頭に帰属するものと思われる。

出土遺物 (図IV-112-1・2 図版 111-2-23・24) 1はⅡA3類のたたき石で、扁平礫の両面の長軸方向に明瞭な敲打痕がある。2は石皿の破片である。破断面付近に緩やかに窪む使用面と浅い敲打痕がある。共に砂岩製である。その他に図示していないが、本集中からは土器が7点出土しており、うち4点がⅣ群1A類a種、1点がⅣ群B1類、2点がⅡ群B2類である。Ⅳ群A1類のうち、1点はAT-30区のVP-14覆土中出土の個体(図IV-72-5)と接合している。(宮崎)

VSB-09 (図IV-108 112-3~5 図版 73-2 111-2-25~27)

位置：AE-20区 層位：VbM 規模：341×274cm

確認・調査 Vc層を調査中、Vb層が落ち込む範囲に被熱した礫のまとまりを検出した。周囲に焼土がなく、約10m西にVH-15、南には石組炉を伴うVH-13・14があり、それに関連した可能性も考えられる。

出土遺物 (図IV-112-3~5 図版 111-2-25~27) 同一個体3・4はⅢ群B2類土器の口縁部片である。口縁部の断面形が三角形に肥厚し、へら状工具による押引文が1条施されている。Ⅲ群B3類の北筒式土器の口縁部形態に類似しているが、円形刺突文が確認できないことから本群の柏木川式土器とした。地文は無節Lの斜行縄文が施されている。5は長軸が約25cmの大型のたたき石である。両端に密集した敲打痕があり、一側縁稜には複数の大きな剥離痕がある。長軸端部に敲打が認められることから台石等ではなく、たたき石に分類した。砂岩製である。(服部・乾)

3. 土製品集中

VPPB-01 (図IV-113 114-1~5 図版 73-5 112-1-1~5)

位置：AV-28・29区 層位：Vc 規模：27×25cm 出土点数：59点

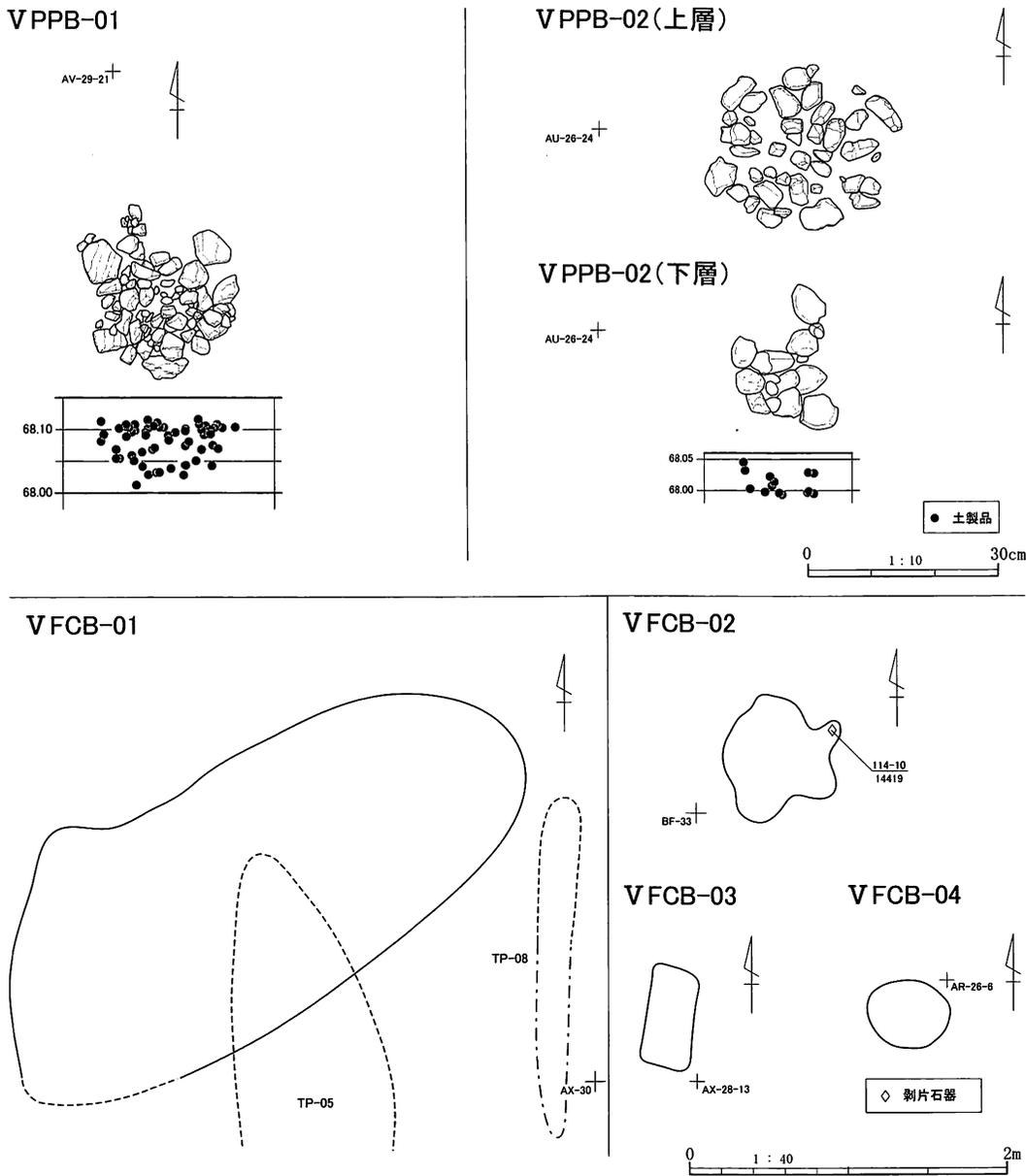
確認・調査 包含層Vb層下位を移植ゴテによる掘削中に、焼成粘土塊がまとまって出土した。このため、竹べらにより遺物輪郭検出の精査を行い、27×25cmの楕円形範囲であることが判明し、周辺の遺物も含めて、検出状態を撮影した。出土状態の微細図実測を行った後に、破片全点の位置を記録し、取り上げた。この際、検出面より下位からも焼成粘土塊が出土し、深さ約10cmの小土坑状となった。なお、周囲約30~50cmに検出層位と同一面で縄文時代前期後葉の形態と思われる石槍(図IV-127-49・59)が出土している。(松井)

出土遺物 (図IV-114-1~5 図版 112-1-1~5) 破片59点中5点を図示した。いずれも板状の破片資料で、4・5は裏面に棒状の圧痕がある。胎土は1~3・5は軽石粒を多く含み、表面に脱落した窪みが多い。4は軽石粒をほとんど含まず、色調も他のものより白色が強い。(乾)

VPPB-02 (図IV-113 114-6~9 図版 73-6 112-1-6~9)

位置：AU-26区 層位：Vc 規模：33×26cm 出土点数：57点

確認・調査 包含層Vc層をジョレンにて掘削し、VI層上面を検出する作業中に焼成粘土塊が集中する範囲を検出した。このため竹べらにより遺物輪郭検出の精査を行い、33×26cmの楕円形範囲であることが判明した。検出面の焼成粘土塊の出土状態の微細図実測を行い取り上げたところ、VPPB-01と同じく下層からも焼成粘土塊が出土することが判明し、2面の出土状態を



図IV-113 VPPB・VFCB 平面及び垂直分布図

実測図化した。取り上げた結果、深さ 10cm ほどまで資料が重なって出土した。なお調査した結果の落ち込みについては、明瞭な平面形を確認できなかったことから土坑としての調査を行っていないが、出土状態や周囲の出土遺物層位から Vb 層下位～Vc 層上位を構築面とする小規模な土坑であった可能性が高い。(松井)

出土遺物 (図IV-114-6～9 図版 112-1-6～9) 破片 57 点中 4 点を図示した。いずれも板状の破片資料で、9 は裏面に幅 5mm 程度の棒状の圧痕 3 条がある。6 は器表面の凹凸が激しく、破断面には直線的なクラックが入り、薄い粘土板を折り返して製作した可能性がある。8 は粘土に極細粒砂を少量混入し、軽石粒は含まれていない。器表面の軽石粒の脱落痕も無く、平滑な器表面で比重が重い。(乾)

4. フレイク・チップ集中

今回の調査では、黒曜石の碎片が集中している地点が計4ヵ所確認され、層位・範囲を記録した後に、土壌ごと回収し、1mmメッシュで水洗選別処理した。構成する碎片の多くは長軸10mm以下であった。全て黒曜石で構成されている。また石器の破損品や未成品、被熱したものはほとんど出土しておらず、製作や使用等の作業場の性格よりも調整過程で発生した碎片を廃棄した場所と思われる。

VFCB-01 (図IV-113 図版73-3)

位置：AW・AX-30区 層位：VbU 規模：378×154cm 出土点数：1634点

確認・調査 調査区南側のTP-05の調査中に、Vb層上位で多量の黒曜石碎片が集中する範囲を検出した。出土範囲の平面形は長楕円形で、ほぼ水平に出土していた。出土位置を記録すべき剥片等がなかったため、出土範囲の平面形を記録した後、一括で取り上げ調査終了とした。

VFCB-02 (図IV-113 114-10 図版112-1-10)

位置：BE-32区 層位：VbL 規模：88×75cm 出土点数：774点

確認・調査 南側段丘先端部の緩斜面地点にてV層精査中に、黒曜石の碎片が出土する範囲を検出した。出土範囲の平面形は不整形であった。出土標高は地形に沿ってやや傾斜していた。剥片石器1点のみ出土位置を記録した以外は、出土範囲の平面図を作成後、土壌每一括で取り上げ調査終了とした。

出土遺物 (図IV-114-10 図版112-1-10) 10はB1a②のポイント類で、逆刺の部分に僅かに欠損部分があるが、全長の約3分の2を占める左右対称の長い茎部と短い尖頭部の形態である。茎基部は左右に張り出しを伴い、端部は尖状を呈している。

VFCB-03 (図IV-113 図版73-4)

位置：AX-28区 層位：Vc 規模：64×30cm 出土点数：1039点

確認・調査 VH-10覆土の下位を精査中に黒曜石の碎片が多量に出土する範囲を検出した。出土範囲の平面形は隅丸長方形で、出土標高はほぼ水平であった。VH-10の埋没中に廃棄されたものと思われる。遺物出土位置を記録するべき大きさの剥片がなかったため、出土範囲の平面図を作成した後、土壌每一括で取り上げ調査終了とした。

VFCB-04 (図IV-113 図版なし)

位置：AR-26・27区 層位：Vc 規模：52×43cm 出土点数：898点

確認・調査 調査区中央部付近のVc層精査中に黒曜石の碎片が多量に集中する範囲を検出した。出土範囲の平面形は円形で、出土標高はほぼ水平であった。遺物出土位置を記録するべき大きさの剥片がなかったため、出土範囲の平面図を作成した後、土壌每一括で取り上げ調査終了とした。

(松井)

5. その他の遺構

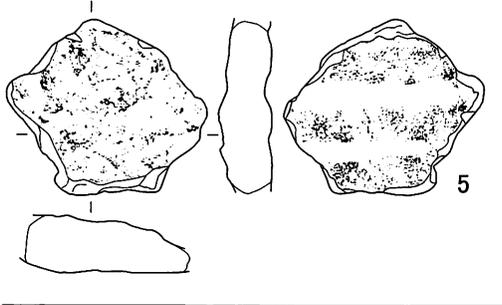
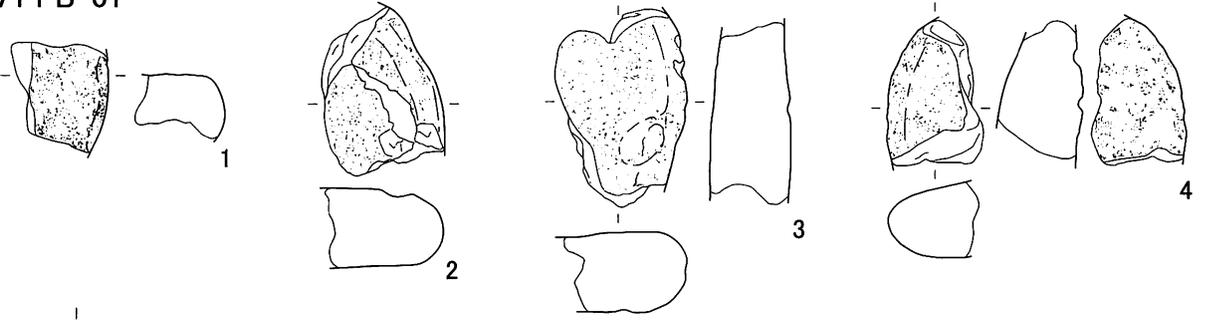
VM0-01 (図IV-1・114-11～14 図版 73-8 112-2-11～14)

位置：AI・AL-32～36区 層位：VbU 規模：2,500×1,300cm

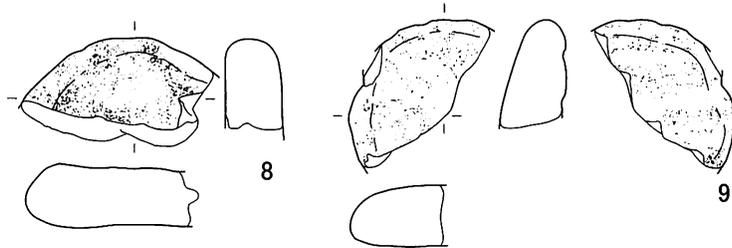
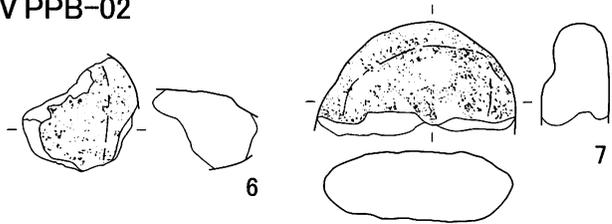
確認・調査 IV層除去後、調査区北西側においてVa～Vb層上位で褐色を呈する土壌が広範囲に分布していた。調査はグリッドラインに沿って東西軸でトレンチを設定し、Vc～VI層上位まで掘り下げを行った。断面観察の結果、褐色土は微量に径5mm程度のシルト岩を少量含み、1cm程度Va層を被覆していた。また、トレンチ掘削によって下位にVH-04(図IV-17)を検出しており、住居跡やその他の遺構の掘り上げ土、あるいは盛土遺構と想定したが、関連性や供給源が確認できないため事実記載のみにとどめる。また、こうした堆積物については同町のオニキシベ5遺跡(厚真町2013b)で認められるが、性格等の判断に至っていない。

出土遺物(図IV-114-11～14 図版 112-2-11～14) 11は無茎の三角鏃で、先端を欠損している。基部は浅く湾入し、鏃身部の後に基部の調整を行っている。12は基部が不明瞭で菱形を呈するポイント類Bの未成品で、表裏面は全体的に細かい傷がある。両端部は丸味を帯び、剥離調整も全体的に粗い。裏面は調整素材剥離面を大きく残し、縁辺部のみに調整が施されている。角度が鈍角であることから表面側への剥離の打面と思われる。13は剥離調整で成形された石斧で、両面及び刃部は研磨調整が施される。刃部には一部研磨後の剥離が認められる。14は棒状礫を素材としたたたき石である。敲打は主に長軸方向に認められ、左右両側縁にも一部深い敲打痕がある。下端部は敲打によって大きく欠損している。(奈良)

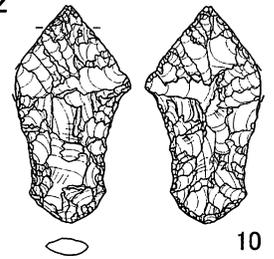
VPPB-01



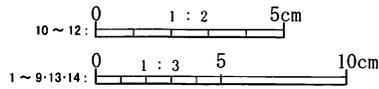
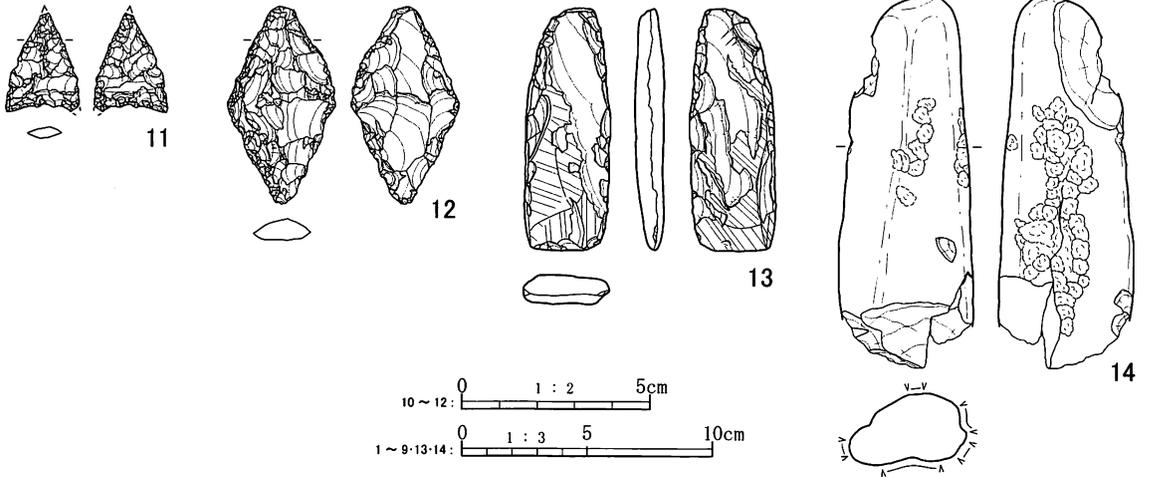
VPPB-02



VFCB-02



VMO-01



図IV-114 VPPB-01・02・VFCB-02・VMO-01 出土遺物

第8節 包含層出土遺物

1. 土器・土製品(図IV-115~125 図版 113~123)

本遺跡の樽前cテフラ下層の遺物包含層からは縄文時代早期後葉から後期末葉にかけての縄文土器が10,158点出土している。主体となる時期は縄文時代後葉と中期末葉から後期前葉にかけての大きく2時期である。一次整理作業において乾が土器の分類作業を行い、その協力のもと岩橋が主体となり出土地点、文様、胎土、焼成などの要素を中心に可能な限り個体識別を行い、個体番号を付した。その結果、未掲載の資料も含め469個体以上を確認し、うち258個体を本節で図示した。報告書掲載にあたっては、口縁部文様帯、胴部の地文の個体全体の構成や特徴を記述するため、同一個体片を複数点掲載している。なお、挿図及び写真図版作成、属性表作成は岩橋が中心となって行い、本文は乾が記述した。

I群 B3類 (1~6)

縄文時代早期後葉の中茶路式土器で、隆起線、微隆起線文が施されているもの。1・2と3・4と5・6は出土位置や焼成胎土、器厚、施文原体より同一個体片と思われるもので3個体を図示した。1は胴部上半の破片で波状構成の隆起線文間に短縄文が施されている。2は底部側面の破片で水平の隆起線文間にRL斜行縄文が施文され、底部及び立ち上がり部分は縄文施文後にミガキ調整が施されている。3・4は微隆起線文が施されていないが、精緻な絡条体圧痕文での鋸歯状構成や胴部下半の横位区画と充填施文より本群に含めた。同一の施文具を用いて絡条体圧痕文間を充填する短縄文が施され、3は胴部上半で鋸歯状構成、4は胴部下半の水平構成で、施文後に弱いナデ調整が施され、文様が僅かに潰れている。器厚は薄く、内面調整も平滑で焼成も良好であり、緻密質な破片である。5・6は胎土に石英結晶を多量に含む富良野盆地系土器(厚真町2004)である。5は口縁部片で口唇部は尖状、6は胴部下半の破片で、痕跡的な微隆起線文間に結節回転文、羽状構成の撚糸文が施されている。全体的に砂粒を多量に含むため器表面はザラつくが、内面調整も平滑で良好なつくりである。

I群 B4類 (7~9)

縄文時代早期末葉の東釧路IV式土器で、羽状構成の撚糸文を地文とするもの。同一個体片7~9の1個体を図示した。口唇部断面形は角状で、7は絡条体圧痕文を5段以上施している。施文原体が自縄自巻の痕跡は認められない。

II群 B2類 (10~26)

本類は縄文時代前期末葉の円筒土器下層d2式土器やその影響を受けている土器で、11個体を図示した。いずれも口縁部下縁に隆起帯に区画された口縁部文様帯を有し、内面はミガキ調整が施され、胎土には少量の繊維を含む。

口縁部は外反する波状ないしは山形突起を有し、頂部が肥厚し深い刻みを有するもの(12)や縄による刻み(14)、指頭圧痕状の窪み(18)を有するものがある。また、頂部から棒状の隆起帯が垂下するもの(20)もある。口唇部は隅丸角状や丸いものが主体で、縄による刻み(10・12・20)や口唇上に並行する縄線文(14)、半截竹管状工具による刺突文(18・21)が施されているものがある。口縁部文様帯は幅広のものが主体で、口唇部が段状に肥厚するものもある

(20)。例外的に狭い文様帯のもの、縄文のみが施されているものがあり、本群の中でも古手の可能性がある(26)。文様帯には撚糸文や縄線文を施すものが主体で、絡条体圧痕文のもの(21)

や円形刺突文が加わるもの(22)もある。また、これらの施文後にミガキ調整を施すものもある(10・12・13・20)。文様構成は口縁部形態とリンクして菱形や山形のものが多く、口縁部文様帯下縁の区画帯上にも縄線文や刺突文が施されている。胴部の文様は、多軸絡条体回転文(11・13・23・24)、縦横位の撚糸文(19)、斜行縄文(17・25・26)のものがあり、縦位の貝殻条痕文地に絡条体回転文を施しているもの(23)も1個体ほどあった。25は底部片で底面及び側面、内面は入念なミガキ調整が施されている。胎土はいずれの個体も少量の繊維を含むが、砂粒の多いものには石英結晶をやや多く含むもの(14~19・22)がある。この他、凝灰岩を含むもの(21)や極少数個体であるが海綿骨針を含むもの(24)もある。

これらの土器群は、頂部が肥厚する波状・山形口縁が多く、その頂部への施文や垂下する縦位の区画単位から円筒土器下層d2式でも新しいタイプが主体と思われるが、26は口唇部形態文様帯の幅や施文文様要素よりd1式の影響を受けた在地系土器の可能性もある。20も本群に含めたものの、口縁部が肥厚し棒状の隆起帯が垂下する要素は次の段階へ入る可能性もある。

胎土においては石英結晶を多量に含むタイプは半截竹管を施文工具に用いる特徴があり、胆振管内西部以南には見られない特徴でもある。厚真町域は比較的大粒の石英結晶を産出しないことから、胆振管内中部以東の太平洋沿岸域で製作された土器で本遺跡へ搬入されたものと想定している。石英結晶を含む本群の土器には竹管または半截竹管を工具とする刺突文が施されているものも多く、白老町虎杖浜4遺跡(北海道埋蔵文化財センター1981)や苫小牧柏原18遺跡(苫小牧市埋蔵文化財調査センター1995)、静川22遺跡(苫小牧市埋蔵文化財調査センター2002b)でややまとまって出土している。

II群B3類(27~38)

縄文時代前期後葉の植苗式、大麻V式土器で口唇部から口縁部にかけて2~4条の並行する縄線文が施されている土器。9個体を図示した。いずれも平縁で口唇部が隅丸角状(27・28)、外向きの隅丸角状(30~33)、外削ぎの切出し状のもの(34~36)があり、縄文や縄線文が施文されている。口唇部への縄線文の有無は口唇部形態と合致し、外向きの角状または外削ぎの切出し状の口唇部に施文され、視覚的効果(装飾)が読みとれる。口縁部の文様は縄線文が撚りの異なる原体で施文されているもの(30~35)が主体である。例外的に、縄線文を意図したと思われる刺突列を施すもの(29)がある。縄線文以外の文様要素は無く、貼付帯を有する個体は未掲載資料も含め皆無であった。胴部は羽状や菱形構成の地文縄文が主体である。なお、本群に属する土器で器内面に縄文を施す破片も皆無であった。以上の特徴から、本群は大麻V式土器を主体としている。

これらの土器群は、口唇部形態と縄線文の条数が比例的な関係にあり、口縁部文様帯の拡張的変遷過程を示唆しているものと思われる。しかし、口縁部に横環する隆起帯や内面縄文の有無が新旧関係または地域的な変異かの推定には至らなかった。

38は本群のうち、縄文時代前期後葉から中期初頭にかけて日高山脈以東または以北で製作されたと思われる宮本式土器に相当するもの。文様、胎土が異質な土器である。内湾気味に立ち上がる口縁部片で、角状の口唇上には棒状工具による極めて浅い圧痕が施されている。口唇部より指頭幅ほど下がった位置に横走沈線文がめぐり、沈線上に同一工具による円形刺突文が施されている。地文は無節Rの斜行縄文がまばらに施されている。胎土は垂角状の砂粒が多く、

極微量の雲母片も含むが、繊維は一切含んでいない。このため比重が高く重量感がある。破断面は並行組織が発達しており、胎土の特徴と合致している。色調は器表面が赤褐色、内面は黒色を呈している。

II群 B5 類 (39)

39 は内湾気味の口縁部小片で口唇部は隅丸角状を呈し、LR 斜行縄文が施文されている。口唇部直下の器表面は無文を呈している。胎土には少量の繊維と長軸 2~3mm 程度の蛇紋岩を多量に含み、比重は軽い。色調は全体が黒色を呈している。

本群は、掲載した 1 個体を含み全体で 10 個体を確認しており、客体的な様相を呈する。このことは文様要素や胎土中の混入岩石より、厚真川流域以外で製作されたもので、特に 39 については、蛇紋岩を多量に含むことから日高帯周辺域で製作されたものであり、II 群 B5 類に分類されうるが、口唇部形態などから本群に分類した。

III群 A1 類 a 種 (40~43)

本群は縄文時代中期前葉前半に属する円筒土器上層 a 式系統の土器である。隆帯による文様構成や区画帯を有し、刺突文を施すもので、3 個体を図示した。同一個体 40・41 は波状口縁で、口唇部は尖状で器表面側に縄による浅い刻みを施している。無文地の口縁部文様帯には 3 条 1 対の隆帯が垂下していることから本群に分類した。垂下する隆帯を結ぶ 2 条 1 対の撚糸文間にヘラ状工具による縦位の刺突列が充填されている。42 は底部から口縁部にかけて 4 分の 1 程度復元できた小型の個体で、底部は膨らみをもって立ち上がり、口縁部が緩く外反する。口縁部文様帯下縁は刺突列施文前に撫でつけられた隆帯で区画されている。底面及び側面は弱いミガキ調整が施されている、なお、底面外縁付近に補修孔が 1 ヲ所穿孔されている。43 は、隆起帯に並行して撚糸文と爪形状の刺突文が施されている。

III群 A1 類 b 種 (44~54)

本群は縄文時代中期前葉に属する円筒土器上層 b 式系統の土器である。5 個体を図示した。撚糸文を伴う貼付文と馬蹄形撚糸圧痕文を施すもの。器形は口縁部が大きく外反し、弁状突起を有する(46・48・51)。口唇部は断面が外向きの三角形状ないしは肥厚する(44・46・48・51・52)。底部側面の立ち上がりは直立ないしは僅かに外反し、幅 1cm 程度のミガキ調整を施す無文帯を形成している(49・54)。馬蹄形圧痕文が肥厚する口唇部に施されているもの(44・48・50)もある。口縁部文様帯には地文縄文が施されていない。文様帯の撚糸文は 3 条 1 対となっている(46・47・48)。地文は全て 0 段多条原体の結束第一種羽状縄文である。これらの特徴から、同一個体片 51~54 は馬蹄形圧痕文を確認できていないものの、本群に含めた。内面調整は入念であり、胎土には繊維をやや多く含む。同一個体 44・45 の胎土には海綿骨針を多く含む。

III群 A2 類 (55・56)

縄文時代中期中葉に属するサイベ沢 VII 式系の土器を分類したが、図示した 1 個体(同一個体片 55・56)のみであることから、III 群 A1 類 b 種に含まれる可能性もある。平縁で口縁部文様帯に相当する部分が緩く括れる。口唇部は三角形状に肥厚する。器形的には口縁部文様帯が意図されているが、RL 斜行縄文の地文縄文のみが施されている。内面は平滑に仕上げられ、口縁部のみミガキ調整が施されている。底部はやや外傾気味に立ち上がり幅 1cm ほどのミガキ調整無文帯となっている。

Ⅲ群 B1 類 (57・58)

縄文時代中期後葉の天神山式土器と思われるもの。図示した1個体(同一個体片57・58)と未掲載1個体のみの出土である。波状口縁で胴部がやや膨らむ器形で、口唇部はカマボコ状に肥厚している。文様は地文縄文のみである。内面は成形時の凹凸が激しいがミガキ調整が施されている。胎土は繊維をやや多く含み、砂粒は含まれない。

Ⅲ群 B2 類 (59～70)

本群は縄文時代中期後葉の柏木川式土器に分類したもの。12個体を図示した。口縁部は僅かに外反するものが主体であるが、やや内湾するもの(67)や大きく外反するもの(68)もある。口唇部は断面形が三角形状(59・68)や折り返し状(65)に肥厚するものがあり、口唇上に刺突文を施している(59～64)。口縁部文様には押引文や刺突文で文様を構成するものが主体で、貼付文を施すもの(60)もある。地文は図示したもの以外でもLR斜行縄文が主体であるが、結節回転文が加わるもの(69)やR無節の斜行縄文のもの(62)、無文土器(66～68)もある。胎土は全て繊維を含み、後続する北筒式土器(Ⅲ群 B3 類)より多く含む傾向がある。また、粒径2mm以上の大粒の石英結晶を含む富良野盆地系土器(63・64・69・70)も出土している。

これらの土器群の施文工具は半截竹管状や棒状工具によるもので、縄原体で施文されているものは土器集中07で出土した1個体のみであった(図IV-78-8)。苫小牧市内苫東遺跡群では、縄線文で文様を構成する柏木川式土器が主体となる遺跡があるが、これらが時間差なのか地域・系統差を表すものかは本遺跡では判断がつかなかった。また、次の段階である北筒式土器(Ⅲ群 B3 類)との判別において、メルクマールとなる円形刺突文の有無のみで本群に含めたもの(64・68)もある。富良野盆地系土器については、小片でOI円形刺突文の有無のみでの分類判断を行ったため、北筒式土器の破片の可能性もある。

Ⅲ群 B3 類 (71～105)

本群は縄文時代中期末葉の北筒式土器に分類したもの。32個体を図示した。口縁部片はOI円形刺突文を有するもの、胴部片は押引文を伴う貼付文(71・72)がある。大きく在地系土器と明らかな搬入系土器である富良野盆地系土器(95～105)とに分けて図版を構成した。

器形は平縁で、小突起が及び棒状の隆帯を付すもの(74)が1点のみ確認できた。口縁部は直立するものからやや外傾するものが主体で、大きく外反するもの(76)もある。口唇部は肥厚し、外削ぎの切出し状のもの(76・78～81・86・100)、板状に肥厚するもの(73・74・82・83)、肥厚せず丸状のもの(84・85・87・95)、肥厚せず隅丸角状のもの(88・89・90～98)など様々な形態がある。口縁部文様のOI刺突文は概ね6～8mmが主体で、5mm程度の小さなものや10mm程度の大きいものもあるほか、例外的に指先で刺突文が施されているもの(83)があった。口縁部及び口唇部の押引文や刺突文、突引文は、竹管状工具の内面側を器表面へ押し当てるものが主体であるが、工具の先端部が角状のもの(72・76・74)や竹管状工具の外側を用いるもの(82・83)がある。この他に押引文が突起下より垂下するもの(73)がある。これらの押引文等の施文列は2条が主体である。OI刺突文や押引文以外の文様要素として、無文の隆起帯を施すものがある(100)。地文はバラエティーに富み、単節斜行縄文の他、無節Lの斜行縄文(71)や結束第一種羽状縄文(73～77・80・90・101)、同斜行縄文(91)がある。斜行縄文でも、原体端部の結縛痕を顕著に表すもの(92・97)もある。無文土器は前段階の柏木川式土器(Ⅲ群 B2 類)

と比較して極少数例となる(85・87)。内面は貼付帯が付されているもの(71・73~75)は平滑に仕上げられている。また口唇部が隅丸角状で、細密条痕(瀬川 1982)が認められるもの(89)がある。これら以外のものは成形時の凹凸が顕著に残っている。胎土は僅かに繊維を含むものが主体であるが、砂粒のみのもの(73~75・83・84・91・92・94)もある。

これらはバラエティーに富み、ある程度の時間幅を有する中で製作されたものと思われる。ただし、時間的な幅以外にも富良野盆地系土器もある程度の個体数が出土していることから、他地域で製作された土器やその影響を受けた在地系土器が存在していると推定できる。これらを器形や細部形態、文様要素などから時間的、系統的に細分するには破片数が少量であることから不可能であった。

本群における富良野盆地系土器の特徴として、砂粒が他の土器片よりも多量に含まれ、器表面の色調が赤褐色を呈するものが圧倒的主体で、その他の土器片とは明らかに異なる。口唇部は隅丸角状のものが多く、肥厚帯を有するものが少ない傾向にあり、口唇部に押引文を施文するものが多い。文様としては円形刺突文が浅い傾向があり、押引文も口唇部や1~2条程度で少ない傾向にある。地文縄文の節も大きく粗雑な原体による施文と思われる。

IV群 A1 類 a 種 (106~124・126~142)

本群は縄文時代後期初頭から前葉にかけての余市式土器群のうち古段階に分類されるもの。27個体を図示した。本群も石英結晶粒を多量に含む富良野盆地系土器が多数出土している(126~142)。本群は口縁部に折り返し状の肥厚帯を有し、地文縄文施文後の貼付帯ないしは隆起帯が廻るものである。口縁部の円形刺突文の有無は分類の基準としていないが、円形刺突文をもつものは器面に対し、垂直方向に施文している。

器形は、胴部上半まで傾きを持って立ち上がり、上半はほぼ直立して口縁部が僅かに外反する。底部は平底で側縁は直立気味に立ち上がる。口唇部形態は角状で、口唇は無文であるが、縄文が施文されているもの(110・112・116)、円形刺突文が施されたもの(118)が認められた。折り返し状の肥厚帯直下に器面に対し、棒状工具を垂直方向に突き刺す円形刺突文を施すもの(107・110・127・128・130・131・133・134)と施されないものがある。刺突文工具は、前段階の北筒式土器(Ⅲ群 B2 類)と異なり、中空のものは認められない。肥厚帯が23~30mmの幅広のものと15mm程度の狭小のものとがある。前者には沈線文を施すもの(112)や2段構成のもの(117)がある。OI刺突文と貼付帯以外の文様は地文縄文のみで、幅広の貼付帯上や胴部の一部に撚りの異なる原体で2度施文する「重複縄文」が施されているもの(107・113~115・117)がやや多く認められる。この他、無文帯を有するもの(107・114)もある。胴部にも幅10mm以下の貼付帯が施され、縄線文が施されているものもある(122)。縄文は整然と施され、多段羽状構成で底部側面部まで及ぶ(121・122)。平底の底面は無文で、ミガキ調整が施されているものが多い(109・121・123)。内面は平滑に調整されている。胎土は垂角礫状の砂粒のみが混入している傾向にある。

これに対し、本群に併存すると思われる富良野盆地系土器は斜行縄文が主体で、胴部に貼付文が施されているものは無い。また、口縁部の肥厚帯は地文縄文施文前に施される隆起帯で、口唇部より15~30mm下がった位置に隆起帯を施すものや凹带状となるものがある。円形刺突文も在地系土器では直径4.5~8mmであるのに対し、7~10mmと大型である。

なお、106は貼付帯がないものの成形時の粘土帯継ぎ目を隆起帯状に残し、地文原体の結縛痕も明瞭に施文され横位多段構成となっている。また胎土には垂角礫の小礫もやや多く含んでいる。これらの特徴は初期段階の余市式土器(図IV-81-21・100-53)と共通することから106も本類に含めた。

IV群 A1 類 c 種 (125)

本群は縄文時代後期初頭の余市式土器群のうち渡島半島に分布する天祐寺式土器である。1個体のみを図示した。他にVP-20からも本群が出土しており、全体で4個体が出土している。成形時の外傾接合の粘土帯幅で破損し、右側縁破断面は磨滅しており、本資料は破片状態で持ち込まれた可能性もある。地文縄文は0段多条RL原体を縦回転で施されたものである。

IV群 A2 類 (143~166)

本群は縄文時代後期初頭から前葉にかけての余市式土器群のうち、伊達山式新段階、大谷地貝塚上層、タプコプ式土器古段階を含めた一群で、前段階のIV群 A1 類 a 種と比較して縄文や胎土が粗雑な土器である。18個体を図示した。

器形は前段階と同じであるが、口縁部が内湾気味に直立するものもある(147・159)。口縁部や胴部には貼付帯が廻るが、口縁部の刺突文は斜め下方より突き上げるもの(143~150)と縄端による刺突文(151・153~156)とがある。刺突文施文後に無文帯を設けるものもある(151)。口唇部形態は角状のものが主体であるが、やや内傾するものが多い。この他、内削ぎの切出し状のもの(148~150)がある。なお、口唇部には縄文を施文し、底面にも施文するもの(163)もある。また縄文の羽状構成も減少し、施文原体は太く粗い縄文となるものが多く、繊維の束が見られるものもある。この他、複節(151)や無節(159・160・162)があり、まばらに施文するため条が途切れるものや無文土器も見受けられる(157・158)。また、縄文施文後にナデ調整を一部に施すものも少量見出すことができる(148・155・161・163)。内面は平滑に調整されるものが多いが、成形時の凹凸を残すものもある。胎土は砂粒を多量に含むものと少量に限のものがあり、後者は前段階には無かった特徴でもある。

IV群 B1 類 (167~191)

本群は縄文時代後期初頭から前葉にかけての余市式土器群のうち、タプコプ式土器中~新段階の土器である。19個体を図示した。

器形は平縁が圧倒的主体で、波状縁(172・188)もある。口縁部は直立するものやや開くもの、やや内湾するものがあり、口唇部に向かって器厚が薄くなるものが多いほか、口縁部が肥厚し、段を有するもの(167・168)や棒状の隆帯が施されているものもある(167・170~172・188)。口唇部形態は角状のものが主体であるが、内削ぎの切出し状のもの(170・176・178)もあり、口唇部には全ての個体に縄文が施文されている。底部は平底で、側面は膨らみをもって立ち上がり、底面には縄文が施文されている(175・184・190)。文様は、口縁部に一部が途切れる破線状の縄線文が施されているもの(173・176・178・179)や無文帯を有するものがある

(188)。地文縄文は斜行縄文のものが主体で、縦走気味の斜行縄文(174・187)、異なる原体による羽状縄文のもの(167~169・176・177・181・182)、一部重複縄文のものがある(167・168・186)がある。また、内面にも縄文が施されているものも多くあり、斜行や横走するものが主体であるが、縦走気味に施文されているものもある(170・176)。これらの多くは縄文施文後

の器表面にナデ調整が施され、条間が潰れている。胎土は微量の繊維と砂粒を多く含む。極めて多くの砂粒を含むものは、器表面や破断面が薄く剥落する平行組織が発達しているものが多い。なお 189・191 は小型土器で器壁は薄い、胎土の特徴や縄文施文後のナデ調整が顕著であることから本群に含めた。本群のタブコブ式期には胆振東部を中心に石狩南部から日高にかけての遺跡において土器片囲い炉を検出するが、本遺跡では 1 ヶ所も検出されていない。また、破片資料においても強い二次被熱を受けたものも出土していない。

IV群 B2 類 (192～194)

本群は縄文時代後期前葉の手稲砂山式土器に含まれると思われるものを分類した。3 個体を図示した。いずれも斜行縄文のみの破片資料で、沈線文、貼付文、縄線文など典型的な文様要素をもたないが、砂礫を多く含む。同一個体片 192・193 は内湾気味の胴部上半に口縁部がやや外傾し、口唇部が外向きになる。口唇部は隅丸角状で縄文が施されている。RL 斜行縄文を地文とし、部分的に施文後のナデ調整が施されている。器厚は薄く、胎土には堆積岩系の亜角礫を含み、焼成は良好で硬質である。194 は RL 斜行縄文のみの胴部片で、器厚は 11mm とやや厚手である。胎土は凝灰岩と思われる角礫状の小礫を多量に含む。当地域において角礫状凝灰岩を含むものは縄文時代前期末葉から中期初頭にかけてのフゴッペ貝塚式土器にもみられる特徴でもあり、本資料が後志地方より搬入された可能性がある。

本群は個体数が少なく、客体的資料で、タブコブ式土器中～新段階に伴う可能性がある。

IV群 D1 類 (195)

本資料は縄文時代後期末葉の御殿山式土器と思われるもの 1 個体を図示した。

口縁部片で口唇部は隅丸角状を呈し、指頭による刻みが施されている。無文土器で I0 突瘤文が施されている。破断面形状より、成形時の粘土帯内傾接合面で破損している。

本資料は 1 点のみであり、攪乱層中から回収したものであることから、他の遺跡からの混入の可能性もある。

土製品 (196～204)

本資料は「焼成粘土類」(工藤 2006) や「サツマアゲ状土製品」(北海道埋蔵文化財センター 1997)、「盤状粘土塊」(北海道埋蔵文化財センター 2012) と称されるもので、平成 25 年度の発掘調査では 597 点出土し、9 点を図示した。脆弱な資料で完形のものはないが楕円形を呈する板状と思われ、穿孔を確認できたものは無い。厚さは 20mm 前後が主体で、30mm 前後のものもある(198・201)。断面形が推定できるものでは上面に対してやや膨らみをもち、下面が平坦なものと思われる(196・199・202～204)。表面には縄文が施されたものではなく、無文であるが、焼成前に並行する棒状の圧痕を施すものがある(200・201・203・204)。施されている個体が少量であることから、文様としての施文されたものかは不明である。色調は灰白色と灰黄色を呈しするものがある。胎土にはいずれも繊維を含まず、黒色の角閃石を含む。灰白色のものは樽前 d2 パミスと思われる赤褐色の軽石粒を多く含む(196～199・201・204)、灰黄色のものは樽前 d1 スコリアをやや多く含む傾向がある(200・202・203)。本資料は縄文時代前期後葉から末葉にかけてを主体時期とするヲチャラセナイ遺跡でも 2,500 点以上が出土しており、胎土分析の結果、二酸化珪素(SiO₂)を多く含むことが判明している(厚真町 2014b)。本資料は苫小牧市静川 22 遺跡(苫小牧埋蔵文化財調査センター 2002)、千歳市キウス 5 遺跡

B地区(北海道埋蔵文化財センター1997)で多量に出土しており、先述の厚真町ヲチャラセナイ遺跡の出土例と合わせて、本遺跡の資料は縄文時代前期後葉の大麻V式ないしは円筒土器下層d式期のものと思われる。

小括

平成25年度調査のショロマ1遺跡では、縄文時代早期後葉の中茶路式土器から後期末葉の堂林式土器が出土したが、主体的な時期は縄文時代前期後葉から中期初頭にかけての時期と中期末葉から後期前葉にかけての2時期である。厚真川とショロマ川との合流点に突出する河岸段丘上という好条件の立地環境により各時期において人々の活動があり複数の土器型式が出土している。

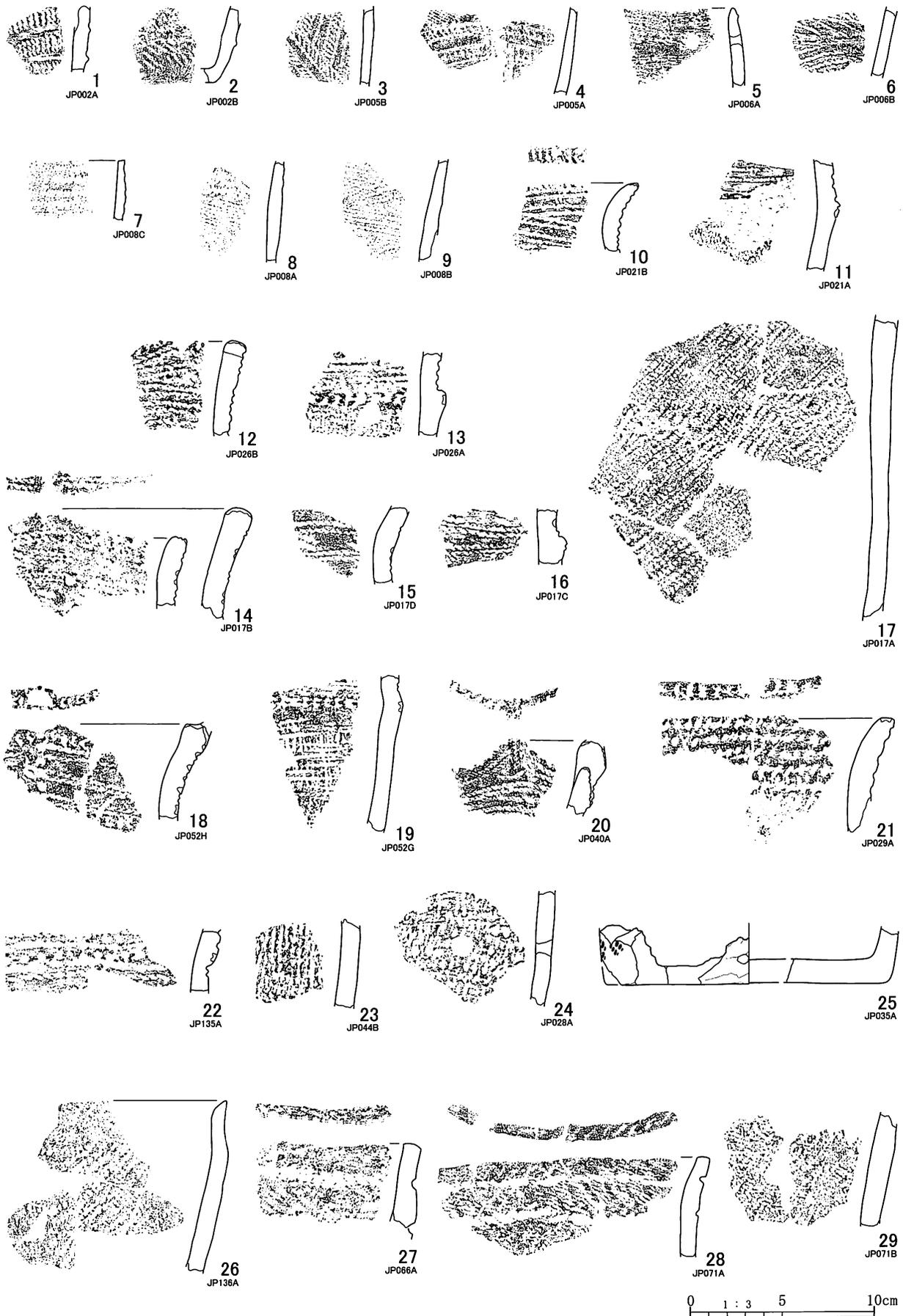
当遺跡における人々の活動は縄文時代早期からI群B3類の中茶路式土器と少量のI群B4類の東釧路IV式土器が出土している。この2型式のセット関係は、平成14年度以降の幌内地区における発掘調査において厚幌1遺跡、上幌内モイ遺跡、ヲチャラセナイ遺跡、オニキシベ4遺跡などでも確認されており、これ以前の土器型式については、オニキシベ4遺跡等において極少量の単発的な破片出土に留まる。このことから、厚真川上流域において縄文時代の本格的な人類の活動開始時期が縄文時代早期後葉と思われ、厚真川中下流域や苫東遺跡群の遺跡形成時期とは異なりを見せる。この時期における活動の活発化は、富良野盆地系土器が出土することも関係していると思われる。また、その要因として樽前dテフラ降下後の大規模な洪水災害による環境悪化から、安定化した時期とも想定できる。

後続する段階としてII群B2~B5類及びIII群A1類土器があり、縄文前期後葉から中期初頭にかけての道南系の円筒土器下層d式から上層a式にかけてと、道央部系の縄線文などを施す植苗式、大麻V式土器がまとまって出土している。遺跡内の遺構の多くは本時期に形成されたものである。直線距離にして約1.1kmの距離にあり、大型住居跡3軒や多量のシカ遊離歯を伴う廃棄場を検出したヲチャラセナイ遺跡は出土土器からほぼ同時期であるが、当遺跡は円筒土器上層a式の出現頻度が高く、やや遅れる時期まで存続していたものと思われる。当該期の出土土器については、円筒下層式土器のほか、フゴッペ貝塚式、シュブノツナイ式、宮本式、蛇紋岩・滑石を含む土器など多種類の土器が出土している様相は同じであった。

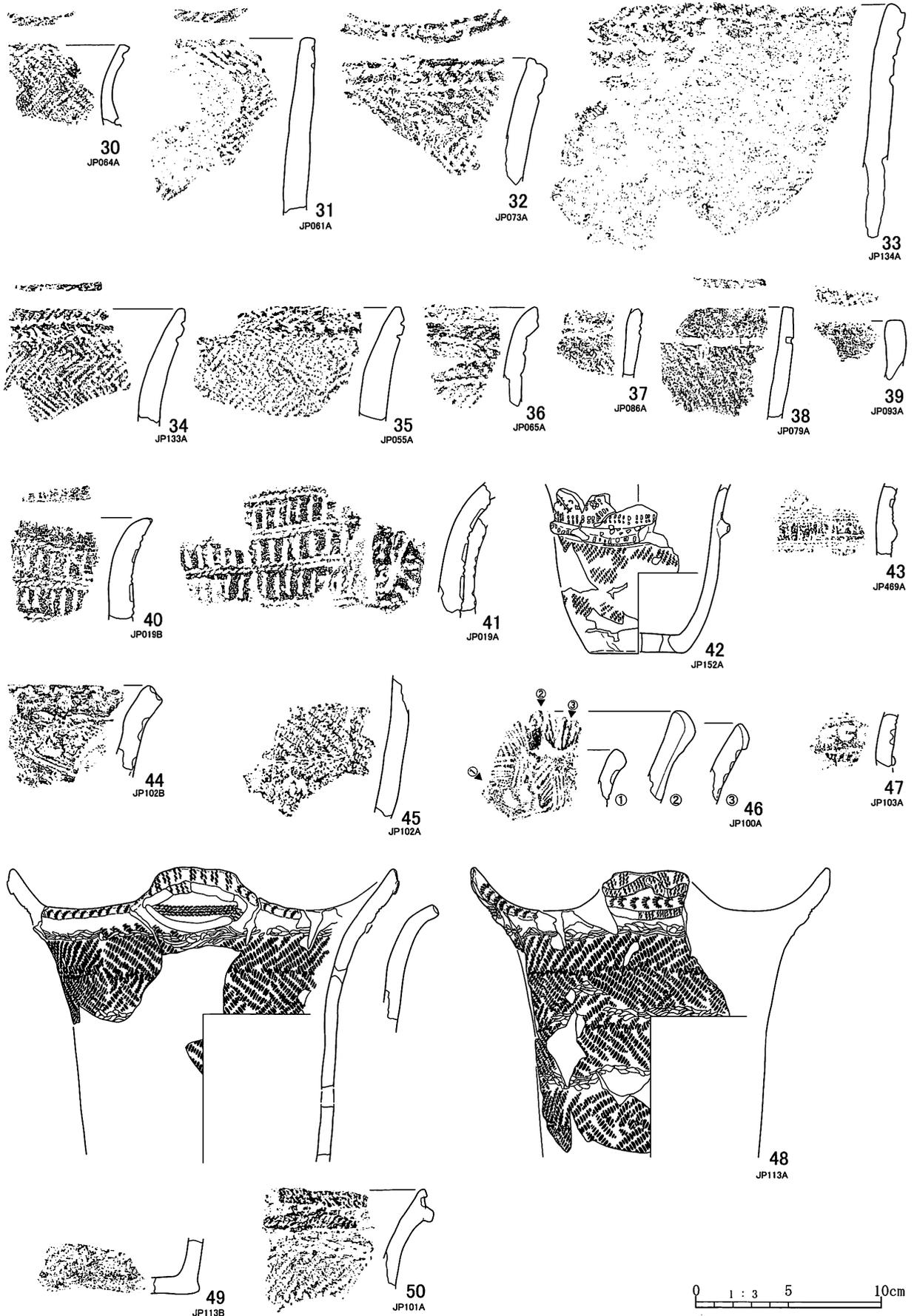
縄文時代中期末葉から後期前葉にかけての土器については、余市式初期段階の土器が複数個体出土しており、直前段階の北筒式からのほぼ連続的な変遷が追える可能性がある。天祐寺式土器や当該期に最も多く出土している富良野盆地系土器の出土も初期余市式の段階と思われる。しかし、本遺跡では後期前葉のタブコブ式土器において、オニキシベ5遺跡でまとまって出土した器表面が階段状となるタブコブ式土器がやや少なく、変遷過程における時期的なものか、集団間における差異によるものかは判断できない状況にある。

この様に多時期にわたって多様種類の土器が出土している状況は、厚真川本流と比較的大きな支流であるショロマ川との合流点に面した本遺跡の立地条件に起因している可能性がある。

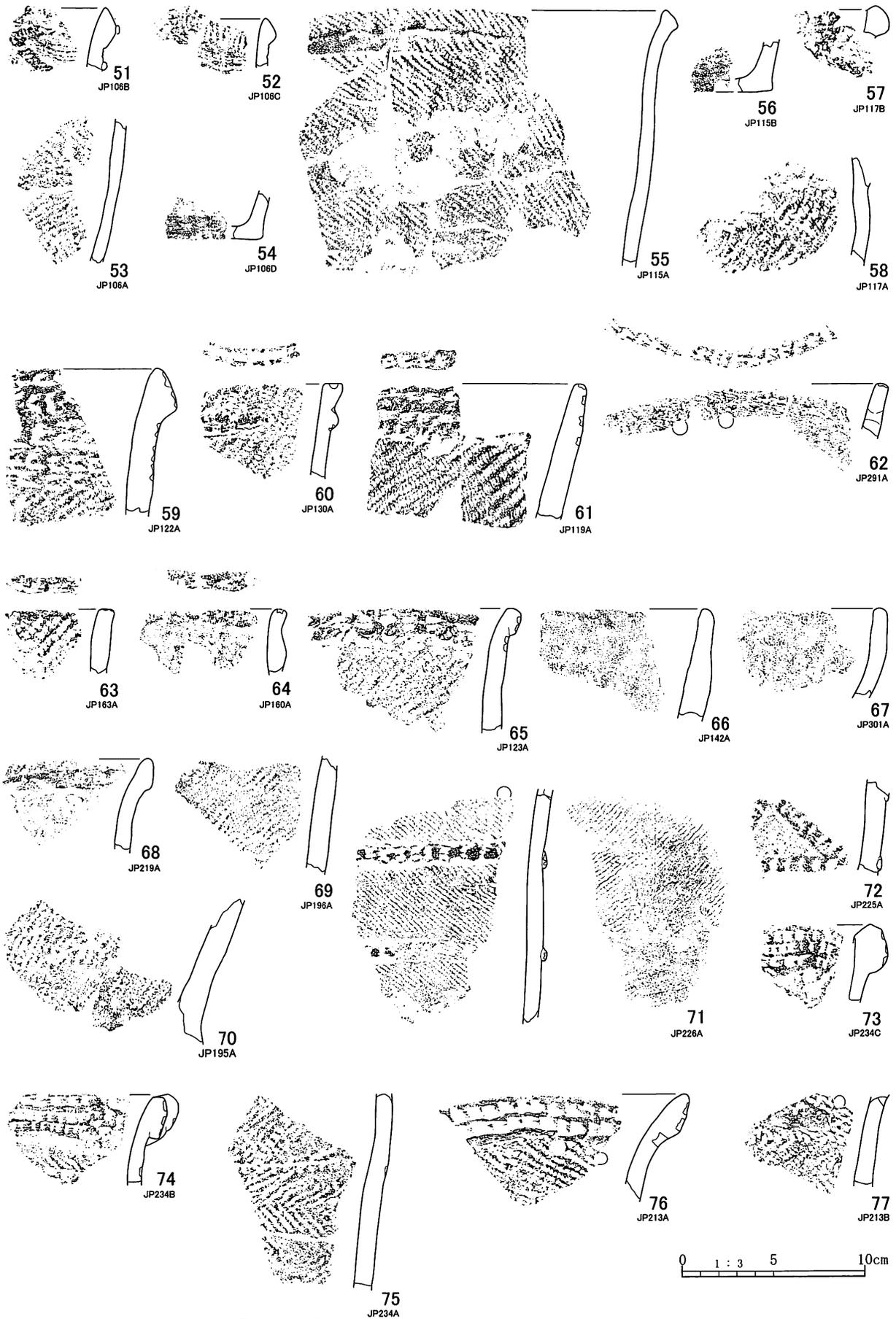
(乾)



図IV-115 縄文時代包含層出土土器(1)



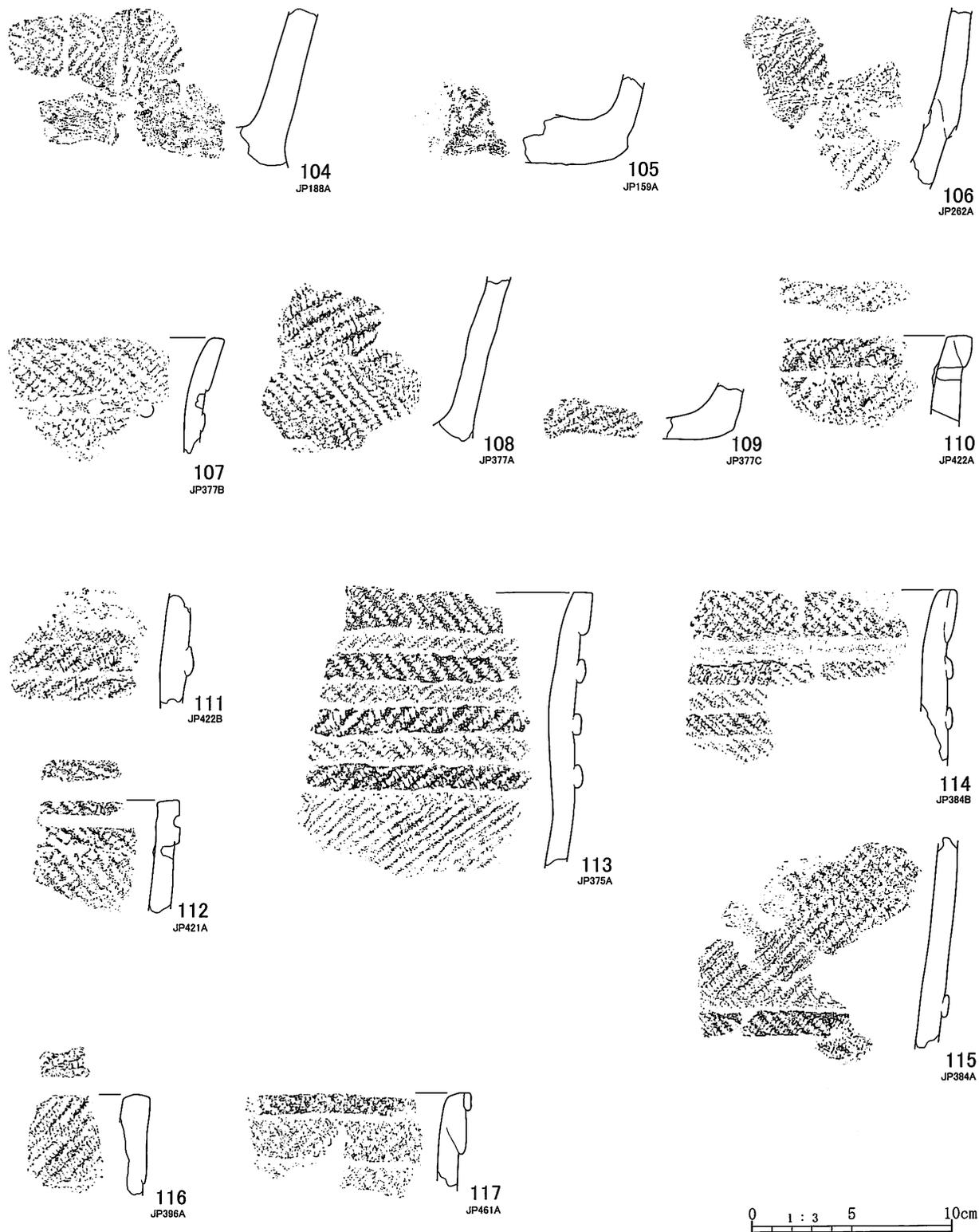
図IV-116 縄文時代包含層出土土器 (2)



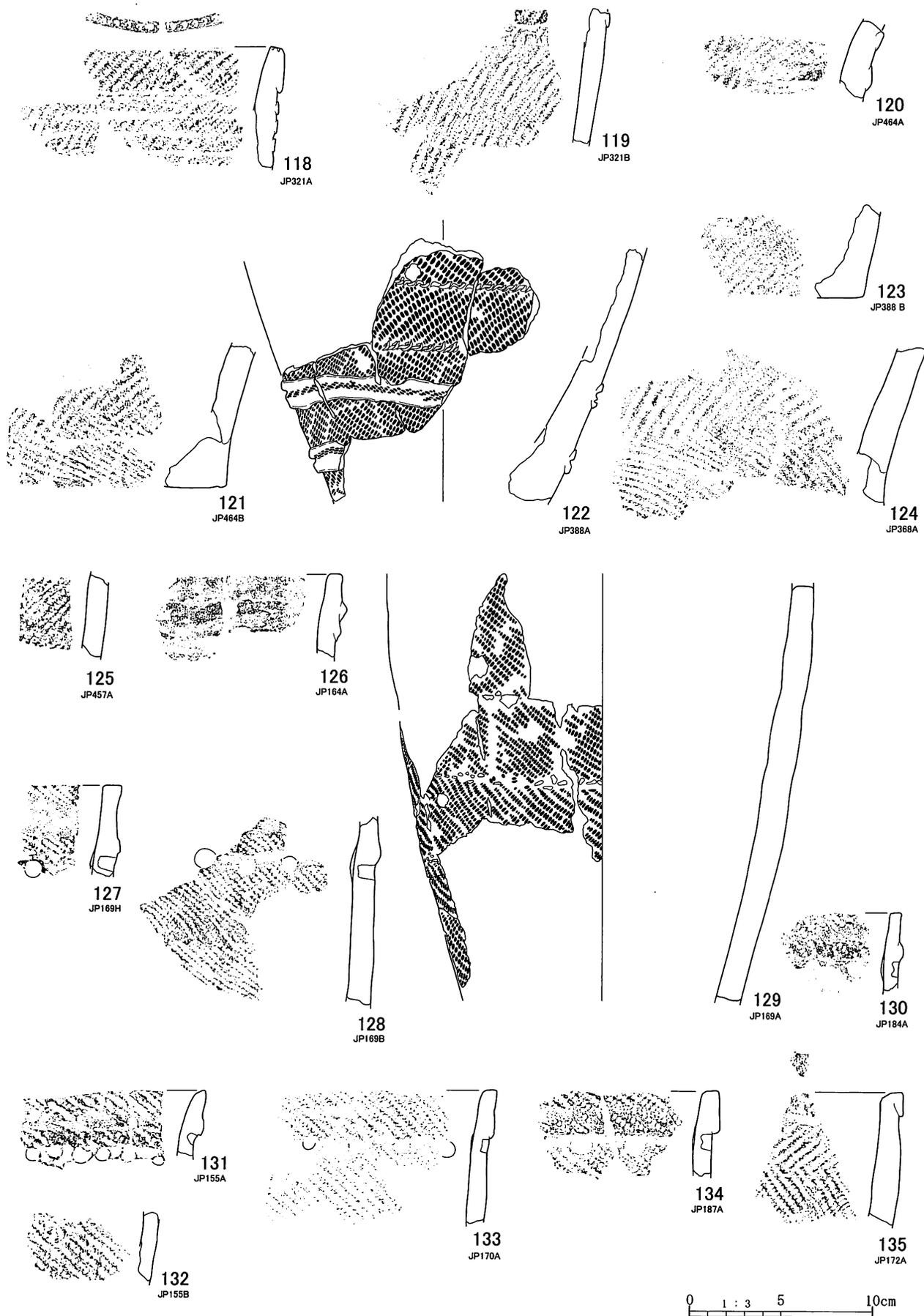
図IV-117 縄文時代包含層出土土器(3)



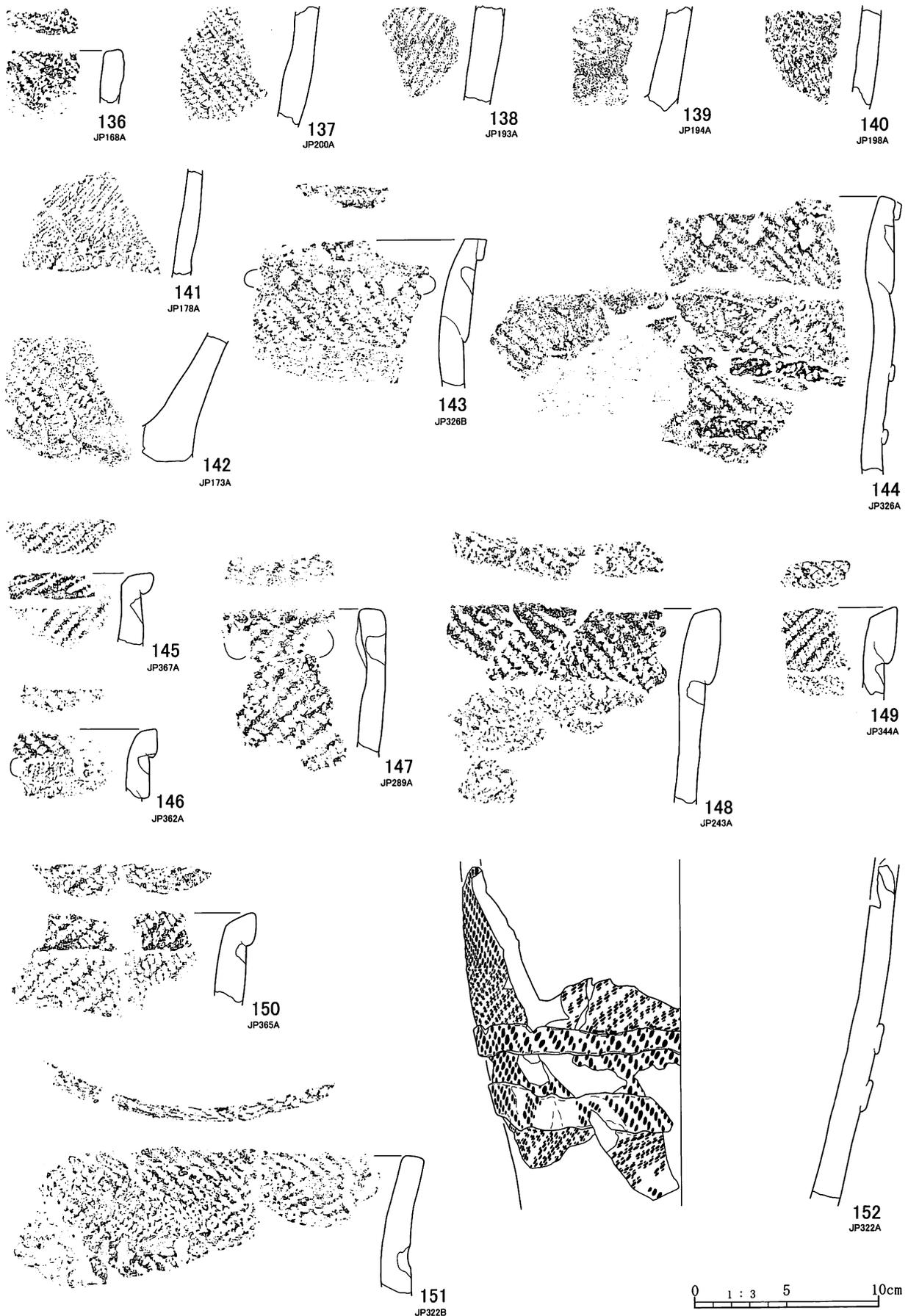
図IV-118 縄文時代包含層出土土器(4)



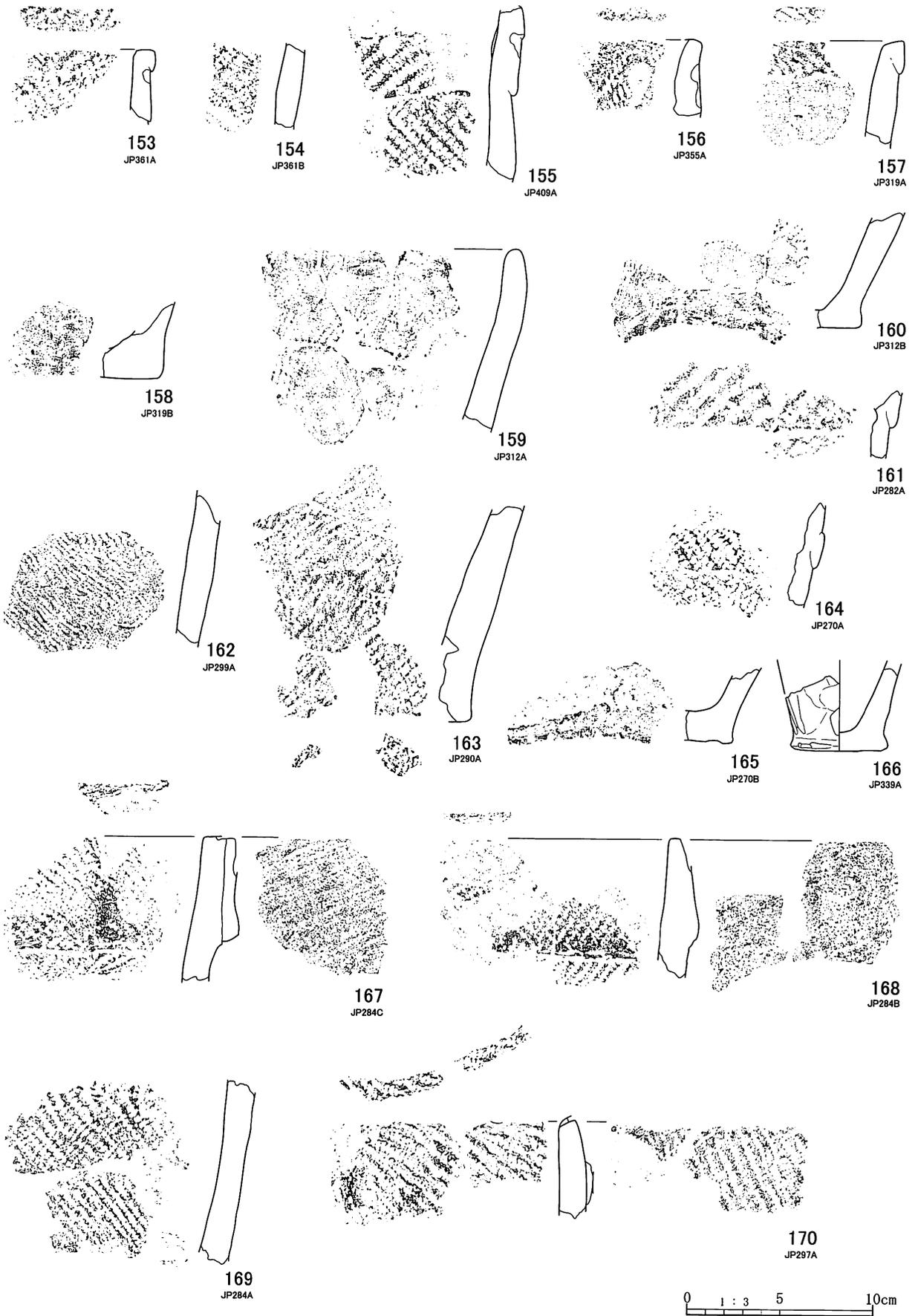
図IV-119 縄文時代包含層出土土器(5)



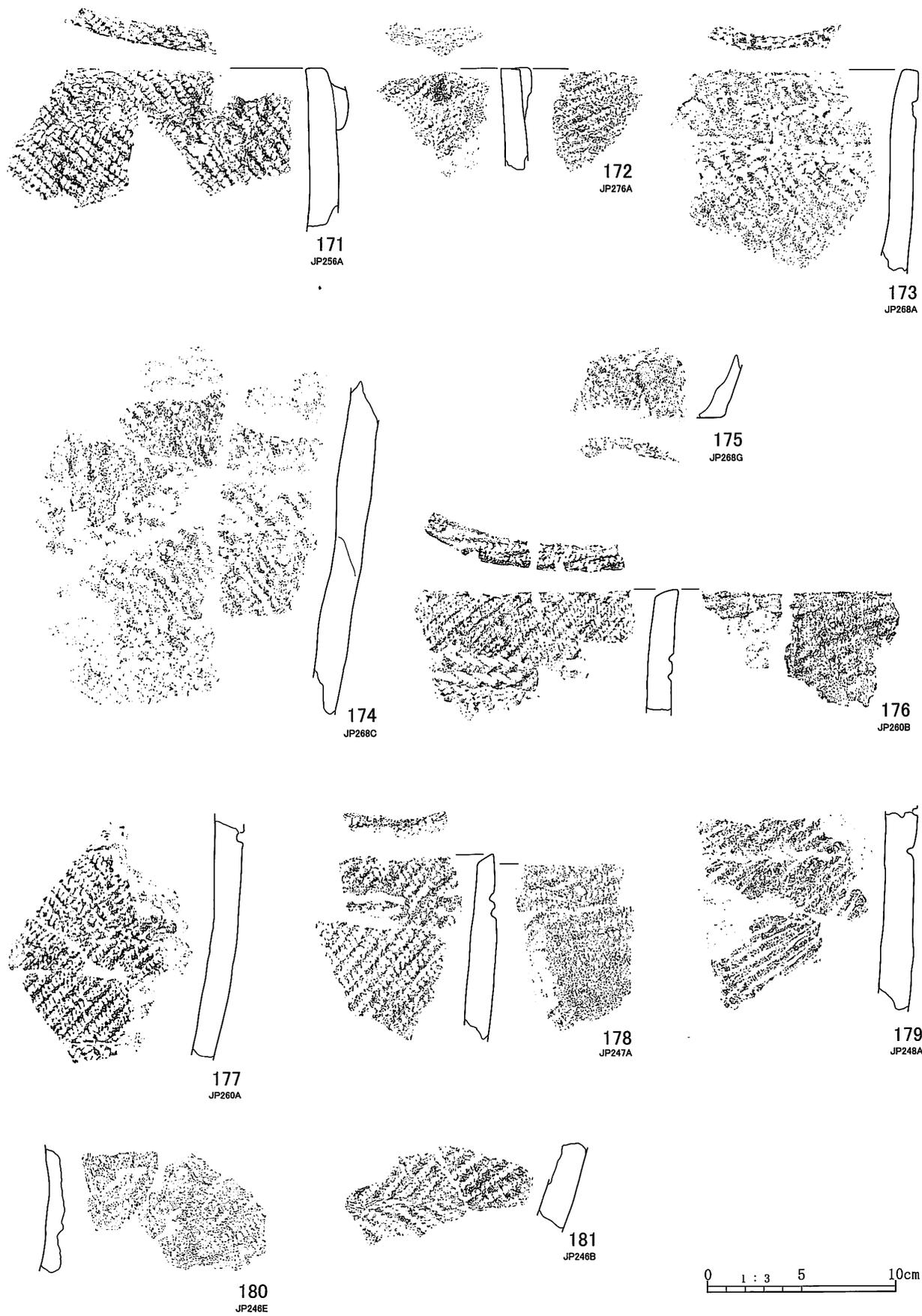
図IV-120 縄文時代包含層出土土器(6)



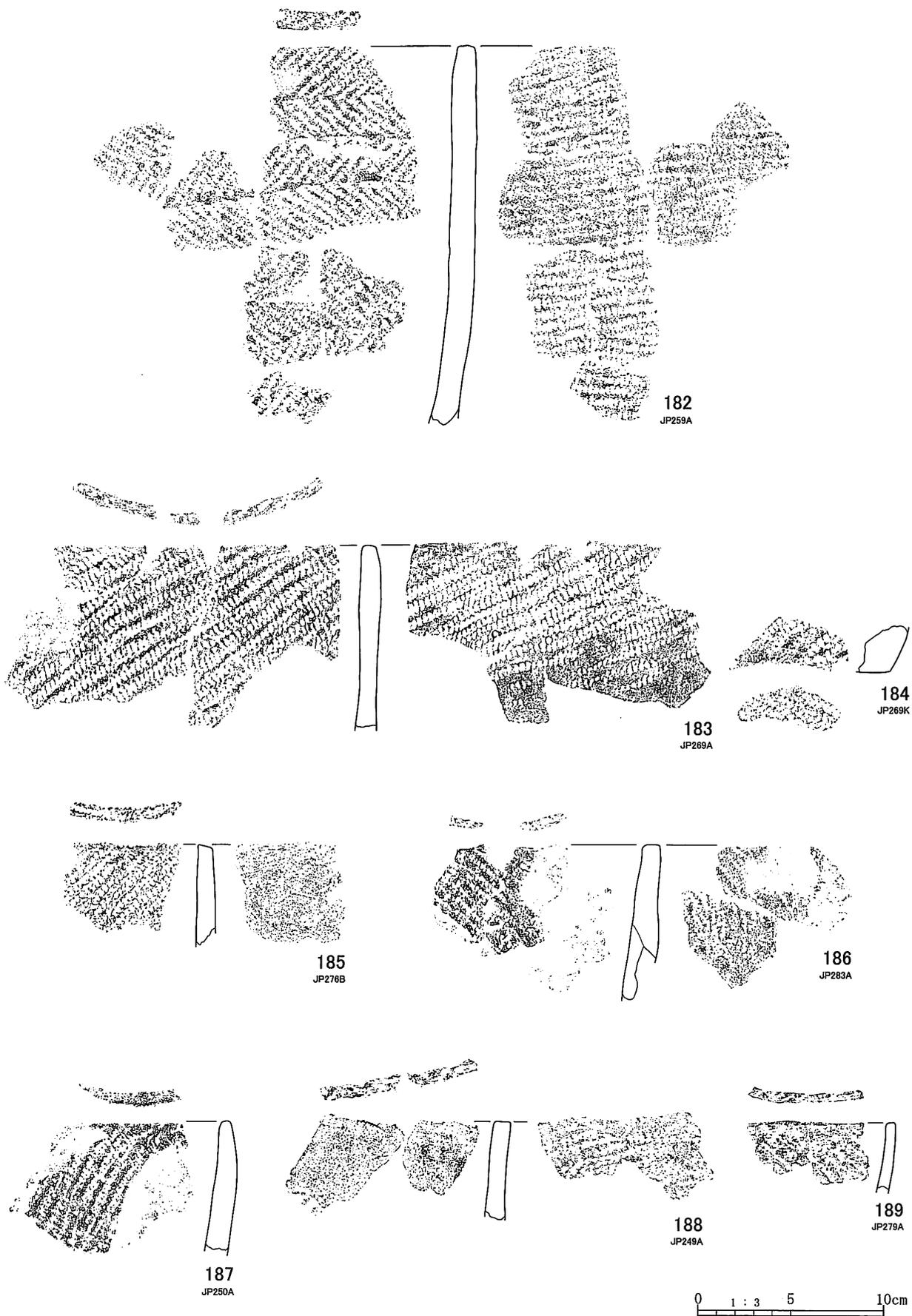
図IV-121 縄文時代包含層出土土器(7)



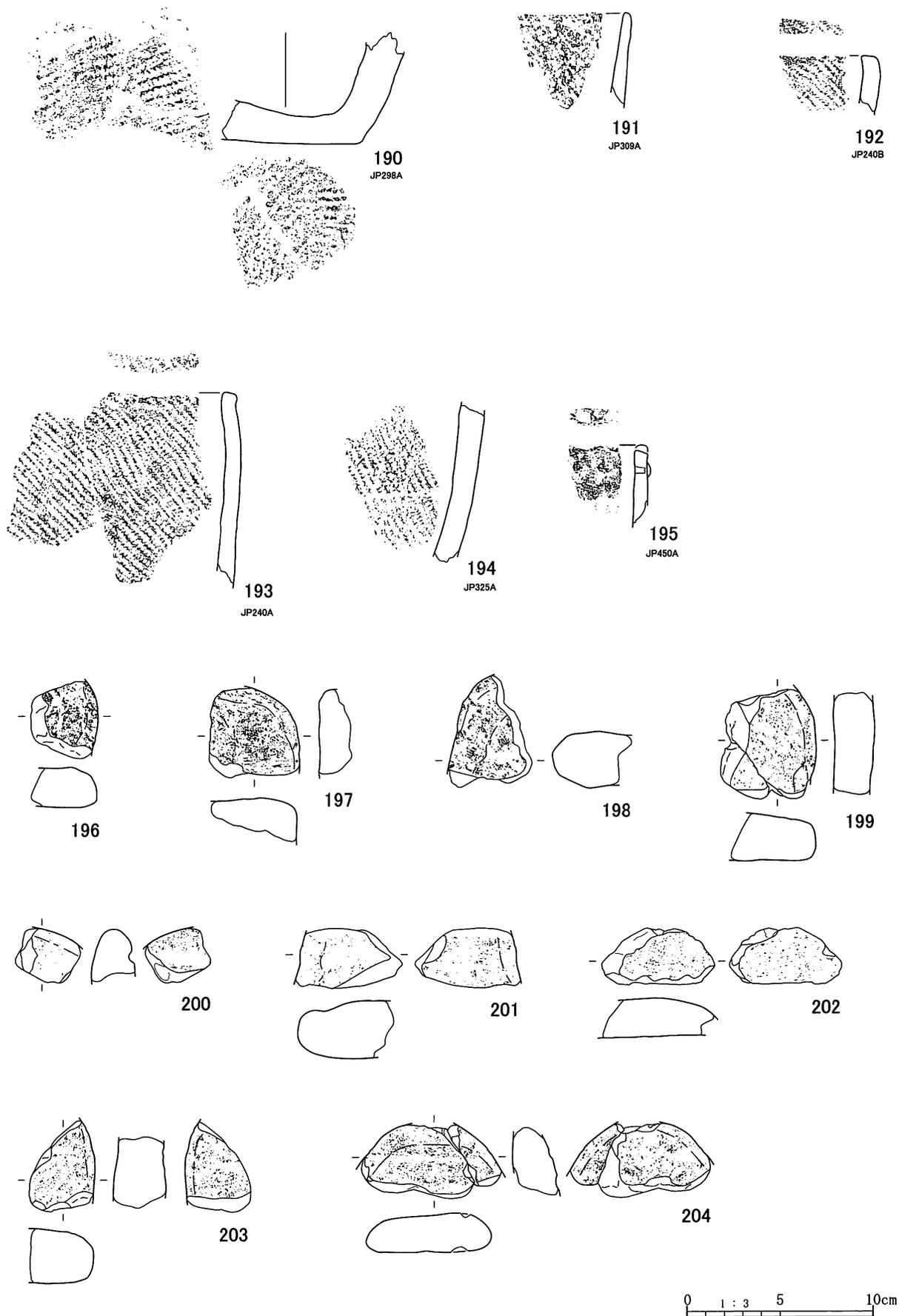
図IV-122 縄文時代包含層出土土器(8)



図IV-123 縄文時代包含層出土土器(9)



図IV-124 縄文時代包含層出土土器 (10)



図IV-125 縄文時代包含層出土土器(11)及び土製品

2. 剥片石器(図Ⅲ-126~130 図版 126~130)

包含層出土の剥片石器は1,292点出土し、そのうち132点を図示した。

ポイント類

石鏃(1~30)

石鏃は204点出土している。内訳はA1類4点、A2類24点、A3類69点、A4類41点である。その他に基部の欠損等により石鏃と判断できるものが66点である。

1・2はA1類で、1は五角形、2は柳葉形。錯交剥離によって1は平行四辺形に近い断面、2は凸レンズ状の断面をなす。3・4はA2a類。基部はわずかに内湾する。3は錯交剥離により整形され、先端部のみ両面からの微細調整が見られる。4は図示した裏面からの剥離によって整形されている。5はA2b類の中でも凹基のものである。右側縁には連続した剥離が見られるが、左側縁は鏃身部半ばより角度が急になり、剥離が右側縁に比べ大きい。6~8はA2b類で、基部が丸~尖状を呈する。6は表面の基部に並行剥離が一部見られ、側縁部はやや弧状を示す。7は表面が並行剥離によって中央に稜が作出され比較的精緻な作りである。8裏面が周縁のみの剥離調整で古い剥離面が残置する。9~24はA3類に分類される。9~11は茎部が尖るもので特にA3①類とした。12~16は茎部が比較的小型で入念な剥離が施されている。17・18は茎部が幅広でやや尖る。かえしを作出する抉りが認められる。21~24は他の石鏃に比して茎部が太く厚みがあり、形状としては石槍であるが長軸が4cmに満たないためA3類に分類した。いずれも茎部に対して鏃身部が短く、21は基部の剥離調整よりも新しい剥離が認められ、再加工と考えられる。ショロマ1遺跡の石鏃ではA3類が最も点数が多い。25~30はA4類である。25は棒状で先端付近の角度が異なり微細な剥離が見られる。26・27は紡錘形である。柳葉状に近いがやや短軸が長く剥離が不連続である。28~30は菱形で不揃いな剥離によって粗い器面調整がなされる。すべて黒曜石製である。

石槍(31~69)

ポイント類Bは430点出土している。石鏃の2倍以上の出土点数であり、包含層出土の剥片石器のうち31.5%を占める。すべて黒曜石製で内訳はB1a類105点、B1b類27点、B2類85点である。欠損等で細分できなかった石槍は195点で、未製品・欠損品としたC類が18点である。

31~51はB1a類である。うち、31は大型の石槍で尖頭部は錯交剥離、33・34は先端部付近に微細な剥離が認められ、再調整が施され、茎部は裏面からの剥離によって整形されている。同様に、32は尖頭部・茎部ともに錯交剥離、33は尖頭部・茎部ともに裏面からの剥離で整形されている。33の裏面には素材の大きな剥離面が残る。34は図正面、先端部は彫刻面作出状の剥離によって側縁部が作出されている。全体に被熱している。35は尖頭部錯交剥離・茎部裏面からの剥離、36は尖頭部・茎部ともに裏面からの剥離、37の尖頭部は両面から、茎部は裏面からの剥離によって整形されている。38は裏面にやや大きい球果を残し、尖頭部は裏面から、茎部は両面から剥離整形されている。39の尖頭部は錯交剥離、茎部は両面から、40は尖頭部・茎部ともに錯交剥離、41の尖頭部は錯交剥離、茎部は裏面からの剥離によって整形されている。42の尖頭部は裏面からの剥離、茎部は錯交剥離、43は尖頭部・茎部ともに錯交剥離によって整形され、43は先端部が被熱している。44の尖頭部は裏面から、茎部は正面からの剥離によって整形されている。45は尖頭部が錯交剥離、茎部が裏面からの剥離で整形されている。46は

尖頭部・茎部ともに正面からの剥離、47の尖頭部は両面からの剥離、茎部は錯交剥離、48は尖頭部・茎部ともに錯交剥離、49の尖頭部は両面からの剥離、茎部は裏面からの剥離、50の尖頭部は裏面から、茎部は正面からの剥離、51の尖頭部は正面から、茎部は裏面からの剥離によって整形されている。47は再調整された尖頭部である。46～51は尖頭部が茎部の半分以下の長さで、先端は一方からの剥離によってエンド・スクレイパー状に仕上げられており、石槍が使用によって尖頭部が短くなると「篋」として使われていたことが想定される。

52～57はB1b類に分類される、茎部が明瞭で茎端部が尖る石槍である。52は尖頭部・茎部ともに裏面からの剥離、53は尖頭部が錯交剥離、茎部が裏面からの剥離、54は尖頭部が錯交剥離、茎部が裏面からの剥離で整形されている。55は尖頭部が錯交剥離、茎部が裏面からの剥離、56・57は尖頭部・茎部ともに錯交剥離で整形されているが、56は同一方向から、57は尖頭部と茎部では方向を違えて加工されている。

58～67はB2類で尖頭部と茎部の境界が不明瞭なものである。58は尖頭部・茎部ともに裏面からの剥離、59は尖頭部が錯交剥離、茎部が正面からの剥離で整形されている。59は形態・加工方法とも図IV-126-7に近く、大きさが異なるのみである。61～63は菱形をなし、尖頭部・茎部ともに錯交剥離で整形されている。64～66は木葉形で、いずれも尖頭部は片面からの剥離、茎部は錯交剥離によって整形されている。67は尖頭部・茎部ともに片面から整形されている。

68・69はC類に分類される未成品で、68・69はパンチホールを残している。69は豊浦産の黒曜石であることを分析結果から得ている（第V章第5節参照）。

石錐（70～78）

石錐は27点出土している。C類が6点、D1類が8点、D2類が8点、E類が5点、材質は73のみチャート製で他は黒曜石製である。9点図示した。70はC類で、機能部の磨滅が著しく、器体の約3分の1まで磨滅が及ぶ。71～73はD1類で、71・72は小型で棒状を呈し、先端にプロペラ状の剥離が認められる。73は断面三角形の石錐である。錐部には錯交剥離が認められる。74・75はD2類で、一方の先端に錯交剥離が認められる。76・77はD2類で、端部に著しい磨滅が認められる。78はE類で、断面形が扁平で、左側縁に先端側から衝撃を受け欠損した痕跡があり、ポイント類からの転用品であると考えられる。また両端に著しい磨滅が認められる。

つまみ付きナイフ（79～102）

新ひだか町ショップ遺跡の分類（赤石1988）を参考とし、刃部に対する体部の角度で3種類、縦形（1）、中間型（2）、横型（3）に分け、そのうち2辺のもの（先端が尖る、a）、3片のもの（先端部が平坦に近い、b）、さらに左右の縁辺が同じ（直線的、①）、左側縁が長い（右曲り、②）、右側縁が長い（左曲り、③）に細分した。つまみ付きナイフに分類したが欠損品のはA5類とした。合計186点が出土しており、A1a類47点、A1b類6点、A2a類50点、A2b類1点、A3b類5点、A4類11点、A5類66点である。

79はA1a①類で頁岩製。先端部は器体長の約1/2まで剥離が器体中央まで及ぶ。80は珪質頁岩製でA1a②類である。つまみ部を除いて図正面にのみ剥離が施されている。右側縁の剥離は急峻である。81は頁岩製、A1a②類に含まれる。長軸11.2cmの大型。細長い両面調整石器を素材としている。82～89はA1a③類で82～84・86は頁岩製、85・87～89は黒曜石製、85・87を除き片面のみ剥離するタイプで、86は左側縁が磨滅している。また85の右側縁の剥離も急峻で

ある。90 は黒曜石製で A1b①類。つまみ部を除いて片面にのみエンド・スクレイパーの刃部に似た剥離を残す。91 はメノウ質頁岩製で A1b②類。つまみ部を除いて片面にのみ剥離を施すタイプであるが、90° より浅い角度である。92～99 は A2a②類。右側縁が急峻であることと先端部がつまみ部の中心線から左にずれていることから、右側縁の加工が進んだ結果中間型となったと考えられる。92 は頁岩製、93 はメノウ質頁岩製、94～99 は黒曜石製で、93～95、97～99 は左側縁が磨滅している。100 は黒曜石製で A3b③類。片面のみ調整を施すタイプである。101・102 は A4 類でどちらも縦長の素材につまみを作出している。粗製で剥離も周辺部のみである。

スクレイパー類 (103～119)

計 163 点が出土している。B1 類が 9 点、B2 類が 27 点、C1 類が 90 点、C2 類が 25 点、C3 類が 1 点、D 類が 11 点である。

103 は B1 類である。周縁に刃部が作出されているが、上端に正面からの剥離痕が残り、細かな刃こぼれが見られることから、ラウンド・スクレイパーの一部にコンケイブ・スクレイパーの機能を持たせたものと思われる。104 は B2 類で、大きさが 103 とほぼ同じで、刃部も急峻であるが上端に転礫面を残しているエンド・スクレイパーである。105～107 は B2 類。107 は長軸 7.4cm のエンド・スクレイパーで、大型の剥片のポジティブバルブの末端部を利用している。側縁にも刃こぼれが認められる。108～113 は C1 類で、左右の縁辺に刃部を持つ。裏面には素材の主剥離面を残す。110 は頁岩製で全周剥離がおよび、右側縁の剥離は左側縁より急峻である。108・109・111～113 は黒曜石製。114～119 は C2 類で、114・118 が右側縁、115・116 が左側縁、117・119 が両側縁を刃部としている。118 が頁岩製、114～117・119 は黒曜石製である。

両面調整石器 (120～124)

両面調整石器は 23 点出土している。5 点図示した。すべて黒曜石製である。形状は木葉形である。粗い剥離で整形され、縁辺には微細な剥離痕が残される。横断面形は凸レンズ状を呈する。120・123 には岩屑面が残る。123 は裏面に主剥離面が残る剥片を素材としている。124 は先端および左側縁中央部に一部磨滅痕が認められる。

RF・UF (125)

RF・UF は 241 点出土している。特徴的な 1 点 (125) を図示した。125 は黒曜石製である。縦長剥片の左右両側縁に使用痕が認められる。

ピエス・エスキーユ (126・127)

3 点出土している。126・127 はともに黒曜石製で、127 は両端に微細剥離がわずかに残る。

石核 (128～131)

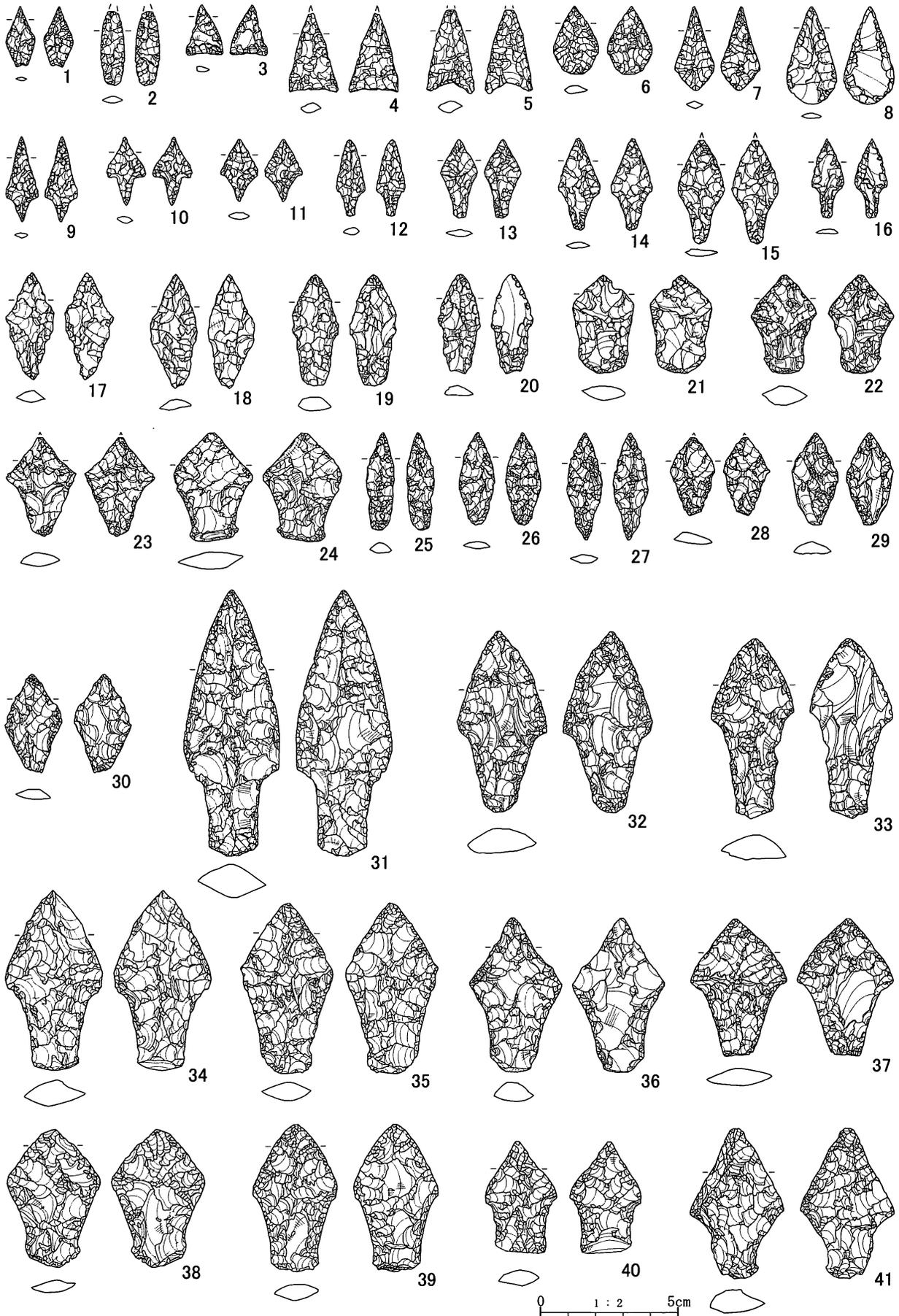
石核は 15 点出土している。3 点図示した。128 は縦長の石核で打面は礫面で打面調整は見られない。129 は下面に岩屑面を持つ石核で被熱している。3 面から剥片剥離が行われている。

130 は 2 面から剥片剥離が行われており、図正面の最終剥離は下方から行われている。図上面と裏面に岩屑面を持つ。131 も同様に 3 面から剥片剥離が行われている。上面の大きな剥離面は図正面の打面として利用されている。

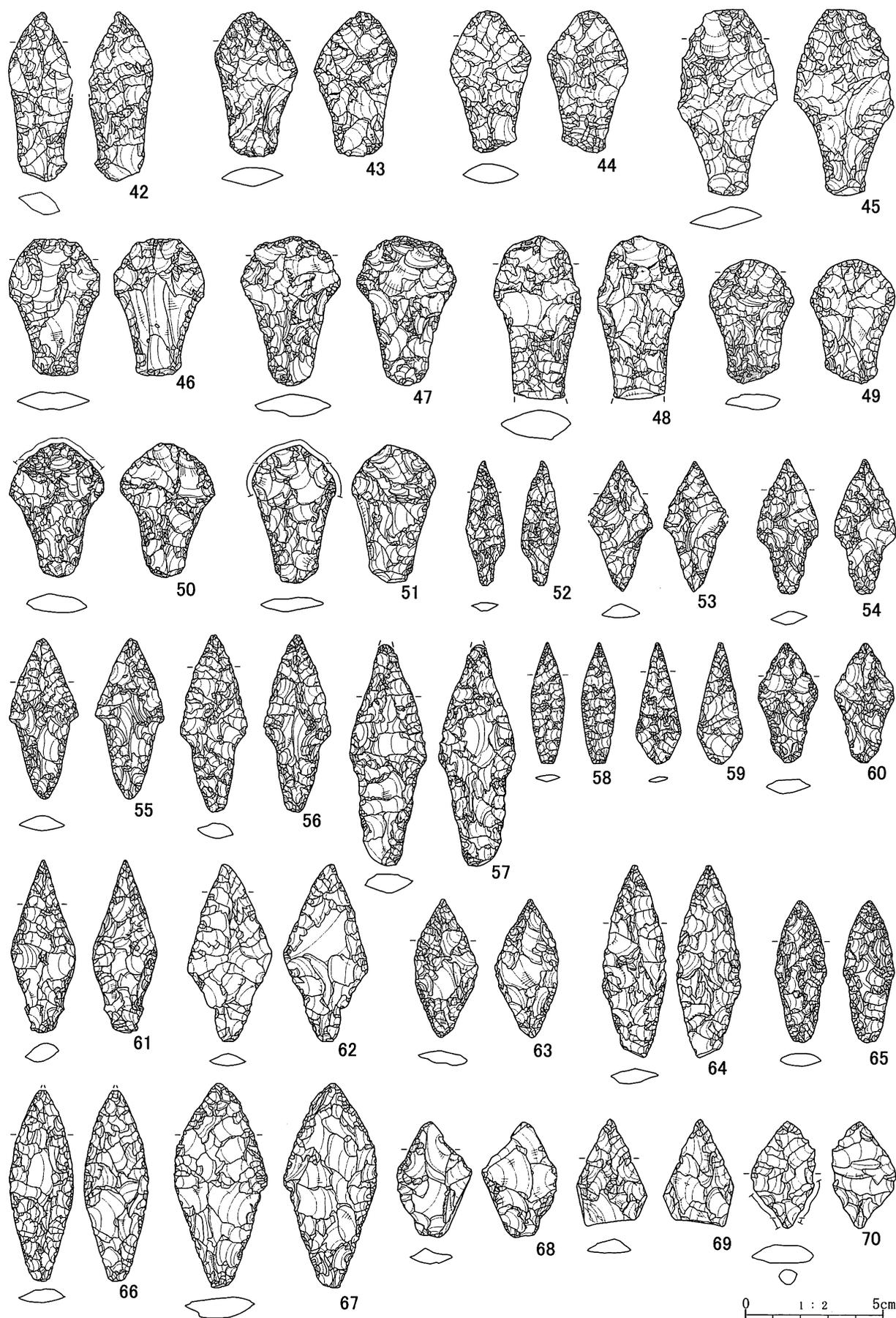
異形石器 (132)

1 点出土している。片面のみの加工で上端は素材の剥片の側縁に一部細かな剥離を加えただけである。

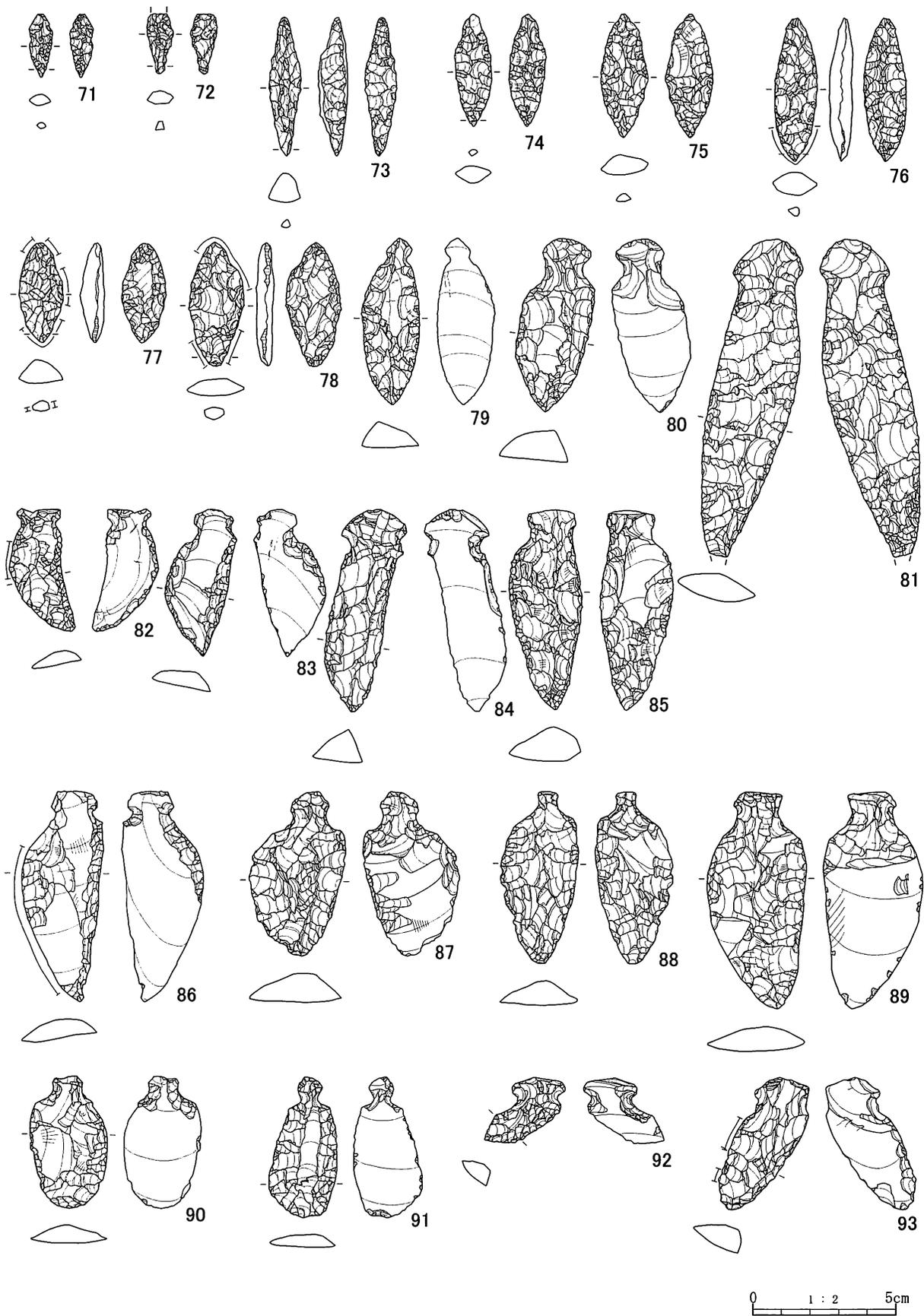
(服部・宮塚)



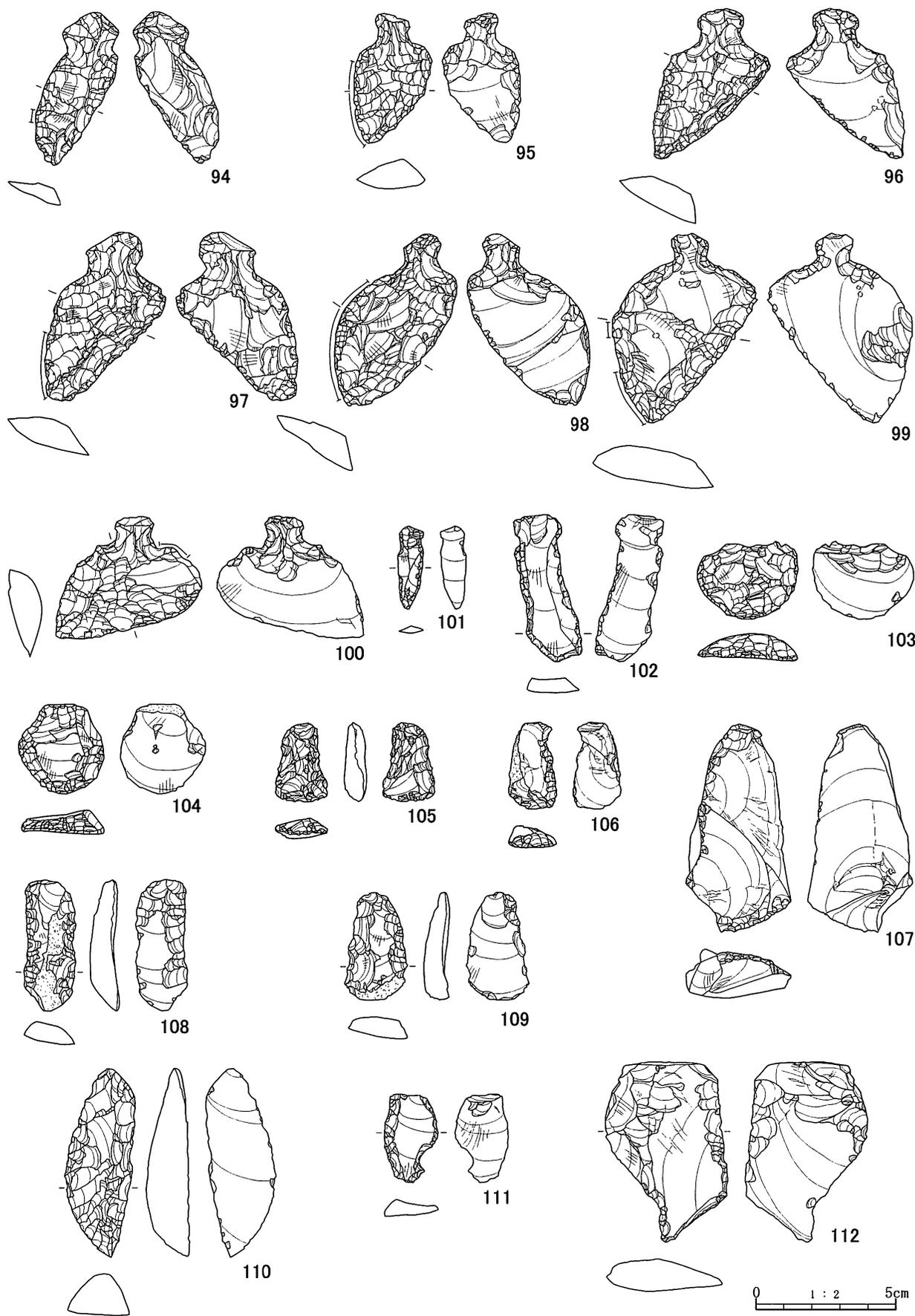
図IV-126 縄文時代包含層出土剥片石器(1)



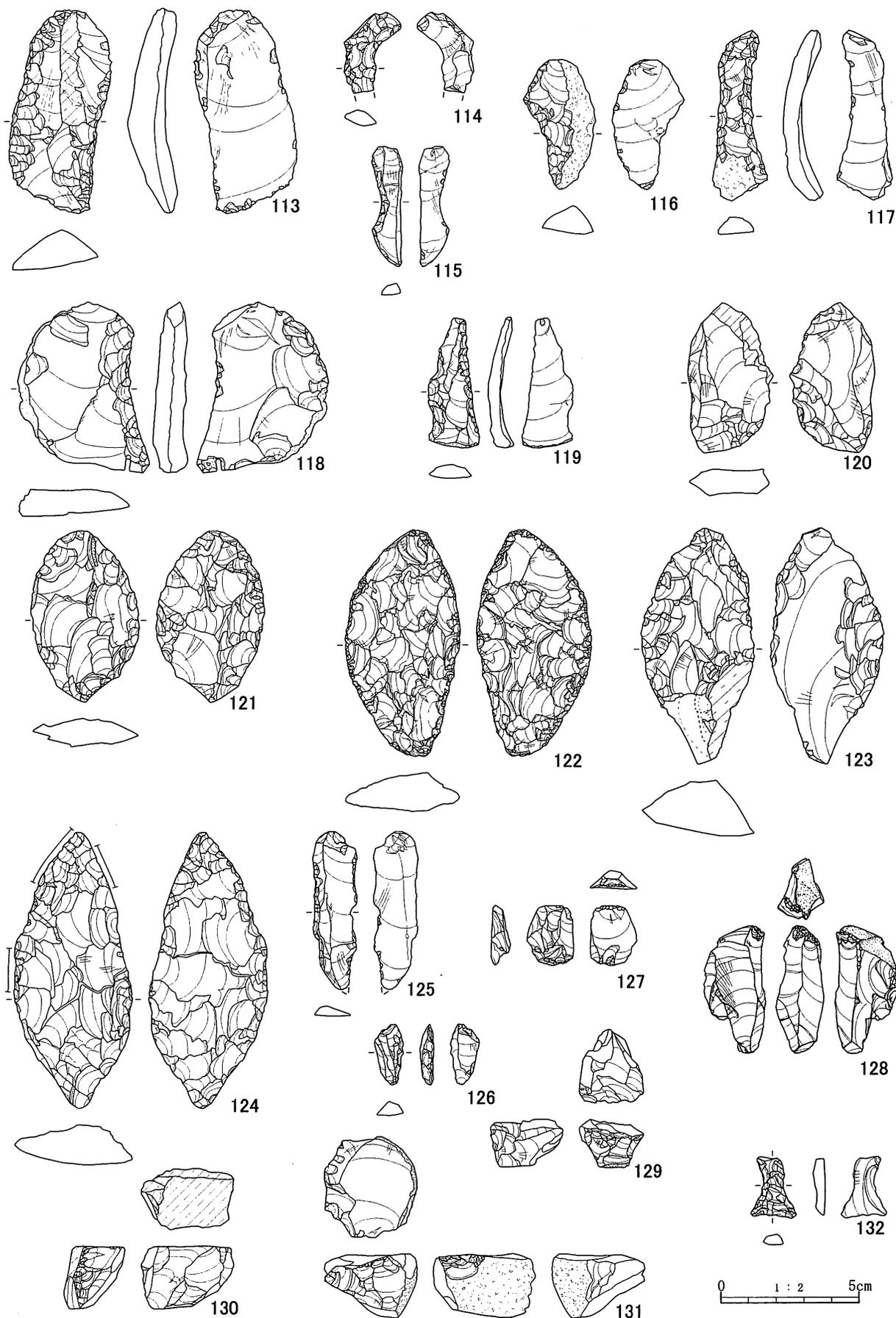
図IV-127 縄文時代包含層出土剥片石器(2)



図IV-128 縄文時代包含層出土剥片石器(3)



図IV-129 縄文時代包含層出土剥片石器(4)



図IV-130 縄文時代包含層出土剥片石器 (5)

4. 礫石器(図IV-131~145 図版 129~134)

25年度の調査で、礫石器は破片を含めて1,271点が出土し、内訳は石斧が447点、たたき石が414点、すり石129点、石鋸11点、砥石が78点、石錘1点、滑沢面のある礫が10点、石皿64点、台石が65点、加工痕のある礫が39点、線条痕のある礫が13点である。そのうち99点をここで図示した。(宮崎)

石斧(1~8)

全体では石斧完成品(破片含む)は324点、石斧未成品は123点、計447点出土している。24点を図示した。平面形を撥形、短冊形に分類し、両刃か片刃かで細分している。その他に丸のみ形石斧、剥片を素材とした石斧がある。1・2・4・7・8は緑色泥岩製、3・5・6は青色片岩製の石斧である。1は基部が欠損した撥形の石斧で、刃部は片刃となる。横断面形はカマボコ形である。裏面右側には擦切技法による溝が残る。刃部先端は丸みを帯びており、使用によるものと思われる。2は撥形で両刃となる。刃部付近にはわずかに稜が残る。裏面の一部と基部に原礫面が残る。3は短冊形で片刃となる。裏面には素材の面が残り、基部付近には整形時の剥離調整が残る。刃部先端は丸みを帯びており、使用によるものと思われる。4は2点が接合したもので、本遺跡の中では大形のものである。側縁稜には整形時の剥離や敲打による調整痕が残る。基部や裏面の中央部には原礫面が残る。5・6はいわゆる丸のみ形石斧である。細身で中央部に最大幅をもつ。長短比が1:5.2となり森秀之氏の分類では1群a類となる(森1990)。断面形では表面が平ら、裏面が丸みをもつ。刃部の抉りは長軸に正中し、明瞭な稜が見られる。6は基部を欠くもので、現存の長短比は1:5.4となり森氏の1群b類に近い。横断面形では表面が平ら、裏面には稜があり逆三角形となり不安定である。刃部の抉りは長軸に左傾する。また刃部からの見通しでは基部側とのねじれがある。5・6ともに刃部付近の刃こぼれや磨耗は見られない。当町内における丸のみ形石斧の出土例は、上幌内モイ遺跡で片岩製2点、オニキシベ5遺跡で緑色泥岩製1点、ヲチャラセナイ遺跡で青色片岩製1点(厚真町2006・2013b・2014b)、厚真7遺跡と厚真12遺跡で緑色泥岩製が各1点(苫小牧市埋蔵文化財調査センター1987・1990)、合計6点が知られている。7は石斧製作時の削片が素材となる。表裏面は部分的に磨かれている。下部には微細な剥離が残る。8は基部が欠損した両刃の石斧である。裏面の敲打調整中に欠損したものと思われる。刃部先端はわずかに擦られている。(松井)

石斧未成品(9~24)

未成品の分類は調整の種類に基づいて行った(第I章第4節参照)。10~14はB1で剥離が主体となるもの、15~17はB2で剥離・敲打の両方が行われるもの。19~23はB3で擦切技法が見られる。9~10・12・14~24は緑色泥岩製、11は緑色片岩製、13は変形砂岩製である。

9は2点が接合したもので、棒状礫が素材となる。側縁に剥離と敲打を行った後、研磨を行っている。敲打の過程で折れたものと思われる。素材は原礫面が残る礫片(10)、表裏面に節理面を残す礫片(11)、剥片(12・13)、表裏面に原礫面が残る棒状礫(14)である。側縁に剥離をした後、12は表面の稜や側縁が部分的に磨かれ、13は剥離後に敲打が行われる。14は2点が接合している。側縁稜に、部分的に敲打を行う欠損後、破断面に剥離が行われている。15は小形の棒状礫を素材としている。剥離後、稜に敲打を行い、下半部先端の形態は片刃に近い。16は

上下が欠損したものである。剥離、敲打、研磨を繰り返す過程で欠損しており、その後破断面にも調整を行っている。裏面には原礫面が残る。17は上半部が欠損しているもので、一度剥離、敲打、研磨を行った後、再度調整を行う過程で欠損したと思われる。下半部先端の形態は片刃に近い。18は原石を調整する過程で発生した礫片である。表面には擦痕を切る剥離が残る。19・20は擦切技法の準備段階の資料である。19は板状礫を素材とする。側縁と上部は剥離と敲打によって整形されている。表裏面中央部は敲打によって溝状の窪みが作出され、表面は一部研磨が行われている。20は側縁が剥離と敲打により整形された後、表裏面には擦切による湾曲した溝が形成されている。溝の内側には敲打痕が複数見られる。21・22は分割時に折れたものと思われる。22は欠損の破断面に剥離調整が行われている。23は分割後に側縁に調整が行われている。24は石斧片の側縁に微細剥離が行われ、側縁稜はわずかに擦られている。(松井) たたき石(25～68)

素材礫の形状と敲打痕の位置で細分を行っている。25・26はIA1類で、縦長扁平礫の平坦面に敲打痕があるもの。26は裏面が欠損している。27はIA2類で右側縁に敲打痕が、左側縁には敲打に伴って連続した剥離痕がある。28～32はIA3類で、平坦面と側縁、あるいは端部に敲打痕があるもの。28・30・31は表裏面に2カ所に敲打痕があり、28・31は下端部に、30は左側縁に敲打痕がある。29・32は表面に2カ所の敲打痕が、裏面には長軸方向に連続した敲打痕があり、端部には剥離と敲打痕がある。33・34はIB1類で角柱状素材の礫両面に敲打痕があるもの。33は敲打が浅く疎らであることから使用頻度が低いと考えられる。35はIB2類で礫の両端部に敲打痕とそれに伴う剥離があり、上端は顕著である。36～48はIB3に分類したもの。縦長・棒状または角柱礫の平坦面と側縁、端部に敲打痕を有するものである。39・41は両側縁の長軸方向にも連続した敲打痕があり、特に41は両面の敲打痕が顕著で、裏面はほぼ全面に及んでいる。敲打痕は基本的に長軸方向と平行に認められ、円形～楕円形の使用痕があるもの(36～43・45～48)であるが、なかには直行する刻線状のもの(44)もある。また敲打単位については、複数の単位を持つもの(36～38・40・43・46・48)と直線上に敲打が認められるものがある。49・50はIIA2類で方形の扁平礫の側縁稜と端部に敲打痕があるものである。51～54はIIA3類。51は幅広で扁平な礫の表面と両端部、側縁に密な剥離と敲打痕がある。52～54は礫の表裏面平坦面に密集した敲打痕がある。54は下端部に大きな剥離が認められ端部の使用頻度が高く折損した後破断面を再調整している。55～58はIIB2類のもの。55は上下端部に密な敲打痕があり、表面と裏面に複数の単位で擦痕がある。56は端部から側縁稜に沿って密な敲打痕と連続した剥離痕がある。58は側縁と端部を主に使用しており、他のたたき石とはやや異なる。59～64はIIB3類に分類したもので、方形または不整形の礫の平坦面と側縁稜、あるいは端部に敲打痕があるもの。61は長軸241mm、重さ2,380gの大型礫であるが端部に敲打痕があるため、たたき石として分類した。65・66は平面形が円形または楕円形の扁平礫を利用したもの。共に側縁に敲打痕があり、66は表面の中心にも敲打痕があり、窪みが顕著である。67・68はIIIB類で、67は側縁の1カ所に集中した敲打痕と剥離痕がある。68は円礫の上下端部を中心に密な敲打痕と剥離痕があり上端はやや尖状となる。長軸端部が潰れていないため対象物に対し、斜位に使用したためと思われる。石材は35が泥岩製、41が礫岩製、50・55・56・58・63が玄武岩製、67が花崗岩製、それ以外はすべて砂岩製である。(宮崎)

すり石(69~90)

69はC類で、扁平礫の下側縁と右側縁に擦り面と剥離痕がある。擦り面が多面で稜を形成し尖状を呈していることから石鋸に含めていない。石材は砂岩製である。70~81はD類の北海道式石冠である。頂部形態から大きく丸状、尖状、扁平の3つに分類し、使用面が形成されていないものを未成品とした。70~74はほぼ全面を敲打調整した頂部が丸いタイプのものである。72は擦り面が大きく欠損している。赤色顔料が付着後に欠損したと思われる。73は擦り面が側面に及ぶほど使用しており片減りが著しい。74はミニチュアの欠損品であるが、擦り面が形成されている。75・76は頂部が尖ったタイプである。75の擦り面はやや片減りしている。一端が欠損により左右非対称となるが、その後も敲打調整を行っている。76は正面から右側縁にかけて大きく剥離調整痕が残り、その後の敲打調整が認められる。77・78は把握部をベルト状に敲打調整を行ったもので素材面が残る。79は頂部が扁平のものである。表面に連続した剥離調整痕が残っている。80・81は未成品である。80は扁平礫を利用し長軸方向の敲打でベルト状の把握部を作出している製作途中の資料と思われる。81は半割した円礫を素材としており、擦り面にあたる部分と側縁から頂部にかけて剥離と敲打調整を行っている。72が緑色泥岩製、73がドレライト製、それ以外は砂岩製である。82~84はE類に分類したもの。82は石斧を転用したもので、刃部が欠損した石斧の基部端部をたたき石・すり石として使用している。浅い敲打痕と擦痕が重複し、敲打痕が古い。83はたたき石からの転用品である。平坦部と端部に密集した敲打痕が残るたたき石の破断面に敲打痕を切る擦痕がある。84は未成品の石冠片を再利用したと思われるもの、破損した側縁部分の破断面に敲打痕後の擦り面が認められる。85~90はF類の擦りと敲きを併用したものである。ヲチャラセナイ遺跡で多数出土した特徴的なタイプのすり石で、シヨロマ1遺跡でも47点出土しており、ヲチャラセナイ遺跡との同時期性を示す上で根拠の一つにもなる。このF類とした資料は多面体のすり面に敲打痕が各面及び端部に認められるものが多い。85・86は幅と厚さがほぼ同じでサイコロ状を呈する。85は各面の中央に敲打が認められる。86は不整形な立方体状で敲打・擦り面は疎らである。87・89・90は厚手の亜角礫を素材として全面に敲打と擦り面が認められる。88は厚手の楕円形礫を素材として表面と下端に敲打が集中する。自然面が残る範囲が多く素材形状と合わせて他の資料と異なる。このF類については敲打が礫中心部に集中しているが、礫石器の形態はすり面によって多面体を形成しているから本群に分類した。石材は82・90が斑れい岩製、86・87が玄武岩製、88が緑色泥岩製、89が砂岩製である。(宮崎)

砥石(91)

91は角柱状の礫を素材として3面を使用したもので、各面には複数の単位の擦痕がみられ浅く窪む。側縁稜には擦痕を切る連続した剥離が残る。砂岩製である。(宮崎)

石 鋸 (92~94)

92 は板状礫の一側縁を使用したもの。93 は扁平礫を素材として三角形状の平面形となっている。側縁全周に使用部が認められる。擦痕は全て長軸方向に認められ、下側縁は素材形状の影響でわずかな凸部分があり、それを境に左右に擦痕が形成されている。裏面左側縁には刃部形成時の成形剥離痕が残っている。断面形状は下側縁のみ「V」字形となり他の2面はU字形となる。平坦面に擦痕が見られることから砥石を転用したと思われる。94 は扁平礫の上下側縁を使用したもので、刃部の断面はU字形である。すべて砂岩製である。(宮崎)

石 錘 (95)

本遺跡では出土した石錘は図示した1点のみの出土である。95 は角閃岩製の石錘。扁平な楕円礫を素材として長軸方向の両端を打ち欠き、対向する抉れを作出している。裏面に大きな剥離が認められる。(宮崎)

滑沢面のある礫 (96)

96 は扁平な方形礫の表面にわずかな光沢面が認められ、礫全面に及んでいない。他の自然面と異なり、礫表面の砂粒の凹凸もなく、砂岩を構成する砂粒も平坦面を形成しするため、滑らかな手触りとなる。砂岩製である。(宮崎)

石 皿 (97・98)

97 は素材礫の長軸が43cmを測る大型の石皿である。長軸方向に長い擦痕が残る。98 は方形の礫の両面を使用しているが石皿使用面の中央部から欠損している。表面は礫の中心に浅く窪む使用面があり、その中の5ヵ所に用途不明の深い孔が認められる。使用面を廻るように敲打痕が残る。裏面は中心付近に緩やかに窪む擦痕あり、その周囲から平坦面に浅い敲打痕が広がっている。破断面から端部にかけて連続した剥離があることから、欠損後再調整した可能性もある。砂岩製。(宮崎)

台 石 (99)

99 は不整形で扁平状の礫を素材とし、両面に密集した深い敲打痕がある。石皿の使用面の形成段階の可能性もある。砂岩製。(宮崎)

4. 石製品 (図IV-144 図版 134)

石製品・垂飾品 (100~114) 今年度、ショロマ1遺跡では垂飾と思われる石製品の他に、多面の研磨面をもつ砂岩製の資料が31点出土した。これらは形態に多少の違いはあるものの、①長軸が9cm以下である、②長短比率が2.0前後、③素材礫の原形をとどめていないなどの共通点が見られ、何らかの意図をもって製作されたものと考えられる。これと同様の資料が厚真町内ではオニキシベ5遺跡で2点、ヲチャラセナイ遺跡から1点出土しており、いずれもすり石として報告している。同様の資料は、恵庭市、千歳市、苫小牧市の遺跡からも出土しており、本遺跡では石製品として報告する。100~107は多面体の擦り面が形成され、敲打と剥離で調整した後、研磨成形している。100は礫の中央から両先端への擦痕があり紡錘形を呈する。101・104は平面形が台形状を呈し平坦面の一面にだけ擦痕が見られない。102は各面を長軸方向で擦っており側縁稜は明瞭であるが、欠損している。103は平面形が縦長の六角形を呈し、両平坦面には敲打痕が残る。105は鳥の嘴状を呈したもの。中心付近は長軸方向に丸みを持って擦っているが、先端に向かうにつれて擦りの単位が小さくなり、意図的に尖らせたものと考えられる。下部が欠損している。106・107は擦りの単位が細かく全体的に丸みを帯び、両端は尖っている。108~113は垂飾である。108は方形を呈し全面を研磨しているが、粗い研磨痕が残り光沢等もほとんど見られないことから未成品と考えられる。109は下部を欠損したもので、上面に未貫通の穿孔がある。破断面には一部穿孔が残り、穿孔面には回転による線条痕はなく、再加工した痕跡が残っている。器表面は全体的に光沢が良く、丸味を帯びていることから完成品が損壊したものと思われる。110は楕円形の薄型のもので、全面を研磨しているが、両先端部に剥離調整痕が残っている。111は半円形を呈した完形品で、ほぼ全面を研磨しているが、素材礫の風化が著しく、粗悪な石質である。中央よりやや上寄りに両側から穿孔しているが、紐擦れ痕などの使用の痕跡はない。112は細かい単位で研磨されて丸みを帯びたもの。113は方形を呈し、細かな単位で研磨が施されているが、部分的に自然面が残る。114は丁寧に研磨されているが、穿孔部分で破損したもの。石材は110・111が塩基性凝灰岩製、それ以外は滑石製である。

(宮崎)

棍棒形石器 棍棒形石器として分類した石器は4点出土(内1点は未成品)している。ここでは、包含層出土の2点を図示した(他2点はVSB-01出土)。棍棒形石器の部位名称については、下半部を把握部、上半部を刃部、下半部から上半部の変換点を区(マチ)と呼称する。また、上半部の断面形が鋭角となる右側縁を刃、鈍角となる左側縁を棟とする。実測図の展開については、苫小牧市静川37遺跡(苫小牧市教育委員会1991)やむかわ町穂別D遺跡(北海道埋蔵文化財センター2005)などにおいて、把握部を天、刃部を地とする展開で図示されてきた。今回の報告にあたっては、刃部を天、把握部を地とし、手で握っている状態を想定して図示した。また、事実記載にあたっては、断りのない限り表面での説明とする。

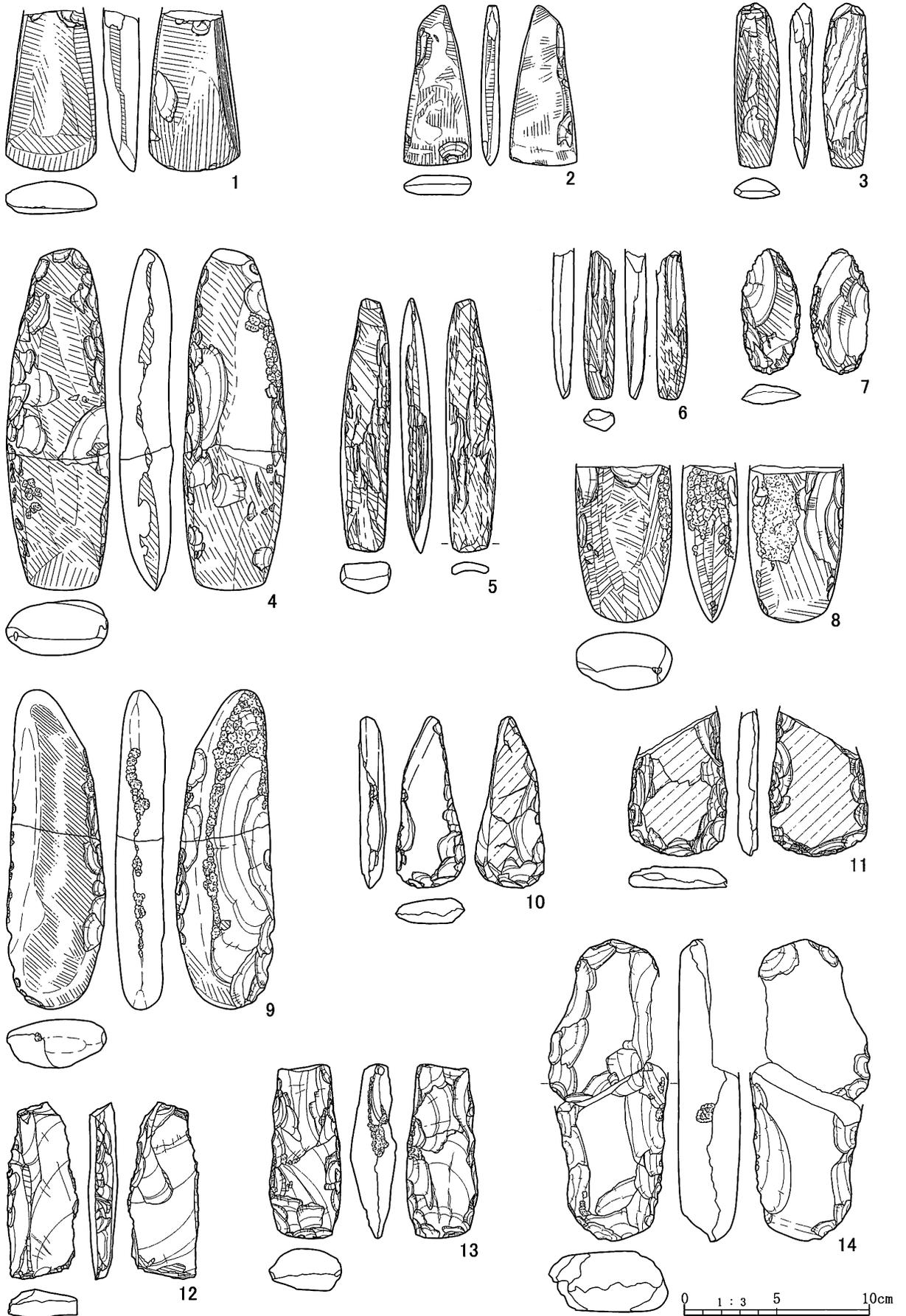
115は砂質片岩と同定された石材を用いる。表面の剥離は部分的なものであるが、裏面には縁辺部のほぼ全てに剥離が行われる他、厚みを減じる大きな剥離が残る。表裏面・両側縁に棒状の扁平な垂角礫の形態を多く残しており、成形途中に折損したものと思われる。素材礫の石質、形態、連続的な縁辺の剥離から棍棒形石器の未成品と判断した。棍棒形石器の未成品出土

例は穂別D遺跡で2点（内1点未掲載）、音更町十勝川温泉1遺跡（音更町教育委員会 1988）で1点確認されている。116は隣接するグリッドで出土した2点が接合した棍棒形石器の完形品である。表裏面に転礫面が確認されることから、棒状の扁平な亜角礫が素材と思われる。平面形では、把握部は細く整形され、下端部左側縁には角があり、右側縁は丸い。把握部から刃部の変換点に位置する区については、右側縁では弧状の膨らみとなり、左側縁では小さな角となる。断面形は、把握部が剥離と敲打によって素材礫の側縁稜が落とされ、楕円形となる。これに対し、刃部側は剥離によって石器中央部まで及ぶ調整がなされており、側面観では厚さが2/3ほどに減じられ、先端部は細く尖る。断面形では右側縁が鋭角、左側縁が鈍角であるため、右が刃、左が棟であると思われる。把握部は細く調整された平面形と楕円形の断面形となり、握りやすい形態となる。下端部と区の長さ注目すると、相対的に左側縁は短く、右側縁は長い。左は掌が触れる部分、右は指が触れる部分となり、手の形態を意識し、長さを変えていると思われる。

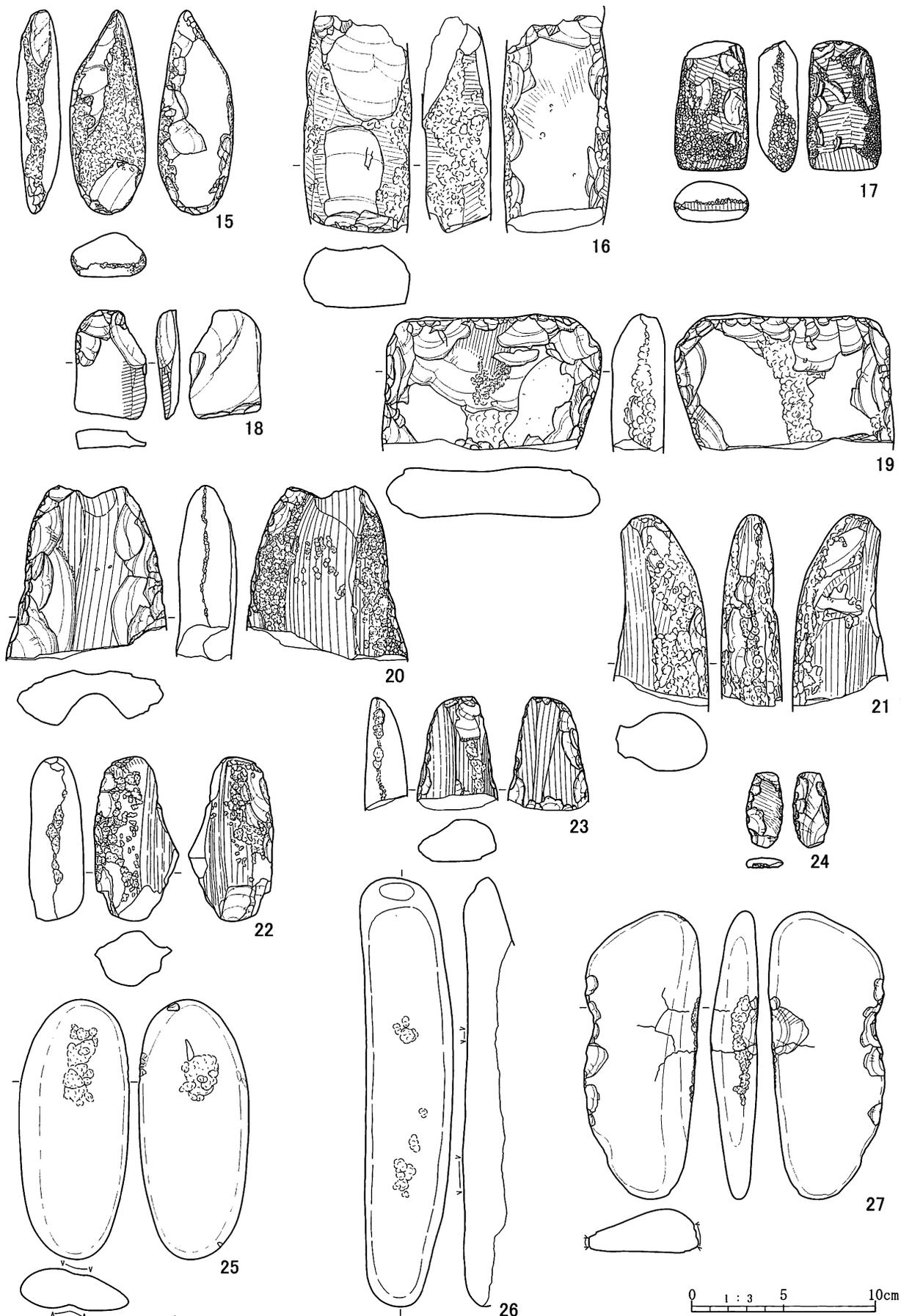
116は鋸歯が作出されていないことから棍棒形石器の定義を満たさない（野村・杉浦 1978）が、把握部や刃部の作出、それらの変換点にある区、断面が鋭角と鈍角の刃部など鋸歯以外の形態的特徴は棍棒形石器の特徴に類似する。また、平面形が類似する資料に青竜刀形石器がある。しかし、本遺跡から出土した棍棒形石器には青竜刀形石器に特徴的な研磨調整が全く見られないことを重視し、棍棒形石器の範疇とした。

石材については、115が砂質片岩と116が変形砂岩と同定された（V章7節参照）。どちらも付加体中で著しい変形構造を受けている。115は顕著な片理構造をもち、岩石中に脈が見られる。116は破断面を観察すると砂粒に大小の差異がある。これは、付加体中で高圧を受けたため、岩石を構成する砂粒の大きさが変形したことによるものである。また、弱い層理構造が確認される。砂質片岩と変形砂岩との違いは、片理構造の有無と砂粒の明瞭さの違いである。高圧による変化を受けた性状の地質は、日高山脈西側の沙流川・鶴川流域や神居古潭周辺で確認されている。

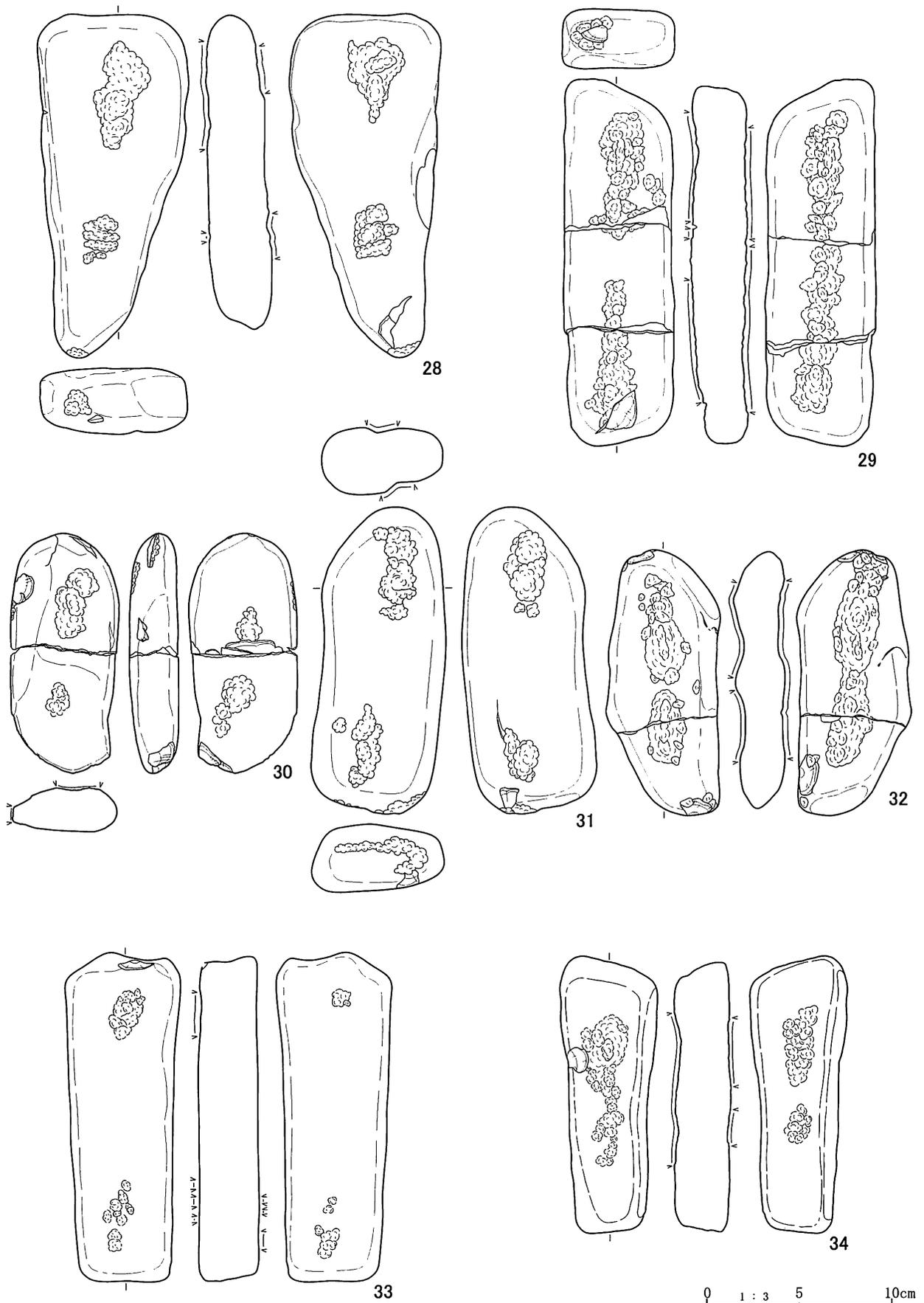
（松井）



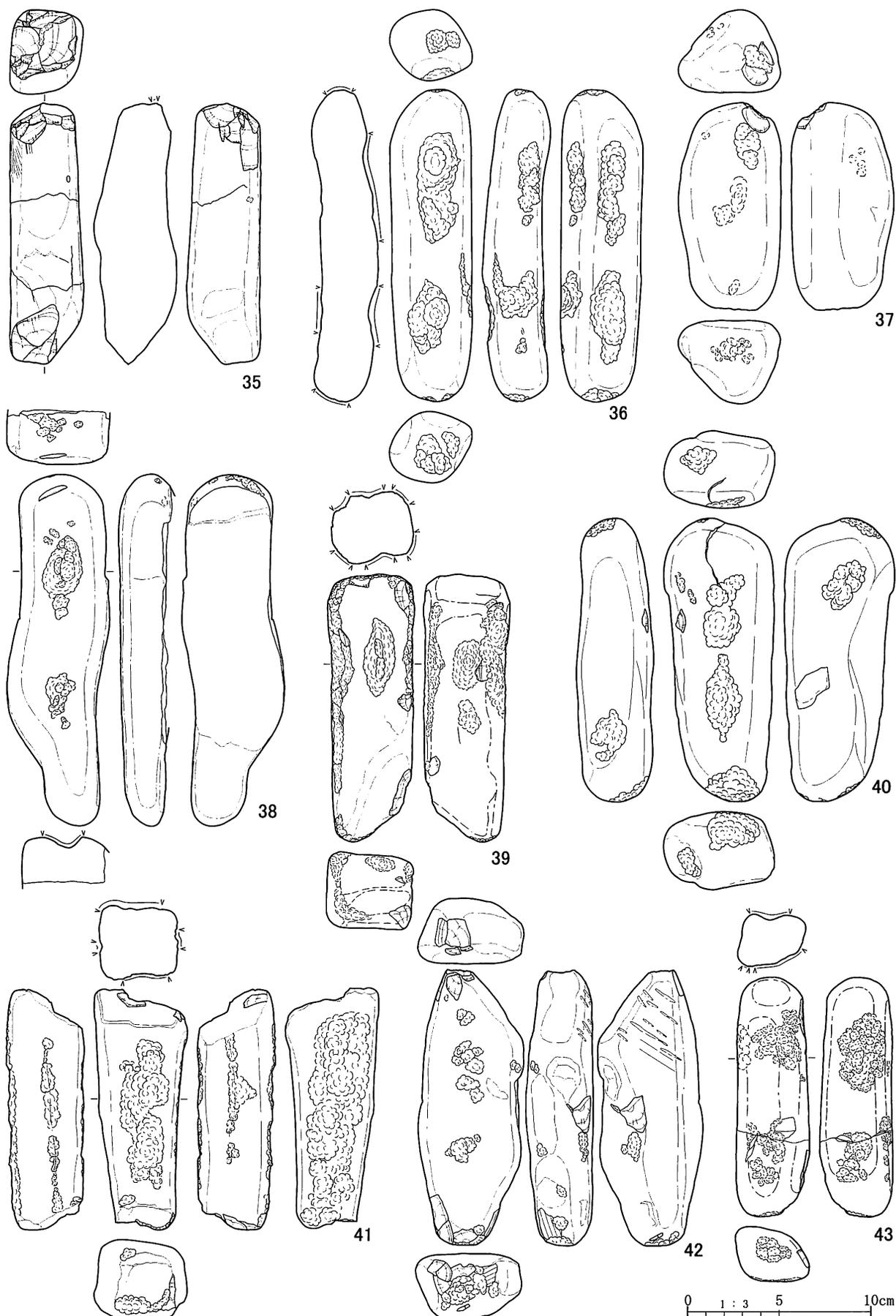
図IV-131 縄文時代包含層出土礫石器(1)



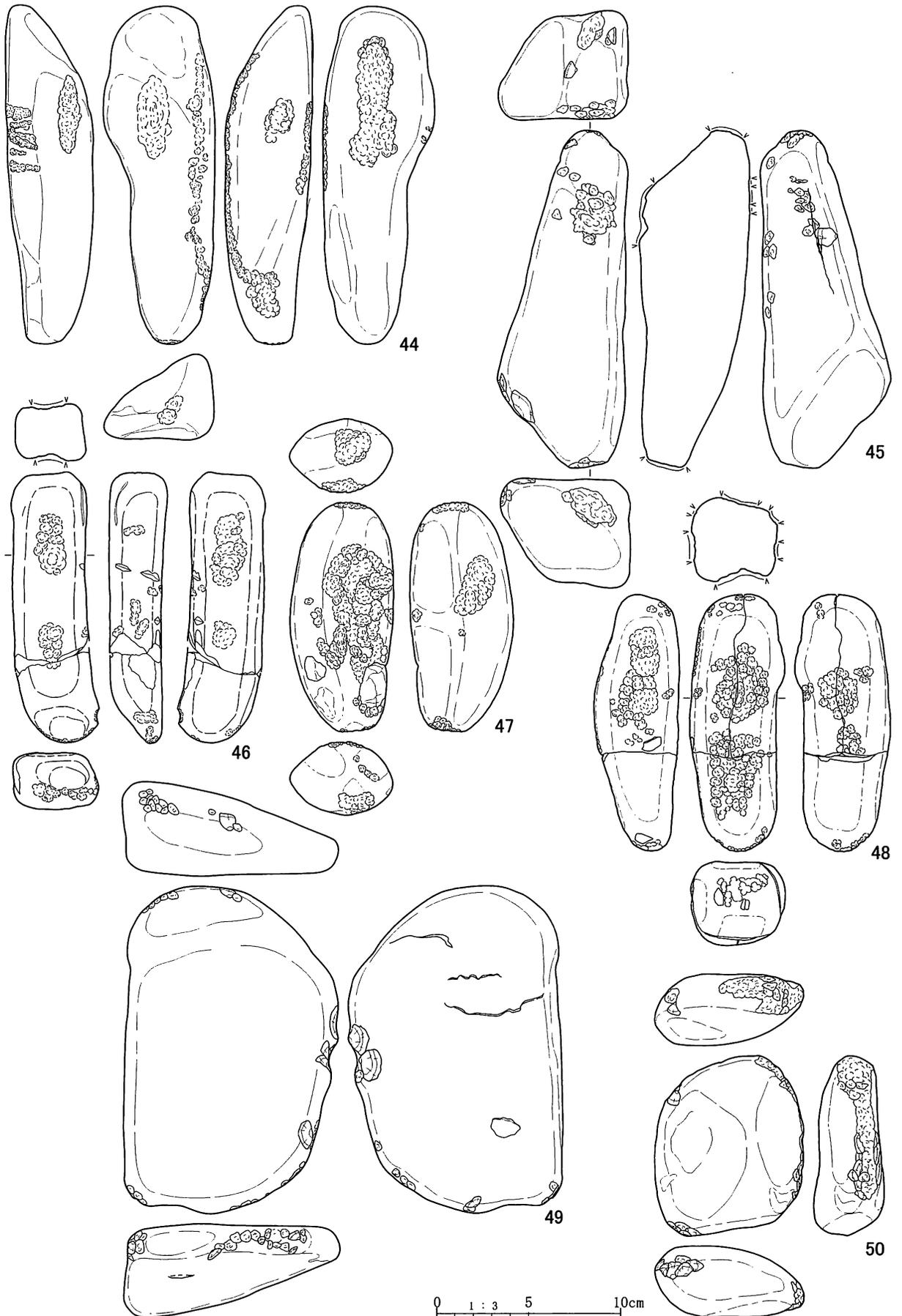
図IV-132 縄文時代包含層出土礫石器(2)



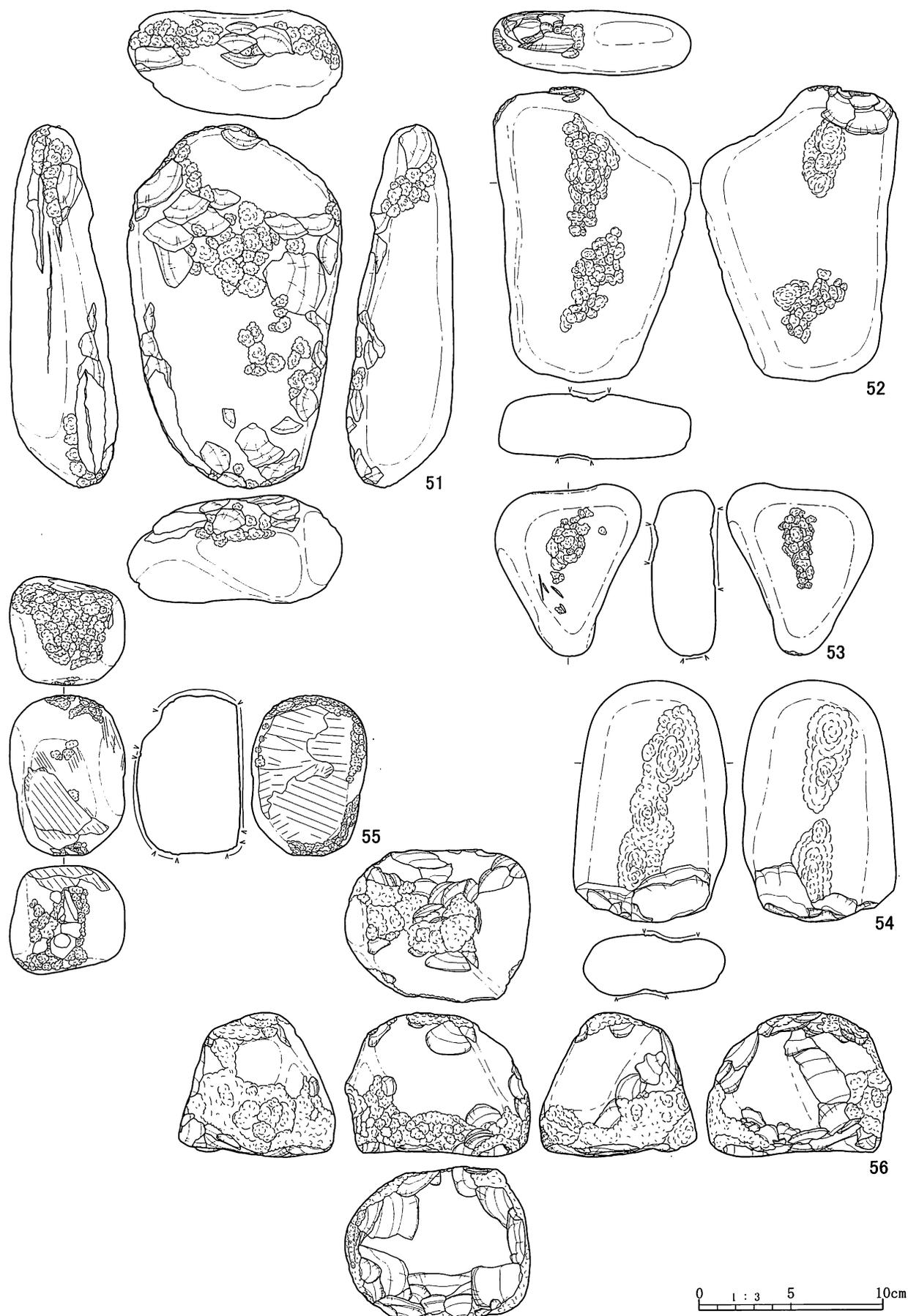
図IV-133 縄文時代包含層出土礫石器(3)



図IV-134 縄文時代包含層出土礫石器(4)



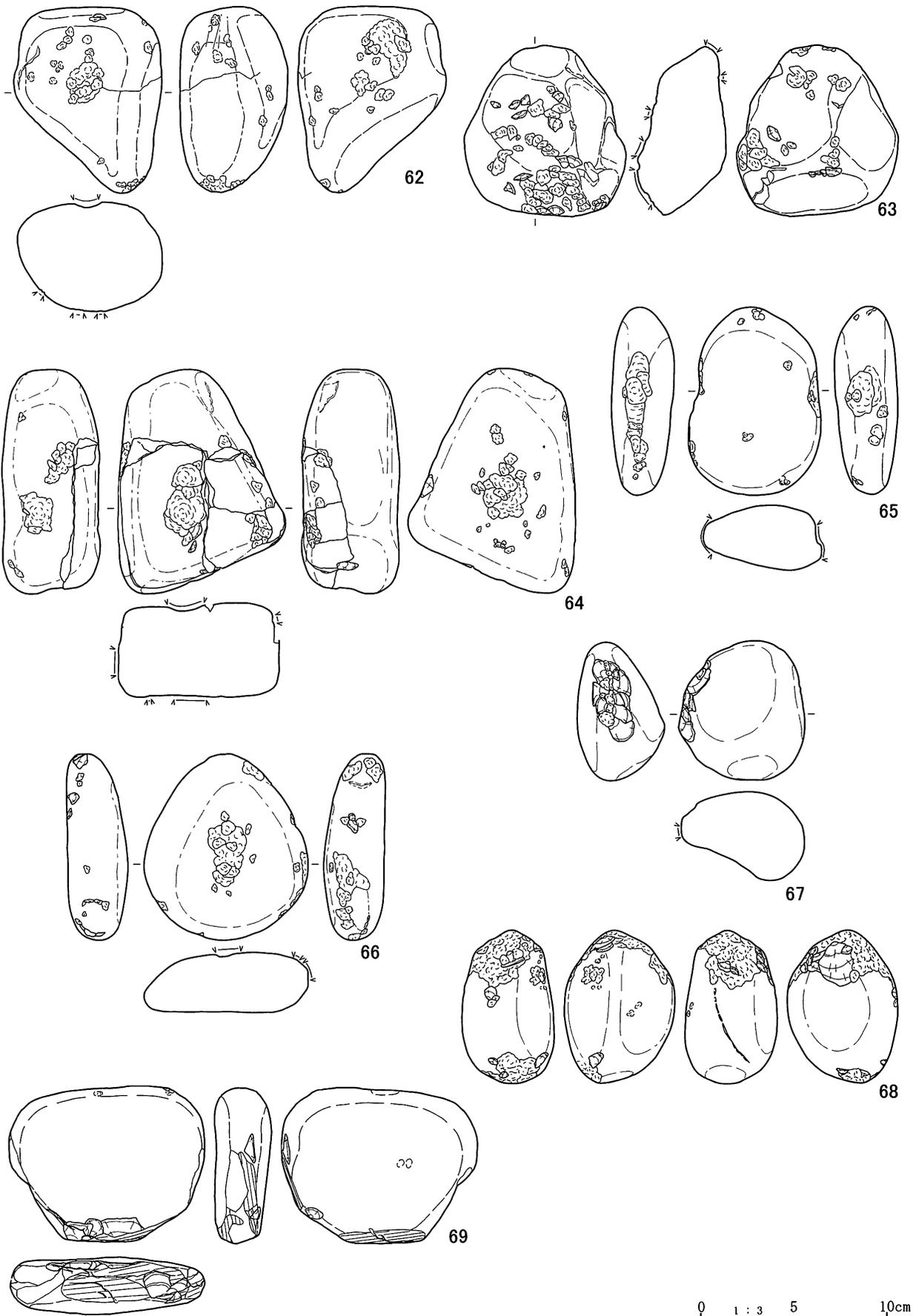
図IV-135 縄文時代包含層出土礫石器 (5)



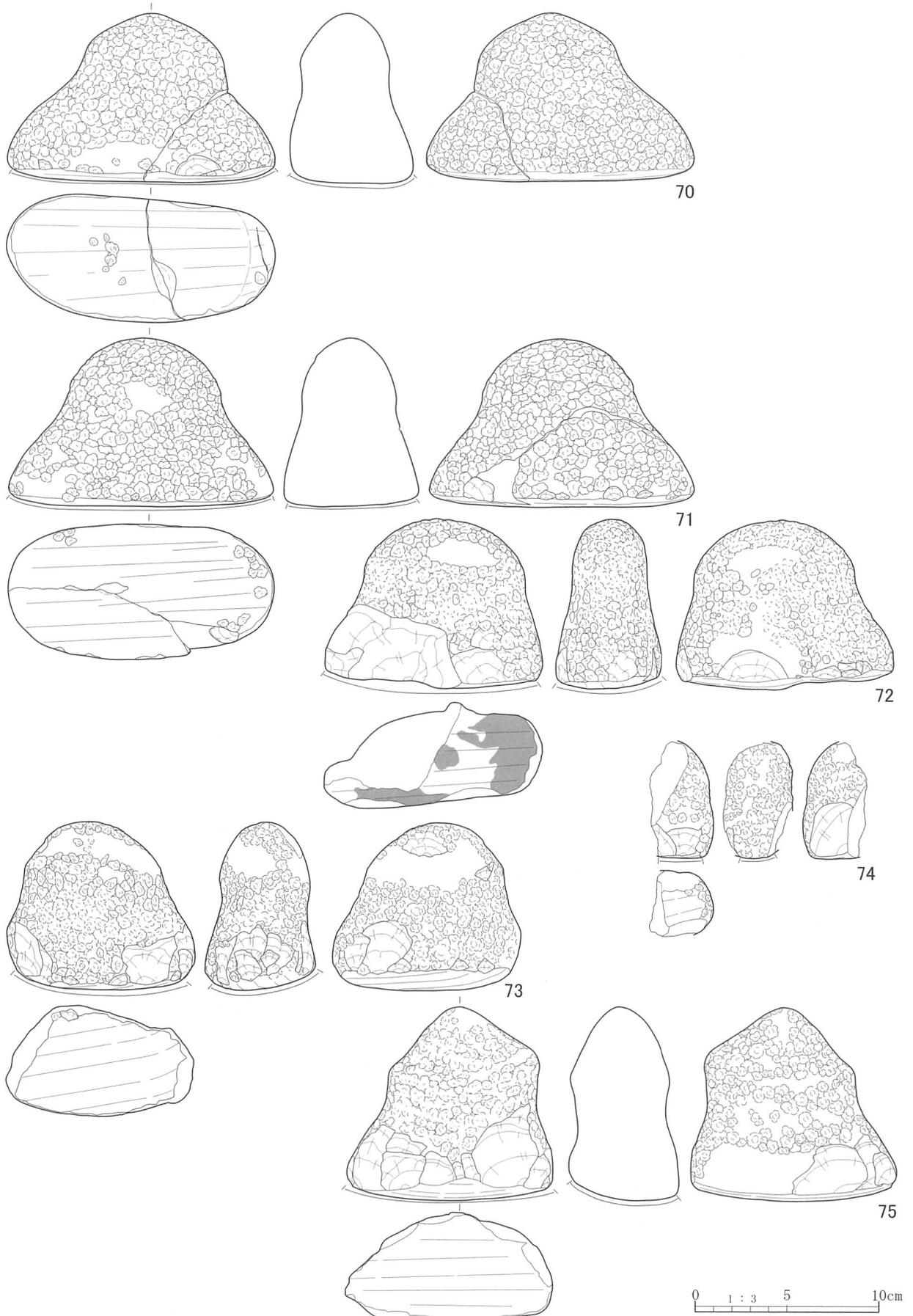
図IV-136 縄文時代包含層出土礫石器(6)



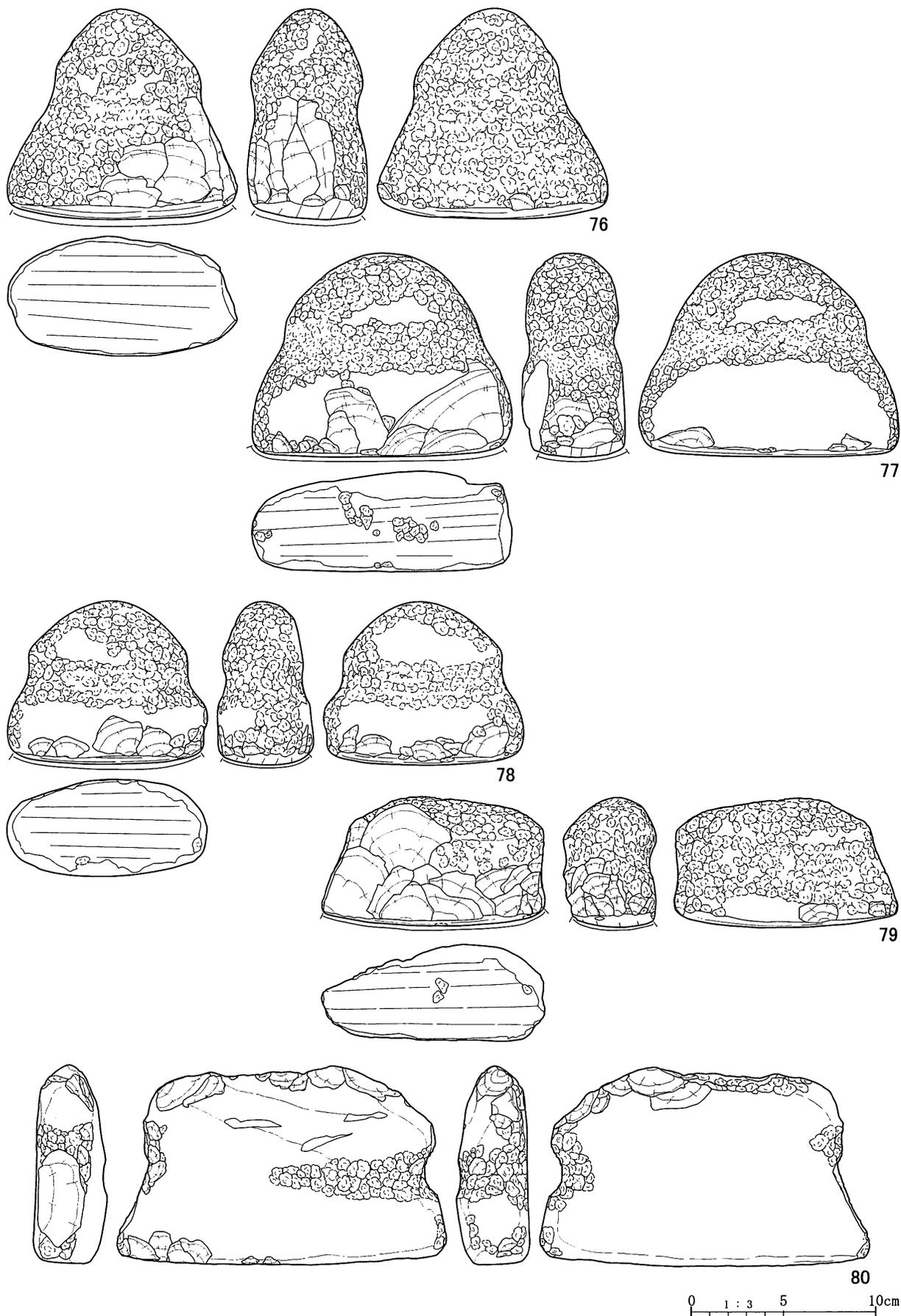
図IV-137 縄文時代包含層出土礫石器 (7)



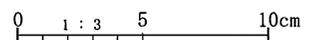
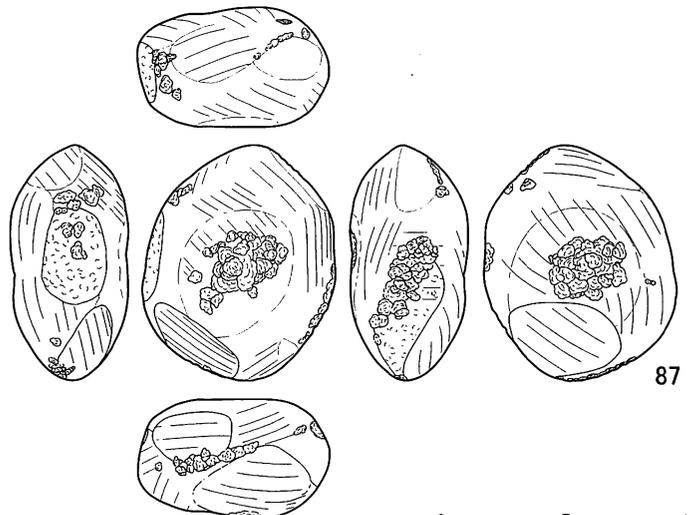
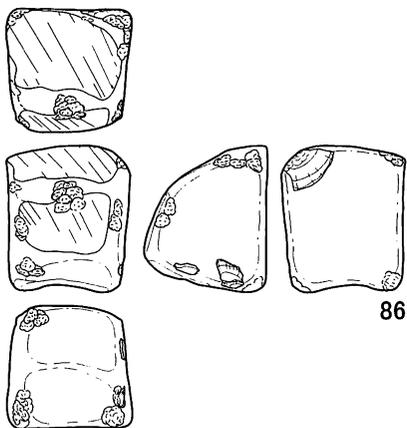
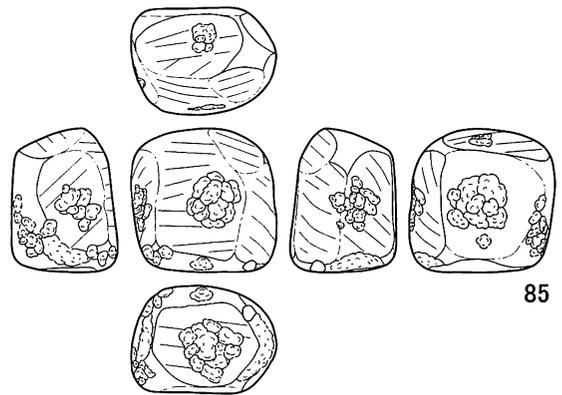
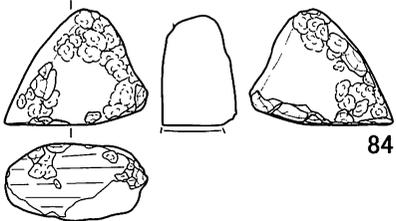
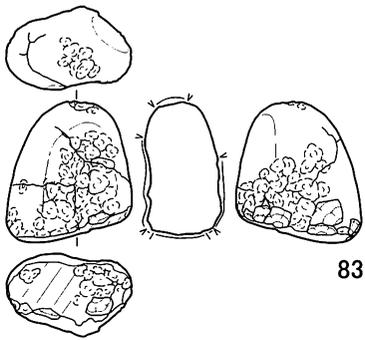
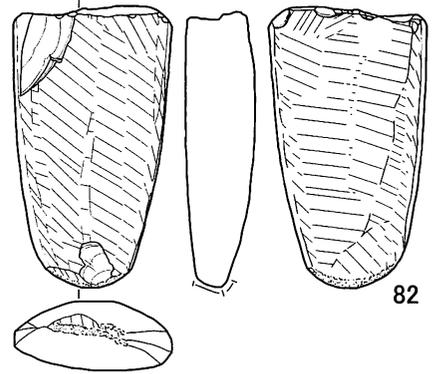
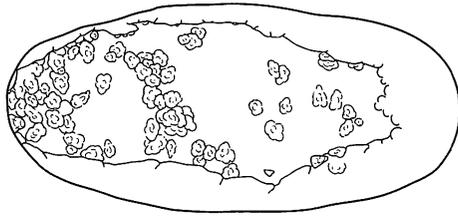
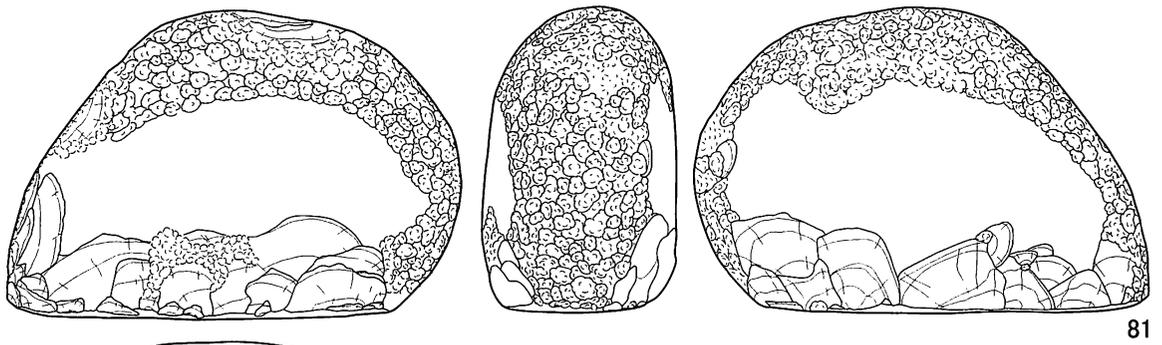
図IV-138 縄文時代包含層出土礫石器(8)



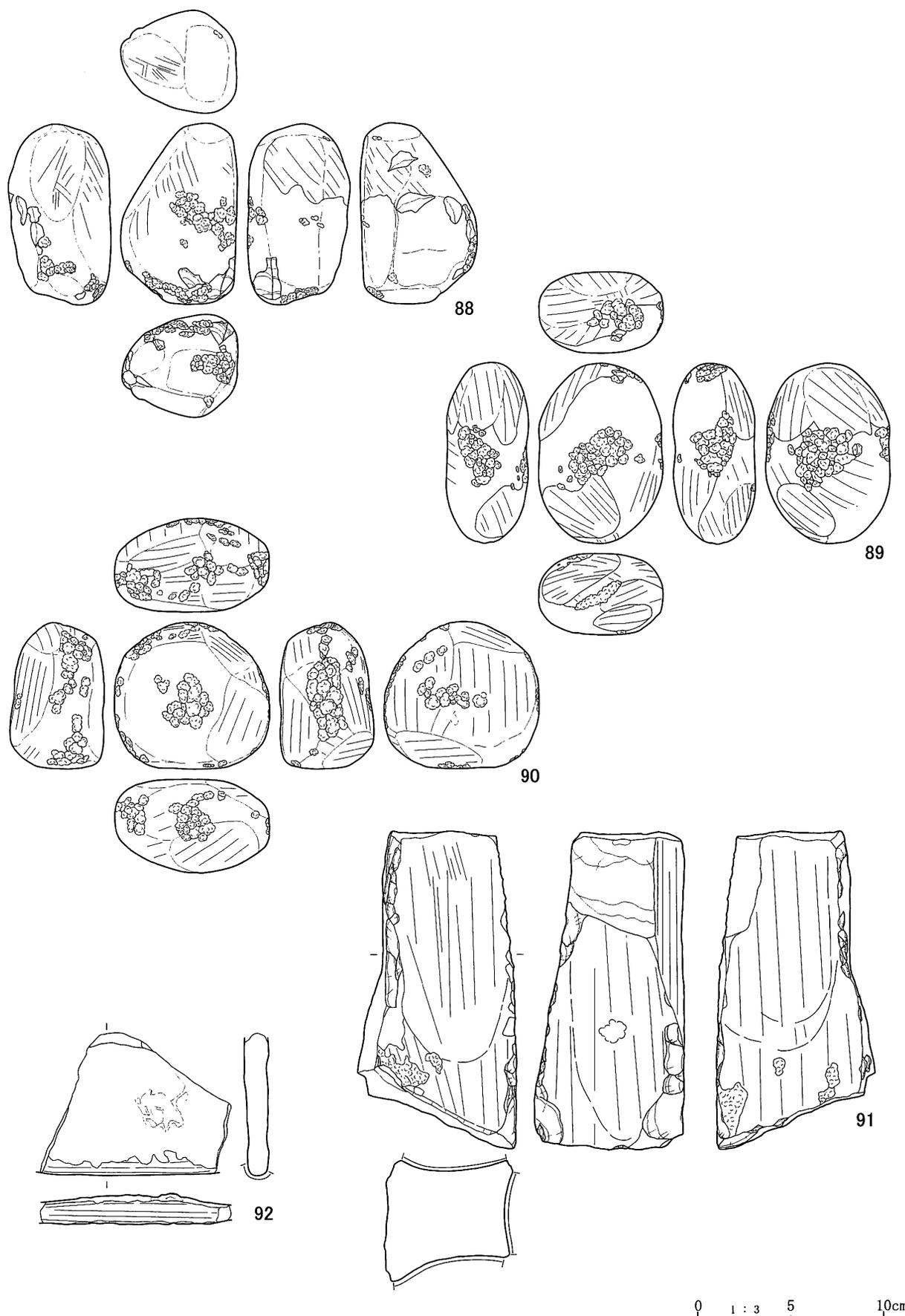
図IV-139 縄文時代包含層出土礫石器(9)



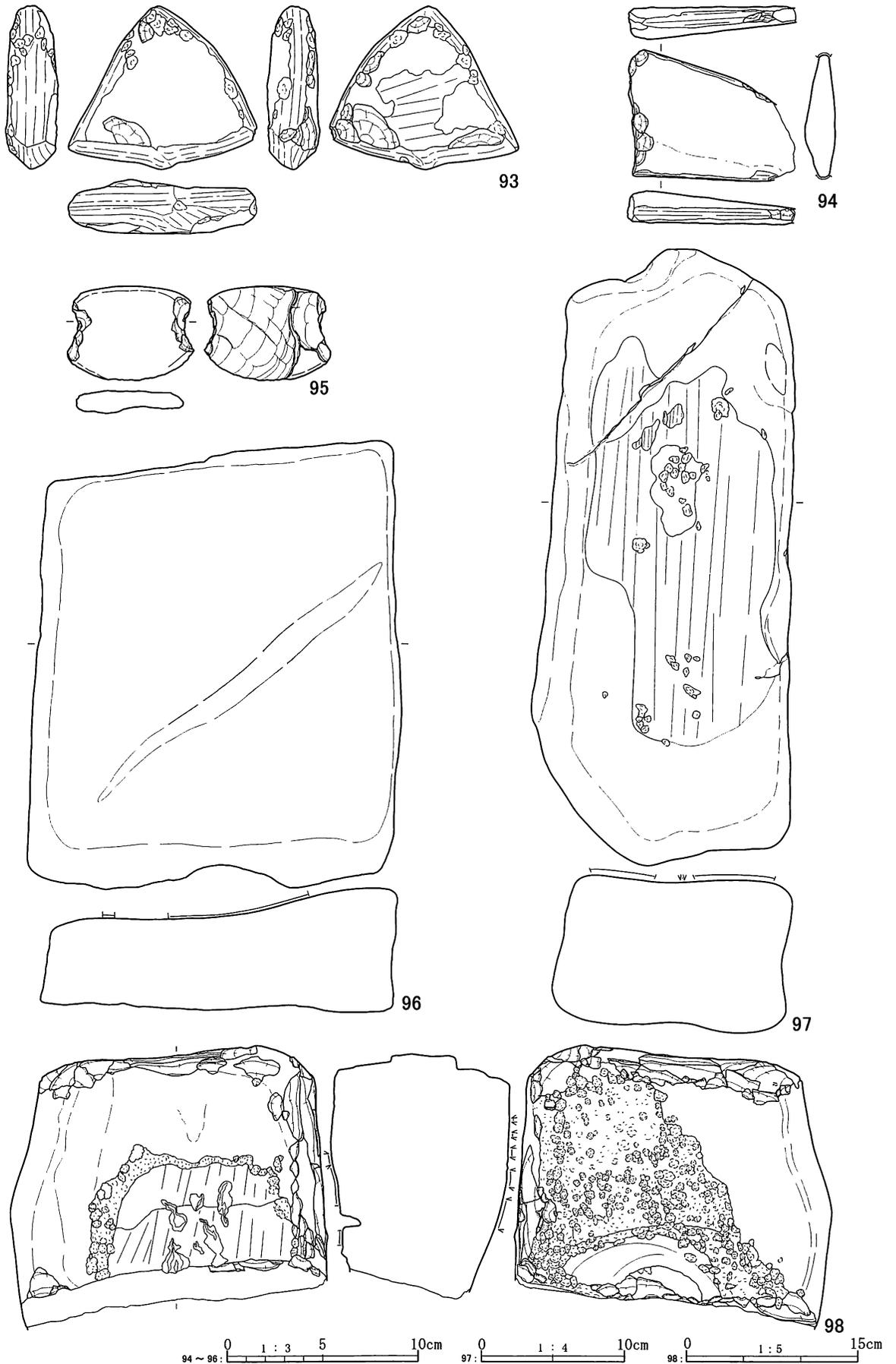
図IV-140 縄文時代包含層出土礫石器 (10)



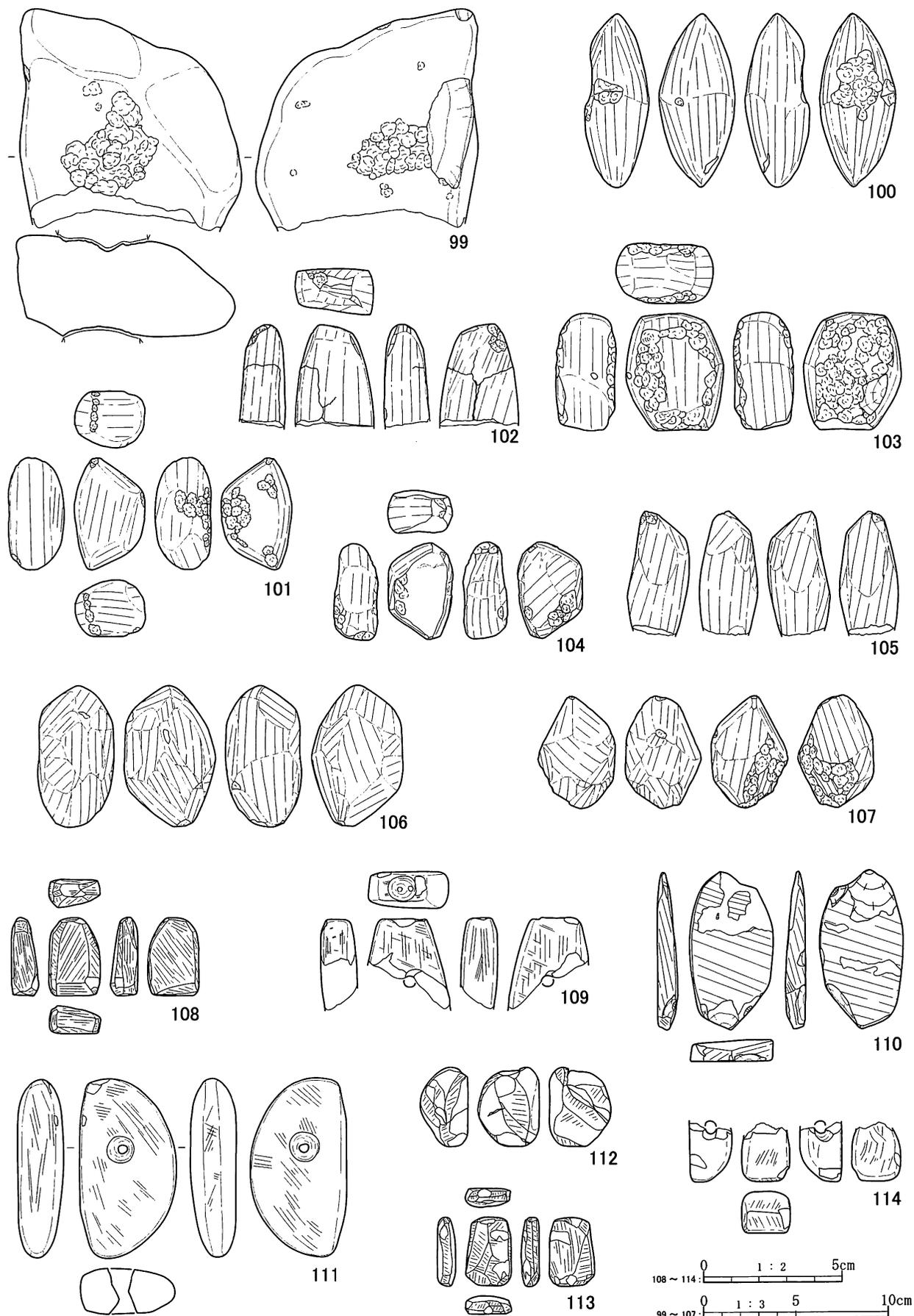
図IV-141 縄文時代包含層出土礫石器(11)



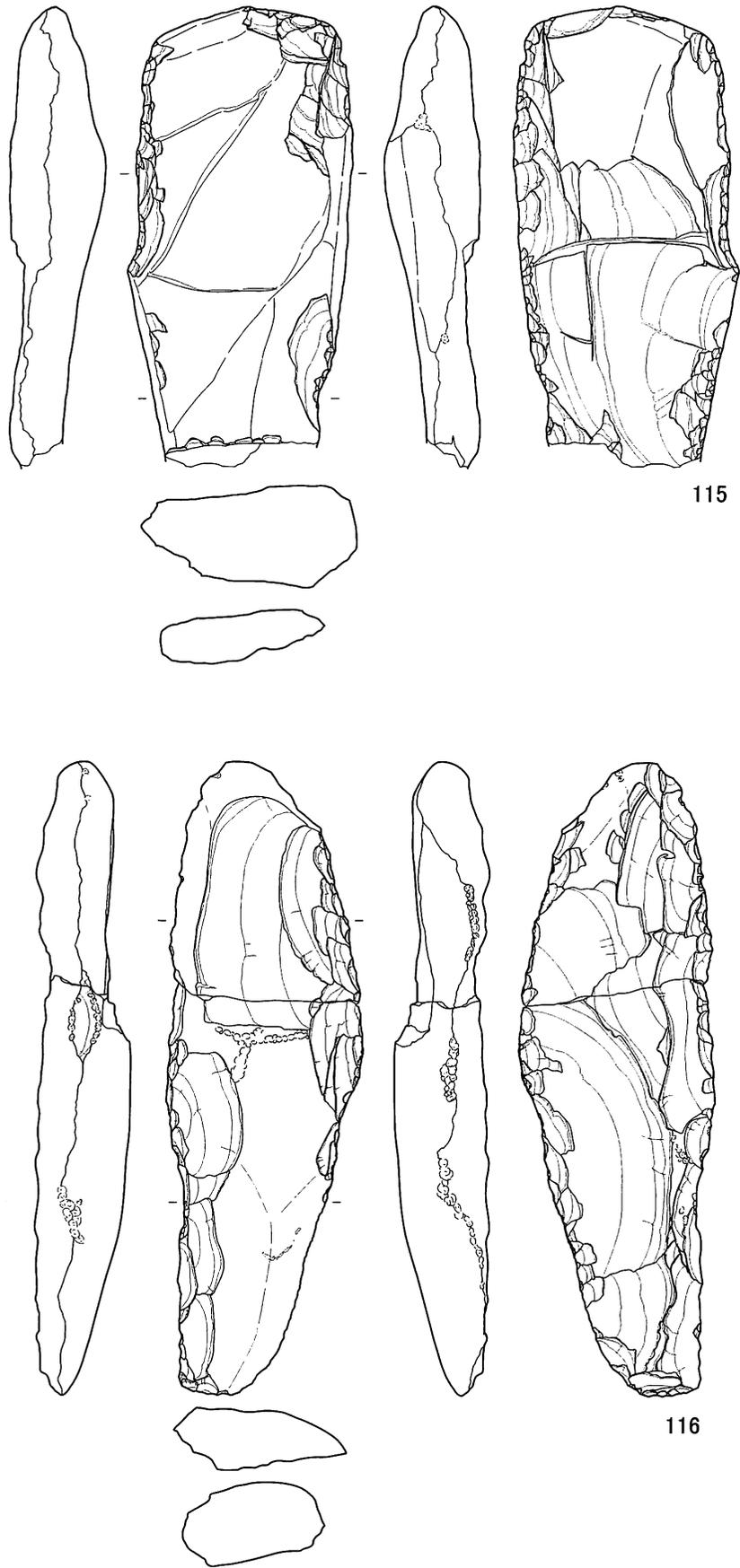
図IV-142 縄文時代包含層出土礫石器(12)



図IV-143 縄文時代包含層出土礫石器 (13)



図IV-144 縄文時代包含層出土礫石器 (14)



図IV-145 縄文時代包含層出土礫石器(15)

表IV-1 縄文時代遺構群一覧表(1)

遺構名	帰属時期	規模(cm)		グリッド	層位	付属・関連遺構	備考
		長軸	短軸				
VH-01	前期後半	1165	875	AJ~AL-23~25	VbL	HF01	1層覆土にVH-16、掘り上げ土検出
VH-02	前期後半	1103	910	AO・AR-27・28 AP・AQ-26~28	VbL	HF01・02、 PT01、PB01	1層覆土にVSB-01、掘り上げ土検出
VH-03	前期後半	613	528	AU・AV-29・30	VbU	HF01、PT01・02	掘り上げ土、屋根土検出
VH-04	前期後半	723	668	AI・AJ・AK-33・34	Vc	-	掘り上げ土検出
VH-05	前期後半	485	477	AM・AN-33・34	VI	-	
VH-06	前期後半	490	420	AG・AH-29・30	VI	PT01	
VH-07	前期後半	989	936	AL・AM-26~28 AN-27・28	VbL	HF01・02、PT01	石組炉から鍾飾出土
VH-08	前期後半	(308)	(245)	AN・AO-24	VbL	PT01・02	
VH-09	前期後半	412	(190)	AQ-23、AR-23・24	VbL	-	掘り上げ土検出
VH-10	前期後半	815	725	AW-28・29 AX・AY-27~29	VbL	HF01	
VH-11	後期初頭	562	(533)	AR-22・23、AS-22~24	Vc	HF01・02、PB01	石組炉検出
VH-12	後期初頭	358	(320)	AR・AS-30	VI	HF01、PB01	石組炉検出
VH-13	後期初頭	662	595	AG-20、AH・AI-19~21	VI	HF01、PT01・02	掘り上げ土、石組炉検出
VH-14	後期初頭	412	407	AI-20・21・AJ-21	VI	HF02、PT01・02	石組炉検出
VH-15	後期初頭	442	399	AE・AF-22・23	VI	HF01、PT01・02・03	
VH-16	後期初頭	(1165)	(875)	AJ~AL-23~25	VbU	HF01	石組炉検出(旧VF-23)
VGP-01	-	223	135	AS-25・26	VI	-	
VGP-02	-	182	138	AS-25	VI	-	
VGP-03	-	205	(132)	AO・AP-28	VI	-	
VGP-04	-	(252)	112	AT-25・26・AU-25	VI	-	
VGP-05	-	227	177	AO・AP-29	VI	-	
VGP-06	-	195	174	AO-30	VI	-	
VGP-07	-	164	120	AP-29・30	VI	-	
VGP-08	-	239	165	AO-29	VI	-	
VGP-09	-	206	112	AO-30	VI	-	
VGP-10	-	261	182	AP-26	VI	-	
VGP-11	-	169	149	AP-30	VI	-	
VGP-12	-	135	(127)	AR-26・27	VI	-	
VGP-13	-	187	(182)	AM・AN-29	VI	-	
VGP-14	-	267	172	AM-26	VIIa	-	
VGP-15	-	(185)	(200)	AN・AO-26・27	Vc	-	
VGP-16	-	206	136	AM-25	Vc	-	
VGP-17	-	147	121	AJ・AK-23	VI	-	
VGP-19	-	204	187	AM・AN-23・24	VI	-	
VGP-20	-	209	(179)	AH-16・17	VIIa	-	
VGP-21	-	190	143	AL-25・26	VI	-	
VGP-22	-	227	163	AG-21	VI	-	
VGP-23	-	228	198	AN・AO-30	VI	-	
VGP-24	-	113	(102)	AH-19	Vc	-	
VGP-25	-	250	183	AG-18	VbL	-	
VGP-27	-	222	222	AI-30	Vb	-	旧VP-05
VGP-28	-	209	171	AM-30	VI	-	旧VP-06
VGP-29	-	182	133	AT-26	VI	-	旧VP-16 覆土上層に大型礫
VP-01	-	(170)	(120)	AQ-26・27・AR-27	VI	VPB-02	
VP-02	-	(52)	46	AT-31・32	VI	-	
VP-03	-	156	112	AN-31	VI	-	
VP-07	-	42	41	AM-27	-	VPB-09	VH-07覆土で検出
VP-08	-	54	39	AM-27	-	-	
VP-12	-	234	(151)	AT-27	VI	-	
VP-13	-	(92)	117	AT-27	VI	-	ATセクションに断面 覆土上層に大型礫
VP-14	-	220	199	AT-30	Vc	-	覆土上層に大型礫
VP-15	-	75	71	AX-28	VI	-	VH-10 覆土中
VP-17	-	61	36	BF-31	VI	-	
VP-18	-	69	53	BF-31	VI	-	
VP-19	-	103	29	AS・AT-24	VI	-	覆土上層に大型礫
VP-20	-	(263)	(103)	AY-27・28	Vc	-	VH-10に切られる
VP-21	-	(134)	(82)	AW・AX-28	VI	-	VH-10に切られる
VP-23	-	201	151	AS・AT-25	VI	-	覆土中に大型礫
VP-24	-	119	52	BD-31	VI	-	
VP-25	-	73	48	AY-29・30	VI	-	覆土中に大型礫
VP-26	-	71	60	AU-26	VI	-	
VP-27	-	(85)	78	AS-27	VI	-	

表IV-1 縄文時代遺構群一覧表(2)

遺構名	帰属時期	規模(cm)		グリッド	層位	付属・関連遺構	備考
		長軸	短軸				
VP-29	-	85	65	BE-30・31	VI	-	道路に切られる
VP-30	-	177	137	AJ・AK-19	VI	-	
VSF-01	-	(79)	(55)	AS-32・33	Vc	-	VF-03・VSB-03
VSF-02	-	55	24	BC-29	Vb	-	VF-08
VSF-03	-	(24)	(19)	AN-25	Vc	-	VF-10
VF-02	-	70	47	AL-31	VI	-	
VF-04	-	90	89	AS-32	Vc	-	
VF-06	-	41	39	AS-29	Vc	-	
VF-07	-	(42)	(33)	AT-25	VIIa	-	
VF-09	-	57	13	BF-30	VbL	-	
VF-11	-	75	59	AW-26	Vc	-	焼土上面で焼成粘土塊出土
VF-12	-	40	13	AV-27	VI	-	
VF-13	-	72	44	AU-27	VIIa	-	
VF-14	-	(48)	31	AV-29	VIIb	-	
VF-15	-	(30)	21	AT-24	VI	-	
VF-16	-	59	(27)	AU-24	VI	-	
VF-17	-	63	(37)	AY-28	VI	-	
VF-18	-	32	22	AV-26	-	-	TP-22上位
VF-19	-	50	(22)	AS-25	VI	-	
VF-20	-	62	38	AV-25	VI	-	
VF-21	-	60	55	AV-25	VI	-	
VF-22	-	49	41	AT-26	VIIa	-	
VF-24	-	37	16	AO-25	VI	-	
VF-25	-	16	6	AU-26	VI	-	
VF-26	-	21	17	AT-24	VI	-	
VF-27	-	25	23	AW-29	VI	-	
VF-28	-	29	12	AT-27	VI	-	
VF-29	-	23	21	BA-28	VI	-	
VF-30	-	30	26	AE-18	VI	-	
TP-01	-	(300)	90	AX・AY-31	Vc	-	
TP-02	-	252	79	AY-30・31	VI	-	
TP-03	-	355	98	AW-30・31・AX-30	Vc	-	
TP-04	-	357	87	AX・AY-30	VI	-	
TP-05	-	307	99	AW・AX-30	Vc	-	
TP-06	-	225	58	AW-32	VI	-	
TP-07	-	315	115	AX-31	Vc	-	
TP-08	-	211	25	AW・AX-30	Vc	-	
TP-09	-	252	82	AL-30・31・AM-31	VI	-	
TP-10	-	145	106	AI-31	VI	-	
TP-11	-	170	131	AK・AL-33	VI	-	
TP-12	-	272	86	AM-30	VI	-	
TP-13	-	249	70	AI-33・34	VI	-	
TP-14	-	152	151	AL-30	VI	-	
TP-15	-	133	103	AH-27	VI	-	
TP-16	-	308	87	AW・AX-29	Vc	-	
TP-17	-	303	63	AY・AZ-30	VI	-	
TP-18	-	329	99	AZ-28	VI	-	
TP-19	-	395	113	AW-27・28	Vc	-	覆土上層に埋め戻し土
TP-20	-	292	60	AV・AW-27	VI	-	覆土上層に埋め戻し土
TP-21	-	306	61	AV-26・27・AW-26	VI	-	
TP-22	-	292	75	AV・AW-26	VI	-	上位にVF-18
TP-23	-	299	75	AU・AV-25・26	VI	-	
TP-24	-	301	65	AU-24・25	VI	-	
TP-25	-	321	88	AY-26・27	VI	-	
TP-26	-	273	42	AX-29・30	VI	-	
TP-27	-	269	65	AT-23	VI	-	
TP-28	-	326	53	AV-25・26	VI	-	覆土上層に埋め戻し土
TP-29	-	293	83	AY-26・27	VI	-	覆土上層に埋め戻し土
TP-30	-	315	(103)	AN・AO-29	VI	-	
TP-31	-	179	134	AS-24	VI	-	
TP-32	-	345	97	AV-27・AW-26・27	VI	-	覆土上層に埋め戻し土
TP-33	-	(291)	104	AO-27・28	VI	-	
TP-34	-	280	93	AP-28・29	VI	-	
TP-35	-	301	115	AO・AP-25	VI	-	
TP-36	-	262	76	AP・AQ-21	VI	-	
TP-37	-	257	102	AP-22	VI	-	

表IV-1 縄文時代遺構群一覧表(3)

遺構名	帰属時期	規模(cm)		グリッド	層位	付属・関連遺構	備考
		長軸	短軸				
TP-38	-	319	101	AO・AP-20・21	VI	-	
TP-39	-	-	85	AO-20	VI	-	
TP-40	-	125	(117)	AR-30	VI	-	VH-12を切る
TP-41	-	287	123	AF・AG-24	VI	-	
TP-42	-	286	84	AE・AF-24	VI	-	
TP-43	-	285	89	AF-27	VI	-	
TP-44	-	289	68	AE-15・16	VI	-	
TP-45	-	300	89	AE・AF-19	VI	-	
TP-46	-	(302)	93	AE・AF-17	VI	-	
TP-47	-	(209)	93	AF-18	VI	-	
TP-48	-	233	29	AD・AE-15	VI	-	
TP-49	-	297	103	AE-20	VI	-	
TP-50	-	160	122	AD-18	VI	-	
VPB-01	後期初頭	122	66	AS-28	VbU		
VPB-02	後期初頭	62	42	AQ-27	VbU	VP-01	VH-02覆土で検出
VPB-04	後期初頭	102	58	AS-32	VbL	-	
VPB-05	後期初頭	56	48	AS-32	VbL	-	
VPB-06	-	60	36	AS-31	Vc	-	
VPB-07	中期末	103	53	AS-31・32・AT-31	Vc	-	
VPB-08	後期初頭	308	222	AH-36	VbL	-	
VPB-09	後期初頭	49	26	AM-28	VbU	-	VH-07覆土で検出
VPB-10	後期初頭	684	432	BE・BF-31	VbM	-	
VPB-11	後期初頭	130	622	AM-27・28	VbU	-	
VPB-12	後期初頭	648	282	AT-24・25・AU-24	VbU	-	
VPB-13		26	22	BC-29	VbL	-	
VPB-14	早期後半	156	74	BE-31	VI	-	南側斜面
VPB-15	早期後半	221	183	BE-31	VI	-	南側斜面
VPB-16		163	101	AK・AL-26	VbL	-	
VS B-01	後期初頭	768	643	AP~AR-26~28	VbU・ VbM	-	VH-02上層で検出 棍棒形石器2点出土
VS B-02	-	4016	1894	AO~AW-24~34	VbU・ Vc	-	
VS B-04	-	2003	1578	BD・BG-29~33	VbU~ VbL	-	丘陵先端部に位置
VS B-05	-	1399	441	BA~BD-27~30	VbL	-	丘陵先端部に位置
VS B-06	-	1060	673	AR~AS-22~25	VbU	-	
VS B-07	-	22	15	AT-25	Vc	-	黒曜石原石・石核出土
VS B-08	-	-	-	AT・AU-27・28	VbU	-	大型板状礫出土
VS B-09	-	341	274	AE・AF-20	VbM	-	破碎した被熱礫出土
VPPB-01	-	27	26	AV-28・29	Vc	-	焼成粘土塊の集中
VPPB-02	-	33	27	AU-26	Vc	-	焼成粘土塊の集中
VFCB-01	-	378	154	AW・AX-30	VbU	-	VH-03より新しい
VFCB-02	-	88	75	BE-32	VbL	-	
VFCB-03	-	64	30	AX-28	Vc	-	VH-10覆土
VFCB-04	-	52	43	AR-26・27	Vc	-	
VBB-01	-	99	55	AU-29	VbU	-	
VMO-01	-	2500	1300	AI・AL-32~36	VbU		VH-04上面

表IV-2 VH属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ(cm)	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸		
IV-2	18・19	VH-01	AJ~AL-23~25	VbL	N-13° W	1165	875	1085	793	43	覆土中にVH-16
IV-8	20・21	VH-02	AO・AR-27・28 AP・AQ-26~28	VbL	N-32° W	1103	910	1028	833	73	覆土中にVSB-01
IV-13	22・23	VH-03	AU・AV-29・30	VbU	N-63° W	613	528	575	460	60	掘り上げ土 屋根土検出
IV-17	24	VH-04	AI~AK-33・34	Vc	N-18° W	723	668	683	635	35	
IV-18	25	VH-05	AM・AN-33・34	VI	N-6° E	485	(477)	442	(433)	43	
IV-19	26	VH-06	AG・AH-29・30	VI	N-43° W	490	420	434	369	60	
IV-21	27	VH-07	AL・AM-26~28 AN-27・28	VbL	N-2° E	989	936	941	906	43	
IV-24	28	VH-08	AN・AO-24	VbL	N-14° W	(308)	(245)	(267)	(197)	68	
IV-25	29	VH-09	AQ-23 AR-23・24	VbL	N-60° W	(412)	(190)	(355)	(160)	58	
IV-26	30・31	VH-10	AW-28・29 AX・AY-27~29	VbL	N-43° W	815	725	768	698	47	
IV-28	32	VH-11	AR-22・23 AS-22~24	Vc	N-74° E	(562)	(523)	(620)	533	28	
IV-30	33	VH-12	AR・AS-30	VI	N-9° W	373	(330)	362	(310)	7	
IV-31	34・35	VH-13	AG-20 AH・AI-19~21	VI	N-41° E	662	595	596	506	39	南西コーナー 周辺モルタル 状粘土貼り付 け
IV-34	36	VH-14	AI-20・21 AJ-21	VI	N-47° E	412	407	397	390	12	
IV-35	37・38- 1~5	VH-15	AE・AF-22・23	VI	N-3° E	442	399	391	336	36	
IV-36	38-6~8	VH-16	AJ~AL-23~25	VbU	N-5° W	(1165)	(875)	(830)	(610)	65	VH-01上層

表IV-3 VH付属炉属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	確認層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考	
						長軸	短軸	厚さ			
IV-3	18-4・5	VH-01	HF01	AK-24	床面	楕円形	72	47	4	-	
IV-10	21-1・2	VH-02	HF01	AQ-27	床面	楕円形	61	47	12	-	
	21-3・4		HF02	AP-27	床面	隅丸方形	(14)	10	7	-	
IV-14	22-4・5	VH-03	HF01	AU・AV-30	床面	楕円形	100	85	8	-	
IV-22	27-4	VH-07	HF01	AM-27・28	床面	不整形	65	32	1	-	
	27-5		HF02	AM-27	床面	円形	29	25	1	-	
IV-27	30-4・5 31-1・2	VH-10	HF01	AX-28	床面	円形	58	53	15	-	
IV-28	32-2~4	VH-11	HF01	AS-23	床面	方形	66	54	28	-	
IV-30	33-2~4	VH-12	HF01	AR-30	床面	方形	(52)	52	10	-	
IV-31	35-1~4	VH-13	HF01	AH-20	床面	隅丸方形	43	31	13	-	
IV-34	36-4	VH-14	HF01	AI-21	床面	方形	37	32	4	-	
IV-35	37-4・5	VH-15	HF01	AE-23	床面	円形	45	37	9	-	
IV-36	38-7	VH-16	HF01	AK・AL-24	床面	方形	60	45	12	-	

表IV-4 VH付属土坑属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名		グリッド	層位	平面形 調査面 /坑底面	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸 方向	調査 面長 短比	坑底 面長 短比	出土 遺物	備考
							長軸	短軸	長軸	短軸						
IV-10	21-5・6	VH-02	PT01	AQ-27	床面	楕円形/楕円形	152	102	90	60	57	N-11° W	1.5	1.5		
IV-14	23-1・2	VH-03	PT01	AV-29・30	床面	長楕円形/楕円形	70	43	33	25	30	N-11° E	1.6	1.3		
	23-3・4		PT02	AV-30	床面	長楕円形/長楕円形	67	44	48	28	10	N-34° E	1.5	1.7		
IV-19	26-5	VH-06	PT01	AH-29	床面	円形/円形	97	84	70	68	7	N-16° E	1.2	1.0	-	
IV-22	-	VH-07	PT01	AM・AN-27	床面	円形/円形	50	(26)	30	(15)	32	-	-	-		
IV-24	28-3・4	VH-08	PT01	AO-24	床面	円形/円形	22	(8)	10	(5)	12	-	-	-	-	
	-		PT02	AO-24	床面	円形/円形	32	(20)	30	(15)	21	-	-	-	FC	坑底面に FC出土
IV-31	35-6	VH-13	PT01	AH-20	床面	円形/楕円形	77	67	64	47	6	N-51° E	1.1	1.4		
	35-5・7		PT02	AH-19	床面	円形/円形	102	90	75	64	7	N-18° E	1.1	1.2		
IV-34	36-5	VH-14	PT01	AI-21	床面	楕円形/楕円形	70	57	53	44	12	N-28° E	1.2	1.2		
	-		PT02	AI-21	床面	楕円形/円形	43	36	24	21	11	N-74° W	1.2	1.1		
IV-35	38-1・2	VH-15	PT01	AE-23 AF-22・23	床面	(長楕円形)/ 長楕円形	98	-	46	30	11	N-83° W	-	1.5		
	38-3		PT02	AE-23 AF-22・23	床面	- / -	33	(15)	16	(7)	3	N-3° E	-	2.3		
	38-4		PT03	AE-22・23	床面	楕円形/楕円形	38	35	26	22	35	N-31° E	1.3	1.2		

表IV-5 VH柱穴属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名		掘り方規模(cm)			柱痕規模(cm)			傾き (度)	タイプ	備考
				上端	下端	深さ	上端	下端	深さ			
IV-3	19-1・2	VH-01	HP02	-	-	-	17	4	34	-4	打ち込み	
	19-3・4		HP03	-	-	-	13	3	22	3	打ち込み	
	19-5・6		HP04	-	-	-	16	4	19	7	打ち込み	
	-		HP05	-	-	-	13	3	19	0	打ち込み	
	19-7・8		HP06	24	8	26	14	3	26	2	掘り方	
	19-9・ 10		HP07	-	-	-	15	3	17	1	打ち込み	
	-		HP08	-	-	-	15	3	26	10	打ち込み	
	-											
IV-14	23-5・6	VH-03	HP01	30	14	60	18	5	40	15	掘り方	
	-		HP02	30	18	65	15	4	55	5	掘り方	
	23-7・8		HP03	36	18	73	16	4	62	15	掘り方	
	23-9・ 10		HP04	30	5	72	13	8	50	5	掘り方	
IV-17	24-4	VH-04	HP01	-	-	-	5	14	42	5	打ち込み	
	24-5		HP02	-	-	-	2	3	25	7	打ち込み	
IV-27	31-3・6	VH-10	HP01	38	8	56	8	5	51	3	掘り方	
	31-4・5		HP02	62	28	42	15	6	38	8	掘り方	
	31-7・ 10		HP03	45	14	70	12	5	68	5	掘り方	
	31-8・9		HP04	36	10	65	12	7	45	10	掘り方	
	31- 11・12		HP05	25	12	42	8	4	28	0	掘り方	
IV-35	-	VH-15	HP01	-	-	-	12	5	18	7	打ち込み	
	-		HP02	-	-	-	12	3	23	21	打ち込み	

表IV-6-1 VH出土土器属性表(1)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点数	部位	床面出土遺物		胎土	備考
								器形等	文様		
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
VH-01											
IV-4-1	82-1	044C	II B2	VH-01	2	1	胴部	やや外傾	貝殻状痕文-ミガキ (縦位)	砂粒多量・ 石英・繊維 中量混入	風化
IV-4-2	82-2	176A	III B3	VH-01	1	2	胴部 上半	やや外傾	貼付文(縦位)+刺突 文(半截竹管Z状(内))・ RL斜行縄文-ナデ	砂粒・石英 (φ2~4)多 量・亜角礫 (φ2~3) 少量混入	富良野 盆地系
IV-4-3	82-3	174A	III B3	VH-01	1	3	口縁部	平縁・やや外反-隅丸 角状	ナデ-RL斜行縄文・円 形刺突文-ナデ(横位)	砂粒・石英 (φ2~3)多 量・亜角礫 (φ2~4) 微量混入	富良野 盆地系
IV-4-4	82-4	166A	IVA1a	VH-01	1	1	口縁部	平縁・直立-隅丸角状	ナデ-RL斜行縄文+ 無文帯(ナデ(横位))+ 刺突文(半截竹管状 (内))・隆帯+RL斜行 縄文・円形刺突文	砂粒・石英 (φ2~3)多 量・亜角礫 (φ2~3)少 量・雲母 微量混入	富良野 盆地系
IV-4-5	82-5	412A	IVA1a	VH-01	1	1	口縁部 ~胴部 上半	平縁・やや外反-角状	ヘラナデ-貼付帯+LR 斜行縄文・無文帯+円 形刺突文(棒状工具) /RL斜行縄文・貼付帯 +RL斜行縄文- ヘラナデ	砂粒多量・ 炭化物 微量混入	
IV-4-6	82-6	387B	IVA1a	VH-01	1	1	口縁部 ~胴部 上半	平縁・やや外反-外傾・ 隅丸角状	ナデ-貼付帯+ RL斜行縄文/RL斜行 縄文・結縛痕-ヘラナ デ(平滑)	砂粒多量・ 亜角礫(φ 5m/m↓)少 量・赤色岩 粒微量 混入	平行 組織
				AS-26	Vc	1					
IV-4-7	82-7	387A	IVA1a	VMO-01	VbL	1	胴部 下半	外傾	RL斜行縄文(太さの異 なる2本の原体)・結縛 痕・貼付帯+LR斜行 縄文+縄線文- ヘラナデ	砂粒多量・ 亜角礫(φ 5↓)少量・ 赤色岩粒 微量混入	平行 組織
				AR-30	VbU	1					
IV-4-8	82-8	331B	IVA2	VH-01	1	2	口縁部 ~胴部 上半	平縁・ほぼ直立-隅丸 角状	RL斜行縄文-貼付帯 1B+RL斜行縄文・LR 斜行縄文+ナデ(横 位)/階段状積み上げ・ 刺突文(竹管状工具・ 斜状施文)LR斜行縄文	砂粒中量・ 亜角礫(φ 3↓)・パミス 少量混入	内面一 部剥落
IV-4-9	82-9	331A	IVA2	AN-31	VbL	1	胴部 上半	直立~やや外反	2段異原体羽状縄文・ 貼付帯B+LR斜行 縄文-ナデ(斜位)	砂粒中量・ 亜角礫(φ 3↓)・パミス 少量混入	
				AO-31		2					
IV-4-10	82-10	357A	IVA2	VH-01	1	1	口縁部	平縁・直立-角状	LR斜行縄文-貼付帯 1B+LR斜行縄文・刺 突文(斜位刺突文・棒 状工具)・RL斜行縄文	砂粒少量・ パミス微量 混入	内面 剥落
IV-4-11	82-11	300I	IVA2	AI-23	VbU	1	口縁部	平縁・やや外傾-内削り 切り出し角状	RLR斜行縄文-貼付帯 1A+RLR斜行縄文・円 形刺突文(竹管状工 具・やや下方から)・ RLR斜行縄文-ナデ (横位)	砂粒・パミ ス少量混入	
				AI-24		Vc					

表IV-6-1 VH出土土器属性表(2)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	床面出土遺物		胎土	備考
								器形等	文様		
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
IV-4-12	82-12	300B	IVA2	VH-01	1	5	胴部 下半	外傾	貼付帯2(2条)+RL・LR 斜行縄文・2段異原体 羽状縄文	砂粒・パミ ス少量混入	
IV-4-13	82-13	300A	IVA2	VH-01	1	6	胴部	外傾	LRL斜行縄文(羽状構 成)・貼付帯+斜行 縄文-ナデ	砂粒少量・ パミス中量 混入	
				AI-24	Vc	1					
				AI-25	VI	1					
IV-4-14	82-14	300C	IVA2	AH-22	VbL	1	底部	外傾-隅丸角状-平底	RL斜行縄文・LRL斜行 縄文(羽状構成)-無文 (ナデ(横位・斜位))-ナ デ-ナデ(横位)	砂粒・パミ ス少量混入	
				AI-24	VbU	1					
				AI-25	VbL	1					
IV-4-15	82-15	253A	IVA2	VH-01	1	2	口縁部	平縁・外傾-尖状 (内削ぎ)	無文(ナデ)	砂粒中量・ 珪角礫(φ4 ↓)少量 混入	
IV-4-16	82-16	305B	IVB1	VH-01	2	1	胴部	外傾	2段異原体羽状縄文 (施文後ナデ)-ナデ	砂粒多量・ パミス少量 混入	
				VH-11	1	1					
				AI-21	Vc	1					
				AJ-18	VbU	1					
				AL-24		1					
				AL-25		1					
AS-24	1										
VH-02											
IV-11-1	85-1	037A	II B2	VH-02	5	93	口縁部 ~底部	平縁・外反-丸状/直立 ~やや外傾/外傾- 隅丸角状-やや上げ底	縄圧痕(斜位)-縄線 文(2条1対・緩い波状 構成)・施文後ミガキ ミガキ(ヨコ・強)-隆帯 +縄圧痕文(縦位)/ 多軸絡条体回転文-ミ ガキ(タテ)/多軸絡条 体回転文-ミガキ ミガキ	砂粒少量・ 繊維中量 混入	外面炭 化物付 着多い
IV-11-2	85-2	016D	II B2	VH-02	1	1	胴部 上半	外反	縄線文(2条1対)・隆 帯+刺突文(半截竹管 状工具)/多軸絡条体 回転文+横走撚紋- ミガキ	砂粒・石英 結晶粒少 量・繊維少 量	
IV-11-3	85-3	016F	II B2	AR-25	VbM	1	胴部	直立	多軸絡条体回転文+ 撚糸文-ミガキ(横位)	砂粒・繊維 中量・石英 少量混入	
				AS-26	VbL	2					
					Vc	2					
IV-11-3				AS-27	VbL	1					
IV-11-4	85-4	069B	II B2	AQ-29	VbU	1	口縁部	平縁・直立-弱い外削 ぎ角状	LR斜行縄文+縄線文 (浅い圧痕)-縄線文(3 条)・2段異原体羽状 縄文-ヘラナデ(横位)	砂粒少量・ 繊維中量 混入	
IV-11-5	85-5	069C	II B2	VH-02	1	1	胴部	外傾	2段異原体羽状縄文- ヘラナデ(横位)	砂粒少量・ 繊維多量 混入	
				AR-29	VbU	1					
				AS-30	VI	1					
IV-11-6	85-6	081D	II B3	AG-22	VbL	1	口縁部	平縁・直立-隅丸角状	棒状工具回転圧痕? -RL斜行縄文+ナデ(施 文後)・沈線文+円形 刺突文-ナデ	砂粒多量・ 石英少量・ 珪角礫(φ2 ~6)中量・ 蛇紋岩 微量混入	
IV-11-7	85-7	081B	II B3	VH-02	1	1	胴部	直立	沈線文+円形刺突文・ RL斜行縄文+ナデ- ナデ	砂粒多量・ 石英少量・ 珪角礫(φ2 ~6)中量・ 蛇紋岩 微量混入	

表IV-6-1 VH出土土器属性表(3)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点数	部位	床面出土遺物		胎土	備考
								器形等	文様		
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
IV-11-8	85-8	081A	II B3	AP-27	VbU	1	胴部	直立	沈線文+円形刺突文・ RL斜行縄文+ナデ ナデ	砂粒多量・ 石英少量・ 亜角礫(φ2 ~6)中量・ 蛇紋岩 微量混入	
IV-11-9	85-9	320A	IVA1a	VH-02	1	1	口縁部 ~胴部 下半	台形状小突起・やや外 反-丸状(突起部)・内削 ぎ尖状	肥厚帯1+LR斜行縄 文・貼付文(丁字体)+ RL斜行縄文・貼付帯B +RL斜行縄文	砂粒多量 混入	やや 風化
				AO-27	VbL	1					
				AR-27	VbM	2					
					VbU	2					
				AS-27	Vc	1					
				AS-28	VbU	1					
				AT-31	VbL	2					
AX-30	VbM	1									
IV-11-10	85-10	320B	IVA1a	AN-32	Vc	1	底部	ほぼ直立-丸状-平底	LR斜行縄文	砂粒多量 混入	やや風 化内面 剥落
VH-03											
IV-15-1	87-1	068A	II B3	VH-03	3	1	口縁部 ~底部	平縁・直立-丸状/やや 外傾/直立-張り出し- 平底 手づくね成形	LR斜行縄文	砂粒少量・ 高師小僧 微量・焼成 粘土塊類 似胎土	水洗時 摩耗床 面出土
IV-15-2	87-2	011G	II B2	VH-01	1	1	口縁部	平縁・山形突起・外反- 丸状	縄圧痕-棒状貼付文 (剥落)・縄線文(6条)- ミガキ(横位)	砂粒・石英 中量・繊維 微量混入	
IV-15-3	87-3	011F	II B2	BD-30	Vc	1	口縁部 下半~ 胴部	直立	縄線文(6条)・隆帯+ 縄圧痕・多軸絡条体回 転文+撚糸文-ミガキ	砂粒・石英 中量・繊維 少量混入	
IV-15-4	87-4	011A	II B2	VH-03	2	1	胴部	直立	多軸絡条体回転文+ 撚糸文-ミガキ(縦位)	砂粒・石英 中量・繊維 微量混入	
				VSB-04	VbL	1					
				AU-30	Vc	1					
				AY-27	VbL	1					
AZ-27	Vc	1									
IV-15-5	87-5	011E	II B2	VSB-04	VbL	1	口縁部	平縁・外反-隅丸角状	撚糸文圧痕-縄線文 (6条)-ミガキ	砂粒・石英 中量・繊維 微量混入	
VH-08											
IV-29-1	89-14	468A	II B2	VH-08	1	1	口縁部	平縁-外反-丸状	縄圧痕-縄線文(2条1 対)・隆帯+突引文 (半截竹管)・多軸 絡条体回転文-ミガキ	砂粒・繊維 中量・石英 少量混入	
				AP-21	VbU	2					
				AS-24	VbU	1					
VH-10											
IV-29-2	89-15	303B	II B3	VH-10	2	1	口縁部	山形突起・やや外傾- 丸状	刻み(突起頂部)-LR斜 行縄文(非常に浅い)	砂粒少量・ 繊維中量 混入	
				AW-28	Vc	1					
IV-29-3	89-16	056A	II B3	VH-10	1	1	口縁部 ~胴部 上半	平縁・ほぼ直立-隅丸 角状	RL斜行縄文-縄線文 (同一条異原体・3条)・ 2段異原体羽状縄文- ヘラナデ(斜位)	砂粒少量・ 繊維多量 混入	
				AQ-32	Vc	1					
				AW-29	VbL	1					
				AX-26	VbU	1					
				AX-29	VbM	1					
AY-28	VbU	1									
IV-29-4	89-17	303A	III B2	AU-26	Vc	1	胴部~ 底部	外傾/直立-隅丸角状- 平底	無文(ナデ)-LR斜行 縄文(非常に浅い)- ナデ	砂粒少量・ 繊維中量 混入	
				AU-27	Vc	1					
					VbL	1					
				AV-27	VbU	1					
					Vc	1					
					VI	1					
AW-26	Vc	1									

表IV-6-1 VH出土土器属性表(4) 床面出土遺物

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等		文様		胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面				
VH-11													
IV-29-8	90-1	182A	IVAla	VH-11	2	9	口縁部 ~胴部	平縁・ほぼ直立-隅丸 角状/やや外傾	ナデ-無文帯(指頭幅 凹帯)・断面三角形状 隆帯・円形刺突文・RL 斜行縄文-指頭圧痕・ ナデ(横位)	砂粒・石英 (φ2~3)多 量・雲母 少量混入		富良野 盆地系	
IV-29-9	90-2	459A	IVAla	VH-11	3	2	胴部	外傾	RL斜行縄文	砂粒多量 混入		輪積形 成部分で 内面全 面剥落	
				AY-27	VbU	1							
VH-12													
IV-32-1	90-5	281B	IVAla	VH-12	2	1	口縁部	平縁・ほぼ直立-隅丸 角状	LR斜行縄文-貼付帯 1A+LR斜行縄文・沈 線文(半截竹管状(内)) +円形刺突文・ RL斜行縄文-ナデ	砂粒少量 混入			
IV-32-2	90-6	281A	IVAla	VH-12	2	4	胴部	外傾	2段異原体羽状縄文・ 結縛痕-ナデ	砂粒・亜角 礫(φ5↓) 少量混入			
VH-13													
IV-32-3	91-1	224A	III B3	VH-13	1	1	胴部	外傾	結束第1種羽状縄文	砂粒少量・ 繊維中量 混入			
					2	1							
					3	4							
IV-32-4	91-2	215C	III B3	VH-13	1	1	口縁部	平縁・外傾-角状	肥厚帯+押引文(ヘラ 状工具・2段結束第1 種羽状縄文)・貼付文 (縦位)+押引文(ヘラ 状工具)・LR斜行縄文・ 円形刺突文・貼付帯+ 刺突文	砂粒中量 混入			
				AH-20	Vc	1							
IV-32-5	91-3	215A	III B3	AH-19	VbL	1	胴部 上半	ほぼ直立	結束第1種羽状縄文・ 貼付帯(3段)+刺突文 (ヘラ状工具)/ ヘラナデ(横位)	砂粒(白色) 少量混入			
					VbU	1							
IV-32-6	91-4	215B	III B3	AF-17	VbU	1	底部	外傾-張り出し-平底	RL斜行縄文-ナデ- ナデ(横位)	砂粒中量 混入			
				AF-19	Vc	1							
IV-32-7	91-5	206A	III B3	VH-13	1	1	口縁部	平縁・外反-丸状	肥厚帯+押引文(半截 竹管状(内)・2段)・ナデ (横位)・円形刺突文- ナデ	砂粒中量・ 繊維微量 混入			
IV-32-8	91-6	223A	III B3	VH-13	1	1	胴部 上半	外傾	貼付帯(縦位・横位)+ 押引文(半截竹管状 (内))・結束第1種羽状 縄文-ヘラナデ(横位・ 斜位)	砂粒中量・ 繊維微量 混入			
IV-32-9	91-7	223B	III B3	VH-13	2	1	胴部	やや外傾	結束第1種羽状縄文- ヘラナデ(縦位・斜位)	砂粒中量・ 繊維微量 混入			
IV-32- 10	91-8	245B	III B3	VH-02	1	1	胴部	外傾からほぼ直立	燃糸回転文(横走 気味)-ナデ	砂粒少量・ 白色岩片 (φ5↓) 中量混入		平行 組織	
				AO-25	VbU	1							
				AO-30	VbU	1							

表IV-6-1 VH出土土器属性表(5) 床面出土遺物

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
IV-32- 11	91-9	245A	III B3	VH-13	1	1	胴部	内湾気味に直立	撚糸回転文(横走 気味)-ナデ	砂粒少量・ 白色岩片 (φ5↓) 中量混入	平行 組織
					2	1					
					AH-20	Vc					
IV-32- 12	91-10	356A	III B3	VH-13	1	1	底部	直立-隅丸角状-やや 上げ底	LR斜行縄文・無文帯- ナデ-指頭圧痕	砂粒少量 混入	
IV-32- 13	91-11	380A	IVA1a	VH-13	1	9	口縁部 下半~ 胴部 上半	平縁・やや外傾~直立	無文帯・貼付帯/2段 異原体羽状縄文+結 縛痕-ヘラナデ(縦・ 斜位)	砂粒礫(φ7 ↓)中量 混入	平行 組織
IV-32- 14	91-12	380B	IVA1a	AE-16	VbU	1	胴部 下半	外傾	貼付帯+2段異原体羽 状縄文・2段異原体 羽状縄文+結縛痕- ヘラナデ(横位)	砂粒礫(φ7 ↓)多量 混入	平行 組織
					VbL	2					
					VbU	2					
					KR	1					
IV-32- 15	91-13	380C	IVA1a	AG-20	VbU	1	底部	外傾-隅丸角状-平底 (高台状)	無文-無文-ナデ	砂粒礫多 量・亜角礫 (φ4↓) 少量混入	平行 組織強
IV-33- 16	91-14	379A	IVA1a	VH-13	1	11	胴部	外傾-直立	貼付帯+地文縄文・ 2段異原体羽状縄文	砂粒中量・ バミス多量 混入	
					VbL	1					
					VbU	2					
					Vc	1					
IV-33- 17	91-15	379B	IVA1a	VH-13	1	1	底部	やや外傾-隅丸角状- 平底	RL斜行縄文	砂粒中量・ バミス多量 混入	
VH-14											
IV-37-1	92-1	374A	IVA1a	VH-14	1	3	胴部 下半	外傾	貼付帯+RL・LR・ RL(羽状構成)一部 重複文・貼付帯+ LR斜行縄文-ヘラナデ (縦位)	砂粒中量 混入	
VH-16											
IV-37-6	92-6	302A	IVB1	VH-01	1	1	口縁部	平縁・直立-内削り隅丸 角状	RL斜行縄文-2段異原 体羽状縄文(一部重 複・施文後ナデ)- RL斜行縄文	砂粒多量・ バミス微量 混入	
				VHX-01		1					
				AH-20		VbL					

表IV-6-2 VH出土石器属性表(1)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	グリッド/ 遺構名	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
IV-4-17	82-17		27634	ポイント類B	B1b	5	VH-01	55.3	17.3	5.4	3.5	Obs.	
IV-4-18	82-18		25456	ポイント類B	B1b	5	VH-01	(42.8)	20.6	7.3	(4.4)	Obs.	
IV-4-19	82-19		27637	ポイント類B	B1a②	5	VH-01	(42.6)	(28.2)	(12.7)	(7.4)	Obs.	
IV-4-20	82-20		27639	ポイント類B	B1a②	5	VH-01	(32.0)	(25.9)	7.8	(6.6)	Obs.	
IV-4-21	82-21		27640	ポイント類B	B1a②	5	VH-01	(29.5)	(30.7)	(8.8)	(8.0)	Obs.	
IV-4-22	82-22		27641	ポイント類B	B1a②	5	VH-01	(35.0)	(28.3)	(9.7)	(9.1)	Obs.	
IV-5-23	82-23		28001	つまみ付きナイフ	A2a②	5	VH-01	47.6	18.6	7.7	6.5	Obs.	
IV-5-24	82-24		27642	つまみ付きナイフ	A2a②	5	VH-01	65.1	24.2	8.1	9.6	Obs.	
IV-5-25	82-25		27636	つまみ付きナイフ	A2a②	5	VH-01	72.7	26.5	9.9	15.2	Obs.	
IV-5-26	83-26		27638	つまみ付きナイフ	A2a②	5	VH-01	53.7	24.5	9.2	12.7	Obs.	
IV-5-27	83-27		27633	つまみ付きナイフ	A1a③	5	VH-01	83.7	24.8	11.5	22.2	Obs.	
IV-5-28	83-28		25452	石核	-	5	VH-01.HP01	28.8	24.6	15.4	7.6	Obs.	
IV-5-29	83-29		27645	石斧	A2	5	VH-01	(50.3)	52.9	13.3	(58.0)	Gr-Mud.	基部欠
IV-5-30	83-30		27644	石斧	B	5		122.7	56.5	21.5	230.0	Gr-Mud.	未成品・完
IV-5-31	83-31		27672	たたき石	I A2	5	VH-01	144.3	52.1	21.7	255.0	Sa.	完
IV-5-32	83-32		27646	すり石	D	5	VH-01	113.4	80.6	58.0	615.0	Sa.	完
IV-5-33	83-33		25457	砥石	-	5	VH-01	(90.5)	58.0	45.6	(305.0)	Sa.	欠
IV-5-34	83-34	VST 016	25455-1 27668	砥石	-	5	VH-01	(92.0)	(56.7)	(15.4)	(115.0)	Sa.	欠
IV-5-35	83-35		27659	石鏃	-	5	VH-01	107.9	(126.5)	15.6	(205.0)	Sa.	欠
IV-5-36	83-36		27666	石鏃	-	5	VH-01	(89.6)	(70.2)	(19.5)	(140.0)	Sa.	欠・破
IV-6-37	83-37		25420	砥石	-	5	VH-01	(114.7)	(95.8)	41.0	(560.0)	Sa.	欠
IV-6-38	83-38	VST 084	27674 25989	砥石	-	5 1	VH-01 VHX-01	(221.0)	(142.0)	55.0	(1320.0)	Sa.	欠
IV-6-39	83-39		27673	砥石	-	5	VH-01	(165.0)	(137.4)	(25.2)	(640.0)	Sa.	破
IV-6-40	84-40		25454	滑沢面のある礫	-	5	VH-01	262.0	241.0	121.3	12760.0	Sa.	完
IV-6-41	84-41	VST 001	25441 25442 26024	滑沢面のある礫	-	5	VH-01	(300.0)	82.8	77.3	(2420.0)	Sa.	欠
IV-6-42	84-42		25453	滑沢面のある礫	-	5	VH-01	268.5	116.5	96.3	3920.0	Sa.	完
IV-7-43	84-43		25434	線状痕のある礫	-	5	VH-01	102.6	80.4	40.9	355.0	Sa.	完
IV-7-44	84-44		27681	石皿	-	6	VH-01	(203.5)	(157.5)	25.3	(1050.0)	Sa.	欠
IV-7-45	84-45		25460	石皿	-	5	VH-01	254.0	133.1	73.3	2940.0	Sa.	完
IV-7-46	84-46		27665	石皿	-	5	VH-01	(138.0)	(143.5)	(92.4)	(1400.0)	Sa.	破
IV-7-47	84-47		25459	石皿	-	5	VH-01	(220.5)	(141.5)	35.5	(2900.0)	Sa.	欠
IV-7-48	84-48		25436	台石	-	5	VH-01	(163.0)	(122.5)	56.8	(1715.0)	Sa.	欠
IV-11-12	85-12		2450	ポイント類A	A3	MO	VH-02	35.1	15.1	5.5	2.1	Obs.	
IV-11-13	85-13		3568	ポイント類A	A3	VbU	VH-02	32.5	11.4	4.3	1.4	Obs.	
IV-11-14	85-14		7403	ポイント類A	A4	7	VH-02	32.8	18.6	5.4	2.2	Obs.	
IV-11-15	85-15		7401	ポイント類B	B1a①	4	VH-02	(26.8)	(27.1)	(10.6)	(13.0)	Obs.	
IV-12-16	86-16		4961	ポイント類B	B1a②	4	VH-02	(75.7)	40.7	9.5	(21.8)	Obs.	
IV-12-17	86-17		4994	ポイント類B	B1a②	4	VH-02	73.1	36.5	8.9	17.2	Obs.	
IV-12-18	86-18		7175	つまみ付きナイフ	A2a②	5	VH-02	35.9	18.1	7.3	4.4	Obs.	
IV-12-19	86-19		2460	ポイント類A	A4	3	VH-02	25.9	14.7	5.2	1.4	Obs.	
IV-12-20	86-20		VH02-488	ポイント類B	B1a①	2	VH-02	43.8	30.8	10.3	10.3	Obs.	四分割取上げ
IV-12-21	86-21		VH02-487	ポイント類B	B1a②	-	VH-02	72.2	39.7	13.7	23.3	Sh.	四分割取上げ
IV-12-22	86-22		14251	石錐	F	1	VH-02	(22.9)	(10.5)	(6.2)	(1.7)	Obs.	
IV-12-23	86-23		7395	たたき石	V	9	VH-02	(86.6)	(68.6)	(32.4)	(225.0)	Sa.	破
IV-12-24	86-24		14248	石皿	-	5	VH-02	422.5	273.0	68.0	7400.0	Sa.	完
IV-15-6	87-6		6773	ポイント類A	A2a	2	VH-03	18.7	13.4	3.3	0.8	Obs.	
IV-15-7	87-7		8019	石錐	D2	3	VH-03	(45.4)	12.1	6.0	(2.7)	Obs.	
IV-15-8	87-8		8016	たたき石	II A3	3	VH-03	116.4	70.2	30.6	425.0	Sa.	完
IV-15-9	87-9		8014	すり石	D	3	VH-03	113.7	91.0	49.8	593.0	Sa.	完・被熱

表IV-6-2 VH出土石器属性表(2)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	グリッド/ 遺構名	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
IV-15-10	87-10		8015	砥石	-	3	VH-03	(78.3)	59.4	42.3	(240.0)	Sa.	欠
IV-15-11	87-11		8017	石鋸	-	3	VH-03	(184.0)	146.0	23.3	(575.0)	Sa.	欠
IV-16-12	87-12		25305	滑沢面のある礫	-	3	VH-03	(134.0)	68.8	38.3	(550.0)	Sa.	欠
IV-16-13	87-13		25303	石皿	-	3	VH-03	371.6	187.0	57.6	4420.0	Sa.	完
IV-20-1	88-1		5523	ポイント類B	B1a②	2	VH-04	(47.7)	33.3	9.0	(13.5)	Obs.	
IV-20-2	88-2		7361	石皿	-	4	VH-04	(163.0)	(108.7)	116.9	(2820.0)	Sa.	欠
IV-20-3	88-3		7477	石斧	A2a	4	VH-05	151.4	53.7	17.4	260.0	Bl-Sch.	完
IV-20-4	88-4		7813	石斧・石器群・削片	D2	3	VH-06	30.1	20.6	5.0	3.0	Gr-Mud.	
IV-20-5	88-5		8338	石斧・石器群・削片	D2	3	VH-06	54.6	25.2	5.2	8.0	Gr-Mud.	
IV-20-6	88-6		8316-1	石斧・石器群・削片	D2	3	VH-06	67.2	45.1	7.8	24.0	Gr-Mud.	
IV-20-7	88-8		8351	たたき石	I A3	3	VH-06	142.7	43.4	20.9	250.0	Gr-Mud.	完
IV-20-8	88-9		8322	石皿	-	2	VH-06	379.0	317.5	223.0	(29540.0)	Sa.	完
IV-23-1	89-1		13393	ポイント類B	B1a①	3	VH-07	74.6	33.0	10.1	19.8	Obs.	
IV-23-2	89-2		11523	ポイント類B	B1a②	3	VH-07	44.3	27.9	8.0	7.7	Obs.	
IV-23-3	89-3		11524	ポイント類B	B1a②	3	VH-07	(30.7)	(24.3)	(8.4)	(5.5)	Obs.	
IV-23-4	89-4		11538	ポイント類B	B1a②	3	VH-07	(23.7)	(29.6)	(7.9)	(4.3)	Obs.	再調整
IV-23-5	89-5		11456	石斧	B	3	VH-07	142.9	48.6	17.8	199.0	Gr-Mud.	完・未成品
IV-23-6	89-6		10620	石斧	B3a	VbM	VH-07	82.9	32.6	9.1	37.0	Gr-Mud.	完・擦痕有
IV-23-7	89-7		13392	たたき石	II B3	3	VH-07	135.0	94.9	40.7	650.0	Sa.	完
IV-23-8	89-8		11453	たたき石	V	3	VH-07	(102.0)	(74.0)	44.7	(440.0)	Sa.	欠
IV-23-9	89-9		13391	石鋸	-	3	VH-07	228.0	134.6	25.7	1020.0	Sa.	完
IV-23-10	89-10		11457	石鋸	-	3	VH-07	126.0	73.0	11.5	150.0	Sa.	完
IV-23-11	89-11	VST 073	11454 10671-1	砥石	-	3 VbM	VH-07 VPB-01	(161.0)	(83.0)	44.1	(800.0)	Sa.	欠
IV-23-12	89-12		13396	石製品	-	1	VH-07	34.2	20.4	9.5	12.5	Tal.	完・滑石分析
IV-23-13	89-13		13395	石製品	-	1	VH-07	51.7	28.3	12.7	28.9	Tal.	完・滑石分析
IV-29-5	89-18		18557	ポイント類A	A3	2	VH-10	31.0	18.8	7.3	3.2	Obs.	
IV-29-6	89-19		20343	ポイント類A	A4	2	VH-10	34.7	10.2	4.3	1.2	Obs.	
IV-29-7	89-20		29715	石製品	-	1	VH-10	41.0	20.0	5.5	4.6	Gr-Mud.	完・ポイント状
IV-29-10	90-3		29437	石核		2	VH-11.PB01	36.5	32.6	24.8	28.7	Obs.	
IV-29-11	90-4		20479	石皿	-	3	VH-11	(123.0)	(96.7)	(77.8)	(1370.0)	Sa.	破
IV-33-18	91-16		VH-13-56	つまみ付きナイフ	A1a③	3	VH-13	33.3	12.0	4.2	2.1	Obs.	
IV-33-19	91-17		27530	両面調整石器		2	VH-13	75.7	40.6	12.4	28.6	Obs.	
IV-33-20	91-18		27529	石核		2	VH-13	38.1	20.3	26.5	23.2	Obs.	
IV-33-21	91-19		27843	石鋸	-	3	VH-13	64.5	#####	9.8	(45.0)	Sa.	欠
IV-33-22	91-20		27844	砥石	-	3	VH-13	(136.0)	(88.5)	35.2	(400.0)	Sa.	破・線条痕有
IV-37-2	92-2		29151	石斧	B	1	VH-14.HP01	134.7	30.9	23.1	185.0	Gr-Mud.	完・未成品
IV-37-3	92-3		26959	たたき石	IV	1	VH-14	(164.0)	109.1	78.8	(1840.0)	Sa.	欠・被熱
IV-37-4	92-4		28924	つまみ付きナイフ	A1a③	2	VH-15	77.3	23.1	10.5	18.4	Obs.	
IV-37-5	92-5		29508	石鋸	-	3	VH-15	(82.6)	(88.6)	19.9	(185.0)	Sa.	欠
IV-37-7	92-7	VST 011	24242 24272	石斧	B2C2	1	VH-16	145.3	45.7	30.2	355.0	Gr-Mud.	完・被熱・未成品
IV-37-8	92-8		25988	石皿	-	1	VH-16	(231.0)	146.0	83.0	(3000.0)	Sa.	欠

表IV-7 VGP・VP属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	調査 層位	平面形 調査面/坑底面	調査面規模 (cm)		坑底面規模 (cm)		深さ (cm)	長軸方 向	調査 面長 短比	坑底 面長 短比	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸					
IV-38	39-1-2	VGP-01	AS-25・26	VI	隅丸長方形/隅丸長方形	223	135	199	115	28	N-79° E	1.7	1.7	
	3-4	VGP-02	AS-25	VI	隅丸長方形/隅丸長方形	182	138	165	120	22	N-75° E	1.3	1.4	
	5-6	VGP-03	AO・AP-28	VI	隅丸方形/隅丸方形	205	(132)	172	(121)	24	N-25° E	1.6	(1.4)	
	7-8	VGP-04	AT-25-26, AI-25	VI	隅丸長方形/隅丸長方形	252	112	236	102	18	N-53° W	2.3	2.3	
IV-39	40-1~3	VGP-05	AO・AP-29	VI	隅丸長方形/隅丸長方形	227	177	153	93	47	N-59° E	1.3	1.6	
	4~6	VGP-06	AO-30	VI	隅丸方形/隅丸方形	195	174	181	154	21	N-52° E	1.1	1.2	
	7~9	VGP-07	AP-29・30	VI	楕円形/楕円形	164	120	158	107	15	N-55° E	1.4	1.5	
	10~11	VGP-08	AO-29	VI	楕円形/楕円形	239	165	202	140	15	N-22° W	1.4	1.4	
IV-40	41-1~3	VGP-09	AO-30	VI	隅丸長方形/隅丸長方形	206	112	183	101	16	N-82° E	1.8	1.8	
	4~6	VGP-10	AP-26	VI	隅丸長方形/隅丸長方形	261	182	203	161	41	N-82° E	1.4	1.3	
	7~9	VGP-11	AP-30	VI	隅丸方形/隅丸方形	169	149	161	154	44	N-45° W	1.1	1.0	
	10-11	VGP-12	AR-26・27	VI	隅丸方形/隅丸方形	(160)	(127)	(104)	111	31	N-13° E	1.3	0.9	
IV-41	42-1-2	VGP-13	AM・AN-29	VI	隅丸方形/隅丸方形	187	135	(153)	(107)	41	N-18° W	1.4	1.4	
	3-4	VGP-14	AM-25	VIIa	隅丸長方形/隅丸長方形	267	172	246	149	41	N-0°	1.6	1.7	
	5~7	VGP-15	AN・AO-26-27	Vc	隅丸方形/隅丸方形	185	(182)	154	152	41	N-49° E	(1.0)	1.0	
	8-9	VGP-16	AM-26	Vc	隅丸長方形/隅丸長方形	208	136	198	113	31	N-32° W	1.5	1.8	
IV-42	43-1-2	VGP-17	AJ・AK-23	VI	楕円形/円形	147	(121)	58	58	50	N-15° W	(1.2)	1.0	
	3-4	VGP-19	AM・AN-23-24	VI	隅丸方形/隅丸方形	204	187	175	157	31	N-21° E	1.1	1.1	
	5~7	VGP-20	AH-16・17	VIIa	円形/円形	209	(179)	188	(162)	7	N-40° E	1.2	1.2	
	8~10	VGP-21	AL-25・26	VI	楕円形/楕円形	190	143	163	111	28	N-6° E	1.3	1.5	
IV-43	44-1~3	VGP-22	AG-21	VI	楕円形/長楕円形	227	163	201	127	31	N-43° E	1.4	1.6	
	4-5	VGP-23	AN・AO-30	VI	隅丸方形/隅丸方形	(228)	(198)	184	154	43	N-50° E	1.2	1.2	
	6-7	VGP-24	AH-19	Vc	隅丸方形/隅丸方形	113	(102)	72	(85)	27	N-24° E	1.1	0.8	
	8-9	VGP-25	AG-18	VbL	楕円形/楕円形	250	183	240	172	23	N-60° E	1.4	1.4	
IV-44	45-1~3	VGP-27	AI-30	Vb	円形/楕円形	222	222	191	152	44	N-44° E	1.0	1.3	旧VP-05
	4	VGP-28	AM-30	VI	楕円形/楕円形	209	171	153	128	60	N-20° W	1.2	1.2	旧VP-06
	5-6	VGP-29	AT-26	VI	楕円形/楕円形	182	133	157	120	35	N-33° W	1.4	1.3	旧VP-16
IV-51	45-7-8	VP-01	AQ-26-27, AR-27	VI	楕円形/楕円形	(192)	(180)	(170)	(120)	(62)	N-33° W	1.3	1.4	VPB-02
	46-1-2	VP-02	AT-31・32	VI	円形/円形	(52)	46	(38)	33	23	N-47° W	1.1	1.2	
	3-4	VP-03	AN-31	VI	楕円形/長楕円形	164	115	150	91	18	N-82° E	1.4	1.6	
	5-6	VP-07	AM-27	VII-07 履土	円形/不明	42	41	—	26	15	N-74° W	1.0	—	VH-07より新
	7-8	VP-08	AM-27	VII-07 履土	隅丸長方形/隅丸方形	61	42	54	39	6	N-87° E	1.5	1.4	VH-07より新
	47-1-2	VP-12	AT-27	VI	長楕円形/長楕円形	234	151	206	132	15	N-68° W	1.5	1.6	
IV-52	3-4	VP-13	AT-27	VI	楕円形/楕円形	118	(93)	(82)	97	6	N-3° E	0.8	0.8	
	47-5~7	VP-14	AT-30	Vc	円形/円形	220	199	191	178	29	N-77° W	1.1	1.1	
	—	VP-15	AX-28	VI	円形/円形	75	71	68	62	19	N-34° E	1.1	1.1	VH-10より新
	47-8 48-1	VP-17	BF-31	VI	長楕円形/長楕円形	61	36	43	15	26	N-3° E	1.7	2.9	
	2-3	VP-18	BF-31	VI	楕円形/楕円形	69	53	51	41	11	N-30° W	1.3	1.2	
	4~6	VP-19	AS・AT-24	VI	(円形)/(円形)	103	29	51	53	(33)	N-3° W	—	1.0	
	7-8	VP-20	AY-27・28	Vc	楕円形/楕円形	(263)	(103)	(141)	(98)	11	N-69° E	2.6	1.4	
IV-53	49-1	VP-21	AW・AX-28	VI	楕円形/楕円形	(134)	(82)	(91)	(77)	17	N-20° W	1.6	1.2	
	49-2-3	VP-23	AT・AS-25	VI	楕円形/楕円形	201	151	164	108	(29)	N-11° W	1.3	1.5	
	4-5	VP-24	BD-31	VI	長楕円形/長楕円形	119	52	113	45	8	N-64° W	2.3	2.5	
	6-7	VP-25	AY-29	VI	楕円形/長楕円形	73	51	20	12	33	N-47° W	1.4	1.7	
	50-1-2	VP-26	AU-26	VI	円形/円形	71	60	46	42	23	N-8° E	1.2	1.1	
	3-4	VP-27	AS-27	VI	楕円形/円形	(85)	78	59	53	37	N-81° W	1.1	1.1	
	5-6	VP-29	BE-30・31	VI	楕円形/楕円形	85	65	57	46	39	N-6° W	1.3	1.2	
7-8	VP-30	AJ・AK-19	VI	楕円形/楕円形	177	137	140	101	32	N-33° E	1.3	1.4		

表IV-8-1 VGP・VP・VF・TP出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等		文様		胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面				
VGP-10													
IV-46-7	93-7	057A	II B5	VGP-10	1	1	口縁部	外傾		肥厚帯	砂粒少量・ 珪角礫(φ2 ~5)少量・ 蛇紋岩(φ2 ~7)混入	風化・ 器表面 剥落	
TP-04													
IV-72- 17	96-17	023A	II B2	AV-30	VbL	1	口縁部 ~胴部 上半	平縁・外反-隅丸角状/ ほぼ直立		絡条体圧痕文-絡条体 圧痕文・隆帯+縄圧痕 -ミガキ(横位)/多軸絡 条体回転文-ミガキ(縦 位)	砂粒・石英 多量・繊維 少量混入		
				TP-04	1	1							
IV-72- 18	96-18	023B	II B2	TP-04	1	1	胴部 上半	内湾		絡条体圧痕文・隆帯+ 縄圧痕・多軸絡条体 回転文-ミガキ(縦位)	砂粒・石英 多量・繊維 少量混入		
TP-07													
IV-72- 19	96-19	087A	II B3	TP-07	1	2	胴部 下半~ 底部 側面	外傾/丸状		ナデ-ナデ	砂粒・繊維 少量混入		
				試掘	-	1							
TP-18													
IV-72- 20	96-20	408A	IVA1a	TP-18	1	1	胴部 下半	外傾		2段異原体羽状縄文・ 貼付帯+縄線文+RL 斜行縄文/ナデ	砂粒中量 混入		
VP-14													
IV-72-3	96-3	137F	III B2	VP-14	1	1	口縁部	平縁・丸状-外反		RL斜行縄文-貼付帯 +刻み(斜位・棒状工 具)・LR斜行縄文-ヘ ラケズリ(横位)	砂粒中量・ パミス微 量・繊維 中量混入		
IV-72-4	96-4	386B	IVA1a	AS-23	VbL	1	口縁部	平縁・やや外反-やや 内削ぎ隅丸角状/直立		ナデ-貼付帯A+LR斜 行縄文/LR斜行縄文- ナデ(横位)	砂粒少量 混入		
IV-72-5	96-5	386A	IVA1a	VP-14	1	2	胴部 上半~ 下半	(胴部下半)外傾-(胴部 上半・直立)		LR斜行縄文(太さ異なる 2本の原体)・結縛痕 -ナデ	砂粒中量 混入	種子圧 痕有	
				VSB-08	VbU	1							
				AT-28	Vc	1							
				AU-28	1	1							
				AX-26	VbU	1							
VP-20													
IV-72-6	96-6	372A	IVA1c	VH-10	2	1	胴部	平縁・直立-隅丸角状		ヘラナデ-貼付帯 A2(剥離)・無文帯(ナ デ)・貼付帯B+RL斜 行縄文(縦回転)-指頭 圧痕ヘラナデ	砂粒中量・ 珪角礫(φ3 ↓)少量・海 綿骨針 微量混入	外面一 部剥落	
				VP-20									
VP-30													
IV-72-8	96-8	230A	III B3	VGP-18	1	2	胴部	外傾		R斜行縄文+結縛痕	砂粒中量・ 繊維微量		
				AF-18	VbL	1							
VSF-03													
IV-72-9	94-9	407A	IVA1a	VF-10	Vc	1	口縁部	平縁・やや外反-角状		ナデ-三角形状肥厚帯 +LR斜行縄文・円形 刺突文(棒状工具)-ナ デ	砂粒多量・ 炭化物 微量混入		
IV-72-2	94-10	261A	IVB1	VF-10	Vc	1	口縁部	平縁・直立-隅丸角状		RL斜行縄文(施文後ナ デ)-RL斜行縄文・多段 構成-RL斜行縄文(施 文後ナデ)	砂粒多量・ パミス・角 礫少量 混入	施文後 ナデ	
VF-04													
IV-72- 12	96-12	137A	III B2	VF-04	1	2	胴部 上半	直立~やや外反		貼付帯(2条)+刻み (斜位棒状工具)・LR 斜行縄文(横走気味) +綾絡文-ヘラナデ・ ヘラケズリ(横位)	砂粒中量・ パミス微 量・繊維 中量混入		
				AU-32	VbL	1							

表IV-8-2 VGP・VP出土石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	グリッド/ 遺構名	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
IV-45-1	93-1	-	25209	石斧	B3b	1	VGP-03	59.7	34.0	9.1	25.0	Gr-Mud.	完・未成品
IV-45-2	93-2	-	26119	たたき石	II A2	1	VGP-03	73.0	67.5	29.5	200.0	Sa.	完
IV-45-3	93-3	-	26421	石皿	-	1	VGP-03	421.0	276.0	196.0	36,900.0	Sa.	完
IV-45-4	93-4	-	26104	つまみ付きナイフ	A1a③	1	VGP-08	65.6	28.6	6.9	15.5	Obs.	完
IV-46-5	93-5	-	25280	石皿	-	1	VGP-09	273.0	235.0	62.4	3,940.0	Sa.	完・線条痕有
IV-46-6	93-6	-	25279	石皿	-	1	VGP-09	482.5	183.0	178.0	20,700.0	Sa.	完
IV-46-8	93-8	-	25372	砥石	-	1	VGP-10	111.9	60.8	38.4	265.0	Sa.	完
IV-46-9	93-9	-	25371	砥石	-	1	VGP-10	111.2	69.1	50.5	565.0	Sa.	完
IV-47-10	94-10	-	28362	ポイント類B	B1a②	VbU	VGP-11	50.6	33.3	12.2	(14.6)	Obs.	欠
IV-47-11	94-11	-	27685	たたき石	IV	1	VGP-11	(74.0)	(87.1)	72.9	(530.0)	Sa.	破
IV-47-12	94-12	-	27683	石皿	-	1	VGP-11	(285.0)	240.0	115.0	(11,500.0)	Sa.	欠
IV-47-13	94-13	-	28364	石斧	B1	1	VGP-12	(48.9)	43.3	14.6	(55.0)	Gr-Mud.	欠
IV-47-14	94-14	-	27892	台石	-	1	VGP-13	(209.0)	148.0	78.0	(2,900.0)	Sa.	欠・未成品
IV-48-15	94-15	-	27918	たたき石	IV	1	VGP-15	(126.5)	62.8	28.1	(320.0)	Sa.	欠・線状痕有
IV-48-16	94-16	-	27915	砥石	-	1	VGP-15	138.8	86.1	49.5	710.0	Sa.	完・線状痕有
IV-48-17	94-17	-	27914	線条痕のある礫	-	1	VGP-15	(148.0)	(86.7)	30.0	(575.0)	Sa.	欠
IV-48-18	94-18	-	27919	石皿	-	1	VGP-15	165.0	175.0	92.3	2,800.0	Sa.	完
IV-48-19	94-19	-	27917	台石	-	1	VGP-15	181.0	125.7	67.2	1,775.0	Sa.	完・線状痕有
IV-49-20	95-20	-	26966	すり石	D	1	VGP-20	105.1	101.9	66.4	970.0	Sa.	完
IV-49-21	95-21	-	28441	つまみ付きナイフ	A2a②	1	VGP-21	42.7	25.2	7.7	6.6	Obs.	完
IV-49-22	95-22	-	28510	たたき石	V	1	VGP-21	94.7	82.4	46.1	625.0	Sa.	完
IV-49-23	95-23	-	28514	すり石	D	1	VGP-21	(90.3)	(83.8)	60.1	(595.0)	Gab.	欠
IV-49-24	95-24	-	28506	台石	-	2	VGP-21	501.0	192.0	135.0	18,200.0	Sa.	完
IV-50-25	95-25	-	28513	台石	-	1	VGP-21	213.0	134.0	99.1	3,600.0	Sa.	完
IV-50-26	95-26	-	28502	砥石	-	2	VGP-23	134.7	57.7	45.0	485.0	Sa.	完
IV-50-27	95-27	-	28892	砥石	-	1	VGP-25	53.3	48.9	32.2	65.0	Sa.	完
IV-72-1	96-1-1	-	9759	ポイント類B	B1a①	2	VP-07	40.8	17.5	7.3	4.7	Obs.	完
IV-72-2	96-1-2	-	22101	石製品	-	1	VP-13	58.7	28.3	12.3	35.6	Tal.	完・滑石分析
IV-72-7	96-1-7	-	24393	ポイント類B	B1a②	VbU	VP-20	(54.9)	27.9	10.2	12.6	Obs.	欠
IV-72-9	96-1-9	-	26920	たたき石	I B3	1	VP-30	(104.8)	42.8	30.0	(180.0)	Sa.	欠・頂部(尖)

表IV-9 VSF・VF属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	調査面層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
IV-54	51-1・2	VSF-01	AS-32・33	Vc	不整形	79	55	3	有	
	51-3・4	VSF-02	BC-29	Vb	長楕円形	55	24	7	-	
	51-5・6	VSF-03	AN-25	Vc	円形	(24)	(19)	4	-	
IV-54	51-7・8	VF-02	AL-31	VI	不整形	70	47	11	-	
	52-1・2	VF-04	AS-32	Vc	不整形	90	89	9	-	
	52-3・4	VF-06	AT-29	Vc	不整形	41	39	7	-	
	52-5・6	VF-07	AT-25	VIIa	不明	(42)	(33)	5	-	
	52-7・8	VF-09	BF-30	VbL	不整形	57	13	3	-	
IV-55	53-1・2	VF-11	AW-26	Vc	不整形	75	59	10	-	
	53-3・4	VF-12	AV-27	VI	不整形	40	13	5	-	
	53-5・6	VF-13	AU-27	VIIa	不整形	72	44	4	-	
	53-7・8	VF-14	AV-29	VIIb	長楕円形	(48)	31	7	-	
	54-1・2	VF-15	AT-24	VI	長楕円形	(30)	21	11	-	
	54-3・4	VF-16	AU-24	VI	不整形	59	(27)	10	-	
	54-5・6	VF-17	AY-28	VI	長楕円形	63	(37)	11	-	
	-	VF-18	AV-26	-	不整形	32	22	3	-	
	54-7・8	VF-19	AS-25	VI	不整形	50	(22)	12	-	
55-1・2	VF-20	AV-25	VI	不整形	62	38	5	-		
IV-56	55-3・4	VF-21	AV-25	VI	円形	60	55	4	-	
	55-5・6	VF-22	AT-26	VIIa	円形	49	41	9	-	
	55-7	VF-24	AO-25	VI	長楕円形	37	16	11	-	
	55-8	VF-25	AU-26	VI	長楕円形	16	6	8	-	
	56-1・2	VF-26	AT-24	VI	円形	21	17	5	-	
	56-3・4	VF-27	AW-29	VI	円形	25	23	8	-	
	56-5	VF-28	AT-27	VI	長楕円形	29	12	2	-	
	56-6	VF-29	BA-28	VI	不整形	21	21	6	-	
	56-7・8	VF-30	AE-18	VI	円形	30	26	6	-	

表IV-10 Tピット属性表(1)

挿図 番号	図版 番号	遺構名	分類	グリッド	平面形	調査 面層 位	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸方向	杭 跡	調査面 長短比	坑底面 長短比	備考
					調査面/坑底面		長軸	短軸	長軸	短軸						
IV-57	57-1・2	TP-01	A2a	AX・AY-31	楕円形/溝状	Vc	(300)	90	194	17	150	N-19° W	-	(3.4)	11.4	
	57-3・4	TP-02	A2a	AY-30・31	楕円形/溝状	VI	252	79	182	16	112	N-24° W	-	3.2	11.4	
	57-5・6	TP-03	A1a	AW-30・31 AX-30	楕円形/溝状	Vc	355	98	325	17	152	N-56° W	-	3.6	19.1	
IV-58	57-7・8	TP-04	A1a	AX・AY-30	長楕円形/溝状	VI	357	87	306	19	125	N-19° W	-	4.1	16.1	
	58-1・2	TP-05	B1	AW・AX-30	楕円形/長楕円形	Vc	307	99	231	33	127	N-11° W	-	3.1	7.0	
	58-3	TP-06	A2a	AW-32	楕円形/溝状	VI	225	58	(179)	10	113	N-22° W	-	3.9	(17.9)	
IV-59	58-4~ 6	TP-07	A1a	AX-31	楕円形/溝状	Vc	315	(115)	(295)	20	156	N-51° W	-	(2.7)	14.8	
	58-7・8	TP-08	A2a	AW・AX-30	溝状形/溝状	Vc	211	25	(190)	9	44	N-0°	-	8.4	(21.1)	
	59-1・2	TP-09	A2a	AL-30・31 AM-31	楕円形/溝状	VI	252	82	198	13	127	N-82° E	-	3.1	15.2	
IV-60	59-9・ 10	TP-10	C1	AI-31	円形/円形	VI	145	106	101	61	71	N-6° E	-	1.4	1.7	
	59-3・4	TP-11	C1	AK・AL-33	円形/円形	VI	170	131	73	46	102	N-46° E	-	1.3	1.6	
	59-7・8	TP-12	A1a	AM-30	楕円形/溝状	VI	272	86	200	19	152	N-69° E	-	3.2	10.5	
	60-1・2	TP-13	A1a	AI-33・34	楕円形/溝状	VI	249	70	204	22	115	N-40° E	-	3.6	9.3	
IV-61	59-5・6	TP-14	C1	AL-30	円形/円形	VI	152	151	68	43	117	N-17° W	-	1.0	1.6	
	61-5・6	TP-15	C1	AG-27	円形/円形	VI	133	103	88	43	88	N-68° W	-	1.3	2.0	
	60-3・4	TP-16	A1a	AW・AX-29	楕円形/溝状	Vc	308	87	224	18	121	N-19° W	-	3.5	12.4	
IV-62	60-5・6	TP-17	A1a	AY・AZ-30	長楕円形/溝状	VI	303	63	271	24	125	N-17° E	-	4.8	11.3	
	60-7・8	TP-18	A1a	AZ-28	楕円形/溝状	VI	329	99	264	22	138	N-20° E	-	3.3	12.0	
	61-1・2	TP-19	A1a	AW-27・28	楕円形/溝状	Vc	395	113	331	(25)	162	N-19° W	-	3.5	(13.2)	
IV-63	61-3・4	TP-20	A1a	AV・AW-27	長楕円形/溝状	VI	292	60	241	29	121	N-22° W	-	4.9	8.3	
	61-7・8	TP-21	A1a	AV-26・27 AW-26	長楕円形/溝状	VI	306	61	236	14	114	N-31° W	-	5.0	16.9	
	62-1・2	TP-22	A1a	AV・AW-26	楕円形/溝状	VI	292	75	229	20	109	N-27° W	-	3.9	11.5	
IV-64	62-3・4	TP-23	A1a	AU・AV -25・26	楕円形/溝状	VI	299	75	241	22	131	N-32° W	-	4.0	11.0	
	62-5・6	TP-24	A1a	AU-24・25	長楕円形/溝状	VI	301	65	258	17	124	N-68° W	-	4.6	15.2	
	62-7・8	TP-25	A1a	AY-26・27	楕円形/溝状	VI	321	88	304	20	132	N-32° W	-	3.6	15.2	
	63-1・2	TP-26	A1a	AX-29・30	長楕円形/溝状	VI	273	42	247	19	27	N-26° W	-	6.5	13.0	
IV-65	63-3・4	TP-27	A1a	AT-23	長楕円形/溝状	VI	269	65	260	21	119	N-42° W	-	4.1	12.4	
	63-5・6	TP-28	A1a	AV-25・26	長楕円形/溝状	VI	326	53	270	23	130	N-41° W	-	6.2	11.7	
	64-1・2	TP-29	A1a	AY-26・27	楕円形/溝状	VI	(293)	83	268	16	147	N-28° W	-	(3.5)	16.8	
IV-66	63-7・8	TP-30	A2a	AN・AO-29	楕円形/溝状	VI	315	(103)	196	15	138	N-43° E	-	(3.1)	13.1	
	64-3・4	TP-31	C1	AS-24	円形/楕円形	VI	179	134	99	35	117	N-8° W	-	1.3	2.8	
	64-7・8	TP-32	A1a	AV-27 AW-26・27	楕円形/溝状	VI	345	97	(298)	23	115	N-30° W	-	3.6	(12.9)	
IV-67	64-5・6	TP-33	-	AO-27・28	-	VI	(291)	104	-	-	129	N-11° E	-	(2.8)	-	
	65-1・2	TP-34	A1a	AP-28・29	楕円形/溝状	VI	280	93	206	21	141	N-26° E	-	3.0	9.8	
	65-3・4	TP-35	A1a	AO・AP-25	楕円形/溝状	VI	301	115	213	12	153	N-48° E	-	2.6	17.8	
IV-68	65-5・6	TP-36	A1a	AP・AQ-21	楕円形/溝状	VI	262	76	221	19	114	N-12° W	-	3.4	11.6	
	65-7・8	TP-37	A1a	AP-22	楕円形/溝状	VI	257	102	200	25	81	N-11° W	-	2.5	8.0	
	65-9・ 10	TP-38	A1a	AO・AP -20・21	楕円形/溝状	VI	319	101	289	17	122	N-32° W	-	3.2	17.0	
	66-3・4	TP-39	A1a	AO-20	- / 溝状	VI	-	85	(327)	11	122	N-38° W	-	-	(29.7)	

表IV-10 Tピット属性表(2)

挿図 番号	図版 番号	遺構名	分類	グリッド	平面形	調査 面層 位	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸方向	杭 跡	調査面 長短比	坑底面 長短比	備考
					調査面/坑底面		長軸	短軸	長軸	短軸						
IV-69	66-1・2	TP-40	C1	AR-30	円形/円形	VI	125	(117)	66	45	86	N-23° W	-	(1.1)	1.5	
	66-5・6	TP-41	A1a	AF・AG-24	楕円形/溝状	VI	287	123	(291)	20	134	N-31° W	-	2.3	(14.6)	
	66-7・8	TP-42	A1a	AE・AF-24	楕円形/溝状	VI	286	84	250	19	99	N-30° W	-	3.4	13.2	
	67-1・2	TP-43	A1a	AF-27	楕円形/溝状	VI	285	89	(276)	15	157	N-37.5° E	-	3.2	(18.4)	
IV-70	67-3・4	TP-44	-	AE-15・16	長楕円形/溝状	VI	289	68	(253)	(27)	(149)	N-50° W	-	4.3	-	
	67-5・6	TP-45	A1a	AE・AF-19	楕円形/溝状	VI	300	89	245	23	131	N-16° E	-	3.4	10.7	
	67-7・8	TP-46	A1a	AE・AF-17	楕円形/溝状	VI	(302)	93	(273)	31	118	N-16° W	-	(3.2)	(8.8)	
IV-71	68-1・2	TP-47	B1	AF-18	楕円形/長楕円形	VI	(209)	93	(165)	37	112	N-6° W	-	(2.2)	(4.5)	
	68-3・4	TP-48	A1a	AD・AE-15	楕円形/溝状	VI	233	29	223	21	17	N-57° W	-	8.0	10.6	
	68-5・6	TP-49	A1a	AE-20	楕円形/溝状	VI	297	103	242	20	130	N-37° E	-	2.9	12.1	
	68-7・8	TP-50	C2	AD-18	円形/楕円形	VI	160	122	(98)	(39)	100	N-34.5° E	4	1.3	(2.5)	杭穴あり

※掘り過ぎたTピットの計測値には、()を付した。

※※坑底面の計測が行えないTピットの種類は不明(-)とした。

表IV-11 VPB・VSB・VFCB・VPPB・VBB・VMO属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		被熱の有無	備考
						長軸	短軸		
IV-73	69-1・2	VPB-01	AS-28	VbU	不整形	122	66	-	
IV-51	-	VPB-02	AQ-27	VbU	不整形	62	42	-	
IV-73	69-3	VPB-04	AS-32	VbL	不整形	102	58	-	
	69-3	VPB-05	AS-32	VbL	不整形	56	48	-	
	69-4	VPB-06	AS-31	Vc	不整形	60	36	-	
	69-5	VPB-07	AS-31・32 AT-31	Vc	不整形	103	53	-	
IV-74	69-6	VPB-08	AH-36	VbL	不整形	308	222	-	
	69-7	VPB-09	AM-28	VbU	不整形	49	26	-	
	69-8	VPB-10	BE・BF-31	VbM	不整形	684	432	-	
	70-1	VPB-11	AU-27・28	VbU	不整形	622	130	-	
IV-75	70-2	VPB-12	AT-24・25 AU-24	VbU	不整形	648	282	-	
	70-3	VPB-13	BC-29	VbL	不整形	26	22	-	
	70-4	VPB-14	BE-31	VI	不整形	156	74	-	
IV-76	70-5~7	VPB-15	BE-31	VI	不整形	221	183	-	
	70-8	VPB-16	AK・AL-26	VbL	不整形	163	101	-	
IV-82	71-1~3	VSB-01	AP~AR-26~28	VbU	不整形	768	643	-	VH-02の上層. 棍棒形石器2点出土
IV-87~90	71-4~6	VSB-02	AP-31~34 AQ~AS-30~34 AT-29~34 AU-29~33 AV-28~30・32 AW-29・30	VbU~Vc	不整形	4,016	1,894	-	大型板状礫の集中
IV-93~96	71-7・8 72-1~4	VSB-04	BD・BE-29~33 BF-30~32 BG-31・32	VbU~VbL	不整形	2,003	1,578	-	丘陵先端部
IV-103・104	72-5・6	VSB-05	BB-28・29 BC-28~30	VbL	不整形	1,399	441	-	丘陵先端部
IV-107	72-7	VSB-06	AR-23 AS-23・24	VbU	不整形	1,060	673	-	
	72-8	VSB-07	AT-25	Vc	不整形	22	15	-	黒曜石原石集中
	73-1	VSB-08	AT・AU-27・28	VbU	不整形	213	178	-	VP-12
IV-108	73-2	VSB-09	AE-20	VbM	不整形	341	274	有	破砕した被熱礫出土
IV-113	73-3	VFCB-01	AW-30 AX-30	VbU	不整形	378	154	-	
	-	VFCB-02	BE-32	VbL	不整形	88	75	-	
	73-4	VFCB-03	AX-28	Vc	方形	64	30	-	
	-	VFCB-04	AR-26・27	Vc	楕円形	52	43	-	
IV-113	73-5	VPPB-01	AV-28・29	Vc	円形	27	25	-	
	73-6	VPPB-02	AU-26	Vc	円形	33	26	-	上下2層
IV-56	73-7	VBB-01	AU-29	VbU	不整楕円形	99	55	有	
-	73-8	VMO-01	AI~AL-32~36	VbU	不整形	2,500	1,300	-	VH-04上面

表IV-12-1 VPB・VSB出土土器属性表(1)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等		文様		胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面				
VPB-01													
IV-77-1	97-1	267A	IVA2	VPB-01	VbL	4	口縁部 ~胴部 上半	平縁・ほぼ直立-隅丸 角状/外傾	RL斜行縄文-貼付帯 +RL斜行縄文・一部 重複縄文・刺突文(縄 端・側面圧痕)/2段異 原体羽状縄文・ 貼付帯・RL斜行縄文	砂粒多量・ パミス中量 ・亜角礫 (φ5↓) 少量混入			
						9							
				AS-28	VbU	1							
IV-77-2	97-2	267B	IVA2	AS-28	VbU	1	底部	外傾-隅丸角状-平底	無文(削り・縦位)-ナデ	砂粒多量・ 円礫(φ3 ↓)少量 混入			
VPB-02													
IV-77-3	97-3	315A	IVA1a	VP-01	VbL	1	口縁部 ~胴部 下半	平縁・外傾-隅丸角状/ 胴部上半直立・ 胴部下半外傾	LR斜行縄文-貼付帯 +RL斜行縄文+円形 刺突文・LR斜行縄文/ 無文帯・貼付帯+2段 異厚体羽状縄文	砂粒多量 混入			
						1							
						12							
						1							
				AR-27	VbU	1							
				AS-27	VbM	1							
IV-77-4	97-4	315B	IVA1a	AR-27	VbM	1	底部	外傾-隅丸角状-平底	LR斜行縄文(縦位)・刻 み(棒状工具)-ミガキ ナデ	砂粒多量 混入			
						1							
					VbU	1							
VPB-04													
IV-77-5	97-5	181B	III B2	VPB-05	VbL	2	口縁部	小波状・直立-隅丸 角状	刻み(指頭圧痕)-断面 三角形・肥厚帯+ RL斜行縄文-ナデ (横位)	砂粒多量・ 石英(φ2~ 4)中量・亜 角礫(φ2~ 3)・雲母少 量混入	富良野 盆地系		
IV-77-6	97-6	181A	III B2	VPB-04	VbL	16	口縁部 ~胴部 下半	平縁・ほぼ直立- 隅丸角状/やや外傾	刻み(指頭圧痕)-断 面三角形・肥厚帯+ RL斜行縄文-ナデ/ ヘラナデ	砂粒多量・ 石英(φ2 ~4)中量・ 亜角礫(φ 2~3)少 量・雲母微 量混入	富良野 盆地系		
VPB-07													
IV-78-8	98-8	127A	III B2	VPB-07	Vc	26	口縁部 ~胴部 上半	平縁・小突起・外反 (緩いくびれ)-外傾/ 直立	貼付帯+縄線文 (2条)-縄線文 (5~8条)・結束第1種 LR斜行縄文・貼付帯 +縄線刻み(縦位縄) /縄線(2~3条)・結束 第1種LR斜行縄文- ヘラナデ(横・粗)- ヘラナデ	砂粒中量 混入			
						1							
						2							
				AS-32	VbL	2							
				AT-31	VbL	2							
VPB-08													
IV-78-9	98-9	317A	IVA2	VPB-08	VbL	2	口縁部	平縁-直立-角状	LRL斜行縄文-貼付帯 1B+LRL斜行縄文・無 文帯・貼付帯2+LRL 斜行縄文-ナデ(横位)	砂粒少量・ パミス微量 混入			
IV-78-10	98-10	317B	IVA2	VPB-08	VbL	31	胴部 上半~ 胴部 下半	(胴部上半)直立- (胴部下半)外傾	輪積み痕跡・LRL斜行 縄文(横走気味)・貼 付帯+LRL斜行縄文- ナデ	砂粒・パミ ス少量混入			
						2							
						2							
						4							
				AH-36	Vc	4							
VPB-09													
IV-78-12	98-12	244A	IVA2	VPB-09	2	1	底部	外傾-隅丸角状-平底 (中央・やや凸状)	RL斜行縄文・結縛痕 (施文後ナデ)-RLR 斜行縄文-ナデ	砂粒中量 混入	平行 組織		
						不明							
					不明	1							

表IV-12-1 VPB・VSB出土土器属性表(2)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
VPB-10											
IV-79- 13	98-13	378A	IVA1a	VPB-10	VbL	7	口縁部 ~胴部 下半	(胴部下半)外傾-(口 縁部)ほぼ直立・平縁 -内削ぎ隅丸角状	やや肥厚・ヘラナデ /RL斜行縄文(段状施 文)-指頭圧痕・一部 ヘラナデ	砂粒少量・ 繊維微量・ 亜角礫 (φ3↓) 少量混入	
						7					
						3					
						1					
				VSB-04	VbM	1					
						1					
						1					
						1					
VPB-11											
IV-79- 14	99-14	258A	IVB1	VH-07	VbL	1	口縁部 ~胴部 下半	平縁+山形突起・上面 観隅丸長方形・ やや内湾・角状/直立 (上部)・外傾(下部)	RL斜行縄文(施文後 ナデ)-縄線文(突起頂 部垂下)2段異原体羽 状縄文(施文後ナデ)- RL縦走縄文(施文後 ナデ)/2段異原体羽状 縄文(施文後ナデ)	砂粒多量・ 亜角礫 (φ2~5) 少量混入	
						2					
						1					
						17					
						1					
						7					
				AM-27	VbM	7					
						12					
						1					
IV-79- 15	99-15	258B	IVB1	VPB-11	VbM	1	底部	外傾-隅丸角状-平底	LR斜行縄文(施文後 ナデ)-LR斜行縄文 (施文後ナデ)-ナデ	砂粒多量・ 亜角礫 (φ5↓) 少量混入	平行 組織
						2					
VPB-12											
IV-80- 16	99-16	255A	IVB1	VPB-12	VbU	15	口縁部 ~胴部 下半	平縁・直立-隅丸角状/ 外傾	LR斜行縄文(施文後 ナデ)-LR斜行縄文・ 破線状縄線文(2条1 対・施文後ナデ)-LR 横走縄文(施文後ナ デ)/LR斜行縄文 (施文後ナデ)・ 器表面剥落	砂粒多量・ バミス中量 混入	外面 剥落
						1					
						1					
						1					
VPB-13											
IV-81- 20	100-20	120A	III B2	VPB-13	VbL	1	口縁部 ~胴部 下半	平縁・外傾-丸状/外傾	突引文(半截竹管状 (内)・2段)・R斜行縄文 /R斜行縄文-ナデ	砂粒中量・ 繊維微量 混入	補修孔
						3					
						1					
						4					
				VSB-05	VbL	1					
						1					
IV-81- 21	100-21	376A	IVA1a	VPB-13	VbL	9	口縁部 ~胴部 下半	(底)外傾→直立→内湾 →やや外反(口)	LR斜行縄文-貼付帯 +LR斜行縄文+押引 文(ヘラ状工具)・円形 刺突文/2段異原体~ (無文帯区切)・貼付帯 +RL斜行縄文	砂粒多量・ 円礫 (φ7↓) 少量混入	平行 組織
						3					
VPB-14											
IV-81- 22	100-22	009A	I B4	VPB-14	VI	4	口縁部	平縁・やや内湾-角状	撚糸文(羽状構成)	砂粒中量・ 繊維少量 混入	風化
IV-81- 23	100-23	009B	I B4	VPB-14	VI	5	胴部 下半	外傾	撚糸文(羽状構成)	砂粒中量・ 繊維少量 混入	風化
VPB-15											
IV-81- 24	100-24	003A	I B3	VPB-15	VI	3	胴部	やや外形	隆起線文・短縄文- ナデ	砂粒・亜角 礫(φ2~4) 少量混入	
IV-81- 25	100-25	003B	I B3	VPB-15	VI	4	底部	外傾-角状-平底	微隆起線文・RL斜行 縄文・無文帯- ヘラナデ	砂粒・亜角 礫(φ2~4) 少量混入	
IV-81- 26	100-26	001A	I B3	VPB-15	VI	12	口縁部 ~胴部 上半	平縁・やや内湾-尖状	隆起線文・RL斜行縄 文・LR斜行縄文- ナデ・ベラ削り	砂粒少量 混入	補修孔
IV-81- 27	100-27	001B	I B3	VPB-15	VI	40	胴部 下半	外傾	隆起線文・RL・LR斜 行縄文(一部重複)・ 刺突(棒状工具)	砂粒少量 混入	
						1					

表IV-12-1 VPB・VSB出土土器属性表(3)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
VSB-01											
IV-83-1	101-1	012B	II B2	AS-27	VbL	1	口縁部 ~胴部 上半	平縁・外反-隅丸角状 (断面三角状)	刻み(棒状工具4カ所)・ 縄圧痕-縄線文(縦位・ 横位)隆帯/結束第1種 羽状縄文-ミガキ	砂粒少量 混入	補修孔
IV-83-2	101-2	012A	II B2	VSB-01	2	1	胴部	やや外傾	結束第1種羽状縄文- ミガキ	砂粒少量 混入	
				AR-28	VbU	1					
				AS-24	VbU	1					
IV-83-3	101-3	070B	II B3	VSB-01	KR	1	口縁部	平縁・やや外反-隅丸 角状	RL斜行縄文-RL斜行 縄文・縄線文(2条)	砂粒・繊維 少量混入	
IV-83-4	101-4	070A	II B3	AV-28	VbU	1	胴部	直立	縄線文・2段異原体 羽状縄文	砂粒中量・ 繊維多量 混入	風化
				AW-29	Vc	1					
IV-83-5	101-5	078A	II B4	VSB-01	2	1	口縁部	平縁・やや外傾-断面 三角に肥厚	刺突文(矢羽状)- 刺突文(矢羽状)- ナデ(横位)	繊維多量 混入	
				AR-27	VbU	1					
IV-83-6	101-6	078B	II B4	AO-31	VbU	1	胴部	やや外傾	刺突文(矢羽状+ 斜行)ナデ(横位)	繊維多量 混入	
IV-83-7	101-7	327C	IVA1a	AS-27	VbL	1	口縁部	平縁・外反-内傾隅丸 角状	ナデ-貼付帯1A+LLR 斜行縄文・円形刺突文 (竹管状工具)・無文帯 -ナデ(横位)	砂粒中量・ 赤色岩粒 微量混入	
					VbU	1					
IV-83-8	101-8	327B	IVA1a	VSB-01	2	1	胴部	ほぼ直立	円形刺突文(棒状工 具)・無文帯-貼付帯+ LLR斜行縄文・ LRL斜行縄文-ナデ	砂粒中量・ 赤色岩粒 微量混入	
				AR-28	Vc	1					
				AV-26	VbU	1					
IV-83-9	101-9	327A	IVA1a	AQ-28	Vc	1	胴部 上半	直立	貼付帯・LLR斜行縄 文・LRL斜行縄文- ヘラナデ(斜位)	砂粒中量・ 赤色岩粒 微量混入	
VSB-02											
IV-91-1	103-1	054A	II B3	VH-02	1	1	口縁部	平縁・外反-隅丸角状	LR斜行縄文・RL斜行 縄文-2段異原体羽状 縄文・縄線文-ナデ	砂粒微量・ 繊維多量 混入	
				VSB-01	2	1					
IV-91-2	103-2	054B	II B3	AU-32	VbM	1	口縁部	平縁・外反-隅丸角状	RL斜行縄文-LR斜行 縄文・縄線文-ナデ	砂粒微量・ 繊維多量 混入	
IV-91-3	103-3	054C	II B3	VSB-02	VbU	1	胴部 上半	やや外傾	縄線文(3条)・2段 異原体羽状縄文	砂粒微量・ 繊維多量 混入	
				AT-31	VbL	1					
				AU-31	VbU	1					
					Vc	1					
IV-91-4	103-4	148B	III B2	AT-32	VbL	2	胴部	外傾~直立	LR斜行縄文+結縛痕 -ヘラケズリ	砂粒中量・ 繊維少量 混入	
IV-91-5	103-5	148A	III B2	VSB-02	VbU	1	胴部下 半~ 底部	外傾-強い張り出し・丸 状-平底	LR斜行縄文・結縛痕 (綾絡文状)/無文 (ヨコナデ)-ナデ	砂粒中量・ 繊維少量 混入	底面 剥落
				AR-33	VbL	2					
				AS-32	Vc	1					
IV-91-6	103-6	191B	III B3	VSB-02	VbU	1	口縁部 下半	やや外傾	円形刺突文・RL斜行 縄文	砂粒・石英 (φ4↓)中 量・亜角礫 (φ2~5)少 量・雲母 微量混入	富良野 盆地系

表IV-12-1 VPB・VSB出土土器属性表(4)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文様	胎土	備考	
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面			
IV-91-7	103-7	191A	III B3	VSB-02	VbU	1	胴部 下半	外傾	RL斜行縄文	砂粒・石英 (φ4↓)中 量・亜角礫 (φ2~5) 少量・繊維 微量混入	富良野 盆地系	
IV-91-8	103-8	318A	IVA1a	VSB-02	VbU	1	口縁部	平縁-直立-角状	ナデ-貼付帯1B+RL 斜行縄文・無文帯(ナ デ)・RL斜行縄文-ナデ (横位)	砂粒中量 混入	補修孔 輪積 成形継ぎ 目で損壊	
				AT-32		1						
IV-91-9	103-9	318B	IVA1a	AT-31	VbL	1	胴部	外傾-ナデ	RL斜行縄文	砂粒中量 混入	輪積 成形継ぎ 目で損壊	
IV-91-10	103-10	179A	IVA1a	VSB-02	VbU	1	胴部	外傾	RL斜行縄文(燃り 締め)・無文帯	砂粒・石英 (φ2~3)多 量・亜角礫 (φ2~4) 中量混入	富良野 盆地系	
IV-91-11	103-11	334A	IVA1c	VSB-02	VbU	1	口縁部 ~胴部 上半	平縁・やや内湾-角状	RL斜行縄文-貼付帯 1B(地文施文前の貼付 帯)+RL斜行縄文・縄 線文-ヘラナデ/LR斜 行縄文(縦回転)-ヘラ ナデ	砂粒多量 混入	一部 風化著	
				AI-23		Va						1
						VbL						2
						Vc						2
				AK-32		Va						1
				AT-32		VbL						1
AU-32	Vc	1										
IV-91-12	103-12	334B	IVA1c	AH-25	VbL	1	底部	直立-隅丸角状-平底 (高台状・やや上げ底)	無文帯・RL斜行縄文- 指頭圧痕-ナデ(横位)	砂粒多量 混入		
IV-91-13	103-13	334C	IVA1c	VSB-02	VbU	1	胴部	やや外傾	LR斜行縄文(縦回転)- ヘラナデ	砂粒多量 混入	表面一 部剥落 一部 風化	
				AN-29		1						
				AT-32		VbL						2
				AU-32		KR						1
IV-91-14	103-14	363B	IVA2	AU-31	VbL	1	口縁部	平縁・やや外反-内削 ぎ切り出し状	RL斜行縄文-貼付帯 1B+LR斜行縄文・RL 斜行縄文・刺突文(斜 位・竹管状工具)-ナデ	砂粒少量・ 亜角礫(φ7 ↓)中量 混入	二次 被熱 風化著	
IV-91-15	103-15	363A	IVA2	VSB-02	VbU	1	口縁部	平縁・やや外反-内削 ぎ切り出し状	RL斜行縄文-貼付帯 1B+LR斜行縄文・RL 斜行縄文・刺突文(斜 位・竹管状工具)-ナデ	砂粒少量・ 亜角礫(φ7 ↓)中量 混入	二次 被熱 風化著	
IV-91-16	103-16	241A	IVA2	VSB-02	VbL	1	口縁部 ~胴部 上半	平縁・やや外傾-内削/ 切り出し状	LR斜行縄文-貼付帯 1A+L斜行縄文・縄端 刺突文-ナデ(横位) /L・R羽状構成-ナデ (横位)	砂粒微量・ 亜角礫(φ7 ↓)中量 混入	表面 剥落	
					VbU	2						
VSB-04(VbM)												
IV-97-6	104-6	370A	IVA1b	VSB-04	VbM	1	胴部	内傾	無文(ナデ(横・斜位))- ナデ(横位)	砂粒多量 混入	輪積成 形痕で損 壊	
				BC-28		Vc						1
IV-97-7	104-7	430A	IVA1a	VSB-04	VbM	1	口縁部	平縁・外反-角状	ヘラナデ-貼付帯+RL 斜行縄文-RL斜行縄 文-ヘラナデ	砂粒中量 混入	補修孔	
IV-97-8	104-8	192A	IVA1a	VSB-04	VbM	1	胴部	ほぼ直立	L斜行縄文	砂粒・石英 (φ3↓) 多量・雲母 微量混入	富良野 盆地系	

表IV-12-1 VPB・VSB出土土器属性表(5)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
IV-97-9	104-9	177A	IVA1a	VSB-04	VbM	1	胴部	外傾	RL斜行縄文・直前 段合撚(羽状構成)- ナデ	砂粒・亜角 礫(φ2~5) 中量・石英 (φ2~4) 多量混入	富良野 盆地系
				BF-30		1					
IV-97-10	104-10	186A	III B2	VSB-04	VbM	1	底部	やや張り出す-角状-平 底	RL斜行縄文・無文帯 (ナデ・横位)-ナデ- ナデ	砂粒・石英 (φ2~3)中 量・繊維微 少量混入	富良野 盆地系
					VbU	1					
IV-97-11	104-11	145B	III B2	AJ-22	VbL	2	口縁部 ~胴部 上半	平縁・外傾-丸状/外傾	刺突文(へら状工具)- RL斜行縄文・結縛痕- ナデ	砂粒・亜角 礫(φ2~ 6)中量・ 繊維微量 混入	
IV-97-12	104-12	145A	III B2	VSB-04	VbM	3	胴下	外傾	結束第1種羽状縄文	砂粒・亜角 礫(φ2~ 4)中量・ 繊維少量 混入	
IV-97-13	104-13	110A	III B1	VSB-04	VbM	1	口縁部	平縁・やや外傾-丸状	隆帯+刺突文(爪形)・ RL斜行縄文-ミガキ (横位)	砂粒中量 混入	
IV-97-14	104-14	024B	III A1	AX-26	Vc	1	口縁部	鱗状突起・ほぼ直立- 丸状・肥厚	撚糸圧痕文-ミガキ (縦位)	砂粒・石英 多量混入	
IV-97-15	104-15	024A	III A1	VSB-04	VbM	1	胴部	やや外傾	結束第1種羽状縄文- ミガキ(縦位)	砂粒多量 混入	
IV-97-16	104-16	014A	II B2	VSB-04	VbM	5	口縁部 ~胴部 上半	平縁・外反-丸状	縄圧痕-縄線文(2条1 対)・施文後ミガキ・隆 帯+結束第2種回転文 -ミガキ(横位)多軸絡 条体回転文+結束第2 種回転文-ミガキ (斜位)	砂粒・亜角 礫(φ2~4) 少量・繊維 中量混入	補修孔
IV-97-17	104-17	014B	II B2	VSB-04	VbL	1	底部	やや外傾-角状-平底	多軸絡条体回転文・無 文帯-ミガキ-ミガキ (横位)	砂粒・亜角 礫(φ2~4) 少量・繊維 中量混入	
					VbM	1					
IV-98-18	104-18	077A	II B3	VSB-04	VbM	8	口縁部 ~胴部 上半	平縁・ほぼ直下-丸隅 角状	0段多条LR斜行縄文- LR斜行縄文-ミガキ(横 位・弱)/直前段合撚り LR斜行縄文-へらナデ	砂粒中量・ 亜角礫少 量・繊維 多量混入	
IV-98-19	104-19	077B	II B3	VSB-04	VbM	2	胴部	やや外傾	0段多条LR斜行縄文・ 直前段合撚りLR斜行 縄文-ミガキ(弱)	砂粒中量・ 亜角礫少 量・繊維 多量混入	
VSB-04(VbL1)											
IV-98-29	105-29	273A	IVA2	VSB-04	VbL	1	胴部	外傾	RLR+RR軸の附加条- ミガキ	砂粒中量・ 石英少量 混入	
IV-98-30	105-30	212B	III B3	VSB-04	VbL	1	口縁部	やや外傾	肥厚帯+突引文(半截 竹管状(内)・2段)・LR 斜行縄文-ナデ	砂粒少量・ 繊維中量 混入	
IV-98-31	105-31	212A	III B3	VSB-04	VbL	2	胴部	外傾	LR斜行縄文	砂粒少量・ 繊維中量 混入	

表IV-12-1 VPB・VSB出土土器属性表(6)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
IV-98-32	105-32	050A	II B2	VSB-04	VbL	1	口縁部 ~胴部 上半	平縁・やや外反-丸状/ 直立	縄圧痕-肥厚帯+捺糸 圧痕文/綾絡文-ミガキ (横位)	砂粒・石英 中量・繊維 少量混入	
IV-98-33	105-33	099A	II B5	VSB-04	VbL	1	底部	やや外傾	不明	砂粒中量・ 蛇紋岩(φ2 ~6)多量 混入	表面 剥落
IV-98-34	105-34	088A	II B5	VSB-04	VbL	2	口縁部	直立-内削ぎ隅丸角状	LR斜行縄文	砂粒少量・ 蛇紋岩(φ2 ~5)中量 混入	表面 剥落
IV-98-35	105-35	088B	II B5	VSB-04	VbL	1	口縁部	直立-内削ぎ隅丸角状	LR斜行縄文-貼瘤・LR 斜行縄文	砂粒少量・ 蛇紋岩(φ2 ~5)中量 混入	
IV-98-36	105-36	083B	II B5	VSB-04	VbL	1	口縁部	平縁・直立-隅丸角状	RL斜行縄文-RL斜行 縄文・沈線文+円形刺 突文	砂粒多量・ 亜角礫(φ2 ~8)中量・ 石英・繊維 微量混入	
IV-98-37	105-37	083C	II B5	AS-25	VbL	1	胴部	やや外傾	RL斜行縄文	砂粒多量・ 亜角礫(φ2 ~6)少量 混入	
IV-98-38	105-38	083A	II B5	AS-28	VbM	1	底部	外傾	RL斜行縄文	砂粒多量・ 亜角礫(φ2 ~8)中量・ 石英・繊維 微量混入	
IV-99-39	105-39	138A	III A2	VPB-10	VbM	2	口縁部 ~胴部	山形小突起・やや外反 -丸状/直立	縄圧痕(小突起)-棒 状貼付文+指頭押圧・ 結束第1種羽状縄文	砂粒中量・ 繊維少量 混入	
IV-99-40	105-40	138B	III A2	VSB-04	VbL	2	口縁部 ~胴部	平縁・やや外反-丸状/ 直立	LR斜行縄文-結束 第1種羽状縄文	砂粒中量・ 繊維少量 混入	補修孔
VSB-04 (VbL2)											
IV-100-53	106-53	316A	IVA1a	VPB-10	VbM	1	口縁部 ~胴部 下半	(胴部下半)外傾-(胴 部上半)直立~やや内 湾-(口縁)直立・平縁- 隅丸角状	ナデ-やや肥厚・RL斜 行縄文/2段異原体羽 状縄文・結縛痕-ナデ	砂粒少量・ 亜角礫(φ 8↓)少量 混入	
			VSB-04	VbL	21						
			VbM	1							
IV-100-54	106-54	171A	IVA1a	VSB-04	VbL	3	口縁部 下半	ほぼ直立	貼付帯1A+RL斜行縄 文・円形刺突文/ RL斜行縄文	砂粒多量・ 石英(φ2~ 4)中量・亜 角礫(φ2~ 5)少量混入	富良野 盆地系
IV-100-55	106-55	109A	III A2	VSB-04	VbL	2	口縁部	台形突起・外傾- 内削ぎ丸状	棒状貼付文(突起部) +刺突(半截竹管状・2 段)・刺突(半截竹管 状・2段)・LR斜行縄文- ミガキ(横位)	砂粒少量 混入	
			VbM	1							
IV-100-56	106-56	104A	III A2	VSB-04	VbL	3	口縁部	台形状突起・やや外形 -内削ぎ丸状・ 隅丸角状(突起)	ボタン状貼付文(上下 2カ所上は剥落)・刺突 文(縄端)・馬蹄形圧痕 文(縄端)・2列	砂粒・繊維 中量混入	風化

表IV-12-1 VPB・VSB出土土器属性表(7)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点-底 面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
IV-100- 57	106-57	036A	II B2	VSB-04	VbL	3	胴部	やや外傾	多軸絡条体回転文- ミガキ(縦位)	砂粒・石英 少量・繊維 微量混入	硬質表 面風化 著・炭化 物付着
						1					
IV-100- 58	106-58	022A	II B2	VPB-10	VbM	1	口縁部	平縁・やや外形-断面 三角に肥厚	縄線文(3条)・縄圧痕 (斜位)-菱目状縄線文 -ミガキ(横位)	砂粒中量・ 珪角礫(φ2 ~6)少量・ 白色岩片 (φ2~4) 中量混入	フゴッペ 貝塚1式
					VSB-04	VbM					
IV-100- 59	106-59	022B	II B2	VSB-04	VbL	2	口縁部	平縁・やや外形-断面 三角に肥厚	縄線文(2条)・縄圧痕- 菱目状縄線文・隆帯	砂粒中量・ 珪角礫(φ2 ~6)少量・ 白色岩片 (φ2~4) 中量混入	フゴッペ 貝塚1式 内面 風化
IV-100- 60	106-60	091A	II B5	VSB-04	VbL	1	胴部 上半	やや外傾	沈線文・RL斜行縄文	砂粒中量・ 蛇紋岩(φ2 ~5) 多量混入	器面 脂質 光沢
IV-100- 61	106-61	084B	II B3	VSB-04	VbL	1	口縁部	平縁・やや外傾-隅丸 角状	RL斜行縄文・沈線文 +円形刺突文-ナデ	砂粒中量・ 珪角礫(φ2 ~5)多量・ 蛇紋岩 微量混入	
IV-100- 62	106-62	084A	II B3	VSB-04	VbL	1	胴部	やや外傾	LR斜行縄文+ナデ- ナデ	砂粒中量・ 珪角礫(φ2 ~5)多量・ 蛇紋岩 微量混入	
IV-100- 63	106-63	059A	II B1	VSB-04	VbL	1	胴部	やや外傾	剥落-条痕文	砂粒・繊維 少量混入	表面 剥落
VSB-04 (VbL3)											
IV-101- 82	107-82	214A	III B3	VSB-04	VbL	3	口縁部 ~胴部	平縁・外傾-丸状/外傾	突引文(へら状工具・2 段)・円形刺突文-へら ナデ(横位)/0段多条 LR斜行縄文-へらナデ (横位)	砂粒少量・ 繊維中量 混入	
IV-101- 83	107-83	141A	IVA2	VSB-04	VbL	2	胴部~ 底部	やや外傾/外傾-丸状- 平底	撚糸文(一部斜格子 状)/すだれ状圧痕文	砂粒中量 混入	内外面と も器面凹 凸有り小 形土器
IV-101- 84	107-84	033B	II B2	VSB-04	VbL	1	口縁部	平縁・尖状-外反	縄線文(2条1対・横走・ 斜位)	砂粒微量・ 繊維多量 混入	風化
IV-101- 85	107-85	033A	II B2	VSB-04	VbL	1	口縁部	平縁・尖状-外反	縄線文(2条1対・斜位)	砂粒微量・ 繊維多量 混入	風化
IV-101- 86	107-86	092A	II B5	VSB-04	VbL	1	口縁部	平縁・直立-隅丸角状	L斜行縄文-L斜行 縄文	砂粒・蛇紋 岩(φ2~4) 中量混入	表面剥 落著・器 面脂質 光沢
IV-101- 87	107-87	094A	II B5	VSB-04	VbL	1	口縁部	直立-隅丸角状	LR斜行縄文-無文	砂粒中量・ 蛇紋岩(φ2 ~4) 多量混入	
VSB-04 (VbL4)											
IV-102- 93	108-93	074A	II B3	VSB-04	VbL	1	底部	平底	LR斜行縄文・ミガキ (施文後)	砂粒・繊維 少量混入	

表IV-12-1 VPB・VSB出土土器属性表(8)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
VSB-05											
IV-105-1	109-1	048A	II B2	VSB-05	VbL	2	口縁部 ~胴部 上半	山形突起・外反-剥離 不明/ほぼ直立	指頭圧痕状(突起頂 部)・絡条体圧痕文-絡 条体圧痕文・隆帯- ミガキ(横位)/LR斜行 縄文-ミガキ(縦位)	砂粒・石英 中量・繊維 少量混入	補修孔
				BA-28	VbU	1					
IV-105-2	109-2	114C	III A2	VSB-04	VbL	2	口縁部	突起・外傾-尖状	LR斜行縄文・貼付帯(2 条1対)+結束第1種羽 状縄文・結束第1種羽 状縄文-ミガキ(横位)	砂粒・繊維 少量混入	突起部 欠損
				BB-29	Vc	1					
				BC-28	VbU	1					
IV-105-3	109-3	114A	III A2	VSB-05	VbL	2	口縁部	突起・尖状-外傾	貼付帯(2条1対)・RL斜 行縄文・LR斜行縄文・ 貼付帯(縦位)LR 斜行縄文(縦回転)- ミガキ(横位)	砂粒・繊維 少量混入	
IV-105-4	109-4	114B	III A2	VSB-04	VbM	1	口縁部 下半~ 胴部 上半	外反	貼付帯(横位・縦位)+ 結束第1種羽状縄文・ 結束第1種羽状縄文- ミガキ(横位)	砂粒・繊維 少量混入	
IV-105-5	109-5	116K	III A2	VSB-05	VbL	2	口縁部	平縁・小突起2個1対・ 外傾	刺突(突起頂部)・棒状 貼付文・貼付帯+縄線 (3条)・貼付帯+沈線 (棒状貼付文間・3条)・ 0段多条LR斜行縄文	砂粒中量・ 繊維微量 混入	
				BB-29	Vc	1					
IV-105-6	109-6	116B	III A2	VSB-05	VbL	1	胴部	外傾	結束第1種羽状縄文- ミガキ(縦位)	砂粒中量・ 繊維微量 混入	
				BC-28	Vc	1					
				BC-29	VbL	1					
					Vc	2					
IV-105-7	109-7	391A	IV A1a	VSB-05	VbL	8	口縁部 ~胴部 下半	(胴部下半)外傾-(胴 部上半)直立-(口縁) やや外反・(口唇)隅丸 角状	ヘラナデ-貼付帯+重 複縄文・無文帯/2段 異原体羽状縄文・貼付 帯-ナデ	砂粒多量 混入	
				BB-28	VbU	5					
				BB-29	VbL	3					
					VbU	1					
				BC-28	VbL	1					
				BC-29	VbL	3					
				-	表採	1					
VSB-06											
IV-109-1	110-1	027A	II B2	AL-26	VbU	1	口縁部	丸状・やや外反-丸状	縄圧痕+縄線文(山形 状)縄端刺突文(斜位) +施文後ミガキ(横位・ 強)-ミガキ(横位・強)	砂粒極少 量・繊維 少量混入	施文後 ミガキ
				AO-21	KR	1					
IV-109-2	110-2	027B	II B2	VSB-06	VbU	1	口縁部 下半	外反	縄線文(山形状・渦巻 状)・縄端刺突文(斜位) +施文後ミガキ(横位・ 強)-ミガキ(横位・強)	砂粒極少 量・繊維 少量混入	施文後 ミガキ
IV-109-3	110-3	082B	II B3	AU-25	Vc	1	口縁部	平縁・ほぼ直立- 隅丸角状	RL斜行縄文-円形刺 突文-RL斜行縄文 (縦回転)	砂粒少量・ 珪角礫・円 礫(φ2~7) 中量・石英 微量混入	表面 剥落
IV-109-4	110-4	082A	II B3	VSB-06	VbU	1	胴部	やや外傾	RL斜行縄文-RL斜行 縄文(縦回転)	砂粒少量・ 珪角礫・円 礫(φ2~7) 中量・石英 微量混入	
IV-109-5	110-5	082C	II B3	AV-29	VbL	1	胴部	ほぼ直立	RL斜行縄文-RL斜行 縄文(縦回転)	砂粒少量・ 珪角礫・円 礫(φ2~7) 中量・石英 微量混入	
IV-109-6	110-6	427A	IV A1a	VSB-06	VbU	1	口縁部	平縁・外反-角状	LR斜行縄文-貼付帯 +LR斜行縄文・円形 刺突文(棒状工具)+ RL斜行縄文-ヘラナデ	砂粒中量 混入	

表IV-12-1 VPB・VSB出土土器属性表(9)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
IV-109- 7	110-7	385A	IVA1a	VSB-06	VbU	1	口縁部 ~胴部 下半 (底)外傾-(胴部上半) やや張り出す-(口縁 部)やや外傾(口唇)		ナデ-貼付帯A1-重複 縄文-ヘラナデ(横位) /2段異原体羽状縄文 ・貼付帯-ヘラナデ (横位)	砂粒多量・ 珪角礫(φ3 ↓)少量・赤 色岩粒(φ3 ↓)微量混 入	輪積 成形痕
				AS-23	VbL	2					
					VbU	2					
VSB-09											
IV-112- 3	111-25	217A	ⅢB2	AD-21	VbU	1	口縁部 ~胴部 上半	平縁・外傾-尖状(断面 三角形)	肥厚帯+押引文(ヘラ 状工具)・L斜行縄文	砂粒中量・ 繊維少量 混入	
IV-112- 4	111-26	217B	ⅢB2	VSB-09	Vc	1	口縁部 ~胴部 上半	平縁・外傾-尖状(断面 三角形)	肥厚帯+押引文(ヘラ 状工具)・L斜行縄文	砂粒中量・ 繊維少量 混入	

表IV-12-2 VPB・VSB・VFCB・VMO出土石器属性表(1)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	グリッド/ 遺構名	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
IV-78-7	98-7		29675	石皿	-	VbL	VPB-06	(243.0)	(180.0)	144.0	(5,400.0)	Sa.	欠
IV-78-11	98-11		7582	たたき石	IV	VbL	VPB-08	(76.2)	(57.6)	(48.3)	(180.0)	Sa.	欠
IV-80-17	99-17		12874	たたき石	II B3	VbU	VPB-12	(126.0)	61.5	43.3	(390.0)	Sa.	欠
IV-80-18	99-18	VST 062	12570	滑沢面のある礫	-	VbU	VPB-12	167.5	156.0	75.5	2,880.0	Sa.	完
			Vc			AT-24							
IV-80-19	99-19	VST 108	12867	台石	-	VbU	VPB-12	303.0	222.0	109.0	10,140.0	Sa.	完
			12866										
IV-81-28	100-28		24896	たたき石	IV	Vc	VPB-15	(160.0)	(39.7)	(54.4)	(445.0)	Sa.	欠
IV-83-10	101-10		2732	ポイント類A	A3	VbL	VSB-01	36.9	19.2	6.1	3.3	Obs.	
IV-83-11	101-11		4700	ポイント類A	A4	2	VSB-01B	29.0	13.9	5.6	1.8	Obs.	
IV-83-12	101-12		4689	ポイント類B	B1a①	3	VSB-01B	57.5	30.2	7.1	9.2	Obs.	
IV-83-13	101-13		2760	ポイント類B	B2	3	VSB-01	57.2	20.3	6.2	6.2	Obs.	
IV-83-14	101-14		4708	つまみ付きナイフ	A1a③	3	VSB-01B	61.1	22.0	6.4	9.3	Sh.	
IV-83-15	101-15		2595	つまみ付きナイフ	A4	VbU	VSB-01	31.0	11.7	2.8	1.2	Obs.	
IV-83-16	101-16		4698	ナイフ・スクレイパー類	C1	2	VSB-01B	39.7	25.6	6.9	5.1	Obs.	
IV-83-17	101-17		4604	ナイフ・スクレイパー類	D	2	VSB-01B	(29.1)	(24.2)	(3.8)	3.9	Obs.	
IV-83-18	101-18		4912	ナイフ・スクレイパー類	C2	3	VSB-01B	60.3	20.6	4.1	(1.6)	Obs.	
IV-83-19	101-19		4768	ナイフ・スクレイパー類	C2	3	VSB-01B	(26.1)	13.0	22.9	10.2	Obs.	岩屑面
IV-83-20	101-20		4914	石核	-	3	VSB-01B	31.2	15.8	9.4	9.9	Obs.	
IV-84-21	101-21	VST 014	2624	石斧	A1b	VbU	VSB-01	168.0	59.0	26.8	330.0	Gr-Mud.	完・未成品
			18579			2							
IV-84-22	101-22		2723	たたき石	IV	VbL	VSB-01	(95.8)	108.6	50.8	(780.0)	Sa.	欠
IV-84-23	101-23		4834	たたき石	II B3	3	VSB-01E	120.6	66.2	35.9	287.0	Sa.	完
IV-84-24	101-24		4747	半円状扁平打製石器	-	KR	VSB-01E	(93.5)	88.0	23.1	(215.0)	Sa.	欠
IV-84-25	101-25		5374	石皿	-	3	VSB-01E	374.0	283.0	214.0	(25,420.0)	Sa.	略
IV-85-26	102-26		5375	石皿	-	3	VSB-01E	435.0	234.0	212.0	(37,540.0)	Sa.	略
IV-85-27	102-27		5369	石皿	-	3	VSB-01E	310.0	(255.0)	149.0	(13,400.0)	Sa.	欠
IV-86-28	102-28		4832	棍棒形石器	-	2	VSB-01	400.0	108.8	23.2	1,415.0	Bl-Sch.	完・石材同定
IV-86-29	102-29		3679	棍棒形石器	-	KR	VSB-01	293.0	97.3	40.4	1,260.0	Bl-Sch.	完・石材同定
IV-91-17	103-17		4430	ポイント類A	A3	VbU	VSB-02	(28.7)	19.2	3.9	(1.5)	Obs.	
IV-91-18	103-18		3368	ポイント類A	A4	VbU	VSB-02	29.3	12.1	4.2	1.1	Obs.	
IV-91-19	103-19		5134	ポイント類B	B1a①	VbU	VSB-02	44.3	29.1	8.9	9.7	Obs.	
IV-91-20	103-20		3364	つまみ付きナイフ	A1b①	VbU	VSB-02	73.6	35.3	6.6	19.1	Sh.	
IV-91-21	103-21		5132	ナイフ・スクレイパー類	C2	VbU	VSB-02	40.4	22.0	6.8	6.8	Obs.	転礫面
IV-91-22	103-22		5183	ナイフ・スクレイパー類	C2	VbU	VSB-02	32.3	21.2	5.1	(3.9)	Obs.	
IV-92-23	103-23		2684	石斧	A1a	VbU	VSB-02	79.8	30.9	11.7	46.9	Gr-Mud.	完
IV-92-24	103-24		3149	石斧	B1	VbU	VSB-02	(107.9)	35.1	20.3	(108.0)	Bl-Sch.	欠・未成品
IV-92-25	103-25	VST 036	3208	たたき石	I B1	VbU	VSB-02	188.0	54.6	35.2	(490.0)	Sa.	略
			3212										
IV-92-26	103-26		3229	たたき石	III A	VbU	VSB-02	(94.2)	69.0	26.3	(195.0)	Sa.	欠
IV-92-27	103-27		3148	砥石	-	VbU	VSB-02	(106.5)	62.5	43.3	(360.0)	Sa.	欠
IV-92-28	103-28		4162	石鋸	-	VbU	VSB-02	(32.9)	(40.5)	18.3	(30.0)	Sa.	欠・被熱
IV-92-29	103-29		2947	石皿	-	VbU	VSB-02	339.0	(231.0)	108.0	(12,560.0)	Sa.	欠
IV-92-30	103-30		3305	石製品	-	VbU	VSB-02	67.2	53.6	33.2	150.0	Sa.	完
IV-97-1	104-1		25173	ポイント類A	A4	VbU	VSB-04	(29.2)	14.9	3.8	(1.4)	Obs.	欠
IV-97-2	104-2		17424	つまみ付きナイフ	A1a②	VbU	VSB-04	(43.2)	18.1	6.4	(5.3)	Obs.	
IV-97-3	104-3		13327	石斧	A2b	VbU	VSB-04	(104.6)	56.6	27.3	(305.0)	Ser.	基部欠
IV-97-4	104-4		11945	すり石	D	VbU	VSB-04	168.5	90.1	49.5	1,520.0	Gab.	完
IV-97-5	104-5		11231	砥石	-	VbU	VSB-04	(68.4)	60.6	20.7	(130.0)	Sa.	欠
IV-98-21	104-21		13926	ポイント類A	A3	VbM	VSB-04	23.6	14.1	3.4	0.6	Obs.	
IV-98-22	104-22		13133	ポイント類A	A3	VbM	VSB-04	(28.3)	14.9	4.1	(1.2)	Obs.	
IV-98-23	104-23		11099	ポイント類A	A3	VbM	VSB-04	36.5	25.5	12.2	9.8	Obs.	

表IV-12-2 VPB・VSB・VFCB・VMO出土石器属性表(2)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	グリッド/ 遺構名	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
IV-98-24	104-24		11627	ポイント類B	B1a①	VbM	VSB-04	47.4	21.1	6.2	4.9	Obs.	
IV-98-25	104-25		15116	ポイント類B	B2	VbM	VSB-04	55.1	23.8	7.6	6.9	Obs.	
IV-98-26	104-26		13134	つまみ付きナイフ	A1a①	VbM	VSB-04	77.7	18.7	12.3	19.9	Sh.	
IV-98-27	104-27		9823	たたき石	I A3	VbM	VSB-04	160.0	72.5	25.8	410.0	Sa.	完
IV-98-28	104-28		13339	すり石	D	VbM	VSB-04	157.5	121.1	81.5	1,980.0	Sa.	完・未成品
IV-99-43	105-43		14657	ポイント類A	A4	VbL1	VSB-04	37.2	15.4	4.2	1.8	Obs.	
IV-99-44	105-44		14658	ポイント類B	B2	VbL1	VSB-04	47.2	23.2	6.1	4.4	Obs.	
IV-99-45	105-45		11935	つまみ付きナイフ	A1b③	VbL1	VSB-04	49.3	26.7	11.5	14.2	Obs.	
IV-99-46	105-46		11810	ナイフ・スクレイパー類	B2	VbL1	VSB-04	36.6	27.1	9.0	9.8	Obs.	
IV-99-47	105-47		17982	石斧	A2a	VbL1	VSB-04	(74.5)	20.6	8.9	(32.0)	Gr-Mud.	被熱・基部欠
IV-99-48	105-48	VST 030	13326	石斧	B1	VbM1	VSB-04	105.2	44.3	24.8	176.0	Gr-Mud.	完・未成品
			VbL1			BF-30							
IV-99-49	105-49		14665	すり石	F	VbL1	VSB-04	79.2	72.3	34.1	295.0	Gni.	完・被熱
IV-99-50	105-50		14378	砥石	-	VbL1	VSB-04	191.0	84.3	48.3	875.0	Sa.	完・被熱
IV-99-51	105-51		13337	石皿	-	VbL1	VSB-04	(459.0)	248.0	177.0	(26,500.0)	Sa.	欠
IV-100-52	105-52		21515	石錘	-	VbL1	VSB-04	98.2	(54.2)	25.8	(235.0)	Amp.	欠
IV-100-64	106-64		17978	ポイント類A	A3	VbL2	VSB-04	27.1	12.6	2.6	0.8	Obs.	
IV-100-65	106-65		17964	ポイント類A	A3	VbL2	VSB-04	33.1	11.7	4.5	1.3	Obs.	
IV-100-66	106-66		17975	ポイント類A	A4	VbL2	VSB-04	(34.8)	19.6	6.8	(3.1)	Obs.	
IV-100-67	106-67		17924	ポイント類B	B1a①	VbL2	VSB-04	(47.6)	(30.4)	9.9	(11.7)	Obs.	
IV-100-68	106-68		21873	ポイント類B	B1a①	VbL2	VSB-04	49.3	31.3	9.9	10.7	Obs.	
IV-100-69	106-69		17979	ポイント類B	B1a②	VbL2	VSB-04	49.4	24.5	9.3	10.0	Obs.	
IV-100-70	106-70		17961	ポイント類B	B1a②	VbL2	VSB-04	(28.4)	(25.9)	(9.2)	(6.3)	Obs.	
IV-100-71	106-71		17926	石錐	D1	VbL2	VSB-04	34.1	9.3	4.5	2.4	Sh.	
IV-100-72	106-72		17931	つまみ付きナイフ	A1a③	VbL2	VSB-04	61.1	29.0	7.9	15.7	Sh.	
IV-101-73	106-73		17960	つまみ付きナイフ	A1a②	VbL2	VSB-04	69.4	22.2	9.6	17.1	Si.	
IV-101-74	106-74		17922	つまみ付きナイフ	A2a②	VbL2	VSB-04	45.6	27.0	8.5	11.7	Obs.	
IV-101-77	107-75		18709	ナイフ・スクレイパー類	B2	VbL2	VSB-04	52.2	24.6	12.4	22.4	Aga-Sh.	
IV-101-76	107-76		17925	ナイフ・スクレイパー類	B2	VbL2	VSB-04	64.3	47.9	11.0	37.5	Sh.	
IV-101-75	107-77		17977	ナイフ・スクレイパー類	C1	VbL2	VSB-04	40.2	21.9	6.3	7.2	Sh.	
IV-101-78	107-78		17707	たたき石	II B3	VbL2	VSB-04	87.8	79.5	37.9	380.0	Sa.	完
IV-101-79	107-79		17341	すり石	D	VbL2	VSB-04	(86.6)	89.3	64.6	(620.0)	Sa.	欠
IV-101-80	107-80		17711	すり石	E	VbL2	VSB-04	81.4	19.6	10.6	30.0	Gr-Mud.	完・石斧転用
IV-101-81	107-81		17715	すり石	F	VbL2	VSB-04	93.1	71.2	43.4	430.0	Gab.	完
IV-102-88	107-88		21525	ポイント類B	B1a②	VbL3	VSB-04	46.1	30.5	9.0	9.03	Obs.	
IV-102-89	107-89		16809	ナイフ・スクレイパー類	C1	VbL3	VSB-04	(68.6)	25.7	12.2	(25.1)	Obs.	
IV-102-90	107-90		21755	石斧	B2b2	VbL3	VSB-04	125.7	38.2	25.0	140.0	Gr-Mud.	完・未成品
IV-102-91	107-91		21389	たたき石	I A3	VbL3	VSB-04	141.1	54.5	29.2	300.0	Sa.	完・被熱
IV-102-92	107-92		21788	たたき石	II A3	VbL3	VSB-04	118.8	92.7	30.7	415.0	Sa.	完
IV-102-94	108-94		23415	ポイント類A	A2b	VbL4	VSB-04	32.2	18.1	2.6	1.4	Obs.	
IV-102-95	108-95		23414	ポイント類B	B1a②	VbL4	VSB-04	(59.4)	29.1	11.1	(14.8)	Obs.	
IV-102-96	108-96		15392	ポイント類B	B1a②	VbL4	VSB-04	50.3	33.4	9.7	13.8	Obs.	
IV-102-97	108-97		23088	石錐	C	VbL4	VSB-04	81.4	30.1	12.0	23.0	Sh.	
IV-102-98	108-98		23724	石皿	-	VbL4	VSB-04	328.0	262.5	138.0	(21,700.0)	Sa.	略
IV-105-8	109-8		15060	ポイント類B	B2	VbL	VSB-05	51.4	23.0	8.6	6.2	Obs.	
IV-105-9	109-9		15064	ナイフ・スクレイパー類	C1	VbL	VSB-05	37.3	11.5	3.6	2.2	Obs.	
IV-105-10	109-10		15065	石錐	E1	VbL	VSB-05	(50.1)	18.5	7.1	(6.6)	Sh.	被熱・つまみ付き ナイフからの転用
IV-105-11	109-11		15067	つまみ付きナイフ	A2a②	VbL	VSB-05	(37.5)	31.8	7.9	15.2	Ssh.	
IV-106-12	109-12		15431	たたき石	I A3	VbL	VSB-05	171.0	71.0	37.2	540.0	Sa.	完
IV-106-13	109-13		15435	たたき石	II B3	VbL	VSB-05	165.0	95.3	109.3	2,150.0	Sa.	完
IV-106-14	109-14		13761	砥石	-	VbL	VSB-05	(68.1)	46.2	10.5	(35.0)	Sa.	欠
IV-106-15	109-15		12992	石鋸	-	VbM	VSB-05	138.8	(81.1)	(36.5)	(375.0)	Sa.	欠

表IV-12-2 VPB・VSB・VFCB・VMO出土石器属性表(3)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	グリッド/ 遺構名	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
IV-106-16	109-16		15104	台石	-	VbL	VSB-05	250.0	(220.0)	166.0	(9,700.0)	Sa.	欠
IV-109-8	110-8		12707	ポイント類A	A3	VbU	VSB-06	26.0	14.3	2.4	0.8	Obs.	
IV-109-9	110-9		12711	ポイント類B	B1b	VbU	VSB-06	44.2	17.1	6.7	2.9	Obs.	
IV-109-10	110-10		12712	ポイント類B	B2	VbU	VSB-06	49.6	21.4	7.0	5.3	Obs.	
IV-109-11	110-11		12708	つまみ付きナイフ	A1a③	VbU	VSB-06	55.2	20.0	5.5	(5.5)	Sh.	
IV-109-12	110-12		12705	ピエスエスキュー	-	VbU	VSB-06	25.9	15.8	7.0	2.8	Obs.	
IV-109-13	110-13		12716	石斧	A2a	VbU	VSB-06	(50.9)	41.9	11.0	(39.0)	Bl-Sch.	基部欠
IV-109-14	110-14		14051	たたき石	I B3	VbU	VSB-06	(108.6)	49.8	38.9	(330.0)	Sa.	欠
IV-109-15	110-15		12793	すり石	D	VbU	VSB-06	128.2	87.2	61.9	(9,900.0)	And.	略
IV-109-16	110-16		12772	石皿	-	VbU	VSB-06	(143.8)	(129.8)	(43.0)	(735.0)	Sa.	破
IV-110-17	110-17		16150	石皿	-	VbU	VSB-06	333.0	224.0	210.0	21,840.0	Sa.	欠
IV-110-18	111-1-18		16147	石皿	-	VbU	VSB-06	387.0	310.5	241.0	38,000.0	Sa.	完
IV-110-19	111-1-19		12817	台石	A2a	VbU	VSB-06	204.0	(165.0)	78.3	(3,000.0)	Sa.	欠
IV-111-1	111-2-20		16185	石核	-	Vc	VSB-07	164.0	132.0	65.0	1,690.0	Obs.	
IV-111-2	111-2-21		16184	原石	-	Vc	VSB-07	100.0	89.0	73.0	810.0	Obs.	
IV-111-3	111-2-22		16186	原石	-	Vc	VSB-07	151.0	122.0	88.0	(1,900.0)	Obs.	略
IV-112-1	111-2-23		18379	たたき石	II A3	VbU	VSB-08	156.0	76.1	36.1	430.0	Sa.	完・被熱
IV-112-2	111-2-24		18470	石皿	-	VbU	VSB-08	(123.9)	(116.8)	(65.3)	(935.0)	Sa.	破
IV-112-5	111-2-27		28978	たたき石	I B3	Vc	VSB-09	249.0	92.5	87.2	1,880.0	Sa.	完
IV-114-10	112-1-10		14419	ポイント類B	B1b②	VbL	VFCB-02	57.2	(30.2)	12.0	(15.7)	Obs.	略
IV-114-11	112-2-11		6320	ポイント類A	A2a	VbU	VMO-01	24.0	16.7	3.6	1.5	Obs.	完
IV-114-12	112-2-12		6307	ポイント類B	C	VbU	VMO-01	52.7	28.3	7.1	9.0	Obs.	未成品
IV-114-13	112-2-13		6302	石斧	A2a	VbU	VMO-01	97.1	33.1	10.9	65.0	Gr-Mud.	完
IV-114-14	112-2-14		AL-34-2-24	たたき石	I B3	VbU	VMO-01	(147.6)	52.5	28.0	(260.0)	Sa.	欠

表IV-13-1 縄文時代包含層出土土器属性表(1)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
IV-115-1	113-1	002A	I B3	BD-32	VI	1	胴部	やや外傾	微隆起線文・短縄文- ナデ	砂粒中量 混入	
IV-115-2	113-2	002B	I B3	BD-32	VI	1	胴部 下半~ 底部	やや外傾-隅丸角状- 平底	微隆起線文・RL斜行 縄文・無文帯-ナデ	砂粒中量 混入	
IV-115-3	113-3	005B	I B3	AW-30	Vc	1	胴部	やや外傾	絡条体圧痕文+ 短縄文(鋸歯状構成)- ナデ(横位)	砂粒極少 量混入	
IV-115-4	113-4	005A	I B3	AW-30 AW-30	VbU Vc	1 1	胴部 下半	外傾	RL斜行縄文・絡条体 圧痕文+短縄文-ナデ	砂粒極少 量混入	
IV-115-5	113-5	006A	I B3	AW-30	Vc	1	口縁部	平縁・内湾-尖状	微隆起線文・綾絡文・ 捺糸文(羽状構成)- ナデ(横位)	砂粒多量・ 石英中量 混入	補修孔・ 富良野 盆地系
IV-115-6	113-6	006B	I B3	AU-32	Vc	1	胴部	やや外傾	捺糸文(羽状構成)- ナデ(横位)	砂粒多量・ 石英中量 混入	補修孔・ 富良野 盆地系
IV-115-7	113-7	008C	I B4	AX-27	Vc	1	口縁部	平縁・直立-角状	絡条体圧痕文-ナデ	砂粒少量 混入	
IV-115-8	113-8	008A	I B4	VH-02	2	1	胴部	直立	捺糸文(羽状構成)・ 絡条体圧痕文-ナデ	砂粒少量 混入	
IV-115-9	113-9	008B	I B4	AW-27	Vc	1	胴部	やや外傾	捺糸文(羽状構成)- ナデ	砂粒少量 混入	
IV-115-10	113-10	021B	II B2	AU-28	VI	1	口縁部	波状・外反-尖状	縄圧痕-縄線文(菱目 状構成)-ミガキ(横位)	繊維少量 混入	
IV-115-11	113-11	021A	II B2	AZ-28	Vc	1	口縁部 下半~ 胴部 上半	内湾	縄線文・ミガキ(施文後 ・横位)-隆帯+ 縄線文・多軸絡条体 回転文-ミガキ(縦位)	繊維多量 混入	
IV-115-12	113-12	026B	II B2	AL-25	VbL	1	口縁部	山形・外反-丸状	縄圧痕・刻み(突起部) -縄線文・縄圧痕文- ミガキ(横位)	砂粒・繊維 少量・石英 中量混入	施文後 ミガキ
IV-115-13	113-13	026A	II B2	AN-27 AN-28	VbU Vc	1 1	口縁部 下半~ 胴部 上半	直立	縄線文・隆帯+刺突文 -ミガキ(横位)/多軸絡 条回転体文-ミガキ (横位)	砂粒・繊維 少量・石英 中量混入	口縁部 施文後 ミガキ
IV-115-14	113-14	017B	II B2	AV-25 AW-28	VbL	1 1	口縁部	山形突起・外反-隅丸 角状	縄圧痕(突起頂部)・縄 線文(2条)-縄線文(2条 1対・3段)縄圧痕- ミガキ(横位)	砂粒・石英 中量・繊維 少量混入	
IV-115-15	113-15	017D	II B2	AZ-27	VbL	1	胴部	外反	縄線文(2条1対)- 縄圧痕-ミガキ(横位)	砂粒・石英 中量・繊維 少量混入	
IV-115-16	113-16	017C	II B2	AT-27	Vc	1	胴部	直立	縄圧痕・縄線文(2条1 対)・縄圧痕・隆帯・縄 線文(2条1対)-ミガキ (横位)	砂粒・石英 中量・繊維 少量混入	
IV-115-17	113-17	017A	II B2	AV-25 AW-26	VbU Va Vc	1 3 3	胴部	やや外傾	LR斜行縄文+綾絡文 -ミガキ(横位)	砂粒・石英 中量・繊維 少量混入	

表IV-13-1 縄文時代包含層出土土器属性表(2)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
IV-115-18	113-18	052H	II B2	AV-27	VbU	2	胴部	平縁・外反・小突起- 丸状	指頭圧痕(突起頂部)- 刺突文(半截竹管状)- 刺突文(半截竹管状・ 棒状工具)・縄線文 (2条1対・3段)-ミガキ (横位)	砂粒・石英 中量・繊維 少量混入	
				AV-28	Vc	1					
IV-115-19	113-19	052G	II B2	AV-25	VbL	1	口縁部 ~胴部 上半	やや内湾/やや外傾	縄線文(2条1対)・隆帯 +刺突文(半截竹管状 (内))・重複燃糸文- ミガキ(横位・斜位)	砂粒・石英 中量・繊維 少量混入	
					Vc	1					
IV-115-20	113-20	040A	II B2	AX-30	VbL	1	口縁部	平縁・突起・外傾-丸状	縄圧痕・棒状突起+縄 圧痕-肥厚帯+縄線文 -ミガキ(横位)	砂粒微量・ 繊維少量 混入	施文後 に器表 面のミガ キ調整
IV-115-21	113-21	029A	II B2	AU-25	KR	1	口縁部	平縁・外反-隅丸角状	刺突文(半截竹管状)- 絡条体圧痕文(6条)- ナデ(横位)	砂粒・石英 少量混入	風化
				AX-27	Vc	1					
IV-115-22	113-22	135A	II B2	AU-27	VbU	2	口縁部	外反	縄線文・隆帯+円形刺 突文(竹管状)-ミガキ	砂粒中量・ 石英中量・ 繊維中量 混入	
				AV-26	Vc	2					
IV-115-23	113-23	044B	II B2	AS-27	VbU	1	胴部	やや外傾	貝殻状痕文+多軸絡 条体回転文-ミガキ (縦位)	砂粒多量・ 石英・繊維 中量混入	
IV-115-24	113-24	028A	II B2	AS-27	VbL	1	胴部	やや外傾	多軸絡条体回転文- ミガキ(縦位)	砂粒微量・ 繊維中量・ 海綿骨針 中量混入	補修孔
IV-115-25	113-25	035A	II B2	AW-27	VbU	1	底部	直立-隅丸角状-中央 やや上げ底	(ミガキ・ヨコ)-ミガキ- ミガキ	砂粒中量・ 珪角礫 (φ2~4) 極少量 混入	
					Vc	1					
					AZ-28	VbU					
IV-115-26	113-26	136A	II B2	AU-31	VbL	1	口縁部 ~胴部 上半	平縁・内湾~直立-内 削ぎ尖状/外傾	LR斜行縄文・無文帯/ LR斜行縄文-ナデ	砂粒少量・ 繊維中量 混入	
				AV-26	Vc	1					
				AW-25	VbU	1					
					Vc	1					
IV-115-27	113-27	066A	II B3	AY-28	VbU	1	口縁部	平縁・直立-外削隅丸 角状	RL斜行縄文・縄線文 (同一条異原体・2条)- ヘラナデ	砂粒極少 量・繊維 多量混入	
IV-115-28	113-28	071A	II B3	AX-26	VbU	4	口縁部	平縁・やや外反-隅丸 角状	RR斜行縄文・縄線文(2 条)LR斜行縄文-ナデ (横位)	砂粒・石英 少量・繊維 多量混入	施文後 部分的 にナデ
IV-115-29	113-29	071B	II B3	AX-26	Vc	2	胴部	やや外傾	LR斜行縄文・RR斜行 縄文	砂粒・石英 少量・繊維 多量混入	施文後 部分的 にナデ
IV-116-30	114-30	064A	II B3	AV-30	VbU	1	口縁部	平縁・外反-角状	LR斜行縄文・RL斜行 縄文・縄線文・RL斜行 縄文・0段多条LR斜行 縄文(菱形構成)	砂粒・珪角 礫少量・ 繊維多量 混入	
IV-116-31	114-31	061A	II B3	AO-31	VbL	1	口縁部 ~胴部 上半	平縁-やや外傾-隅丸 角状/直立	LR斜行縄文・RL斜行 縄文+刺突文+ナデ (横位)/重複縄文- ナデ(横位)	砂粒・繊維 中量混入	
				AP-31	Vc	1					
IV-116-32	114-32	073A	II B3	-	表採	1	口縁部	平縁・やや外反- 外削ぎ角状	縄線文・縄線文(2条)・ 2段異原体羽状縄文	砂粒・蛇紋 岩微量・ 繊維多量 混入	

表IV-13-1 縄文時代包含層出土土器属性表(3)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
IV-116- 33	114-33	134A	II B3	AY-28	VbL	4	口縁部 ~胴部	平縁・やや外傾- 外削ぎ隅丸角状/直立	縄線文・LR斜行縄文- 2段異原体羽状縄文・ 縄線文(3条・異原体 押圧)-ナデ	砂粒中量・ 繊維多量 混入	剥落著
					VbU	2					
IV-116- 34	114-34	133A	II B3	AE-23	VbU	1	口縁部	平縁・尖状-外反	0段多条LR斜行縄文・ 縄線文-0段多条LR・ RL斜行縄文(羽状構 成)-ミガキ(横・縦位) 部分的	砂粒・繊維 少量混入	
IV-116- 35	114-35	055A	II B3	AS-26	Vc	1	口縁部	平縁・外反-外削ぎ切り 出し状	LR斜行縄文-縄線文 (同一条異原体・2条)・ 2段異原体羽状縄文- ナデ(横位)	砂粒微量・ 繊維中量 混入	
IV-116- 36	114-36	065A	II B3	AU-29	Vc	1	口縁部	平縁・やや外傾-尖状	肥厚帯+LR斜行縄文 +縄線文・RL斜行縄 文・LR斜行縄文(羽状 構成)・縄線文(3条)- 弱いミガキ(横位)	砂粒微量・ 繊維多量 混入	
IV-116- 37	114-37	086A	II B3	AT-26	VbU	1	口縁部 上半	やや外傾	縄線文(2条)・RL斜行 縄文	砂粒・亜角 礫(φ2~ 4)・繊維 少量混入	
IV-116- 38	114-38	079A	II B3	AG-35	Vc	1	口縁部	平縁・直立-角状	押引状ヘラナデ-RL 斜行縄文・沈線+円形 刺突文	砂粒・亜角 礫(φ2~5) 中量混入	内面 炭化物 付着
IV-116- 39	114-39	093A	II B5	BC-28	VbL	1	口縁部	やや内湾	LR斜行縄文-無文 (ナデ)	砂粒中量・ 蛇紋岩 (φ2~4) 多量混入	
IV-116- 40	114-40	019B	III A1a	AY-27	Vc	1	口縁部	波状・尖状-外反	燃糸圧痕-燃糸線文(2 条1対)・刺突文(ヘラ状 工具)-ミガキ(横位)	砂粒多量・ 石英・繊維 中量・角礫 (φ2~4) 微量混入	
IV-116- 41	114-41	019A	III A1a	AU-26	VbU	2	口縁部 下半	外反	燃糸圧痕(2条1対)-刺 突文(ヘラ状工具)・貼 付文(突起下・3条1対) +燃糸圧痕-ミガキ (横位)	砂粒多量・ 石英・繊維 中量・角礫 (φ2~4) 微量混入	
				AV-26		1					
IV-116- 42	114-42	152A	III A1	AW-25	VbU	6	口縁部 ~底部	外反/膨らみをもつ外 傾-隅丸角状-平底 (中央やや上げ底)	突引文(鋸歯状構 成)・隆帯+刺突文/ LR斜行縄文-ミガキ (タテ)/無文-補修孔	砂粒少量・ 繊維中量 混入	
IV-116- 43	114-43	469A	III A1a	AU-28	VbU	1	胴部	やや外傾	刺突文(半截竹管状)・ 燃糸圧痕文・隆帯+ 燃糸圧痕文(縦位)	砂粒少量 混入	
				AU-32	VbL	1					
IV-116- 44	114-44	102B	III A1b	AX-26	Vc	1	口縁部	外反-外削ぎ隅丸角状	馬蹄形燃糸圧痕文- 馬蹄形燃糸圧痕文 (2段)-ミガキ(縦位)	砂粒微量・ 繊維中量・ 海綿骨針 多量混入	道南系
IV-116- 45	114-45	102A	III A1b	AX-26	Vc	1	胴部	やや外傾	結束第1種羽状縄文+ 結縛痕-ミガキ(縦位)	砂粒少量・ 繊維中量・ 海綿骨針 多量混入	道南系

表IV-13-1 縄文時代包含層出土土器属性表(4)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
IV-116-46	114-46	100A	ⅢA1b	AV-30	VbU	1	口縁部	弁状突起・外反- 外削ぎ切り出し状	捺糸圧痕文・貼付帯+ 捺糸圧痕文-貼付帯 (縦位)+捺糸圧痕文・ 捺糸圧痕文・馬蹄形 捺糸圧痕文-ミガキ	砂粒少量・ 繊維中量 混入	
IV-116-47	114-47	103A	ⅢA1b	AV-25	Vc	1	口縁部 上半	やや外傾	捺糸圧痕文-馬蹄形圧 痕文・貼付帯+捺糸圧 痕文-ナデ(横位)	繊維少量 混入	
IV-116-48	114-48	113A	ⅢA1b	AU-24	VI	1	口縁部 ~胴部 上半	平縁・外傾-丸状・尖状 (突起部)/やや外傾	馬蹄形圧痕文・捺糸圧 痕文(突起部)-貼付文 (弧状・鋸歯状)捺糸圧 痕文・捺糸圧痕文又は 馬蹄形圧痕文-ミガキ (横位)/結束第1種 羽状縄文(菱形構成)- ミガキ(縦位)	砂粒少量 混入	補修孔
					VbU	3					
					Vc	9					
					AU-25	VbU					
IV-116-49	114-49	113B	ⅢA1b	AU-24	VbU	1	底部	直立-張り出し-平底	RL斜行縄文	砂粒・石英 少量混入	
IV-116-50	114-50	101A	ⅢA1b	AY-28	KR	1	口縁部	平縁-外反-断面三角 に肥厚	馬蹄形圧痕文・貼付帯 (2条)+捺糸圧痕文- 結束第1種羽状縄文・ 結縛痕-ナデ(横位)	砂粒・繊維 少量混入	
IV-117-51	115-51	106B	ⅢA1b	AV-25	VbU	1	口縁部	台形状突起・尖状- 外反	肥厚帯・貼付文(弧状) +捺糸圧痕文・捺糸圧 痕文-ミガキ(横位)	砂粒・石英 (φ2↓)・ 繊維少量 混入	
				AV-26							1
IV-117-52	115-52	106C	ⅢA1b	AV-26	VbU	1	口縁部	山形・尖状-直立	肥厚帯+捺糸圧痕文- 捺糸圧痕文-ミガキ (横位)	砂粒・石英 (φ2↓)・ 繊維少量 混入	
IV-117-53	115-53	106A	ⅢA1b	AW-26	VbL	1	胴部	外傾	結束第1種羽状縄文- ミガキ(縦位)	砂粒・石英 (φ2↓)・ 繊維少量 混入	
					Vc	2					
IV-117-54	115-54	106D	ⅢA1b	AW-26	Vc	1	底部	直立-隅丸角状-平底	RL斜行縄文・ミガキ (横位)-ミガキ-ミガキ (縦位)	砂粒・石英 (φ2↓)・ 繊維少量 混入	
IV-117-55	115-55	115A	ⅢA2	AW-27	Vc	14	口縁部 ~胴部	平縁・やや外反- 三角形/ほぼ直立	RL斜行縄文-RL斜行 縄文-ミガキ(横位)/RL 斜行縄文-ミガキ (縦位)	砂粒中量・ 繊維微量 混入	
IV-117-56	115-56	115B	ⅢA2	AW-27	VbU	1	底部	やや外傾-角状-平底	無文(横位)・ミガキ	砂粒中量・ 繊維微量 混入	
IV-117-57	115-57	117B	ⅢB1	AR-23	VbU	1	口縁部	波状・外反-尖状・ 肥厚帯	LR斜行縄文-ナデ	繊維中量 混入	
IV-117-58	115-58	117A	ⅢB1	AR-23	VbU	2	胴部 上半	直立	LR斜行縄文-ミガキ (部分的)-ナデ	繊維中量 混入	
IV-117-59	115-59	122A	ⅢB2	AK-19	Vc	1	口縁部	平縁・やや外傾-尖状・ 断面三角に肥厚	押引文(半截竹管状 内)・2段-押引文 (半截竹管状内)・3段 ・LR斜行縄文	砂粒・繊維 中量混入	
IV-117-60	115-60	130A	ⅢB2	AU-25	VbU	1	口縁部	平縁・ほぼ直立- 隅丸角状	押引文(半截竹管状 外)-LR斜行縄文・貼 付+刺突文(半截竹管 状内)・刺突文(棒状 工具)-ミガキ(縦位)	砂粒少量 混入	

表IV-13-1 縄文時代包含層出土土器属性表(5)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
IV-117- 61	115-61	119A	ⅢB2	AT-25	Vc	1	口縁部 ~胴部	平縁・やや外傾-外削り 隅丸角状/外傾	刺突文(半截竹管状 (内))-押引文(半截 竹管状(内)・3段)/ LR斜行縄文-ナデ	砂粒少量・ 繊維中量 混入	
				AU-26	VbU	1					
IV-117- 62	115-62	291A	ⅢB2	AD-14	Va	1	口縁部	平縁・外傾-隅丸角状	押引文(半截竹管状 (内))-無文(ナデ (横位))-ナデ	砂粒少量・ 繊維中量 混入	補修孔
					VbL	2					
IV-117- 63	115-63	163A	ⅢB2	AE-27	VbU	1	口縁部	平縁・やや外反-隅丸 角状	押引文(半截竹管状 (内)浅い)-LR斜行 縄文	砂粒・石英 (φ2~4) 多量混入	富良野 盆地系
IV-117- 64	115-64	160A	ⅢB2	AJ-18	VbU	1	口縁部	平縁・ほぼ直立-丸状	刺突文(半截竹管状)- 無文帯(ナデ)・LR斜行 縄文-ナデ	砂粒・石英 (φ2~3) 多量・繊維 微量混入	富良野 盆地系
				AU-25	VI	1					
IV-117- 65	115-65	123A	ⅢB2	AP-30	Vc	1	口縁部	平縁・やや外傾-丸状	肥厚+押引文(半截竹 管状(内))-刺突文(半 截竹管状(内))・LR斜 行縄文-ヘラナデ (横位)	砂粒中量 混入	
IV-117- 66	115-66	142A	ⅢB2	BB-28	Vc	1	口縁部	平縁・丸状-外傾	無文	砂粒中量・ 繊維多量 混入	口唇直 下に指 頭圧痕
IV-117- 67	115-67	301A	ⅢB2	AS-28	Vc	1	口縁部	平縁・やや内湾-丸状	無文(指頭圧痕)-ナデ (斜位)	砂粒・赤色 鉱物少量 混入	
IV-117- 68	115-68	219A	ⅢB2	AF-18	VbL	1	口縁部	平縁・やや外反-丸状	断面三角形・肥厚 帯・無文(ナデ(横位))・ ヘラナデ(横位)	砂粒・繊維 中量・亜角 礫(φ2~6) 少量混入	
IV-117- 69	115-69	196A	ⅢB2	AQ-23	VbL	1	胴部	やや外傾	LR斜行縄文+結節 回転文	砂粒・石英 (φ2~3) 中量・雲母 微量混入	富良野 盆地系
IV-117- 70	115-70	195A	ⅢB2	AK-19	VbU	2	胴部 下半	外傾/張り出し	LR斜行縄文	砂粒中量・ 石英(φ2~ 4)多量・ 繊維微量 混入	
IV-117- 71	115-71	226A	ⅢB3	AR-30	VbL	1	口縁部 下半~ 胴部	ほぼ直立	円形刺突文/R斜行縄 文・結縛痕・貼付帯2 +刺突文(半截竹管状 (内))-R斜行縄文(縦 回転)・結縛痕・ナデ (横位)	砂粒少量 混入	焼成 良好 硬質
				AT-32	VbU	1					
IV-117- 72	115-72	225A	ⅢB3	AE-16	Vc	1	胴部	やや外傾	貼付帯(縦位・横位・斜 位)+突引文(ヘラ状 工具)	砂粒中量 混入	風化著
IV-117- 73	115-73	234C	ⅢB3	AI-20	VbU	1	口縁部	山形小突起・外傾- 内削ぎ切出し状	肥厚帯+棒状貼付文 +押引文(ヘラ状工具・ 3段)・押引文(ヘラ状工 具・斜位・X字状)	砂粒中量 混入	内面 剥落
IV-117- 74	115-74	234B	ⅢB3	AI-20	VbU	1	口縁部 ~胴部 上半	平縁・やや外反-角状	ヘラナデ-肥厚帯+押 引文(ヘラ状工具・3 段)-ナデ(横位)/R斜行 縄文-押引文(ヘラ状 工具)-ナデ(横位)	砂粒中量 混入	

表IV-13-1縄文時代包含層出土土器属性表(6)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
IV-117-75	115-75	234A	ⅢB3	AI-20	VbL	1	胴部	外傾	結束第1種羽状縄文(R+L)・押引文(ヘラ状工具・X字状・横位)-ヘラナデ	砂粒中量混入	表面風化
						1					
						1					
IV-117-76	115-76	213A	ⅢB3	AO-24	VbU	1	口縁部 ~胴部 上半	平縁・外反-丸状	肥厚帯+押引文(ヘラ状工具・2段)-ヘラナデ/円形刺突文・RL斜行縄文-ヘラナデ	砂粒少量・繊維・亜角礫(φ5↓)微量混入	
IV-117-77	115-77	213B	ⅢB3	AH-19	VbL	1	口縁部 下半~ 胴部 上半	外傾	円形刺突文・結束第1種羽状縄文-ヘラナデ(横位)	砂粒少量・繊維・亜角礫(φ5↓)微量混入	
IV-118-78	116-78	210A	ⅢB3	AF-15	VbL	1	口縁部 ~胴部 上半	平縁・外傾-丸状	肥厚帯+突引文(半截竹管状(内)・2段)/円形刺突文・羽状縄文	砂粒中量混入	
IV-118-79	116-79	211A	ⅢB3	AF-18	VbL	1	口縁部 ~胴部 上半	平縁・ほぼ直立-尖状	肥厚帯+刺突文(半截竹管状(内)・2段)/円形刺突文・RL斜行縄文	砂粒・亜角礫(φ2↓)少量・繊維微量混入	
					VbU	1					
IV-118-80	116-80	208A	ⅢB3	AG-18	VI	1	口縁部 ~胴部 上半	平縁・外反-隅丸角状	肥厚帯+押引文(半截竹管状(内)・2段)-ヘラナデ(横位)/結束第1種羽状縄文-ナデ(横位)	砂粒少量・繊維微量混入	補修孔
					VbU	1					
IV-118-81	116-81	207A	ⅢB3	AF-18	VbL	1	口縁部 ~胴部 上半	平縁・やや外反-丸状	押引文(半截竹管状(内)・2段)・円形刺突文-ナデ/RL斜行縄文-ナデ(斜位)	砂粒中量・繊維少量混入	補修孔(刺突文利用)
IV-118-82	116-82	220A	ⅢB3	AF-16	Vc	1	口縁部 ~胴部 上半	平縁・やや外反-丸状/ やや外傾	肥厚帯+LR斜行縄文+押引文(半截竹管状(外))・円形刺突文・LR斜行縄文-ナデ(横位)	砂粒中量・亜角礫(φ2~6)微量混入	
IV-118-83	116-83	221A	ⅢB3	AD-17	VbU	2	口縁部	平縁・直立-丸状	肥厚帯+LR斜行縄文+刺突文(棒状工具)・刺突文(工具不明)	砂粒少量混入	内面剥離
IV-118-84	116-84	204A	ⅢB3	AN-24	VbL	1	口縁部	平縁・外傾-丸状	刺突文(半截竹管状(内))-ナデ(斜位)・円形刺突文-RL斜行縄文(浅い)-ナデ(横位)	砂粒中量・亜角礫(φ2~5)少量混入	
					VbU	1					
IV-118-85	116-85	205A	ⅢB3	AI-18	VbL	4	口縁部 ~胴部 上半	平縁・ほぼ直立-丸状	刺突文(棒状工具)-無文・円形刺突文	砂粒少量・繊維中量混入	
IV-118-86	116-86	239A	ⅢB3	AD-16	Vc	1	口縁部 ~胴部	平縁・やや外反-断面 三角形	肥厚帯+RL斜行縄文・円形刺突文-ナデ/LR斜行縄文-指頭圧痕・ナデ(斜位)	砂粒中量・繊維微量混入	
					VbU	1					
					KR	1					
IV-118-87	116-87	218A	ⅢB3	AD-17	VbL	2	口縁部	平縁・外傾-丸状	円形刺突文	砂粒中量・石英(φ2↓)少量混入	外面風化著
						1					
IV-118-88	116-88	236A	ⅢB3	AE-21	Vc	1	口縁部 ~胴部 上半	平縁・直立-隅丸角状	LR斜行縄文-円形刺突文/LR斜行縄文	砂粒中量・繊維微量混入	
IV-118-89	116-89	237B	ⅢB3	AE-17	VbU	1	口縁部	直立-隅丸角状	ナデ-円形刺突文-ヘラナデ(横位)・細密条痕状	砂粒中量混入	

表IV-13-1 縄文時代包含層出土土器属性表(7)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等		文様		胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面				
IV-118-90	116-90	227A	ⅢB3	AF-15	VbL	1	胴部	外傾		結束第1種羽状縄文(無節)	砂粒多量・ 繊維微量 混入	風化	
IV-118-91	116-91	229A	ⅢB3	AF-18 AF-19	VbL	1 1	胴部	外傾		結束第1種LR斜行 縄文	砂粒中量 混入	二次被 熱褐色 変色	
IV-118-92	116-92	231A	ⅢB3	AD-14 AF-19 AF-23 AG-22 AG-23	VbL VbU VbL VbU VbL VbU	1 1 1 1 1 1	胴部	外傾		RL斜行縄文・結縛痕	砂粒中量・ 繊維微量 混入		
IV-118-93	116-93	233A	ⅢB3	AI-18	VbU	1	胴部	外傾		RR斜行縄文	砂粒多量 混入		
IV-118-94	116-94	336A	ⅢB3	AF-18	VbL	1	底部	外傾-張り出し・角状- 平底(中央・やや突底)		無文(ヘラナデ後ナデ)	砂粒・亜角 礫(φ4↓) 少量・繊維 中量混入		
IV-118-95	116-95	158A	ⅢB3	AG-17	VbL	1	口縁部	平縁-外反-丸状		押引文(半截竹管状 (内)・浅い)-押引文(半 截竹管状(内))・LR斜 行縄文・円形刺突文	砂粒中量・ 石英(φ2~ 3)多量混入	富良野 盆地系	
IV-118-96	116-96	157A	ⅢB3a	AT-31 AT-32 AU-32	VbU VbL Vc	1 2 1	口縁部 ~胴部	平縁・やや外反-尖状・ 肥厚帯/外傾		LR斜行縄文+円形刺 突文(半截竹管状) /LR斜行縄文-ナデ	砂粒・石英 (φ1~3) 多量・雲母 少量混入	富良野 盆地系	
IV-118-97	116-97	167A	ⅢB3	AT-27	VbU	1	口縁部	平縁・やや外形-隅丸 角状		刺突文(半截竹管状 (内))-押引文(半截竹 管状(内))・円形刺突 文・RL斜行縄文	砂粒・石英 (φ2~4) 多量・亜角 礫(φ2~6) 少量・繊維 微量混入	富良野 盆地系	
IV-118-98	116-98	175A	ⅢB3	AM-32	Vc	1	口縁部	平縁・やや外反-丸状		刺突文(半截竹管状 (内))-RL斜行縄文・円 形刺突文-ナデ(横位)	砂粒少量・ 石英(φ2~ 3)中量・ 雲母微量 混入	富良野 盆地系	
IV-118-99	116-99	161A	ⅢB3	AW-29	VI	1	口縁部	平縁・やや外形-丸状		刺突文・一部押引文 (半截竹管状(内))-円 形刺突文・LR斜行 縄文	砂粒中量・ 石英(φ2~ 3)多量混入	富良野 盆地系	
IV-118-100	116-100	165A	ⅢB3	AT-32	VbL	1	口縁部	平縁-外傾-丸状		無文帯(ナデ)・隆帯+ 刺突文(半截竹管状 (内))・円形刺突文- ナデ(横位)	砂粒中量・ 石英(φ2~ 3)多量・ 雲母 微量混入	富良野 盆地系	
IV-118-101	116-101	189A	ⅢB3	AQ-22	VbL	1	胴部	やや外傾		無節結束第1種 羽状縄文	砂粒・石英 (φ3↓)中 量・亜角礫 (φ2~4)・ 雲母少量 混入	富良野 盆地系	
IV-118-102	116-102	180A	ⅢB3	AJ-35 AJ-36 AN-31	VbL VbU VbL VbU Vc	1 1 1 1 1	胴部	やや外傾		RL斜行縄文	砂粒・石英 (φ2~4)多 量・亜角礫 (φ2~4)・ 繊維少量 混入	富良野 盆地系	

表IV-13-1 縄文時代包含層出土土器属性表(8)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等		文様		胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面				
IV-118-103	116-103	201A	ⅢB3	AN-34	Vc	1	胴部	外傾		RL斜行縄文-(ヘラナデ・粗い)	砂粒中量・石英多量・繊維微量混入	富良野盆地系	
IV-119-104	117-104	188A	ⅢB3	AJ-19	VbU	1	胴部 下半~ 底部 側面	外傾		2段異原体羽状縄文・無文(ナデ(横位))	砂粒・石英(φ2~3)多量・亜角礫(φ2~3)少量混入	富良野盆地系	
				AK-19	Ⅲc	1							
					VbU	1							
					Vc	1							
IV-119-105	117-105	159A	ⅢB3	AI-17	VbU	1	底部	外傾-丸状-平底	RL斜行縄文	砂粒・石英(φ2~3)多量・亜角礫(φ2~6)少量混入	富良野盆地系		
IV-119-106	117-106	262A	IVA1a	AO-34	VbL	1	胴部	外傾		階段状隆起帯・LR斜行縄文・結縛痕・RL斜行縄文-ナデ	砂粒・パミス少量・亜角礫(φ7↓)中量混入		
				AO-35		1							
				Vc		1							
IV-119-107	117-107	377B	IVA1a	AN-26	VbL	1	口縁部 ~胴部 上半	平縁・外反-隅丸角状/直立		ナデ-貼付帯A1+RL斜行縄文(一部RL斜行縄文重複)・無文帯+円形刺突文/貼付帯+RL斜行縄文-ナデ	砂粒中量混入		
				AP-21		2							
IV-119-108	117-108	377A	IVA1a	AL-23	VbU	1	胴部 下半	外傾		2段異原体羽状縄文	砂粒多量・円礫(φ3↓)中量混入		
IV-119-109	117-109	377C	IVA1a	AO-22	VbL	1	底部	外傾-隅丸角状-平底(中央凸)		LR斜行縄文-ナデ-ナデ	砂粒多量・円礫(φ3↓)中量混入		
IV-119-110	117-110	422A	IVA1a	AS-32	Vc	1	口縁部	平縁・やや外反-角状		LR斜行縄文-貼付帯+LR斜行縄文・円形刺突文(棒状工具)-ナデ+LR斜行縄文	砂粒多量混入	平行組織(弱)	
IV-119-111	117-111	422B	IVA1a	AT-25	VbU	1	胴部	やや外傾		2段異原体羽状縄文・貼付帯+LR斜行縄文-ナデ(平滑)	砂粒多量混入	平行組織(弱)	
IV-119-112	117-112	421A	IVA1a	AU-24	VbU	1	口縁部	平縁・直立-角状		RL斜行縄文-貼付帯+RL斜行縄文+沈線文・円形刺突文(棒状工具)/RL斜行縄文	砂粒中量・亜角礫(φ5↓)少量混入		
IV-119-113	117-113	375A	IVA1a	AX-29	KR	3	口縁部 ~胴部 上半	平縁-直立-やや外反-角状		ナデ-貼付帯+RL斜行縄文・0段多糸(羽状構成)・貼付帯B+RL斜行縄文(下2段はLR斜行縄文)	砂粒多量混入		

表IV-13-1 縄文時代包含層出土土器属性表(9)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点数	部位	器形等		文様		胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面				
IV-119-114	117-114	384B	IVA1a	AD-15	Va	3	口縁部 ~胴部 上半	平縁・やや外反-隅丸 角状/直立(口唇)	ナデ-貼付帯+重複縄 文/無文帯(ナデ付け ・凹帯状)・貼付帯・RL 斜行縄文-ナデ	砂粒中量・ 亜角礫(φ5 ↓)微量・ 赤色岩粒 少量混入	粘土帯 輪積みで 破損		
IV-119-115	117-115	384A	IVA1a	AD-15	Va	2	胴部	外傾	貼付帯・重複縄文・2 段異原体羽状縄文	砂粒中量 混入			
					VbL	1							
					VbU	1							
IV-119-116	117-116	396A	IVA1a	AH-24	VbL	1	口縁部	平縁・やや外傾-角状	LR斜行縄文-貼付帯A +LR斜行縄文	砂粒中量・ パミス微量 混入	内面 剥落		
IV-119-117	117-117	461A	IVA1a	AX-30	VbM	1	口縁部	やや外反	平縁・ナデ-階段状貼 付文+重複縄文・RL 斜行縄文	砂粒多量 混入			
					VbU	1							
IV-120-118	117-118	321A	IVA1a	AE-23	VbU	3	口縁部 ~胴部 上半	平縁・直立-角状	円形刺突文-貼付帯 A1・貼付帯(3段)+LR 斜行縄文-ナデ/LR 斜行縄文	砂粒多量 混入			
IV-120-119	117-119	321B	IVA1a	AD-26	VbU	1	胴部	外傾	貼付帯(+LR斜行縄 文)・LR・RL斜行縄文・ 羽状構成	砂粒多量 混入			
				AE-23		1							
				AF-23		Va							1
IV-120-120	117-120	464A	IVA1a	AU-27	VI	1	胴部 下半	外傾	貼付帯+LR斜行 縄文・LR斜行縄文	砂粒中量 混入			
IV-120-121	117-121	464B	IVA1a	AV-28	VbU	2	胴部 下半~ 底部	直立-角状-平底/外傾	2段異原体羽状縄文	砂粒中量 混入	内面 剥落著		
				Vc		1							
				AW-28		VbL							1
IV-120-122	118-122	388A	IVA1a	AR-28	VbU	1	胴部 下半	外傾	貼付帯+縄線文・2段 異原体~結縛痕	砂粒多量 混入	一部内 面剥落		
				AT-30		1							
				AV-30		VbL							1
				VbM		1							
				VbU		1							
AV-32	Vc	1											
IV-120-123	118-123	388B	IVA1a	AV-26	VbU	1	底部	直立~外傾-角状- 平底	LR斜行縄文-ナデ- ナデ		内面全 面剥離		
IV-120-124	118-124	368A	IVA1a	AV-25	VbU	1	胴部 下半	外傾	2段異原体羽状縄文	砂粒中量・ 亜角礫(φ4 ↓)少量 混入	輪積成 形痕で 損壊		
				AW-25		2							
IV-120-125	118-125	457A	IVA1c	BB-28	Vc	1	胴部	外傾	RL斜行縄文(縦回転)- ヘラナデ	砂粒多量 混入	輪積成 形部分で 内面全 面剥落		
IV-120-126	118-126	164A	IVA1a	AT-30	VbU	1	口縁部	平縁・やや外傾-隅丸 角状	ナデ-断面三角形状・ 隆帯(2条)・ナデ-ナデ (横位)	砂粒中量・ 石英(φ2~ 3)多量・ 雲母少量 混入	富良野 盆地系		
				AW-30		1							
IV-120-127	118-127	169H	IVA1a	AE-18	Va	1	口縁部	平縁・ほぼ直立-角状	ナデ-無文帯(ナデ・ 横位)+RL斜行縄文・ 円形刺突文	砂粒・亜角 礫(φ2~5) 少量・石英 (φ2~4) 多量・雲母 微量混入	富良野 盆地系・ 平行 組織		

表IV-13-1 縄文時代包含層出土土器属性表(10)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
IV-120- 128	118- 128	169B	IVA1a	AE-18	VbL	1	口縁部 下半~ 胴部 上半	ほぼ直立	肥厚帯+RL斜行縄 文・円形刺突文/RL 斜行縄文	砂粒・珪角 礫(φ2~5) 少量・石英 (φ2~4) 多量・雲母 微量混入	富良野 盆地系・ 平行 組織
				AF-19							
				AE-18	Va	1					
IV-120- 129	118- 129	169A	IVA1a	AE-18	Va	2	胴部 下半	やや外傾	RL斜行縄文・0段多条 RL斜行縄文・結縛痕	砂粒・珪角 礫(φ2~5) 少量・石英 (φ2~4) 多量・雲母 微量混入	富良野 盆地系・ 平行 組織
					VbL	4					
					Vc	6					
IV-120- 130	118- 130	184A	IVA1a	AH-17	VbU	1	口縁部	平縁・ほぼ直立-隅丸 角状	ナデ-肥厚帯2+RL 斜行縄文・円形刺突文	砂粒多量・ 石英(φ2~ 3)中量混入	富良野 盆地系
IV-120- 131	118- 131	155A	IVA1a	AO-29	VbU	1	口縁部	平縁・やや外反-尖状 (内削ぎ)隅丸角状	肥厚帯+RL斜行縄文 +無文帯(部分的)・ 円形刺突文+無文帯- ナデ	砂粒・石英 (φ1~2) 中量・珪角 礫(φ2~ 6)少量・ 繊維微量 混入	富良野 盆地系
				AQ-30							
				AQ-31	Vc	1					
IV-120- 132	118- 132	155B	IVA1a	AQ-30	Vc	1	胴部	やや外傾	RL斜行縄文	砂粒・石英 (φ1~2) 中量・珪角 礫(φ2~ 6)少量・ 繊維微量 混入	富良野 盆地系
IV-120- 133	118- 133	170A	IVA1a	AD-24	VbU	1	口縁部 ~胴部	平縁・ほぼ直立-角状/ 直立	ナデ-肥厚帯1A+RL 斜行縄文・円形刺突文 /RL斜行縄文-ナデ	砂粒中量・ 石英(φ2~ 3)多量・珪 角礫(φ2~ 5)少量・ 繊維微量 混入	富良野 盆地系・ 平行組 織
				AD-25	VbL	2					
					Vc	1					
IV-120- 134	118- 134	187A	IVA1a	AH-20	Vc	1	口縁部	平縁・直立-隅丸角状	ナデ-肥厚帯1+RL斜 行縄文・円形刺突文・ RL斜行縄文-ナデ(横 位)	砂粒中量・ 石英(φ2~ 3)多量・珪 角礫(φ2~ 5)少量混入	富良野 盆地系
				AI-20							
IV-120- 135	119- 135	172A	IVA1a	AX-28	VbM	1	口縁部	平縁・直立-角状(やや 内傾)	LR斜行縄文-肥厚帯 1B・無文帯(ナデ・横 位)・0段多条LR斜行縄 文+RL斜行縄文(羽状 構成)-ナデ(横位)	砂粒・石英 (φ2~3)多 量・珪角礫 (φ2~3)・ 雲母少量 混入	富良野 盆地系
IV-121- 136	119- 136	168A	IVA1a	AM-32	Vc	1	口縁部	平縁・やや外傾-角状	RL斜行縄文-RL斜行 縄文・無文帯 (ヘラナデ(横位))	砂粒多量・ 石英(φ2~ 3)中量混入	富良野 盆地系・ 平行 組織
IV-121- 137	119- 137	200A	IVA1a	AV-30	VbU	1	胴部	外傾	RL斜行縄文-ナデ (横位)	砂粒・石英 (φ2~4)中 量・繊維 微量混入	富良野 盆地系

表IV-13-1 縄文時代包含層出土土器属性表(11)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
IV-121-138	119-138	193A	IVA1a	AS-24	VbU	1	胴部 下半	外傾	LR斜行縄文	砂粒多量・ 石英(φ2~ 3)中量・ 亜角礫(φ2~ 5)・ 雲母 少量混入	富良野 盆地系 風化著
IV-121-139	119-139	194A	IVA1a	AK-24	Vc	1	胴部 下半	やや外傾	RL斜行縄文・無文	砂粒多量・ 石英中量・ 雲母少量 混入	富良野 盆地系 風化著
IV-121-140	119-140	198A	IVA1a	AR-22	VbU	1	胴部	やや外傾	2段異原体羽状縄文	砂粒・石英 (φ3↓)中 量・ 亜角礫 (φ2~5)・ 雲母少量 混入	富良野 盆地系
IV-121-141	119-141	178A	IVA1a	AX-28	VbU	1	胴部	やや外傾	LR斜行縄文・結縛痕・ LL斜行縄文-ナデ (斜位)	砂粒中量・ 石英(φ2~ 4)多量・ 雲母微量 混入	富良野 盆地系
IV-121-142	119-142	173A	IVA1a	AW-25	VbL	1	底部	直立~外傾-隅丸角状 -平底	無文帯(ナデ・横位)・ RL斜行縄文	砂粒中量・ 石英(φ2~ 5)多量混入	富良野 盆地系 風化
IV-121-143	119-143	326B	IVA2	AI-25	VbU	1	口縁部	平縁・ほぼ直立-角状	RL斜行縄文・貼付帯 +RL斜行縄文-階段 状積み上げ+LR斜行 縄文・刺突文(斜め 下方・棒状工具)- ヘラナデ(縦位)	砂粒多量 混入	
					Vc	1					
IV-121-144	119-144	326A	IVA2	AJ-20	VbU	1	口縁部 ~胴部 上半	平縁・ほぼ直立-角状	RL斜行縄文-貼付帯 +RL斜行縄文-段状 積み上げ+RL斜行縄 文・刺突文(斜め下方 ・棒状工具)-ヘラナ デ(縦・斜位)/RL斜 行縄文・貼付帯(2段) +LR斜行縄文-ヘラ ナデ(斜位)	砂粒多量 混入	表面一 部剥落
					VI	1					
					VbU	3					
					Vc	1					
IV-121-145	119-145	367A	IVA2	AN-27	VbL	1	口縁部	平縁・やや外傾-内削 ぎ・切り出し状	RL斜行縄文-貼付帯 A2+LR斜行縄文(施 文後ナデ弱)・刺突 文(斜状施文・竹管 状工具)・LR斜行縄 文(施文後ナデ)- ナデ(横位)	砂粒中量・ 亜角礫 (φ4↓) 微量混入	
IV-121-146	119-146	362A	IVA2	AO-31	VbL	1	口縁部	平縁・やや外反-隅丸 角状	RL斜行縄文-貼付帯 1B+RL斜行縄文-刺 突文(斜位施文・竹 管状工具)LR斜行 縄文-ナデ	砂粒多量 混入	
IV-121-147	119-147	289A	IVA2	AC-19	VbL	1	口縁部 ~胴部 上半	平縁・やや外傾-隅丸 角状	LR斜行縄文(施文後 ナデ)-LR斜行縄文 (施文後ナデ)縄端 刺突文-ヘラナデ (斜位)/LR斜行縄 文(施文後ナデ)- ヘラナデ(斜位)	砂粒少量 混入	
				AE-16	VbU	2					

表IV-13-1 縄文時代包含層出土土器属性表(12)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
IV-121- 148	119- 148	243A	IVA2	Ai-23	VbL	2	口縁部 ~胴部	平縁・やや外傾-内削 ぎ隅丸角状	RL斜行縄文-貼付帯 1A+RLR斜行縄文+ LRL斜行縄文(羽状構 成)・刺突文(縄)-ナデ (横位)/RLR斜行縄文- ナデ(横・斜位)	砂粒少量・ パミス中量 混入	
					VbU	3					
					Vc	1					
IV-121- 149	119- 149	344A	IVA2	Ai-25	Vc	1	口縁部	平縁・外傾-内削ぎ切り 出し状	RL斜行縄文-貼付帯 1A+LR斜行縄文・円 形刺突文(縄端・斜状 施文)・RL斜行縄文- ナデ(横位)	砂粒中量 混入	
IV-121- 150	119- 150	365A	IVA2	AT-26	Vc	1	口縁部	平縁・外反-内削ぎ切り 出し状	LR斜行縄文-貼付帯 1B+LR斜行縄文・刺 突(斜状施文・縄端)- ヘラナデ(横位)	砂粒中量 混入	
				-	表採	1					
IV-121- 151	119- 151	322B	IVA2	AR-26	VbL	3	口縁部	平縁・外反-隅丸角状	RL・LR(羽状構成)+結 縛痕・無文帯(指頭 幅)+縄端刺突文-ナデ /RL斜行縄文	砂粒・白色 軽石粒 少量	
IV-121- 152	120- 152	322A	IVA2	AQ-26	VbU	1	胴部上 半~胴 部下半	(胴部上半)直立・(胴 部下半)やや外傾	刺突文(縄端)・R斜行 縄文/2段異厚体羽状 縄文(LRL+RL)・貼付 帯+LR斜行縄文	砂粒微量・ パミス少量 混入	
				AR-26	VbL	15					
					VbM	1					
					VbU	2					
IV-122- 153	120- 153	361A	IVA2	AU-32	VbL	1	胴部	外傾	2段異原体羽状縄文	砂粒・亜角 礫(φ4↓) 中量混入	
IV-122- 154	120- 154	361B	IVA2	-	表採	2	口縁部 下半~ 胴部 上半	平縁・やや外反~直立	貼付帯B+RL斜行縄 文・刺突文(縄端側面 圧痕)・LR斜行縄文(施 文後ナデ弱)/階段状 積み上げ+RL斜行 縄文(施文後ナデ弱)	砂粒多量 混入	
IV-122- 155	120- 155	409A	IVA2	AL-23	VbU	1	口縁部	平縁・直立-隅丸角状	LR斜行縄文-LR斜行 縄文-刺突文(縄端側 面圧痕)	砂粒多量 混入	内面 剥落
IV-122- 156	120- 156	355A	IVA2	-	表採	1	口縁部	平縁・やや外傾-隅丸 角状	R斜行縄文-貼付帯+ R斜行縄文・無文 (ナデ)-ナデ	砂粒多量・ 亜角礫(φ6 ↓)中量 混入	平行 組織 混入
IV-122- 157	120- 157	319A	IVA2	-	表採	1	口縁部	平縁・やや外傾-内削 り・切り出し状	R斜行縄文-貼付帯A2 +R斜行縄文・無文帯 -ナデ	砂粒多量・ 亜角礫(φ5 ↓)少量	
IV-122- 158	120- 158	319B	IVA2	-	表採	1	底部	直立-丸状-平底	無文(ナデ)	砂粒多量・ 亜角礫(φ6 ↓)中量 混入	平行 組織
IV-122- 159	120- 159	312A	IVA2	AD-19	VbL	2	口縁部 ~胴部	平縁・やや内湾-丸状/ やや外傾	無文帯(ナデ)・LR斜行 縄文(浅い)	砂粒中量・ 亜角礫(φ2 ~5)少量 混入	風化
					VbU	1					
					-	2					
IV-122- 160	120- 160	312B	IVA2	AC-19	VbU	1	胴部 下半~	外傾-隅丸角状-平底	無文帯(ナデ)/LR斜行 縄文(浅い)-ナデ	砂粒中量・ 亜角礫(φ2 ~5)少量 混入	風化
				AD-19	VbL	3	底部				

表IV-13-1 縄文時代包含層出土土器属性表(13)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
IV-122-161	120-161	282A	IVA2	AO-27	VbU	2	口縁部	ほぼ直立	貼付帯1A(階段状の可能性有)+RL斜行縄文・LR斜行縄文	砂粒多量混入	内面剥落
IV-122-162	120-162	299A	IVA2	AH-21	VbU	1	胴部	外傾	R斜行縄文	繊維・亜角礫(φ2~4)・赤色鉱物少量混入	
IV-122-163	120-163	290A	IVA2	AU-32	VI Vc	1 3	胴部 下半~ 底部	外傾-隅丸角状-平底	LRL斜行縄文(施文後ナデ)-LRL斜行縄文-ナデ	砂粒中量・パミス少量混入	
IV-122-164	120-164	270A	IVA2	AH-23	Vc	1	胴部	外傾	2段異原体羽状縄文・貼付帯2+RL斜行縄文	砂粒中量・パミス微量混入	内面剥落
IV-122-165	120-165	270B	IVA2	AI-25	Vc	1	底部	直立-角状-平底	無文帯(ナデ・指頭圧痕)-指頭圧痕・ヘラナデ-ナデ	砂粒中量・パミス微量混入	
IV-122-166	120-166	339A	IVA2	AH-21	VbU	1	底部	張り出し-隅丸角状-平底	無文(ナデ)-ミガキ(弱)-ナデ	砂粒中量混入	
IV-122-167	120-167	284C	IVB1	AX-29	KR	1	口縁部	平縁・直立-隅丸角状/直立	貼付帯1A+棒状貼付文+LR斜行縄文(施文後ナデ)-LR斜行縄文(施文後ナデ)/LR斜行縄文	砂粒多量・亜角礫(φ2~5)少量混入	平行組織が発達表面剥落
IV-122-168	120-168	284B	IVB1	AW-29	VbL VbU	1 1	口縁部	平縁・直立-隅丸角状/直立	貼付帯1A+棒状貼付文+LR斜行縄文(施文後ナデ)-LR斜行縄文(施文後ナデ)/LR斜行縄文	砂粒多量・亜角礫(φ2~5)少量混入	平行組織が発達表面剥落
IV-122-169	121-169	284A	IVB1	AW-29	VbU	2	胴部	やや外傾	2段異原体羽状縄文(RL斜行縄文・節の大小で2本の原体・施文後ナデ)-ナデ平滑	砂粒多量・亜角礫(φ2~5)少量混入	平行組織が発達
IV-122-170	121-170	297A	IVB1	AL-20	VbL VbU	1 1	口縁部	平縁(小突起?)・やや内湾-内削り隅丸角状	RL斜行縄文(施文後ナデ)-棒状貼付文・RL斜行縄文(施文後ナデ)-RL斜行縄文	砂粒少量混入	平行組織
IV-123-171	121-171	256A	IVB1	AM-30	VbU	2	口縁部	平縁・やや内湾-角状	RL斜行縄文-棒状貼付文・RL斜行縄文-ナデ(横位)	砂粒・パミス少量混入	平行組織
IV-123-172	121-172	276A	IVB1	AQ-23	VbU	1	口縁部	平縁・直立-角状	LR斜行縄文-棒状貼付文(縦位)・LR斜行縄文-LR斜行縄文(施文後ナデ)	砂粒多量・円礫(φ4↓)少量混入	平行組織
IV-123-173	121-173	268A	IVB1	AI-27	VbU	3	口縁部 ~胴部 上半	平縁・直立-隅丸角状	RL斜行縄文(施文後ナデ)-RL斜行縄文・結縛痕・破線状縄線文(1条)・(施文後ナデ)-RL縦走地縄文	砂粒中量・パミス少量混入	平行組織
IV-123-174	121-174	268C	IVB1	AH-27 AI-27 AI-28	VbU Va VbU Vc	1 1 6 1	胴部	外傾	RL斜行縄文-ナデ(斜位)-一部縦走(施文後ナデ強)	砂粒中量・パミス少量混入	平行組織
IV-123-175	121-175	268G	IVB1	AH-27	VbL	1	底部	外傾-隅丸角状-平底	RL斜行縄文(施文後ナデ)	砂粒中量混入	平行組織
IV-123-176	121-176	260B	IVB1	AU-31	VbU Vc	3 2	口縁部	平縁・ほぼ直立-内削ぎ切り出し状	LR横走縄文(施文後ナデ)-2段異原体羽状縄文・破線状縄線文(2条1対・施文後ナデ)-LR横走縄文	砂粒少量混入	施文後ナデ

表IV-13-1 縄文時代包含層出土土器属性表(14)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
IV-123- 177	121- 177	260A	IVB1	AU-31	VI	1	胴部 上半	外傾	縄線文・2段異原体羽 状縄文(施文後ナデ)	砂粒少量・ パミス中量 混入	施文後 ナデ
					VbU	1					
IV-123- 178	121- 178	247A	IVB1	AT-30	VbM	2	口縁部 ~胴部 上半	平縁・やや外傾-内削 ぎ切り出し状	LR斜行縄文-LR斜行 縄文(施文後ナデ)・破 線状縄線文(2条1対)- LR斜行縄文(横位・ 施文後ナデ)	砂粒多量 混入	平行 組織
IV-123- 179	121- 179	248A	IVB1	AI-28	VbL	2	口縁部 ~胴部 上半	直立	LR斜行縄文(施文後ナ デ)・縄線文・沈線文 (斜行)	砂粒少量・ パミス多量 混入	
IV-123- 180	122- 180	246E	IVB1	AN-26	VbL	5	口縁部	直立	外面剥落-LR斜行 縄文(施文後ナデ)	砂粒中量・ 珪角礫(φ4 ↓)少量 混入	
IV-123- 181	122- 181	246B	IVB1	AJ-22	VbL	1	胴部	外傾	2段異原体羽状縄文 (施文後ナデ)	砂粒中量・ 珪角礫(φ4 ↓)少量 混入	内面 剥落
					VbU	1					
IV-124- 182	122- 182	259A	IVB1	AI-27	VbU	1	口縁部 ~胴部	平縁・直立-やや外反- 角状/やや外傾	LR斜行縄文(施文後ナ デ)-2段異原体羽状縄 文(施文後ナデ)-LR斜 行縄文(横位・1条のみ 確認)	砂粒多量・ 珪角礫(φ5 ↓)少量・ パミス微量 混入	施文後 ナデ
				AI-28		1					
				AJ-27		4					
				Vc		1					
IV-124- 183	122- 183	269A	IVB1	AJ-22	VbL	1	口縁部 ~胴部 上半	平縁・やや内湾-隅丸 角状	LR斜行縄文(施文後ナ デ)-LR斜行縄文(施文 後ナデ)LR斜行縄文 (口唇部側のみ施文後 ナデ)	砂粒中量・ パミス少量 混入	
				AK-21	VbU	1					
					VbL	1					
					VbU	1					
IV-124- 184	122- 184	269K	IVB1	AI-21	VbU	1	底部	外傾-隅丸角状-平底	LR斜行縄文-LR-内面 剥落	砂粒中量 混入	
IV-124- 185	122- 185	276B	IVB1	AQ-23	VbU	1	口縁部	平縁・直立-外削り隅丸 角状	LR横走縄文-LR斜行 縄文(施文後ナデ)-LR 斜行縄文(施文後 ナデ)-ヘラナデ(横位)	砂粒多量・ 珪角礫(φ4 ↓)少量 混入	平行 組織
IV-124- 186	122- 186	283A	IVB1	AH-23	Va	1	口縁部	平縁・直立-隅丸角状	RL斜行縄文-RL斜行 縄文(施文後ナデ)	砂粒中量 混入	
					VbU	1					
					Vc	1					
IV-124- 187	123- 187	250A	IVB1	AI-18	VbL	1	口縁部	平縁・直立-隅丸角状	LR斜行縄文+ナデ- LR斜行縄文-ナデ	砂粒多量・ パミス少量 混入	
IV-124- 188	123- 188	249A	IVB1	AU-33	VbL	1	口縁部 ~胴部 上半	波縁・外傾-角状	LR斜行縄文(施文後ナ デ)-無文帯(ナデ・横 位)-LR斜行縄文(横 位・施文後ナデ)/LR斜 行縄文(施文後ナデ)	砂粒多量 混入	平行 組織
				AV-30	VbU	1					
IV-124- 189	123- 189	279A	IVB1	AM-21	Va	1	口縁部	平縁・直立-隅丸角状	L斜行縄文-L斜行縄 文(縦回転施文・施文 後ナデ)-ナデ	砂粒・ パミス中量 混入	平行 組織
-	表採	1									
IV-125- 190	123- 190	298A	IVB1	AR-29	Va	1	底部	外傾-隅丸角状-平底	LR斜行縄文(施文後ナ デ)-LR斜行縄文(施文 後ナデ)	砂粒多量・ 珪角礫(φ2 ~6)少量 混入	
					VbU	3					

表IV-13-1 縄文時代包含層出土土器属性表(15)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
IV-125-191	123-191	309A	IVB1	AF-23	VbL	1	口縁部	外傾-隅丸角状	RL斜行縄文(施文後ナデ)-ナデ	砂粒・白色 軽石粒 多量	
IV-125-192	123-192	240B	IVB2	AE-25	VbU	1	口縁部	外傾-隅丸角状	RL斜行縄文(施文後ナデ)/RL斜行(施文後ナデ)-ナデ	砂粒中量	
IV-125-193	123-193	240A	IVB2	AH-18	VbL	1	口縁部 ~胴部	平縁・やや外傾-隅丸角状	RL斜行縄文(施文後ナデ)-RL斜行縄文-指頭 圧痕・ナデ/RL斜行縄 文・結縛痕-指頭圧痕 ・ナデ	砂粒中量・ 歪角礫(φ3 ↓)・繊維 微量混入	平行 組織
				AH-20	VbU	1					
IV-125-194	123-194	325A	IVB2	AJ-27	VbM	1	胴部	やや外傾	RL斜行縄文-ヘラナデ (斜位)	砂粒中量・ 歪角礫(φ4 ↓)少量・ 白色岩片 中量混入	
				AR-26	VbU	1					
IV-125-195	123-195	450A	IVD1	-	KR	1	口縁部	小波状縁・直立-丸状	指頭圧痕状刻文(斜位)-無文・I0刺突文- ナデ	砂粒中量 混入	

表IV-13-2 遺構・包含層出土土製品属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物番号	遺物名	分類	遺構名/ グリッド	層位	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
VH-02													
IV-11-11	85-11	-	7148	土製品	-	VH-02	1	(55.2)	(53.6)	(19.6)	(25.9)	Cray.	
VF-11													
IV-72-13	96-13	-	22338	土製品	-	VF-11	Vc	(33.0)	(24.0)	(19.0)	(4.4)	Cray.	
IV-72-14	96-14	-	22343	土製品	-	VF-11	Vc	(44.0)	(23.0)	(19.0)	(13.0)	Cray.	
IV-72-15	96-15	-	22342	土製品	-	VF-11	Vc	(48.0)	(31.0)	24.0	(14.7)	Cray.	
IV-72-16	96-16	-	20319	土製品	-	VF-11	1	(45.0)	(31.0)	(26.0)	(16.7)	Cray.	
VSB-04													
IV-98-20	104-20	-	15487	土製品	-	VSB-04	VbM	(40.2)	(39.9)	(30.0)	(28.5)	Cray.	
IV-99-41	105-41	-	21672	土製品	-	VSB-04	VbL3	(46.6)	(37.6)	(29.7)	(24.4)	Cray.	
IV-99-42	105-42	-	24984	土製品	-	VSB-04	VbL2	(73.7)	(41.9)	(25.5)	(32.6)	Cray.	
VPPB-01													
IV-114-1	112-1	-	21977-4	土製品	-	VPPB-01	Vc	(44.0)	(38.9)	(25.8)	(25.0)	Cray.	
IV-114-2	112-2	-	20444	土製品	-	VPPB-01	Vc	(67.5)	(49.1)	(31.9)	(66.2)	Cray.	
IV-114-3	112-3	-	20469-1	土製品	-	VPPB-01	Vc	(78.8)	(52.8)	(32.5)	(81.8)	Cray.	
IV-114-4	112-4	-	21979	土製品	-	VPPB-01	Vc	(57.7)	(38.4)	(34.7)	(27.6)	Cray.	
IV-114-5	112-5	-	20441	土製品	-	VPPB-01	Vc	(80.1)	(69.9)	(22.9)	(79.8)	Cray.	
VPPB-02													
IV-114-6	112-6	-	25491	土製品	-	VPPB-02	Vc	(46.4)	(45.4)	(32.1)	(21.3)	Cray.	
IV-114-7	112-7	-	25410	土製品	-	VPPB-02	Vc	(80.5)	(44.5)	(28.1)	(49.0)	Cray.	
IV-114-8	112-8	-	25487	土製品	-	VPPB-02	Vc	(77.8)	(43.0)	(25.7)	(57.3)	Cray.	
IV-114-9	112-9	-	25394-1	土製品	-	VPPB-02	Vc	(58.8)	(56.3)	(26.3)	(30.1)	Cray.	
包含層													
IV-125-196	123-196	-	27093	土製品	-	AO-31	Vc	(41.5)	(36.0)	(21.4)	(12.5)	Cray.	
IV-125-197	123-197	-	5544	土製品	-	AO-31	VI	(48.7)	(48.3)	(23.3)	(24.2)	Cray.	
IV-125-198	123-198	-	7884	土製品	-	AO-20	Vc	(60.9)	(45.6)	30.5	(34.3)	Cray.	
IV-125-199	123-199	-	5163-1	土製品	-	AW-31	Vc	(59.1)	(51.4)	(25.8)	(50.5)	Cray.	
IV-125-200	123-200	-	15855	土製品	-	AQ-23	VbL	(35.1)	(29.5)	(23.7)	(11.3)	Cray.	
IV-125-201	123-201	-	27769	土製品	-	AQ-26	Vc	(58.3)	(32.4)	(31.1)	(35.8)	Cray.	
IV-125-202	123-202	-	27098	土製品	-	AS-26	VbL	(60.6)	(30.5)	(21.5)	(26.3)	Cray.	
IV-125-203	123-203	-	22352	土製品	-	AW-26	Vc	(49.3)	(35.3)	(29.7)	(27.2)	Cray.	
IV-125-204	123-204	-	6553	土製品	-	AT-32	Vc	(75.3)	(40.1)	(24.0)	(28.9)	Cray.	

表IV-13-3 包含層出土剥片石器属性表(1)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	グリッド/ 遺構名	層位	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
IV-126-1	124-1	-	15808	ポイント類	A1	AL-19	VbL	21.1	10.4	3.1	0.4	Obs.	
IV-126-2	124-2	-	24002	ポイント類	A1	AW-29	VI	(26.3)	8.6	3.1	(0.6)	Obs.	先端欠
IV-126-3	124-3	-	AW-31-3-9	ポイント類	A2a	AW-31	Vc	17.4	13.1	1.7	0.3	Obs.	
IV-126-4	124-4	-	10932	ポイント類	A2a	AR-23	VbU	(27.3)	13.0	3.7	(1.4)	Obs.	
IV-126-5	124-5	-	5576	ポイント類	A2a	AJ-31	Vc	(29.7)	16.8	5.1	(1.8)	Obs.	先端欠
IV-126-6	124-6	-	22172	ポイント類	A2b	AZ-28	VbL	24.3	15.7	4.3	1.4	Obs.	円基
IV-126-7	124-7	-	16450	ポイント類	A2b	AW-28	Vc	29.7	13.0	3.4	1.0	Obs.	
IV-126-8	124-8	-	16203	ポイント類	A2b	AU-25	VbU	34.9	17.4	3.4	2.0	Obs.	円基
IV-126-9	124-9	-	983	ポイント類	A3①	AO-26	Va	30.3	11.5	3.0	0.7	Obs.	
IV-126-10	124-10	-	29333	ポイント類	A3①	AD-22	VbL	24.1	13.9	3.0	0.6	Obs.	
IV-126-11	124-11	-	AM-34-2-1	ポイント類	A3①	AM-34	VbU	22.1	13.6	3.3	0.6	Obs.	岩屑面
IV-126-12	124-12	-	17596	ポイント類	A3	AT-24	VbL	27.0	10.3	4.0	0.8	Obs.	
IV-126-13	124-13	-	27742	ポイント類	A3	AN-26	VbL	28.0	13.1	3.8	1.0	Obs.	
IV-126-14	124-14	-	17404	ポイント類	A3	BB-28	Vc	32.7	15.0	4.3	1.3	Obs.	
IV-126-15	124-15	-	28777	ポイント類	A3	AF-26	VbL	(37.2)	16.3	3.4	(1.6)	Obs.	先端欠
IV-126-16	124-16	-	14135	ポイント類	A3	AI-19	VbU	28.1	11.3	2.56	0.6	Obs.	被熱
IV-126-17	124-17	-	9962	ポイント類	A3	AS-26	VbU	38.2	17.4	5.99	2.7	Obs.	
IV-126-18	124-18	-	29019	ポイント類	A3	AD-14	Va	40.7	16.3	6.19	3.2	Obs.	
IV-126-19	124-19	-	6054	ポイント類	A3	AJ-35	Va	39.8	17.0	6.4	3.5	Obs.	
IV-126-20	124-20	-	14229	ポイント類	A3	AO-21	VbM	35.4	15.1	5.3	2.3	Obs.	岩屑面
IV-126-21	124-21	-	18217	ポイント類	A3	AR-22	VbL	35.3	22.1	9.0	6.1	Obs.	岩屑面
IV-126-22	124-22	-	6347	ポイント類	A3	AR-28	Vc	35.5	23.2	9.0	5.8	Obs.	転礫面
IV-126-23	124-23	-	28332	ポイント類	A3	AI-24	Vc	(35.4)	25.0	6.7	(3.7)	Obs.	先端欠
IV-126-24	124-24	-	10825	ポイント類	A3	AX-27	Va	38.1	28.1	9.2	7.7	Obs.	
IV-126-25	124-25	-	6152	ポイント類	A4	AR-32	VbL	35.2	9.89	4.5	1.3	Obs.	
IV-126-26	124-26	-	9732	ポイント類	A4	AH-24	VbU	33.3	12.7	4.5	1.4	Obs.	
IV-126-27	124-27	-	18007	ポイント類	A4	AT-29	VbU	38.3	12.7	5.2	1.7	Obs.	
IV-126-28	124-28	-	10865	ポイント類	A4	AY-28	VbU	(27.7)	15.9	5.5	(1.8)	Obs.	先端欠
IV-126-29	124-29	-	14219	ポイント類	A4	AO-22	VbM	33.3	16.9	7.0	2.8	Obs.	
IV-126-30	124-30	-	20875	ポイント類	A4	AS-27	VbM	34.4	20.5	5.39	3.1	Obs.	
IV-126-31	124-31	-	17606	ポイント類	B1a①	AT-25	Vc	95.7	34.4	13.0	33.0	Obs.	
IV-126-32	124-32	-	15935	ポイント類	B1a①	AO-21	VbL	65.9	32.6	9.4	16.0	Obs.	
IV-126-33	124-33	-	18104	ポイント類	B1a①	AV-28	VbU	66.0	30.3	10.3	15.9	Obs.	
IV-126-34	124-34	-	1611	ポイント類	B1a②	AW-29	VbM	65.7	34.9	12.1	20.6	Obs.	被熱
IV-126-35	124-35	-	20896-1	ポイント類	B1a②	AS-27	VbL	62.4	33.7	10.4	17.4	Obs.	
IV-126-36	124-36	-	13503	ポイント類	B1a①	AN-25	Va	56.8	33.5	10.2	14.7	Obs.	
IV-126-37	124-37	-	18287	ポイント類	B1a①	AU-27	VbM	49.7	34.8	9.5	11.4	Obs.	転礫面
IV-126-38	124-38	-	20230	ポイント類	B1a②	AS-26	VbL	53.3	30.1	9.4	12.9	Obs.	転礫面
IV-126-39	124-39	-	6648	ポイント類	B1a②	AO-31	Vc	49.9	33.7	10.5	14.4	Obs.	転礫面
IV-126-40	124-40	-	5324	ポイント類	B1a②	AU-32	VbL	41.8	25.8	8.68	7.6	Obs.	基部欠
IV-126-41	124-41	-	6266	ポイント類	B1a②	AP-26	VbU	64.5	33.2	9.4	13.6	Obs.	基部再調整
IV-127-42	125-42	-	1614	ポイント類	B1a②	AW-29	VbU	61.4	(23.1)	11.1	(13.9)	Obs.	再調整
IV-127-43	125-43	-	3597	ポイント類	B1a①	AR-29	VbM	59.7	32.4	11.7	18.2	Obs.	岩屑面
IV-127-44	125-44	-	20228	ポイント類	B1a②	AS-26	VbL	51.0	29.5	10.9	13.9	Obs.	
IV-127-45	125-45	-	6153	ポイント類	B1a②	AR-32	VbL	67.4	35.2	10.5	10.8	Obs.	
IV-127-46	125-46	-	24023	ポイント類	B1a②	AW-27	Vc	50.4	33.5	9.3	14.0	Obs.	先端再調整 転礫面
IV-127-47	125-47	-	6154	ポイント類	B1a①	AR-32	VbL	53.6	36.3	12.7	17.6	Obs.	先端再調整 転礫面
IV-127-48	125-48	-	7290	ポイント類	B1a①	AV-30	VbU	(58.7)	31.6	12.0	(20.6)	Obs.	基部欠 再調整
IV-127-49	125-49	-	20470	ポイント類	B1a②	AV-28	Vc	44.1	30.6	11.2	13.4	Obs.	先端再調整 転礫面
IV-127-50	125-50	-	28369	ポイント類	B1a①	AM-24	VbL	48.5	34.4	11.9	15.7	Obs.	先端部摩耗 岩屑面
IV-127-51	125-51	-	16425	ポイント類	B1a①	AV-27	VbU	49.6	30.5	9.3	11.4	Obs.	先端再調整 岩屑面
IV-127-52	125-52	-	26916	ポイント類	B1b	AH-16	Vc	45.3	13.7	5.0	2.3	Obs.	

表IV-13-3 包含層出土剥片石器属性表(2)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	グリッド/ 遺構名	層位	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
IV-127-53	125-53	-	26949	ポイント類	B1b	AH-18	VI	46.8	22.6	5.8	4.0	Obs.	
IV-127-54	125-54	-	6036	ポイント類	B1b	AL-32	VbU	48.8	22.2	6.6	5.0	Obs.	
IV-127-55	125-55	-	28583	ポイント類	B1b	AE-19	VbU	58.7	25.0	6.2	6.8	Obs.	
IV-127-56	125-56	-	5444	ポイント類	B1b	AL-31	VbL	65.4	24.2	7.6	9.8	Obs.	
IV-127-57	125-57	-	27737	ポイント類	B1b	AN-26	VbL	(80.8)	27.4	7.5	(15.1)	Obs.	岩屑面 先端欠
IV-127-58	125-58	-	29020	ポイント類	B2	AD-15	Va	43.8	12.2	3.4	1.4	Obs.	A1と同類
IV-127-59	125-59	-	20474	ポイント類	B2	AV-28	Vc	44.6	16.4	4.7	2.2	Obs.	
IV-127-60	125-60	-	28896	ポイント類	B2	AD-20	VbL	43.4	21.8	6.6	4.7	Obs.	
IV-127-61	125-61	-	27779	ポイント類	B2	AX-31	Vc	62.5	23.2	11.0	11.8	Obs.	
IV-127-62	125-62	-	6529	ポイント類	B2	AI-33	Vc	64.1	31.0	7.4	9.9	Obs.	
IV-127-63	125-63	-	25339	ポイント類	B2	AI-25	VbU	49.6	22.6	6.1	5.5	Obs.	
IV-127-64	125-64	-	16422	ポイント類	B2	AT-26	VbU	69.6	23.0	6.2	8.5	Obs.	
IV-127-65	125-65	-	6025	ポイント類	B2	AL-33	VbU	51.1	18.5	6.6	5.3	Obs.	
IV-127-66	125-66	-	25700	ポイント類	B2	AH-18	Vc	69.3	23.1	6.5	9.5	Obs.	転礫面
IV-127-67	125-67	-	2915	ポイント類	B2	AS-27	VbM	74.8	33.7	10.0	18.8	Obs.	
IV-127-68	125-68	-	29137	ポイント類	C	AF-17	Va	42.4	8.0	6.7	7.4	Obs.	未成品
IV-127-69	125-69	-	24622	ポイント類	C	AQ-28	Vc	38.4	24.8	8.7	7.6	Obs.	岩屑面 豊浦産
IV-127-70	126-70	-	22042	石錐	C	AU-28	VI	38.8	23.3	9.20	5.3	Obs.	機能部磨滅著
IV-128-71	126-71	-	9921	石錐	D1	AP-26	VbU	22.2	8.3	4.5	0.7	Obs.	
IV-128-72	126-72	-	14015	石錐	D1	AI-21	VbU	(21.3)	9.20	5.50	(0.9)	Obs.	基部欠
IV-128-73	126-73	-	3598	石錐	D1	AR-29	VbU	49.0	11.3	10.4	5.5	Cha.	
IV-128-74	126-74	-	6274	石錐	D2	AM-30	Va	39.0	13.0	5.9	2.4	Obs.	
IV-128-75	126-75	-	22043	石錐	D2	AU-28	VI	43.2	16.1	8.00	4.9	Obs.	
IV-128-76	126-76	-	20114	石錐	D2	AV-29	Vc	50.1	15.0	8.40	5.5	Obs.	岩屑面 機能部磨滅
IV-128-77	126-77	-	5639	石錐	D2	AK-36	VbL	34.9	16.0	18.4	4.0	Obs.	岩屑面 両端部磨滅
IV-128-78	126-78	-	13565	石錐	E	AJ-18	VbU	43.0	19.9	6.20	5.4	Obs.	転礫面 両端部磨滅著 岩屑面
IV-128-79	126-79	-	10914	つまみ付きナイフ	A1a①	BA-28	VbU	58.6	19.5	8.0	8.7	Sh.	
IV-128-80	126-80	-	14711	つまみ付きナイフ	A1a②	BB-28	Vc	61.2	24.6	11.0	20.2	Ssh.	
IV-128-81	126-81	-	10472	つまみ付きナイフ	A1a②	AW-28	VI	(112.0)	28.4	10.9	(33.1)	Sh.	
IV-128-82	126-82	-	3592	つまみ付きナイフ	A1a③	AS-29	VbL	45.7	19.1	4.39	4.6	Sh.	左側縁磨滅
IV-128-83	126-83	-	28459	つまみ付きナイフ	A1a③	AF-24	VbL	50.0	21.0	5.47	6.6	Sh.	
IV-128-84	126-84	-	10289	つまみ付きナイフ	A1a③	AT-27	VbU	70.3	22.0	12.6	19.6	Sh.	
IV-128-85	126-85	-	17680	つまみ付きナイフ	A1a③	AW-26	Va	68.5	24.3	12.3	16.3	Obs.	右側縁磨滅
IV-128-86	126-86	-	6786	つまみ付きナイフ	A1a③	AQ-33	VbL	72.5	26.3	7.80	14.2	Sh.	左側縁磨滅
IV-128-87	126-87	-	3589	つまみ付きナイフ	A1a③	AS-29	VbU	56.9	30.6	9.5	14.7	Obs.	
IV-128-88	126-88	-	6277	つまみ付きナイフ	A1a③	AL-25	VbU	59.3	25.3	8.20	11.5	Obs.	
IV-128-89	126-89	-	20313	つまみ付きナイフ	A1a③	AS-28	VbU	75.5	32.8	9.3	20.8	Obs.	岩屑面
IV-128-90	126-90	-	8089	つまみ付きナイフ	A1b①	AL-30	VbL	45.5	26.2	6.2	7.9	Obs.	
IV-128-91	126-91	-	5866	つまみ付きナイフ	A1b②	AQ-31	VbL	48.9	21.9	4.0	5.1	Aga-Sh.	
IV-128-92	126-92	-	27758	つまみ付きナイフ	A2a②	AN-24	VbU	37.7	19.0	8.6	5.4	Sh.	
IV-128-93	126-93	-	6798	つまみ付きナイフ	A2a②	AQ-34	VbL	50.2	20.5	7.8	8.9	Aga-Sh.	左側縁磨滅
IV-129-94	126-94	-	24669	つまみ付きナイフ	A2a②	AQ-26	Vc	55.6	20.5	7.8	8.6	Obs.	左側縁磨滅
IV-129-95	126-95	-	8792	つまみ付きナイフ	A2a②	BB-27	VbL	47.5	26.3	12.2	11.7	Obs.	岩屑面 左側縁磨滅
IV-129-96	126-96	-	20191	つまみ付きナイフ	A2a②	AS-25	Vc	59.2	28.8	10.0	16.6	Obs.	
IV-129-97	126-97	-	28418	つまみ付きナイフ	A2a②	AI-24	Vc	65.0	30.1	10.6	19.6	Obs.	左側縁磨滅
IV-129-98	127-98	-	1903	つまみ付きナイフ	A2a②	AX-30	VbM	66.4	24.9	8.15	14.9	Obs.	左側縁磨滅
IV-129-99	127-99	-	20115	つまみ付きナイフ	A2a②	AV-29	VI	68.6	44.6	11.5	33.6	Obs.	左側縁磨滅
IV-129-100	127-100	-	24778	つまみ付きナイフ	A3b③	AY-27	VbL	51.9	36.5	9.18	15.1	Obs.	
IV-129-101	127-101	-	10442	つまみ付きナイフ	A4	AW-26	VbL	29.3	9.3	2.06	0.6	Obs.	
IV-129-102	127-102	-	26070	つまみ付きナイフ	A4	AK-28	VbL	52.9	18.9	5.67	6.6	Obs.	
IV-129-103	127-103	-	4886	ナイフ・スクレイパー類	B1	AU-31	VbL	36.7	25.5	10.3	10.8	Obs.	
IV-129-104	127-104	-	27765	ナイフ・スクレイパー類	B2	AP-25	VbU	36.4	33.3	10.8	14.7	Obs.	転礫面

表IV-13-3 包含層出土剥片石器属性表(3)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	グリッド/ 遺構名	層位	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
IV-129-105	127-105	-	18024	ナイフ・スクレイパー類	B2	AT-30	VbM	28.4	19.9	6.8	3.6	Obs.	
IV-129-106	127-106	-	6024	ナイフ・スクレイパー類	B2	AL-32	VbU	31.8	16.7	7.60	3.29	Obs.	転礫面
IV-129-107	127-107	-	18242	ナイフ・スクレイパー類	B2	AS-23	VbM	74.8	36.3	14.8	34.0	Obs.	転礫面
IV-129-108	127-108	-	6017	ナイフ・スクレイパー類	C1	AM-34	VbU	47.5	18.0	7.5	6.8	Obs.	転礫面
IV-129-109	127-109	-	20290	ナイフ・スクレイパー類	C1	AS-27	Vc	38.9	20.6	7.2	6.93	Obs.	転礫面
IV-129-110	127-110	-	17627	ナイフ・スクレイパー類	C1	AU-25	VbL	68.1	23.2	15.5	25.4	Sh.	
IV-129-111	127-111	-	20292	ナイフ・スクレイパー類	C1	AS-27	Vc	46.7	18.5	6.00	4.44	Obs.	転礫面
IV-129-112	127-112	-	25234	ナイフ・スクレイパー類	C1	AI-18	Vc	64.6	41.5	13.4	30.6	Obs.	
IV-130-113	127-113	-	24070	ナイフ・スクレイパー類	C1	AW-28	Va	74.5	29.6	13.9	30.9	Obs.	岩屑面
IV-130-114	127-114	-	25875	ナイフ・スクレイパー類	C2	AO-25	VbL	(31.5)	10.6	7.20	(3.0)	Obs.	基部欠
IV-130-115	127-115	-	AI-32-1	ナイフ・スクレイパー類	C2	AI-32	Vc	43.5	9.7	3.6	1.8	Obs.	
IV-130-116	127-116	-	15893	ナイフ・スクレイパー類	C2	AR-28	Vc	47.0	24.3	12.3	10.3	Obs.	転礫面
IV-130-117	127-117	-	4813	ナイフ・スクレイパー類	C2	AO-28	Vc	61.9	20.3	6.31	8.3	Obs.	転礫面
IV-130-118	127-118	-	22965	ナイフ・スクレイパー類	C2	AK-20	VbL	64.5	42.4	11.4	34.3	Sh.	転礫面
IV-130-119	127-119	-	24697	ナイフ・スクレイパー類	C2	AO-27	Va	32.2	18.8	5.97	3.6	Obs.	岩屑面
IV-130-120	128-120	-	6060	両面調整石器	-	AH-36	VbU	53.4	28.9	9.9	17.8	Obs.	岩屑面
IV-130-121	128-121	-	17700	両面調整石器	-	AX-26	Vc	61.1	38.3	11.4	24.1	Obs.	岩屑面
IV-130-122	128-122	-	5279	両面調整石器	-	AV-29	Vc	80.8	40.7	14.0	40.1	Obs.	転礫面
IV-130-123	128-123	-	10824	両面調整石器	-	AX-27	VbU	79.6	40.2	18.7	48.3	Obs.	岩屑面
IV-130-124	128-124	-	5691	両面調整石器	-	AL-32	Vc	103.8	42.5	15.0	55.1	Obs.	
IV-130-125	128-125	-	15998	UF	-	AN-21	VbU	(56.7)	15.7	3.7	(2.6)	Obs.	先端欠
IV-130-126	128-126	-	AX-29-4-79	ビース・エスキーユ	-	AX-29	VbL	21.5	12.8	8.3	1.9	Obs.	
IV-130-127	128-127	-	BC-30-4-1	ビース・エスキーユ	-	BC-30	Va	21.7	17.6	7.0	2.1	Obs.	
IV-130-128	128-128	-	29116	石核	-	AF-18	Va	46.3	21.6	14.8	12.9	Obs.	転礫面
IV-130-129	128-129	-	10469	石核	-	AW-27	VbU	27.3	16.1	22.9	8.3	Obs.	被熱 岩屑面
IV-130-130	128-130	-	AJ-26-3-11	石核	-	AJ-26	VbU	31.6	19.0	12.9	7.1	Obs.	岩屑面
IV-130-131	128-131	-	AS-32-2-3	石核	-	AS-32	VbL	47.0	21.5	13.4	12.1	Obs.	転礫面
IV-130-132	128-132	-	25368	異形石器	-	AI-26	VbU	21.7	16.4	4.0	1.2	Obs.	

表IV-13-4 包含層出土礫石器属性表(1)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	グリッド/ 遺構名	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
IV-131-1	129-1	-	26143	石斧	A1a	VbM	AP-25	(86.7)	49.4	14.7	(117.0)	Gr-Mud.	基部欠・破損・擦切り痕あり
IV-131-2	129-2	-	25271	石斧	A1b	Vc	AH-28	86.6	36.8	8.8	48.0	Gr-Mud.	完
IV-131-3	129-3	-	22361	石斧	A2a	Vc	AV-25	89.8	22.3	11.6	45.0	Bl-Sch.	完
IV-131-4	129-4	VST 013	14115	石斧	A2b	VbU	AH-20	189.0	56.0	27.2	470.0	Gr-Mud.	完・未成品
			AD-21										
IV-131-5	129-5	-	6625	石斧	A3	VbL	AR-31	137.9	26.5	16.0	110.0	Bl-Sch.	丸のみ形
IV-131-6	129-6	-	12656	石斧	A3	VbU	AT-25	(80.8)	14.9	10.2	(23.0)	Bl-Sch.	基部欠・丸のみ形
IV-131-7	129-7	-	9805	石斧	A4	VbU	BB-28	67.5	28.3	8.8	27.0	Gr-Mud.	削片素材の石斧
IV-131-8	129-8	-	28588	石斧	A6	VbU	AD-20	(87.7)	44.7	29.8	(223.0)	Gr-Mud.	基部欠
IV-131-9	129-9	VST 018	2647	石斧	B	VbU	AO-31	174.0	49.8	24.3	370.0	Gr-Mud.	完・擦痕あり・未製品
			Vc			AP-33							
IV-131-10	129-10	-	1888	石斧	B1a	VbU	AS-28	92.5	35.6	12.8	58.0	Gr-Mud.	完・再調整・未成品
IV-131-11	129-11	-	5519	石斧	B1b	Vc	AN-32	(78.0)	52.3	10.1	(74.0)	Gr-Sch.	欠・未成品
IV-131-12	129-12	-	26923	石斧	B1c1	Vc	AK-21	97.2	33.4	15.1	83.0	Gr-Mud.	完・未成品・先端磨あり
IV-131-13	129-13	VST 028	28593	石斧	B1c2	VbL	AE-25	94.9	38.0	22.6	113.0	Sa.	完・未成品・変形砂状
			VbU			AD-24							
IV-131-14	129-14	VST 050	16513	石斧	B2a	VbL	AN-21	169.0	64.5	33.8	(435.0)	Gr-Mud.	欠・未成品
						AU-30							
IV-132-15	129-15	-	11385	石斧	B2b1	Va	AM-20	110.2	39.0	21.7	155.0	Gr-Mud.	完・未成品
IV-132-16	129-16	-	22859	石斧	B2c1	VbU	AI-20	(117.0)	56.5	37.4	(445.0)	Gr-Mud.	未成品
IV-132-17	129-17	-	29380	石斧	B2c2	Vc	AD-17	(70.0)	39.8	21.8	(113.0)	Gr-Mud.	基部欠・未成品
IV-132-18	129-18	-	2313	石斧	B2b2	VbU	AP-29	(58.1)	(39.5)	(11.1)	(40.0)	Gr-Mud.	破・未成品
IV-132-19	129-19	-	16511	石斧	B3a	VbL	AN-21	117.1	(72.5)	26.4	(496.0)	Gr-Mud.	欠
IV-132-20	129-20	-	1892	石斧	B3b	VbU	AS-27	(100.0)	86.0	29.8	(316.0)	Gr-Mud.	欠・擦切り痕あり・石斧素材
IV-132-21	129-21	-	8222	石斧	B3c1	VbL	AH-29	(109.0)	51.5	33.3	(251.0)	Gr-Mud.	欠・擦切り痕あり・未成品
IV-132-22	129-22	-	6645	石斧	B3c2	VbL	AP-31	88.8	45.6	30.2	154.0	Bl-Sch.	完
IV-132-23	129-23	-	2609	石斧	B3d	VbM	AR-27	(62.0)	43.5	23.0	(77.0)	Gr-Mud.	欠・擦切り痕あり・破断面に 再加工した痕跡あり
IV-132-24	129-24	-	16687	石斧	B4b	Vc	BE-30	40.9	17.1	4.9	6.0	Gr-Mud.	完
IV-132-25	129-25	-	AG-21-3-9	たたき石	I A1	VbU	AG-21	143.0	59.7	25.6	280.0	Sa.	完
IV-132-26	129-26	-	AN-30-4-46	たたき石	I A1	Vc	AN-30	234.0	47.4	(23.8)	(440.0)	Sa.	欠
IV-132-27	129-27	-	5202	たたき石	I A2	VbM	AW-29	159.0	63.2	25.0	280.0	Sa.	完
IV-133-28	129-28	-	18532	たたき石	I A3	Vc	AV-26	188.0	82.7	35.6	720.0	Sa.	完
IV-133-29	129-29	VST 046	13434	たたき石	I A3	VbU	AN-24	200.0	60.1	32.1	660.0	Sa.	完
			26677			VbL	AK-27						
			AO-24-3-10				AO-24						
IV-133-30	129-30	VST 008	AH-23-2-7	たたき石	I A3	VbL	AH-23	127.1	57.7	26.2	270.0	Sa.	完
			AK-30-2-15			VbU	AK-30						
IV-133-31	130-31	-	AW-30-2-19	たたき石	I A3	Vc	AW-30	166.0	65.7	35.5	630.0	Sa.	完
IV-133-32	130-32	VST 007	5599	たたき石	I A3	Vc	AN-32	144.4	61.6	29.1	350.0	Sa.	完
			7209			VI	AO-34						
IV-133-33	130-33	-	26163	たたき石	I B1	VbU	AM-26	183.5	61.5	33.1	680.0	Sa.	完
IV-133-34	130-34	-	AW-26-2-68	たたき石	I B1	VbU	AW-26	150.0	52.0	31.2	380.0	Sa.	完
IV-134-35	130-35	-	AP-26-4-22	たたき石	I B2	Vc	AP-26	143.0	41.1	39.3	375.0	Mud.	完
IV-134-36	130-36	-	AE-22-不明-7	たたき石	I B3	VbU	AE-22	171.5	41.9	31.1	340.0	Sa.	完
IV-134-37	130-37	-	AP-21-2-9	たたき石	I B3	VbM	AP-21	114.0	55.2	44.5	360.0	Sa.	完
IV-134-38	130-38	-	11336	たたき石	I B3	VbU	AO-21	193.0	52.0	(28.0)	(400.0)	Sa.	欠
IV-134-39	130-39	-	AR-29-2-5	たたき石	I B3	Vc	AR-29	149.4	45.6	40.7	350.0	Sa.	完
IV-134-40	130-40	-	17540	たたき石	I B3	VbU	AX-28	157.0	59.8	42.0	560.0	Sa.	完
IV-134-41	130-41	-	AG-28-1-15	たたき石	I B3	VbU	AG-28	135.1	53.3	40.8	430.0	Con.	完
IV-134-42	130-42	-	AQ-32-4-17	たたき石	I B3	Vc	AQ-32	150.0	56.4	37.0	400.0	Sa.	完
IV-134-43	130-43	-	AO-21-3-25	たたき石	I B3	VbL	AO-21	134.0	40.0	28.2	210.0	Sa.	完
IV-135-44	130-44	-	AY-27-3-4	たたき石	I B3	VbU	AY-27	187.0	61.0	47.2	260.0	Sa.	完

表IV-13-4 包含層出土礫石器属性表(2)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	グリッド/ 遺構名	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
IV-135-45	130-45	-	AP-26-1-23	たたき石	I B3	VbL	AP-26	187.0	68.9	58.4	790.0	Sa.	完
IV-135-46	130-46	-	26829	たたき石	I B3	Vc	AN-26	148.8	41.9	29.3	320.0	Sa.	完
IV-135-47	130-47	-	AV-28-3-65	たたき石	I B3	Vc	AV-28	125.3	55.6	37.5	330.0	Sa.	完
IV-135-48	130-48	-	6728	たたき石	I B3	Vc	AT-33	140.0	50.0	45.3	435.0	Sa.	完
IV-135-49	130-49	-	AK-26-1-22	たたき石	II A2	VbU	AK-26	181.0	114.5	44.3	1,090.0	Sa.	完
IV-135-50	130-50	-	3763	たたき石	II A2	VbU	AO-30	94.0	80.6	39.0	520.0	Bs.	完
IV-136-51	131-51	-	AW-26-1-56	たたき石	II A3	VbL	AW-26	202.0	112.6	56.9	1,500.0	Sa.	完
IV-136-52	131-52	-	5485	たたき石	II A3	VbL	AL-33	163.0	103.2	31.7	805.0	Sa.	完
IV-136-53	131-53	-	6028	たたき石	II A3	VbU	AL-35	94.5	80.0	34.8	320.0	Sa.	完
IV-136-54	131-54	-	18281	たたき石	II A3	VbU	AT-27	131.0	82.9	35.7	535.0	Sa.	完
IV-136-55	131-55	-	AT-24-4-81	たたき石	II B2	Vc	AT-24	88.8	62.6	59.3	580.0	Bs.	完・擦面有
IV-136-56	131-56	-	AL-28-3-5	たたき石	II B2	VbU	AL-28	102.5	78.7	79.7	940.0	Bs.	完・石材同定
IV-137-57	131-57	-	AS-28-3-75	たたき石	II B2	VbL	AS-28	200.0	98.8	66.8	1,900.0	Sa.	完
IV-137-58	131-58	-	1727	たたき石	II B2	VbU	AT-30	116.7	73.1	42.1	665.0	Gr-Mud.	完
IV-137-59	131-59	-	AE-20-2-4	たたき石	II B3	VbU	AE-20	124.0	88.0	59.3	840.0	Sa.	完
IV-137-60	131-60	-	28237	たたき石	II B3	VI	AN-25	122.5	63.7	52.9	460.0	Sa.	完
IV-137-61	131-61	-	5881	たたき石	II B3	Vc	AH-33	241.0	104.9	70.0	2,380.0	Sa.	完
IV-138-62	131-62	-	AW-26-2-89	たたき石	II B3	Vc	AW-26	96.3	76.4	56.5	560.0	Sa.	完・被熱
IV-138-63	131-63	-	AV-30-3-72	たたき石	II B3	VbU	AV-30	91.3	86.8	46.0	450.0	Bs.	完
IV-138-64	131-64	-	AT-30-3-45	たたき石	II B3	VbU	AT-30	120.5	90.0	52.5	760.0	Sa.	完・被熱
IV-138-65	131-65	-	AT-23-2-16	たたき石	III A	VbU	AT-23	102.2	71.0	33.8	320.0	Sa.	完・被熱
IV-138-66	131-66	-	5495	たたき石	III A	Vc	AN-34	104.0	87.8	32.5	355.0	Sa.	完
IV-138-67	131-67	-	AF-26-4-1	たたき石	III B	VbU	AF-26	75.4	67.3	44.5	250.0	Sa.	完
IV-138-68	131-68	-	28850	たたき石	III B	VbL	AE-18	83.6	59.0	47.5	330.0	Bs.	完
IV-138-69	131-69	-	AU-28-4-37	すり石	C	VbU	AU-28	106.8	84.4	31.0	380.0	Sa.	完
IV-139-70	132-70	VST 035	26105	すり石	D	VbL	AK-29	145.5	91.4	68.0	1,055.0	Sa.	完
			25301			Vc	AR-26						
IV-139-71	132-71	VST 027	1867	すり石	D	Vc	AT-30	144.0	92.0	73.3	1,085.0	Sa.	完
			AV-30-3-19			AV-30							
IV-139-72	132-72	-	21966	すり石	D	Vc	AY-28	(120.2)	90.8	50.9	(770.0)	Gr-Mud.	欠
IV-139-73	132-73	-	27831	すり石	D	VbL	AP-25	94.0	89.2	59.1	800.0	Do.	完・石材同定・緑色岩
IV-139-74	132-74	-	5434	すり石	D	VbL	AV-32	(64.5)	(36.2)	(38.5)	(100.0)	Sa.	欠・被熱・ミニチュア
IV-139-75	132-75	-	22375	すり石	D	Vc	AT-25	113.4	106.0	60.7	(870.0)	Sa.	略
IV-140-76	132-76	-	26100	すり石	D	VbL	AL-28	126.8	114.7	64.5	1,200.0	Sa.	完
IV-140-77	132-77	-	21919	すり石	D	VbL	AS-27	141.2	109.6	53.8	1,240.0	Sa.	完
IV-140-78	132-78	-	21935	すり石	D	Vc	AR-24	109.4	88.7	52.6	685.0	Sa.	完
IV-140-79	132-79	-	AW-26-4-97	すり石	D	VbU	AW-26	112.5	71.0	48.6	630.0	Sa.	完・被熱
IV-140-80	132-80	-	18274	すり石	D	VbL	AX-26	(184.0)	109.0	38.8	(1,065.0)	Sa.	欠・未製品
IV-141-81	132-81	-	AY-27-4-70	すり石	D	VbU	AY-27	184.0	127.0	79.9	2,720.0	Sa.	完・未製品
IV-141-82	132-82	-	5307	すり石	E	VbL	AS-33	112.1	62.9	26.6	325.0	Gr-Mud.	完・石斧を転用
IV-141-83	132-83	-	281	すり石	E	VbU	AO-27	57.0	49.6	31.2	100.0	Sa.	完・たたき石の転用・破断面に擦
IV-141-84	132-84	-	AT-31-2-40	すり石	E	VbU	AT-31	57.1	46.2	30.7	85.0	Sa.	完・石冠片の破断面に擦
IV-141-85	132-85	-	AT-27-1-82	すり石	F	Va	AT-27	57.0	55.8	41.9	265.0	Gab.	完
IV-141-86	132-86	-	24177	すり石	F	VbU	AI-21	58.7	49.5	48.8	285.0	Bs.	完
IV-141-87	133-87	-	7464	すり石	F	Vc	AR-34	95.0	75.9	46.5	595.0	Bs.	完
IV-142-88	133-88	-	24677	すり石	F	VbL	AQ-25	99.0	60.8	55.5	540.0	Gr-Mud.	完・付着物有
IV-142-89	133-89	-	AU-32-2-208	すり石	F	VbL	AU-32	98.0	67.8	42.1	440.0	Sa.	完
IV-142-90	133-90	-	5764	すり石	F	Vc	AS-23	84.3	78.7	50.7	560.0	Gab.	完
IV-142-91	133-91	-	22217	砥石	-	VbU	AY-28	(172.0)	85.5	78.5	(1,360.0)	Sa.	欠・三面
IV-142-92	133-92	-	AK-22-4-6	石鋸	-	VbU	AK-22	(93.0)	(83.7)	(16.2)	(110.0)	Sa.	欠
IV-143-93	133-93	-	26827	石鋸	-	Vc	AM-26	94.1	86.8	26.5	225.0	Sa.	完・被熱

表IV-13-4 包含層出土礫石器属性表(3)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	グリッド/ 遺構名	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
IV-143-94	133-94	-	AJ-26-4-29	石鋸	-	Vc	AJ-26	(91.7)	66.4	17.2	(100.0)	Sa.	欠
IV-143-95	133-95	-	AY-32-2-7	石錘	-	KR	AY-32	(67.3)	49.6	(15.4)	(60.0)	Amp.	欠
IV-143-96	133-96	-	7874	滑沢面のある礫	-	VbL	AO-22	231.5	195.5	70.1	4,900.0	Sa.	完
IV-143-97	133-97	-	24067	石皿	-	Vc	AT-30	431.5	183.0	120.0	16,000.0	Sa.	完
IV-143-98	133-98	-	26906	石皿	-	VI	AK-19	276.0	(239.0)	155.0	(16,600.0)	Sa.	欠
IV-144-99	133-99	-	AL-31-4-28	台石	-	VbL	AL-31	121.0	(118.0)	53.4	(995.0)	Sa.	欠・被熱
IV-144-100	134-100	-	5762	石製品	-	Vc	AR-33	94.4	41.5	33.6	143.0	Sa.	完・紡錘形石器
IV-144-101	134-101	-	AG-18-2-31	石製品	-	VbU	AG-18	61.5	38.0	29.9	85.0	Sa.	完
IV-144-102	134-102	-	AR-28-1-63	石製品	-	VbM	AR-28	(54.6)	(42.9)	(25.0)	(77.0)	Sa.	欠
IV-144-103	134-103	-	28912	石製品	-	Vc	AD-17	63.3	53.5	31.3	154.0	Sa.	完・被熱
IV-144-104	134-104	-	28872	石製品	-	Vb	AG-18	45.1	34.4	22.8	50.0	Sa.	完
IV-144-105	134-105	-	28871	石製品	-	Vb	AG-18	(64.1)	32.0	30.9	(85.0)	Sa.	欠
IV-144-106	134-106	-	28874	石製品	-	Vb	AG-18	77.6	50.0	40.9	185.0	Sa.	完
IV-144-107	134-107	-	28875	石製品	-	Vb	AG-18	55.7	41.9	39.1	95.0	Sa.	完
IV-144-108	134-108	-	16449	石製品	-	VbL	AX-28	28.2	18.4	9.4	8.9	Tal.	完・滑石分析
IV-144-109	134-109	-	25351	垂飾品	-	VbU	AJ-26	(26.0)	(24.9)	13.1	(13.7)	Tal.	欠・滑石分析
IV-144-110	134-110	-	9766	石製品	-	VbU	AL-27	57.5	30.6	7.5	19.2	Sach.	完・滑石分析
IV-144-111	134-111	-	10705	垂飾品	-	VbL	AH-27	65.0	34.7	16.1	57.4	Sach.	完・滑石分析
IV-144-112	134-112	-	29302	石製品	-	VbL	AD-22	27.5	20.5	15.3	13.7	Tal.	完・滑石分析
IV-144-113	134-113	-	8042	石製品	-	VbU	AN-30	25.0	16.5	6.3	5.0	Tal.	完・滑石分析
IV-144-114	134-114	-	28848	垂飾品	-	VbL	AE-23	(19.7)	17.2	14.4	(8.9)	Tal.	欠・滑石分析
IV-145-115	134-115	-	8210	棍棒形石器	-	VbL	AG-28	(210.0)	94.1	41.3	(955.0)	Sa-Sch.	基部欠・石材同定
IV-145-116	134-116	VST 058	18303	棍棒形石器	-	VbU	AU-28	285.0	87.7	36.3	1,040.0	Sa.	完・変形砂岩 ・石材同定
			18295				AU-29						

第V章 自然科学的分析

第1節 シヨロマ1遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

シヨロマ1遺跡は、北海道勇払郡厚真町字幌内93-2に所在し、厚真川上流域右岸の支流シヨロマ川との合流点に面する標高約70mの河岸段丘上に立地する縄文時代、擦文時代、中世アイヌ文化期の遺跡である。測定対象試料は、炭化種子と炭化材で、中世アイヌ文化期に属すると推定されるクルミ核 (No. 1)、コナラ属 (No. 2)、キハダ果実 (No. 3)、スモモ核 (No. 4)、炭化材 (No. 5)、擦文文化期に属すると推定される、草本類の稗かと思われる不明炭化植物片 (No. 6)、縄文時代前期と推定されるクルミ核 (No. 7) である。

シヨロマ3遺跡は、シヨロマ川下流域右岸に形成された標高約81mの河岸段丘状に立地する主に擦文文化期の遺跡である。測定対象試料は、擦文文化期に属すると推定されるキハダ果実 (No. 8)、炭化材 (No. 9)、クルミ核 (No. 10) である。

※シヨロマ3遺跡の試料については報告済みであるが、比較資料としてここで掲載する。

2 測定の意義

シヨロマ1遺跡のNo. 1・No. 2・No. 5については、平地式住居跡の年代の参考資料とする。中世アイヌ文化期であるものの、詳細時期を把握することにより遺構形態等の変遷を確認する。また、遺跡内のほぼ同一時期と考えられる他の遺構との時間的關係を把握する。この時期は年代決定可能な考古資料に乏しく、分析年代が重要な参考データとなる。

No. 3・No. 4については、同時期と思われる平地式住居跡 (ⅢH-01) との年代の比較検討を行う。

No. 6については、集中区2の年代の参考資料とする。位置的に隣接する焼土から擦文文化期後期と思われるものの、判断に迷うべき遺構であり、集中区2検出のⅢF-11との年代比較を行う。

No. 7については、縄文時代前期後葉と思われる竪穴式住居跡の絶対年代を得る。

シヨロマ3遺跡の擦文時代のNo. 8~No. 10については、遺跡内の遺構間の時間的關係を確認する。本遺跡の同一層位で、出土例の少ない甲冑製品がまとまって出土しており、本遺構の年代もその参考資料とするため。

3 化学処理工程

- 1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- 2) 酸-アルカリ-酸 (AAA : Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/l (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- 3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO₂) を発生させる。

- 4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- 6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした ^{14}C -AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、 ^{14}C の計数、 ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度 ($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (%) で表した値である (表 1)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ^{14}C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下 1 桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 2・3 に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」 (または「cal BP」) という単位で表される。

6 測定結果

測定結果を表 1~3 に示す。

シヨロマ 1 遺跡の No. 1~No. 5 の年代は、No. 1 が $420 \pm 30\text{yrBP}$ 、No. 2 が $410 \pm 20\text{yrBP}$ 、No. 3

が $560 \pm 20 \text{yrBP}$ 、No. 4 が $370 \pm 20 \text{yrBP}$ 、No. 5 が $330 \pm 20 \text{yrBP}$ である。暦年較正年代 (1σ) は、No. 1 が $1440 \sim 1481 \text{cal AD}$ 、No. 2 が $1443 \sim 1475 \text{cal AD}$ 、No. 3 が $1326 \sim 1416 \text{cal AD}$ の間に 2 つの範囲で、No. 4 が $1464 \sim 1618 \text{cal AD}$ の間に 2 つの範囲で、No. 5 が $1514 \sim 1530 \text{cal AD}$ の間で示される。全て中世アイヌ文化期に属し、予想の範囲である。No. 6 の年代は、 $920 \pm 30 \text{yrBP}$ で暦年較正年代 (1σ) は $1045 \sim 1157 \text{cal AD}$ の間に 3 つの範囲で示され、擦文文化期後期前半の年代である。No. 7 の年代は、 $4650 \pm 30 \text{yrBP}$ で暦年較正年代 (1σ) は $3499 \sim 3370 \text{cal BC}$ の間に 2 つの範囲で示される。縄文時代前期末の大麻 V 式相当の年代である。

ショロマ 3 遺跡の試料の年代は、No. 8 が $930 \pm 20 \text{yrBP}$ 、No. 9 が $920 \pm 20 \text{yrBP}$ 、No. 10 が $970 \pm 20 \text{yrBP}$ である。暦年較正年代 (1σ) は AD、No. 8 が $1044 \sim 1154 \text{cal AD}$ の間に 3 つの範囲で、No. 9 が $1046 \sim 1158 \text{cal AD}$ の間に 3 つの範囲で、No. 10 が $1024 \sim 1147 \text{cal AD}$ の間に 3 つの範囲で示される。いずれも擦文文化期後期前半の年代である。

これら炭化物試料の炭素含有率はいずれも 50% を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360
- 木野瀬正典, 小田寛貴, 赤塚次郎, 山本直人, 中村俊夫 2005 弥生・古墳時代の土器に付着した炭化物の AMS¹⁴C 年代測定 —愛知・石川県の遺跡から出土した土器について—, 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, XVI, 95-104
- 小林謙一 2009 近畿地方以東の地域への拡散, 西本豊弘編, 新弥生時代のはじまり 第 4 巻 弥生農耕のはじまりとその年代, 雄山閣, 55-82
- Reimer, P. J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887
- 佐原眞 2005 日本考古学・日本歴史学の時代区分, 佐原眞, ウェルナー・シュタインハウス監修, 独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所編集, ドイツ展記念概説 日本の考古学 上巻, 学生社, 14-19
- Stuiver, M. and Polach, H. A. 1977 Discussion: Reporting of ¹⁴C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363
- van Klinken, G. J. 1999 Bone collagen quality indicators for palaeodietary and radiocarbon measurements, *Journal of Archaeological Science*, 26, 687-695

表1 放射性炭素年代測定結果(δ¹³C補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ ¹³ C (‰) (AMS)	δ ¹³ C補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
I AAA-33895	No.01 (001)	シヨロマ1遺跡 ⅢF-01(ⅢH-01炉跡)	炭化種子	AAA	-27.09 ± 0.69	420 ± 30	94.96 ± 0.34
I AAA-133896	No.02 (008)	シヨロマ1遺跡 ⅢF-11(集中区2)	炭化種子	AAA	-27.79 ± 0.53	410 ± 20	95.02 ± 0.28
I AAA-133897	No.03 (017)	シヨロマ1遺跡 ⅢAS-01	炭化種子	AAA	-26.89 ± 0.56	560 ± 20	93.31 ± 0.28
I AAA-133898	No.04 (018)	シヨロマ1遺跡 ⅢAS-03(集中区1)	炭化種子	AAA	-26.00 ± 0.44	370 ± 20	95.55 ± 0.27
I AAA-133999	No.05 (019)	シヨロマ1遺跡 ⅢBB-02(集中区2)	木炭	AAA	-27.70 ± 0.33	330 ± 20	96.01 ± 0.25
I AAA-133900	No.06 (021)	シヨロマ1遺跡 ⅢCB-02(集中区2)	炭化種子	AAA	-21.52 ± 0.53	920 ± 30	89.18 ± 0.29
I AAA-133901	No.07 (027)	シヨロマ1遺跡 VH-03	炭化種子	AAA	-24.37 ± 0.28	4,650 ± 30	56.04 ± 0.19
I AAA-133902	No.08 (034)	シヨロマ3遺跡 ⅢF-01	炭化種子	AAA	-28.30 ± 0.38	930 ± 20	89.10 ± 0.25
I AAA-133903	No.09 (035)	シヨロマ3遺跡 ⅢF-02	炭化種子	AAA	-24.40 ± 0.41	920 ± 20	89.19 ± 0.25
I AAA-133904	No.10 (036)	シヨロマ3遺跡 ⅢSB-01	炭化種子	AAA	-27.92 ± 0.38	970 ± 20	88.66 ± 0.25

[#6495]

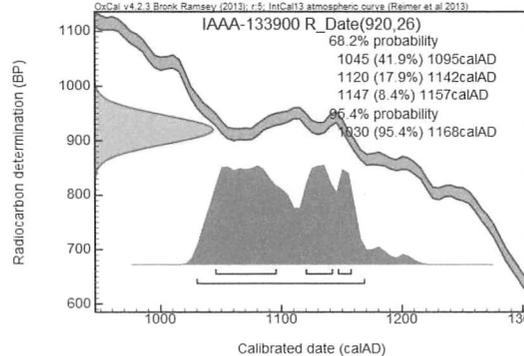
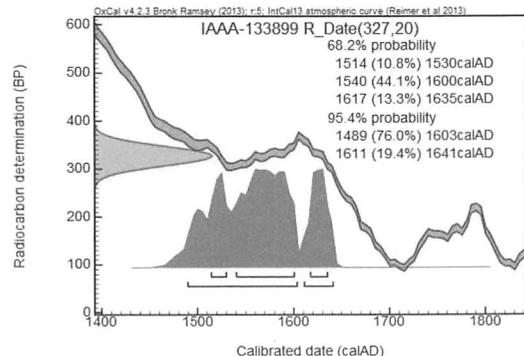
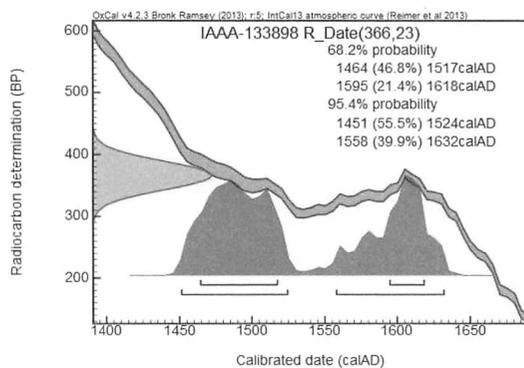
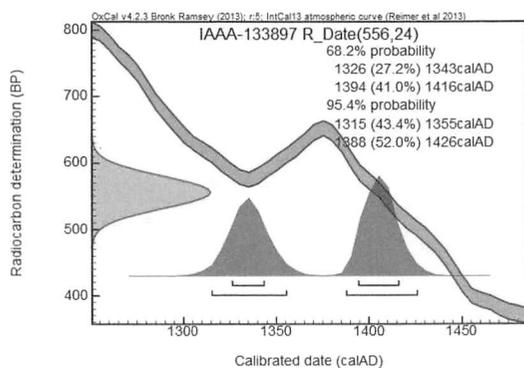
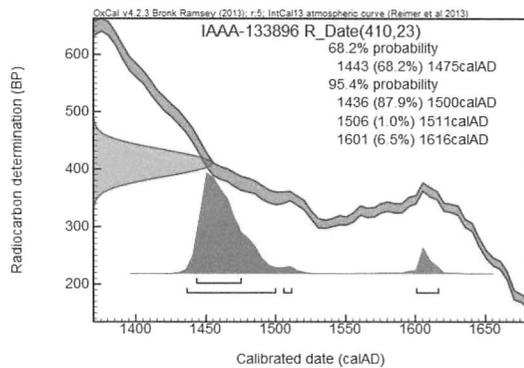
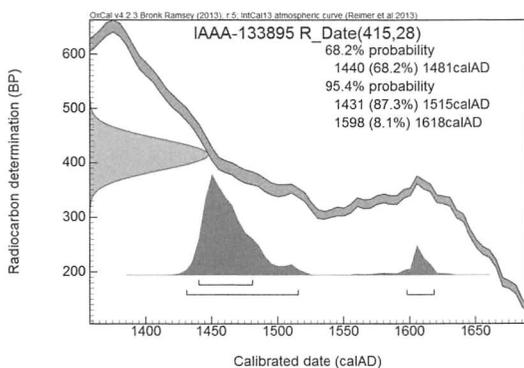
表2 放射性炭素年代測定結果(δ¹³C未補正值、暦年較正用¹⁴C年代、較正年代)(1)

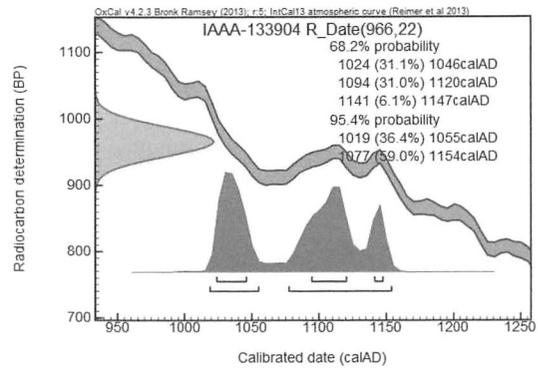
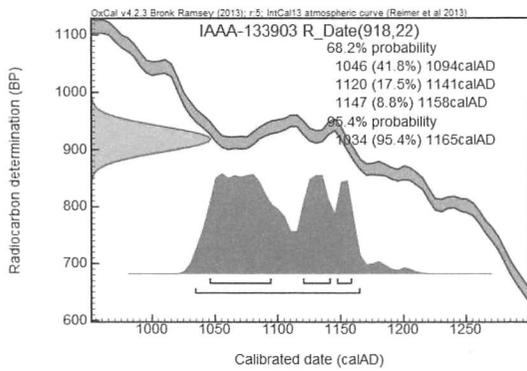
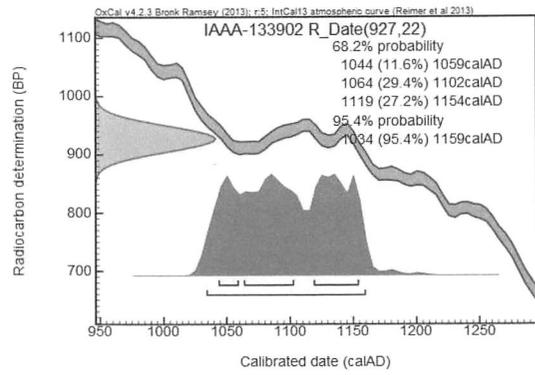
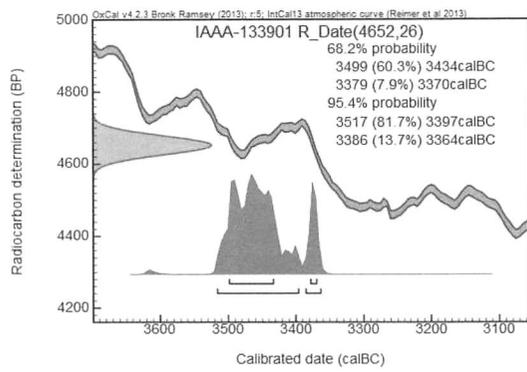
測定番号	δ ¹³ C補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
I AAA-133895	450 ± 30	94.56 ± 0.31	415 ± 28	1440AD - 1481AD (68.2%)	1431AD - 1515AD (87.3) 1598AD - 1618AD (8.1%)
I AAA-133896	460 ± 20	94.48 ± 0.26	410 ± 23	1443calAD - 1475calAD (68.2%)	1436calAD - 1500calAD (87.9%) 1506calAD - 1511calAD (1.0%) 1601calAD - 1616calAD (6.5%)
I AAA-133897	590 ± 20	92.94 ± 0.26	556 ± 24	1326calAD - 1343calAD (27.2%) 1394calAD - 1416calAD (41.0%)	1315calAD - 1355calAD (43.4%) 1388calAD - 1426calAD (52.0%)
I AAA-133898	380 ± 20	95.35 ± 0.26	366 ± 23	1464calAD - 1517calAD (46.8%) 1595calAD - 1618calAD (21.4%)	1451calAD - 1524calAD (55.5%) 1558calAD - 1632calAD (39.9%)
I AAA-133899	370 ± 20	95.48 ± 0.24	327 ± 20	1514calAD - 1530calAD (10.8%)	1489calAD - 1603calAD (76.0%) 1611calAD - 1641calAD (19.4%)
I AAA-133900	860 ± 20	89.82 ± 0.27	920 ± 26	1045calAD - 1095calAD (41.9%) 1120calAD - 1142calAD (17.9%) 1147calAD - 1157calAD (8.4%)	1030calAD - 1168calAD (95.4%)
I AAA-133901	4,640 ± 30	56.11 ± 0.19	4,652 ± 26	3499calBC - 3434calBC (60.3%) 3379calBC - 3370calBC (7.9%)	3517calBC - 3397calBC (81.7%) 3386calBC - 3364calBC (13.7%)

表3 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)(2)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-133902	980 \pm 20	88.5 \pm 0.24	927 \pm 22	1044calAD - 1159calAD (11.6%) 1064calAD - 1102calAD (29.4%) 1119calAD - 1154calAD (27.2%)	1034calAD - 1159calAD (95.4%)
IAAA-133903	910 \pm 20	89.3 \pm 0.23	918 \pm 22	1046calAD - 1094calAD (41.8%) 1120calAD - 1141calAD (17.5%) 1147calAD - 1158calAD (8.8%)	1034calAD - 1165calAD (95.4%)
IAAA-133904	1,010 \pm 20	88.13 \pm 0.24	966 \pm 22	1024calAD - 1046calAD (31.1%) 1094calAD - 1120calAD (31.0%) 1141calAD - 1147calAD (6.1%)	1019calAD - 1055calAD (36.4%) 1077calAD - 1154calAD (59.0%)

[参考値]





[図版] 暦年較正年代グラフ (参考)

第2節 平成25年度北海道勇払郡厚真町ショロマ1遺跡の動物

千歳市埋蔵文化財センター

高橋 理

はじめに

ショロマ1遺跡は厚幌ダム建設にともなう平成25年度事前調査として、厚真町教育委員会によって発掘調査が行われた。調査面積は約9,000 m²である。

今回の調査では中世アイヌ文化期(15~16世紀)、擦文文化期後期の遺構から動物骨が回収された。

筆者に分析の機会を与えられた厚真町教育委員会各位に心より御礼申し上げます。

出土動物

今回分析を依頼された資料は、中世アイヌ文化期(15~16世紀頃)および擦文文化期(後期)のものである。これらは、調査現場における回収法(ハンドピック)と、採取土壌に対するフロテーション法によるものである。本報告は両方法による回収動物骨についてである。なお、縄文期(前期末葉、後期初頭)の資料もごく少量あるが、帰属する遺構等の検討が今後の作業とされることから、出土表への記載にとどめ本分析の対象としない。

出土した動物は、陸産貝類、コイ科魚類、サケ科、サケ属魚類、ネズミ類、イヌ科動物およびシカである。ヒグマは認められなかった。

表1にハンドピックとフロテーションによって回収された動物を時期別・遺構別に示している。それらは次のように分類、整理される。

軟体動物門 Mollusca

陸産貝類 エゾマイマイ *Ezohelix gainesi* ?

脊椎動物門 Vertebrata

条鰭綱 Actinopterygii

サケ目 Salmoniformes

サケ科 Salmonidae

サケ属 *Oncorhynchus*

コイ目 Cypriniformes

コイ科 Cyprinidae

哺乳綱 Mammalia

ネズミ目(齧歯目) Rodentia

食肉目 Carnivora

イヌ科 Canidae

クジラ偶蹄目 Cetartiodactyla

シカ科 Cervidae

ニホンジカ *Cervus nippon*

コメント

・中世アイヌ文化期

獣骨集中ⅢBB-01はチセの前室(セム)内に位置する。これらはすべてシカの頭骨であった。保存状態が必ずしも良好ではないが、遺存していたのは上顎歯、下顎歯および角片1点(No.55)であったこと、環椎や軸椎などの上部脊椎骨が皆無であったことから、頸部以下から離断された頭部のみがセム内に留め置かれていたこととなる。近世寛政期頃の図によれば、セムの入口はチセ本体と同じ方向であった(アイヌ文化保存対策協議会1969)ことから、本シカ頭骨はセム入口から入った右側に置かれていたこととなる。

さらに本遺構は「獣骨集中」と認識されているが、下顎臼歯判別例においてほとんど重複がみられないことから、(あくまで推定の域をでないが)本獣骨集中(ⅢBB-01)は多くてシカ2体の頭骨であり、さらに角幹破片があることから少なくとも1体はオスの頭骨であった可能性を指摘しておきたい。すなわち、セム右側にオス1体を含む(多くても)2体分の完全頭骨が置かれていたこととなる。

臼歯歯冠の保存状態は不良であり、磨滅指数が確認できたのは1例であった。これは第一後臼歯(No.53)指数6(あるいは5)であり、ごく若い個体と考えられる(大泰司1980)。また、第三前臼歯永久歯が左右2点あることを勘案すると、本頭骨集積は2歳ほどの若い個体であったと考えられる(大泰司前出)。他の事例を待ちたい。

ⅢBB-02では、サケ科、サケ属の椎骨、鰭棘片および哺乳類骨が認められた。

灰集中ⅢAS-01ではコイ科魚類がやや多く認められ、これらはウグイ(エゾウグイ)であると考えられる。また、フロテーションによる資料にもコイ科魚類の各部位骨がある。また、サケ科、サケ属魚類、ネズミ目の切歯および臼歯が回収されている。陸産貝類はパツラマイマイタイプの微細貝ではなく、エゾマイマイなどの大型個体の殻片である。灰集中内の他の有機質に集まったものであろう。

また、イヌ科動物の足根骨が認められたが、サイズからキツネクラスと推定される。

シカについては、側頭骨と舌骨(茎状舌骨)の他は、肩甲骨、橈骨、大腿骨などの長管骨などの四肢骨、胴骨を形成する肋骨などが認められ、頭骨に偏るⅢBB-01とは排他的な特徴が見いだせる。さらに舌、咽頭から喉頭基部の基礎を形成する舌骨は、茎状舌骨前端の鼓室舌骨で頭骨側頭骨鼓室部に連結するが、鼓室舌骨は骨化しない繊維軟骨であることから、頭骨を頸椎以下から離断する際には頭骨-舌骨間の分離は容易に起こりうる。

以上のことから、ⅢH-01のセム内のⅢBB-01とⅢAS-01はシカ骨の状況からは相互に排他的かつ補完的な特徴を指摘できる。両遺構の同時性や関連性について、他の遺物情報と合わせた考察が必要と思われる。

ⅢAS-02では哺乳類、ⅢAS-03では多数のサケ科、サケ属魚類、少量の哺乳類が含まれる。

焼土においても、多量のサケ科、サケ属魚類、哺乳類が含まれていた。哺乳類ではシカの臼歯、舌骨、側頭骨、中手骨などが確認されていることから、種不明の哺乳類の多くはシカに帰属すると推定される。

土坑(ⅢP-01)では少量の哺乳類、礫集中(ⅢSB-04)ではやや多くの哺乳類骨細片が検出されている。

・擦文文化期

擦文文化期の遺構では、焼土、獣骨集中、炭化物集中からフロテーション法によって動物骨が回収されている。

その主体は種不明の哺乳類であるが、シカの臼歯、尺骨、中手・中足骨などが認められることから、多くはシカに帰属するものと考えられる。

また、サケ科、サケ属魚類がコイ科魚類とともに少量ずつ検出されている。厚真地域の擦文文化期の遺跡においては、管見の限りサケ科、サケ属はごく少ない状況にあり、近年の調査においてその出現頻度がやや高まった感はある。しかし、その数は自家消費以上のものとは考えられず、食料資源の基盤（さらに他地域との交易における交換物資）がシカであることに変わりはない。このことは、中世アイヌ文化期においても同様である。

本地域におけるサケ科、サケ属魚類出現頻度の不振は、河川における水質、水温（とその変動）、伏流水の有無と量などの点において、産卵床（イチャン）に適する環境がさほど良好なものではなかった可能性があるだろう。

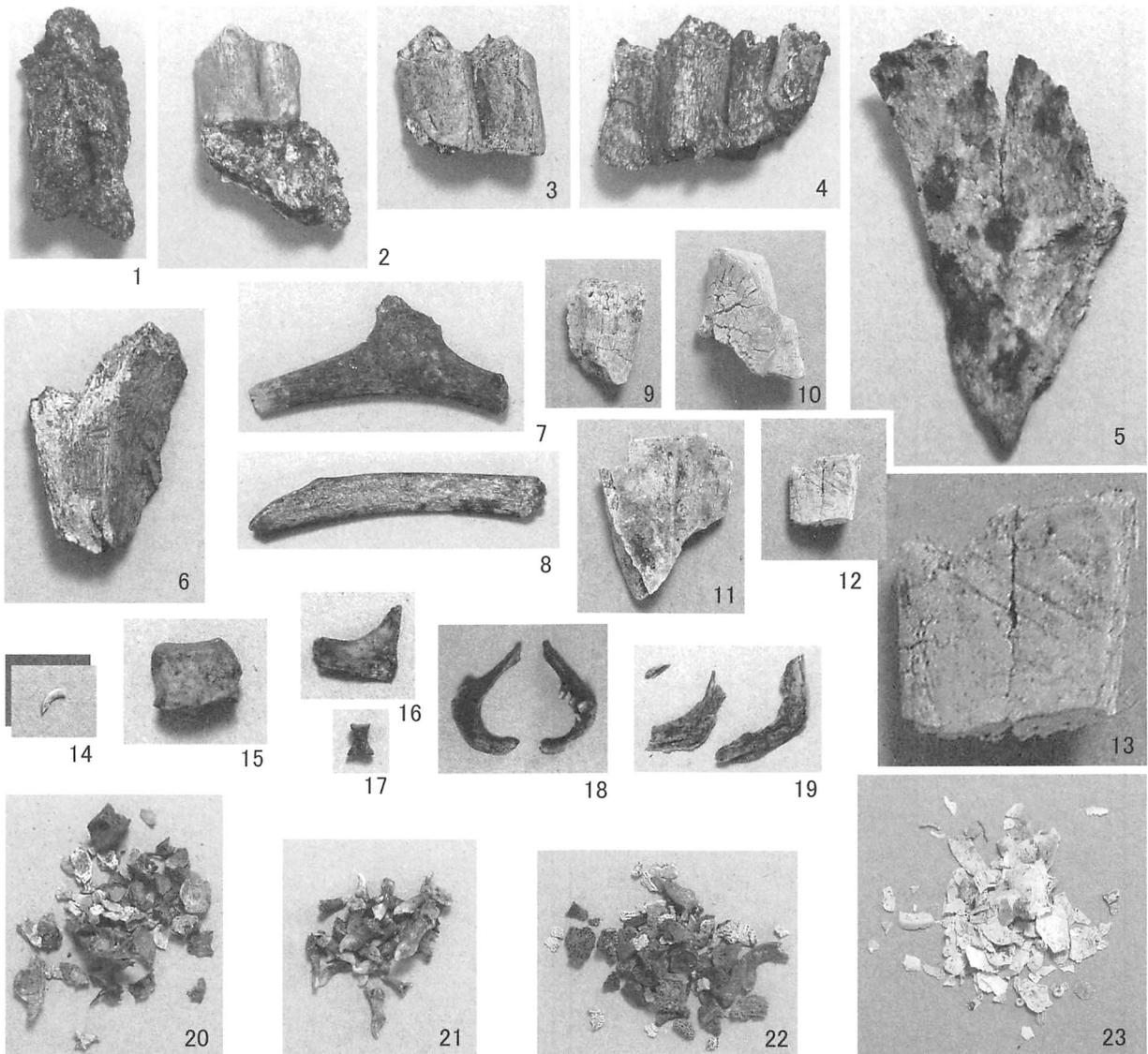
縄文以降、擦文文化期、中世アイヌ文化期を通して、本地域の主たる資源はシカであり続けたことをあらためて指摘したい。

さらに、今回の分析において、擦文文化期・中世アイヌ文化期を通してヒグマ骨が認められないことをあらためて付記しておく。

引用文献

- アイヌ文化保存対策協議会 1969 『アイヌ民族誌』 第一法規出版株式会社
大森司紀之 1980 「遺跡出土ニホンジカの下顎骨による性別・年齢・死亡時期査定法」 『考古学と自然科学』 13, pp. 51-73

図版1



- 1、シカ角幹破片 2、シカ第三前臼歯歯槽付 3、シカ第一後臼歯 4、シカ第三後臼歯
 5、シカ大腿骨(?) 6、シカ肩甲骨(カットマーク) 7、シカ舌骨1 8、シカ舌骨2
 9、シカ中手・中足骨近位端前面 10、シカ尺骨 11、シカ橈骨骨幹後面
 12、哺乳類(カットマーク) 13、12の拡大 14、ネズミ目上顎歯 15、イヌ科手根骨
 16、コイ科前上顎骨 17、コイ科脊椎骨 18、コイ科咽頭骨 19、コイ科前鰓蓋骨
 20、コイ科椎骨 21、コイ科咽頭歯 22、サケ科椎骨 23、陸産貝類

表1 ハンドピック法動物遺存体同定一覧表

時期 遺構種別	遺構名	骨No.	出土動物	部位	出土 部位	L/R	数量	備考
中世 アイヌ文化 期灰集中	IIIAS-01	1	哺乳綱 sp.	部位 不明	不明	-	1	被熱黒色化
		2	シカ	肩甲骨	肩甲骨	L	1	微細なカット多数
		3	哺乳綱 non det.	部位 不明	不明	-	8	白色化
		4	哺乳綱 non det.	部位 不明	不明	-	3	白色化
		5	哺乳綱 sp.	部位 不明	不明	-	1	
		6	哺乳綱 sp.	部位 不明	不明	-	1	白色化
		7	シカ	舌骨	茎状舌骨 部	?	1	
		8	シカ?	大腿骨?	骨幹後面 部	?	1	白色化
		9	哺乳綱 sp.	長管骨	不明	-	1	被熱黒色化
		10	哺乳綱 sp.	部位 不明	不明	-	1	
		11	哺乳綱 sp.	部位 不明	不明	-	1	白色化
		12	哺乳綱 sp.	部位 不明	不明	-	1	被熱黒色化
		13	哺乳綱 sp.	部位 不明	不明	-	1	白色化
		16	哺乳綱 non det.	部位 不明	不明 細片	-	10	被熱黒色化
		65	シカ	臼歯	歯冠 細片	-	4	
		66	シカ	臼歯	歯冠 細片	-	多数	
		65	魚綱 non det.	鰭棘	細片	-	4	
		66	魚綱 non det.	鰭棘 ほか	細片	-	多数	
		67-A	コイ科 sp.	咽頭骨		L	1	ウグイ(エノウグイ)
		67-B	コイ科 sp.	咽頭骨		L	1	ウグイ(エノウグイ)
		68	コイ科 sp.	鰭骨		L?	1	
		69	コイ科 sp.	咽頭骨	骨体 一部	L	1	ウグイ(エノウグイ) 他に鰭棘破片多数
		70	魚綱 spp.	鰭棘	細片	-	2	
		71	不明 sp.	部位 不明	不明	-	1	白色化
		72	不明 sp.	部位 不明	不明	-	1	白色化
		73	哺乳綱 sp.	部位 不明	不明	-	1	
		74	哺乳綱 sp.	部位 不明	不明	-	1	
		75	哺乳綱 sp.	肋骨	肋骨体	-	1	シカ
		76	哺乳綱 sp.	部位 不明	不明	-	1	
		77	哺乳綱 sp.	部位 不明	不明	-	1	白色化
		78	不明 non det.	部位 不明	不明 微細片	-	3	白色化
		79	哺乳綱 sp.	部位 不明	不明	-	1	
80	哺乳綱 spp.	部位 不明	不明	-	2	白色化		
81	哺乳綱 sp.	部位 不明	不明	-	1	被熱黒色化		
82	哺乳綱 sp.	部位 不明	不明	-	2	白色化		
83	不明 sp.	部位 不明	不明	-	1	白色化		
中世 アイヌ文化 期	III BB-01	17	シカ	臼歯	歯冠 破片	-	3	
		18	シカ	上顎 臼歯	歯冠 一部	-	1	
		19	シカ	上顎 臼歯	歯冠 一部	-	2	
		20	シカ	臼歯	歯冠 破片	-	1	

時期 遺構種別	遺構名	骨No.	出土動物	部位	出土 部位	L/R	数量	備考
中世 アイヌ文化 期散骨集中	III BB-01	21	シカ	上顎 臼歯	歯冠 一部	-	1	
		22	シカ	臼歯	歯冠 破片	-	1	
		23	シカ	上顎 臼歯	歯冠 一部	-	1	2歯分
		24	シカ	下顎 臼歯	M1 歯冠	R	1	W. I. 不明
		25	シカ	下顎 臼歯	歯冠 破片	-	9	
		26	シカ	臼歯	歯冠 破片	-	3	
		27	シカ	下顎 臼歯	歯冠 破片	R?	1	
		28	シカ	臼歯	歯冠 破片	-	2	
		29	哺乳綱 spp.	部位 不明	不明 細片	-	2	
		30	シカ	臼歯	歯冠 破片	-	2	
		31	シカ	臼歯	歯冠 破片	-	1	
		32	シカ	臼歯	歯冠 破片	-	2	
		33	シカ	臼歯	歯冠 破片	-	2	
		34	シカ	臼歯	歯冠 破片	-	6	
		35	シカ	臼歯	歯冠 破片	-	1	
		36	シカ	下顎 臼歯	M3 歯冠	R	1	W. I. 不明
		37	シカ	下顎 臼歯	M3-M1 歯冠	R	1	M1W. I. 不明
		38	不明 spp.	部位 不明	不明 微細片	-	2	
		39	不明 spp.	部位 不明	不明 微細片	-	2	
		40	シカ	臼歯	歯冠 破片	-	1	
		41	シカ	臼歯	歯冠 破片	-	6	
		42	シカ	臼歯	歯冠 破片	-	2	
		43	シカ	臼歯	歯冠 破片	-	5	
		45	シカ	臼歯	歯冠 破片	-	7	
		49	シカ	下顎 臼歯	歯冠	-	1	W. I. 不明
		51	シカ	臼歯	歯冠 細片	-	1	
		53	シカ	下顎 臼歯	M1 歯冠	L	1	W. I. 5or6 他に2点W. I. 不明
		54	不明 non det.	部位 不明	不明 微細片	-	4	
		55	シカ	角	角幹 破片	-	1	
		56	シカ	下顎 臼歯	歯冠 破片	-	6	
		57	シカ	臼歯	歯冠 細片	-	21	
		59	シカ	下顎 臼歯	歯冠 破片	R	1	
		60	シカ	臼歯	歯冠 破片	-	2	
		61	シカ	臼歯	歯冠 破片	-	7	
		62	シカ	臼歯	歯冠 破片	-	9	
		63	シカ	下顎 臼歯	M3及び 臼歯	L	1	他に細片2点
		64	シカ	臼歯	歯冠 破片	-	2	
		中世 アイヌ文化 期	III BF-31	84	哺乳綱 sp.	部位 不明	不明	-
85	哺乳綱 spp.			部位 不明	不明	-	2	白色化
86	シカ?			大腿骨?	骨幹後面 上窩部	L	1	

表2 フローテーション法動物遺存体同定一覧表

時期 遺構種別	遺構名	層位	動物種	部位	LR	数量	備考			
中世 アイヌ期 III H-01	III F-01	III bM	シカ	舌骨 茎状舌骨 一部	?	1	-			
			哺乳綱 spp.	部位不明	-	15	被熱黒色化 他に微細片			
			シカ	中手骨 骨幹掌側 一部	-	1	-			
			骨角器	-	-	1	-			
			シカ	頭骨 側頭骨 岩様部	-	1	-			
			シカ	臼歯 歯冠片	-	3	-			
			コイ科 non det.	咽頭骨 咽頭骨	-	6	-			
			コイ科 sp.	咽頭骨	R	1	-			
			コイ科 non det.	椎骨	-	5	-			
			魚綱 non det.	鰭棘	-	多数	-			
			サケ属 non det.	椎骨	-	34	-			
			サケ属 non det.	椎骨	-	6	-			
			III F-02	III bM	哺乳綱 non det.	部位不明	-	3	-	
			魚綱 non det.	鰭棘	-	多数	-			
			III P-01	III bM	哺乳綱?	部位不明	-	1	-	
中世 アイヌ期 集中区I	III F-18	III bM	シカ	腕骨 骨幹後面 尺骨関節面	?	1	-			
			哺乳綱 non det.	部位不明	-	48	他に細片			
			サケ属 spp.	椎骨片	-	2	旧III F-20			
			魚綱 non det.	鰭棘片	-	4	-			
			哺乳綱 sp.	部位不明	-	1	-			
	III F-18A	III bM	不明 non det.	部位不明	-	粉状				
	III F-18B	III bM	哺乳綱 sp.	上腕or 大腿骨 骨頭一部	-	1	-			
	III F-18C	III bM	哺乳綱 non det.	部位不明	-	10	他に微細片			
	III BB-02	III bM	魚綱 sp.	臀鰭棘?	-	1	-			
			サケ属 non det.	椎骨 椎体破片	-	8	-			
			サケ科 non det.	鰭棘	-	19	-			
			哺乳綱 non det.	部位不明	-	7	他に微細片多数			
			サケ属 spp.	椎骨片	-	2	-			
	III AS-03	III bU	哺乳綱 non det.	部位不明	-	8	-			
			サケ属 spp.	椎骨片	-	2	-			
サケ科 non det.			鰭棘片	-	多数	-				
陸産貝類			殻片	-	多数	微細片				
サケ属 non det.			椎骨	-	82	-				
中世 アイヌ期 灰集中	III AS-01	III bM	コイ科 sp.	椎骨	-	1	-			
			サケ属 spp.	歯	-	2	-			
			ネズミ目 sp.	上顎切歯	-	1	-			
			魚綱 non det.	鰭棘	-	多数	-			
			コイ科 sp.	咽頭骨	L	1	-			
			コイ科 spp.	前鰓蓋骨	-	2	-			
			コイ科 non det.	椎骨	-	31	-			
			コイ科 sp.	第一頸椎	-	1	-			
			コイ科 sp.	方骨	-	1	-			
			コイ科 sp.	前上顎骨 先端一部	R	1	-			
			コイ科 sp.	咽頭骨	R	1	-			
			コイ科 sp.	咽頭骨	L	1	-			
			ネズミ目 sp.	臼歯	-	4	-			
			ネズミ目 sp.	切歯	-	3	-			
			III KP-06	III c	III AS-01 F	シカ	頭骨 側頭骨 岩様部	-	1	-
骨角器	-	-				6	同一個体?			
イヌ科 sp.	足根骨 中心 足根骨	L				1	-			
シカ	腕骨 骨幹後面 一部	?				1	-			
哺乳綱 non det.	部位不明	-				多数	-			
陸産貝類 non det.	殻片	-				20	-			
サケ属 spp.	椎骨片	-				2	-			
魚綱 non det.	鰭棘	-				20	-			
魚綱 sp.	基鰭骨	-				1	-			
哺乳綱 non det.	部位不明	-				6	-			
不明 non det.	不明微細片	-				20	-			
III AS-02	III bU	哺乳綱 sp.				長管骨 骨幹片	-	1	-	
中世 アイヌ期 際集中	III SB-04	III bM				哺乳綱 non det.	部位不明	-	10	他に微細片多数

時期 遺構種別	遺構名	層位	動物種	部位	LR	数量	備考				
擦文期 集中区3	III F-11	III bL	シカ	臼歯 歯冠片	-	28	-				
			シカ	尺骨 滑車切痕	L	1	-				
			哺乳綱 sp.	部位不明	-	1	カットあり				
			魚綱 non det.	鰭棘	-	5	-				
			哺乳綱 non det.	部位不明	-	4	-				
			哺乳綱 non det.	部位不明	-	11	-				
			不明 non det.	部位不明	-	10	-				
			哺乳綱 non det.	部位不明	-	7	-				
			哺乳綱 non det.	部位不明	-	多数	-				
			哺乳綱 non det.	部位不明	-	多数	-				
			III F-14	III bL	シカ	臼歯 歯冠片	-	多数	-		
					サケ属?	歯	-	1	-		
					哺乳綱 spp.	部位不明	-	2	-		
					III F-15	III bL	哺乳綱 sp.	肋骨 肋骨体 一部?	-	1	-
							シカ	中手骨 近位端	?	1	-
III F-16	III bL	シカ?	指趾骨? 遠位端	-	1	-					
		哺乳綱 non det.	部位不明	-	多数	-					
		哺乳綱 sp.	膝蓋骨 尖一部?	?	1	-					
		シカ	中足骨 近位端 底側一部	?	2	-					
		シカ?	歯根一部	-	1	-					
III F-17	III bL	コイ科 sp.	咽頭骨	R	1	-					
		魚綱 non det.	鰭棘	-	3	-					
		哺乳綱 non det.	部位不明	-	多数	-					
		哺乳綱 non det.	部位不明	-	多数	-					
		シカ	指趾骨? 近位端 一部	-	1	-					
III CB-01	III bL	哺乳綱 non det.	部位不明	-	1	-					
		哺乳綱 non det.	部位不明	-	16	-					
		III CB-02	III bL	哺乳綱 non det.	部位不明	-	18	他に微細片			
		BF-31	III bL	哺乳綱 non det.	部位不明	-	21	他に細片多数			
		BE-30	III c	哺乳綱 non det.	部位不明	-	10	他に細片多数 III P-02周辺			
擦文期 焼土	III F-04	III bL	不明 non det.	部位不明	-	3	-				
			魚綱 spp.	部位不明	-	2	-				
			魚綱 sp.	鰭棘	-	1	-				
			III F-07	III bL	不明 sp.	部位不明	-	1	-		
			III F-08	III c	不明 sp.	部位不明	-	1	-		
	III F-10	III c	骨角器?	-	-	1	-				
			哺乳綱 non det.	部位不明	-	27	-				
			サケ属 non det.	椎骨	-	12	-				
			サケ科 sp.	歯	-	1	-				
			コイ科 spp.	椎骨	-	2	-				
	III F-12	III bL	魚綱 spp.	担鰭骨	-	2	-				
			魚綱 sp.	方骨	-	1	-				
			魚綱 sp.	基鰭骨	-	1	-				
			魚綱 non det.	鰭棘	-	多数	-				
			シカ	中手・中足骨 近位端 前面一部	?	1	-				
III F-13	III bL	哺乳綱 non det.	部位不明	-	多数	-					
		魚綱 non det.	鰭棘	-	5	-					
		哺乳綱 non det.	部位不明	-	多数	-					
		魚綱 spp.	鰭棘	-	2	-					
		哺乳綱 non det.	部位不明	-	10	-					
III F-21	III c	哺乳綱 spp.	部位不明	-	2	-					
III F-24	III bM	哺乳綱 non det.	部位不明	-	8	-					
縄文	V BB-01	V bU	哺乳綱 non det.	部位不明	-	4	他に微細片多数				
	V F-23	1層	鳥綱?	卵殻片?	-	1	-				
	V H-02	V bL	陸産貝類 sp.	殻片	-	1	-				
	V H-06	2層	不明 spp.	部位不明	-	2	-				

第3節 厚真町ショロマ1遺跡から検出された植物種子

Project Seeds 考古植物研究会

椿坂 恭代

1. 遺跡の所在と性格

遺跡の名称 : ショロマ1遺跡

所在地 : 北海道勇払郡厚真町字幌内93-1・2・3

発掘調査期間 : 平成25年5月14日～同年10月31日

発掘調査面積 : 8,933m²

調査担当者 : 奈良智法・乾 哲也・宮塚義人

遺構の年代 : 縄文時代前期・後期、擦文文化期、中世アイヌ文化期

遺跡の立地 : 遺跡は、厚真川河口から約35Kmの上流域に位置し、厚真川とショロマ川の合流点に形成された、標高約68mの河岸段丘上の平坦面に立地している。

その他の検出遺構・遺物などの詳細については本編を参照していただきたい。

2. 扱った資料

分析対象として扱った資料は平成25年度に発掘調査した遺跡からのものである。中世アイヌ文化期、擦文文化期、縄文時代中期末葉～後期初頭、縄文時代前期後葉～末葉の各遺構から土壌を採取し、フローテーション処理を行い、第1次選別で炭化植物種子などを抽出し送付されてきたものである。これらの資料は実体顕微鏡で観察と撮影を行った。検出された植物種子の出土表と写真図版は第1表・図版1・2に示しておく。

3. 検出された植物種子

キビ *Panicum miliaceum* L. (図版1-1a～c : IIIAS-01から出土)

中世アイヌ文化期の灰集中 (IIIAS-01) から3粒出土。穎果はやや球形または広卵形。背面には果長の1/2ほどの胚があり、その反対側の腹面にはヘラ形状のヘソがある (椿坂 1993)。出土種子は1aに示すようにすべて内・外穎のとれた穎果の状態です。計測値はL2.00×W1.80×T1.40 (mm)

ヒエ属 *Echinochloa* Beauv. (図版1-2a～c : IIIF-23から出土)

擦文文化期? (IIIIF-23) から1粒出土。穎果は広楕円形。背面には果長の2/3ほどを占める楕円形の大きな胚がある。その反対側の腹面にはヘラ形状のヘソがある (椿坂 1993)。出土資料は2aに示すように内・外穎のとれた状態で、栽培型ヒエ *Echinochloa utilis* Ohwi et Yabuno として分類される。計測値はL1.75×W1.75×T1.10 (mm)

タデ科 POLYGONACEAE (図版1-3 : IIIIF-02から出土。4 : IIIAS-01から出土)

中世アイヌ文化期の灰集中 (IIIAS-01) から酸化状態で1粒、擦文文化期の集中区3 (IIIIF-02) から2粒と擦文文化期の焼土 (IIIIF-24) から1粒出土。資料3の瘦果は三角状紡錘形。資料4の瘦果は三角状卵形。タデ科種子は形態の類似した種類が多いため、詳細な分類は困難である。3の計測値はL2.40×W1.20 (mm)、4 : L1.70×W1.20 (mm)

マメ科 LEGUMINOSAE (図版1-5a, b : III F-24から出土)

擦文文化期の焼土 (III F-24) から1粒出土。種子は扁平卵形で腹面の下部近くにやや突き出した嘴状の円形のヘソがある。このような特徴からハギ属 *Lespedeza* Michx. に分類される。ハギ属種子は形態の類似した種類が多いため詳細な分類は困難である。計測値はL3.20×W1.90×T1.60 (mm)

クワ科 MORACEAE (図版1-6 : III F-14から出土)

擦文文化期の集中区3 (III F-14) から1粒出土。種子は広倒卵状3角形で種皮の表面は滑らかである。これらの特徴からヤマグワ *Morus bombycis* Koidz. と判断された。計測値はL1.75×W1.30×T0.90 (mm)

マタタビ属 *Actinidia* Lindl. (図版1-7 : III F-15から出土)

擦文文化期の集中区3 (III F-15) から1粒出土。種子は長楕円形。種皮には凹点による網目模様がある。この仲間にはマタタビ *Actinidia polygama* Planch. et Maxim. とサルナシ *Actinidia arguta* Planch. があるが、両者の種子は形態と表面組織がきわめて良く似ている。しかし粒形の特徴からはサルナシ *Actinidia arguta* Planch. であろう。計測値はL1.90×W1.10×T0.55 (mm)

キイチゴ属 *Rubus* L. (図版1-8 : III CB-02から出土)

擦文文化期の集中区3 (III CB-02) から1粒出土。種子は半横広卵形。種子の全面に大きな網状の凹凸がある。これらの特徴からキイチゴ属と判断される。キイチゴ属種子は形態と種子表面の構造の類似したものが多いため種までの分類は困難である。計測値はL1.60×W0.90×T0.90 (mm)

キハダ属 *Pheledendron* Rupr. (図版1-9, 10, 11 : III AS-01から出土)

中世アイヌ文化期の住居 (III H-01. HF01, 02, 床面清掃土)、焼土 (III F-18)、灰集中 (III AS-01)、包含層からと擦文文化期の集中区3 (III CB-02)、焼土 (III F-24) から果実片、種子が出土。果実は球形で中に5の小核があり、各1個の種子を含む。種子は半横広卵形で表皮に浅い凹みによる網目模様がある。これらの特徴からキハダ *Pheledendron amurense* Rupr. と判断される。9の計測値はL7.40×W8.40 (mm)、10 : L5.00×W5.80 (mm)、11 : L4.30×W2.20×T1.30 (mm)

ブドウ科 VITIDACEAE (図版1-12a, b : III AS-03から出土)

中世アイヌ文化期の住居 (III H-01. HF01, 02)、集中区1、焼土 (III F-03, 18)、灰集中 (III AS-01)、擦文文化期の集中区3 (III F-11, 13, III CB-01, 02)、焼土 (III F-04) の遺構から炭化と酸化状態の種子が混在して出土。堅果は広倒卵形、背面は円みがあり、倒へら形の凹みがある。腹面の中央に稜をなす。稜の両側に針形の凹みがある。形態の類似した種子にエビヅル *Vitis ficifolia* Bunge var. *lobata* があるが、その分布域は北海道の南部に限られているという。形態の特徴からヤマブドウ *Vitis coignetiae* Pulliat であろう。計測値はL4.70×W3.20×T2.70 (mm)

クマシデ属 *Carpinus* L. (図版1-13 : III CB-02から出土)

擦文文化期の集中区3 (III CB-02) から1粒出土。種子はやや扁平な卵状楕円形でクマシデ属の特徴を示す。北海道ではサワシバ *Carpinus cordata* Blume.、アカシデ *Carpinus laxiflora* (Sieb. et Zucc.) Blume. が分布する。しかし形態は窮めて類似しており種までの分類は困難である。計測値はL3.50×W2.00×T1.50 (mm)

ミズキ属 *Cornus* L. (図版1-14: III CB-01から出土)

擦文文化期の集中区3 (III CB-01) から2粒出土。核は偏球形で浅い縦溝があり先に穴がある。この特徴からミズキ *Cornus controversa* Hemsleyと判断される。計測値はL3.90×W4.60 (mm)
モクレン科 MAGNOLIACEAE (図版2-15a, b: III CB-02から出土)

擦文文化期の集中区3 (III CB-01, 02) から合わせて5片出土。モクレン科特有の形態(腎臓状横楕円形)の一部分と滑らかな表皮構造が観察できた。これらの特徴からコブシ *Magnolia kobus* DC.と判断される。破片の計測値はL4.00×W5.40 (mm)

スモモ属 *Prunus salicina* Lindl. (図版2-16a, b: III AS-03から出土)

中世アイヌ文化期の集中区1 (III AS-03)、包含層から合わせて48片(0.804g)出土。核片はやや扁平。側面に沿ってやや深い縦溝があり、核の面は粗面である。これらの特徴からスモモと判断される。破片の計測値はL7.10×W4.80 (mm)。参考までに自然乾燥処理の現生スモモ核1個の重さは約0.8gである。

コナラ属 *QUERCUS* L. (図版2-17a, b: III AS-01から出土)

中世アイヌ文化期の灰集中(III AS-01)、焼土(III F-18)からと擦文文化期の集中区3(III F-11)、焼土(III F-04)から合わせて0.306g出土。子葉は長楕円形で表面には縦条がある。このような形態を持つ種類にはミズナラ *Quercus crispula* Blume.、コナラ *Quercus serrata* Thunb.、カシワ *Quercus dentata* Thunb. などがあるが子葉の形態から詳細な分類をするのは困難である(吉崎・椿坂 2000)。出土資料はすべて破片なので、詳細な分類が出来なかった。破片の計測値はL10.80×W8.40 (mm)。参考までに自然乾燥処理の現生ミズナラ子葉の1個の重さは約1.7gである。

クルミ属 *Juglans* L. (図版2-22: VH-03から出土)

中世アイヌ文化期、擦文文化期、縄文時代の遺構からすべて細片で合わせて111.653g出土。核表面には縦に浅い溝状の模様があり、オニグルミ *Juglans sieboldiana* Maximの特徴を示す。いずれも細片のため計測はしていない。参考までに自然乾燥処理の現生オニグルミ核1個の重さは約6.0gである。

冬芽 (図版2-18: III AS-01から出土。19: III F-13から出土)

中世アイヌ文化期の灰集中(III AS-01)、擦文文化期の集中区3(III F-13)、(III CB-02)から出土。手元に比較資料がないので分類が出来なかった。18の計測値はL3.80×W2.00 (mm)、19:L2.30×W1.40 (mm)

不明1 (図版2-20a, b: III F-11から出土)

中世アイヌ文化期の焼土(III F-18)、包含層からと擦文文化期の集中区3(III F-11, 17)、(III CB-02)から出土。手元に比較資料がないので分類が出来なかった。計測値はL3.50×W2.20×T1.50 (mm)

菌類? (図版2-21a, b: III CB-02から出土)

擦文文化期の集中区3(III F-11)、(III CB-01, 02)、焼土(III F-09)から合わせて9片出土。表面は乳頭状の突起があり、その大きさは個体によって異なる。種子や堅果類ではないようであるが、その実態は不明である。計測値はL4.00×W4.00 (mm)

その他にキビ、ヒエのいずれかと思われるが、被熱による変形が大きくて分類できなかったものを不明ミレットとして扱った。また保存状態が窮めて悪いため分類できなかった資料を不明2として扱った。

4. 若干のコメント

中世アイヌ文化期の遺構からは、栽培植物のキビと野生植物では草本のタデ科、木本類のキハダ属、ブドウ科、スモモ属、コナラ属、クルミ属、冬芽が検出された。この中で数量的に多かったのはキハダ属とスモモ属であった。スモモ属の原産地は中国と考えられており、日本では栽培果樹として知られている。スモモ属はしばしば半野生化するという。北海道では、擦文時代で検出されたのが始めてである（吉崎・椿坂 2001）。それ以外は中世・近世からの出土例が主である。

擦文文化期の遺構からは、栽培植物のヒエと野生植物では草本のタデ科、木本類のクワ科、マタタビ属、キイチゴ属、キハダ属、ブドウ科、クマシデ属、ミズキ属、モクレン科、コナラ属、クルミ属、冬芽が検出された。この中で数量的に多かったのはブドウ科で、そのほとんどが酸化した状態で出土。これまでの調査例から、各時代の遺構から炭化せず酸化（胚乳が分解されて種皮だけが残って出土する状態）を示すアカザ属、ニワトコ属、マタタビ属、タラノキ属、ブドウ科などの種子が多数出土することから、後世の混入である可能性を考慮して札幌市埋蔵文化財センターが同層準から出土した酸化状態のタラノキ属の年代測定を行ったことがある（吉崎・椿坂 1998）。得られた測定値は、ほぼ同一であった。したがって、種子の性質によって炭化の過程を得ないで残存するものもあることが確認されている。

縄文時代の遺構からは、栽培植物は検出されなかった。野生植物では堅果類のクルミ属のみで、縄文時代前期後葉～末葉の竪穴住居跡（VH-03）から内果皮の細片が纏まって出土。クルミ属は日本各地、樺太に分布しており、利用の多い食料資源である。アイヌの人たちは、クルミを大量に貯蔵して、冬になってから炉の中に並べ、焚き火に炙り、裂け目のできた堅果を刃物でこじ開けて胚を食べていた。また、樹皮は染料としても利用されていたという（知里 1993）。クルミ属は、縄文時代から近世まで連綿と検出されており、他の堅果類と比較して出土量が多く、普遍的に利用されていたことが窺える。しかし、その目的や処理について、まだ、明確に解っていないので、今後の検討課題である。

引用文献

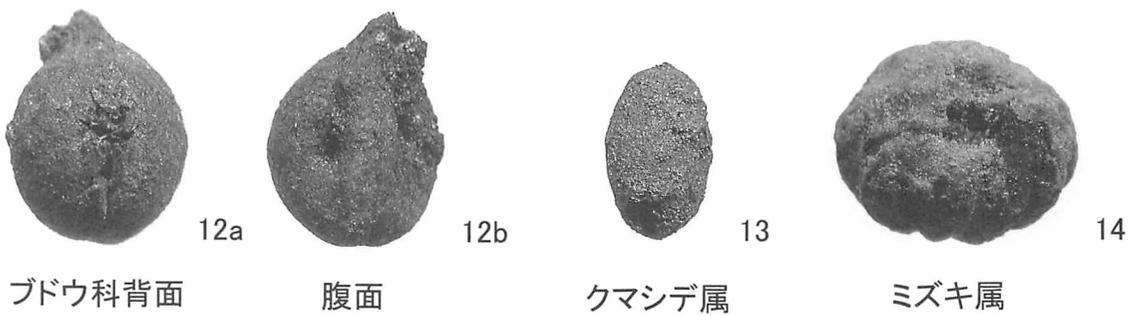
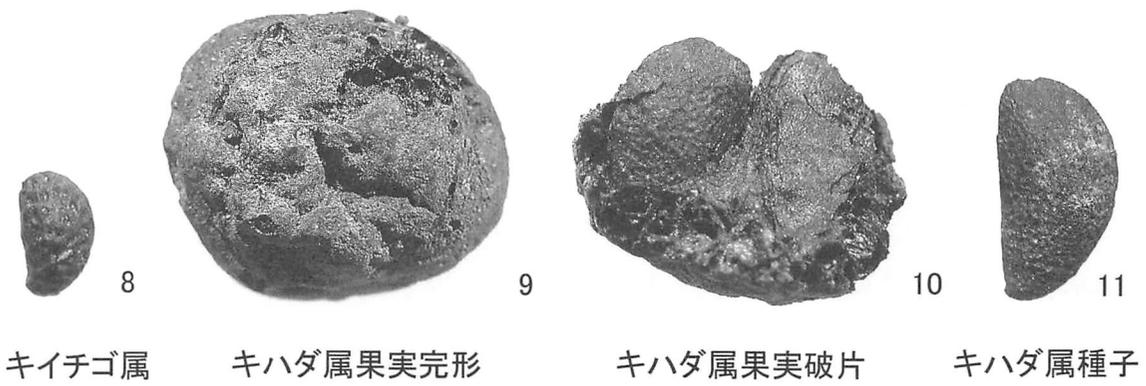
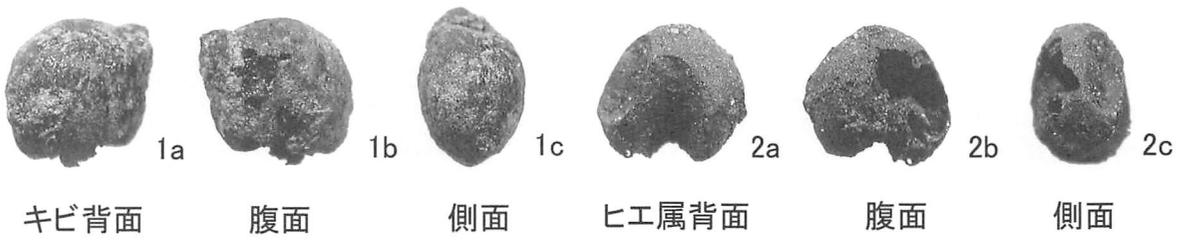
- 椿坂恭代 1993：「アワ・ヒエ・キビの同定」『先史時代と関連科学』261-281 吉崎昌一先生
還暦記念論集刊行会
- 吉崎昌一・椿坂恭代 1998：「札幌市N30遺跡から出土した植物遺体」『N30遺跡』164-172、225
-227 札幌市文化財調査報告書58 札幌市教育委員会
- 吉崎昌一・椿坂恭代 2001：「K39遺跡第6次調査で出土した炭化種子」『K39遺跡第6次調査』
9-37、158-167 札幌市文化財調査報告書65 札幌市教育委員会
- 知里真志保 1993：「分類アイヌ語辞典植物編・動物編」184-186『知里真志保著作集』別巻I
平凡社

表1 厚真町シヨロマ1遺跡植物遺存体出土表

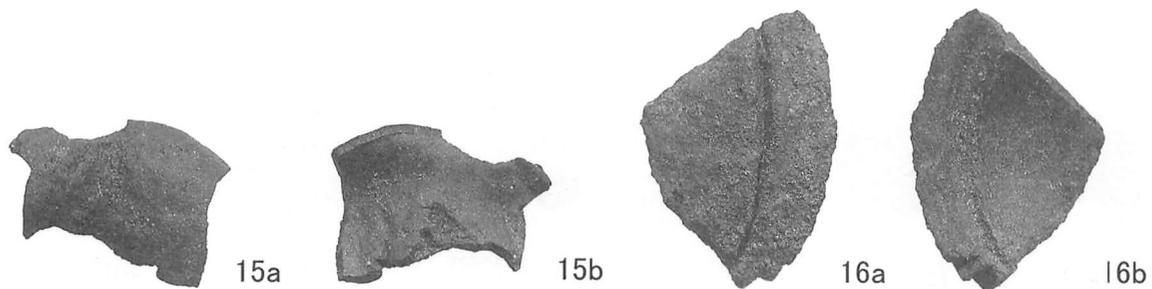
時期等	遺構 種別等	委託 No.	遺構名	調査区・ 位置	キ ビ	ヒエ 風	タデ 科	マメ 科	クワ 科	マダ タビ 風	キイ チゴ 風	キハダ風			果 実 (片)	種 子 (粒)	ブドウ科	クマ シダ 風	ミス キ風	モク レン 科	バラ科 (スモモ)	コナ ラ風	クル ミ風	冬 芽	不明 ミレット	不明 1	不明 2	菌類 ?						
												片	粒	片																				
中世 アイヌ期 IIIH-01	IIIH-01.HF01 IIIH-01.HF02 床面清掃土	001	AG-25	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
		002	AG-25	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
		024	AG-25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
		022	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
中世 アイヌ期 集中区1	IIIAS-03	018	AP-25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
		003	AL・AK-25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
		014	AO-25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
		017	AN-30・31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
中世 アイヌ期 成集中 包含層	-	023	AN-30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
		008	BD-29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
		009	BG-31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
		010	BD-29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
		011	BD-29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		012	BD-29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		013	BD-29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
		020	BB・BC-29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		021	BC・BD-30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		004	AJ-31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		005	AG-25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		006	AJ・AK-31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
007	AJ・AK-31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
016	AK-22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
015	AJ-19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
026	AO・AP・AQ・AR -26・27・28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
細文前期後 ~未築	VIH-02 VIH-03 VIH-08	027	AU・AV-29・30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
		029	AG・AH-29・30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		030	AT-22・23 AS-23・24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細文後期初頭 (余市式)	VIH-11	033	AS-28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		032	VPB-01 VGP-10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細文期	VIH-11 VBB-01(焼骨片) 集中	031	AU-29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		031	AU-29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

炭化・酸化した種子類

図版1



図版2



モクレン科表皮

内面

スモモ核片表面

内面

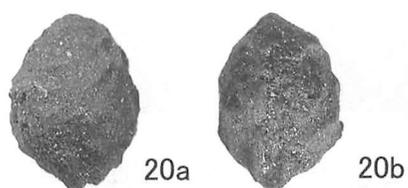


コナラ属子葉表面

内面

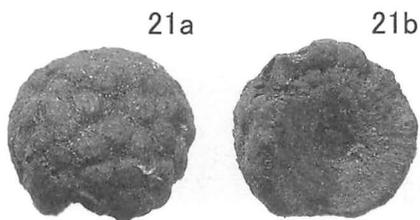
冬芽

冬芽



不明1

側面



菌類? 表面

内面



22

クルミ属内果皮細片

第4節 ショロマ1遺跡土器胎土分析

アースサイエンス株式会社
薄片作製 佐々木克久
偏光顕微鏡観察 米島真由子
X線粉末回折 斉藤 晃生
蛍光X線分析 飯田 友章
まとめと考察 加藤 孝幸
米島真由子

分析試料

分析を行った資料は表1及び図1の通りである。

表1 胎土分析試料一覧

委託 No.	遺跡名	個体 名称	部位	時期	型式	胎土	色調			同一個体 挿図番号
							外面	内面	内部	
1	厚真町 ショロマ1 遺跡	JP016B	胴部	縄文時代 前期後葉	円筒土器 下層d2式	2~3mmの石英が中 量、繊維が少量混入	7.5YR3/1 黒褐	7.5YR3/3 暗褐	10YR3/1 黒褐	図IV-11- 2・3
2	厚真町 ショロマ1 遺跡	JP037	胴部	縄文時代 前期後葉	円筒土器 下層d2式	2~3mmの石英が少 量、繊維が少量混入	10YR3/2 黒褐	10YR3/3 暗褐	2.5Y3/2 黒褐	図IV-11-1
3	厚真町 ショロマ1 遺跡	JP170D	口縁部	縄文時代 後期初頭	余市式(古)	2~4mmの石英が多 量混入	10YR2/1 黒	10YR4/3 にぶい黄 褐	7.5YR5/4 にぶい褐	図IV-120- 133
4	厚真町 ショロマ1 遺跡	JP057D	胴部	縄文時代 前期後葉	胎土に滑石 を含む土器	2~6mmの滑石、2~ 5mmの亜角礫多量混 入	10YR5/1 褐灰	10YR2/1 黒	10YR2/1 黒	図IV-46-7
5	厚真町 ショロマ1 遺跡	JP022B	口縁部	縄文時代 前期後葉	フゴッペ 貝塚式	2~6mmの白色岩片 中量、2~6mm亜角礫 少量混入	10YR2/1 黒	10YR4/4 褐	10YR4/3 にぶい黄 褐	図IV-100- 59
6	厚真町 ショロマ1 遺跡	JP255C	口縁部	縄文時代 後期前葉	タプコブ式	2~4mmの亜角礫中 量、パミス中量混入	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y6/1 黄灰	図IV-80- 16
7	厚真町 ショロマ1 遺跡	25416	-	縄文時代 前期後葉	土製品	砂礫等は混入しない	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/4 淡黄	2.5Y8/5 淡黄	-

※色調は面的に最も広い色調を記載している。

偏光顕微鏡観察

偏光顕微鏡観察結果は表2、及び偏光顕微鏡下写真図版を参照ください。

X線粉末回折の概要

X線回折分析

X線回折は、鉱物の結晶構造や結晶状態に関する情報を得るための分析方法である。結晶物質に特性X線を照射すると、X線が結晶格子面で反射しお互いに干渉しあい、ブラッグの条件を満たす方向に強い回折線を示す。

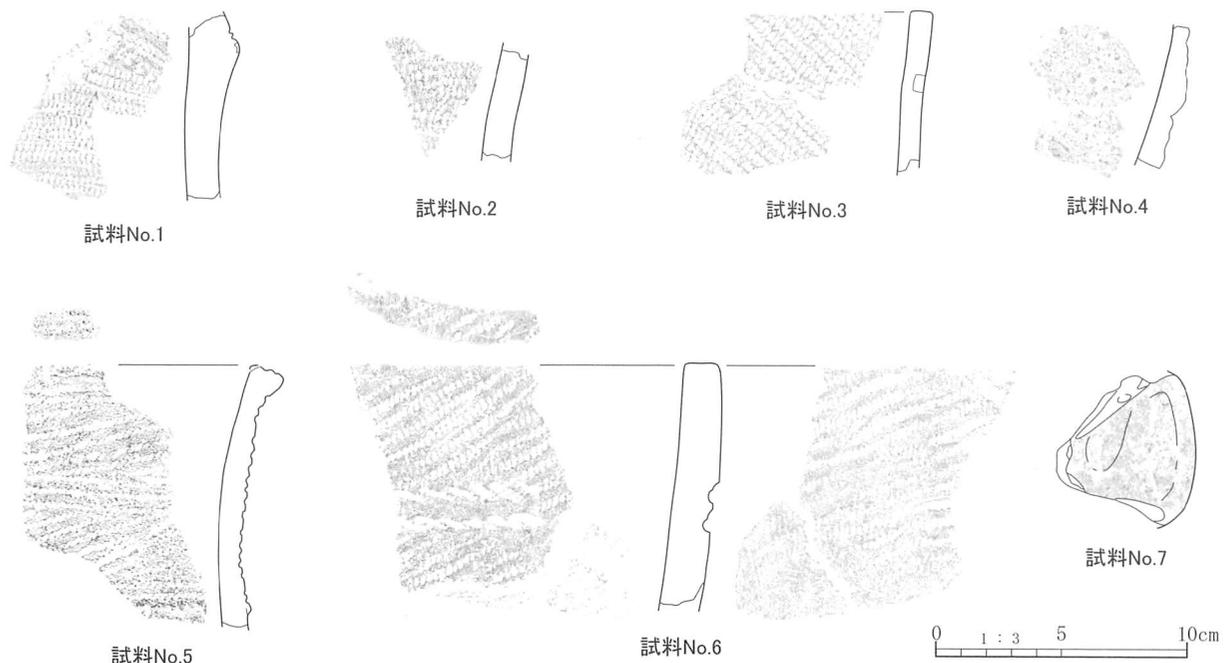
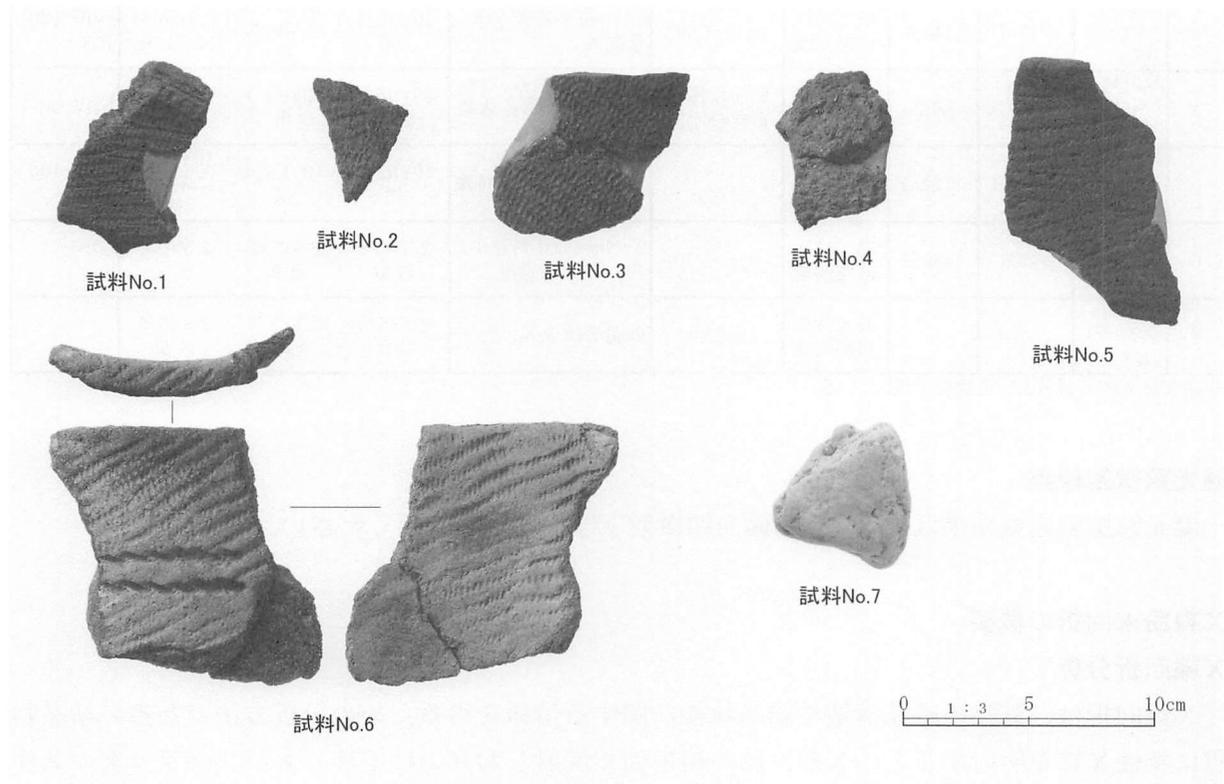
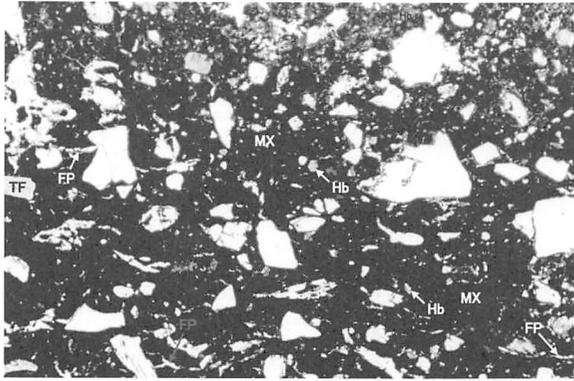


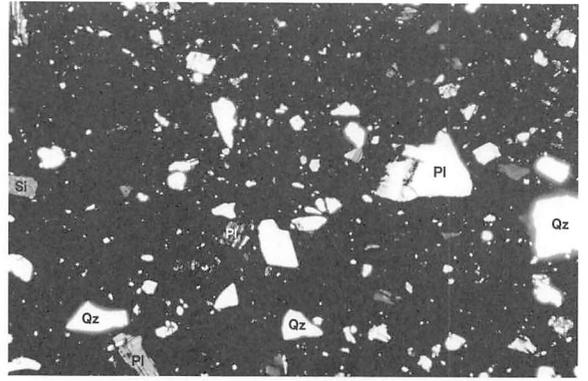
図1 胎土分析試料



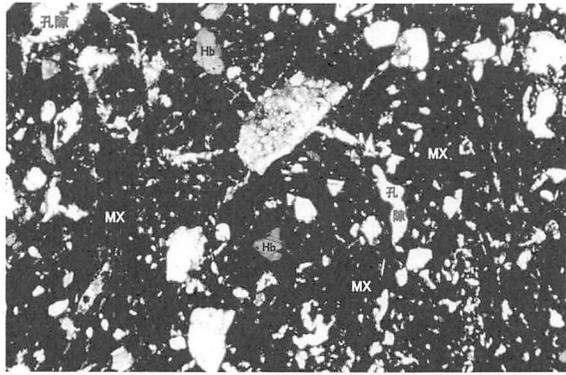
図版1 胎土分析試料



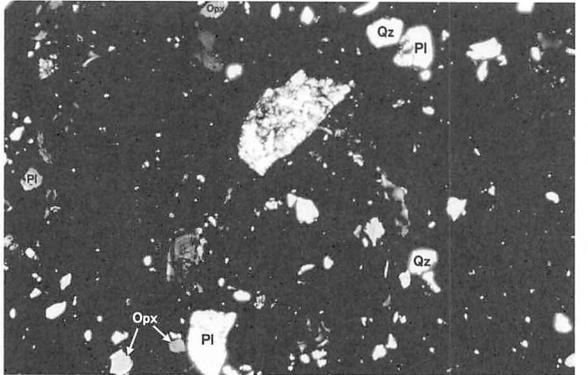
試料1 オープンニコル



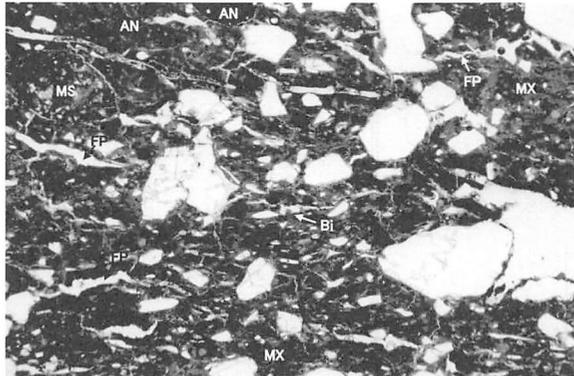
試料1 クロスニコル



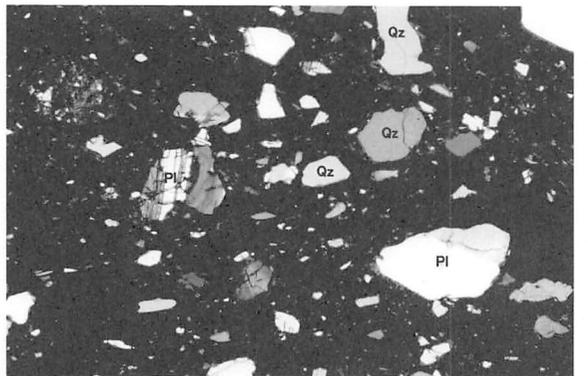
試料2 オープンニコル



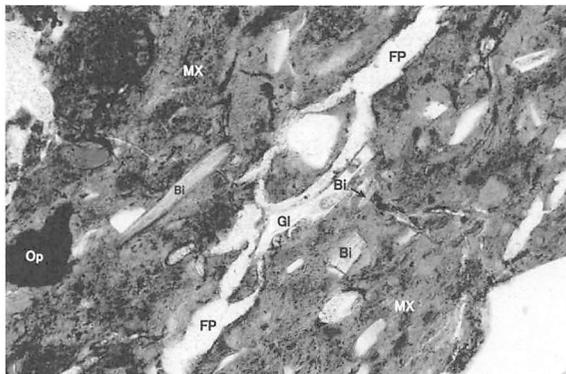
試料2 クロスニコル



試料3 オープンニコル



試料3 クロスニコル



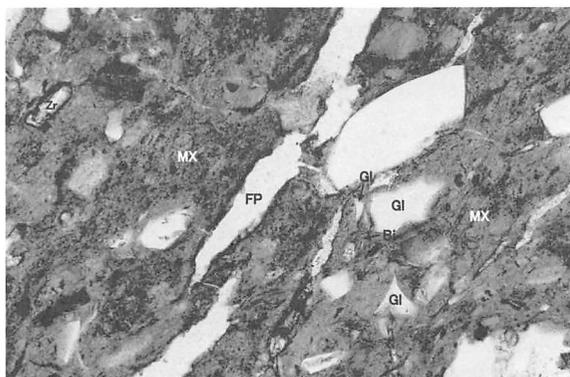
試料3 オープンニコル



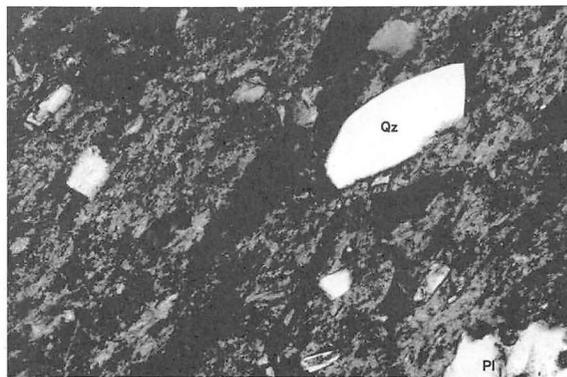
試料3 クロスニコル

スケール 1.0mm

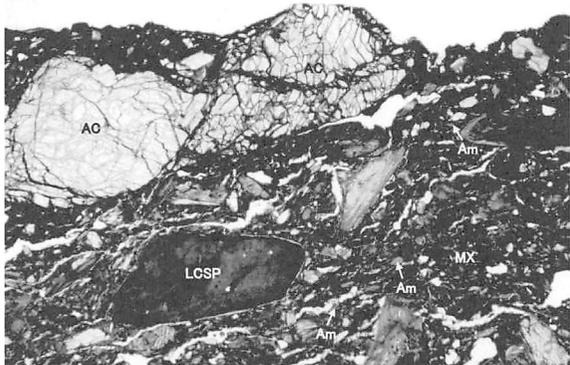
図版2 偏光顕微鏡下写真(1)



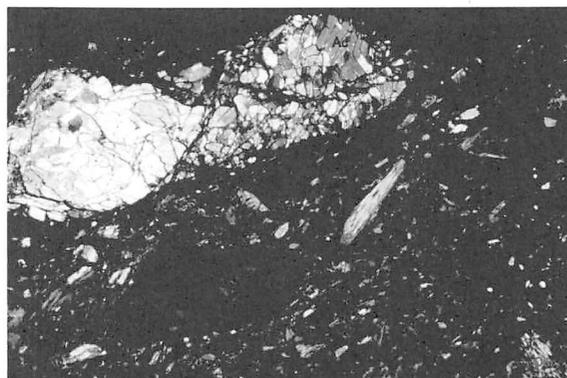
試料3 オープンニコル



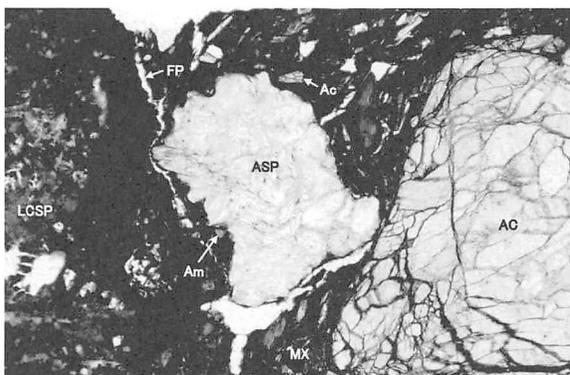
試料3 クロスニコル



試料4 オープンニコル



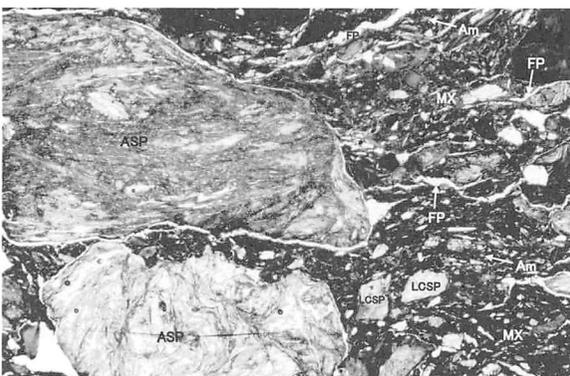
試料4 クロスニコル



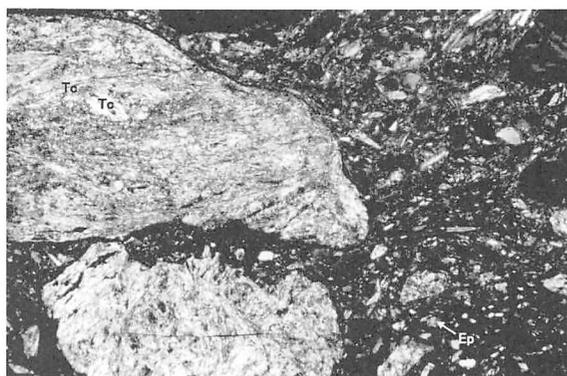
試料4 オープンニコル



試料4 クロスニコル



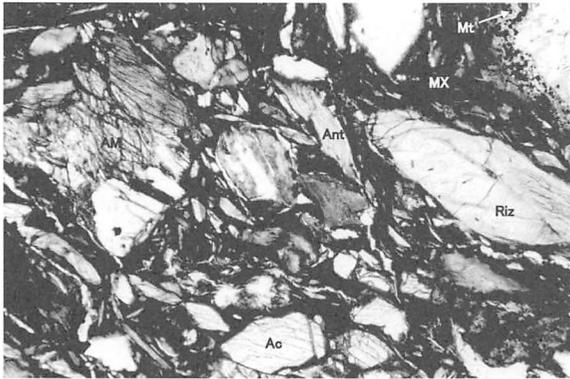
試料4 オープンニコル



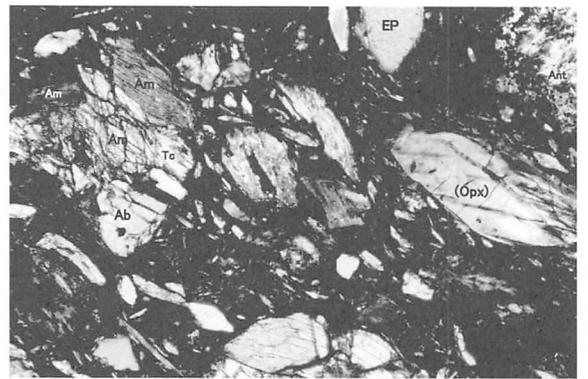
試料4 クロスニコル

スケール 1.0mm

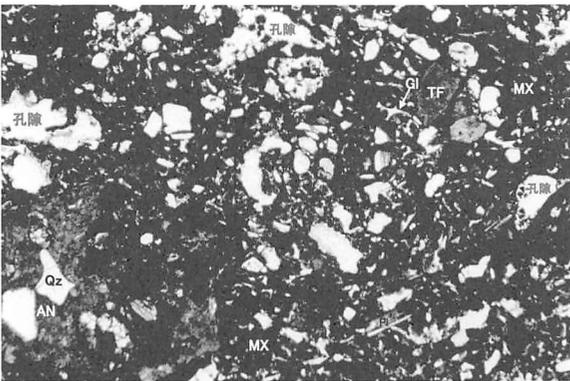
図版3 偏光顕微鏡下写真(2)



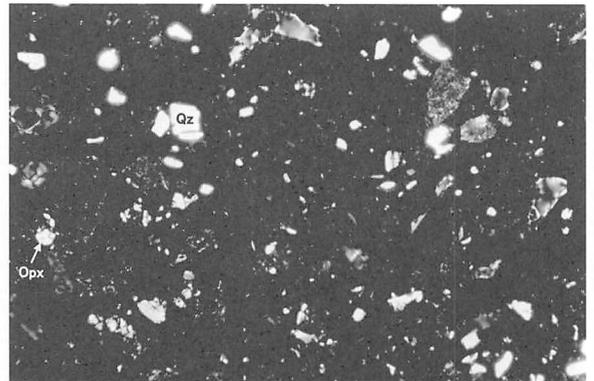
試料4 オープンニコル



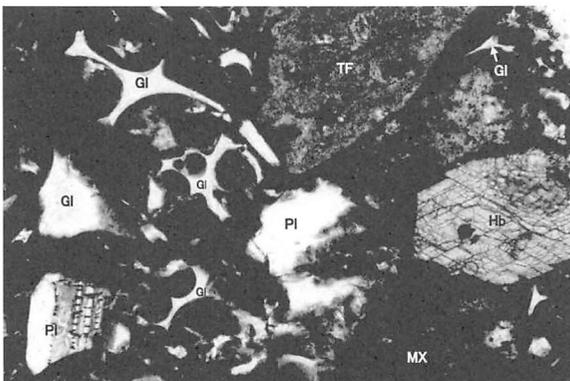
試料4 クロスニコル



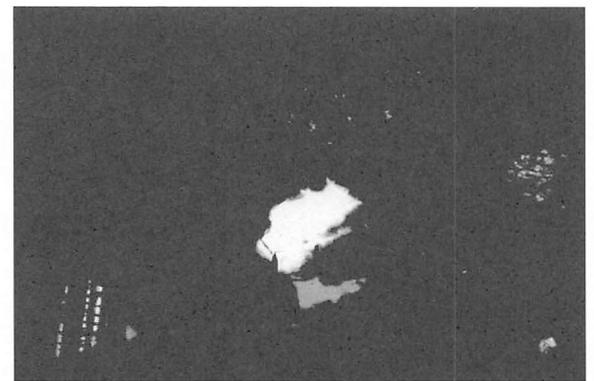
試料5 オープンニコル



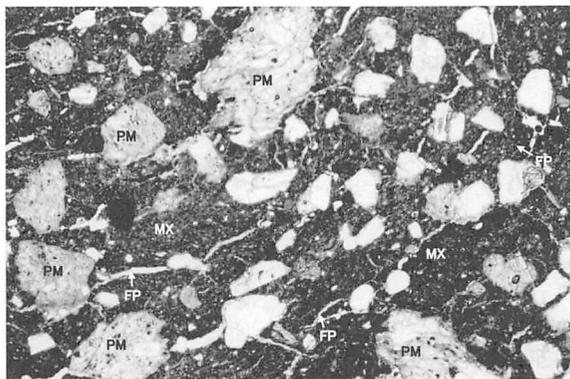
試料5 クロスニコル



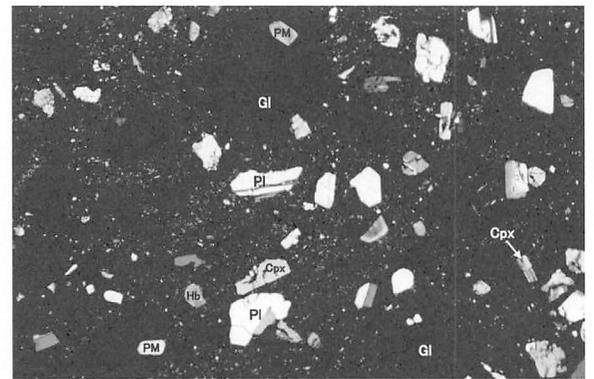
試料5 オープンニコル



試料5 クロスニコル



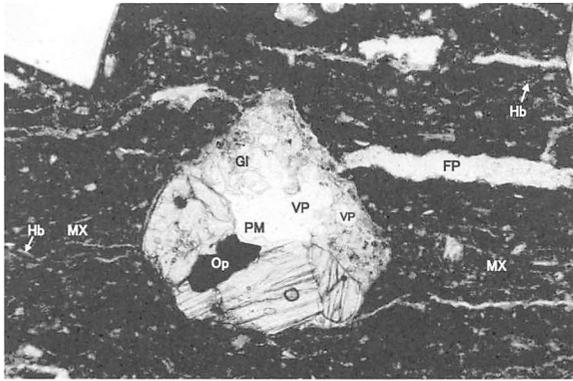
試料6 オープンニコル



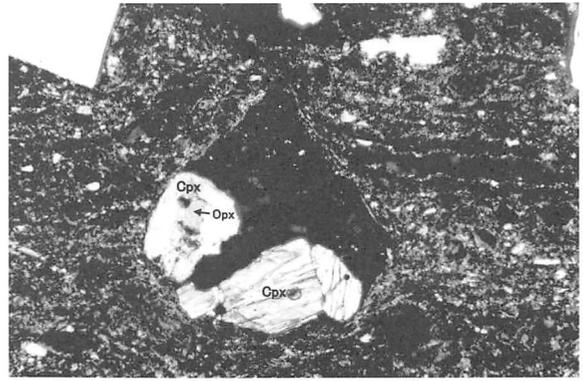
試料6 クロスニコル

スケール 1.0mm

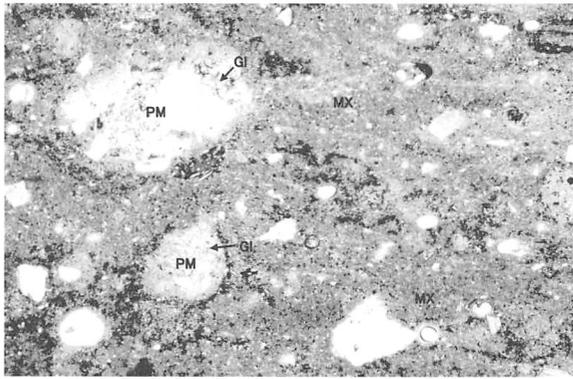
図版4 偏光顕微鏡下写真(3)



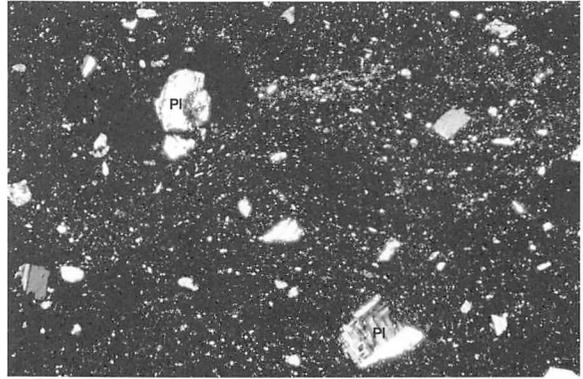
試料6 オープンニコル



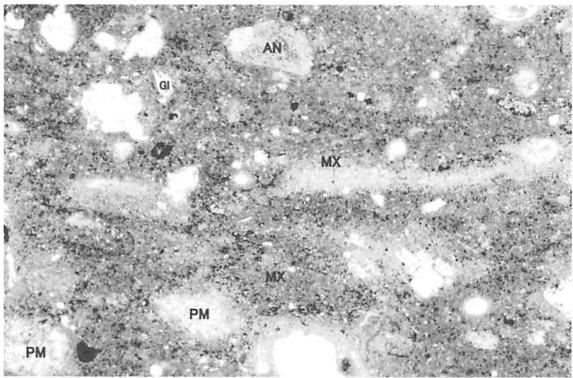
試料6 クロスニコル



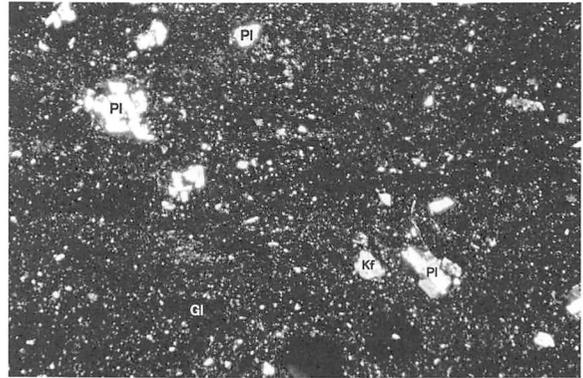
試料7 オープンニコル



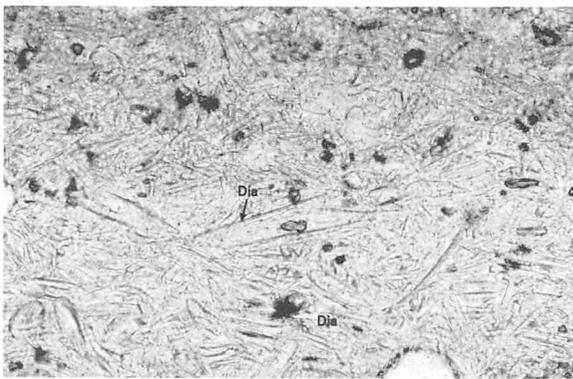
試料7 クロスニコル



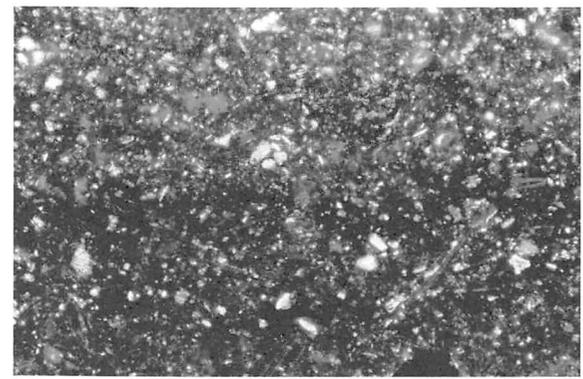
試料7 オープンニコル



試料7 クロスニコル



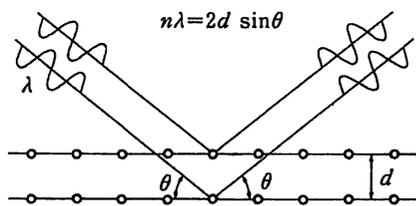
試料7 オープンニコル



試料7 クロスニコル

スケール 1.0mm

図版5 偏光顕微鏡下写真(4)



ブラッグの条件 $2d \sin\theta = n\lambda$

θ : ブラッグ角

d : 結晶粒子の面間隔

λ : X線の波長

n : 反射の次数 (整数)

この式により格子面間隔が求められる。面間隔は結晶物質の固有の値で回折X線の角度(2θ)と強度を求めることにより、結晶物質の同定ができる。

X線回折にはいくつかの方法があり、鉱物の判定・定量などには粉末回折法が有効な分析方法であり、通常適用されている。分析装置はX線ディフракトメーターが使われる。次にX線粉末回折装置で分析するときの、試料調整法、測定法、試料の特徴などを述べる。

X線粉末回折

1. 鉱物の同定

X線粉末回折による鉱物の同定は、鉱物がそれぞれ特有の回折線を与えるので、回折線の位置と強度を、標準鉱物の回折データと比較して判定する。標準鉱物のデータベースとしてJCPDS (Joint Committee on Powder Diffraction Standards) のPDF (Powder Data File) 粉末データファイルがあり、これを比較・対照して同定を行う。この場合、以下に述べる不定方位の回折データと比較するが、それだけでは鉱物が決定できない場合があり定方位と各処理が行われる。

2. 不定方位法

不定方位法は、最も一般的な粉末法である。粉末試料に混在する鉱物の判定や各回折線の正確な強度の測定をするとき、広い範囲の回折角度について回折パターンを得るときなどに使われる。

試料の一部を風乾させ、鉄乳鉢で粗砕する。さらにめのう乳鉢を用いて、指先で粒子を感じない(10μm以下)程度まで粉砕する。粉末にした試料をアルミニウム製試料ホルダーに圧入し測定に供する。

3. 含有量の推定

回折X線の強度は、結晶相物質の含有量・鉱物の種類(化学組成, 結晶構造)・結晶度・粉末粒子の形状・大きさ・方位・測定条件・混合物全体のX線吸収係数などによって決定される。これら主要な要素のみについてみても鉱物の種類によって異なり、また同族の鉱物であっても異変があり、同じ結晶面の回折強度が一定の強度を示すとは限らない。従ってX線回折より得られる結果は、あくまでも定性的なものであり、量的な評価はある程度相対的なものである。

4. 測定条件

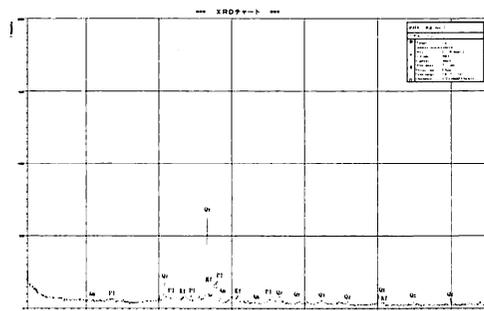
分析は、島津製作所製 XRD6000 型 X線回折装置を使用した。測定条件は、X線管球 Cu 対陰極、カウンタモノクロメータ、管電圧 30kV・管電流 20mA、スリット系: 1° -0.3mm-1°、走査速度 2° /min、プリセットタイム 1.5sec、走査範囲 不定方位 2~65° で行った。

表3 X線粉末回折結果一覧表

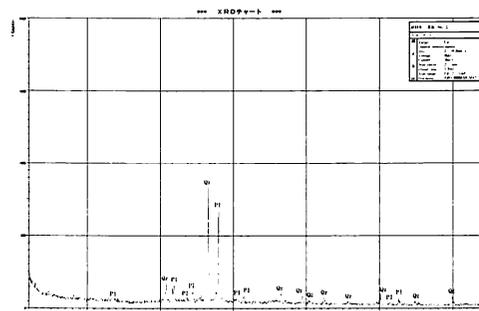
サンプルNo.	Qz	Pl	Kf	Am	Hm	Cri	Chr	Tc	Mc	Chl	Sm
委託 No.1	○	+		+							
委託 No.2	○	○									
委託 No.3	○	+		-	-				-		
委託 No.4	-	△		+			△	-		△	△
委託 No.5	△	△				△					
委託 No.6	○	○		-					-		-
委託 No.7	○	+	+	-							

凡例

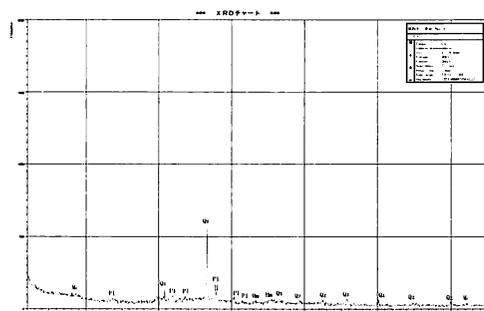
◎:極多量 ○:多量 △:中量 +:少量 -:微量 ?不確定
 Qz:石英 Pl:斜長石 Kf:カリ長石 Am:角閃 Hm:赤鉄鉱 Cri:クリストバライト
 Chr:クソソイル Tc:タルク Mc:雲母類 Chl:緑泥石 Sm:スメクタイト



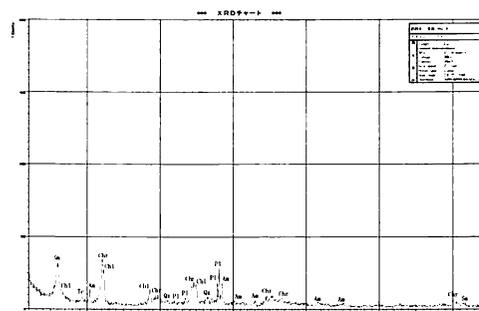
委託 No.1



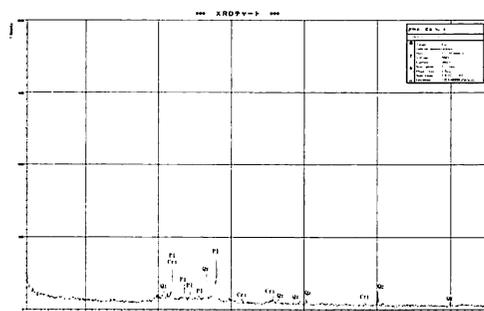
委託 No.2



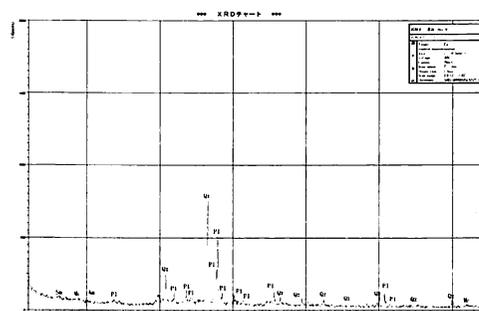
委託 No.3



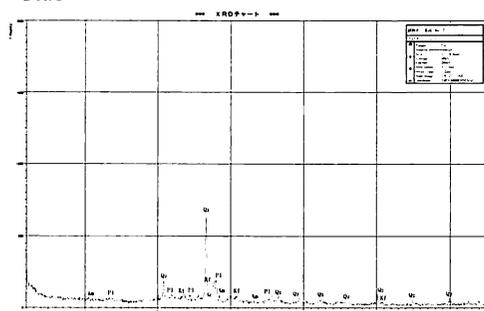
委託 No.4



委託 No.5



委託 No.6



委託 No.7

図2 X線粉末回折チャート

FP法蛍光X線分析概要

蛍光X線分析のうちファンダメンタルパラメータ法(FP法)による分析は、試料をそのまま非破壊で、また粉末状態で、あるいは微量でも分析できるため、簡便な分析方法である。

以下は JEOL 製 JSX-3100R II (XRF) 分析装置を使用した場合である。各元素の測定条件を表に示す。X線管球は、エンドウィンドウ型の Rh 管球を用いている。測定環境は大気および真空状態で測定している。なお、試料室(大気および真空状態)とX線強度の関係は、軽元素(Na~Ca)のX線は大気により吸収され減衰する。よってFP法の場合は真空状態で測定を行ない、測定時間は一試料につき約60秒である。

100μm以下に粉砕した試料を樹脂製リング(外径φ26mm、内径φ20mm、厚4mm)に詰めてプレス機で6t(22Mpa)程度加圧し、錠剤化(ディスク作成)したものを試料室にセットし測定を行う。定量分析は付属のソフトを用いファンダメンタルパラメータ法(FP法)によって行う。なお、この装置では、Na-Uの元素が定量可能であり、C, N, Oといった軽元素は検出できない。試料の測定で用いるFP法は、標準試料を用いた検量線法とは異なり、分析線の強度が試料の組成と基礎的定数(ファンダメンタルパラメータ)の関数として記述できるという考え方を基礎とした理論計算法である。この方法は、出所不明の未知試料の分析や、上述のように試料の形状や量に関わらず前処理なしで定量できるメリットがある。

表4 各元素の測定条件(例)

スペクトル名				蛍光X線 エネルギー (KeV)	スペクトル 強度比
K線		L線			
Kα	Kβ	Lα	Lβ		
Na-P				1.04-2.01	Kα/Kβ比≒5~7
S-Ba	S-Ba			2.31-36.38	
		La-U	La-U	4.65-17.22	Lα/Lβ比≒1

※ 特性X線、コンプトン散乱線(Rh) : Rh KαCOMP, Rh KβCOMP

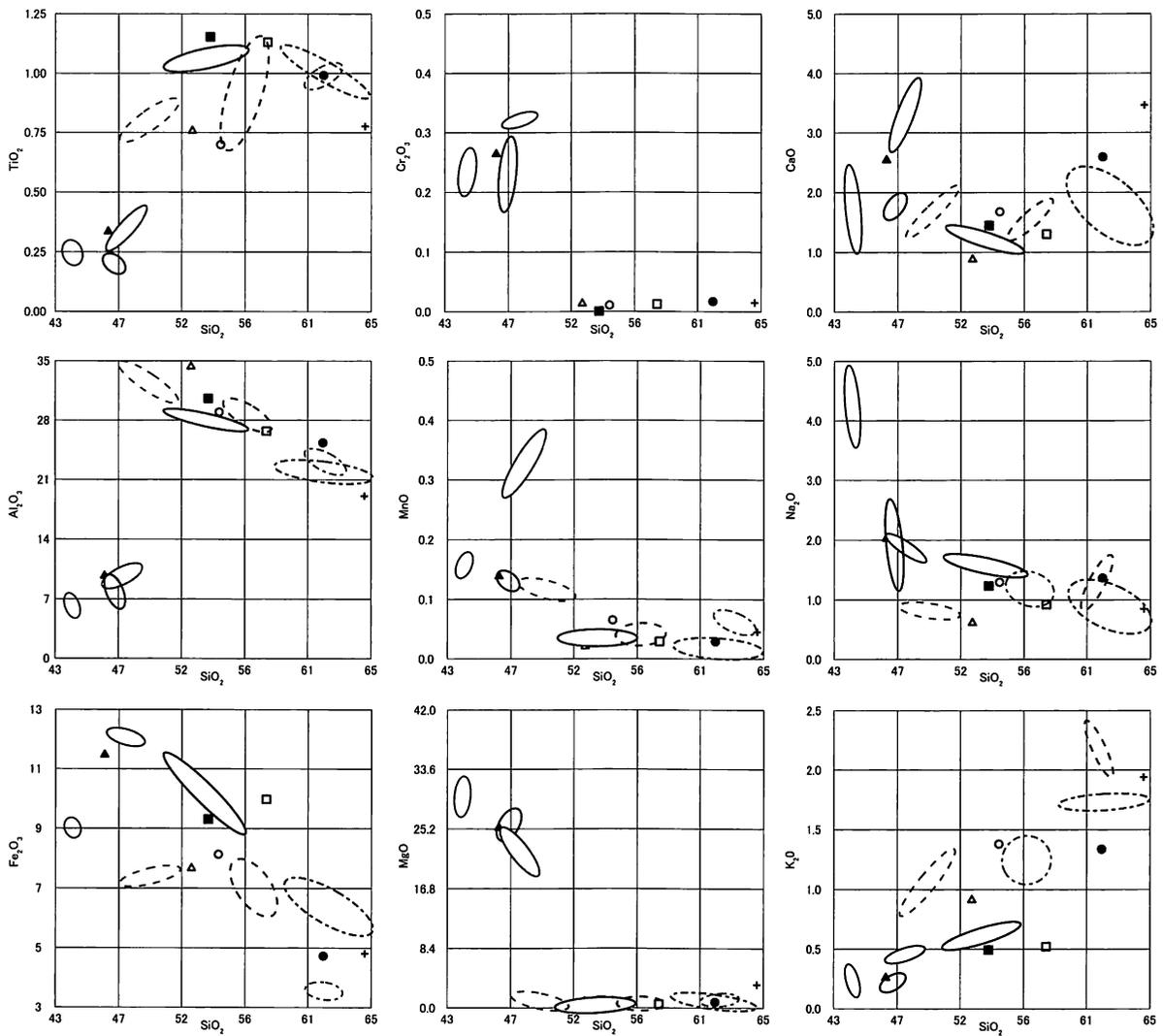
分析を行なった試料は錠剤化(ディスク作成)したものを試料室にセットし真空状態で測定を行なった。以下に分析結果を示す。

表5 FP法蛍光X線分析結果

型式	円筒土器下層d2式				余市式(古)		滑石を含む土器		フゴッペ貝塚式		タブコブ式		土製品	
	No. 1		No. 2		No. 3		No. 4		No. 5		No. 6		No. 7	
酸化物	重量%	モル%	重量%	モル%	重量%	モル%	重量%	モル%	重量%	モル%	重量%	モル%	重量%	モル%
SiO ₂	57.76	70.41	53.77	66.20	52.61	65.25	46.63	46.31	54.49	66.68	61.65	71.85	64.54	72.18
TiO ₂	1.13	1.04	1.15	1.07	0.76	0.71	0.34	0.25	0.70	0.64	0.99	0.87	0.78	0.65
Al ₂ O ₃	26.68	19.16	30.60	22.20	34.44	25.17	9.79	5.73	28.97	20.89	25.28	17.36	19.10	12.59
Fe ₂ O ₃	9.98	4.58	9.31	4.31	7.70	3.59	11.52	4.30	8.15	3.75	4.73	2.07	4.82	2.03
Cr ₂ O ₃	0.01	0.01			0.02	0.01	0.27	0.10	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01
MnO	0.03	0.03	0.04	0.04	0.02	0.02	0.14	0.12	0.07	0.07	0.03	0.03	0.05	0.04
MgO	0.50	0.91	1.03	1.90	1.08	2.00	25.57	37.86	1.07	1.95	0.83	1.44	3.30	5.50
CaO	1.30	1.70	1.44	1.90	0.90	1.20	2.56	2.72	1.68	2.20	2.59	3.23	3.46	4.15
SrO	0.02	0.01	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	0.00	0.03	0.02	0.03	0.02	0.03	0.02
Na ₂ O	0.92	1.09	1.22	1.46	0.64	0.76	2.05	1.97	1.30	1.54	1.36	1.53	0.84	0.91
K ₂ O	0.52	0.41	0.49	0.39	0.92	0.73	0.27	0.17	1.38	1.08	1.34	0.99	1.94	1.38
P ₂ O ₅	1.02	0.52	0.84	0.44	0.76	0.40	0.05	0.17	2.04	1.06	1.11	0.55	1.09	0.52
SO ₂	0.10	0.11	0.05	0.05	0.08	0.09			0.07	0.08	0.01	0.01		
NiO	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.21	0.17	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.00
ZnO	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.00	0.01	0.01	0.02	0.01
ZrO ₂	0.03	0.01	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	0.00	0.04	0.02	0.03	0.02	0.02	0.01

※ 微量成分(検出限界)のため参考値として表記(Na₂OとMgOは軽元素のため、誤差が大きい)。

分析方法: 粉末試料をプレス(錠剤化)し、真空状態で測定。100%ノーマライズ。



凡例

シヨロマ1遺跡	□ No.1 円筒土器下層 d2 式	■ No.2 円筒土器下層 d2 式	△ No.3 余市式(古)
	▲ No.4 胎土に滑石を含む土器	○ No.5 フゴッペ貝塚式	● No.6 タブコブ式
			+ No.7 土製品
ヲチャラセナイ遺跡 (平成 23 年度分析)	○ 胎土に滑石を含む土器	○ フゴッペ貝塚式土器	○ 宮本式土器
	○ 中野台地 A 遺跡(胎土に滑石を含む土器)		
ヲチャラセナイ遺跡 (平成 24 年度分析)	○ 白色岩片含む(フゴッペ貝塚式・円筒土器下層c式・大麻V式)		
	○ 胎土に滑石を含む土器	○ 円筒土器下層d式	○ 土製品

図3 化学組成の酸化物(重量%)表示

まとめと考察

1. 土器に含まれる岩片・鉱物片の特徴と由来

偏光顕微鏡観察とX線粉末回折の結果をまとめると、以下のようになる。

X線粉末回折は、微量の鉱物は検出できないが、一方で一定量含まれていれば(数%以上)、偏光顕微鏡で不確かな鉱物も正確に決定できるという利点がある。この意味でX線粉末回折と偏光顕微鏡観察の結果はおおむね一致する。

[委託 No. 1 および No. 2] (円筒土器下層 d2 式)

偏光顕微鏡観察によると、両資料の岩片には珪化岩が共通して含まれる。委託 No. 1 資料には、凝灰岩も含まれる。鉱物片は両資料ともに石英・斜長石を主とし、普通角閃石・斜方輝石が含まれる点が多く似ている。委託 No. 1 資料には不透明鉱物片も含まれる。

X線粉末回折からは、上述のうち、両資料とも石英と斜長石が確認される。また、委託 No. 1 資料からは普通角閃石も検出される。すなわち、偏光顕微鏡観察の結果と大きな矛盾はない。

岩片の供給源については、珪化岩や凝灰岩を含むことから、熱水変質作用を受けた火山岩・火砕岩分布域が考えられる。なお、過年度に行ったヲチャラセナイ遺跡の円筒土器下層 d2 式に含まれる岩片は蛇紋岩が主体であって、今回の委託 No. 1 および No. 2 資料とは材料がまったく異なっている。

[委託 No. 3] (余市式(古))

偏光顕微鏡観察から、本試料に含まれる岩片は安山岩を主に、凝灰岩・泥岩・変形泥岩である。これらのうち変形泥岩はテクトニックに変形を受けて特徴的な変形組織をもつに至った泥岩で、付加体で形成された可能性が高いものである。鉱物片としては石英・斜長石>黒雲母・ガラス>普通角閃石・不透明鉱物>>ジルコンが認められる。

X線粉末回折からは石英>斜長石>角閃石・雲母類・赤鉄鉱が確認される。したがって、偏光顕微鏡観察の結果とおおむね一致する。X線粉末回折では黒雲母は雲母類として表示されているものの少なくとも一部であるが、偏光顕微鏡で確認される「中量」よりも、回折線が著しく小さく見える。これは黒雲母が変質しているためである可能性が高い。

土器材料の産地が余市周辺かどうか分からないが、仮にその場合は、例えば洞爺や尻別岳の火砕流が分布し、その中には花崗岩類や付加体の岩石(変形泥岩など)が包有される。また、流紋岩類の分布がある。これらの火砕流堆積物や流紋岩類には、上記の確認された鉱物が含まれている。

[委託 No. 4] (胎土に滑石を含む土器)

偏光顕微鏡観察によると、岩片として2つのタイプの蛇紋岩(リザルダイト・クリソタイル蛇紋岩>アンチゴライト蛇紋岩)、アクチノ閃石角閃岩を主とし、少量の泥岩を含む。鉱物片他として、アクチノ閃石>滑石・珪藻を含む。滑石が微量なのは、単体の鉱物片として含まれることが少なく、リザルダイト・クリソタイル蛇紋岩の一部を交代するなどして存在している場合が多いためである。

X線粉末回折からは、斜長石・クリソタイル・緑泥石・スメクタイト>角閃石類>石英・滑石が確認された。これらうち、斜長石・緑泥石・スメクタイト・石英・珪藻は泥岩に含まれる。

アクチノ閃石は、角閃石類として検出される。

これらがほぼ同一地点で採取されたとすると、三石蛇紋岩体である可能性が高い。三石蛇紋岩体は2つのタイプの蛇紋岩を含み、アクチノ閃石角閃岩を伴い、かつその周囲を珪藻を含む泥岩に囲まれるからである。

〔委託 No. 5〕（フゴッペ貝塚式）

偏光顕微鏡観察によると、本資料には岩片として安山岩を主とし、凝灰岩を伴う。この点では余市式と類似する。しかし、鉱物片は石英・斜長石>ガラス>普通角閃石・斜方輝石であり、余市式(古)とは黒雲母を含まず斜方輝石を含むという点でやや異なる。

X線粉末回折からは、石英・斜長石・クリストバライトが検出された。クリストバライトは、偏光顕微鏡観察によるガラスを交代していると考えられる。低干渉色のクリストバライトはガラスを交代していても気付きにくいからである。

岩片・鉱物片の材料としては、安山岩～デイサイト質のテフラを使用している可能性が高い。

〔委託 No. 6〕（タブコブ式）

偏光顕微鏡観察からは、岩片として多量の軽石を含み、安山岩や珪化岩を伴う。鉱物片は石英・斜長石>単斜輝石>斜方輝石・普通角閃石・ガラス・不透明鉱物である。軽石中に斜方輝石および普通輝石、普通角閃石が含まれる様子が観察された。

X線粉末回折からは、石英・斜長石>>角閃石である。単斜輝石・斜方輝石は含まれていてもX線粉末回折からは、かなり多くないと検出しにくい回折線の特徴がある。したがって、偏光顕微鏡観察の結果と大きな矛盾はない。

偏光顕微鏡観察において、単斜輝石および斜方輝石、普通角閃石が軽石中に含まれる様子が観察された。単斜輝石>斜方輝石>普通角閃石の鉱物組合せをもつテフラが使用されている可能性が高い。しかし、軽石の斑晶の鉱物組合せだけでテフラを決定することは困難である。テフラの同定のためには、EPMA分析による軽石のガラスの微小領域分析、ガラスの屈折率の測定などを行い、既存のデータと比較する必要がある。ただし、土器中のガラスは焼成の際に脱水や化学組成の変化が起きている可能性があり、注意が必要である。

〔委託 No. 7〕（土製品）

偏光顕微鏡観察によると、岩片として主として軽石を含み、少量の安山岩や泥岩を伴う。鉱物片他は多量の珪藻および石英・斜長石・斜方輝石>普通角閃石・カリ長石・単斜輝石・ガラス・不透明鉱物である。

X線粉末回折からは、石英>>斜長石・カリ長石>角閃石である。偏光顕微鏡観察の結果と大局は一致する。

岩片・鉱物片がすべて同じ産地であるならば、材料は珪藻を多量に含むことが可能となる水中に堆積ないし再堆積したテフラ（軽石凝灰岩）である可能性が高い。テフラは流紋岩～デイサイト質の可能性はあるが、安山岩や泥岩、花崗岩(石英・斜長石>カリ長石の鉱物組合せから花崗岩の可能性)などの岩片を含んでいたと考えられる。

2. 土器の焼成によって生成した鉱物

偏光顕微鏡観察によって、土器には微細な赤褐色鉱物の生成が認められた。X線粉末回折の結果と合わせて考えると、これは赤鉄鉱である可能性が高い。しかし、土器の焼成温度はあまり高くなく、焼成時間も短い可能性が高いことから、いずれの資料においても胎土などの初生的な鉱物組合せが保たれているものと考えられる。

焼成によって生じているはずの赤鉄鉱や褐鉄鉱などが、X線粉末回折により検出されないのは、これらの鉱物の結晶度が低くて回折線が現れていない可能性を示す。

3. 土器の化学組成の特徴

化学分析の結果を各酸化物-SiO₂図に示す(図1および図2)。化学組成の特徴を、土器の型式ごとに比較し、まとめる。

A) 円筒式土器下層 d2 式(縄文時代前期後葉) : 委託 No. 1、2

- ・ SiO₂ は中量の約 54~58%。
- ・ TiO₂、Al₂O₃ に富む
- ・ Cr₂O₃、MnO、MgO に乏しい
- ・ Fe₂O₃、CaO、Na₂O、K₂O は中量

円筒式土器下層 d2 式土器である委託 No. 1 および No. 2 資料は、委託 No. 1 でやや SiO₂ に富むものの、おおむね似た化学組成を示している。前述のように、偏光顕微鏡観察およびX線粉末回折の結果から、両資料に含まれる岩片・鉱物片はよく似ている。以上の特徴から、委託 No. 1 および No. 2 資料は同じ胎土を利用した土器である可能性が高い。

両資料に主に含まれる岩片・鉱物片は珪化岩、凝灰岩、石英、斜長石であり、Cr₂O₃、MnO、MgO に乏しい化学組成であることと整合的である。比較的多く含有される TiO₂ や Al₂O₃ は基質の粘土分や凝灰岩、斜長石中に含有されていると考えられる。また、珪化岩、凝灰岩、石英、斜長石を主に含むことから、SiO₂ が中量であることとも整合的である。

過年度の「円筒土器下層 d 式」の化学組成範囲と比較すると、やや SiO₂ の高い側にプロットされているものの、前回までの組成範囲と似た位置にプロットされる。ただし、より詳細に見ると、今回の試料は Na₂O および K₂O の含有量がやや少ないという特徴がある。過年度の「円筒土器下層 d 式」には、偏光顕微鏡観察により蛇紋岩の含有が認められており、類似した化学分析値を示しているものの、土器の材料(特に礫)が採取された場所は異なると考えられる。

B) 余市式(古)(縄文時代後期初頭) : 委託 No. 3

- ・ SiO₂ は中量の約 53%
- ・ Al₂O₃、Na₂O、K₂O に富む
- ・ Cr₂O₃、MnO、MgO に乏しい
- ・ TiO₂、Fe₂O₃、CaO は中量

余市式(古)の土器である委託 No. 3 資料は、SiO₂ を中量(約 53%)含む土器である。委託 No. 3 資料に主に含まれる岩片・鉱物片のうち、Cr₂O₃、MnO、MgO に富むような苦鉄質のものは認められない。石英や斜長石、ガラスを多く含むことは SiO₂ や Al₂O₃、Na₂O、K₂O

に比較的富む化学組成と整合的である。少量の安山岩を含むことが、 TiO_2 や Fe_2O_3 、 CaO を中量含むことに反映されていると考えられる。

C) 胎土に滑石を含む土器（縄文時代前期後葉）：委託 No. 4

- ・相対的に SiO_2 に乏しい（約 47%）
- ・ Fe_2O_3 、 Cr_2O_3 、 MnO 、 MgO 、 CaO 、 Na_2O に富む
- ・ TiO_2 、 Al_2O_3 、 K_2O に乏しい

胎土に滑石を含む土器である委託 No. 4 資料は、 SiO_2 に乏しい（約 47%）特徴をもつ土器である。 Fe_2O_3 や Cr_2O_3 、 MnO 、 MgO に富む化学組成は、蛇紋岩やアクチノ閃石角閃岩やトレモラ閃石、アクチノ閃石を主な岩片・鉱物片として含むことと整合的である。また、表 2 の NiO も 0.21% と他の資料より多く含有されており、 Ni を多く含有する蛇紋岩などの組成を反映していると考えられる。一般に蛇紋岩や角閃岩の TiO_2 や Al_2O_3 、 K_2O の含有量は少なく、委託 No. 3 資料の化学分析値はこのこととも整合的である。

過年度の胎土に滑石を含む土器と今回の化学分析値を比較する（図 3）。胎土に滑石を含む土器の分析値は、中野台地 A 遺跡のもの、ヲチャラセナイ遺跡のもの（2 回分の分析）がある。これらと今回の委託 No. 4 資料のデータを比較すると、化学組成はヲチャラセナイ遺跡（23 年度）とよく似ている。中野台地 A 遺跡は胎土に滑石を含む土器の中でもっとも SiO_2 が少なく、他の資料に比較して Fe_2O_3 が少なく、 Na_2O 、 MgO がやや多い特徴がある。ヲチャラセナイ遺跡（24 年度）は、他の資料に比較して MnO および CaO がやや多い特徴がある。同じ胎土に滑石を含む土器でも、その化学組成にバリエーションが認められる。岩片・鉱物片の組み合わせから「三石蛇紋岩体」周辺で採取された胎土を利用していると考えられるが、採取場所に多少の違いがある可能性がある。

D) フゴッペ貝塚式（縄文時代前期後葉）：委託 No. 5

- ・ SiO_2 は中量の約 55%
- ・ Al_2O_3 、 K_2O に富む
- ・ Cr_2O_3 、 MnO 、 MgO に乏しい
- ・ TiO_2 、 Fe_2O_3 、 CaO 、 Na_2O は中量

フゴッペ貝塚式土器である委託 No. 5 資料は、 SiO_2 を中量（約 55%）含んでいる。安山岩や石英、斜長石を主な岩片・鉱物片として含んでおり、 Al_2O_3 に富み、 TiO_2 や Fe_2O_3 、 CaO 、 Na_2O を中量含むことと整合的である。 K_2O は安山岩や斜長石のほか、少量～微量含まれるガラスや凝灰岩に由来している可能性がある。また、微量の斜方輝石を含む一方で、蛇紋石などの苦鉄質に富む鉱物の含有は認められず、 Cr_2O_3 や MnO 、 MgO に乏しい化学組成であることと整合的である。

過年度のフゴッペ貝塚式の土器と化学分析値を比較すると、いずれの元素もおおむね似た組成範囲にプロットされる。偏光顕微鏡的な特徴では、過年度のフゴッペ貝塚式資料には特徴的なミルメカイトを含む花崗岩が認められたが、今回の資料中では認められていない。化学組成としてはよく似ているが、同じ胎土であるかは慎重に判断する必要がある。

E) タブコブ式（縄文時代後期前葉）：委託 No. 6

- ・ SiO_2 に富む（約 62%）

- ・ TiO_2 、 Al_2O_3 、 CaO 、 Na_2O 、 K_2O に富む
- ・ Fe_2O_3 、 Cr_2O_3 、 MnO 、 MgO に乏しい

タプコプ式の土器である委託No. 6 資料は、 SiO_2 に富む (約 62%) 特徴がある。本資料は主に軽石および石英・斜長石を岩片・鉱物片として含んでおり、 TiO_2 、 Al_2O_3 、 CaO 、 Na_2O 、 K_2O に富む化学組成を示すことと整合的である。軽石のガラス中に TiO_2 や K_2O を多く含む場合が多いからである。一方で、斜方輝石を少量含むものの蛇紋石などの苦鉄質に富む鉱物をあまり含んでおらず、そのため Fe_2O_3 や Cr_2O_3 、 MnO 、 MgO に乏しい化学組成を示すものと考えられる。

F) 土製品 (縄文時代前期後葉) : 委託 No. 7

- ・ SiO_2 に富む (約 65%)
- ・ CaO 、 K_2O に富む
- ・ Fe_2O_3 、 Cr_2O_3 、 MnO 、 MgO 、 Na_2O に乏しい
- ・ TiO_2 、 Al_2O_3 は中量

土製品である委託No. 7 資料は、 SiO_2 に富む (約 65%) 化学組成をもつ。 SiO_2 に富む原因は、多量に含まれる珪藻化石である。岩片・鉱物片として、少量～微量の軽石やカリ長石を含んでいる。特にカリ長石は K_2O を含む鉱物であり、 K_2O の多い化学組成に反映されていると考えられる。一方、少量～微量の単斜輝石・斜方輝石を含むものの、蛇紋石などの苦鉄質に富む鉱物は認められず、 Fe_2O_3 や Cr_2O_3 、 MnO 、 MgO 、 Na_2O に乏しい化学組成を示すものと考えられる。

第5節 ショロマ1遺跡出土の黒曜石原産地分析

(株)第四紀地質研究所

井上 巖

1 実験条件

分析はエネルギー分散型蛍光X線分析装置（日本電子製J S X-3200）で行なった。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法（F P法）による自動定量計算システムが採用されており、6C～92Uまでの元素分析ができ、ハイパワーX線源（最大30kV、4mA）の採用で微量試料～最大290mmφ×80mmHまでの大型試料の測定が可能である。小形試料では16試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルクF P法でおこなった。F P法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

実験条件はバルクF P法（スタンダードレス方式）、分析雰囲気＝真空、X線管ターゲット素材＝Rh、加速電圧＝30kV、管電流＝自動制御、分析時間＝200秒（有効分析時間）である。

分析対象元素はSi, Ti, Al, Fe, Mn, Mg, Ca, Na, K, P, Rb, Sr, Y, Zrの14元素、分析値は黒曜石の含水量＝0と仮定し、酸化物の重量％を100％にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量％は小数点以下2桁で表示することになっているが、微量元素のRb, Sr, Y, Zrは重量％では小数点以下3～4桁の微量となり、小数点以下2桁では0と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下4桁を用いて化学分析結果を表示した。主要元素と微量元素の酸化物濃度（重量％）でSiO₂-Al₂O₃, Fe₂O₃-TiO₂, K₂O-CaOの各相関図、Rb-Srは積分強度の相関図の4組の組み合わせで図を作成した。

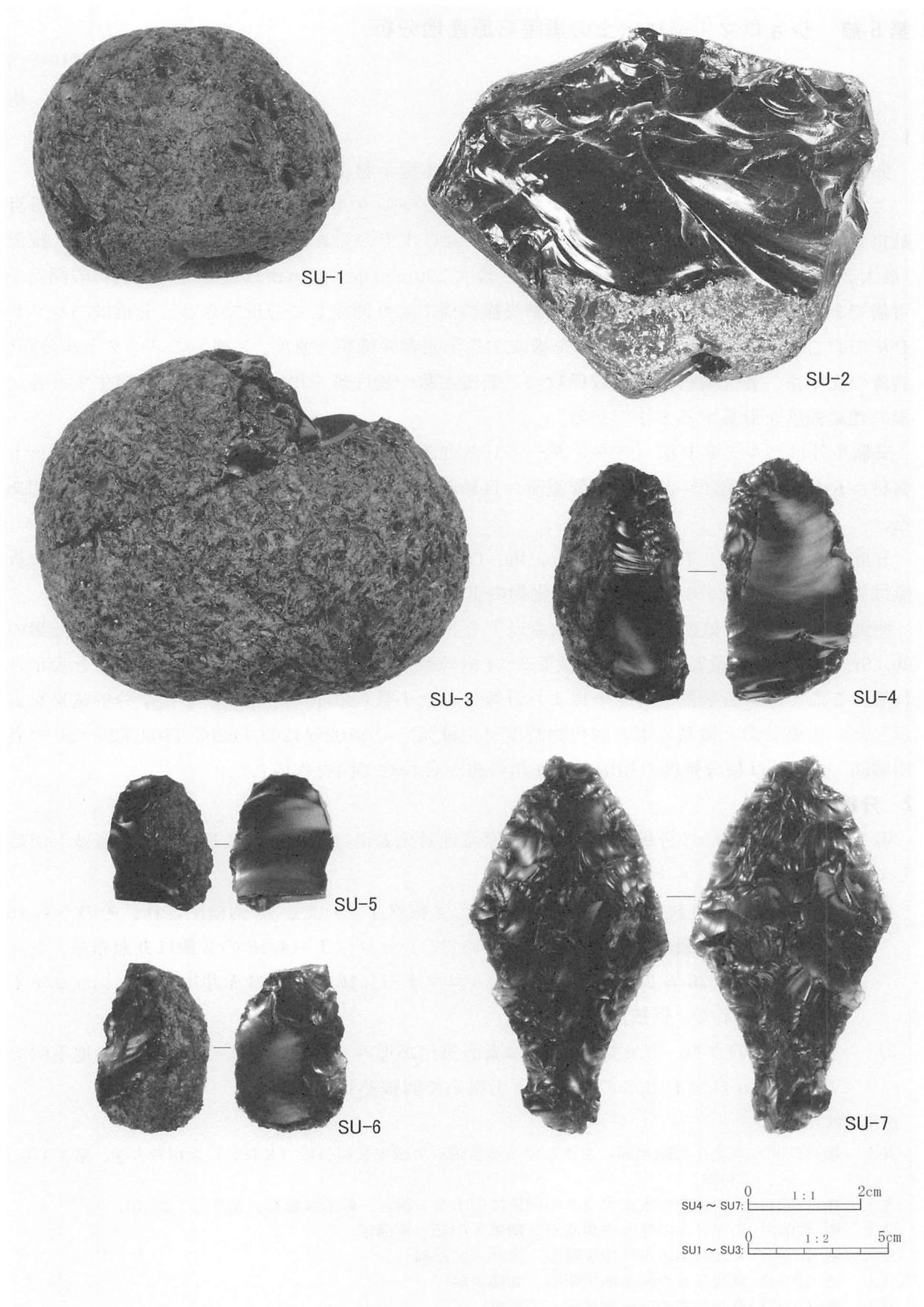
2 分析結果

第2表化学分析表には分析結果、第3表原産地対比表には分析結果に基づいて原産地も記載してある。

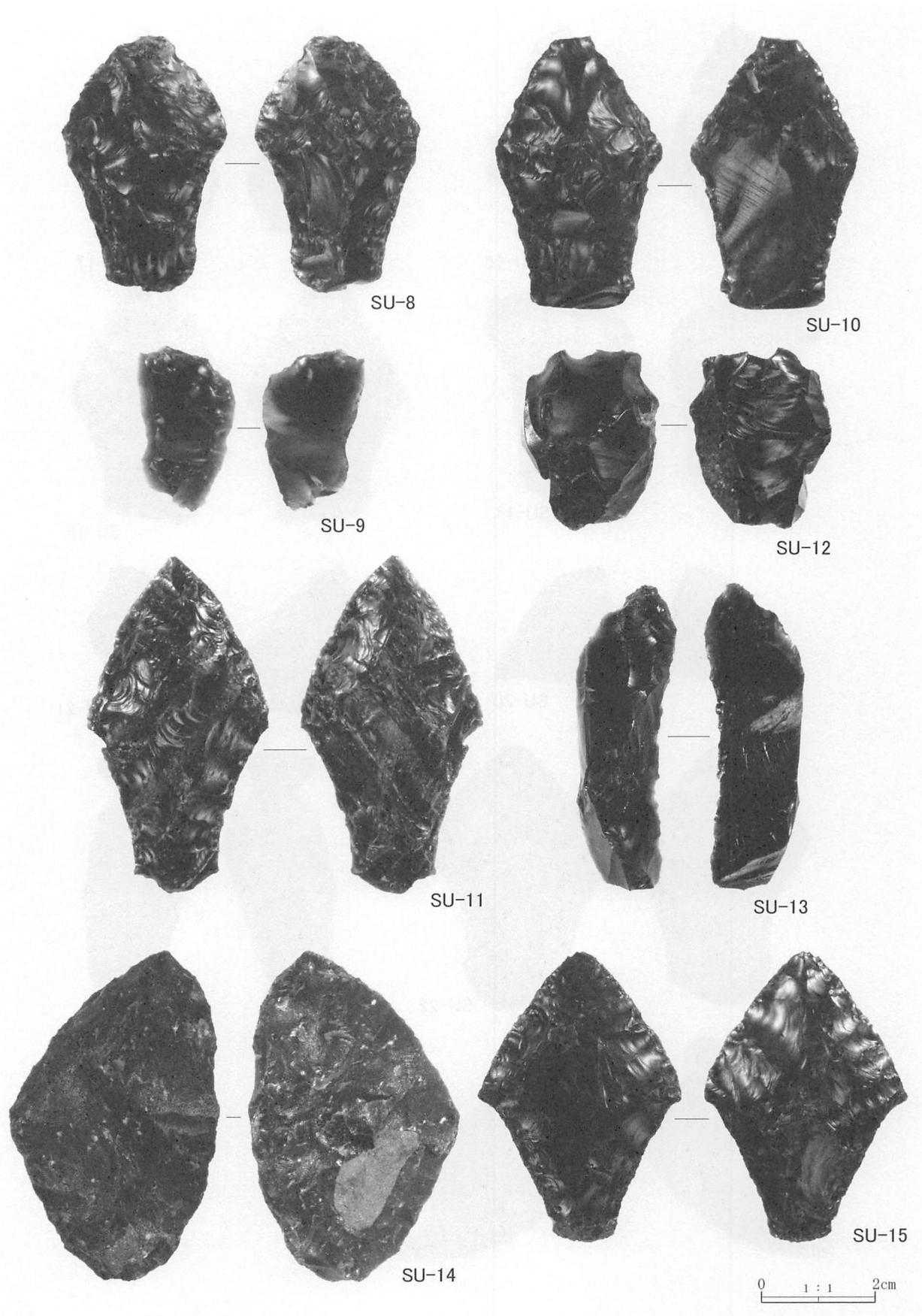
- 1) 最も多く検出されたのは上士幌系（十三ノ沢タイプ）で、18個検出され、そのうち16個が弱被熱、2個が強被熱である。次いで、ショロマI-14, 18の2個は丸瀬布系、ショロマI-17と26の2個は豊浦産、ショロマI-11, 16の2個は赤井川I系、ショロマI-19は所山系で、弱被熱している。
- 2) 原石3個のうち、ショロマI-1は表面風化が進み、分析がうまくいかず原産地不明である。ショロマI-2, 3の2個は上士幌系で弱被熱している。

引用文献

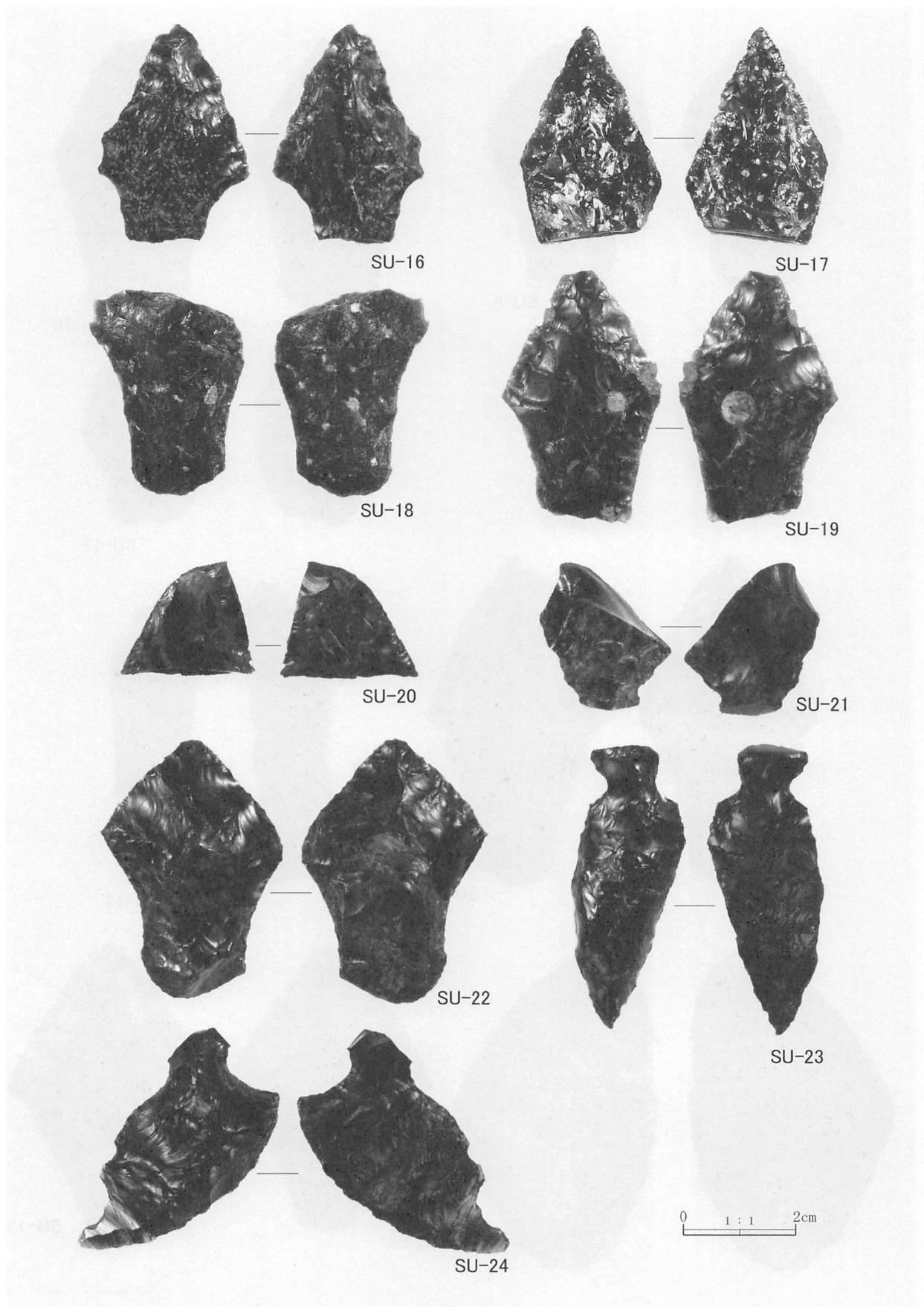
- 井上 巖（2000）東北・北陸北部における原産地黒曜石の蛍光X線分析（XRF）北越考古学、第11号、23-38/
 井上 巖（2001）テフラ中の火山ガラスの同定に関する一提言、軽石学雑誌、第7号 23-51。
 井上 巖（2008）東北日本の原産地黒曜石 関東・中部・東海編
 井上 巖（2008）東北日本の原産地黒曜石 東北・北陸編
 井上 巖（2008）東北日本の原産地黒曜石 北海道編
 井上 巖（2008）東北日本の原産地黒曜石写真集



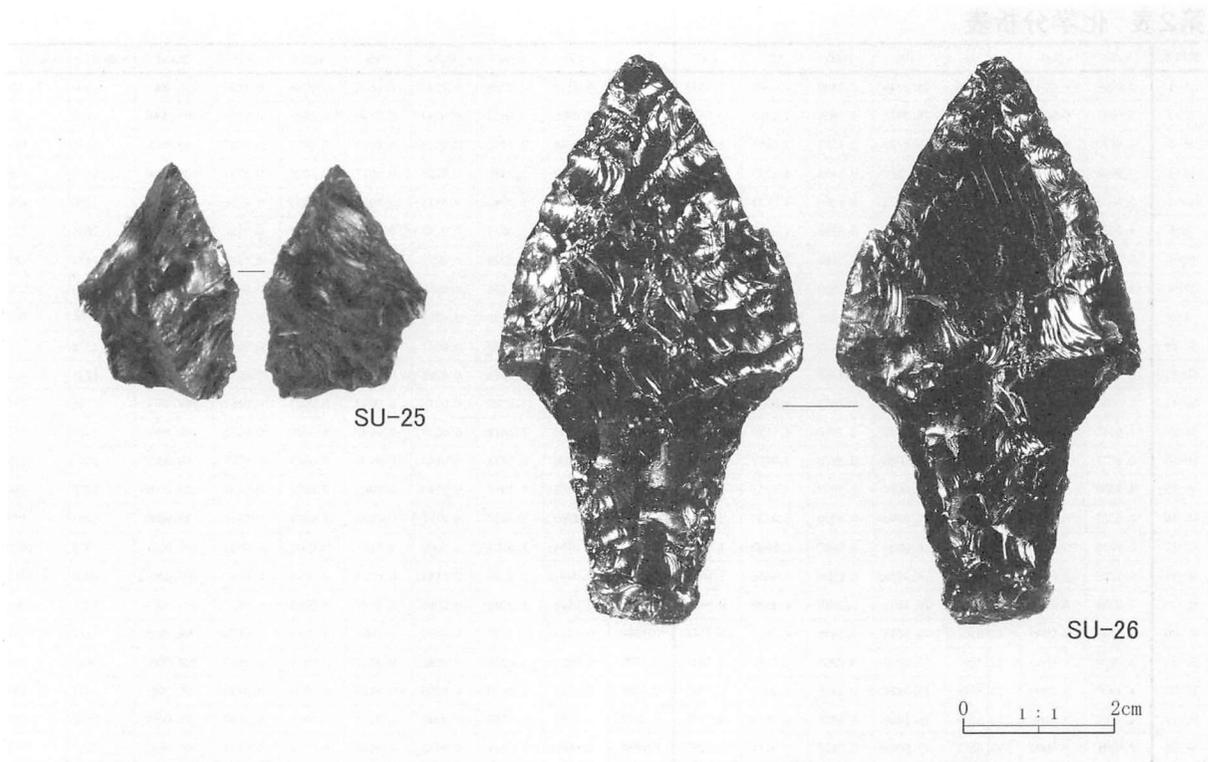
黒曜石原石原産地分析試料(1)



黒曜石原産地分析試料(2)



黒曜石原産地分析試料(3)



黒曜石原産地分析試料(4)

第1表 黒曜石原産地分析試料一覧

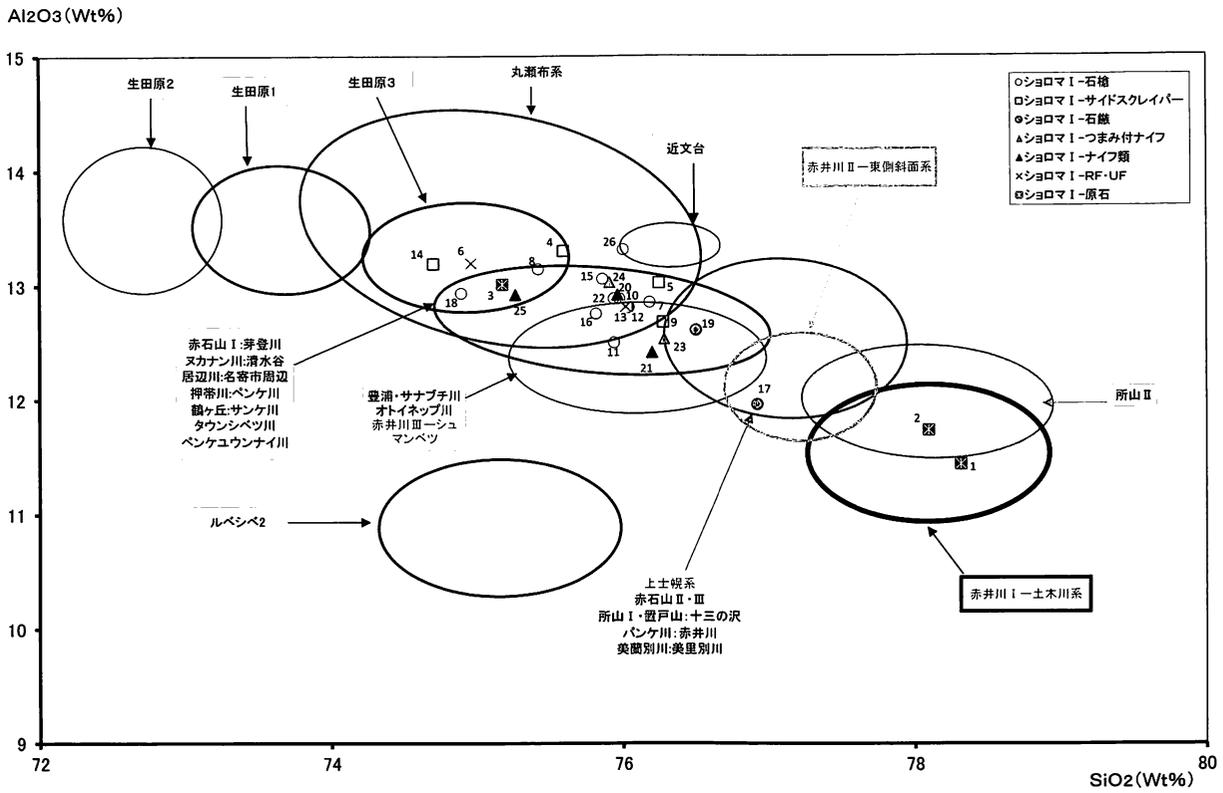
試料名	遺物番号	器種	時期	挿図番号	試料名	遺物番号	器種	時期	挿図番号
SU-1	16184	原石	縄文時代	図IV-111-2	SU-14	20095	サイドスレイパー	縄文時代	-
SU-2	16185	石核	縄文時代	図IV-111-1	SU-15	6460	石槍	縄文時代	-
SU-3	16186	原石	縄文時代	図IV-111-3	SU-16	8606	石槍	縄文時代	-
SU-4	23923	サイドスレイパー	縄文時代	-	SU-17	24622	石鏃	縄文時代	図IV-127-69
SU-5	15903	サイドスレイパー	縄文時代	-	SU-18	17402	石槍	縄文時代	-
SU-6	29065	RF	縄文時代	-	SU-19	10903	石鏃	縄文時代	-
SU-7	21938	石槍	縄文時代	-	SU-20	AK-19-4-81	ナイフ類	縄文時代	-
SU-8	8604	石槍	縄文時代	-	SU-21	AL-20-3-274	ナイフ類	縄文時代	-
SU-9	AO-26-1-364	サイドスレイパー	縄文時代	-	SU-22	2652	石槍	縄文時代	-
SU-10	20785	石槍	縄文時代	-	SU-23	8183	つまみ付きナイフ	縄文時代	-
SU-11	16382	石槍	縄文時代	-	SU-24	15934	つまみ付きナイフ	縄文時代	-
SU-12	16635	石核	縄文時代	-	SU-25	AR-30-4-2	ナイフ類	縄文時代	-
SU-13	8185	UF	縄文時代	-	SU-26	4961	石槍	縄文時代	図IV-12-16

第2表 化学分析表

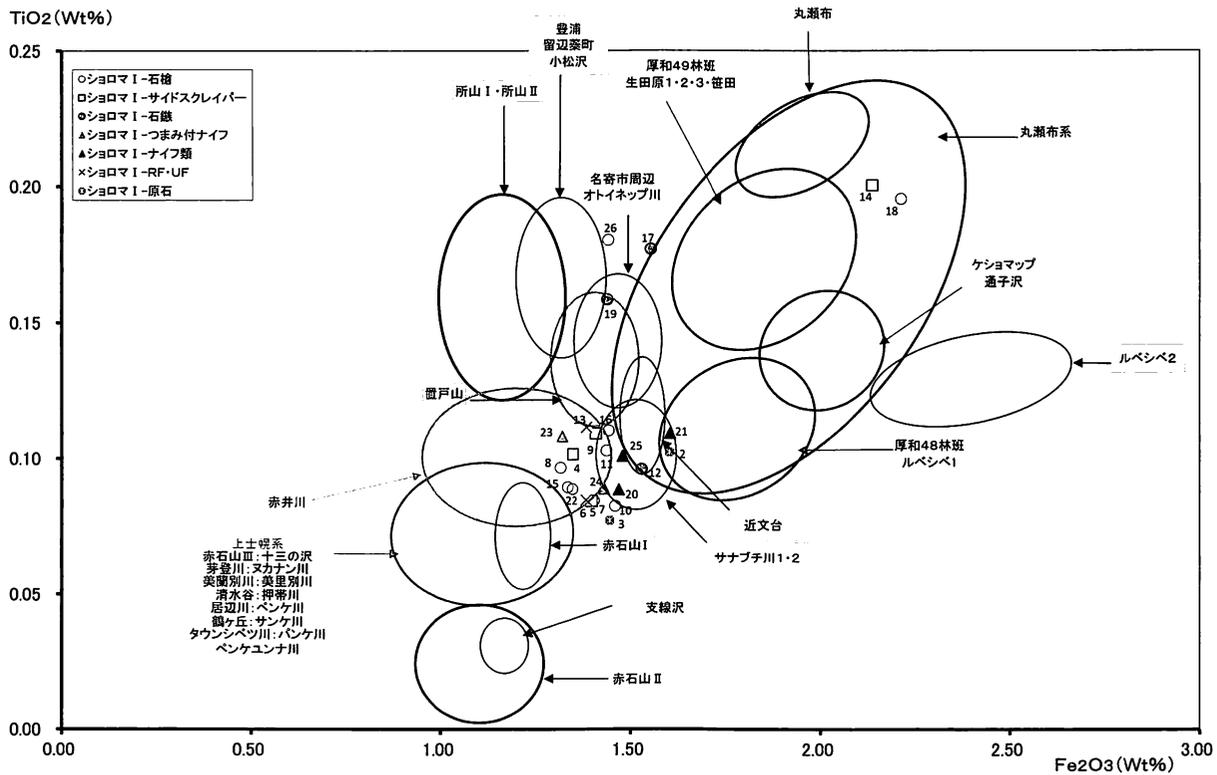
試料名	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	P2O5	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	Rb2O	SrO	Y2O3	ZrO2	Total	Rb(I)	Sr(I)
SU-1	0.0000	0.0000	11.4343	78.3148	0.3439	3.5860	1.1515	0.0918	0.2128	4.4285	0.1946	0.0878	0.0306	0.1235	100.0001	968	425
SU-2	3.0347	0.0000	11.7307	78.0937	0.2856	4.2230	0.7701	0.1023	0.0966	1.6023	0.0243	0.0106	0.0092	0.0169	100.0000	1522	652
SU-3	4.6130	0.0000	13.0090	75.1739	0.1727	4.5991	0.7812	0.0773	0.0548	1.4452	0.0318	0.0110	0.0082	0.0227	99.9999	1973	668
SU-4	3.9932	0.0000	13.3014	75.5912	0.1483	4.5713	0.8392	0.1016	0.0542	1.3485	0.0223	0.0077	0.0080	0.0131	100.0000	1573	529
SU-5	3.6505	0.0000	13.0206	76.2473	0.1960	4.5754	0.7180	0.0843	0.0580	1.3980	0.0178	0.0089	0.0095	0.0158	100.0001	1296	636
SU-6	4.7085	0.0000	13.1945	74.9606	0.2599	4.5418	0.7553	0.0847	0.0651	1.3831	0.0233	0.0055	0.0045	0.0132	100.0000	1584	363
SU-7	3.9264	0.0000	12.8509	76.1830	0.2565	4.4197	0.7767	0.0845	0.0512	1.4039	0.0207	0.0098	0.0025	0.0143	100.0001	1424	660
SU-8	4.4077	0.0000	13.1436	75.4190	0.2262	4.4812	0.7912	0.0966	0.0653	1.3153	0.0208	0.0109	0.0039	0.0183	100.0000	1443	738
SU-9	3.9878	0.0000	12.6771	76.2746	0.1988	4.5149	0.7205	0.1092	0.0591	1.4091	0.0257	0.0092	0.0018	0.0122	100.0000	1688	592
SU-10	3.9384	0.0000	12.8847	75.9774	0.2446	4.5608	0.7404	0.0826	0.0543	1.4592	0.0247	0.0092	0.0051	0.0186	100.0000	1578	576
SU-11	3.8639	0.0000	12.5001	75.9401	0.1767	4.9831	0.8699	0.1029	0.0771	1.4370	0.0202	0.0148	0.0039	0.0105	100.0002	1285	921
SU-12	3.5560	0.0000	12.8073	76.0390	0.2862	4.9986	0.5769	0.0961	0.0561	1.5293	0.0276	0.0092	0.0017	0.0161	100.0001	1728	565
SU-13	3.6445	0.0000	12.8124	76.0201	0.2710	4.8799	0.7404	0.1115	0.0880	1.3844	0.0223	0.0072	0.0030	0.0153	100.0000	1514	477
SU-14	3.9737	0.0000	13.1927	74.7005	0.2979	3.9469	1.4441	0.2005	0.0496	2.1372	0.0163	0.0185	0.0043	0.0177	99.9999	1022	1133
SU-15	3.8508	0.0000	13.0575	75.8610	0.2699	4.6767	0.7577	0.0895	0.0568	1.3343	0.0180	0.0065	0.0079	0.0134	100.0000	1325	466
SU-16	3.6723	0.0000	12.7538	75.8163	0.2980	4.9352	0.8465	0.1103	0.0760	1.4426	0.0197	0.0133	0.0041	0.0118	99.9999	1243	817
SU-17	3.9000	0.0000	11.9564	76.9208	0.2462	3.8902	1.2302	0.1771	0.0704	1.5534	0.0089	0.0161	0.0042	0.0262	100.0001	579	1023
SU-18	4.1223	0.0000	12.9337	74.8929	0.2996	3.6896	1.5381	0.1955	0.0498	2.2128	0.0184	0.0213	0.0009	0.0251	100.0000	1026	1163
SU-19	3.5009	0.0000	12.6062	76.4992	0.2868	4.4586	0.9460	0.1586	0.0578	1.4389	0.0206	0.0047	0.0060	0.0158	100.0001	1371	304
SU-20	4.1023	0.0000	12.9166	75.9644	0.2499	4.3814	0.7171	0.0886	0.0552	1.4690	0.0215	0.0090	0.0071	0.0178	99.9999	1412	579
SU-21	3.8970	0.0000	12.4107	76.2000	0.2961	4.7721	0.5882	0.1093	0.0623	1.6038	0.0294	0.0062	0.0117	0.0132	100.0000	1648	339
SU-22	4.1800	0.0000	12.8845	75.9378	0.3416	4.3821	0.7491	0.0888	0.0572	1.3469	0.0160	0.0016	0.0030	0.0115	100.0001	1074	104
SU-23	4.2502	0.0000	12.5299	76.2826	0.3016	4.3873	0.7105	0.1082	0.0592	1.3195	0.0245	0.0104	0.0000	0.0162	100.0001	1695	702
SU-24	3.8391	0.0000	13.0272	75.9085	0.3123	4.5411	0.7292	0.0889	0.0600	1.4312	0.0252	0.0137	0.0040	0.0198	100.0002	1501	795
SU-25	4.5132	0.0000	12.9196	75.2636	0.2889	4.5218	0.7905	0.1009	0.0627	1.4790	0.0244	0.0136	0.0056	0.0161	99.9999	1623	886
SU-26	3.4508	0.0000	13.3136	76.0015	0.0174	4.4877	1.0217	0.1804	0.0378	1.4414	0.0171	0.0126	0.0003	0.0176	99.9999	1000	721

第3表 原産地対比表

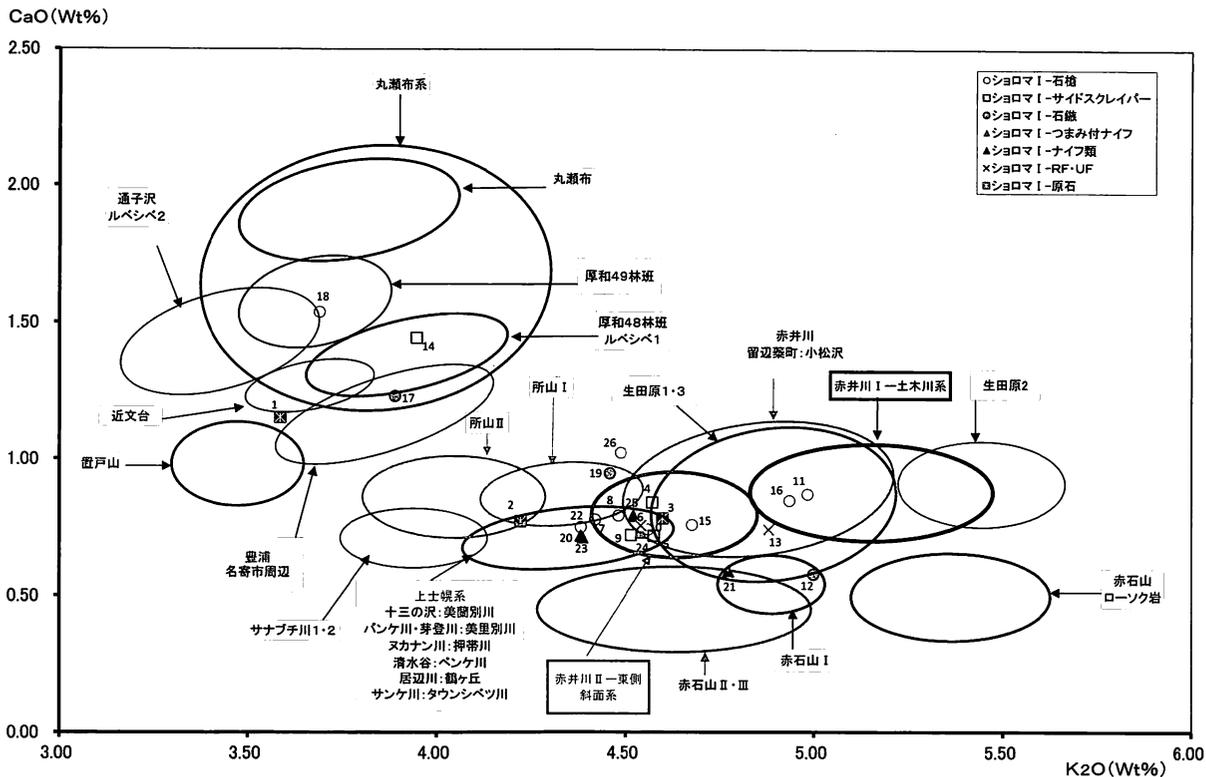
試料名	原産地	器種	時期	試料名	原産地	器種	時期
SU-1	表面風化により不明	原石	縄文時代	SU-14	丸瀬布系	サイドスクレイパー	縄文時代
SU-2	上土幌系・弱被熱	原石	縄文時代	SU-15	上土幌系・弱被熱	石槍	縄文時代
SU-3	上土幌系・弱被熱	原石	縄文時代	SU-16	赤井川 I	石槍	縄文時代
SU-4	上土幌系・弱被熱	サイドスクレイパー	縄文時代	SU-17	豊浦	石鏃	縄文時代
SU-5	上土幌系・弱被熱	サイドスクレイパー	縄文時代	SU-18	丸瀬布系	石槍	縄文時代
SU-6	上土幌系・弱被熱	RF	縄文時代	SU-19	所山・弱被熱	石鏃	縄文時代
SU-7	上土幌系・弱被熱	石槍	縄文時代	SU-20	上土幌系・弱被熱	ナイフ類	縄文時代
SU-8	上土幌系・弱被熱	石槍	縄文時代	SU-21	上土幌系・強被熱	ナイフ類	縄文時代
SU-9	上土幌系・弱被熱	サイドスクレイパー	縄文時代	SU-22	上土幌系・弱被熱	石槍	縄文時代
SU-10	上土幌系・弱被熱	石槍	縄文時代	SU-23	上土幌系・弱被熱	つまみ付きナイフ	縄文時代
SU-11	赤井川 I	石槍	縄文時代	SU-24	上土幌系・弱被熱	つまみ付きナイフ	縄文時代
SU-12	上土幌系・強被熱	石核	縄文時代	SU-25	上土幌系・弱被熱	ナイフ類	縄文時代
SU-13	上土幌系・弱被熱	UF	縄文時代	SU-26	豊浦・弱被熱	石槍	縄文時代



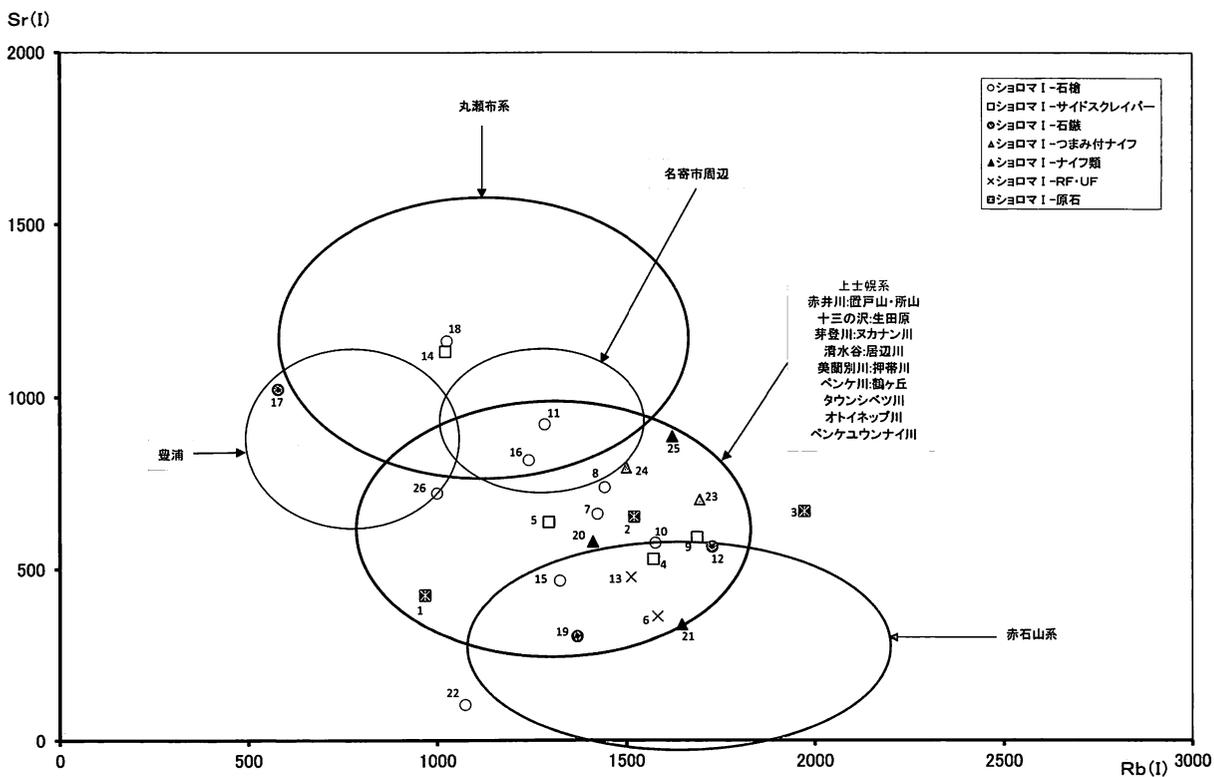
第1図 北海道黒曜石・SiO₂-Al₂O₃ 図



第2図 北海道黒曜石・Fe₂O₃-TiO₂ 図



第3図 北海道黒曜石・K₂O-CaO 図



第4図 北海道黒曜石・Rb-Sr 図

2 実験条件

1) 分析はエネルギー分散型蛍光X線分析装置(日本電子製J SX-3200)で行った。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法(FP法)による自動定量計算システムが採用されており、6C~92Uまでの元素分析ができ、ハイパワーX線源(最大30kV、4mA)の採用で微量試料~最大290mmφ×80mmHまでの大型試料の測定が可能である。小形試料では16試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルクFP法でおこなった。FP法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

実験条件はバルクFP法(スタンダードレス方式)、分析雰囲気=真空、X線管ターゲット素材=Rh、加速電圧=30kV、管電流=自動制御、分析時間=200秒(有効分析時間)である。また、分析にあたっては標準サンプルを分析し、キャリブレーションを行い、装置の正常さを保って行った。

2) 分析対象元素はSi, Ti, Al, Fe, Mn, Mg, Ca, Na, K, P, Rb, Sr, Y, Zrの14元素、分析値は岩石の含水量=0と仮定し、酸化物の重量%を100%にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量%は小数点以下2桁で表示することになっているが、微量元素のRb, Sr, Y, Zrは重量%では小数点以下3~4桁の微量となり、小数点以下2桁では0と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下4桁を用いて化学分析結果を表示した。

主要元素と微量元素の酸化物濃度(重量%)でSiO₂-Al₂O₃, SiO₂-MgO, K₂O-CaOの各相関図を作成した。

3 ショロマ1遺跡出土玉類と滑石原石等の分析結果

第2表化学分析表には分析結果と原石対比結果が記載してある。第3表原石対比表は同定結果のみを記載したものである。

- 1) ショロマ1遺跡出土遺物は11個のうち松前の滑石は垂飾、石製品は9個が該当する。
- 2) ショロマ1-1, 7の2個は塩基性凝灰岩で、原産地は不明である。
- 3) 様似町幌満川の蛇紋岩は化学組成が類似し、同種の岩石であるが遺物との関連はない。
- 4) 松前町大鴨津川のは原石は松前滑石と同じ領域にある。

引用文献

井上巖 1999「滑石製品の分析」『京都府遺跡調査報告書』第25冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

井上巖 1999「池島・福万寺遺跡出土滑石製品の分析」『池島・福万寺遺跡2』 (財)大阪府文化財センター

加藤昭・岩崎正夫 2000「滑石」『地学辞典』平凡社

周籐賢治・小山内康人 2002「解析岩石学」『岩石学概論下』p149-150 共立出版

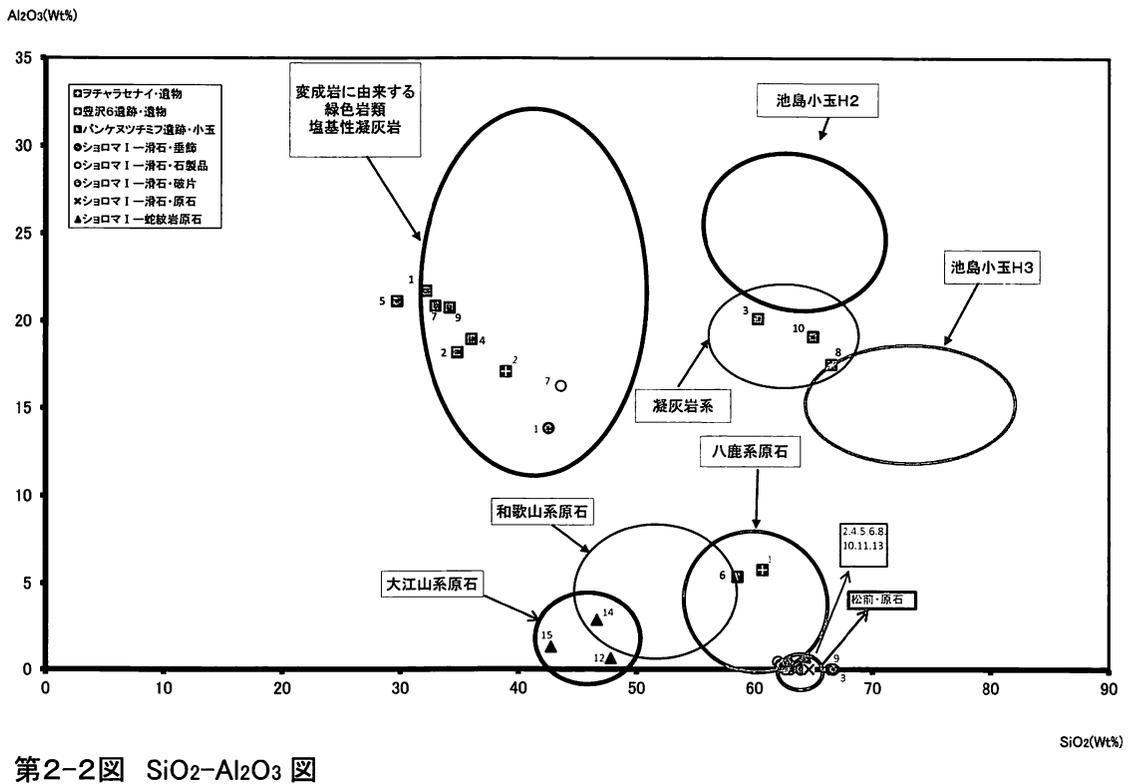
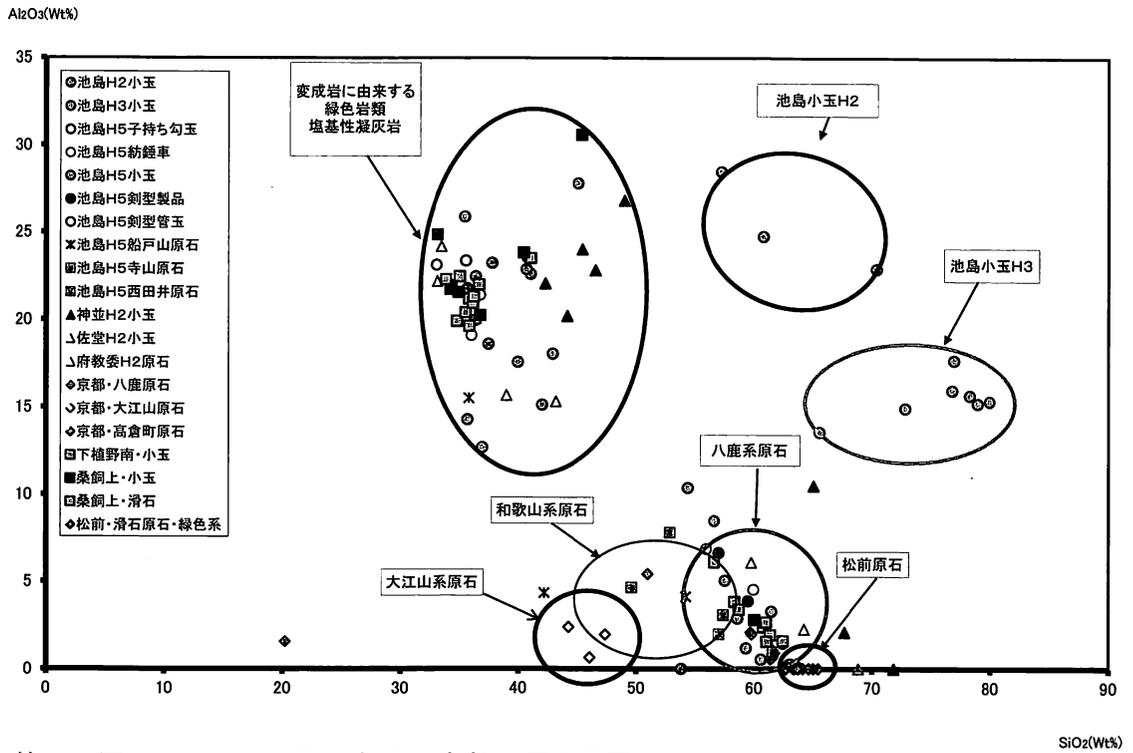
第2表 化学分析表

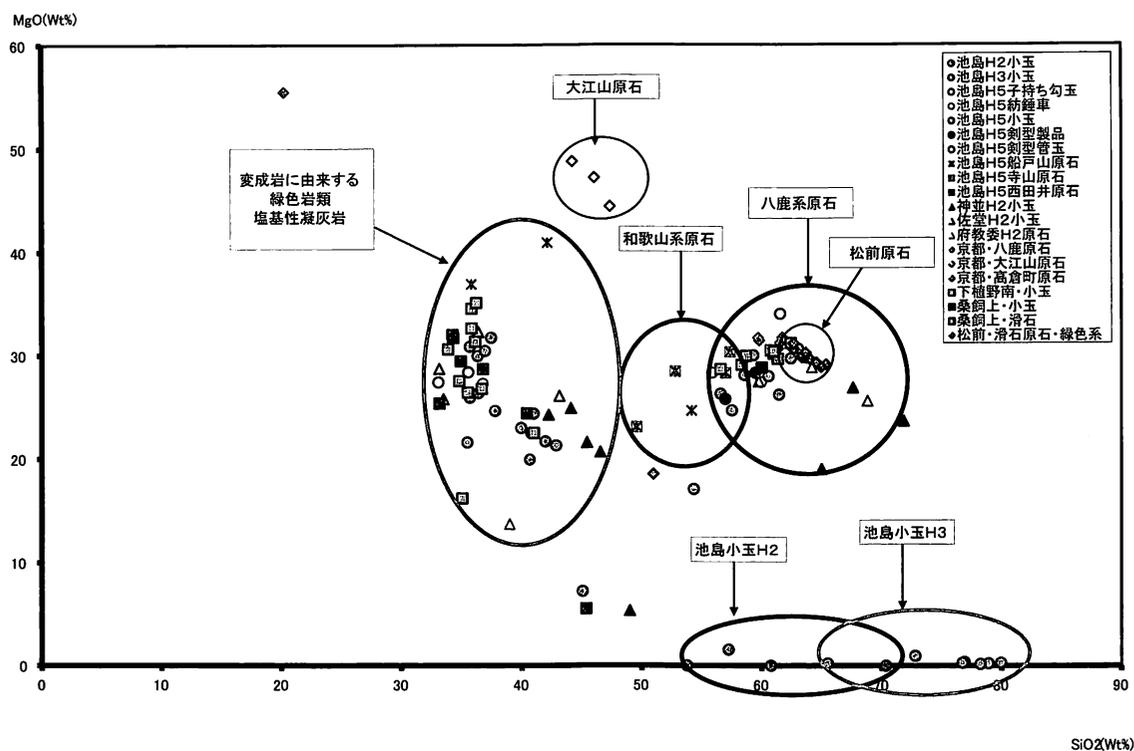
試料名	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	P2O5	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	Rb2O	SrO	Y2O3	ZrO2	Total	Rb(K)	Sr(I)	原産地	器種・岩石	出土位置
SH-1	0.0000	30.7558	13.8247	42.5394	0.1356	0.1652	5.2002	0.0878	0.0741	7.2114	0.0014	0.0014	0.0030	0.0000	100.0000	70	64	塩基性凝灰岩	垂飾	シヨロマ1遺跡
SH-2	0.0000	29.1413	0.0000	63.9047	0.1356	0.0545	0.0605	0.0236	0.0261	6.6533	0.0004	0.0000	0.0000	0.0000	100.0000	22	0	松前滑石	垂飾	シヨロマ1遺跡
SH-3	0.0000	26.8141	0.0000	66.6694	0.0000	0.0707	0.2985	0.0291	0.0377	6.0774	0.0000	0.0025	0.0006	0.0000	100.0000	0	138	松前滑石	垂飾	シヨロマ1遺跡
SH-4	0.0000	29.8768	0.3769	62.8151	0.2371	0.0869	0.1492	0.0305	0.0899	6.3302	0.0022	0.0005	0.0000	0.0046	99.9999	116	28	松前滑石	垂飾	シヨロマ1遺跡
SH-5	0.0000	29.3262	0.2626	62.2332	0.1698	0.0898	0.1229	0.0227	0.0440	7.7183	0.0010	0.0048	0.0047	0.0000	100.0000	51	237	松前滑石	垂飾	シヨロマ1遺跡
SH-6	0.0000	25.6755	0.4540	64.2555	0.0000	0.1576	0.2931	0.0658	0.0509	9.0421	0.0000	0.0045	0.0000	0.0010	100.0000	0	190	松前滑石	垂飾	シヨロマ1遺跡
SH-7	0.0000	32.9661	16.2466	43.5844	0.0832	0.0497	0.2494	0.0178	0.0800	6.7182	0.0000	0.0000	0.0046	0.0000	100.0000	0	0	塩基性凝灰岩	石製品	シヨロマ1遺跡
SH-8	0.0000	28.6933	0.0000	63.0244	0.1520	0.0734	0.0845	0.0169	0.0299	7.9131	0.0047	0.0000	0.0000	0.0078	100.0000	230	0	松前滑石	石製品	シヨロマ1遺跡
SH-9	0.0000	26.5600	0.0000	66.4091	0.0000	0.0566	0.1036	0.0516	0.0323	6.7853	0.0000	0.0016	0.0000	0.0000	100.0001	0	86	松前滑石	石製品	シヨロマ1遺跡
SH-10	0.0000	31.4523	0.0000	62.6112	0.2339	0.0913	0.0705	0.0245	0.0208	5.4900	0.0003	0.0003	0.0000	0.0050	100.0001	16	15	松前滑石	滑石破片	シヨロマ1遺跡
SH-11	0.0000	27.8299	0.4412	61.9838	0.0936	0.0380	0.2428	0.0279	0.0775	9.2651	0.0000	0.0000	0.0000	0.0001	99.9999	0	0	松前滑石	石製品	シヨロマ1遺跡
SH-12	0.0000	36.8526	0.6151	47.8386	0.1947	0.0667	0.4165	0.0532	0.3137	13.6354	0.0005	0.0081	0.0048	0.0000	99.9999	16	250	蛇紋岩	蛇紋岩原石	厚真町厚真川採取
SH-13	0.0000	26.3033	0.0000	64.6095	0.0000	0.1005	0.0912	0.0300	0.0655	8.7924	0.0000	0.0031	0.0046	0.0000	100.0001	0	147	松前滑石	滑石原石	松似町幌満川河口採取
SH-14	0.0000	33.7286	2.8358	46.6651	0.0246	0.2096	5.7060	0.1628	0.1374	10.5206	0.0028	0.0024	0.0007	0.0035	99.9999	102	85	蛇紋岩	蛇紋岩原石	松似町幌満川河口採取
SH-15	0.0000	42.7536	1.2816	42.7455	0.0081	0.0490	0.0992	0.0850	0.0852	12.8897	0.0030	0.0000	0.0000	0.0000	99.9999	104	0	蛇紋岩	蛇紋岩原石	松似町幌満川河口採取

第3表 原産地対比表

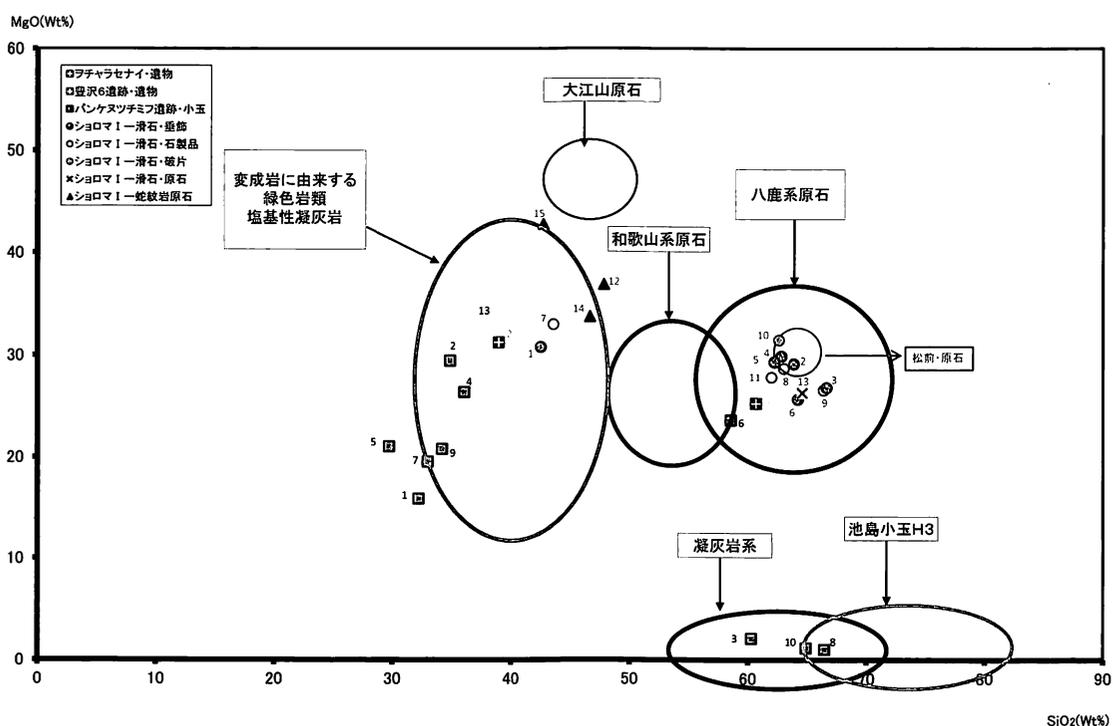
試料名	出土位置	遺物番号	図版番号	器種・岩石	遺構／グリッド	層位	サイズ(mm)			重量(g)	原産地	観察所見	備考
							長軸	短軸	厚さ				
SH-1	シヨロマ1遺跡	10705	IV-144-111	垂飾	AN-30	VbU	65.1	34.1	16.7	57.4	塩基性凝灰岩※	両側穿孔 光沢無し 両側穿孔 脂質光沢あり 紐擦れ痕顕著	石材同定No.079 完形
SH-2	シヨロマ1遺跡	22101	IV-72-2	垂飾	VP-13	I	58.7	28.3	12.3	35.6	松前滑石	両側穿孔 脂質光沢あり	石材同定No.076 完形
SH-3	シヨロマ1遺跡	13395	IV-23-13	垂飾	VH-07	I	51.7	28.3	12.7	28.9	松前滑石	両側穿孔 脂質光沢あり	石材同定No.077 完形
SH-4	シヨロマ1遺跡	13396	IV-23-12	垂飾	VH-07	I	34.2	20.4	9.5	12.5	松前滑石	両側穿孔 脂質光沢あり	石材同定No.078 完形
SH-5	シヨロマ1遺跡	25351	IV-144-109	垂飾	AJ-26	VbU	(26.0)	(24.9)	13.1	(13.7)	松前滑石	両側穿孔 脂質光沢あり	欠損
SH-6	シヨロマ1遺跡	28848	IV-144-114	垂飾	AE-23	VbL	(19.7)	17.2	14.4	(8.9)	松前滑石	両側穿孔 脂質光沢あり	欠損
SH-7	シヨロマ1遺跡	9766	IV-144-110	石製品	AL-27	VbU	57.5	30.6	7.5	(19.2)	塩基性凝灰岩※	脂質光沢あり	石材同定No.041 略完形
SH-8	シヨロマ1遺跡	16449	IV-144-108	石製品	AX-28	VbL	28.2	18.4	9.4	8.9	松前滑石	脂質光沢あり	石材同定No.080 完形
SH-9	シヨロマ1遺跡	8042	IV-144-113	石製品	AH-27	VbL	25.0	16.5	6.3	5.0	松前滑石	脂質光沢あり	石材同定No.081 完形
SH-10	シヨロマ1遺跡	AL-28-23	-	滑石破片	AL-28	-	(22.6)	(21.3)	(6.7)	(5.0)	松前滑石	脂質光沢あり	完形
SH-11	シヨロマ1遺跡	29302	IV-144-122	滑石破片	AD-22	VbL	27.5	20.5	15.3	13.7	松前滑石	脂質光沢あり	完形
SH-12	厚真町厚真川採取	-	IV-144-112	蛇紋岩原石	-	-	-	-	-	-	蛇紋岩	光沢なし	厚真町厚真川採取
SH-13	松前町大鴨津川採取	-	-	滑石原石	-	-	-	-	-	-	松前滑石	脂質光沢あり	松前町大鴨津川採取
SH-14	松似町幌満川河口採取	-	-	蛇紋岩原石	-	-	-	-	-	-	蛇紋岩	脂質光沢あり	松似町幌満川河口採取
SH-15	松似町幌満川河口採取	-	-	蛇紋岩原石	-	-	-	-	-	-	蛇紋岩	脂質光沢あり	松似町幌満川河口採取

※SH-1・7はV章7節石材同定において、滑石と同定された。

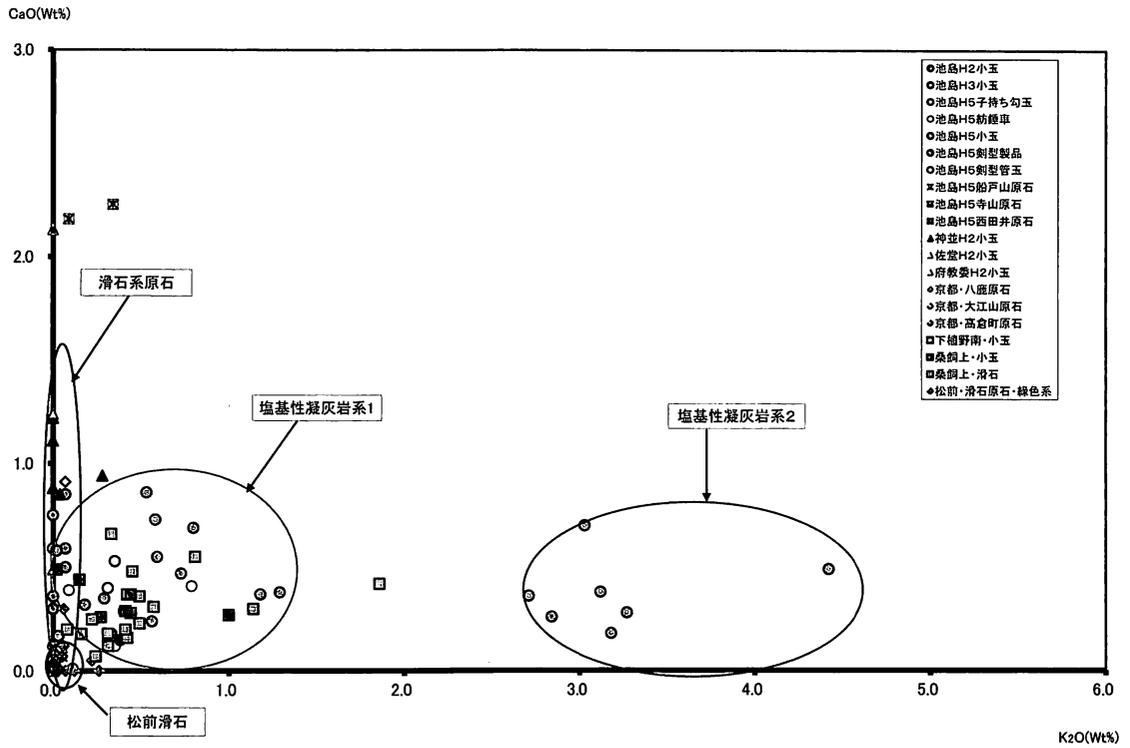




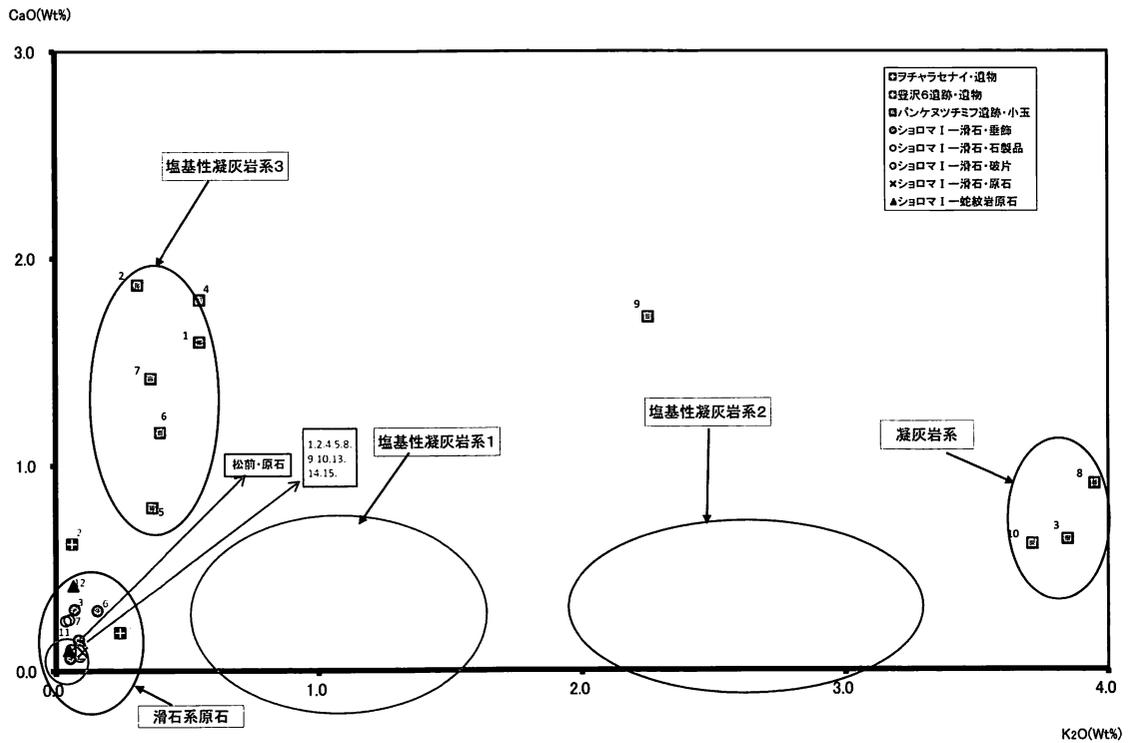
第3-1図 SiO₂-MgO 図 (大阪・京都小玉と原石)



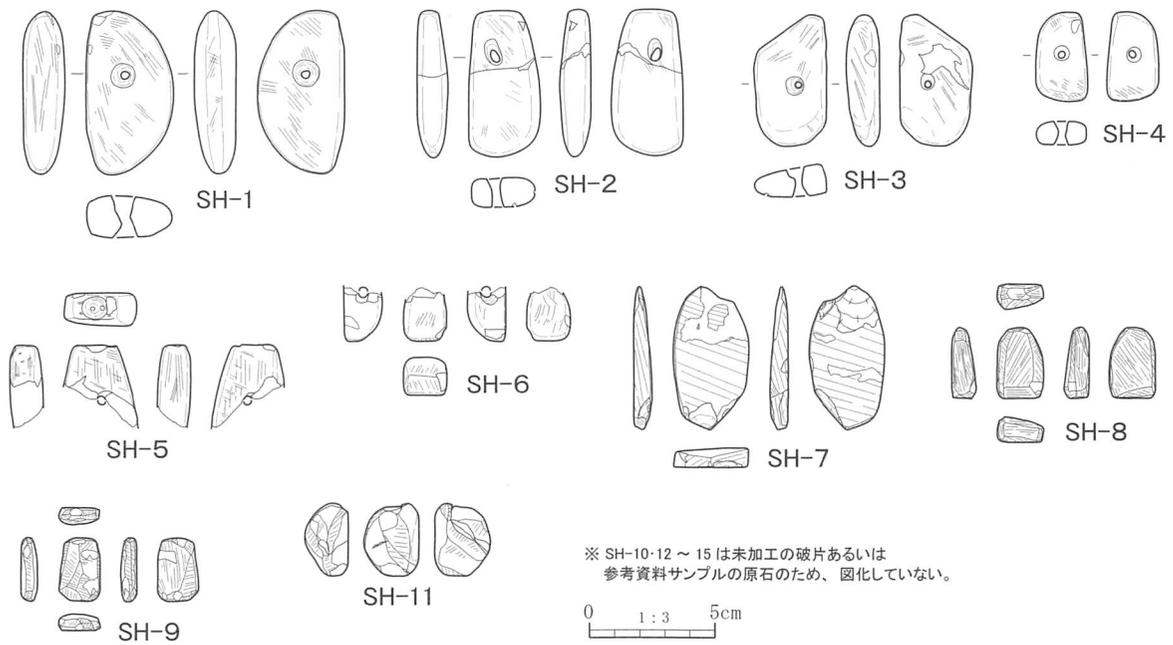
第3-2図 SiO₂-MgO 図



第4-1図 K₂O-CaO 図 (大阪・京都小玉と原石)

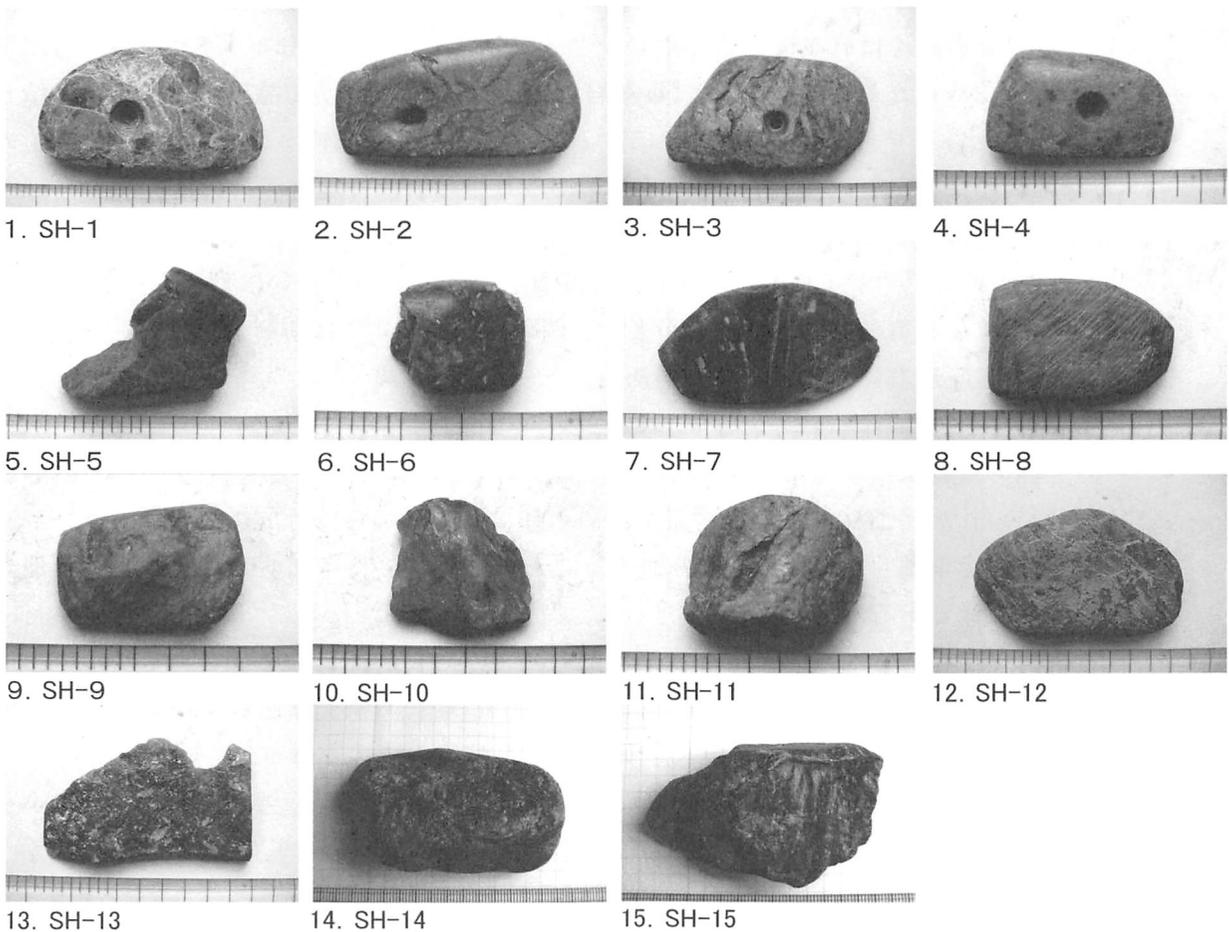


第4-2図 K₂O-CaO 図



第5図 滑石原産地分析試料

図版1



第7節 ショロマ1遺跡石材同定

アースサイエンス株式会社

加藤孝幸 米島真由子

1. 石材同定結果

石材を肉眼、ルーペ、簡易実体鏡、マグネットを併用して観察した。結果を表1に示す。

考 察

1. 各石材の供給源

石材(ショロマ1遺跡)の同定結果を、同定された岩種とそれぞれの個数を示す(表2)。同定結果に基づき、それぞれ岩石の由来について地質学的な面から考察を行う。

(1) 火成岩類

今回岩種鑑定を行った試料で火成岩類は、玄武岩・安山岩・はんれい岩・はんれい岩(集積岩)・石英斑岩がある。

緑色岩化の進んでいない玄武岩は、主に溶岩として各地に見られる。

安山岩は主に溶岩として各地に見られる。川端層などの礫岩中の礫として含まれていることもある。

緑色岩化の進んでいないはんれい岩・はんれい岩(集積岩)は、岩体として見られる。はんれい岩の多くは日高変成帯やポロシリオフィオライト帯に分布するが、神居古潭帯にも少量認められる。はんれい岩(集積岩)は、マグマ溜のなかで晶出した鉱物が集積して生成した岩石であり、遺物番号21571および14664の2試料が認められた。21571の集積鉱物のほとんどは角閃石であり、このような集積岩は神居古潭帯に見られる。14664の集積鉱物は輝石であり、このような集積岩はポロシリオフィオライト帯中に見られる。

石英斑岩はデイサイト～流紋岩質の完晶質岩で、岩脈(あるいは貫入岩)と考えられる。粗粒な石英斑晶を含むことが多い。例えば、定山溪には新第三紀(おもに中期中新世)の古平層群に貫入するものがある。

(2) 堆積岩類

今回の遺物試料中では、堆積岩類として礫岩・中粒砂岩・砂岩・(石英・長石質)砂岩が認められた。これらは変形構造が認められないことから、付加体の岩石でない、通常的环境中で堆積したものと考えられる。これは各地に多く分布することから、産地の推定は困難である。

礫岩・中粒砂岩・砂岩は、非変形であることから付加体由来とは考えられない。付加体に由来せず比較的硬質なものは、例えば、白亜紀の蝦夷累層群や中新世の川端層に見られる。これらの地層を含め、砂岩は厚真町周辺に広く分布している。

砂岩のうち「石英・長石質砂岩」は、構成粒子のほとんどが石英または長石類によって構成されている。このような砂岩は、中生代以前の堆積岩にしばしば含まれる。

(3) 珪質頁岩

硬質頁岩と区別するために用いる。地質学的に硬質頁岩と呼ばれている地質は渡島半島の八雲層やその相当層、あるいは道東などにも分布するが、これらの多くはパリ

パリと割れ易く、石器の石材としては、不適なものである。石器の石材として使用されているものは、一般の硬質頁岩とは明らかに異なり、加工し易い等方均質である。したがって、これをとくに「珪質頁岩」と呼ぶ。

珪質頁岩は少なくとも渡島半島では、中新世の八雲層やその相当層が貫入岩の接触変質を受けた場所にのみ分布する。また、化学分析により、産地をある程度絞り込める可能性がある（森町教育委員会 編、2006）。

このような珪質頁岩は変形の進んでいない泥岩（すなわち、付加体以外の）に貫入岩がある場所という条件があれば生成するので、渡島半島と同様の作業が全道について必要であろう。

(4) 火山碎屑岩類

凝灰質泥岩・凝灰質シルト岩・火山礫凝灰岩・凝灰岩が認められた。これらは中新世の各地層中に時々含まれる。肉眼鑑定のデータのみで産地を推定することは困難である。

(5) 付加体に由来すると考えられる岩石

付加体に由来すると考えられる岩石として、変形砂岩・変形泥岩・チャート・チャート（酸性凝灰岩？）・緑色岩が認められた。これらは一般に付加体で強く変形作用を受けた岩石で、神居古潭帯やその周辺、イドンナップ帯に分布する。

緑色岩はハイアロクラスタイト（水冷破碎岩）または玄武岩、ドレライトを原岩とする。

(6) 赤鉄鉱

遺物番号:19177 は、鏡鉄鉱とも呼ばれる鏡面状に光る赤鉄鉱である。内部は玄武岩で、玄武岩の周囲に赤鉄鉱が生成している。このような産状の赤鉄鉱は、緑色岩化した玄武岩中に見られることが多い。緑色岩化した玄武岩は一般に付加体中で形成される岩石であり、神居古潭帯やその周辺、イドンナップ帯に分布する。

(7) 片岩類

片岩類として砂質片岩・黒色片岩・石英片岩・青色片岩・緑色片岩が認められた。

砂質片岩および黒色片岩は、砂質～泥質岩を原岩として形成された岩石であり、各地に見られる。例えば、日高変成帯西帯の西縁部などに見られる。

石英片岩は神居古潭峡谷地域や神居古潭帯蛇紋岩中の捕獲ブロックとして、所々に分布する。

青色片岩としたものの多くは藍閃石片岩で、非常に高圧の条件で形成された岩石である。これらの多くは神居古潭帯の蛇紋岩が地下深部から運んで来た捕獲ブロックとして産する。厚真町の近傍では夕張岳やそれから続く、占冠西部地域の蛇紋岩メランジュ中に産する三石の蛇紋岩メランジュ中にも知られている。

緑色片岩は幌加内～神居古潭峡谷地域や神居古潭帯蛇紋岩中の捕獲ブロックとして、あるいは東方のポロシリオフィオライト帯などに分布する。

(8) アオトラ

「アオトラ」は正式な岩石名でなく俗称である。玄武岩質の火山碎屑物が堆積してできた砂質-泥質の縞状互層で、変形作用は通常の片岩ほど強くない。緑色片岩相ないし青色片岩相の変成作用を受けている。青色は藍閃石でなくリーベック閃石により近いものである。藍閃石ほどではないものの高圧変成岩で、神居古潭帯の糠平蛇紋岩の捕獲ブロックとして多量に見出される(東・加藤、2012)。アオトラと同定した試料(遺物番号;4545)は、この周辺に由来する可能性が高い。

(9) 滑石・滑石(蛇紋岩)

蛇紋岩は東方の神居古潭帯に広く分布する。しかし、より西方の夕張市紅葉山から厚真川支流のショロマ川上流にかけての中新世の滝の上層分布域にも蛇紋岩の小岩体が分布する。

滑石は、一般的に熱水変質を受けた蛇紋岩中や珪質のドロマイトが接触変成を受けて生成する。北海道内で鉱床規模のものは松前町大鴨津川周辺に分布するもので、蛇紋岩体の一部を交代している。その他、神居古潭帯中の蛇紋岩体に伴って産出するもの、ショロマ川上流に分布する蛇紋岩の小岩体中にも小規模に産出する。しかし、道外から運ばれた可能性も検討する必要がある。

(10) 珪化岩

珪化岩としたものは、石英を主体とする珪酸分(SiO_2)が元の岩石を著しく交代した岩石である。すなわち、何らかの源岩を基にしているが、具体的には詳細不明のものである。色調は白色、灰白色、黒灰色、赤色など。赤色(や緑色)のものはとくにジャスパーと呼ばれることがある。なお、赤色細粒のものは、ときに赤色チャートと酷似するものがあるので注意が必要である(チャートは変形組織や石英脈を伴う)。珪化岩は火山活動に伴う熱水変質作用を受けた岩石であるので、源岩は火山周辺に分布する凝灰質岩などのことが多いと考えられる。赤色は石英のほかに、微細な赤鉄鉱が生成しているためである。このような珪化岩は北海道では石狩低地帯以西の中新世~鮮新世の火山岩類分布地域に散在して分布する。また、火山活動のある地域であれば、その他の道内各地にも存在する可能性があり、産地の特定は困難である。

(11) 石英岩・めのう・オパール

めのうは珪酸分(SiO_2)がオパール、クリストバル石、石英などとして、岩石の割れ目や晶洞に沈澱したものである。そのため、縞状を呈することが多い。源岩を交代したわけではない点が珪化岩とは異なる。めのうが生成するためには、珪酸分を含んだ熱水が通過する必要があるので、やはり過去に火山活動が起った地域にめのうが分布する。やはり産地の特定は困難である。

[引用文献]

- 東 豊土・加藤孝幸(2012):神居古潭帯・糠平岩体由来のロジン岩化蛇紋岩質テクトナイト、むかわ町立穂別博物館研究報告, 27, 7-16.
- 森町教育委員会 編(2006):茅部郡 森町 埋蔵文化財調査報告書 鷲ノ木4遺跡<分冊>自然科学等による諸分析 IV 石質鑑定(アースサイエンス(株)).

表1 石材同定結果

委託 No.	遺跡 名	遺物 番号	細 分類	遺構/ グランド	層位	遺物名	分類	規模 (mm, g)			岩石名	同定結果		備考
								長軸	短軸	厚さ		重さ	記載	
1	Sho1	AM-23-2-26	S	AM-23	VbU	-	-	-	63.0	-	蛇紋岩	風化進み、多孔質となる。	-	
2	Sho1	19177	S	VSB-04	Vbl.2	-	-	-	12.0	-	赤鉄鉱	鏡鉄鉱(鏡面状に光る赤鉄鉱)。内部は赤褐色化した玄武岩？(緑色岩の一種)。	-	
3	Sho1	17418	S	VSB-04	Vbl	-	-	-	132.0	-	玄武岩	暗赤褐色。斑状。	被熱	
4	Sho1	15799	S	VSB-04	Vc	-	-	-	248.0	-	礫岩	主体である直径7cmの円礫は泥灰岩(炭酸塩鉱物の多い泥岩)。	-	
5	Sho1	23711	S	VSB-04	Vbl.4	-	-	-	58.0	-	玄武岩	暗灰色斑状。溶脱痕目立つ。	-	
6	Sho1	13200	S	VSB-04	VbM	-	-	-	42.0	-	オパール	腎臓型の結晶集合体で、一部に石英も成長。	-	
7	Sho1	AN-31-2-53	S	AN-31	VbU	-	-	-	30.0	-	緑色岩	緑色岩化した玄武岩。	-	
8	Sho1	42023	S	AO-15	IIIbL	-	-	-	210.0	-	チャート	帯緑灰色。石英脈発達。	-	
9	Sho1	42024	S	AG-19	VbU	-	-	-	283.0	-	砂岩	粗粒砂岩。非変形。脈は認められない。	-	
10	Sho1	16757	S	VSB-04	Vbl.3	-	-	-	55.0	-	変形砂岩	変形した中粒砂岩。石英脈発達。	-	
11	Sho1	8789	S	BB-28	VbU	-	-	-	850.0	-	チャート	白色。石英脈発達。脈の微褶曲あり。	-	
12	Sho1	18686	S	VSB-04	Vbl.2	-	-	-	126.0	-	蛇紋岩	メッシュ組織を示す塊状蛇紋岩。風化し、灰白色化。	-	
13	Sho1	42015	S	表採	-	-	-	-	50.0	-	緑色岩	ハイアロクlastait(水冷破砕岩)質。石英脈あり。	-	
14	Sho1	10060	S	AM-27	VbM	-	-	-	16.0	-	チャート	緑灰色。石英脈発達。	-	
15	Sho1	2418	ST	AQ-29	VbU	加上痕のある礫	55.0	42.0	63.0	20.0	チャート	帯緑灰色。細かい綿状組織が発達。	完形	
16	Sho1	14662	S	VSB-04	Vbl	-	-	-	30.0	-	石英斑岩	帯緑灰色に変質。斑晶は斜長石、石英。	-	
17	Sho1	26816	S	TP-37	I	-	-	-	89.0	-	珪化岩	緑灰色。強珪化した凝灰岩か？	-	
18	Sho1	AQ-32-2-7	ST	AQ-32	VI	たたき石	66.0	50.9	349.0	49.9	はんれい岩	帯緑灰色に変質。かんらん石仮像を含む。ポロシリオファイオライト由来の可能性。	完形	
19	Sho1	7847	S	AO-21	Vbl	-	-	-	1,320.0	-	蛇紋岩	塊状。輝石かんらん岩質。	-	
20	Sho1	21136	ST	VSB-04	Vbl.3	石懸	(95.8)	(63.5)	(24.1)	(120.0)	砂岩	中粒。凝灰質。輝石粒含む。溶脱痕多い。	被熱・破片	
21	Sho1	42021	S	AK-19	VbU	-	-	-	100.0	-	玄武岩	暗灰色。緑れん石・石英脈含む。	-	
22	Sho1	18927	S	VSB-04	Vbl.2	-	-	-	40.0	-	蛇紋岩	帯褐灰色に風化。メッシュ組織。	-	
23	Sho1	42016	S	AS-28	不明	-	-	-	131.0	-	変形泥岩	黒色。石英脈発達。剪断変形著しい。	-	
24	Sho1	AL-28-3-7	S	AJ-28	Vbl	-	-	-	71.0	-	砂岩	暗灰色。細粒。非変形。	-	
25	Sho1	11735	S	VSB-04	Vbl	-	-	-	176.0	-	砂岩	暗灰色。極細粒。非変形。局所的にカタクレーサイト化。	-	
26	Sho1	4126	S	VSB-02	VbU	-	-	-	363.0	-	砂岩	灰色。中粒。非変形。	-	
27	Sho1	42020	S	AL-32	Vbl	-	-	-	91.0	-	砂岩	灰色。細粒。非変形。石英脈目立つ。	-	
28	Sho1	42017	S	AL-32	Vbl	-	-	-	58.0	-	石英斑岩	帯緑帯褐灰色。斑状。	-	
29	Sho1	16990	S	VSB-04	Vbl.2	-	-	-	125.0	-	変形泥岩	黒色。細粒砂岩混じり。	-	
30	Sho1	AM-30-2-21	FT	AM-30	VbU	石核	93.2	78.2	37.6	220.0	珪化岩	帯緑灰色。綿状。めのうに近いが、不純物多い。	完形	
31	Sho1	26955	S	VH-14	I	-	-	-	531.0	-	蛇紋岩	塊状。輝石かんらん岩質。メッシュ組織。	-	
32	Sho1	557	S	AT-32	Vbl	-	-	-	290.0	-	石英片岩	帯桃灰色。変形。片理発達。	-	
33	Sho1	42019	S	VMO-01	VbU	-	-	-	248.0	-	石英斑岩	緑灰色。斑状で斑晶は変質した斜長石、石英。	被熱・AI-33-2	
34	Sho1	15292	S	VSB-04	Vbl	-	-	-	58.0	-	砂岩	褐灰色。細粒。凝灰質。	-	

表1 石材同定結果(続き)

委託 No.	遺跡 名	遺物 番号	細 分類	遺構/ グリッド	層位	遺物名	分類	規程(mm-g)			岩石名	同定結果		備考
								長軸	短軸	厚さ		重さ	記載	
35	Sho1	AG-25-4-22	S	AG-25	VbL	-	-	-	-	382.0	火山礫凝灰岩	径3~5mmの黒色安山岩片と斜長石, 石英主体の粒子からなる基質.	被熱	
36	Sho1	42018	S	AK-28	VbL	-	-	-	-	584.0	火山礫凝灰岩	灰白色, 塊状化.	-	
37	Sho1	26014	S	VH-01	1	-	-	-	-	112.0	チャート	ピンク色と白色の部分が入り混じる.	-	
38	Sho1	AL-28-3-5	ST	AL-28	VbU	たたき石	II B2	102.5	78.7	79.7	玄武岩	褐灰色, 無斑晶質, 非変形.	完形・図IV-136-56	
39	Sho1	1727	ST	AT-30	VbU	たたき石	II B2	116.7	73.1	42.1	玄武岩	帯緑暗灰色を呈する緑色岩, 無斑晶質, 緑泥石脈発達.	完形・図IV-137-58	
40	Sho1	27831	ST	AP-25	VbL	すり石	D	94.0	89.2	59.1	緑色岩	緑色岩化したドレライト, オプティック組織発達.	完形・図IV-139-73	
41	Sho1	9766	SP	AL-27	VbU	石製品	-	57.5	30.6	7.5	滑石※	緑灰色でやや透明感, 自形クロムスベネルを含む.	原産地分析・図IV-144-110	
42	Sho1	8210	ST	AG-28	VbL	棍棒形石器	-	(210.0)	94.1	41.3	砂質片岩	暗灰色, 粗粒砂サイズ, 変形著しい.	基部欠・図IV-145-115	
43	Sho1	4832	ST	VSB-01	2	棍棒形石器	-	283.0	97.3	40.4	青色片岩	青味を帯びた黒色, 細粒砂岩質, 藍閃石を含む.	完形・図IV-86-28	
44	Sho1	18295	ST	AU-29	VbU	棍棒形石器	-	285.0	87.7	36.3	変形砂岩	暗灰色, 変形しているが, 片理は不明瞭.	完形・VST-058・ 図IV-145-116	
45	Sho1	3679	ST	VSB-01	KR	棍棒形石器	-	400.0	108.8	23.2	青色片岩	青味を帯びた黒色, 細粒砂岩質, 藍閃石を含む.	完形・図IV-86-28	
46	Sho1	4545	ST	VSB-02	VbU	石斧	A2a	(81.8)	38.0	14.6	アオラ	白色化した砂質部と黒色化した泥質部の頻互層.	基部欠	
47	Sho1	10820	ST	VH-07	VbM	石斧	B	82.9	32.6	9.1	変形砂岩	帯緑暗灰色, 中粒.	完形, 未成品, 擦痕あり	
48	Sho1	6404	ST	AN-32	VbL	石斧	B2	(68.9)	(32.5)	24.3	変形砂岩	暗灰色, 細粒.	基部片・未成品	
49	Sho1	29301	ST	AE-20	VbL	石斧	B1	(94.3)	50.6	31.0	砂岩	暗灰色, 中粒, 変形弱い.	基部欠・未成品, 黒色付着物あり	
50	Sho1	9358	ST	BB-29	Va	石斧	B2	167.0	56.2	35.4	変形砂岩	暗灰色, 中粒.	完形, 未成品	
51	Sho1	7206	ST	AP-33	Vc	石斧	B1	(53.1)	24.8	14.7	凝灰質泥岩	帯緑灰色, 変形構造あり, 貝殻断片が認められる. 微細な石英の脈が数条入る.	欠損, 未成品	
52	Sho1	10478	ST	AW-28	VbU	石斧	A1b	153.6	53.1	17.3	黒色片岩	暗灰色, 風化によりわずかに藍色する部分が認められる. 片理が発達. 原岩は泥岩.	完形	
53	Sho1	21252	ST	VSB-04	VbL3	砥石	-	(61.8)	(60.0)	24.2	(石英・長石質)砂岩	帯褐灰色, 構成粒子は斜長石, 石英の重円~亜角, 粗粒砂岩, 粗面孔隙が多い.	欠損・被熱	
54	Sho1	21921	ST	AS-27	VbL	すり石	E	(70.3)	(53.2)	(25.6)	シルト岩	淡褐色, 凝灰質, 緑泥石の細脈が数条認められる.	破片・たたき併用	
55	Sho1	21774	ST	VSB-04	VbL3	石斧	A	(33.4)	(25.6)	(12.7)	黒色片岩	黒色, 弱い片理が認められる. 原岩は泥岩.	破片・被熱	
56	Sho1	9019	S	AP-21	IIIc	-	-	-	-	122.0	はんれい岩	白色と帯緑黒色の斑状, 層状構造あり, 有色鉱物のほとんどが角閃石化.	-	
57	Sho1	1313	S	III5B-01	IIIbM	-	-	-	-	357.0	珪質頁岩	褐灰~暗灰色, 微細な石英脈が細目状に多数生成, 角礫化.	-	
58	Sho1	2219	S	III5B-02	IIIbM	-	-	-	-	41.0	凝灰岩	帯褐灰色, 白濁した斜長石(径2mm以下)が層理に沿って配列.	-	
59	Sho1	2099	S	III5B-04	IIIbM	-	-	-	-	47.5	砂岩	暗灰色, 粗粒砂岩, 細粒部と粗粒部の頻互層が認められる.	被熱	
60	Sho1	17717	S	VSB-04	VbL2	-	-	-	-	27.0	黒色片岩	灰白色, 風化して藍色している. 片理が発達. 原岩は泥岩.	-	
61	Sho1	1674	SFC	AO-30	VbU	-	-	-	-	11.8	珪質頁岩	褐色, やや粗粒でシルト質, 貝殻断片が認められる.	-	
62	Sho1	1724	SFC	AT-29	VbU	-	-	-	-	11.3	黒色片岩	褐灰色, 風化してやや藍色している. 片理の発達著しい.	-	
63	Sho1	13428	SFC	AM-25	VbU	-	-	-	-	30.6	緑色片岩	帯緑灰色, 片理が発達. 原岩は塩基性岩由来の泥岩あるいは凝灰質岩.	-	
64	Sho1	AU-32-1	S	AU-32	VbU	-	-	-	-	6.2	滑石(蛇紋岩)	淡緑灰色, 原岩は蛇紋岩で, 滑石で交代したと考えられる.	-	
65	Sho1	25423-2	SFC	VH-01	5	-	-	-	-	5.5	緑色片岩	黒色, 弱い変形構造が認められる.	-	
66	Sho1	129	S	AO-33	VbU	-	-	-	-	118.2	砂岩	帯緑灰色, 中粒砂岩, 厚さ約7mmの層状構造が認められる.	-	
67	Sho1	9006	S	AK-20	IIIc	-	-	-	-	58.0	砂岩	灰色, 粗粒砂岩, 黒色の泥岩パッチを含む, これらは層構造に沿って配列.	-	

表1 石材同定結果(続き)

委託No.	遺跡名	遺物番号	細分類	遺物/遺構/グランド	層位	遺物名	分類	規模(mm ² ・g)			岩石名	記載	備考
								長軸	短軸	厚さ			
68	Sho1	12796	S	V SB-06	Vbu	-	-	-	-	115.0	蛇紋岩	帯緑灰白色、塊状の蛇紋岩。	-
69	Sho1	6939	ST	AV-29	Vbu	石斧	B	(50.7)	(43.2)	(9.7)	黒色片岩	黒色、片理の発達著しい。	破片・未成品
70	Sho1	22384	FC	AS-25	Vc	-	-	-	-	53.0	珪質頁岩	暗褐色(風化面に近い側では灰白色)、原岩は泥岩。	-
71	Sho1	8388	S	AI-23	IIIc	-	-	-	-	122.0	変形砂岩	暗灰色、変形構造の認められる粗粒砂岩。粒子は垂直。	-
72	Sho1	8736	S	BG-31	IIIbl	-	-	-	-	365.0	はんれい岩	帯緑灰色、短脚状の斜長石がチャートマトに分布、緑泥石脈や石英脈が認められる。	-
73	Sho1	AK-32-3-17	S	AK-32	Vbl	-	-	-	-	175.0	凝灰質シルト岩	褐色、一部で厚さ1mm以下の微細な堆積構造が認められる。	-
74	Sho1	42014	S	AV-30	Vbu	-	-	-	-	20.0	チャート(酸性凝灰岩?)	緑灰色、石英の微細な脈が多数生成。	-
75	Sho1	20060	S	V SB-04	Vbl2	-	-	-	-	75.0	石英岩	白色、細粒な石英の集合体、母岩中に脈として生成した可能性。	-
76	Sho1	22101	SP	VP-13	1	石製品	-	58.7	28.3	12.3	滑石(蛇紋岩)	帯灰緑色と褐色の斑状、原岩はかんらん岩から変化した蛇紋岩と考えられる。	完形・原産地分析・図IV-72-2
77	Sho1	13395	SP	VH-07	1	石製品	-	51.7	28.3	12.7	滑石(蛇紋岩)	帯灰緑色、原岩はかんらん岩から変化した蛇紋岩と考えられる。	完形・原産地分析・図IV-23-13
78	Sho1	13396	SP	VH-07	1	石製品	-	34.2	20.4	9.5	滑石(蛇紋岩)	帯灰緑色、原岩はかんらん岩から変化した蛇紋岩と考えられる。	完形・原産地分析・図IV-23-12
79	Sho1	8042	SP	AN-30	Vbu	石製品	-	25.0	16.5	6.3	滑石(蛇紋岩)	淡緑白色、原岩は蛇紋岩と考えられる。	完形・原産地分析・図IV-144-113
80	Sho1	9049	S	AV-26	IIIbl	-	-	-	-	176.0	珪質頁岩	暗灰色、微細な石英脈が多く生成、原岩は泥岩。	被熱
81	Sho1	10705	SP	AH-27	Vbl	石製品	-	65.0	34.7	16.1	蛇紋岩	暗緑色と淡褐色の斑状、葉片状に変化した蛇紋岩。	完形・原産地分析・図IV-144-111
82	Sho1	31083	ST	不明	不明	石斧	B1	(100.5)	58.3	19.4	緑色岩	赤褐色、緑色を呈する。本館蔵断崖遺跡、径2mmのガラス片(緑色に変質)が散在。	試験盛土出土遺物・欠損・未成品
83	Sho1	561	SFC	AO-26	Vc	-	-	-	-	31.7	緑色片岩	緑灰色、片理が発達。	-
84	Sho1	29110	SFC	AF-19	Vbu	-	-	-	-	19.9	黒色片岩(砂質)	黒色、片理が発達、やや粗粒であり、原岩は砂岩。	-
85	Sho1	21571	S	V SB-04	Vbl3	-	-	-	-	43.0	はんれい岩(集積岩)	黒色と淡褐色の斑状、集積鉱物は角閃石。	被熱
86	Sho1	9297	S	集中区I	IIIbM	-	-	-	-	48.0	玄武岩	褐色、表面は暗灰～黒色。磁石につく、粗粒な斜長石、輝石の斑点を含む。	被熱
87	Sho1	13993	S	V SB-04	VbM	-	-	-	-	88.0	中粒砂岩	帯赤褐色、鉱物片は主に斜長石、基質が多く、やや凝灰質。	被熱
88	Sho1	14864	ST	V SB-04	Vbl	すり石	D	113.5	96.6	61.2	はんれい岩(集積岩)	灰色と黄褐色の斑状、集積鉱物は輝石。	完形・被熱
89	Sho1	9195	S	集中区I	IIIbM	-	-	-	-	37.0	安山岩	灰色、斜長石および輝石を主な斑点とする、輝石安山岩。	-
90	Sho1	14098	SFC	AG-21	Vbu	-	-	-	-	26.6	緑色片岩	帯緑褐色、弱く理化する。片理あり、原岩は塩基性岩由来の泥岩、凝灰質岩。	-
91	Sho1	AK-34-2	SFC	AK-34	Vbl	-	-	-	-	9.0	黒色片岩	緑黒色、弱い片理が認められる。青色角閃石含む?	-
92	Sho1	23990	SFC	AH-18	Vbu	-	-	-	-	8.4	黒色片岩(砂質)	帯青灰色、弱い片理が認められる。やや粗粒であり、原岩は砂岩。	-
93	Sho1	24148	SFC	AI-18	Vbu	-	-	-	-	29.6	黒色片岩	帯褐色、片理が発達、原岩は泥岩と考えられる。	-
94	Sho1	5607	SFC	AS-31	Vbl	-	-	-	-	42.7	緑色片岩	帯褐色、片理が発達、泥質(黒色片岩)の薄層を挟む。	-
95	Sho1	10042	SFC	AK-28	Vbu	-	-	-	-	6.5	黒色片岩	緑黒色、片理が発達、青色角閃石含む?	-
96	Sho1	20749	FT	AU-25	Vc	ナイフ・スクレイパー	A1a③	59.1	20.4	9.8	珪質頁岩	暗灰色、貝殻断口が認められる。白色の粒子(風化した斜長石?)が認められる。	完形・左側縁磨滅
97	Sho1	31034	FT	不明	不明	RF	-	61.4	50.8	8.2	珪質頁岩	暗赤色、貝殻断口が認められる。原岩は細粒な堆積岩(泥岩あるいは凝灰岩)らしい。	完形・試験盛土出土遺物
98	Sho1	17932	FT	V SB-04	Vbl2	ナイフ・スクレイパー	A5	(43.4)	23.5	6.7	珪質頁岩	暗褐色、やや透明感がある。	欠損
99	Sho1	11397	FC	AL-20	Vbu	-	-	-	-	-	めづ	淡緑灰色と暗赤色の斑状、透明感がある。縞状構造は、はっきりしない。	-
100	-	-	-	-	-	厚質頁岩	-	-	-	165.0	珪質頁岩	帯緑褐色、貝殻断口が認められる。表面には褐色、褐鉄鉱が沈殿する。	ショロマ川で採取

※No.41-81は第V章第6節滑石原産地分析において、塩基性凝灰岩として同定された。

表2 岩種一覧

岩種	個数	岩種	個数
玄武岩	6	チャート	5
安山岩	1	チャート(酸性凝灰岩?)	1
はんれい岩	3	緑色岩	4
はんれい岩(集積岩)	2	砂質片岩	3
石英斑岩	3	黒色片岩	8
礫岩	1	石英片岩	1
中粒砂岩	1	青色片岩	2
砂岩	11	緑色片岩	5
(石英・長石質)砂岩	1	アオトラ	1
珪質頁岩	8	蛇紋岩	7
シルト岩	1	珪化岩	2
凝灰質泥岩	1	石英岩	1
凝灰質シルト岩	1	滑石	1
火山礫凝灰岩	2	滑石(蛇紋岩)	5
凝灰岩	1	めのう	1
変形砂岩	6	オパール	1
変形泥岩	2	赤鉄鉱	1
		合計	100

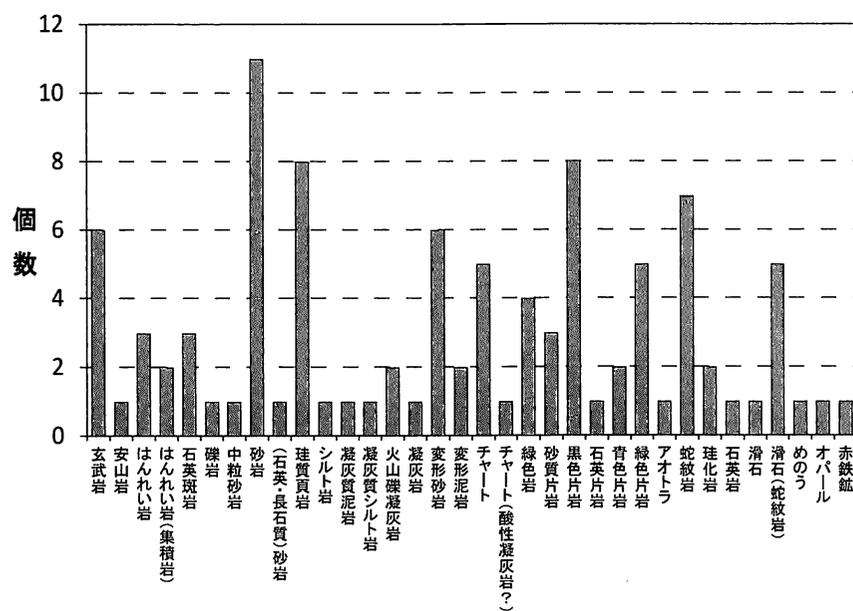


図1 ショロマ1遺跡石材同定結果

引用・参考文献

- 赤石慎三 1988 「3 つまみ付ナイフについて」
『ショップ遺跡』三石町教育委員会
- 赤石慎三 1999 「苫小牧地方の円筒上層式について」
『苫小牧市埋蔵文化財調査センター所報』1
苫小牧市埋蔵文化財調査センター
- 赤石慎三 2006 「苫小牧地方における縄文時代中期後半の
土器について」『館報』3 苫小牧市博物館
- 厚真町 1986 『厚真町史』
- 厚真町教育委員会 2004 『厚幌1遺跡』
- 厚真町教育委員会 2006 『上幌内モイ遺跡(1)』
- 厚真町教育委員会 2007 『上幌内モイ遺跡(2)』
- 厚真町教育委員会 2009a 『上幌内モイ遺跡(3)』
- 厚真町教育委員会 2009b 『ニタツプナイ遺跡(1)』
- 厚真町教育委員会 2010a 『厚幌1遺跡(2)・幌内7遺跡(1)』
- 厚真町教育委員会 2010b 『幌内5遺跡(1)・富里2遺跡・
ニタツプナイ遺跡(2)』
- 厚真町教育委員会 2011 『オニキシベ2遺跡』
- 厚真町教育委員会 2013a 『ヲチャラセナイチャシ跡・
ヲチャラセナイ遺跡』
- 厚真町教育委員会 2013b 『オニキシベ5遺跡』
- 厚真町教育委員会 2014a 『オニキシベ4遺跡』
- 厚真町教育委員会 2014b 『ヲチャラセナイ遺跡』
- 厚真町教育委員会 2014c 『ショロマ3遺跡』
- 厚真町教育委員会 2014d 『厚幌1遺跡』
- 厚真村 1956 『厚真村史』
- 厚真村郷土研究会 1962 『厚真村古代史』
厚真村郷土研究会
- 出穂雅実 2006 「第三章第2節 ジョアークエオロジー」
『上幌内モイ遺跡(1)』厚真町教育委員会
- 浦河町教育委員会 1999 『西舎5遺跡発掘調査概要報告書』
- 恵庭市教育委員会 1981 『柏木B遺跡』
- 恵庭市教育委員会 1995 『ユカンボシE7遺跡』
- 恵庭市教育委員会 1997 『ユカンボシE4遺跡』
- 大沼忠春 1989 「北筒式土器様式」『縄文土器大観』1
講談社
- 恵庭市教育委員会 2000 『カリンバ2遺跡第VI地点』
- 恵庭市教育委員会 2001 『カリンバ4遺跡III』
- 江別市教育委員会 1982 『萩ヶ岡遺跡』
- 小疇 尚・小野有五他 2003 『日本の地形2 北海道』
東京大学出版会
- 小樽市教育委員会 1993 『手宮公園下遺跡』
- 音更町教育委員会 1988 『十勝川温泉1』
- 帯広市教育委員会 1986 『帯広・宮本遺跡』
- 帯広市教育委員会 2004 『帯広・若葉の森遺跡』
- 加藤孝幸 他 2013 「第七章 第5節 胎土分析(2)」『ヲチャ
ラセナイチャシ跡・ヲチャラセナイ遺跡』厚真町教育
委員会
- 加藤孝幸 他 2014 「第五章 第5節 ヲチャラセナイ遺跡土
器胎土分析」『ヲチャラセナイ遺跡』厚真町教育委員会
- 亀井喜久太郎 1956 「厚真出土の土偶」『先史時代』3
- 亀井喜久太郎 1976 『厚真の旧地名を尋ねて』
- 北沢実・大鳥居千鶴 2009 「十勝地域の縄文土器概観」
『北海道百年記念館紀要』27 北海道百年記念館
釧路市埋蔵文化財調査センター 1987
『桜ヶ岡1・2遺跡調査報告書』
- 工藤 肇 2006 「道内遺跡出土の焼成粘土類について」
『館報』3 苫小牧市博物館
- 越田賢一郎 2004 「鉄鍋再考」『宇田川洋先生華甲記念
論文集 アイヌ文化の成立』
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1981 『社台1遺跡・虎杖浜
4遺跡・千歳4遺跡・富岸遺跡』北埋調報1
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1986
『平取町二風谷遺跡』北埋調報26
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1989
『深川市納内6丁目付近遺跡II』北埋調報63
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1991
『余市町フゴッペ貝塚遺跡』北埋調報72
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1997
『芦別市滝里遺跡群VII』北埋調報110
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1997
『千歳市キウス5遺跡(4) B地区・C地区』北埋調報116
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2003
『厚真町浜厚真3遺跡』北埋調報186
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2005
『千歳市オルイカ2遺跡(2)』北埋調報221

シヨロマ1遺跡(1)

- (財)北海道埋蔵文化財センター 2008
『むかわ町穂別D遺跡』北理調報 259
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2012
『千歳市祝梅川小野遺跡(1)・梅川遺跡(1)』北理調報 285
- 佐藤訓敏 1987 「宮本式土器の編年に関する一考察」
『葭原』音更町教育委員会
- 瀬川拓郎 1982 「第2節 「短刻線文土器群」と「余市式土器」の製作手法と器種構成」『札幌台地の縄文時代集落址』登別市教育委員会
- 早田 勉 2006 「上幌内モイ遺跡後期更新統の層序とテフラ」『上幌内モイ遺跡(1)』厚真町教育委員会
- 滝川市教育委員会 1997 『朝日町1遺跡』
- 千歳市教育委員会 1979
『ウサクマイ遺跡群における考古学的調査』
- 千歳市教育委員会 1995
『ウサクマイ N・蘭越7遺跡における考古学的調査』
- 千歳市教育委員会 2002
『梅川4遺跡における考古学的調査』
- 千歳市教育委員会 2002
『ユカンボシ C2 遺跡・オサツ 2 遺跡における考古学的調査』
- 苫小牧市教育委員会 1976 『植苗遺跡』
- 苫小牧市埋蔵文化財調査センター 1987
『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅱ』
- 苫小牧市埋蔵文化財調査センター 1990
『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅲ』
- 苫小牧市埋蔵文化財調査センター 1992a 『静川 37 遺跡』
- 苫小牧市埋蔵文化財調査センター 1992b
『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅳ』
- 苫小牧市埋蔵文化財調査センター 1995
『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅴ』
- 苫小牧市埋蔵文化財調査センター 2002a
『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅷ』
- 苫小牧市埋蔵文化財調査センター 2002b
『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅸ』
- 田近 淳・大津 直・八幡正弘 2004 「厚幌1遺跡の地すべり堆積物」『厚幌1遺跡』厚真町教育委員会
- 野澤 謙庵 1692 「蝦夷記」『續々群書類従第九』
- 野村崇・杉浦重信 1978 「棍棒形石器について」
『物質文化』30
- 益富 壽之助 1987 『原色岩石図鑑』(全改訂新版) 保育社
- 富良野市教育委員会 1986 『鳥沼遺跡』
- 松浦武四郎(吉田常吉編) 1962
『蝦夷日誌 上 東蝦夷日誌』時事通信社
- 松浦武四郎(高倉信一郎校訂) 1985 『戊午東西蝦夷山川地理取調日誌』中 北海道出版企画センター
- 松野久也・石田正夫 1960
『1:50,000 地質図幅説明書早来』北海道開発庁
- 皆川洋一 1991 「刺突文土器を含む特殊他胎土を有する土器群について」『滝里遺跡群』北理調報 71
- (財)北海道埋蔵文化財センター
- 森秀之 1990 「空知地方に多出する「丸のみ形石斧」に関する考察」『空知地方史研究』24
空知地方史研究協議会
- Watanabe Hitoshi 1972 『Ainu Ecosystem』